

森町

# 三次郎川右岸遺跡

— 北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）埋蔵文化財発掘調査報告書 —

平成18年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

森町

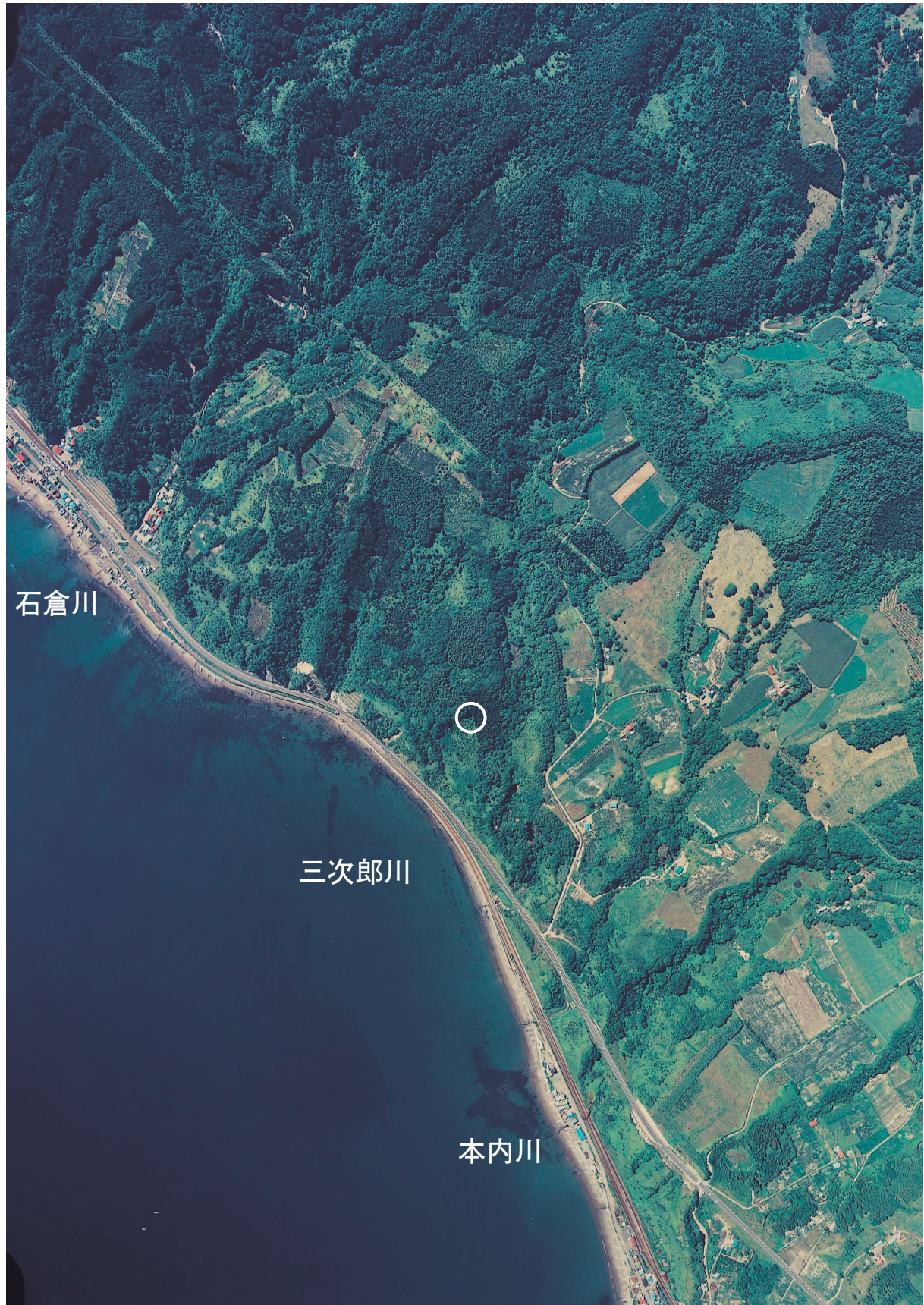
# 三次郎川右岸遺跡

— 北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）埋蔵文化財発掘調査報告書 —

平成18年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター





三次郎川右岸遺跡周辺の地形（空中写真）  
（この写真は財団法人日本地図センター発行の空中写真に加筆して掲載したものである。）



カラー図版 2



1 遺跡の立地（北西から）



2 調査風景（北西から）





1 遺跡遠景（北西から）



2 2004年度調査区完掘状況（南から）



カラー図版 4



II

III

IV

V

VII・VI

VIII 1

VIII 2

4 基本層序 ①斜面最上部 (N-32区)(北西から)





1 S-2 確認状況 (南から)



2 S-2 確認状況 (北西から)



カラー図版 6



1 H-14完掘状況（南西から）



2 P-72土層断面（南西から）





1 F-1・9土層断面（北西から）



2 P-75埋甕（東から）





石製品



# 例 言

1. 本書は日本道路公団北海道支社が行う北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）建設工事に伴い、財団法人北海道埋蔵文化財センターが平成15・16年度に実施した森町三次郎川右岸遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 平成15・16年度の調査、平成15～17年度の整理作業を第2調査部第3調査課が担当した。
3. 本書の執筆は、各章・節について担当の調査員がそれぞれ行い、文末に文責者名を記している。全体の編集は末光正卓、大泰司統が行った。
4. 遺構については、図面・土層・表を末光が整理し、統括した。遺物は土器類を大泰司、石器類を末光が担当した。
5. 遺物等の現場での一次整理および台帳管理は大泰司が担当した。
6. 発掘調査での写真撮影は各担当の調査員が行った。遺物の写真撮影と焼付けは末光が行った。
7. フローテーション試料については大泰司が担当し、分析依頼をした。
8. 各種分析、同定は下記に依頼した。  
動物遺存体／焼骨同定（東京国立博物館 金子浩昌）  
植物遺存体／炭化種子同定（札幌国際大学 椿坂恭代）  
炭化物／放射性炭素年代測定（パレオ・ラボAMS年代測定グループ）
10. 石器類の石材鑑定は末光が行った。
11. 遺物・記録類は整理および報告書作成後、森町教育委員会が保管する。
12. 調査にあたっては下記の諸機関および諸氏にご協力、ご指導頂いた。  
北海道教育庁文化課、森町教育委員会、八雲町教育委員会、長万部町教育委員会、八雲町郷土資料館：三浦孝一・柴田信一、札幌国際大学・椿坂恭代、北海道開拓記念館：平川善祥・山田悟郎・右代啓視・鈴木琢也、(財)北海道北方博物館交流協会：野村 崇、函館市教育委員会：田原良信・野村祐一・阿部千春・福田祐二・長谷部一弘・佐藤智雄、厚沢部町教育委員会：石井淳平、七飯町教育委員会：山田 央、函館市埋蔵文化財調査団：佐藤一夫、小林 貢・輪島慎二・坪井睦美・荻野幸男、今金町教育委員会：寺崎康史、上磯町教育委員会：森 靖裕、上ノ国町教育委員会：松崎水穂・斉藤邦典・塚田直哉、木古内町教育委員会：菅野文二・木本 豊・三上英則・大谷内愛史、知内町教育委員会：松本征八・高橋豊彦、松前町教育委員会：久保 泰・前田正憲・谷岡康孝・天方直仁、伊達市教育委員会：大島直行・青野友哉、苫小牧市博物館：赤石慎三、札幌市埋蔵文化財センター：上野秀一・羽賀憲二・仙庭伸久・石井 淳、石狩市教育委員会：石橋孝夫・工藤義衛、青森県埋蔵文化財調査センター：鈴木克彦、成田滋彦、茅野嘉雄、青森市教育委員会：遠藤正夫・児玉大成、青森大学：葛西 勵、八戸市教育委員会：村木 淳、東北町教育委員会：古屋敷則雄、七ヶ浜町歴史資料館：川村 正、陸前高田市立博物館：佐藤正彦、大船渡市立博物館：氷見淳哉、東京国立博物館：金子浩昌、札幌市在住：田部 淳、大沼忠春、中村賢太郎

## 記号等の説明

1. 遺構については、次のように略号を付した。

竪穴式住居跡：H 土坑・柱穴：P 焼土：F 柱穴状の小土坑：SP  
礫集中・配石遺構：S フレイク・チップの集中：FC

2. 実測図・拓影図の縮尺は、次のとおりであり、スケールを付している。

遺構 1：40 復元土器 1：3 破片土器 1：3 土製品 1：3  
剥片石器 1：2 磨製石器 1：2 礫石器 1：3 大型の礫石器 1：4  
石製品 1：2

3. 図中の方位は真北を示し、磁北はこれよりも約 $8^{\circ}30'$ 西偏する。また、アルファベットを付したグリッドラインは真北より $47^{\circ}46'40''$ 西偏する。

4. 遺構の規模を表す計測値に関しては、次の要領で表記した。一部、破壊されているもの等は、現存長を（丸括弧）でくくり示した。

「確認面の長径×短径／床面・坑底面の長径×短径／最大深（m）」

焼土等の平面的な遺構は次のように表記した。

「長径×短径／最大厚（m）」

柱穴等の平面形態がほぼ円形を呈し、小規模なものは、次のように表記した。

「確認面の直径（長径×短径）／最大深（m）」

5. 土層は、基本層序についてはローマ数字、遺構の覆土等の部分的な層位については、アラビア数字で表記した。

6. 「表」類は、IV章の後ろにまとめて掲載した。



# 挿 図 目 次

## I 章

図 I - 1	遺跡の位置	5
図 I - 2	遺跡周辺の地形と調査区	6
図 I - 3	発掘区設定図	7
図 I - 4	基本層序柱状図及び土層断面実測位置図	10
図 I - 5	土層断面図(1)	11
図 I - 6	土層断面図(2)	12
図 I - 7	土層断面図(3)	13

## II 章

図 II - 1	周辺の遺跡	22
----------	-------	----

## III 章

図 III - 1	遺構配置図	27
図 III - 2	P ~ T - 40 ~ 42区掘り上げ土	28
図 III - 3	H - 1 (1)	32
図 III - 4	H - 1 (2)	33
図 III - 5	H - 2	34
図 III - 6	H - 3 ・ 4 (1)	36
図 III - 7	H - 3 ・ 4 (2)	37
図 III - 8	H - 3 ・ 4 (3)	38
図 III - 9	H - 5 (1)	40
図 III - 10	H - 5 (2)	41
図 III - 11	H - 6	42
図 III - 12	H - 7	43
図 III - 13	H - 8 (1)	44
図 III - 14	H - 8 (2)	45
図 III - 15	H - 9 (1)	48
図 III - 16	H - 9 (2)	49
図 III - 17	H - 10	50
図 III - 18	H - 11	51
図 III - 19	H - 12	52
図 III - 20	H - 14(1)	54
図 III - 21	H - 14(2)	55
図 III - 22	H - 14(3)	56
図 III - 23	H - 15	57
図 III - 24	H - 16(1)	58
図 III - 25	H - 16(2)	59
図 III - 26	H - 16(3)	60
図 III - 27	H - 17	62
図 III - 28	H - 18	64
図 III - 29	H - 19(1)	66
図 III - 30	H - 19(2)	67

図 III - 31	H - 19(3)	68
図 III - 32	H - 19(4)	69
図 III - 33	H - 20	70
図 III - 34	P - 1 ・ 2 ・ 3	73
図 III - 35	P - 4 ・ 5	74
図 III - 36	P - 6 ・ 7 ・ 8	76
図 III - 37	P - 9 ・ 11	78
図 III - 38	P - 10 ・ 19 ・ 12	82
図 III - 39	P - 13 ・ 14 ・ 15	83
図 III - 40	P - 16 ・ 17(1)	84
図 III - 41	P - 17(2)	85
図 III - 42	P - 18 ・ 20 ・ 21	87
図 III - 43	P - 22 ・ 23 ・ 24 ・ 25	89
図 III - 44	P - 26	91
図 III - 45	P - 27 ・ 29	93
図 III - 46	P - 28 ・ 30	94
図 III - 47	P - 31 ・ 34	96
図 III - 48	P - 32 ・ F - 11 ・ P - 33	97
図 III - 49	P - 35 ・ 36 ・ 37	99
図 III - 50	P - 38 ・ 40 ・ 41	101
図 III - 51	P - 39 ・ 42 ・ 43	102
図 III - 52	P - 44 ・ 46	104
図 III - 53	P - 47 ・ 48	106
図 III - 54	P - 49 ・ 51	108
図 III - 55	P - 50 ・ 53 ・ 54 ・ 55	109
図 III - 56	P - 56 ・ 57 ・ 58	111
図 III - 57	P - 59 ・ 61 ・ 62	113
図 III - 58	P - 63 ・ 65 ・ 66	115
図 III - 59	P - 67	116
図 III - 60	P - 68 ・ 69	117
図 III - 61	P - 70 ・ 71	119
図 III - 62	P - 72	120
図 III - 63	P - 73 ・ 75 ・ 78	123
図 III - 64	P - 74 ・ 76	124
図 III - 65	P - 77	125
図 III - 66	P - 79 ・ 82	128
図 III - 67	P - 80 ・ 83	129
図 III - 68	P - 81 ・ 86	131
図 III - 69	P - 84 ・ 87	132
図 III - 70	P - 85	133
図 III - 71	F - 1 ・ 9 ・ 2 ・ 3	138
図 III - 72	F - 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8	139

図Ⅲ-73	F-10・12・13・14・15・16 …142	図Ⅲ-100	土坑出土土器類(2) P-17・20・23・28……………177
図Ⅲ-74	S P(1) ……………144	図Ⅲ-101	土坑出土土器類(3) P-26・30・31・33・34……………179
図Ⅲ-75	S P(2) ……………145	図Ⅲ-102	土坑出土土器類(4) P-29・36……………180
図Ⅲ-76	S-1 ……………147	図Ⅲ-103	土坑出土土器類(5) P-38・44・47……………181
図Ⅲ-77	S-2 ……………148	図Ⅲ-104	土坑出土土器類(6) P-48・49・51・61・62・63…183
図Ⅲ-78	S-4・5(1) ……………149	図Ⅲ-105	土坑出土土器類(7) P-68・71……………184
図Ⅲ-79	S-4・5(2)・3・6 ……………151	図Ⅲ-106	土坑出土土器類(8) P-67・72・73……………186
図Ⅲ-80	O-40・41区土器出土状況 ……152	図Ⅲ-107	土坑出土土器類(9)／P-76……………187
図Ⅲ-81	F C-1 ……………153	図Ⅲ-108	土坑出土土器類(10) P-74・75・77……………188
図Ⅲ-82	住居跡出土土器類(1)／H-1・2 ……………155	図Ⅲ-109	土坑出土土器類(11) P-79・81……………189
図Ⅲ-83	住居跡出土土器類(2)／H-3・4 ……………156	図Ⅲ-110	土坑出土土器類(12)／P-80……………190
図Ⅲ-84	住居跡出土土器類(3)／H-5 ……157	図Ⅲ-111	土坑出土土器類(13) P-83・84・85……………192
図Ⅲ-85	住居跡出土土器類(4) H-6・7(1) ……………160	図Ⅲ-112	土坑出土土器類(14) P-86・集石・配石・柱穴状の小 土坑出土土器類……………193
図Ⅲ-86	住居跡出土土器類(5) H-7(2)・8(1) ……………161	図Ⅲ-113	焼土出土土器類(1) F-1(1)・F-5 ……………194
図Ⅲ-87	住居跡出土土器類(6)／H-8(2)・ H-9(1) ……………161	図Ⅲ-114	焼土出土土器類(2) F-1(2)・F-3・7・15……………195
図Ⅲ-88	住居跡出土土器類(7)／H-9(2)・ H-10 ……………163	図Ⅲ-115	遺物の集中出土のⅦ群土器……………196
図Ⅲ-89	住居跡出土土器類(8)／H-11 ……164	図Ⅲ-116	住居跡出土剥片石器群(1) H-1・2・3 ……………198
図Ⅲ-90	住居跡出土土器類(9) H-14(1) ……………165	図Ⅲ-117	住居跡出土剥片石器群(2) H-4・5・8・9 ……………199
図Ⅲ-91	住居跡出土土器類(10) H-14(2) ……………166	図Ⅲ-118	住居跡出土剥片石器群(3) H-12・14・15・16・17……………200
図Ⅲ-92	住居跡出土土器類(11) H-15・16(1) ……………168	図Ⅲ-119	住居跡出土剥片石器群(4) H-17・18・19・20……………201
図Ⅲ-93	住居跡出土土器類(12)／H-16(2)・ H-17(1) ……………169	図Ⅲ-120	土坑出土剥片石器群(1) P-3・6・12・14・26・38…202
図Ⅲ-94	住居跡出土土器類(13) H-17(2)・H-18(1) ……………170	図Ⅲ-121	土坑出土剥片石器群(2) P-39・44・48・51・59・71・79・ 80・81……………204
図Ⅲ-95	住居跡出土土器類(14) H-18(2)・H-19(1) ……………171		
図Ⅲ-96	住居跡出土土器類(15) H-19(2) ……………172		
図Ⅲ-97	住居跡出土土器類(16) H-19(3) ……………173		
図Ⅲ-98	住居跡出土土器類(17) H-19(4) ……………174		
図Ⅲ-99	土坑出土土器類(1) P-2・4・11・12・16 ……………176		

図Ⅲ-122	焼土及びフレイク・チップ集中出土剥片石器群 F-1・7・8・FC-1……205	図Ⅲ-141	遺構出土石製品 H-7・14・P-80……227
図Ⅲ-123	住居跡出土磨製石器群 H-7・8・10・12・14・17・18・24……207	<b>IV章</b>	
図Ⅲ-124	住居跡出土礫石器群(1) H-1・3・4……208	図IV-1	包含層出土土器類分布図(1)……230
図Ⅲ-125	住居跡出土礫石器群(2) H-4……209	図IV-2	包含層出土土器類分布図(2)……231
図Ⅲ-126	住居跡出土礫石器群(3) H-5・8……210	図IV-3	包含層出土土器(1)／Ⅱ群b類(1) ……233
図Ⅲ-127	住居跡出土礫石器群(4) H-8……211	図IV-4	包含層出土土器(2)／Ⅱ群b類(2) ……234
図Ⅲ-128	住居跡出土礫石器群(5) H-8・10・11・12・14……212	図IV-5	包含層出土土器(3)／Ⅱ群b類(3) ……235
図Ⅲ-129	住居跡及び土坑出土礫石器群 H-16・19・P-11・16……213	図IV-6	包含層出土土器(4)／Ⅲ群a類(1) ……236
図Ⅲ-130	土坑出土礫石器群(1) P-17・20・23・26……215	図IV-7	包含層出土土器(5)／Ⅲ群a類(2) ……237
図Ⅲ-131	土坑出土礫石器群(2) P-26・30・31・32……216	図IV-8	包含層出土土器(6)／Ⅲ群a類(3) ……238
図Ⅲ-132	土坑出土礫石器群(3) P-32・33……217	図IV-9	包含層出土土器(7)／Ⅲ群a類(4) ……239
図Ⅲ-133	土坑出土礫石器群(4) P-42・46・53……218	図IV-10	包含層出土土器(8)／Ⅲ群a類(5) ……241
図Ⅲ-134	土坑出土礫石器群(5) P-69・77・79・83……219	図IV-11	包含層出土土器(9) Ⅲ群a類(6)……242
図Ⅲ-135	土坑及びフレイク・チップ集中出土礫石器群 P-85・FC-1……220	図IV-12	包含層出土土器(10) Ⅲ群a類(7)……243
図Ⅲ-136	住居跡出土礫石器群(大型)(1) H-9・12・14……221	図IV-13	包含層出土土器(11) Ⅲ群a類(8)……244
図Ⅲ-137	住居跡出土礫石器群(大型)(2) H-16……223	図IV-14	包含層出土土器(12) Ⅲ群a類(9)……245
図Ⅲ-138	住居跡及び土坑出土礫石器群(大型)／H-17・18・P-37……224	図IV-15	包含層出土土器(13) Ⅲ群a類(10)……246
図Ⅲ-139	土坑及び配石遺構出土礫石器群(大型) P-71・77・79・S-2 ……225	図IV-16	包含層出土土器(14) Ⅲ群b-1類(1)……248
図Ⅲ-140	配石遺構及びフレイク・チップ集中出土礫石器群(大型) F-1・S-2・FC-1……226	図IV-17	包含層出土土器(15) Ⅲ群b-1類(2)……249
		図IV-18	包含層出土土器(16) Ⅲ群b-1類(3)……250
		図IV-19	包含層出土土器(17) Ⅲ群b類(1)……252
		図IV-20	包含層出土土器(18) Ⅲ群b類(2)……253
		図IV-21	包含層出土土器(19) IV群a類(1)……255

囧IV-22	包含層出土土器(20) IV群 a類(2) ……………256	囧IV-44	包含層出土土器(42) IV群 a類(24) ……………279
囧IV-23	包含層出土土器(21) IV群 a類(3) ……………257	囧IV-45	包含層出土土器(43) IV群 a類(25)・IV群 b類 ……………280
囧IV-24	包含層出土土器(22) IV群 a類(4) ……………258	囧IV-46	包含層出土土器(44)／VI群(1) ……282
囧IV-25	包含層出土土器(23) IV群 a類(5) ……………259	囧IV-47	包含層出土土器(45)／VI群(2) ……283
囧IV-26	包含層出土土器(24) IV群 a類(6) ……………260	囧IV-48	包含層出土土器(46)／VI群(3) ……284
囧IV-27	包含層出土土器(25) IV群 a類(7) ……………261	囧IV-49	包含層出土土器(47)／VI群(4) ……285
囧IV-28	包含層出土土器(26) IV群 a類(8) ……………262	囧IV-50	包含層出土土器(48)／VI群(5) ……286
囧IV-29	包含層出土土器(27) IV群 a類(9) ……………263	囧IV-51	包含層出土土製品(49) III～VI群 ……………287
囧IV-30	包含層出土土器(28) IV群 a類(10) ……………264	囧IV-52	包含層出土石器類分布囧(1) ……290
囧IV-31	包含層出土土器(29) IV群 a類(11) ……………265	囧IV-53	包含層出土石器類分布囧(2) ……291
囧IV-32	包含層出土土器(30) IV群 a類(12) ……………266	囧IV-54	包含層出土石器類分布囧(3) ……292
囧IV-33	包含層出土土器(31) IV群 a類(13) ……………267	囧IV-55	包含層出土石器類分布囧(4) ……293
囧IV-34	包含層出土土器(32) IV群 a類(14) ……………269	囧IV-56	包含層出土剥片石器群(1) ……297
囧IV-35	包含層出土土器(33) IV群 a類(15) ……………270	囧IV-57	包含層出土剥片石器群(2) ……298
囧IV-36	包含層出土土器(34) IV群 a類(16) ……………271	囧IV-58	包含層出土剥片石器群(3) ……300
囧IV-37	包含層出土土器(35) IV群 a類(17) ……………272	囧IV-59	包含層出土剥片石器群(4) ……301
囧IV-38	包含層出土土器(36) IV群 a類(18) ……………273	囧IV-60	包含層出土剥片石器群(5) ……302
囧IV-39	包含層出土土器(37) IV群 a類(19) ……………274	囧IV-61	包含層出土剥片石器群(6) ……303
囧IV-40	包含層出土土器(38) IV群 a類(20) ……………275	囧IV-62	包含層出土剥片石器群(7) ……304
囧IV-41	包含層出土土器(39) IV群 a類(21) ……………276	囧IV-63	包含層出土磨製石器群(1) ……306
囧IV-42	包含層出土土器(40) IV群 a類(22) ……………277	囧IV-64	包含層出土磨製石器群(2) ……307
囧IV-43	包含層出土土器(41) IV群 a類(23) ……………278	囧IV-65	包含層出土礫石器群(1) ……308
		囧IV-66	包含層出土礫石器群(2) ……309
		囧IV-67	包含層出土礫石器群(3) ……310
		囧IV-68	包含層出土礫石器群(4) ……312
		囧IV-69	包含層出土礫石器群(5) ……313
		囧IV-70	包含層出土礫石器群(6) ……314
		囧IV-71	包含層出土礫石器群(7) ……315
		囧IV-72	包含層出土礫石器群(8) ……316
		囧IV-73	包含層出土礫石器群(9) ……317
		囧IV-74	包含層出土礫石器群(大型)(1) 318
		囧IV-75	包含層出土礫石器群(大型)(2) 319
		囧IV-76	包含層出土石製品(1) ……320
		囧IV-77	包含層出土石製品(2) ……321
		<b>V章</b>	
		囧V-1	曆年較正結果 ……383



# 目 次

## I 章

表 I - 1	基本層序一覧表	9
表 I - 2	出土遺物点数一覧表	19

## II 章

表 II - 1	森町内の遺跡一覧	23
表 II - 2	八雲町内の遺跡一覧	23

## IV 章

表 IV - 1	岩石分類体系表	295
----------	---------	-----

### 一覧表

#### (遺構)

表 1	住居跡一覧表	322
表 2	住居跡付属遺構一覧表	323
表 3	土坑一覧表	324
表 4	焼土一覧表	326
表 5	小土坑一覧表	326
表 6	礫集中・配石遺構一覧表	326
表 7	フレイク・チップ集中一覧表	326

#### (遺構出土遺物)

##### ・点数表

表 8	住居跡出土土器類点数表	327
表 9	土坑出土土器類点数表	327
表 10	焼土出土土器類点数表	328
表 11	小土坑出土土器類点数表	328
表 12	礫集中・配石遺構出土土器類点数表	328
表 13	フレイク・チップ集中出土土器類点数表	328
表 14	住居跡出土石器類点数表	329
表 15	土坑出土石器類点数表	330
表 16	焼土出土石器類点数表	333
表 17	小土坑出土石器類点数表	333
表 18	礫集中・配石遺構出土石器類点数表	333
表 19	フレイク・チップ集中出土石器類点数表	333

##### ・観察表、接合表

表 20	遺構出土土器類観察表	334
------	------------	-----

表 21	遺構出土剥片石器群観察表	343
表 22	遺構出土磨製石器群観察表	344
表 23	遺構出土礫石器群観察表	344
表 24	遺構出土石製品観察表	345
表 25	フレイク・チップ集中接合表	345
表 26	遺構出土自然礫観察表	346
表 27	S - 2 出土自然礫観察表	347

#### (包含層・遺構出土遺物)

##### ・点数表

表 28	土器類点数表	348
------	--------	-----

#### (包含層出土遺物)

##### ・点数表

表 29	包含層出土土器類点数表	349
------	-------------	-----

##### ・観察表

表 30	包含層出土土器類観察表	350
表 31	包含層出土剥片石器群観察表	364
表 32	包含層出土磨製石器群観察表	366
表 33	包含層出土礫石器群観察表	366
表 34	包含層出土石製品観察表	368

## V 章

表 V - 1	森町三次郎川右岸遺跡動物遺存体同定結果	372
表 V - 2	森町三次郎川右岸遺跡時期別動物遺存体種類別出土状況(時期別のサンプル一覧と動物遺存体種類別同定結果)	373
表 V - 3	森町三次郎川右岸遺跡炭化種子出土表	379
表 V - 4	測定試料及び処理	383
表 V - 5	放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果	383
表 V - 6	森町三次郎川右岸遺跡フローテーションサンプル一覧	384

## VI 章

表 VI - 1	P - 72 覆土・包含層対比表	391
----------	------------------	-----



# 写真図版目次

## カラー図版

- 1 三次郎川右岸遺跡周辺の地形  
(空中写真)
- 2-1 遺跡の立地(北西から)
- 2-2 調査風景(北西から)
- 3-1 遺跡遠景(北西から)
- 3-2 2004年度調査区完掘状況(南から)
- 4 基本層序 ①斜面最上部(N-32区)  
(北西から)
- 5-1 S-2 確認状況(南から)
- 5-2 S-2 確認状況(北西から)
- 6-1 H-14完掘状況(南西から)
- 6-2 P-72土層断面(南西から)
- 7-1 F-1・9土層断面(北西から)
- 7-2 P-75埋甕(東から)
- 8 石製品

## V章

- 図版V-1 P-81出土イノシシ臼歯片
- 図版V-2 炭化種子1(1~14)
- 図版V-3 炭化種子2(15~17)

## 写真図版

- 1 森町石倉・濁川地区周辺の地形  
(空中写真)
- 2-1 調査状況1(南西から)
- 2-2 調査状況2(南から)
- 3-1 斜面部土層断面及び調査状況(西から)
- 3-2 包含層遺物出土状況1(西から)
- 3-3 調査状況3(北から)
- 3-4 包含層遺物出土状況2(西から)
- 3-5 包含層Ⅶ群土器出土状況(南から)
- 3-6 包含層Ⅵ群土器出土状況(北から)
- 4-1 H-1土層断面(西から)
- 4-2 H-1遺物出土状況(東から)
- 5-1 H-1確認状況(北から)
- 5-2 H-1埋甕(北西から)
- 5-3 H-1完掘状況(西から)
- 6-1 H-2土層断面1(南西から)
- 6-2 H-2土層断面2(北西から)
- 6-3 H-2完掘状況(南から)
- 7-1 H-3土層断面(東から)
- 7-2 H-3遺物出土状況(南から)
- 7-3 H-3炭化材・焼土確認状況(東から)
- 8-1 H-3・4土層断面(南から)
- 8-2 H-4遺物出土状況(北西から)
- 8-3 H-4土層断面(西から)
- 8-4 H-4北海道式石冠出土状況(東から)

- 9-1 H-5土層断面(南西から)
- 9-2 H-5遺物出土状況(南東から)
- 9-3 H-5埋甕確認状況(北から)
- 9-4 H-5埋甕土層断面(南西から)
- 10-1 H-6土層断面(南東から)
- 10-2 H-6完掘状況(東から)
- 11-1 H-7土層断面(西から)
- 11-2 H-7完掘状況(西から)
- 12-1 H-8土層断面1(南東から)
- 12-2 H-8土層断面2(東から)
- 12-3 H-8完掘状況(北西から)
- 13-1 H-9土層断面(南から)
- 13-2 H-9遺物出土状況(北西から)
- 13-3 H-9完掘状況(南西から)
- 14-1 H-10土層断面(南西から)
- 14-2 H-10完掘状況(東から)
- 15-1 H-11土層断面(南から)
- 15-2 H-11遺物出土状況(南から)
- 15-3 H-11完掘状況(北から)
- 16-1 H-12土層断面(東から)
- 16-2 H-12完掘状況(東から)
- 17-1 H-14調査状況(北東から)
- 17-2 H-14土層断面及び遺物出土状況  
(東から)
- 17-3 H-14土層断面及び調査状況(南から)
- 18-1 H-14完掘状況1(北から)
- 18-2 H-14完掘状況2(南から)
- 19-1 H-15土層断面(西から)
- 19-2 H-15遺物出土状況(南東から)
- 20-1 H-16確認状況(南から)
- 20-2 H-16調査完了状況(南西から)
- 21-1 H-16遺物出土状況(北西から)
- 21-2 H-16土器出土状況(南から)
- 21-3 H-16土層断面(南東から)
- 21-4 H-16柱穴HP-2(南東から)
- 21-5 H-16柱穴HP-3(南西から)
- 22-1 H-17遺物出土状況(南東から)
- 22-2 H-17石組炉HF-1及び土器出土状  
況(南から)
- 22-3 H-17石組炉HF-1(南西から)
- 23-1 H-18土層断面(南東から)
- 23-2 H-18石組炉HF-1(南西から)
- 24-1 H-19確認状況(南西から)
- 24-2 H-19土層断面1(東から)
- 24-3 H-19土層断面2(南東から)
- 25-1 H-19炭化材確認状況(北東から)
- 25-2 H-20土層断面(東から)
- 26-1 P-1遺物出土状況(西から)
- 26-2 P-2土層断面(南から)
- 26-3 P-3遺物出土状況(東から)
- 26-4 P-4土層断面(南から)

26-5	P-5 土層断面 (東から)	35-4	P-62土層断面 (北から)
26-6	P-6 遺物出土状況 (東から)	35-5	P-63遺物出土状況 (北から)
27-1	P-7 完掘状況 (北から)	35-6	P-65完掘状況 (南から)
27-2	P-8 土層断面 (北東から)	36-1	P-66土層断面 (東から)
27-3	P-9 完掘及び掘り上げ土層断面 (南西から)	36-2	P-67遺物出土状況 (北から)
27-4	P-10・19完掘状況 (南西から)	36-3	P-68遺物出土状況 (北から)
27-5	P-11土層断面 (北から)	36-4	P-69完掘状況 (南東から)
27-6	P-12遺物出土状況 (南から)	36-5	P-70完掘状況 (南西から)
28-1	P-13完掘状況 (北から)	36-6	P-71遺物出土状況 (北東から)
28-2	P-14完掘状況 (西から)	37-1	P-72完掘状況 (北西から)
28-3	P-15完掘状況 (南から)	37-2	P-73遺物出土状況 (南西から)
28-4	P-16遺物出土状況 (東から)	37-3	P-74遺物出土状況 (東から)
28-5	P-17遺物出土状況 (北から)	37-4	P-76遺物出土状況 (北から)
28-6	P-18土層断面 (南から)	37-5	P-77遺物出土状況 (北西から)
29-1	P-20遺物出土状況 (南から)	37-6	P-78完掘状況 (南東から)
29-2	P-21完掘状況 (西から)	38-1	P-79遺物出土状況 (南から)
29-3	P-22完掘状況 (南から)	38-2	P-80遺物出土状況 (西から)
29-4	P-23遺物出土状況 (東から)	38-3	P-81土層断面 (南から)
29-5	P-24遺物出土状況 (西から)	38-4	P-82土層断面 (東から)
29-6	P-25土層断面 (東から)	38-5	P-83土層断面 (南から)
30-1	P-26遺物出土状況 (南から)	38-6	P-84遺物出土状況 (南から)
30-2	P-27土層断面 (南から)	39-1	P-85土層断面 (東から)
30-3	P-28完掘状況 (南から)	39-2	P-86完掘状況 (北から)
30-4	P-29遺物出土状況 (西から)	39-3	P-87完掘状況 (南東から)
30-5	P-30土層断面 (南から)	39-4	S P-15 (南から)
30-6	P-31遺物出土状況 (東から)	39-5	S-1 石組確認状況 (南から)
31-1	P-32・F-11土層断面 (南西から)	39-6	S-1 下部土坑遺物出土状況 (南東から)
31-2	P-33遺物出土状況 (北西から)	40-1	S-2 確認状況・部分拡大 (南西から)
31-3	P-34土層断面 (南東から)	40-2	S-2 確認状況・拡張部分 (南東から)
31-4	P-35完掘状況 (北から)	40-3	S-3 確認状況 (西から)
31-5	P-36完掘状況 (西から)	40-4	S-6 確認状況 (南から)
31-6	P-37土層断面 (北から)	40-5	S-4・5 確認状況 (南西から)
32-1	P-38遺物出土状況 (北西から)	41-1	H-1 出土復元土器 (図Ⅲ-82・H-1-1)
32-2	P-39土層断面 (南西から)	41-2	H-1 出土復元土器 (図Ⅲ-82・H-1-2)
32-3	P-40完掘状況 (南から)	41-3	H-1 出土復元土器 (図Ⅲ-82・H-1-3)
32-4	P-41遺物出土状況 (西から)	41-4	H-2 出土復元土器 (図Ⅲ-82・H-2-1)
32-5	P-42遺物出土状況 (南から)	41-5	H-1 出土復元土器 (図Ⅲ-82・H-1-4)
32-6	P-43土層断面 (南から)	42-1	H-5 出土復元土器 (図Ⅲ-84・H-5-1)
33-1	P-44遺物出土状況 (西から)	42-2	H-5 出土復元土器 (図Ⅲ-84・H-5-2)
33-2	P-46土層断面 (東から)	42-3	H-6 出土復元土器 (図Ⅲ-85・H-6-1)
33-3	P-47土層断面 (東から)	42-4	H-7 出土復元土器 (図Ⅲ-85・H-7-1)
33-4	P-48遺物出土状況 (西から)	43-1	H-7 出土復元土器 (図Ⅲ-85・H-7-2)
33-5	P-49完掘状況 (南から)		
33-6	P-50土層断面 (南から)		
34-1	P-51土層断面 (西から)		
34-2	P-53遺物出土状況 (西から)		
34-3	P-54土層断面 (西から)		
34-4	P-55土層断面 (南西から)		
34-5	P-56完掘状況 (南から)		
34-6	P-57土層断面 (南西から)		
35-1	P-58土層断面 (南西から)		
35-2	P-59土層断面 (南西から)		
35-3	P-61遺物出土状況 (南西から)		

- 43-2 H-7 出土復元土器  
(図Ⅲ-85・H-7-3)
- 43-3 H-7 出土復元土器  
(図Ⅲ-86・H-7-6)
- 43-4 H-8 出土復元土器  
(図Ⅲ-86・H-8-1)
- 44-1 H-8 出土復元土器  
(図Ⅲ-86・H-8-2)
- 44-2 H-8 出土復元土器  
(図Ⅲ-86・H-8-3)
- 44-3 H-9 出土復元土器  
(図Ⅲ-87・H-9-1)
- 44-4 H-9 出土復元土器  
(図Ⅲ-87・H-9-2)
- 45-1 H-10 出土復元土器  
(図Ⅲ-88・H-10-1)
- 45-2 H-11 出土復元土器  
(図Ⅲ-89・H-11-1)
- 45-3 H-11 出土復元土器  
(図Ⅲ-89・H-11-3)
- 45-4 H-11 出土復元土器  
(図Ⅲ-89・H-11-6)
- 45-5 H-11 出土復元土器  
(図Ⅲ-89・H-11-2)
- 46-1 H-11 出土復元土器  
(図Ⅲ-89・H-11-7)
- 46-2 H-14 出土復元土器  
(図Ⅲ-90・H-14-1)
- 46-3 H-14 出土復元土器  
(図Ⅲ-90・H-14-2)
- 46-4 H-14 出土復元土器  
(図Ⅲ-90・H-14-3)
- 46-5 H-14 出土復元土器  
(図Ⅲ-90・H-14-5)
- 46-6 H-14 出土復元土器  
(図Ⅲ-90・H-14-6)
- 47-1 H-14 出土復元土器  
(図Ⅲ-90・H-14-4)
- 47-2 H-14 出土復元土器  
(図Ⅲ-90・H-14-7)
- 47-3 H-15 出土復元土器  
(図Ⅲ-92・H-15-1)
- 47-4 H-16 出土復元土器  
(図Ⅲ-92・H-16-1)
- 48-1 H-16 出土復元土器  
(図Ⅲ-92・H-16-2)
- 48-2 H-16 出土復元土器  
(図Ⅲ-93・H-16-4)
- 48-3 H-16 出土復元土器  
(図Ⅲ-93・H-16-5)
- 48-4 H-17 出土復元土器  
(図Ⅲ-93・H-17-1)
- 49-1 H-17 出土復元土器  
(図Ⅲ-93・H-17-2)
- 49-2 H-17 出土復元土器  
(図Ⅲ-94・H-17-5)
- 49-3 H-18 出土復元土器  
(図Ⅲ-94・H-18-1)
- 49-4 H-18 出土復元土器  
(図Ⅲ-94・H-18-2)
- 50-1 H-18 出土復元土器  
(図Ⅲ-94・H-18-3)
- 50-2 H-18 出土復元土器  
(図Ⅲ-94・H-18-4)
- 50-3 H-18 出土復元土器  
(図Ⅲ-95・H-18-5)
- 50-4 H-19 出土復元土器  
(図Ⅲ-95・H-19-1)
- 51-1 H-19 出土復元土器  
(図Ⅲ-95・H-19-2)
- 51-2 H-19 出土復元土器  
(図Ⅲ-96・H-19-3)
- 51-3 H-19 出土復元土器  
(図Ⅲ-96・H-19-5)
- 51-4 H-19 出土復元土器  
(図Ⅲ-96・H-19-6)
- 51-5 H-19 出土復元土器  
(図Ⅲ-96・H-19-4)
- 52-1 H-19 出土復元土器  
(図Ⅲ-96・H-19-7)
- 52-2 H-19 出土復元土器  
(図Ⅲ-96・H-19-8)
- 52-3 H-19 出土復元土器  
(図Ⅲ-97・H-19-9)
- 52-4 H-19 出土復元土器  
(図Ⅲ-98・H-19-13)
- 53-1 H-19 出土復元土器  
(図Ⅲ-98・H-19-14)
- 53-2 H-19 出土復元土器  
(図Ⅲ-98・H-19-15)
- 53-3 P-4 出土復元土器  
(図Ⅲ-99・P-4-1)
- 53-4 P-16 出土復元土器  
(図Ⅲ-99・P-16-1)
- 54-1 P-17 出土復元土器  
(図Ⅲ-100・P-17-1)
- 54-2 P-23 出土復元土器  
(図Ⅲ-100・P-23-1)
- 54-3 P-31 出土復元土器  
(図Ⅲ-101・P-31-3)
- 54-4 P-29 出土復元土器  
(図Ⅲ-102・P-29-1)
- 55-1 P-29 出土復元土器  
(図Ⅲ-102・P-29-3)
- 55-2 P-38 出土復元土器  
(図Ⅲ-103・P-38-1)
- 55-3 P-44 出土復元土器  
(図Ⅲ-103・P-44-1)

- 55-4 P-47出土復元土器  
(図Ⅲ-103・P-47-2)
- 55-5 P-44出土復元土器  
(図Ⅲ-103・P-44-2)
- 56-1 P-44出土復元土器  
(図Ⅲ-103・P-44-3)
- 56-2 P-51出土復元土器  
(図Ⅲ-104・P-51-2)
- 56-3 P-51出土復元土器  
(図Ⅲ-104・P-51-1)
- 56-4 P-71出土復元土器  
(図Ⅲ-105・P-71-2)
- 56-5 P-63出土復元土器  
(図Ⅲ-104・P-63-1)
- 57-1 P-71出土復元土器  
(図Ⅲ-105・P-71-1)
- 57-2 P-71出土復元土器  
(図Ⅲ-105・P-71-3)
- 57-3 P-77出土復元土器  
(図Ⅲ-108・P-77-1)
- 57-4 P-73出土復元土器  
(図Ⅲ-106・P-73-7)
- 57-5 P-77出土復元土器  
(図Ⅲ-108・P-77-2)
- 58-1 P-76出土復元土器  
(図Ⅲ-107・P-76-2)
- 58-2 P-75出土復元土器  
(図Ⅲ-108・P-75-1)
- 58-3 P-76出土復元土器  
(図Ⅲ-107・P-76-3)
- 59-1 P-79出土復元土器  
(図Ⅲ-109・P-79-1)
- 59-2 P-81出土復元土器  
(図Ⅲ-109・P-81-3)
- 59-3 P-80出土復元土器  
(図Ⅲ-110・P-80-1)
- 59-4 P-80出土復元土器  
(図Ⅲ-110・P-80-4)
- 60-1 P-80出土復元土器  
(図Ⅲ-110・P-80-7)
- 60-2 P-86出土復元土器  
(図Ⅲ-112・P-86-1)
- 60-3 P-84出土復元土器  
(図Ⅲ-111・P-84-1)
- 60-4 P-85出土復元土器  
(図Ⅲ-111・P-85-1)
- 60-5 S-2出土復元土器  
(図Ⅲ-112・S-2-1)
- 61-1 F-1出土復元土器  
(図Ⅲ-113・F-1-1)
- 61-2 F-1出土復元土器  
(図Ⅲ-114・F-1-9)
- 61-3 F-3出土復元土器  
(図Ⅲ-114・F-3-1)
- 61-4 F-7出土復元土器  
(図Ⅲ-114・F-7-1)
- 62-1 F-1出土復元土器  
(図Ⅲ-113・F-1-7)
- 62-2 O-40・41区出土土器  
(図Ⅲ-115・遺物集中-1)
- 62-3 F-3出土復元土器  
(図Ⅲ-114・F-3-2)
- 62-4 H-11・P-38出土土製品(図Ⅲ-89・  
H-11-5、図Ⅲ-103・P-38-3)
- 63 H-1・2・3・4出土破片土器  
(図Ⅲ-82・83)
- 64 H-5出土破片土器(図Ⅲ-84)
- 65 H-7・8・11出土破片土器  
(図Ⅲ-85~87・89)
- 66 H-9・10出土破片土器(図Ⅲ-88)
- 67 H-14出土破片土器  
(図Ⅲ-91-1~13)
- 68 H-14出土破片土器  
(図Ⅲ-91-14~21)
- 69 H-15・16・17・18出土破片土器  
(図Ⅲ-92・93・95)
- 70 H-19出土破片土器(Ⅲ-97・98)
- 71 P-2・11・12・16・17出土破片土器  
(図Ⅲ-99・100)
- 72 P-20・26出土破片土器  
(図Ⅲ-100・101)
- 73 P-28・29・30・31・33・34・36出土  
破片土器(図Ⅲ-100~103)
- 74 P-38・44・47・48・49・51出土破片  
土器(図Ⅲ-103・104)
- 75 P-61・62・67・68・71・72出土破片  
土器(図Ⅲ-104~106)
- 76 P-73・74・76出土破片土器  
(図Ⅲ-106~108)
- 77 P-77・79・81・82出土破片土器  
(図Ⅲ-108・109)
- 78 P-79・80・83出土破片土器  
(図Ⅲ-109~111)
- 79 P-84・85・86出土破片土器  
(図Ⅲ-111・112)
- 80 S-1・SP-1・F-1  
(図Ⅲ-112・113)
- 81 F-1・5・7・15出土破片土器  
(図Ⅲ-113・114)
- 82 住居跡出土剥片石器群  
(図Ⅲ-116-1~117-20)
- 83 住居跡出土剥片石器群  
(図Ⅲ-118-21~119-43)
- 84 土坑出土剥片石器群  
(図Ⅲ-120-44~121-67)
- 85-1 焼土及びフレイク・チップ集中出土剥  
片石器群(図Ⅲ-122-68~74)

- 85-2 FC-1 (H-42-b区出土) スクレイパー (図Ⅲ-122-75)
- 85-3 FC-1 接合資料 (図Ⅲ-122-76)
- 86 住居跡出土磨製石器群 (図Ⅲ-123-1~9)
- 87 住居跡出土礫石器群 (図Ⅲ-124-1~125-8)
- 88 住居跡出土礫石器群 (図Ⅲ-125-9~127-16)
- 89 住居跡出土礫石器群 (図Ⅲ-127-17~128-20・22~24)
- 90 住居跡出土礫石器群 (図Ⅲ-128-21・25~129-29)
- 91 土坑出土礫石器群 (図Ⅲ-129-30~131-37)
- 92 土坑出土礫石器群 (図Ⅲ-131-38~132-45)
- 93 土坑出土礫石器群 (図Ⅲ-133-46~134-53)
- 94-1 土坑及びフレイク・チップ集中出土礫石器群 (図Ⅲ-134-54~135-59)
- 94-2 H-9 出土礫石器群 (図Ⅲ-136-1)
- 95-1 H-12 出土礫石器群 (図Ⅲ-136-2)
- 95-2 H-14 出土礫石器群 (図Ⅲ-136-3)
- 95-3 H-14 出土礫石器群 (図Ⅲ-136-4)
- 95-4 H-14 出土礫石器群 (図Ⅲ-136-5)
- 96-1 H-16 出土礫石器群 (図Ⅲ-137-6)
- 96-2 H-16 出土礫石器群 (図Ⅲ-137-7)
- 96-3 H-16 出土礫石器群 (図Ⅲ-137-8)
- 96-4 H-17 出土礫石器群 (図Ⅲ-138-9)
- 97-1 H-18 出土礫石器群 (図Ⅲ-138-10)
- 97-2 H-18 出土礫石器群 (図Ⅲ-138-11)
- 97-3 P-37 出土礫石器群 (図Ⅲ-138-12)
- 97-4 P-71 出土礫石器群 (図Ⅲ-139-13)
- 98-1 P-77 出土礫石器群 (図Ⅲ-139-14)
- 98-2 P-77 出土礫石器群 (図Ⅲ-139-15)
- 98-3 P-77 出土礫石器群 (図Ⅲ-139-16)
- 98-4 P-79 出土礫石器群 (図Ⅲ-139-17)
- 99-1 S-2 出土礫石器群 (図Ⅲ-139-18)
- 99-2 S-2 出土礫石器群 (図Ⅲ-140-19)
- 99-3 F-1 出土礫石器群 (図Ⅲ-140-20)
- 99-4 FC-1 出土礫石器群 (図Ⅲ-140-21)
- 100-1 遺構出土石製品 (図Ⅲ-141-1~4・6)
- 100-2 H-14 出土石製品 (表面) (図Ⅲ-141-5)
- 100-3 H-14 出土石製品 (側面)
- 101-1 包含層出土Ⅱ群b類復元土器 (図Ⅳ-3-1)
- 101-2 包含層出土Ⅱ群b類復元土器 (図Ⅳ-3-2)
- 101-3 包含層出土Ⅲ群a類復元土器 (図Ⅳ-6-1)
- 101-4 包含層出土Ⅲ群a類復元土器 (図Ⅳ-6-3)
- 102-1 包含層出土Ⅲ群a類復元土器 (図Ⅳ-6-4)
- 102-2 包含層出土Ⅲ群a類復元土器 (図Ⅳ-6-2)
- 102-3 包含層出土Ⅲ群a類復元土器 (図Ⅳ-6-5)
- 102-4 包含層出土Ⅲ群a類復元土器 (図Ⅳ-7-7)
- 102-5 包含層出土Ⅲ群a類復元土器 (図Ⅳ-6-6)
- 103-1 包含層出土Ⅲ群a類復元土器 (図Ⅳ-7-8)
- 103-2 包含層出土Ⅲ群a類復元土器 (図Ⅳ-7-9)
- 103-3 包含層出土Ⅲ群a類復元土器 (図Ⅳ-8-10)
- 103-4 包含層出土Ⅲ群a類復元土器 (図Ⅳ-8-11)
- 104-1 包含層出土Ⅲ群a類復元土器 (図Ⅳ-8-12)
- 104-2 包含層出土Ⅲ群a類復元土器 (図Ⅳ-8-13)
- 104-3 包含層出土Ⅲ群a類復元土器 (図Ⅳ-8-14)
- 104-4 包含層出土Ⅲ群a類復元土器 (図Ⅳ-9-15)
- 105-1 包含層出土Ⅲ群a類復元土器 (図Ⅳ-9-16)
- 105-2 包含層出土Ⅲ群a類復元土器 (図Ⅳ-9-17)
- 105-3 包含層出土Ⅲ群a類復元土器 (図Ⅳ-9-18)
- 105-4 包含層出土Ⅲ群a類復元土器 (図Ⅳ-9-19)
- 106-1 包含層出土Ⅲ群a類復元土器 (図Ⅳ-9-20)
- 106-2 包含層出土Ⅲ群a類復元土器 (図Ⅳ-9-21)
- 106-3 包含層出土Ⅲ群a類復元土器 (図Ⅳ-9-22)
- 106-4 包含層出土Ⅲ群b-1類復元土器 (図Ⅳ-16-1)
- 107-1 包含層出土Ⅲ群b-1類復元土器 (図Ⅳ-16-2)
- 107-2 包含層出土Ⅲ群b-1類復元土器 (図Ⅳ-16-3)
- 107-3 包含層出土Ⅲ群b-1類復元土器 (図Ⅳ-16-4)
- 107-4 包含層出土Ⅲ群b-1類復元土器 (図Ⅳ-16-5)
- 108-1 包含層出土Ⅲ群b類復元土器 (図Ⅳ-19-1)

- 108-2 包含層出土Ⅲ群b類復元土器  
(圖IV-19-2)
- 108-3 包含層出土Ⅲ群b類復元土器  
(圖IV-19-3)
- 108-4 包含層出土Ⅲ群b類復元土器  
(圖IV-19-4)
- 109-1 包含層出土Ⅲ群b類復元土器  
(圖IV-19-5)
- 109-2 包含層出土IV群a類復元土器  
(圖IV-21-1)
- 109-3 包含層出土Ⅲ群b類復元土器  
(圖IV-19-6)
- 109-4 包含層出土IV群a類復元土器  
(圖IV-22-8)
- 109-5 包含層出土IV群a類復元土器  
(圖IV-21-2)
- 110-1 包含層出土IV群a類復元土器  
(圖IV-21-3)
- 110-2 包含層出土IV群a類復元土器  
(圖IV-21-4)
- 110-3 包含層出土IV群a類復元土器  
(圖IV-21-5)
- 110-4 包含層出土IV群a類復元土器  
(圖IV-21-6)
- 111-1 包含層出土IV群a類復元土器  
(圖IV-22-7)
- 111-2 包含層出土IV群a類復元土器  
(圖IV-23-10)
- 111-3 包含層出土IV群a類復元土器  
(圖IV-24-12)
- 111-4 包含層出土IV群a類復元土器  
(圖IV-23-9)
- 111-5 包含層出土IV群a類復元土器  
(圖IV-24-14)
- 112-1 包含層出土IV群a類復元土器  
(圖IV-24-11)
- 112-2 包含層出土IV群a類復元土器  
(圖IV-24-15)
- 112-3 包含層出土IV群a類復元土器  
(圖IV-25-17)
- 112-4 包含層出土IV群a類復元土器  
(圖IV-24-13)
- 112-5 包含層出土IV群a類復元土器  
(圖IV-25-21)
- 113-1 包含層出土IV群a類復元土器  
(圖IV-25-16)
- 113-2 包含層出土IV群a類復元土器  
(圖IV-25-18)
- 113-3 包含層出土IV群a類復元土器  
(圖IV-25-19)
- 113-4 包含層出土IV群a類復元土器  
(圖IV-25-20)
- 114-1 包含層出土IV群a類復元土器  
(圖IV-26-22)
- 114-2 包含層出土IV群a類復元土器  
(圖IV-26-23)
- 114-3 包含層出土IV群a類復元土器  
(圖IV-27-24)
- 114-4 包含層出土IV群a類復元土器  
(圖IV-27-25)
- 115-1 包含層出土IV群a類復元土器  
(圖IV-28-26)
- 115-2 包含層出土IV群a類復元土器  
(圖IV-28-27)
- 115-3 包含層出土IV群a類復元土器  
(圖IV-28-28)
- 115-4 包含層出土IV群a類復元土器  
(圖IV-29-31)
- 115-5 包含層出土IV群a類復元土器  
(圖IV-28-29)
- 116-1 包含層出土IV群a類復元土器  
(圖IV-29-30)
- 116-2 包含層出土IV群a類復元土器  
(圖IV-29-32)
- 116-3 包含層出土IV群a類復元土器  
(圖IV-29-33)
- 116-4 包含層出土IV群a類復元土器  
(圖IV-29-34)
- 116-5 包含層出土IV群a類復元土器  
(圖IV-29-35)
- 117-1 包含層出土IV群a類復元土器  
(圖IV-29-36)
- 117-2 包含層出土IV群a類復元土器  
(圖IV-30-38)
- 117-3 包含層出土IV群a類復元土器  
(圖IV-29-37)
- 117-4 包含層出土IV群a類復元土器  
(圖IV-30-39)
- 117-5 包含層出土IV群a類復元土器  
(圖IV-30-40)
- 118-1 包含層出土IV群a類復元土器  
(圖IV-30-41)
- 118-2 包含層出土IV群a類復元土器  
(圖IV-30-42)
- 118-3 包含層出土IV群a類復元土器  
(圖IV-30-43)
- 118-4 包含層出土IV群a類復元土器  
(圖IV-31-44)
- 118-5 包含層出土IV群a類復元土器  
(圖IV-31-46)
- 119-1 包含層出土IV群a類復元土器  
(圖IV-31-45)
- 119-2 包含層出土IV群a類復元土器  
(圖IV-31-47)
- 119-3 包含層出土IV群a類復元土器  
(圖IV-31-48)
- 119-4 包含層出土IV群a類復元土器  
(圖IV-31-49)



- 120-1 包含層出土IV群 a類復元土器  
(図IV-31-50)
- 120-2 包含層出土IV群 a類復元土器  
(図IV-32-52)
- 120-3 包含層出土IV群 a類復元土器  
(図IV-31-51)
- 120-4 包含層出土IV群 a類復元土器  
(図IV-32-53)
- 120-5 包含層出土IV群 a類復元土器  
(図IV-33-55)
- 121-1 包含層出土IV群 a類復元土器  
(図IV-32-54)
- 121-2 包含層出土IV群 a類復元土器  
(図IV-33-57)
- 121-3 包含層出土IV群 a類復元土器  
(図IV-33-56)
- 121-4 包含層出土IV群 a類復元土器  
(図IV-33-59)
- 121-5 包含層出土IV群 a類復元土器  
(図IV-33-58)
- 122-1 包含層出土IV群 a類復元土器  
(図IV-33-60)
- 122-2 包含層出土IV群 a類復元土器  
(図IV-33-61)
- 122-3 包含層出土IV群 a類復元土器  
(図IV-33-62)
- 122-4 包含層出土VI群復元土器  
(図IV-46-1)
- 123-1 包含層出土VI群復元土器  
(図IV-46-2)
- 123-2 包含層出土VI群復元土器  
(図IV-46-4)
- 123-3 包含層出土VI群復元土器  
(図IV-46-5)
- 123-4 包含層出土VI群復元土器  
(図IV-46-3)
- 123-5 包含層出土VI群復元土器  
(図IV-46-7)
- 124-1 包含層出土VI群復元土器  
(図IV-46-6)
- 124-2 包含層出土VI群復元土器  
(図IV-47-11)
- 124-3 包含層出土VI群復元土器  
(図IV-47-12)
- 124-4 包含層出土VI群復元土器  
(図IV-46-8)
- 124-5 包含層出土VI群復元土器  
(図IV-47-14)
- 125-1 包含層出土VI群復元土器  
(図IV-46-9)
- 125-2 包含層出土VI群復元土器  
(図IV-47-10)
- 125-3 包含層出土VI群復元土器  
(図IV-47-13)
- 125-4 包含層出土VI群復元土器  
(図IV-47-15)
- 126-1 包含層出土VI群復元土器  
(図IV-47-16)
- 126-2 包含層出土VI群復元土器  
(図IV-48-17)
- 126-3 包含層出土再生土製品  
(図IV-51-16~23)
- 127 包含層出土II群 b類破片土器  
(図IV-3-3~4-7)
- 128 包含層出土II群 b類破片土器  
(図IV-4-8~13)
- 129 包含層出土II群 b類破片土器  
(図IV-4-14~5-16)
- 130 包含層出土II群 b類破片土器  
(図IV-5-17~20)
- 131 包含層出土III群 a類破片土器  
(図IV-10-23~27・29)
- 132 包含層出土III群 a類破片土器  
(図IV-10-28・30~11-31)
- 133 包含層出土III群 a類破片土器  
(図IV-11-32~34)
- 134 包含層出土III群 a類破片土器  
(図IV-11-35~12-42)
- 135 包含層出土III群 a類破片土器  
(図IV-12-43~47)
- 136 包含層出土III群 a類破片土器  
(図IV-12-48、13-49)
- 137 包含層出土III群 a類破片土器  
(図IV-13-50~53)
- 138 包含層出土III群 a類破片土器  
(図IV-13-54~56、14-58)
- 139 包含層出土III群 a類破片土器  
(図IV-14-57・59・60・62)
- 140 包含層出土III群 a類破片土器  
(図IV-15-63)
- 141 包含層出土III群 a類破片土器  
(図IV-14-61)
- 142 包含層出土III群 a類破片土器  
(図IV-15-64~68)
- 143 包含層出土III群 b-1類破片土器  
(図IV-17-6・7、18-10)
- 144 包含層出土III群 b-1類破片土器  
(図IV-17-8・9、18-11・14)
- 145 包含層出土III群 b-1類破片土器  
(図IV-18-12・13・15・16)
- 146 包含層出土III群 b-1類破片土器  
(図IV-18-17~20)
- 147 包含層出土III群 b類破片土器  
(図IV-19-7~20-12・13・15)
- 148 包含層出土III群 b類破片土器  
(図IV-20-14・16・18)
- 149 包含層出土III群 b類破片土器  
(図IV-20-17・19~23)

- 150 包含層出土IV群 a類破片土器  
(図IV-34-63~69)
- 151 包含層出土IV群 a類破片土器  
(図IV-34-70)
- 152 包含層出土IV群 a類破片土器  
(図IV-35-71~75)
- 153 包含層出土IV群 a類破片土器  
(図IV-35-76~36-81)
- 154 包含層出土IV群 a類破片土器  
(図IV-36-82~36-90)
- 155 包含層出土IV群 a類破片土器  
(図IV-37-91~93)
- 156 包含層出土IV群 a類破片土器  
(図IV-37-94~38-98)
- 157 包含層出土IV群 a類破片土器  
(図IV-38-99~103)
- 158 包含層出土IV群 a類破片土器  
(図IV-39-104、40-106~108)
- 159 包含層出土IV群 a類破片土器  
(図IV-39-105、40-109・110)
- 160 包含層出土IV群 a類破片土器  
(図IV-40-111~114)
- 161 包含層出土IV群 a類破片土器  
(図IV-41-115~118)
- 162 包含層出土IV群 a類破片土器  
(図IV-41-119・120、42-122・123・  
125・126)
- 163 包含層出土IV群 a類破片土器  
(図IV-41-121、42-124・127)
- 164 包含層出土IV群 a類破片土器 (図IV-  
42-128、43-130~133・135~137)
- 165 包含層出土IV群 a類破片土器  
(図IV-42-129、44-139~141)
- 166 包含層出土IV群 a類破片土器  
(図IV-43-134、44-142~147)
- 167 包含層出土IV群 a類破片土器 (図IV-  
43-138、44-149、45-151~153)
- 168 包含層出土IV群 a類・b類破片土器  
(図IV-44-148、43-154)
- 169 包含層出土IV群 a類破片土器  
(図IV-43-150)
- 170 包含層出土VI群破片土器  
(図IV-48-18~24)
- 171 包含層出土VI群破片土器  
(図IV-48-25~28)
- 172 包含層出土VI群破片土器  
(図IV-49-29・31、50-32)
- 173 包含層出土VI群破片土器  
(図IV-49-30、50-34・36)
- 174 包含層出土VI群破片土器  
(図IV-50-33・35・37)
- 175 包含層出土土製品 (図IV-51-1~15)
- 176 包含層出土剥片石器群  
(図IV-56-1~30)
- 177 包含層出土剥片石器群  
(図IV-57-31~58-50)
- 178 包含層出土剥片石器群  
(図IV-59-51~61-71)
- 179 包含層出土剥片石器群  
(図IV-61-72~62-93)
- 180 包含層出土磨製石器群  
(図IV-63-1~64-13)
- 181 包含層出土礫石器群  
(図IV-65-1~7)
- 182 包含層出土礫石器群  
(図IV-65-8~66-14)
- 183 包含層出土礫石器群  
(図IV-66-15~21)
- 184 包含層出土礫石器群  
(図IV-66-22~67-29)
- 185 包含層出土礫石器群  
(図IV-67-30~68-37)
- 186 包含層出土礫石器群  
(図IV-68-38~45)
- 187 包含層出土礫石器群  
(図IV-69-46~53)
- 188 包含層出土礫石器群  
(図IV-69-54~70-61)
- 189 包含層出土礫石器群  
(図IV-70-62~71-69)
- 190 包含層出土礫石器群  
(図IV-72-70~77)
- 191 包含層出土礫石器群  
(図IV-73-78~84)
- 192-1 包含層出土礫石器群 (図IV-73-85)
- 192-2 包含層出土礫石器群 (図IV-73-86)
- 192-3 包含層出土礫石器群 (図IV-74-1)
- 192-4 包含層出土礫石器群 (図IV-74-2)
- 193-1 包含層出土礫石器群 (図IV-74-3)
- 193-2 包含層出土礫石器群 (図IV-74-4)
- 193-3 包含層出土礫石器群 (図IV-74-5)
- 193-4 包含層出土礫石器群 (図IV-75-6)
- 194-1 包含層出土礫石器群 (図IV-75-7)
- 194-2 包含層出土石製品 (図IV-77-12)
- 194-3 包含層出土石製品 (図IV-77-18・19)
- 195 包含層出土石製品 (図IV-76-1~11)
- 196 包含層出土石製品 (図IV-77-13~17)



# I 調査の概要

## 1 調査要項

遺跡名：三次郎川右岸遺跡（北海道教育委員会登録番号 B-15-37）

事業名：北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）埋蔵文化財発掘調査

委託者：日本道路公団北海道支社

所在地：茅部郡森町字石倉町516ほか

調査面積：4,450㎡（平成15年度：2,600㎡、平成16年度：1,850㎡）

発掘期間：平成15年7月14日～10月28日

平成16年5月6日～7月28日

整理期間：平成15年10月29日～平成15年3月31日（平成15年度分一次整理）

平成16年8月2日～平成16年3月31日（平成15・16年度分二次整理）

平成17年4月1日～平成17年3月31日（平成15・16年度分二次整理）

## 2 調査体制

財団法人北海道埋蔵文化財センター

（平成15年度）

理事長	森重楯一
専務理事	宮崎勝
常務理事	畑宏明
総務部長	下村一久
第2調査部長	西田茂
第4調査課課長	熊谷仁志（発掘担当者）
主査	鎌田望（発掘担当者）
主任	田中哲郎（発掘担当者）
主任	新家水奈
主任	大泰司統

（平成16年度）

理事長	森重楯一
専務理事	宮崎勝
常務理事	佐藤俊和
総務部長	佐藤英一
第2調査部長	西田茂
第3調査課課長	熊谷仁志（発掘担当者）
主任	末光正卓（発掘担当者）
主任	大泰司統（発掘担当者）

(平成17年度)

理 事 長	森 重 楯 一
専 務 理 事	宮 崎 勝
常 務 理 事	佐 藤 俊 和
総 務 部 長	牧 野 義 則
第 2 調 査 部 長	西 田 茂
第 3 調 査 課 課 長	熊 谷 仁 志 (発掘担当者)
主 任	末 光 正 卓 (発掘担当者)
主 任	大 泰 司 統 (発掘担当者)

### 3 調査に至る経緯

北海道縦貫自動車道は七飯町を基点に室蘭市・札幌市を經由し名寄市へ至る総延長488kmの自動車専用道路である。道南における建設計画は昭和47年に基本計画決定、平成元年に七飯町～長万部間の整備計画決定、平成5年に七飯町～長万部間の工事施工命令が出された。

このうち七飯～長万部間の路線内の埋蔵文化財について、日本道路公団札幌建設局（当時）から北海道教育委員会（以下、道教委と略）に事前協議がなされた。事前協議を受けた道教委は平成2年4月から所在確認調査を実施している。北海道縦貫自動車道にかかわる森町内の埋蔵文化財発掘調査は平成13年度から始まり、日本道路公団北海道支社（当時 現在：東日本高速道路株式会社北海道支社以下、道路公団と略）から当センターと森町が各々受託している。

森町石倉地区の所在確認調査は、道教委により平成2年4月・平成8年4月・平成12年11月に実施された。しかし、これらの所在確認調査では、三次郎川右岸の河岸段丘上の石倉4遺跡・石倉5遺跡や対岸の三次郎川左岸遺跡の所在は確認されたが、三次郎川右岸遺跡の所在は確認されていなかった。

平成15年度に、石倉地区の石倉1遺跡、石倉3遺跡、石倉4遺跡、石倉5遺跡と三次郎川左岸遺跡の発掘調査が計画され、同年4月に当センターと道路公団函館工事事務所との現地打ち合わせ・現地確認を実施した。現地打ち合わせ終了後、当センター職員が現地確認のため石倉3遺跡から三次郎川左岸遺跡を踏査した際、三次郎川の右岸に隣接する工事用道路の法面から数点の土器・フレイクを採取した。道教委にこれを報告した。これを受け同年6月に三次郎川の右岸の所在確認調査を実施することとなった。また、三次郎川左岸遺跡についても範囲確認のための所在確認調査が追加された。

所在確認調査は予定通り、同6月に実施され、その結果、三次郎川右岸からは多量の遺物と共に遺構が確認され、三次郎川右岸遺跡と呼称されることとなった。また、三次郎川左岸からも遺物が出土し、三次郎川左岸遺跡の範囲の変更が行われた。

このような試掘調査の結果をもとに道路公団と道教委の協議が行われ、工事計画の変更が不可能なため発掘調査を行うことになった。

平成15年度当初計画では、石倉地区は石倉1遺跡、石倉3遺跡、石倉5遺跡と三次郎川左岸遺跡の発掘調査を行う予定であった。

道路公団は、石倉地区では、三次郎川左岸遺跡～石倉3遺跡に通じる工事用道路の建設・三次郎川のカルバート工事・三次郎川を渡る仮橋の建設を最優先とした。しかし、当センターによる平成15年度の調査がすでに開始されていたこと、三次郎川右岸遺跡が多くの遺構・大量の遺物が予想されることなどから、三次郎川右岸遺跡・三次郎川左岸遺跡の調査を平成15年度中に終了させることは困難で



である。なお、基軸のライン（南東―北西方向）は真北に対して、 $47^{\circ} 46' 40''$  西側に傾いている。

また、水準点測量については、標識番号H-46（標高47.064m）を基準点としておこなっている。

（田中哲郎）

## （2） 調査の方法

調査範囲は三次郎川によって形成された右岸側の段丘面にある。調査範囲は大きく標高38～43mほどの段丘斜面と、43～45mほどの平坦面で構成される。平坦面には三次郎川の屈曲した流路痕跡が明瞭に残り、高低少なくとも2段の平坦面によって構成される。その高低差は上流側に顕著で、最大1m程度ある。流路痕跡はC字状に三次郎川側に開口する形となり、A～Eライン間とH～Nライン間が該当する。この流路痕跡間は三次郎川の浸食を逃れ、古い高位の平坦面を残すことになる。工事工程に従い、平坦面の縁辺を平成15年度に調査し、平坦面北東側（N～T-32～44区・Q-32～45区・R～T-32～46区）を平成16年度に調査した（図Ⅲ-1）。三次郎川から離れるにしたがって遺構・遺物の出現頻度は低くなる。

試掘調査の結果をもとに、調査予定範囲全てを通常発掘調査範囲とした。ただし、B・C-46～48区に相当する部分について、工食用道路に関連する橋脚工事の際、当初の調査範囲外ではあるが、遺物の出土が予想された。そこで、遺物の回収作業を行った。急斜面であったため、黒色土部分を重機によって掘削し、その土について遺物採取を行った。また、調査区内の川に面した急斜面については、極力人力による調査を行い、遺物を発掘区別に取り上げたが、足場を確保する作業の工程上、K-46・47区については、やむなくふたつの発掘区をまとめて取り上げる結果となった。同じくO・P-48区についても、湧水等により、ふたつの発掘区をまとめての取り上げとなった。その作業時に、O～Q-49区について、遺物の出土があった。当初の調査区外ではあるが、工事により包含層部分を損失する場所であったため、O・P-48区と同じ作業手順ののっとり、3つの発掘区をまとめて遺物取り上げを行なうものとした。

包含層調査に先行し重機により表土、火山灰（Ko-d）を除去した。一部、抜根による土層の攪乱が見られたが、遺物包含層は良好に残存していることがわかった。

調査は主に平成15年度については、石倉3遺跡調査終了に伴い鎌田・新家が調査を開始し、田中・大泰司が石倉1遺跡の調査を計画変更によって打ち切り、それに続いた。平成16年度については末光・大泰司が担当した。

包含層調査については、Ⅲ・V・VI層を遺物包含層とし、発掘区ごとに遺物の多寡、土層の変化を見極めながら、必要に応じてジョレン、移植ごて、竹ベラなどを用いた人力による手掘り作業により掘り下げた。

遺構調査については、包含層調査時に土層の変化により遺構の可能性のある場所を探した。その場所について、その平面長軸と短軸を想定し、土層観察用のベルトを残して掘り下げ、遺構かどうかについての確認作業、調査を行った。

包含層出土の遺物は、発掘区および層単位での取上げを行った。ただし平成15年度の調査については、発掘区を4分割した小発掘区による取上げを主として行った。そのことにより、遺物の出土状況を把握、確認したため、平成16年度の調査については、発掘区による取上げのみをとした。平成15年度、16年度共に、まとめて出土した遺物については図面に出土位置を記録し、取り上げた。

遺構出土の遺物の取り上げについては、遺構上部の自然堆積層（Ⅲ層・V層に相当）に包含されていたものについては、遺構および層位を記録して取上げた。覆土、床面または坑底面出土の遺物は、





この図は国土地理院発行5万分の1地形図、「駒ヶ岳」「濁川」「八雲」を複製加筆したものである。

図 I - 1 遺跡の位置

図面、台帳等に出土位置を記録し、遺構単位で連続番号を付して取上げた。ただし、調査の都合により覆土から出土した遺物の一部は、層位による一括取上げを行っている。 (大森司 統)

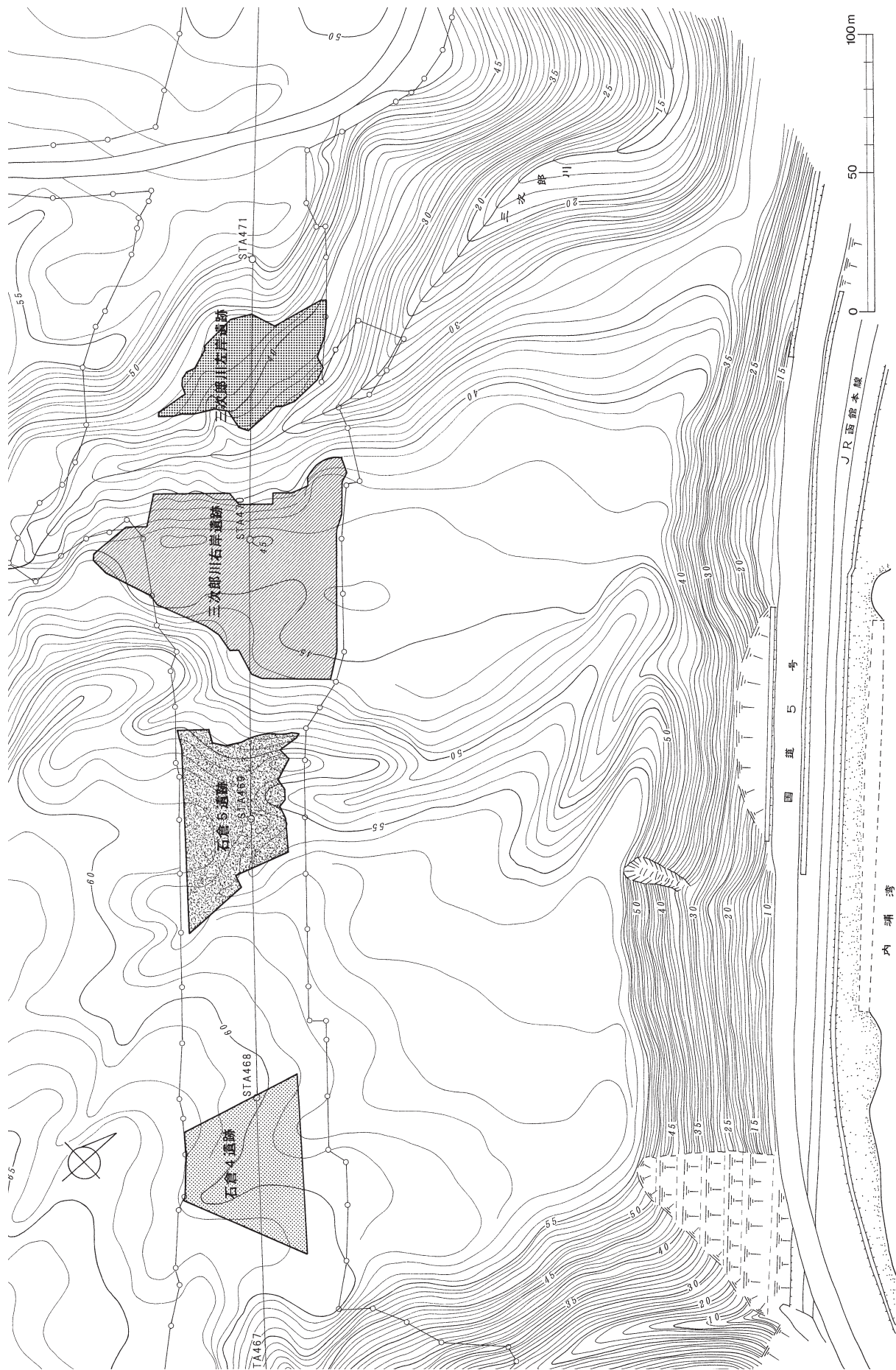


図 I - 2 遺跡周辺の地形と調査区

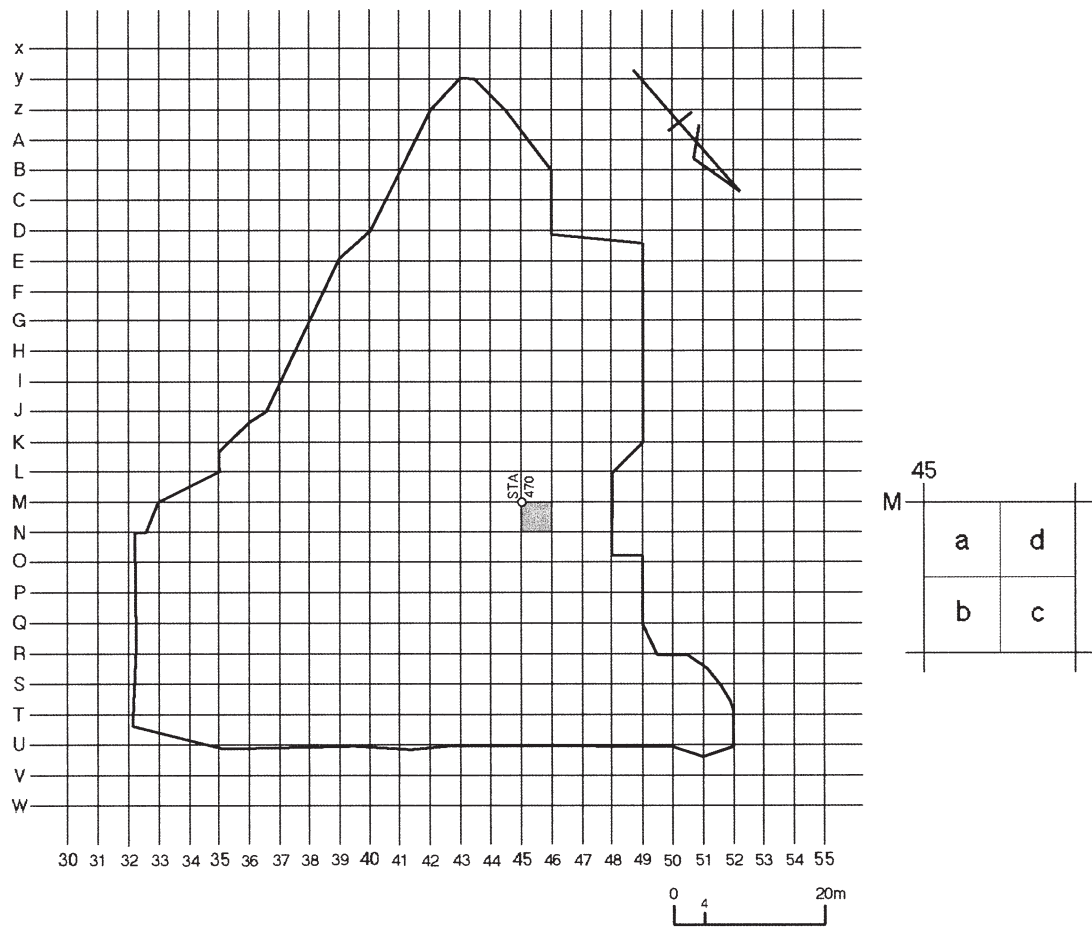
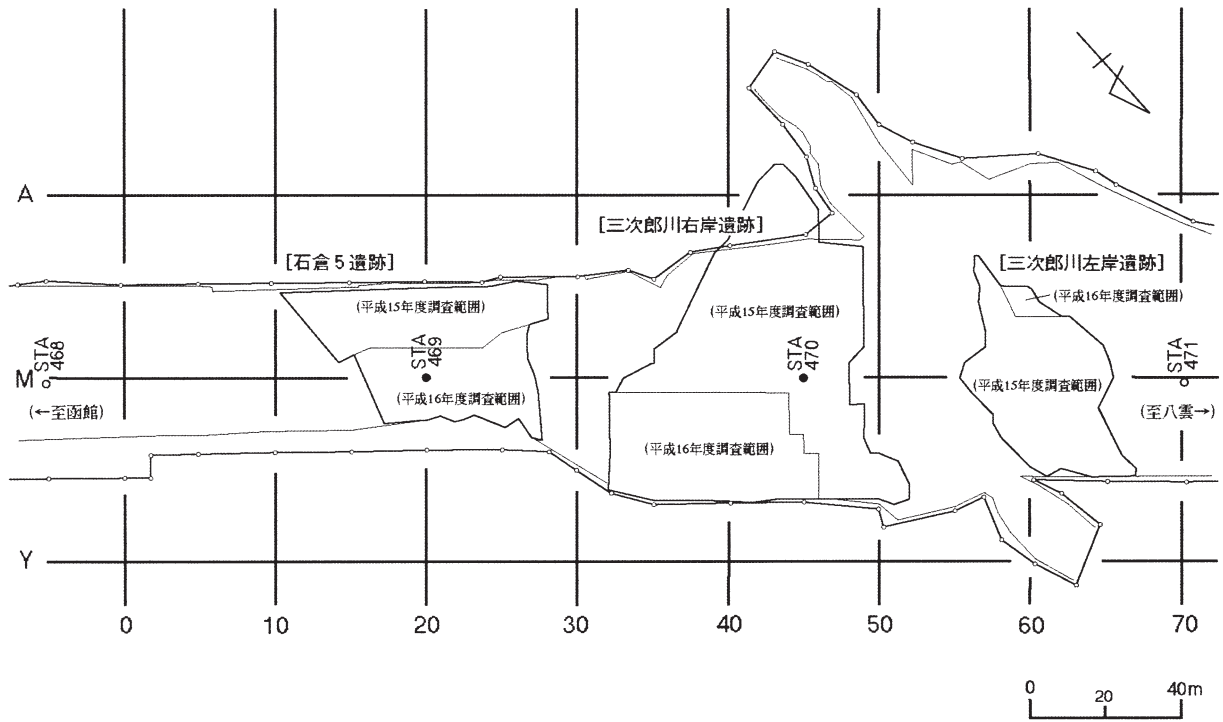


図 I - 3 発掘区設定図



### (3) 基本層序 (図 I-4~7 表 I-1 カラー図版 4)

遺跡の基本層序は、周辺に位置する遺跡の過去の調査事例等を参考に設定された、2003年度の基準について、2004年度にこれの不備や矛盾点の改善を行った。

2003年度は、45ライン・Bライン・Mラインが実測され、本報告書では縮尺約1/80で、2004年度は、地形ごとに選定した場所 (①斜面最上部、②斜面部、③平坦部) を記録し、縮尺約1/40でそれぞれ掲載した。

#### 1) 基本層序各層の概要

##### ・ I 層：現地表土層

現在の地表土である。1640年以降に形成された層で、考古学的な遺物等を含まない。また、II層の堆積が厚い部分では、下位に、にぶい褐色を呈する細粒の土層が認められ、これはII層に関連する降下火山灰層である可能性があるが、便宜的にI層とした。

##### ・ II 層：駒ヶ岳 d 降下軽石層 (Ko-d)

1640年に噴火した駒ヶ岳の火山噴出物層で、構成物の粒径の違い等から、三つの層に分層され、これらはフォールユニットを示していると考えられる。さらにI層の下位の火山灰層を含めると四つの層から構成されることとなる。下位の黒色土層 (III層) の上面において、遺構の凹み等に厚く堆積している部分も認められた。

##### ・ III 層：黒色土層

下位に部分的に認められる白頭山苦小牧火山灰層 (IV層) が存在することによってのみ、V層と区別できる上位の黒色土層である。IV層が存在しない部分では高さで便宜的に区別した。

##### ・ IV 層：白頭山苦小牧火山灰層 (B-Tm)

約1,000年前 (10世紀) に堆積したとされる白頭山苦小牧火山灰層である。部分的に認められる薄い層で、色調から二つに分層した。白色に近いものをIV1層とし、褐色の色調を呈するものをIV2層とした。本来的な色調に近いものは前者であると考えられる。II層同様に、遺構の凹み等に落ち込むように堆積している部分も認められた。

##### ・ V 層：黒色土層

上位のIV層により、III層と分層される下位の黒色土層である。Va、Vb層の二つに分けられるとされるが、その違いは断面における極わずかな色調のみであり、明確に識別することは困難である。2004年度の調査では、包含層調査において、V層という層位名称に掘り下げた回数を組み合わせて、遺物を取り上げた。

##### ・ VI 層：漸移層

上位の黒色土層と下位のVIII層との間に位置する層で、VII層と混在する部分も認められた。

##### ・ VII 層：駒ヶ岳 g 降下軽石層 (Ko-g)

約6,000年前に降下した駒ヶ岳の火山噴出物層である。部分的に認められる層で、赤色の色調を呈し、軽石に含まれる鉱物等はII層に類似する。

##### ・ VIII 層：地山層

色調や礫の混入等により、二つに分層した。

##### ・ VIII 1 層：黄褐色ローム層

粒度区分上の礫を含有しない層。存在しない部分も認められる。

##### ・ VIII 2 層：濁川火砕流堆積物層 (Ng)・水成堆積物層・石倉層

安山岩や軽石等を含有し、約12,000年前、濁川カルデラ起源の火砕流の堆積により形成された層で



ある。三次郎川近くでは、間層として砂層がみられ、含有礫の丸みが著しくなることが観察される。このような様相を示す部分は、水成の二次堆積層であると考えられる。Ⅷ2層は地質学では「石倉層」と呼称されて広く認識されている層で、この地域の第三紀系の地層を厚く覆っている。

2) 土層断面図の説明

・斜面最上部 (N-32区)

厚く堆積するⅡ層の下位には、Ⅲ層がみられ、その下位にはⅣ2層が堆積する。本来的な色調を呈すると考えられるⅣ1層は部分的に認められる。Ⅴ層の下位は、Ⅵ、Ⅶ層、そしてこれらが混在する状態の層が認められる。

・斜面部 (P・Q-34・35区)

この部分では、Ⅳ層の堆積が認められない。

・平坦部 (R-39区)

Ⅲ層の下位にはⅣ2層が認められる。土層断面図の左側部分は、Ⅵ層が上下に二つ認められるが、これは、上位が黒色、下位が黄色の色調を呈する状況を分層して表記したためである。(末光正卓)

表 I-1 基本層序一覧表

層名	細分層	名称	層厚 (cm)	層界	砂・粘土・シルト (長径 2mm未満)				礫 (長径 2mm以上)					備考				
					野外土性	色調		粘着性	堅密度	種類	混入割合 面積割合	粒径 (mm)	形状		風化の程度			
色名	マンセル色系	種類	混入割合 面積割合	粒径 (mm)	形状	風化の程度												
Ⅰ層	現地表土層	平均 15	画然 漸変	埴壤土	暗褐色	10YR 3/3	弱～中	軟～堅	混入なし					森林表土?				
	火山灰層	平均 2	画然 明瞭	埴土～ 埴壤土	にぶい褐色	7.5YR 5/4	弱	軟	混入なし					Ko-d?				
Ⅱ層	上位	駒ヶ岳 d 降下 軽石層 (1640年降下)	18~25	判然	砂土	黄褐色	10YR 8/6	無	すこぶ るしよ う	軽石	0%	最大 10mm 程度	亜角 ～ 角礫	未風化	細粒			
	中位	21~35	判然	灰白色		10YR 8/2	10~20%				やや粗粒							
	下位	6~12	画然	*構成物の粒径から三つに分層														
					*粗粒の火山灰 (火山砂) 主体 遊離鉱物・軽石片				*軽石:角閃石・輝石・カンラン石・石英・長石を含む					Ko-d				
Ⅲ層	黒色土層	平均 3	明瞭 漸変	埴壤土	黒色	10YR 1.7/1他	強	堅	混入なし									
Ⅳ層	Ⅳ1層	白頭山菅小牧火山灰層 (約1000年前降下)	最大 3	判然 明瞭	埴壤土	にぶい黄褐色	10YR 4/3	中	軟	混入なし					本来的な色調に近い部分?			
	Ⅳ2層	最大 4	にぶい褐色			7.5YR 5/4	Ⅳ1層の周辺特に上位に多くみられる											
					*部分的に堆積													B-Tm
Ⅴ層	Va層	黒色土層	平均 11	漸変	埴壤土	黒色	10YR 1.7/1他	強	堅	混入なし					遺物取り上げ層位名 V a層、V層 1・2 回目			
	Vb層		平均 6												遺物取り上げ層位名 V層 3 回目以降			
					*主体的な遺物包含層:土層断面上、Vb層はVa層に比べ明るくやや青味がかってみえることで、分層される。													
Ⅵ層	漸移層	3~12cm	漸変 ～判然	埴壤土	(漸変する階調色)		強	堅	混入なし					Ⅵ・Ⅶ層が混在した状態で混在する部分あり Ⅵ+Ⅶ・Ⅵ>Ⅶ・Ⅶ>Ⅵ				
Ⅶ層	駒ヶ岳 g 降下軽石層 (約6000年前降下)	9~11cm	明瞭 ～判然	砂壤土	明褐色 ～ にぶい赤褐色	7.5YR 5/6 5 YR 4/4	中	すこぶ る堅	軽石	3%以下	最大 5mm 程度以下	円礫	腐朽	「Ko-g」				
									軽石色調	10YR 6/8								
Ⅷ層	Ⅷ1層	黄褐色ローム層	9cm	明瞭	埴壤土	にぶい黄褐色	10YR 4/3	強	すこぶ る堅	混入なし					Ⅷ2層起源?堆積みられない部分あり			
	Ⅷ2層	濁川火砕流堆積物層 (約12000年前堆積)	*	*	埴壤土	にぶい黄褐色	10YR 4/3	強	すこぶ る堅	軽石	10%程度	平均 5mm 程度	円礫	腐朽				
		*Ⅷ2層の色調はⅧ1層に比べてやや明るい													「Na」 「石倉層」 水成二次堆積物層			
			平均 10cm	明瞭	砂土～砂壤土	にぶい黄褐色	10YR 4/3	弱	すこぶ る堅	他火山岩	平均 5~10mm 程度	角礫	半風化					
									軽石	20%程度	最大 10mm	円～ 極円礫	腐朽 半風化					
									安山岩									

(4) 整理の方法

現地では野外作業と並行して遺物の水洗、分類、遺物台帳作成、注記作業を行った。注記は小片や微細なものを除いた遺物に、遺跡名略号 (SU)・遺構名または発掘区・遺物番号・層位名を記入した。また、堅穴住居の炉や焼土と判断した土壌についてはフローテーション作業を行っている。平成15年度の冬期の整理作業では注記作業を主体とする一次整理作業を行った。平成16・17年度の整理作業においては、遺物の2次整理を行った。

2次整理について、土器は接合作業を行い、その結果、残存率の高いものを復元・図化した。立体

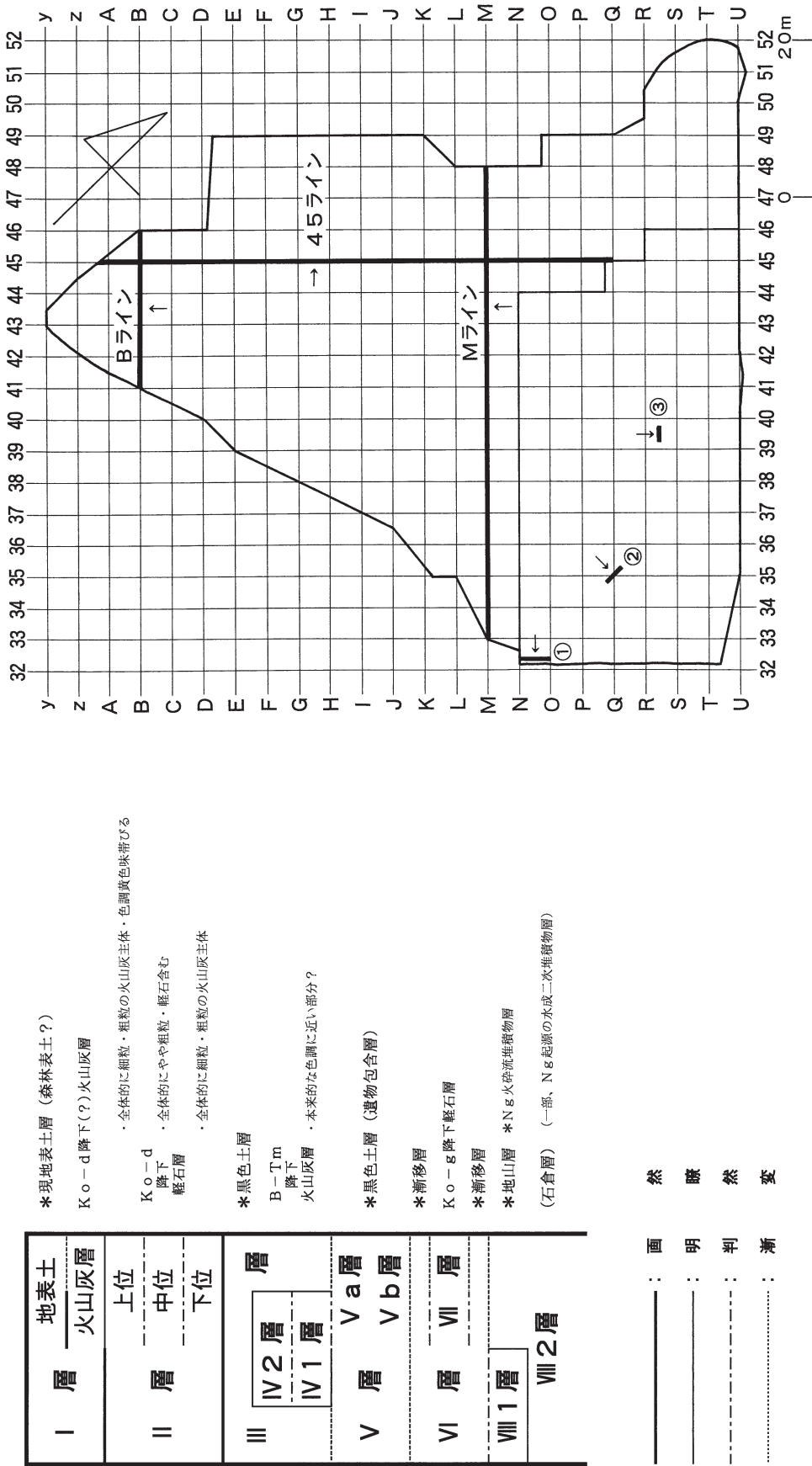


図 I - 4 基本層序柱状図及び土層断面実測位置図

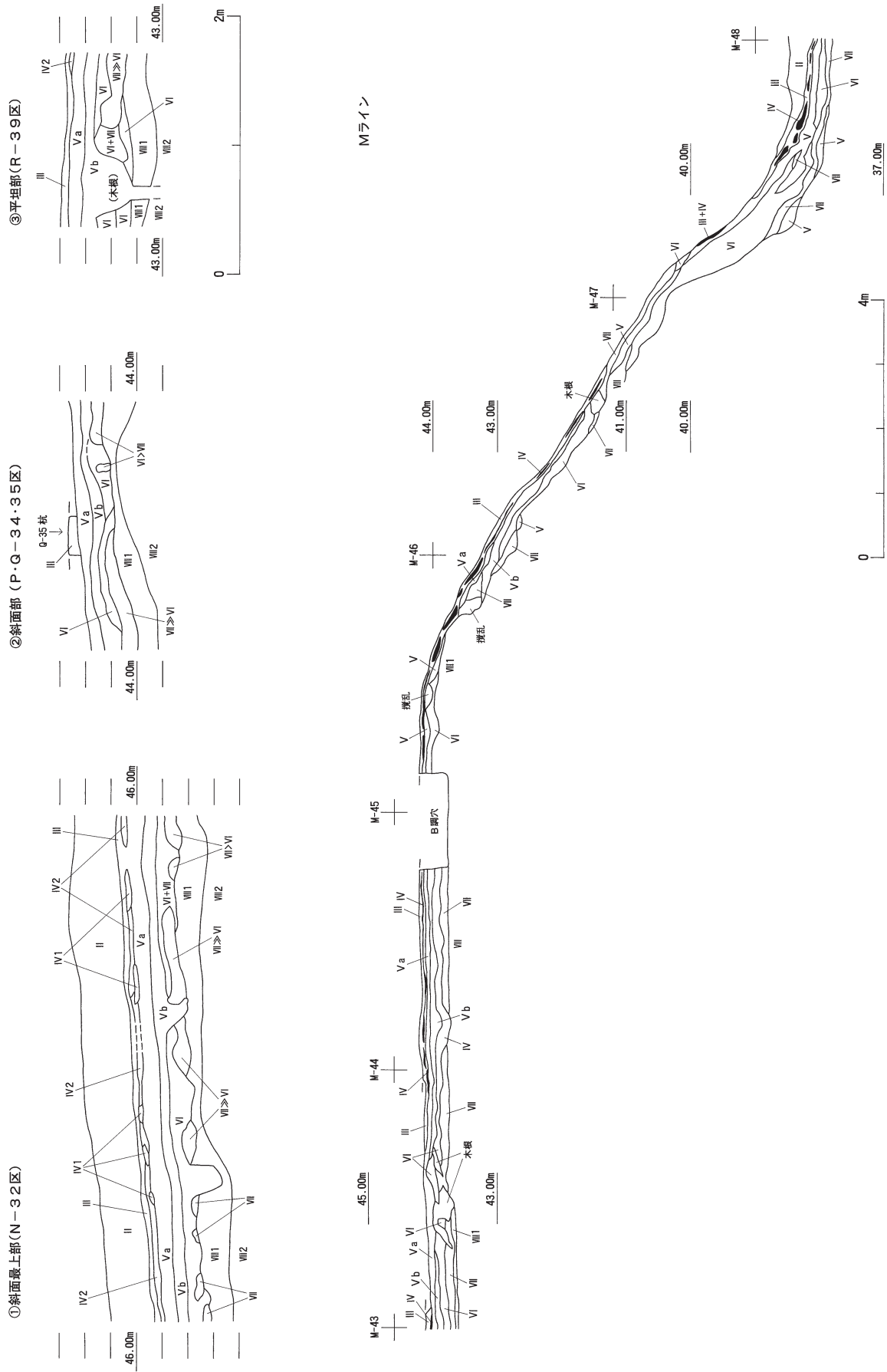
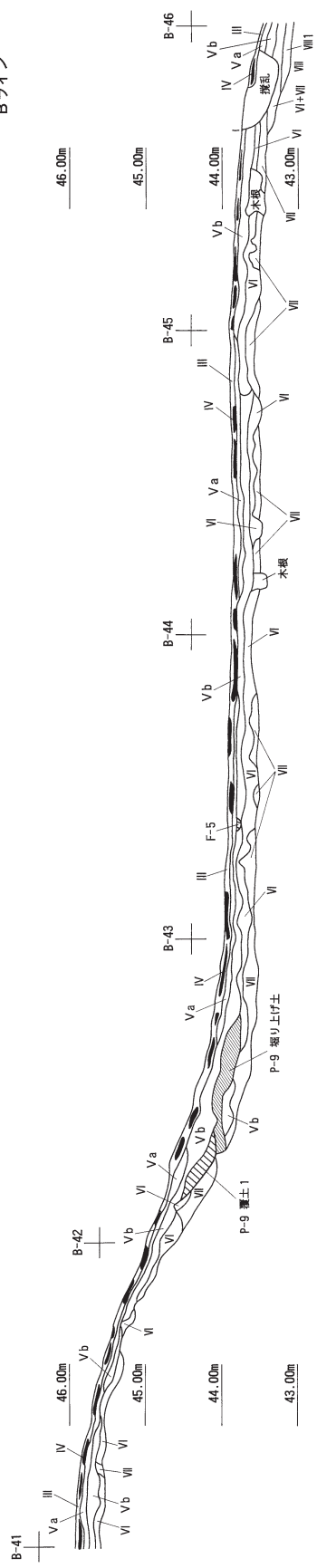
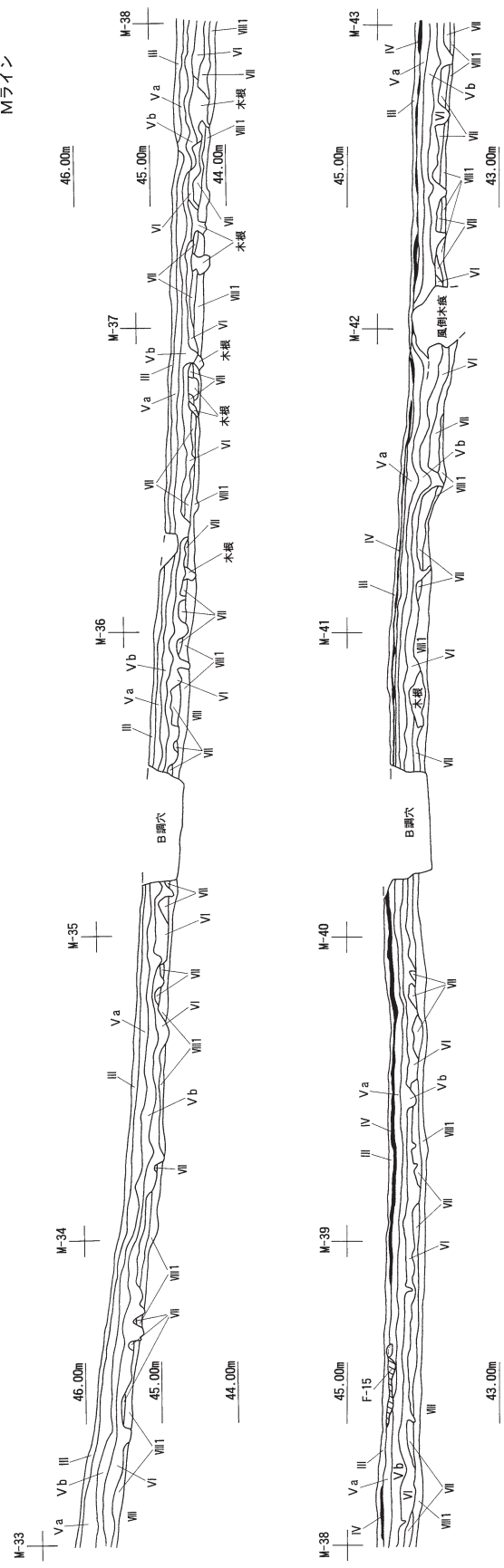


図 I - 5 土層断面図(1)

Bライン



Mライン



図I-6 土層断面図(2)

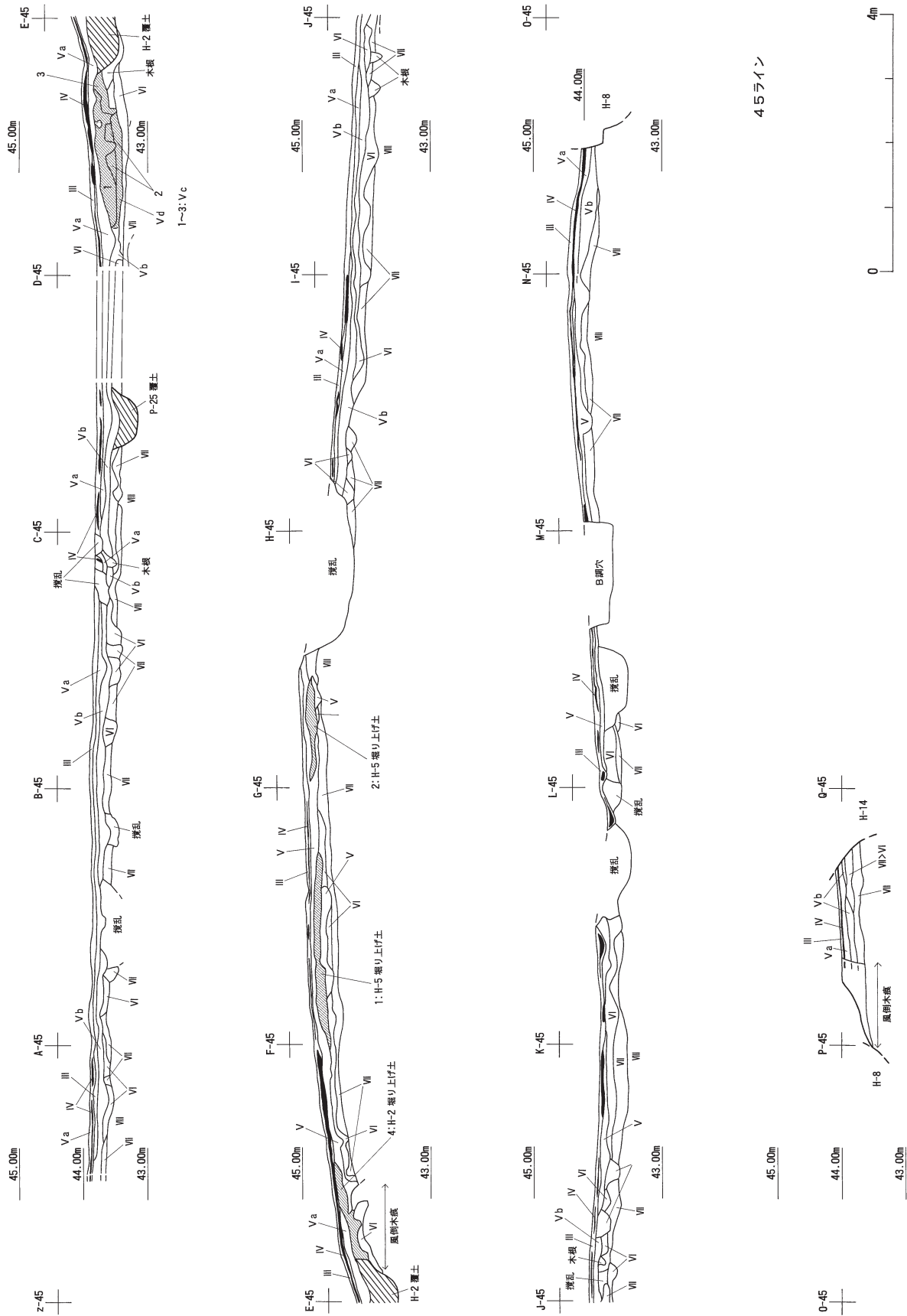


図 I - 7 土層断面図(3)

的な加飾を持つ等、拓影図で表現しきれない特徴を持つものを主として実測図化した。また破片資料については、遺跡の時期的特徴を反映しているものを拓影図化した。その中で遺構出土土器については、遺構そのものの時期および、埋没過程において特徴的な状況を示しているものを中心として選んだ。接合作業終了後、一次整理段階では判断しきれないあるいは誤認した土器分類を訂正した後、集計し、分布状況を調べた。図化した土器は写真撮影を行った。(大泰司)

石器類は原則として注記を行っていないが、一部、接合作業を行う目的で注記した礫石器群や、作業目的は不明であるが、注記されている2003年度出土の遺物もある。

はじめに、遺跡における石器類出土のあり方を把握するために、遺物台帳等の一次整理作業の成果をもとに集計作業を行い、「出土点数表」や「出土分布図」を作成し掲載した。

掲載する石器は、遺構出土のものは、出土層位を勘案し、定型的な石器で残存状態が良好なものを、包含層出土のものは、残存状態がほぼ完形のものを中心に選び出した。これらは報告書掲載を目的とした記録として「実測図」を作成し「写真」を撮影した。また、掲載遺物はすべて観察表を作成した。礫集中や配石遺構等を構成する自然礫等については、自然礫についての観察表を掲載した。これらのうち、大型のものが多いS-2出土の自然礫については、発掘現場にて個々を観察・撮影(35ネガカラー)し、礫は現場に廃棄した。(末光)

## (5) 遺物の分類

### 土器類

土器分類は、財団法人北海道埋蔵文化財センターの慣例に倣い、時期を反映させた。便宜的に縄文時代早期をI群、前期をII群、中期をIII群、後期をIV群、晩期をV群、続縄文時代をVI群、擦文時代をVII群と分類した。今回報告する調査区の資料には、II群、III群、IV群、VI群の土器がある。

そして、さらにより細かい時期区分を示す必要があるために、各群にアルファベットの小文字を組み合わせた。今回出土した土器に関しては、II群・III群については、前半をa類、後半をb類とした。IV群については前葉をa類、中葉をb類、後葉をc類としている。

III群b類については、その初期段階の土器である榎林式のうち、見晴町式の直後あるいは並行するものについて胴部破片で識別不可能な場合があり、III群b-1類を設けた。それにともないb類については「-1」、「-2」、「-3」を用いてさらに三期に細分した。

また観察表の分類の項目等、紙面の都合上「群」「類」を省略する場合がある。例えば「IV群a類」ならば「IVa」と略して表記している。

I群 縄文時代早期に属する土器群(今回はいずれも出土していない)

a類 貝殻文が施されるもの

b類 縄文、撚糸文、絡条体圧痕文、組紐圧痕文、貼付文等の施されるもの

II群 縄文時代前期に属する土器群

a類 縄文の施された丸底、尖底を特色とするもの。(今回は出土していない)

b類 円筒土器下層式土器に相当するもの。

III群 縄文時代中期に属する土器群

a類 円筒土器上層式土器に相当、もしくはその系譜を引くと考えられるサイベ沢VII式、見晴町式に相当ないし並行するもの。識別の際、III群b-1類の胴部破片も一部含む可能性がある。

b類 III群a類を中期の前半として、後半に属するもの。榎林式以降の土器群である。

b-1類 榎林式のうち見晴町式直後のもの、その一部は見晴町式と並行する可能性がある。

b-2類 榎林式のうち大安在B式に近い時期のものと、大安在B式に相当または並行するもの。

b-3類 ノダップⅡ式、煉瓦台式に相当または並行するもの。

#### IV群 縄文時代後期に属する土器群

a類 天祐寺式、涌元式、鳥崎式、大津式、白坂3式、十腰内Ⅰ式に相当ないしは並行するもの。

b類 ウサクマイC式、手稲式、鯨澗式、加曾利B式、に相当ないしは並行するもの。

c類 堂林式、三ツ谷式、湯の里3式に相当ないしは並行するもの。(今回は出土していない)

#### V群 縄文時代晩期に属する土器群 (今回はいずれも出土していない)

a類 大洞B式、大洞BC式に相当ないしは並行するもの。

b類 大洞C<sub>1</sub>式、大洞C<sub>2</sub>式に相当ないしは並行するもの。

c類 大洞A式、大洞A'式に相当ないしは並行するもの。

#### VI群 続縄文時代に属する土器群

(今回報告の範囲からは恵山式(アヨロ3式、ないしは南川Ⅳ群)土器・後北B式土器・後北C<sub>1</sub>式土器・聖山KⅡ群と思われるもの・後北C<sub>2</sub>D式土器、が出土した)

#### VII群 擦文時代に属する土器群

土製品 土器を除いた土製の加工品。土器破片を利用した再生土製品が出土した。それらについてはまず素材となった土器をそれぞれ、土器分類にあてはめたのちに、抽出したため、別集計とした。(大泰司)

### 石器類

石器類は次の基準を用い、器種等に分類した。

#### I；剥片石器群 (主に黒曜石、頁岩、めのう等を用い、剥片剥離により製作されるもの)

「石鏃」

「石槍・ナイフ」

「石錐」

「つまみ付きナイフ(石匙)」

「スクレイパー」

「両面調整石器」

「Uフレイク」：不定型な剥片素材に使用(utilized)によると考えられる痕跡を有するもの

「Rフレイク」：不定型な剥片素材に加工(retouch)と考えられる痕跡を有するもの

\*実際的には、両者を「U・Rフレイク」として一括し扱っている。

「ピエスエスキュー」：対縁に打撃角の低い剥離痕をもつ剥片。

「石核」

「フレイク・チップ(剥片・碎片)」

「原石」

#### II；磨製石器群 (主に緑色泥岩、片岩、蛇紋岩等を用い、研磨により仕上げられるもの)

「磨製石斧」

「擦切残片」

「研磨石材」

「原石」



### Ⅲ；礫石器群

「扁平打製石器（すり石）」

「北海道式石冠（すり石）」

「すり石（その他）」

「たたき石」

「石鋸」

「石錘」

「砥石」

「台石・石皿・凹み石」

### Ⅳ；石製品

剥片剥離、研磨、敲打等により製作された、非実用品と判断したもの。

### Ⅴ；自然礫

石そのものに、加工や使用等の人為的な痕跡が認められないもの。

\* 上記Ⅰ～Ⅳの「器種」に該当するもので、未製品と判断されるものについては、器種名の後ろに「未製品」と付した。（末光）

## (6) 遺物と記録類の保管

### (遺物)

土器類は、「報告書掲載」のものは、復元土器と拓影図化した破片資料に分けた。それぞれ「遺構出土」と「包含層出土」に分け、報告書掲載番号を記し、掲載順に収納した。復元土器はダンボール箱、拓影図化した破片はコンテナに収納した。また、掲載資料の接点がなく接合しなかったが、同一個体の可能性が高いものについて、掲載順にコンテナに収納した。「非掲載」遺物は、「遺構出土」のものは「遺構」ごとに分け、それぞれの台帳番号順に収納した。包含層遺物については、まず土器分類ごとに分け、次に接合状況が良好なものと接合しなかったものに分けた。そしてそれぞれを「アルファベットライン」順にコンテナに収納した。（大泰司）

石器類は、単独でコンテナに収納する必要がある大型のもの以外は、以下のように分類・収納を行った。「報告書掲載」のものは、「遺構出土」と「包含層出土」に分け、報告書掲載番号を記し、掲載順にコンテナに収納した。「非掲載」遺物は、「遺構出土」のものは「遺構」及び「石器群大別」ごとに、「包含層出土」のものは「アルファベットライン」と「石器群大別」並びに「遺物種別」ごとにコンテナに収納した。

すべてのダンボール箱・コンテナには通し番号を付し、収納遺物の内容を一覧表で記した「遺物収納台帳」を作成した。フローテーション作業によって検出した資料も同様に扱った。

### (記録類)

写真は、年度（2003～2005年度）ごと及び作業（現場・整理）ごとに分け、さらにフィルムの種別ごとにアルバムに収納し、道立北海道埋蔵文化財センターで保管される。フィルムの種別には、リバーサル（6×7判・35mm判）、モノクロ（6×7判のみ）、及びネガ（35mm判）の4種類がある。このうち、ネガは原則として保存しないが、配石遺構S-2を構成する自然礫について、個々に撮影したフィルムについては、整理作業の写真として保存する。また、平成15年度の現場写真のリバーサル判については、フォトCD（Kodak digital science Photo CD master disc）が作成されていた。



**(図面類)**

図面類は、「遺構実測図」と「遺物実測図」に大きく分けられる。前者は、現場で作成した「原図」と、二次整理作業段階で原図に手を加えて作成した「素図」がある。後者は、いずれも二次整理段階で作成されたもので、作成対象遺物から「土器」、「石器類」に大別される。

上記に述べたそれぞれの種別ごとに、通し番号を付し、作成対象、縮尺、作成担当者等を明記し、これらを一覧表とした「図面台帳」とともに保存する。 (末光)

**(7) 調査結果の概要****検出した遺構**

2年にわたる調査で検出した遺構の概要について述べる。

住居はすべて竪穴住居で、19軒検出した。平成15年度に12軒、平成16年度に7軒検出した。縄文時代中期の可能性があるもの14軒、後期前葉の可能性があるもの4軒である。H-13は欠番である。

土坑は83基検出した。平成15年度に60基、平成16年度については23基を検出した。P-71は焼失家屋を思わせる縄文時代中期中葉Ⅲ群b-1類の土坑である。規模が小さいため住居としては扱わなかった。縄文時代中期のものが27基、そのうち前半は10基、後半が2基、中葉頃のものが5基ある。後期前葉ないしは前半のものは28基ある。縄文時代中～後期の可能性があるものが20基。縄文時代前～後期の可能性があるものが2基。続縄文時代の可能性があるものが6基である。P-45・52・60・64は欠番である。他に縄文時代後期前葉の可能性がある柱穴状の小土坑(SP)を13基検出し、報告書では一項目設けた。SP-13・14は欠番である。焼土は16か所検出した。平成15年度については焼土15か所、平成16年度に1か所検出した。3か所が縄文時代中期以降のもので、他は続縄文時代のものである。集石は大小合わせて6基検出した。平成15年度にはフラスコ状土坑を伴う石組S-1を1基検出した。平成16年度については大型配石遺構S-2色含めて、大小5基の集石を検出した。これらとは別に、平成15年度に、その場で母岩を打ち欠いた状況と思われる痕跡を検出した。フレイクの集中はいくつかあったが、特徴的なものであったため、FC-1と呼称して接合作業を行った。加えて、擦文土器が1点まとまって出土した。これについては時期と出土状況に特性があったためⅢ章に特記した。

**出土遺物**

調査区内では85,486点の遺物を取り上げた。取り上げ遺物の内訳は包含層からは69,666点、遺構から15,820点出土している。これにフローテーション時に得られた微細な土器片・石器片7,909点を加えると93,392点である。

土器は包含層から58,151点、遺構から7,331点出土している。出土した土器はⅣ群a類が最も多い。全体の62%を占める。遺構、包含層を問わずに分類ごとの集計を出すとⅡ群b類が1,638点。Ⅲ群a類が14,216点出土し、2番目に量が多い(22%)。そのうち見晴町式か榎林式か断定できなかったものが15点あった。Ⅲ群と分類した36点についてはⅢ群a類の可能性が強いが断定できなかったものである。Ⅲ群b類が5,939点である。そのうち榎林式の古手でb-1類としたⅢ群a類に近いものが3,384点、大安在B式に相当するb-2類としたものが55点、細分しなかったものが2,500点である。これらは主にⅢ群b-2類に並行するもので、榎林式中～新段階、および大安在B式に並行するが、型式名として大安在B式に合致するかどうか検討の余地を残すものである。一番多く出土したⅣ群a類が40,924点である。Ⅳ群b類の可能性のあるものが19点出土した。Ⅵ群は2,525点出土した。Ⅶ群はO・Q-40～42区から168点が出土した。同一個体がほぼ完形で出土した。土製品・ミニチュア土器・および特殊器形の一部については、土器破片として分類した後、底径2cm以下の深鉢形土器破片、特

殊器形破片、と判断したものを抜き出した。23個体（33破片）確認した。また別に、包含層の土器破片として分類した後、土器片を再加工したと考えられるものを再生土製品として抜き出した。可能性があるものが20点あった。

自然石を差し引いた石器類は13,623点出土した。包含層から10,817点、遺構から2,806点である。以下、遺構包含層を問わずに分類ごとの集計について述べる。石鏃188点、石槍又はナイフ17点、石錐13点、つまみ付きナイフ28点、スクレイパー320点、両面調整石器2点、U・Rフレイク345点、ピエスキューユ14点、石核としたもの103点、フレイク・チップ10,764点、原石としたもの213点、磨製石斧66点、すり石のうち扁平打製石器260点、北海道式石冠161点、その他のすり石は61点、たたき石112点、石鋸1点、石錘37点（扁平打製石器未製品の可能性あり）、砥石37点、台石・石皿・凹み石の類が合わせて248点である。石製品が49点であった。定形的なものも含めて、すり石類の多さが際立つ。剥片石器ではスクレイパーが多い。石製品のうち特徴的なものとして三脚石器がある。

### 遺構と遺物の分布

調査範囲は大きく標高38～43mほどの段丘斜面と、43～45mほどの平坦面で構成される。（図Ⅲ-1参照）平坦面には三次郎川の屈曲した流路痕跡が明瞭に残る。そのため平坦面は、さらに高低2段の平坦部がある。低位の平坦面を形成する流路痕跡は2か所ある。いずれもC字状に三次郎川側に開口する。「顕著な高低差（最大1m程度）がある上流側のA～E-43区より北西側部分」と「下流側のH～N-41区より北西側」である。この2か所の流路痕跡間E～G-45区より南東側は三次郎川の浸食を逃れ、古い高位の平坦面を残すことになる。以上を踏まえて調査区を5区域に分けて、遺構と遺物の分布について述べる。

**上流側の流路痕跡（A～E-42区より北西側を中心として）：**低位な平坦面については、続縄文時代の焼土群（F-1～9）が並ぶ。焼土群の下からは、縄文時代中期と思われる、大型礫が入った2基の土坑（P-16・17）等を検出した。斜面には住居跡H-2と土坑（P-8・9・10・19・28）が並ぶ。これは縄文時代中期中葉以後のものとした。掘り上げ土が低位平坦面の斜面裾部分に分布する。H-2の掘り上げ土については「Vc層」の名称を与えた。しかし、掘り上げ土すべてについて、どの遺構からのものかわからなかった。そして斜面の土坑群の性質が不明であったため、掘り上げ土層全体に対して、「Vc層」の名称を汎用出来なかった。調査区内において、後期前葉の土器は大津式が大半だが、この地区ではトリサキ式が目立つ。

**流路痕跡間の舌状に張り出す地形（E～G-45区の南東側を中心として）：**縄文時代中期の住居が3軒切り合う（H-1・3・4）。中期後半の埋甕炉を持つH-1が、切りあうH-3・4の中央をさらに掘り込む。H-3・4は中期前半の住居である。張り出す地形の先端には、別な中期後半の埋甕炉を持つH-5がある。その脇には完形の中期中葉榎林式土器と北海道式石冠が納められていたP-23やFC-1が位置する。このほかに特徴的な遺物出土状況として、P-33は北海道式石冠3点と扁平打製石器3点が、P-37には台石が、P-38は完形の前期前半円筒上層d式土器が出土した。舌状をした地形の付け根に並んでいたP-2・5は形状と覆土が類似しており、同用途の土坑の可能性はある。

**流路痕跡（H～N-41区の北西側を中心として）：**斜面部分H-40～44区において、縄文時代中期円筒下層c式のまとまった廃棄があった（H-11埋没後遺物を主とする）。連続する平坦部には続縄文時代の焼土が直線的に3か所（F-12～14）並ぶ。この流路痕跡を取り囲むように分布する遺構がある。それは、中期中葉の埋甕炉を床面のほぼ中央に持つ住居跡（H-1・5・9）と、続縄文時代の可能性がある土坑（P-24・27・29・65・66、類するものとしてはP-69）である。この一連の土

坑については、浅いが、検出面が上位のため、それぞれ覆土中にIV層（B-Tm）が落ち込んでいる。P-24・27・29は斜面部分H-40～44区にある。P-65・66についてはNラインより北東側の平坦面の流路よりからの検出で、そこは縄文時代の遺物の分布が少ない。ただ、一個体出土した擦文土器はその傍（O・P-40・41区）から出土した。

**Nラインより北東側の平坦面：**川に近い場所ほど遺構・遺物が多い。特に縄文時代後期前葉大津式土器がまとまって出土し、38ラインより北西側がより多い。ただし平坦面が舌状に張り出すR～U-49～52区については遺構が縄文時代の焼土（F-10）のみで、遺物の分布も減る。また、P～T-40～42区から検出した掘り上げ土（図Ⅲ-2）については調査経過をⅢ章、遺構の概要で特記した。

この地区では大型の配石遺構を1基（S-2）検出した。S-2は、2004年の調査区内については扇形の弧の形状をした配列を確認した。扇形のほぼ中心に位置する場所に同一検出面から、縄文時代後期前葉大津式土器が出土している。この配石を取り囲むようにフラスコ状土坑（P-39・44・51・61・67・72・73・77・79・81・84・85）そしてフラスコ状土坑を伴う配石S-1が分布する。P-51と67は杭の打ち込みを思わせる小土坑が伴う。P-81からはイノシシは未萌出臼歯のある下顎が出土した。切り合うもの（P-81・84）もあり、すべて同時期に構築したかどうかは判らない。縄文時代後期前葉のものが主である。またS-2の南側には小型の土坑を2基（P-75・76）検出した。いずれも後期前葉の土器が納められていた。P-75ではほぼ完形の小型深鉢が倒立した状態で、P-76は大・小45枚の破片（3個体分）が出土した。

この平坦面には2軒一組で隣り合う住居跡の例がある。ほぼ同規模で、類似した形態の同時期の住居が並んでいる。H-8と14、H-16と19、H-17と18である。中期前半の大型住居H-8・14はベンチ構造を持つ同規模の住居が平坦面の斜面よりの場所に並ぶ。いずれも埋まりきる前の窪みにまとまった後期前葉の土器の出土があった。H-14の窪みを利用したものについては遺構・石組炉S-4・5を検出した。土器と同じく後期前葉のものとする。H-16とH-19（焼失家屋）は中期中葉の榎林式期のもので平坦面のほぼ中央に並ぶ。H-17・18後期前葉のもので、掘り込みが浅く石組み炉を持つ。他に、当期のH-7・10が下流側に並んで確認されている。これらについては、掘り込みの浅い住居の分布域がまとまりを持ち、さらに調査区域外にひろがっていく可能性を示す。ほかに、やや離れて位置するH-11と12は、同規模で、類似した形態である。小型で壁際に溝が巡る。縄文時代中期前半の可能性はある。

**川に面した急斜面（D～R-46区より北西側）：**崖とも言える様相を呈する。斜面縁に遺物が多く分布する。平坦面の様相をそのまま反映し、Nラインより北東側に遺物が多い。ここに位置するP-42は扁平打製石器1点と扁平打製石器未製品の可能性がある石錘1点出土した。（大泰司）

表 I - 2 出土遺物点数一覧表

土器分類	Ⅱ群b類	Ⅲ群	Ⅲ群a類	Ⅲ群a類(Ⅲ群b-1類に近い)	Ⅲ群b類	Ⅲ群b-1類	Ⅲ群b-2類	Ⅲ群b類～Ⅳ群a類	Ⅳ群a類	Ⅳ群b類	Ⅵ群	Ⅶ群	計
包含層	1,610	34	13,190	9	1,734	2,092	46	2	36,945	19	2,302	168	58,151
遺構	28	2	1,026	6	766	1,292	9	0	3,979	0	223	0	7,331
分類別合計	1,638	36	14,216	15	2,500	3,384	55	2	40,924	19	2,525	168	65,482
剥片石器群+磨製石器群	石鏃	石槍・ナイフ	石錐	つまみ付きナイフ	スクレイパー	両面調整石器	U・Rフレイク	ビエスエスキュー	石核	フレイクチップ	原石	磨製石斧	計
包含層	173	13	11	24	261	2	285	7	88	8899	193	56	10,012
遺構	15	4	2	4	59	0	60	7	15	1865	20	10	2,061
分類別合計	188	17	13	28	320	2	345	14	103	10,764	213	66	12,073
礫石器群+石製品+自然礫	扁平打製石器		北海道式石冠	すり石	たたき石	石鏃	石錘	砥石	台石・石皿・凹み石	石製品	自然礫	計	
包含層		208		129	59	101	1	22	31	213	41	698	1,503
遺構		52		32	2	11	0	3	6	35	8	5,683	6,428
分類別合計		260		161	61	112	1	25	37	248	49	6,381	7,931

フローテーション関連を除く 遺物点数 85,486点

フローテーションの結果検出した微細な遺物（表V-6に遺構別内訳）

土器	焼成粘土塊	石鏃	スクレイパー	楔形石器	U・Rフレイク	石斧	フレイク	原石	メノウ片	礫片	赤色化した礫	軽石	敲打痕のある礫	合計
1822	14	13	6	2	14	1	5,682	21	143	108		25	56	7,909

総遺物点数 93,395点

## II 遺跡の位置と環境

### 1 遺跡の位置と周辺の地形 (図 I - 1・2、カラー図版1、図版1)

#### (1) 遺跡の位置

三次郎川右岸遺跡は、茅部郡森町字石倉地区、J R 函館本線本石倉駅 (かつての本石倉信号所) からおよそ北西方向へ、直線距離約0.9kmのところの位置する。噴火湾 (内浦湾) に注ぐ三次郎川 (別名; 山野川 流路延長5.1km) の右岸、現地表での標高約40~50m付近の台地に立地する。この川の対岸、すなわち八雲町寄りには三次郎川左岸遺跡、その反対方向の南東側は石倉5遺跡と接する。

#### (2) 遺跡周辺の地形

森町~八雲町の市街地を結ぶ海岸線付近では、噴火湾沿いに狭小で平坦な低地部分があり、そこに、J R 函館本線、国道5号線、そして、集落等がそれぞれ近接して存在しているのが特徴的である。三次郎川が噴火湾へと流れ込むところは、J R 函館本線石倉駅のやや函館方面寄りの地点であり、特に低地部分が狭いところである。海際を線路と国道が所狭しと走り、その内陸部側では、噴火湾へと張り出す台地の崖が隣接している。台地の縁辺の標高は約30~50mで、海や低地との比高差は、その水平距離と比べて著しく大きい。この台地は、毛無山 (684.3m) や狗神岳 (899.4m) を有する渡島山地と呼ばれる内陸の山間部へと続いている。

三次郎川右岸遺跡が立地する地点は、噴火湾へと大きく張り出すこの台地の縁辺部にあたる。海までの直線距離は約250mで、海を0mとすると、その比高差はおよそ40~50mとなる。遺跡が立地するこの台地の形成に関わる主体的な要因は、濁川カルデラ (火山) の活動による火山起源の堆積物と、三次郎川による浸食及び運搬・堆積作用が考えられる。濁川火山は、遺跡からおおよそ南方向へ約4kmに位置する濁川地区が位置するカルデラ盆地がその名残である。かつて濁川盆地が火山であった頃、遺跡の立地する場所は、濁川火山の裾野かその外縁の平坦地 (低地部) であったと推測される。近辺の火山により形成された岩石類 (毛無山安山岩・狗神岳火山角礫岩) や、堆積岩類 (訓縫層・八雲層・黒松内層) といった新第三系の地層に覆われていたと推測される。その後の約2~1万2千年前、濁川火山が大爆発を起こし、多量の火砕流堆積物が北西~北東側へと流れ出し新第三系の地層の上に厚く堆積した。この層は濁川火砕流 (軽石流) 堆積物 (Ng) あるいは「石倉層」と呼ばれている。特に盆地の北西~西側の山間部に位置する三岱地区付近は、周囲に比べて傾斜が緩やかな平坦地であることが、空中写真 (図版1) や地形図 (図 I - 1) から判読でき、これは濁川火山の火砕流堆積物により形成された「火砕流台地」であると理解される。

濁川火山は、山体崩壊を伴う爆発とその他の地殻変動により、現在のようなカルデラ盆地 (濁川盆地) となった。盆地の北西~北東側の周囲には、坊主山 (376.7m) をはじめ、標高350mを超える頂を複数有する「カルデラ壁」が存在し、この「壁」は、盆地側では急な崖状、その反対方向では比較的緩やかな傾斜を呈しており、対照的である。

また、この台地は、三次郎川をはじめ、噴火湾に注ぐ河川により浸食作用を受けている。遺跡周辺では石倉層の堆積が厚いため下位の地層は確認できなかったが、三次郎川と接する台地縁辺の崖の断面では、「礫混じりの層」が認められ、これは三次郎川により運搬され堆積した、河川堆積物 (段丘堆積物?・氾濫原堆積物?) であろうと判断された。さらに、2003年度の調査区では、これよりも高



位置で、曲線的な流路跡と河岸段丘地形と認定しうる複数の段丘面も確認されている。

石倉層 (Ng) は、発掘調査でいういわゆる「地山層」に相当し、本遺跡の調査においては「Ⅷ 2 層」と呼称した。粒径がまとまる砂層 (ラミナ) や、含有される岩石が円～極円礫状を呈する部分も広く認められ、このⅧ 2 層には、水成堆積層であると判断できる部分も存在する (I 章 4 節 (3) 参照)。(末光)

### (3) 「石倉」および「三次郎川」の地名の由来

「石倉」地区は元名を「ショウンナイ」と呼ばれていた。それは、アイヌ語の「ショ」(滝・裸岩)、「ウン」(……のある所)、「ナイ」(川・沢)で、滝のある沢を意味し、現在の本石倉にそそぐ小川から得た名である。これが石倉と改称されたという。一説に、箱館戦争時、榎本軍の石倉三左衛門の名に由来するというものがある。しかし実際には、天明 4 (1784) 年の『北藩紀略』には「イシクラ」、寛政 3 (1791) 年菅江真澄の「えぞのてぶり」には「石倉」という地名がすでに登場している (竹内編 1987)。安政 3 (1856) 年の記述である『竹四郎廻浦日記 卷の三十』には「石クラ」として「…此処も文化頃人家七軒有し由なるが当時四軒、人別三十二人有。…」との記述があり (松浦著・高倉編 1978)、『渡島日誌 卷の四』には同様の記述に苛斂誅求により人口が減ったとの解説が加えられている (松浦著・秋葉解説 1988)。「三次郎川」、「石倉」の名前の由来について、森町教育委員会、藤田 登氏にうかがったところ、幕末に森町周辺がニシン漁でにぎわったころ、和人が大勢移住してきた。そして居を構えた部落の所在地や川にその本人の名をつけた。大部分は現在名称が残っていない。「三次郎川」の名称はその頃に付けられた名称である。他に市街地の北西にある「万太郎川」もその例である。「石倉」という地名もその時代の頃に人名に由来して、付けられたものであろうとのことであった。

## 2 周辺の遺跡

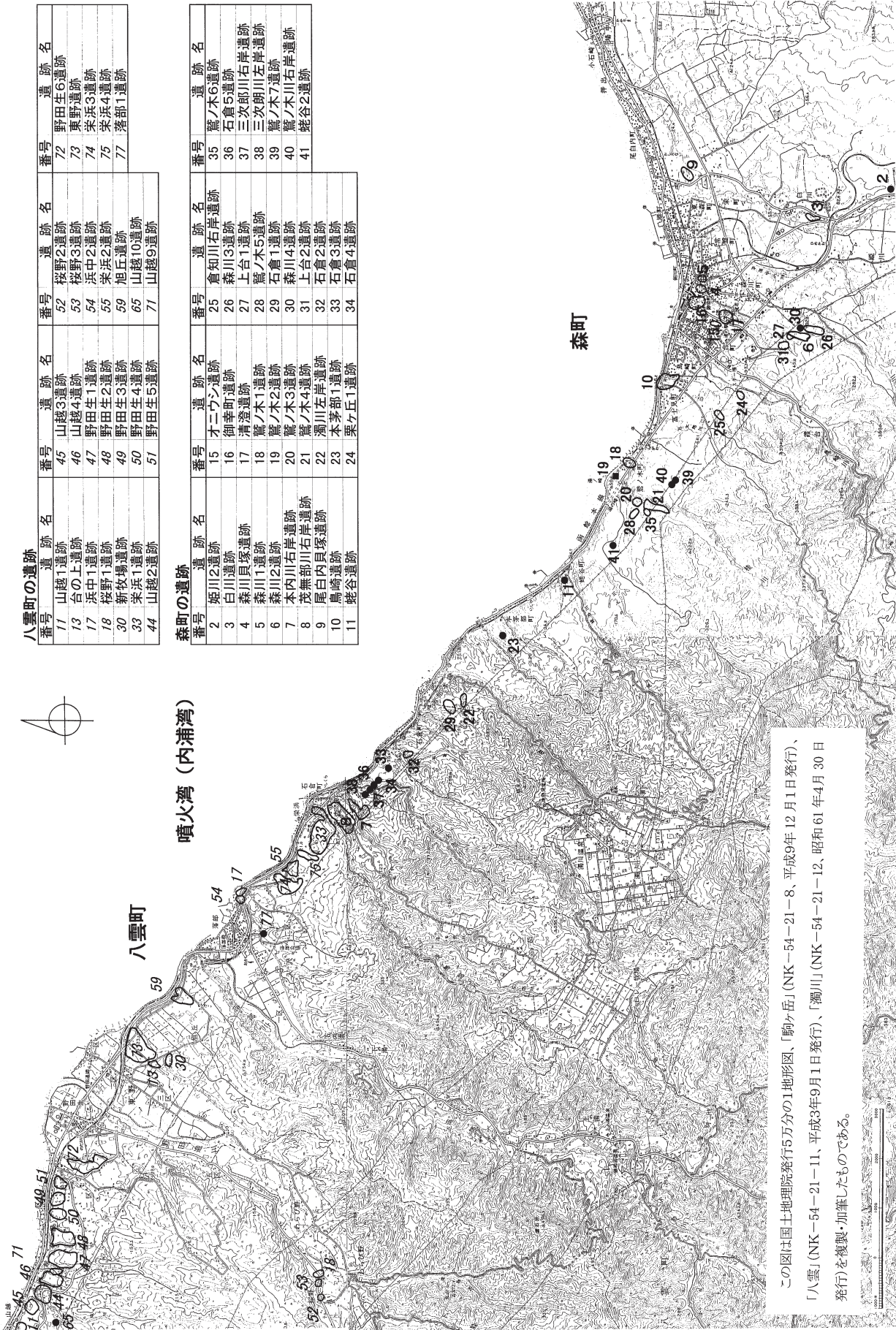
旧・森町と砂原町が合併した平成 17 年 4 月 1 日は遺跡調査後であった。三次郎川右岸遺跡は森町内の北側・八雲町側にある (砂原町と反対側である)。ここでは、旧森町の範囲について遺跡を解説する。旧・森町地域については平成 15 年 11 月時点で、41 か所の遺跡が登載されている。過去に調査が行われた主なものは、昭和 27 年から 29 年にかけて東京大学駒井和愛による尾白内貝塚の調査があり、続縄文時代恵山式の土器、石器、骨角器が出土している。尾白内貝塚は昭和 55 年と平成 4 年に町教育委員会で調査が行われている。また、昭和 30 年代から 40 年代にかけては熊野喜蔵により、姫川 1 遺跡 (旧姫川 A 遺跡)、姫川 2 遺跡、森川 1 遺跡などが調査され、縄文時代前期から中期が主体の遺跡であることが確認されている。昭和 38 年には函館博物館による森川貝塚の調査で、縄文時代前期の円筒下層式、続縄文時代恵山式、擦文式の土器、陶磁器、鉄器、古銭などが出土した。その他、町教育委員会によって、昭和 46 年に蛸谷遺跡、昭和 49 年に鳥崎遺跡、昭和 51 年にオニウシ遺跡、昭和 59 年・平成 5 年に御幸町遺跡などが調査され、おもに縄文時代中期から後期の様相が次第に明らかになっている。分布は、尾白内川中流域と七飯町との境界である宿野辺川流域に数ヶ所の遺跡がある他は、森町市街地から茂無部川にかけての海岸段丘上と内浦湾 (噴火湾) にそそぐ河川沿いに集中している。この地域の時期は、縄文時代中期から後期のものが大半であるが、河川沿いの遺跡は、内陸部に向かって縄文時代後期を主体とするものが増加する傾向が見られる。続縄文時代の遺跡は、森町市街地の低位の海岸段丘上に多い。図 II-1、表 II-1・2 には三次郎川右岸遺跡が立地する森町北部の遺跡と位置

八雲町の遺跡

番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名
11	山越1遺跡	45	山越3遺跡	52	桜野2遺跡
13	合の上遺跡	46	山越4遺跡	53	桜野3遺跡
17	浜中1遺跡	47	野田生1遺跡	54	浜中2遺跡
18	桜野1遺跡	48	野田生2遺跡	55	栄兵2遺跡
30	新牧場遺跡	49	野田生3遺跡	59	旭丘遺跡
33	栄兵1遺跡	50	野田生4遺跡	65	山越10遺跡
44	山越2遺跡	51	野田生5遺跡	71	山越9遺跡

森町の遺跡

番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名
2	姫川2遺跡	15	才二ウシ遺跡	25	倉知川右岸遺跡
3	白川遺跡	16	御幸町遺跡	26	森川3遺跡
4	森川貝塚遺跡	17	清澄遺跡	27	上台1遺跡
5	森川1遺跡	18	鷺ノ木1遺跡	28	鷺ノ木5遺跡
6	森川2遺跡	19	鷺ノ木2遺跡	29	石倉1遺跡
7	本内川右岸遺跡	20	鷺ノ木3遺跡	30	森川4遺跡
8	茂無部川右岸遺跡	21	鷺ノ木4遺跡	31	上台2遺跡
9	尾白内目塚遺跡	22	濁川左岸遺跡	32	石倉2遺跡
10	鳥崎遺跡	23	本茅部1遺跡	33	石倉3遺跡
11	蛭谷遺跡	24	栗ヶ丘1遺跡	34	石倉4遺跡
				35	鷺ノ木6遺跡
				36	石倉5遺跡
				37	三太郎川右岸遺跡
				38	三次郎川左岸遺跡
				39	鷺ノ木7遺跡
				40	鷺ノ木川右岸遺跡
				41	蛭谷2遺跡



この図は国土地理院発行5万分の1地形図、「駒ヶ岳」(NK-54-21-8、平成9年12月1日発行)、「八雲」(NK-54-21-11、平成3年9月1日発行)、「濁川」(NK-54-21-12、昭和61年4月30日発行)を複製・加筆したものである。

図II-1 周辺の遺跡



表II-1 周辺の遺跡一覧(1)森町の遺跡

巻載番号	遺跡名称	種別	所在地	立地	標高(m)	時期(型式略名)	備考
1	堀川1	遺物包含地	字駒ヶ岳132-1~4	河岸段丘	117	縄文中期(円筒上層)	
2	堀川2	遺物包含地	字駒ヶ岳132-217、6	河岸段丘	112	縄文中期(円筒上層)	
3	白川	遺物包含地	字白川49-14	河岸段丘	118	縄文晩期・縄文	目録あり
4	森川目録	貝	森川町76-78ほか	海岸段丘	13-15	縄文晩期・縄文(遺物)	目録あり
5	森川1	遺物包含地	森川町69-2ほか	海岸段丘	15~18	縄文中期(円筒上層)・中・後期・縄文(遺物)	1932年調査(遺物)・1987年調査(遺物)
6	森川2	遺物包含地	字籠谷84-1、35-2	台地	80~100	縄文中期(円筒上層)	2002年調査(遺物)・1987年調査(遺物)
7	木内川右岸	遺物包含地	字石倉町610-7・8	台地	40~60	縄文(円筒下層)・中・後期・縄文(遺物)	2002年調査(遺物)・1987年調査(遺物)
8	茂原部川右岸	遺物包含地	字石倉町610-2・5	台地	40~60	縄文中期(円筒上層)	1987年調査(遺物)・1987年調査(遺物)
9	尾白内目録	貝	字尾白内926、929-1ほか	海岸段丘	10~14	縄文晩期(大湖A)・縄文(遺物)	1987年調査(遺物)・1987年調査(遺物)
10	尾崎	遺物包含地	尾崎31-1、字富士見町13ほか	海岸段丘	15~30	縄文後期	1975年調査(遺物)・1975年調査(遺物)
11	尾崎	遺物包含地	字籠谷146-1ほか	海岸段丘	30~32	縄文中期(円筒上層)・後期	1975年調査(遺物)・1975年調査(遺物)
12	赤井田1	遺物包含地	字赤井田229	丘陵	175~195	縄文中期(円筒上層)	1971年調査(遺物)・1971年調査(遺物)
13	赤井田2	遺物包含地	字赤井田229	丘陵	230~235	縄文中期	1971年調査(遺物)・1971年調査(遺物)
14	赤井田3	遺物包含地	字赤井田229	丘陵	210	縄文中期	1971年調査(遺物)・1971年調査(遺物)
15	オニウシ	集落跡	字上台町326-18	海岸段丘	25~35	縄文早(東御路Ⅲ)~中期(円筒上層)	1977年調査(遺物)・1977年調査(遺物)
16	御幸町	遺物包含地	字御幸町132-2、字籠谷3-1ほか	海岸段丘	8~20	縄文中期(円筒上層)	1985年調査(遺物)・1985年調査(遺物)
17	清澄	遺物包含地	字清澄27-29-2	海岸段丘	33~39	縄文中期(円筒上層)	1985年調査(遺物)・1985年調査(遺物)
18	鷲ノ木1	遺物包含地	字鷲ノ木145-1ほか	海岸段丘	15~20	縄文中期(円筒上層)	2004年調査(遺物)・2004年調査(遺物)
19	鷲ノ木2	台場跡	字鷲ノ木155ほか	海岸段丘	40	近世	2004年調査(遺物)・2004年調査(遺物)
20	鷲ノ木3	遺物包含地	字鷲ノ木199-2ほか	河岸段丘	40~45	縄文中期(円筒上層)・縄文(遺物)	2004年調査(遺物)・2004年調査(遺物)
21	鷲ノ木4	遺物包含地	字鷲ノ木506~510	河岸台地	45~50	縄文中(円筒上層)・縄文(遺物)	2004年調査(遺物)・2004年調査(遺物)
22	瀬川左岸	集落跡	字石倉町401、446-1、448	河岸段丘	40~50	縄文(円筒下層)・中(円筒上層)・後期	2007年調査(遺物)・2007年調査(遺物)
23	本茅部1	遺物包含地	字本茅部町265、272~274、294	海岸段丘	80~85	縄文前(円筒下層)・中(円筒上層)・晩(タングラ)・晩(タングラ)	2007年調査(遺物)・2007年調査(遺物)
24	栗ヶ丘1	遺物包含地	字栗ヶ丘38~44	河岸段丘	35~45	縄文中・後期	2007年調査(遺物)・2007年調査(遺物)
25	倉知川右岸	集落跡	字栗ヶ丘7、11-1・2	丘陵	75~80	縄文中(円筒上層)・晩(タングラ)・晩(タングラ)	2007年調査(遺物)・2007年調査(遺物)
26	森川3	集落跡	字森川町317-1・7	丘陵	100	縄文前・中期・縄文(遺物)	2007年調査(遺物)・2007年調査(遺物)
27	上台1	遺物包含地	字上台33-1、42-1、364	丘陵	90	縄文後期	2007年調査(遺物)・2007年調査(遺物)
28	鷲ノ木(鷲ノ木5)	遺物包含地	字鷲ノ木509-1、495-4・5	河岸段丘	70	縄文後期・ストーンサークル	2007年調査(遺物)・2007年調査(遺物)
29	石倉1	遺物包含地	字石倉町395-397、403、404、439	丘陵	30~40	縄文中・後期	2007年調査(遺物)・2007年調査(遺物)
30	森川4	遺物包含地	字森川町317-18	河岸段丘	90	縄文中・後期	2007年調査(遺物)・2007年調査(遺物)
31	上台2	集落跡	字上台町326-5	河岸段丘	90~100	縄文中~後期	2007年調査(遺物)・2007年調査(遺物)
32	石倉2	集落跡	字石倉町326-1・3、4、426-1、336	河岸段丘	60~75	縄文中~晩期	2007年調査(遺物)・2007年調査(遺物)
33	石倉3	遺物包含地	字石倉町482、483、490	河岸段丘	65~75	縄文後期(大湖A)・縄文(遺物)	2007年調査(遺物)・2007年調査(遺物)
34	石倉4	遺物包含地	字石倉町511、520、521	河岸段丘	60	縄文後期	2007年調査(遺物)・2007年調査(遺物)
35	鷲ノ木6	遺物包含地	字鷲ノ木505、511	河岸段丘	65~70	縄文後期	2007年調査(遺物)・2007年調査(遺物)
36	石倉5	遺物包含地	字石倉町512、513、519	河岸段丘	55~60	縄文中期	2007年調査(遺物)・2007年調査(遺物)
37	三次郎川右岸	遺物包含地	字石倉町313、516	河岸段丘	40~47	縄文前・中・後期・縄文(遺物)	2007年調査(遺物)・2007年調査(遺物)
38	三次郎川左岸	遺物包含地	字石倉町610-24	河岸段丘	35~50	縄文前・中・後期・縄文(遺物)	2007年調査(遺物)・2007年調査(遺物)
39	鷲ノ木7	遺物包含地	字鷲ノ木7387-1ほか	尾根	60	縄文	2007年調査(遺物)・2007年調査(遺物)
40	鷲ノ木川右岸	遺物包含地	字鷲ノ木川386	台地	60	縄文	2007年調査(遺物)・2007年調査(遺物)
41	籠谷2	遺物包含地	字籠谷町281	台地	80	縄文	2007年調査(遺物)・2007年調査(遺物)

表II-2 周辺の遺跡一覧(2)八雲町の遺跡

巻載番号	遺跡名称	種別	所在地	立地	標高(m)	時期(型式略名)	備考
11	山越1	遺物包含地	山越431-1ほか	海岸段丘	30	縄文中期(円筒上層)	1987年調査(遺物)・1987年調査(遺物)
13	台上	遺物包含地	東野565ほか	河岸段丘	15~20	縄文(タングラ)	1987年調査(遺物)・1987年調査(遺物)
17	浜中1	遺物包含地	落部470ほか	海岸段丘	14~15	縄文(遺物)	1987年調査(遺物)・1987年調査(遺物)
18	松野1	遺物包含地	松野25-1ほか	海岸段丘	60~65	縄文中期(円筒上層)	1987年調査(遺物)・1987年調査(遺物)
30	新牧場	遺物包含地	東野757ほか	海岸段丘	30	縄文後期(円筒上層)	1987年調査(遺物)・1987年調査(遺物)
33	栄浜1	集落跡	栄浜88ほか	海岸段丘	32~36	縄文前・中・後期・縄文(遺物)	1987年調査(遺物)・1987年調査(遺物)
44	山越2	集落跡	山越319ほか	海岸段丘	20~30	縄文中(円筒上層)・見晴町・後期(大湖A)	2007年調査(遺物)・2007年調査(遺物)
45	山越3	遺物包含地	山越402-1ほか	海岸段丘	32~34	縄文早(東御路Ⅲ)・前(円筒下層)・中(サイベイ・タングラ)・後(タングラ)	2007年調査(遺物)・2007年調査(遺物)
46	山越4	遺物包含地	山越324-1ほか	海岸段丘	30~39	縄文前(円筒下層)・中(円筒上層)・後(タングラ)	2007年調査(遺物)・2007年調査(遺物)
47	野田生1	集落跡	野田生307ほか	海岸段丘	33~40	縄文(遺物)・前(円筒下層)・中(サイベイ・タングラ)・後(タングラ)	2007年調査(遺物)・2007年調査(遺物)
48	野田生2	遺物包含地	野田生355-1ほか	海岸段丘	34~39	縄文中(円筒上層)	2007年調査(遺物)・2007年調査(遺物)
49	野田生3	遺物包含地	野田生394-1ほか	海岸段丘	25~37	縄文中(円筒上層)	2007年調査(遺物)・2007年調査(遺物)
50	野田生4	遺物包含地	野田生378ほか	海岸段丘	26~38	縄文中(円筒上層)・上層(サイベイ・タングラ)・中層(サイベイ・タングラ)・下層(サイベイ・タングラ)	2007年調査(遺物)・2007年調査(遺物)
51	野田生5	遺物包含地	野田生303ほか	河岸段丘	30~35	縄文後期(大湖A)・縄文(遺物)	2007年調査(遺物)・2007年調査(遺物)
52	松野2	遺物包含地	松野41-1ほか	海岸段丘	70~75	縄文中(円筒上層)・晩期(タングラ)	2007年調査(遺物)・2007年調査(遺物)
53	松野3	遺物包含地	松野22ほか	海岸段丘	80~85	縄文中(円筒上層)	2007年調査(遺物)・2007年調査(遺物)
54	浜中2	遺物包含地	落部459ほか	海岸段丘	15~18	恵山	2007年調査(遺物)・2007年調査(遺物)
55	栄浜2	遺物包含地	栄浜111ほか	海岸段丘	31	縄文中(円筒上層)	2007年調査(遺物)・2007年調査(遺物)
56	山越5	遺物包含地	山越475、476	海岸段丘	14	縄文前・中・後期	1988年調査(遺物)・1988年調査(遺物)
57	山越6	遺物包含地	山越211、471、475	海岸段丘	14	縄文中期・縄文(遺物)	1988年調査(遺物)・1988年調査(遺物)
59	旭丘1	集落跡	旭丘3ほか	海岸段丘	42~55	縄文前(円筒下層)・中期(円筒上層)	1988年調査(遺物)・1988年調査(遺物)
65	山越9	遺物包含地	山越389ほか	海岸段丘	40~50	縄文中期?	1988年調査(遺物)・1988年調査(遺物)
71	山越9	遺物包含地	山越325ほか	海岸段丘	20~35	縄文中期?	1988年調査(遺物)・1988年調査(遺物)
72	野田生6	遺物包含地	野田生434ほか	河岸段丘	20~30	縄文中期	1988年調査(遺物)・1988年調査(遺物)
73	東野	遺物包含地	東野255ほか	海岸段丘	10~40	縄文後・晩期、縄文	1988年調査(遺物)・1988年調査(遺物)
74	栄浜3	遺物包含地	栄浜210、入沢411ほか	海岸段丘	10~40	縄文中期	2004年調査(遺物)・2004年調査(遺物)
75	栄浜4	遺物包含地	栄浜285ほか	海岸段丘	20~50	縄文中(サイベイ・タングラ)・見晴町・後(大湖A)・縄文(遺物)	2007年調査(遺物)・2007年調査(遺物)
77	落部1	遺物包含地	入沢374-375ほか	海岸段丘	26~38	縄文中(サイベイ・タングラ)・見晴町・後(大湖A)・縄文(遺物)	2007年調査(遺物)・2007年調査(遺物)



的に近い八雲町南部の遺跡を示している。

近年、北海道縦貫自動車道建設工事に伴う調査が増加し、町教育委員会とにより、鷲ノ木4遺跡、鷲ノ木5遺跡、栗ヶ丘1遺跡などが、当センターにより森川3遺跡、森川4遺跡、上台1遺跡、上台2遺跡、石倉1遺跡、石倉2遺跡、石倉3遺跡、倉知川右岸遺跡、三次郎右岸遺跡、三次郎左岸遺跡などが調査された。これらのうち、本書で報告する遺跡の周辺である、茂無部川から濁川に向かって北から順に7遺跡について概要を述べる（図Ⅰ-2、図Ⅱ-1）。三次郎川右岸遺跡に対して、三次郎川左岸遺跡は三次郎川をはさんで対岸にある。石倉4遺跡・石倉5遺跡については三次郎川右岸に立地し、石倉5遺跡は当遺跡の一段上の段丘にあり隣接する。

**本内川右岸遺跡** 縄文時代中～後期の遺跡。遺構は中期の土坑3基で、縄文時代の円筒上層b式、ノダップⅡ式、後期前葉の折り返し口縁を持つ土器と、各種石器類が出土。

**三次郎川左岸遺跡** 縄文時代後期前葉を主体。土坑1基、焼土1ヶ所を検出。縄文時代の円筒下層式土器、後期前葉の土器、続縄文時代の恵山式土器と後北式土器などが出土。後期前葉の土器はタガ状の貼付帯を持つものが主。縄文地文のものは対岸の三次郎川右岸遺跡と同じく底部際まで縄文を施文。縄文地文のほか、網目状絡条体を持つタガ状の貼付帯を持つものもある。恵山式の復元個体は三次郎川右岸遺跡のものよりいくぶん古手である。

**石倉5遺跡** 縄文時代後期前葉を主体する。三次郎川の右岸高位段丘上から川に面する沢のある斜面にかけて立地する。土坑を2基検出。円筒下層式、トリサキ式、続縄文時代・恵山式土器などが出土した。報告書（2005）方向の円筒下層d式土器のうち、三次郎川右岸遺跡の図Ⅳ-4-11に類似する地文のものがある。恵山式の復元個体は三次郎川右岸遺跡のものよりいくぶん古手である。

**石倉4遺跡** 石倉5遺跡の南東側に隣接。Ⅲ層（三次郎川右岸と同じ土層区分）で焼土を検出。遺物は縄文時代円筒下層式、円筒上層式、中期後半の大安在B式土器などが出土。報告書（2005）図中の円筒下層d式土器に三次郎川右岸遺跡の図Ⅳ-5-18に類似する胴部破片がある。

**石倉3遺跡** 縄文時代後期前葉を主体。段丘の平坦面に土坑を伴う不定形な配石が検出された。

**石倉2遺跡** 縄文時代中期後半を主体とする急峻な尾根上の竪穴住居群。住居跡11軒、土坑9基、Tピット10基、焼土2ヶ所、土器集中4ヶ所、フレイク集中2ヶ所、礫集中1ヶ所を検出した。遺物は縄文時代榎林式土器のまとまった資料を主として中・晩期の土器などが出土。

**石倉1遺跡** 平成14年度から継続して調査・遺物整理を行っている。縄文時代中・後期を主体。坑口部に台石や大型礫をもつ土坑2基などが検出されている。遺物は縄文時代中期～後期初頭の土器をはじめ、各種石器類が出土している。

（大泰司・鎌田 望）

## Ⅲ 遺構

### 1 遺構の事実記載

#### (1) 概要

住居はすべて竪穴住居であり19軒検出した。土坑は83基、焼土は16か所、柱穴状の小土坑は13基、集石は大小合わせて6基検出した。フレイクの集中のうち特徴的なひとつをFC-1と呼称した。また、擦文土器が1点まとまって出土し、これについては時期と出土状況に特性があったためⅢ章に特記した。以下各種遺構についての概要、特徴的な掘り上げ土の検出状況について述べる。特にP~T-40~42区掘り上げ土(図Ⅲ-2)については調査経過を示す。

住居はすべて竪穴住居であり19軒検出した。高位の平坦面に立地するものが多い。縄文時代中期の可能性のある14軒(H-1~5・8・9・11・12・14~16・19・20)と、後期前葉の可能性のある、5軒(H-6・7・10・17・18)がある。特徴的なものとしては、中期前半のベンチ構造を持つ大型のH-8・14と壁際に溝が検出されたH-11・12、中期後半の埋甕炉を持つH-1・5・9、類似する平面形で中央に地焼炉を持つH-16・19(H-19は焼失家屋)、後期前葉の石組み炉を持つH-17・18がある。

縄文時代の土坑は中期のものが27基、そのうち中期前半は10基(P-2・5・6・13・14・33・37・38・49・63)、中期後半が2基(P-83・86)、中期中葉頃のもの5基(P-11・20・23・47・71)、中期の可能性のある10基(P-10・17・19・21・26・28・30・32・34・59)である。他に縄文時代の土坑としては、中~後期の可能性のある20基(P-1・3・7~9・16・18・22・25・35・36・40~43・46・54・69・72・78)。前~後期の可能性のあるP-50・55。後期前葉ないしは前半のものは28基(P-4・12・15・31・39・44・48・51・53・57・58・61・62・67・68・70・73~77・79~82・84・85・87)である。続縄文時代の土坑の可能性のあるものとして、深さは浅いがIV層(B-Tm)が落ち込んでいるものが5基(P-24・27・29・65・66)ある。またP-69は埋まり方がそれらと類似している。

形状的に特徴的な土坑としてフラスコ状土坑が12基(P-39・44・51・61・67・72・73・77・79・81・84・85)ある。また、P-71は焼失家屋を思わせたが、規模が小さく、土坑として扱った。

遺物の出土状況に特徴的なものとして、また縄文時代後期前葉の土器の埋納の可能性のある、小型の土坑P-75・76、榎林式土器が横倒しで埋設してあったP-23を検出した。また、北海道式石冠3点および、扁平打製石器3点が出土したP-33、扁平打製石器1点と扁平打製石器未製品の可能性がある石錘1点が出土したP-42がある。ほかに、形状の違いがあるため、別項を設けた土坑として、柱穴状の小土坑がある。13基検出され、SPの名称を与えた。時期は不明だが、他遺跡の類例と、周辺の包含層遺物出土状況を合わせ見ると縄文時代後期の可能性がある。

焼土は16か所検出した。F-10・11・16の3か所が縄文時代のもので、他の13か所は続縄文時代の可能性が高い。続縄文時代の焼土は上流側の流路部分に多く分布しており、その土中からは現場確認時点でも、焼骨片が多量に観察できた。

「集石」・「配石」・「石組み」といった、礫の集中、配列は大小合わせて6基検出した。縄文時代後期前葉と思われる配石が4基(S-1・2・4・5)検出した。S-1はフラスコ状土坑を伴う石組である。S-2は大型の配石遺構である。扇形の弧の形状をした配列を確認したが、調査区外へ続く。石組炉S-4・5については大型住居・H-14が埋没する過程で設置されたものである。同じ土層からはIV群a類土器がまとまって出土した。S-3・6は縄文時代中~後期のものと考えられる。

**上流側の流路痕跡（A～E-42区より北西側を中心として、Vc・Vd層の解説）：**上流側の流路部分については、平坦面において、縄文時代の焼土がまとまっていた他、縄文時代中期の大型礫を伴う土坑、P-16・17が存在する。P-8・9・10・19・28は明確な時期は不明であるが、縄文時代中期以降の斜面中腹～裾に掘られた土坑である。この地区について特徴的な、竪穴住居H-2下の斜面に堆積する掘り上げ土「Vc層」について記す（図Ⅲ-5）。三次郎川上流側の流路痕跡は、川に向かってC字状に開口している。高位平坦面と低位平坦面を結ぶ斜面の高低差は1mほどである。H-2調査時点でのメインセクション（45ライン）観察で、Ⅷ層に基本土層にはみられない黒色土が混在する土層が斜面下部に堆積することが確かめられた。また、土層観察のため部分的に残したDラインや44ラインのベルトでも「Vc層」様の掘り上げ土が観察され、低位平坦面北側斜面との地形転換点部分に広範に堆積することが確認できた。この層の先端はVb層中で収束し、その上下の黒色土層中には遺物が包含する。斜面上や高位平坦面に位置する遺構の掘り上げ土（P-8・9・10・19・28など）と想定されたが、この時点では包含層調査がかなり進んだ状況であり、近くに位置する遺構の掘り上げ土（H-2のVc層）であると判断したものもある。すべてについて、起因する遺構を明確に捉えることはできなかった。したがってメインセクション近くのD-44・45区でH-2の掘り上げ土を「Vc層」、H-2掘り上げ土下の黒色土を「Vd層」として遺物を取り上げるに留まった。いずれもH-2に関連する名称であり、この地区および遺跡全体を網羅した名称にはならなかった。便宜的名称「Vd層」は、遺構掘り上げ土下にある「Vb層下部」ということになる（図Ⅲ-40・41・P-17の項参照）。

段丘斜面下に堆積するVc層は、この竪穴を含め段丘斜面に位置する遺構掘り上げ土の可能性が高く、このVc層下の包含層「Vb層下部」からは中期前半の土器（図Ⅳ-7-8、図Ⅳ-11-32）が出土する。また、Vc層からはⅢb-1群土器（図Ⅲ-82-H-2-1）も出土していることから、この竪穴は縄文時代中期中葉（Ⅲ群b-1類土器の時期）以降のもので、これに近い時期の可能性がある。（田中）

**掘り上げ土（盛土）：P～T-40～42区掘り上げ土（図Ⅲ-2）についての調査**

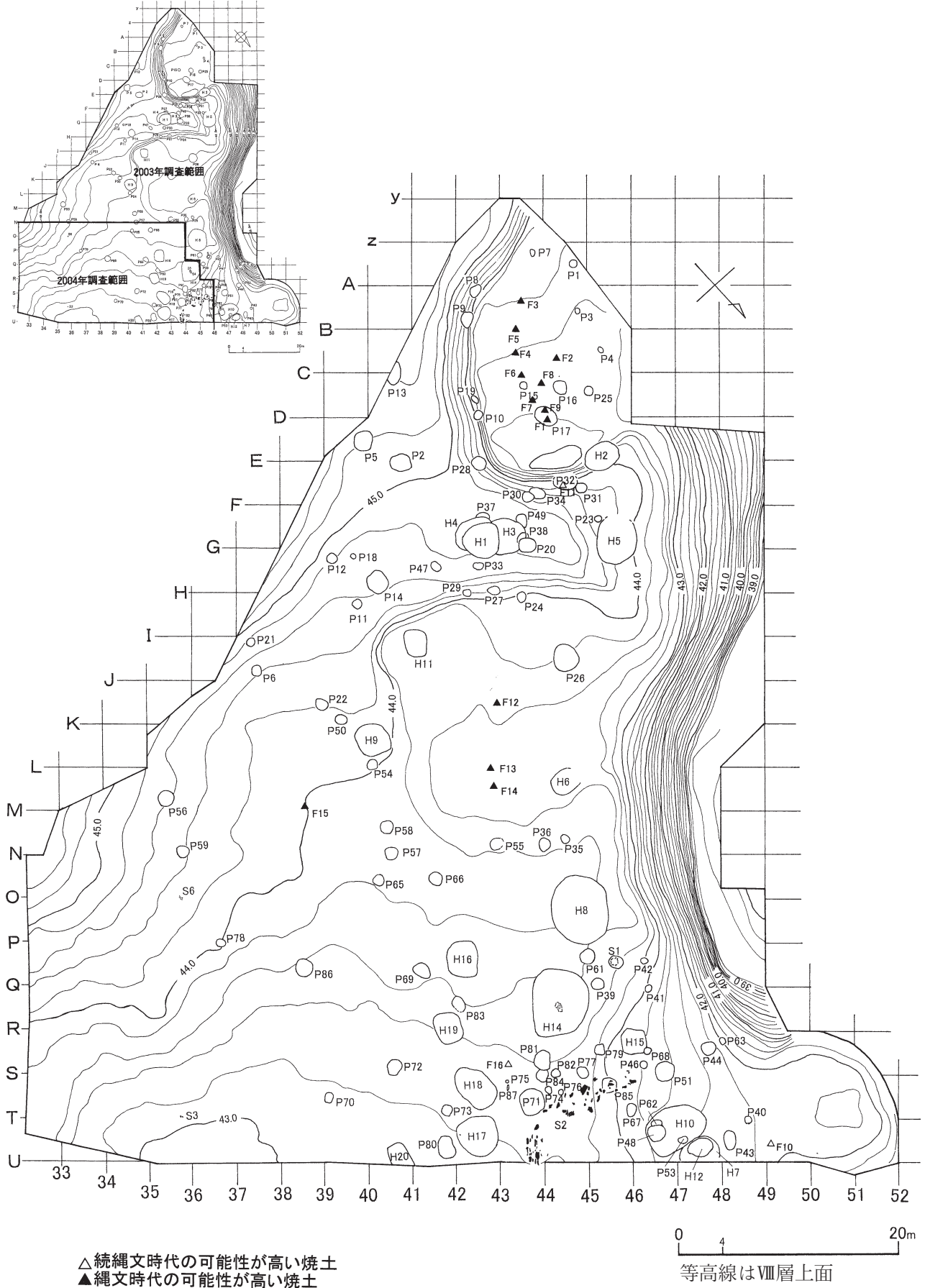
**位置・立地：**P～T-40～42区 確認面における標高43.60～44.10m付近の平坦面

**確認・調査：**包含層調査中、V層上面から2～3回（V2～V3）掘り下げた調査面で、色調が暗褐色を呈しV層と明確に異なる土や、Ⅷ層（Ng）の軽石及び炭化物が混在するものも認められた。V層中に位置する人為的に形成された盛土であろうと考え、土の分布範囲と高さを記録した。盛土は、一部分が開く円形、すなわち「C」字状を呈する部分が多くみられ、その中央部がゆるやかにくぼむ特徴が認められた。その後、調査を進行させていくと、その凹みは住居跡や土坑等であることが判明し、盛土は、これらの遺構を構築する時に生じた「掘り上げ土」と考えられる。また、この部分以外にも掘り上げ土は存在していた可能性がある。

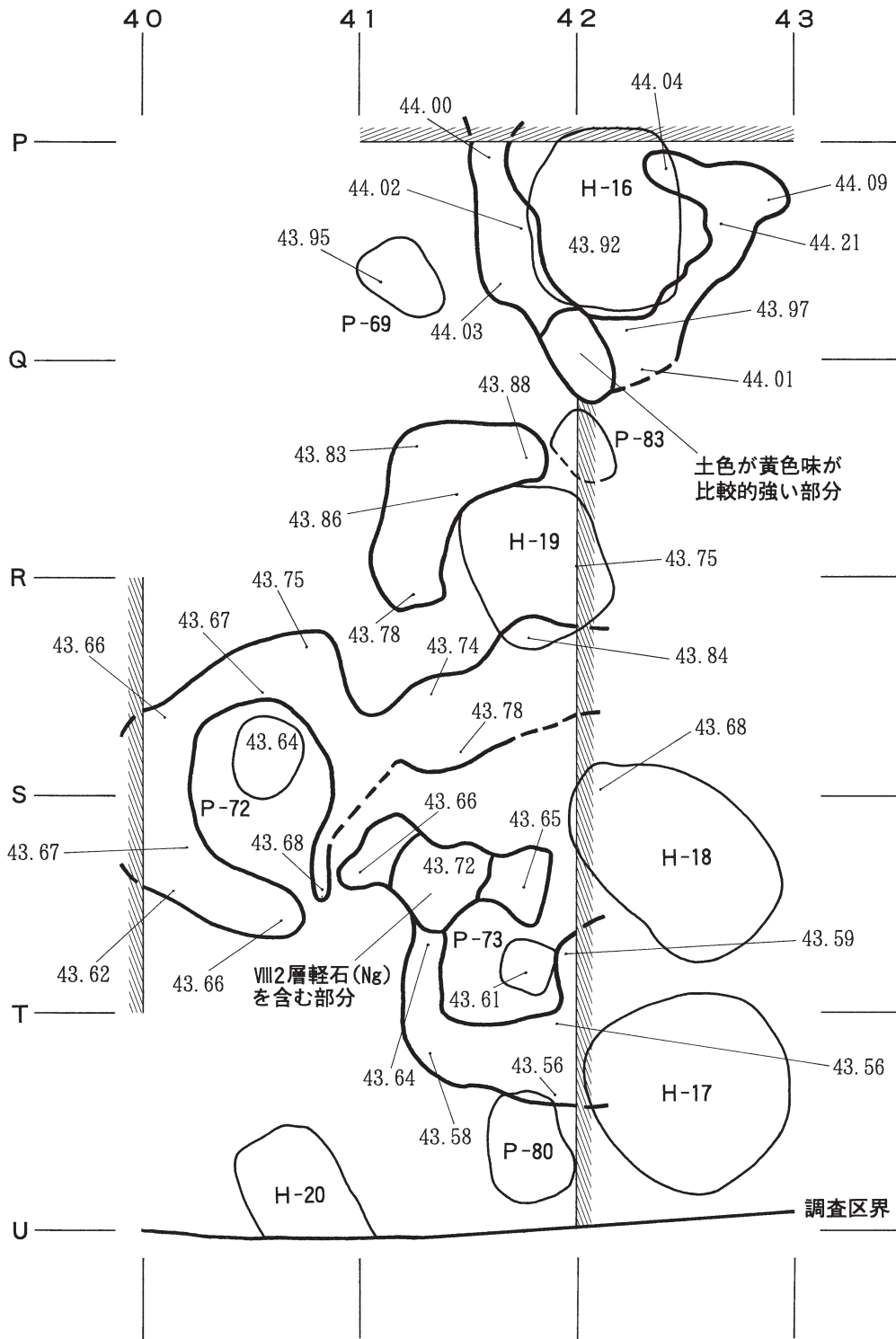
**掘り上げ土（盛土）：**掘り上げ土は、V層より下位の各自然層位が混在し構成される。主体的にみられるものを「a層」、Ⅷ層が混在し、黄色の色調を帯びるものを「b層」、そして、Ⅷ2層の軽石（Ng）を含むものを「c層」とした。後二者は、部分的に認められる層である。

**遺物出土状況：**土器、石器が多量に出土した。包含層調査の流れの中で、掘り上げ土の調査を行ったので、出土遺物は、出土地点は「グリッド名」を、層位は「掘り上げ土」と記録して取り上げ、包含層の遺物として扱った。

**時期：**これら掘り上げ土を、付随する遺構ごとに分類・特定できれば、詳細な時期を知ることは理屈上可能であるが、遺構が近接する部分では、その帰属を厳密に特定することはできない。概ね縄文時代中期～後期であると判断できる。（末光）



図Ⅲ-1 遺構配置図



P~T-40~42区掘り上げ土		V a 下位~V b 層上面 平均的な層厚10~15cm程度									
断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)			礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考
				野外土性	全体的な色調 色名	粘着性 マンセル値色名	堅密度	種類	混在割合 %	種類	
*	掘り上げ土	a層	V > VI > VII	植壤土 (黒褐色)	中~強	堅	無	炭化物	少量	主体的な掘り上げ土	
*		b層	V > VII 1 > VI + VII	植壤土 (暗黄褐色)	中~強	堅	無	炭化物	少量	a層に比べ黄色調帯びる	
*		c層	V > VII > VI + VII	植壤土~ 砂壤土	中~強	堅	VII 2 (Ng) 軽石	10%	無	VII 2層軽石混入	

図 III - 2 P ~ T - 40 ~ 42 区掘り上げ土



## (2) 住居

住居はすべて竪穴住居であり19軒検出した。高位の平坦面に立地するものが多い。縄文時代中期の可能性があるH-1～5・8・9・11・12・14～16・19・20と、後期前葉の可能性のあるH-6・7・10・17・18である。

中期の前半と思われるものについてはベンチ構造を持つ大型のH-8・14と小型のH-20、壁際に溝が検出されたH-11・12が特徴的である。H-8・14は形状がよく似た住居が並んでおり、縄文時代中期前半の住居と考えられる。いずれも埋まりきる前の窪みにまとまったⅣ群a類土器の出土があった。H-14にはS-4・5といった後期前葉と考えられる、生活痕跡も存在する。H-11・12については、平面形が長楕円の浅い土坑が連続して溝を構成する。同様の溝はH-14のベンチ内側にも存在する。H-11が埋まりきった上部には円筒上層c式が複数個体まとまって廃棄されていた。中期後半と考えられるものは、埋甕炉を持つH-1・5・9、類似する平面形で中央に地焼炉を持つH-16・19が特徴的であり、H-15についても遺物出土状況からこの時期のものと判断した。H-1・5・9は埋甕炉を床面のほぼ中央に持つものである。埋甕を持つ住居はちょうど流路痕跡を巡るような位置関係にある。H-1については切りあうH-3・4の中央をさらに掘り込んでいる。H-3・4は円筒上層b～d式の住居が切り合っている可能性がある。H-4床面から北海道式石冠が3点並んで出土している。H-19は焼失家屋である。H-2は土層断面により縄文時代中期以降のもので、掘り上げ土の排出があった可能性を持つ。

後期前葉の可能性のあるものとしては、掘り込みの浅いH-7・10、掘り込みが浅く石組み炉を持つH-17・18がある。また、これらの掘り込みの浅い住居は調査区の下流側に並んで確認されており分布域がまとまりを持つ。さらに調査区域外にひろがる可能性がある。

H-1 (図Ⅲ-3・4・82・116・124、表1・2・9・14、図版4・5)

位置・立地：F・G-42区 標高44.80～45.00mの平坦面

規模：3.38×3.18/3.00×2.78/0.64m

確認・調査：Ko-d除去後、Ⅲ層上面において直径3mほどの円形をした凹みを検出した。遺構を想定して土層観察用の土手を残して掘り下げた。床面を検出した段階で竪穴住居であることを確認した。通常、検出した凹みに比べて下の遺構掘り込みの規模に差はなかった。凹みの中央には鉄分が酸化したものか赤色化した土(覆土3層)が堆積していた。

覆土：覆土1・7層はⅧ層土が混じったⅤ層土である。掘り上げ土の再流入、あるいは土葺き屋根の崩落といった可能性がある。7層は覆土1層に黒色土が混じったものである。7層は流入した時が1層と異なるものである。2・4・6層は1層と同じ性質のものとする。2層はⅧ層主体土であり壁面の崩落の可能性はある。先述の3層は酸化の原因は不明である。小粒径の小石が多く混在している。土中の鉄分が水による作用で酸化した可能性と、人が火を焚いた可能性があった。住居埋没後の人為的行為の可能性があった焼土HF-1として範囲を示した。5層はH-3のHF-1の焼土部分が流入したものである。掘り込み面はⅥ層の上面である。

形態：平面形が隅丸の五角形である。不整な形状で、船形を思わせる。床面はほぼ平坦である。

付属遺構：壁際、床面に斜めに柱が打ち込まれた痕跡がある。長軸をやや北側に振った直線上に3基の土壇が並ぶ。HP-13は船形をした形状の先端に位置する。暗褐色のしまりのない覆土であった。中央に近いところに2基が並ぶ。

HP-2としたものはⅢ群b-2類の深鉢が頸部から上と底部について打ち欠かれて埋設されてい



る。土器を収めるにあたり堅いⅧ層を無駄なく適切な大きさに掘り込む。内部の土はⅧ層主体の土に黒色土が微量に混じたものであり、上部は酸化して赤色化している。焼成によるものとする。HP-1としたものは黒色土主体の覆土であり、流入の可能性がある。中央にはこの2基に加えて小型の土坑が3基ある。HP-3は酸化して赤色化した土が覆土である。

**遺物出土状況：**床面から大安在B式の埋甕炉（図Ⅲ-4-90・Ⅲ-82-1）が出土している。床面から、廃棄されたのか、埋甕と同時期と思われる沈線文を持たない縄文地文の土器が2点出土している。いずれも小型である。ひとつは鉢型の器形で、片口を思わせる凹みを口縁部を持つ（図Ⅲ-4-69、Ⅲ-82-3）。もうひとつはミニチュアに近いもの（図Ⅲ-4-75、Ⅲ-82-2）である。

**時期：**出土遺物と形態から縄文時代中期中葉、Ⅲ群b-2類土器の時期と考えられる。（大泰司）

**フローテーション成果：**住居埋没直後の焼土HF-1の焼土部分および、埋甕炉として用いられていたHP-2埋設土器内部の土をフローテーション法にて処理した。その結果、HF-1について、焼骨片群、炭化種子を検出した。焼骨片はシカを主体とする獣骨に魚類の骨が混じる。獣骨には種類は不明だが、中型獣と鳥類の骨片が混じる。魚類の骨のうち種類が判ったものは鮭のみである。炭化種子はニワトコ属・ブドウ科・クリ属・クルミ属・同定不能のものである。加えて酸化したアカザ属・マタビ属が検出された。また、人工遺物として2点の焼成粘土塊を検出した。

土器の中の土については、焼骨片群、炭化種子を検出した。焼骨片は獣骨に魚類の骨が混じる。獣骨の種類は不明だが、中型獣または鳥類のものである。魚類の骨も種類不明である。炭化種子は同定不能のものに加え、種類不明の冬芽を1点検出した。（詳細はV章1・2）

H-2（図Ⅲ-5・82・116、表1・2・9・14、図版6）

**位置・立地：**D・E-44・45区 標高43.20~44.00mの南向き段丘斜面

**規模：**3.22×2.98/2.38×2.13/0.68m

**確認・調査：**各調査区の包含層調査が順次進んだ段階で、45ラインの基本土層の確認をしたところ、E-45杭を中心に黒色土の落ち込みが確認でき、遺構の存在が想定された。段丘斜面地であったこともありD-45区はかなり掘り下げた段階であったが、E-45区に汚れた黒色土の輪郭が弧状に残っていた。D・E-45区について再度精査をおこなった結果、褐色土の覆土の範囲が捉えられた。

順次土層観察をおこないながら掘り下げたところ、平坦な地盤面と壁の立ち上がりが確認でき、竪穴の規模から考え住居跡と判断した。竪穴床面では東側に堅くしめる範囲が確認できたほかは、焼土などはない。床面を掘り下げ確認に努めたが柱穴などの付属施設は検出できなかった。

遺構周辺の状況としては、竪穴下の斜面に掘り上げ土「Vc層」が堆積していた。住居より斜面下の低位平坦面は、三次郎川上流側の流路痕跡であり、川に向かってC字状に開口する。高位平坦面との比高差は1mほどある。H-2調査時点でのメインセクション（45ライン）観察で、基本土層にはみられないⅧ層に黒色土が混在する土層が斜面下部に堆積することが確かめた。この層の先端はVb層中で収束し、その上下の黒色土層中には遺物が包含する。メインセクション近くのD-44・45区では、H-2を意識し、掘り上げ土をVc層、その下位の黒色土をVd層として遺物を取り上げた。「Vd層」もH-2掘り上げ土下位の意味である。

この流路痕の低位平坦面の斜面裾側には、「Vc層」と類似した、掘り上げ土層が分布していた。その下にはやはり黒色土の遺物包含層がある。しかしH-2の場合と異なり、すべてについてその起因する遺構がわからず、その性格に共通項を定義できなかった。掘り上げ土を「Vc層」、その下位の黒色土を「Vd層」としてこの地区を網羅した名称として調査を行う予定であったが、できなかった。

Vd層は遺構掘り上げ土下にある「Vb層下部」ということになる。

**覆土：**上位が黒色土を主体とする（覆土1～3）。壁際には黒色土を主体とするもの（覆土4・5）と黒色土の混じりが少ない褐色～黄褐色土のもの（覆土6～9）がある。前者が竪穴南西側に厚く堆積し、片寄りをみせる。床面近くでは黒色土の薄層（覆土10）がみられ、部分的に黄褐色土（覆土11）がある。

**形態：**平面形は楕円形で、長軸に平行する壁は直線的で隅丸の長方形に近い。確認できた壁の立ち上がりは、斜面上方側が直立に近く、斜面下方側がやや開く形態である。

**付属施設：**明確なものは確認できなかった。

**遺物出土状況：**遺物は竪穴南側の床面から礫1点が出土したほかは、すべては覆土出土である。礫の近くで出土したメノウ製フレイク以外は、住居の壁近くで出土するものが多い。

**時期：**明確な時期を判断できる床面出土の遺物はない。ただし、上記のとおり段丘斜面下に堆積するVc層は、この竪穴を含め段丘斜面に位置する遺構掘り上げ土の可能性が強く、このVc層下の包含層「Vb層下部」からはⅢ群a類土器（図Ⅳ-7-8、図Ⅳ-11-32）が出土する。また、Vc層からはⅢ群b-1類土器（図Ⅲ-82-H-2-1）も出土していることから、この竪穴は縄文時代中期（Ⅲ群b-1類期）以降のもので、これに近い時期の可能性が強いと考えられる。（田中）

H-3（図Ⅲ-6・7・8・83・116・124、表1・2・9・14、図版7・8）

**位置・立地：**F・G-42・43区 標高44.80～45.00mの平坦面

**規模：**(2.42)×3.30/(2.08)×2.92/0.36m

**確認・調査：**H-1を調査終了後、VI層上位において、H-1が褐色土の落ち込みの中に構築されている事がわかった。大型の竪穴住居跡の中に入れ子状にH-1が構築されていたものと想定し、土層観察用の土手を残して掘り下げた。床面と壁面を検出した段階で褐色土の落ち込みは2軒の住居が切り合っていることが判明した。北西側をH-3、南西側をH-4とした。H-4はH-3より新しい。

**覆土：**覆土はⅧ層を主体として、黒色土が斑状に混じる。2層はやや砂質である。掘りあげ土が再流入したか、土葺き屋根が崩落した可能性がある。掘り込み面は検出面とほぼ同じか、より上である。覆土を面的に掘り下げたところ、焼土HF-2～5を検出した。またCa1～3とした炭化物のまとまりを3か所検出した。これらの焼土は南西に向かってなだらかに傾斜する床面に対して、5cm前後高いレベルで面的に広がる可能性が高い。炭化物も焼土形成時に関係する可能性があるが、土層観察用の断面部において、焼土と炭化物をひとつの面として観察できなかった。

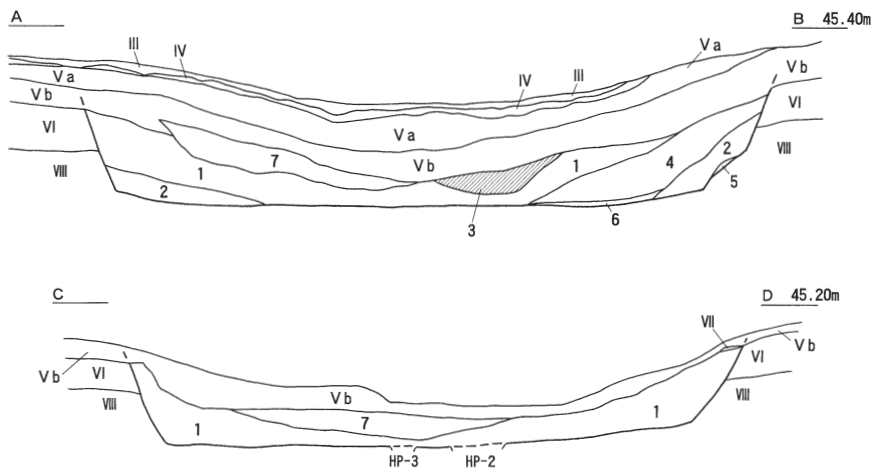
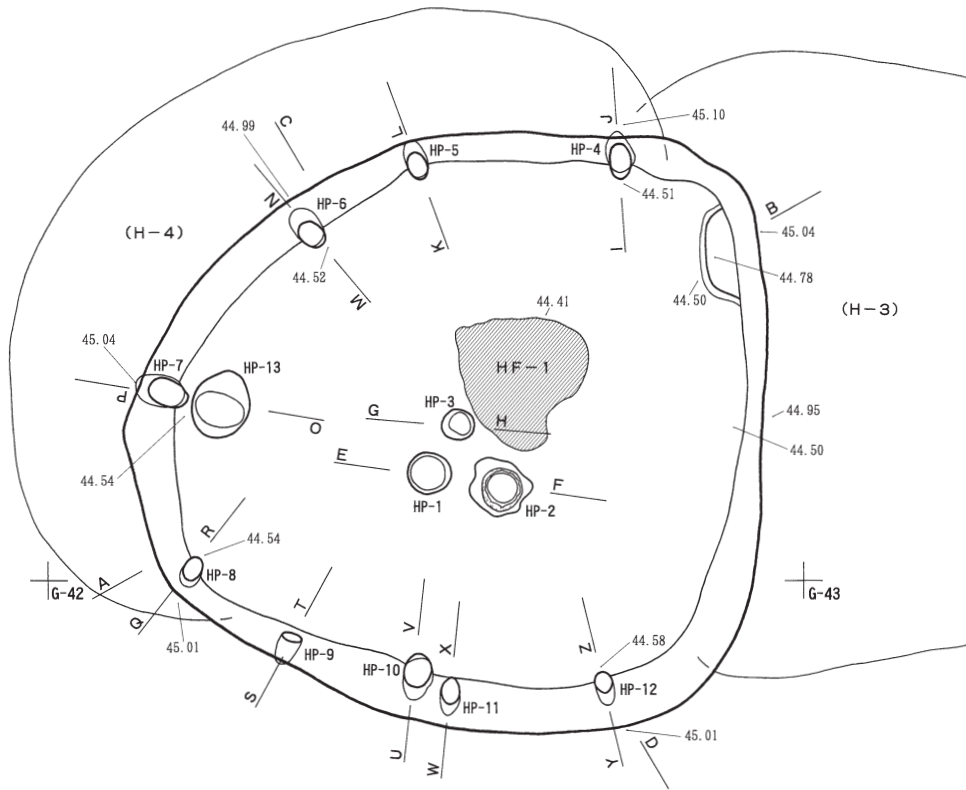
**形態：**残存する部分から判断すると、平面形が台形気味の隅丸方形と思われる。床面は平坦である。

**付属遺構：**残存する部分について、北西隅のHP-1と、北壁よりやや中央にあるHP-3が明瞭な柱穴として確認できた。HP-2・4については、HP-3と組み合うものと想定すると、地焼炉と考えられるHF-1を取り囲むような位置に配されている。

**遺物出土状況：**床面直上およびHP-2そして覆土1層の下位から扁平打製石器が1点ずつ、床面直上およびHP-4そして覆土1層の下位からそれぞれⅢ群a類土器が出土している覆土1層からは主に出土した土器はⅢ群a類土器である。図Ⅲ-8-22脇に図示されている土器はP-38に属する土器（図Ⅲ-103-1）である。

**時期：**遺物出土状況から、縄文時代中期前半と考える。H-1・4より古い。（大泰司）

**フローテーション成果：**住居に伴う地焼炉HF-1および、HF-1がH-1に流入したと考えられるH-1覆土5層の焼土部分、覆土中に面的に広がる焼土HF-3～5について、それぞれの焼土部分、

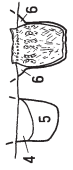


断面図		H-1		砂・粘土・シルト (長径2mm未満)		礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考		
番号	層位名称	主体層	混在層	野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %		種類	混在量
1	覆土1	*		壤土	極暗褐色 7.5YR2/2	*	軟	黄褐色軽石	25	*	*	掘り上げ土の流入?
2	覆土2	VII	主体	壤土	黄褐色 10YR5/6	*	軟	?	?	*	*	掘り上げ土の流入?
3	覆土3	焼土		壤土	明赤褐色 5YR5/8	*	堅	礫	25	*	*	HF-1
4	覆土4	黒色土の埋積物からなる厚土2層		壤土	黄褐色 10YR5/6	*	軟	?	?	*	*	
5	覆土5	(焼土)		壤土	明赤褐色 5YR5/8	*	軟	*	*	*	*	H-3・HP-1の流入
6	覆土6	*		壤土	黒色 10B1/1	*	軟	*	*	*	*	
7	覆土7	(覆土1にVbが混じる)		壤土	黒褐色 7.5YR3/1	*	軟	*	*	*	*	
H-1・HP-2(埋積)												
8	覆土	*		壤土	黒色 10YR2/1	*	やや軟	*	*	*	*	
H-1・HP-1												
4	覆土	*		壤土	褐灰色 10YR4/1(明7.6)		軟	軽石	1	*	*	
5	覆土	*		壤土	黒褐色 10YR3/1(明7.4)		軟	軽石	1	*	*	
H-1・HP-3												
3	覆土	*		壤土	赤黒色 2.5YR2/1	*	軟	軽石	5	*	*	
H-1・HP-4・5・6・7・8・9・12												
2	覆土	*		砂壤土	灰色明褐色 10YR4/3	*	軟	*	*	*	*	
H-1・HP-6・7・10・11												
2	覆土	*		砂壤土	灰色明褐色 10YR4/3	*	軟	*	*	*	*	やや黒色味強い



図III-3 H-1(1)

E HP-1 HP-2 F 44.60m



G HP-3 H 44.60m I HP-4 J 45.20m



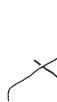
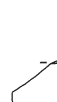
K HP-5 L 45.10m M HP-6 N 45.10m



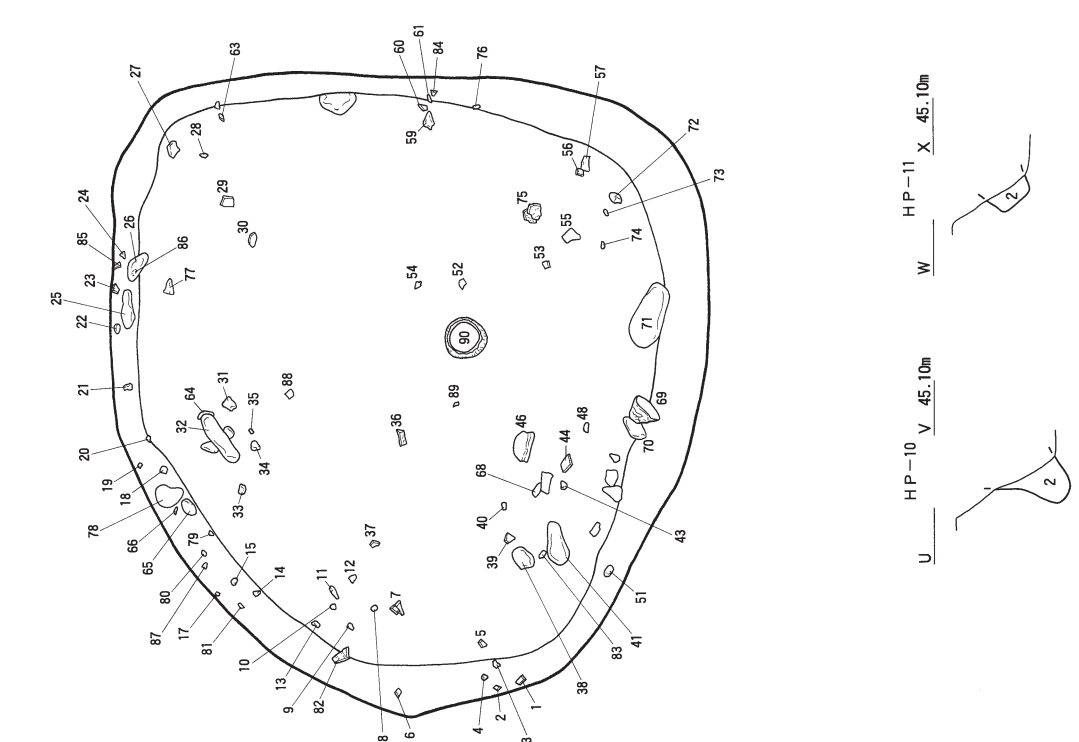
Q HP-8 R 45.10m S HP-9 T 45.10m



U HP-10 V 45.10m W HP-11 X 45.10m



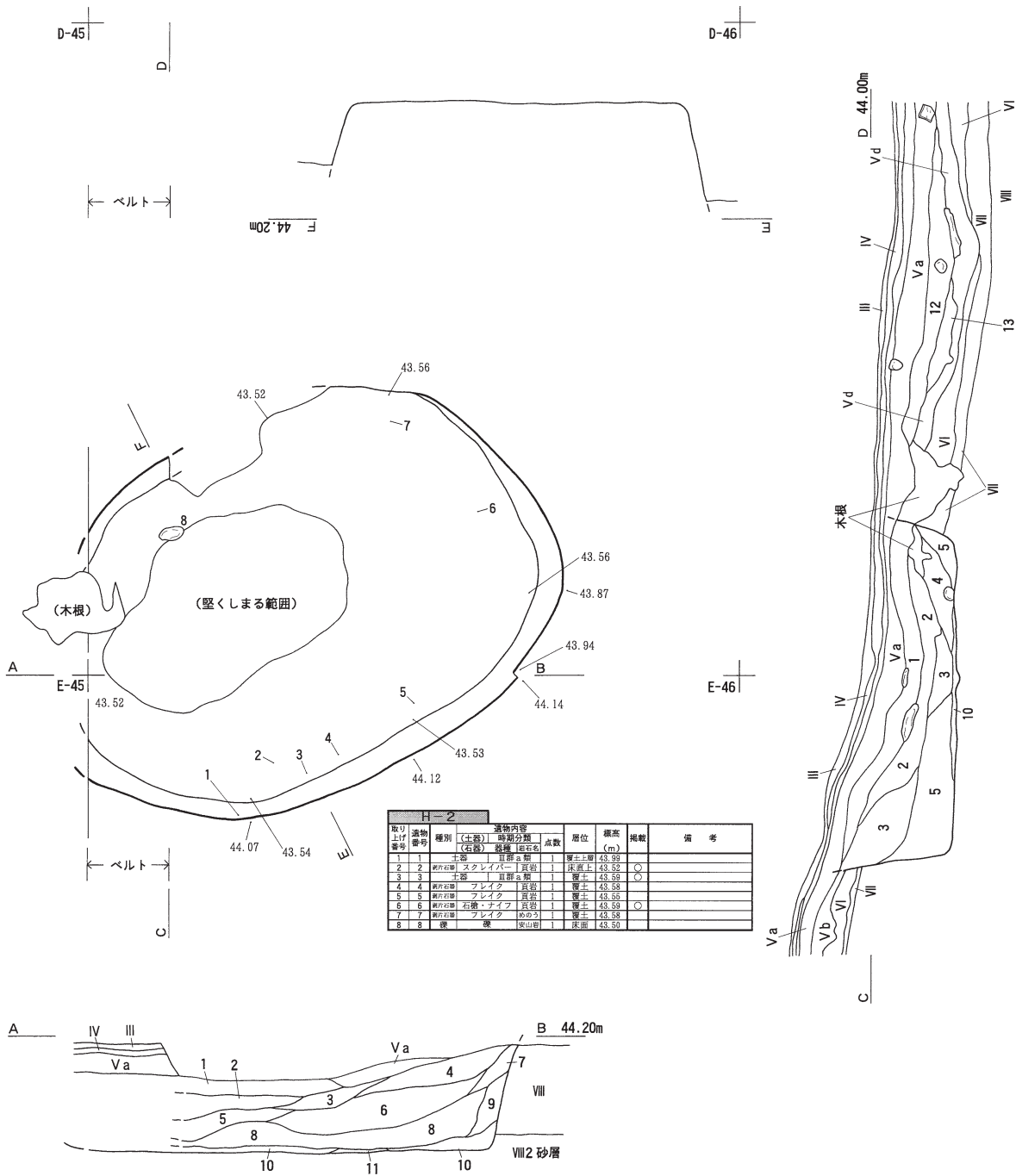
Y HP-12 Z 45.10m O HP-13 HP-7 P 45.10m



発見番号	遺構	形状	面積	高さ	備考
1	土器	土器	44.54	○	
2	土器	土器	44.54	○	
3	土器	土器	44.52	○	
4	土器	土器	44.53	○	
5	土器	土器	44.53	○	
6	土器	土器	44.53	○	
7	土器	土器	44.53	○	
8	土器	土器	44.53	○	
9	土器	土器	44.53	○	
10	土器	土器	44.53	○	
11	土器	土器	44.53	○	
12	土器	土器	44.53	○	
13	土器	土器	44.53	○	
14	土器	土器	44.53	○	
15	土器	土器	44.53	○	
16	土器	土器	44.53	○	
17	土器	土器	44.53	○	
18	土器	土器	44.53	○	
19	土器	土器	44.53	○	
20	土器	土器	44.53	○	
21	土器	土器	44.53	○	
22	土器	土器	44.53	○	
23	土器	土器	44.53	○	
24	土器	土器	44.53	○	
25	土器	土器	44.53	○	
26	土器	土器	44.53	○	
27	土器	土器	44.53	○	
28	土器	土器	44.53	○	
29	土器	土器	44.53	○	
30	土器	土器	44.53	○	
31	土器	土器	44.53	○	
32	土器	土器	44.53	○	
33	土器	土器	44.53	○	
34	土器	土器	44.53	○	
35	土器	土器	44.53	○	
36	土器	土器	44.53	○	
37	土器	土器	44.53	○	
38	土器	土器	44.53	○	
39	土器	土器	44.53	○	
40	土器	土器	44.53	○	
41	土器	土器	44.53	○	
42	土器	土器	44.53	○	
43	土器	土器	44.53	○	
44	土器	土器	44.53	○	
45	土器	土器	44.53	○	
46	土器	土器	44.53	○	
47	土器	土器	44.53	○	
48	土器	土器	44.53	○	
49	土器	土器	44.53	○	
50	土器	土器	44.53	○	
51	土器	土器	44.53	○	
52	土器	土器	44.53	○	
53	土器	土器	44.53	○	
54	土器	土器	44.53	○	
55	土器	土器	44.53	○	
56	土器	土器	44.53	○	
57	土器	土器	44.53	○	
58	土器	土器	44.53	○	
59	土器	土器	44.53	○	
60	土器	土器	44.53	○	
61	土器	土器	44.53	○	
62	土器	土器	44.53	○	
63	土器	土器	44.53	○	
64	土器	土器	44.53	○	
65	土器	土器	44.53	○	
66	土器	土器	44.53	○	
67	土器	土器	44.53	○	
68	土器	土器	44.53	○	
69	土器	土器	44.53	○	
70	土器	土器	44.53	○	
71	土器	土器	44.53	○	
72	土器	土器	44.53	○	
73	土器	土器	44.53	○	
74	土器	土器	44.53	○	
75	土器	土器	44.53	○	
76	土器	土器	44.53	○	
77	土器	土器	44.53	○	
78	土器	土器	44.53	○	
79	土器	土器	44.53	○	
80	土器	土器	44.53	○	
81	土器	土器	44.53	○	
82	土器	土器	44.53	○	
83	土器	土器	44.53	○	
84	土器	土器	44.53	○	
85	土器	土器	44.53	○	
86	土器	土器	44.53	○	
87	土器	土器	44.53	○	
88	土器	土器	44.53	○	
89	土器	土器	44.53	○	
90	土器	土器	44.53	○	



図III-4 H-1(2)



取り上げ番号	種別	(土器) 時期分類	遺物内容	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
1	土器	前期古墳	土器		覆土上層	43.92		
2	銅器	スクレイパー	瓦器		床面上	43.52	○	
3	土器	前期古墳	土器		覆土	43.58	○	
4	銅器	フレイク	瓦器		覆土	43.58		
5	銅器	フレイク	瓦器		覆土	43.55		
6	銅器	石磨・ナイフ	瓦器		覆土	43.58	○	
7	銅器	フレイク	砂		覆土	43.58		
8	鏝	鏝	塚山前		床面	43.50		

断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)			礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考
				野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類	
1	覆土1	*	*	*	黒褐色 10YR2/3	*	*	*	*	*	
2	覆土2	*	*	*	黒色 10Y1.7/1	*	*	*	*	*	
3	覆土3		(V多量に混じる)	*	暗赤褐色 5YR3/2	*	*	*	*	*	
4	覆土4	V	主体	*	赤褐色 10R2/1	*	*	*	*	*	
5	覆土5	*	*	*	黒褐色 7.5YR3/2 暗赤褐色 5YR3/6	*	*	*	*	*	堅穴中央部ほど赤色増す
6	覆土6		(V混じる)	*	黒褐色 10YR4/3	*	*	*	*	*	
7	覆土7	*	*	*	暗赤褐色 10YR4/6	*	*	*	*	*	
8	覆土8	*	*	*	褐色 10YR4/4	*	*	*	*	*	
9	覆土9	*	*	*	黄褐色 10YR5/6	*	*	*	*	*	
10	覆土10	*	*	*	黒色 10YR2/1	*	*	*	*	*	
11	覆土11	*	*	*	黄褐色 10YR5/6	*	*	*	*	*	
掘り上げ土											
12	掘り上げ土1	*	*	*	黒褐色 7.5YR3/2	*	*	*	軽石	?	これより下位のV層を「Vd」と呼称
13	掘り上げ土2		(V混じる)	*	暗赤褐色 10YR6/6	*	*	*	*	*	



図III-5 H-2



およびそれらに伴うと考えられる炭化物Ca 1～3を周辺の土ごとあげたもの、これらをそれぞれフローテーション法にて処理した。その結果、HF-1・4・5 およびCa 1関連の資料から炭化種子の検出があった。HF-1からは同定不能のものを1点検出した。HF-4からは同定不能のものを2点検出した。HF-5からはクルミ属を2点検出した。Ca 1から炭化種子はクルミ属を19点検出した。(詳細はV章2)

H-4 (図III-6・7・8・83・117・125、表1・2・9・14、図版8)

位置・立地：F-41・42区、G-42区 標高44.80～45.00mの平坦面

規模：3.88×(0.80)/3.44×(0.48)/0.26m

確認・調査：H-1を調査終了後、VI層上位において、H-1が褐色土の落ち込みの中に構築されている事がわかった。大型の竪穴住居跡の中に入れ子状にH-1が構築されていたものと想定して、土層観察用の土手を残して掘り下げた。床面と壁面を検出した段階で褐色土の落ち込みは2軒の住居が切り合っていることが明らかとなった。北西側をH-3、南西側をH-4とした。H-4はH-3より新しい。

覆土：覆土はV～VIII層が混じった土である。掘りあげ土が再流入したか、土葺き屋根が崩落した可能性がある。掘り込み面は検出面とほぼ同じか、より上である。

形態：残存する部分から判断すると、平面形が楕円形をした形状と思われる。床面はほぼ平坦であったと考える。

付属遺構：残存する部分について、HP-1～4が壁際に並ぶようにある。柱穴の可能性はある。

遺物出土状況：壁面に接して、扁平打製石器が1点(図III-8-2・III-125-7)、床面直上には3点の北海道式石冠(図III-8-21・III-125-10/III-8-23・III-125-9/III-8-24)が並んでいた。覆土1層から出土した土器はIII群a類土器である。

時期：遺物出土状況から、縄文時代中期前半、III群a類土器の時期と考えられる。H-1より古く、H-3より新しい。(大泰司)

H-5 (図III-9・10・84・117・126、表1・2・9・14、図版9)

位置・立地：F・G-45・46区 標高43.80～44.60mの緩斜面

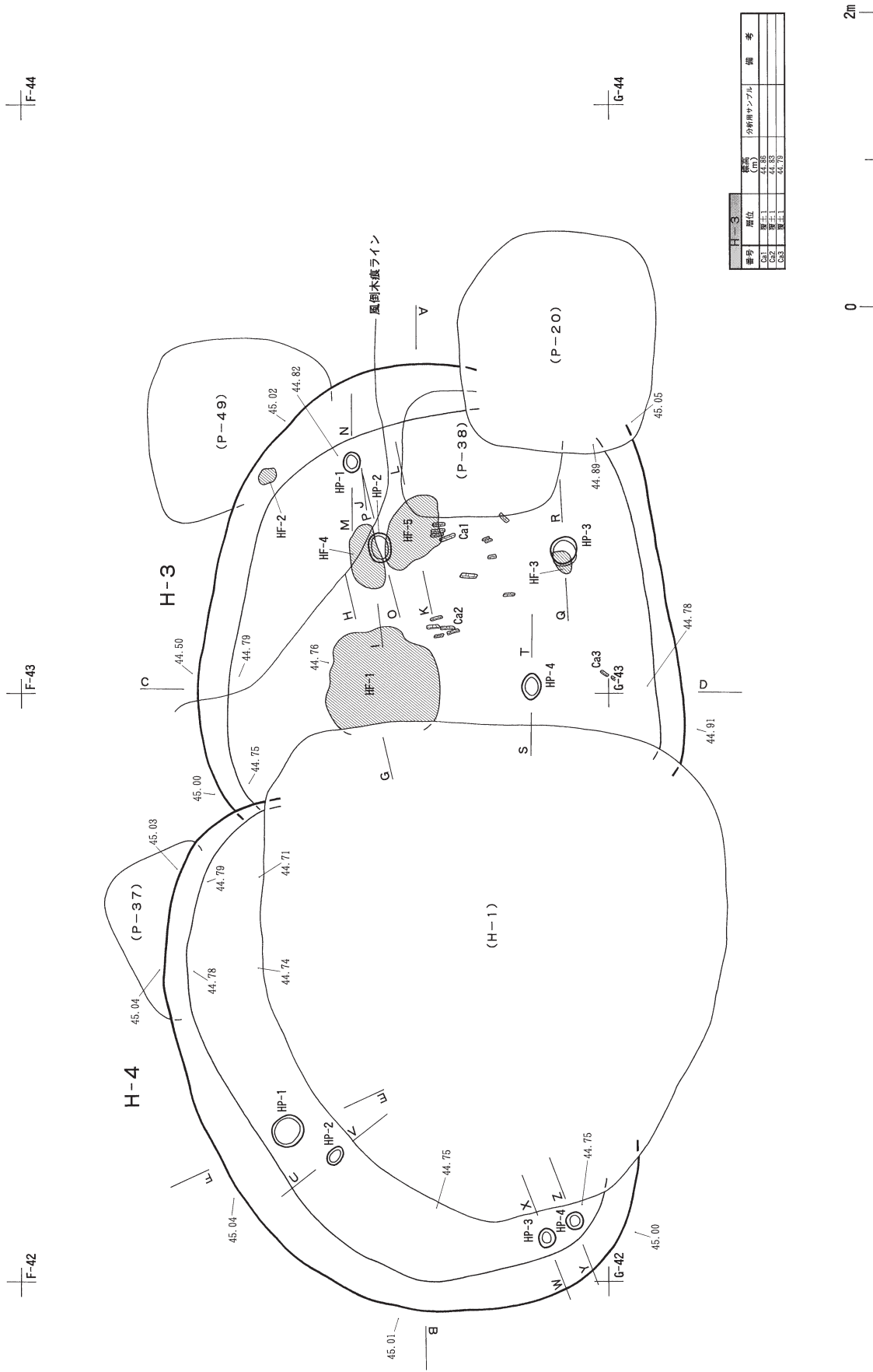
規模：(4.40)×3.48/(4.30)×3.34/0.96m

確認・調査：表土を除去した段階で長軸4mほどの凹みを検出した。風倒木が切り合っており、埋没途中の遺構かどうか判然としなかった。包含層調査がある程度進んだ段階で、遺構を想定して、土層観察用の土手を残して掘り下げた。床面を検出した段階で風倒木に南西端を壊された竪穴住居であることを確認した。

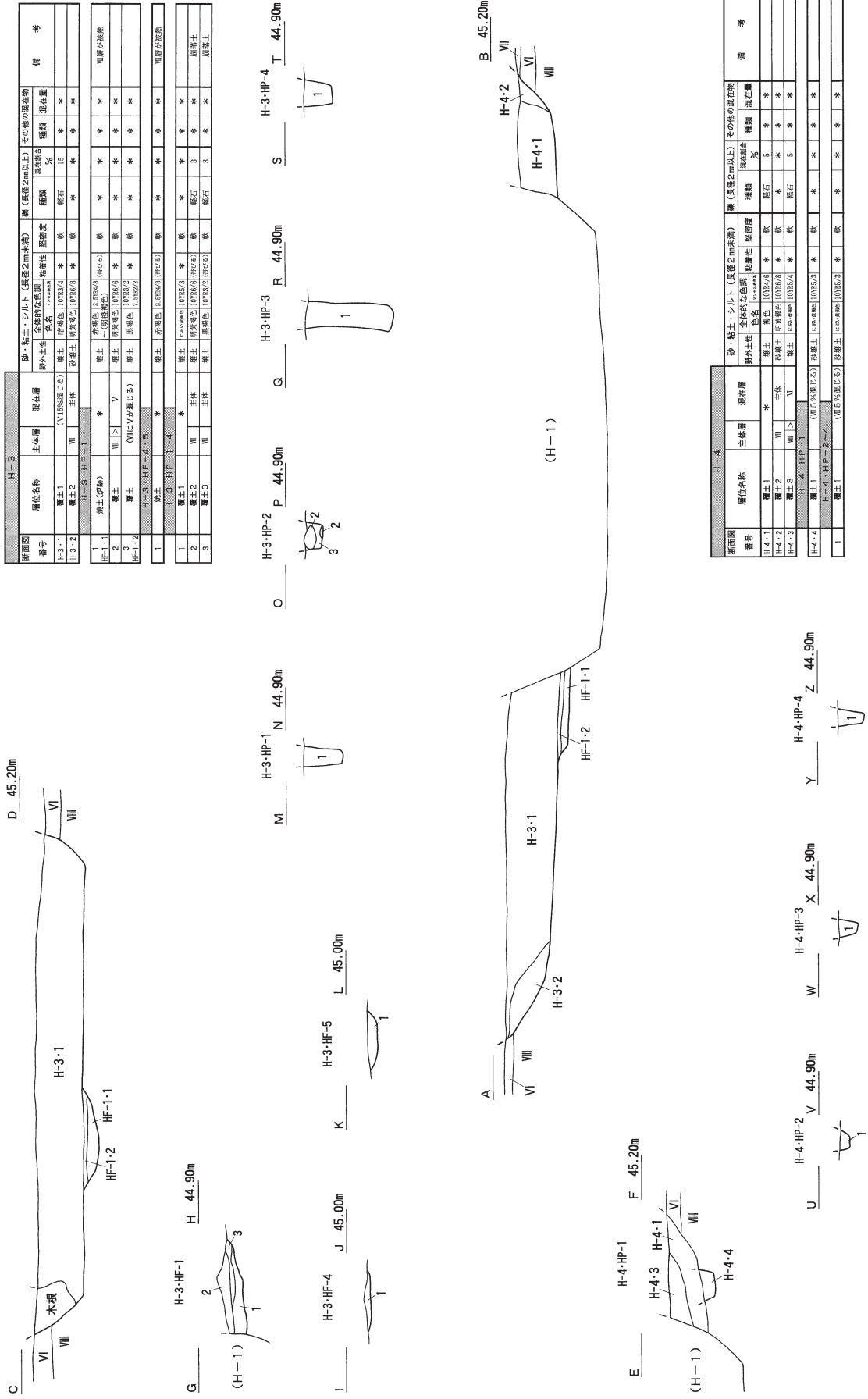
覆土：覆土1層はVb層主体の自然堆積である。6・8・9層はV～VIII層が混じった土である。掘りあげ土の流入ないしは、土葺き屋根が崩落した可能性がある。5層は酸化したマンガンや鉄分と思われる土が混ざり込んでいる。土層の堆積状況から6～10層の埋没後に水の作用によるものか、人為によって焼いたものかは判らなかつた。分布範囲は明確に把握出来なかつた。小石が多く混在しておりH-1においてHF-1としたものも同様の性質のものである。掘り込み面はVI層上面である。覆土中位出土、取り上げ番号26・27(図III-84-2・3)などは覆土7層から出土したものである。

形態：残存する平面形から判断すると、楕円形をした竪穴住居を推定できる。床面はほぼ平坦である。壁は直立気味に立ち上がる。





図III-6 H-3・4(1)



図III-7 H-3・4(2)



**付属遺構：**楕円の長軸上に埋甕炉HP-2とHP-1がある。HP-1については灰黄褐色のⅧ層がグライ化した土が覆土である。柱穴が自然に埋まったと考える。埋甕炉は口縁部から底部まで残存する土器(図Ⅲ-84-1)が埋設されその中で火が焚かれていた。土器を収めるにあたり堅いⅧ層を適切な大きさに無駄なく掘る。

**遺物出土状況：**床面直上からはⅢ群a類土器が出土している。しかし住居に伴う埋甕はⅢ群b類土器である。遺物は、覆土1～5層を覆土上位、覆土4・6・7層を覆土中位、覆土8・9層を覆土下位として取り上げた。G-45-d区にあたる1層の下位に、1413点の自然礫がまとまっていた。便宜上礫集中として取り上げた。人為的に打ち欠いたと思われる土器片(図Ⅲ-84-7左)が混在していた。

**時期：**出土遺物と形態から縄文時代中期後半、Ⅲ群b類土器の時期と考えられる。(大泰司)

**フローテーション成果：**埋甕炉として用いられていたHP-2埋設土器内部の土をフローテーション法にて処理した。その結果、それはシカを主体とする獣骨の焼骨片を検出した。(詳細はV章1)

H-6 (図Ⅲ-11・85、表1・2・9・14、図版10)

**位置・立地：**L-44区 標高43.60～44.00m付近の平坦面

**規模：**(2.20)×1.90/(1.86)×1.84/0.42m

**確認・調査：**Ⅷ層まで下げたところ、Ⅴ層が2mほどの範囲で落ち込んでいるのを検出した。土層観察用のベルトを十字に残し、黒色土を下げたところ、平坦な床面と明瞭に立ち上がる壁を検出し、住居跡と判断した。

**覆土：**覆土は23層に分けた。1～3層はⅤa、Ⅴb層の自然堆積である。その他の層は堅くしまっており、全体に濁川の軽石粒が混入する。Ⅴ～Ⅷ層が複雑に混在した埋め戻し土の可能性ある。掘り込み面はⅤ～Ⅵ層中であろう。

**形態：**平面は隅丸台形、あるいは楕円形と思われるが、西側4分の1を風倒木に切られており、全体の形状は不明である。床面は水平・平坦である。

**遺物出土状況：**覆土から、縄文時代後期前葉の土器片が2点、フレイクが1点、礫が11点、床面から礫が1点出土している。

**時期：**埋め戻しである覆土10層から後期前葉の土器(図Ⅲ-85-1)が出土している。また周辺の包含層遺物出土状況を踏まえると後期前葉の可能性ある。(新家)

H-7 (図Ⅲ-11・85・123・141、表1・2・9・14、図版11)

**位置・立地：**T-47区 調査区北側(海側)、標高42.60～43.00m付近の平坦面

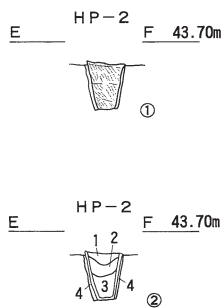
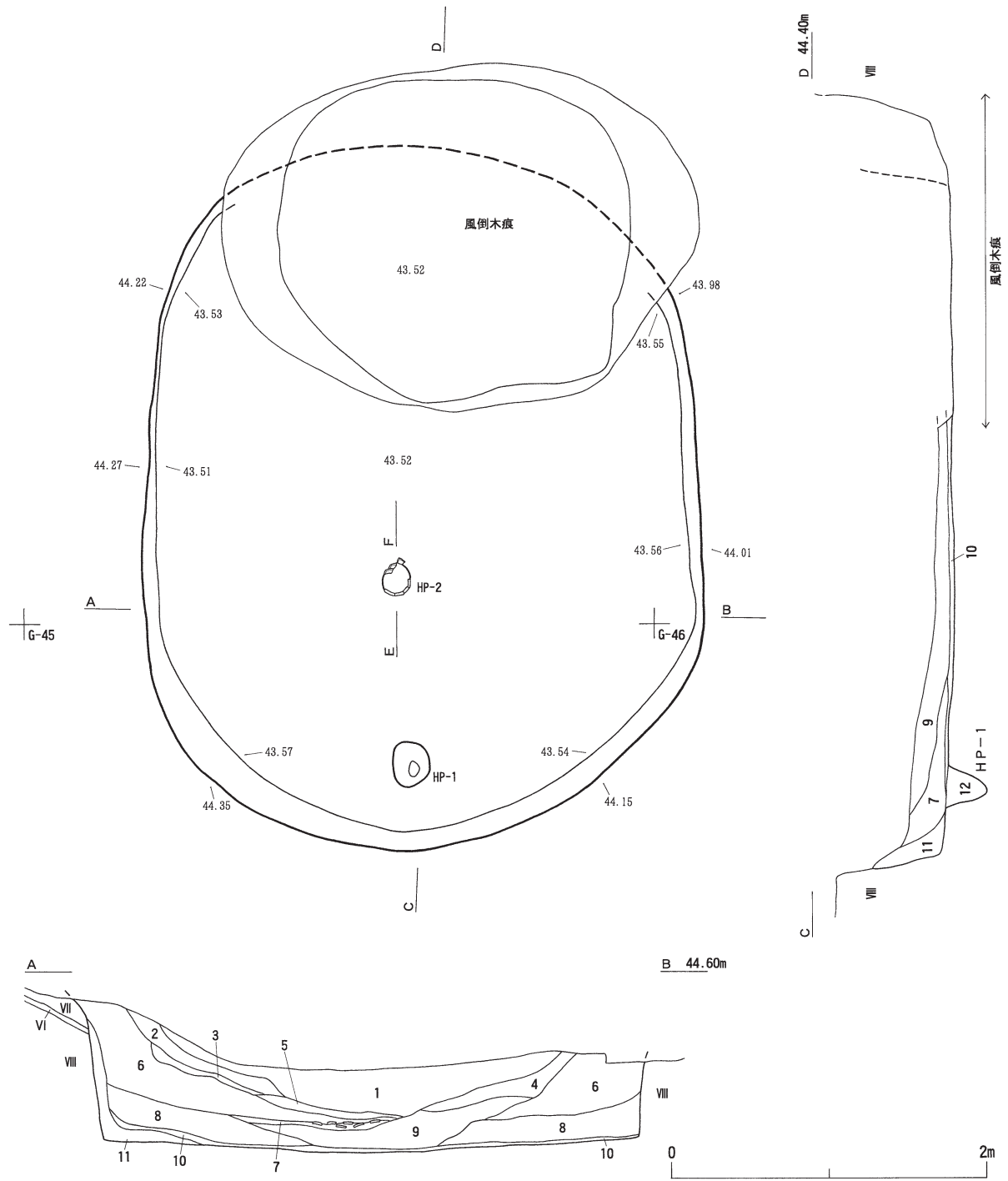
**規模：**(3.74)×(1.94)/(3.30)×1.68/0.33m

**確認・調査：**Ⅴb層調査中、北東側の調査範囲外に続く長さ3m余りの黒色土の落ち込みを検出。調査範囲外の壁に直交するように、断面観察用のベルトを残し、黒色土を下げたところ、平坦な床面と明瞭な壁の立ち上がりが見られ、住居跡と判断した。また南西側が風倒木により壊されていることもわかった。

**覆土：**覆土は3層に分けた。1・2層はⅤ、Ⅷ層起源の埋め戻し土、3層は堅くしまっており、生活面の可能性ある。

**形態：**平面は楕円形に近いと思われるが、調査区外に続き、また風倒木の攪乱を受けており、全容は不明である。

**遺物出土状況：**床面に近い覆土から、土器片や礫が一面に散在して出土した。また、縄文時代後期前

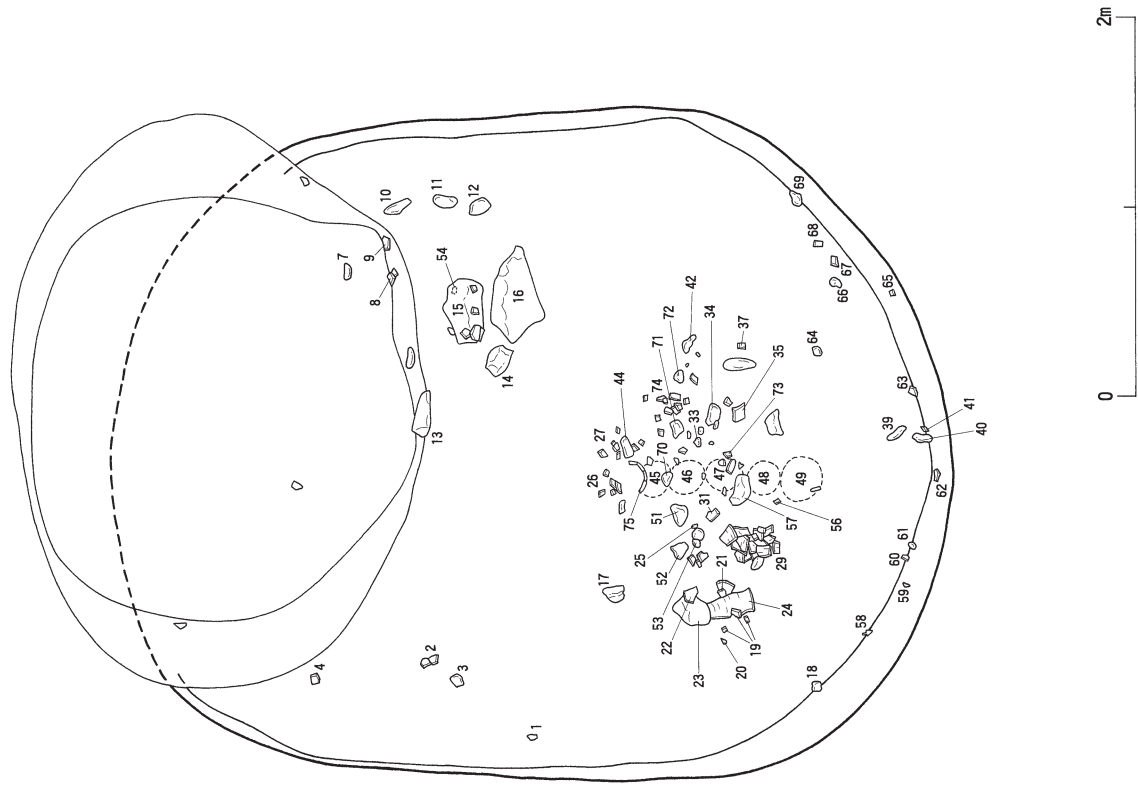


H-5											
断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)			礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考
				野外土性 色名	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類	
1	覆土1	*		壤土	黒色 7.5YR2/1	*	軟	黄褐色軽石	1	*	*
2	覆土2	*		壤土	褐色 7.5YR4/6	*	軟	黄褐色軽石	15	*	*
3	覆土3	*		壤土	黒色 7.5YR1/1	*	軟	*	*	*	*
4	覆土4	*		壤土	黒色 7.5YR2/1	*	軟	黄褐色軽石	15	*	*
5	覆土5	*		壤土	黒褐色 7.5YR3/1	*	軟	黄褐色軽石	17	*	*
6	覆土6	*		壤土	褐色 10YR4/4	*	軟	黄褐色軽石	5	*	*
7	覆土7	*		壤土	褐色 8.5YR7/7	*	軟	*	*	*	*
8	覆土8	*		壤土	褐色 10YR4/6	*	軟	黄褐色軽石	5	*	*
9	覆土9	*		壤土	褐色 7.5YR4/6	*	軟	黄褐色軽石	5	*	*
10	覆土10	*		壤土	黒色 1.5YR2/7	*	(やや軟)	*	*	*	*
11	覆土11	*		壤土	黄褐色 10YR5/6	*	(やや軟)	*	*	*	*
H-5・HP-2 (埋蔵)											
1	覆土1	*		壤土	黄褐色 2.5YR2/4	*	堅	黄褐色軽石	?	*	*
2	覆土2	*		壤土	褐色 5YR7/8	*	堅	黄褐色軽石	?	*	*
3	覆土3	*		壤土	黄褐色 7.5YR2/3	*	堅	黄褐色軽石	?	*	*
4	覆土4	*		壤土	暗赤褐色 7.5YR3/4	*	*	*	*	*	*
H-5・HP-1											
12	覆土1		(グライ化したH層主縁)	壤土	灰黄褐色 10YR6/2	*	軟	?	?	*	*

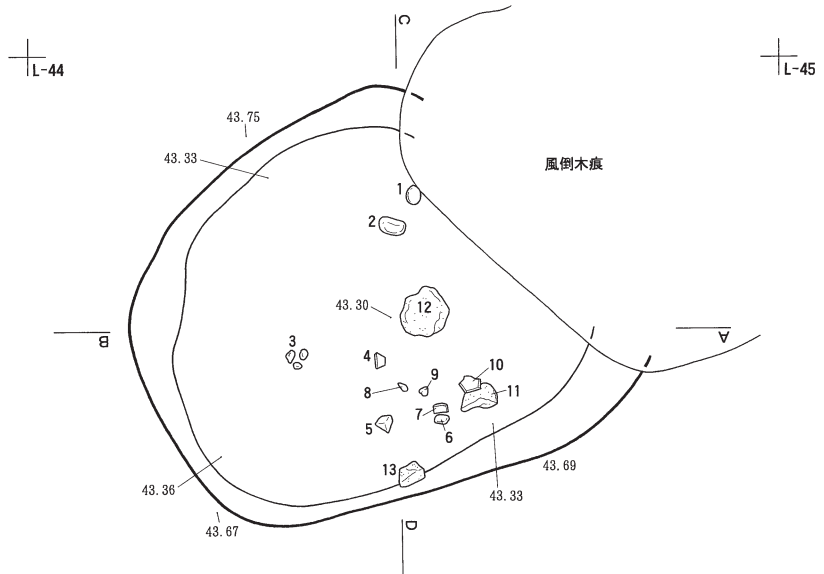
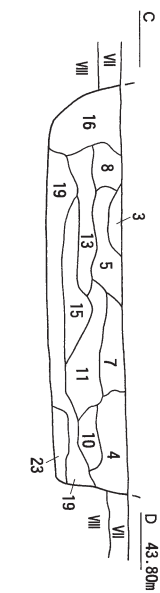
図III-9 H-5(1)



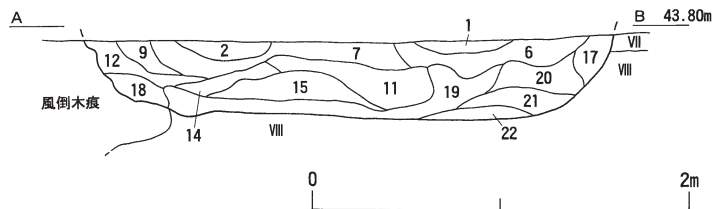
図III-10 H-5(2)



発見 層別	遺構 番号	遺構 名称	遺構 種類	位置 座標	深さ (m)	備考
1	01	土	溝	東上 43.77	0	
2	02	土	溝	東上 43.82	0	
3	03	土	溝	東上 43.82	0	
4	04	土	溝	東上 43.80	0	
5	05	土	溝	東上 43.85	0	出土状況に注意無し
6	06	土	溝	東上 43.85	0	出土状況に注意無し
7	07	土	溝	東上 43.82	0	
8	08	土	溝	東上 43.82	0	
9	09	土	溝	東上 43.82	0	
10	10	土	溝	東上 43.82	0	
11	11	土	溝	東上 43.82	0	
12	12	土	溝	東上 43.82	0	
13	13	土	溝	東上 43.82	0	
14	14	土	溝	東上 43.82	0	
15	15	土	溝	東上 43.82	0	
16	16	土	溝	東上 43.82	0	
17	17	土	溝	東上 43.82	0	
18	18	土	溝	東上 43.82	0	
19	19	土	溝	東上 43.82	0	
20	20	土	溝	東上 43.82	0	
21	21	土	溝	東上 43.82	0	
22	22	土	溝	東上 43.82	0	
23	23	土	溝	東上 43.82	0	
24	24	土	溝	東上 43.82	0	
25	25	土	溝	東上 43.82	0	
26	26	土	溝	東上 43.82	0	
27	27	土	溝	東上 43.82	0	
28	28	土	溝	東上 43.82	0	
29	29	土	溝	東上 43.82	0	
30	30	土	溝	東上 43.82	0	
31	31	土	溝	東上 43.82	0	
32	32	土	溝	東上 43.82	0	
33	33	土	溝	東上 43.82	0	
34	34	土	溝	東上 43.82	0	
35	35	土	溝	東上 43.82	0	
36	36	土	溝	東上 43.82	0	
37	37	土	溝	東上 43.82	0	
38	38	土	溝	東上 43.82	0	
39	39	土	溝	東上 43.82	0	
40	40	土	溝	東上 43.82	0	
41	41	土	溝	東上 43.82	0	
42	42	土	溝	東上 43.82	0	
43	43	土	溝	東上 43.82	0	
44	44	土	溝	東上 43.82	0	
45	45	土	溝	東上 43.82	0	
46	46	土	溝	東上 43.82	0	
47	47	土	溝	東上 43.82	0	
48	48	土	溝	東上 43.82	0	
49	49	土	溝	東上 43.82	0	
50	50	土	溝	東上 43.82	0	
51	51	土	溝	東上 43.82	0	
52	52	土	溝	東上 43.82	0	
53	53	土	溝	東上 43.82	0	
54	54	土	溝	東上 43.82	0	
55	55	土	溝	東上 43.82	0	
56	56	土	溝	東上 43.82	0	
57	57	土	溝	東上 43.82	0	
58	58	土	溝	東上 43.82	0	
59	59	土	溝	東上 43.82	0	
60	60	土	溝	東上 43.82	0	
61	61	土	溝	東上 43.82	0	
62	62	土	溝	東上 43.82	0	
63	63	土	溝	東上 43.82	0	
64	64	土	溝	東上 43.82	0	
65	65	土	溝	東上 43.82	0	
66	66	土	溝	東上 43.82	0	
67	67	土	溝	東上 43.82	0	
68	68	土	溝	東上 43.82	0	
69	69	土	溝	東上 43.82	0	
70	70	土	溝	東上 43.82	0	
71	71	土	溝	東上 43.82	0	
72	72	土	溝	東上 43.82	0	
73	73	土	溝	東上 43.82	0	
74	74	土	溝	東上 43.82	0	
75	75	土	溝	東上 43.82	0	



H-6										
取り上げ番号	遺物番号	種類	(土器) 石器	遺物内容	時分類	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
1	1	破	破	灰山粉	1	覆土19	43.33			
2	2	破	破	灰山粉	1	覆土19	43.34			
3	3	破	破	灰山粉	3	覆土11	43.43			
4	4	破	破	灰山粉	1	覆土11	43.55			
5	5	破	破	灰山粉	1	床面	43.30			
6	6	破	破	灰山粉	1	覆土10	43.44			
7	7	土器	瓦葺	瓦葺	1	覆土19	43.47	○		
8	8	土器	フレイク	めがね	1	覆土19	43.39			
9	9	破	破	灰山粉	1	覆土19	43.34			
10	10	土器	瓦葺	瓦葺	1	覆土7	43.51	○		
11	11	破	破	灰山粉	1	覆土19	43.36			
12	12	破	破	浮石	1	覆土15	43.37			
13	13	破	破	灰山粉	1	覆土19	43.37			



H-6												
断面図番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)			礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考	
				野外土性	全体的な色調	粘着性	堅密度	種類	混在割合 (%)	種類		混在量
1	覆土1	V b	主体	雑土	黒色 10YR1.7/1	強	堅	瓦層? 軽石	?	*	*	
2	覆土2	V a	主体	雑土	黒色 10YR1.7/1	中	堅	無		*	*	
3	覆土3	V b	主体	雑土	黒色 10YR2.1/1	強	堅	無		*	*	
4	覆土4	V b +	M	雑土	黒褐色 10YR2/2	中	すこぶる堅	瓦層軽石	1	*	*	
5	覆土5	V b +	VI	雑土	黒褐色 10YR2/3	強	堅	瓦層軽石	?	*	*	
6	覆土6	V a	主体	(雑土)	黒色 10YR1.7/1	強	軟	無		*	*	
7	覆土7	V b	主体	雑土	黒色 10YR1.7/1	中	堅	瓦層軽石	1	*	*	
8	覆土8	VI +	VI	雑土	暗褐色 10YR3/3	強	堅	瓦層軽石	1	*	*	
9	覆土9	V b	主体	雑土	黒褐色 10YR2/3	中	堅	無		*	*	
10	覆土10	V b	主体	雑土	黒色 10YR1.7/1	中	堅	無		*	*	
11	覆土11	VI >	VI	砂礫土	暗褐色 7.5YR3/4	中	固結	瓦層軽石	1	*	*	
12	覆土12	VI +	VI	雑土	黒褐色 10YR2/3	強	堅	瓦層軽石	1	*	*	
13	覆土13	VI +	VI + VI	雑土	暗褐色 10YR3/3	中	固結	瓦層軽石	1	*	*	
14	覆土14	VI +	VI	雑土	黒褐色 10YR2/2	中	すこぶる堅	瓦層軽石	3	*	*	
15	覆土15	VI	主体	雑土	黒褐色 10YR2/2	強	すこぶる堅	無		*	*	
16	覆土16	VI +	VI	雑土	黒褐色 10YR2/3	中	堅	瓦層軽石	2	*	*	風倒木痕?
17	覆土17	VI +	VI	雑土	黒褐色 10YR2/3	中	すこぶる堅	瓦層軽石	1	*	*	
18	覆土18	VI +	VI	雑土	黒褐色 10YR2/2	強	軟	瓦層軽石	1	*	*	風倒木痕
19	覆土19	V b	主体	雑土	黒色 10YR2/1	中	すこぶる堅	瓦層軽石	1	*	*	
20	覆土20	VI +	VI + VI	雑土	暗褐色 10YR3/3	強	すこぶる堅	瓦層軽石	1	*	*	
21	覆土21	VI +	VI + VI	雑土	暗褐色 10YR3/3	中	堅	瓦層軽石	1	*	*	
22	覆土22	V a +	VI	雑土	黒色 10YR1.7/1	強	軟	無		*	*	
23	覆土23	V b +	VI	雑土	黒褐色 10YR2/3	強	すこぶる堅	瓦層軽石	1	*	*	

図 III-11 H-6

葉の土器片が2か所 (図 III-12-1・III-85-3/III-12-18・III-85-1) でまとまって出土した。その他、中期の土器片やスクレイパー、北海道式石冠も出土している。覆土から三脚石器 (III-141-1) の出土がある。

時期：出土遺物から、縄文時代後期前葉か。

(新家)

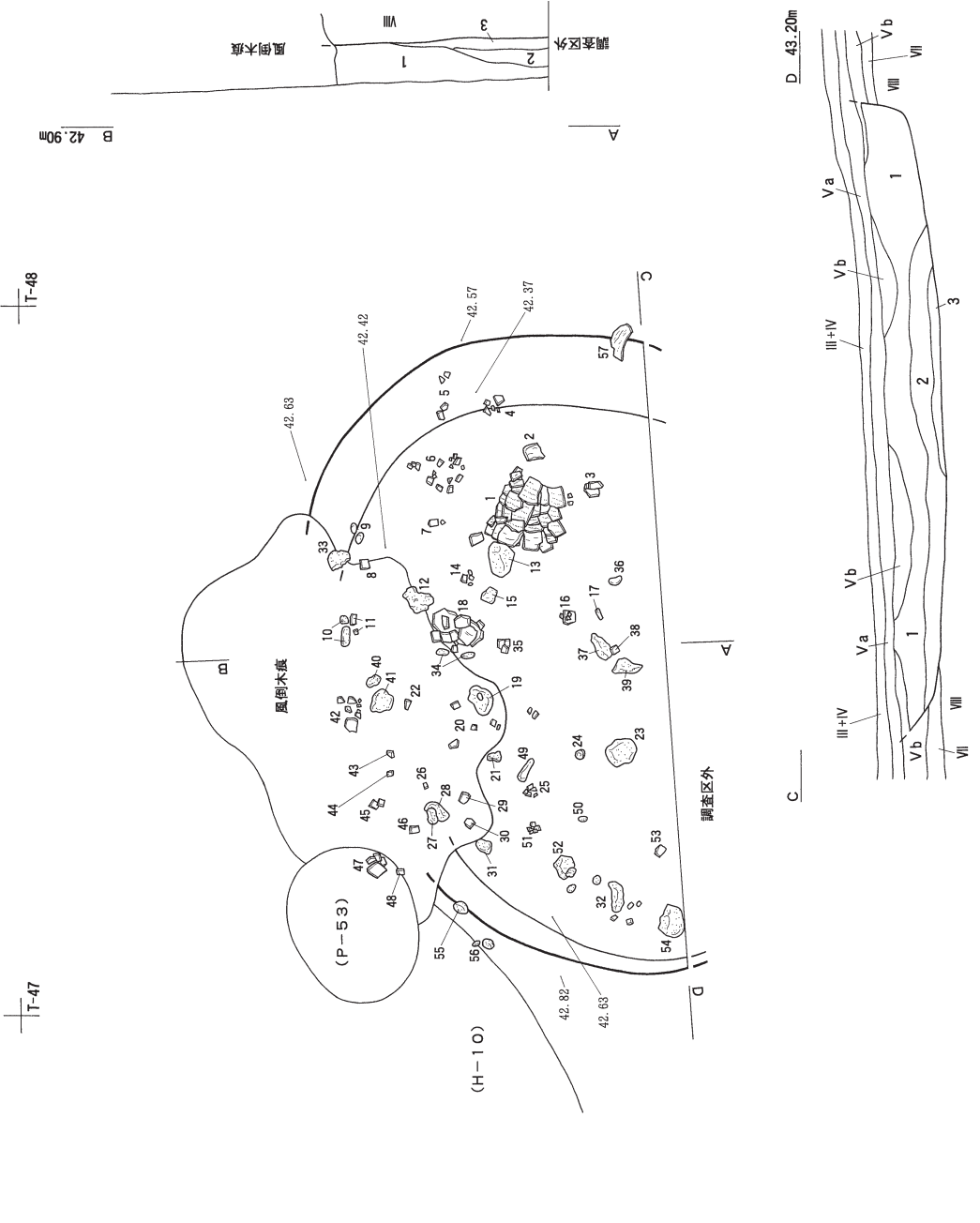
H-8 (図 III-13・14・86・87・117・123・126~128、表 1・2・9・14、図版12)

位置・立地：N・O-44・45区 標高43.40~44.80mの緩斜面

規模：6.18×5.14/5.66×4.48/0.86m

確認・調査：表土除去後、III層上面において長軸およそ6mの楕円形の凹みを検出した。土層観察用の土手を残して掘り下げた。床面を検出した段階で、ベンチ構造を持つ竪穴住居であると判断した。

断面図番号	地層区分	地層名	層位	高さ (m)	備考
1	土層	埋土	42.08	○	
2	土層	埋土	42.54	○	
3	土層	埋土	42.61	○	
4	土層	埋土	42.50	○	
5	土層	埋土	42.65	○	
6	土層	埋土	42.69	○	
7	土層	埋土	42.82	○	
8	土層	埋土	42.88	○	
9	土層	埋土	42.85	○	
10	土層	埋土	42.95	○	
11	土層	埋土	42.99	○	
12	土層	埋土	42.99	○	
13	土層	埋土	42.99	○	
14	土層	埋土	42.99	○	
15	土層	埋土	42.60	○	
16	土層	埋土	42.58	○	
17	土層	埋土	42.66	○	
18	土層	埋土	42.48	○	
19	土層	埋土	42.51	○	
20	土層	埋土	42.67	○	
21	土層	埋土	42.64	○	
22	土層	埋土	42.59	○	
23	土層	埋土	42.71	○	
24	土層	埋土	42.62	○	
25	土層	埋土	42.65	○	
26	土層	埋土	42.60	○	
27	土層	埋土	42.74	○	
28	土層	埋土	42.74	○	
29	土層	埋土	42.56	○	
30	土層	埋土	42.70	○	
31	土層	埋土	42.70	○	
32	土層	埋土	42.73	○	
33	土層	埋土	42.57	○	
34	土層	埋土	42.52	○	
35	土層	埋土	42.52	○	
36	土層	埋土	42.38	○	
37	土層	埋土	42.34	○	
38	土層	埋土	42.38	○	
39	土層	埋土	42.64	○	
40	土層	埋土	42.64	○	
41	土層	埋土	42.65	○	
42	土層	埋土	42.70	○	
43	土層	埋土	42.63	○	
44	土層	埋土	42.65	○	
45	土層	埋土	42.65	○	
46	土層	埋土	42.75	○	
47	土層	埋土	42.73	○	
48	土層	埋土	42.72	○	
49	土層	埋土	42.55	○	
50	土層	埋土	42.73	○	
51	土層	埋土	42.72	○	
52	土層	埋土	42.65	○	
53	土層	埋土	42.61	○	
54	土層	埋土	42.70	○	
55	土層	埋土	42.70	○	
56	土層	埋土	42.77	○	
57	土層	埋土	42.54	○	

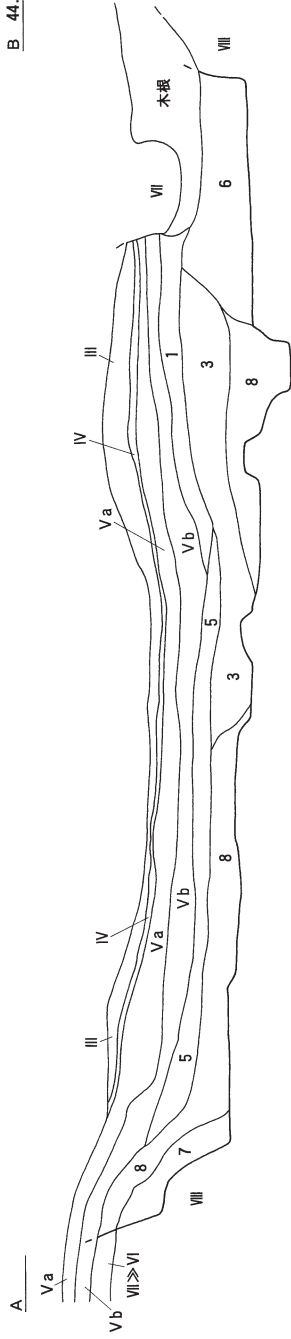


断面図番号	層位名称	主体層	埋没層	砂・粘土・シルト (粒径2mm未満)		礫 (粒径2mm以上)		備考
				野外土性	全体貯込色名	種類	埋没割合 (%)	
1	層位1	V+	埋没	埋土	褐色	埋没土	埋没土	
2	層位2	V+	埋没	埋土	黒褐色	埋没土	埋没土	
3	層位3	V	主体	埋土	褐色	埋没土	埋没土	

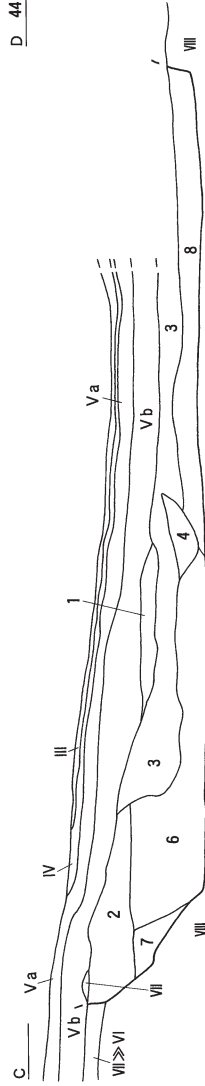
図III-12 H-7



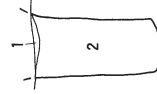
B 44.60m



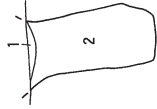
D 44.40m



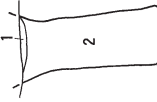
HP-4 L 43.60m



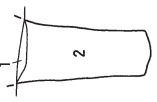
HP-3 J 43.60m



HP-2 H 43.60m



HP-1 F 43.60m



図III-14 H-8 (2)

断面図		H-8		砂・シルト (粒径2mm未満)		礫 (粒径2mm以上)		その他の遊存物		備考	
層位番号	主輪厚	遊存層	野外土壌 色名 JIS色名	全体的な色調	粘着性	堅硬度	種類	割合	種類	割合	
1	層上1	*	黄土 赤色 [0194/4]	*	軟	*	*	*	*	*	下から土層の厚みとして計上 不仕置品? *
2	層上2	*	黄土 赤褐色 [0195/8]	*	軟	*	*	*	*	*	不仕置品? *
3	層上3	Vb	黄土 黒色 [0192/1]	*	軟	黄褐色砂	5	*	*	*	不仕置品? *
4	層上4	Vb	黄土 黒褐色 [0193/2]	*	軟	黄褐色砂	5	*	*	*	不仕置品? *
5	層上5	*	黄土 暗褐色 [0193/3]	*	軟	黄褐色砂	5	*	*	*	下から土層の厚みとして計上
6	層上6	*	黄土 灰褐色 [0195/8]	*	軟	黄褐色砂	17	*	*	*	
7	層上7	(V5%混じる)	黄土 明灰褐色 [0192/8]	*	軟	黄褐色砂	5	*	*	*	
8	層上8	*	黄土 赤色 [0194/4]	*	軟	黄褐色砂	5	*	*	*	
H-8 封P-1~4											
1	層上1	*	黄土 黒褐色 [0193/2]	*	軟	*	*	*	*	*	柱抜き取? *
2	層上2	*	黄土 明灰褐色 [0192/8]	*	軟	*	*	*	*	*	



N・O-45区については包含層を下げすぎたため西縁のベンチ部分を消失した。北縁については東～北東縁の構造から判断すると、ベンチ部分がもともと存在しなかったと推定できる。

**覆土：**1～8層はⅤ～Ⅷ層が混じった土である。掘りあげ土の流入ないしは、土葺き屋根が崩落した可能性がある。掘り込み面はKo-g主体のⅥ層上面である。

**形態：**平面形が楕円形をした竪穴住居である。ベンチが東縁から西縁にかけて巡ると考えられる。ベンチ部分は内側に向って傾斜する。ベンチの内側の部分も楕円形の平面形である。床面はほぼ平坦であるが、4本の支柱穴に囲まれた中央部分には、皿状の浅い凹みがいくつかある。壁は直立気味に立ち上がる。

**付属遺構：**ベンチ部分の内側について4本の支柱穴がある。縁辺からそれぞれ80cm中心へ入った位置にある。楕円の長軸上に4ヶ所の皿状の凹みが分布する。

**遺物出土状況：**北海道式石冠が床面直上から2点(図Ⅲ-13-9・Ⅲ-127-16/Ⅲ-13-11・Ⅲ-127-15) 覆土下位から1点(図Ⅲ-13-19・Ⅲ-128-20) 出土している。またベンチ部分の床面から砥石が出土している。覆土中位以下についてはⅢ群a類土器が主に出土している。例外として、壁面にまとまって出土した遺物についてⅣ群a類土器が出土しているが風倒木の影響が考えられる。図Ⅲ-13-27はHP-3覆土中からの出土である。

**時期：**出土遺物とベンチを持つ形態から縄文時代中期前半、Ⅲ群a類土器の時期と考えられる。

(大泰司)

H-9 (図Ⅲ-15・16・87・88・117・136、表1・2・9・14、図版13)

**位置・立地：**J・K-39・40区 標高44.00～44.20mの平坦面

**規模：**3.18×2.98/2.78×2.72/0.64m

**確認・調査：**表土除去後、Ⅲ層上面において長軸およそ3mの楕円形の凹みを検出した。土層観察用の土手を残して掘り下げた。床面を検出した段階で、竪穴住居であると判断した。

**覆土：**1・2層はⅤ～Ⅷ層が混じった土である。掘りあげ土の流入ないしは土葺き屋根が崩落した可能性がある。掘り込み面はⅥ層上面である。

**形態：**平面形が、舟形を思わせる、隅丸の五角形をした竪穴住居である。壁面は開きながら立ち上がるが直立気味である。床面はほぼ平坦だが、中央が埋甕炉を中心として微妙に凹む。

**付属遺構：**長軸上に埋甕炉と3つの小土坑が並ぶ。HP-1としたのは埋甕炉の土器の掘りかたである。土器を収めるにあたり堅いⅧ層を適切な大きさに無駄なく掘る。埋甕炉の内部は暗褐色土が詰まっており赤味を帯びた焼土ではない。ただし土器の縁辺が焼けており、HP-2と反対を向いた側が意図的に打ち欠かれていた。当初、HP-2を炉に付属する施設と考えたが、埋甕の打ち欠かれた側の反対側に位置し、灰層もないことから具体的な用途は不明である。HP-3と4については、打ち込みの柱穴を思わせる形状であり、平面形長軸上で壁際にあることから上部構造を支えていた可能性がある。

**遺物出土状況：**床面直上からは使用痕のあるフレイクやスクレイパーが出土している。また埋甕炉の土器はⅢ群b類(図Ⅲ-16-90・Ⅲ-87-1)である。覆土からは榎林式土器(図Ⅲ-16-42・Ⅲ-88-3/Ⅲ-16-21・Ⅲ-88-2)の出土がある。

**時期：**出土遺物から縄文時代中期後半、Ⅲ群b類土器の時期と考えられる。

(大泰司)

**フローテーション成果：**埋甕炉として用いられていたHP-1埋設土器内部の土をフローテーション法にて処理した。その結果、焼骨片を検出した。焼骨片はシカを主体とする獣骨と種類不明だが魚類の骨である。(詳細はⅤ章1)

H-10 (図Ⅲ-17・88・123・128、表1・2・9・14、図版14)

位置・立地：S・T-46・47区 調査区北側（海側）、標高42.80～43.40m付近の平坦面

規模：5.56×(3.46)/5.14×(3.12)/0.30m

確認・調査：H-7を調査中、その南側に大きく広がる黒色土の範囲を検出。断面観察用のベルトを十字に残し、黒色土を掘り下げた。平坦な床と壁の立ち上がりを確認し、住居跡と判断した。北側の風倒木の攪乱や、P-53との切り合いにより、H-7との新旧関係を観察することはできなかった。

覆土：覆土はVb層起源の黒色土1層で、自然堆積と思われる。

形態：平面は楕円形に近いと思われるが、攪乱やP-53との切り合いで、輪郭の把握は難しい。

付属遺構：ブロック状の焼土を2か所、床直上で検出した。いずれも層厚3cmほどで、断面はその場で焼けたグラデーション様ではなく、床面との層界がはっきりとわかる状況であった。住居内で焼けた炉ではない可能性がある。

遺物出土状況：覆土と床面に、土器片や礫が一面に散在して出土した。

時期：出土遺物から、縄文時代後期前葉か。SP-1・2・3・5・8より新しいか、またはH-10廃絶直後にこれらのSPが掘り込まれたものとする。（新家）

H-11 (図Ⅲ-18・89・128、表1・2・9・14、図版15)

位置・立地：H・I-40・41区 標高44.60～44.80mの平坦面

規模：2.34×1.92/2.02×1.70/0.46m

確認・調査：VI層上面において黒色土の落ち込みを検出した。土層観察用の土手を残して掘り下げたところ、円筒上層c～d式を主とするⅢ群a類土器を検出した。床面を検出した段階で、竪穴住居であると判断した。掘り込み面はVb層下位である。

覆土：覆土1・2層はVb層主体の流入である。3～10層はV～Ⅷ層が混じった土である。11層はⅧ層を主とする土であった。3～11層については、掘りあげ土の流入ないしは、土葺き屋根が崩落した可能性がある。

形態：平面形はやや台形がかった方形である。隅丸ではあるが、かなり直角を思わせる隅の形状をしている。壁面は開きながら立ち上がるが、直立気味である。床面はほぼ平坦である。壁際には溝が巡る。

付属遺構：壁際の溝は北西壁のほぼ中央から始まり、南隅と東隅を巡り、北東壁のほぼ中央までかかる。長さ24cm、幅8cm、深さ4cmの短い溝の連続であり、土留めのための材が並んでいたとも推測できる。

遺物出土状況：覆土1・2層からⅢ群a類がまとまって出土（図Ⅲ-18-11～13）している。それは円筒上層c式（図Ⅲ-89-1～7）が主で土製品（18-13に混在・89-5）もあった。図中の床面および壁面からの礫は地山に刺さり込んだⅧ層起源の軽石である。

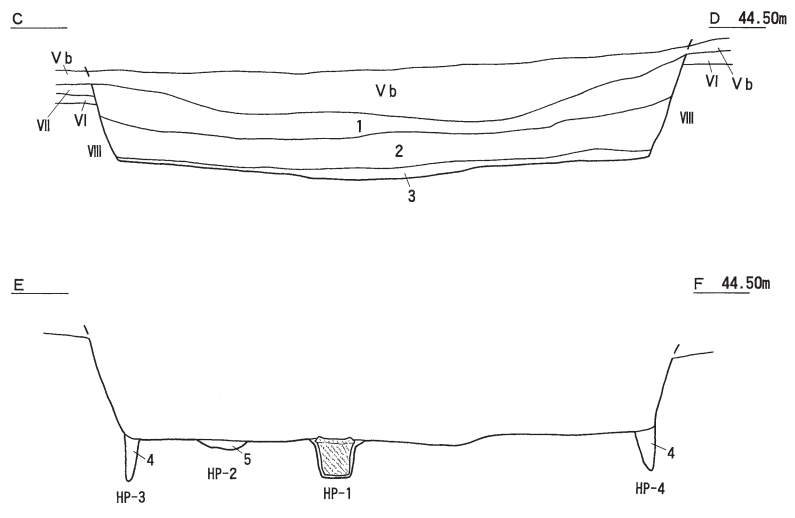
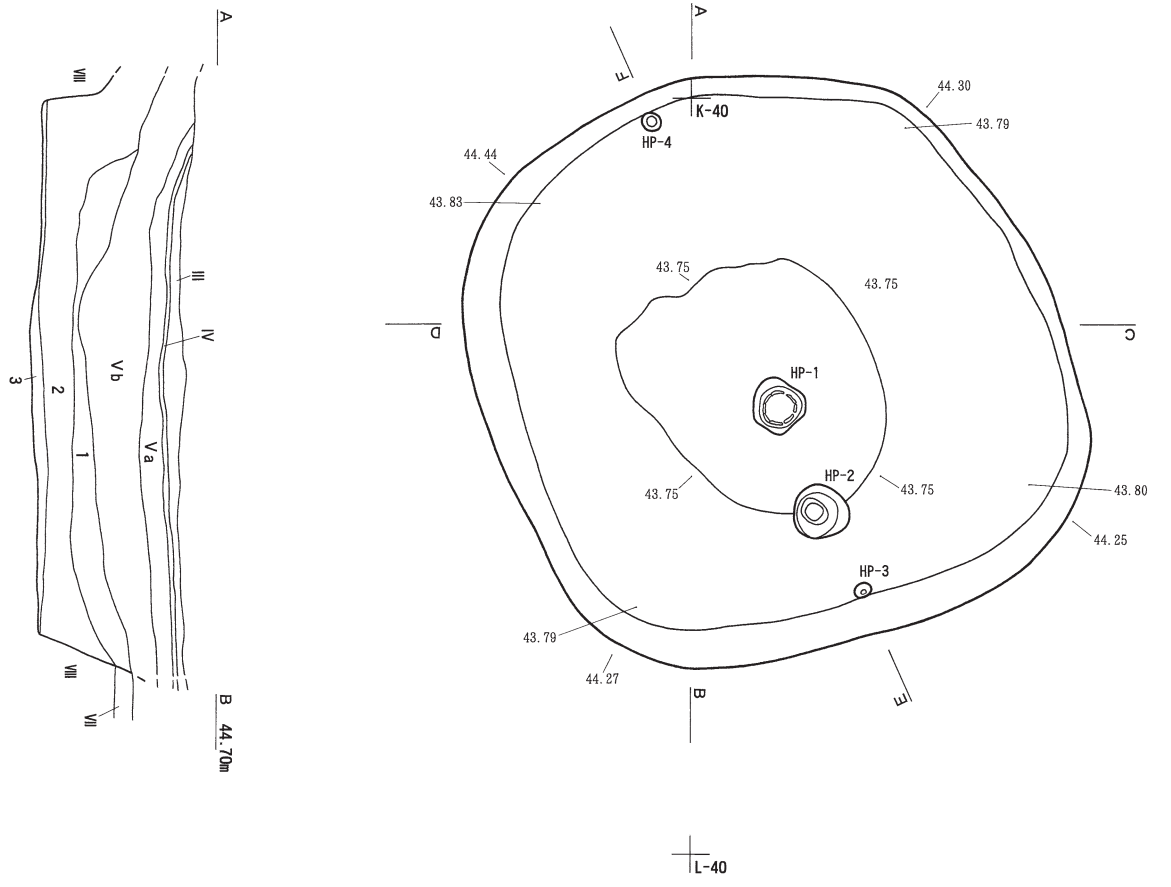
時期：出土遺物とその出土状況から縄文時代中期前半、Ⅲ群a類土器の時期と考えられる。（大泰司）

H-12 (図Ⅲ-19・118・123・128・136、表1・2・9・14、図版16)

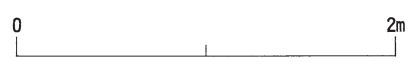
位置・立地：T-47区 調査区北側（海側）、標高42.40～43.00m付近の平坦面

規模：2.24×2.06/2.14×2.02/0.56m

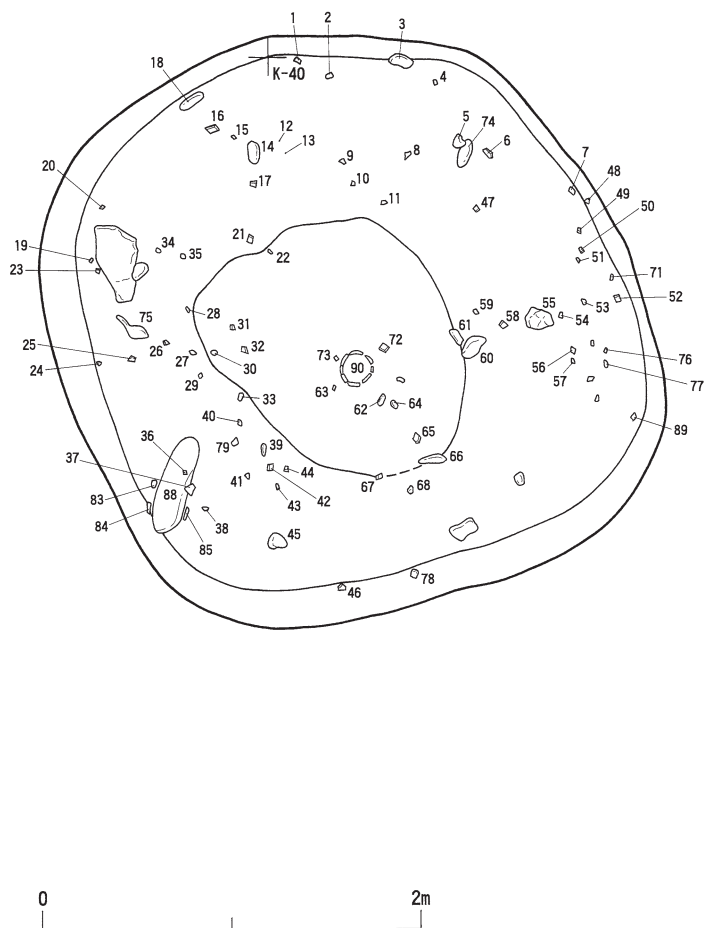
確認・調査：H-7の床面を調査中、そのレベルよりもさらに下に黒～暗褐色土が入り混じった、Ⅷ層とは異なる堆積があることがわかった。一方向にベルトを設定し、H-7の調査後に、堆積層を掘



H-9												
断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)				礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備 考
				野外土性	全体的な色調 色名 (JIS-X4084)	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類	混在量	
1	覆土1	*		壤土	灰黄褐色 10YR5/2	*	軟	*	*	*	*	
2	覆土2	*		壤土	黄褐色 10YR5/8	*	軟	黄褐色軽石	25	*	*	
3	覆土3	*		壤土	暗褐色 10YR3/4	*	軟	*	*	*	*	
H-9・HP-1 (埋藏)												
6	覆土1	*		壤土	黒色 10YR1/1		中	軟	*	*	*	土坑の覆土
7	覆土2		(V5%混じる)	壤土	(暗赤褐色)	*	軟	黄褐色軽石	5	*	*	土器内部の土
H-9・HP-2												
5	覆土1	*		壤土	黒褐色 7.5YR2/2	*	軟	*	*	*	*	
H-9・HP-3・4												
4	覆土1	*		壤土	褐色 7.5YR4/3	*	軟	*	*	*	*	



図III-15 H-9(1)



取上げ番号		遺物内容		層位	標高 (m)	相数	備考
種別	(土器) 時期分類 (石器)	名称	点数				
1	焼酎石群	フレイク	頁岩	1	覆土3	43.84	
2	焼酎石群	フレイク	めものう	1	覆土3	43.82	
3	焼酎石群	燧石	頁岩	1	床面直上	43.87	
4	焼酎石群	燧石	頁岩	1	床面直上	43.82	○
5	焼酎石群	たたき石	安山岩	1	覆土1	44.14	
5	燧石	燧石	燧石	1	覆土1	44.10	○
7	燧石	燧石	燧石	1	床面直上	43.74	
8	焼酎石群	Uフレイク	めものう	1	覆土1	43.83	
9	焼酎石群	Rフレイク	めものう	1	床面直上	43.76	
10	焼酎石群	フレイク	めものう	1	覆土3	43.78	
11	焼酎石群	フレイク	めものう	1	覆土2	43.91	
12	焼酎石群	フレイク	めものう	1	床面直上	43.80	
13	焼酎石群	Uフレイク	燧石	1	床面直上	43.77	
14	燧石	燧石	燧石	1	覆土2	44.05	
15	焼酎石群	燧石	めものう	1	床面直上	43.78	○
16	燧石	燧石	燧石	1	床面直上	43.82	
17	燧石	燧石	燧石	1	覆土1	43.99	
18	燧石	燧石	燧石	1	覆土1	44.22	
19	焼酎石群	フレイク	めものう	1	覆土1	44.13	
20	焼酎石群	Uフレイク	燧石	1	床面直上	43.82	
21	燧石	燧石	燧石	1	覆土2	43.98	○
22	焼酎石群	フレイク	めものう	1	覆土2	43.84	
23	燧石	燧石	燧石	1	覆土2	43.89	
24	燧石	燧石	燧石	1	覆土1	44.23	
25	燧石	燧石	燧石	1	覆土1	44.23	
26	燧石	燧石	燧石	1	覆土1	44.07	
27	焼酎石群	Rフレイク	頁岩	1	覆土1	44.13	
28	焼酎石群	フレイク	めものう	1	覆土2	43.93	
29	燧石	燧石	燧石	1	覆土2	43.86	○ 正副土-1類
30	燧石	燧石	燧石	1	覆土2	44.01	
31	燧石	燧石	燧石	1	覆土2	43.83	
32	燧石	燧石	燧石	1	覆土2	43.84	
33	焼酎石群	フレイク	めものう	1	覆土2	43.97	
34	燧石	燧石	燧石	1	覆土1	44.20	
35	燧石	燧石	燧石	1	覆土1	44.16	
36	燧石	燧石	燧石	1	覆土1	43.88	
37	焼酎石群	フレイク	めものう	1	覆土1	44.25	
38	焼酎石群	フレイク	めものう	1	覆土2	44.00	
39	燧石	燧石	燧石	1	覆土2	44.03	
40	焼酎石群	フレイク	めものう	2	覆土2	43.97	
41	焼酎石群	フレイク	燧石	1	覆土2	44.02	
42	燧石	燧石	燧石	1	覆土2	43.90	○
43	焼酎石群	フレイク	めものう	1	覆土1	44.06	
44	燧石	燧石	燧石	1	覆土2	43.81	
45	燧石	燧石	燧石	1	覆土1	44.11	
46	燧石	燧石	燧石	1	覆土1	44.22	
47	燧石	燧石	燧石	1	覆土1	44.11	
48	焼酎石群	フレイク	めものう	2	覆土2	44.05	
49	燧石	燧石	燧石	1	覆土1	44.17	
50	燧石	燧石	燧石	1	覆土2	43.89	
51	焼酎石群	Uフレイク	燧石	1	覆土2	43.84	
52	燧石	燧石	燧石	1	覆土1	44.11	
53	焼酎石群	フレイク	頁岩	1	覆土3	43.81	
54	焼酎石群	燧石	頁岩	1	覆土3	43.84	
55	燧石	燧石	燧石	1	覆土2	44.12	
56	焼酎石群	フレイク	頁岩	1	覆土3	43.81	
57	焼酎石群	フレイク	燧石	1	床面直上	43.80	
58	燧石	燧石	燧石	1	覆土1	44.08	
59	焼酎石群	スタレイバー	めものう	1	覆土2	43.86	
60	燧石	燧石	燧石	1	覆土1	44.03	
61	燧石	燧石	燧石	1	覆土1	44.07	
62	燧石	燧石	燧石	1	覆土1	44.06	
63	焼酎石群	フレイク	めものう	2	覆土1	44.07	
64	燧石	燧石	燧石	1	覆土1	44.08	
65	燧石	燧石	燧石	1	覆土1	44.08	
66	燧石	燧石	燧石	1	覆土3	43.83	
67	燧石	燧石	燧石	1	覆土1	44.15	
68	燧石	燧石	燧石	1	覆土1	43.87	
69	燧石	燧石	燧石	1	覆土3	43.84	
70	焼酎石群	スタレイバー	めものう	1	覆土2	44.08	
71	焼酎石群	フレイク	燧石	1	覆土2	43.47	壁面直
72	燧石	燧石	燧石	1	覆土3	43.50	
73	焼酎石群	フレイク	めものう	1	覆土3	43.34	○
74	燧石	燧石	燧石	1	覆土2	43.49	
75	燧石	燧石	燧石	3	覆土2	43.96	○
76	焼酎石群	フレイク	燧石	1	床面直上	43.81	
77	燧石	燧石	燧石	1	覆土3	43.84	
78	燧石	燧石	燧石	1	覆土2	43.88	壁面直
79	燧石	燧石	燧石	1	覆土2	43.88	
80	焼酎石群	フレイク	燧石	1	床面直上	43.78	
81	焼酎石群	燧石	燧石	1	床面直上	43.78	○
82	燧石	燧石	燧石	1	床面直上	43.83	
83	燧石	燧石	燧石	1	床面直上	43.84	
84	焼酎石群	フレイク	燧石	1	床面直上	43.88	
85	焼酎石群	スタレイバー	燧石	1	床面直上	43.83	○
86	焼酎石群	フレイク	燧石	1	床面直上	43.89	
87	焼酎石群	Rフレイク	燧石	1	床面直上	43.83	
88	燧石	燧石	燧石	1	床面直上	43.83	
89	焼酎石群	フレイク	燧石	1	覆土3	43.78	
90	燧石	燧石	燧石	1	床土	(43.53)	○ H P-1・燧石

図III-16 H-9(2)

り下げたところ、平坦な床面と、Ⅷ層を50cm以上掘り込んだ、はっきりとした壁の立ち上がりを検出した。覆土上部をH-7と風倒木によって壊された、古い住居跡と判断した。

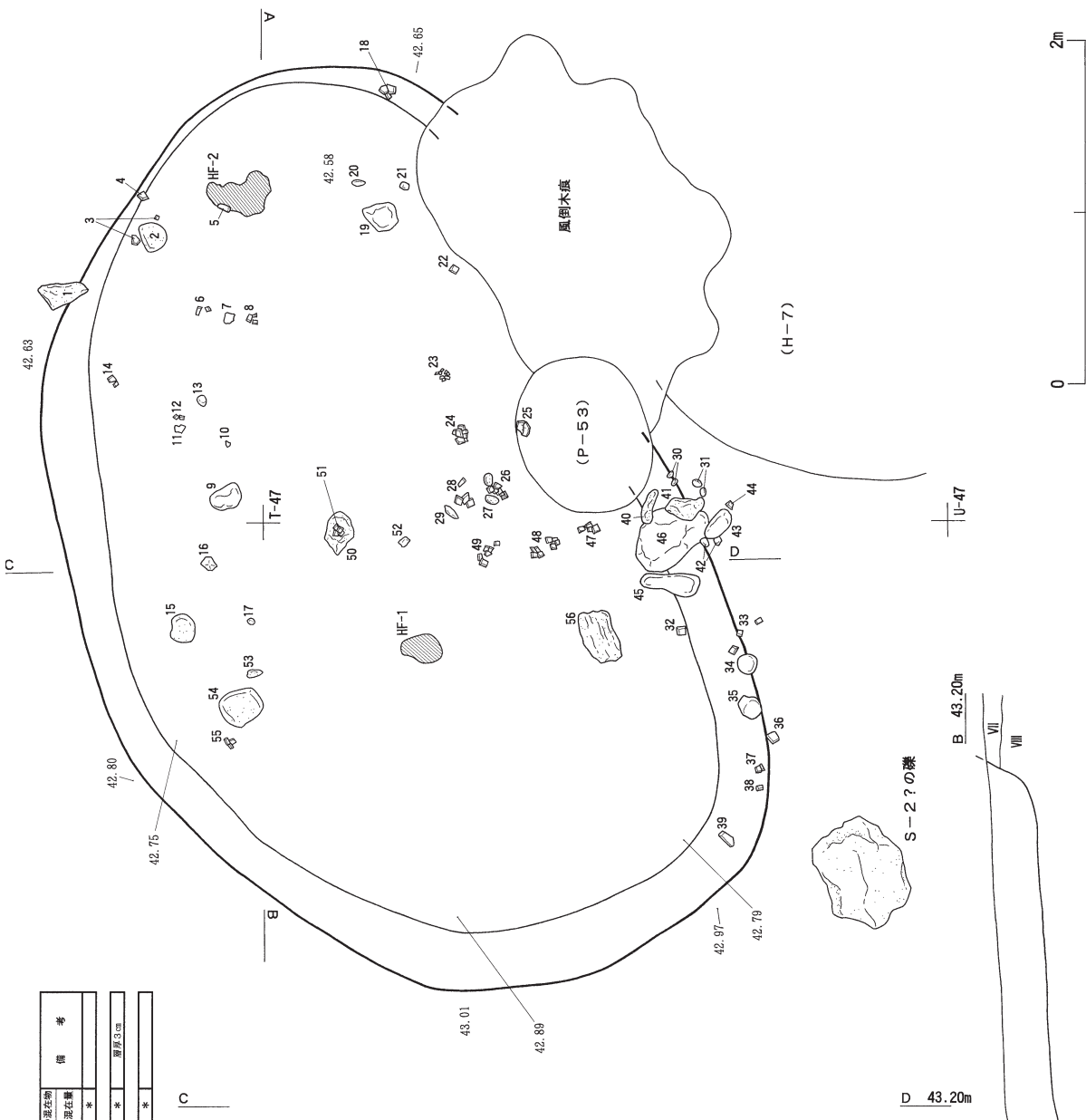
**覆土：**覆土は8層に分けた。覆土上部の1～5層は堅くしまり、6～8層は軟らかい。7層は床面直上に5cmほどの厚さで均一に広がる層である。6～8層は崩落や自然堆積、1～5層はH-7を構築する際に埋め戻された可能性がある。

**形態：**平面形は、H-7よりも一回り小さい、隅丸方形である。床面は水平・平坦である。南側の壁は北側よりもやや緩やかに立ち上がる。

**付属遺構：**幅約10cm、深さ2～4cmの溝が1本、床面の壁際に沿って一周している。溝は3か所で途切れている。溝の中の覆土は、住居の覆土7層がそのまま堆積していた。また、住居の東西両端には、住居の壁から張り出した形で、小型の付属土坑が1つつ対に作られている。平面形は、西側が楕円形、東側は円形に近く、4分の1～2分の1が住居の輪郭と重なっている。底面はいずれも、住居の床面より10cmほど高い位置で掘り込みを止めてあり、ほぼ水平・平坦である。覆土は住居の覆土6層と同じである。

断面図		H-10		砂・粘土・シルト (直径2mm未満)		礫 (直径2mm以上)		その他の混石物	
層位番号	層位名称	主材層	現在層	野外土色	全体的な色調	粘着性	堅密度	種類	備 考
1	層位1	Vb	主体	H=10・HF-1	黄褐色	弱	弱	*	*
*	層位(伊勢川)			H=10・HF-2				*	*
*	層位			H=10・HF-2				*	*

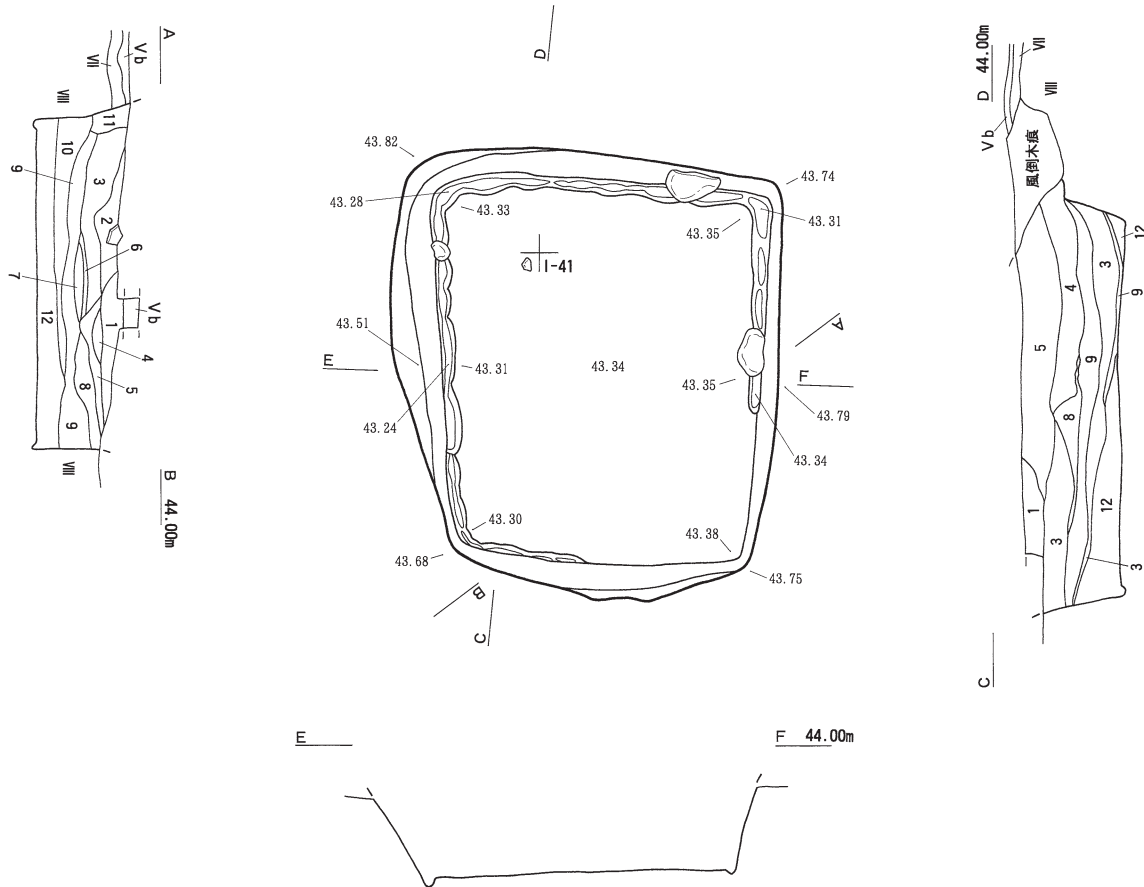
層位番号	層位名称	主材層	現在層	野外土色	全体的な色調	粘着性	堅密度	種類	備 考
1	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
2	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
3	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
4	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
5	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
6	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
7	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
8	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
9	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
10	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
11	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
12	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
13	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
14	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
15	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
16	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
17	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
18	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
19	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
20	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
21	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
22	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
23	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
24	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
25	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
26	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
27	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
28	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
29	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
30	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
31	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
32	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
33	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
34	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
35	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
36	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
37	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
38	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
39	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
40	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
41	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
42	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
43	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
44	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
45	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
46	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
47	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
48	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
49	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
50	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
51	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
52	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
53	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
54	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
55	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
56	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
57	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
58	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
59	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
60	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
61	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
62	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
63	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
64	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
65	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
66	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
67	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
68	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
69	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
70	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
71	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
72	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
73	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
74	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
75	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
76	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
77	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
78	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
79	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
80	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
81	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
82	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
83	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
84	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
85	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
86	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
87	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
88	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
89	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
90	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
91	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
92	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
93	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
94	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
95	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
96	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
97	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
98	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
99	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*
100	砂	砂	砂	黄褐色	黄褐色	弱	弱	*	*



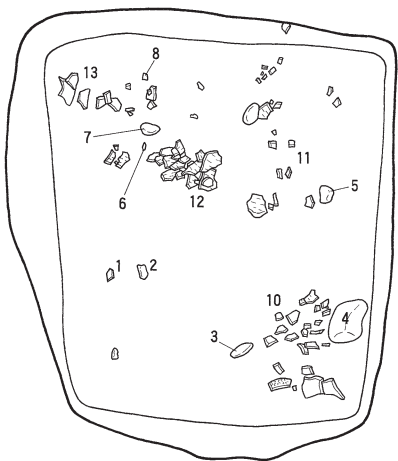
図III-17 H-10

HF-2





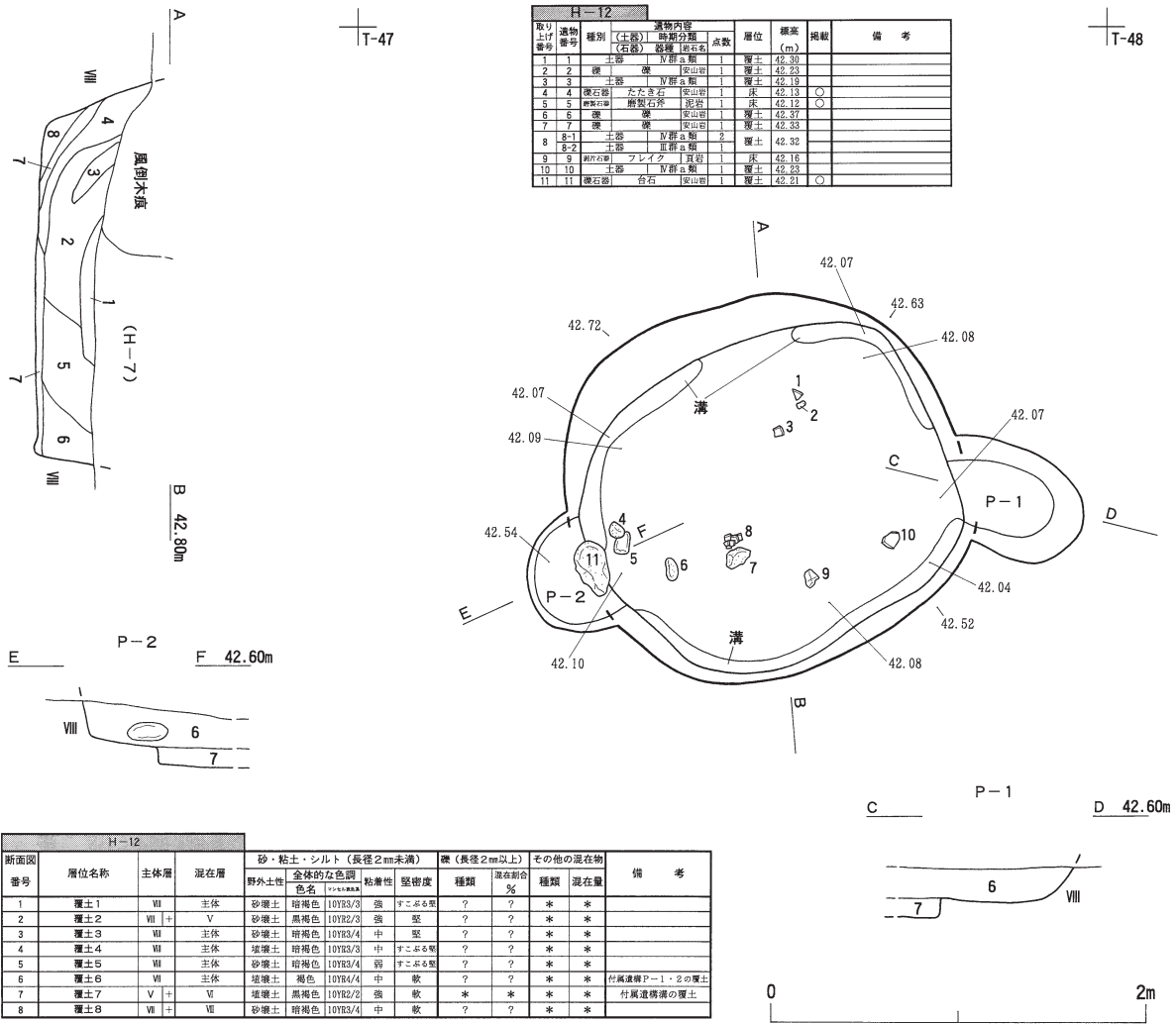
断面図		H-11		砂・粘土・シルト (長径2mm未満)		礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考
番号	層位名称	主体層	混在層	野外土色	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	
1	覆土1	*		覆土	黒褐色 10YR2/2	*	堅	黄褐色軽石	?	* * *
2	覆土2	V b	主体	覆土	黒色 10YR2/1	*	軟	*	*	* * *
3	覆土3	V +	Ⅵ	覆土	褐色 10YR4/4	*	軟	黄褐色軽石	2	* * *
4	覆土4	*		覆土	黒色 10YR2/1	*	軟	黄褐色軽石	7	* * *
5	覆土5	Ⅷ	主体	覆土	黄褐色 10YR5/6	*	軟	?	?	* * *
6	覆土6	*		覆土	黒色 10YR2/1	*	軟	*	*	* * *
7	覆土7	V +	Ⅵ	覆土	褐色 10YR4/4	*	軟	黄褐色軽石	2	* * *
8	覆土8	Ⅷ	主体	覆土	黄褐色 10YR5/6	*	軟	?	?	* * *
9	覆土9	*		覆土	黄褐色 10YR3/1	*	軟	黄褐色軽石	7	* * *
10	覆土10	*		覆土	黄褐色 10YR3/3	*	軟	黄褐色軽石	5	* * *
11	覆土11	Ⅷ	主体	覆土	黄褐色 10YR5/6	*	*	?	?	* * *
12	覆土12	V +	Ⅵ	覆土	褐色 10YR4/4	*	軟	黄褐色軽石	2	* * *
H-11・溝溝										
*	覆土1	*		砂質土	黄灰色 2.5Y5/1	*	(無)	*	*	* * * Ⅵ層が黒色味帯びる



H-11		遺物内容		層位	標高 (m)	掘削	備考
取付 番号	遺物 番号	種類 (土器)	数量 (石器)				
1	1-1	土器	Ⅲ群 a類	1	覆土	43.85	○
1	1-2	土器	Ⅲ群 a類	1	覆土	43.85	○
2	2	焼石器	扁平打製石器	1	覆土	43.73	
3	3	焼石器	扁平打製石器	1	覆土	43.84	○
4	4	炭	炭	1	覆土	44.15	
5	5	炭	炭	1	覆土	43.70	
6	6	焼石器	フリイク	1	覆土	43.83	
7	7	炭	炭	1	覆土	43.92	
8	8	焼石器	フリイク	1	覆土	?	
9	9	炭	炭	1	覆土	?	出土状況図に記載無し
10	10	土器	Ⅲ群 a類	63	覆土	43.73	○
11	11	土器	Ⅲ群 a類	39	覆土	43.81	○
12	12	土器	Ⅲ群 a類	45	覆土	43.76	○
13	13-1	土器	Ⅲ群 a類	17	覆土	43.89	○
	13-2	土器品	土器品		覆土	43.90	○



図III-18 H-11



図Ⅲ-19 H-12

遺物出土状況：石斧（図Ⅲ-19-5・Ⅲ-123-5）、たたき石（図Ⅲ-19-4・Ⅲ-128-23）が床面から、中期前半の土器片数点、スクレイパー等が覆土から出土している。  
 時期：H-7よりも古い。また、周溝を伴う特徴や規模がH-11と似ている。出土遺物を踏まえると中期前半の可能性はある。（新家）

H-14（図Ⅲ-20～22・90・91・118・123・128・136・141、表1・2・9・14、図版17・18、カラー図版6-1）

位置・立地：P-43・44区、Q-43～45区、R-43・44区 標高43.40～43.60mの平坦面

規模：6.04×5.20/4.68×3.64/0.82m

確認・調査：表土除去後、Ⅲ層上面において長軸約6mの凹みを検出した。平成15年度調査を行ったH-8の検出状況に類似しており堅穴住居を想定して土層観察用の土手を残して掘り下げた。4層より上位の土層からは縄文時代後期前葉の土器が目立って出土した。また4層の下位について2基の石組炉、S-4、S-5が切り合った状態で検出された。いずれも縄文時代後期の方形をした石組炉である。縄文時代後期前葉の堅穴住居が入り子状に入っていることを思わせる掘り込みはなかったが、明らかに埋没途中の凹みに造られたものであり、居住空間として機能した可能性はある。また覆土3

層から、Ⅷ層の礫がまとまって（図Ⅲ-22-27・60～65）検出された。意味のある集石の一種という可能性もあるが、フラスコ状土坑のような深い土坑を掘った際に掘り上げられたものの可能性もある。4層の下位と同一レベルからは炭化材が検出されている。住居南西側に偏って検出されている。床面を検出した段階で竪穴住居であることを確認した。

**覆土：**4層より上位はⅣ群a類土器の出土状況と、Ⅴ層にⅥ～Ⅷ層の土が混じった状況であることから、縄文時代後期前葉に投げ込まれたと考えられる。4層より下の土層については、Ⅵ～Ⅷ層を主とした混じりの多い土である。屋根を葺いた土ないしは掘り上げ土の可能性もある。掘り込み面はⅤb層中位である。

**形態：**一段のベンチ構造を持つ、平面形が隅丸方形に近い、不整な楕円形をした竪穴住居である。ベンチ部分はおおよそ平坦ではあるが、内側に傾斜気味である。ベンチ内側の掘り込みの平面形は長軸5mほどの隅丸方形に近い不整な楕円形である、長軸方向は住居の平面形と同じである。床面は平坦である。壁はおおよそ垂直に立ち上がり、南西壁は微妙にオーバーハングする。

**付属遺構：**平面形の四隅には4本の支柱穴がある。ベンチ内側の壁際に沿うようにある。支柱穴の内側にはおおよそ平面形に沿った形で溝が巡る。溝は一周せずに断続的である。不連続な長さ30cm幅6cmの小型の長楕円形をした溝によって構成される。材を連続して設置した可能性がある。また、おおよそ長軸上に中心から北東側に2基の小型で浅い土坑が検出されている。

**遺物出土状況：**4層と4層より上位の覆土からはⅣ群a類土器が数個体（図Ⅲ-20-5・Ⅲ-90-2/Ⅲ-20-50・Ⅲ-90-3/Ⅲ-20-4・Ⅲ-90-5/Ⅲ-20-53・Ⅲ-90-6/Ⅲ-20-7・Ⅲ-90-7/Ⅲ-20-127・128・Ⅲ-91-17/Ⅲ-20-77・Ⅲ-91-21）まとまって出土した。また60～65はⅧ層起源の礫のまとまった出土である。床面および覆土8層、付属遺構覆土からⅢ群a類の破片が数点出土している。覆土から三脚石器（Ⅲ-141-2～4）が3点出土し、床面から環状の石製品（図Ⅲ-19-120・Ⅲ-141-5）の出土がある。掘り上げ土の下と思われる壁際からⅢ群a類土器（図Ⅲ-20-90・Ⅲ-91-19）が出土している。

**時期：**出土遺物と形態から縄文時代中期前半、Ⅲ群a類土器の時期と考えられる。（大泰司）

H-15（図Ⅲ-23・92・118、表1・2・9・14、図版19）

**位置・立地：**Q～R-45～46区 標高42.60～43.00mの平坦面

**規模：**2.62×2.48/2.36×2.26/0.60m

**確認・調査：**Ⅵ層上面において黒色土の落ち込みを検出した。土層観察用の土手を残して掘り下げた。床面を検出した段階で小型の竪穴住居であることを確認した。

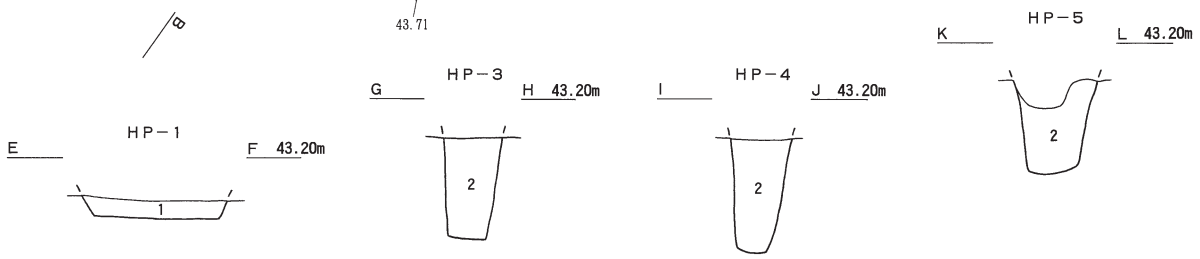
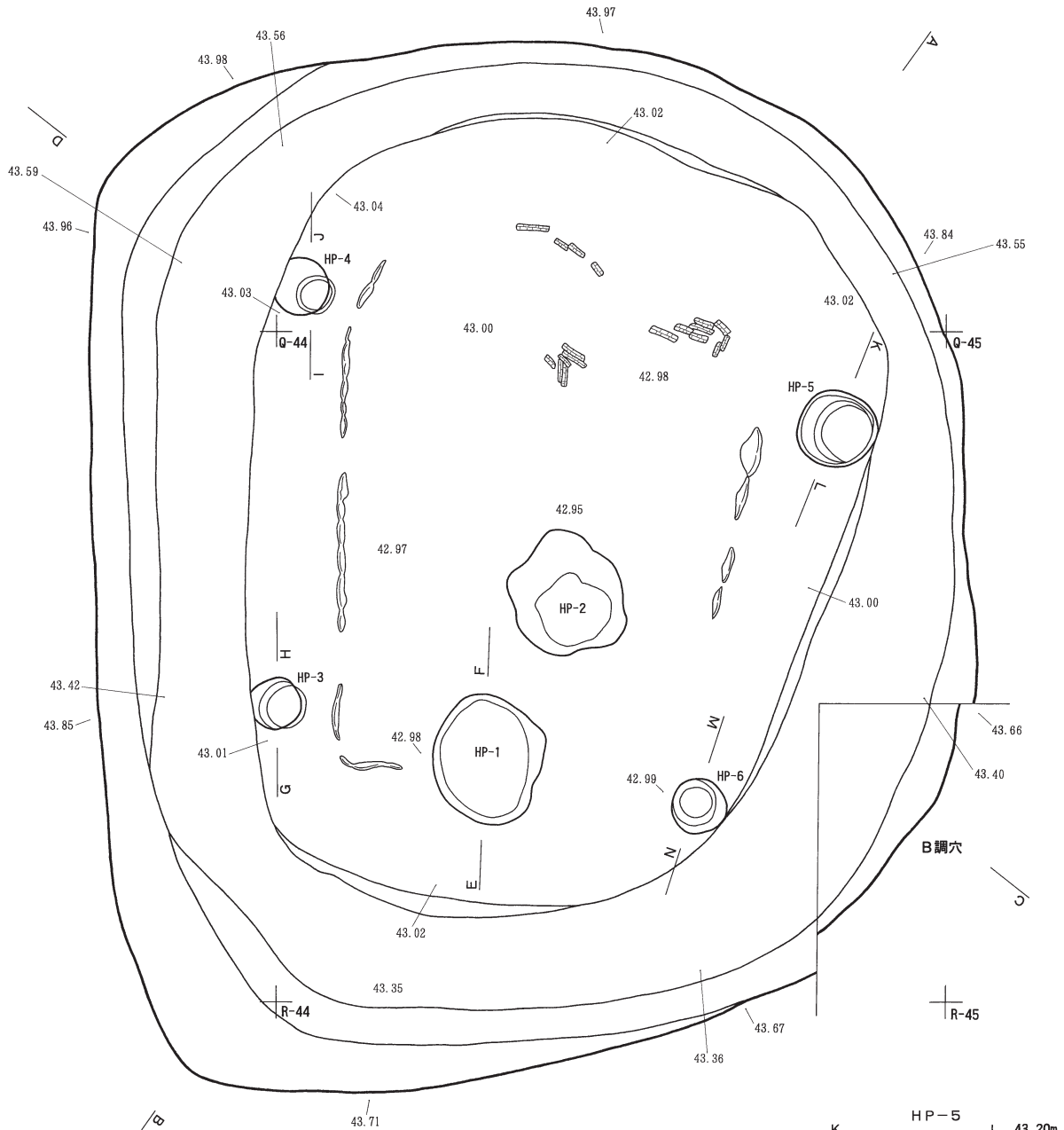
**覆土：**覆土1層は自然堆積である。2～3層はⅧ層主体土にⅤ～Ⅶ層が混じった土である。掘りあげ土の流入ないしは、土葺き屋根が崩落した可能性がある。5層は炭化物が密に混じった黒色土であるが、焼土は伴わない。最上部の6・7層は掘りあげ土なのかⅥ～Ⅷ層を主とした混じりの多い土である。堆積状況から当遺構構築以後の掘り上げ土が溜まった可能性がある。掘り込み面はⅥ層上面である。

**形態：**平面形が隅丸方形に近い、不整な形状の竪穴住居である。床面はほぼ平坦である。壁はおおよそ垂直に立ち上がり、東と南の角部はオーバーハングする。

**付属遺構：**柱穴等は確認できなかった。

**遺物出土状況：**埋没後の窪みに廃棄されたものか、人頭大の礫の出土が1・6層にある。床面からはⅢ群b-1類・榎林式土器（図Ⅲ-23-7・8・Ⅲ-92-1/Ⅲ-15-6・Ⅲ-92-2）がまとまって出土している。

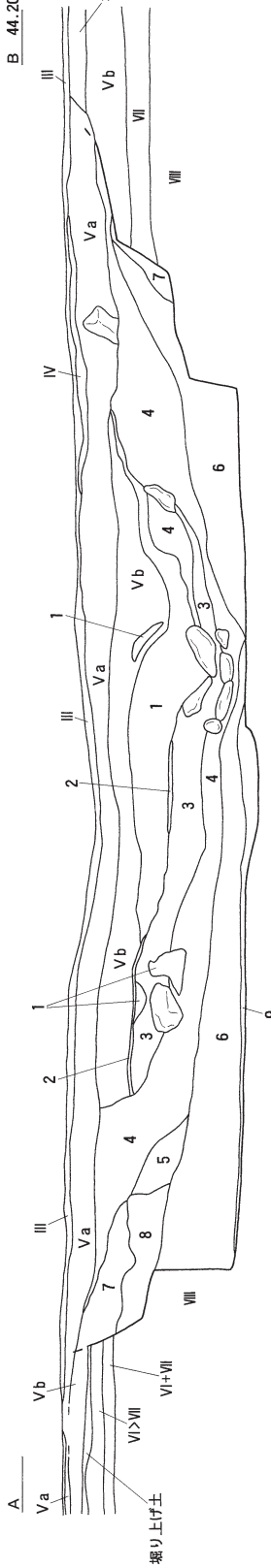
**時期：**出土遺物と形態から縄文時代中期中葉、Ⅲ群b-1類土器の時期と考えられる。（大泰司）



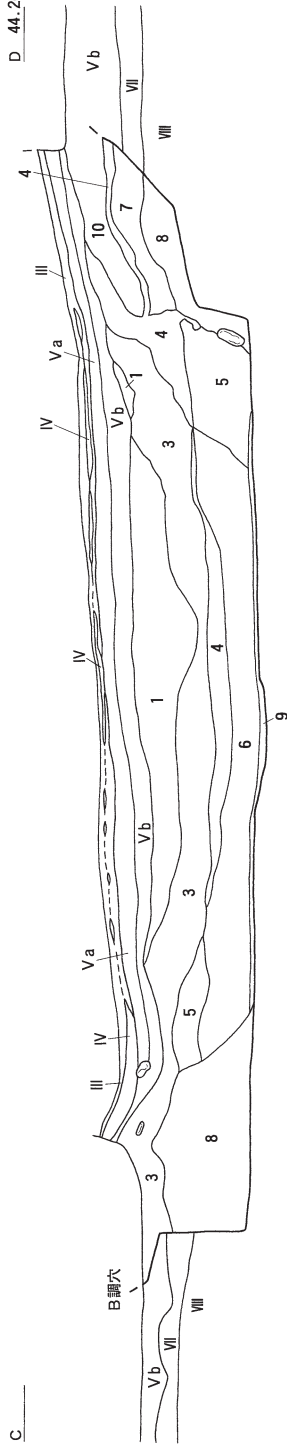
断面図		H=14		砂・粘土・シルト (長径2mm未満)		礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考	
番号	層位名称	主体層	混在層	野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	現在割合 %		種類
1	覆土1	VII	主体	壤土 (明黄褐色)	*	堅	?	軽石	2	*	*
2	覆土2	V+	M	壤土 (黒褐色)	*	(やや軟)	黄褐色軽石	2	*	*	*
3	覆土3	VI	> V	壤土 (暗褐色)	*	(やや軟)	黄褐色軽石	2	*	*	*
4	覆土4	VI	> V	壤土 (黒色)	*	(やや軟)	黄褐色軽石	2	*	*	*
5	覆土6+覆土8										
6	覆土6	VII	主体	壤土 (にぶい黄褐色)	*	軟	?	?	?	*	*
7	覆土7 (VIの流入)			壤土 (褐色)	*	軟	厚層軽石	?	?	*	*
8	覆土8	VII	主体	壤土 (明黄褐色)	*	中	軟	?	?	*	*
9	覆土9	*		壤土 (黒色)	*	強	軟	*	*	*	*
10	覆土10	V+	VI	壤土 (暗黄褐色)	*	軟	?	?	?	*	*
H=14・HP=1											
1	覆土1	Vb	VI	VI	壤土 黒褐色 10YR2/3	*	軟	?	?	炭	2
H=14・HP=3~6											
2	覆土1	VII	主体	壤土 明黄褐色 10YR6/6	*	軟	?	?	?	*	*

図III-20 H-14(1)

B 44.20m



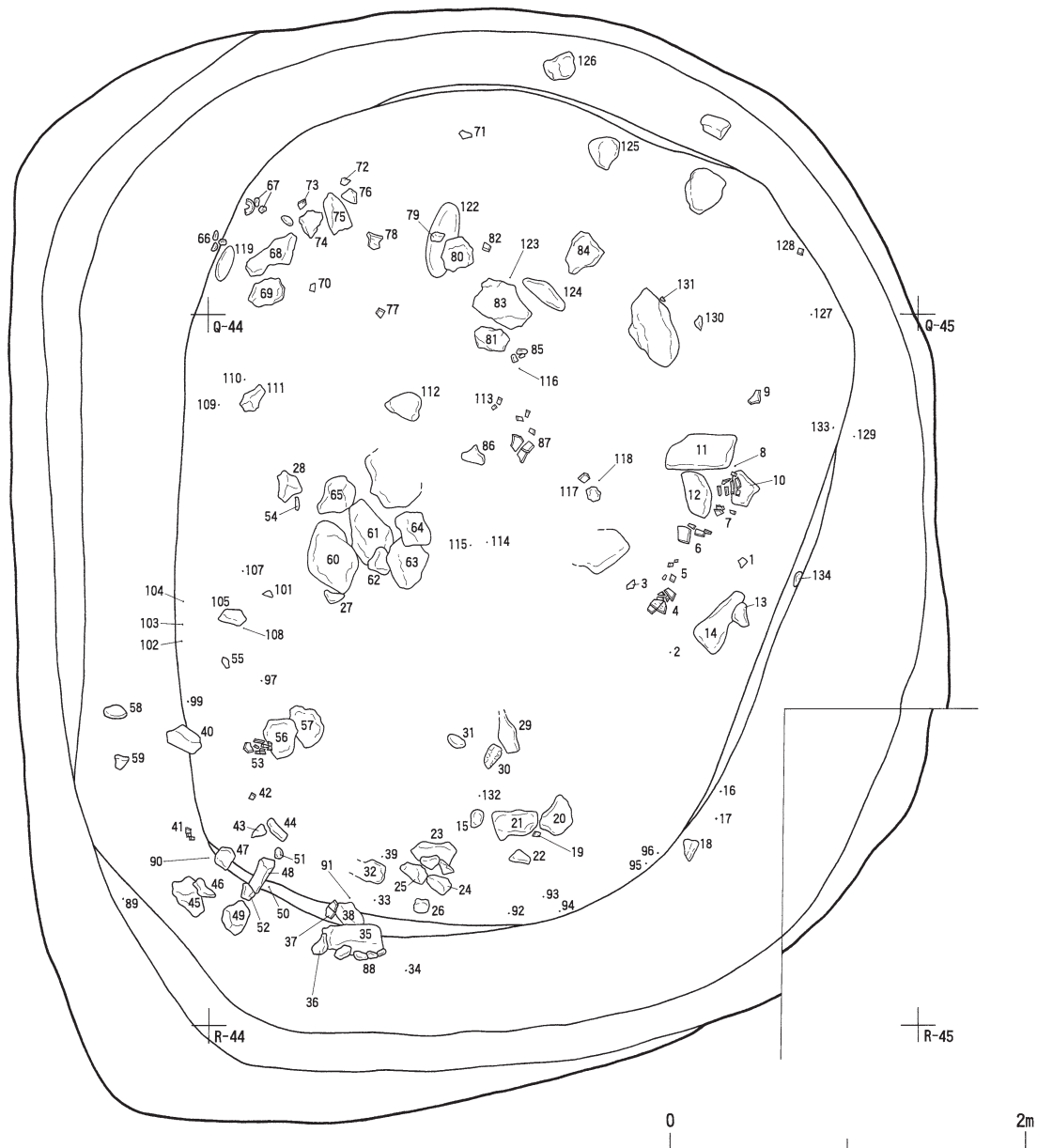
D 44.20m



発掘 層位 番号	遺物 種別	遺物 内容	時期分類 (石器) 種別	数量	層位	標高 (m)	視観	備考
1	101	新石器	石鏡	1	覆土6	43.98		
2	102	新石器	フレイク	1	覆土6	43.30		
3	103	新石器	フレイク	1	覆土6	43.37		
4	104-1	土器	瓦群&類	28	覆土3	43.51	○	
5	105	土器	瓦群&類	4	覆土3	43.28	○	
6	106	土器	瓦群&類	15	覆土3	43.42	○	
7	107-1	土器	瓦群&類	28	覆土3	43.74	○	
8	107-2	土器	瓦群&類	1	覆土3	43.82	○	
9	108	新石器	フレイク	1	覆土6	43.26		
10	110	土器	瓦群&類	1	覆土3	43.93		
11	111	新石器	石鏡	1	覆土3	43.78	○	
12	112	土器	瓦群&類	1	覆土3	43.77		
13	113	土器	瓦群&類	1	覆土3	43.78		
14	114	土器	瓦群&類	1	覆土3	43.71		
15	115	土器	瓦群&類	1	覆土3	43.63		
16	116	新石器	石鏡	1	覆土3	43.75	○	
17	117	新石器	フレイク	1	覆土3	43.84		
18	118	土器	瓦群&類	1	覆土3	43.60		
19	119	土器	瓦群&類	1	覆土3	43.56		
20	120	土器	瓦群&類	1	覆土3	43.53		
21	121	土器	瓦群&類	1	覆土3	43.45		
22	122	土器	瓦群&類	1	覆土3	43.55		
23	123	土器	瓦群&類	8	覆土3	43.89		
24	124	土器	瓦群&類	1	覆土3	43.84		
25	125	土器	瓦群&類	3	覆土3	43.75		
26	126	土器	瓦群&類	1	覆土3	43.85		
27	127	土器	瓦群&類	1	覆土3	43.84		
28	128	土器	瓦群&類	1	覆土3	43.78		
29	129	土器	瓦群&類	1	覆土3	43.42		
30	130	土器	瓦群&類	1	覆土3	43.38		
31	131	土器	瓦群&類	1	覆土3	43.83		加工痕あり
32	132	土器	瓦群&類	1	覆土3	43.64		
33	133	土器	瓦群&類	1	覆土3	43.51		
34	134	土器	瓦群&類	1	覆土3	43.81		
35	135	土器	瓦群&類	1	覆土3	43.77		
36	136	土器	瓦群&類	1	覆土3	43.82		
37	137	土器	瓦群&類	1	覆土3	43.77	○	
38	138	土器	瓦群&類	1	覆土3	43.82		
39	139	新石器	フレイク	1	覆土6	43.33	○	
40	140	土器	瓦群&類	1	覆土3	43.82		
41	141	土器	瓦群&類	1	覆土3	43.58		
42	142	土器	瓦群&類	1	覆土3	43.56		
43	143	新石器	フレイク	1	覆土3	43.53		
44	144-1	土器	瓦群&類	1	覆土3	43.55		
45	144-2	土器	瓦群&類	1	覆土3	43.80		
46	145	土器	瓦群&類	1	覆土3	43.77		
47	146	土器	瓦群&類	1	覆土3	43.67		
48	147	土器	瓦群&類	1	覆土3	43.85		
49	148	土器	瓦群&類	1	覆土3	43.86		
50	150	土器	瓦群&類	36	覆土3	43.72	○	
51	151	新石器	石鏡	1	覆土3	44.00		
52	152	土器	瓦群&類	1	覆土3	43.85		
53	153	土器	瓦群&類	59	覆土3	43.69	○	
54	154	新石器	フレイク	1	覆土6	43.28		
55	155	新石器	フレイク	1	覆土6	43.24		
56	156	土器	瓦群&類	1	覆土3	43.71		
57	157	土器	瓦群&類	1	覆土3	43.44		
58	158	土器	瓦群&類	1	覆土3	43.72		破片化
59	159	土器	瓦群&類	1	覆土3	43.73		
60	160	土器	瓦群&類	1	覆土1	43.69		
61	161	土器	瓦群&類	1	覆土1	43.66		
62	162	土器	瓦群&類	1	覆土1	43.70		
63	163	土器	瓦群&類	1	覆土1	43.69		
64	164	土器	瓦群&類	1	覆土1	43.85		
65	165	土器	瓦群&類	1	覆土1	43.80		
66	166	土器	瓦群&類	3	覆土3	43.50		
67	167-1	土器	瓦群&類	1	覆土3	43.35		
68	167-2	土器	瓦群&類	1	覆土3	43.69		
69	169	土器	瓦群&類	5	覆土3	43.69		
70	170	新石器	フレイク	1	覆土6	43.33		
71	171	新石器	フレイク	1	覆土6	43.55		
72	172	新石器	フレイク	1	覆土6	43.43		
73	173	土器	瓦群&類	1	覆土3	43.52		
74	174	土器	瓦群&類	1	覆土3	43.78		
75	175	土器	瓦群&類	1	覆土3	43.75		
76	176	土器	瓦群&類	1	覆土3	43.75		
77	177	土製品	再生土製品	1	覆土6	43.50	○	皿群b-1類
78	178	土器	瓦群&類	3	覆土6	43.45	○	
79	179	新石器	石鏡	1	覆土3	43.78		
80	180	土器	瓦群&類	1	覆土3	43.80		
81	181	土器	瓦群&類	1	覆土3	43.76		
82	182	土器	瓦群&類	1	覆土3	43.49		
83	183	土器	瓦群&類	1	覆土3	43.74		
84	184	土器	瓦群&類	1	覆土3	43.74		
85	185-1	土器	瓦群&類	2	覆土6	43.26		
86	185-2	土器	瓦群&類	1	覆土6	43.26		
87	186-1	新石器	フレイク	1	覆土6	43.34		
88	186-2	新石器	フレイク	1	覆土6	43.34		
89	187-1	土器	瓦群&類	15	覆土3	43.64	○	
90	187-2	土器	瓦群&類	1	覆土3	43.64	○	
91	188	土器	瓦群&類	9	覆土3	43.7	○	
92	189	土器	瓦群&類	13	覆土3	43.7	○	
93	190	新石器	フレイク	1	覆土6	43.22		掘り上げ土
94	191	土器	瓦群&類	1	覆土6	43.09		
95	192	土器	瓦群&類	1	覆土6	43.15		
96	193	土器	瓦群&類	1	覆土6	43.03		
97	194	新石器	フレイク	1	覆土6	43.03		
98	195	土器	瓦群&類	1	覆土6	43.12		
99	196	土器	瓦群&類	1	覆土6	43.11		
99	197	新石器	石鏡	1	床直	43.04	○	出土状況図に記載無し
99	198	新石器	フレイク	1	床直	43.05	○	出土状況図に記載無し
99	199	土器	瓦群&類	1	床直	43.12	○	出土状況図に記載無し
100	200	土器	瓦群&類	1	床直	43.12	○	出土状況図に記載無し
101	301	新石器	フレイク	1	床直	43.04	○	出土状況図に記載無し
102	302	土器	瓦群&類	1	床直	43.04	○	出土状況図に記載無し
103	303-1	新石器	フレイク	1	床直	43.04	○	出土状況図に記載無し
104	304	土器	瓦群&類	1	床直	43.04	○	出土状況図に記載無し
105	305	土器	瓦群&類	1	床直	43.20	○	加工痕あり
105	306	新石器	フレイク	1	床直	43.04	○	出土状況図に記載無し
107	307	土器	瓦群&類	2	床直	43.04	○	出土状況図に記載無し
108	308	新石器	フレイク	1	床直	43.03	○	出土状況図に記載無し
109	309-1	土器	瓦群&類	1	床直	43.03	○	出土状況図に記載無し
109	309-2	土器	瓦群&類	1	床直	43.03	○	出土状況図に記載無し
110	310	新石器	フレイク	1	床直	43.10	○	出土状況図に記載無し
111	311	土器	瓦群&類	1	床直	43.32	○	出土状況図に記載無し
112	312	新石器	石鏡	1	床直	43.36	○	出土状況図に記載無し
113	313-1	土器	瓦群&類	1	床直	43.30	○	出土状況図に記載無し
114	314	土器	瓦群&類	1	床直	43.28	○	出土状況図に記載無し
115	315	土器	瓦群&類	1	床直	43.28	○	出土状況図に記載無し
116	316	土器	瓦群&類	1	床直	43.26	○	出土状況図に記載無し
117	317-1	土器	瓦群&類	1	床直	43.28	○	出土状況図に記載無し
117	317-2	新石器	石鏡	1	床直	43.25	○	出土状況図に記載無し
118	318	新石器	フレイク	1	床直	43.25	○	出土状況図に記載無し
119	319	新石器	石鏡	1	床直	43.20	○	出土状況図に記載無し
120	320	新石器	石鏡	1	床直	43.06	○	出土状況図に記載無し
121	321-1	新石器	フレイク	1	床直	43.06	○	出土状況図に記載無し
122	322	土器	瓦群&類	1	床直	43.31	○	出土状況図に記載無し
123	323	新石器	フレイク	1	床直	43.06	○	出土状況図に記載無し
124	324-1	土器	瓦群&類	1	床直	43.28	○	出土状況図に記載無し
124	324-2	土器	瓦群&類	1	床直	43.28	○	出土状況図に記載無し
125	325	新石器	石鏡	1	床直	43.12	○	出土状況図に記載無し
126	326	土器	瓦群&類	1	床直	43.00	○	掘り上げ土
127	327	土器	瓦群&類	1	床直	43.12	○	掘り上げ土
128	328	土器	瓦群&類	1	床直	43.35	○	掘り上げ土
129	329	新石器	フレイク	1	床直	43.29	○	掘り上げ土
130	330	新石器	フレイク	1	床直	43.20	○	掘り上げ土
131	331	新石器	フレイク	1	床直	43.18	○	掘り上げ土
132	332	土器	瓦群&類	2	床直	42.88	○	掘り上げ土
133	333	土器	瓦群&類	1	床直	42.72	○	掘り上げ土
134	334	土器	瓦群&類	1	床直	43.16	○	掘り上げ土
135	335	土器	瓦群&類	7	床直	43.16	○	掘り上げ土

図III-21 H-14(2)





図Ⅲ-22 H-14(3)

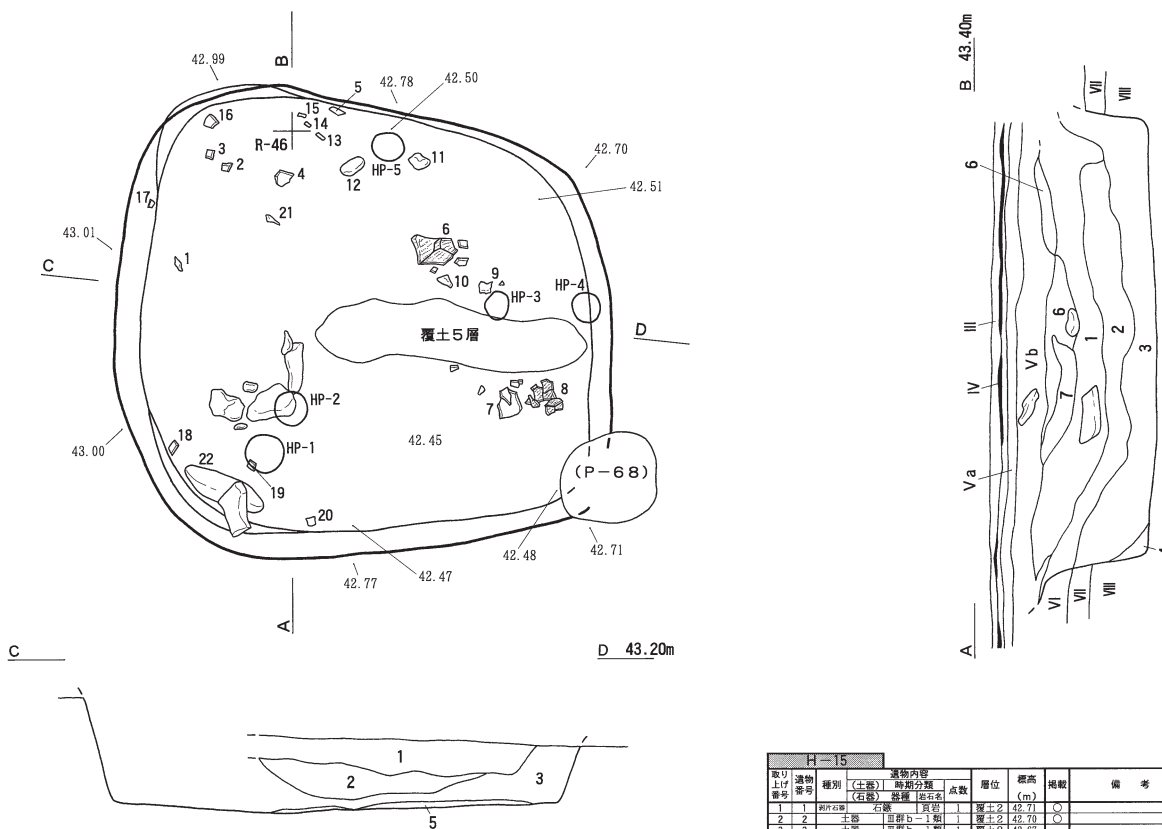
H-16 (図Ⅲ-24~2692・93・118・129・137、表1・2・9・14、図版20・21)

位置・立地：O・P-41・42区 最終面における標高43.60~43.80m付近の平坦面

規模：3.25×2.87/2.95×2.70/0.48m

確認：Ⅱ層軽石層の除去後、Ⅲ層上面の清掃作業中、明瞭な凹みが認められた。これの中央を通るように土層観察用のベルトを設けてから、周囲の包含層調査を進めた。Ⅴ層を掘り下げた時点で、黒色土が広範囲に堆積し、遺物が多く出土する状況が認められた。このベルト沿いに先行トレンチを設け、Ⅷ層上面付近まで掘り下げたところ、土層断面(図Ⅲ-24 AB断面図)に壁の立ち上がり、平坦な面を確認したので、遺構であると認定した。

調査：規模から竪穴式住居跡であるとの予想のもと、調査を進行させた。長軸方向にもベルトを設け、先のベルトと合わせてほぼ「十字」状になるように設定した。ベルトの両側をトレンチ状に掘り下げ、



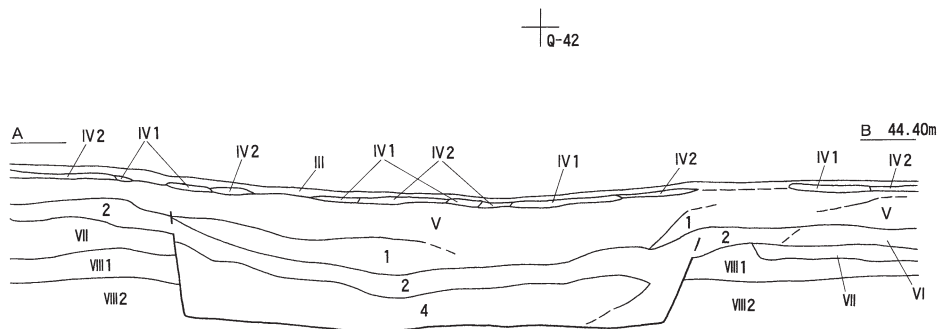
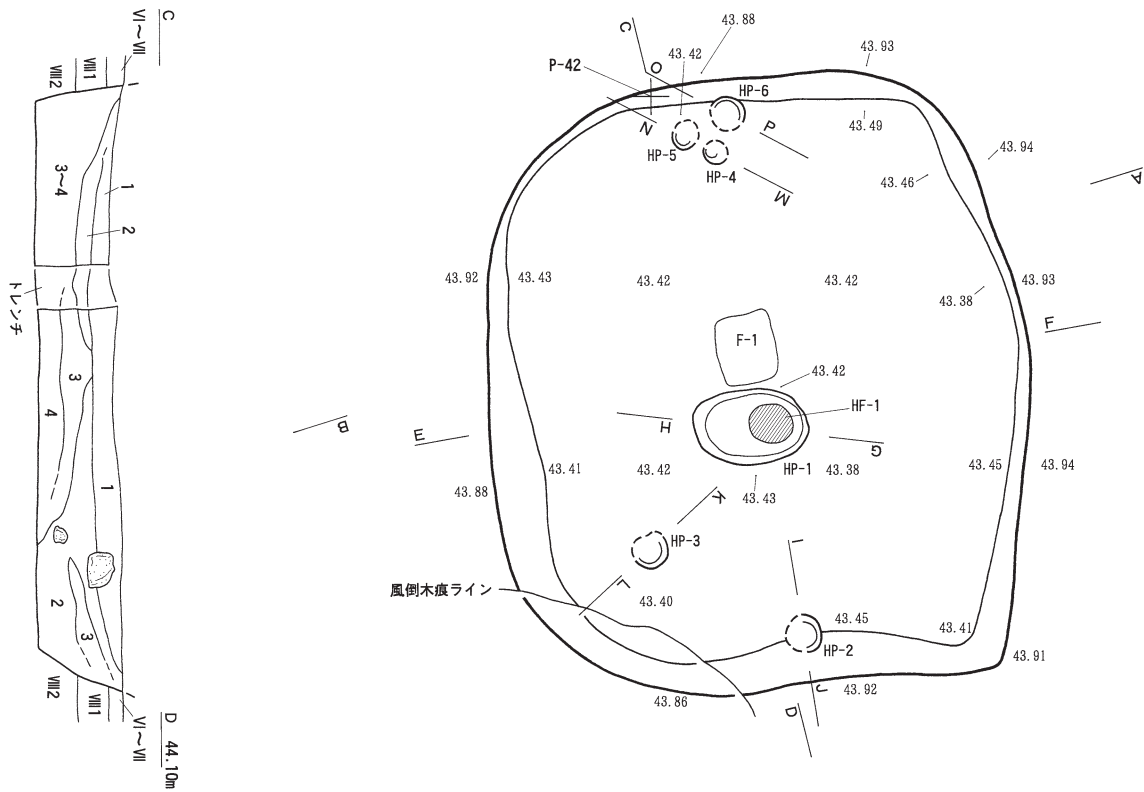
H-15										
断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)	礫 (長径2mm以上)	その他の混在物	備考			
				野外土性 全体的な色調 色名	粘着性	堅固度	種類	現在割合 %	種類	混在量
1	覆土1	V b	主体	覆土 黒色 [10R1/7]	*	堅	軽石	2	*	*
2	覆土2	(V~埋混じる)		覆土 黒色 [10YR4/3]	*	(やや軟)	黄褐色軽石	20	*	*
3	覆土3	(V~埋混じる)		覆土 黒色 [10YR5/4]	*	(やや軟)	黄褐色軽石	5	*	*
4	覆土4	(VIIの流入土)		覆土7 褐色 [7.5YR6/8]	*	(やや軟)	V層軽石	?	*	*
5	覆土5			覆土7 褐色 [10R1/7] (あり)	*	軟	炭化物	?	*	*
6	覆土6	(V~埋混じる)		覆土 黒色 [10YR2/1]	*	(やや軟)	黄褐色軽石	10	*	*
7	覆土7	(V~埋混じる)		覆土 褐色 [10YR4/4]	*	(やや軟)	黄褐色軽石	20	*	*
H-15・HP-1~5										
*	覆土1	*		覆土 黒色 [10R1/7]	*	*	軽石	2	*	*

H-15									
取り 上げ 番号	遺物 番号	遺物内容 種別 【土器】 【石器】	時期分類 器種 【石系】	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考	
1	1	土器	豆群b-1類	1	覆土2	42.71	○		
2	2	土器	豆群b-1類	1	覆土2	42.70	○		
3	3	土器	豆群b-1類	1	覆土2	42.67	○		
4	4	土器	豆群b-1類	1	覆土2	42.74	○		
5	5	土器	豆群b-1類	1	覆土2	42.78	○		
6	6	土器	豆群b-1類	7	床面	42.54	○		
7	7	土器	豆群b-1類	4	床面	42.51	○		
8	8	土器	豆群b-1類	26	床面	42.52	○		
9	9	土器	豆群b-1類	1	床面	42.53	○		
10	10	土器	豆群b-1類	1	床面	42.52	○		
11	11-1	土器	豆群b-1類	1	覆土3	42.65	○		
12	12	土器	豆群b-1類	1	床面	42.55	○		
13	13	土器	豆群b-1類	1	床面	42.50	○		
14	14	土器	豆群b-1類	1	覆土3	42.57	○		
15	15	土器	豆群b-1類	1	床面	42.78	○		
16	16-1	土器	豆群b-1類	1	覆土3	42.62	○		
17	17	土器	豆群b-1類	1	覆土3	42.76	○		
18	18	土器	豆群b-1類	1	覆土3	43.00	○		
19	19	土器	豆群b-1類	2	覆土3	42.61	○		
20	20	土器	豆群b-1類	1	覆土3	42.61	○		
21	21	土器	豆群b-1類	1	床面	?	○		
22	22	土器	豆群b-1類	1	覆土3	42.82	○		

図III-23 H-15

すべてにおいて床面と壁を確認してから、全体を掘り広げるように調査を進めた。土層断面の記録を作成後、ベルト部分も掘り下げ完掘とした。中央付近では、覆土第2層中に焼土(F-1)、床面に掘り込みのある地床炉(HP-1・HF-1)が認められ、これらを調査後、柱穴の確認を行った。住居跡の壁や床面、その周囲の確認面を数回掘り下げ、土の差異が認められた部分をすべて半截し、断面形態と覆土から特定した。柱穴は5カ所(HP-2~6)確認された。以上の調査内容から、竪穴式住居跡であると判断される。また、周囲のV層中では掘り上げ土の堆積も(図III-2 P~T-40~42区掘り上げ土)認められ、東側の一部分は風倒木痕により切られる。

**覆土:** 覆土は、黒色の色調を呈する層を「覆土第1層」、黄色の層を「覆土第3層」、その中間的な色調の層を「覆土第2層」とし、主に相対的な色調を手がかりに大別した。さらに、覆土第2層は「2a層」、「2b層」に細分した。覆土第1層はVIII層軽石が混在することで、自然層位V層と区別される。覆土第2a層及びこれに類する層(掘り上げ土a層)は遺構外にも広く認められ、掘り上げ土の流入により堆積したと考えられる。



断面図		H-16		砂・粘土・シルト (粒径2mm未満)		礫 (粒径2mm以上)		その他の混在物		備考	
断面番号	層位名称	主体層	混在層	野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅硬度	種類	現在割合 %		
1	覆土第1層	V	主体	堆積土	黒褐色 10YR3/2	強	堅	VI 2 (No) 軽石	5%	無	黒色土主体
2	覆土第2層 第2 a 層	V +	VI + VI	堆積土	に灰み混色 10YR4/3	中~強	すこぶる堅	VI 2 (No) 軽石	10%	無	掘り上げ土の混入
3	覆土第2層 第2 b 層	V >	VI + VI	堆積土	赤褐色 10YR3/3	強	すこぶる堅	VI 2 (No) 軽石	5%	無	黒色土主体
4	覆土第3層	VII 1 + VII 2 >	V	堆積土	暗灰黄色 2.5Y4/2	中~強	堅	VI 2 (No) 軽石	7%	炭化物 少量	黄~灰色土主体
H-16・HP-1											
1	覆土第1層	VII 1 + VII 2 >	VI	堆積土	灰黄褐色 10YR4/2 に灰み混色 10YR4/3	強	軟	VI 2 (No) 軽石		無	
2	覆土第2層	V + VII 2 >	VII 1	堆積土	黒色 10YR1/1	中~強	すこぶる堅			炭化物 少量	
H-16・HF-1 炉跡 (HP-1 内)											
3	焼土 (炉跡)	*		堆積土	に灰み混色 5YR5/3 に灰み混色 7.5YR5/4	中	堅~すこぶる堅				VI 2 層が破砕地床層
H-16・HP-2 柱穴											
1	覆土第1層	VII 1 >	V			強	しろう				
H-16・HP-3 柱穴											
1	覆土第1層	V >	VII 1			強	しろう				
H-16・HP-4・5 柱穴											
1	覆土第1層	V >	VI 1			強	しろう				HP-4 覆土
2	覆土第1層	V +	VI 1			中~強	しろう				HP-5 覆土
H-16・HP-6 柱穴											
1	覆土第1層	VII 1 >	V			強	しろう				
H-16・F-1											
*	焼土	焼土 +	覆土第1層		焼土の特徴					炭化物 微量	覆土第1層直下 覆土第2 a・2 b 層中

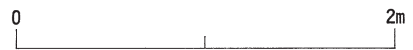
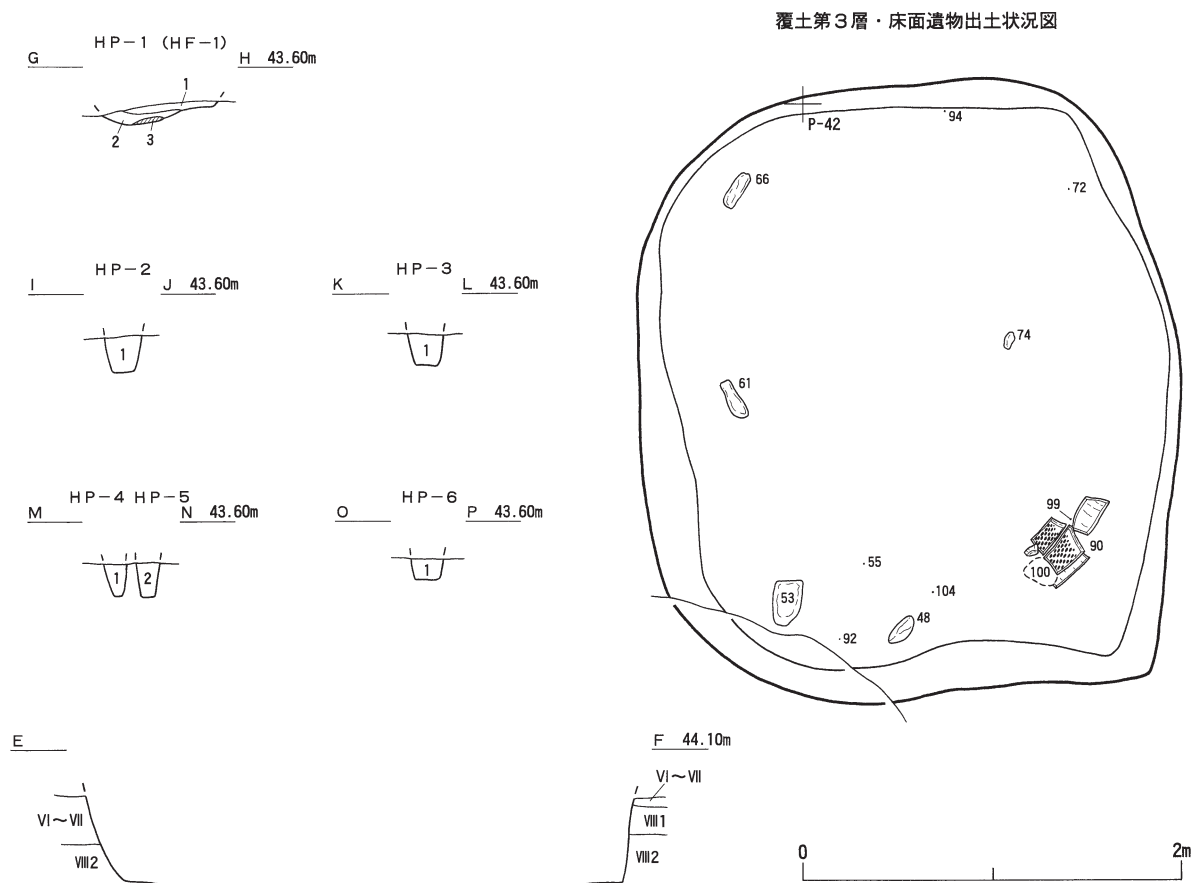


図 III - 24 H-16(1)



図Ⅲ-25 H-16(2)

**形態：**平面は、隅丸長方形と判断され、断面は、床面は概して平坦で、両壁は直立気味に立ち上がる形態を呈する。

**付属遺構：**付属遺構の調査は、覆土中に位置するものを除いては、完掘後に行った。

・掘り込みをもつ地床炉：土坑；HP-1 炉跡（焼土）；HF-1

住居跡のほぼ中央の床面に位置する。楕円形を呈する土坑（HP-1）の坑底面に、炉跡と考えられる焼土（HF-1）が確認された。掘り込みをもつ地床炉であると考えられる。

・柱穴；HP-2～6

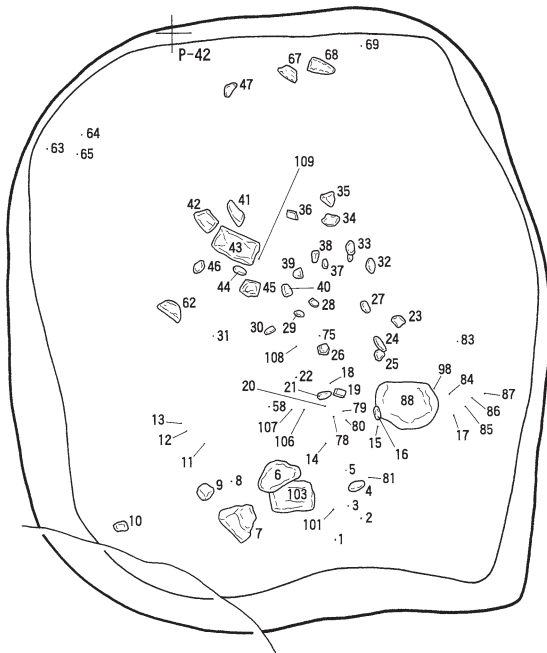
5カ所確認された。長軸上の北東側に1カ所（HP-2）、その南西側に3カ所（HP-4～6）、そして北東側の1カ所（HP-3）である。いずれも先端部が尖らず、幅を有し平坦な坑底を有する断面形態を呈する。

・焼土；F-1

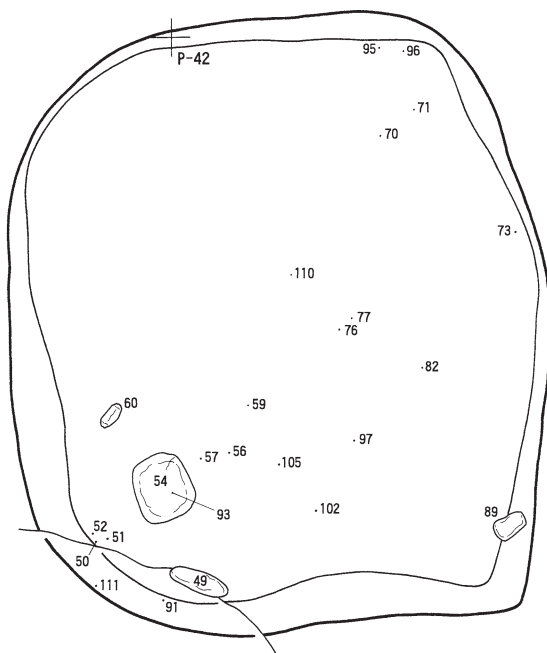
ベルト上の覆土第2層中で確認された。層厚2～3cmである。

**遺物出土状況：**遺物は原則として、すべて出土位置や高さ、層位を記録して取り上げた。取り上げ層位は大別層位とした。床面及び覆土第3層の出土遺物は、Ⅲ群b類土器や自然礫があり、特に北側部分からは、Ⅲ群b-1類の榎林式が一個体まとまって（図Ⅲ-25-90・100・Ⅲ-92-1）出土した。覆土第2層の遺物は、Ⅲ群a・b類・Ⅳ群a類土器やスクレイパー、扁平打製石器（一次分類は「すり石」）、台石等があり、北側部分に少なく、南側部分では出土が認められない。覆土第1層からは最も多く遺物が出土した。Ⅳ群a類土器のほとんど（図Ⅲ-26-1・Ⅲ-93-4/Ⅲ-26-26・Ⅲ-93-5）はこの層位からの出土で、石器類ではつまみ付きナイフ、スクレイパー、U・Rフレイク、扁平

覆土第1層遺物出土状況図



覆土第2層遺物出土状況図



取り上げ 番号	遺物 番号	種別	(土器) 分類 (石器) 用途	時期分類	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
1	1	土器	V群α類	3	1	第1層	43.84	○	
2	2	灰石	スライバー	めがち	1	第1層	43.84		
3	3	土器	土器		1	第1層	43.81		
4	4	土器	土器		1	第1層	43.88		使用後・加工後
5	5	土器	土器		1	第1層	43.80		
6	6	土器	土器		1	第1層	43.80		
7	7	土器	土器		1	第1層	43.86		
8	8	土器	V群α類	3	1	第1層	43.80		
9	9	土器	土器		1	第1層	43.80		
10	10	土器	土器		1	第1層	43.82		
11	11	土器	V群α類	1	1	第1層	43.87		
12	12	土器	土器		1	第1層	43.85		
13	13	土器	V群α類	2	1	第1層	43.88		
14	14	土器	V群α類	2	1	第1層	43.81		
15	15	土器	土器		1	第1層	43.80		
16	16	土器	土器		1	第1層	43.80		
17	17	土器	V群α類	1	1	第1層	43.81		
18	18	土器	V群α類	1	1	第1層	43.80		
19	19	土器	V群α類	1	1	第1層	43.89		
20	20	土器	V群α類	2	1	第1層	43.89		
21	21	土器	土器		1	第1層	43.88		
22	22	土器	土器		1	第1層	43.80		加工後
23	23	土器	南四石山岩		1	第1層	43.88		加工後
24	24	土器	土器		1	第1層	43.88		
25	25	土器	土器		1	第1層	43.88		
26	26	土器	V群α類	1	1	第1層	43.85	○	
27	27	土器	土器		1	第1層	43.86		
28	28	土器	土器		1	第1層	43.85		
29	29	土器	土器		1	第1層	43.84		
30	30	土器	砂岩	1	1	第1層	43.86		
31	31	土器	土器		1	第1層	43.86		
32	32	土器	土器		1	第1層	43.88		
33	33	土器	土器		2	第1層	43.80		
34	34	土器	土器		1	第1層	43.88		
35	35	土器	南四石山岩		1	第1層	43.88		
36	36	土器	V群α類	1	1	第1層	43.88		
37	37	土器	土器		1	第1層	43.86		
38	38	土器	土器		1	第1層	43.81		
39	39	土器	土器		1	第1層	43.87		
40	40	土器	土器		1	第1層	43.86		
41	41	土器	土器		1	第1層	43.71		
42	42	土器	土器		1	第1層	43.85		
43	43	土器	白石	1	1	第1層	43.81	○	
44	44	土器	土器		1	第1層	43.89		
45	45	土器	土器		1	第1層	43.88		
46	46	土器	土器		1	第1層	43.80		
47	47	灰石	スライバー	玄英岩	1	第1層	43.87	○	
48	48	土器	土器		1	第1層	43.45		使用後・加工後
49	49	土器	土器		1	第2層	43.74	○	
50	50	土器	南四石山岩		1	第2層	43.87		
51	51	土器	土器		1	第2層	43.77		
52	52	土器	土器		1	第2層	43.70		
53	53	土器	土器		1	第2層	43.46		
54	54	土器	白石	1	1	第2層	43.66	○	
55	55	土器	土器		1	第2層	43.45		
56	56	土器	土器		1	第2層	43.72		
57	57-2	灰石	スライバー	玄英岩	3	第2層	43.61		
58	58	土器	V群α類	4	1	第2層	43.86		
59	59	土器	V群α類	1	1	第2層	43.71		
60	60-2	土器	土器		13	第2層	43.65	○	接合
61	61	土器	土器		1	第2層	43.44		
62	62	土器	土器		1	第2層	43.78		
63	63	土器	土器		1	第2層	43.85		
64	64	土器	土器		1	第2層	43.87		
65	65	土器	V群α類	1	1	第2層	43.86		
66	66	土器	土器		1	第2層	43.43		
67	67	土器	土器		1	第2層	43.85	○	
68	68	土器	土器		1	第2層	43.86	○	
69	69	土器	土器		1	第2層	43.84	○	
70	70	土器	土器		1	第2層	43.72	○	
71	71	土器	V群α類	1	1	第2層	43.77	○	
72	72	土器	土器		1	第2層	43.80		
73	73	土器	土器		1	第2層	43.87		
74	74	土器	南四石山岩		1	第2層	43.43		
75	75	土器	V群α類	1	1	第2層	43.86		
76	76	土器	土器		1	第2層	43.74		
77	77	土器	V群α類	5	1	第2層	43.72	○	
78	78	灰石	スライバー	めがち	1	第2層	43.81		
79	79	土器	土器		1	第2層	43.87		
80	80	灰石	スライバー	玄英岩	1	第2層	43.77	○	
81	81	土器	土器		1	第2層	43.80		
82	82	土器	土器		1	第2層	43.68		
83	83	灰石	Vフレイク	頁岩	1	第2層	43.85		
84	84	土器	土器		1	第2層	43.79		
85	85	土器	土器		1	第2層	43.82		
86	86	土器	土器		1	第2層	43.83		
87	87	土器	土器		1	第2層	43.85		
88	88	土器	土器		1	第2層	43.70		
89	89	土器	南四石山岩		1	第2層	43.87		
90	90	土器	土器		38	第2層	43.81	○	根柱式
91	112	土器	V群β-1類	27	1	第2層	43.45	○	
91	91	土器	土器		1	第2層	43.43		
92	92	土器	土器		1	第2層	43.55		
93	93	土器	土器		1	第2層	43.68		
94	94	土器	土器		1	第2層	43.54		
95	95	土器	土器		1	第2層	43.72		
96	96	土器	土器		1	第2層	43.75		
97	97	土器	土器		1	第2層	43.57		
98	98	土器	土器		1	第2層	43.75		
99	99	土器	土器		1	第2層	43.42		
100	100	土器	V群β-1類	41	1	第2層	43.62	○	0と同一個体である小破片の集まり
101	101	土器	V群β-1類	11	1	第2層	43.77	○	
102	102	土器	土器		1	第2層	43.60		
103	103	土器	土器		1	第2層	43.73		
104	104	土器	土器		1	第2層	43.44		
105	105	土器	土器		1	第2層	43.53		
106	106	土器	土器		1	第2層	43.71		
107	107	土器	V群α類	2	1	第2層	43.83		
108	108	土器	土器		1	第2層	43.70		
109	109-1	灰石	スライバー	玄英岩	1	第2層	43.80		
110	110	土器	土器		1	第2層	43.72		
111	111	土器	土器		1	第2層	43.61		

図Ⅲ-26 H-16(3)



打製石器（一次分類は「すり石」、台石等がある。

時期：出土遺物から考えると、縄文時代中期後半と判断される。

（末光）

H-17（図Ⅲ-27・93・94・118・119・123・138、図版22）

位置・立地：S・T-42区 標高43.00～43.40mの平坦面

規模：3.94×3.70/3.74×3.50/0.15m

確認・調査：V層下位からVI層上面において黒色土の落ち込みを検出した。そのほぼ中央には拳大～人頭大の礫がC字状に並んでいた。その周囲からはIV群a類土器のまとまった出土があった。土層観察用の土手を残して掘り下げたところ、極めて浅い掘り込みが確認された。掘り込みはVI層下位からVII層中で止まっている。床面を検出した段階で、竪穴住居であると判断した。

覆土：覆土1層はVb層主体の流入である。掘り込み面は検出面とほぼ同じV層下位である。

形態：平面形は崩れた円形である。楕円形をした配石の長軸の延長線を対称軸として線対称の形状である。床面はほぼ平坦である。

付属遺構：確認面で検出したC字状に配された礫が石組炉であった。西側が開いている形状である。平面形のほぼ中央に暗赤褐色土の土が、不整な楕円形に分布する。焼土と考えられるその土を取り囲むようにC字状に礫が配されている。礫は地面から露出している部分について赤色化しており、炉石として被熱したものと考えられる。炉石についてはすべて礫であった。炉石を設置した順番は、まずに北角を構成する比較的大型の板状礫（図Ⅲ-27-15）を設置し、次に南角に向かって順番に北東壁と南東壁を形成していったものと観察した（図Ⅲ-27-16から18、19、20へ）。ただし東角を構成する礫の両脇にある比較的小型な礫（同17）はいずれも炉を構築した最後に隙間を埋めるのに差し込んだ可能性もある。炉の焼土は明瞭な橙色ではないが、肉眼で焼骨片が確認できた。焼土はフローテーション法にて処理した。

遺物出土状況：覆土1層上位を主として覆土中からまとまったIV群a類土器と礫が検出された。その中には台石のように礫石器も混じる。形状的に類似しているH-18と覆土中の遺物出土状況がよく似ているが、石核とフレイクの出土量がH-18より多い。取り上げ番号3の土器は炉の掘り込み西側のへりからまとまって出土した土器破片を一括して取り上げたものである。床面～覆土1層下位にかけてIV群a類土器（図Ⅲ-27-1・14・Ⅲ-93-1）がまとまって出土した。27-1には93-2の破片が混在していた。

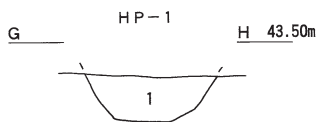
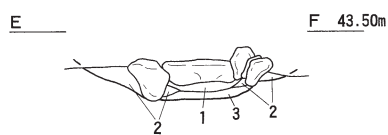
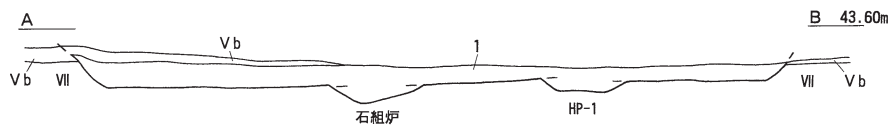
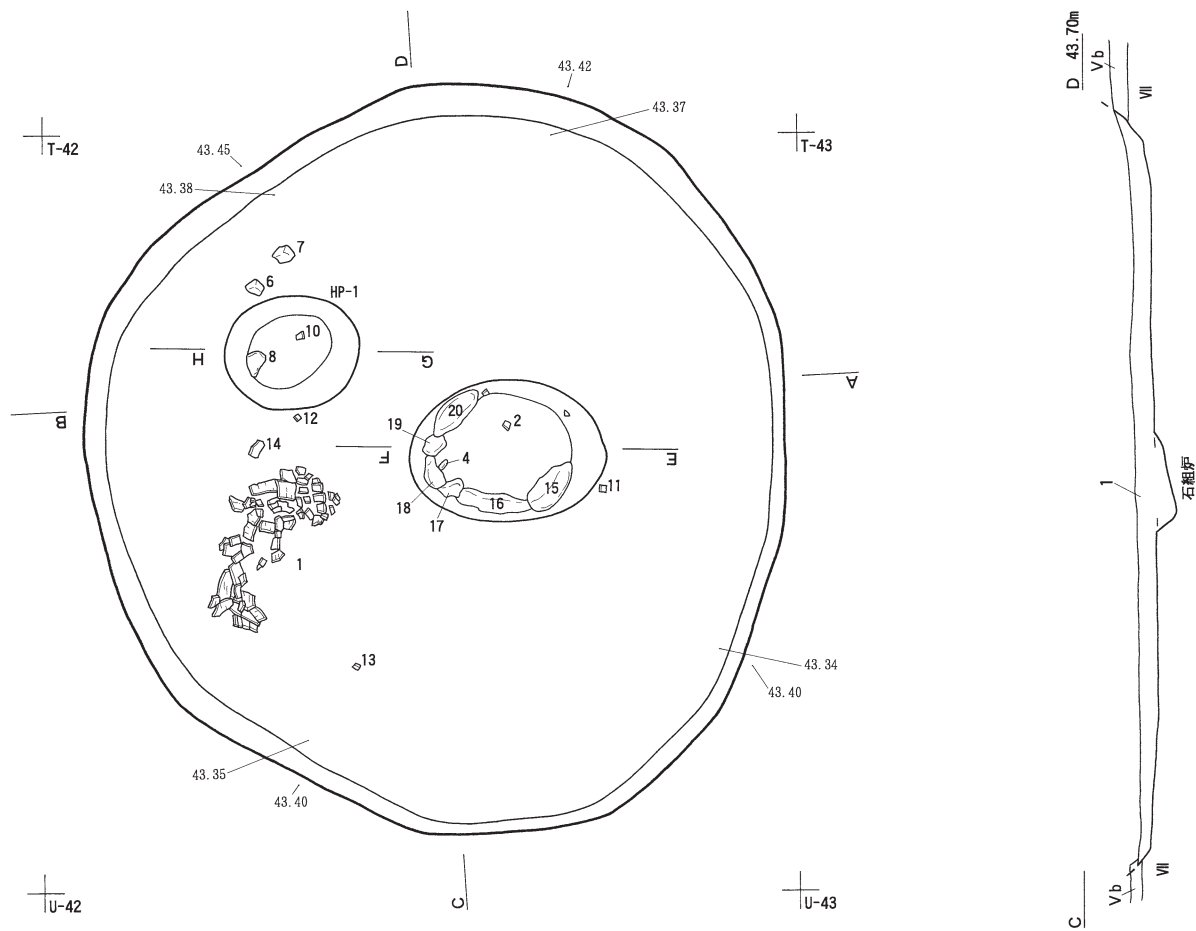
時期：出土遺物とその出土状況から縄文時代後期前葉、IV群a類土器の時期と考えられる。（大泰司）  
フローテーション成果：石組炉HF-1内部の土をフローテーション法にて処理した。その結果、焼骨片、炭化種子を検出した。焼骨片は魚類の骨を主として、獣骨と鳥類の骨が混じる。魚類の骨はニシンを主として、アイナメ、サメ、鯛科の魚、他に同定不能なものが出土した。獣骨と鳥類の骨の種類は不明である。炭化種子はニワトコ属、キハダ属、ブドウ科、ウルシ属が検出され、同定不能なものも混じる。（詳細はV章1・2）

H-18（図Ⅲ-28・94・95・119・123・138、図版23）

位置・立地：R-42区、S-41・42区 標高43.20～43.40mの平坦面

規模：4.50×3.32/4.36×3.16/0.06m

確認・調査：V層下位からVI層上面において黒色土の落ち込みを検出した。そのほぼ中央には拳大～人頭大の礫がC字状に並んでいた。その周囲からはIV群a類土器のまとまった出土があった。土層観



H-17									
取リ上げ 番号	遺物 番号	種別 (土器) (石器)	遺物内容 母形分類 器種 器名	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考	
1	101	土器	N群a類	304	探直~ 層上1	43.31 43.35	○		
2	102	土器	N群a類	3	炉内層土	43.31	○		出土位置図で番号重複
3	103	土器	N群a類	10	炉内層土	?			出土位置図に記載無し
4	104	燧石	燧石	3	炉内層土	43.32			
5	105	燧石	フリート	2	炉内層土	?			出土位置図に記載無し
6	106	燧石	燧石	1	床直	43.38			
7	107	燧石	燧石	5	床直	43.40			
8	108	燧石	フリート	1	床直	43.38	○		出土位置図に記載無し
9	109	燧石	燧石	1	層上1	?			出土位置図に記載無し
10	110	土器	N群a類	1	床直	43.35			
11	111	土器	N群a類	1	床直	?			
12	112	土器	N群a類	6	床直	43.38			
13	113	土器	N群a類	1	床直	43.34			
14	114	土器	N群a類	6	床直	43.44			
15	115	燧石	燧石	1	床直	43.34			石組炉の燧石
16	116	燧石	燧石	1	床直	43.32			石組炉の燧石
17	117	燧石	燧石	1	床直	43.37			石組炉の燧石
18	118	燧石	燧石	1	床直	?			石組炉の燧石
19	119	燧石	燧石	1	床直	43.27			石組炉の燧石
20	120	燧石	燧石	1	床直	43.34			石組炉の燧石

H-17											
断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)			礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考
				野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類	
1	層土1	Vb	主体	壤土	黒褐色 10YR2/2	*	軟	*	*	*	*
H-17 石組炉											
1	層土1	*	*	壤土	黒褐色 10YR2/2	*	(やや軟)	軽石	5	*	*
2	層土2	(Vb15%混じり)	*	壤土	黒褐色 10YR2/2	*	(やや軟)	軽石	5	*	*
3	層土(伊藤)	燧石	V	壤土	赤褐色 5YR4/8	*	軟	*	*	骨片	?
H-17・HP-1											
1	層土1	*	*	壤土	黒褐色 10YR2/2	*	(やや軟)	軽石	5	*	*



図III-27 H-17

察用の土手を残して掘り下げたところ、極めて浅い掘り込みが確認された。掘り込みはⅥ層下位からⅦ層で止まっている。床面を検出した段階で、竪穴住居であると判断した。

**覆土：**覆土1層はⅥ層とⅦ層が入り混じった土層である。覆土3層はⅤb層主体である。いずれも流入である。掘り込み面は検出面とほぼ同じⅤ層下位と考える。

**形態：**平面形は不整な楕円形である。長軸は南-北方向を向く。床面はほぼ平坦である。

**付属遺構：**確認面で検出したC字状に配された礫が石組炉であった。西側が開いている形状である。平面形のほぼ中央に暗赤褐色土の土が、不整な楕円形に分布する。長軸は南-北方向を向く。焼土と考えられるその土を取り囲むようにC字状に礫が配されている。礫は地面から露出している部分について赤色化しており、炉石として被熱したものと考えられる。炉石についてはすべて礫であったが、南東角を構成する1点について使用痕が確認できた。炉石を設置した順番は、まずに南壁を構成する比較的大型の板状礫(図Ⅲ-28-10)を設置し、次に南東角(同11)と南西角(同12)、次に南東角から北角に向かって順番に(同13から14へ)東壁を形成していったものと観察した。炉の焼土は明瞭な橙色ではないが、肉眼で焼骨片が確認できた。焼土はフローテーション法にて処理した。

**遺物出土状況：**覆土3層上位を主として覆土中からまとまったⅣ群a類土器と礫が検出された。その中には台石のように礫石器も混じる。床面直上から石斧(図Ⅲ-123-9)が出土している。炉の南東に位置する大型礫ふたつにはさまれる位置からの出土である。覆土3層からまとまってⅣ群a類土器(図Ⅲ-27-2・14・Ⅲ-94-1/Ⅲ-27-3・4・Ⅲ-93-5/Ⅲ-27-7・14・Ⅲ-94-4)が出土している。

**時期：**出土遺物とその出土状況から縄文時代後期前葉、Ⅳ群a類土器の時期と考えられる。(大泰司)  
**フローテーション成果：**石組炉HF-1内部の土をフローテーション法にて処理した。その結果、焼骨片、炭化種子を検出した。焼骨片は鳥類の骨とシカを主体とする獣骨を主としており、それに魚類の骨が混じる。魚類の骨はカレイと同定不能なものである。鳥類の骨の種類は不明である。炭化種子はブドウ科が検出され、同定不能なものも混じる。(詳細はⅤ章1・2)

H-19(図Ⅲ-29~32・95~98・119・129、表1・2・9・14、図版24・25-1)

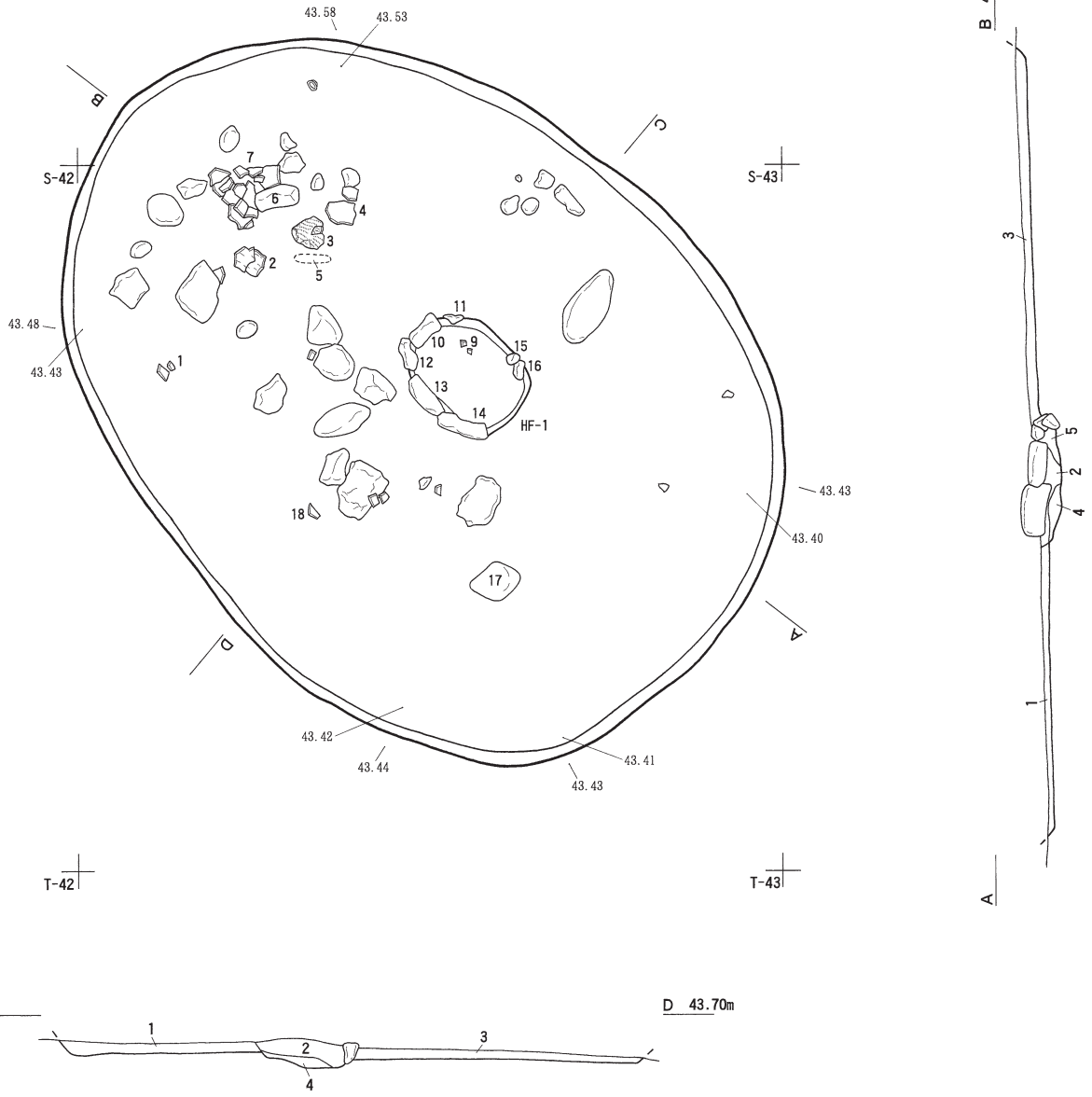
**位置・立地：**Q・R-41・42区 最終面における標高44.60~46.40m付近の平坦面

**規模：**3.17×2.59/3.06×2.48/0.48m

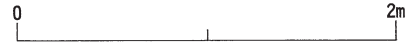
**確認：**Ⅴ層の包含層調査中、ゆるやかな凹みと、その周囲に掘り上げ土と考えられる土の堆積が認められた(図Ⅲ-2 P~T-40~42区掘り上げ土)。遺構であるか確認するため、42ライン沿いのQ~S間にトレンチを設け、Ⅷ層上面まで掘り下げたところ、遺構であるとの確証はつかめなかったが、P-83(図Ⅲ-67 P-80・83)が確認された。念のため土層断面を記録(図Ⅲ-29 AB断面図)し、周辺の包含層を進行させ、Ⅷ層上面まで掘り下げたところ、炭化材と、自然層位のⅧ層と比べて色調が若干異なる黄色土が認められた。その範囲の中央付近で直交するよう、土層観察用のベルトを設定し、その両側にトレンチを設け掘り下げたところ、平坦な面と壁の立ち上がりが認められたので、遺構と認定した。当初、42ラインのトレンチの土層断面において、Ⅷ層主体の覆土第4層を地山である自然層位のⅧ層と誤認していた。

**調査：**十字ベルト沿いのトレンチすべてで、壁の立ち上がりと床面を確認してから、全体を掘り広げるように調査を進行させた。覆土第4層~床面にかけてさらに多数の炭化材と焼土が認められ、材の形状を保つ炭化材については番号(Ca1~21)を付し、他の覆土の混入が少なく、比較的大きなまとまりとして認識できうる焼土について番号(F-2~7)を付し、それぞれ記録した。付属遺構の

H-18								
取上げ番号	遺物種類	遺物内容			層位	標高(m)	掲載	備考
		種別(土器)	時期分類	数量				
1	土器	V群a類	3	覆土3	43.53	○		
2	土器	V群a類	5	覆土3	43.54	○		
3	土器	V群a類	12	覆土3	43.52	○		
4	土器	V群a類	11	覆土3	43.52	○		
5	土器	V群a類	7	覆土3	?			
5-2	銅器	アライク	1	覆土3	43.87			
6	土器	V群a類	23	覆土3	43.58	○		
7	土器	V群a類	2	床底	*	○	出土位置図に記載なし	
8	土器	V群a類	2	床底	43.49			
9	土器	V群a類	2	床底	43.48			
10	土器	V群a類	1	床底	43.52		石組跡の砂石	
11	土器	V群a類	1	床底	43.52		石組跡の砂石	
12	土器	V群a類	1	床底	43.50		石組跡の砂石	
13	土器	V群a類	1	床底	43.51		石組跡の砂石	
14	土器	V群a類	1	床底	43.55		石組跡の砂石	
15	土器	V群a類	1	床底	43.49		石組跡の砂石	
16	土器	V群a類	1	床底	43.26		石組跡の砂石	
17	土器	V群a類	1	床底	43.47			
18	土器	V群a類	2	床底	?			



H-18											
断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)			礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考
				野外土性 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類	混在量	
1	覆土1	VI +	VI	黄土	明黄褐色 10YR6/6	*	(やや軟)	VII層軽石	?	*	*
3	覆土3	Vb	主体	黄土	黒褐色 10YR2/3	*	軟	軽石	1	*	*
2	覆土2	Vb	主体	黄土	黒色 10R2/1	*	(やや軟)	*	*	*	骨片 ?
4	覆土4			黄土	暗赤褐色 5YR3/6	*	軟	VII層軽石	?	*	*
5	覆土5		(VIが多く混じるVI)	黄土	暗褐色 10YR3/4	*	軟	VII層軽石	?	*	*



図III-28 H-18



調査は完掘後に行った。中央付近の床面に炉跡と考えられる焼土（HF-1）が確認された。柱穴確認調査は、住居跡の壁と床面、その周辺の確認面を数回掘り下げ、土の差異が認められた部分をすべて半截し、断面形態と覆土から特定した。柱穴は2カ所（HP-1・2）確認された。

以上の調査内容から、竪穴式住居跡であると判断され、周囲のV層中では掘り上げ土の堆積も認められる。

**覆土：**覆土の分層は、当初、V層主体のものを「覆土第1層」とし、それと比べてやや色調が褐色味を帯びるものを「覆土第2層」と大別した。遺構であることが明確になった時点で、覆土最下層を占め、Ⅷ層黄褐色ローム層主体の層である「覆土第4層」と、色調にかかわらず部分的にみられる層を「覆土第3層」として、四つの大別層位とした。覆土第1層と自然層位V層との区別は、土層断面において、やや褐色味を帯びる覆土第2層がV層との間に存在することで、より明確に識別された。覆土第3層は、Ⅷ層主体の第3a層とV層主体の第3b層に分けられる。覆土第4層は三つに分層され、主体的にみられるのは第4a層で、第4b・c層は部分的に存在する。

**形態：**平面は長方形に近い楕円形で、断面は、床面の中央付近がゆるやかに低く、壁は直立気味に立ち上がる形態を呈する。

**付属遺構：**

・地床炉：HF-1

住居跡のほぼ中央の床面に位置し、地床炉であると考えられる。

・柱穴：HP-1・2

2カ所確認された。長軸上の北側に1カ所（HP-2）、反対の南側に1カ所（HP-1）である。いずれも先端部は尖らず、幅を有し平坦な坑底を有する断面形態を呈する。HP-2は深いものである。

・焼土：F-2～7

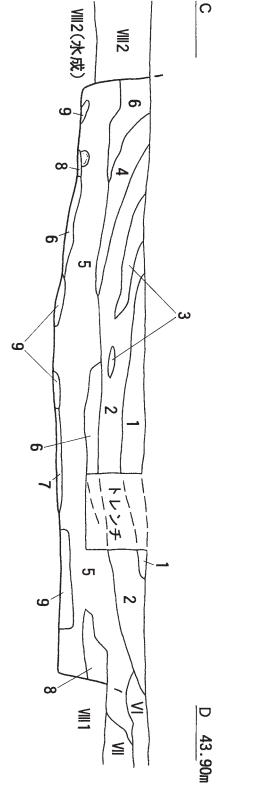
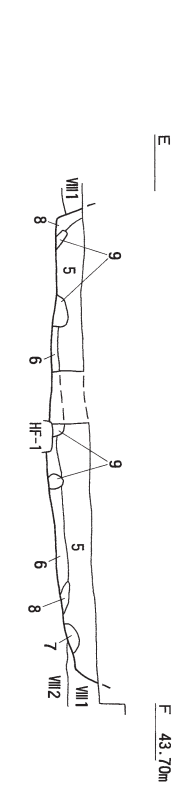
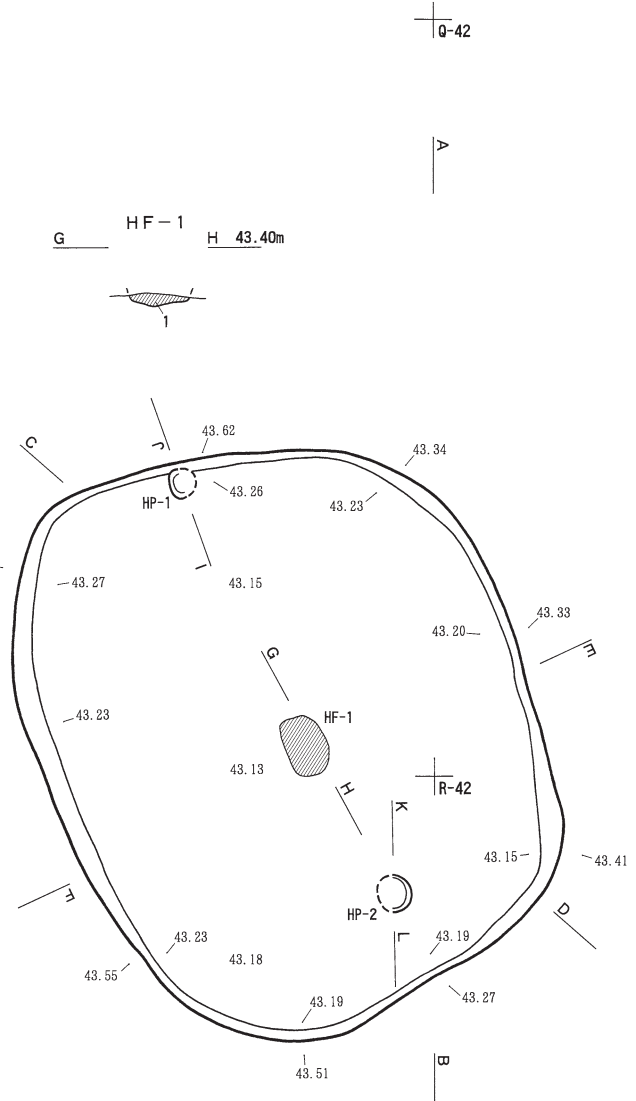
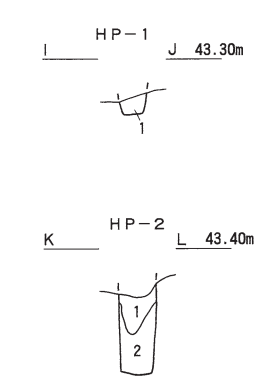
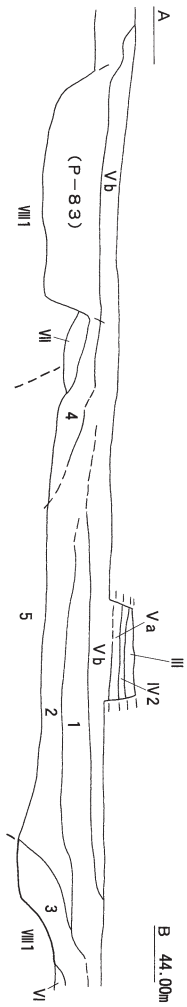
焼土は覆土第4層～床面にかけて6カ所確認された。すべて炭化材に関連すると考えられる。

**遺物出土状況：**遺物は原則として、すべて出土位置や高さ、層位を記録して取り上げた。取り上げ層位は大別層位とした。床面出土遺物には、Ⅲ群b-1類・Ⅲ群a類土器、自然礫があり、特に住居跡の中央からやや北側部分では、Ⅲ群b-1類土器の比較的大きな破片（図Ⅲ-32-125・132・140・Ⅲ-96-13）がまとまって出土した。覆土第4層からはRフレイク等が出土し、覆土第3層は出土点数が少ない。覆土第2層からはⅢ群a類・Ⅲ群b類・Ⅳ群a類土器、Uフレイク、石核、原石等が出土した。遺物出土状況図では、遺構外に遺物の分布が認められるが、これは、範囲が不明確な時点で、本遺構の遺物と判断し取り上げたためであり、本来は掘り上げ土や包含層出土のものとするべきであった。覆土第1層からはⅡ群b類・Ⅲ群a類・Ⅳ群a類土器や自然礫等が出土した。特に、器の形状を保つ大きな破片や、同一個体の破片がまとまる土器の出土状況（図Ⅲ-30-102・Ⅲ-95-1/Ⅲ-31-100・117・Ⅲ-95-5/Ⅲ-31-118・Ⅲ-96-6/Ⅲ-31-119・Ⅲ-96-4）や、大型の礫が多くみられることが特徴的である。また、遺構の上部に堆積したV層の出土遺物のうち、位置を記録して取り上げたものもある。

**炭化材・焼土：**炭化材や焼土の確認状況は、焼失住居であることを示していると判断される。さらに、床面から残存状態の良い遺物が多数出土するといった遺物出土状況ではないことから、住居跡の廃棄時等に人為的に燃やされたものと推測される。

**時期：**出土遺物から考えると、縄文時代中期後半と推測される。

（末光）

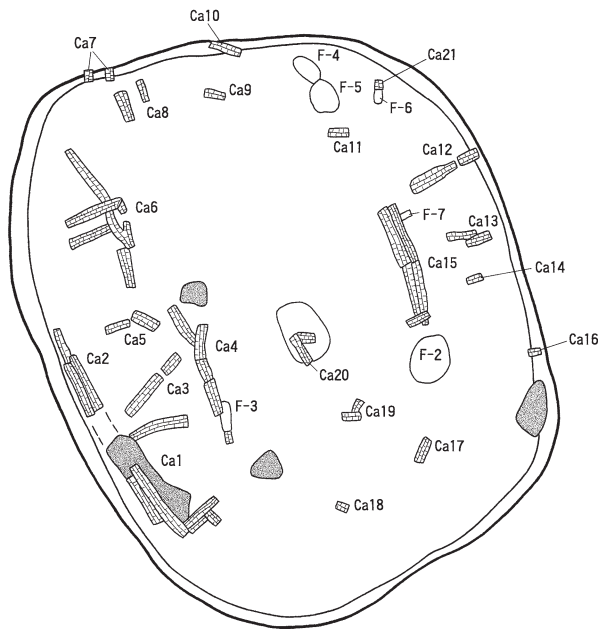


H-19											
断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)			礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備 考
				野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	現在割合 %	種類	
2	覆土第1層	V	主体	堆積土	黒色 [10Y1.7/]	強	軟-堅	径2.0mm軽石	5%	無	
1	覆土第2層	V	VI + V	堆積土	黒褐色 [10Y2.2/]	中-強	堅	径2.0mm軽石	7%	無	掘り上げ土C層に類似
3	第3a層	VI	>	堆積土	黒褐色 [10Y2.2/]	中-強	堅	径2.0mm軽石	15%	無	
4	第3b層	V	>	堆積土	黒色 [10Y2.1/]	強	軟-堅	無		無	
5	第4a層	VI	VI + V	堆積土	黄褐色 [10Y5.6/]	強	軟	径2.0mm軽石	30%	炭化物・材	少量
6	第4c層	VI	+	堆積土	黒褐色 [10Y3.1/]	中-強	軟	径2.0mm軽石	7%	炭化物・材	少量
7	覆土第4層	VI	+	砂堆土	黒褐色 [10Y3.1/]	中	軟	径2.0mm軽石	5%	無	
8	第4b層	VI	+	堆積土	黒褐色 [10Y3.1/]	中-強	軟	径2.0mm軽石	7%	炭化物・材	少量
9	炭化材										
H-19・F-1 穿跡											
1	焼土 (穿跡)	*		堆積土	明赤褐色 [2.5Y5.5/]	強	軟	無		無	VI層が破断
H-19・HP-1 柱穴											
1	覆土第1層	V	+	堆積土	黒褐色 [10Y3.2/]	強	しよう	無		無	
H-19・HP-2 柱穴											
1	覆土第1層	V	>	堆積土	黒褐色 [10Y3.2/]	強	しよう	無		無	
2	覆土第2層	VI	+	堆積土	明赤褐色 [10Y5.4/]	強	しよう	無		無	
H-19・F-2~7											
*	焼土	焼土	+	覆土第4a層	焼土の特徴			無		炭化物	微量
H-19・F-3											
*	焼土	焼土	混入無	焼土の特徴				無		炭化物	微量
				堆積土	明赤褐色 [2.5Y5.5/]	中	軟				覆土第4a層中



図III-29 H-19(1)

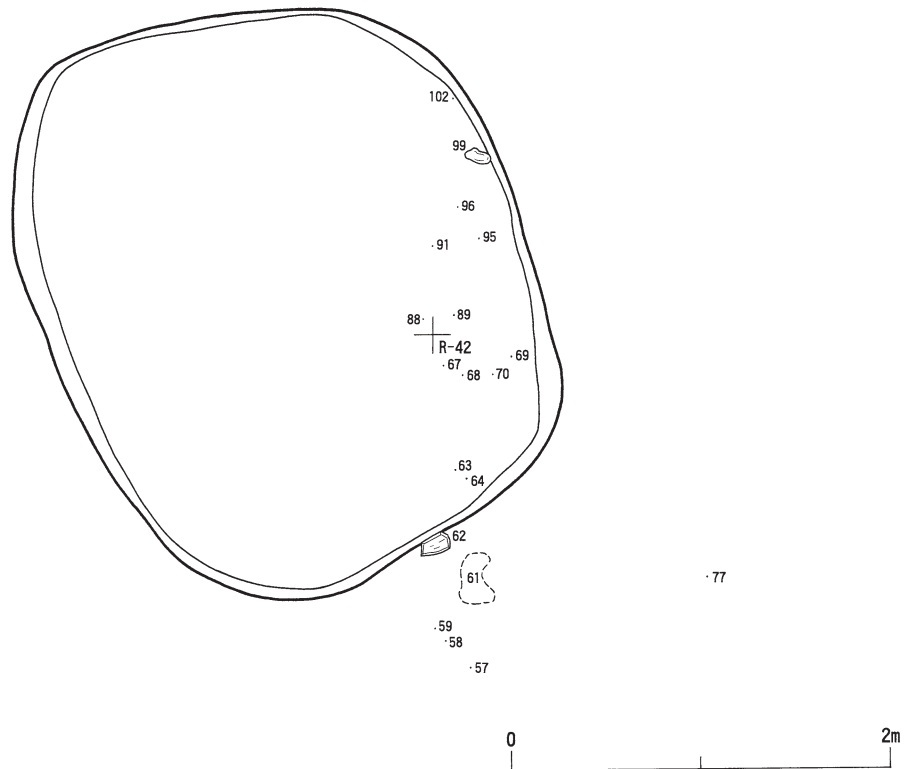
炭化材出土状況図



炭化材が多量に混じる覆土4層

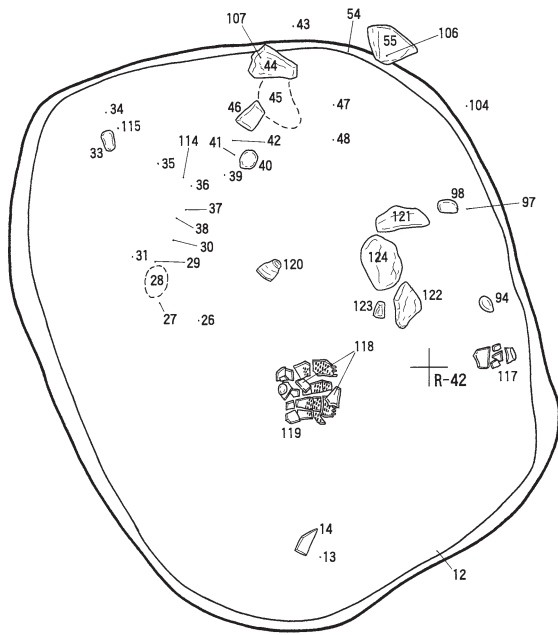
H-19		標高 (m)		分析用サンプル	備考
番号	層位				
Ca1	床面	43.24	43.27		
Ca2	床面	43.33	43.36	○	分析実施せず
Ca3	床面	43.20	43.23		
Ca4	床面	43.20	43.27		
Ca5	床面	43.21			
Ca6	覆土第4層-床面	43.21	43.31	○	分析実施せず
Ca7	覆土第4層	43.34	43.35		観察
Ca8	覆土第4層	43.30	43.31		
Ca9	覆土第4層	43.26			
Ca10	覆土第4層	43.41			観察
Ca11	覆土第3層	43.25			
Ca12	覆土第4層-床面	43.21	43.33		観察
Ca13	床面	43.20	43.23		
Ca14	床面	43.24			
Ca15	覆土第3層-床面	43.21	43.31	○	分析実施せず
Ca16	覆土第4層	43.32			観察
Ca17	覆土第4層	43.26			
Ca18	覆土第4層	43.24			
Ca19	覆土第4層	43.21	43.24		
Ca20	覆土第4層	43.15	43.19	○	分析実施せず
Ca21	覆土第4層	43.24			

V層遺物出土状況図

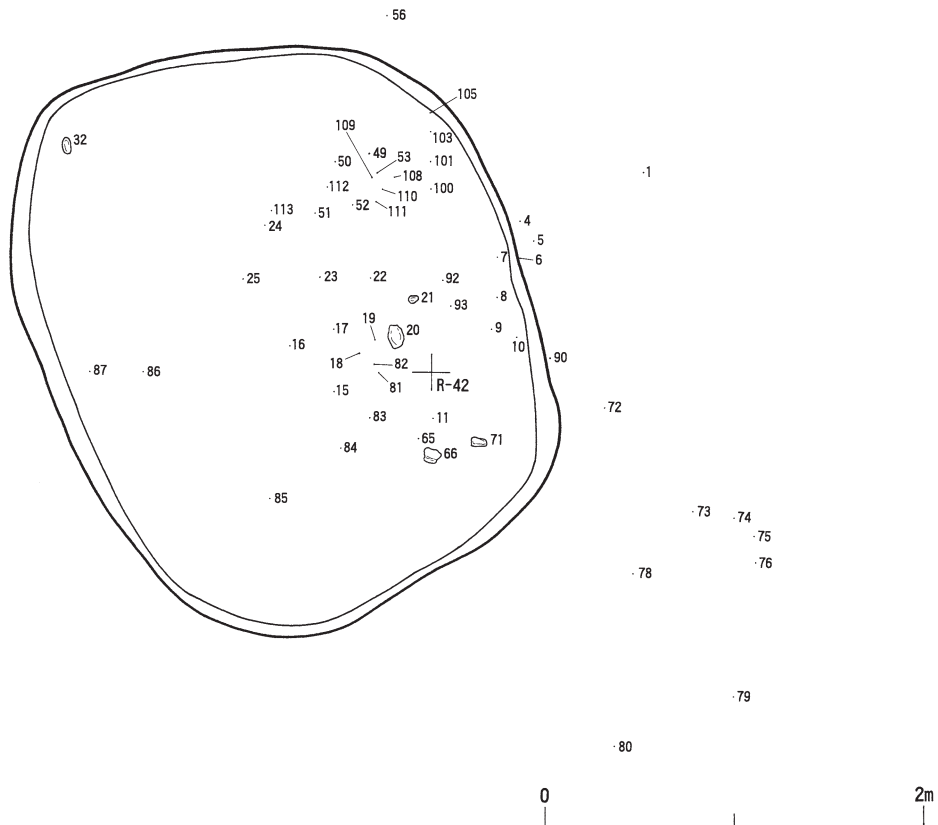


図III-30 H-19(2)

覆土第1層遺物出土状況図



覆土第2層遺物出土状況図

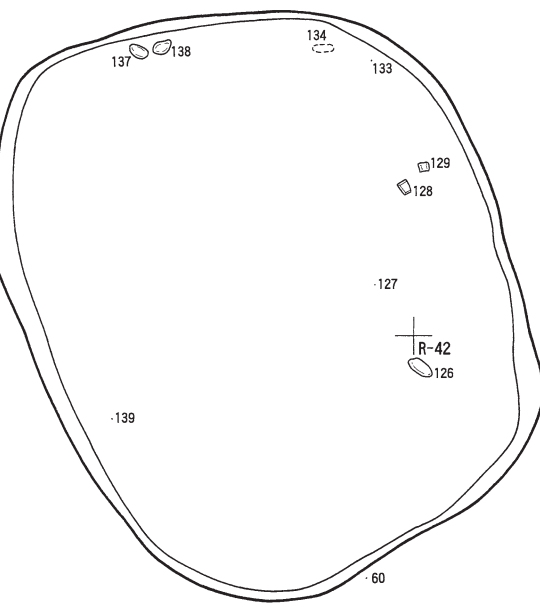


図Ⅲ-31 H-19(3)

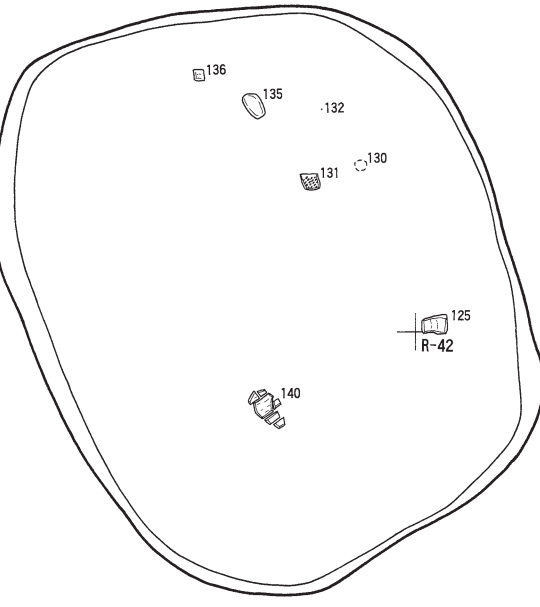


覆土第3・4層遺物出土状況図

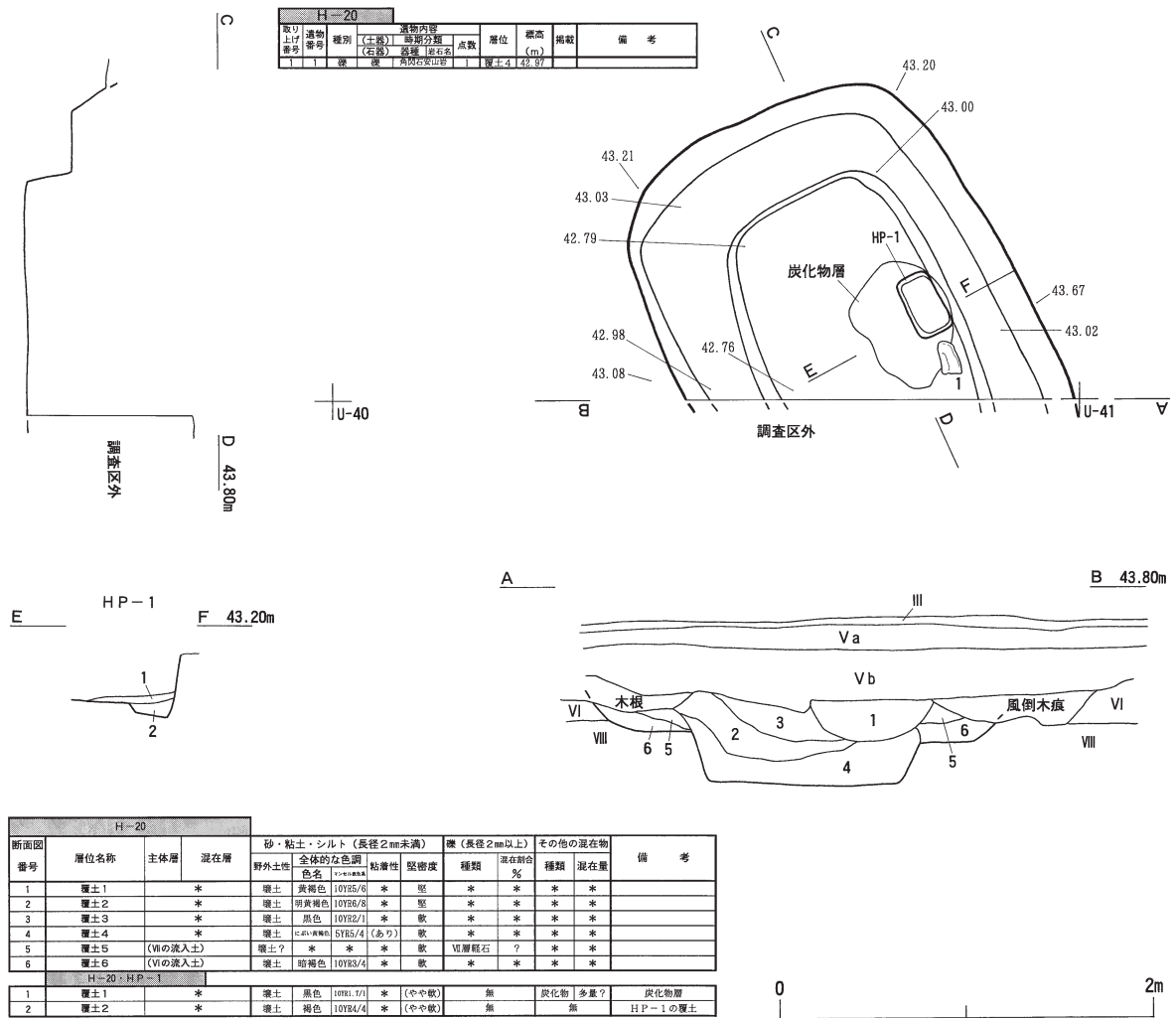
取り上げ番号	遺物種別	【土器】 【石器】	器種	遺物内容 (器種)	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
1	土器		V群A類		1	第3層2期	43.74		
2	土器		V群A類		1	第3層2期	43.74		
3	土器	フレイク	真鍮		1	第3層2期	43.74		
4	土器		安山岩		1	第3層2期	43.72		
5	土器	石核	貝殻		1	第3層2期	43.74		
6	土器		安山岩		2	第3層2期	43.71		
7	土器		燧石		1	第3層2期	43.69		
8	土器		燧石		1	第3層2期	43.67		
9	土器		V群A類		9	第3層2期	43.72		
10	土器		V群A類		1	第3層2期	43.68		
11	土器		III群B類		1	第3層2期	43.60		
12	土器		V群A類		1	第3層1期	43.72		
13	土器		V群A類		2	第3層1期	43.60		
14	土器		V群A類		2	第3層1期	43.60		
15	土器		V群A類		1	第3層1期	43.60		
16	土器		V群A類		1	第3層2期	43.62		
17	土器		V群A類		1	第3層2期	43.63		
18	土器		V群A類		1	第3層1期	43.51		
19	土器		V群A類		1	第3層1期	43.53		
20	土器		安山岩		1	第3層2期	43.62		
21	土器		V群A類		1	第3層2期	43.55		
22	土器		V群A類		2	第3層2期	43.53		
23	土器		V群A類		3	第3層2期	43.53		
24	土器		V群A類		4	第3層2期	43.55		
25	土器		V群A類		2	第3層2期	43.55		
26	土器		III群B類		1	第3層1期	43.61		
27	土器		燧石		1	第3層1期	43.61		
28	土器		V群A類		12	第3層1期	43.61		
29	土器		安山岩		1	第3層1期	43.55		
30	土器		V群A類		1	第3層1期	43.67		
30-1	土器	フレイク	メノウ		1	第3層1期	43.67		
31	土器		V群A類		1	第3層1期	43.64		
32	土器		燧石		1	第3層2期	43.64		
33	土器		燧石		1	第3層2期	43.63		
34	土器		V群A類		1	第3層1期	43.65		
35	土器		V群A類		2	第3層1期	43.71		
35-1	土器	フレイク	メノウ		1	第3層1期	43.71		
36	土器		V群A類		1	第3層1期	43.71		
37	土器		安山岩		1	第3層1期	43.69		
38	土器		V群A類		1	第3層1期	43.59		
39	土器	フレイク	真鍮		1	第3層1期	43.55		
40	土器		安山岩		1	第3層1期	43.64		
41	土器		安山岩		1	第3層1期	43.66		
42	土器		V群A類		1	第3層2期	43.63		
43	土器		V群A類		2	第3層1期	43.74		
44	土器		安山岩		1	第3層1期	43.77		
45	土器		V群A類		13	第3層1期	43.65		
46	土器		角閃石安山岩		1	第3層1期	43.65		
47	土器		燧石・真鍮		1	第3層1期	43.71		
48	土器		V群A類		1	第3層1期	43.67		
49	土器		V群A類		1	第3層2期	43.67		
49-2	土器		安山岩		1	第3層2期	43.67		
50	土器		V群A類		3	第3層2期	43.56		
51	土器		V群A類		9	第3層2期	43.69		
52	土器		V群A類		1	第3層2期	43.63		
53	土器		V群A類		8	第3層2期	43.54		
54	土器		V群A類		1	第3層2期	43.60		
55	土器		安山岩		1	第3層1期	43.76		
56	土器		角閃石安山岩		1	第3層2期	43.69		
57	土器		V群A類		3	V層3期II	43.73		
58	土器		V群A類		1	V層3期II	43.73		
59	土器		III群B類		1	V層3期II	43.63		
60	土器		III群B類		1	V層3期II	43.66		
61	土器		V群A類		28	V層3期II	43.76		
62	土器		V群A類		11	V層3期II	43.70		
63	土器		V群A類		2	V層3期II	43.72		
63-2	土器	フレイク	真鍮		2	V層3期II	43.72		
64	土器	石核	メノウ		1	V層3期II	43.67		
65	土器		燧石		1	V層3期II	43.79		
65-2	土器		燧石		1	V層3期II	43.79		
66	土器		安山岩		1	第3層2期	43.55		
67	土器		III群B類		1	V層3期II	43.67		
68	土器		III群B類		1	V層3期II	43.70		
69	土器		III群B類		1	V層3期II	43.69		
70	土器		V群A類		1	V層3期II	43.69		
71	土器		安山岩		1	第3層2期	43.64		
72	土器		III群B類		2	第3層2期	43.67		
73	土器		III群B類		1	第3層2期	43.65		
74	土器		角閃石安山岩		1	第3層2期	43.65		
75	土器		たたま石		1	第3層2期	43.68		
76	土器		安山岩		8	第3層2期	43.66		
77	土器		III群B類		3	V層3期	43.71		
78	土器		V群A類		2	第3層2期	43.69		
79	土器		III群B類		1	第3層2期	43.66		
80	土器		安山岩		1	第3層2期	43.55		
81	土器		III群B類		1	第3層2期	43.68		
82	土器		燧石		1	第3層2期	43.76		
82-2	土器		燧石		1	第3層2期	43.76		
83	土器		V群A類		3	第3層2期	43.57		
84	土器		III群B類		1	第3層2期	43.57		
85	土器		文書		1	第3層2期	43.59		
86	土器		V群A類		1	第3層2期	43.59		
87	土器		V群A類		1	第3層2期	43.59		
88	土器		V群A類		1	V層3期II	43.71		
89	土器	フレイク	メノウ		1	V層3期II	43.73		
90	土器		燧石		1	第3層2期	43.63		
91	土器		V群A類		1	V層3期II	43.73		
92	土器		III群B類		1	第3層2期	43.68		
93	土器		V群A類		2	第3層2期	43.66		
94	土器		安山岩		1	第3層1期	43.73		
95	土器		V群A類		1	V層3期II	43.74		
96	土器		V群A類		3	V層3期II	43.74		
97	土器		V群A類		5	第3層1期	43.69		
98	土器		安山岩		1	第3層1期	43.70		
99	土器		V群A類		2	V層3期II	43.72		
99-2	土器		安山岩		1	第3層1期	43.70		
100	土器		V群A類		1	第3層1期	43.70		
101	土器		V群A類		2	第3層2期	43.72		
102	土器		V群A類		1	V層3期II	43.77		
103	土器		燧石		1	第3層2期	43.70		
103	土器		燧石		2	第3層2期	43.70		
104	土器		III群B類		1	第3層1期	43.79		
105	土器		V群A類		3	第3層2期	43.71		
106	土器		V群A類		1	第3層1期	43.73		
107	土器		安山岩		1	第3層1期	43.75		
108	土器		III群B類		1	第3層2期	43.60		
109	土器		安山岩		1	第3層2期	43.61		
110	土器		安山岩		1	第3層2期	43.40		
111	土器		燧石		1	第3層2期	43.62		
112	土器		V群A類		2	第3層2期	43.64		
113	土器	フレイク	メノウ		1	第3層2期	43.62		
113-2	土器		V群A類		9	第3層2期	43.67		
114	土器		V群A類		3	第3層1期	43.67		
115	土器		片岩		1	第3層1期	43.65		
116	土器		燧石		8	第3層1期	43.70		
117	土器		V群A類		6	第3層1期	43.70		
118	土器		V群A類		6	第3層1期	43.70		
119	土器		V群A類		86	第3層1期	43.50		
120	土器		V群A類		2	第3層1期	43.50		
121	土器		安山岩		1	第3層1期	43.66		
122	土器		安山岩		1	第3層1期	43.54		
123	土器		安山岩		1	第3層1期	43.57		
124	土器		安山岩		1	第3層1期	43.46		
125	土器		III群B類		12	床面	43.17		
126	土器		安山岩		1	第3層4期	43.21		
127	土器		安山岩		1	第3層4期	43.22		
128	土器		III群B類		1	第3層3期	43.22		
129	土器		III群B類		7	床面	43.18		
130	土器		III群B類		1	床面	43.18		
131	土器		III群B類		1	床面	43.18		
132	土器		III群B類		1	床面	43.20		
133	土器	フレイク	燧石		2	床面	43.22		
134	土器	Rフレイク	真鍮		1	第3層4期	43.26		
135	土器		安山岩		1	床面	43.20		
136	土器		安山岩		2	床面	43.21		
137	土器		安山岩		1	第3層4期	43.26		
138	土器		安山岩		1	第3層4期	43.28		
139	土器	フレイク	III群B類		23	床面	43.28		
140	土器		III群B類		23	床面	43.29		
141	土器		安山岩		1	床面	43.19		



床面遺物出土状況図



図III-32 H-19(4)



図Ⅲ-33 H-20

H-20 (図Ⅲ-33・119、表1・2・9・14、図版25-2)

位置・立地：T-40区 標高43.00~43.20mの平坦面

規模：(2.13)×1.88/(1.99)×1.62/0.44m

確認・調査：VI層上面において黒色土の落ち込みを検出した。調査範囲の境界上に位置していた。覆土を掘り下げたところ、ベンチ構造を持つ遺構が確認された。規模的には小型だが明瞭な掘り込みと平坦な床面から、竪穴住居であると判断した。

覆土：覆土1・2・4層はVIII層主体の流入である。覆土3層はVb層主体の、5層はVII層の流入である。掘り込み面はVI層上面である。

形態：調査区内の形状から、平面形は隅丸方形と考えられる。ベンチ構造を持つ。ベンチ部分はほぼ平坦である。ベンチの内側は長軸を遺構平面形と同一にする隅丸方形である。その床面はほぼ平坦である。床面には炭化物が分布する。草本が束になって折り重なり、付属遺構HP-1を覆う。

付属遺構：炭化物の直下で付属遺構を確認した。平面形は方形で、深さは浅い。

遺物出土状況：この遺構の構築時期に伴うと考えられるものはない。いずれも流入した覆土からの出土である。

時期：不明だが、掘り込み面等を考慮すると、縄文時代中期以前の可能性がある。(大泰司)

フローテーション成果：床面の炭化物のまとまりをフローテーション法にて処理した。その結果、炭化種子を検出した。それにはマタタビ属・キハダ属と同定不能なものが混じる。(詳細はV章2)

## (3) 土坑

土坑は83基検出した。縄文時代の土坑は中期のものが27基、そのうち中期前半は10基（P-2・5・6・13・14・33・37・38・49・63）、中期後半が2基（P-83・86）、中期中葉頃のもの5基（P-11・20・23・47・71）、中期の可能性のある10基（P-10・17・19・21・26・28・30・32・34・59）である。他に縄文時代の土坑としては中～後期の可能性のある20基（P-1・3・7～9・16・18・22・25・35・36・40～43・46・54・69・72・78）、前～後期の可能性のあるP-50・55、後期前葉ないしは前半のものは28基（P-4・12・15・31・39・44・48・51・53・57・58・61・62・67・68・70・73～77・79～82・84・85・87）である。

P-2・5は、形状と覆土が類似しており、同じ用途の土坑の可能性はある。P-8～10・19・28は明確な時期は不明であるが、縄文時代中期以降の斜面中腹～裾に掘られた土坑である。P-16・17は大型礫を伴うものが並んで検出された。遺物の出土状況に特徴的なものを挙げる。P-23はⅢ群b-1類、榎林式土器が横倒しで埋設してあった。頸部に区画があり、口唇部に沈線を持たないⅢ群b-1類と北海道式石冠の共伴例である。P-33は北海道式石冠3点および、扁平打製石器3点がひとつの土坑から出土した。P-37には台石が埋まっていた。P-42は扁平打製石器1点と扁平打製石器未製品の可能性がある石錘1点が出土した。P-37には台石が埋まっていた。P-71は焼失家屋を思わせる縄文時代中期中葉Ⅲ群b-1類の土坑である。規模が小さいため住居としては扱わなかった。P-38は円筒上層d式土器が一個体ほぼ完形で出土している。

P-39・44・51・61・67・72・73・77・79・81・84・85はフラスコ状土坑である。P-51と67は杭の打ち込みを思わせる小土坑が伴う。P-73からはほぼ完形の土器が出土した。P-81からはイノシシは未萌出臼歯のある下顎がまとまって出土した。配石遺構（石組）としたS-1だが（Ⅲ章4項参照）、下部にフラスコ状の土坑を持っている。また大型の配石S-2の南側からは小型の土坑を2基検出した。これらの遺構は縄文時代後期前葉の可能性が高いものが多い。P-75は倒立した状態で縄文地文のみの小型深鉢がほぼ完形で埋設されていた。P-76は沈線文を持つ土器と持たない地文のみの土器破片が埋納されていた。沈線文を持つ土器は周囲の土器片とよく接合した。

続縄文時代の土坑の可能性のあるものとしてはP-24・27・29・65・66の5基がある。深さは浅いがⅣ層（B-Tm）が落ち込んでいる。その点ではP-69も類似している。P-22も上部にⅣ層がややまとまっていた。

他に時期不明なP-56がある。P-45・52・60・64は欠番である。

P-1（図Ⅲ-34、表3・9・15、図版26-1）

**位置・立地：**z-44区 調査区南西側（山側）、標高43.60～43.70m付近の平坦面

**規模：**0.80×0.73/0.64×0.50/0.20m

**確認・調査：**Ⅷ層まで下げて、黒褐色土の楕円形の落ち込みを検出した。長軸と思われる線で半截し、断面を観察した。明瞭な壁の立ち上がり、底を確認し、人為的に掘り込まれた土坑であると判断した。土層は3層に分層した。1層はⅥ・Ⅶ層が主体、2・3層はⅤb・Ⅵ層が主体の層で、埋め戻しの可能性がある。平面形は楕円形で、底は若干の凹凸がある。掘り込み面は、検出した面よりも上である。遺物は覆土2層から安山岩、軽石、凝灰岩などの細かな礫・礫片が100点余出土している。中には被熱したものもある。取り上げ番号11は微細な礫片であり、現場で廃棄した。

**時期：**周辺の包含層出土の遺物から、縄文時代中期あるいは後期前葉の可能性はある。（新家）

P-2 (図Ⅲ-34・99、表3・9・15、図版26-2)

位置・立地：D・E-40区 標高45.00～45.20m付近の平坦面

規模：1.90×1.52/1.96×1.44×0.20m

確認・調査：Ⅶ層上面で、褐灰色土の落ち込みを検出した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。不整な楕円形の平面形であり北側は舌状に張り出している。覆土1層はⅤ～Ⅷ層が混じり合っている。埋め戻しの可能性がある。坑底直上には黒色土層が薄く堆積している。壁面は北東および南西壁がややオーバーハングする。坑底はほぼ平坦である。掘り込み面は検出面より上である。覆土1層からはⅢ群a類土器(図Ⅲ-34-2・Ⅲ-99-2/Ⅲ-34-4・Ⅲ-99-1)が散点的に出土する。覆土2層から遺物の出土はない。

時期：出土遺物から縄文時代中期前半の可能性ある。(大泰司)

P-3 (図Ⅲ-34・120、表3・9・15、図版26-3)

位置・立地：A-44区 調査区南西側(山側)、標高43.40～43.60m付近の平坦面

規模：0.50×0.45/0.33×0.26/0.11m

確認・調査：Ⅴb～Ⅵ層で土器片がまとまって出土していたが、木根による攪乱として取り上げてしまった。その後Ⅷ層まで下げて、黒色土の円形の落ち込みを検出した。中心で半截し、断面を観察した。ほぼ平坦な底と立ち上がりを確認し、土坑と判断した。覆土は2層に分層した。1層はⅤb層が主体で、自然堆積の可能性がある。2層はⅤb・Ⅵ・Ⅶ層が入り混じった層で、埋め戻しと考えられる。平面形は楕円形で、底は腕状になっている。掘り込み面は、土器片が出土したⅤb層と考えられる。土坑の縁から石槍1点(図Ⅲ-34-1・Ⅲ-120-44)覆土2層から礫が1点出土した。

時期：土坑上部で出土した土器片から、縄文時代中期あるいは後期前葉と考えられる。(新家)

P-4 (図Ⅲ-35・99、表3・9・15、図版26-4)

位置・立地：B-45区 標高44.30mほどの三次郎川上流側の低位段丘平坦面。

規模：1.18×1.02/0.86×0.61/0.25m

確認・調査：B-45区包含層調査後、Ⅶ(Ko-g)層上面で、黒色土の楕円形の輪郭を検出した。そのほぼ中央に大型の礫と土器底部片があり、土坑と判断して調査を開始した。

覆土は黄褐色粘土粒がわずかに混在する黒色土の1層で、確認面からの深さ10cmほどの浅い土坑である。平面形は長軸がほぼ北東-南西方向の楕円形で、坑底規模が長軸長0.43mと小型である。掘り込み面はⅤ層中と考えられるが、それでも深さは25～30cmほどのものが想定される。

前述したとおり、遺物は確認面で大型の礫(坑底から5cmほど上位)とⅣ群a類土器の底部があり、土器片に乗る状況でメノウ製剥片が出土している。

時期：出土土器は、その出土状態から考えてこの土坑に伴うものと判断され、縄文時代後期の時期と考えられる。(田中)

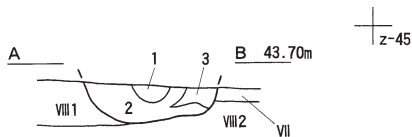
P-5 (図Ⅲ-35、表3・9・15、図版26-5)

位置・立地：D-39・40区 標高45.00～45.40m付近の平坦面

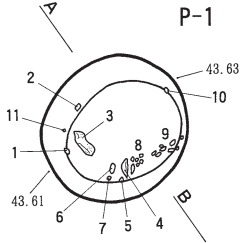
規模：1.84×1.60/1.66×1.54/0.36m

確認・調査：Ⅶ層上面で、褐灰色土の落ち込みを検出した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。不整な隅丸方形の平面形であり西側はやや張り出している。覆土1層は

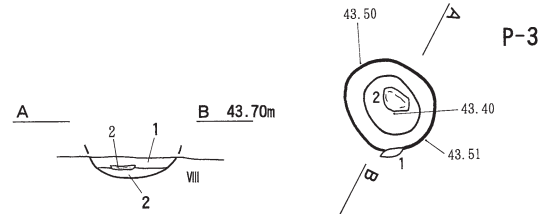




断面図		P-1		(埋め戻し)									
断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)			礫 (長径2mm以上)			その他の混在物		備考	
				野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類	混在量		
1	覆土1		*	壤土	暗褐色 10YR3/3	弱	堅	*	*	*	*		
2	覆土2		*	埴壤土	黒褐色 10YR2/2	中	堅	*	*	*	*		
3	覆土3		*	壤土	黒褐色 10YR3/2	中	すこぶる弱	*	*	*	*		

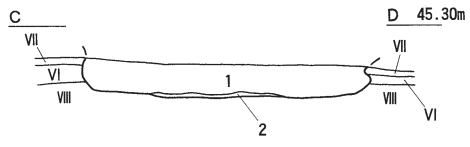
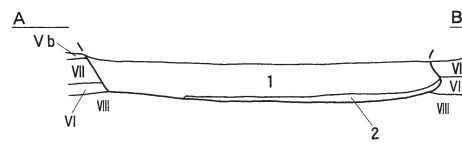
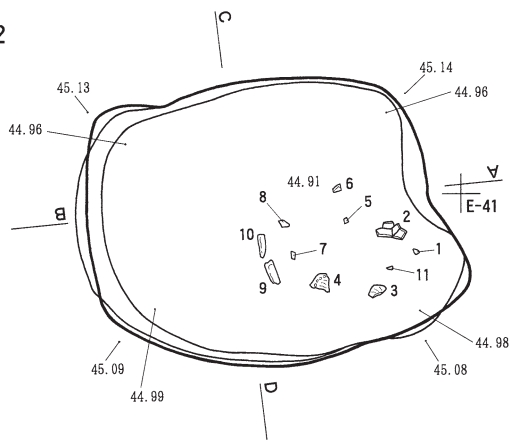


P-3		遺物内容		層位	標高 (m)	掲載	備考
取り 上げ 番号	遺物 番号	種別 (土器) 時期分類 (石器) (器種) 器石名	点数				
1	1	野所石 石製・タイプ A	1	覆土1	43.50	○	
2	2	燧	1	覆土2	43.47		



P-1		遺物内容		層位	標高 (m)	掲載	備考
取り 上げ 番号	遺物 番号	種別 (土器) 時期分類 (石器) (器種) 器石名	点数				
1	1-1	燧	1	覆土2	43.61		
1	1-2	燧	1	覆土2	43.61		
2	2	燧	8	覆土2	43.45		
3	3	燧	1	覆土2	43.47		
4	4	燧	1	覆土2	43.48		
5	5	燧	1	覆土2	43.44		
6	6	燧	2	覆土2	43.43		
7	7	燧	1	覆土2	43.43		
8	8	燧	58	覆土2	43.44		
9	9	燧	46	覆土2	43.45		
10	10	燧	1	覆土2	43.52		
11	11	不明	1	覆土2	43.45		遺物台帳に記載無し

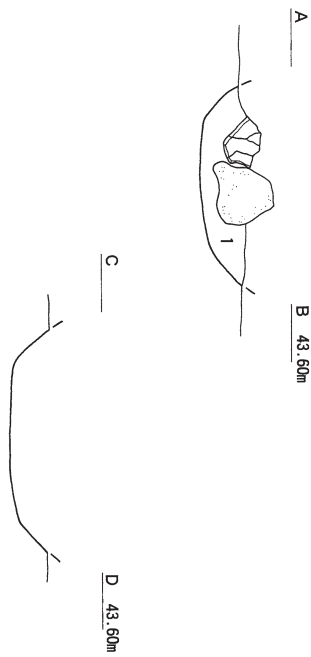
断面図		P-3		(埋め戻し)									
断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)			礫 (長径2mm以上)			その他の混在物		備考	
				野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類	混在量		
1	覆土1	Vb		埴壤土	黒色 10YR2/1	強	堅	*	*	*	*		
2	覆土2	Vb +	VI・VII	埴壤土	黒褐色 10YR2/3	強	すこぶる弱	*	*	*	*	埋め戻し?	



P-2		遺物内容		層位	標高 (m)	掲載	備考
取り 上げ 番号	遺物 番号	種別 (土器) 時期分類 (石器) (器種) 器石名	点数				
1	1	野所石 フリック 10のろ	1	覆土1	45.04		
2	2	土器 Ⅲ群 α類	6	覆土1	45.07	○	
3	3	土器 Ⅲ群 α類	2	覆土1	45.07		
4	4	土器 Ⅲ群 α類	6	覆土1	44.98	○	
5	5	野所石 フリック 10のろ	1	覆土1	44.98		
6	6	野所石 フリック 10のろ	1	覆土1	44.55		
7	7	野所石 フリック 10のろ	1	覆土1	44.92		
8	8	野所石 フリック 10のろ	1	覆土1	44.93		
9	9	燧	1	覆土1	44.90		直上Vb層出土
10	10	燧	1	覆土1	44.97		
11	11	野所石 フリック 10のろ	1	*	?		原因: 調査上・台帳・覆土1 本表にVb層の層位・層高は記載無し

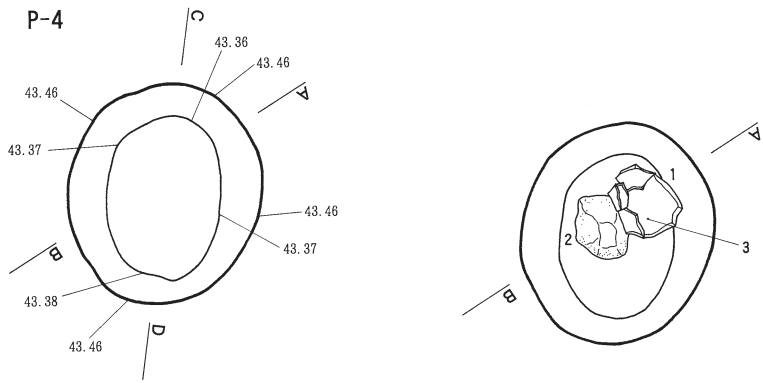
断面図		P-2		(埋め戻し)									
断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)			礫 (長径2mm以上)			その他の混在物		備考	
				野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類	混在量		
1	覆土1	(V2%, III3%混じる)		壤土	褐色 7.5YR4/1	*	堅	*	*	*	*		
2	覆土2	(III5%混じる)		壤土	黒色 10YR1.5/1	中	中	*	*	*	*		

図III-34 P-1・2・3



B-46

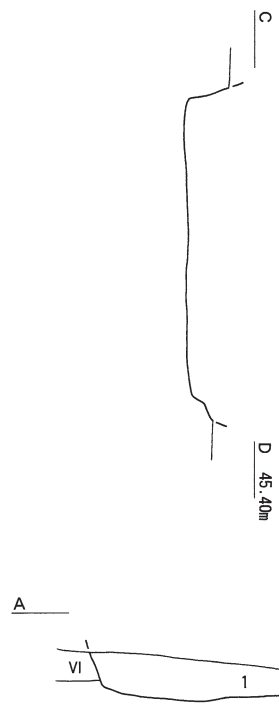
P-4		砂・粘土・シルト（長径2mm未満）				礫（長径2mm以上）		その他の混在物		備 考	
断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %		種類
1	覆土1		(埋め戻し)	*	黒色 10YR2/1	*	堅	*	*	*	*



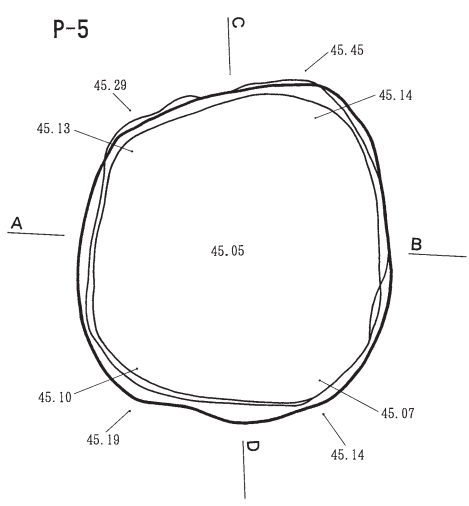
P-4		遺物内容			層位	標高 (m)	掲載	備 考
取り 上げ 番号	種別	(土器) 時期分類	(石器) 用途	点数				
1	土器	1	群5 甕	2	覆土	43.44		
2	土器	1	群5 甕	1	覆土	43.38		
3	埋め戻し		フレイク	4	覆土	43.60		1:土器の下位

C-45

C-46

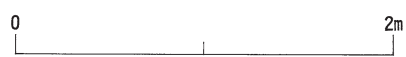


D-40



E-40

P-5		(埋め戻し)				砂・粘土・シルト（長径2mm未満）		礫（長径2mm以上）		その他の混在物		備 考
断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類	混在量	
1	覆土1		(V 3%、VII 3%混じり)	壤土	灰青褐色 10YR4/2	*	軟	黄褐色粘石	1	*	*	



図III-35 P-4・5

V～VIII層が混じり合っている。上部は黒色味が強い。埋め戻しの可能性がある。壁面は南壁および北西壁の一部がややオーバーハングする。坑底はほぼ平坦である。掘り込み面は検出面より上である。調査区単位で包含層調査をしていたため、D-40区側でVb層が高く残っていた。そこで確認したところ掘り込み面はVb層の下位である。覆土1層からは台石が出土している。

**時期：**覆土と立地など共通点が多いP-2から、縄文時代中期前半の可能性ある。(大泰司)

**P-6** (図III-36・120、表3・9・15、図版26-6)

**位置・立地：**I-37区 標高44.40～44.60m付近の平坦面

**規模：**1.02×0.94/0.78×0.66/0.62m

**確認・調査：**VII層上面で、黒褐色土の落ち込みを検出した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。不整な楕円形の平面形である。覆土1層はVb層が主体であり、ブロック状のVIII層がやや混じる。下部については主にVIII層の崩落である。崩落と流入による自然堆積と考える。壁面は直立気味である。坑底は凹みが顕著である。掘り込み面は検出面より上である。覆土1層からはスクレイパー(図III-36-1・III-120-45)とIII群a類土器が出土している。土層断面で炭化物の薄層を観察したため完掘時に注意して検出したが、平面図に示した部分のみ明瞭なままとりとして認知した。成因等は不明である。

**時期：**遺物出土状況から、縄文時代中期前半の可能性ある。(大泰司)

**P-7** (図III-36、表3・9・15、図版27-1)

**位置・立地：**z-43区 調査区南西側(山側)、標高43.70～43.90m付近の平坦面

**規模：**0.63×0.53/0.34×0.30/0.30m

**確認・調査：**VIII層まで下げて、楕円形をした黒色土の落ち込みの上に、こぶし大の礫が数点出土しているのを検出した。礫は軽石や安山岩である。黒色土を半截した断面を観察したところ、壁が明瞭に立ち上がっていたため、土坑と判断した。覆土は1層で、Vb層が流入した黒色土である。平面形は不整な楕円形で、底は椀状に掘り込まれている。掘り込み面はVII層よりも上と思われる。覆土の上位から礫4点、メノウレイク1点が出土している。

**時期：**周辺の包含層出土遺物から、縄文時代中期あるいは後期前葉と考えられる。(新家)

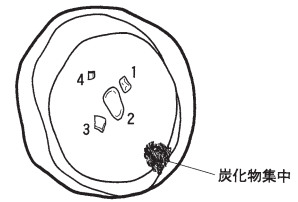
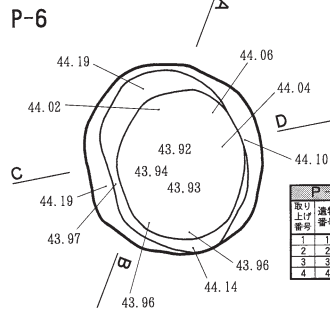
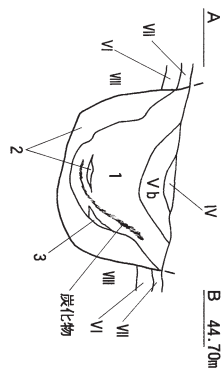
**P-8** (図III-36、表3・9・15、図版27-2)

**位置・立地：**z・A-42区 調査区南西側(山側)、標高44.40～44.60m付近の斜面

**規模：**1.20×0.94/0.92×0.64/0.54m

**確認・調査：**VIII層を最終面のレベルまで下げて、黒褐色土の落ち込みを検出した。風倒木による攪乱と考え、さらに黒褐色土を掘り下げた。20cmほど下げた時点で、壁の立ち上がりははっきりしたため、長軸方向で半截し、断面を観察した。明瞭に掘り込まれて壁が作られており、土坑と判断した。覆土は黒褐色土の1層でVb・VI層が主体の埋め戻し土である。平面はややいびつな楕円形である。東側の壁は西に比べてやや緩やかに立ち上がる。VIII層を50cm以上掘り込んで構築されており、覆土中からVIII層由来と思われる自然礫が10点出土した。掘り込み面は検出面よりも少なくとも30cm以上上と思われる。

**時期：**不明である。周辺の包含層出土の遺物から、縄文時代中期または後期前葉と考える。後期前葉の可能性が高い。(新家)

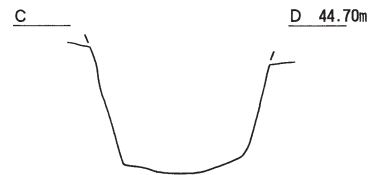


取り上げ番号	遺物種別	遺物内容 〔土器〕 時期分類 〔石器〕 (器種) 器名	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
1	1	黒石磨 ｽｸﾚｲﾊﾟｰ ぬのう	1	覆土1	44.24	○	
2	2	礫 礫 灰山部	1	覆土1	44.22		
3	3	土器 Ⅲ群前期	1	覆土1	44.18		
4	4	土器 Ⅲ群前期	2	覆土1	44.15		

J-37

J-38

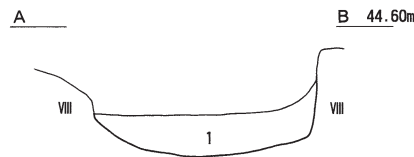
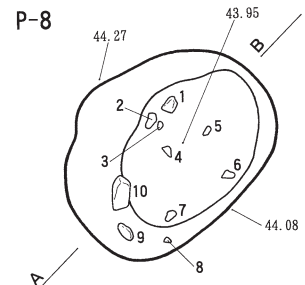
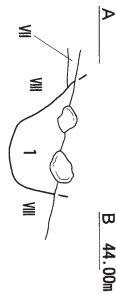
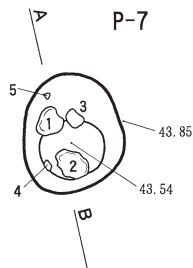
断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)				礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考
				野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類	混在量	
1	覆土1		(VI10%混じる)	壤土	黒褐色 10YR2/3	*	堅	黄褐色軽石	2	*	*	炭化物の関与あり
2	覆土2	VI	主体	*	*	*	*	?	?	*	*	
3	覆土3	VII	主体	壤土	明黄褐色 10YR6/8	*	軟	*	*	*	*	



断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)				礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考
				野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類	混在量	
1	覆土1		*	垣壤土	黒色 10YR1/5	中	堅	*	*	*	*	

Z-44

A-42



取り上げ番号	遺物種別	遺物内容 〔土器〕 時期分類 〔石器〕 (器種) 器名	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
1	1	礫 礫 灰山部	1	覆土1	43.76		
2	2	礫 礫 灰山部	1	覆土1	43.72		
3	3	礫 礫 灰山部	1	覆土1	43.80		
4	4	礫 礫 灰山部	1	覆土1	43.97		
5	5	黒石磨 フﾚｲｸﾞ ぬのう	1	覆土1	43.79		

取り上げ番号	遺物種別	遺物内容 〔土器〕 時期分類 〔石器〕 (器種) 器名	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
1	1	礫 礫 灰山部	1	覆土1	44.23		
2	2	礫 礫 灰山部	1	覆土1	44.20		
3	3	礫 礫 灰山部	1	覆土1	44.15		
4	4	礫 礫 灰山部	1	覆土1	44.15		
5	5	礫 礫 灰山部	1	覆土1	44.00		
6	6	礫 礫 灰山部	1	覆土1	44.02		
7	7	礫 礫 灰山部	1	覆土1	44.03		
8	8	礫 礫 灰山部	1	覆土1	44.01		
9	9	礫 礫 灰山部	1	覆土1	43.98		直層の自然産?
10	10	礫 礫 灰山部	1	覆土1	43.91		直層の自然産?

断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)				礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考
				野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類	混在量	
1	覆土1		*	垣壤土	黒褐色 10YR2/2	中	硬	軽石	7	*	*	軽石特異: 直層/半風化

A-44

B-42



図III-36 P-6・7・8



P-9 (図III-37、表3・9・15、図版27-3)

位置・立地：A-42区 調査区南西側（山側）、標高44.00～44.40m付近の斜面

規模：1.44×(0.90)/1.32×0.90/0.18m

確認・調査：Ⅶ層まで下げて暗褐色土の落ち込みを検出した。短軸線上で半截し、断面を観察した。底が平坦で、壁が明瞭に立ち上がっていたため、土坑と判断した。斜面上に構築されており、遺物は出土していない。平面は隅丸の長方形で、斜面下方側は掘り過ぎてしまった。覆土は1層で、Ⅵ・Ⅶ層主体の埋め戻し土である。また、周囲に黒褐色土の広がりも検出した。掘り上げ土、あるいは上位の覆土が、土坑壁面が崩れたため斜面の低い方へ流れたと思われる。掘り込み面はVb層である。

時期：掘り込み面、周辺の包含層出土の遺物から、縄文時代中期または後期前葉と考える。後期前葉の可能性が高い。 (新家)

P-10 (図III-38・120、表3・9・15、図版27-4)

位置・立地：C・D-42区 標高43.80mほどの西向き段丘斜面。

規模：0.92×0.75/0.74×0.60/0.48m

確認・調査：C-42区包含層調査終了後、その北側に確認できたものである。調査区北壁には褐色土の落ち込みが確認でき、ほぼⅦ層中からⅧ層上面で半円状の輪郭が検出された。

覆土は暗褐色土が主体で（覆土1～4）、上部ほど黒色土の混じりが多い。坑底近くには若干の黄褐色土が堆積し、坑底には黒褐色土の薄層が部分的にみられた。また、土坑下の段丘斜面には、この土坑の掘り上げ土が確認されたが、明確な範囲はつかめなかった。

平面形は東西に長軸方向をもつ楕円形で、坑底は平坦で、坑口に行くにしたがい壁はラップ状に広がる。壁崩落の結果とみられる。

出土遺物は、Ⅲ群a類の土器片、つまみ付きナイフ、フレイクが各1点出土している。暗褐色土主体の覆土からの出土である。

時期：出土遺物から、縄文時代中期を判断している。 (田中)

P-11 (図III-37・99・129、表3・9・15、図版27-5)

位置・立地：H-39区 標高44.40～44.60m付近の平坦面

規模：0.88×0.80/0.66×0.62/0.46m

確認・調査：Ⅶ層上面で、Vb層を主とする黒色土の落ち込みを検出した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。不整な楕円形の平面形である。覆土1層はVb層が主体の流入である。2～6層についてはⅤ～Ⅷ層が混じりあう土であり、埋め戻しの可能性がある。壁面は直立気味である。坑底はほぼ平坦である。掘り込み面は検出面より上である。覆土6層からはⅢ群a類とⅢ群b-1類(図III-37-8・Ⅲ-99-1)が出土している。

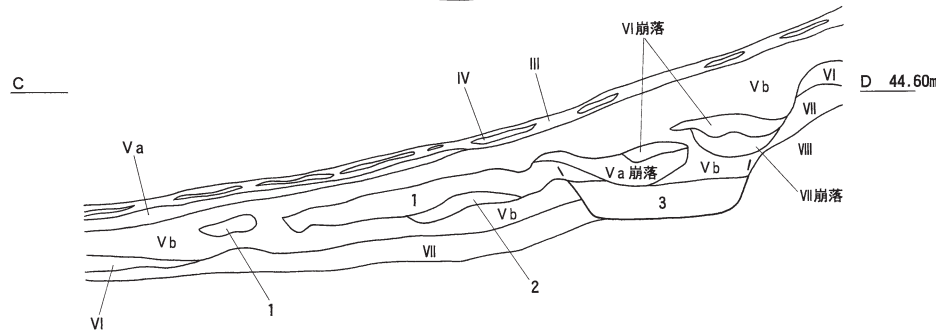
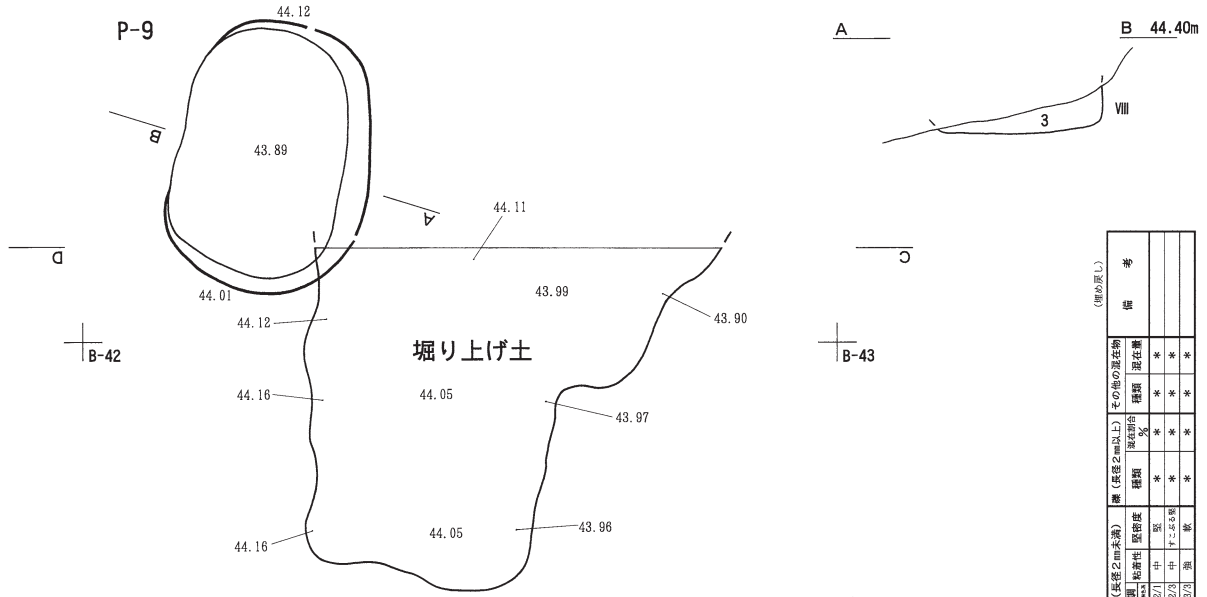
時期：遺物出土状況から、縄文時代中期中葉の可能性はある。 (大泰司)

P-12 (図III-38・99・120、表3・9・15、図版27-6)

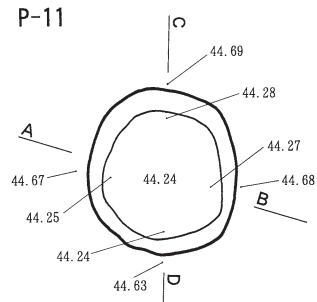
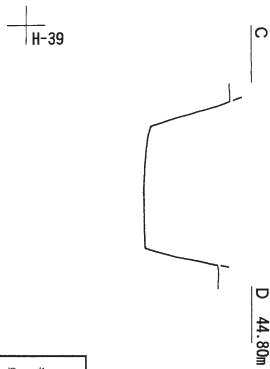
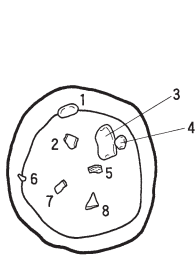
位置・立地：G-39区 標高44.60～45.00m付近の平坦面

規模：0.92×0.92/0.64×0.60/0.42m

確認・調査：Ⅶ層上面で、Vb層を主とする黒色土の落ち込みを検出した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。不整な円形の平面形である。覆土1層はVb層が主体の

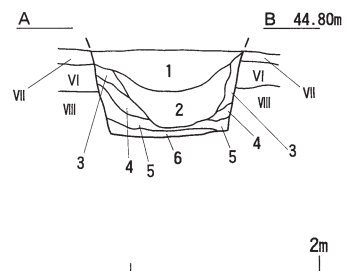


断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)										その他の混在物		備考	
				野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	現在割合 %	種類	混在量	埋め灰	その他				
P-9	1	土層		*													
	2	土層		*													
	3	土層		*													



取上げ 番号	遺物 番号	種類	【土器】 【石器】 【石器】 【瓦器】 【土器】 【石器】 【瓦器】 【土器】 【石器】 【瓦器】	遺物内容	場所	高さ	層位	標高 (m)	掲載	備考
1	1	土器	土器	土器	1	44.53	層土1	44.53		
2	2	土器	土器	土器	1	44.25	層土6	44.25		
3	3	土器	土器	土器	1	44.58	層土2	44.58	○	
4	4	土器	土器	土器	1	44.55	層土2	44.55		
5	5	土器	土器	土器	1	44.25	層土6	44.25		
6	6	土器	土器	土器	1	44.58	層土2	44.58		
7	7	土器	土器	土器	1	44.25	層土6	44.25		
8	8	土器	土器	土器	2	44.27	層土6	44.27	○	

断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)										その他の混在物		備考
				野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	現在割合 %	種類	混在量	埋め灰	その他			
1	層土1	Vb	主体		黒色	10YR2/1	軟	*	*	*	*	*	*			
2	層土2		(V2%混じる)		黒色	10YR2/1	軟	*	*	*	*	*	*			
3	層土3		(V4混入、V2%混じる)		暗黄褐色	10YR4/3	軟	*	*	*	*	*	*			
4	層土4	*			黄褐色	10YR5/6	軟	*	*	*	*	*	*			
5	層土5		(V4混入、V2%混じる)		暗黄褐色	10YR6/8	軟	*	*	*	*	*	*			
6	層土6	*			黒褐色	10YR2/3	軟	*	*	*	*	*	*			



図III-37 P-9・11

流入である。坑底面中央から開口部まで覆う。2層についてはV層とVIII層が混じりあう土であり、交互に流入したような状況である。坑底面はほぼ平坦だが中央がやや窪む。掘り込み面は検出面より上である。覆土からはIII群a類土器片を主として出土（図III-38-5・13・14・16・III-99-1）するが、IV群a類が1点混じる。石鏃（図III-38-4・III-120-47）の出土がある。

**時期：**遺物出土状況から、縄文時代後期前葉以降の可能性はある。（大泰司）

**P-13**（図III-39、表3・9・15、図版28-1）

**位置・立地：**B・C-40区 標高45.20～45.60m付近の平坦面

**規模：**2.12×(1.04)/1.92×(0.78)/0.27m

**確認・調査：**VII層上面で、にぶい黄褐色土の落ち込みを検出した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。一部は調査区外である。不整な卵型の平面形である。覆土はV～VIII層が混じり合っている。埋め戻しの可能性がある。坑底はほぼ平坦である。掘り込み面は検出面より上である。調査区壁面において土層観察したところ掘り込み面はVb層の中位である。覆土からIII群a類土器が出土している。

**時期：**出土遺物および、覆土と立地など共通点が多いP-2から、縄文時代中期前半の可能性はある。（大泰司）

**P-14**（図III-39・120、表3・9・15、図版28-2）

**位置・立地：**G-39・40区 標高44.60～44.80m付近の平坦面

**規模：**2.14×1.94/2.08×1.84/0.28m

**確認・調査：**VII層上面で、にぶい黄褐色土の落ち込みを検出した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。不整な楕円形の平面形である。覆土1層はV～VIII層が混じり合っている。埋め戻しの可能性がある。坑底直上の一部には薄く黒色土の層が入り込む。坑底はほぼ平坦であるが、南西側がやや高くなっている。掘り込み面は検出面より上である。包含層調査の都合で、G-40区側の一部においてVb層が高く残っていた。そこで確認したところ掘り込み面はVb層の中位である。覆土1層からは石鏃（図III-39-3・III-120-48）と礫が出土している。

**時期：**覆土と立地など共通点が多いP-2から、縄文時代中期前半の可能性はある。（大泰司）

**P-15**（図III-39、図版28-3）

**位置・立地：**C-43区 標高43.20～43.40m付近の平坦面

**規模：**0.80×0.75/0.60×0.46/0.22m

**確認・調査：**VII層上面で、黒色土の落ち込みを検出した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。不整な円形の平面形である。覆土はVb層主体の黒色土が主であり、壁面際にV～VIII層が混じり合った土の流入がある。自然堆積と考える。坑底はほぼ平坦である。掘り込み面は検出面より上である。覆土からIV群a類土器と礫が出土している。

**時期：**出土遺物から、縄文時代後期前葉の可能性はある。（大泰司）

**P-16**（図III-40・99・129、表3・9・15、図版28-4）

**位置・立地：**C-44区 標高42.80～43.00m付近の平坦面

**規模：**1.32×1.24/1.02×0.78/0.44m

**確認・調査：**Vb層中位で、黒褐色土の落ち込みに大型の礫が埋没している状況を検出した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。不整な楕円形の平面形である。覆土上位の1層はVb層を主体とする自然堆積である。2・3層はV～VIII層が混在した土層であり、埋め戻しの可能性がある。坑底はほぼ平坦であるが、中央が浅く凹む。掘り込み面は検出面より上である。覆土1層からは大型で板状の礫が2点とⅢ群a類～Ⅳ群a類土器が散点的に出土する。覆土2～4層から遺物の出土はない。

**時期：**出土遺物から縄文時代中期中葉～後期前葉の可能性がある。主要な出土土器片から判断すると中期の可能性が高い。(大泰司)

P-17 (図Ⅲ-40・41・100・130、表3・9・15、図版28-5)

**位置・立地：**C・D-43・44区 標高44.80mほどの三次郎川上流側の低位段丘平坦面。

**規模：**2.10×1.69/1.78×1.41×0.67m

**確認・調査：**焼土F-1・9の土層観察用Dラインおよび44ラインのベルトを残しながら、掘り進めたところ、D-44杭を中心にVI(漸移)層上面で輪郭がはっきりとしないながらも、黒色土が落ち込んでいる状況が捉えられた。一部土層ベルトをはずしながら、VII層上面まで掘り下げると楕円形に輪郭がはっきりと観察された。土坑との推定から北側を半裁したところ、大型の礫が3個確認でき、主要な土器片などを残しながら掘り進め、礫混じりのVIII層に達した。壁も明瞭に立ち上がり、土坑と判断した。

覆土は、上部が黒色土を主体とするもの(1・2層)で土坑中央部へ向かって凸レンズ状に堆積する。その下部に黄色粘土と若干の黒色土が混合する褐色土(3層)が炭化粒を含み、土坑全体を厚さ25cmほどで覆っている。坑底付近では、壁際を中心に明黄褐色の粘質土(4層)があり、黒色土(5層)が部分的に薄く堆積していた。帯状に重なる堆積を示すことから、覆土は埋め戻し土と判断している。なお、黒色土部分では明瞭な人骨等の痕跡は捉えられなかった。

平面形は、ほぼ南北方向を長軸とする楕円形で、長軸長が確認面で2mを超える大型土坑である。今回の調査で確認されたものの中で大型の部類である。坑底は浅皿状を呈し、壁は緩やかに立ち上がり、坑口に向かって広がっている。

**遺物出土状況：**大型礫4個は覆土3層からの出土であり、土坑長軸線上の南側および中央に各1個、他の2個が西側に片寄り土坑中央部に向かって傾斜している。小型の礫も数多く出土しているが、坑底には基盤層に包含される礫が表出している状況が捉えられたこともあり、意図的に入れられたものかの判断は難しい。

また、そのほかの遺物についても坑底出土のものではなく、すべて覆土からの出土である。主要な土器片は覆土2と3との層界付近から出土したものが多く、Ⅲ群a類土器(図Ⅲ-100-1)である。Ⅳ群の土器片も1点、最上位の黒色土から出土している。

**時期・性格：**主要な出土土器片から縄文時代中期の墓と考える。しかし、Ⅳ群の土器片の出土は、最上位の黒色土を覆土と判断した妥当性が問題になると考えている。(田中)

P-18 (図Ⅲ-42、表3・9・15、図版28-6)

**位置・立地：**G-39区 標高44.60～45.00m付近の緩斜面

**規模：**0.47×0.43/0.18×0.15/0.16m

**確認・調査：**VIII層まで下げて、黒～暗褐色土の円形の落ち込み上に直径16cmほどの安山岩の礫を検出



した。中心で半截し、断面での壁の立ち上がりが明瞭であったため、土坑と判断した。覆土は2層に分けた。1層は黒褐色のV層とVI層から成る土層、2層はVI・VII・VIII層が混じりあった埋め戻し土である。平面は不整な円形である。底は平らでなく、碗状に掘り込まれている。掘り込み面は検出面よりも上である。遺物は上位の安山岩礫のほか、メノウの原石が1点出土した。

**時期：**掘り込み面、周辺の包含層出土の遺物から、縄文時代中期または後期前葉と考える。中期の可能性が高い。 (新家)

P-19 (図III-38、表3・9・15、図版27-4)

**位置・立地：**C-42区 標高43.80mほどの西向き段丘斜面

**規模：**0.78×(0.53)/0.70×0.46/0.30m

**確認・調査：**P-10の南西側に0.60mほど離れて、VIII(地盤)層上面で褐色土の楕円形の輪郭が検出された。覆土は黄色粘土ブロックを含む暗褐色土が主体で、平坦な坑底および明確な壁の立ち上がりを確認できたことから土坑と判断した。

平面形はP-10と同様楕円形であるが、長軸方向は南北を向く。遺構確認が遅くなり、遺物出土の確認はできなかった。

**時期：**不明。周辺検出の遺構状況から縄文中期の可能性を考えている。 (田中)

P-20 (図III-42・100・130、表3・9・15、図版29-1)

**位置・立地：**F・G-43区 標高44.80~45.00m付近の平坦面

**規模：**1.50×1.36/1.35×1.20/0.22m

**確認・調査：**VI層上面で、黒褐色土の落ち込みを検出した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、小型の土坑と判断した。H-3の確認以前に検出されたものであり、より新しい時期のものである。不整な楕円形の平面形である。覆土はVb層を主体とする自然堆積である。坑底はほぼ平坦であるが、東側へ向かって低く傾斜している。掘り込み面は検出面よりも上である。覆土からは人頭大の礫がふたつ、北海道式石冠と扁平打製石器(図III-42-8・III-130-33)が各1点の他、III群土器(図III-42-17・18・III-100-1)を主として土器片が散点的に出土している。

**時期：**出土遺物から縄文時代中期中葉の可能性がある。 (大泰司)

P-21 (図III-42、表3・9・15、図版29-2)

**位置・立地：**I-37区 標高44.60~45.00m付近の緩斜面

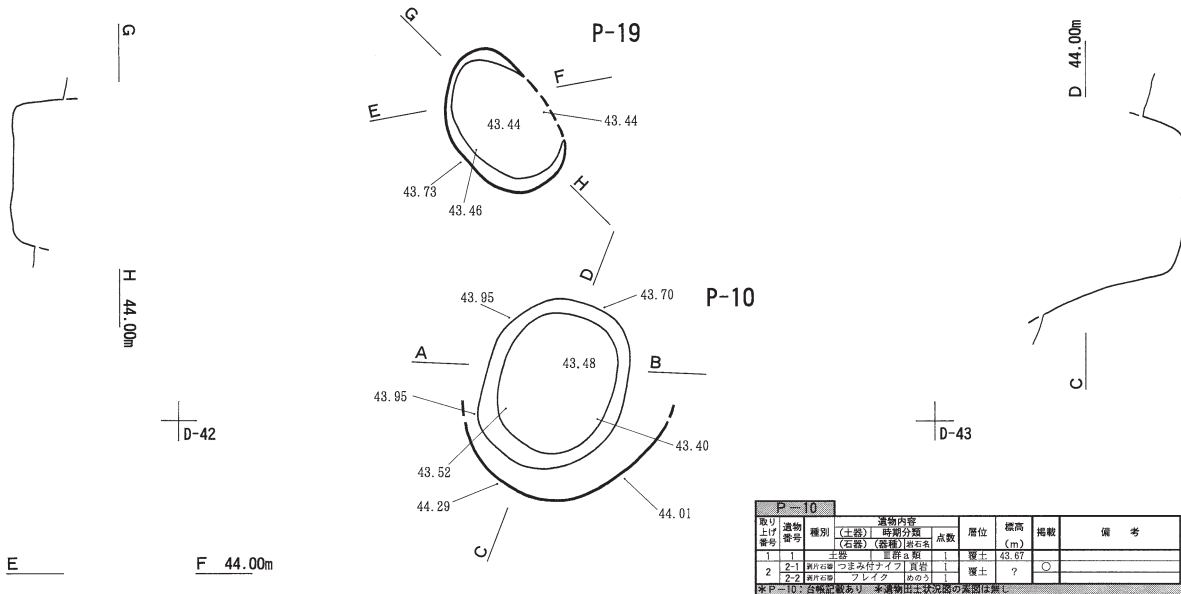
**規模：**0.80×0.60/0.57×0.47/0.19m

**確認・調査：**VII層まで下げて、黒褐色土の楕円形の落ち込みを検出した。半截により、断面の明瞭な壁の立ち上がりとは平坦な底から、土坑と判断した。覆土は3層に分けた。1層はV・VI層、2層はV・VII層、3層はV・VIII層をそれぞれ主体としており、埋め戻しである。平面形は楕円形である。底はほぼ水平・平坦である。掘り込み面は検出面よりも上である。遺物は覆土1層から、縄文時代中期の土器片1点と、安山岩の礫1点が出土している。

**時期：**掘り込み面、周辺の包含層出土の遺物から、縄文時代中期の可能性がある。 (新家)

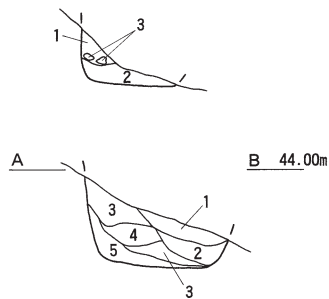
P-22 (図III-43、表3・9・15、図版29-3)

**位置・立地：**J-38・39区 調査区東側、標高44.40~44.60m付近の平坦面



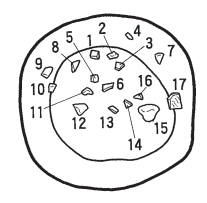
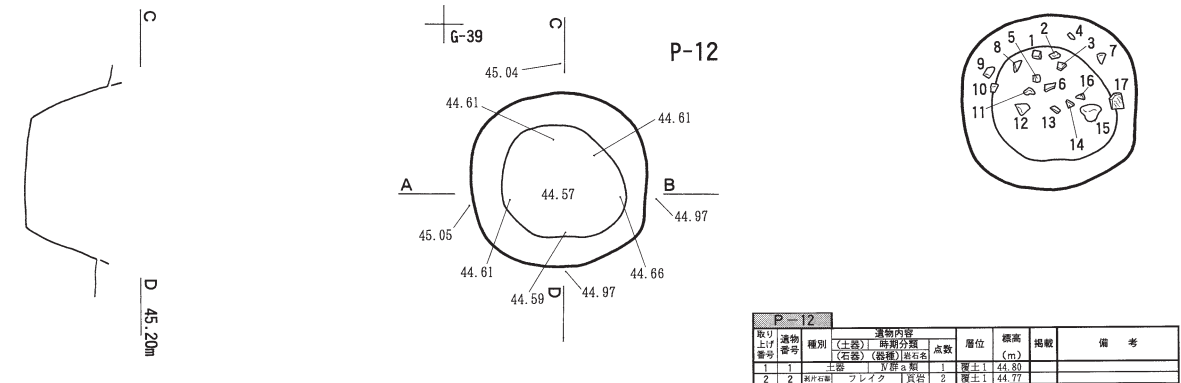
掘り上げ番号	遺物番号	種別	遺物内容 (土器) 時期分類 (石器) (石器) 地名	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
1	1	土器	土器 a類	1	覆土	43.67	○	
2	2-1	土器	土器 a類	1	覆土	43.67	○	
2	2-2	土器	土器 a類	1	覆土	?	○	

※P-10: 右欄記載あり。本遺物出土状況図の裏面に併し。



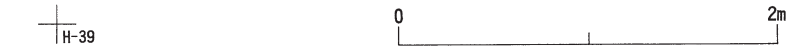
断面図番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)			礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考
				野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	現在割合 %	種類	
1	覆土1	*	*	*	暗褐色 10YR3/4	*	軟	*	*	*	覆土3により分離
2	覆土2	*	*	*	黒褐色 10YR3/2	*	軟	*	*	*	覆土3により分離
3	覆土3	VII	主体?	*	(粘土)	*	*	*	*	*	

断面図番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)			礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考
				野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	現在割合 %	種類	
1	覆土1	*	*	*	極暗褐色 7.5YR2/3	*	*	*	*	*	
2	覆土2	*	*	*	暗褐色 10YR3/3	*	*	*	*	*	
3	覆土3	*	*	*	暗褐色 10YR3/4	*	*	*	*	*	
4	覆土4	(VII若干混じる)	*	*	暗褐色 10YR3/4	*	*	*	*	*	
5	覆土5	*	*	*	黄褐色 10YR5/8	*	*	*	*	*	
6	*	*	*	*	黒褐色 10YR2/3	*	*	*	*	*	坑底の薄層

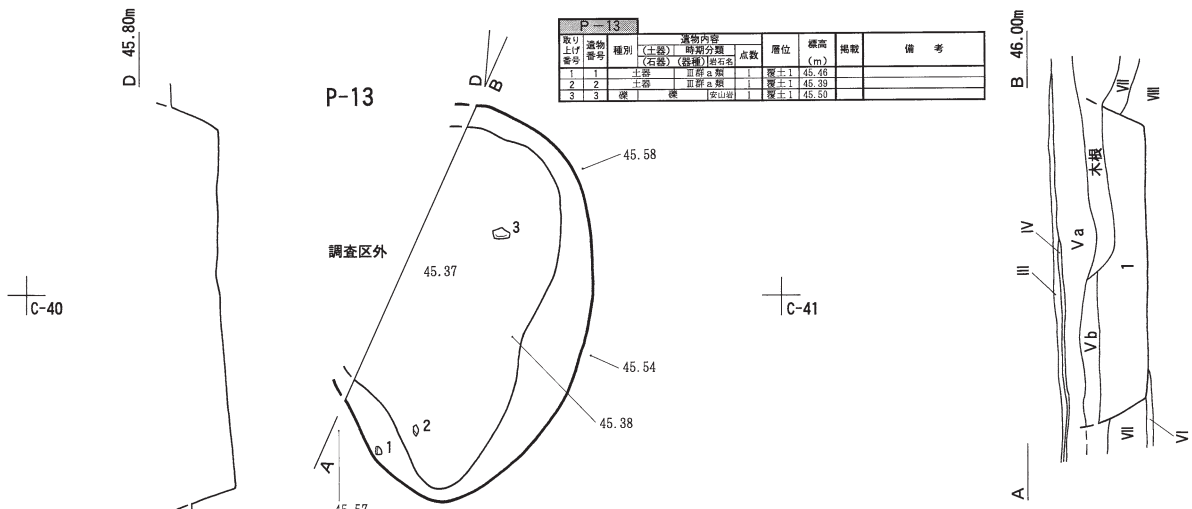


掘り上げ番号	遺物番号	種別	遺物内容 (土器) 時期分類 (石器) (石器) 地名	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
1	1	土器	土器 a類	1	覆土1	44.80		
2	2	土器	土器 a類	1	覆土1	44.77		
3	3	土器	土器 a類	1	覆土2	44.74		
4	4	土器	土器 a類	1	覆土1	44.89	○	
5	5	土器	土器 a類	1	覆土1	44.84	○	
6	6	土器	土器 a類	1	覆土1	44.71		
7	7	土器	土器 a類	1	覆土1	44.81		
8	8	土器	土器 a類	1	覆土1	44.88		
9	9	土器	土器 a類	1	覆土1	44.91		
10	10	土器	土器 a類	1	覆土1	44.96		
11	11	土器	土器 a類	1	覆土1	44.72		
12	12	土器	土器 a類	1	覆土1	44.67		
13	13	土器	土器 a類	1	覆土1	44.64	○	
14	14	土器	土器 a類	1	覆土1	44.65	○	
15	15	土器	土器 a類	1	覆土1	44.87	○	
16	16	土器	土器 a類	2	覆土1	44.84	○	
17	17	土器	土器 a類	1	覆土1	44.74		

断面図番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)			礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考
				野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	現在割合 %	種類	
1	覆土1		(VII 7%混じる)	*	黒色 10YR2/1	*	軟	*	*	*	
2	覆土2	Vb +	VII	*	黒色 10YR4/3	*	軟	*	*	*	
3	覆土3	VII	主体	*	黄褐色 10YR6/8	*	軟	*	*	*	

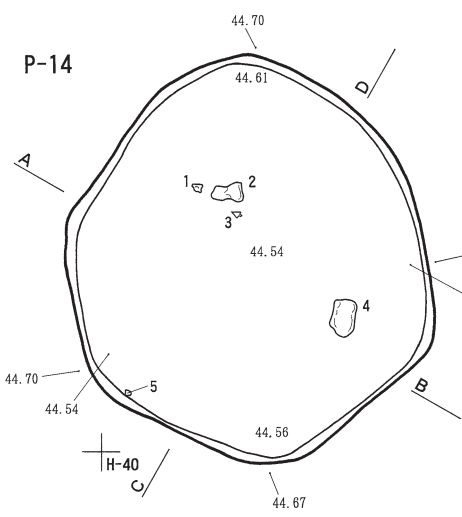


図III-38 P-10・19・12



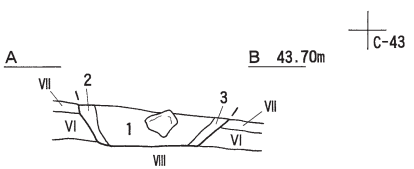
取上げ番号	遺物番号	種別	遺物内容 (土器) 時期分類 (石器) (器種) 器名	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
1	1	土器	耳部土類	1	覆土1	45.46		
2	2	土器	耳部土類	1	覆土1	45.39		
3	3	石	燧石	1	覆土1	45.50		

断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)				礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考
				野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	現在割合 %	種類	混在量	
1	覆土1		(雫10%混じる)	壤土	10YR5/4	*	軟	*	*	*	*	



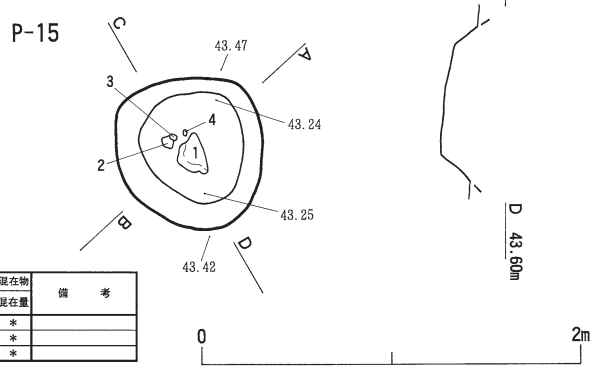
取上げ番号	遺物番号	種別	遺物内容 (土器) 時期分類 (石器) (器種) 器名	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
1	1	土器	フレイク	1	覆土1	44.68		
2	2	石	燧石	1	覆土1	44.59		
3	3	土器	石	1	覆土1	44.77	○	直上Vb層出土
4	4	石	燧石	1	覆土1	44.92		直上Vb層出土
5	5	土器	フレイク	1	覆土1	44.80		燧石

断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)				礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考
				野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	現在割合 %	種類	混在量	
1	覆土1		(雫5%混じる)	壤土	10YR4/3	*	軟	*	*	*	*	
2	覆土2		(雫2%混じる)	壤土	10YR1/1	*	軟	*	*	*	*	



取上げ番号	遺物番号	種別	遺物内容 (土器) 時期分類 (石器) (器種) 器名	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
1	1	土器	V部土類	1	覆土1	43.46		
2	2	土器	V部土類	1	覆土1	43.42		
3	3	土器	V部土類	1	覆土1	43.42		
4	4	土器	V部土類	1	覆土1	43.35		

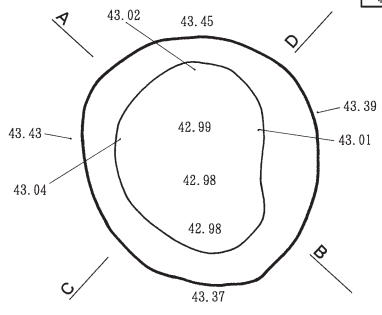
断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)				礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考
				野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	現在割合 %	種類	混在量	
1	覆土1	Vb	主体	壤土	7.5YR2/1	*	軟	*	*	*	*	
2	覆土2		(VとVbが混在)	壤土	7.5YR3/4	*	軟	V部土類	?	*	*	
3	覆土3		(VとVbが混在)	壤土	10YR4/3	*	軟	*	*	*	*	



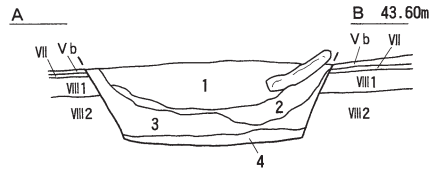
図III-39 P-13・14・15

C-44

P-16



P-16				(埋め戻し)							
断面図番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)	砂・粘土・シルト (長径2mm以上)	その他の混在物	備考				
				野外土性	全体貯土色調 色名 (JIS-X4004)	粘着性	堅密度	種類	現在割合 %	種類	現在量
1	覆土1	*		壤土	黒色 10Y2.5/1	*	軟	軽石	1	*	*
2	覆土2	VI	主体	壤土	黄褐色 10Y5.5/8	*	軟	*	*	*	*
3	覆土3	VI	主体	壤土	黄褐色 10Y5.5/4	*	軟	軽石	7	*	*
4	覆土4	*		壤土	黒色 10Y3.1/1	*	軟	*	*	*	*

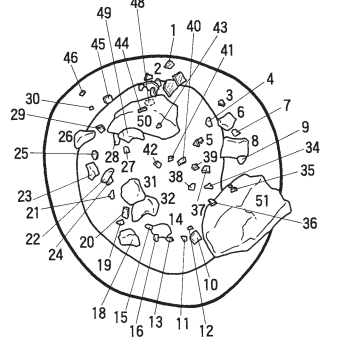


D 43.60m

D-44

C

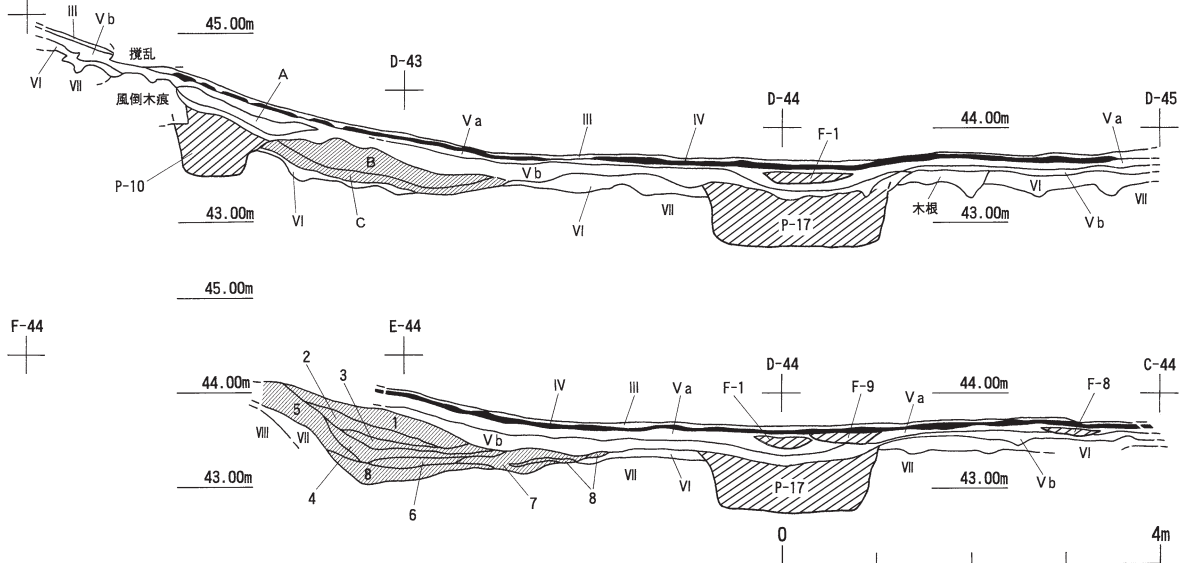
取上げ 層位 番号	種別	遺物内容 (土器) (石器)	遺物分類 (器種) (種名)	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
1	1	土器	灰山形	1	覆土1	43.35		
2	2-1	土器	目跡a類	8	覆土1	*	○	
2	2-2	土器	V跡	1	覆土1	43.38		
3	3-1	土器	V跡a類	1	覆土1	43.38		
3	3-2	土器	目跡b類	1	覆土1	43.37		
4	4	土器	灰山形	1	覆土1	43.37		
5	5-1	土器	V跡a類	1	覆土1	43.08		
5	5-2	土器	目跡b類	2	覆土1	43.35	○	
6	6	土器	灰山形	1	覆土1	43.33		
7	7	土器	フレイク	めがね	覆土1	43.36		
8	8	土器	灰山形	1	覆土1	43.38		
9	9	土器	灰山形	1	覆土1	43.40		
10	10	土器	フレイク	瓦管	覆土1	43.41		
11	11	土器	フレイク	瓦管	覆土1	43.36		
12	12	土器	目跡a類	1	覆土1	43.36		
13	13-1	土器	目跡a類	2	覆土1	43.34	○	
13	13-2	土器	フレイク	瓦管	覆土1	43.34		
14	14	土器	扁平打製石器	灰山形	覆土1	43.33	○	
15	15	土器	灰山形	1	覆土1	43.34		
16	16	土器	フレイク	めがね	覆土1	43.33		
17	17	土器	目跡b類	1	覆土1	43.37		遺物出土状況図に記載無し
18	18	土器	灰山形	1	覆土1	43.35		
19	19	土器	フレイク	瓦管	覆土1	43.33		
20	20-1	土器	目跡b類	2	覆土1	43.33	○	
20	20-2	土器	目跡b類	1	覆土1	43.33		
21	21	土器	フレイク	瓦管	覆土1	43.35		
22	22	土器	灰山形	1	覆土1	43.38		
23	23	土器	灰山形	1	覆土1	43.24		
24	24	土器	灰山形	1	覆土1	43.34		
25	25	土器	目跡a類	1	覆土1	43.36		
26	26	土器	灰山形	1	覆土1	43.32		
27	27	土器	フレイク	瓦管	覆土1	43.32		
28	28	土器	灰山形	1	覆土1	43.24		
29	29	土器	目跡a類	1	覆土1	43.35		
30	30	土器	灰山形	1	覆土1	43.39		
31	31	土器	灰山形	1	覆土1	43.25		
32	32	土器	灰山形	1	覆土1	43.20		
33	33	土器	目跡a類	1	覆土1	43.35		遺物出土状況図に記載無し
34	34	土器	目跡a類	1	覆土1	43.35		
35	35-1	土器	V跡a類	1	覆土1	43.32	○	
35	35-2	土器	目跡a類	1	覆土1	43.30		
36	36	土器	目跡a類	1	覆土1	43.30		
37	37-1	土器	目跡b類	3	覆土1	43.34	○	
37	37-2	土器	フレイク	めがね	覆土1	43.31		
38	38	土器	灰山形	1	覆土1	43.31		
39	39	土器	V跡a類	1	覆土1	43.28		
40	40	土器	目跡a類	1	覆土1	43.27	○	
41	41	土器	目跡b類	1	覆土1	43.34	○	
42	42	土器	V跡a類	2	覆土1	43.34		
43	43	土器	灰山形	2	覆土1	43.30		
44	44	土器	V跡a類	1	覆土1	43.37		
45	45	土器	目跡a類	1	覆土1	43.33		
46	46	土器	目跡a類	1	覆土1	43.38		
47	47	土器	目跡b類	1	覆土1	43.21		遺物出土状況図に記載無し
48	48	土器	目跡a類	1	覆土1	43.28		
49	49	土器	扁平打製石器	灰山形	覆土1	43.27		
50	50	土器	灰山形	1	覆土1	43.37		
51	51-1	土器	灰山形	1	覆土1	43.41		
51	51-2	土器	灰山形	8	覆土1	43.41		



0 2m

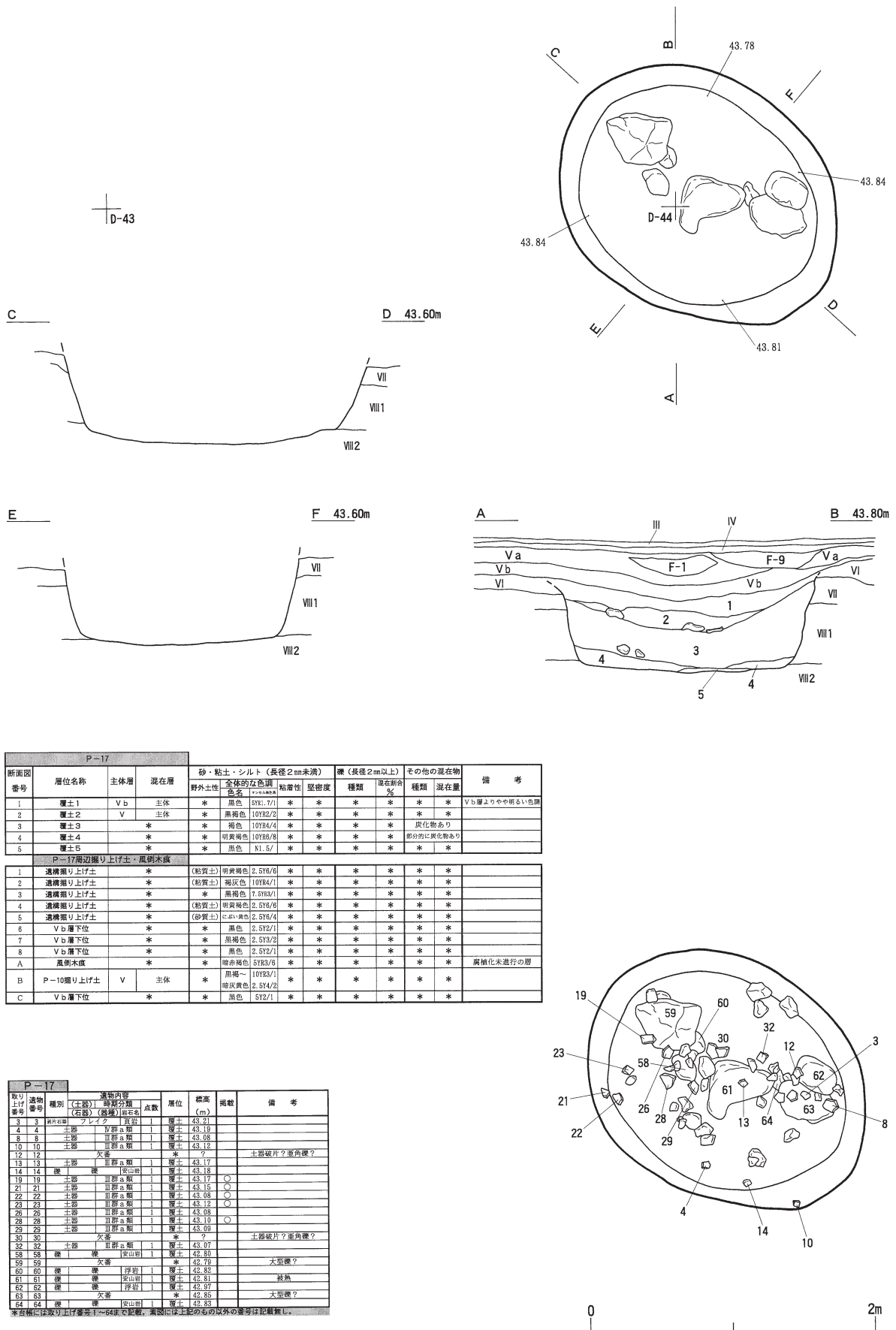
D-42

F-44



図III-40 P-16・17(1)





P-17												
断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)				礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備 考
				野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類	混在量	
1	覆土1	V b	主体	*	黒色 5YR1.7/1	*	*	*	*	*	*	V b層よりやや明るい色層
2	覆土2	V	主体	*	黒褐色 10YR2/2	*	*	*	*	*	*	
3	覆土3		*	*	褐色 10YR4/4	*	*	*	*	*	*	炭化物あり
4	覆土4		*	*	明黄褐色 10YR6/8	*	*	*	*	*	*	部分的に炭化物あり
5	覆土5		*	*	黒色 N1.5/	*	*	*	*	*	*	
P-17周辺掘り上げ土・風倒木痕												
1	遺構掘り上げ土	*	(粘質土)	明黄褐色 2.5Y6/6	*	*	*	*	*	*	*	
2	遺構掘り上げ土	*	(粘質土)	褐灰色 10YR4/1	*	*	*	*	*	*	*	
3	遺構掘り上げ土	*	*	黒褐色 7.5YR3/1	*	*	*	*	*	*	*	
4	遺構掘り上げ土	*	(粘質土)	明黄褐色 2.5Y6/6	*	*	*	*	*	*	*	
5	遺構掘り上げ土	*	(砂質土)	灰色 2.5Y6/4	*	*	*	*	*	*	*	
6	V b層下位	*	*	黒色 2.5Y2/1	*	*	*	*	*	*	*	
7	V b層下位	*	*	黒褐色 2.5Y3/2	*	*	*	*	*	*	*	
8	V b層下位	*	*	黒色 2.5Y2/1	*	*	*	*	*	*	*	
A	風倒木痕	*	*	暗赤褐色 5YR3/6	*	*	*	*	*	*	*	腐植化未進行の層
B	P-10掘り上げ土	V	主体	*	黒褐色 10YR3/1	*	*	*	*	*	*	
C	V b層下位	*	*	黒色 2.5Y2/1	*	*	*	*	*	*	*	

P-17						
取り上げ 番号	遺物 番号	種類	遺物内容 (土器) (瓦器) (瓦片) (土器)	点数	層位	標高 (m)
3	3	陶片	クワ	1	覆土	43.21
4	4	土器	Ⅲ群 a類	1	覆土	43.19
8	8	土器	Ⅲ群 a類	1	覆土	43.08
10	10	土器	Ⅲ群 a類	1	覆土	43.10
12	12	土器	灰膏	1	?	?
13	13	土器	Ⅲ群 a類	1	覆土	43.17
14	14	土器	Ⅲ群 a類	1	覆土	43.16
19	19	土器	Ⅲ群 a類	1	覆土	43.17
21	21	土器	Ⅲ群 a類	1	覆土	43.15
22	22	土器	Ⅲ群 a類	1	覆土	43.08
23	23	土器	Ⅲ群 a類	1	覆土	43.12
26	26	土器	Ⅲ群 a類	1	覆土	43.08
28	28	土器	Ⅲ群 a類	1	覆土	43.10
29	29	土器	Ⅲ群 a類	1	覆土	43.09
30	30	土器	灰膏	1	?	?
32	32	土器	Ⅲ群 a類	1	覆土	43.07
58	58	土器	安山田	1	覆土	42.80
59	59	土器	灰膏	1	?	?
60	60	土器	浮岩	1	覆土	42.85
61	61	土器	安山田	1	覆土	42.81
62	62	土器	浮岩	1	覆土	42.97
63	63	土器	灰膏	1	?	?
64	64	土器	安山田	1	覆土	42.83

※右欄には取り上げ番号1～64まで記載。左欄には土器以外の遺物の番号は記載無し。

図 III-41 P-17(2)

規模：1.20×1.02/1.00×0.86/0.13m

**確認・調査：**Ⅶ層まで下げて、黒色土の楕円形の落ち込みを検出した。半断面はⅡ層から残したベルトを観察した。平坦な底と浅いが明瞭な立ち上がりが見られ、土坑と判断した。覆土はⅤb層起源の黒色土からなる1層で、自然堆積と思われる。平面形は楕円形で、底はほぼ平坦である。東側の壁が、他よりやや急に立ち上がる。掘り込み面はⅤb層である。Ⅷ層を掘り込まず、Ⅷ層上面が底になっている。遺物は出ていない。

**時期：**掘り込み面、周辺の包含層出土の遺物から、縄文時代中期または後期前葉の可能性がある。ただしⅣ層が落ち込んでいる状況が、調査区内の続縄文時代の遺構と類似する。 (新家)

P-23 (図Ⅲ-43・100・130、表3・9・15、図版29-4)

**位置・立地：**F-45区 標高43.20~43.40m付近の平坦面

規模：0.70×0.64/0.56×0.58/0.20m

**確認・調査：**Ⅵ層上面でにぶい黄褐色土の落ち込みにⅢ群b-1類土器(図Ⅲ-41-1・Ⅲ-100-1)がまとまっている状況を検出した。完形の一個体が横倒しになり押し潰された状況であった。大型の土器破片が折り重なるように出土し、底部際の胴部には北海道式石冠(図Ⅲ-41-2・Ⅲ-130-34)が置かれていた。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と坑底面を検出し、土坑に土器を埋納したものと判断した。不整な卵形の平面形である。覆土はⅤ~Ⅷ層が混じり合った土であり、遺物の出土状況も踏まえて埋め戻しと考える。土器の内部の土も土色は同じであった。これをフローテーション法で処理した。坑底面は中央が凹む。掘り込み面は検出面より上である。

**時期：**出土遺物から縄文時代中期中葉のものである。 (大泰司)

**フローテーション成果：**土坑内で横倒しになっていた土器内部の土をフローテーション法にて処理した。その結果、炭化種子を検出した。炭化種子は同定不能なものが1点出土した。(詳細はⅤ章2)

P-24 (図Ⅲ-43・120、表3・9・15、図版29-5)

**位置・立地：**G・H-43区 標高44.00m付近の斜面

規模：0.92×0.81/0.82×0.73/0.23m

**確認・調査：**Ⅴa層上面でB-Tmの落ち込みを検出した。遺構を想定して土層観察用の土手を残し調査したところ、Ⅴa層主体の黒色土を覆土とする土坑がⅤb層に掘り込まれている状況が明らかとなった。不整な楕円形の平面形である。覆土は自然堆積である。壁面は垂直に立ち上がる。坑底面は平坦である。掘り込み面は検出面とほぼ同じと考える。遺物は覆土からⅢ群a類土器やスクレイパー(図Ⅲ-43-2・Ⅲ-120-49)が散点的に出土している。

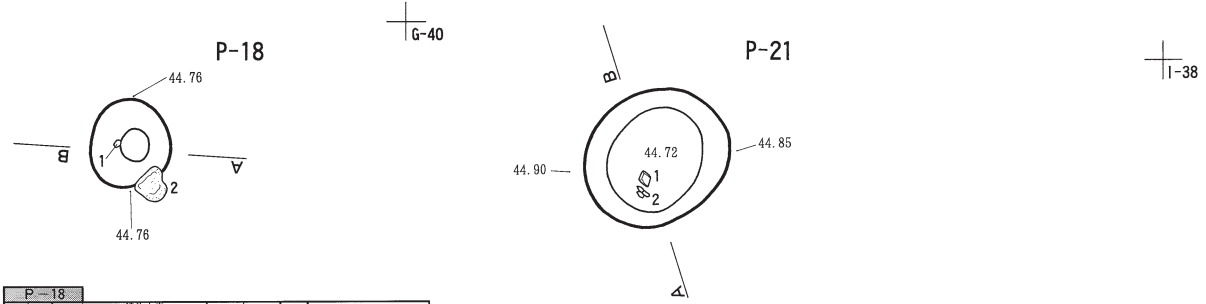
**時期：**検出面の高さから続縄文時代以降のものとする。 (大泰司)

P-25 (図Ⅲ-43、表3・9・15、図版29-6)

**位置・立地：**B・C-45区 調査区南西側の急斜面手前、標高43.40~43.60m付近の平坦面

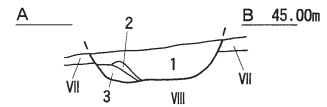
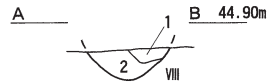
規模：0.98×(0.70)/0.54×(0.57)/0.40m

**確認・調査：**45ラインのメインセクション観察用ベルトに、黒褐色土の落ち込みの断面を検出した。包含層はⅧ層まで下げ、その後黒褐色土を半截した。明瞭な立ち上がりとは平坦な底から、土坑と判断した。覆土は5層に分けた。1、2層はⅤ・Ⅵ層主体、3層はⅤ・Ⅶ層主体、4層はⅥ・Ⅶ・Ⅷ層主体、5層はⅤ・Ⅶ層主体である。いずれも埋め戻し土と思われる。平面はほぼ円形で、北側4分の1



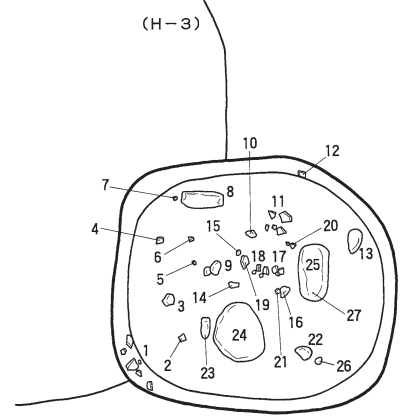
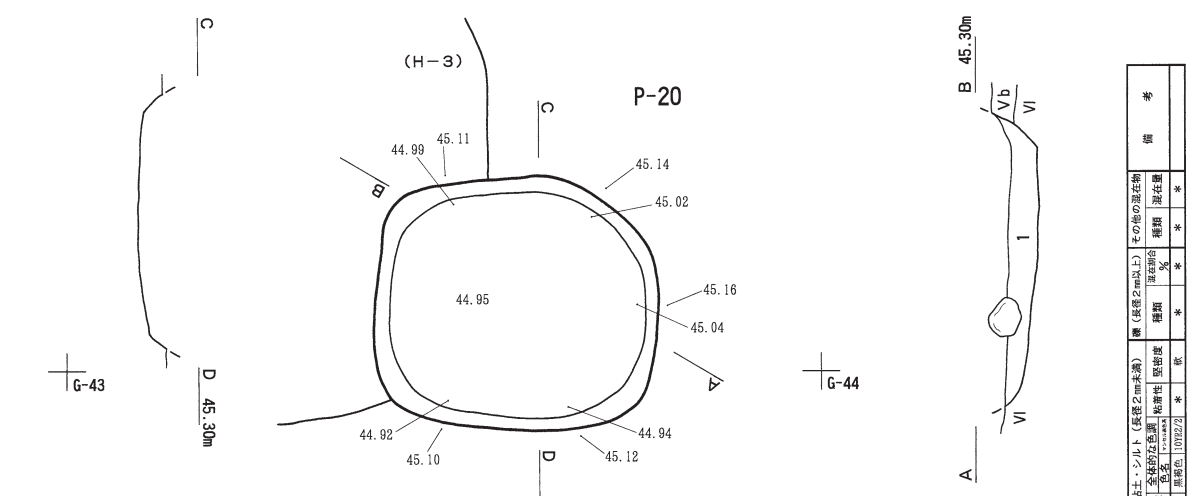
取り上げ番号	遺物種別	遺物内容 【土器】 時期分類 【石器】 (器種) 器石名	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
1	1	新井石 土器 フレイク 砂のう	79	覆土1	44.74		
2	2	土器 土器 安山田	1	覆土2	44.81		

取り上げ番号	遺物種別	遺物内容 【土器】 時期分類 【石器】 (器種) 器石名	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
1	1	土器 土器 安山田	1	覆土1	44.84		
2	2	土器 土器 安山田	1	覆土1	44.72		



断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)				礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考
				野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類	混在量	
1	覆土1	*			黒褐色	10YR2/2	中	堅	*	*	*	*
2	覆土2	*			暗褐色	10YR3/4	中	すこぶる堅	*	*	*	*

断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)				礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考
				野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類	混在量	
1	覆土1	V	+	VI	暗褐色	10YR2/2	強	すこぶる堅	*	*	*	*
2	覆土2	V	+	VI	暗褐色	10YR3/3	中	すこぶる堅	?	?	*	*
3	覆土3	V	+	VII	(粘土) 暗褐色	10YR3/4	強	すこぶる堅	*	*	*	*



取り上げ番号	遺物種別	遺物内容 【土器】 時期分類 【石器】 (器種) 器石名	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
1	1	土器 土器 安山田	7	覆土1	45.05		
2	2	新井石 フレイク 砂のう	1	底面	45.94		
3	3	土器 土器 安山田	1	覆土1	45.07		
4	4	土器 土器 安山田	1	覆土1	45.07		
5	5	土器 土器 安山田	1	覆土1	45.08		
6	6	土器 土器 安山田	1	覆土1	45.06		
7	7	土器 土器 安山田	1	覆土1	45.07		
8	8	礫石 扁平打製石器 安山田	1	覆土1	45.14		
9	9	土器 土器 安山田	1	覆土1	45.10		
10	10	礫石 北海道式石斧 安山田	1	覆土1	45.09		
11	11	土器 土器 安山田	3	覆土1	45.15		
12	12	土器 土器 安山田	1	覆土1	45.10		
13	13	土器 土器 安山田	1	覆土1	45.14		
14	14	土器 土器 安山田	1	覆土1	45.09		
15	15	新井石 フレイク 砂のう	1	覆土1	44.99		
16	16	土器 土器 安山田	1	覆土1	45.07		
17	17	土器 土器 安山田	3	覆土1	45.05		
18	18	土器 土器 安山田	5	覆土1	45.08		
19	19	土器 土器 安山田	2	覆土1	45.15		
20	20	土器 土器 安山田	8	覆土1	45.18		
21	21	土器 土器 安山田	1	覆土1	45.01		
22	22	土器 土器 安山田	1	覆土1	45.15		
23	23	土器 土器 安山田	1	覆土1	45.16		
24	24	礫石 礫石 安山田	1	覆土1	45.15		
25	25	土器 土器 安山田	1	覆土1	45.29		
26	26	土器 土器 安山田	1	覆土1	45.03		
27	27	新井石 フレイク 砂のう	2	覆土1	*		25: 礫の前下

断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)				礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考
				野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類	混在量	
1	覆土1	V/b			暗褐色	10YR2/2	中	堅	*	*	*	*

図III-42 P-18・20・21

程度が調査区外にかかっている。掘り込み面はVb層下位である。安山岩の礫が1点覆土3層から出土している。

**時期：**掘り込み面、周辺の包含層出土遺物から、縄文時代中期または後期前葉である。 (新家)

P-26 (図Ⅲ-44・101・120・130・131、表3・9・15、図版30-1)

**位置・立地：**I-44区 標高43.60~44.00m付近の平坦面

**規模：**2.56×2.39/2.30×2.00/0.28m

**確認・調査：**Vb層下位でより黒色味の強い黒色土の落ち込みを検出した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。不整な円形の平面形である。覆土は自然堆積と考える。坑底面はほぼ平坦である。掘り込み面は検出面より上である。遺物はほとんどが覆土1層からの出土である。土器はⅢ群a類の出土が多く、Ⅲ群b類も混じる。北海道式石冠が9点、扁平打製石器が6点出土しているのが特徴的である。規模的にはⅢ群b類の小型堅穴住居ほどの大きさがあるが、住居として積極的に根拠付けられるものはなかった。遺物が覆土上位自然堆積部分に集中することから土坑埋没途中に、その凹みに廃棄がなされた状況とも捉えられる。

**時期：**出土遺物から縄文時代中期の可能性がある。 (大泰司)

P-27 (図Ⅲ-45、表3・9・15、図版30-2)

**位置・立地：**G・H-42区 標高44.20m付近の斜面

**規模：**1.20×0.78/1.16×0.72/(0.21)m

**確認・調査：**Vb層上面でより黒色味の強い黒色土の落ち込みを検出した。落ち込みの中心にはIV層・降下火山灰B-Tmが入り込んでいる。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。不整な楕円形の平面形である。覆土は自然堆積と考える。坑底面はほぼ平坦だが北側に向かって低くなっている。掘り込み面は検出面より上である。遺物は覆土から、Ⅲ群a類土器が出土している。南東隣にあるP-29と立地も類似しており、Va層中位から掘り込まれた土坑の可能性もある。降下火山灰B-Tm降下時にはまだ凹んでいた遺構である。

**時期：**不明であるが、検出位置と類似するP-29から続縄文時代以降の土坑の可能性がある。

(大泰司)

P-28 (図Ⅲ-46・100、表3・9・15、図版30-3)

**位置・立地：**D・E-42区 標高44.20~44.40mの西向き段丘斜面。

**規模：**1.43×1.28/1.00×0.90/0.48m

**確認・調査：**包含層調査終了後のⅧ(地盤)層上面で、黒色土がシミ状に検出できたものである。土層観察のため一度は半裁したが、黒色土が土坑中央部に向かって不明瞭に垂下する状態がとらえられた。その際、木根痕と判断する調査上の不手際から、土層観察および図化をしないまま調査したものである。

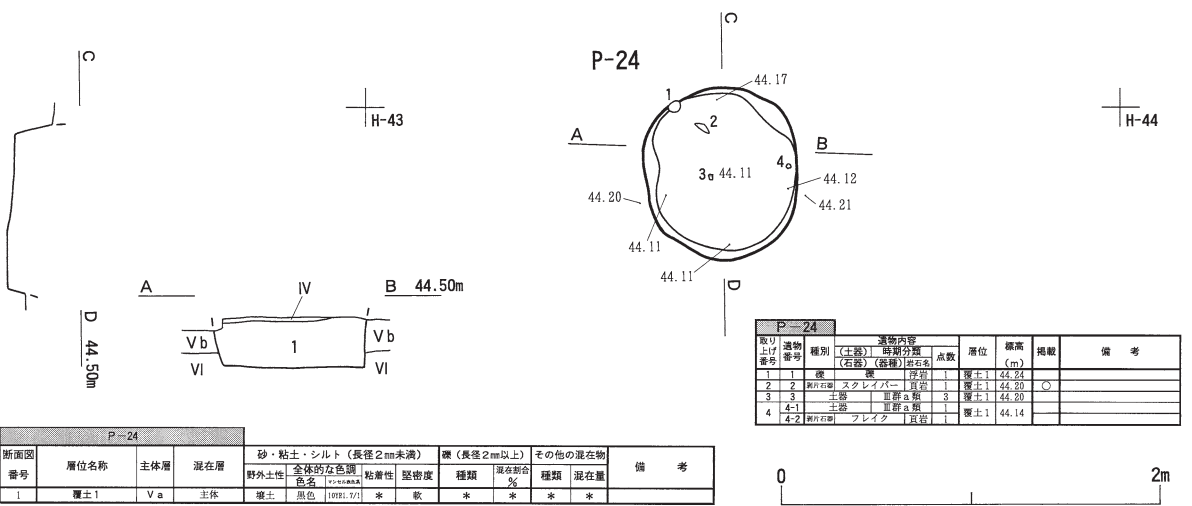
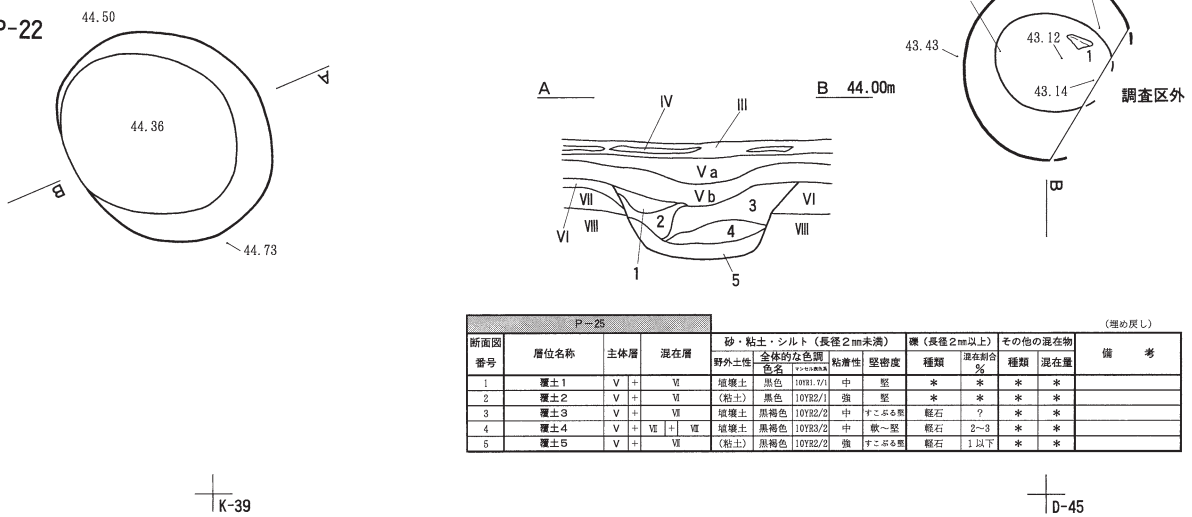
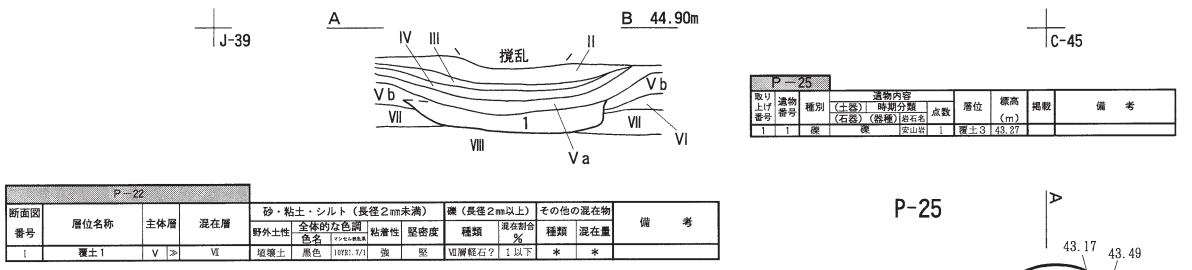
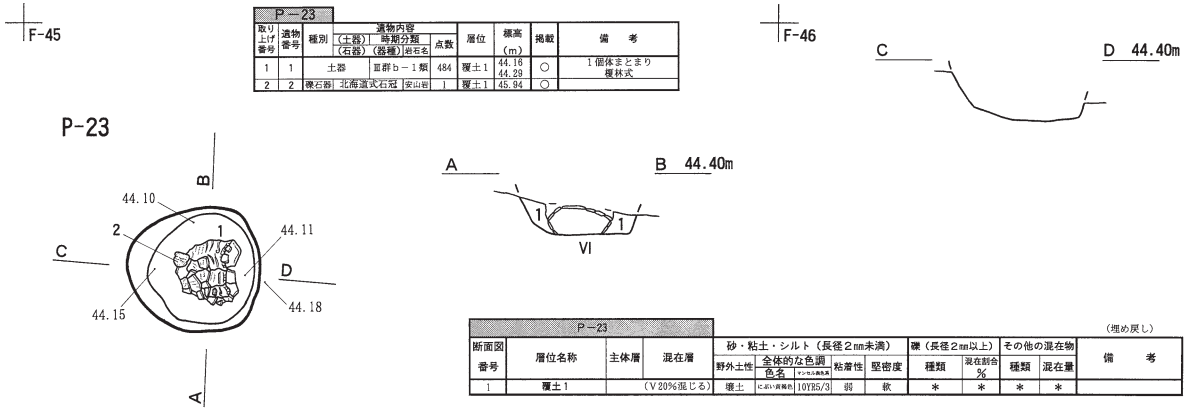
土坑と確認した段階では、覆土が坑底に一部残る状態であった。残る覆土は炭化粒がわずかに混じる黄褐色粘質土(1層)と、坑底に黒褐色土(2層)が部分的に堆積していた。覆土はともに堅くしまらない。

平面形は扁平度の低い楕円形で、坑底は平坦、壁は緩やかに立ち上がる。

遺物は、覆土1層からの出土で、Ⅲ群a類およびb類の土器片と礫が出土している。

**時期：**覆土からの出土であり、調査上の不手際もあって即断できないが、出土遺物から縄文時代中期の可能性が高いと考えられる。 (田中)





図III-43 P-22・23・24・25

P-29 (図Ⅲ-45・102、表3・9・15、図版30-4)

位置・立地：G・H-42区 標高44.20m付近の斜面

規模：0.84×0.80/0.86×0.80/0.18m

確認・調査：Va層上面でIV層・降下火山灰B-Tmの落ち込みを確認した。北西隣にあるP-27に類似する土坑の可能性を想定し、土層観察用の土手を残して調査を開始した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。不整な楕円形の平面形である。覆土は自然堆積と考える。壁面は南側が微妙にオーバーハングする。坑底面はほぼ平坦である。掘り込み面はVa層中位である。

遺物は覆土から、Ⅲ群a類からⅥ群にいたるまでの土器が出土している。降下火山灰B-Tm降下時にはまだ凹んでいた遺構である。

時期：出土遺物から縄文時代以降の土坑である。(大泰司)

P-30 (図Ⅲ-46・101・131、表3・9・15、図版30-5)

位置・立地：E-43区 標高44.60mほどの南西向き段丘斜面。

規模：1.05×1.02/0.80×0.86/0.40m

確認・調査：E-43区北半で、Ⅷ(地盤)層上面で褐色土のいびつな輪郭が捉えられたものである。

土層観察のため半裁したところ、上下2つの坑底面および壁の明確な立ち上がりが確認できた。また、土層観察から2個の土坑の切り合い関係が確認できたため、新旧順にP-30・34とした。

P-30は、P-34東側の一部を壊して作られている。平面形はほぼ円形で、坑底は平坦(一部掘り過ぎ)である。土坑の深さはP-34の半分ほどで、坑底に一部はP-34の覆土中に作られていた。

覆土は、黒色土が混入するが基盤の砂質土が主体である。覆土3層からⅢ群a類土器片(図Ⅲ-46-5・Ⅲ-101-1)と小型の北海道式石冠(図Ⅲ-46-6・Ⅲ-131-38)が出土している。

時期：出土遺物から縄文時代中期と判断する。(田中)

P-31 (図Ⅲ-47・101・131、表3・9・15、図版30-5)

位置・立地：E-44区 標高44.20mほどの南西向き段丘斜面

規模：0.98×0.92/0.83×0.73/0.27m

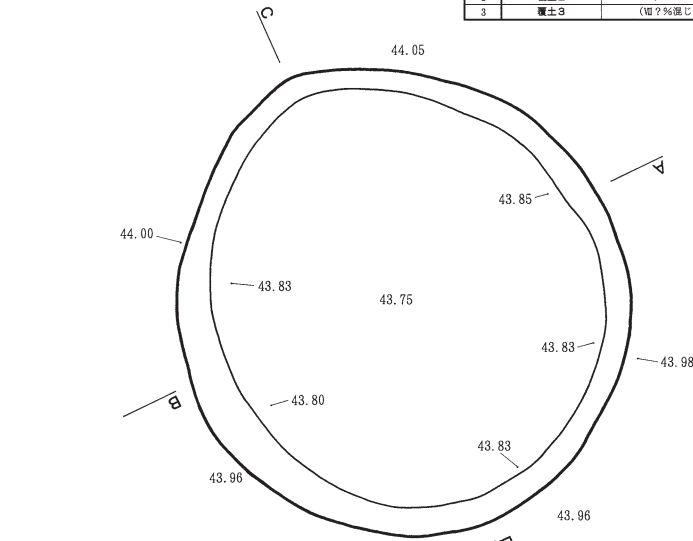
確認・調査：E-44区で漸移層(Ⅵ層)まで掘り下げたところ、黒色土の落ち込みが広範囲に検出された。土層観察用のベルトを残しながら再度掘り下げたところ、土器片等遺物が集中して出土した。遺物を図化、取り上げたところ、黒色土範囲の北端部にほぼ円形、暗茶褐色の輪郭が検出された。土層観察用のベルトを残しながら掘り下げた結果、浅皿状の坑底が確認でき、土坑と判断した。土坑南東側については、風倒木痕の攪乱や調査過程での不手際で、確認できなかった部分がある。

覆土は、黒色から黒褐色土を主体とするものである。出土遺物は多く、坑底からは大型礫、北海道式石冠(図Ⅲ-47-14・Ⅲ-131-39)が出土し、土坑北側ではⅢ群a類土器片(図Ⅲ-47-5・6・7・Ⅲ-101-1/Ⅲ-47-13・Ⅲ-101-2)が直立し流れ込む状況で出土している。また、覆土中にはⅣ群a類土器片1点も出土しており、土坑周辺の包含層から出土した復元土器(図Ⅲ-101-P-31-3)と接合関係がある。

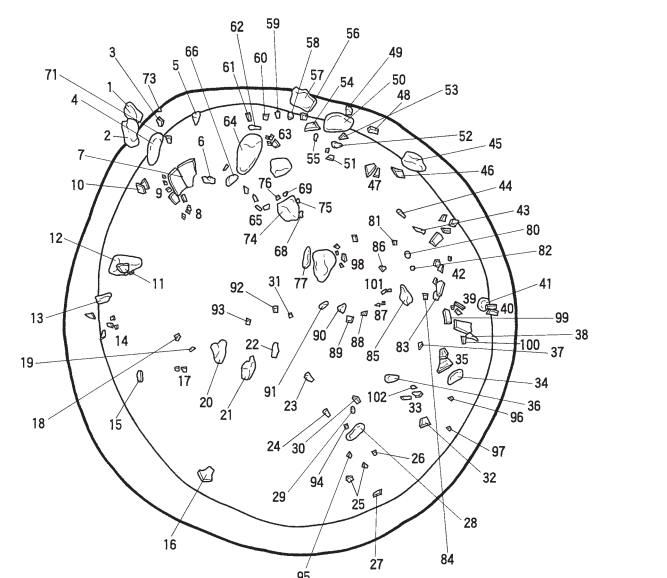
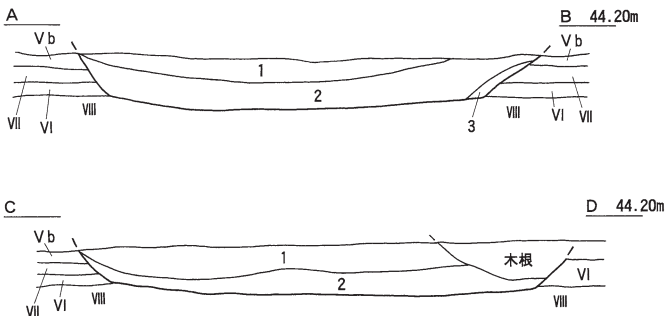
時期：出土土坑出土の土器片からは、縄文時代後期の時期をさかのぼらないと考えられ、この時期の可能性が強い。(田中)

I-44

P-26						
断面図	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (粒径2mm未満)	礫 (粒径2mm以上)	その他の混在物
番号				野外土性 全体的な色調 色名 (JIS X 4001)	粘着性 堅密度	種類 現在割合 %
1	覆土1	V b	主体	黒色 10YR2/1	* 軟	* * *
2	覆土2	*		黒褐色 10YR2/3	* 軟	* * *
3	覆土3	(埋?%混じる)		黄褐色 10YR5/8	* 軟	* * *



J-44



P-26									
取り上げ 番号	種別 (土器)   時期分類 (石器)   (骨角)   (漆器)	遺物内容	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考		
1	硬石器	扁平打製石器	1	覆土1	44.18	○			
2	硬	硬	1	覆土1	44.17	○			
3	土器	III群A類	1	覆土1	44.11	○			
4	硬石器	北海道式石器	1	覆土1	44.10	○			
5	硬	硬	1	覆土1	43.99	○			
6	硬石器	北海道式石器	1	覆土1	43.94	○			
7	土器	V群A類	2	覆土1	43.98	○			
8-1	土器	V群A類	1	覆土1	44.04	○			
8-2	硬石器	フリック	1	覆土1	44.04	○			
9	土器	V群A類	4	覆土1	43.98	○			
10	土器	III群A類	2	覆土1	44.00	○			
11	土器	III群A類	1	覆土1	44.00	○			
12	硬石器	北海道式石器	1	覆土1	44.07	○			
13	硬石器	北海道式石器	1	覆土1	43.92	○			
14	土器	III群A類	3	覆土1	44.01	○			
15	土器	III群A類	1	覆土1	43.98	○			
16	土器	III群B-2類	1	覆土1	43.97	○			
17	土器	III群B類	2	底面直	43.80	○			
18	土器	III群A類	1	覆土1	43.94	○			
19	硬石器	フリック	1	覆土1	43.89	○			
20	硬石器	扁平打製石器	1	覆土1	44.01	○			
21	硬石器	扁平打製石器	1	覆土1	44.07	○			
22	硬石器	フリック	1	覆土1	43.91	○			
23	硬	硬	1	覆土1	44.04	○			
24	土器	III群A類	1	覆土1	43.90	○			
25	土器	III群A類	1	覆土1	43.99	○			
26	土器	III群A類	1	覆土1	44.00	○			
27	土器	III群A類	1	覆土1	44.00	○			
28	硬	硬	1	覆土1	43.98	○			
29	硬	硬	1	覆土1	43.93	○			
30	土器	III群A類	1	覆土1	43.93	○			
31-1	土器	III群A類	1	覆土1	43.99	○			
31-2	土器	III群A類	1	覆土1	43.99	○			
32	土器	III群A類	1	覆土1	43.99	○			
33	土器	III群A類	2	覆土1	43.98	○			
34	硬	硬	1	覆土1	44.03	○			
35	土器	III群B類	2	覆土1	43.99	○			
36	硬石器	北海道式石器	1	覆土1	43.89	○			
37	土器	III群B類	2	覆土1	43.97	○			
38	硬石器	つまみ付ナイフ	1	覆土1	43.94	○			
39	土器	III群A類	4	覆土1	43.93	○			
40	土器	III群B類	4	覆土1	44.00	○			
41	土器	III群B類	1	覆土1	43.99	○			
42-1	土器	III群A類	7	覆土1	44.03	○			
42-2	土器	III群B類	2	覆土1	44.03	○			
43	硬石器	スクレイパー	1	覆土1	44.00	○			
44	硬	硬	1	覆土1	43.99	○			
45	硬石器	北海道式石器	1	覆土1	43.99	○	遺物番号の整合		
46	土器	III群A類	1	覆土1	43.95	○			
47	土器	III群A類	2	覆土1	43.97	○			
48	硬	硬	1	覆土1	43.96	○			
49	硬	硬	1	覆土1	44.02	○			
50	土器	III群A類	1	覆土1	44.05	○			
51	土器	III群A類	1	覆土1	44.02	○			
51-1	硬石器	フリック	1	覆土1	44.04	○			
52	硬	硬	2	覆土1	43.93	○			
53	土器	III群A類	1	覆土1	44.00	○			
54	土器	III群B類	2	覆土1	44.00	○			
55	硬	硬	1	覆土1	43.92	○			
56	土器	III群A類	1	覆土1	44.00	○			
57	硬石器	扁平打製石器	1	覆土1	44.10	○			
58	硬	硬	1	覆土1	44.00	○			
58	硬石器	フリック	1	覆土1	44.04	○			
60	土器	III群A類	1	覆土1	43.99	○			
61	土器	III群A類	1	覆土1	44.05	○			
62	硬	硬	1	覆土1	44.08	○			
63-1	土器	III群A類	1	覆土1	44.04	○			
63-2	土器	V群A類	3	覆土1	44.04	○			
64	硬石器	扁平打製石器	1	覆土1	44.04	○			
65	硬石器	フリック	2	覆土1	44.06	○			
66	硬石器	磨製石斧	1	覆土1	44.05	○			
67	硬	硬	1	覆土1	43.89	○	遺物出土状況図に記載無し		
68	硬	硬	1	覆土1	43.87	○			
69	硬石器	北海道式石器	1	覆土1	43.92	○	遺物番号の整合		
70	硬	硬	1	覆土1	44.11	○	遺物出土状況図に記載無し		
71	硬	硬	1	覆土1	43.93	○			
72	硬	硬	1	覆土1	43.99	○	遺物出土状況図に記載無し		
73	土器	III群A類	1	覆土1	44.02	○			
74	硬石器	扁平打製石器	1	覆土1	43.93	○			
75	硬石器	フリック	1	覆土1	43.91	○			
76	土器	III群A類	1	覆土1	43.99	○			
77	硬	硬	1	覆土1	43.94	○			
78	土器	III群B類	5	覆土1	43.93	○	遺物出土状況図に記載無し		
79	土器	III群B類	2	覆土1	43.97	○	遺物出土状況図に記載無し		
80	硬	硬	1	覆土1	43.95	○			
81	土器	III群B類	1	覆土1	43.94	○			
82	硬	硬	1	覆土1	43.94	○			
83	硬石器	フリック	1	覆土1	43.91	○			
84	土器	III群A類	1	覆土1	43.99	○			
85	硬	硬	1	覆土1	43.98	○			
86	土器	III群A類	1	覆土1	43.84	○			
87	土器	III群B類	2	覆土1	43.94	○			
88	土器	III群A類	1	覆土1	43.95	○			
89	土器	III群A類	1	覆土1	43.98	○			
90	土器	III群B類	1	覆土1	43.97	○			
91	硬	硬	1	覆土1	44.01	○			
92	土器	III群A類	1	覆土1	44.02	○			
93	土器	III群B類	1	覆土1	43.92	○			
94	土器	V群A類	1	覆土1	43.84	○			
95	土器	III群A類	1	覆土1	43.90	○			
96	土器	III群A類	1	覆土1	43.97	○			
97	土器	III群B-2類	1	覆土1	43.93	○			
98	土器	III群A類	5	覆土1	43.87	○			
99	土器	III群B類	18	覆土1	43.97	○			
100	土器	III群B類	1	覆土1	43.97	○			
100-1	硬石器	フリック	1	覆土1	43.90	○			
101	土器	III群B類	1	底面直	43.88	○			
102	硬石器	フリック	1	底面直	43.93	○			

図III-44 P-26

**P-32** (図Ⅲ-48・131・132, 表3・9・15、図版31-1)

**位置・立地:** E-44区 標高43.60~44.20mほどの南向き段丘斜面。

**規模:** (1.81)×(1.62)/1.72×(1.54)/0.19m

**確認・調査:** P-31と同様、E-44区の広範囲に検出された黒色土の落ち込み範囲に、焼土F-11下に確認できた土坑である。

上部遺物を取り上げ後、Ⅷ(地盤)層とは色調が異なる褐色土が検出でき、それを除去することで平坦な坑底および明確な壁の立ち上がりが確認できたものである。遺物は、覆土中わずかにメノウ製剥片、安山岩製の扁平打製石器(図Ⅲ-131・132-40・41)が出土している。

坑底のほぼ中央には炭化物の広がり、地山表層が赤色化した薄い焼土が検出された。

**時期:** 土坑出土の遺物からは時期を特定できないが、覆土上部で検出した焼土F-11が縄文時代中期の可能性が強いことから、それをさかのぼらない。(田中)

**フローテーション成果:** 土坑底面で検出した焼土をフローテーション法にて処理した。その結果、炭化種子を検出した。炭化種子は同定不能なものが2点出土した。(詳細はV章2)

**P-33** (図Ⅲ-48・101・132、表3・9・15、図版31-2)

**位置・立地:** G-42区 標高44.60~44.80m付近の平坦面

**規模:** 0.76×0.68/0.69×0.56/(0.32)m

**確認・調査:** VI層上面で灰黄褐色土の落ち込みを検出した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。隅丸方形に近い平面形である。覆土1・2層はV~Ⅷ層が混じり合った土であり、埋め戻しの可能性がある。坑底面はほぼ平坦である。掘り込み面は検出面より上である。遺物は覆土1層からIV群a類土器が2点出土している。しかし、より下位からはⅢ群a類土器がまとめて出土している。坑底直上から北海道式石冠が3点(図Ⅲ-48-8・Ⅲ-132-44/Ⅲ-48-9/Ⅲ-48-10・Ⅲ-132-43)、扁平打製石器が3点(接合して1個体に図Ⅲ-48-11~13・Ⅲ-132-42)出土している。小規模な土坑だが礫石器がまとめて出土している。

**時期:** 遺物の出土状況から縄文時代中期前半のものである。(大泰司)

**P-34** (図Ⅲ-47・101、表3・9・15、図版31-3)

**位置・立地:** E-43区 標高44.40mほどの南西向き段丘斜面。

**規模:** 1.50×1.12/1.15×0.72/0.72m

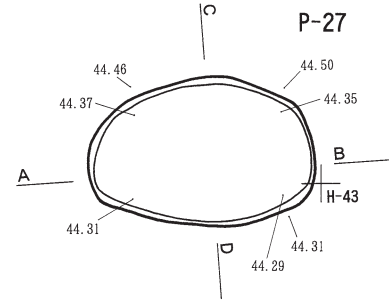
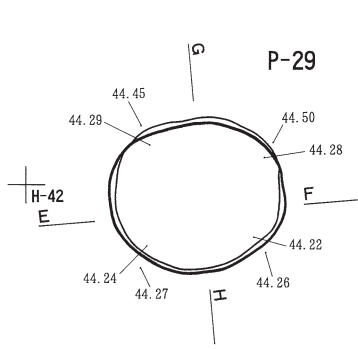
**確認・調査:** P-30の項でも述べたとおり、E-43区北半のP-30と切り合い関係を持つ土坑で、P-34が古い。P-30によって、東側壁の一部を壊されている。

平面形は、長軸方向が北西-南東の楕円形で、坑底はほぼ平坦。壁は坑口に向かって広がる。

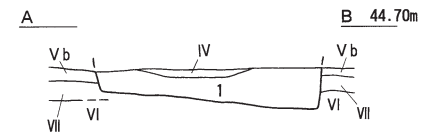
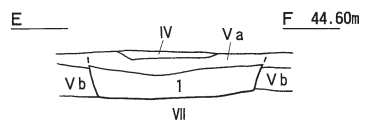
覆土は、黒色土の混入がP-30に比べ少なく淡い色調を呈する。また、坑底から20cmほど上位で黒色土の薄層が確認される。遺物はすべて覆土出土であるが、土坑北西側に片寄りまとまりをもって出土している。大型礫は中央側に傾いた状況で、またⅢ群a類の土器片、北海道式石冠などが出土している。

**時期:** 出土遺物から、縄文時代中期と判断する。(田中)

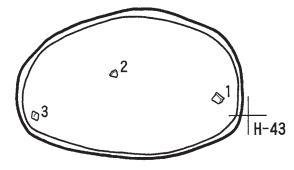
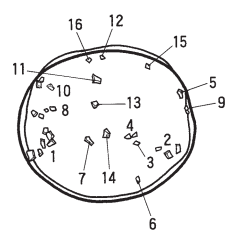




P-29											
断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)			礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備 考
				野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類	
1	覆土1	V a	主体	壤土	黒色	100% (7)	*	軟	*	*	*



P-27											
断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)			礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備 考
				野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類	
1	覆土1	V a	主体	壤土	黒色	100% (7)	*	軟	*	*	*



P-29								
取り上げ 番号	遺物 番号	種別	遺物内容 (土器) 時期分類 (石器) (陶器) 形状名	点数	層位	標高 (m)	掲載	備 考
1	1-1	土器	皿群 a類	4	覆土1	44.30	○	
1	1-2	土器	V群	12	覆土1	44.30	○	
2	2-1	土器	皿群 b類	1	覆土1	44.28	○	
2	2-2	土器	皿群 a類	2	覆土1	44.28	○	
2	2-3	土器	V群	2	覆土1	44.35	○	
3	3	土器	皿群 a類	1	覆土1	44.35	○	
4	4-1	土器	皿群 a類	1	覆土1	44.24	○	
4	4-2	土器	V群	2	覆土1	44.31	○	
5	5	土器	V群	1	覆土1	44.31	○	
6	6	新石器	フレイク 1の3	1	覆土1	44.28	○	
7	7	土器	皿群 a類	2	覆土1	44.38	○	
8	8	土器	V群	6	覆土1	44.29	○	
9	9	土器	皿群	2	覆土1	44.30	○	
10	10-1	土器	皿群 a類	2	覆土1	44.35	○	
10	10-2	土器	V群	2	覆土1	44.35	○	
11	11	土器	皿群 a類	1	覆土1	44.28	○	
12	12	土器	皿群 a類	1	覆土1	44.35	○	
13	13	土器	皿群 a類	1	覆土1	44.30	○	
14	14	土器	V群	1	覆土1	44.28	○	
15	15	土器	皿群 a類	1	覆土1	44.38	○	
16	16	土器	V群	1	覆土1	44.38	○	

P-27								
取り上げ 番号	遺物 番号	種別	遺物内容 (土器) 時期分類 (石器) (陶器) 形状名	点数	層位	標高 (m)	掲載	備 考
1	1	土器	皿群 b類	2	覆土1	44.38	○	
2	2	土器	皿群 b-1類	2	覆土1	44.38	○	
3	3	礫	塚山石	2	覆土1	38.38		

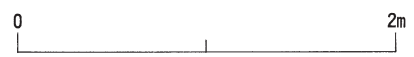
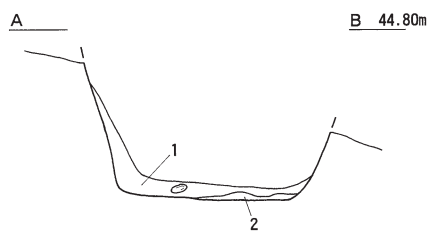
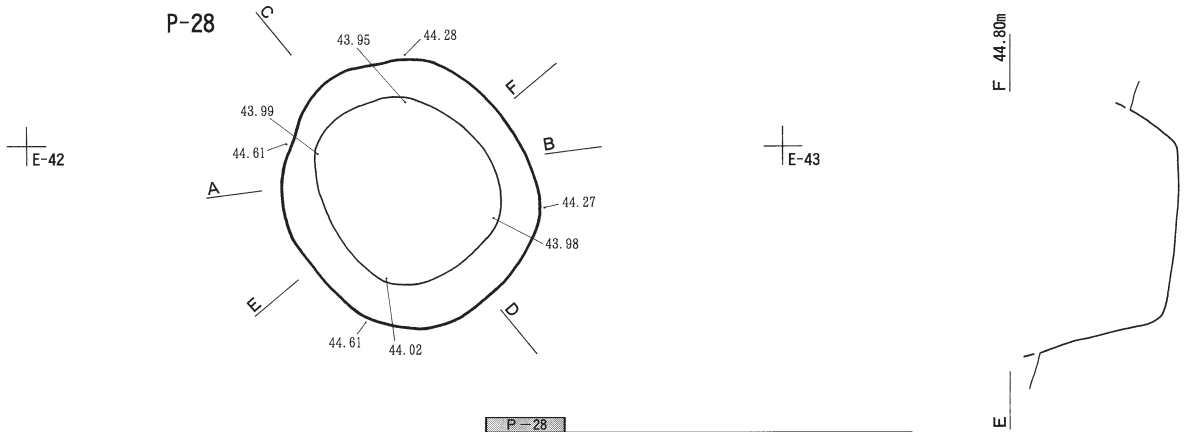
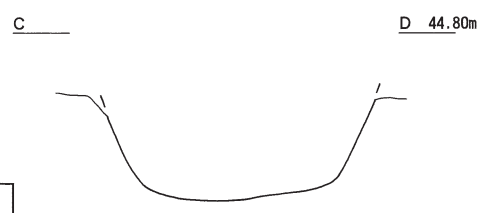


図 III - 45 P - 27・29

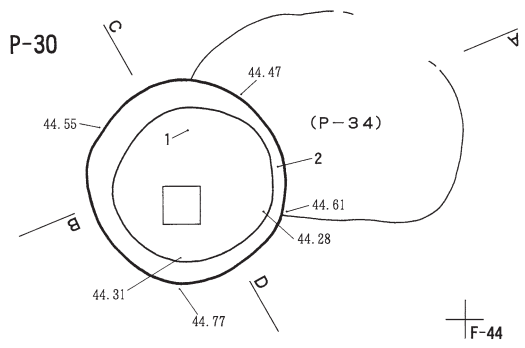


P-28		遺物内容		層位	標高 (m)	掲載	備考
取り上げ番号	遺物種別	【土器】 【石器】	【土器】 【石器】				
1	土器	土器名類	点数	覆土1	*	○	出土状況図に記載無し
2	土器	土器名類	5	覆土1	*		出土状況図に記載無し
2	土器	土器名類	4	覆土1	*		出土状況図に記載無し

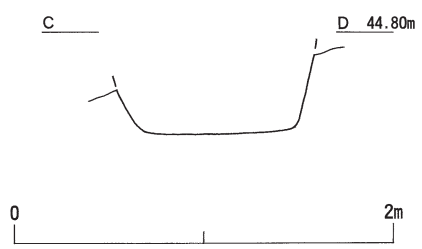
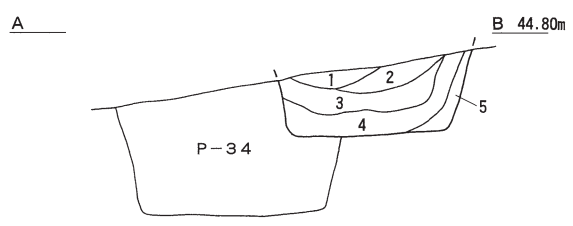
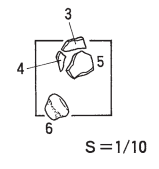


P-28		主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)				礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考
断面図番号	層位名称			野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類	混在量	
1	覆土1	*	*	黄褐色 10YR5/6 (あり)	軟	*	*	*	*	炭 (若干)		
2	覆土2	*	*	黒褐色 7.5YR3/1 (あり)	軟	*	*	*	*			

P-30		遺物内容		層位	標高 (m)	掲載	備考
取り上げ番号	遺物種別	【土器】 【石器】	【土器】 【石器】				
1	土器	土器名類	1	覆土1層	44.43		
2	土器	土器名類	1	覆土2層	44.55		
3	土器	土器名類	1	覆土3層	44.43		S=1/10出土状況図
4	土器	土器名類	1	覆土3層	44.44		S=1/10出土状況図
5	土器	土器名類	1	覆土3層	44.22	○	S=1/10出土状況図
6	土器	土器名類	1	覆土3層	44.46	○	S=1/10出土状況図



P-30		主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)				礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考
断面図番号	層位名称			野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類	混在量	
1	覆土1		(砂質火山灰混じり)	*	黒色 5YR2/1	*	*	軽石 (若干)	*	*	砂質火山灰=IV層?	
2	覆土2	*	*	*	黒褐色 10YR2/3	*	*	軽石 (若干)	*	*		
3	覆土3	*	*	*	黒褐色 2.5YR/1	*	(シラウツ)	軽石 (若干)	*	*		
4	覆土4	*	*	*	黒褐色 10YR2/3	*	*	軽石 (若干)	*	*		
5	覆土5	*	*	(砂質土)	暗褐色 10YR3/4	*	*	無	*	*		



図III-46 P-28・30

P-35 (図III-49、表3・9・15、図版31-4)

位置・立地：M-44区 標高43.80~44.20m付近の平坦面

規模：0.93×0.79/0.67×0.60/0.46m

確認・調査：Ⅶ層まで下げて、黒褐色土の楕円形の落ち込みを検出した。長軸線上で半截し、明瞭な壁の立ち上がりとは平坦な底の断面から、土坑と判断した。覆土は8層に分けた。Ⅴ層が起源の1層は自然堆積、その他は埋め戻しと思われる。平面は不整な楕円形である。底はほぼ平坦である。掘り込み面は検出面より上である。覆土7層から縄文時代中期前半の土器片1点と安山岩礫3点が出土している。

時期：掘り込み面、周辺の包含層出土遺物から、縄文時代中期または後期前葉である。(新家)

P-36 (図III-49・102、表3・9・15、図版31-5)

位置・立地：M-43・44区 標高43.80~44.40m付近の平坦面

規模：1.22×1.09/1.16×0.77/0.52m

確認・調査：メインセクションベルトに黒~暗褐色土の落ち込みの断面を検出した。包含層はⅦ層まで下げ、落ち込みを半截した。明瞭な立ち上がりとはⅧ層を深く掘り込んだほぼ平坦な底から、土坑と判断した。覆土は9層に分けた。1~3層はⅤ~Ⅶ層が混じり合った自然堆積、もしくは崩落土である。4~9層はⅥ~Ⅷ層起源の埋め戻し土である。平面は楕円形で、南側の壁がややオーバーハングしている。掘り込み面はⅤ層である。遺物は縄文時代中期の土器片が3点、メノウフレイクが2点、安山岩礫が1点、覆土から出土している。

時期：遺構周辺の包含層出土の遺物から、縄文時代中期または後期前葉の可能性はある。(新家)

P-37 (図III-49・138、表3・9・15、図版31-6)

位置・立地：F-42区 標高44.80~45.00m付近の平坦面 H-4に切られている

規模：(1.10)×(0.68)/(1.04)×(0.56)/0.24m

確認・調査：H-4を調査中、Ⅷ層上面で褐色土の落ち込みが切り合っている状況を検出した。H-4壁面から台石が突き出しており、これは落ち込みに埋まり込んだものであった。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。残存部分から、隅丸方形に近い平面形を予想する。覆土はⅤ~Ⅷ層が混じり合った土であり、埋め戻しの可能性がある。坑底面はほぼ平坦である。掘り込み面は検出面より上である。遺物は覆土から先述の台石(図III-49-2・III-138-12)とⅢ群a類土器が出土している。台石は坑底に一部分が接していた。

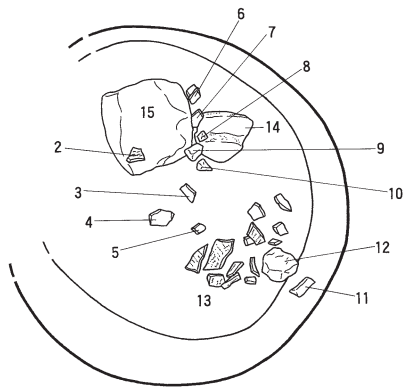
時期：遺物の出土状況から縄文時代中期前葉のものである。(大泰司)

P-38 (図III-50・103・120、表3・9・15、図版32-1)

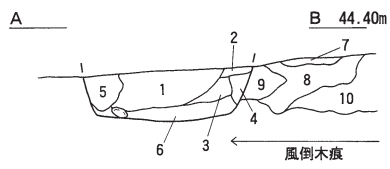
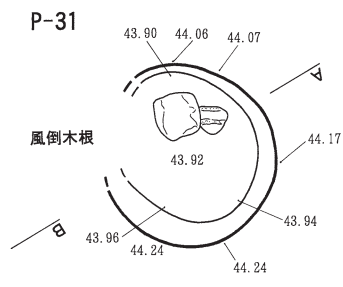
位置・立地：F-43区 標高44.80~45.00m付近の平坦面 H-3を切っている

規模：1.09×0.84/0.86×0.58/0.44m

確認・調査：H-3を調査中、床面直上でⅢ群a類土器一個体(図III-103-1)が出土した。H-3の遺物と認識し取上げようとしたところ床面に埋没していることが明らかとなった。床面を精査したところ、Ⅷ層に掘り込まれた床面にⅧ層主体のにぶい黄褐色土が落ち込んでおり、そこに土器が埋没している状況が明らかとなった。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。覆土はⅤ~Ⅷ層が混じり合った土層と薄い黒色土層が交互に堆積する。埋め戻しの可能性がある。



E-45

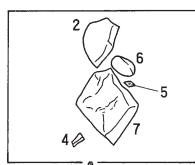


F-45

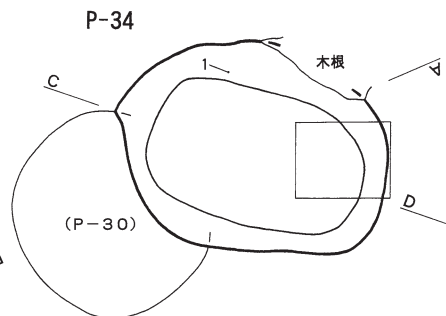
P-31						
取り上げ番号	遺物種別	遺物内容 【土器】 時期分類 【石器】 器物名	点数	層位	標高 (m)	備考
1	1	土器 Ⅲ群A類	5	覆土 *	*	遺物出土状況図に収載無し(3点一部)
2	2	土器 Ⅲ群B-1類	1	覆土	44.04	○
3	3	土器 Ⅲ群A類	1	覆土	44.08	
4	4	土器 Ⅲ群A類	1	覆土	44.02	○
5	5	土器 Ⅲ群A類	1	覆土	44.05	○
6	6	土器 Ⅲ群A類	1	覆土	43.98	○
7	7	土器 Ⅲ群A類	1	覆土	43.98	○
8	8	礎 安山岩	1	覆土	43.95	
9	9	土器 Ⅲ群A類	2	覆土	43.97	
10	10	礎 安山岩	1	覆土	43.91	
11	11	礎 安山岩	1	覆土	44.10	
12	12	礎 安山岩	1	覆土	44.08	
13	13	土器 Ⅲ群A類	19	覆土	44.01	○
14	14	礎石跡 北海道式石祠 安山岩	1	覆土	43.91	○
15	15	礎 礎 安山岩	1	覆土	43.89	

P-31											
断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)				礫 (長径2mm以上)		その他の混在物	備考
				野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅固度	種類	混在割合 %		
1	覆土			*	茶色土混じる	*	*	*	*	*	*
2	覆土			*	黒色 2.5Y2/1	*	*	*	*	*	*
3	覆土			*	黒褐色 2.5Y3/1	*	*	*	*	*	*
4	覆土			*	(砂質土) 黒褐色 7.5Y2/2	*	*	*	*	*	色調やや赤味帯びる
5	覆土			*	(砂質土) 暗赤褐色 5Y3/6	*	*	*	*	*	*
6	覆土			*	(粘質土) 黒褐色 10Y3/1	*	*	*	*	*	*
7	風倒木痕			*	(粘質土) 黒褐色 10Y3/2	*	*	*	*	*	*
8	風倒木痕			*	黒褐色 2.5Y3/1	*	*	*	*	*	*
9	風倒木痕			*	黒褐色 10Y2/3	*	*	*	*	*	*
10	風倒木痕			*	(砂質土) 黒褐色 2.5Y3/3	*	*	*	*	*	*
10	風倒木痕			*	黒褐色 10Y3/2	*	*	*	*	*	*

P-34						
取り上げ番号	遺物種別	遺物内容 【土器】 時期分類 【石器】 器物名	点数	層位	標高 (m)	備考
1	1	土器 Ⅲ群A類	1	覆土	44.18	S=1/10出土状況図
2	2	礎 安山岩	1	覆土	44.99	S=1/10出土状況図
3	3	土器 Ⅲ群A類	1	覆土	44.28	○
4	4	土器 Ⅲ群A類	2	覆土	44.16	○
5	5	礎石跡 アレック 覆石	1	覆土	44.17	S=1/10出土状況図
6	6	礎石跡 北海道式石祠 安山岩	1	覆土	44.16	S=1/10出土状況図
7	7	礎 礎 安山岩	1	覆土	44.08	S=1/10出土状況図

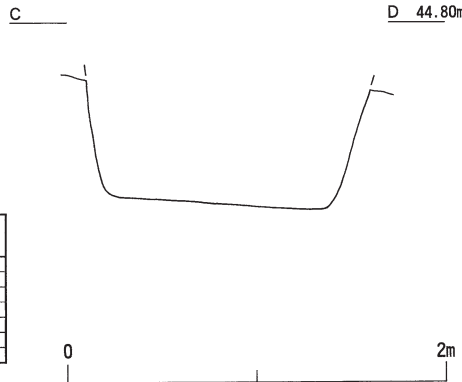
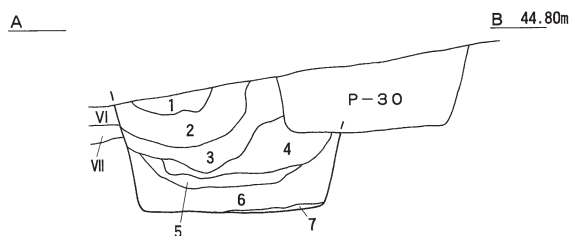


S=1/10



F-43

F-44



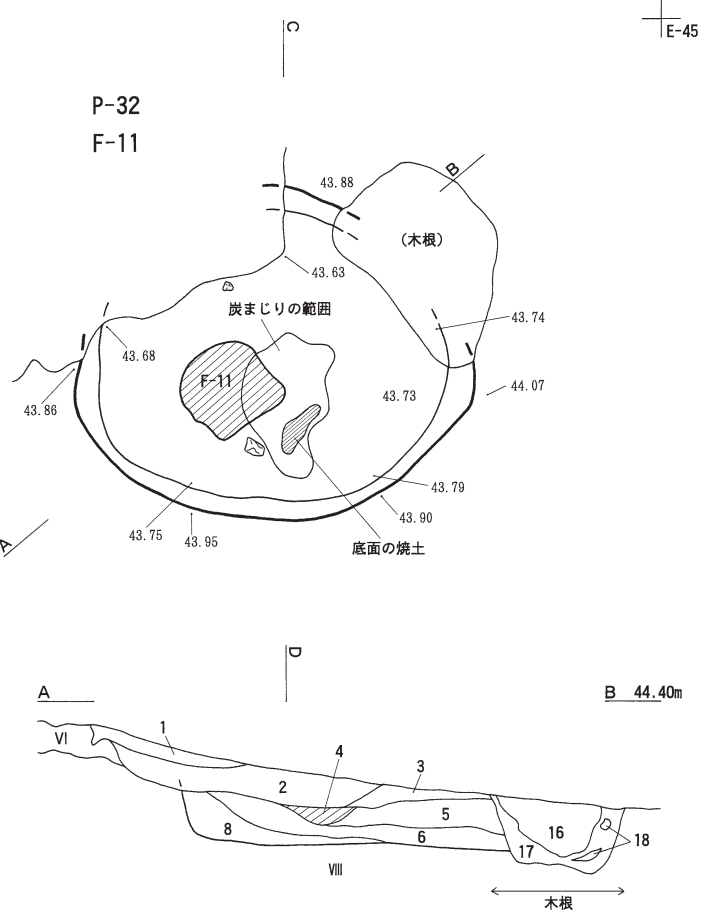
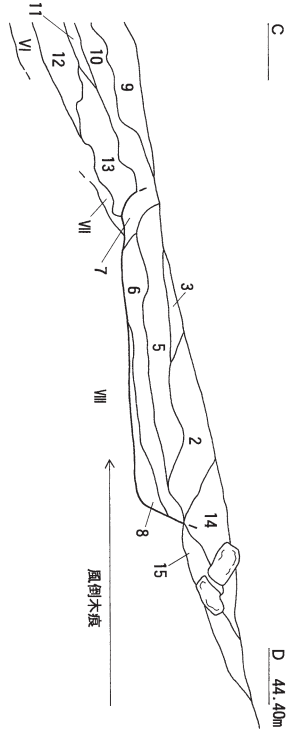
P-34											
断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)				礫 (長径2mm以上)		その他の混在物	備考
				野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅固度	種類	混在割合 %		
1	覆土1		*	*	黒褐色 10Y2/2	*	*	軽石 (若干)	*	*	
2	覆土2		*	*	黒褐色 10Y2/3	*	*	軽石 (若干)	*	*	
3	覆土3		*	*	暗褐色 10Y3/4	*	*	軽石 (若干)	*	*	
4	覆土4		*	*	黒褐色 10Y3/3	*	*	軽石 (若干)	*	*	
5	覆土5		*	*	黒色 10Y2/1	*	*	無	*	*	
6	覆土6		*	*	(砂質土) 暗灰黄色 2.5Y3/1	*	*	無	*	*	
7	覆土7		*	*	黒褐色 2.5Y3/1	*	*	無	*	*	

図Ⅲ-47 P-31・34

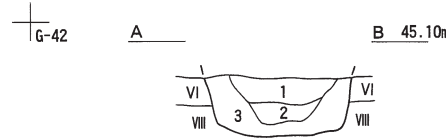
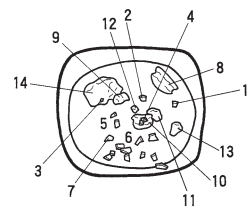


P-32							
取り上げ番号	遺物種別	遺物内容 [土器] 時期分類 (石器) (器種) 器石名	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
1	灰青磁	フレイク 砂のり	1	覆土	43.83		
2	礫石	扁平打製石器 安山岩	1	覆土	43.76	○	
3	礫石	扁平打製石器 安山岩	1	覆土	43.75	○	

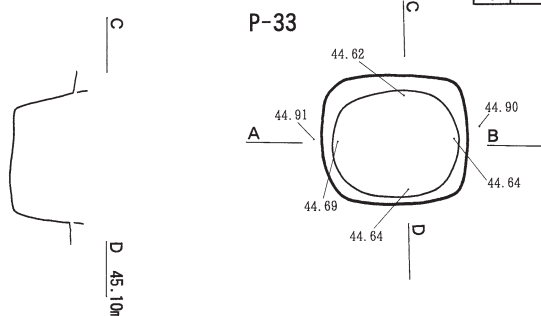
※白線には、1～3の高が記載されるが、素図には遺構の深のみで、番号の記載なし



P-32											
断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)			礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考
				野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類	
1	上位の層	*	*	*	黒色 102/	*	*	軽石	?	*	*
2	上位の層	*	*	*	黒色 102/	*	*	*	*	*	*
3	上位の層	*	*	*	黒色 2.S12/1	*	*	*	*	*	*
4	覆土 (F-11)	*	*	*	赤褐色 2.S14/4	*	*	*	*	*	*
5	覆土1 (P-32)	*	*	*	砂質土 灰青磁 2.S13/3	*	*	*	*	*	*
6	覆土2 (P-32)	*	*	*	砂質土 灰青磁 2.S14/4	*	*	*	*	*	*
7	覆土3 (P-32)	*	*	*	黒褐色 2.S13/2	*	*	*	*	*	*
8	覆土4 (P-32)	*	*	*	暗褐色 7.S13/3	*	*	軽石	少量	*	*
9	遺構掘り上げ土	*	*	*	黄褐色 2.S15/4	*	*	*	*	*	*
10	遺構掘り上げ土	*	*	*	黒色 2.S12/1	*	*	*	*	*	*
11	遺構掘り上げ土	*	*	*	黄褐色 2.S15/4	*	*	*	*	*	*
12	遺構掘り上げ土	*	*	*	黒色 1012/1	*	*	*	*	*	*
13	遺構掘り上げ土	*	*	*	黒褐色 2.S13/1	*	*	*	*	*	*
14	風倒木直	*	*	*	黒色 5121.7/1	*	*	*	*	*	*
15	風倒木直	*	*	*	褐色 1013/3	*	*	*	*	*	*
16	木根	*	*	*	灰青磁 10135/4	*	*	*	*	*	*
17	木根	*	*	*	暗褐色 10133/4	*	*	*	*	*	*
18	木根	*	*	*	黒色 5121.7/1	*	*	*	*	*	*



P-33											
断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)			礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考
				野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類	
1	覆土1	*	*	黄土	灰黄褐色 10134/2	*	軟	灰褐色軽石	5	*	*
2	覆土2	*	*	黄土	灰黄褐色 10135/4	*	軟	灰褐色軽石	5	*	*
3	覆土3	*	*	黄土	黒褐色 10133/2	*	軟	灰褐色軽石	5	*	*



P-33							
取り上げ番号	遺物種別	遺物内容 [土器] 時期分類 (石器) (器種) 器石名	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
1	土器	直線器 類	1	覆土1	44.88	○	
2	土器	刀剣器 類	1	覆土1	44.89	○	
3	礫	礫	1	覆土1	44.91		
4	土器	直線器 類	2	覆土2	44.71		
5	土器	直線器 類	1	覆土2	44.78		
6	土器	直線器 類	37	覆土3	44.72		3層遺物集中
7	灰青磁	フレイク 砂のり	2	覆土3	44.75		
8	礫石	北海道式石器 安山岩	1	底面直	44.69	○	
9	礫石	北海道式石器 安山岩	1	底面直	44.70		
10	礫石	北海道式石器 安山岩	1	底面直	45.30	○	
11	礫石	扁平打製石器 安山岩	1	底面直	44.85		
12	礫石	扁平打製石器 安山岩	1	底面直	44.64	○	遺物番号11~13整合
13	礫石	扁平打製石器 安山岩	1	底面直	44.67		
14	礫	礫	1	底面直	44.73		

図III-48 P-32・F-11・P-33

坑底面はほぼ平坦である。覆土中位には焼土3層があり、3層直下の1層上面に炭化物(Ca1~3)が分布している。Ca4は上から4段目の覆土2層下位からの検出である。掘り込み面は検出面と同一である。検出状況からH-3の廃絶後に、当遺構を構築、埋め戻しを行ったものとする。その後、H-3の覆土が形成されたものである。遺物はフレイクとⅢ群a類土器が多い。覆土2層出土遺物について、18・29・32は最上部の覆土2層、20~22・30・31は2段目の覆土2層、他は3段目の覆土2層からの出土である。他に舟形の土製品の出土(図Ⅲ-50-32・33・Ⅲ-103-3)がある。

**時期：**遺物の出土状況から縄文時代中期前葉のものである。(大泰司)

P-39(図Ⅲ-51・121、表3・9・15、図版32-2)

**位置・立地：**P・Q-45区 標高43.40~43.60m付近の平坦面

**規模：**1.02×1.24/1.36×1.42/1.22m

**確認・調査：**Ⅶ層上面で黒色土Vb層主体の落ち込みを検出した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。隅丸方形に近い、不整な円形の平面形である。覆土1層は自然堆積だが、2~9層についてはV~Ⅷ層が混じり合った土であり、埋め戻しの可能性がある。坑底面は平坦である。掘り込み面はVb層中位である。遺物は覆土1層にⅢ群a類土器と礫が多く入り込んでいる。

**時期：**不明であるが、調査区内で確認した他の遺構例から縄文時代後期前葉の可能性はある。

(大泰司)

P-40(図Ⅲ-50、表3・9・15、図版32-3)

**位置・立地：**S・T-48区 調査区北側(海側)、標高42.40~42.60m付近の平坦面

**規模：**0.78×0.75/0.53×0.39/0.37m

**確認・調査：**Ⅵ層調査中、径80cmほどの黒色土の落ち込みを検出した。半截した断面から、明瞭な壁の立ち上がり、平坦な底がうかがえ、また、底に据えられた可能性がある、径30cmほどの礫を検出し、土坑と判断した。覆土は5層に分けた。1層はV層の黒色土で、自然堆積、2~5層はV~Ⅷ層が混じり合った埋め戻し土と思われる。全体に黒色土が多く混ざった覆土である。平面は円形である。掘り込み面はⅥ層より上位である。

**時期：**遺構周辺の包含層出土の遺物から、縄文時代中期または後期前葉の可能性はある。(新家)

P-41(図Ⅲ-50、表3・9・15、図版32-4)

**位置・立地：**P・Q-46区 調査区北側(海側)、標高42.80~43.20m付近の緩斜面

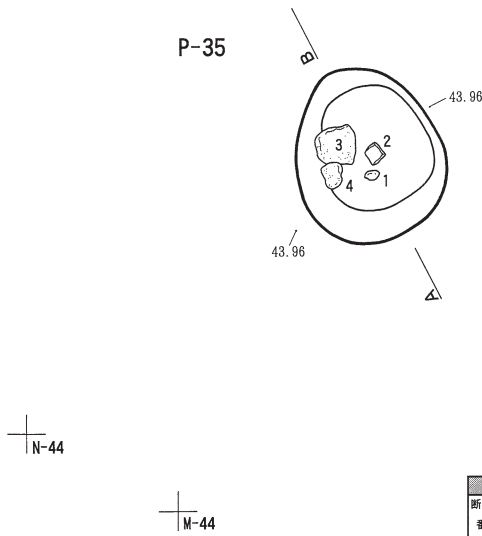
**規模：**0.76×0.66/0.40×0.38/0.41m

**確認・調査：**Ⅶ層調査中、黒色土の落ち込みを検出した。半截した断面の壁は明瞭に立ち上がり、底も水平に掘り込まれていたため、土坑と判断した。平面は楕円形であるが、規模や形態がP-40に似る。覆土は6層に分けた。1~3層は黒色土層で、1層がVa層の、2・3層がVb層の自然堆積と思われる。4~6層は黒~黒褐色土で、V~Ⅶ層起源の埋め戻し土である。全体に黒色土の混入が多い。遺物は縄文時代中期前半の土器片が1点、安山岩の礫が2点覆土から出土している。

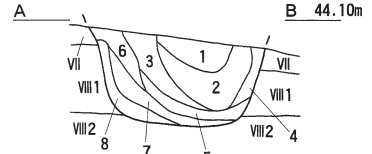
**時期：**遺構周辺の包含層出土の遺物から、縄文時代中期または後期前葉の可能性はある。(新家)

P-42(図Ⅲ-51・133、表3・9・15、図版32-5)

**位置・立地：**P-46区 標高43.00~43.40m付近の緩斜面

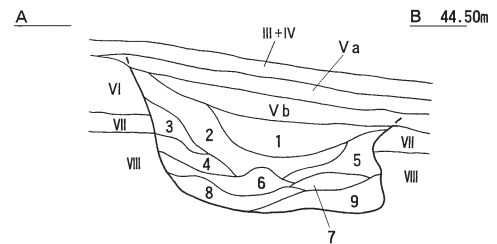
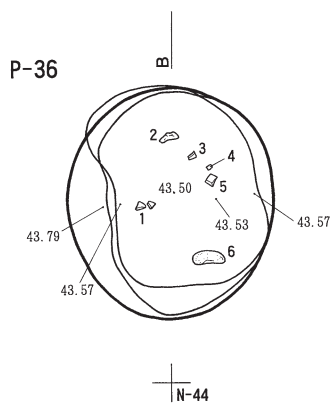


P-35		遺物内容		層位	標高 (m)	掲載	備考
取り上げ番号	種別	(土器) 時期分類	(石器) (瓦葺) 遺名				
1	1	土器	安山田	覆土7	43.58		
2	2	土器	正群古塚	覆土7	43.53		
3	3	土器	安山田	覆土7	43.53		
4	4	土器	安山田	覆土7	43.54		



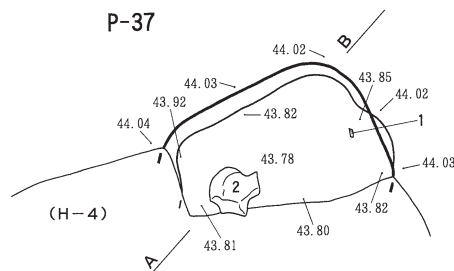
P-35		(埋め戻し)		砂・粘土・シルト (長径2mm未満)				礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考
断面図番号	層位名称	主体層	混在層	野外土性	全体的な色調	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類	混在量	
1	覆土1	V	主体	壤埴土	黒色 10YR1.7/1	強	堅	*	*	*	*	
2	覆土2	V+	VI	壤土	黒色 10YR2/1	中	すこぶる堅	*	*	*	*	
3	覆土3	V+	VI	壤埴土	黒褐色 10YR2/3	強	すこぶる堅	*	*	*	*	
4	覆土4	VI+	VI+ VII	壤土	黒褐色 10YR2/3	強	堅	*	*	*	*	
5	覆土5	V	主体	埴埴土	黒色 10YR1.7/1	強	すこぶる堅	*	*	*	*	
6	覆土6	VI	主体	壤土	黒褐色 10YR2/3	中	堅	*	*	*	*	
7	覆土7	VI+	VI	埴埴土	黒褐色 10YR2/3	強	堅	*	*	*	*	
8	覆土8	VI+	VI	埴埴土	暗褐色 10YR3/3	強	堅	*	*	*	*	

P-36		遺物内容		層位	標高 (m)	掲載	備考
取り上げ番号	種別	(土器) 時期分類	(石器) (瓦葺) 遺名				
1	1	土器	正群b-1類	覆土6	43.78		
2	2	群石器	フレイタ (砂のう)	覆土3	43.78		
3	3	土器	正群b-1類	覆土2	43.82		○
4	4	群石器	フレイタ (砂のう)	覆土2	43.78		
5	5	土器	正群b-1類	覆土2	43.84		○
6	6	土器	安山田	覆土6	43.78		

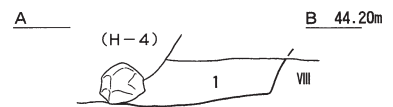


P-36		(埋め戻し)		砂・粘土・シルト (長径2mm未満)				礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考
断面図番号	層位名称	主体層	混在層	野外土性	全体的な色調	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類	混在量	
1	覆土1	Vb	主体	(粘土)	黒色 10YR1.7/1	強	堅	*	*	*	*	
2	覆土2	V+	VI	埴埴土	黒色 10YR1.7/1	強	堅	*	*	*	*	崩落土
3	覆土3	VI+	VI	埴埴土	暗褐色 10YR3/4	中	軟	*	*	*	*	崩落土
4	覆土4	VI	主体	(粘土)	黒褐色 10YR2/2	強	堅	*	*	*	*	
5	覆土5	VI+	VI	埴埴土	黒褐色 10YR2/3	中	すこぶる堅	*	*	*	*	
6	覆土6	VI+	VI	埴埴土	暗褐色 10YR3/3	中	堅	*	*	*	*	
7	覆土7	VI+	VI	埴埴土	暗褐色 10YR3/4	中	堅	*	*	*	*	
8	覆土8	VI+	VI	(粘土)	暗褐色 10YR3/3	強	軟	*	*	*	*	
9	覆土9	VI+	VI	(粘土)	暗褐色 10YR3/3	強	軟	*	*	*	*	

F-42



F-43



P-37		遺物内容		層位	標高 (m)	掲載	備考
取り上げ番号	種別	(土器) 時期分類	(石器) (瓦葺) 遺名				
1	1	土器	正群古塚	覆土1	43.98		
2	2	群石器	台石 安山田	覆土1	44.02, 43.91		○

図III-49 P-35・36・37

規模：0.64×0.56/0.50×0.44/0.44m

**確認・調査：**Ⅷ層上面で黒褐色土、Ⅴb層主体の落ち込みを検出した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。不整な楕円の平面形である。覆土1層はⅤb層主体であり、流入と考える。Ⅷ層主体の覆土2層と、Ⅴ～Ⅷ層の混じった土である覆土3層が互い違いに積み重なった状態で坑底までいたる。埋め戻しの可能性が高い。坑底面はほぼ平坦である。掘り込み面は検出面より上である。遺物は覆土下位から扁平打製石器（図Ⅲ-51-2・Ⅲ-133-46）と、その未製品と思われる石錘状の礫石器（図Ⅲ-51-3・Ⅲ-133-47）が重なって出土している。

**時期：**包含層の遺物出土状況と出土遺物から縄文時代中期～後期前葉の可能性ある。（大泰司）

P-43（図Ⅲ-51、表3・9・15、図版32-6）

**位置・立地：**T-48区 調査区北側（海側）、標高42.40～42.80m付近の平坦面

規模：1.75×0.96/1.63×0.83/0.22m

**確認・調査：**Ⅶ層調査中、細長い黒褐色土の落ち込みを検出した。短軸で半截した断面の壁は明瞭に立ち上がり、底も平坦に掘り込まれていたため、土坑と判断した。覆土は1層で、Ⅵ層主体である。自然堆積か、埋め戻しかは不明である。平面は楕円形である。長径に対し、掘り込みは浅く、20cm強である。掘り込み面はⅤ～Ⅵ層中である。遺物は出土していない。

**時期：**遺構周辺の包含層出土の遺物から、縄文時代中期または後期前葉の可能性ある。（新家）

P-44（図Ⅲ-52・103・121、表3・9・15、図版33-1）

**位置・立地：**R-47区 調査区北側（海側）、標高42.40～42.60m付近の崖に面した緩斜面

規模：1.68×1.62/1.40×1.13/1.03m

**確認・調査：**Ⅶ層調査中、円形の黒色土の落ち込みを検出した。半截した断面の壁は裾が広がり、Ⅷ層を1mほど掘り込んで作られており、底も平坦に掘り込まれていたため、フラスコ状土坑と判断した。覆土は18層に分けた。1層はⅤa層の自然堆積、2～17層はⅤ～Ⅷ層が混在する埋め戻し土と思われる。18層は坑底直上に薄く堆積した、粘性の強い黒色土である。平面は円形で、壁面下部はオーバーハングしている。掘り込み面はⅤ層中と思われる。主な出土遺物は、覆土上部から縄文時代後期前葉の土器片80点、石鏃が1点、坑底に近い18層から縄文時代後期の土器片が5点出土している。

**時期：**出土土器片の時期や土坑の形態から、縄文時代後期前葉と考える。（新家）

P-46（図Ⅲ-52・133、表3・9・15、図版33-2）

**位置・立地：**R-46区 調査区北側（海側）、標高42.60～43.00m付近の緩斜面

規模：0.72×0.68/0.47×0.46/0.24m

**確認・調査：**Ⅶ層調査中、円形の黒褐色土の落ち込みを検出した。半截した断面の、明瞭に掘り込まれた壁や平坦な底から、土坑と判断した。覆土は4層に分けた。Ⅴ～Ⅷ層が混在する埋め戻し土である。平面は円形である。南側の壁はやや緩やかに立ち上がる。掘り込み面はⅤ層中である。遺物は扁平打製石器1点、フレイク5点、礫1点が覆土から出土した。

**時期：**遺構周辺の包含層出土の遺物から、縄文時代中期または後期前葉の可能性ある。（新家）

P-47（図Ⅲ-53・103、表3・9・15、図版33-3）

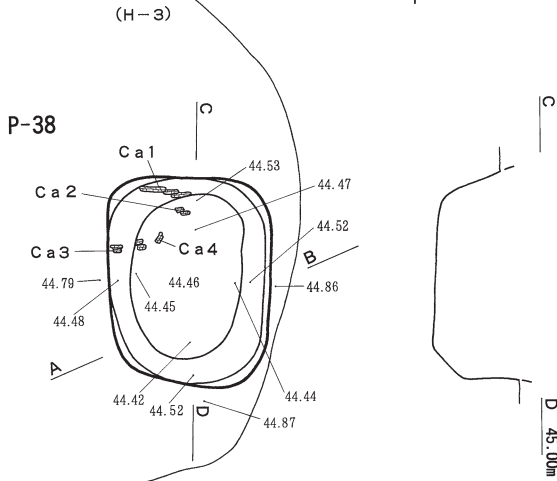
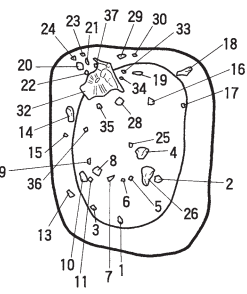
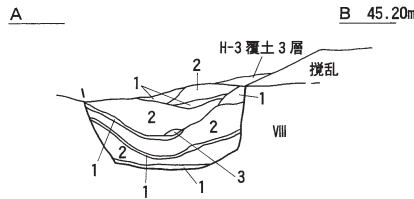
**位置・立地：**G-41区 標高44.60～44.80m付近の平坦面



F-43

P-38										(埋め戻し)	
断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)			礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考
				野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類	
1	覆土1	*	覆土	黒色	10YR2/1	*	軟	灰褐色軽石	1	*	*
2	覆土2	*	覆土	褐色	10YR4/3	*	軟	灰褐色軽石	1	*	*
3	湧土	*	湧土	褐色	5YR7/8 (あり)		軟	*	*	*	*

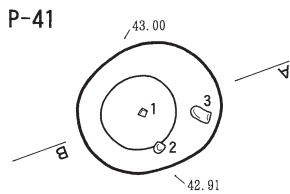
P-38				
番号	層位	標高 (m)	分析用サンプル	備考
Ca1	*	44.80		
Ca2	*	44.70		
Ca3	*	44.77		
Ca4	*	44.64		



P-38										
取り上げ 番号	遺物 番号	種類	遺物内容 (土器) 時期分類 (石器) (器種) 器名	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考		
1	1	銅	銅	1	覆土2	44.60				
2	2	銅	銅	1	覆土2	44.64				
3	3	銅	銅	1	底面層	44.53				
4	4	銅	銅	1	覆土2	44.64				
5	5	銅	銅	1	覆土2	44.70				
6	6	銅	銅	1	覆土2	44.70				
7	7	銅	銅	1	覆土2	44.51				
8	8	銅	銅	1	覆土2	44.64				
9	9	銅	銅	1	覆土2	44.57				
10	10	銅	銅	1	覆土2	44.55				
11	11	銅	銅	1	覆土2	44.52				
12	12	銅	銅	1	覆土2	44.53				
13	13	銅	銅	1	底面層	44.69		遺物出土状況図に記載無し		
14	14	銅	銅	1	覆土2	44.53				
15	15	銅	銅	1	覆土1	44.63				
16	16	銅	銅	1	底面層	44.49				
17	17	銅	銅	1	覆土2	44.67				
18	18	銅	銅	1	覆土2	44.81				
19	19	銅	銅	1	覆土2	44.62	○			
20	20	銅	銅	1	覆土2	44.67				
21	21	銅	銅	1	覆土2	44.69				
22	22	銅	銅	1	覆土2	44.64				
23	23	銅	銅	1	覆土2	44.77	○			
24	24	銅	銅	1	覆土2	44.65				
25	25	銅	銅	1	覆土2	44.47	○			
26	26	銅	銅	1	覆土2	44.70				
27	27	銅	銅	1	覆土2	44.51		遺物出土状況図に記載無し		
28	28	銅	銅	1	覆土2	44.57				
29	29	銅	銅	1	覆土2	44.75				
30	30	土器	豆鉢α類	1	覆土2	44.77				
31	31	土器	豆鉢α類	1	覆土2	44.64		遺物出土状況図に記載無し		
32	32	土器	豆鉢α類 79 (曹土)	1	覆土2	44.64	○	H-3 層出土土器		
33	33	土器	豆鉢α類	1	底面層	44.58	○			
34	34	銅	銅	1	底面層	44.57				
35	35	土器	豆鉢α類 10	1	覆土2	44.57				
36	36	銅	銅	1	底面層	44.58				
37	37	銅	銅	1	底面層	44.57				

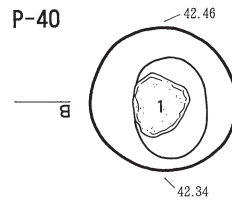
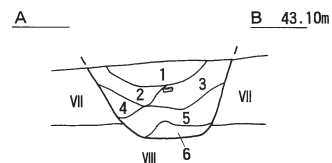
G-43

Q-46

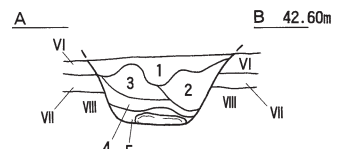


P-41							
取り上げ 番号	遺物 番号	種類	遺物内容 (土器) 時期分類 (石器) (器種) 器名	点数	層位	標高 (m)	備考
1	1	土器	豆鉢α類	1	覆土	42.78	
2	2	銅	銅	1	覆土	42.92	
3	3	硜石	たつき石	1	覆土	42.93	○

P-41										(埋め戻し)	
断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)			礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考
				野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類	
1	覆土1	*	埋壊土	黒色	10YR1/1	強	軟	*	*	*	*
2	覆土2	*	埋壊土	黒色	10YR1/1	強	堅	*	*	*	*
3	覆土3	*	埋壊土	黒色	10YR2/1	強	堅	*	*	*	*
4	覆土4	*	埋壊土	黒褐色	10YR2/3	強	堅	*	*	*	*
5	覆土5	*	埋壊土	黒色	10YR1/1	強	軟	*	*	*	*
6	覆土6	*	埋壊土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	VII層軽石	1	*	N g 軽石: 円礫/傍行

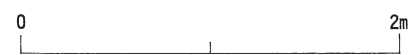


P-40							
取り上げ 番号	遺物 番号	種類	遺物内容 (土器) 時期分類 (石器) (器種) 器名	点数	層位	標高 (m)	備考
1	1	銅	銅	1	壊底	42.19 42.07	



R-46

P-40										(埋め戻し)	
断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)			礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考
				野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類	
1	覆土	V a ?	主体	埋壊土	黒色	10YR1/1	強	堅	*	*	*
2	覆土	V b +	V	埋壊土	黒色	10YR2/1	強	堅	*	*	*
3	覆土	V i +	V i + V i i	埋壊土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	*	*	*
4	覆土	V a ?	主体	埋壊土	黒色	10YR1/1	中	堅	*	*	*
5	覆土	V i +	V i	埋壊土	黒褐色	10YR2/2	強	軟	*	*	*



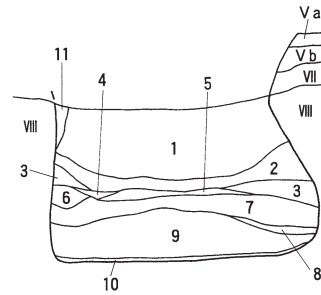
図III-50 P-38・40・41

P-45

P-39				(埋め戻し)									
断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)			礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考		
				野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類		混在量	
1	覆土1		(Ⅷ5%混じる)	壤土	褐色	10YR4/1	弱	軟	黄褐色軽石	1	*	*	
2	覆土2		(Ⅷ5%混じる)	壤土	黒褐色	10YR3/1	弱	軟	?	?	*	*	
3	覆土3		(Ⅷ層の流入)	壤土	黄褐色	10YR5/9	弱	軟	?	?	*	*	
4	覆土4		*	壤土	黒色	10YR2/1	弱	軟	?	?	*	*	
5	覆土5		(Ⅷ層の流入)	壤土	黄褐色	10YR5/9	弱	軟	?	?	*	*	
6	覆土6		(Ⅷ層の流入)	壤土	黄褐色	10YR5/9	弱	軟	?	?	*	*	
7	覆土7		(Ⅷ層の流入)	壤土	黒褐色	10YR3/2	弱	軟	軽石	15	*	*	
8	覆土8		(Ⅷ層の流入)	壤土	黄褐色	10YR5/9	弱	軟	?	?	*	*	
9	覆土9		(Ⅷ5%混じる)	壤土	褐色	10YR5/1	弱	軟	軽石	15	*	*	
10	覆土10		*	壤土	黒色	10YR1/1	弱	軟	*	*	*	*	
11	覆土11		(Ⅷ層の流入)	壤土	褐色	*	弱	軟	?	?	*	*	

A

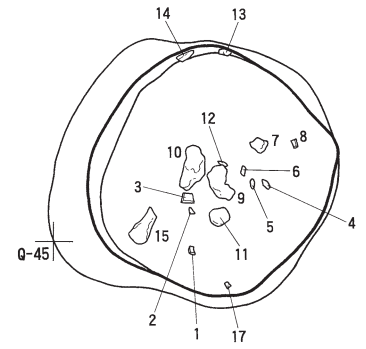
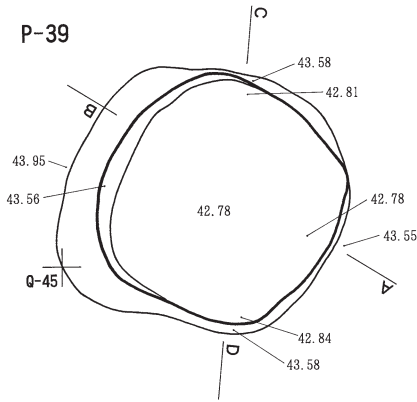
B 44.20m



C

D 44.20m

P-39



P-39		遺物内容		層位	標高 (m)	掲載	備考
取り上げ 番号	遺物 番号	種別 (土器) (石器) (瓦器) (漆器)	点数				
1	1	土器	土器名類	層土1	43.51		
2	2	銅片	フレイク	層土1	43.64		
3	3	土器	土器名類	層土1	43.44	○	
4	4	銅片	スタレイバー	層土1	43.39	○	
5	5	硬	硬	層土1	43.39		
6	6	硬	硬	層土1	43.39		
7	7	硬	硬	層土1	?		
8	8	土器	土器名類	層土3	43.12		
9	9	硬	硬	層土1	43.15		
10	10	硬	硬	層土1	43.48		
11	11	硬	硬	層土1	42.98		
12	12	硬	硬	層土1	43.12		
13	13	硬	硬	層土1	43.01		
14	14	銅片	フレイク	層土1	43.25		
15	15	硬	硬	層土4	43.03		
16	16	銅片	フレイク	層土3	43.01		遺物出土状況図に記載無し
17	17	銅片	フレイク	層土9	42.81		

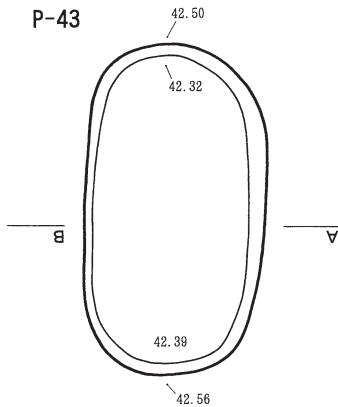
T-48

P-46

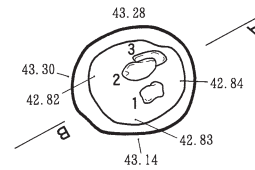
P-42		遺物内容		層位	標高 (m)	掲載	備考
取り上げ 番号	遺物 番号	種別 (土器) (石器) (瓦器) (漆器)	点数				
1	1	硬	硬	層土1	43.09		
2	2	硬石	扁平打製石器	層土2	42.95	○	
3	3	硬石	石	層土2	42.91	○	

P-47

P-43

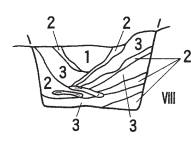


P-42



A

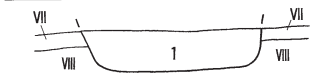
B 43.40m



P-42				(埋め戻し)									
断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)			礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考		
				野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類		混在量	
1	覆土1		*	壤土	黒褐色	10YR3/1	*	軟	黄褐色軽石	1	*	*	
2	覆土2		*	壤土	明黄褐色	10YR6/8	*	軟	長褐色軽石	1	*	*	
3	覆土3		*	壤土	褐色	10YR4/6	*	軟	黄褐色軽石	1	*	*	

A

B 42.70m



P-43				(埋め戻し)									
断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)			礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考		
				野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類		混在量	
1	覆土1		*	壤土	黒褐色	10YR2/2	中	9.3-9.8	*	*	*	*	

U-48



図III-51 P-39・42・43

規模：1.07×0.82/0.88×0.62/0.28m

**確認・調査：**Ⅷ層上面で黒色土Vb層主体の落ち込みを検出した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。不整な楕円の平面形である。覆土1層はVb層主体であり、自然堆積の可能性がある。覆土2層はⅧ層主体の埋め戻し土と考えられる。ただし、覆土2層上位において、その場で焚いたものとは考え難い焼土粒のまとまりが検出された。位置を平面図に、高さを見通しでセクション図に示した。坑底面はほぼ平坦であるが東側へ向かって低く傾斜する。掘り込み面は検出面より上である。遺物は覆土2層からⅢ群a類土器が2点、1層と合わせると11点出土している。口縁部の残るものは円筒上層式の後半であり、胴部破片にはⅢ群b-1類の可能性が高いものも含まれている。覆土1層からⅢ群b類土器（図Ⅲ-53-10・Ⅲ-103-1）がまとまって出土している。

**時期：**遺物出土状況と調査区内で確認した他の遺構例から縄文時代中期中葉の可能性がある。

（大泰司）

P-48（図Ⅲ-53・104・121、表3・9・15、図版33-4）

**位置・立地：**T-46区 調査区北側（海側）、標高42.60～43.00m付近の緩斜面

規模：1.64×1.62/1.43×1.40/0.45m

**確認・調査：**住居跡H-10の落ち込みの中に、黒褐色土の円形の落ち込みを検出した。半截した断面から、H-10とさらにその下の土坑P-62の覆土を掘り込んだ、明瞭な壁の立ち上がり平坦な底を持つ土坑と判断した。覆土は10層に分けた。7、9、10層は崩落土の可能性もある。多くの層は、ほぼ全体にⅧ層と濁川カルデラ起源の軽石粒の混入が多く、埋め戻しと思われる。平面は円形である。底は水平・平坦で、壁の傾斜もほぼ均等である。掘り込み面はV層中である。主な出土遺物は、覆土から出土した縄文時代後期の土器片15点とスクレイパー1点である。

**時期：**H-10、P-62、SP-12よりも新しい時期である。遺構周辺の包含層遺物出土状況から、縄文時代後期前葉の可能性がある。

（新家）

P-49（図Ⅲ-54・104、表3・9・15、図版33-5）

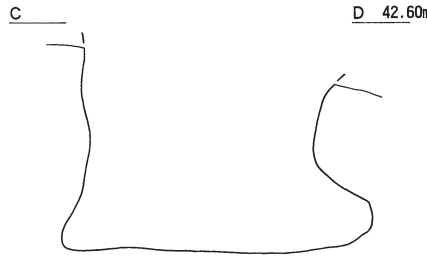
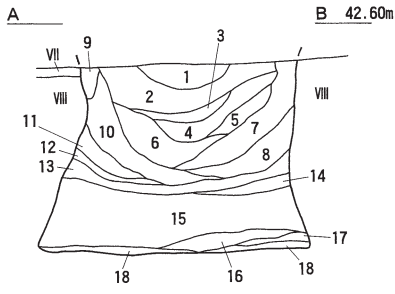
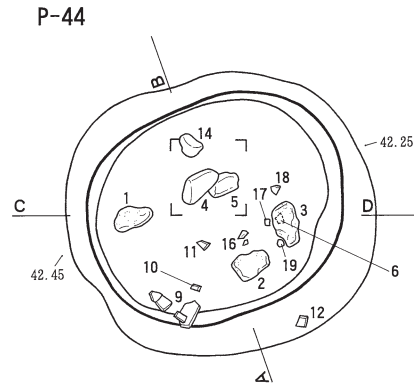
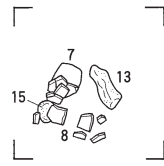
**位置・立地：**F-43区 標高44.80～45.00m付近の平坦面

規模：1.26×0.82/1.24×0.76/0.86m

**確認・調査：**H-3調査終了後、Ⅷ層上面で黒色土Vb層主体の落ち込みを調査した。不整な形状であり、H-3埋没以後の風倒木であろうとH-3調査時には想定していた。しかし、覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判明した。楕円形の平面形である。したがって土層断面図を取れず、調査のメモから土層を起こした。覆土は、中位にいたるまでVb層主体の風倒木による土層が占めている。覆土中位以下はV～Ⅷ層が混じり合った埋め戻し土である。壁面から坑底にかけてⅧ層が崩落した土が一部観察できた。埋め戻しの可能性が高いものであった。壁面はほぼ直立するが、一部オーバーハングする。坑底面はほぼ平坦ある。掘り込み面は不明である。風倒木と切り合っていない、本来P-49の覆土が分布していたと考えられる部分において、H-3の覆土を確認し、その壁面を検出できたことから、H-3より古いものと想定できる。従って、検出面よりは上からの掘り込みと考える。遺物は覆土中からⅢ群a類土器（図Ⅲ-54-1・Ⅲ-104-2/Ⅲ-54-4・Ⅲ-104-1）とフレイクが出土している。

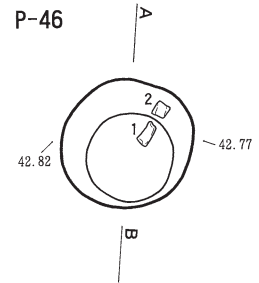
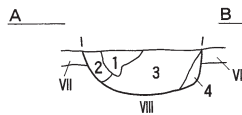
**時期：**検出状況と遺物出土状況から縄文時代中期前半の可能性がある。H-3より古い。（大泰司）

P-44										
取上げ 番号	遺物 番号	遺物内容			点数	層位	標高 (m)	掲載	備考	
		種別 (土器)	時期分類 (石器)	器種						
1	1	土器	弥生前期	土器	1	覆土3	42.73			
2	2	土器	弥生前期	土器	1	覆土4	41.99			
3	3	土器	弥生前期	土器	1	覆土5	41.86			
4	4	土器	弥生前期	土器	1	覆土4	41.93			
5	5	土器	弥生前期	土器	1	覆土5	41.87			
6	6	土器	IV群a類	土器	16	覆土5	41.86	○		
7	7	土器	IV群a類	土器	8	覆土13	41.67	○		
8	8	土器	IV群a類	土器	20	覆土13	41.70	○		
9	9	土器	IV群a類	土器	5	覆土10	41.88	○		
10	10	土器	IV群a類	土器	1	覆土15	41.68	○		
11	11	土器	IV群a類	土器	1	覆土13	41.64			
12	12	土器	IV群a類	土器	1	覆土15	41.63			
13	13	土器	弥生前期	土器	1	覆土13	41.65			
14	14	土器	弥生前期	土器	1	覆土13	41.61			
15	15	土器	弥生前期	土器	1	覆土13	41.59			
16	16-1	新石器	フレイク	頁岩	1	覆土18	41.52			
16	16-2	新石器	フレイク	砂岩	1	覆土18	41.47	○		
17	17-1	土器	III群a類	土器	1	覆土18	41.47			
17	17-2	土器	IV群a類	土器	5	覆土18	41.46			
18	18	新石器	フレイク	頁岩	1	覆土18	41.46			
19	19	土器	弥生前期	土器	1	覆土15	41.61			



P-44 (埋め戻し)												
断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)			礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考	
				野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類		混在量
1	覆土1	V a	主体	塊礫土	黒色	10YR2/1	強	堅	*	*	*	*
2	覆土2	VI	主体	塊礫土	黒色	10YR2/1	中	堅	*	*	*	*
3	覆土3	VI +	VI	塊礫土	黒褐色	10YR2/3	中	堅	*	*	*	*
4	覆土4	V	主体	塊礫土	黒色	10YR1/1	強	堅	*	*	*	*
5	覆土5	VI	主体	砂礫土	暗褐色	10YR3/4	中	堅	*	*	*	*
6	覆土6	VI +	VI (砂層)	砂礫土	黒褐色	10YR2/2	弱	堅	*	*	*	覆土7よりも砂多い
7	覆土7	VI +	VI	塊礫土	黒褐色	10YR2/2	強	堅	*	*	*	*
8	覆土8	VI +	VI	塊礫土	黒色	10YR2/1	強	堅	?	?	*	*
9	覆土9	V a +	V b	壤土	黒色	10YR1/1	中	堅	*	*	*	*
10	覆土10	VI	主体	塊礫土	褐色	10YR4/4	中	堅	*	*	*	*
11	覆土11	V b	主体	塊礫土	黒色	10YR2/1	中	堅	*	*	*	*
12	覆土12	VI	主体	壤土	暗褐色	10YR3/4	強	堅	?	?	*	*
13	覆土13	V a	主体	塊礫土	黒色	10YR1/1	強	堅	*	*	*	*
14	覆土14	VI	主体	壤土	暗褐色	10YR3/4	強	堅	?	?	*	*
15	覆土15	VI +	VI	塊礫土	暗褐色	10YR3/3	強	軟	?	?	*	*
16	覆土16	VI +	VI	塊礫土	黒褐色	10YR2/3	強	軟	*	*	*	*
17	覆土17	VI	主体	壤土	暗褐色	10YR3/4	強	堅	?	?	*	*
18	覆土18	V a	主体	塊礫土	黒色	10YR1/1	強	堅	*	*	*	*

P-46										
取上げ 番号	遺物 番号	遺物内容			点数	層位	標高 (m)	掲載	備考	
		種別 (土器)	時期分類 (石器)	器種						
1	1	土器	弥生前期	土器	1	覆土1	42.84			
2	2	土器	弥生前期	土器	1	覆土3	42.87	○		



P-46 (埋め戻し)												
断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)			礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考	
				野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類		混在量
1	覆土1	VI +	VI	塊礫土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	?	?	*	*
2	覆土2	V +	VI	塊礫土	黒色	10YR2/1	中	堅	*	*	*	*
3	覆土3	V	主体	塊礫土	暗褐色	10YR3/3	強	堅	*	*	*	*
4	覆土4	VI +	VI	塊礫土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	?	?	*	*



図III-52 P-44・46



P-50 (図III-55、表3・9・15、図版33-6)

位置・立地：J-39区 標高44.00~44.20m付近の平坦面

規模：1.04×0.95/0.98×0.80/0.12m

確認・調査：VI層上面で黒色土Vb層主体の落ち込みを検出した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。不整な楕円の平面形である。覆土1層はVb層主体であり、覆土2層はKo-gの流入である。自然堆積の可能性がある。坑底面はほぼ平坦であるが中央が浅く凹む。掘り込み面はVI層上面である。遺物は出土していない。

時期：不明である。包含層の遺物出土状況から縄文時代前期後半~後期前葉の可能性がある。

(大泰司)

P-51 (図III-54・104・121、表3・9・15、図版34-1)

位置・立地：R・S-46区 調査区北側(海側)、標高42.80~43.20m付近の緩斜面

規模：1.78×1.64/1.83×1.67/1.14m

確認・調査：VII層調査中に黒色土の円形の落ち込みを検出した。半截した断面から、VIII層を1mほど掘り込み、下方に若干の広がりを持つ壁と、平坦な底をもつフラスコ状土坑と判断した。覆土は12層に分けた。1、2層はそれぞれVa層、Vb層の自然堆積で、以下の層はV~VIII層が混在する埋め戻し土である。平面は円形である。北側の壁面下部がオーバーハングしている。規模や形状はP-44に似る。掘り込み面はVb層である。主な出土遺物は、覆土全体から出土した縄文時代後期前葉の土器片90点、石鏃1点(図III-121-59)、石斧1点などである。

また、土坑の西南側と北東側の壁際、開口部附近に1本ずつ柱穴を検出した。直径約10~14cm、深さ30~40cmである。覆土は粘性の強い黒色土である。この2本の柱穴はP-51と同レベルから掘り込まれたと思われる、また平面上でもP-51の上場の対角上に位置し、壁面に沿って掘り込んであることから、この土坑の付属施設と判断した。しかし、周辺には住居跡も数軒あり、柱穴が何本か検出されているため、偶然にこの位置に後から構築された、周辺の柱穴群の一部である可能性もある。

時期：出土土器片や周辺の遺構から縄文時代後期前葉か。

(新家)

P-53 (図III-55・133、表3・9・15、図版34-2)

位置・立地：T-47区 調査区北側(海側)、標高42.60~43.00m付近の緩斜面

規模：0.86×0.71/0.64×0.56/0.24m

確認・調査：H-10調査中に、H-10の覆土と風倒木痕が重なる部分で、径約80cmの楕円の黒色土の落ち込みを検出した。また、その縁に長さ40cm余りの大礫が出土した。半截した断面から、H-10の廃棄後にできた風倒木の攪乱を掘り込んで作られた土坑と判断した。覆土は3層に分けた。V~VIII層起源の埋め戻し土である。平面は楕円形である。北側の壁は垂直に、南側の壁は緩やかに立ち上がる。坑底はほぼ平坦である。遺物は、扁平打製石器が1点(図III-55-1・III-133-49)、礫が2点、覆土から出土している。

時期：H-10より新しい。遺構周辺の包含層出土の遺物から、縄文時代後期前葉の可能性がある。

(新家)

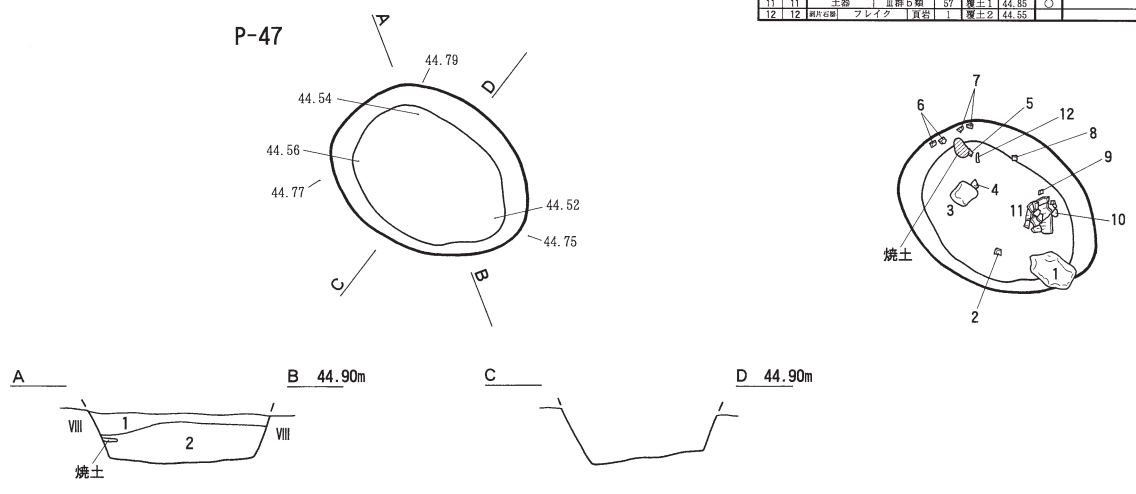
P-54 (図III-55、表3・9・15、図版34-3)

位置・立地：K・L-39・40区 標高44.00~44.20m付近の平坦面

G-41

P-47		遺物内容		点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
取り上げ 番号	種別 (土器) 時期分類 (石器) (石器)	器名	器名					
1	土器	土器	安山野	1	覆土1	44.89		
2	土器	土器	安山野	1	覆土2	44.74		
3	土器	土器	安山野	1	覆土1	44.86		
4	土器	土器	安山野	1	覆土1	44.78		
5	土器	土器	安山野	3	覆土1	44.78	○	
6	土器	土器	安山野	2	覆土1	44.76	○	
7	土器	土器	安山野	3	覆土1	44.78	○	
8	土器	土器	安山野	1	覆土1	44.78		
9	土器	土器	安山野	1	覆土2	44.55		
10	土器	土器	安山野	1	覆土1	44.88		
11	土器	土器	安山野	57	覆土1	44.85	○	
12	土器	土器	安山野	1	覆土2	44.55		

P-47

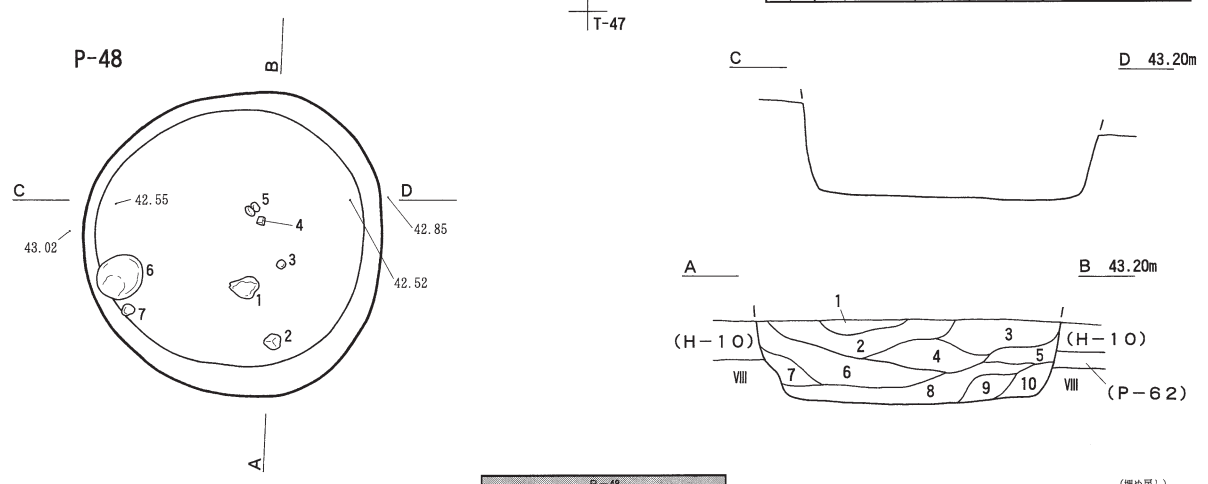


H-41

P-47		混在層		砂・粘土・シルト (長径2mm未満)				礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考
断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類	混在量	
1	覆土1		(埋め戻し)	褐色	10YR5/7	中	堅	*	*	*	*	
2	覆土2		(V・VIが硬状に混じる)	褐色	10YR4/2	中	堅	*	*	*	*	

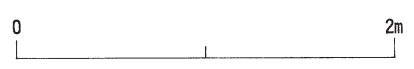
P-48		遺物内容		点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
取り上げ 番号	種別 (土器) 時期分類 (石器) (石器)	器名	器名					
1	土器	土器	安山野	1	覆土4	42.79		
2	土器	土器	安山野	1	覆土6	42.74		
3	土器	土器	安山野	1	覆土8	42.68		
4	土器	土器	安山野	2	覆土4	42.85		
4-1	土器	土器	安山野	1	覆土4	42.83		
5	土器	土器	安山野	2	覆土6	42.80		
6	土器	土器	安山野	1	覆土6	42.80		
7	土器	土器	安山野	2	覆土6	42.78		

P-48



P-48		混在層		砂・粘土・シルト (長径2mm未満)				礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考
断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類	混在量	
1	覆土1	VII	VI	暗褐色	10YR2/3	中	堅	*	*	*	*	
2	覆土2	V	IV	黒色	10YR2/1	強	堅	*	*	*	*	
3	覆土3	V+	VI	暗褐色	10YR2/1	中	堅	電層軽石	2	*	*	
4	覆土4	V+	VI	黒色	10YR1/1	中	堅	電層軽石	2	*	*	
5	覆土5	V+	VI	暗褐色	10YR2/1	中	堅	電層軽石	1	*	*	
6	覆土6	V+	VI	暗褐色	10YR1/1	中	堅	電層軽石	0.5	*	*	
7	覆土7	V+	VI	暗褐色	10YR3/4	中	堅	*	*	*	壁面の崩落土	
8	覆土8	V+	VI	暗褐色	10YR2/2	強	堅	*	*	*	*	
9	覆土9	V+	VI	暗褐色	10YR3/3	強	堅	電層礫	10	*	*	
10	覆土10	VII	VI	暗褐色	10YR3/4	強	堅	?	?	*	*	

U-47



図III-53 P-47・48

規模：1.10×1.02/0.99×0.91/0.30m

**確認・調査：**Ⅶ層上面で黒色土Vb層主体の落ち込みを検出した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。不整な円形の平面形である。覆土は自然堆積である。坑底面はほぼ平坦である。40ラインに基本土層観察用の土手を残していたため、掘り込み面がVb層上位であることがわかった。遺物は覆土からⅢ群 a 類土器が 1 点と、メノウのフレイクが 3 点出土している。取り上げ時には覆土 1 層のみの単層と判断したが、Ⅷ層土の混在具合から上下 2 層に分層した。出土遺物は 1 層下位あるいは 2 層の最上面から出土している。

**時期：**不明である。遺物出土状況から縄文時代中期前半～後期前葉の可能性はある。（大泰司）

P-55（図Ⅲ-55、表 3・9・15、図版34-4）

**位置・立地：**M-42・43区 標高43.60～43.80m付近の平坦面

規模：1.26×1.08/1.18×0.99/0.08m

**確認・調査：**Ⅶ層上面で黒色土Vb層主体の落ち込みを検出した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。不整な楕円の平面形である。包含層調査の都合でM-43区を一様に掘り下げたため、Mラインより北西側は掘り下げすぎた。覆土は自然堆積である。坑底面はほぼ平坦である。掘り込み面は検出面より上である。遺物は覆土からスクレイパーが 1 点出土している。

**時期：**不明である。調査区内の出土遺物の傾向から縄文時代前期後半～後期前葉の可能性はある。

（大泰司）

P-56（図Ⅲ-56、表 3・9・15、図版34-5）

**位置・立地：**L-35区 標高44.60mほどの段丘平坦面。

規模：1.49×(1.38)/1.18×1.13/0.40m

**確認・調査：**この土坑は試掘調査（B調査）時に、Ⅷ層で黒色土のほぼ円形の輪郭を検出していたものであるが、調査上の不手際から土層観察をしないまま調査したものである。

土坑と確認した段階では、覆土が坑底に一部残る状態であった。残る覆土は炭化粒がわずかに入る黄褐色土で、堅くしまっていた。平面形はほぼ円形で、坑底は平坦、壁は緩やかに立ち上がる。遺物は出土していない。

今回の調査で確認できた、遺構のうち三次郎川から一番離れて位置し、段丘崖からは40m離れ、上位の段丘崖に続く緩斜面に近くちょうど地形の変換点にあたる。

**時期：**不明である。

（田中）

P-57（図Ⅲ-56、表 3・9・15、図版34-6）

**位置・立地：**M・N-40区 標高43.80mほどの段丘平坦面

規模：1.18×1.04/0.93×0.94/0.32m

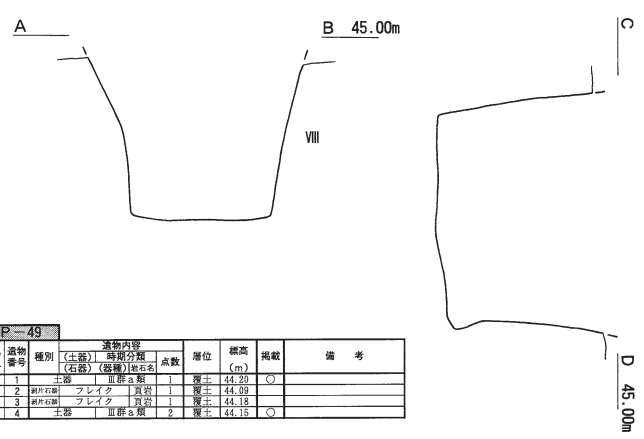
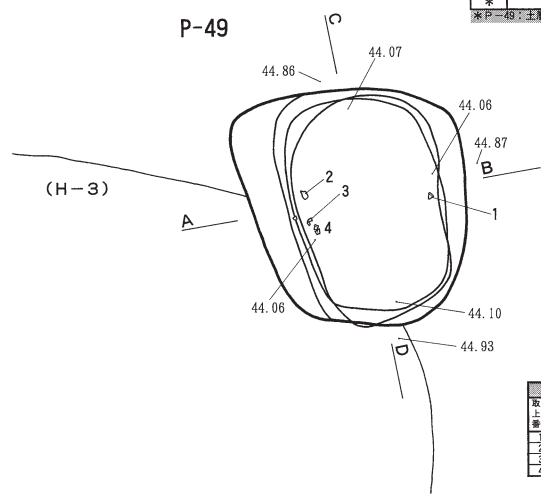
**確認・調査：**M-40区をⅥ層まで掘り下げたところ、その上面で調査区北東側N40区境界部で黒色土の半円形の輪郭が検出された。調査を進めたところⅧ層を掘り込み明瞭な底および壁の立ち上がりを確認できたことから、土坑と判断した。

覆土は軽石粒を若干含む黒色土で充填され、Ⅳ群 a 類の土器片が土坑北側の覆土中位から出土する。

土層観察後、N-40区（来年度調査予定範囲）を 1 m の範囲で広げ、土坑についての調査を終了した。

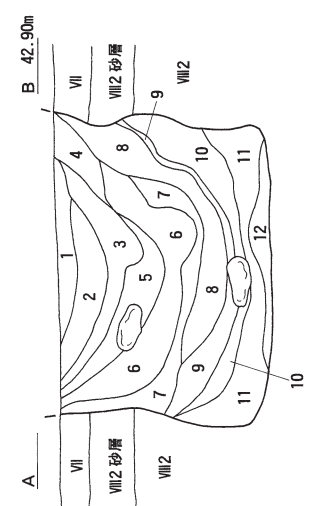
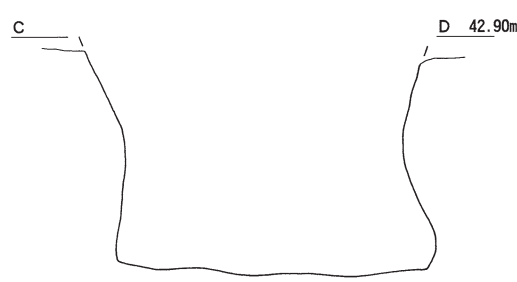
F-43

P-49 (埋め戻し)											
断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)				礫 (長径2mm以上)		その他の混在物	
				野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類	混在量
*	覆土1	V	主体	*	*	*	*	*	*	*	風倒木痕
*	覆土2	VI?	主体	*	*	*	*	*	*	*	埋め戻し
*	覆土3	VI?	主体	*	*	*	*	*	*	*	崩落・流入土

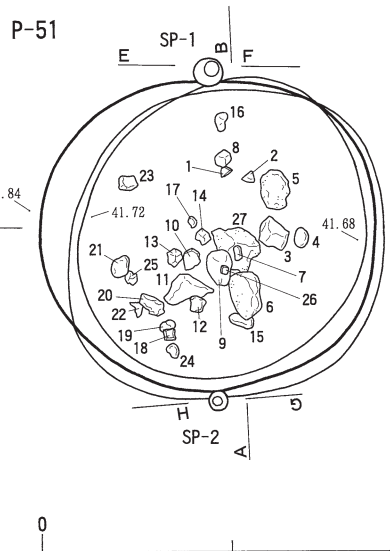


P-49						
取り上げ 番号	種別	(土質) (石径)	遺物内容 時期分類 (器種)	点数	層位	備考
1	1	土器	川群a類	1	覆土	44.20 (○)
2	2	銅石割	フレイク	1	覆土	44.69
3	3	銅石割	フレイク	1	覆土	44.18
4	4	土器	川群a類	2	覆土	44.15 (○)

G-43



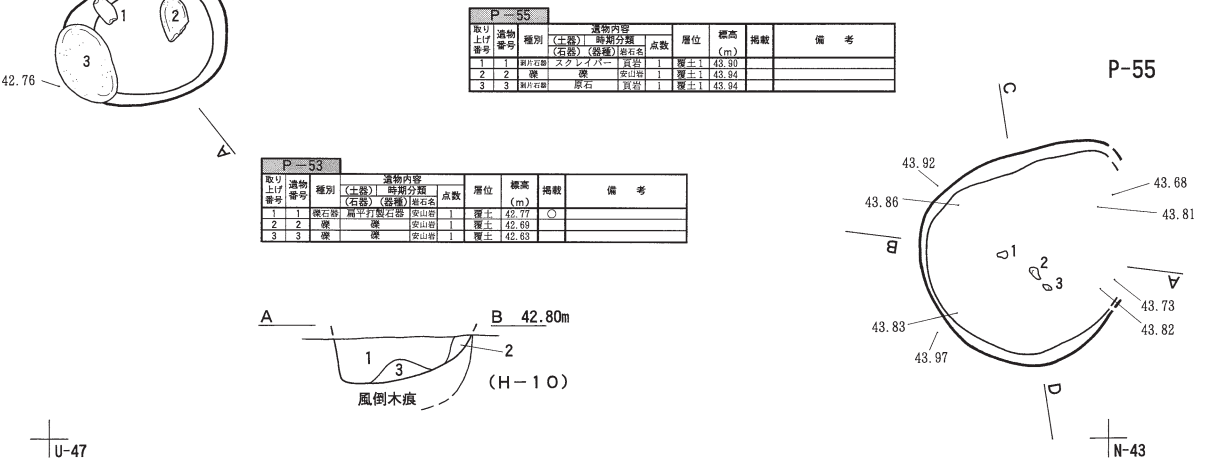
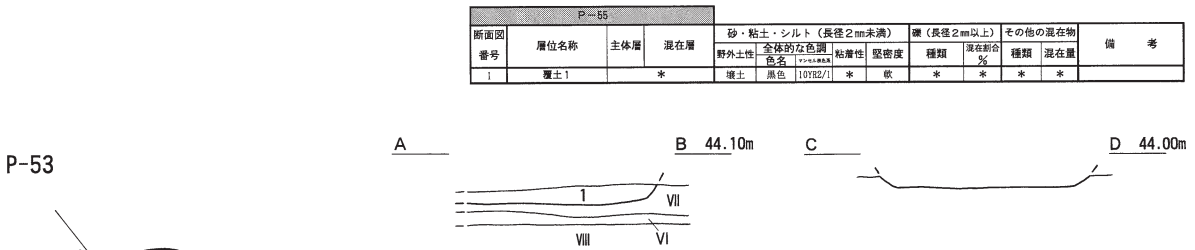
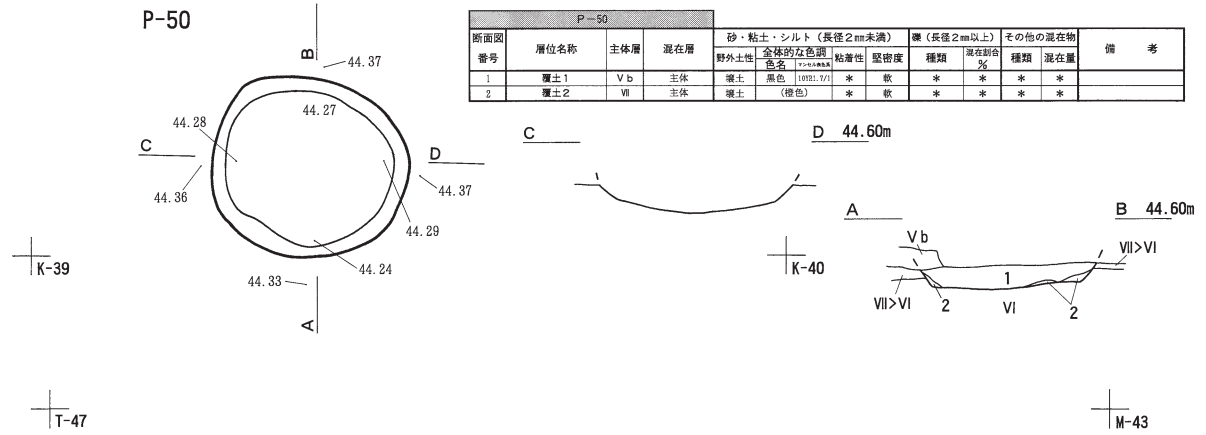
P-51 (埋め戻し)											
断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)				礫 (長径2mm以上)		その他の混在物	
				野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類	混在量
1	覆土1	Va	主体	堆積土	黒色 10YR1.7/1	強	堅	*	*	*	*
2	覆土2	Vb	主体	堆積土	黒色 10YR1.7/1	強	すこぶる堅	*	*	*	*
3	覆土3	V+	VI	堆積土	黒色 10YR2.1	強	すこぶる堅	VI層礫石	15	*	*
4	覆土4	VI	主体	(粘土)	黒褐色 10YR2.3	中	すこぶる堅	*	*	*	*
5	覆土5	V	主体	堆積土	黒色 10YR1.7/1	強	堅	VI層礫	1	*	*
6	覆土6	V+	VI	砂礫土	暗褐色 10YR3.3	中	すこぶる堅	VI層礫石	3	*	*
7	覆土7	V	主体	堆積土	黒色 10YR2.1	強	堅	*	*	*	*
8	覆土8	VI1	主体	(粘土)	暗褐色 10YR3.4	強	すこぶる堅	*	*	*	*
9	覆土9	V~VI	主体	堆土	黒褐色 10YR2.2	中	堅	*	*	*	*
10	覆土10	VI2	主体	砂土	暗褐色 10YR3.4	なし	しろう	VI層礫石	10	*	*
11	覆土11	VI2	主体	砂土	褐色 10YR4.4	なし	堅	*	*	*	*
12	覆土12	VI+	VI2	砂礫土	黒褐色 10YR3.2	中	堅	*	*	*	*



P-51						
取り上げ 番号	種別	(土質) (石径)	遺物内容 時期分類 (器種)	点数	層位	備考
1	1	土器	IV群a類	2	覆土3	42.69
2	2	礫	安山岩	1	覆土3	42.61
3	3	礫	安山岩	1	覆土3	42.55
4	4	礫	安山岩	1	覆土2	42.83
5	5	礫	安山岩	1	覆土3	42.53
6	6	礫	安山岩	1	覆土5	42.35
7	7	礫	安山岩	1	覆土5	42.38
8	8	礫	安山岩	1	覆土3	42.62
9	9	礫	安山岩	1	覆土5	42.33
10	10	土器	IV群a類	3	覆土5	42.33
11	11	礫	安山岩	1	覆土6	42.23
12	12	銅石割	フレイク	1	覆土6	42.29
13	13	礫	安山岩	1	覆土6	42.23
14	14	礫	安山岩	1	覆土7	42.09
15	15	礫	安山岩	1	覆土9	41.97
16	16	礫	安山岩	1	覆土9	42.26
17	17	銅石割	フレイク	1	覆土8	41.94
18	18	土器	IV群a類	1	覆土9	42.07
19	19	礫	安山岩	1	覆土9	42.07
20	20	礫	安山岩	1	覆土3	42.55
21	21	礫	安山岩	1	覆土3	42.48
22	22	礫	安山岩	1	覆土6	42.22
23	23	礫	安山岩	1	覆土8	42.04
24	24	礫	安山岩	1	覆土9	42.12
25	25	礫	安山岩	1	覆土6	42.20
26	26	土器	IV群a類	2	覆土11	41.71
27	27	礫	安山岩	1	覆土12	41.61

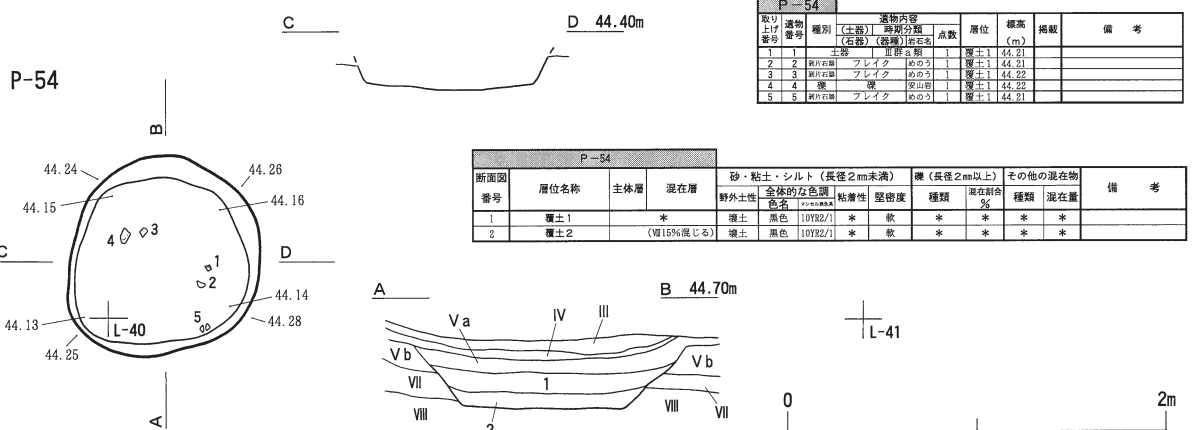
図III-54 P-49・51





**P-53**

断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類	混在量	備考
1	覆土1	V	主体	壤壤土	黒色 [10Y2/1]	中	堅	*	*	*	*	
2	覆土2	VI	主体	壤土	暗褐色 [10Y3/4]	弱	堅	*	*	*	*	別落土
3	覆土3	VI	主体	壤壤土	黒褐色 [10Y2/3]	中	堅	*	*	*	*	



図III-55 P-50・53・54・55

N-40区土坑脇から出土した礫については、明確にこの土坑に伴うものかわからない。平面形はほぼ円形を呈し、坑底は平坦。東西の壁はほぼ直立するが、南北両壁は緩やかに立ち上がる。深さ30cmと浅い土坑で、掘り込み面は土層観察でも明確には判断できなかった。

時期：覆土出土の土器片から、縄文時代後期と判断している。 (田中)

P-58 (図Ⅲ-56, 表3・9・15、図版35-1)

位置・立地：M-40区 標高43.80mほどの段丘平坦面。

規模：1.20×1.16/0.94×0.96/0.34m

確認・調査：P-57と同様M-40区で確認できた土坑で、P-57の南西側3mほどにある。試掘調査(B調査)の調査坑壁面に、黒色土の落ち込みが検出され、包含層をⅥ層まで掘り下げ、その上面でほぼ円形の輪郭が確認できた。

覆土は、黒色土を主体(1・2層)とし、坑底付近には基盤層の軽石粒に黒色土がごくわずかに混在するもの(3層)で、東壁側にも一部みられた。3層については、掘りすぎの可能性もある。遺物は確認面に近い土坑東側の覆土上部から、頁岩製剥片、安山岩の被熱礫が各1点出したのみである。

時期：不明。周辺の土坑の形態などから判断して、縄文後期の可能性が強いと考えている。(田中)

P-59 (図Ⅲ-57・121, 表3・9・15、図版35-2)

位置・立地：M・N-35区 標高44.40mほどの段丘平坦面。

規模：1.12×1.00/0.74×0.67/0.60m

確認・調査：M-35区北側隅にⅦ(Ko-g)層上面で、ほぼ円形の黒色土の輪郭が検出された。南側半分を掘り進めたところ、深さ60cmでⅧ層が確認できた。Ⅷ層上には黒褐色土が水平に堆積し、壁の立ち上がりが明瞭に確認できたことから、土坑と判断した。

平面形は南北に長軸方向をとる楕円形で、扁平度はさほどではない。坑底は平坦で、壁は緩やかに立ち上がり、坑口に向かって広がる。覆土は、黒色土を主体とするもの(1~5層)が土坑上部から中央部坑底に向けてロート状に堆積し、その周りに色調にぶい黄褐色のしまりのないシルト質主体のもの(6層)が壁際に堆積する。坑底には上記の黒褐色土(7層)が厚さ3~4cmほど堆積する状況であった。遺物は縄文前期、中期の土器片各1点、メノウ製スクレイパー1点(図Ⅲ-57-4・Ⅲ-121-60)、礫・礫片がわずかながら出土している。すべて覆土中からの出土である。

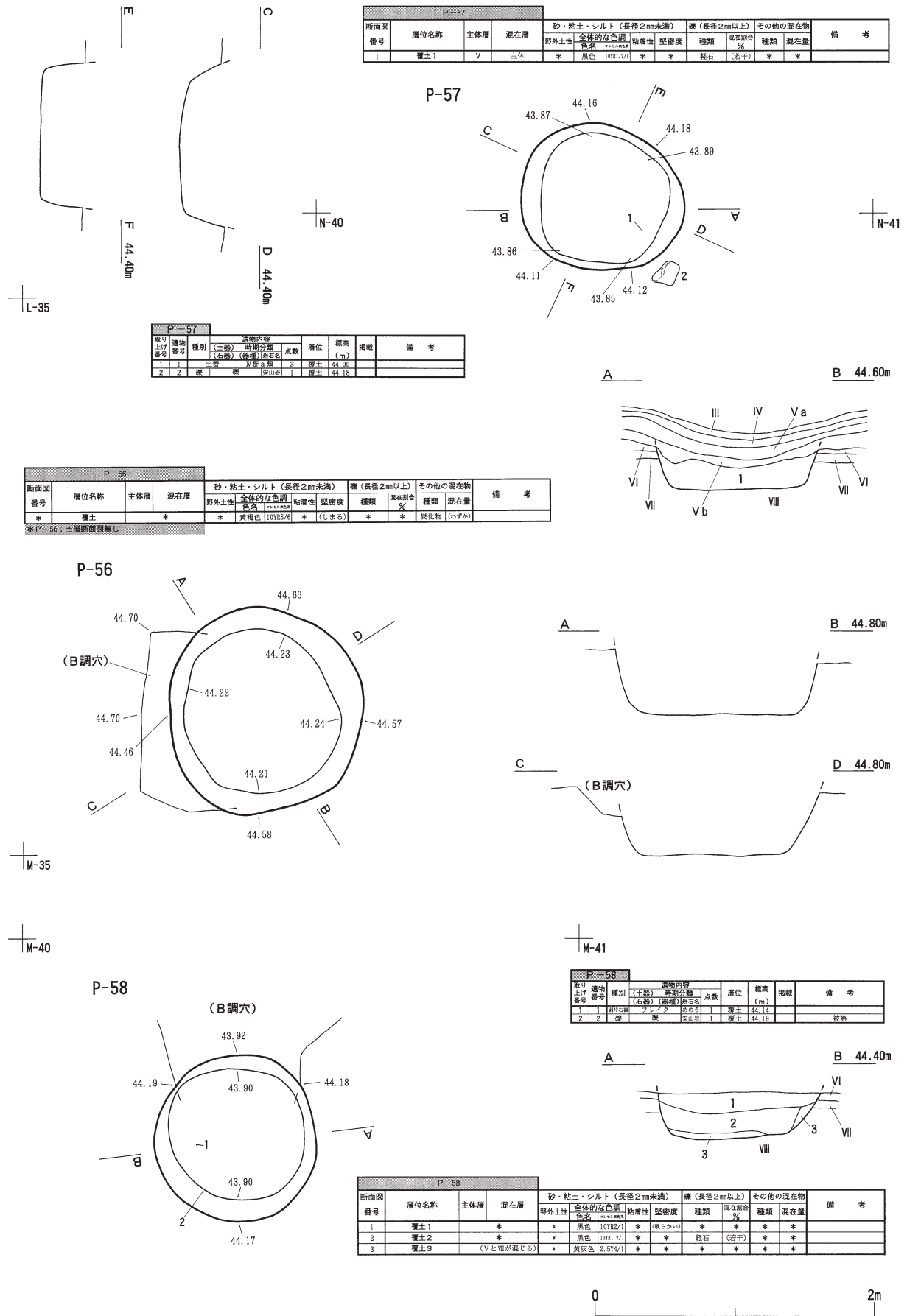
時期：遺物量が少ないこと、また土器片はいずれも胴部破片で判断は難しいが、縄文中期よりはさかのぼらず、中期の可能性が強い。(田中)

P-61 (図Ⅲ-57・104, 表3・9・15、図版35-3)

位置・立地：P-44・45区 標高43.40~43.80m付近の平坦面

規模：1.52×1.44/1.58×1.56/0.96m

確認・調査：Ⅶ層上面で黒色土Vb層主体の落ち込みを検出した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。不整な楕円の平面形である。覆土1層はVb層主体であり、一部掘りあげ土を含んだ自然堆積の可能性はある。覆土2層はⅧ層主体の埋め戻し土と考えられる。3~7層についてもV~Ⅷ層からなる土が混じり合い、埋め戻し土と考えられる。坑底面はほぼ平坦であるが中央が浅く凹む。壁面は中位で強く屈曲するオーバーハングの形状である。掘り込み面はVb層中位である。覆土1~4層を覆土上位として遺物を取り上げた。覆土上位には大型の礫がふたつ配さ



図III-56 P-56・57・58

れている。両者の長軸を平行にして位置する。覆土6層からIV群a類土器が1点出土している。取り上げ番号6は自然礫であり、一次整理段階で廃棄した。

時期：遺物出土状況と調査区内で確認した他の遺構例から縄文時代後期前葉の可能性がある。

(大泰司)

P-62 (図Ⅲ-57・104、表3・9・15、図版35-4)

位置・立地：S・T-46区 調査区北側（海側）、標高42.60～43.20m付近の斜面

規模：0.95×(0.62)/0.56×(0.40)/0.12m

確認・調査：H-10調査中、その床面にP-48に北東部分を切られた黒色土の円形の落ち込みを検出した。半截した断面の、Ⅷ層を掘り込んだ水平な底から、H-10よりも古い土坑と判断した。覆土は1層で、H-10の覆土と同質の黒色土である。平面は円形で、上部をH-10やP-48に切られ、壁は浅く残存しているのみである。遺物は縄文時代後期前葉の土器片が、覆土から7点出土している。

時期：検出状況から、P-48やH-10よりも古いと思われる。遺物の出土状況から、縄文時代後期前葉の可能性がある。

(新家)

P-63 (図Ⅲ-58・104、表3・9・15、図版)

位置・立地：R-47・48区 調査区北側（海側）、標高42.00～42.20m付近の急斜面

規模：0.54×0.38/0.32×0.25/0.22m

確認・調査：Ⅷ層まで下げたところ、長さ50cmほどの黒色土の楕円形の落ち込みを検出。短軸で半截すると、土器片が数点覆土の下方より出土した。Ⅷ層を掘り込んだ、明瞭な壁を断面で確認し、土坑と判断した。覆土は黒色土からなる1層で、人為的埋め戻しかは不明である。平面は楕円形で、坑底は椀状に作られている。遺物は縄文時代中期前半の土器片が、覆土から5点(図Ⅲ-62-4・Ⅲ-104-1)出土している。

時期：出土遺物から、縄文時代中期前半の可能性がある。

(新家)

P-65 (図Ⅲ-58、表3・9・15、図版35-6)

位置・立地：N-40区 標高43.80～44.00m付近の平坦面

規模：1.08×0.98/0.82×0.74/0.10m

確認・調査：Ⅲ層上面でB-Tmの落ち込みを検出した。遺構を想定し、土層観察用の土手を残して調査した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。不整な楕円の平面形である。覆土は自然堆積である。坑底面は平坦である。掘り込み面はVb層上位である。降下火山灰B-Tm降下時にはまだ凹みとして存在していたものである。遺物は覆土からIV群a類土器が1点出土している。P-66と類似する。

時期：不明である。しかし掘り込み位置が縄文時代の遺構より上位であり、周辺の出土遺物から続縄文時代以降の可能性がある。

(大泰司)

P-66 (図Ⅲ-58、表3・9・15、図版36-1)

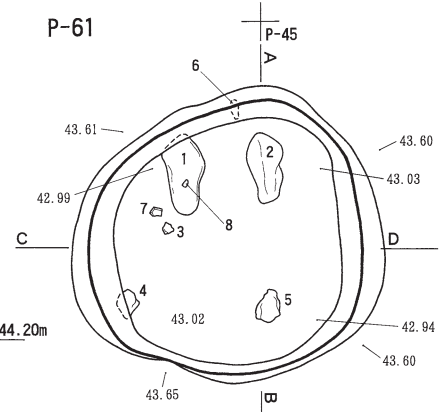
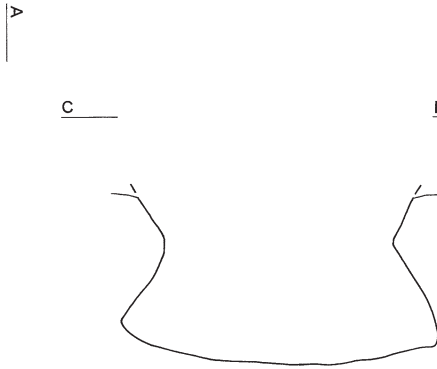
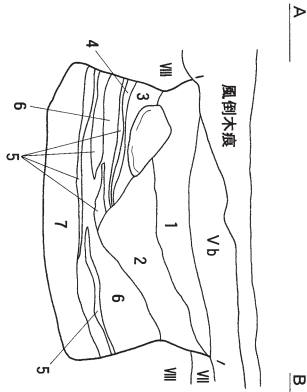
位置・立地：N-41区 標高43.80～44.00m付近の平坦面

規模：1.28×1.28/1.14×0.96/0.36m

確認・調査：表土除去後、Ⅲ層上面で顕著な凹みを検出した。遺構を想定し、土層観察用の土手を残

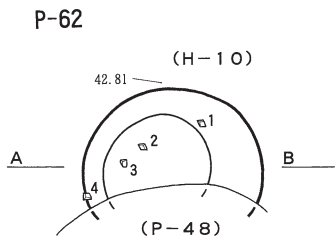


P-61				(埋め戻し)							
断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)			礫(長径2mm以上)		その他の混在物		備考
				野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類	
1	覆土1		(V7%混じる)	壤土	黒褐色 10Y2.5/2	*	軟	黄褐色軽石	1	*	*
2	覆土2		(V25%混じる)	壤土	(明黄褐色)	*	軟	黄褐色軽石	1	*	*
3	覆土3		(V2%混じる)	壤土	褐色 10Y3.4/6	*	軟	黄褐色軽石	1	*	*
4	覆土4	VII	主体	壤土	明黄褐色 10Y3.7/6	*	軟	*	*	*	流入土
5	覆土5	*		壤土	黄褐色 10Y3.5/6	*	堅	黄褐色軽石	1	*	*
6	覆土6	*		壤土	明黄褐色 10Y3.7/6	*	堅	黄褐色軽石	1	*	*
7	覆土7	*		壤土	にがみ黄褐色 10Y3.6/4	*	下ごぼり型	黄褐色軽石	1	*	*

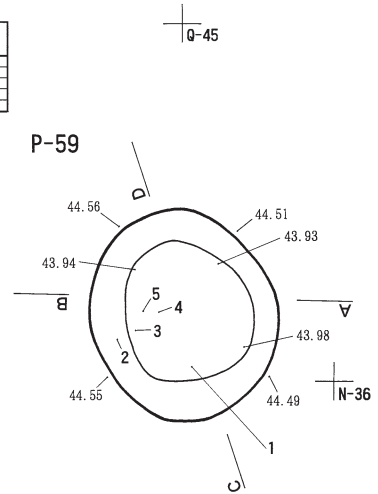
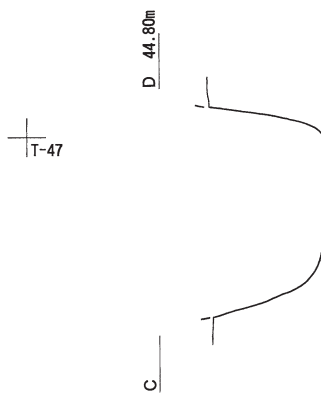


P-61									
取り上げ 番号	遺物 番号	種類	(土器)   時期分類 (石器) (磁器) 器名	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考	
1	1	硬	硬	1	覆土1位	43.66			
2	2	硬	硬	1	覆土1位	43.41			
3	3	硬	硬	1	覆土1位	43.06			
4	4	硬	たたき石	1	覆土1位	43.33			
5	5	硬	硬	1	覆土1位	43.12			遺物台帳に記載無し
6	6	硬	硬	1	覆土1位	43.11			
7	7	土器	V群a類	1	覆土6	*	○		
8	8	硬片石	フレイク	1	覆土6	*			

P-59									
取り上げ 番号	遺物 番号	種類	(土器)   時期分類 (石器) (磁器) 器名	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考	
1	1	硬	硬	1	覆土1	44.47			
2	2	土器	III群a類	1	覆土1	44.52			
3	3	土器	V群a類	1	覆土1	44.13			
4	4	硬片石	スクレイパー	1	覆土1	44.20	○		
5	5	硬	硬	1	覆土1	44.11			

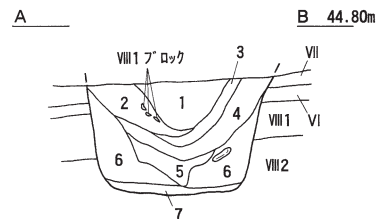
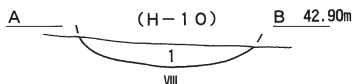


N-35



P-62									
取り上げ 番号	遺物 番号	種類	(土器)   時期分類 (石器) (磁器) 器名	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考	
1	1	土器	V群a類	3	覆土1	42.77			
2	2	土器	V群a類	2	覆土1	42.73			
3	3	土器	V群a類	1	覆土1	42.80	○		
4	4	土器	V群a類	1	覆土1	42.89	○		

P-59											
断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)			礫(長径2mm以上)		その他の混在物		備考
				野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類	
1	覆土1		*	*	黒褐色 10Y2.2/2	*	*	*	*	*	
2	覆土2		*	*	黒褐色 10Y2.2/2	*	*	*	*	*	V1層(黄褐色粘土)ブロック
3	覆土3		*	*	褐色 10Y3.4/4	*	*	*	*	*	
4	覆土4		*	*	黒色 10Y3.1/1	*	*	*	*	*	
5	覆土5		*	*	黒褐色 10Y2.2/2	*	(なし)	*	*	*	
6	覆土6		*	*	にがみ黄褐色 10Y3.5/4	*	(軟らかい)	*	*	*	
7	覆土7		*	*	黒褐色 10Y2.1/1	*	*	*	*	*	



P-62											
断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)			礫(長径2mm以上)		その他の混在物		備考
				野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類	
1	覆土1	Vb	主体	埋填土	黒色 10Y1.1/1	強	堅	埋填軽石	1	*	H-10の覆土と同じ

U-47

図III-57 P-59・61・62

して調査した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。不整な隅丸方形の平面形である。覆土は自然堆積である。坑底面はほぼ平坦である。壁面は微妙にオーバーハングする。掘り込み面はVb層上位である。降下火山灰B-Tm降下時にはまだ凹みとして存在していたものである。遺物は覆土からIV群a類土器が4点散点的に出土している。P-65と類似する。覆土2層は崩落土の可能性はある。

**時期：**不明である。しかし、掘り込み位置が縄文時代の遺構より上位であり、周辺の出土遺物から続縄文時代以降の可能性はある。(大泰司)

P-67 (図Ⅲ-59・106、表3・9・15、図版36-2)

**位置・立地：**S・T-45・46区 標高42.80~43.00m付近の平坦面

**規模：**1.24×1.05/1.60×1.50/1.16m

**確認・調査：**VI層上面で黒色土Vb層主体の落ち込みを検出した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。不整な楕円の平面形である。覆土は埋め戻しであり、黒色土とグライ化したと思われるVIII層から成る。最上部については掘りあげ土が流入したものか、V層とVIII層が混じり合った土層が入り込んでいる。この土坑の掘りあげ土かどうかは明確ではない。坑底面はほぼ平坦だが中央が浅く凹む。壁面はオーバーハングする。掘り込み面はV層中位である。

遺物は覆土の中位に大型の礫が4点まとまっていた。覆土中からはIV群a類土器が散点的に出土した。付属遺構としては小土坑が検出された。平面形の長軸上、土坑の北東端に位置する。土坑の埋め戻し後に打ち込んだ杭を思わせる。

**時期：**出土遺物から縄文時代後期前葉のものである。(大泰司)

P-68 (図Ⅲ-60・105、表3・9・15、図版36-3)

**位置・立地：**R-46区 標高42.60~42.80m付近の平坦面

**規模：**0.56×0.46/0.46×0.42/0.16m

**確認・調査：**VI層上面で、H-15調査中、それより新しい灰黄褐色土の落ち込みを検出した。切り合う遺構を想定して調査した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、小型の土坑と判断した。不整な円形の平面形である。覆土にしまりはしないものの、V~VIII層が混じり合った土であり、埋め戻しと考える。坑底はほぼ平坦であるが、東側がやや高くなっている。掘り込み面は検出面より上である。土坑の中央から白色の粘土塊が出土した。IV群a類土器が覆土中から散点的に出土している。

**時期：**出土遺物から縄文時代後期前葉のものである。(大泰司)

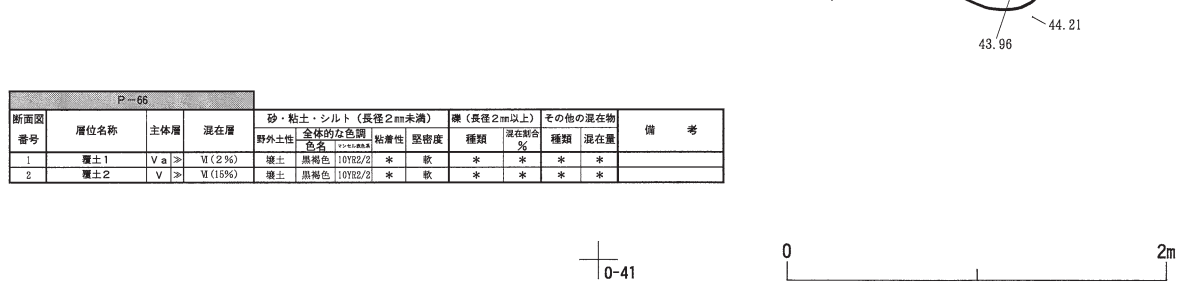
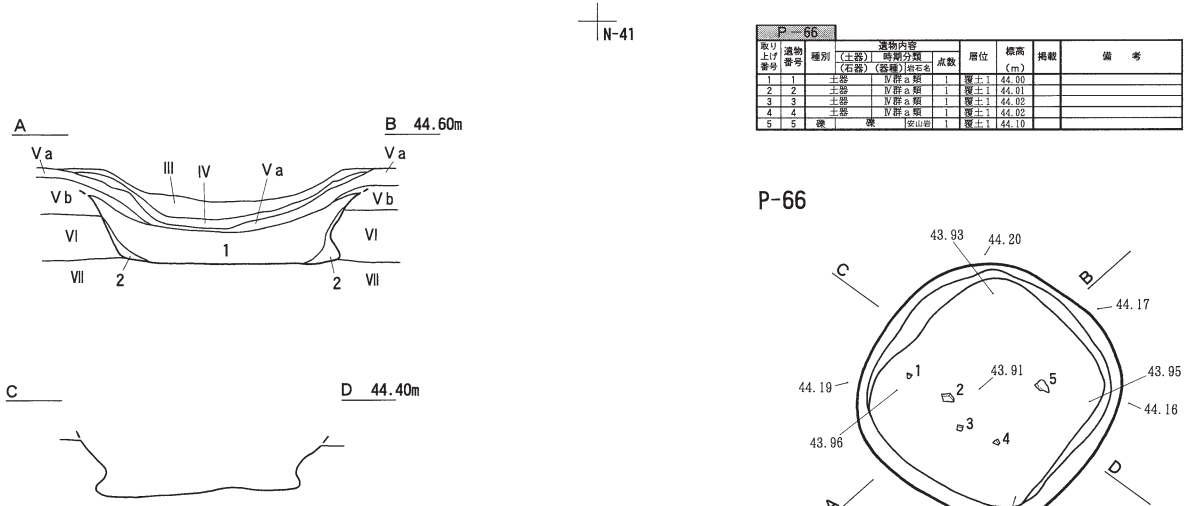
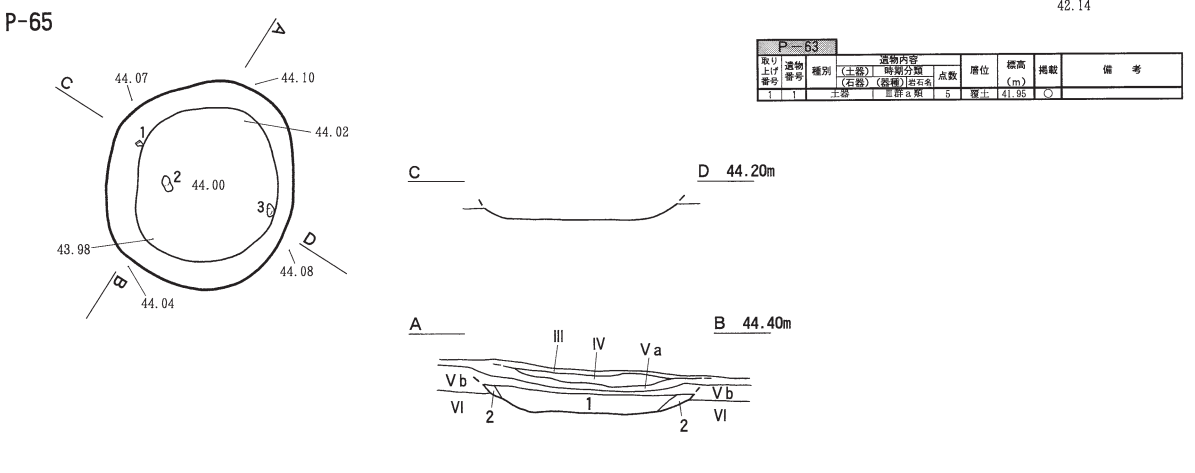
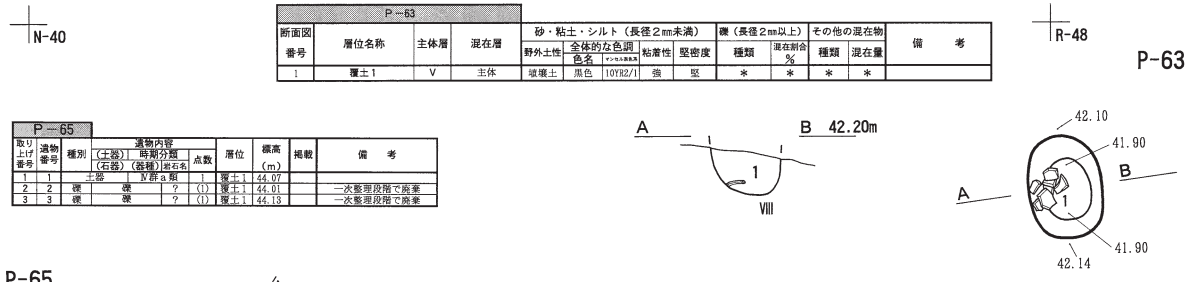
P-69 (図Ⅲ-60・134、表3・9・15、図版36-4)

**位置・立地：**P-41区 最終面における標高43.60m付近の平坦面

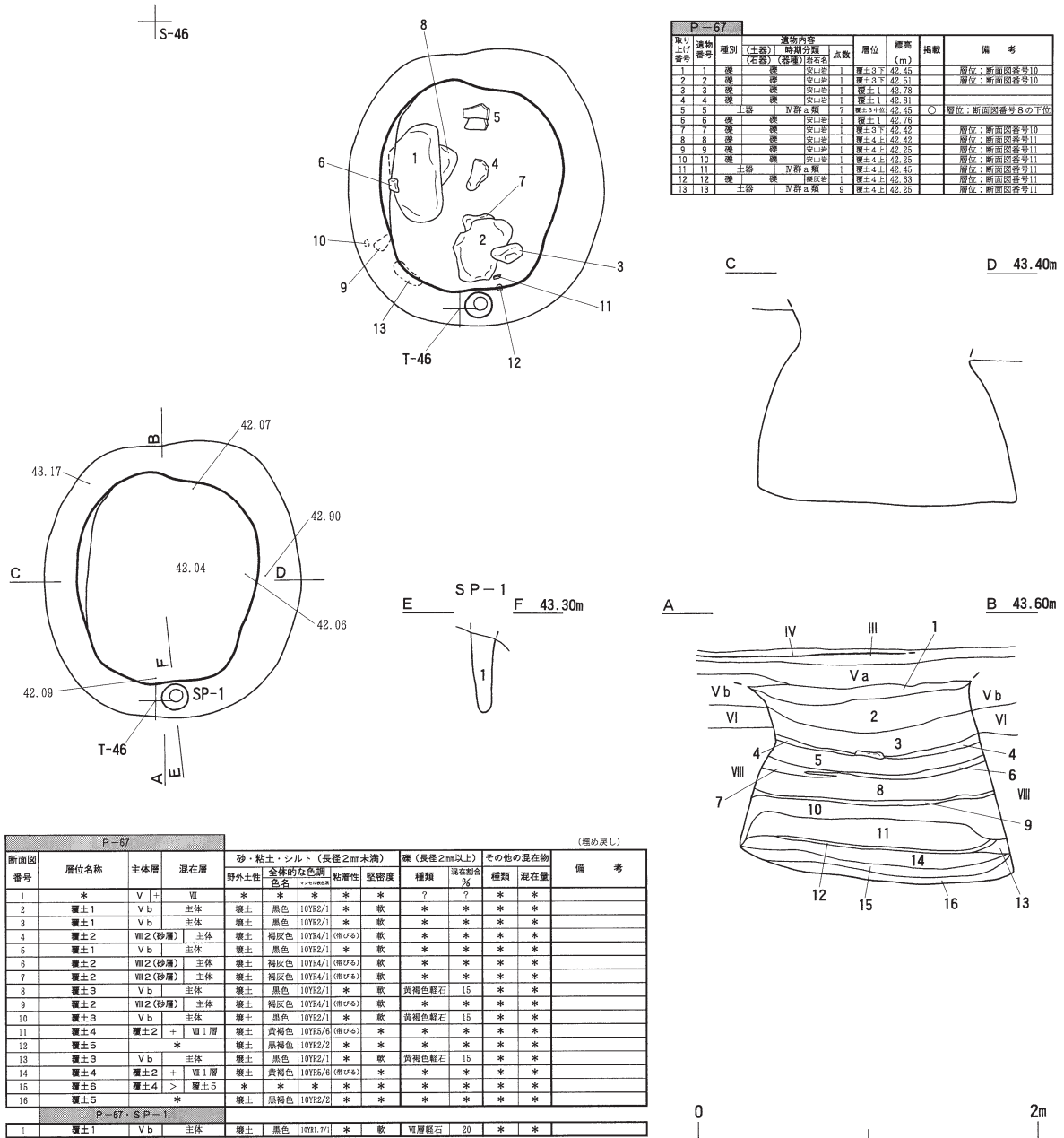
**規模：**1.67×1.15/1.44×0.98/0.16m

**確認：**II層の軽石層を除去後、III層上面の清掃作業中、明瞭な凹みが認められた。これの中央を通るようにベルトを設け、周囲の包含層調査を進行させた。V層下位付近まで掘り下げた時点で、このベルト沿いにトレンチを設け、その部分をVIII層上位まで掘り下げたところ、土層断面に壁の立ち上がり、平坦な面を確認したので、遺構と認定した。

**調査：**はじめにこのベルトの土層断面(AB)を記録した。規模から土坑であると予想され、平面でその輪郭を確認することとし、ベルト及び土坑が位置すると考えられる範囲を掘り下げた。VI~VII層



図III-58 P-63・65・66



図III-59 P-67

で、楕円形を呈する黒色土の堆積が認められ、平面形態が把握された。次に、この形状に合わせ長軸方向に半截し、土層断面(CD)を記録、残り半分を掘り完掘した。

**覆土：**二層に分けた。上位の覆土第1層はV層主体で厚い。覆土第2層は坑底面直上に薄く堆積する。

**形態：**平面は、概して楕円形を呈する。断面は、平坦な坑底面とゆるやかに立ち上がる両壁が認められる。

**遺物出土状況：**遺物は原則として、すべて出土位置や高さ、層位を記録して取り上げた。覆土第1・2層から、礫石器類や自然礫が出土した。遺物番号1は扁平打製石器、2は北海道式石冠の製作失敗品?に分類した。

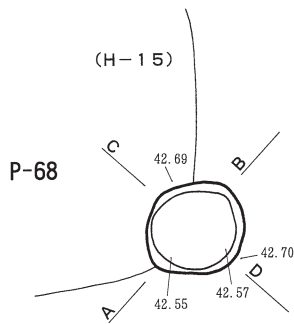
**時期：**出土遺物からは時期の特定はできないが、周囲の包含層の出土遺物から考えると、縄文時代中期～後期であると推測される。(末光)



R-46

R-47

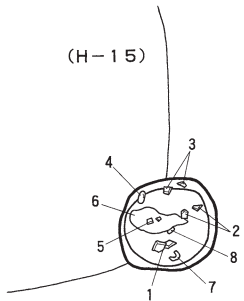
A B 42.90m



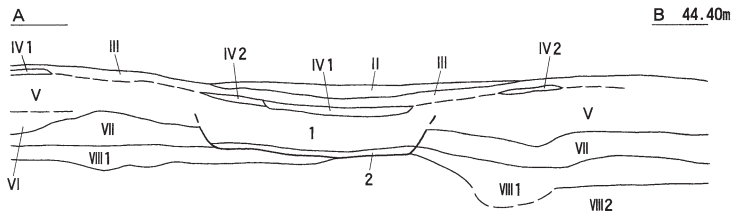
断面図		P-68		砂・粘土・シルト (長径2mm未満)				礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考
断面図番号	層位名称	主体層	混在層	野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類	混在量	
1	覆土1		(V~VIIが混じる)	壤土	灰褐色	10194/2	*	軟	炭褐色鱗石	15	*	*
2	粘土塊	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*

C D 42.90m

(H-15)



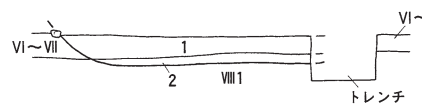
取上げ番号		遺物内容		層位	標高 (m)	採取	備考
種別	(土器) 時期分類 (右括弧) 破片名	点数	点数				
1	土器	IV群A類	7	覆土1	42.70		
2	土器	IV群B類	5	覆土1	42.71	○	
3	土器	IV群B類	12	覆土1	42.72		
4	礫	礫	安山岩	覆土1	42.72		
5	土器	IV群B類	2	覆土1	42.88		
6	土器	粘土塊		覆土1	42.71		遺物台座上は欠番
7	礫	礫	浮岩	覆土1	42.85		
8	礫	礫	輝石類	覆土1	42.80		



P-41

断面図		P-69		砂・粘土・シルト (長径2mm未満)				礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考
断面図番号	層位名称	主体層	混在層	野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類	混在量	
1	覆土第1層	V	主体	埴壤土	黒色	10121/1/1	中~強	堅	無	無	無	無
2	覆土第2層	VII+VIII1	> V	埴壤土	黒褐色	10123/2	中~強	堅	無	無	無	無

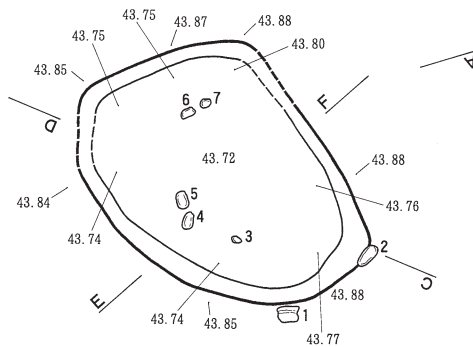
C D 44.10m



E F 44.10m



P-69



取上げ番号		遺物内容		層位	標高 (m)	採取	備考
種別	(土器) 時期分類 (右括弧) 破片名	点数	点数				
1	礫	輝石	安山岩	覆土第1層	43.81	○	
2	礫	輝石	輝石	覆土第1層	43.88		
3	礫	礫	安山岩	覆土第1層	43.78		
4	礫	礫	輝石	覆土第2層	43.78		
5	礫	礫	安山岩	覆土第2層	43.82		
6	礫	輝石	輝石	覆土第1層	43.80		
7	礫	礫	輝石	覆土第1層	43.81		

P-41



図III-60 P-68・69

P-70 (図Ⅲ-61、表3・9・15、図版36-5)

位置・立地：S-38・39区 最終面における標高43.20m付近の平坦面

規模：1.20×0.91/1.07×0.79/0.14m

確認・調査：包含層調査中、V層上面において、IV層とやや色調の異なる黒色土の堆積が認められた。ベルトを設定し、これに沿ってトレンチを設け、掘り進めたところ、明瞭な壁の立ち上がりで平坦な面を確認したので遺構と認定した。土層断面を記録した後、ベルトとその周囲を掘り下げ、VI層上面において平面を確認し、これを掘り下げて完掘した

覆土：二層に分けた。上位の覆土第1層はV層主体で厚い。覆土第2層は坑底面直上に薄く堆積する。

形態：平面はほぼ楕円形を呈する。断面は、平坦な坑底面に両壁がやや直立気味に立ち上がる形態を呈する。

遺物出土状況：遺物は原則として、すべて出土位置や高さ、層位を記録して取り上げた。覆土第1層から、IV群a類土器と自然礫が出土した。

時期：出土遺物から考えると、縄文時代後期前半と判断される。(末光)

P-71 (図Ⅲ-61・105・121・139、表3・9・15、図版36-6)

位置・立地：S-43・44区 標高43.20～43.40m付近の平坦面

規模：2.36×2.20/1.84×1.66/0.48m

確認・調査：VI層上面で黒色土Vb層主体の落ち込みを検出した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、小規模であったため、土坑と判断したが、竪穴住居としての可能性がある。五角形を思わせる不整な楕円形の平面形である。壁際には漸移層の流入である5層が堆積し、その後に覆土下位には6層が堆積した状況である。6層はVb層とVIII層が混在しており、よくしまる。埋め戻し、あるいは焼失した土葺きの小型家屋の可能性もあった。6層の上面には4層として示した焼土が土坑中央に、縁辺には炭化材が分布している。炭化材は碎片の集中であったが、木材の痕と考えられる。覆土上位は自然堆積と考える。底面には一箇所炭化物のまとまりがあり図示した。焼失に関連するものとする。壁面は坑底から一旦急な角度で10cm立ち上がり、そこからよく開く形状である。坑底面は平坦である。掘り込み面は検出面より上である。

遺物は覆土上位から榎林式(図Ⅲ-61-8・9・11・13・Ⅲ-105-1)がまとまって出土し、同一個体が覆土下位6層(図Ⅲ-61-19・22・24・28)からも出土している。覆土下位からは小型の土器が2個体(図Ⅲ-61-18・Ⅲ-105-2/図Ⅲ-61-16・Ⅲ-105-3)まとまって出土している。

付属遺構として3基の浅い土坑が土坑底面から検出された。いずれも遺構平面形長軸に沿って並ぶ。

時期：出土遺物から縄文時代中期中葉のものである。(大泰司)

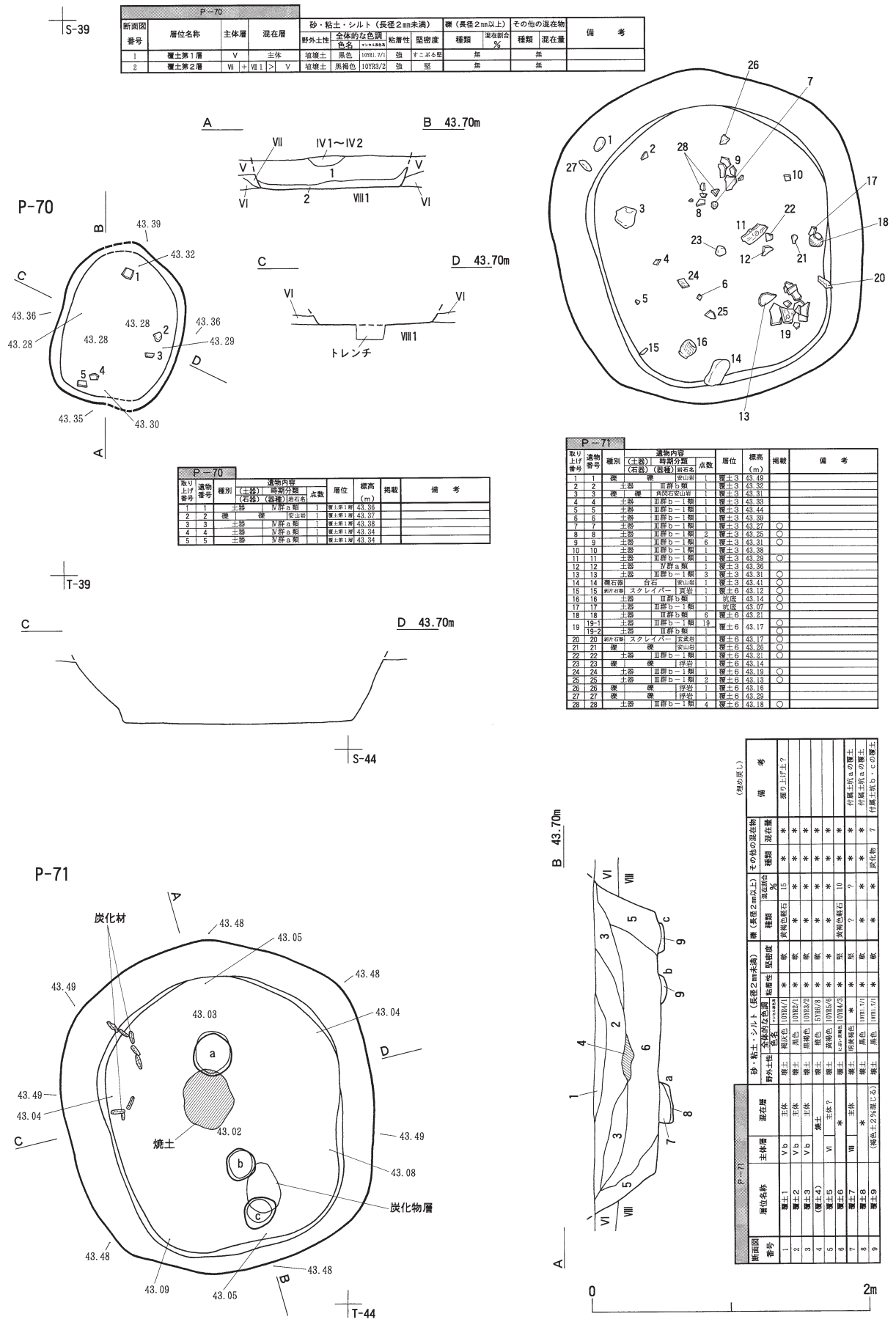
フローテーション成果：焼土の土層(覆土4層)をフローテーション法にて処理した。その結果、炭化種子を検出した。炭化種子はニワトコ属が6点出土した。(詳細はV章2)

P-72 (図Ⅲ-62・106、表3・9・15、図版37-1、カラー図版6-2)

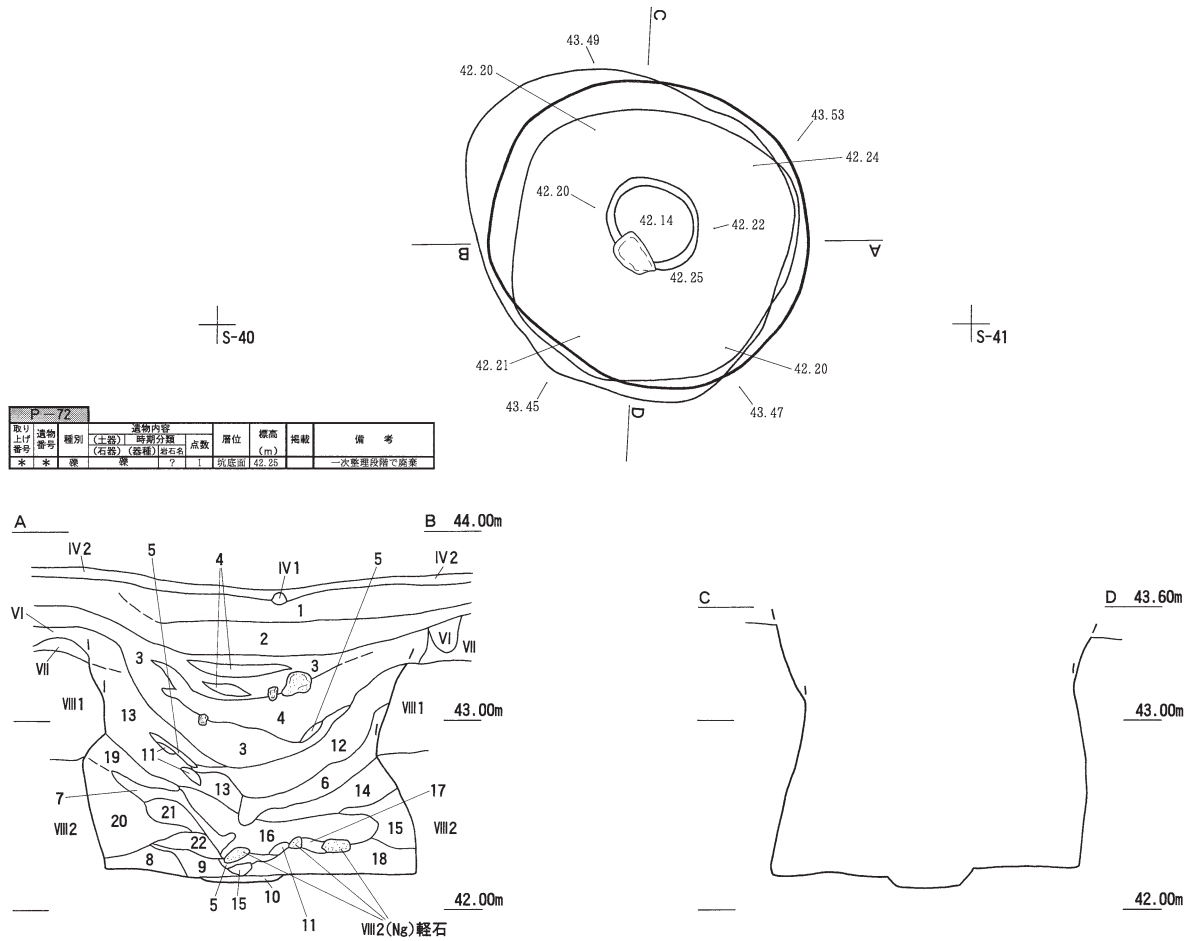
位置・立地：R・S-40区 最終面における標高43.40～43.20m付近の平坦面

規模：1.82×1.71/1.60×1.56/1.36m

確認・調査：包含層調査中、V層上面において、IV層が落ち込み、凹みを呈する状況が認められた。これの中央を通るようにベルトを設け、周囲の包含層調査を進行させたところ、掘り上げ土が顕著に堆積しているのがみられ(図Ⅲ-2 P～T-40～42区掘り上げ土)、大量の土の移動を伴う遺構の



図III-61 P-70・71



P-72							
取上げ 番号	遺物 種別	遺物内容 (土器) 時期分類 (石器) (石器) 検出数	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
本	表		9	I	坑底面 42.25		一次整理段階で調査

P-72										
断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)	礫 (長径2mm以上)	その他の混在物	備考			
				野外土性 全体的な土色 色名	粘着性 堅密度	種類 混在割合 %	種類 混在量			
1	覆土 第1A層	1Aa層 V	主体	堆積土 黒色 10YR1/1	中-強 軟-堅	径2.0kg軽石 20%	無	上位の黒色土主体の層		
2		1Ab層 V	主体	堆積土 黒色 10YR1/1	中-強 軟-堅	径2.0kg軽石 7%	無			
3		1Ba層 V	主体	堆積土 黒色 10YR1/1	中-強 軟-堅	径2.0kg軽石 5%	無			
4	覆土 第1B層	1Bb層 V > VI 1 + VI 2	主体	堆積土 黒褐色 10YR2/2	強 軟-堅	径2.0kg軽石 5%	無	下位の黒色土主体の層		
5		1Bc層 V	主体	堆積土 黒色 10YR1/1	中-強 堅	無	無			
6		1Bd層 V > VI a	主体	堆積土 黒色 10YR1/1	強 しょう	無	無			
7		1Be層 V + VI	主体	堆積土 黒褐色 10YR3/4	中-強 しょう	無	無			
8	覆土 第1C層	1Ca層 VI + VI	VI	堆積土 暗褐色 10YR3/4	中-強 軟-しょう	無	無	黒色土主体の覆土最下層		
9		1Cb層 VI > VI + VI	VI	砂壤土 赤褐色 10YR2/2	中-弱 軟-しょう	無	無			
10	覆土第1D層	1D層 VI > VI + VI	VI	砂壤土 黒褐色 10YR2/2	中-弱 軟-しょう	無	炭化物 中量	土塊状の落ち込みの覆土：黒色土主体の層		
11	覆土 第2A層	2Aa層 VI	主体	壤土 明褐色 7.5YR5/6	弱 しょう	無	無			
12		2Ab層 VII +	V	堆積土 黒褐色 10YR3/1	中 軟-しょう	径2.0kg軽石 10%	無			
13		2Ac層 VII +	V	堆積土 黒褐色 10YR3/1	中 軟-しょう	径2.0kg軽石 10~15%	無	黄~灰色土主体の層		
14		2Ad層 VII 1 > VI + V	V	砂壤土 褐色 10YR4/1	中-強 しょう	無	無			
15		2Ae層 VII 1 > VI + V	V	砂壤土 褐色 10YR4/1	中-強 しょう	無	無			
16	2Af層 VII + VI > VI 1	VI 1	主体	壤土 黒褐色 10YR3/1	中 しょう	無	無			
17	覆土 第2C層	2Ca層 VII b軽石	主体	砂土 灰褐色 10YR6/4	弱 軟-しょう	径2.0kg軽石他	無	黄~灰色土主体の覆土 最下層 (付近の層)		
18		2Cb層 VII > V	V	砂壤土 黒褐色 10YR3/2	弱 しょう	無	無			
19		2Ba層 VII +	VI a	砂壤土 褐色 7.5YR5/6	弱 しょう	無	無			
20	覆土 第2B層	2Bb層 VII 2	主体	黄~灰褐色 10YR6/6	弱-中 しょう	径2.0kg軽石他	無	黄~灰色土を主体とする層の崩落土		
21		2Bc層 VII 2	主体	堆積土 黄褐色 10YR5/6	中-強 しょう	無	無			
22		2Bd層 VII 1 + VI 2 + VI 1	主体	堆積土 黄褐色 10YR5/6	強 しょう	径2.0kg軽石他	無			

覆土大別 黒色土(V層)主体 : 覆土第1層 黄~灰色等(黒色土以外)主体 : 覆土第2層



図Ⅲ-62 P-72

存在が予想された。VI～VII層上面で、円形を呈する黒色土の堆積が認められた。設定したベルトの南西側半分を掘り下げてくと、深いものであることが判明し、さらに、平坦な坑底面と壁の立ち上がりが確認されたので遺構と認定した。深さは1.3mを超え、いわゆる「フラスコ状土坑」であると判断される。その後土層断面を記録し、北東側部分も掘り下げ完掘した。

覆土：覆土については、次のように分層した。はじめに、黒色土（V層等）により主体的に構成される層を「覆土第1層」とし、黄～灰色土主体（VIII層）のものを「覆土第2層」と大別した。次に覆土



第1層については、遺構内における垂直位置等により、「1A～D層」の四つに、覆土第2層に関しても、同様にして「2A～C層」の三つにそれぞれ分類した。さらにこれら七つの層を細分し、結果二十二層に分層した（Ⅵ章1節参照）。

**形態：**平面は円形を呈する。坑底面は平坦で、中央付近に浅い土坑状の落ち込みがみられる。壁の立ち上がりはほぼ直立であるが、オーバーハングする部分も認められる。

**遺物出土状況：**各層から遺物が出土し大別層位ごとに取り上げた。土器はⅢ群a類、Ⅲ群b-1類、Ⅳ群a類があり、石器類は、石鏃、スクレイパー、U・Rフレイク、石核、フレイク、自然礫等が出土した。また、坑底に位置する浅い土坑状の落ち込み付近では、大型の自然礫が出土した。

**時期：**出土遺物や、周囲の包含層の遺物から考えると、縄文時代中期～後期と考えられる。（末光）

P-73（図Ⅲ-63・106、表3・9・15、図版37-2）

**位置・立地：**S・T-41区 標高43.20～43.40m付近の平坦面

**規模：**1.54×1.56/1.24×1.14/1.06m

**確認・調査：**表土除去時にⅢ層上面で特に黒色味の強い部分を検出した。遺構の可能性があったため、土層観察用の土手を残して掘り下げた。すると上部に黒色土の落ち込みのある土坑と判明した。黒色土の落ち込みには降下火山灰B-Tmが流れ込んでいる。成因は不明であるが、木根跡の可能性はある。不整な隅丸方形の平面形である。覆土1層はVb層主体であり、流入したものと考えられる。覆土2～9層はV～Ⅷ層の土を人為的に埋め戻したものと考えられ、V層主体の覆土4・7・9層とV～Ⅷ層が混じった土である3・5・6・8層が交互に堆積している。覆土2・3層については酸化して橙色味を帯びていた。焼土と考える。この層位は土坑の覆土中位、平面形については南側に分布している。2層には炭化物が目立つ。3層については骨片が混在している様子が観察できた。それが顕著な場所については平面図に示した。この土については採取し、フローテーション法にて処理した。坑底面はほぼ平坦である。壁面は顕著にオーバーハングする。一旦すぼまっている部位の平面形も隅丸方形に近い。掘り込み面は上部の落ち込みによって不明だが、V層下位の可能性がある。覆土1層の下位からⅣ群a類土器がほぼ1個体（図Ⅲ-106-7）まとまって出土した。遺物は覆土1層から坑底部にかけて散点的に出土している。覆土1層上半部を覆土上位、覆土1層下半部を覆土中位、覆土2～9層を覆土下位として取り上げた。付属遺構はなかった。

**時期：**遺物出土状況と出土遺物から縄文時代後期前葉の可能性がある。（大泰司）

**フローテーション成果：**図中で示した炭化物と骨片混じりの土層（覆土2・3層）をフローテーション法にて処理した。その結果、焼骨片群、炭化種子を検出した。焼骨片は鳥類と魚類の骨が出土した。鳥類の骨は種類が不明である。魚類はニシンが多い。加えてアイナメが混じり、他は不明なものである。炭化種子はキハダ属の種子が85点と目立つ。他にマタタビ属、ニワトコ属、ブドウ科、ミズキ属、クルミ属を検出し、他に同定不能なものもあった。（詳細はⅤ章1・2）

P-74（図Ⅲ-64・108、表3・9・15、図版37-3）

**位置・立地：**S-44区 標高43.20～43.40m付近の平坦面

**規模：**0.74×0.72/0.62×0.52/0.22m

**確認・調査：**Ⅶ層上面で黒色土Vb層主体の落ち込みを検出した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。不整な円形の平面形である。覆土1層は自然堆積だが、2・3層についてはV～Ⅷ層が混じり合った土であり、埋め戻しの可能性がある。坑底面は平坦である。掘り

込み面は検出面より上である。遺物は覆土3層からIV群a類土器（図Ⅲ-64-1・2・Ⅲ-108-1）が散点的に出土しているのが目立つ。

時期：出土遺物から縄文時代後期前葉のものである。（大泰司）

P-75（図Ⅲ-63・108、表3・9・15 カラー図版7-2）

位置・立地：S-43区 標高43.20~43.40m付近の平坦面

規模：0.36×0.26/0.24×0.22/0.20m

確認・調査：Ⅶ層上面で黒褐色土の落ち込みからIV群a類土器の底部を検出した。倒立した埋甕の可能性を想定し、落ち込みを断ち割ったところ、小型の土坑に口縁の一部を打ち欠いた深鉢型土器（図Ⅲ-108-1）を倒立して埋めたものであることが明らかとなった。土器の底面は打ち欠かれている。木根跡を利用して掘り込みをつくりそこに埋めたものとする。土器内部の土については下部にⅧ層主体の土が入り、上部は掘りかたと同じ土が入る。掘り込み面は検出面より上位である。

時期：出土遺物から縄文時代後期前葉のものである。（大泰司）

P-76（図Ⅲ-64・107、表3・9・15、図版37-4）

位置・立地：S-44区 標高43.20~43.40m付近の平坦面

規模：0.50×0.46/0.44×0.34/0.36m

確認・調査：Ⅶ層上面で暗褐色土の落ち込みからIV群a類土器（図Ⅲ-64-4・Ⅲ-107-1/Ⅲ-64-2・4・Ⅲ-107-2/図Ⅲ-64-1・2・4・Ⅲ-107-3）を検出した。大型の土器破片が折り重なるように出土し、中型の礫が間に挟みこまれている。土器は天津式の沈線文を持つもの（Ⅲ-107-3）を含む。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑に土器を埋納したものと判断した。不整な卵形の平面形である。覆土はⅤ~Ⅷ層が混じり合った土であり、遺物の出土状況も踏まえて埋め戻しと考える。壁面は遺物がかたまって出土した側がオーバーハングしている。坑底は中央がよく凹む。掘り込み面は検出面より上である。

時期：出土遺物から縄文時代後期前葉のものである。（大泰司）

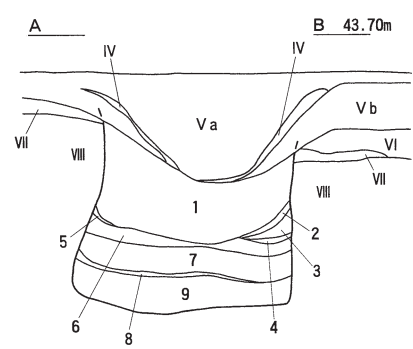
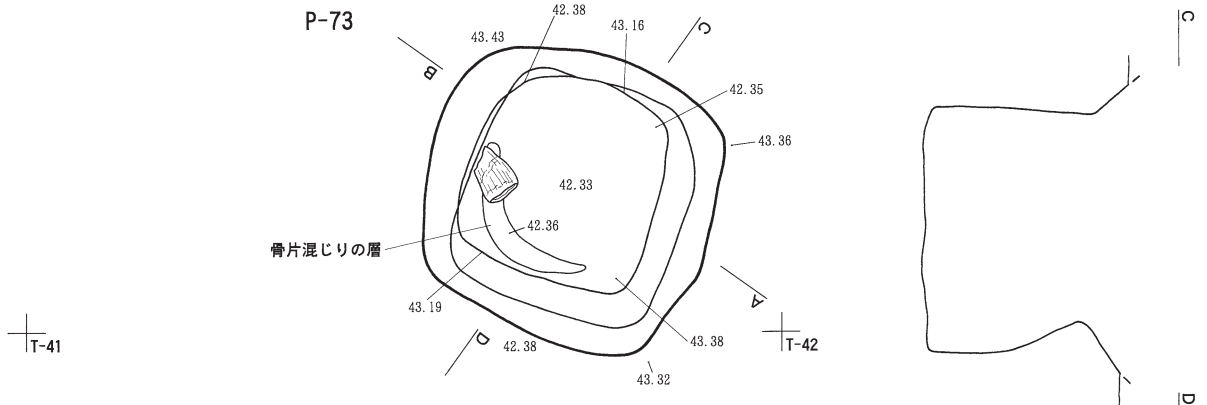
P-77（図Ⅲ-65・108・134・139、表3・9・15、図版37-5）

位置・立地：R・S-44・45区 標高43.20~43.40m付近の平坦面

規模：1.26×1.18/1.46×1.54/1.20m

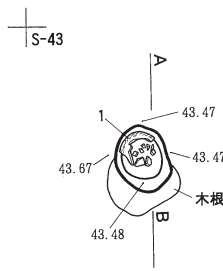
確認・調査：Ⅶ層上面で黒色土の落ち込みを検出した。抜根の痕跡と遺構と思われる明瞭な平面形が切り合っている状況であった。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑の一部を木の根が壊しているものと判断した。不整な円形の平面形である。覆土1層はⅤb層主体であり、自然の営為によって流入したものとする。覆土3・5層については、Ⅴ層主体の5層とⅧ層主体の3層が交互に堆積している。2・6・7層はⅤ~Ⅷ層が混じったものである。人為的に埋め戻したことを表しているとする。坑底面はほぼ平坦だが、中央が浅く凹む。壁面は顕著にオーバーハングする。一旦すぼまっている部位の平面形は方形に近い。掘り込み面は検出面より上である。遺物は覆土6層から坑底部にかけてのⅧ層主体の覆土に集中し、平面的な分布も北側半分に偏っている。IV群a類土器の破片と礫がほとんどであり、フレイクと台石、たたき石が少量混じる。覆土1・2・4層を覆土上位、覆土5層を覆土中位として遺物を取り上げた。付属遺構はなかった。

時期：出土遺物とその出土状況から縄文時代後期前葉の可能性がある。（大泰司）



P-73							
取り上げ番号	遺物種別	遺物内容 (土器) 時期分類 (石器) (器種) 出土名	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
* 28	土器	IV群a類	*	層上17B	42.37		個体土器

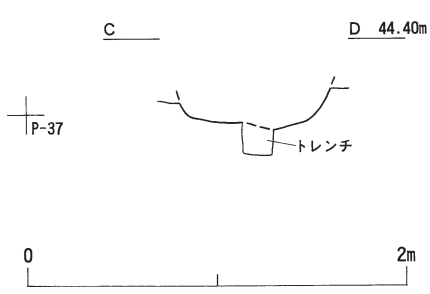
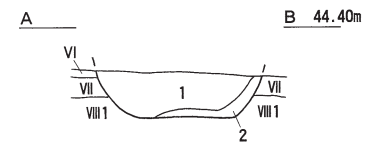
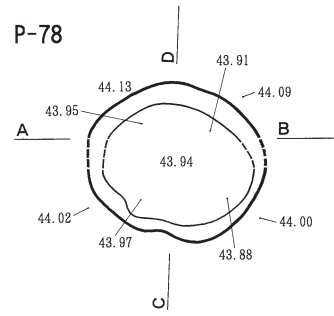
P-73 (埋め戻し)											
断面図番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)			礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考
				野外土性 色名	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類	
1	覆土1	Vb	主体	壤土	黒色 10YR2/1	*	軟	*	*	*	*
2	覆土2		焼土	壤土	灰色 10YR5/3	*	軟	*	*	炭化物 5	
3	覆土3	*		壤土	褐色 5YR7/8	*	軟	*	*	*	*
4	覆土4	Vb	主体	壤土	黒色 10YR2/1	*	軟	*	*	*	*
5	覆土5		焼土?	壤土	褐色 10YR4/6	*	軟	*	*	*	*
6	覆土6	VI	主体	壤土	黄褐色 10YR5/6	*	軟	?	?	*	*
7	覆土7	Vb	主体	壤土	黒色 10YR2/1	*	軟	*	*	*	*
8	覆土8	*		壤土	明黄褐色 10YR7/6	*	軟	*	*	*	*
9	覆土9	Vb	主体	壤土	黒色 10YR2/1	*	軟	*	*	*	*



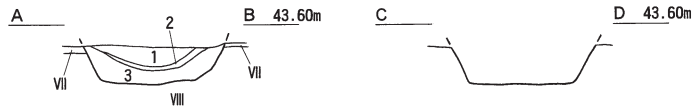
P-75							
取り上げ番号	遺物種別	遺物内容 (土器) 時期分類 (石器) (器種) 出土名	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
1	土器	IV群a類	27	覆土1	43.54 43.53	○	埋戻土器

P-75 (埋め戻し)											
断面図番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)			礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考
				野外土性 色名	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類	
1	覆土1	*		壤土	暗褐色 10YR3/2	*	軟	*	*	*	
2	覆土2	*		壤土	暗褐色 10YR3/2	*	軟	*	*	黄褐色磁石 10	*
3	覆土3	(埋戻し)		壤土	暗褐色 10YR3/2	*	軟	?	?	*	*
4	覆土4	VI	主体	壤土	黄褐色 10YR5/6	*	軟	*	*	*	*

P-78											
断面図番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)			礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考
				野外土性 色名	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類	
1	覆土第1層	V	主体	埋戻土	黒色 10YR1/1	強	軟	無	無	無	
2	覆土第2層	V+	III 2	埋戻土	黒褐色 10YR3/1 10YR2/2	中~強	硬~中 ふるむ	無	無	無	



図III-63 P-73・75・78

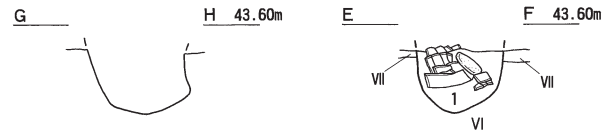
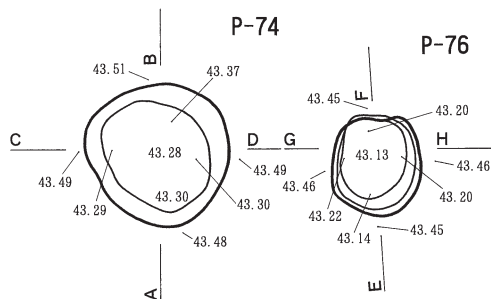
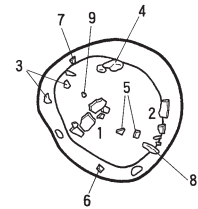


P-74				(埋め戻し)						
断面図番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)		礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考
				野外土性	全体貯留色調	粘着性	堅密度	種類	混在割合	
1	覆土1	Vb	主体	壤土	黒褐色 10YR2/3	*	堅	*	*	*
2	覆土2	VII > V		壤土	黄褐色 10YR5/8	*	軟	黄褐色軽石	2	*
3	覆土3	V	主体	壤土	黒褐色 10YR2/2	*	軟	黄褐色軽石	1	*

P-74									
取り上げ番号	遺物種別	遺物内容		点数	層位	標高 (m)	掲載	備考	
		(土器)	(石器)					種類	混在量
1	土器	IV群a類		6	覆土3	43.39	○		
2	土器	IV群a類		4	覆土3	43.48			
3	新石器	フレイク	めのろ	2	覆土3	43.39			
4	礫		灰山石	1	覆土3	43.42			
5	土器	IV群a類		2	覆土3	43.34			
6	土器	IV群a類		1	覆土3	43.48			
7	土器	III群b類		1	覆土3	43.39			
8	礫		灰山石	1	覆土3	43.39			
9	土器	IV群a類		2	覆土3	*			

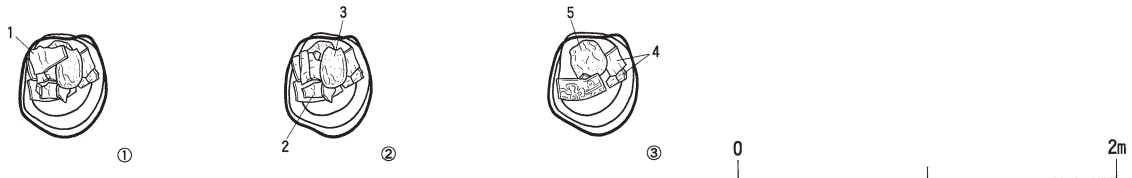
S-44

S-45



P-76									
取り上げ番号	遺物種別	遺物内容		点数	層位	標高 (m)	掲載	備考	
		(土器)	(石器)					種類	混在量
1	土器	IV群a類		9	覆土1	43.48			
2	土器	IV群a類		19	覆土1	43.37	○		
3	礫		灰山石	1	覆土1	43.34			
4	土器	IV群a類		17	覆土1	43.32			
5	礫		灰山石	1	覆土1	43.46			

P-76										
断面図番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)		礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考
				野外土性	全体貯留色調	粘着性	堅密度	種類	混在割合	
1	覆土1		(埋め戻し)	壤土	黒褐色 10YR2/3	*	軟	?	?	*



図III-64 P-74・76

P-78 (図III-63、表3・15、図版37-6)

位置・立地：O・P-36区 最終面における標高44.00m付近の緩斜面

規模：0.97×0.80/0.79×0.64/0.24m

確認・調査：包含層調査中、VI～VII層で楕円形を呈する黒色土の堆積が認められた。トレンチを設けて掘り下げ、土層断面を観察したところ、壁の立ち上がりと坑底と考えられる明瞭な層界が確認されたので、遺構と認定した。土層断面を記録後、残りの覆土を掘り下げて完掘した。

覆土：覆土第1層はV層主体で、覆土第2層はV層にVIII層が混じる土である。

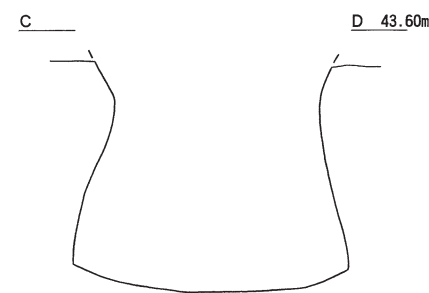
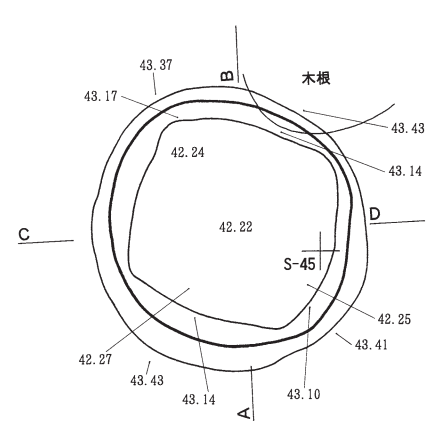
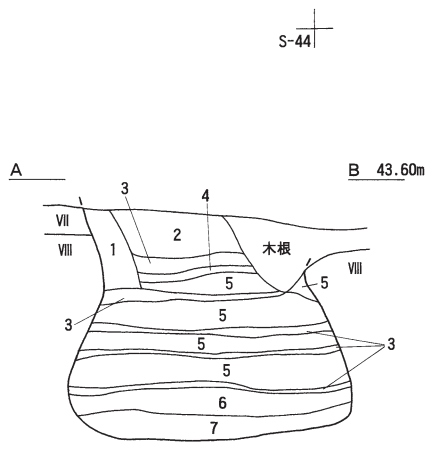
形態：平面は楕円形を呈する。断面は、坑底面は南西側部分が若干低く、両壁は曲線的に立ち上がる形態を呈する。

遺物出土状況：遺物の出土は無かった。

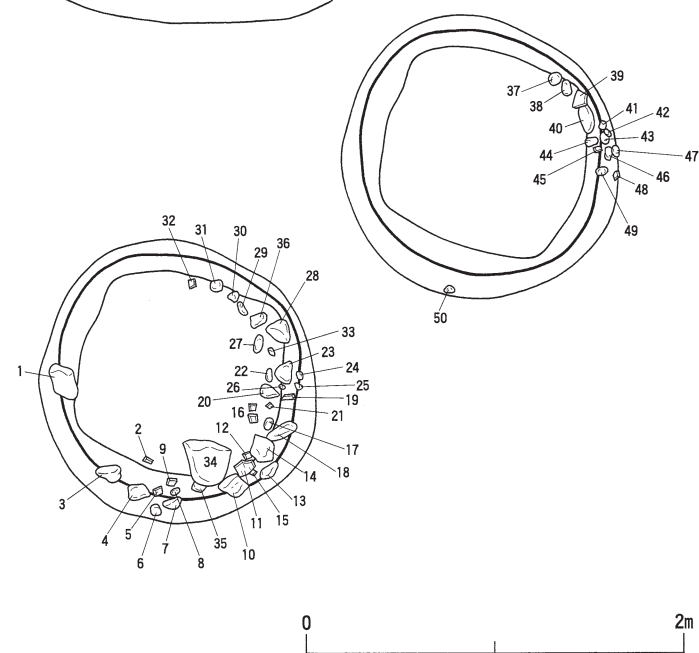
時期：周囲の包含層出土の遺物から、縄文時代中期～後期と推測される。

(末光)

断面図		P-77		(埋め戻し)									
番号	層位名称	主体層	混在層	野外性	全体的な色質 色名	粘着性	堅密度	種類	存在割合 %	種類	混在量	備考	
1	覆土1	V b	主体	壤土	黒色 10YR2/1	*	軟	*	*	*	*		
2	覆土2	V +	VI	壤土	褐色 10YR4/6	*	軟	?	?	*	*		
3	覆土3	(VIIの流入土)		壤土	明黄褐色 10YR7/6	*	軟	?	?	*	*		
4	覆土4	V	主体	壤土	黒色 10YR1/1	*	軟	*	*	*	*		
5	覆土5	V	主体	壤土	黒褐色 10YR3/2	*	軟	*	*	*	*		
6	覆土6	(VIIの流入土)		壤土	黄褐色 10YR5/8	*	軟	?	?	*	*		
7	覆土7	V >+ V +	VI	壤土	黒色 10YR2/1	*	軟	?	?	*	*		



P-77		遺構名称		層位		標高		視範		備考	
取り上げ 番号	遺物 番号	種別 (土器)	形状分類 (石器)	層位	高さ	標高 (m)	視範	備考			
1	1	土器	土器	覆土6	1	42.39	○				
2	2	土器	土器	覆土6	1	42.38	○				
3	3	土器	土器	覆土6	1	42.48	○				
4	4	土器	土器	覆土6	1	42.45	○				
5	5	土器	土器	覆土6	1	42.42	○				
6	6	土器	土器	覆土6	1	42.42	○				
7	7	土器	土器	覆土6	1	42.42	○				
8	8	土器	土器	覆土6	1	42.42	○				
9	9	土器	土器	覆土6	1	42.42	○				
10	10	土器	土器	覆土6	1	42.44	○				
11	11	土器	土器	覆土6	1	42.44	○				
12	12	土器	土器	覆土6	1	42.44	○				
13	13	土器	土器	覆土6	1	42.44	○				
14	14	土器	土器	覆土6	1	42.50	○				
15	15	土器	土器	覆土6	2	42.47	○				
16	16	土器	土器	覆土6	2	42.51	○				
17	17	土器	土器	覆土6	1	42.51	○				
18	18	土器	土器	覆土6	1	42.51	○				
19	19	土器	土器	覆土6	1	42.43	○				
20	20	土器	土器	覆土6	1	42.43	○				
21	21	土器	土器	覆土6	1	42.43	○				
22	22	土器	土器	覆土6	1	42.43	○				
23	23	土器	土器	覆土6	1	42.43	○				
24	24	土器	土器	覆土6	1	42.44	○				
25	25	土器	土器	覆土6	1	42.44	○				
26	26	土器	土器	覆土6	1	42.51	○				
27	27	土器	土器	覆土6	1	42.51	○				
28	28	土器	土器	覆土6	1	42.51	○	遺物台帳に記載無し			
29	29	土器	土器	覆土6	1	42.45	○				
30	30	土器	土器	覆土6	1	42.45	○				
31	31	土器	土器	覆土6	1	42.45	○				
32	32	土器	土器	覆土6	1	42.56	○				
33	33	土器	土器	覆土6	1	42.51	○				
34	34	土器	土器	覆土6	1	42.49	○				
35	35	土器	土器	覆土6	1	42.42	○				
36	36	土器	土器	覆土6	1	42.45	○				
37	37	土器	土器	覆土7	1	42.34	○				
38	38	土器	土器	覆土7	1	42.42	○				
39	39	土器	土器	覆土7	1	42.38	○				
40	40	土器	土器	覆土7	1	42.36	○				
41	41	土器	土器	覆土7	1	42.36	○				
42	42	土器	土器	覆土7	1	42.36	○				
43	43	土器	土器	覆土7	1	42.36	○				
44	44	土器	土器	覆土7	1	42.39	○				
45	45	土器	土器	覆土7	1	42.39	○				
46	46	土器	土器	覆土7	1	42.36	○				
47	47	土器	土器	覆土7	1	42.38	○				
48	48	土器	土器	覆土7	1	42.36	○				
49	49	土器	土器	覆土7	1	42.36	○				
50	50	土器	土器	覆土7	1	42.36	○				



図III-65 P-77

P-79 (図III-66・109・121・134・139、表3・9・15、図版38-1)

位置・立地：R-45区 標高43.00~43.40m付近の緩斜面

規模：1.06×1.06/1.46×1.44/1.12m

確認・調査：VII層上面で黒褐色土の落ち込みを検出した。遺構の可能性があったため、土層観察用の土手を残して掘り下げた。覆土を除去した時点で土坑と判断した。不整な隅丸方形の平面形である。覆土1・3層はVb層主体であり、VIII層が微量に混じる。覆土2層はVIII層が主体であり、V層が微量に混じる。2層以下については埋め戻しの可能性がある。坑底面はほぼ平坦である。壁面は顕著にオー



オーバーハングする。一旦すぼまっている部位の平面形も隅丸方形に近い。掘り込み面は検出面より上である。遺物の出土は、覆土1層の下位から覆土2層にかけて集中している。礫とIV群a類土器が主であり、台石、たたき石、つまみ付きナイフが1点ずつ出土している。付属遺構はなかった。遺構半截時に、遺物取り上げは、覆土1層上半部を覆土上位、覆土1層下半部を覆土中位、覆土2・3層を覆土下位とした。

**時期：**出土遺物とその出土状況から縄文時代後期前葉の可能性はある。(大泰司)

**P-80** (図Ⅲ-67・110・121・141、表3・9・15、図版38-2)

**位置・立地：**T-41区 標高43.00~43.20m付近の緩斜面

**規模：**2.10×1.76/1.96×1.38/0.38m

**確認・調査：**VII層上面で黒褐色土の落ち込みを検出した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。不整な楕円の平面形である。覆土1・3層はVb層主体であり、流入と考える。V~VIII層の混じった土である覆土2層が薄く1・3層の間に流れ込んでいる。自然の埋没と考える。坑底面はほぼ平坦で、2ヶ所の浅い皿状の凹みがある。掘り込み面は検出面より上である。遺物は覆土3層上面からまとまった出土した。主にIV群a類土器の破片が主で、三脚形石器(図Ⅲ-67-14・Ⅲ-141-6)も1点出土した。また坑底面に近い3層下位においてもある程度まとまった遺物の出土状況があった。そこで「3層下位」で別に取り上げた。

付属遺構としては皿状の凹みを挙げるができるが、坑底面を構築した際に同時に掘り込まれたものとする。また坑底面とほぼ同じ高さで焼土の塊が薄く入り込むが、その場で焚かれたものとは考え難い状況であった。

**時期：**包含層の遺物出土状況と出土遺物から縄文時代後期前葉の可能性はある。(大泰司)

**フローテーション成果：**坑底面付近に塊として入り込んでいた焼土をフローテーション法にて処理した。その結果、焼骨片を検出した。焼骨片はニシンの骨である。(詳細はV章1)

**P-81** (図Ⅲ-68・109・121、表3・9・15、図版38-3)

**位置・立地：**R-43・44区 標高43.20~43.60m付近の平坦面

**規模：**1.90×1.62/1.78×1.66/1.08m

**確認・調査：**VII層上面で黒褐色土の落ち込みを検出した。遺構の可能性があったため、土層観察用の土手を残して掘り下げた。覆土を除去した時点で土坑と判断した。不整な楕円形の平面形である。覆土1・2層はVb層主体であり流入の可能性はある。覆土3~8層は、V~VIII層の土が混じり合ったものである。覆土3層以下については埋め戻しの可能性はある。覆土中位について骨片および焼土粒が混じっている様子が観察できた。そのうち8層と11層の2面について特に密であった。そこで土を採取し、フローテーション法にて処理した。坑底面はほぼ平坦である。壁面は顕著にオーバーハングする。一旦すぼまっている部位の平面形も楕円形に近い。掘り込み面は検出面より上であるが、VII層直上の可能性が堆積状況から観察できる。遺物取り上げには、覆土1~5層を覆土上位、覆土6~13層を覆土中位、覆土14~16を覆土下位とした。焼土中として取り上げたものは覆土8層である。遺物の出土は、覆土上位から下位にかけて散点的である。礫とIV群a類土器が主である。付属遺構はなかった。図中、5として取り上げたものは礫であり、一次整理段階で廃棄した。

**時期：**出土遺物とその出土状況から縄文時代後期前葉の可能性はある。切り合い関係を土層断面で確認したところ、P-84より新しいものと判断した。(大泰司)

**フローテーション成果：**骨片混じりの覆土8・11層を主とした覆土中位の土層をフローテーション法にて処理した。その結果、焼骨片群、炭化種子を検出した。焼骨片は獣骨と魚類の骨が出土した。獣類はシカとイノシシである。イノシシは未萌出臼歯のある下顎がまとまって出土した。しかし、もろいため形状を保ったままの取り上げは不可能であった。魚類はニシンが多い。加えてカレイ・アイナメが混じり、多くは不明なものである。炭化種子はキハダ属の果実片と種子が45点と目立つ。他にニワトコ属、ブドウ科、ウルシ属、ミズキ属を検出し、他に同定不能なものもあった。(詳細はV章1・2)

P-82 (図III-66、表3・9・15、図版38-4)

**位置・立地：**R・S-44区 標高43.20~43.40m付近の緩斜面

**規模：**1.26×1.08/0.99×0.94/0.20m

**確認・調査：**VII層上面で黒褐色土の落ち込みを検出した。遺構の可能性があったため、土層観察用の土手を残して掘り下げた。覆土を除去した時点で土坑と判断した。不整な楕円形の平面形である。覆土1層はVb層主体であり自然堆積の可能性はある。坑底面はほぼ平坦である。掘り込み面は検出面より上である。遺物は、覆土中位からIV群a類土器とフレイクが出土している。付属遺構はなかった。

**時期：**出土遺物とその出土状況から縄文時代後期前葉の可能性がある。(大泰司)

P-83 (図III-67・111、表3・9・15、図版38-5)

**位置・立地：**Q-41・42区 最終面における標高43.60m付近の平坦面

**規模：**(1.74)×(1.42)/(1.02)×(0.81)/0.27m

**確認・調査：**包含層調査終了後、VIII層上面で黒色土の堆積が認められた。H-19の調査のため42ライン沿いに設けてあったトレンチ(Q~R間)の土層断面(図III-29 H-19(1)AB)を観察したところ、壁の立ち上がりと坑底と考えられる画然とした層界が認められたので、遺構と認定した。これを記録した後、長軸方向の土層断面を観察するため、別のトレンチを設け掘り進めたが、VIII層主体の覆土であったため、このトレンチの設定位置を誤り、北東~東側部分については、壁を検出せず掘り下げる結果となった。その後、短軸方向の土層断面を記録し、残りを掘り下げて完掘した。

**覆土：**四つに分層した。覆土第1・3層はV層主体であり、覆土第2・4層はVIII層主体である。覆土第3層にはVIII層(Ng)軽石が、覆土第2層には細粒のVII層(Ko-g)軽石がそれぞれ混在する。

**形態：**平面は概して楕円形を呈すると考えられる。断面は、曲線的に中央付近が凹む坑底面に、両壁曲線的に立ち上がる形態である。

**遺物出土状況：**遺物は覆土第1・2層から出土した。原則として覆土第2層出土のものについて、出土位置を記録した。III群b-1類土器や、U・Rフレイク、石錘(扁平打製石器に再分類)等が出土した。

**時期：**出土遺物から考えると、縄文時代中期後半と判断される。(末光)

P-84 (図III-69・111、表3・9・15、図版38-6)

**位置・立地：**R・S-43・44区 標高43.20~43.40m付近の緩斜面

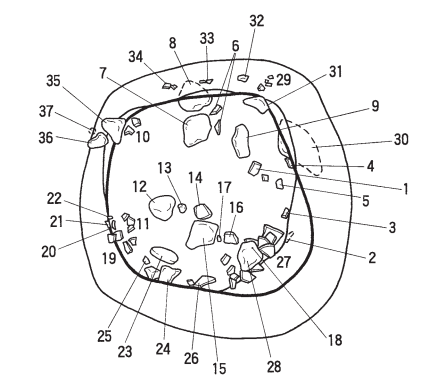
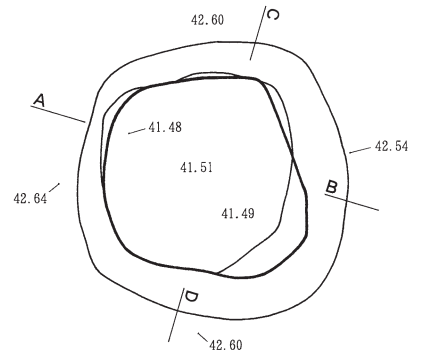
**規模：**1.26×1.26/1.48×1.38/0.86m

**確認・調査：**P-81の北東側に木の根が入り込んでいた。遺構確認も兼ねて包含層を全体に5cm下げたところ、VIII層上面で黒褐色土の落ち込みにさらに黄褐色土が入り込んでいる状況を確認した。遺構の可能性があったため、土層観察用の土手を残して掘り下げた。覆土を除去した時点で土坑と判断した。

R-45

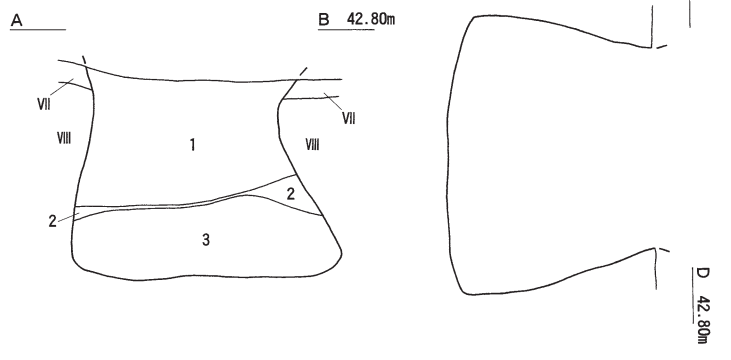
R-46

P-79

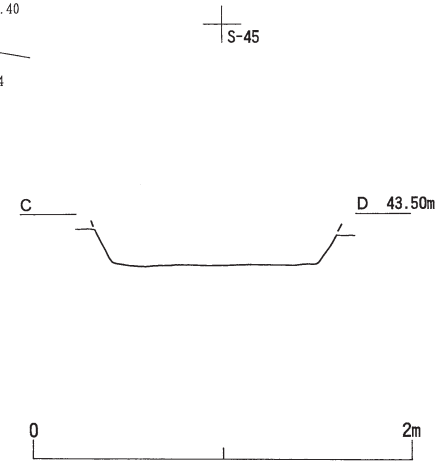
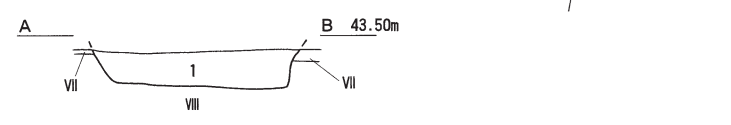
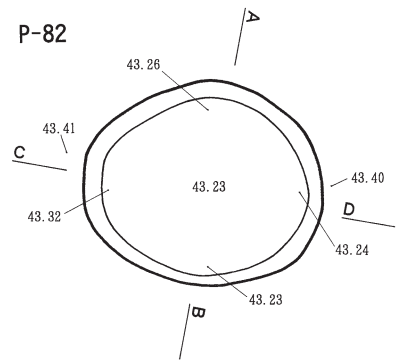


P-79				(埋め戻し)							
断面図番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)			礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考
				野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類	
1	覆土1	Vb	主体	壤土	黒褐色   10YR3/1	*	軟	軽石	5	*	*
2	覆土2		(Wの流入土)	壤土	明灰褐色   10YR7/6	*	軟	*	*	*	*
2	覆土3	Vb	主体	壤土	黒褐色   10YR3/1	*	軟	軽石	5	*	*

P-79									
取上げ番号	選物	種別 (土器)	陶器分類 (器種) 器名	点数	層位	標高 (m)	相対	備考	
1	1	土器	V群a類	1	覆土1	42.50	○		
2	2	礫	安山岩	1	覆土1	42.93			
3	3	土器	V群a類	1	覆土1	42.93	○		
4	4	土器	V群a類	5	覆土1	42.52	○		
5	5	群石	つしまみ付ナイフ	1	覆土1	*	○		
6	6	土器	V群a類	2	覆土1	*	○		
7	7	礫	安山岩	1	覆土1	42.48			
8	8	礫	安山岩	1	覆土1	42.48			
9	9	礫	浮岩	2	覆土1	42.48			
10	10	土器	V群a類	5	覆土1	42.54	○		
11	11	土器	V群a類	5	覆土1	42.50	○		
12	12	礫	浮岩	1	覆土1	42.27			
13	13	礫	安山岩	1	覆土1	*			
14	14	土器	V群a類	1	覆土1	42.27	○		
15	15	硬石	有石	1	覆土1	42.54	○		
16	16	土器	V群a類	3	覆土1	42.51	○		
17	17	礫	安山岩	1	覆土1	42.51			
18	18	土器	V群a類	3	覆土1	42.26	○		
19	19	土器	V群a類	14	覆土2	42.43	○		
20	20	礫	安山岩	1	覆土3	*			
21	21	土器	V群a類	1	覆土1	42.43	○		
22	22	硬石	フリイタ	1	覆土3	*			
23	23	硬石	たたま石	1	覆土3	41.84			
24	24	礫	安山岩	4	覆土2	41.92			
25	25	土器	V群a類	3	覆土2	*			
26	26	土器	V群a類	3	覆土3	42.05	○		
27	27	土器	V群a類	23	覆土2	42.35	○		
28	28	礫	安山岩	3	覆土2	42.35			
29	29	土器	V群a類	1	覆土2	41.60	○		
30	30	礫	安山岩	1	覆土2	41.88			
31	31	礫	安山岩	1	覆土2	41.80			
32	32	礫	安山岩	1	覆土3	*			
33	33	群石	フリイタ	1	覆土3	41.45			
34	34	土器	V群a類	2	覆土2	*			
35	35	礫	安山岩	1	覆土3	41.78			
36	36	礫	浮岩	1	覆土3	*			
37	37	土器	V群a類	2	覆土3	*			

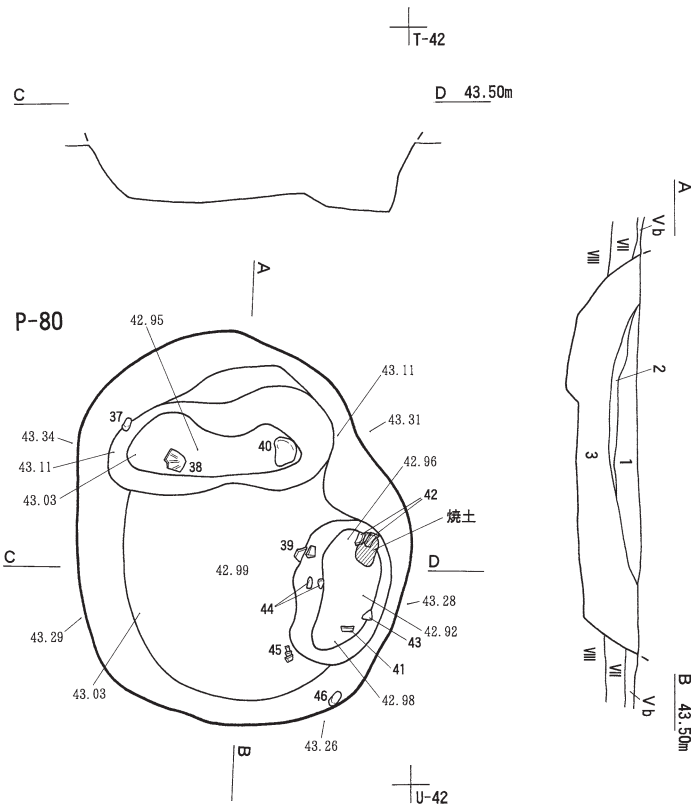


P-82

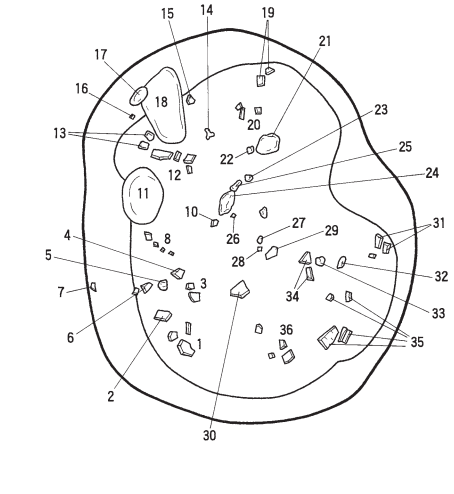


P-82				(埋め戻し)							
断面図番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)			礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考
				野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類	
1	覆土1	*		壤土	黒褐色   10YR3/2	*	軟	軽石	15	*	*

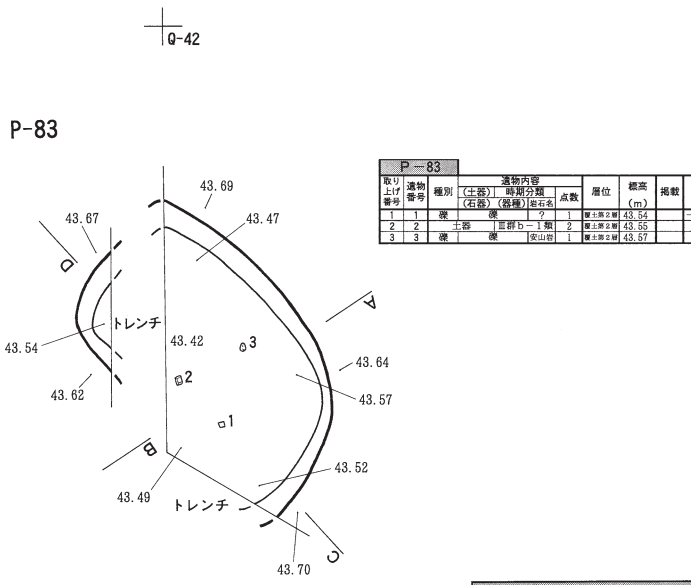
図III-66 P-79・82



断面図		P-80		土質				土質		土質		土質		土質		土質		土質	
番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)	粘土	粘質土	粘質土	粘質土	粘質土	粘質土	粘質土	粘質土	粘質土	粘質土	粘質土	粘質土	粘質土	粘質土	粘質土
1	覆土1		(V 2%混じる)	黒褐色	10YR2/3	*	軟	?	?	*	*								
2	覆土2		(V 25%混じる)	黒土	10YR4/6	*	軟	?	?	*	*								
3	覆土3		(V 1%混じる)	黒土	10YR2/2	*	軟	?	?	*	*								



断面図		P-80		土質				土質		土質		土質		土質		土質		土質	
番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)	粘土	粘質土	粘質土	粘質土	粘質土	粘質土	粘質土	粘質土	粘質土	粘質土	粘質土	粘質土	粘質土	粘質土	粘質土
1	覆土1		(V 2%混じる)	黒褐色	10YR2/3	*	軟	?	?	*	*								
2	覆土2		(V 25%混じる)	黒土	10YR4/6	*	軟	?	?	*	*								
3	覆土3		(V 1%混じる)	黒土	10YR2/2	*	軟	?	?	*	*								



断面図		P-83		土質				土質		土質		土質		土質		土質		土質	
番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)	粘土	粘質土	粘質土	粘質土	粘質土	粘質土	粘質土	粘質土	粘質土	粘質土	粘質土	粘質土	粘質土	粘質土	粘質土
1	覆土第1層	V	>	黒褐色	10YR2/3	中	軟	~	少	炭化物	少量								
2	覆土第2層	VII1	>	黒褐色	10YR2/2	中	軟	~	無	炭化物	微量								
3	覆土第3層	V	>	黒色	10Y1/1	強	軟	~	無	炭化物	微量								
4	覆土第4層	VII1	>	黒褐色	10YR3/2	中	軟	~	無	炭化物	微量								

断面図		P-83		土質				土質		土質		土質		土質		土質		土質	
番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)	粘土	粘質土	粘質土	粘質土	粘質土	粘質土	粘質土	粘質土	粘質土	粘質土	粘質土	粘質土	粘質土	粘質土	粘質土
1	覆土第1層	V	>	黒褐色	10YR2/3	中	軟	~	少	炭化物	少量								
2	覆土第2層	VII1	>	黒褐色	10YR2/2	中	軟	~	無	炭化物	微量								
3	覆土第3層	V	>	黒色	10Y1/1	強	軟	~	無	炭化物	微量								
4	覆土第4層	VII1	>	黒褐色	10YR3/2	中	軟	~	無	炭化物	微量								

図III-67 P-80・83

不整な隅丸方形の平面形である。覆土1～15層まで、V～VIII層土が混ざり合った土がそれぞれほぼ水平に堆積している。埋め戻しの可能性がある。坑底面は中央で凹む。壁面は顕著にオーバーハングする。掘り込み面は検出面より上である。遺物は、覆土1～3層を覆土上位、覆土4～9層を覆土中位としてとりあげた。遺物の出土は、覆土上位から中位にかけてである。IV群a類土器と礫の出土がある。付属遺構はなかった。

時期：出土遺物とその出土状況から縄文時代後期前葉の可能性はある。(大泰司)

P-85 (図III-70・111・135、表3・9・15、図版39-1)

位置・立地：S-45区 標高42.80～43.20m付近の緩斜面

規模：1.56×1.68/1.84×1.96/1.14m

確認・調査：VII層上面で黒褐土の落ち込みを検出した。配石S-2の調査中に、その配石下から検出した。遺構の可能性があったため、土層観察用の土手を残して掘り下げた。覆土を除去した時点で土坑と判断した。不整な円形の平面形である。覆土1層はVb層主体であり流入の可能性はある。覆土2～8層は、いずれもV～VIII層が混ざり合ったものである。覆土2層以下については埋め戻しの可能性がある。坑底面はほぼ平坦であるが、中央がわずかに凹む。壁面は顕著にオーバーハングする。一旦すぼまっている部位の平面形も円形に近い。掘り込み面は検出面より上で、VII層直上の可能性が堆積状況から観察できる。遺物は覆土1層を覆土上位、覆土2～5層を覆土中位、覆土6～8層を覆土下位として取り上げた。遺物は、覆土中位から坑底にかけて、礫とIV群a類土器が出土する。付属遺構はなかった。

時期：出土遺物とその出土状況から縄文時代後期前葉の可能性はある。しかしS-2（大津式の時期の可能性はある）よりは古い。(大泰司)

P-86 (図III-68・112、表3・9・15、図版39-2)

位置・立地：P-38区 最終面における標高43.60m付近の緩斜面

規模：1.67×1.60/1.50×1.47/0.21m

確認・調査：包含層調査終了後、VIII層上面で、円形を呈する黒色土の堆積が認められた。中央を通るように土層観察用のベルトを設定し、その両側を掘り下げたところ、坑底面と壁の立ち上がりを確認したので、遺構と認定した。土層断面を記録した後、ベルトを掘り下げて完掘した。

覆土：分層できなかつた。V層主体の覆土で下位部分はやや黒色味が弱い。

形態：平面は円形を呈する。断面は、中央部がわずかに低い坑底面と、やや直線的に立ち上がる両壁が認められる。

遺物出土状況：遺物は原則として、すべて出土位置や高さ、層位を記録して取り上げた。覆土第1層からIII群b-1類土器(図III-68-1・III-112-1/III-68-3・III-112-2)、自然礫、フレイクが出土した。土器は、北側部分で、大きめの破片が内面を上にした状態で出土した。

時期：出土遺物から考えると、縄文時代中期後半と判断される。(末光)

P-87 (図III-69、表3・9・15、図版39-3)

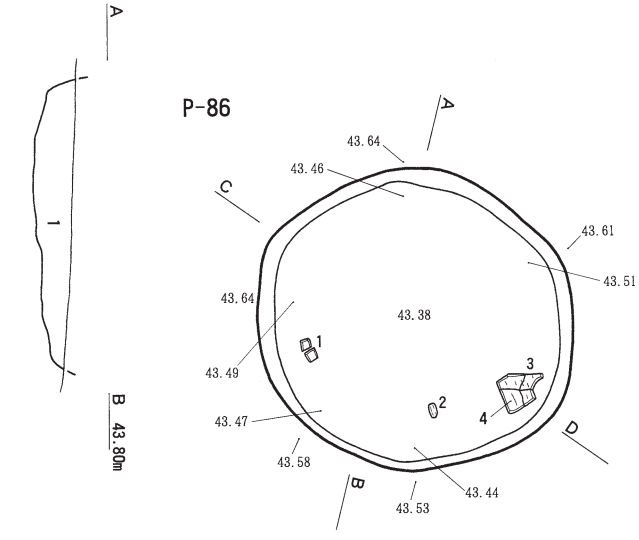
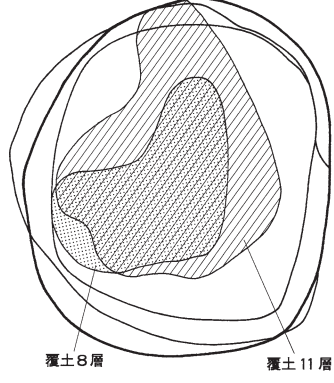
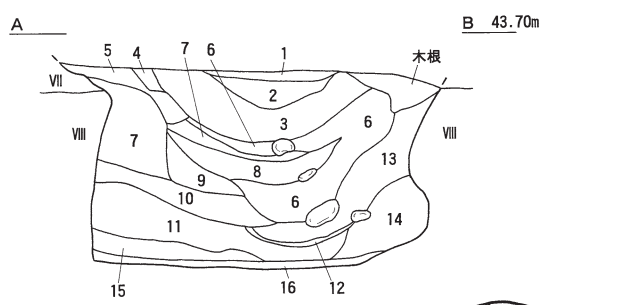
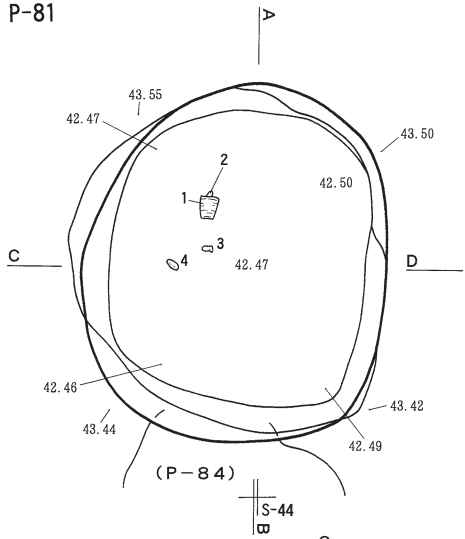
位置・立地：S-43区 最終面における標高43.40～43.20m付近の平坦面

規模：0.68×0.58/0.34×0.25/0.13m

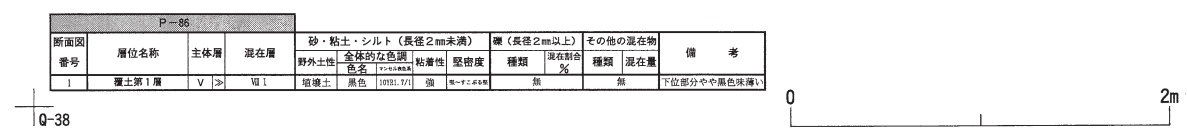
確認・調査：包含層調査終了後、VIII層上面で細長い楕円形を呈する黒色土の堆積と遺物が認められ



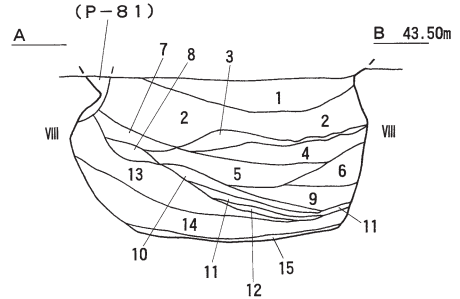
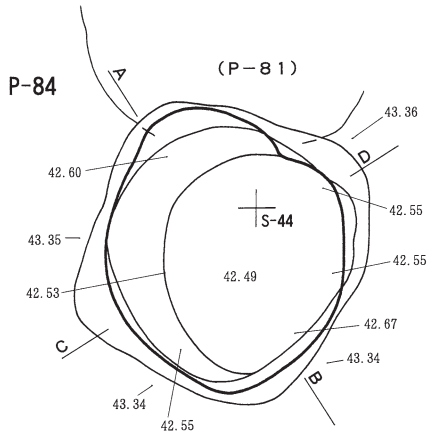
P-81							(埋め戻し)						
断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)			礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考		
				野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類		混在量	
1	覆土1	V b	主体	壤土	黒色 10YR2/1	*	軟	無	1	*	*		
2	覆土2	V b >	VI > VI	壤土	黒色 10YR2/1	*	軟	軽石	15	*	*		
3	覆土3	V b	主体	壤土	黒色 10YR2/1	*	軟	軽石	2	*	*		
4	覆土4	V b >	VI > VI	壤土	黒褐色 10YR2/2	*	軟	無		*	*		
5	覆土5	VI	主体	壤土	黄褐色 10YR5/6	*	軟	無		*	*		
6	覆土6		(埋2%混じる)	壤土	褐色 10YR4/6	*	軟	軽石	13	*	*		
7	覆土7	V b	主体	壤土	褐色 10YR2/1	*	軟	木	*	*	*		
8	覆土8	V b + VI + VII	(埋+混じり)	壤土	10YR2/2	*	軟	*	*	*	フローテーション		
9	覆土9	III >	V b	壤土	明黄褐色 10YR5/8	*	軟	?	*	*	*		
10	覆土10	VI >	V b	壤土	灰黄褐色 10YR5/2	*	軟	黄褐色軽石	1	灰	微量		
11	覆土11		(覆土12混状に混じる)	壤土	明黄褐色 10YR5/6	*	軟	軽石	2	*	*		
12	覆土12	*		壤土	褐色 10YR1/1	*	しよう	*	*	*	*		
13	覆土13	VII +	V b	壤土	明黄褐色 10YR5/6	*	軟	?	?	*	*		
14	覆土14	VII	主体	壤土	明黄褐色 10YR5/6	*	堅	?	?	*	*		
15	覆土15	VI +	V b	壤土	黒褐色 10YR2/2	*	軟	?	?	*	*		
16	覆土16		(埋2%混じる)	壤土	黒褐色 10YR2/2	*	軟	?	?	*	*		



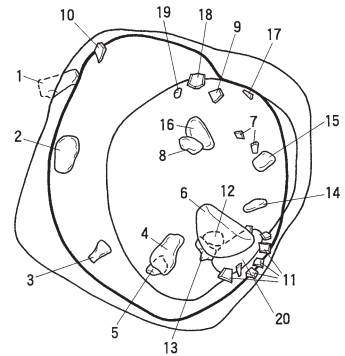
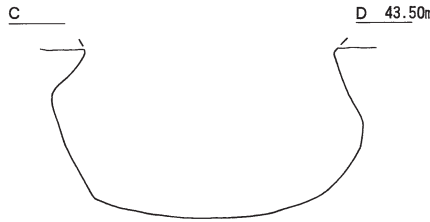
P-86											
断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)			礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考
				野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類	
1	覆土第1層	V >	VII 1	埴埴土	黒色 10YR1/1	強	硬	無			下位部分やや黒色味薄



図III-68 P-81・86



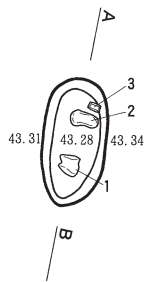
断面図		P-84		(埋め戻し)								
断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)		礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考		
				野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %		種類	混在量
1	覆土1	*		壤土	黄褐色	10YR5/8	*	堅	*	*	*	
2	覆土2	*		壤土	黒褐色	10YR3/1	*	軟	*	*	*	
3	覆土3		(頂の流入土)	壤土	明黄褐色	10YR7/6 (黄み)	*	軟	*	*	*	
4	覆土4	*		壤土	黒褐色	10YR3/2	*	軟	*	*	*	
5	覆土5	*		壤土	明黄褐色	10YR7/6	*	軟	*	*	*	薄い黒色土の間層あり
6	覆土6	*		壤土	褐色	10YR4/6	*	軟	*	*	*	
7	覆土7	*		壤土	明黄褐色	10YR7/8	*	軟	*	*	*	
8	覆土8	*		壤土	黒色	10YR2/1	*	軟	*	*	*	
9	覆土9	*		壤土	明黄褐色	10YR7/8	*	軟	*	*	*	
10	覆土10	*		壤土	黒色	10YR2/1	*	軟	*	*	*	
11	覆土11	*		壤土	明黄褐色	10YR7/8	*	軟	*	*	*	
12	覆土12	*		壤土	黒色	10YR2/1	*	軟	*	*	*	
13	覆土13	*		壤土	明黄褐色	10YR7/8	*	堅	*	*	*	
14	覆土14	*		壤土	明黄褐色	10YR7/8	*	軟	*	*	*	
15	覆土15	*		壤土	暗褐色	10YR3/4	*	軟	*	*	*	



P-84		遺物内容		層位	標高 (m)	視観	備考
取り 上げ 番号	遺物 番号	種別	(土器) 時期分類 (石器) (瓦器) 胎土名				
1	1	礎	安山岩	覆土上層	43.38		
2	2	礎	角閃石安山岩	覆土上層	43.28		
3	3	礎	安山岩中石炭層	覆土上層	43.31		
4	4	礎	安山岩	覆土上層	43.26		
5	5	土器	V群a類	覆土中層	42.60	○	
6	6	礎	安山岩	覆土中層	43.05		
7	7	土器	V群a類	3	覆土中層	43.04 42.97	
8	8	礎	安山岩	1	覆土中層	43.05	
9	9	土器	V群a類	1	覆土中層	43.01	○
10	10	土器	V群a類	1	覆土中層	42.99	○
11	11	土器	V群a類	40	覆土中層	42.97	○
12	12	礎	安山岩	1	覆土中層	42.82	
13	13	礎	角閃石安山岩	1	覆土中層	42.85	
14	14	礎	安山岩	1	覆土中層	42.82	
15	15	礎	安山岩	1	覆土中層	42.86	
16	16	礎	安山岩	1	覆土中層	42.85	
17	17	土器	V群a類	1	覆土中層	43.04	
18	18	土器	V群a類	1	覆土中層	42.92	○
19	19	礎	安山岩	1	覆土中層	*	
20	20	礎	安山岩	1	覆土中層	42.77	



P-87



A B 43.60m

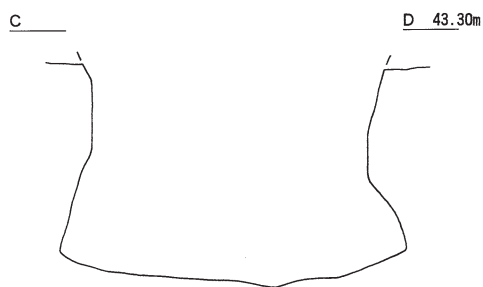
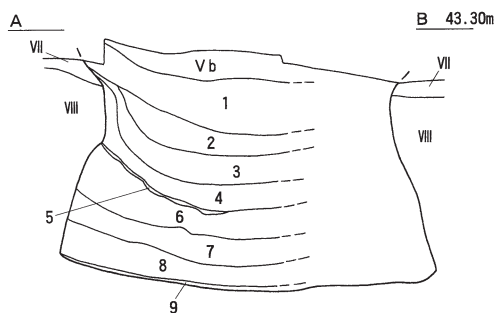
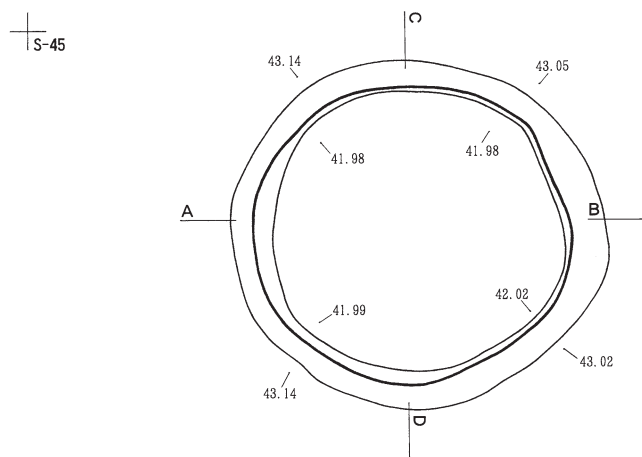


断面図		P-87		砂・粘土・シルト (長径2mm未満)		礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考	
断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %		
				1	覆土第1層	V	Ⅷ1	壤礫土	黒褐色	10YR3/1	中~強

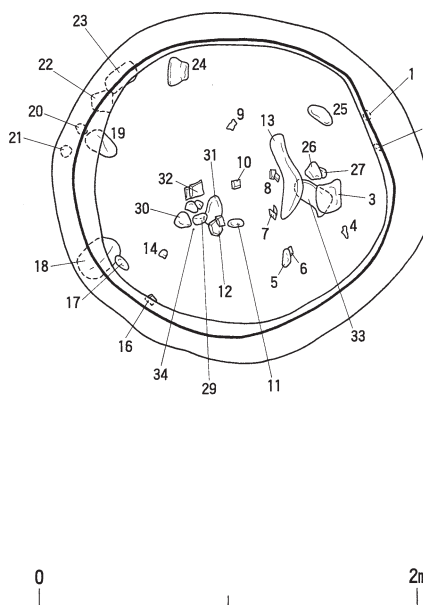
P-87		遺物内容		層位	標高 (m)	視観	備考
取り 上げ 番号	遺物 番号	種別	(土器) 時期分類 (石器) (瓦器) 胎土名				
1	1	礎	角閃石安山岩	1	覆土第1層	43.34	
2	2	礎	安山岩	1	覆土第1層	43.40	
3	3	土器	V群a類	1	覆土第1層	43.29	



図III-69 P-84・87



取上げ番号	遺物種別	遺物内容	層位	標高 (m)	掲載	備考
1	磁器	土器	1	44.57		
2	土器	土器	1	42.54		
3	土器	土器	1	42.49		
4	土器	土器	1	42.50		
5	土器	土器	1	42.70		
6	土器	土器	1	42.86		
7	土器	土器	1	42.88		
8	土器	土器	1	42.76	○	
9	土器	土器	1	42.75	○	
10	土器	土器	1	42.72	○	
11	土器	土器	1	42.86		
12	土器	土器	1	42.55	○	
13	土器	土器	1	42.87		
14	土器	土器	1	42.32		
15	土器	土器	1	42.86		
16	土器	土器	1	41.98	○	遺物出土状況図に記載無し
17	土器	土器	1	42.36		
18	土器	土器	1	42.23		
19	土器	土器	1	42.17		
20	土器	土器	1	*		
21	土器	土器	1	*		
22	土器	土器	1	42.20		
23	土器	土器	1	42.72		
24	土器	土器	1	42.20		
25	土器	土器	1	42.30	○	
26	土器	土器	1	42.26		
27	土器	土器	1	42.27		
28	土器	土器	1	*		遺物出土状況図に記載無し
29	土器	土器	1	*		
30	土器	土器	1	42.25		
31	土器	土器	1	42.24		
32	土器	土器	7	42.28	○	
33	土器	土器	1	42.28		
34	土器	土器	1	*		



断面図番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)		礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考	
				野外土性	全体均圧色調 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合		種類
1	覆土1	V >	VI	壤土	灰褐色 10YR3/2	*	軟	軽石	12	*	*
2	覆土2		(Vbが混じる)	壤土	黒色 10YR2/1	*	軟	*	*	*	*
3	覆土3		(VIIの流入土)	壤土	明灰褐色 10YR7/6	*	軟	*	*	*	*
4	覆土4		*	壤土	黒色 10YR2/1 (母ひら)	*	軟	*	*	*	*
5	覆土5		(VIIの流入土)	壤土	明灰褐色 10YR7/6	*	軟	*	*	*	*
6	覆土6		(VbとVIIが混じる)	壤土	こがね色 10YR4/3	*	軟	*	*	*	*
7	覆土7	VII >	V	壤土	褐色 10YR4/4	*	軟	*	*	*	*
8	覆土8	VII	主体	壤土	黄褐色 10YR5/6	*	軟	*	*	*	*
9	覆土9	*	*	壤土	黒褐色 10YR2/2 (母ひら)	*	軟	*	*	*	*

図III-70 P-85

た。長軸方向に半截し、土層断面を観察した結果、明瞭な層界と壁の立ち上がりが見られたので、遺構と認定した。土層断面を記録した後、半分を掘り完掘した。

覆土：分層できなかった。V層主体の覆土で炭化物が混在する。

形態：平面は細長い楕円形で、断面は、中央付近がやや低い坑底面で、両壁が曲線的に立ち上がる形態を呈する。

遺物出土状況：遺物は原則として、すべて出土位置や高さ、層位を記録して取り上げた。覆土第1層から、IV群a類土器と自然礫が出土した。

時期：出土遺物から考えると、縄文時代後期前半と判断される。

(末光)

#### (4) 焼土

焼土は16か所検出した。F-10・11・16が縄文時代、他は続縄文時代のものと考えられる。F-11はP-32覆土上部から検出され、縄文時代中期の可能性があった。F-16については酸化した土壌を検出し、焼土かどうか確信はなかったが、フローテーションの結果、焼骨片、炭化種子等を検出した。続縄文時代の焼土は上流側の流路部分に多く分布しており、周辺には川原石や遺物も多く散在する。これらの焼土は確認時点でも焼骨片が多量に観察されたため。フローテーション法にて土壌を処理した。

F-1 (図Ⅲ-71・113・114・122・140、表4・10・16、カラー図版7-1)

位置・立地：C・D-43・44区 標高44.20mほどの三次郎川上流側の低位段丘平坦面。

規模：0.99×0.76/0.13m

確認・調査：小段丘上の包含層調査中、Va層（上位）まで掘り下げたところ、D-44杭を中心に褐灰色の灰や小骨片が目立つにぶい橙色の土壌を検出した。土壌採取を行いながら、断面観察を行ったところ上部が骨片を多く含むものと、骨片が目立たない2層からなる焼土が確認できた。そして、杭を中心に広がる焼土は当初一つのものと考えていたが、間層を持って上下2つの焼土であることが確認された（F-1、9）。上部に灰層を伴うF-9が上位のものであるが、D-44区側を先に調査したこともあり、発見順に番号を付したため下位の焼土であるが、F-1とした。

焼土が明確になった形状は、南北方向を長軸とする楕円形である。小段丘上で南北方向に並ぶ焼土の一番北側に位置する。また、この焼土の下部には、後の調査でP-17を検出しているが、土層観察からは焼土の形成時期には、土坑はすでに埋まりきりほぼ平坦地となっており、土坑とは関係ない。

時期：この焼土に明確に伴う遺物は無いが、検出層位や周辺出土遺物から続縄文時代と考えられる。または、縄文時代後期の可能性も残る。 (田中)

土器集中a～d：F-1周辺の遺物取り上げ図Ⅲ-71について、土器集中a～dが示されている。調査者と検討したところ、複数の土器が混在するが、土器集中aの主体は図Ⅲ-113-5である。土器集中bの主体は図Ⅲ-113-7である。土器集中cの主体は図Ⅲ-113-4である。土器集中dの主体は図Ⅲ-114-9である。9についてはむしろF-9に関連するものと調査者が判断した。 (大泰司)

フローテーション成果：焼土部分をフローテーション法にて処理した。その結果、焼骨片群、炭化種子を検出した。焼骨片はシカが主体である。また、イノシシの手根骨も検出した。分析者の金子氏は周辺の縄文時代遺物から、縄文時代に属する可能性も考慮すべきとしている。ほかに種類は不明だが、鳥類の骨または中型獣の骨片も検出した。魚類の骨も混じっていたが、種類が明確となったものは、鮭のみである。炭化種子はブドウ科が主で、他にマタタビ・コナラ・クルミ属が検出された。他に同定不能のものを1点検出した。(詳細はV章1・2)

F-2 (図Ⅲ-71、表4・10・16)

位置・立地：B-44区 調査区南西側（山側）、標高43.40～43.60m付近の平坦面

規模：1.20×0.82/0.09m

確認・調査：Vb層調査中、粒径1cm以下の暗褐色土の粒が約1mほどの範囲で広がっているのを検出した。短軸と思われる線で半截した断面から、Vb層が被熱し、酸化した焼土であると判断した。土層は2層に分けた。1層はやや暗めの極褐色土中に、明るい暗褐色の焼土粒が混入する。2層は1層よりもやや明るめの褐色土層である。土色が均一でないことから、この場で焼けたものかは不明である。同レベルで縄文時代後期前葉の土器片を1点取り上げた。

**時期：**焼土の混在具合から、原位置をとどめていないと思われる。検出面と周辺の遺物や遺構から、続縄文時代のものと考えるが、縄文時代中期前半または縄文時代後期前葉の可能性もある。（新家）  
**フローテーション成果：**焼土部分をフローテーション法にて処理した。その結果、焼骨片群、炭化種子を検出した。焼骨片はシカを主体とする獣骨片群と種類不明だが魚類の骨も検出した。炭化種子は同定不能のものを1点検出した。（詳細はV章1・2）

**F-3**（図Ⅲ-71・114、表4・10・16）

**位置・立地：**A-43区 調査区南西側（山側）の標高43.90～44.00m付近の平坦面

**規模：**0.85×0.42/0.07m

**確認・調査：**Va層調査中、骨片が散在する極暗褐色土が40～50cmの範囲で検出された。短軸と思われる線で半截した断面から、Va層が被熱、酸化した焼土と判断した。土層は2層に分けた。2層は1層よりも明るく、強く被熱している。平面的な規模は小さいが、焼け方は強い。土器片が同レベルで4点出土した。うち3点は続縄文時代のもの、1点は縄文時代後期前葉のものである。

**時期：**検出面と出土した遺物から、続縄文時代のものと考えられる。（新家）

**フローテーション成果：**焼土部分をフローテーション法にて処理した。その結果、焼骨片群、炭化種子を検出した。焼骨片はシカを主体とする獣骨片群に、種類不明だが魚類の骨が混在する。炭化種子は同定不能のものを1点検出した。残渣から検出した炭化材破片のうち1点をAMSで年代測定したところ暦年校正用年代で1906±20年の結果が得られた。（詳細はV章1～3）

**F-4**（図Ⅲ-72、表4・10・16）

**位置・立地：**B-43区 標高43.40～43.60m付近の平坦面

**規模：**0.40×0.38/0.06m

**確認・調査：**B-43区を包含層調査し、Vb層中位まで掘り下げたところ、いびつな楕円形に赤褐色土が分布している状況を検出した。断面を調査して、Vb層が酸化したものであり、焼土であると判断した。焼成面はVb層中位である。焼土中には骨片が微量と焼けた小石が混じっている。この面において周辺ではIV群a類土器が出土している。

**時期：**検出面と周辺の遺構から続縄文時代のものと考えるが、周辺の遺物出土状況から、縄文時代中期前半、あるいは後期前葉の可能性も残る。（大泰司）

**フローテーション成果：**焼土部分をフローテーション法にて処理した。その結果、焼骨片群、炭化種子を検出した。焼骨片はシカを主体とする獣骨である。炭化種子はブドウ科とウルシ属を検出した。（詳細はV章1・2）

**F-5**（図Ⅲ-72・113、表4・10・16）

**位置・立地：**A・B-43区 調査区南西側（山側）、標高43.70～43.80m付近の平坦面

**規模：**0.54×0.39/0.08m

**確認・調査：**Vb層調査中、骨片がまとまって出土したため、周辺を精査すると、暗褐色土の広がりが検出された。中心で半截した断面から、Vb層が被熱、酸化した焼土であると判断した。骨片が多く伴い、また同レベルで縄文時代後期の土器片が1点出土した。

**時期：**検出面と出土した遺物から、続縄文時代のものと考えられる。（新家）

**フローテーション成果：**焼土部分をフローテーション法にて処理した。その結果、焼骨片群、炭化種



子を検出した。焼骨片はシカを主体とする獣骨である。炭化種子は同定不能のものを1点検出した。(詳細はV章1・2)

**F-6** (図Ⅲ-72、表4・10・16、表4・10・16)

**位置・立地**：B・C-43区 標高44.40mほどの三次郎川上流側の低位段丘平坦面。

**規模**：0.71×0.52/0.13m

**確認・調査**：Va層(上位)で検出した焼土。上位に骨片を多く含み、下位の明赤褐色焼土は他に比べ小範囲にとどまるように感じられた。確認できた形状は、南北方向を長軸とする楕円形である。遺物は焼土確認面北端で、頁岩製のUフレイク1点が出土したのみである。

**時期**：この焼土の時期を判断できる遺物は無いが、検出層位や周辺状況から続縄文時代と考えられる。(田中)

**フローテーション成果**：焼土部分をフローテーション法にて処理した。その結果、焼骨片群、炭化種子を検出した。焼骨片はシカを主体とする獣骨である。炭化種子はキハダ属・ブドウ科・同定不能なものを検出した。他に、酸化した状態のタラノキ属を検出した。また、人工遺物として2点の焼成粘土塊を検出した。(詳細はV章1・2)

**F-7** (図Ⅲ-72・114・122、表4・10・16)

**位置・立地**：C-43区 標高44.30mほどの三次郎川上流側の低位段丘平坦面。

**規模**：0.88×0.77/0.14m

**確認・調査**：Va層(上位)で検出した焼土。C-43区に直線状に並ぶ焼土列(南からF-6・7・9・1)の中間に位置する。F-1・6とはほぼ1.4mの間隔で等距離である(F-9とは0.8m)。F-6と同様、上位に骨片を多く含み、下位は明赤褐色焼土である。確認できた形状は、南北方向を長軸とする楕円形である。

**遺物出土状況**：0.6m西側に検出されたF-8との間にVI群土器が集中して出土したほか、多くの剥片石器類も出土している。これら遺物は、焼土確認面とほぼ同レベルからの出土である。また、北側のF-9間にも土器片(VI群、IV群土器混在)が散在して出土しているが、これらについては焼土確認面より下位のものが多い。

**時期**：検出層位や周辺の遺物出土状況から続縄文時代と考えられる。(田中)

**F-7・8間について**：F-7とF-8の間で出土した土器を図Ⅲ-72に示した。遺物出土状況は図Ⅲ-114-1の後北C<sub>1</sub>式土器が主体である。そこに後北C<sub>1</sub>式前後のVI群土器の再生土製品(114-2)も混在する。この土器集中を主体として、F-7・8間の遺物について出土状況図を示した。(大泰司)

**フローテーション成果**：焼土部分をフローテーション法にて処理した。その結果、焼骨片群、炭化種子を検出した。焼骨片はシカを主体とする獣骨である。炭化種子はキハダ属・ブドウ科・クリ属・クルミ属・同定不能なものを検出した。ブドウ科の16点出土が最も多い。また、人工遺物として8点の焼成粘土塊を検出した。(詳細はV章1・2)

**F-8** (図Ⅲ-72・122、表4・10・16)

**位置・立地**：C-43・44区 標高44.30mほどの三次郎川上流側の低位段丘平坦面。

**規模**：0.86×0.81/0.10m

**確認・調査**：F-7の0.6m西側、Va層(上位)で検出した焼土。周辺に検出された焼土同様、上位

に骨片を多く含み、下位は明赤褐色焼土でその外周は色調がやや暗く発色する。確認できた形状は、南北方向を長軸とする円形に近い楕円形である。

**時期：**検出層位や周辺の遺物出土状況から続縄文時代と考えられる。(田中)

**フローテーション成果：**焼土部分をフローテーション法にて処理した。その結果、焼骨片群、炭化種子を検出した。焼骨片はシカを主体とする獣骨である。炭化種子はキハダ属・同定不能なものを検出した。他に酸化した状態のブドウ科を検出した。(詳細はV章1・2)

**F-9** (図III-71、表4・10・16、カラー図版7-1)

**位置・立地：**C-43・44区 標高44.20mほどの三次郎川上流側の低位段丘平坦面。

**規模：**0.81×0.53/0.14m

**確認・調査：**F-1の上位、南西側にある焼土。最上位に灰層を伴い、骨片を多く含む暗赤褐色焼土、最下位が赤褐色焼土となる。明確に確認できた形状は東西方向を長軸とする楕円形である。F-7でも記載したが、F-7間で出土した土器片は焼土確認レベルからやや下位での出土である。

**時期：**この焼土に明確に伴う遺物は無いが、検出層位や周辺状況から続縄文時代と考えられる。

(田中)

**フローテーション成果：**焼土部分をフローテーション法にて処理した。その結果、焼骨片群、炭化種子を検出した。焼骨片はシカが主体である。ほかに種類は不明だが、鳥類の骨または小・中型獣の破片群も検出した。魚類の骨も混じていたが、種類が明確となったものは、鮭のみである。炭化種子はブドウ科・クルミ属・同定不能のものを検出した。他に酸化した状態のマタタビ属を検出した。(詳細はV章1・2)

**F-10** (図III-73、表4・10・16)

**位置・立地：**T-49区 調査区北側(海側)、標高42.40~42.50m付近の平坦面

**規模：**0.35×0.32/0.05m

**確認・調査：**Vb層調査中、褐色土が30cmほどの範囲で検出された。中心で半截した断面から、Vb層が酸化した焼土と判断した。

**時期：**不明だが、周辺の包含層出土の遺物により、縄文時代後期前葉の可能性はある。(新家)

**フローテーション成果：**焼土部分をフローテーション法にて処理した。その結果、焼骨片、炭化種子を検出した。焼骨片はシカを主体とする獣骨である。炭化種子はクルミ属を1点検出した。(詳細はV章1・2)

**F-11** (図III-48、表4・10・16、図版31-1)

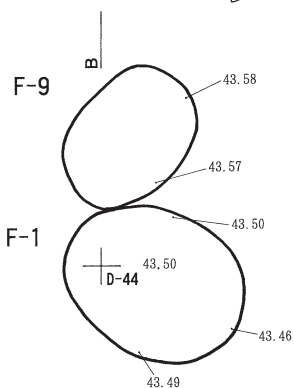
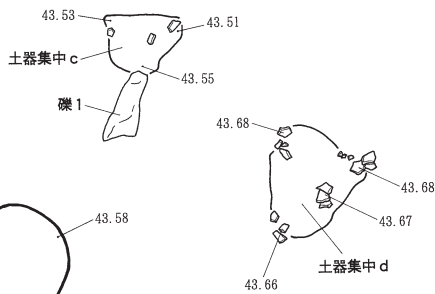
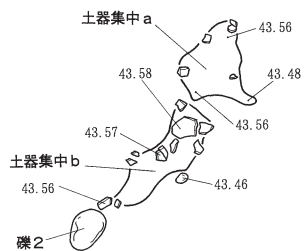
**位置・立地：**E-44区 土坑P-32上面

**規模：**0.43×(0.41)/0.09m

**確認・調査：**P-31・32の項で記載したとおり、E-44区で漸移層(VI層)まで掘り下げたところ、黒色土の落ち込みが広範囲に検出された。土層観察用のベルトを残しながら再度掘り下げたところ、土器片等遺物が集中して出土したやや下位で検出した焼土である。調査時の観察では、あまり骨片は目立たなく、色調は赤褐色を呈していた。

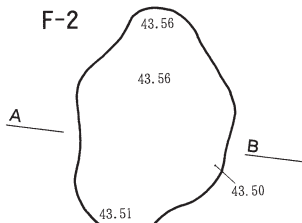
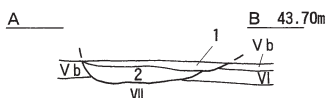
黒色土の落ち込みは、P-31や木根痕、風倒木痕が絡み、斜面地でもあったことから明確な掘り込みは確認できなかった。ただ、遺物の出土状況などを見れば、窪地を利用した一時的な「住居」に伴

C-44



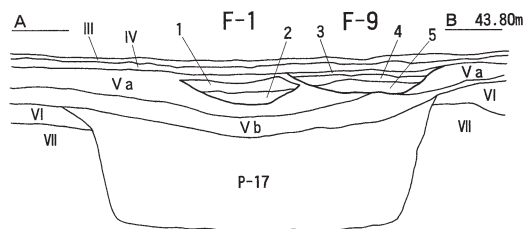
B-44

F-2		砂・粘土・シルト (長径2mm未満)		礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考
断面図 番号	層位名称	野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	現在割合 %	
1	焼土	埋壊土	赭褐色 7.5YR2/3	中	堅	(焼土粒)	10	* * * *
2	焼土	埋壊土	褐色 7.5YR4/6	強	堅	*	*	* * * *



C-44

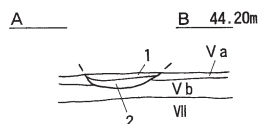
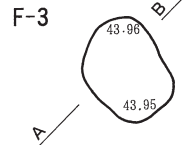
取上げ 位置 番号	遺物 種類	遺物内容 (土器) 時期分類 (石) (種類) 位置名	点数	層位	標高 (m)	相数	備考
1	焼片石	フレイク 1 瓦器	50	V b層	43.56	○	土器集中 a
2	土器	V群 a組	2				
13	土器	V群 a組	2				
14-1	土器	V群 b組 3004	1				
14-2	土器	V群 a組	5	V b層	43.57	○	土器集中 b
3	焼片石	フレイク 1 瓦器	3				
15-1	土器	V群 a組 308	3				
15-2	土器	V群 a組	3	V b層	43.55	○	土器集中 c
15-3	土器	V群 b組 12	1				
4	焼片石	スタレイバー 瓦器 1	1	V a層	43.66	○	土器集中 d
5	焼片石	フレイク 瓦器 1	1				
6	焼片石	フレイク めがう 1	1	V b層	43.55	○	土器集中 c
16-1	土器	V群 b組 99	1				
16-2	土器	V群 a組	2	V a層	43.66	○	土器集中 d
7	焼片石	フレイク 瓦器 1	1				
8	焼片石	フレイク めがう 5	5	V b層	43.56	○	土器集中 c
9	焼片石	フレイク 瓦器 2	2				
17	土器	V群	70	V b層	43.56	○	土器集中 c
18-1	土器	V群	9				
18-2	土器	V群 a組 1	1	V b層	43.56	○	土器集中 c
10	石	塚山組	1				
11	石	塚山組	1	V b層	43.56	○	



F-1		砂・粘土・シルト (長径2mm未満)		礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考
断面図 番号	層位名称	野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	現在割合 %	
1	焼土	*	にぶい褐色 2.5YR3/3	*	*	*	*	骨片 多量
2	焼土	*	にぶい褐色 2.5YR6/4	*	*	*	*	* * *

F-9		砂・粘土・シルト (長径2mm未満)		礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考
断面図 番号	層位名称	野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	現在割合 %	
3	灰?	*	褐色 5YR5/1	*	*	*	*	* * *
4	焼土	*	暗褐色 5YR3/6	*	*	*	*	骨片 多量
5	焼土	*	赤褐色 2.5YR4/8	*	*	*	*	* * *

A-43

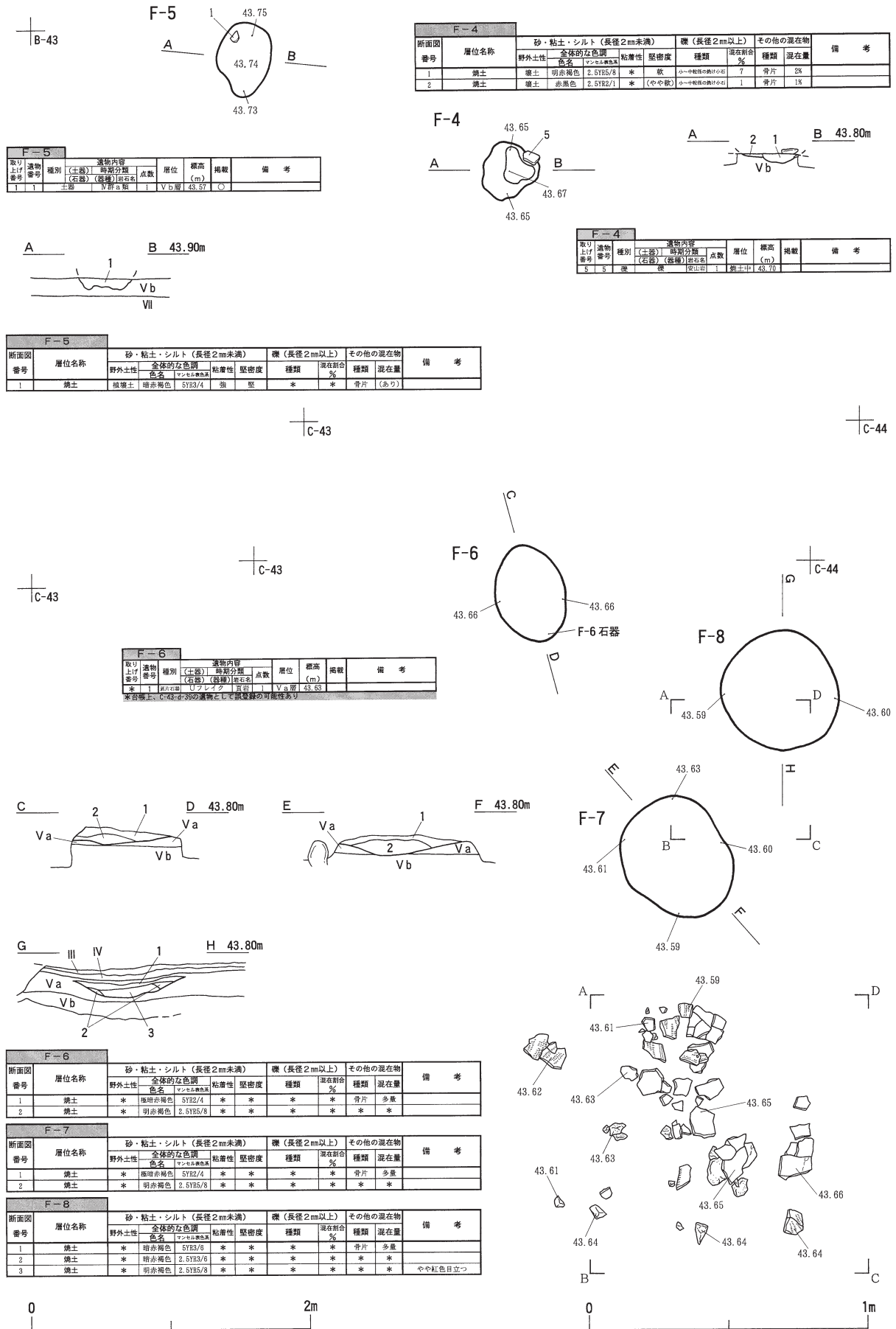


F-3		砂・粘土・シルト (長径2mm未満)		礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考
断面図 番号	層位名称	野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	現在割合 %	
1	焼土	埋壊土	赭褐色 7.5YR2/3	中	堅	*	*	* * *
2	焼土	埋壊土	暗褐色 7.5YR3/4	強	堅	*	*	* * *

B-43



図III-71 F-1・9・2・3



図III-72 F-4・5・6・7・8

う焼土の可能性を考えなければならない。包含層出土して取り上げた焼土周辺の土器は、焼土と同レベル近辺ではD-44-c区Vc層（掘り上げ土）で多くが出土した復元土器（図Ⅲ-82-H-2-1）と接合関係を持つものや（図Ⅳ-17・18-Ⅲb-1-7・11）などⅢ群b-1類土器がややまとまって出土している。

**時期：**黒色土の落ち込みから出土した土器片から、縄文時代中期の可能性が高い。（田中）

**フローテーション成果：**焼土部分をフローテーション法にて処理した。その結果、焼骨片、炭化種子を検出した。焼骨片はシカを主体とする獣骨である。ほかに種類は不明だが、鳥類の骨または中型獣の破片も検出した。炭化種子はニワトコ属・キハダ属・ミズキ属・コナラ属・クルミ属を検出した。また、人工遺物として1点の焼成粘土塊を検出した。（詳細はV章1・2）

**F-12**（図Ⅲ-73、表4・10・16）

**位置・立地：**J-42区 標高43.60~43.80m付近の平坦面

**規模：**0.42×0.39/0.08m

**確認・調査：**J-42区のVb層最上面において、いびつな円形に暗赤褐色土が分布している状況を検出した。断面を調査したところ、Vb層土が酸化したものであり、焼土と考えた。焼成面は検出面とほぼ同じと考える。伴う遺物はなかった。

**時期：**包含層調査から、確認調査区周辺と確認層位において続縄文時代の土器がよく出土しており、その時代のものである可能性が高い（大泰司）

**フローテーション成果：**焼土部分をフローテーション法にて処理した。その結果、焼骨片群、炭化種子を検出した。焼骨片はシカを主体とする獣骨である。炭化種子は同定不能のものを4点検出した。（詳細はV章1・2）

**F-13**（図Ⅲ-73、表4・10・16）

**位置・立地：**L-42区 標高43.60m付近の平坦面

**規模：**0.50×0.50/0.10m

**確認・調査：**L-42区のVb層最上面において、いびつな円形に2ヶ所、暗赤褐色土が分布している状況を検出した。断面を調査したところ、Vb層土が酸化したものであり、焼土と考えた。南西側のやや大型のものをF-13とした。焼成面は検出面とほぼ同じと考える。伴う遺物はなかった。

**時期：**包含層調査から、確認調査区周辺と確認層位において続縄文時代の土器がよく出土しており、その時代のものである可能性が高く、F-14と同時期の可能性が高い。（大泰司）

**フローテーション成果：**焼土部分をフローテーション法にて処理した。その結果、焼骨片を検出した。焼骨片は種類不明だが魚類の骨である。（詳細はV章1）

**F-14**（図Ⅲ-73、表4・10・16）

**位置・立地：**L-42区 標高43.60m付近の平坦面

**規模：**0.28×0.26/0.04m

**確認・調査：**L-42区のVb層最上面において、いびつな円形に2ヶ所、暗赤褐色土が分布している状況を検出した。断面を調査したところ、Vb層土が酸化したものであり、焼土と考えた。北東側のやや小型のものをF-14とした。焼成面は検出面とほぼ同じと考える。伴う遺物はなかった。

**時期：**包含層調査から、確認調査区周辺と確認層位において続縄文時代の土器がよく出土しており、



その時代のものである可能性が高く、F-13と同時期の可能性が高い。(大泰司)

**フローテーション成果：**焼土部分をフローテーション法にて処理した。その結果、炭化種子を検出した。炭化種子は同定不能のものを2点検出した。(詳細はV章2)

F-15 (図III-73・114、表4・10・16)

**位置・立地：**L・M-38区 標高44.00～44.20m付近の平坦面

**規模：**(0.70)×0.60/0.06m

**確認・調査：**M-38区を包含層調査し、VII層上面まで掘り下げたところ、Mラインの壁面に橙色に酸化したVb層の断面を検出した。そこでL-38区を精査したところ、いびつな楕円形に橙色土が分布している状況を検出した。北東端は包含層調査によって無くなっている。Vb層が焼けたものと判断した。焼成面はVb層上面である。焼土の直上からVI群土器が出土している。

**時期：**出土遺物、確認層位より縄文時代のものである可能性が高い。(大泰司)

**フローテーション成果：**焼土部分をフローテーション法にて処理した。その結果、焼骨片群、炭化種子を検出した。焼骨片はシカを主体とする獣骨である。炭化種子は同定不能のものを1点検出した。(詳細はV章1・2)

F-16 (図III-73、表4・10・16)

**位置・立地：**R-43区 標高43.20～43.40m付近の平坦面

**規模：**0.50×0.42/0.08m

**確認・調査：**R-43区を包含層調査し、VI層上面まで掘り下げたところ、Vb層の落ち込みの中にいびつな円形に橙色土が分布している状況を検出した。Vb層が焼けたものと判断した。Vb層の落ち込みは自然の作用によるものである。焼成面はVb層下位である。伴う遺物はない。

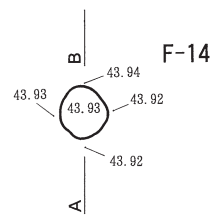
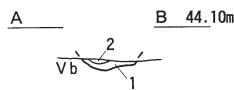
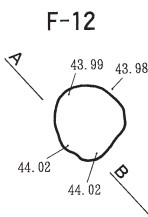
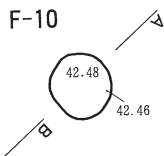
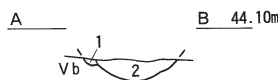
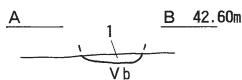
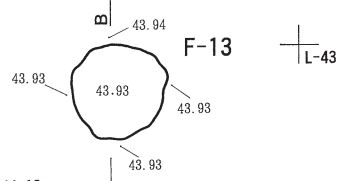
**時期：**不明であるが、確認層位および包含層の出土遺物より、縄文時代中期前葉から後期前葉の間の遺構と考える。(大泰司)

**フローテーション成果：**焼土部分をフローテーション法にて処理した。その結果、焼骨片群、炭化種子を検出した。焼骨片はシカ・ネズミの骨と、種類不明の魚類の骨片である。炭化種子はニワトコ属・ウルシ属・同定不能のものである。(詳細はV章1・2)

T-49

J-43

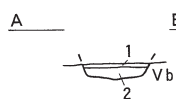
F-10		砂・粘土・シルト（長径2mm未満）				礫（長径2mm以上）		その他の混在物		備考
断面図 番号	層位名称	野外土性	全体的な色調 色名 マンセル色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類	混在量	
1	壤土	壤土	褐色 7.5YR4/6	弱	すこぶら堅	*	*	*	*	



F-12		砂・粘土・シルト（長径2mm未満）				礫（長径2mm以上）		その他の混在物		備考
断面図 番号	層位名称	野外土性	全体的な色調 色名 マンセル色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類	混在量	
1	壤土	壤土	暗褐色 7.5YR3/4	中	堅	*	*	*	*	
2	壤土	壤土	明赤褐色 5YR5/8	中	堅	*	*	*	*	

U-49

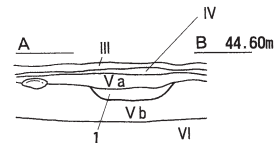
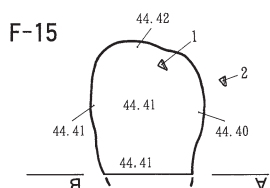
K-43



F-13		砂・粘土・シルト（長径2mm未満）				礫（長径2mm以上）		その他の混在物		備考
断面図 番号	層位名称	野外土性	全体的な色調 色名 マンセル色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類	混在量	
1	壤土	壤土	暗褐色 7.5YR3/4	中	堅	*	*	*	*	
2	壤土	壤土	明赤褐色 5YR5/8	中	堅	*	*	*	*	

F-14		砂・粘土・シルト（長径2mm未満）				礫（長径2mm以上）		その他の混在物		備考
断面図 番号	層位名称	野外土性	全体的な色調 色名 マンセル色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類	混在量	
1	壤土	壤土	暗褐色 7.5YR3/4	中	堅	*	*	*	*	
2	壤土	壤土	明赤褐色 5YR5/8	中	堅	*	*	*	*	

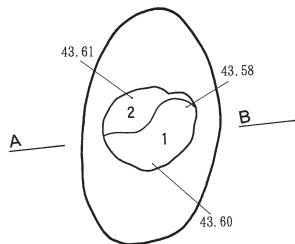
F-15		遺物内容				層位	標高 (m)	地敷	備考
取り上げ 番号	種別	(土器)	時期分類 (右器)	(磁器)	点数				
1	土器	V群			1	Vb層	44.48	○	
2	土器	V群			1	Vb層	44.45		



M-38

M-39

F-16

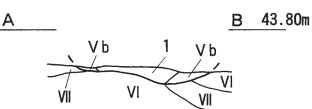


F-15		砂・粘土・シルト（長径2mm未満）				礫（長径2mm以上）		その他の混在物		備考
断面図 番号	層位名称	野外土性	全体的な色調 色名 マンセル色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類	混在量	
1	壤土	壤土	褐色 5YR5/8	*	軟	*	*	*	*	

F-16		砂・粘土・シルト（長径2mm未満）				礫（長径2mm以上）		その他の混在物		備考
断面図 番号	層位名称	野外土性	全体的な色調 色名 マンセル色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類	混在量	
1	壤土	壤土	褐色 5YR7/8	*	軟	*	*	*	*	
2	壤土	壤土	褐色 5YR6/8	*	軟	*	*	*	*	

S-43

S-44



図III-73 F-10・12・13・14・15・16

## (5) 柱穴状の小土坑

13か所から検出した。同時期のものと仮定すると、配列としては、おおよそ円形配列の可能性も模索できる（SP-9・4・12・8・11又はSP-9・3・5・2又はSP-15・10・12・8・11等）が、確定的ではない。SP-13・14としたものはフラスコ状土坑P-51に伴うものと判断し、欠番となった。時期は不明だが、SP-1覆土中から縄文時代後期前葉の土器が出土している。また八雲町浜松2遺跡や栄浜1遺跡、森町濁川左岸遺跡における同様の小土坑の例については、縄文時代後期前葉の可能性はある。

SP-1～12（図Ⅲ-74・75・112、表5・11・17）2003年に検出

位置・立地：R-47区、S・T-46・47区 調査区北側（海側）、標高42.40～42.80m付近の緩斜面

規模：直径0.18～0.38/深さ0.20～0.47m

遺構名	調査区	規模	遺構名	調査区	規模
SP-1	S47	0.20×0.18/0.13×0.13/0.33m	SP-7	S47	0.18×0.18/0.12×0.12/0.20m
SP-2	T47	0.19×0.19/0.10×0.10/0.23m	SP-8	T46	0.23×0.21/0.07×0.07/0.47m
SP-3	S47	0.38×0.35/0.23×0.21/0.21m	SP-9	S47	0.20×0.19/0.14×0.14/0.24m
SP-4	S47	0.24×0.22/0.14×0.14/0.42m	SP-10	S46	0.29×0.29/0.14×0.12/0.40m
SP-5	T47	0.21×0.21/0.14×0.13/0.42m	SP-11	R47	0.20×0.19/0.15×0.13/0.26m
SP-6	T47	0.21×0.21/0.14×0.14/0.32m	SP-12	T46	0.20×0.19/0.11×0.10/0.24m

確認・調査：H-10調査終了後、周辺のⅧ層を下げ、最終面の調査を行ったところ、周囲の調査区に直径20～30cm前後の黒～黒褐色土の落ち込みを複数か所検出した。それぞれ半截し、断面の覆土が明瞭に周囲のⅧ層と区別でき、形状が柱様あるいは人為的掘り込みと思われる落ち込み12基を柱穴状の小土坑と判断した。覆土は黒色土V層から成るものが多く、掘り込み面はV層中であると思われる。平面形は、いずれもほぼ円形である。断面は、下に行くほどすぼまっているものと、まっすぐに下に伸びているものがある。SP-3は皿状の落ち込みで、他とは形状が異なる。SP-1の覆土からフレイク1点と縄文時代中期前半の土器片2点、後期前葉の土器片1点、SP-8・11の覆土から礫が出土している。当初P-51の柱穴もSPとして認知していたが、土坑に伴う付属遺構と判断した。H-10と切りあうSP-1・2・3・5・8についてはH-10の方がより新しいか、またはH-10廃絶直後にSPが掘り込まれたものとする。

時期：不明である。SP-1については縄文時代後期以降の可能性はある。

（新家）

SP-15（図Ⅲ-74・75、表5・11・17、図版39-4）2004年に検出

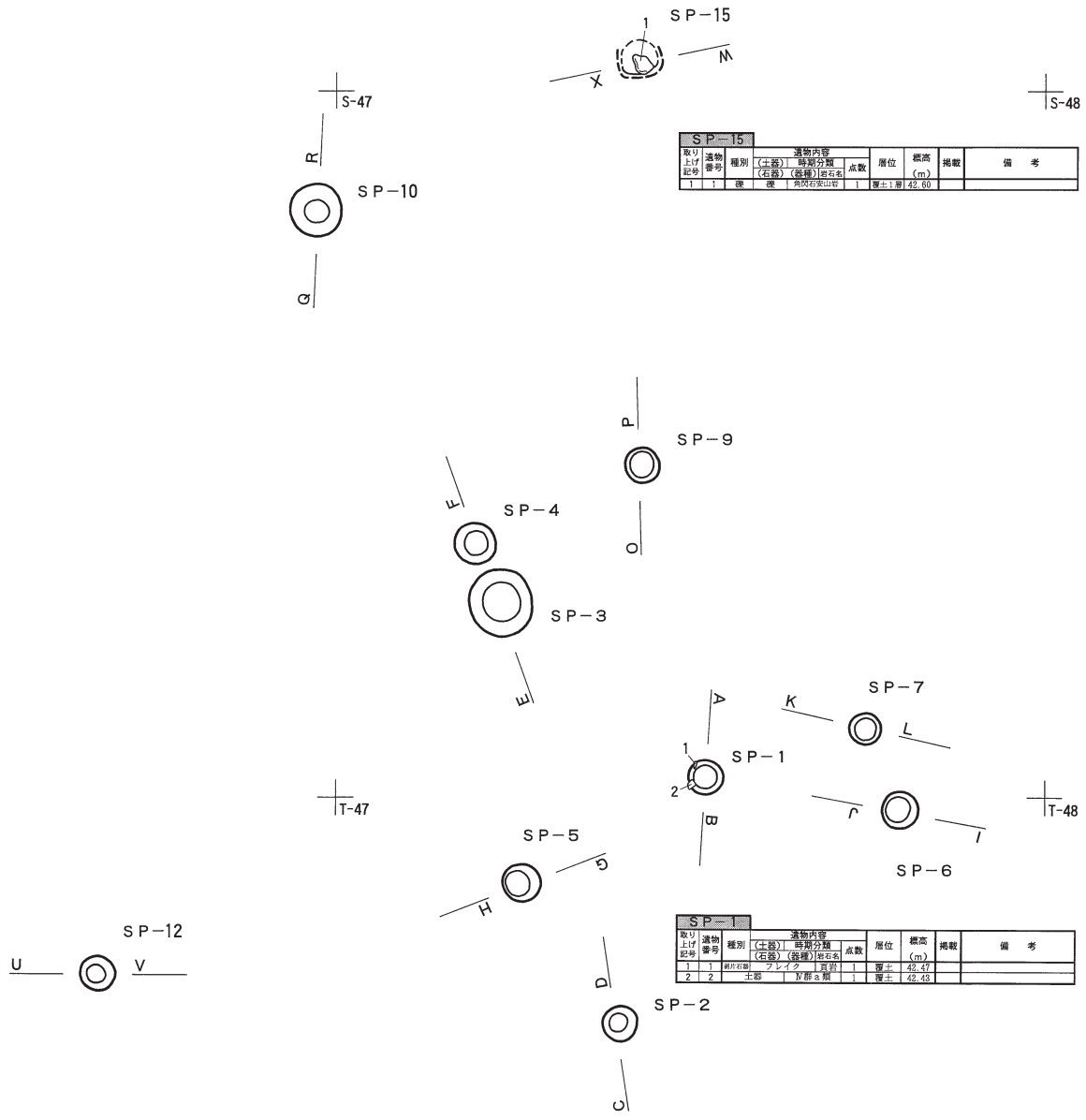
位置・立地：R-47区 標高42.60～43.00m付近の平坦面

規模：0.21×(0.22)/0.25×(0.22)/0.21m

確認・調査：Ⅷ層上面で、黒褐色土の落ち込みに礫が埋没している状況を検出した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、小土坑と判断した。不整な円形の平面形である。Vb層主体の土である覆土1層の間にⅧ層主体の2層が薄く入り込んでいる。埋め戻しの可能性がある。壁面はややオーバーハングする。坑底は中央が浅く凹む。掘り込み面は検出面より上である。覆土上位から中位にかけて拳よりやや大きめの礫が1点入り込んでいる。

時期：不明である。

（大泰司）

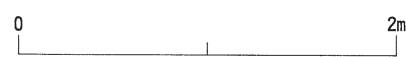


SP-15							
取上げ 記号	遺物 番号	遺物内容		層位	標高 (m)	掲載	備考
		種別	〔土器〕 時期分類 〔石器〕 (器種) 器石名				
1	環	環	高代河原山群	1	覆土1層 42.60		

SP-1							
取上げ 記号	遺物 番号	遺物内容		層位	標高 (m)	掲載	備考
		種別	〔土器〕 時期分類 〔石器〕 (器種) 器石名				
1	1	環形土器	フレイク	1	覆土 42.47		
2	2	土器	有蓋土器	1	覆土 42.28		

SP-8							
取上げ 記号	遺物 番号	遺物内容		層位	標高 (m)	掲載	備考
		種別	〔土器〕 時期分類 〔石器〕 (器種) 器石名				
1	1	環	環	?	42.16		遺物台帳に記載無し
2	2	環	環	1	覆土 42.14		

SP-11							
取上げ 記号	遺物 番号	遺物内容		層位	標高 (m)	掲載	備考
		種別	〔土器〕 時期分類 〔石器〕 (器種) 器石名				
1	1	環	環	1	覆土 42.35		



図III-74 SP(1)





## (6) 集石（礫集中と配石遺構）

集石は大小合わせて6基検出した。縄文時代後期前葉と思われる配石遺構が4基検出した。S-1はフラスコ状土坑を伴う石組である。又、S-2は大型の配石遺構である。これは、調査区内において扇形の弧の形状をした配列を確認した。しかし調査区外へ続く。この時期は扇形の中心で検出した土器をもとにすると、縄文時代後期前葉大津式期の可能性がある。石組炉S-4・5については大型住居H-14が埋没する過程で設置されたものである。住居調査時にIV群a類土器とともに検出したものである。

S-1（図Ⅲ-76・112、表6・12・18、図版39-5・6）

位置・立地：P-45区 標高42.40~42.80m付近の緩斜面

規模：配石：0.92×0.76/0.26m

付属土壌：1.34×1.18/1.84×1.64/(0.88)m

確認・調査：Vb層中位で、黒色土の落ち込みに礫の方形をした配列を検出した。まず配石を調査したところ、被熱した礫によって石組炉が造られていた。そこで覆土1・2層を採取し、フローテーション法にて処理した。採取した土は特に被熱した様子は肉眼では窺えなかったが、炭化種子が検出された。配石の平面形は方形に近い六角形である。北辺に位置する礫（図Ⅲ-76-1）を設置した後、順次次の礫（同2から3・4・5と同7から8・9）を南側へ向って据えて、全体を形造る。最後に北東隅の角をなす比較的小型の礫（同6）を据えている。配石を半裁して土層を確認した段階で、下に暗褐色土の入り込みを確認した。土坑の覆土を想定し、半裁した・半裁終了時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。不整な楕円形の平面形で、その長軸は石組の長軸とほぼ合致する。土坑の上部に礫を据えたものと判断した。覆土4から坑底直上の6層まではV~Ⅷ層が混じり合ったものである。埋め戻しの可能性がある。坑底はほぼ平坦であるが、中央が凹む形状である。掘り込み面は検出面より上であるが配石の検出状況からほぼ同じと考える。土坑について、配石以外の付属遺構はない。

時期：出土遺物と配石の形状から縄文時代後期前葉の可能性が高い。（大泰司）

フローテーション成果：石組み内部の土（覆土1層）は赤色味を帯びていないが、構成する石には被熱の痕跡があった。そこで石組み内の土をフローテーション法にて処理した。その結果、焼骨片群、炭化種子を検出した。焼骨片はシカを主体とする獣骨であり、種類不明の魚類の骨が1点混じる。炭化種子はウコギ科・キハダ属・ウルシ属・クリ属・クルミ属が検出された。他に同定不能のものを検出した。（詳細はV章1・2）

S-2（図Ⅲ-77・112・139・140、表6・12・18・27、図版40-1・2、カラー図版5-1・2）

位置・立地：S-44・45区，T-45区 標高42.40~42.80m付近の平坦面から緩斜面にかけて

規模：配石を直線的に捉えた場合：10.0mの長さ

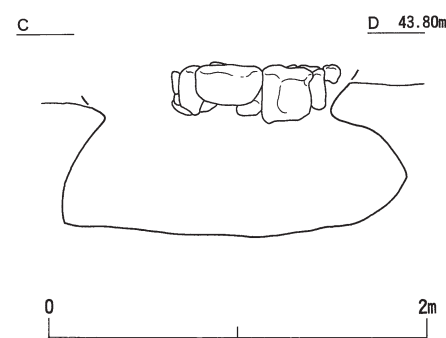
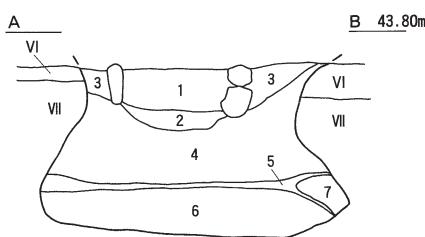
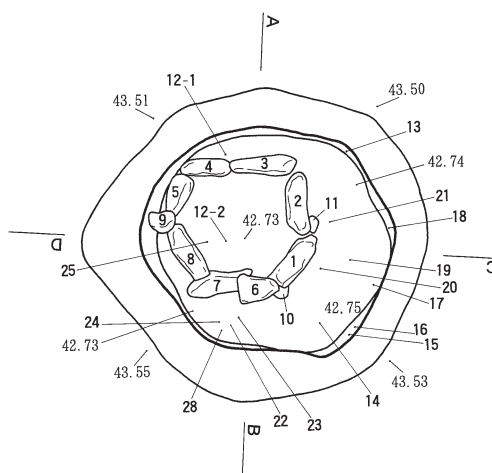
配石を楕円形の一部として捉えた場合：外周12.16（長軸）×6.72（短軸）/内周10.64（長軸）×4.40（短軸）mの同心円状をした楕円の弧部分が約170°の角度で検出された。

確認・調査：表土除去後、Ⅲ層上面において大型の礫の配列を確認した。配石を想定して掘り下げたところ、Vb層中位で礫が並んでいるものと判断した。掘りかたはもたず、人頭大の礫と一抱えほどの礫を置いたものと考え。礫は三次郎川の川岸に類似する礫が多くあり、それをういた可能性がある。配石は楕円形を思わせる曲線を描く。場所によっては2列一組を思わせる状況である。壁面にピンポールを差し込んで確認したところ調査区外にもまだ続いている。去年の調査区からは配列のある

P-45

P-46

S-1							
取り上げ番号	遺物番号	種類	遺物内容 (土器) (石器) (土器) (石器) (土器) (石器)	点数	層位	備考	
1	1	礫	安山岩	3	覆土1層	43.53	右側の石
2	2	礫	安山岩	1	覆土1層	43.62	右側の石
3	3	礫	安山岩	1	覆土1層	43.65	右側の石
4	4	礫	安山岩	1	覆土1層	43.63	右側の石
5	5	礫	安山岩	1	覆土1層	43.62	右側の石
6	6	礫	安山岩	1	覆土1層	43.62	右側の石
7	7	礫	安山岩	1	覆土1層	43.56	右側の石
8	8	礫	安山岩	1	覆土1層	43.62	右側の石
9	9	礫	安山岩	1	覆土1層	43.62	右側の石
10	10	礫	安山岩	1	覆土1層		
11	11	礫	安山岩	1	覆土1層	43.60	
12-1	12-1	土器	V群 a類	1	覆土2層	43.64	
12-2	12-2	土器	V群 a類	1	覆土2層	43.32	
13	13	土器	V群 a類	1	覆土1層	43.42	
14	14	礫	安山岩	1	覆土1層	43.49	
15	15	埋石	灰岩	1	覆土4層	43.41	
16	16	埋石	灰岩	1	覆土4層	43.41	
17	17	土器	V群 a類	1	覆土4層	43.10	
18	18	埋石	灰岩	1	覆土4層	43.01	
19	19	土器	V群 a類	1	覆土4層	43.23	
20	20	埋石	灰岩	1	覆土4層	43.23	
21	21	土器	V群 a類	1	覆土4層	43.35	
22	22	礫	安山岩	1	覆土4層	43.18	
23	23	礫	安山岩	1	覆土4層	43.09	
24	24	礫	安山岩	1	覆土4層	43.13	
25	25	礫	安山岩	1	覆土4層	43.82	
26	26	埋石	灰岩	1	覆土4層	43.09	
27	27	礫	安山岩	1	覆土4層	43.06	
28	28	礫	安山岩	1	覆土4層	43.13	



S-1												
断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)			礫 (長径2mm以上)		その他の混在物		備考	
				群外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	種類		混在量
1	覆土	V b	主体	壤土	黒色	10YR2/1	*	歌	*	*	*	
2	覆土		(埋石混在)	壤土	黒色	10YR2/1	*	歌	*	*	*	
3	覆土		(埋石混在)	壤土	黒褐色	10YR3/2	*	歌	*	*	*	
4	覆土	(V b・W・埋石混在)		壤土	暗褐色	10YR3/4	*	歌	*	*	*	埋め戻し土
5	覆土	V b	主体	壤土	黒色	10YR2/1	*	歌	*	*	*	
6	覆土	*		壤土	黄褐色	10YR5/8	*	歌-しよう	*	*	*	
7	覆土	(VII主体の隣接土)		壤土	淡黄褐色	10YR6/4	*	歌	*	*	*	

図III-76 S-1

礫の記録はない。そこでC字型ないしは弓形のような形状を想定する。しかし、認識不足の為、配列を認知できなかった、あるいはH-10の構築時に抜きとられた等の可能性はある。またH-10の図(図III-17)において示されている調査区の境界から検出した礫について、S-2との関連を考慮する必要がある。

設置面は45ラインの土層堆積等で確認したところではVb層中位のあたりと考えられる。ただし特に生活面を検出することはできなかった。時期は礫の設置面と考えられる層位とほぼ同じ高さで大津式のまとまりを検出(図III-77-67・III-112-1)した。

破碎等を考慮すると、検出部分の礫は66点と想定できる。加工の痕跡があった礫は3点であり、そのうち石器は2点で、いずれも台石(図III-77-36・III-139-18/III-77-47・III-140-19)である。  
**時期:** 検出状況と遺物出土状況から縄文時代後期前葉の可能性が高い。(大泰司)

S-3 (図III-79、表6・18、図版40-3)

**位置・立地:** T-35区 最終面における標高43.00~43.20m付近の平坦面

**規模:** 0.34×0.15/0.04m

**確認・調査:** 包含層調査中、Va層において、丸みを帯びた円~垂円礫状を呈する、長径1cm程度の小さな礫が、密集している状況が認められた。人為的に集められた可能性があると考え、遺構と判断した。この礫の分布範囲を記録した後に、半截し土層断面を観察したが、掘り込み等の状況は認められなかった。なお、出土した自然礫106点については、観察表(表26)を作成した。

S-2		集積地		標高 (m)		備考	
番号	種別 (石類)	集積地 (石類) 名	成数	位置	標高 (m)	種別	備考
1	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
2	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
3	礫	安山岩	30	V1-V2層	43.81		
4	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
5	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
6	礫	安山岩	3	V1-V2層	43.61		
7	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.87		
8	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.70		
9	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
10	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
11	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.71		
12	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
13	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
14	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
15	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
16	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
17	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
18	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
19	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
20	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
21	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
22	礫	安山岩	9	V1-V2層	43.61		
23	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
24	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.72		
25	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
26	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.51		
27	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
28	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
29	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
30	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
31	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
32	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.51		
33	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
34	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
35	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
36	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
37	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
38	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
39	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
40	礫	安山岩	3	V1-V2層	43.70		
41	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
42	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.51		
43	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
44	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
45	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
46	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.51		
47	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
48	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
49	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
50	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
51	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
52	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
53	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
54	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
55	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
56	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
57	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
58	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
59	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
60	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
61	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
62	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
63	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
64	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
65	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.61		
66	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.51		
67	礫	安山岩	1	V1-V2層	43.51		

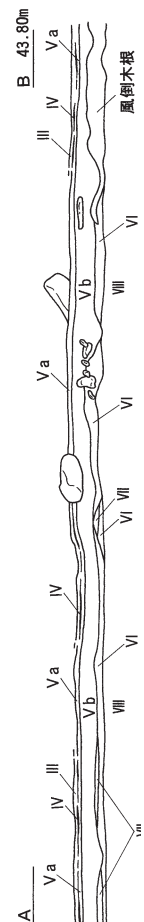
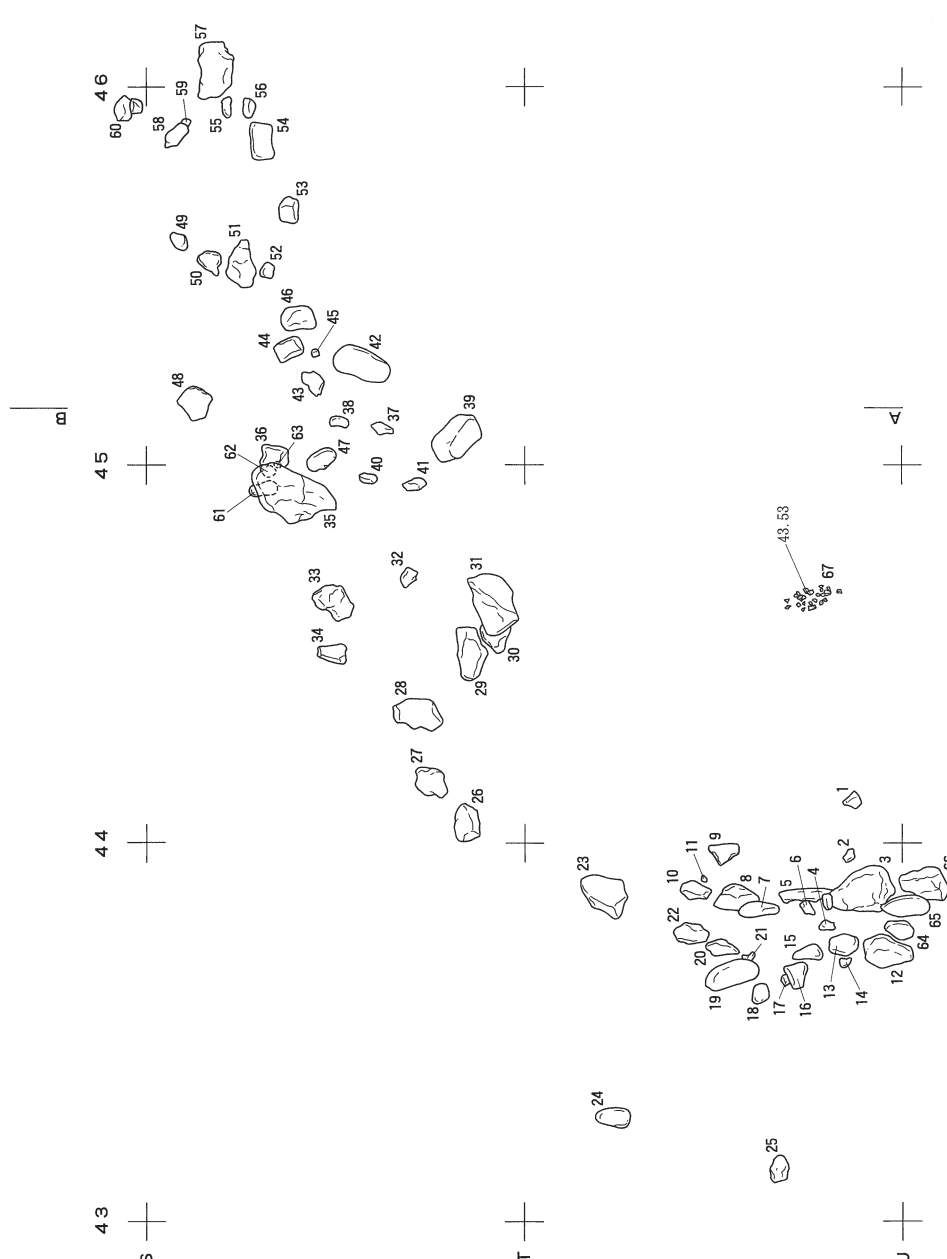
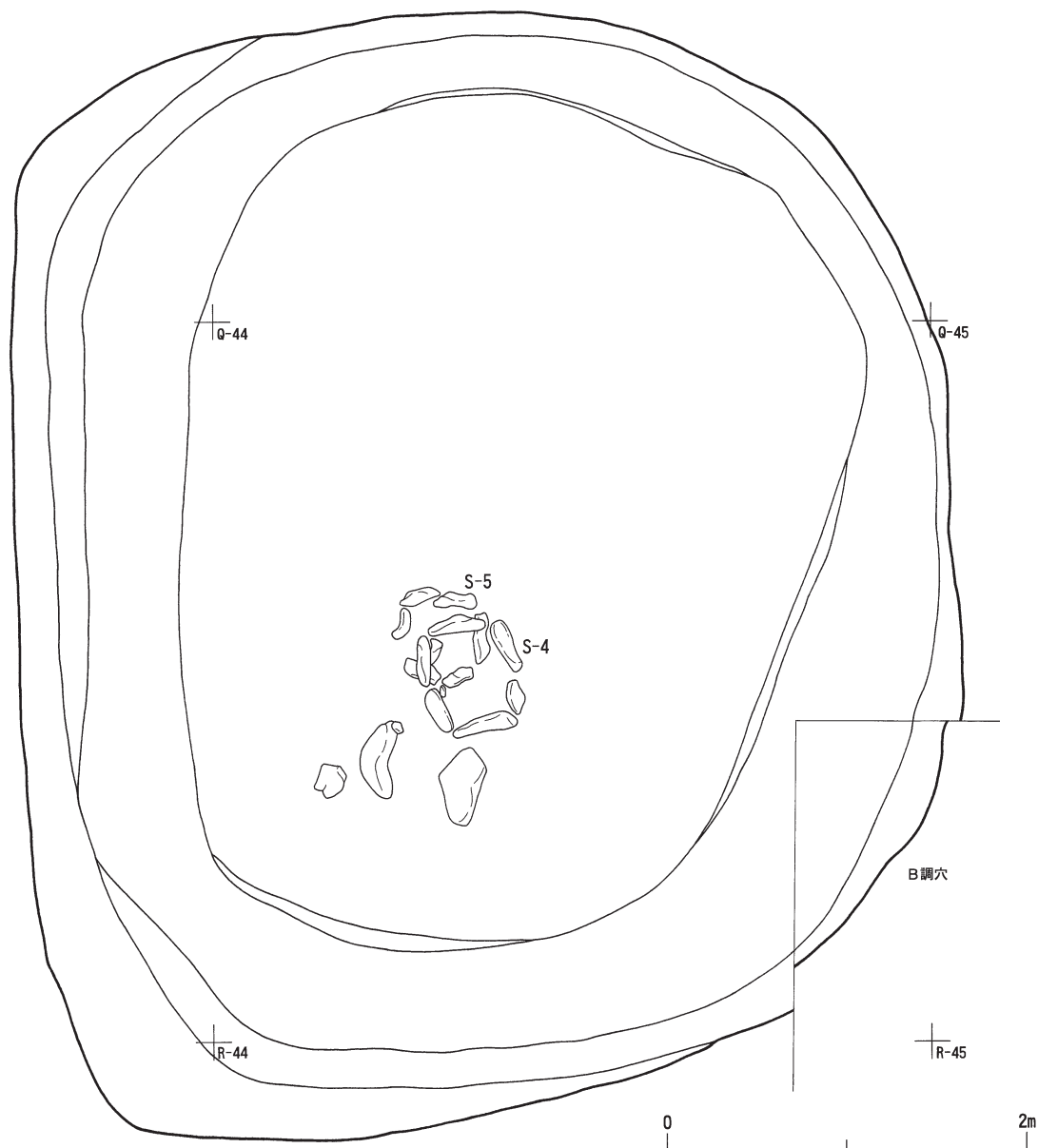


図 III-77 S-2



図III-78 S-4・5(1)

**時期**：決め手となるものがなく正確な時期は特定し難いが、周囲の包含層の出土遺物から考えると、縄文時代中～後期であると推測される。また、層位的には、IV層（B-Tm）の降下年代（約1,000年前）よりは古いといえる。（末光）

S-4・S-5（図III-78・79、表6・12・18、図版40-5）

**位置・立地**：Q-44区 標高43.40～43.60mの平坦面に構築されたH-14の覆土4層から検出

**規模**：S-4：0.68×0.46/0.23m（方形の石囲い部分のみ）

S-5：0.44×0.43/0.12m（方形の石囲い部分のみ）

**確認・調査**：H-14を調査中、土層観察用の土手部分から安山岩の石組を検出した。土層断面からは2段に石が積み上げられている様子が確認された。竪穴住居を思わせる掘り込みの痕跡や柱穴は認められなかった。土層観察用の土手をはずすと方形の石組炉が二基切り合っている状況が観察できた。

炉はいずれも礫が長方形に配されたものである。S-5の方がやや正方形に近い。その軸はいずれも北東-南西だがS-5の方がやや東-西寄りである。炉の北東側に大型の長楕円礫がふたつ配されている。上面観の楕円形長軸方向を平行にして南-北に並ぶ。その軸がS-5の長軸方向と同一で、礫の検出レベルがS-4より低い。1対の配石と石組炉が対応する例が後期前葉に多いことから、最終的にS-5に伴うものとして平面図化した。S-4はH-8覆土3層中に据え置かれたものである。S-5はH-8覆土4層上面に据え置かれたものである。取り上げ番号2の礫については覆土1層から、穴を掘って設置したものと考える。

S-4は方形の北辺をなすひとつの大型礫(図Ⅲ-79-S-4-8)を据えた後、東辺(同6・5)、西辺(同1・2)を北から順に設置し、最後に南辺(同4)を据えている。S-5は方形の西辺をなす礫(図Ⅲ-79-S-5-9)を設置後、北辺(同7・3)、南辺(同8・2)を西から順に設置し、最後に東辺(同1)を据えている。S-4は炉石の1点が台石であった。東辺の南側の礫である。他の炉石の礫については両遺構とも使用痕が認められなかった。

**時期:** H-14について、覆土3層と覆土中位からの出土遺物の状況、そして石組炉の類例から、縄文時代後期前葉の可能性が高い。(大泰司)

**S-4 フローテーション成果:** 石組み内部の土(覆土1層を主として2層上部を一部含む)は赤色味を帯びていないが、石組みの形状が炉と考えられるものであった。そこでその土をフローテーション法にて処理した。その結果、焼骨片群、炭化種子を検出した。焼骨片は鳥類の骨と獣骨に加えて魚類の骨が出土した。鳥類の骨と獣骨は種類が不明であるが、鳥類については大型の水鳥が混じる。魚類は不明なものが多い中、サメ・ニシン・カレイ・鮭が混じる。サメの中にはネズミザメの椎骨が1点混じる。炭化種子はキハダが果実片および種子片を合わせて78点出土しているのが目立つ。他にニワトコ属、ブドウ科、クリ属、そして同定不能なものを検出した。また人工遺物として焼成粘土塊を1点検出した。(詳細はV章1・2)

**S-5 フローテーション成果:** 石組み内部の土(覆土2層)は赤色味を帯びていないが、石組みの形状が炉と考えられるものであった。そこでその土をフローテーション法にて処理した。その結果、焼骨片群、炭化種子を検出した。焼骨片は魚類の骨が多くそこに鳥類の骨と獣骨が混じる。いずれも種類は不明である。炭化種子はニワトコ属、キハダ属、ミズキ属、そして同定不能なものを検出した。(詳細はV章1・2)

**S-6** (図Ⅲ-79、表6・18、表6・12・18、図版40-4)

**位置・立地:** N・O-35区 最終面における標高44.20~44.40m付近の平坦面

**規模:** 0.61×0.49/0.75m

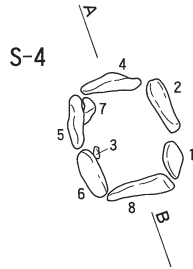
**確認・調査:** 包含層調査中、Vb層において、拳大程度の、丸みを帯びた礫(円~亜円礫状)が、密集している状況が認められた。人為的に集められた可能性があると考え、遺構と判断した。出土状況を記録した後、南西側の遺物を取り上げ、グリッドライン沿いにトレンチを設け、土層断面を観察したが、掘り込み等の様相は認められなかった。なお、出土した自然礫44点については、観察表(表26)を作成した。

**時期:** 決め手となるものがなく正確な時期は特定し難いが、周囲の包含層の出土遺物から考えると、縄文時代中~後期であると推測される。(末光)

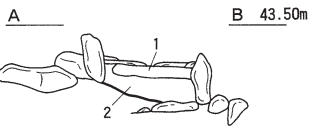


Q-44

S-4						
取り上げ番号	遺物番号	種類	遺物内容 〔土器〕 時期分類 (石器) (器種) 器石名	点数	層位	備考
1	1	礎	安山岩	1	*	伊石
2	2	礎	安山岩	1	*	伊石
3	3	瓦片	瓦片	1	*	
4	4	礎	安山岩	1	*	伊石
5	5	礎石	安山岩	1	*	伊石
6	6-1	礎	安山岩	1	*	伊石
7	7	礎	安山岩	1	*	伊石・破片
8	8	礎	安山岩	1	*	伊石



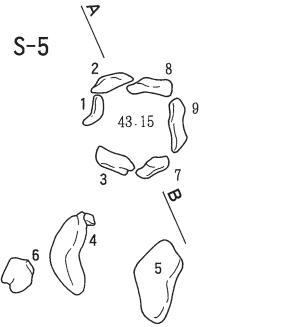
S-4																					
断面図番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)				礫 (長径2mm以上)		その他の混在物	備考										
				野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	現在割合 %			種類	混在量								
1	覆土	*		壤土	黄褐色 10YR5/8	強 *															
2	覆土	*		壤土	黒色 10YR2/1	強 しょう															



R-44

Q-44

S-5						
取り上げ番号	遺物番号	種類	遺物内容 〔土器〕 時期分類 (石器) (器種) 器石名	点数	層位	備考
1	1	礎	角閃石安山岩	1	*	伊石
2	2	礎	角閃石安山岩	2	*	伊石・接合
3	3	礎	安山岩	1	*	伊石
4	4-1	礎	安山岩	1	*	
4	4-2	礎	安山岩	2	*	
5	5	礎	安山岩	1	*	
6	6	礎	安山岩	1	*	
7	7	礎	安山岩	2	*	伊石・接合
8	8	礎	角閃石安山岩	1	*	伊石
9	9	礎	安山岩	1	*	伊石



A B 43.30m

R-44

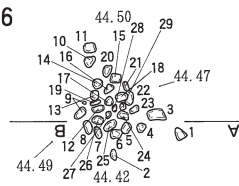
S-5																					
断面図番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)				礫 (長径2mm以上)		その他の混在物	備考										
				野外土性	全体的な色調 色名	粘着性	堅密度	種類	現在割合 %			種類	混在量								
1	覆土		(W 5% ほど)	壤土	黒色 10YR2/1	*	軟	*	*	*	*										
2	覆土	*		壤土	黄褐色 10YR5/6	*	軟	*	*	*	*	*									4層よりも粘着帯びる
3	覆土	*		壤土	黒色 10YR2/1	*	軟	*	*	*	*	*									
4	覆土	*		壤土	黄褐色 10YR5/6	*	軟	*	*	*	*	*									
5	覆土	*		壤土	黒色 10YR2/1	*	軟	*	*	*	*	*									

T-36

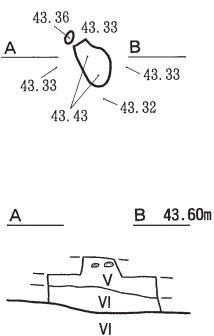
S-6

O-35

O-36

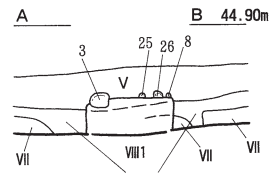


S-3



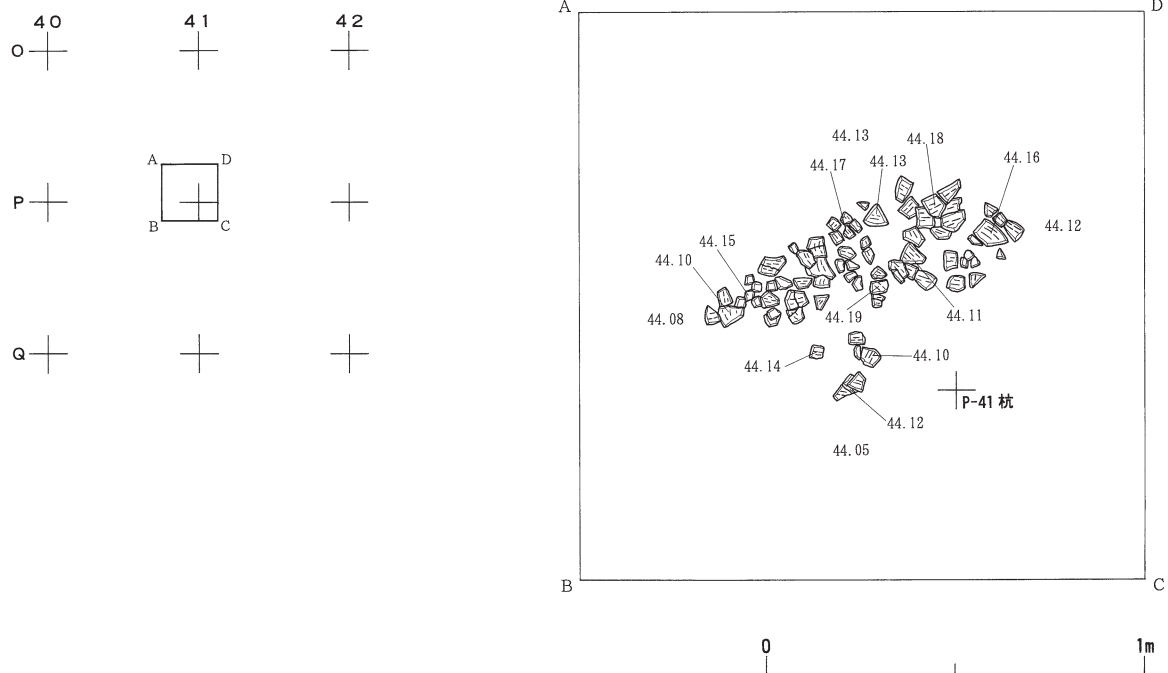
U-36

S-6						
取り上げ番号	遺物番号	種類	遺物内容 〔土器〕 時期分類 (石器) (器種) 器石名	点数	層位	備考
1	1	礎	火山礫噴火岩	1	V層	44.58
2	2	礎	安山岩	1	V層	44.59
3	3	礎	安山岩	1	V層	44.53
4	4	礎	安山岩	1	V層	44.57
5	5	礎	安山岩	1	V層	44.53
6	6	礎	火山礫噴火岩	1	V層	44.54
7	7	礎	安山岩	1	V層	44.52
8	8	礎	安山岩	1	V層	44.53
9	9-1	礎	安山岩	1	V層	44.52
9	9-2	礎	流紋岩	1	V層	44.52
10	10	礎	安山岩	1	V層	44.52
11	11	礎	安山岩	1	V層	44.58
12	12	礎	安山岩	1	V層	44.54
13	13	礎	安山岩	1	V層	44.57
14	14	礎	安山岩	1	V層	44.67
15	15	礎	安山岩	1	V層	44.54
16	16	礎	安山岩	1	V層	44.54
17	17	礎	流紋岩	1	V層	44.54
18	18	礎	安山岩	1	V層	44.54
19	19	礎	安山岩	1	V層	44.54
20	20	礎	安山岩	1	V層	44.55
21	21	礎	安山岩	1	V層	44.51
22	22	礎	安山岩	1	V層	44.52
23	23	礎	安山岩	1	V層	44.52
24	24	礎	安山岩	1	V層	44.53
25	25	礎	安山岩	1	V層	44.51
26	26	礎	角閃石安山岩	1	V層	44.51
27	27	礎	安山岩	1	V層	44.51
28	28	礎	安山岩	1	V層	44.53
29	29	礎	安山岩	1	V層	44.52



0 2m

図III-79 S-4・5(2)・3・6



図Ⅲ-80 O-40・41区土器出土状況

### (7) 遺物の集中出土

Ⅶ群土器、擦文時代前期の土器がその場で割れた状況で出土した。また別にその場で母岩を打ち欠いた状況と思われる痕跡を検出した。フレイクの集中はいくつかあったが、特徴的なものであったため、FC-1と呼称して接合作業を行った。このふたつの遺物出土状況について記載する。

#### Ⅶ群土器の出土

O-40・41区土器出土状況（図Ⅲ-80・115、表24、図版3-5）

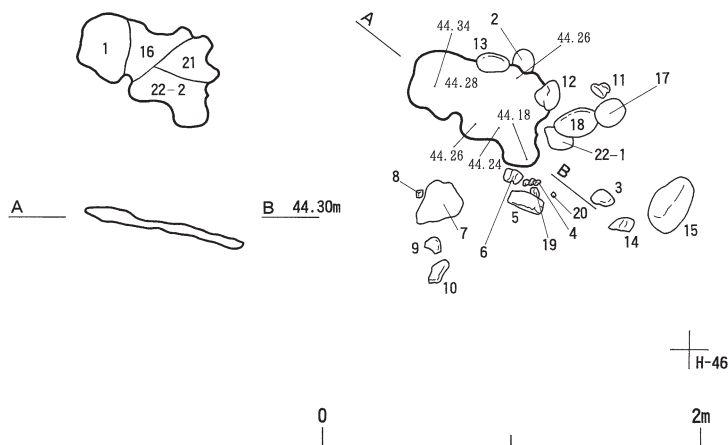
位置・立地：O-40・41区 確認面における標高44.10m付近の平坦面

規模：（分布範囲）0.86×0.44m

確認・調査：包含層調査中、Ⅲ層、Ⅳ層（B-Tm）を掘り下げた後、Va層で土器がまとまっている状況が確認された。破片はすべて同一個体のものであると判断され、部位は、口縁部、胴部の下半付近までみられたが、底部の破片は認められなかった。この出土状況を実測し、破片の半数を取り上げた後、土層断面を観察するためトレンチを設けたが、遺構等の人為的な状況は認められなかった。

時期：出土土器から、擦文時代と考えられる。（末光）

取り上げ番号	遺物内容	層位	標高 (m)	掲載	備考
1	燧石部 フレイク 頁岩 256	V b層	44.34	○	集中主体部
2	燧石部 フレイク 頁岩 25	V b層	44.28	○	
3	燧石部 扁平打製石器 安山岩 1	V b層	44.46	○	
4	燧石部 燧石 安山岩 3	V b層	44.34	○	
5	燧石部 扁平打製石器 安山岩 1	V b層	44.46	○	
6	燧石部 北海道式石冠 安山岩 1	V b層	44.41	○	
7	燧石部 燧石 燧岩 1,000	V b層	44.49	○	
8	燧石部 スクレイパー 頁岩 1	V b層	?	○	
9	燧石部 北海道式石冠 安山岩 1	V b層	44.46	○	
10	燧石部 燧石 安山岩 1	V b層	44.48	○	
11	燧石部 北海道式石冠 安山岩 1	V b層	44.45	○	
12	燧石部 燧石 燧岩 1	V b層	44.45	○	
13	燧石部 燧石 安山岩 1	V b層	44.45	○	
14	燧石部 北海道式石冠 安山岩 1	V b層	44.44	○	
15	燧石部 石皿 安山岩 1	V b層	44.42	○	
16	燧石部 フレイク 燧岩 255	V b層	44.29	○	集中主体部
17	17-1 土器 IV層a類 2	V b層	?	○	
17-2	土器 IV層a類 2	V b層	44.57	○	
18	燧石部 燧石 安山岩 37	V b層	44.55	○	
19	燧石部 燧石 安山岩 1	V b層	?	○	
20	燧石部 フレイク めのう 1	V b層	?	○	
21	燧石部 フレイク 燧岩 92	V b層	44.15	○	集中主体部
22-1	土器 I層部a類 2	V b層	44.22	○	
22-2	燧石部 フレイク 頁岩 84	V b層	44.14	○	集中主体部



図Ⅲ-81 FC-1

フレイク・チップ集中

FC-1 (図Ⅲ-81・122・135・140、表7・13・19・25)

位置・立地：G-45区 標高44.00~44.60m付近の緩斜面

規模：0.80×0.44/0.06m

確認・調査：VI層上面で黒褐色土の落ち込みに頁岩フレイクがまともに入り込んでいた状況を検出した。黒褐色土を除去したところ木根跡の穴にその場で頁岩の原石を叩き割り、そこに廃棄したことがわかった。原石は一種類の頁岩で同一母岩と考えられる(図Ⅲ-122-76)。周辺からは北海道式石冠が4点(図Ⅲ-81-6・Ⅲ-135-59とⅢ-81-14・Ⅲ-135-58を掲載、他はⅢ-81-9・11)と扁平打製石器が2点(図Ⅲ-81-3・Ⅲ-135-56とⅢ-81-5・Ⅲ-135-57)出土している。フレイクの集中主体部には縄文時代中期前半の土器が混じっており、P-29出土土器(図Ⅲ-102-3)と接合、あるいはH-1・3出土遺物(図Ⅲ-83-4)と同一個体の可能性がある破片も出土している。

時期：包含層の遺物出土状況と出土遺物から縄文時代中期前半の可能性はある。(大泰司)

FC-1以外のフレイク・チップ集中は7ヶ所検出した。いずれも小発掘区(2×2m)に満たない漠然とした範囲にフレイク・チップをよく含む土を検出した。図化はしていない。そのうちの1ヶ所D-42-d区のものについては手で回収できるフレイクを取りあげ後、周辺の土をフローテーションマシンによって洗浄し、微細なフレイク(チップ)を回収した。Va層にて検出し、周辺の遺物出土状況から続縄文時代の可能性がある。(表25・表V-6-2)他の6ヶ所は微細なフレイク(チップ)をよく含む土を検出し、フローテーションマシンで洗浄したものである。H-45-b区、K-40-b区、B-45区においてはVb層にて検出し、具体的な時期は不明だが縄文時代前期~後期の可能性がある。M-37-d区、L-38-b区、M-38-a~L-38-c区においてはⅢ層~Va層にかけて検出し、具体的な時期は不明だが、縄文時代前期~後期あるいは続縄文時代の可能性がある。(表V-6-2)

(大泰司)

## 2 遺構の出土遺物

### (1) 土器類 [図Ⅲ-82~115 表20 図版41~81]

\* 住居出土の土器 (図Ⅲ-82~98、表20-1~4、図版41~53・62~70)

H-1 (図Ⅲ-82 図版41・82~83)：1は床面HP-2に埋められていた深鉢である。頸部で打ち欠かれており埋甕炉として用いられていた。割れ口は摩滅している。底部は人為的な欠損。H-1から2グリッド離れた北東側の斜面から口縁部の破片が出土し、接合した。残存部から、4単位の波状口縁と考える。単軸絡条体地文で、不ぞろいだが同じ蹄鉄形の文様が胴部上半に連続する。Ⅲ群b-2類に相当。2と3は床面でそれぞれまとまって出土した土器である。2は3単位の波頂部が想定される小型深鉢、3は鉢形で、平口縁の一箇所に凹部があり、片口を思わせる。4は壁面と斜面上に位置するP-27出土の破片が接合した。5は覆土上位から出土した土器で胎土等を比較し、Ⅲ群b類土器の小さな器形の破片と判断したものである。床面出土遺物および埋甕が大安在B式のころの土器の組成をある程度反映していると考ええる。

H-2 (図Ⅲ-82 図版41・82~83)：1は口唇部に沈線文を持たない榎林式土器である。頸部より口縁側は沈線文を持たない。H-2より斜面上に位置するP-31の覆土、H-2より斜面下位のVc層とした、掘り上げ土層の遺物と接合した。ただし接合破片はVa~VI層にかけて出土しており、Vc層より下位の黒色土Vd層からの出土もある。2はH-2覆土中から出土したⅢ群a類土器の底部破片である。H-2の調査者は1により、調査区南西盆地状をした上流側の流路側の掘り上げ土が溜まっている土層(Vc層)は少なくとも縄文時代中期中葉より後のものと判断した。

H-3 (図Ⅲ-83、図版82~83)：いずれもⅢ群a類土器。1はH-3を掘り込んで作ったH-1覆土遺物とH-3覆土遺物、H-3の立地する平坦部で出土した土器が接合した。図示した土器は摩滅が著しい。2は表面の剥落が著しい。同じ波頂部の破片と考えられるが割れ口が摩滅しており接点がなかった。3は覆土の比較的床面に近い高さから出土した破片である。地文のみの土器破片だが、Ⅲ群a類のうちでも新しい土器と考える。4はH-1覆土遺物とH-3覆土遺物、H-3の立地する平坦部で出土した遺物、H-3に対して南西側斜面下出土遺物(P-34覆土出土を含む)や、北東側斜面下出土遺物(FC-1に混在した土器を含む)と広い範囲から出土した土器である。張り出す突起部分が特徴的である。

H-4 (図Ⅲ-83、図版82~83) いずれもⅢ群a類土器。1はH-4より北東側斜面でまとまって出土したものと、H-4から出土したものとが接合した。2はH-4より北東側斜面の広範囲で散点的に出土したものと、H-4およびそれと切り合うH-1、H-3から出土したものである。これらは一部南西側斜面にも及ぶ。焼成が良くないためか締まりのない胎土であり、このような特色は三次郎川右岸遺跡の縄文時代中期中葉の土器によく見られるものである。

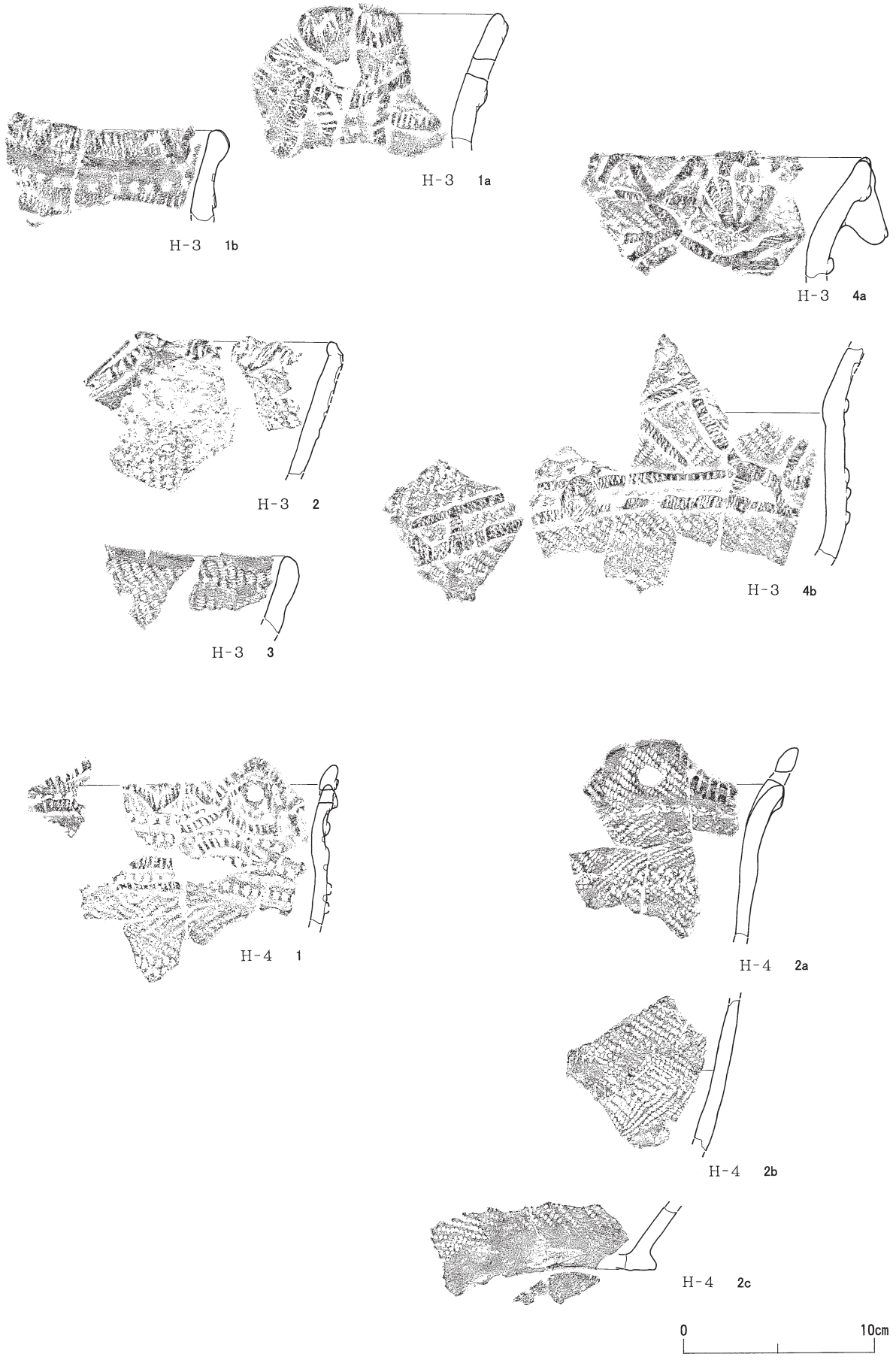
H-5 (図Ⅲ-84、図版42・64)：1はⅢ群b類土器の埋甕である。炉をなしていたと考えられ、口縁部のおおよそ半分は打ち欠かされている。住居の内側を向いた部分、方位で言えば南側が欠損している。2は覆土中位(主に7層)から破片がまとまって出土した。3単位の波頂部には渦巻き文との類似を思わせる短沈線がある。Ⅲ群a類あるいはⅢ群b-1類に属するもの。3は覆土中位(主に7層)から破片がまとまって出土したⅢ群b-1類土器。胴部破片の一部は床から出土した。包含層ではH-5より斜面上位からの出土である。口唇には沈線による渦巻き文。4は覆土下位と斜面上位からの出土遺物が接合した。5は無文地の波頂部で床面からの出土である。6は覆土中位と下位そして斜面上位からのものが接合した。7は埋甕であるH-1-1と同じ文様と器形で、より小型の土器である。





図III-82 住居跡出土土器類(1)/H-1・2





図Ⅲ-83 住居跡出土土器類(2)/H-3・4

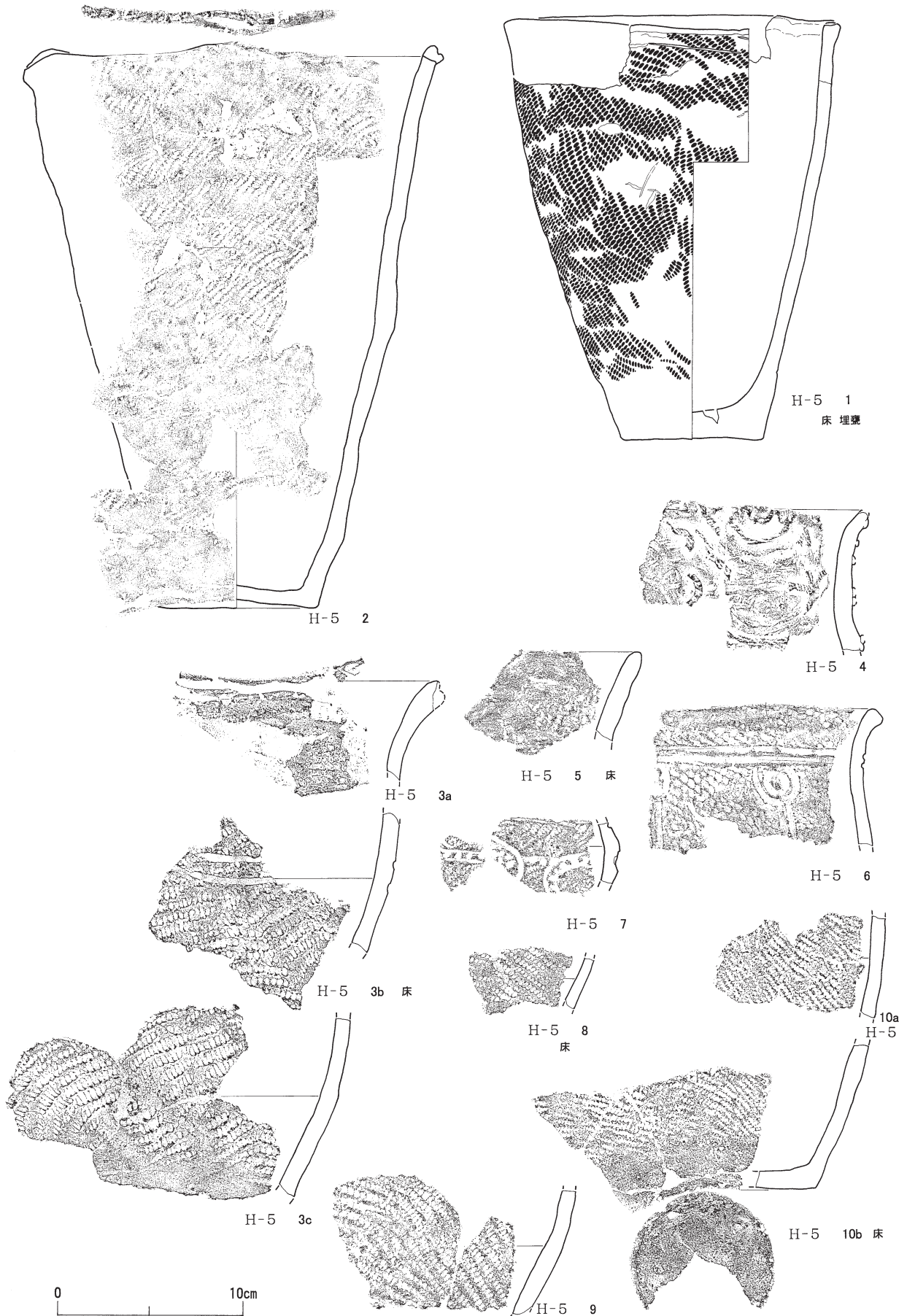


圖 III-84 住居跡出土土器類(3)/H-5

図示したうち左側の小破片が当住居の覆土出土である。縁辺が打ち欠かれており、三角形をした再生土製品の可能性がある。覆土1層下位の礫集中から出土した。8は床面出土である。埋甕と比較すると住居の時期を反映している可能性がある。9は覆土中位から出土したもの。Ⅲ群a類土器で、2と同様に中期中葉の胴下部破片と考える。10はI・J-46区、L-41区といった遺構より20mほど離れたものと覆土のものが接合した。4はⅢ群a類、6・7はⅢ群b-2類に相当する。5・8~10は胎土等から判断してⅢ群b類に分類した。

H-6 (図Ⅲ-85、図版42)：1は底面際に縄文施文帯を設け、その上部には不整な網目状絡条体を施す。覆土の中位以上からのものと周囲の包含層出土のものが接合した。当遺跡ではこのような底部際まで節が明瞭な縄文を施すⅣ群a類土器は口縁部に貼付帯を有する傾向がある。

H-7 (図Ⅲ-85・86、図版42・43)：1~5はⅣ群a類土器。1~3は覆土中からまとめて出土した。1は1個体まとめて出土した。胴部上半に最大径を持つ土器である。条痕充填文様を持つ。条痕は区画内において等間隔ではない。2は胴部の最大径より上がまとめて出土。3は周囲の包含層の破片2点が接合した。大津式に類似する波頂部と横走する縄文に特徴がある。4・5は覆土からの出土。4は大津式の大形土器の破片。等間隔の整った条痕を充填したもの。5は沈線文を有する小型器形の底部である。

6・7はⅢ群a類土器。いずれも覆土中からまとめて出土した。6はH-10・19および周辺の包含層出土のものが接合した。円筒上層式に起源を持つ細い隆帯の貼付文を持つ。7は隣接するP-53からも同一個体の破片が出土している。貝殻を立てたような形状の突起を持つ。

H-8 (図Ⅲ-86・87、図版43・44・65)：1はⅢ群b-1類土器。覆土上位の黒色土落ち込みと下位である覆土8層のものが、同形の住居H-14覆土の中位、覆土4層の遺物、そして、傾斜的にH-8より斜面上方の包含層から広範囲(K~O-32~44区)にわたり散点的に出土した遺物が接合した。

2~7はⅣ群a類土器。いずれも覆土上位、黒色土層からの出土である。2~4は周辺包含層遺物と接合した。2は球形の胴部に半截竹管の刺突による充填文。3と4は無文の壺。5は底部際まで縄文を施文する底部。6はⅢ群b類の可能性もあるが、胎土の質と色調から時期比定した。7は器表面の調整時に条痕がついたものである。当期の充填文に用いるような条痕である。8・9はⅢ群a類土器。8は打ち欠き痕があり、再生土製品製作途中の可能性もある。壁面際、覆土7層からの出土である。9は覆土上位黒色土層からの出土である。Ⅳ群a類の可能性も考えたが胎土の質と色調から時期比定した。H-8では住居廃絶後の窪みへⅣ群a類をまとめて廃棄した状況が考えられる。

H-9 (図Ⅲ-87・88、図版44・66)：1・2・4はⅢ群b類土器である。1は埋甕で炉の可能性もある。底部は人為的な欠損と考える。8m離れた発掘区の包含層出土のものと接合した。2と3は榎林式である。掘り上げた土が再流入したと思われる覆土2層から出土したものと包含層出土のものが接合した。隣接するK-39区に破片はまとまっていた。2は3より新しい時期のものであり、頸部隆帯の半截竹管押し引きに特徴がある。3は輪積み痕から剥落したような破片。Ⅲ群b-1類に分類した。4は床面直上の覆土1層のものと、覆土3層のものが接合した。当住居の時期に近いものと考えられる。5・6は再生土製品。Ⅲ群b類土器を素材とし、5はb-1類。いずれも中央に穿孔を持ち、5は覆土2層、6は3層からの出土。6は打ち欠いた後、擦りによる成形痕跡。

H-10 (図Ⅲ-88、図版45・66)：いずれもⅣ群a類。1は上部黒色土層からまとめて出土した。横走する縄文地文の小型深鉢。2は図示した左下の小破片が床面からの出土である。トリサキ式の胴部を思わせる平行沈線による渦巻き文様が認められるが、口縁部文様帯が大津式の磨消文様と共通するため大津式と判断した。3~7は床面からの出土。3・4は横走する縄文地文。5は口縁に貼付帯。



6・7はミガキ調整によって無文地の胴下部を持つ底部である。7は周辺の包含層出土のものと接合。H-11(図III-89、図版45・46・62・65)：いずれもⅢ群a類で、円筒上層c式前後のものである。4はb式の可能性がある。H-11廃絶後、覆土上位の黒色土あるいは黒色土の混在する割合が高い土層からの出土である。3・6は隣接する包含層のⅥ層遺物と接合している。口縁部文様帯が残る1～4については矢羽根状縄線圧痕を隆帯上に押圧している。5はT字形の土製品で、横方向に貫通孔を持つ。L縄線を表面に押圧する。裏面を下に置いた際、地面と接する部分について焼きが甘い土器から剥離したのではなく、製作時に焼成した際の設置面と考えた。2・6の底面は編み物圧痕の上からミガキを施した状況である。6は3の胴下部の可能性がある。7の底面形は楕円形である。

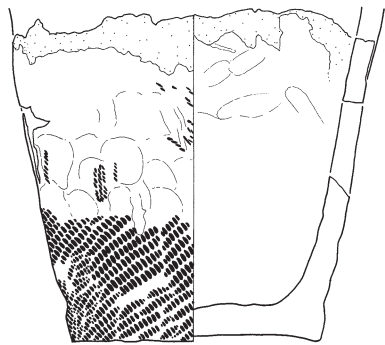
H-14(図III-90・91、図版46・47・67・68)：1～11・13・14はⅣ群a類、12・16・21はⅢ群b類、15・17・20はⅢ群b-1類、18・19はⅢ群a類である。Ⅳ群a類は覆土3層以上、覆土上、中位からの出土である。1・2・3・5・6・9は覆土3層からまとめて出土した。1は2単位の浅鉢である。整った条痕による充填文。2は2本一組の沈線で施文。3は草本の茎による刺突充填文。規則的な3単位の文様を思わせるが、強いミガキで文様が消されて規則性が崩れている。5は折り返し口縁で無節縄文が横走する。6は3単位の小型深鉢。9は波頂部を縄文原体で押圧している。4は覆土上位のものと同遺構の北西側斜面でより下位から出土したものが接合した。横走する縄文地文であり、2単位波頂部は押圧などの形状から大津式の時期のものと考えられる。7は覆土上位にまとまっていた破片が、覆土中位や、同形の住居であるH-8との間の空間、そして、より斜面上方の包含層からやや低いところにいたる広範囲(O～R-32～47区)にわたり散点的に出土したものである。P-46区からの出土が多い。10は覆土中位から上位にかけて散点的に出土したものが周辺の包含層のものと接合した。10は焼成が良好で、3本一組の沈線による文様構成。折り返し口縁。11は覆土中位にまとまっていたものが上位のものと接合した。口縁に無文帯があり、縦方向の縄線を垂下させるように押圧。

8・13・14は覆土上位のものである。8は周辺の包含層のものと接合した。波頂部の押圧は縄の可能性はある。13・14はいずれも無節の縄文地文である。12は覆土3層のものが覆土上位のものと接合した。内外面に輪積み痕が明瞭である。縦走する縄文地文。15は覆土上位と横に位置するP-39最上位の覆土1層そして隣接する包含層から出土した。当遺跡において中期中葉の土器に特徴的なしまりのない表面が乳黄褐色の器表面である。16は覆土下位の6層からまとめて出土した小型のⅢ群b類深鉢下半部である。張り出す底部形態である。

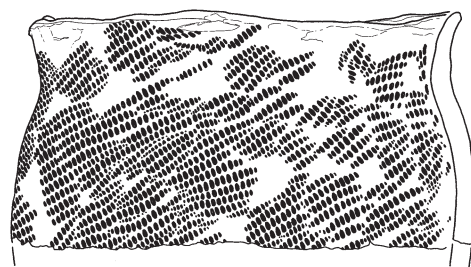
17～19はⅢ群a類土器でかつ中期中葉の土器である。この時期は当遺構の構築時期に推定される。17は壁際の覆土8層と覆土中位のもの接合した。18は覆土上位のものとT-49区のもの接合した。19は覆土上位のものと遺構わきの包含層のものと接合した。V3層でまとめて出土したこの土器は掘り込みないしは掘り上げ土等の構築に関連する面を反映している可能性がある。

20・21は再生土製品である。どちらも中央に穿孔があり、縁辺を打ち欠き後、擦って成形している。H-15(図III-92、図版47・69)：1～4はⅢ群b-1類、5はⅢ群a類である。1・2は床面出土。1はゆるやかな2単位の波頂部である。2は縦方向施文の縄文地文。波頂部には渦巻き文に類するU字形の短沈線。H-15より斜面の下位出土包含層のものと接合した。3・4は覆土2層、5は覆土3層からの出土である。3は口唇部に沈線文。4は口唇部に平坦面をとる。縦方向施文の縄文地文の5は摩滅が著しい。波頂部中央に把手の剥落した痕跡がある。

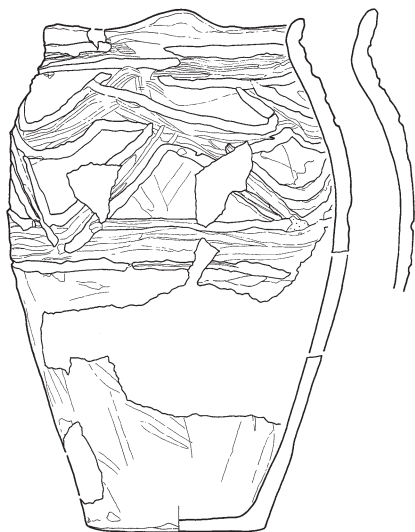
H-16(図III-92・93、図版47・48・69)：1はⅢ群b-1類、2・3はⅢ群b類。4・5はⅣ群a類である。1は床面からまとめて出土し、覆土3層のものと接合した。接合残としたものは碎片である。横倒しの状態で埋没していたため上面観は楕円形である。内面は調整時のものか、細かい擦痕



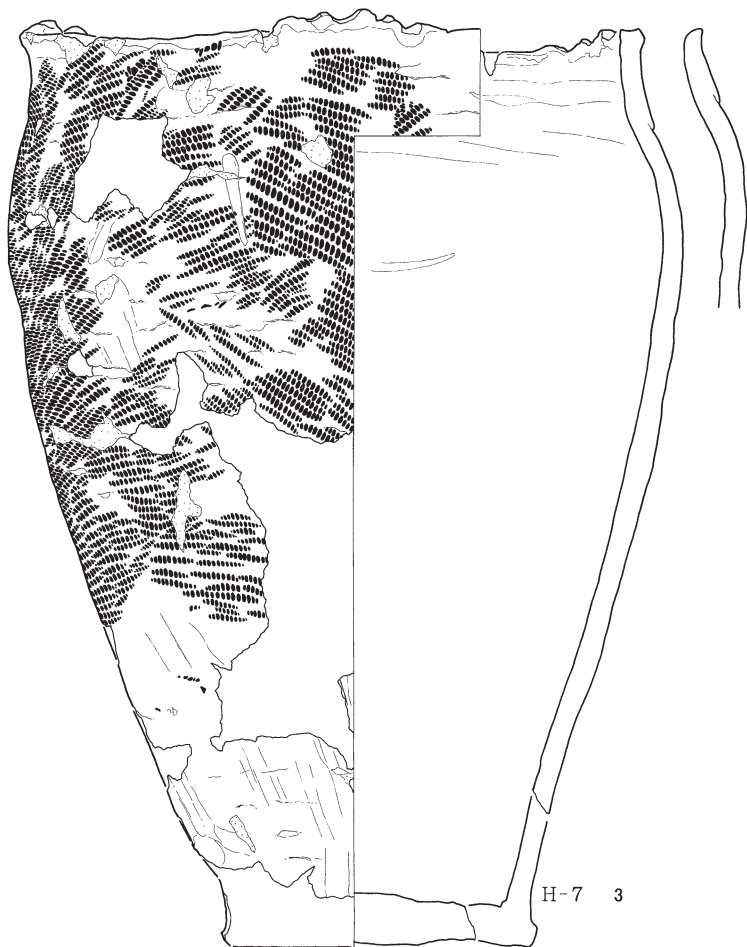
H-6 1



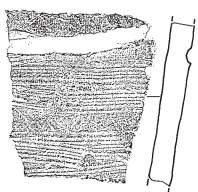
H-7 2



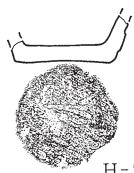
H-7 1



H-7 3



H-7 4

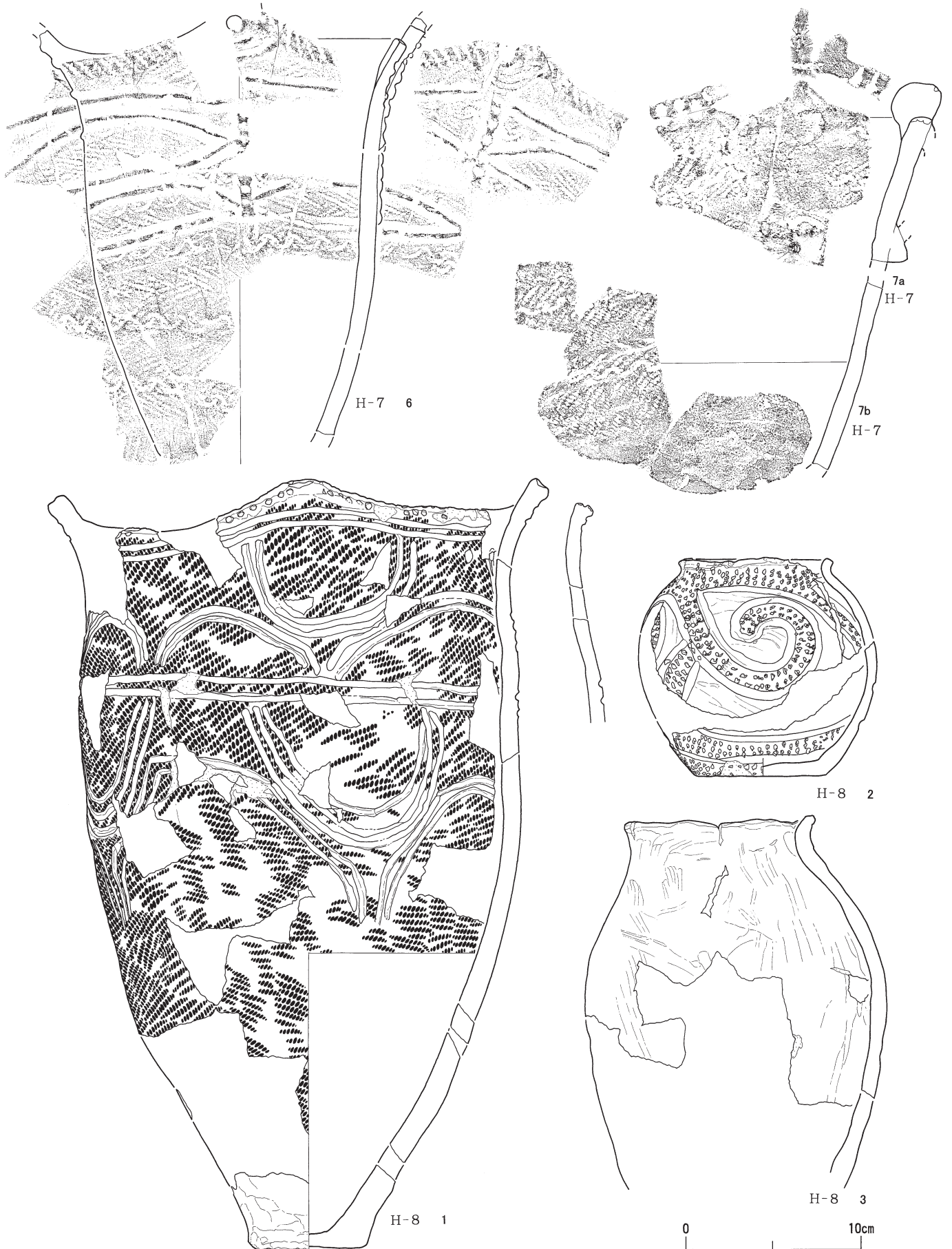


H-7 5



图Ⅲ-85 住居跡出土土器類(4)／H-6・7(1)

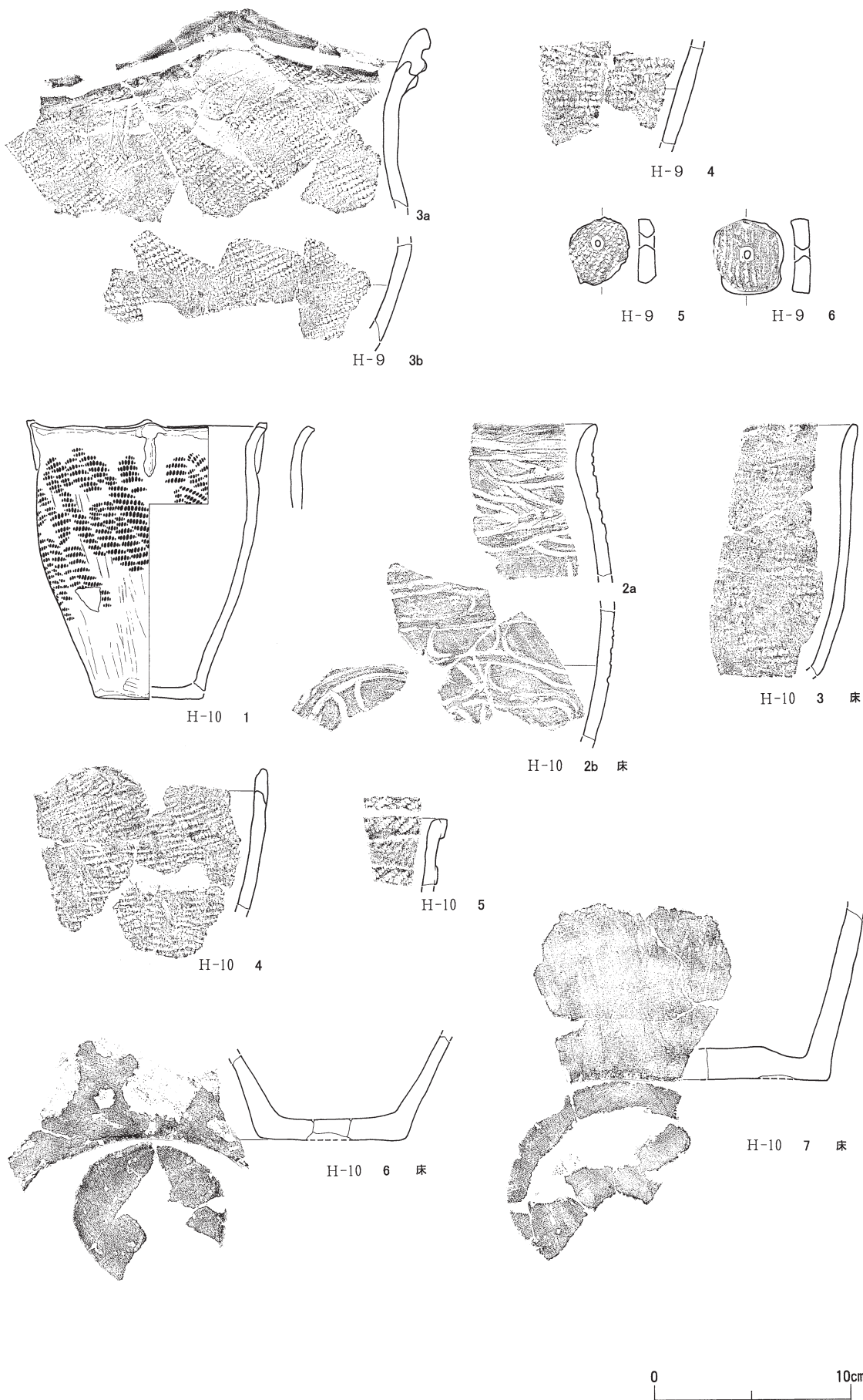




図III-86 住居跡出土土器類(5)／H-7(2)・8(1)



图 III-87 住居跡出土土器類(6) / H-8(2) · H-9(1)



図III-88 住居跡出土土器類(7)／H-9(2)・H-10



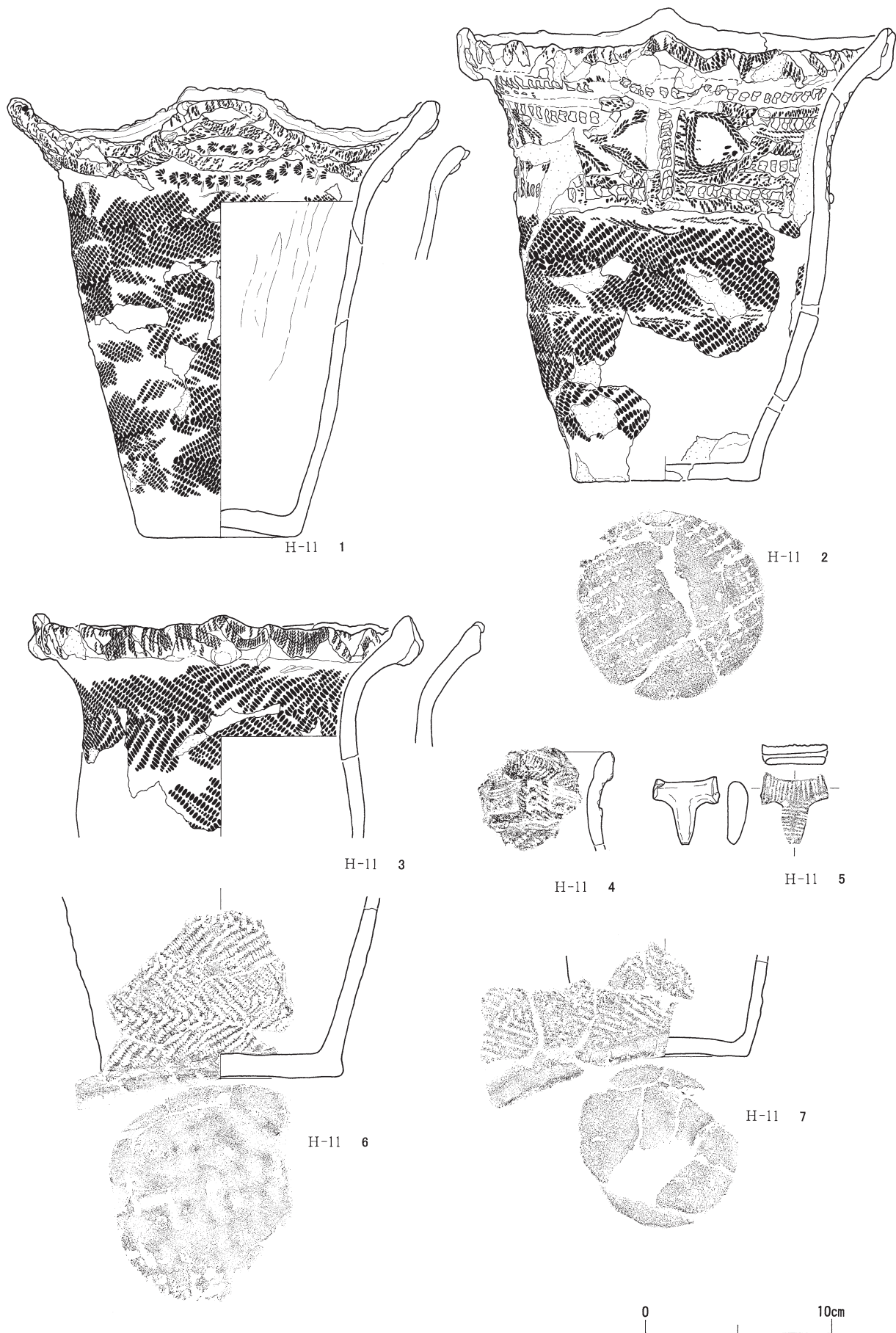


圖 III - 89 住居跡出土土器類(8) / H - 11

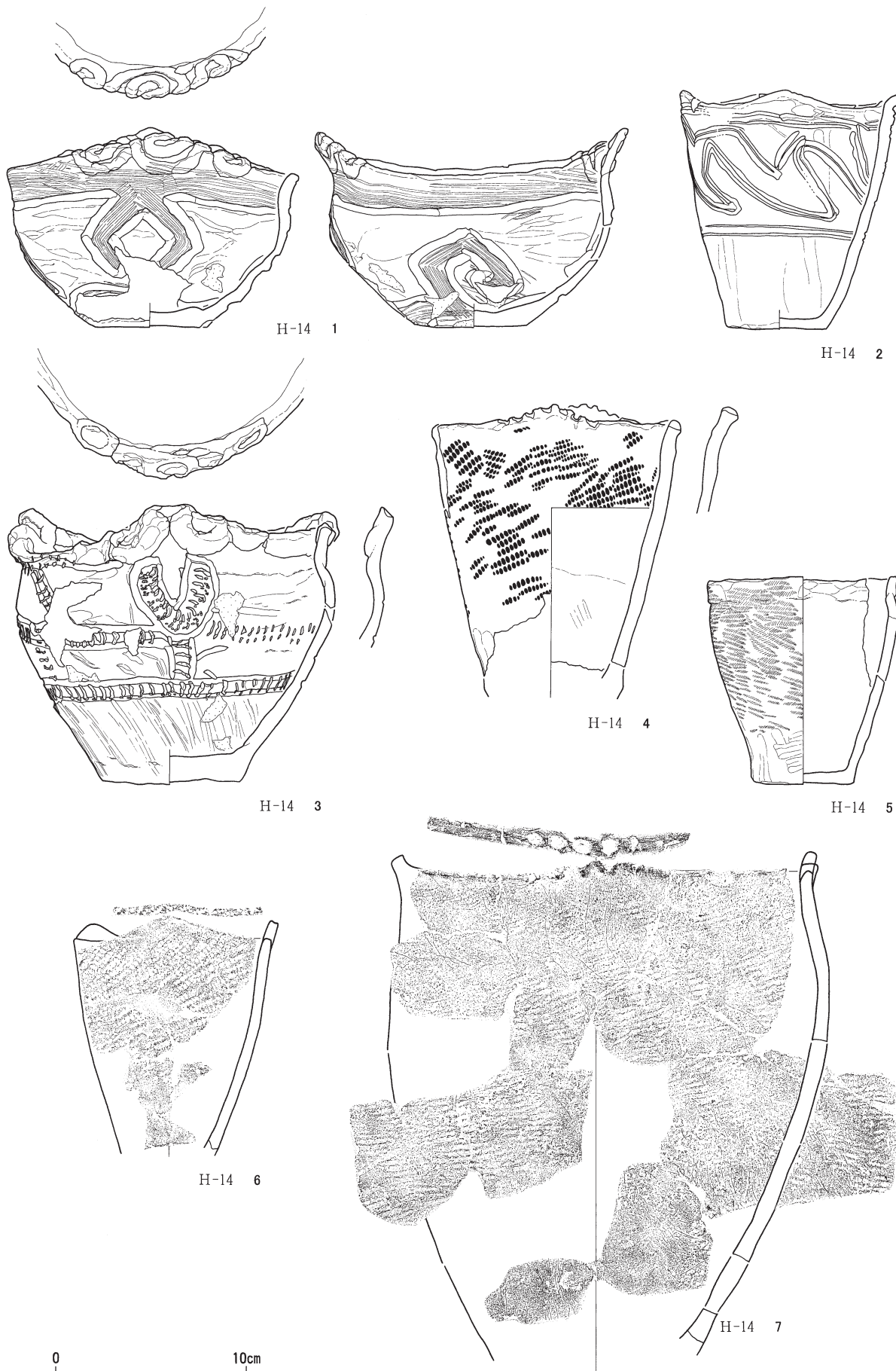
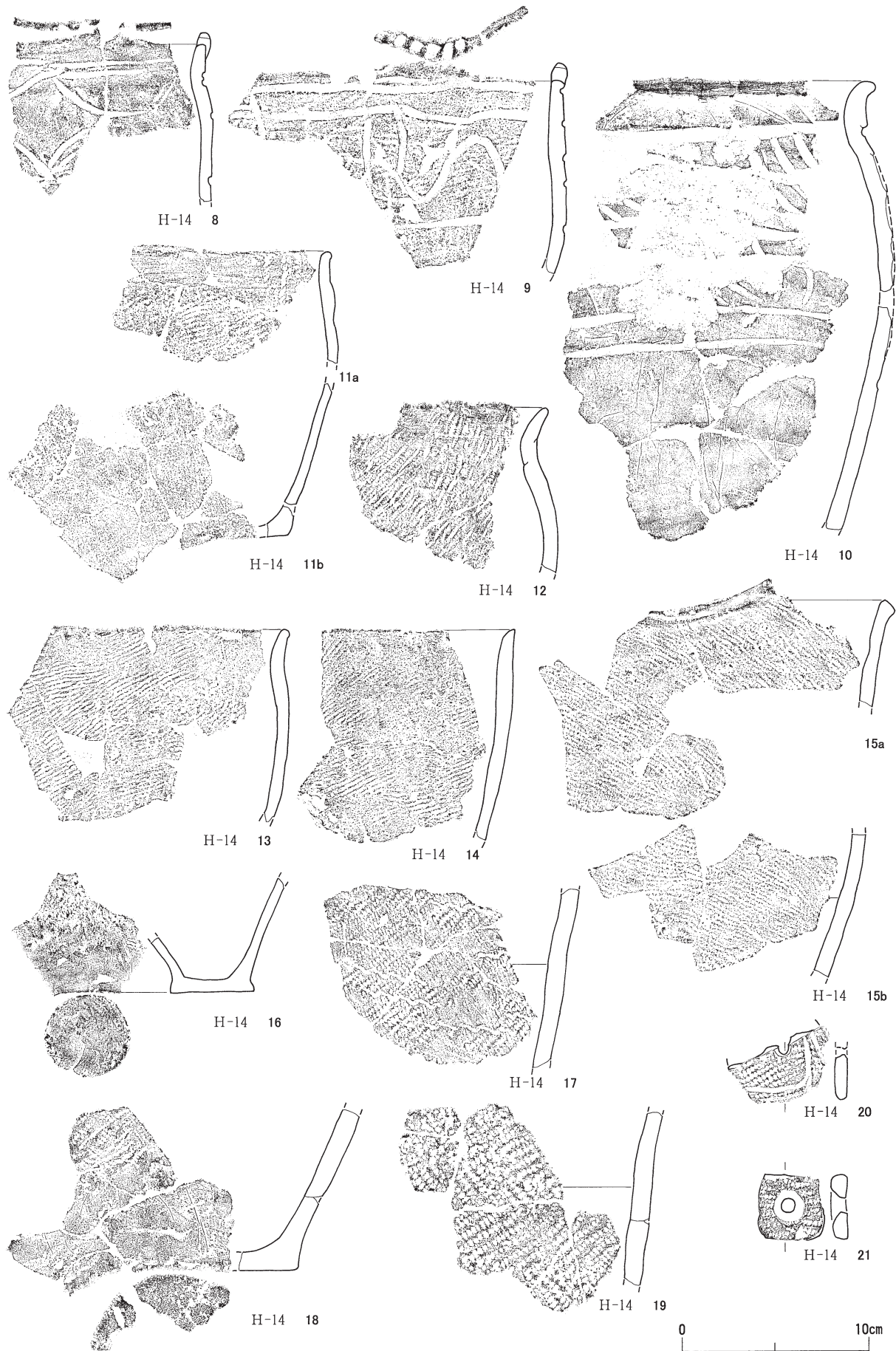


圖 III - 90 住居跡出土土器類(9) / H-14(1)





图Ⅲ-91 住居跡出土土器類(10)/H-14(2)

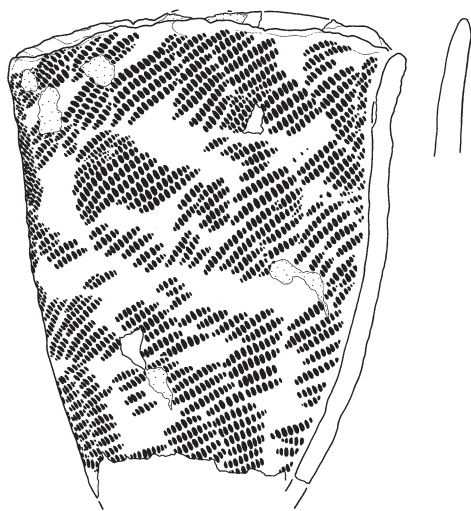
が横方向に巡る。2・3は小型の深鉢で、やや張り出す底部形態。2は覆土1層から、3は覆土2層から、まとめて出土。2は縦走する縄文地文。3はより小型で、縦方向の擦痕による地文。4は幅広い沈線間を半截竹管の刺突で充填する。口縁部の粘土紐の上には縄文施文。微妙な上げ底である。H-16覆土1層のものとK~R-41~44区のVa~V2層にかけて散点的に出土したものが接合した。Q-42区から比較的集中して出土した。5は覆土出土のものと隣接するP-42区の掘り上げ土中およびその上位にあたるV1・V2層出土遺物が接合した。ナデ調整で無文にした後、浅い沈線文を施す。

H-17 (図III-93・94、図版48・49・69)：いずれもIV群a類である。1は横走する縄文地文。床面および覆土1層、HP-1覆土のものが接合した。6単位以上の波頂部を持つ。2は上面観楕円形。覆土1層と床面のものが接合した。3は整然とした条痕で充填文を施す。覆土1層出土のものと12m離れたT-38区、Va層出土のものが接合した。4は覆土1層出土のものと周辺の包含層のものとが接合した。原体が複節のIV群a類大型深鉢は特徴的であり、同一個体破片と推定できるものはL~T-38~48区に分布し、複数の遺構覆土中からも出土する。5は5単位の波頂部を持つ深鉢であり、覆土1層およびP-72の上位覆土である覆土1・2層、および隣接する包含層遺物が接合した。

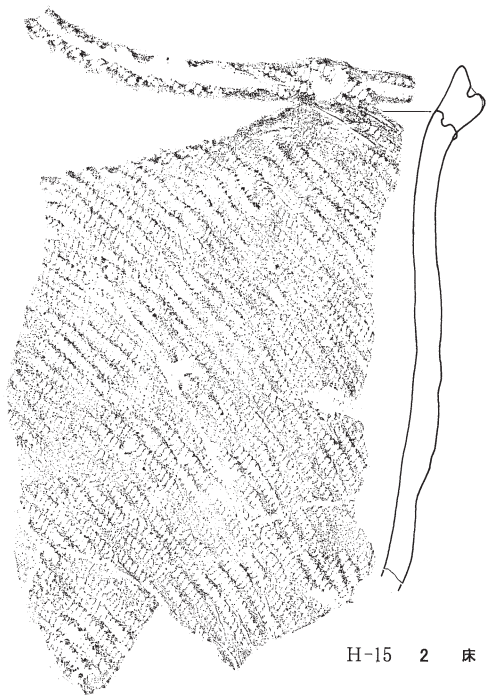
H-18 (図III-94・95、図版49・50・69)：いずれもIV群a類である。1は覆土中位および3層の遺物と隣接するP-73覆土上位、周囲の包含層V2~3層出土遺物と接合した。破片は比較的覆土中位にまとまっていた。整然とした条痕による充填文様施文。2は覆土中位出土遺物で、周囲の包含層のものと接合した。R-42区のVa~VI層にかけて散点的に出土したものがまとまった。3単位で多段の折り返し口縁を持つ。3は覆土中位とHF-1出土のもの、そして周辺の包含層から散点的に出土したものが接合した。整然とした条痕による充填文を持つ。砂粒が多いため粗雑な印象を受ける。4は覆土3層からまとめて出土したものがR-36区の遺物1点と接合した。無節の縄文地に粘土紐を表裏に貼り付けた口縁部を持つ。5は覆土3層からまとめて出土したものがT-41区の遺物1点と接合した。4単位の波頂部には指頭圧痕がある。6は縄文を横走させた上をナデ調整。覆土中位および3層から出土したものが、L-47区出土のものと接合した。

H-19 (図III-95・96・97・98、図版50・51・52・53・70)：1~12はIV群a類、13・14・15・16・17・19はIII群b-1類、18はIII群b類に分類した。1は覆土1・2および上位から出土したものとQ~S-34~45区のもの接合し、掘り上げ土中のおよびVa~V3層のものが接合した。焼成良好だが、中心軸は斜めにゆがむ。折り返し口縁で不整な条痕による充填文。2は覆土1層とH-14覆土上位のものが接合。口縁成形後縄文施文。3は覆土1層からまとめて出土したものと周辺の包含層出土のものが接合。不規則な浅い沈線文。4は覆土1層からまとめて出土。折り返し口縁、波頂部には粘土紐貼付。5は覆土1層出土のものが2層および周辺包含層のものと接合。無文地で3単位、胴部には横方向の条痕が走る。6は無文地で2単位の波頂部。覆土1層の遺物とH-14の中、上位のものが接合。7は輪積み痕を残すような縦方向のミガキにより無文地である。R-41・Q-42区でそれぞれある程度まとめて出土した遺物と覆土1層から出土した遺物が接合した。8は折り返し口縁を成形後無節縄文を横走。原体の回転痕残る。9は無節縄文が縦走する地文。内面も同一原体で縄文施文。口唇部は指頭圧痕の連続部が5か所ある。P~R-36~48区のVa~V3層から散点的に出土したものが覆土1層のものと接合。10は覆土1・2層出土のものとR-41区である程度まとまっていたものが接合した。11は覆土1層出土遺物とR-41区にある程度まとまっていた遺物が接合。10・11は不整な擦痕を充填する文様である。11は内面に輪積み痕が残る。12は覆土1層出土のもの。微妙な上げ底の沈線文を持つ土器。

13はH-16および19の床面遺物が接合した。19の方が主体である。H-16覆土3層と隣接する包含



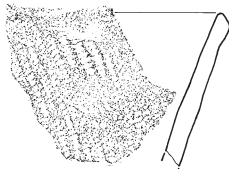
H-15 1 床



H-15 2 床



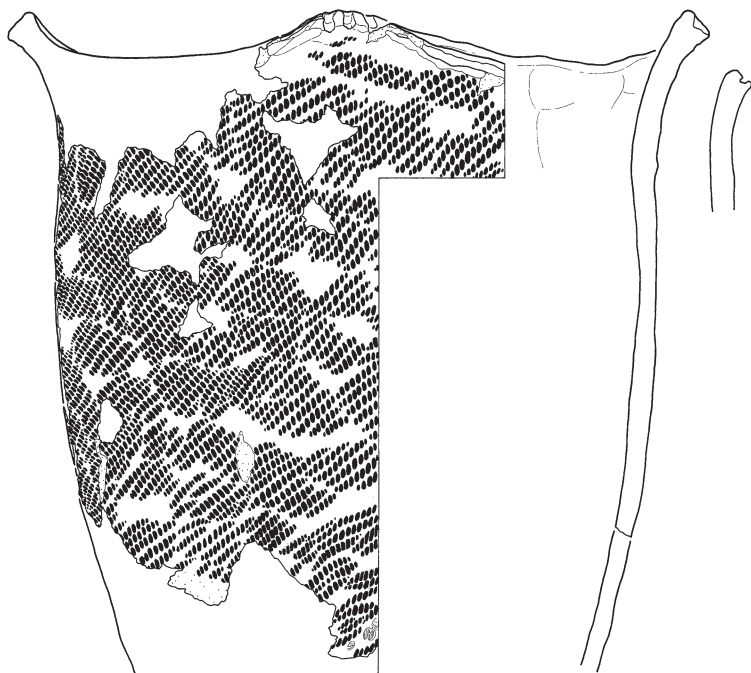
H-15 3



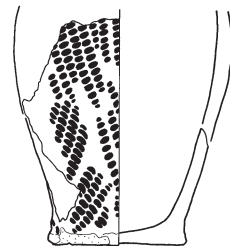
H-15 4



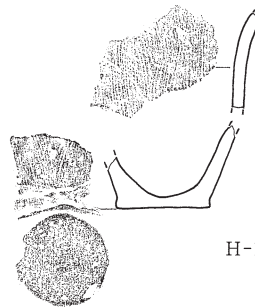
H-15 5



H-16 1 床



H-16 2



H-16 3



图 III-92 住居跡出土土器類(11) / H-15・16(1)



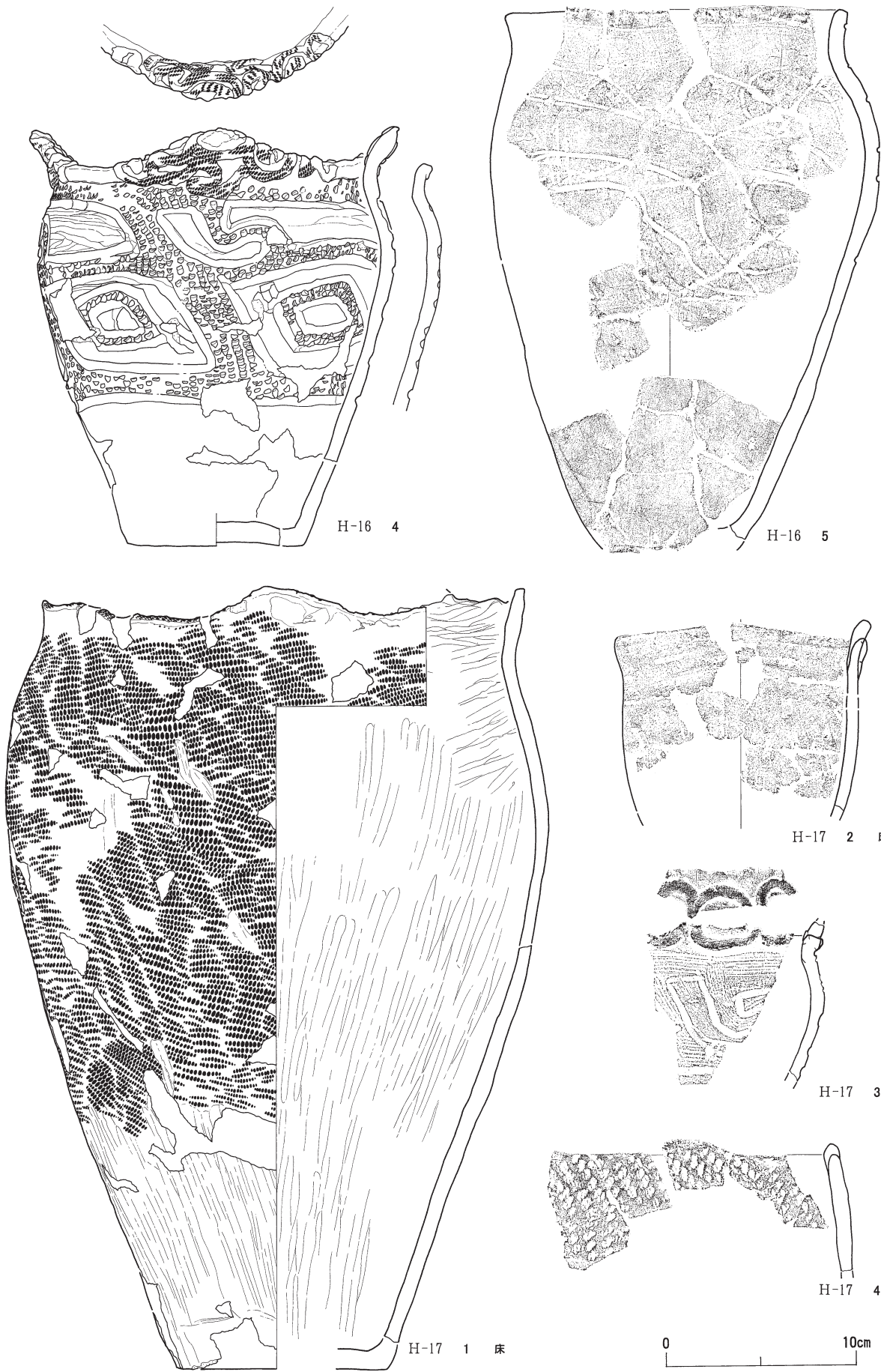
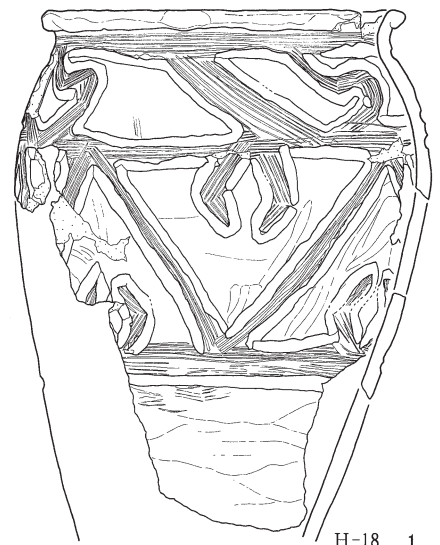


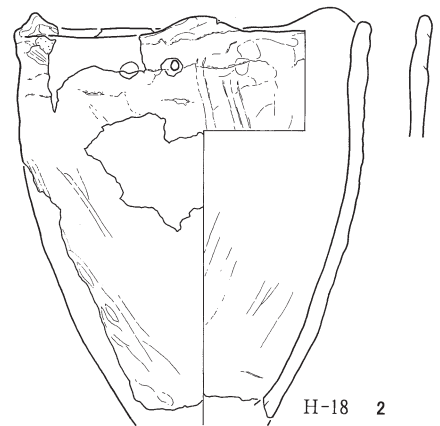
图 III - 93 住居跡出土土器類(12) / H - 16(2) · H - 17(1)



H-17 5



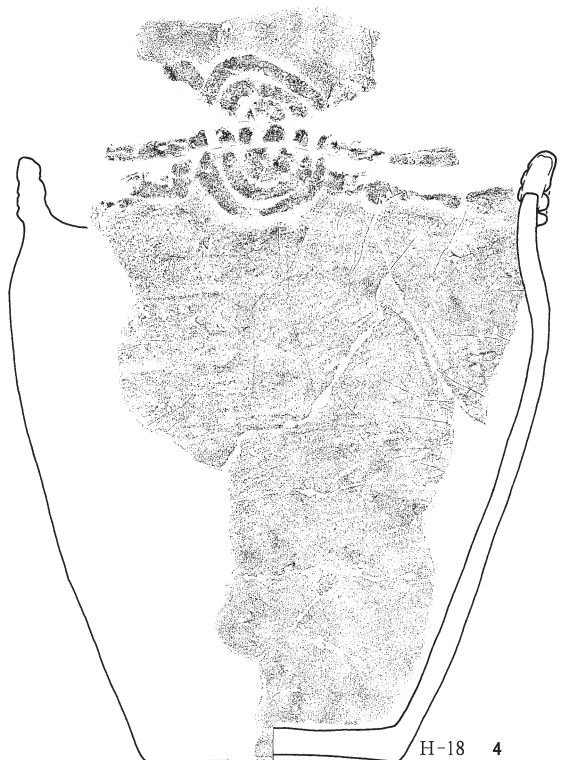
H-18 1



H-18 2



H-18 3 床



H-18 4

0 10cm

图 III-94 住居跡出土土器類(13) / H-17(2) · H-18(1)



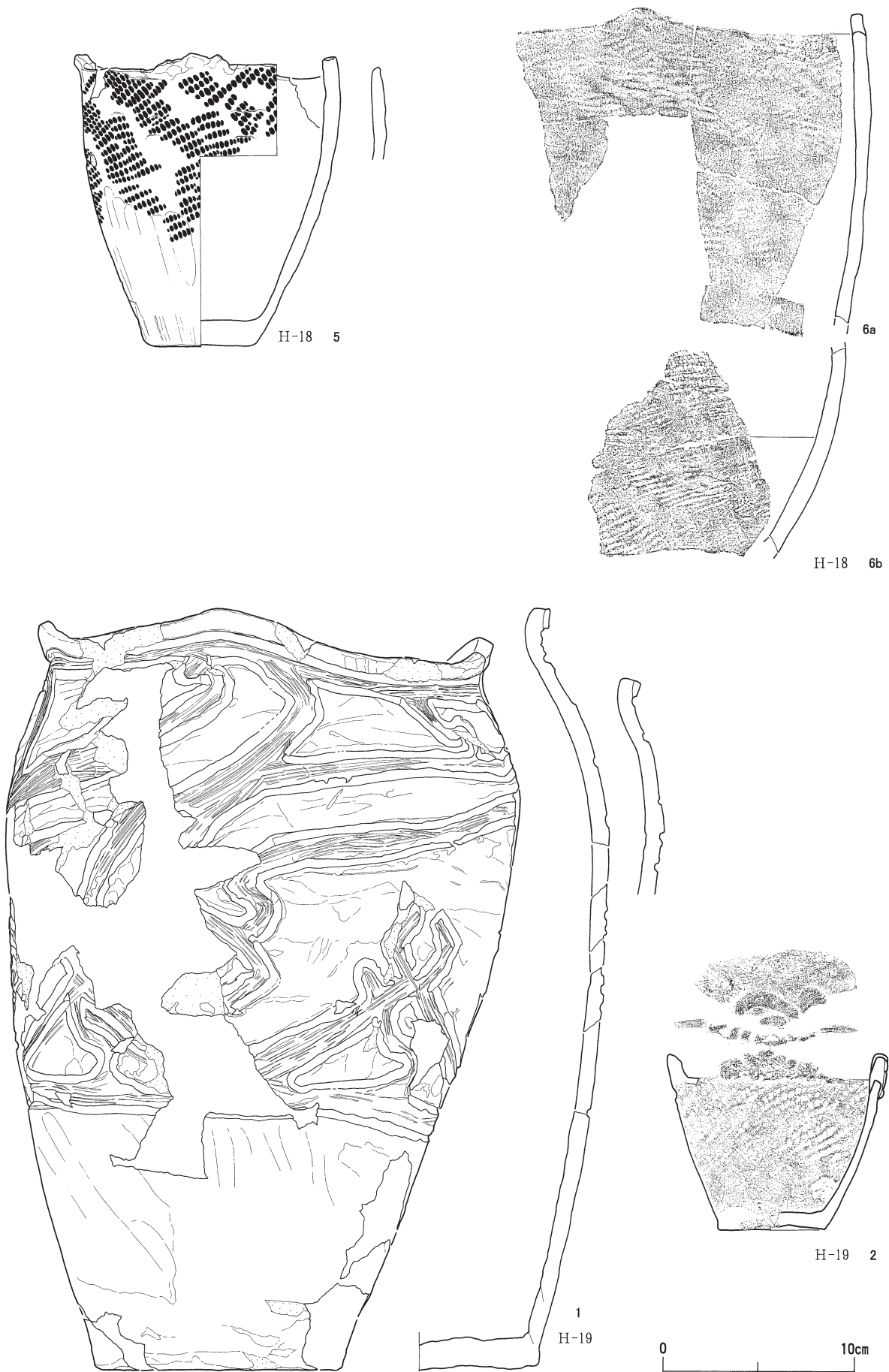
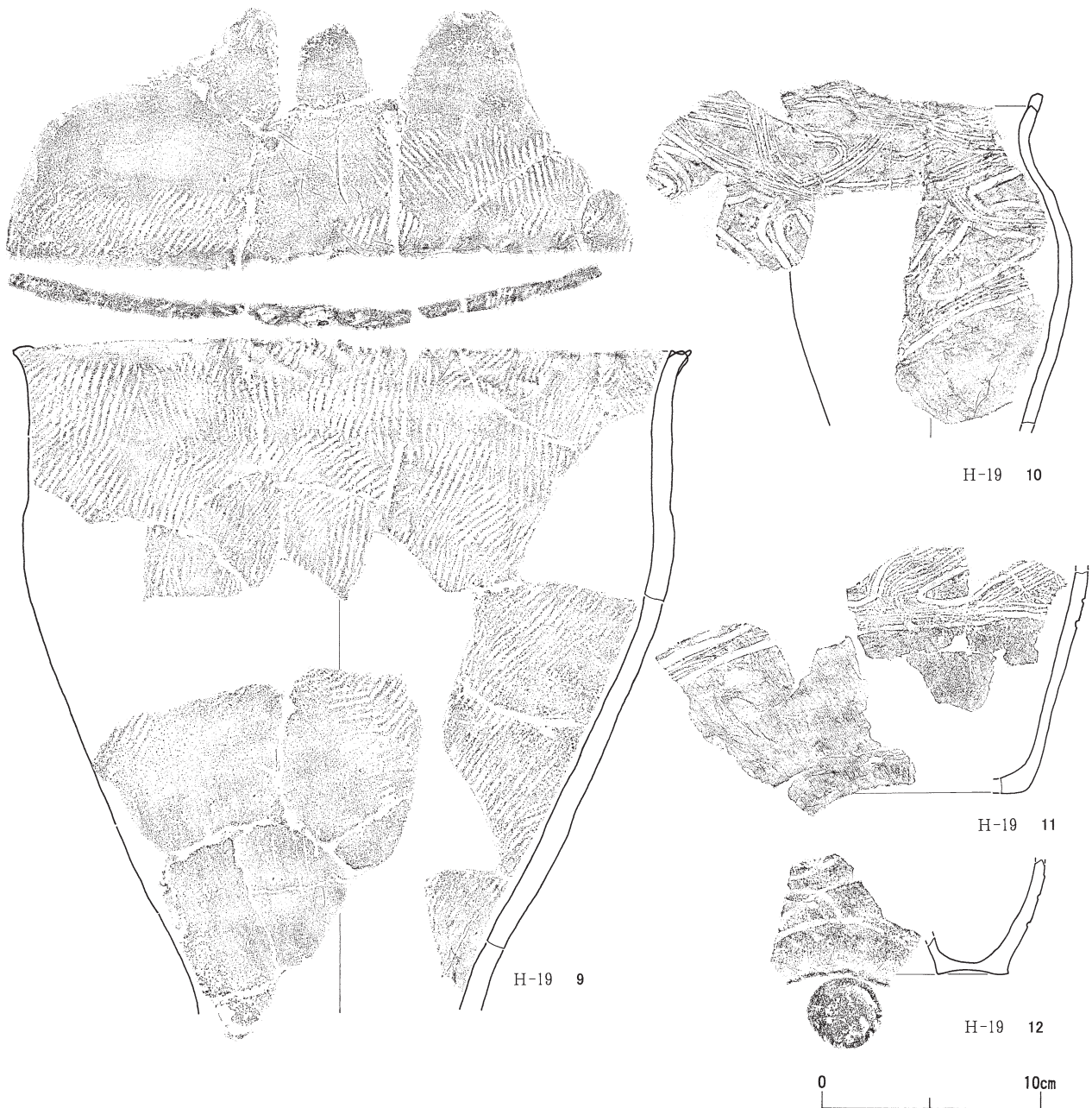


图 III-95 住居跡出土土器類(14) / H-18(2) · H-19(1)



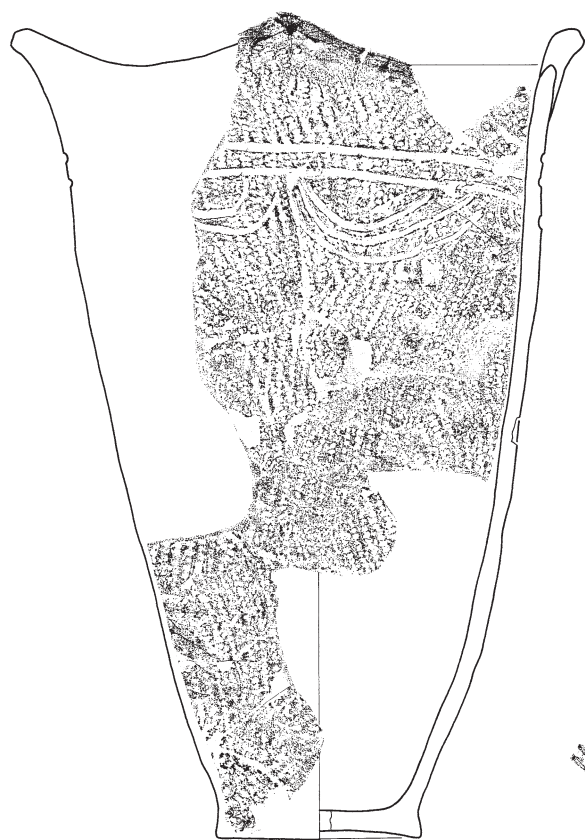
图 III - 96 住居跡出土土器類(15) / H - 19(2)



図Ⅲ-97 住居跡出土土器類(16)／H-19(3)

層のものも接合した。縦走る縄文地文。14は覆土1層と2層でそれぞれまとまっていた破片が接合した。表面の剥落が著しい。4単位で大小の沈線渦巻き文を交互に組み合わせる。15はH-19覆土1・2層出土遺物およびL～S-39～48区のVa～V5層にかけて散点的に出土したものが接合した。単軸絡条体による地文と胴部の膨らみを強調するようなすぼまる底部形態である。16は当遺跡において中期中葉に特徴的なしまりのない胎土のものである。覆土1層のものとP～R-42区のものとの接合した。同一個体破片と考えられるものは150点以上出土したが摩滅が著しいため接合しなかった。17は覆土1層から出土した。結束を持つ縄文地文を持ち、波頂部頂点に渦巻き文を思わせる円形の凹みがある。18は覆土4層から出土した。鉢形の器形で、浅いRL縄文地文。19は床面出土の胴下部破片。内面はミガキ調整だが、それに伴い擦痕がつく。

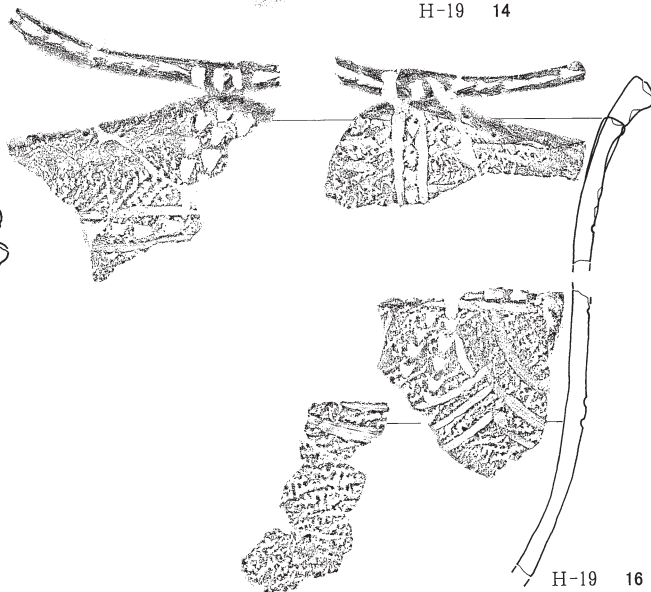




H-19 13 床



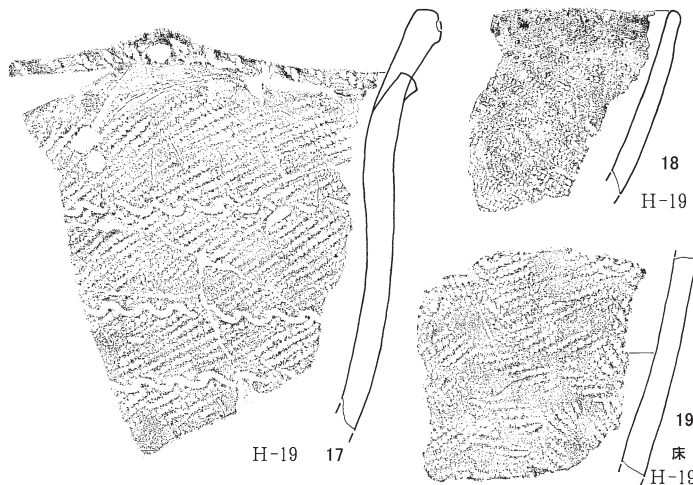
H-19 14



H-19 16



H-19 15



H-19 17

18  
H-19

19  
床  
H-19

0 10cm

图 III - 98 住居跡出土土器類(17) / H-19(4)



\* 土坑出土の土器 (図Ⅲ-99~112、表20-5~8、図版53・62・71~79)

P-2 (図Ⅲ-99、図版71) いずれもⅢ群a類で覆土1のもの。1は口縁部の隆帯および地文にRL縄文。2は斜面下のP-10覆土のものと接合した。

P-4 (図Ⅲ-99、図版53) : 1はⅣ群a類の底部。覆土中からまとまって出土した。砂粒が動くほどの縦ミガキ調整。

P-11 (図Ⅲ-99、図版71) : 1は覆土7層出土のⅢ群b-1類。口唇部には沈線文。

P-12 (図Ⅲ-99、図版71) : 1はⅢ群a類で、覆土1層のものと隣接する包含層のものが接合した。口縁部の貼付文様が剥落している。

P-16 (図Ⅲ-99、図版53・71) : 1~4はⅢ群b類。4はⅢ群b-2類に相当する可能性がある。いずれも1層からの出土で、1・4は隣接する包含層のものと接合した。1・2は縦方向の単軸絡条体を縦方向に施文する。張り出す底部形態と微妙な上げ底。3は条痕を縦方向に施文。縁辺を打ち欠いている可能性がある。再生土製品の製作途中か。4は単軸絡条体を施文後、沈線文と円形刺突を加えている。5は覆土1層のものがA-44・45区にまとまっていたものと接合した。H-42区のものも接合している。乳褐色の胎土で、縄文施文後、隆帯貼付、その上に縄線を押圧する。

P-17 (図Ⅲ-100、図版54・71) : 1は覆土にまとまっていたものがD・E-41~44区およびB・C-46~48区出土のものと接合した。D-43区に破片が比較的まとまっておりVa~d層にかけて分布している。Ⅲ群a類円筒上層c式である。2は摩滅が著しい。隣接する包含層のものと接合した。Ⅲ群b類で、条線と円形刺突文を持つ。

P-20 (図Ⅲ-100、図版72) : 1はⅢ群b類である。覆土1層出土のものである。被熱によるものか摩滅が著しく、同一個体片と推定されるものがあるが接合しなかった。複節縄文を地文に持つ。

P-23 (図Ⅲ-100、図版54) : 1はⅢ群b-1類である。小型の土坑に一個体の土器が横倒しの状態であった。胎土には細砂粒が多く含まれており、粗雑な印象がある。榎林式特有の口唇の平坦面部分および胴部上半に縄文を施文している。口唇平坦面部には沈線文がない。

P-26 (図Ⅲ-101、図版72) : 1と2はⅢ群a類見晴町式に相当するものである。1は覆土1層にまとまっていたものと周囲の包含層からのもの、そしてP-39覆土1層出土のものが接合した。胎土は乳褐色でもろく、同一個体と考えられるものはより広範囲から出土している。複節縄文を地文に持つ。2は覆土2層と周囲の包含層のものが接合した。3~8はⅢ群b類である。6は坑底からの出土。3は覆土1層のものと周囲の包含層のものが接合した。4~8は覆土1層のものである。3は大安在B式に相当する口縁部破片である。粘土紐を貼付し、その側縁を沈線ができるほどになぞる。押し引き列点を持つ。4・5は覆土1層のものである。4は縄文を縦方向に施文後、粘土紐を貼付する。その上には半截竹管の押し引き。5・6は縄文地文を持つ胴部破片。7は上げ底で、底面ミガキ調整。8は張り出す底部形態で、底面部分が剥落する。9は覆土1層から出土したⅣ群a類土器。細く短い隆帯の貼付がある。

P-28 (図Ⅲ-100、図版73) : 1はⅢ群でa類又はb-1類である。縄文時代中期中葉の土器底部である。丸みを帯びた胴部、底面はミガキ調整だが縄圧痕が数か所残る。覆土1層のものが、P-16覆土1層、C~H-43~45区出土のものと接合した。斜面の縁から下方への分布である。

P-29 (図Ⅲ-102、図版54・55・100~103) : 1は覆土1層にまとまっていたものと、L-42区にまとまっていたものが主に接合した。H-1・3・4が切りあう平坦面を基準とし、北東側斜面に主にこれらの土器片は分布するが、北西側斜面の包含層およびP-16覆土1層からのものも接合した。Ⅵ群、後北B式土器である。口唇にキザミ、擬縄線文と爪形の列点文がある。2は覆土1層および、遺構が立地する斜面の包含層のものと接合した。波頂部にはボタン状の突起がある。3はⅢ群a類、円

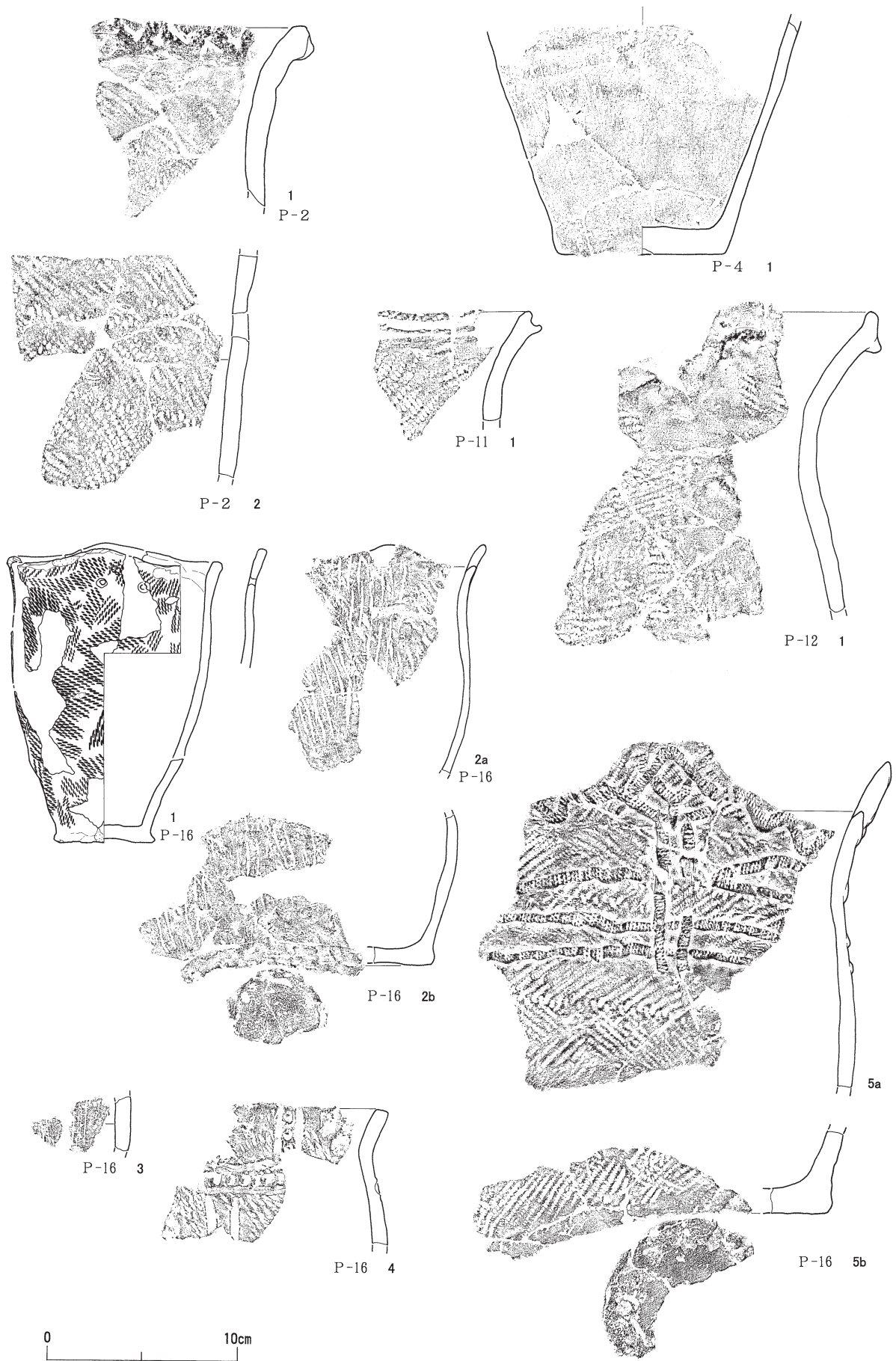


图 III - 99 土坑出土土器類(1) / P - 2 · 4 · 11 · 12 · 16



圖 III - 100 土坑出土土器類(2) / P - 17 · 20 · 23 · 28



筒上層c式である。H-42区にまとまっていたものが、P-29覆土1層およびFC-1出土のものと接合した。H-11埋没後に斜面に廃棄されていた円筒上層c式土器群に関連するものとする。ただし隆帯上の縄線はL縄であり、矢羽根状ではない。文様帯区画内は半截竹管による押し引きである。

P-30 (図Ⅲ-101、図版73)：1はⅢ群a類の底部。覆土の遺物と周辺の包含層遺物が接合した。張り出す平坦面上にまとまっていた土器である。

P-31 (図Ⅲ-101、図版54・73)：1・2はⅢ群a類。覆土からの出土である。1は摩滅著しい。波頂部にボタン状の貼付と円形の刺突列を持つ。2は波状の粘土紐貼付、その上に縄線。3は当遺構の構築時期を示すと調査者が判断した遺物である。Ⅳ群a類トリサキ式である。縄文を横走させた後、沈線文および波頂部に合わせて粘土紐貼付を行う。粘土紐は剥落している。覆土から出土した1破片が、E-44区にまとまっていた破片およびその周辺の包含層のものと接合した。

P-33 (図Ⅲ-101、図版73)：1はⅣ群a類の可能性もあったが、胎土のしまりのなさ等を勘案して、Ⅲ群a類のミニチュア土器とした。覆土1層からの出土。

P-34 (図Ⅲ-101、図版73)：1はⅢ群a類の胴部破片である。覆土からの出土。

P-36 (図Ⅲ-102、図版73)：いずれもⅢ群b-1類。1は覆土2層出土のものとG~N-38~46区の範囲で散点的に出土したものが接合。単軸絡条体地文に沈線を施す。同一原体による調整痕が内面にもかすかにある。2は覆土2層出土のものとH-8出土のものが接合した。縄文施文後沈線を施す。

P-38 (図Ⅲ-103、図版55・62・73)：1は円筒上層c式である。H-4床面に近く、最上位の覆土2層上位からまとまって出土した。結束第1種羽状縄文、L縄線施文、上げ底、方形の押し引き刺突列で充填する。2は覆土2層から出土した。サイベ沢Ⅶ式に相当する可能性がある。波頂部には焼成前の穿孔がある。3は坑底部および覆土2層出土のものが接合した。舟形の器形で、舟の舳先にあたる部分に把手を有する。

P-44 (図Ⅲ-103、図版55・56・74)：いずれもⅣ群a類である。覆土10にまとまっていたものと、隣接する包含層のものが接合した。不整な条痕による充填文。2は覆土出土の1点にP・Q-46・48区から散点的に出土したものが接合した。浅く平行な沈線による文様構成。3は覆土13層からまとまって出土した。口縁部には輪積み痕を残す。4単位の波頂部には指頭圧痕。4は覆土5層からの出土である。半截竹管を重ね合わせるように充填文様を施文する。5は覆土15層から出土した。沈線による波状文を持つ。6は覆土のものが斜面の下位P-48区の遺物と接合した。折り返し口縁で、地文原体はオオバコの可能性がある。

P-47 (図Ⅲ-103、図版55・74)：1は覆土1層からまとまって出土したⅢ群b類である。横走る縄文地文。2・3はⅢ群a類である。3は覆土1層から出土したものでR縄線を口唇部に押圧する。表面の摩滅が著しい。2は覆土1層から1点出土したものが斜面下位G-41区のⅤb~Ⅵ層にかけてまとまっていたものと接合した。無文で円筒上層c式の波頂部思わせる波状口縁の深鉢である。

P-48 (図Ⅲ-104、図版74)：1は覆土出土のⅣ群a類で、P-62の覆土1層出土のものと接合した。整った条痕による充填である。

P-49 (図Ⅲ-104、図版74)：1・2はいずれもⅢ群a類の波頂部である。いずれも覆土のもので、1はH-1から同一個体と思われる破片が出土している。摩滅が著しい。2は隆帯上に縄圧痕がある。

P-51 (図Ⅲ-104、図版56・74)：いずれもⅣ群a類である。1はT-49区で、2はQ-46区でまとまっていたものが覆土のものと接合した。いずれも2ないしは3本の沈線でおおよそ規則的に文様を施文する。1は縄文を充填する。3は覆土のものと周辺の包含層のものが接合した。無節縄文が横走る地文の深鉢で、同一個体と思われるものはN~T-37~51区の包含層および覆土から出土した。



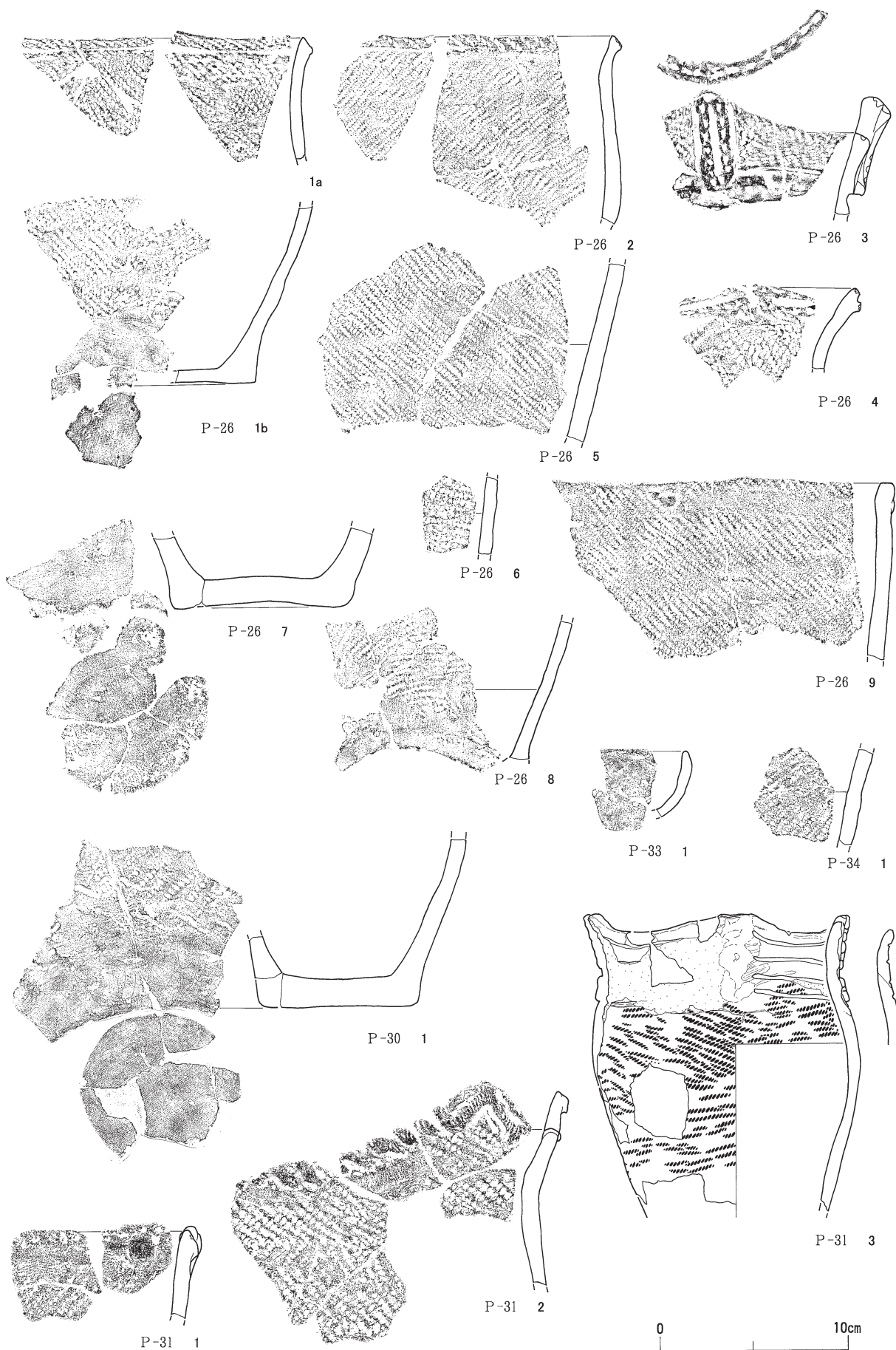
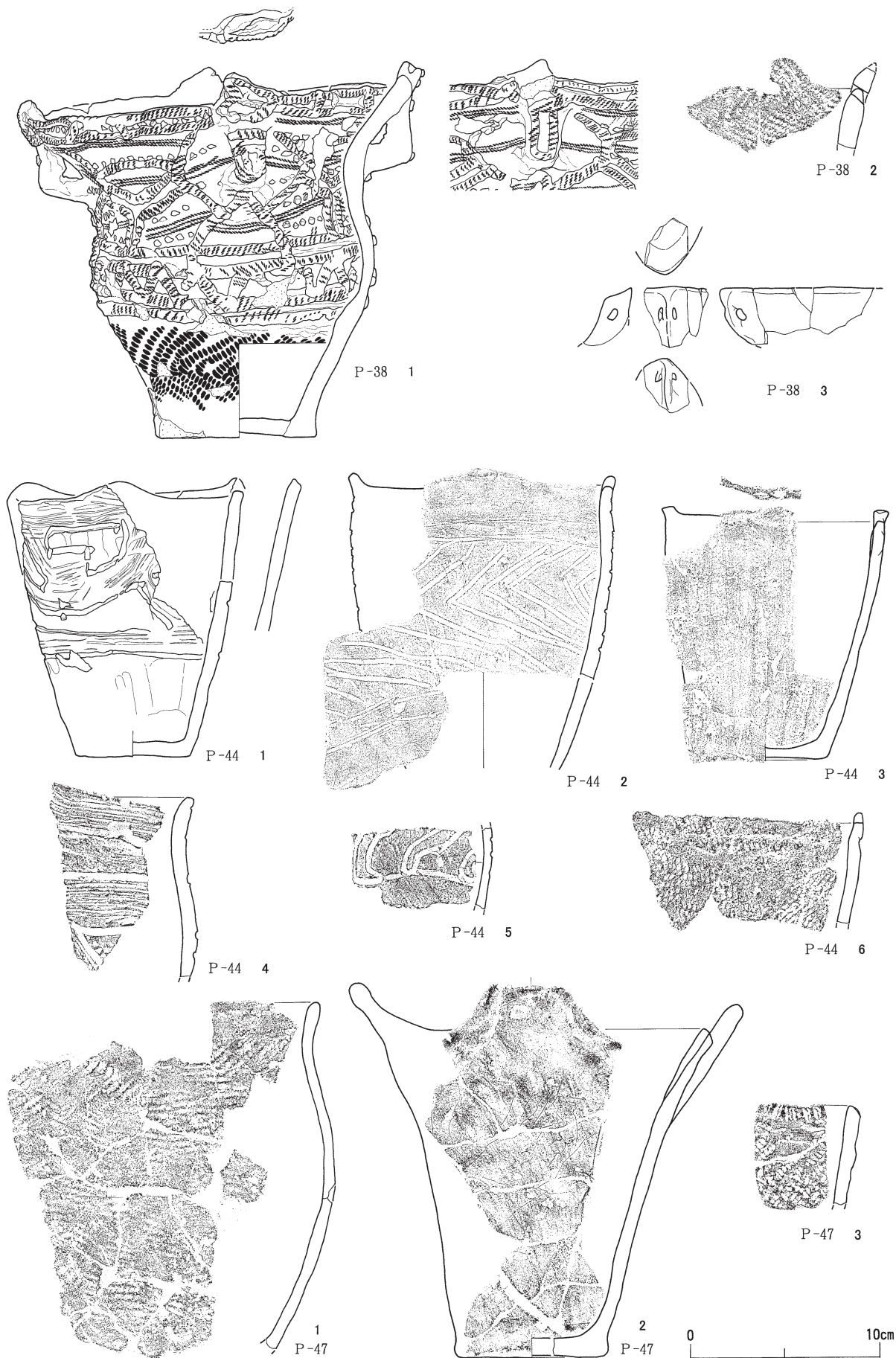


圖 III - 101 土坑出土土器類(3) / P - 26 · 30 · 31 · 33 · 34







圖III-103 土坑出土土器類(5) / P-38·44·47

4は覆土から出土したもので、沈線をかぶせるように重ねて、条痕充填文風である。

P-61 (図Ⅲ-104、図版75)：1はIV群a類、壺の肩部である。不整な条痕の充填文を持つ。内面には輪積み痕が明瞭に残る。覆土6層からの出土である。

P-62 (図Ⅲ-104、図版75)：1はIV群a類、覆土1層からの出土。縄文が横走る地文である。

P-63 (図Ⅲ-104、図版56)：1はⅢ群a類、円筒上層d式に相当するサイベ沢Ⅶ式である。覆土のものと斜面の上に位置するP-44覆土18層、さらに包含層から散点的に出土したものとが接合した。4単位二種類の波頂部を持ち、対向する波頂部が同じ文様である。1つは把手を持ち、ひとつは渦巻き型の立体的な装飾を持つ。

P-67 (図Ⅲ-106、図版75)：いずれもIV群a類。1は覆土3層からの出土。折り返し口縁を指頭によって成形後、縦方向のミガキによって調整する。2は覆土1層と3層およびP-84覆土中位のもの、3層と4層とのものが接合した。大型の器形で、整った条痕で充填文を施し、円形の刺突を加える。

P-68 (図Ⅲ-105、図版75)：1はIV群a類の底部である。底面はミガキ調整で微妙な上げ底である。覆土1層のものと周辺の包含層のものが接合した。

P-71 (図Ⅲ-105、図版56・57・75)：1～7はⅢ群b類である。1・5・7はb-1類である。7は1の破片を再生土製品とした可能性が高い。1は覆土6層と3層にまとまっていた破片および主にR-43区にまとまっていた破片が接合した。口唇部には渦巻き文起源の沈線文を持ち、3単位の大小の波頂部が交互に並ぶ。胴部には2本一組の沈線によって大木8式の文様を連想させる同心円や楕円形文が施される。底部は微妙な上げ底である。7は縁辺を打ち欠きで調整し、中央に穿孔。覆土3層の出土。2・5・6は覆土6層から出土。3・4は坑底部からの出土である。2・3・6はやや張り出す底部形態で、微妙な上げ底を持つ。2は摩滅が著しい。縦方向施文の縄文地文で、沈線および円形刺突を連続する。3は口縁部がない。6は単軸絡条体を縦方向に施文。4は口唇部には縄による連続圧痕。5は波頂部を囲むような同心円状の弧線文。口唇部には沈線文を施す。

P-72 (図Ⅲ-106、図版75)：いずれもIV群a類。1は覆土1・2層から出土。整った条痕で充填文。2は覆土1層から出土した。貼付帯を持つ。

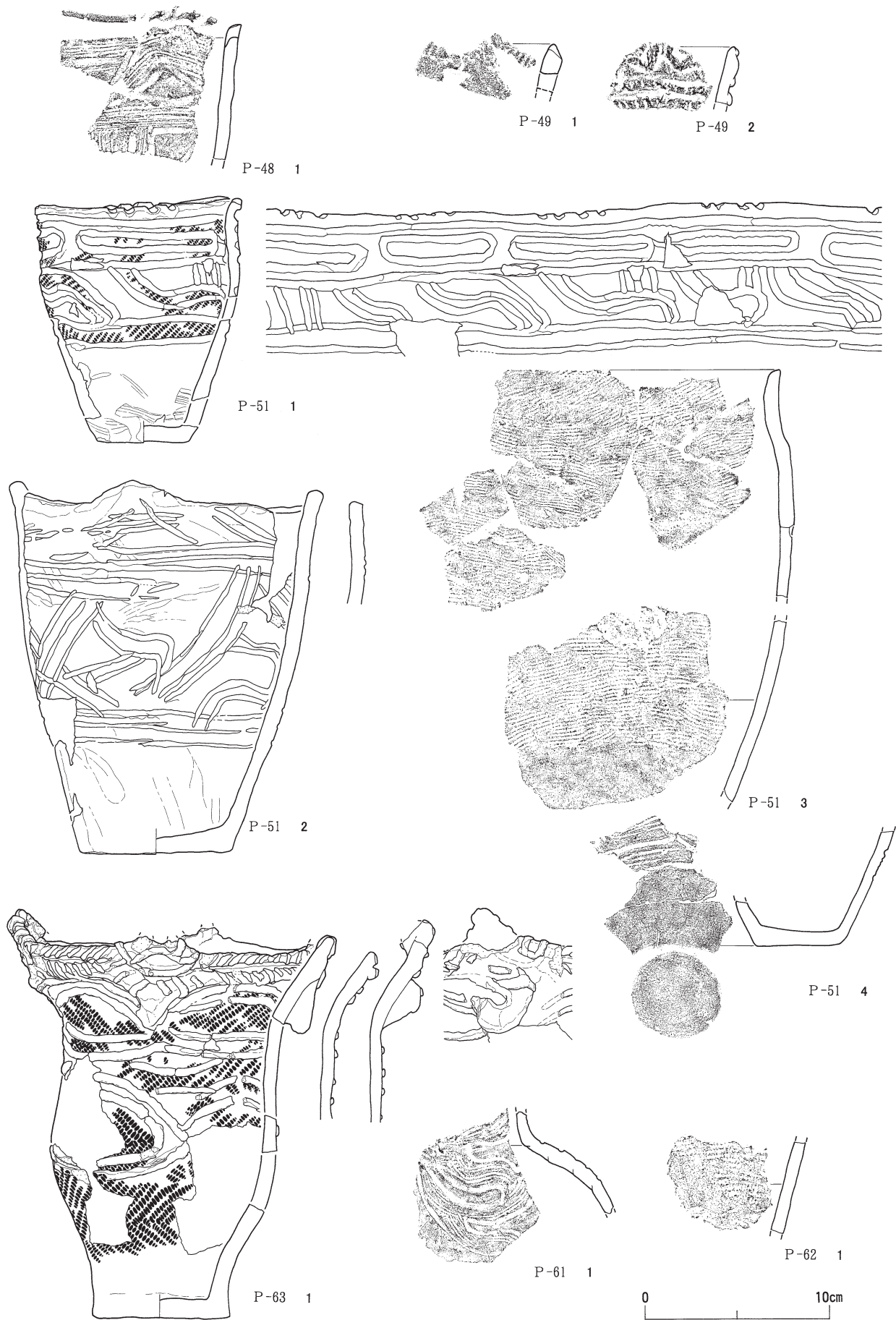
P-73 (図Ⅲ-106、図版76)：いずれもIV群a類。1・2・4は覆土のものと隣接する包含層のものが接合した。1・4は覆土下位、2は覆土上位のものである。3・5・6は覆土のもの。5は覆土上位、6は覆土下位。1は三角形の押し引きで充填文様を施す。2は縦方向の波状沈線文、3は草本によるものか幅広い沈線により施文する。3は砂粒が目立つ胎土。4は折り返し口縁成形後、縦方向のミガキ調整。5は格子目状の沈線文を持つ小型器形。6は小型な土器の底部であり、調整時の擦痕残る。7は覆土からほぼ完形に近い形でまとまって出土したものが隣接するT-41区からのまとまりと接合した。

P-74 (図Ⅲ-108、図版76)：1はIV群a類、覆土3層からまとまって出土したものが隣接する包含層のものと接合した。縄文施文後、縦方向ミガキで胴下部を無文にする。

P-75 (図Ⅲ-108、図版58)：1はIV群a類、覆土1層から倒立した状態で出土した。S-43区でまとまって出土した破片と接合した。ほぼ完形である。

P-76 (図Ⅲ-107、図版58・76)：いずれもIV群a類である。1～3は、覆土1層から出土した。それぞれの破片が不規則に混ぜ、それらを折り重ねるようにして、埋納したかのような状況で出土した。1はオオバコ回転文地文と考えられる。2はQ-43区にまとまっていた遺物と接合したものである。口縁部成形後、縄文を横走させる。3はN～T-38～46区およびH-7・8より散点的に出土したものと接合した。T-41区のV1～3層にかけて比較的まとまっていた。大型の深鉢で、縄文を充填し





图III-104 土坑出土土器類(6) / P-48 · 49 · 51 · 61 · 62 · 63

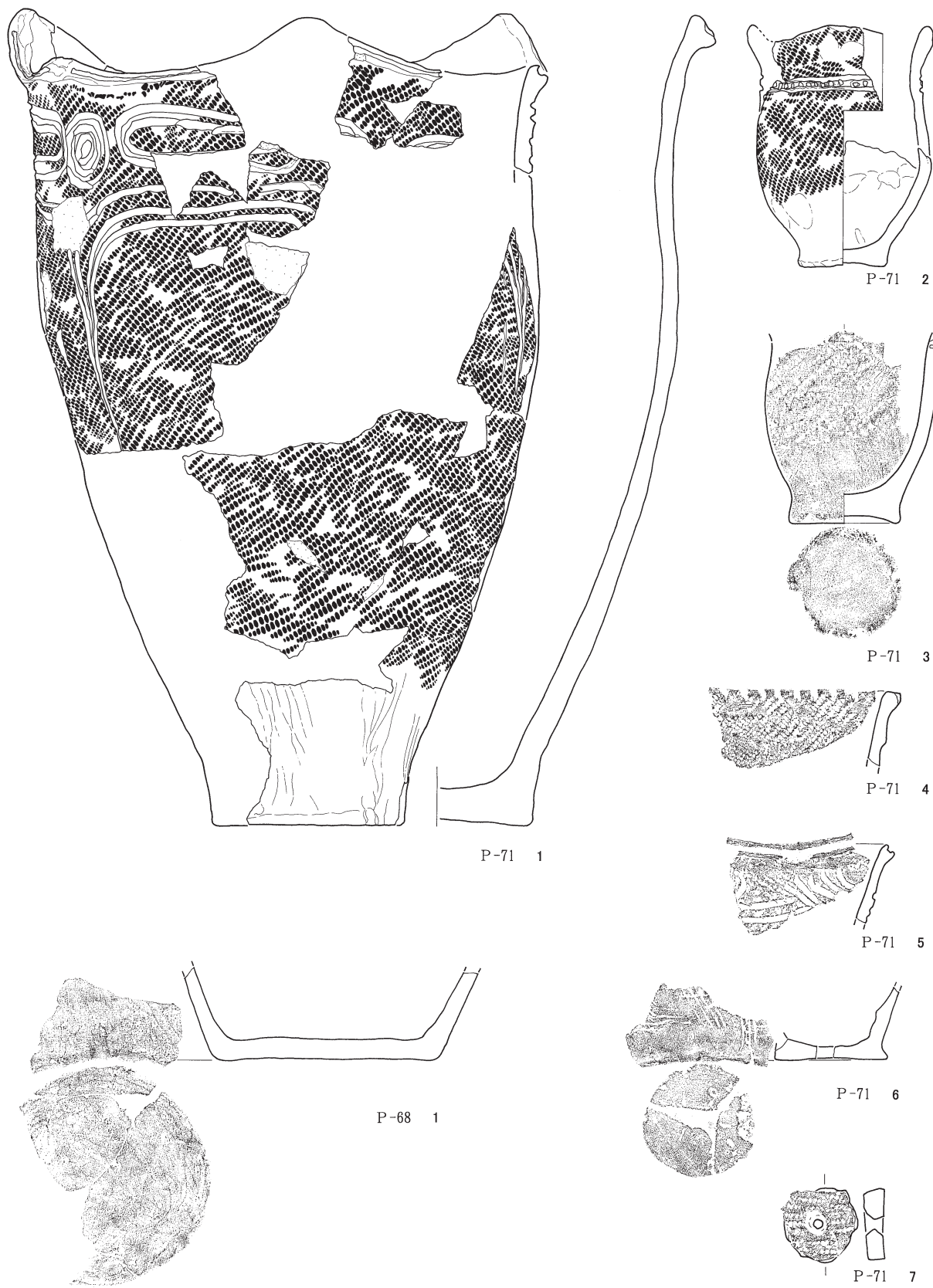


图 III - 105 土坑出土土器類(7) / P - 68 · 71

た上に条痕を重ねる充填文様である。5単位の波頂部に表裏にまたがるように粘土紐を貼付する。

**P-77** (図Ⅲ-108、図版57・76)：すべてIV群a類。1は覆土7層の遺物とQ-48区のものに接合した。胴下部がまとまって出土した。横走する縄文地文。2は覆土上位から下位にかけてのものが接合した。主に覆土6層からの出土である。条痕によって充填文。焼成良好である。台付きの浅鉢の可能性はある。3は覆土6層のものである。8の字状にねじった粘土紐を口唇部から垂下するように貼付することから、トリサキ式と判断した。4は覆土下位のものにS-40区のものに接合した。壺の肩部で、不整な条痕による充填文。5は坑底からの出土遺物である。横走する縄文地文である。6は覆土上位の遺物、P-71出土土器覆土3層のものに、さらにS-41区にまとまっていたものが主体となって接合したものである。RLR縄ないしは、撚りの程度が異なるL縄を撚りあわせたものである。口唇部と口縁部に貼付帯を持ち、間を無文とする。

**P-79** (図Ⅲ-109、図版59・76・78)：1～4はIV群a類である。5はⅢ群a類である。1は覆土上位から下位にかけて接合した。横走する縄文地文。原体を回転させた時に生じる擦痕が残る。2・3は覆土のものに隣接する発掘区包含層のものに接合した。2は覆土2・3層、3は覆土上位である。2は無文地に3本一組の沈線文様を施す。3は横走する縄文地文である。4は覆土2層にまとまっていた。輪積み痕の上から縦方向のミガキ調整を施す。5は覆土1層および中位遺物とQ-48区のものに接合した。5は摩滅が著しい。隆帯上には縄を押圧する。

**P-80** (図Ⅲ-110、図版59・60・78)：すべてIV群a類。1は覆土3層の遺物と、主にQ-41区にまとまっていた遺物が接合した。焼成良好。無文地に3本一組の沈線で施文。2は覆土上位および覆土3層のものに遺構際の包含層出土のものに接合した。口縁部が当遺構から出土した。不整な条痕による充填文様である。3は覆土3層およびH-19覆土1層のものが、T-41区出土遺物とその周囲の包含層から散点的に出土したものと接合した。覆土3層から底部際部、H-19からは口縁部が出土した。3本一組の沈線文。4は覆土上位のものに主にS-41区にまとまっていたものが接合した。横走する縄文地文施文後、縦方向のミガキで胴下部を無文とする。5は覆土3層の下位から出土した。微妙な上げ底で、底面はミガキ調整である。6は覆土3層のものが、P-38区、Q-40区のものに接合した。底面は擦痕を伴うミガキ調整。7は覆土上位のものに遺構際の包含層出土のものに接合した。2単位の波頂部。ナデ調整で無文とする。

**P-81** (図Ⅲ-109、図版59・76)：すべてIV群a類。1は覆土上位のものに周辺の包含層のものに接合した。RL縄による網目状絡条体圧痕。2は覆土3層からの出土である。胴部に屈曲部があり、下部は縄文、上部は無文。3は覆土上位および、H-8の上部黒色土、N・O-42～44区において散点的に出土したものが接合した。O-43区に比較的まとまる。縄文が横走する地文、3単位の波頂部を持つ。

**P-82** (図Ⅲ-109、図版76)：1はIV群a類、覆土中位からの出土である。小型の器。

**P-83** (図Ⅲ-111、図版78)：いずれもⅢ群b-1類で、覆土1層から出土。海綿骨針を胎土に含む。1は口唇面に縄線を施す。2は剥落が著しい。

**P-84** (図Ⅲ-111、図版60・79)：いずれもIV群a類。1は覆土中位にまとまっていた遺物がP-79覆土上位出土のものに接合した。波頂部の粘土紐貼付後、縄文を施文する。2は覆土中位出土遺物とH-17の床と覆土からのものが接合した。同一個体と思われるものはN～T-39～41区より出土している。縄文地文を施した後、ナデ調整。3は覆土中位出土遺物とQ-47区の遺物が接合。縄文施文後、不規則な沈線文を施す。4は覆土中位のものにP-67覆土3層のものに接合した。節の細かい縄文が横走する。5は覆土上位の出土遺物がT-45・46区包含層出土のものに接合。細い半截竹管を用いて



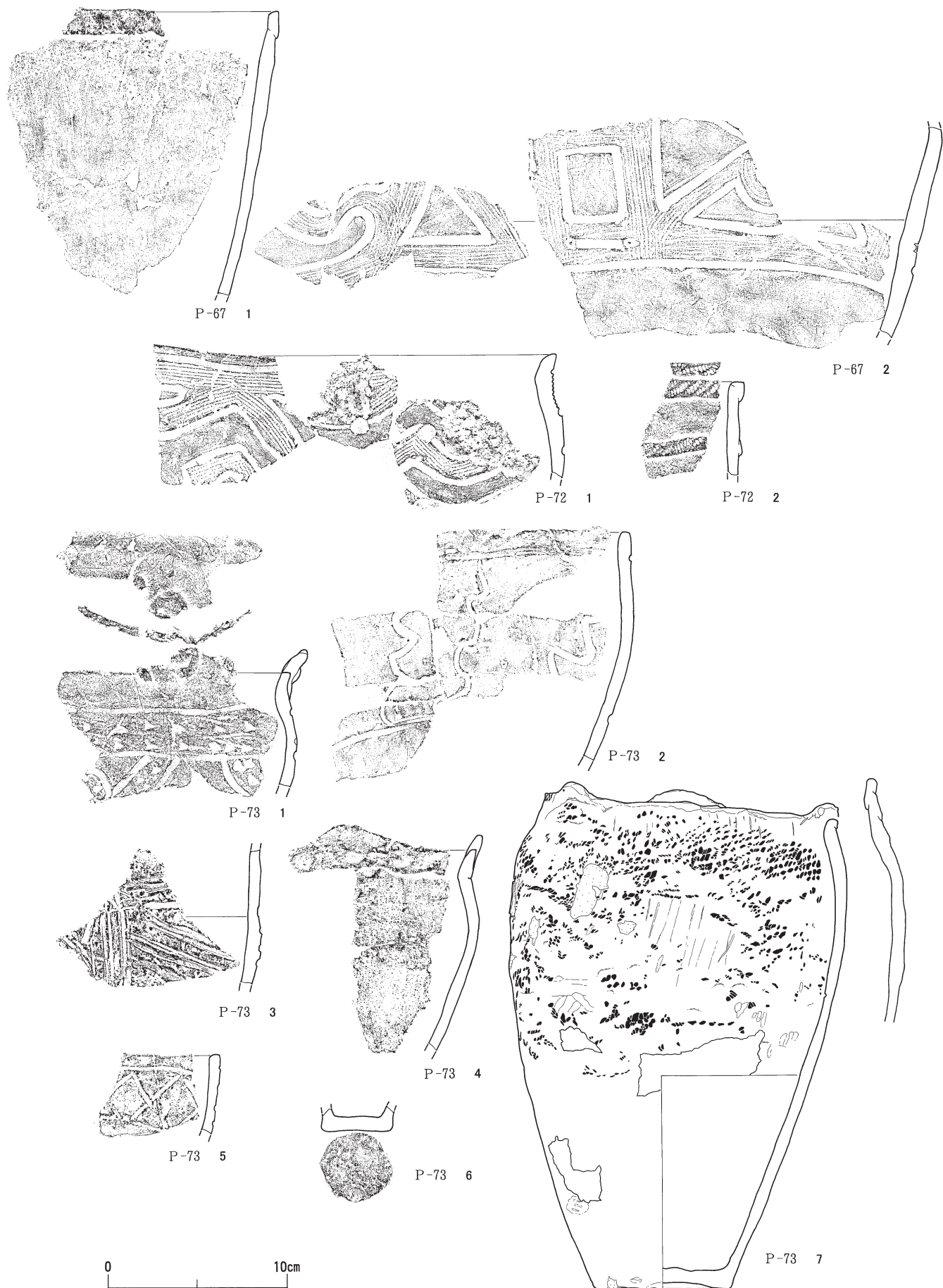
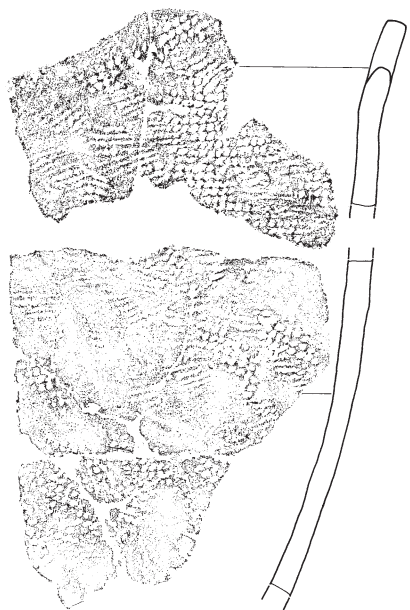


图 III - 106 土坑出土土器类(8) / P-67 · 72 · 73

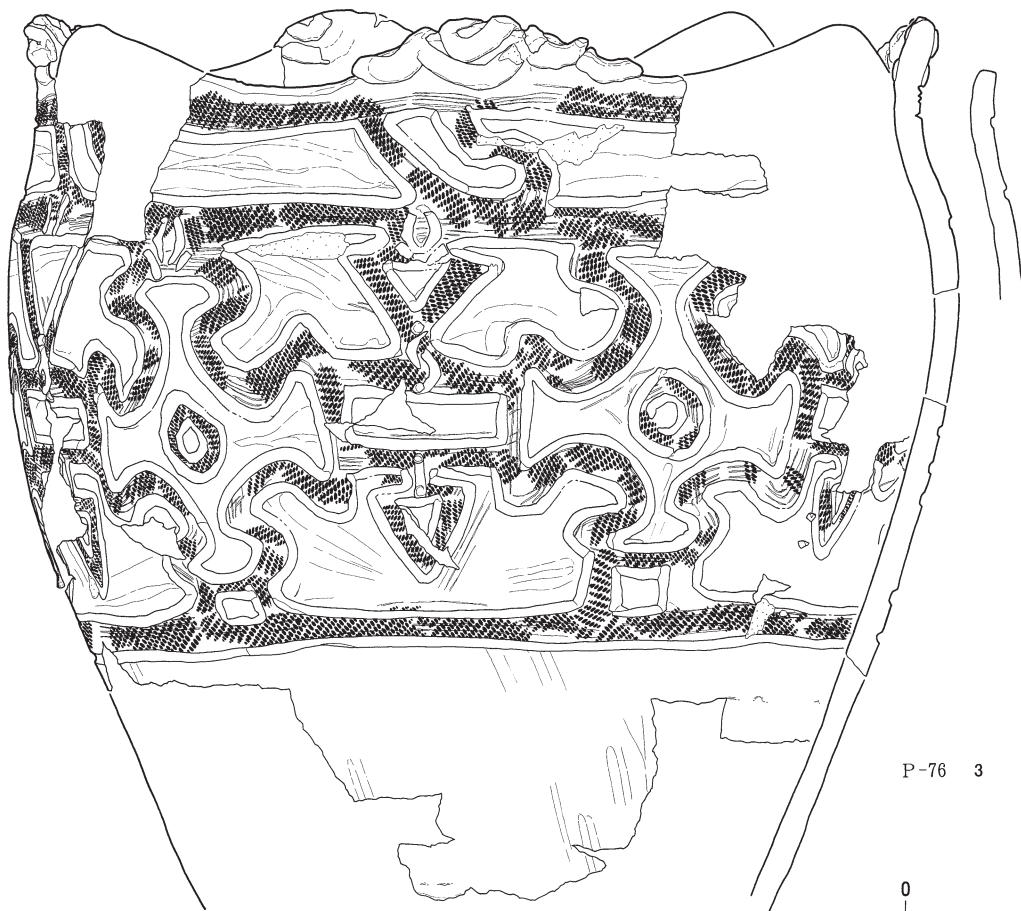




P-76 1



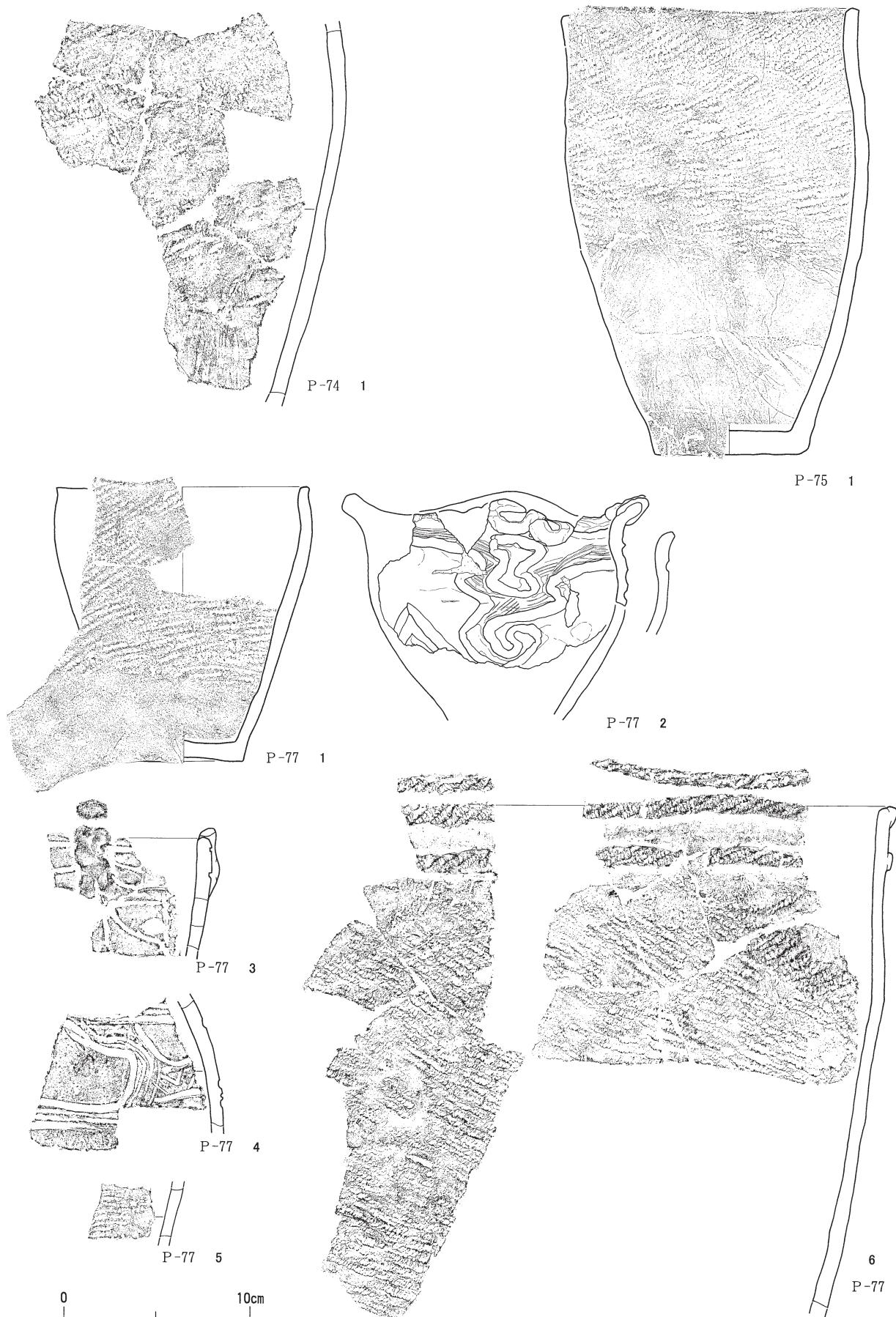
P-76 2



P-76 3

0 10cm

图III-107 土坑出土土器類(9)/P-76



图Ⅲ-108 土坑出土土器類(10) / P-74 · 75 · 77



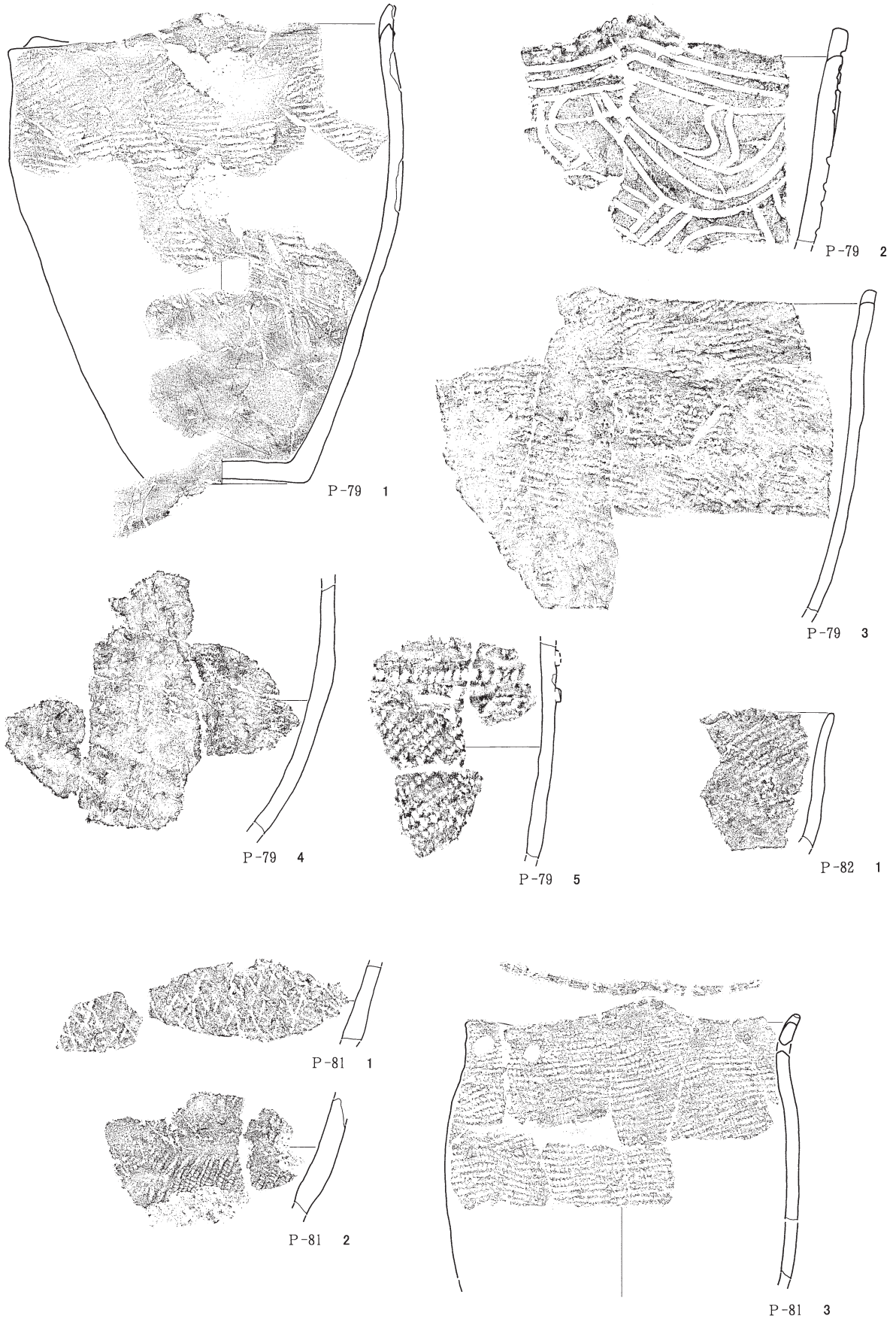
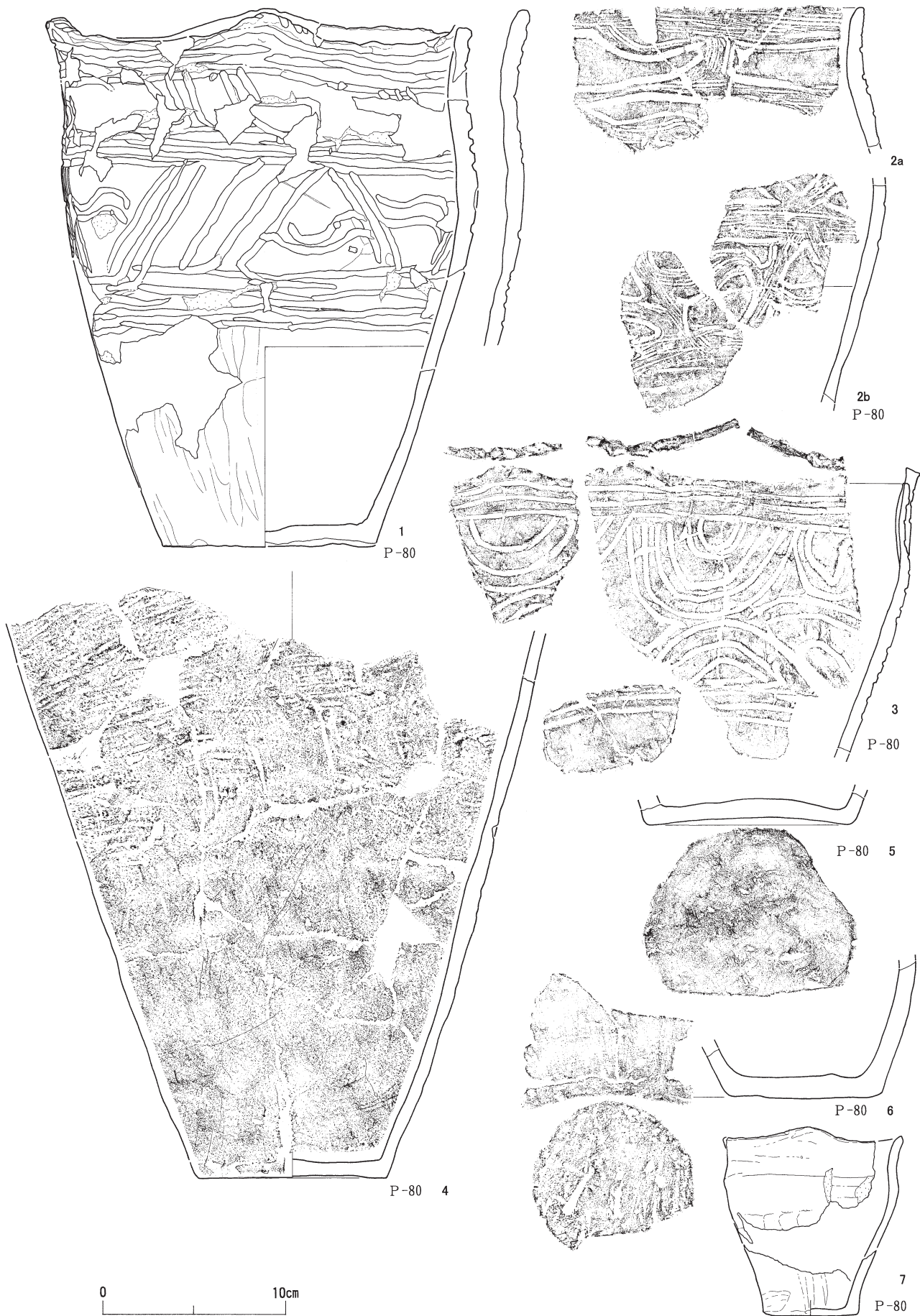


图 III - 109 土坑出土土器類(11) / P - 79 · 81



图Ⅲ-110 土坑出土土器類(12) / P-80



2本一組の沈線文。

**P-85** (図Ⅲ-111、図版60・79)：いずれもIV群a類。1は覆土中位と下位のもの、2は覆土中位から上位にかけてのもの、3は覆土中位から出土した。3本一組の沈線による文様構成。4は坑底部からの出土。小型器形の底部破片。底面はミガキ。

**P-86** (図Ⅲ-112、図版60・79)：いずれもⅢ群b類。2はb-1類である。1は覆土1層の出土のもの、I~R-36~41区の範囲のもの、3は覆土中位から出土した。3本一組の沈線による文様構成。4は坑底部からの出土。小型器形の底部破片。底面はミガキ。

**\*集石(礫集中と配石遺構)出土の土器** (図112、表20-9、図版60)

**S-1** (図Ⅲ-112、図版80)：1はIV群a類である。S-1の覆土4層のものが、H-8の上部黒色土層、P-61覆土上位遺物、そしてP・S-46区包含層出土遺物と接合した。文様は条痕のみで、沈線による縁取りなし。

**S-2** (図Ⅲ-112、図版60)：1はIV群a類である。配石を楕円と推定した場合、そのほぼ中央から出土した。2単位の波頂部を持つ。幅広い沈線間を不整な条痕で充填。

**\*小土坑出土の土器** (図Ⅲ-112、表20-9、図版80)

**SP-1**：1はIV群a類である。横走する縄文地文。

**\*焼土出土の土器** (図Ⅲ-112~114、表20-9・10、図版61~62・80・81)

**F-1** (図Ⅲ-113・114、図版61・62・80・81)：1~8はF-1およびその周辺で出土した。z~E-42~47区の盆地状を呈する平坦面が活用された時期を反映するものとしてこの項に図示した。この周辺に位置する焼土は検出状況からすべて統縄文時代のものと判断したが、所属時期の可能性を示す材料として提示する。1・2はⅢ群a類、1は見晴町式、2は円筒上層b式、3~5はⅢ群b類。3は単軸絡条体地文に、大木8式に起源を持つと思われる渦巻き文様を胴部を持つ。4・5は在地色が強く、4は無節の単軸絡条体を縦方向に施文後、半截竹管による沈線文。5は同一個体の破片が多量に出土したが、摩滅が著しく、接合できなかった。頸部に隆帯を貼付し、把手を持つ。6・7はIV群a類。6は折り返し口縁に平行沈線文を持つものである。文様構成からトリサキ式に近いものと判断した。7は横走する縄文地文で多段の折り返し口縁を持つものである。

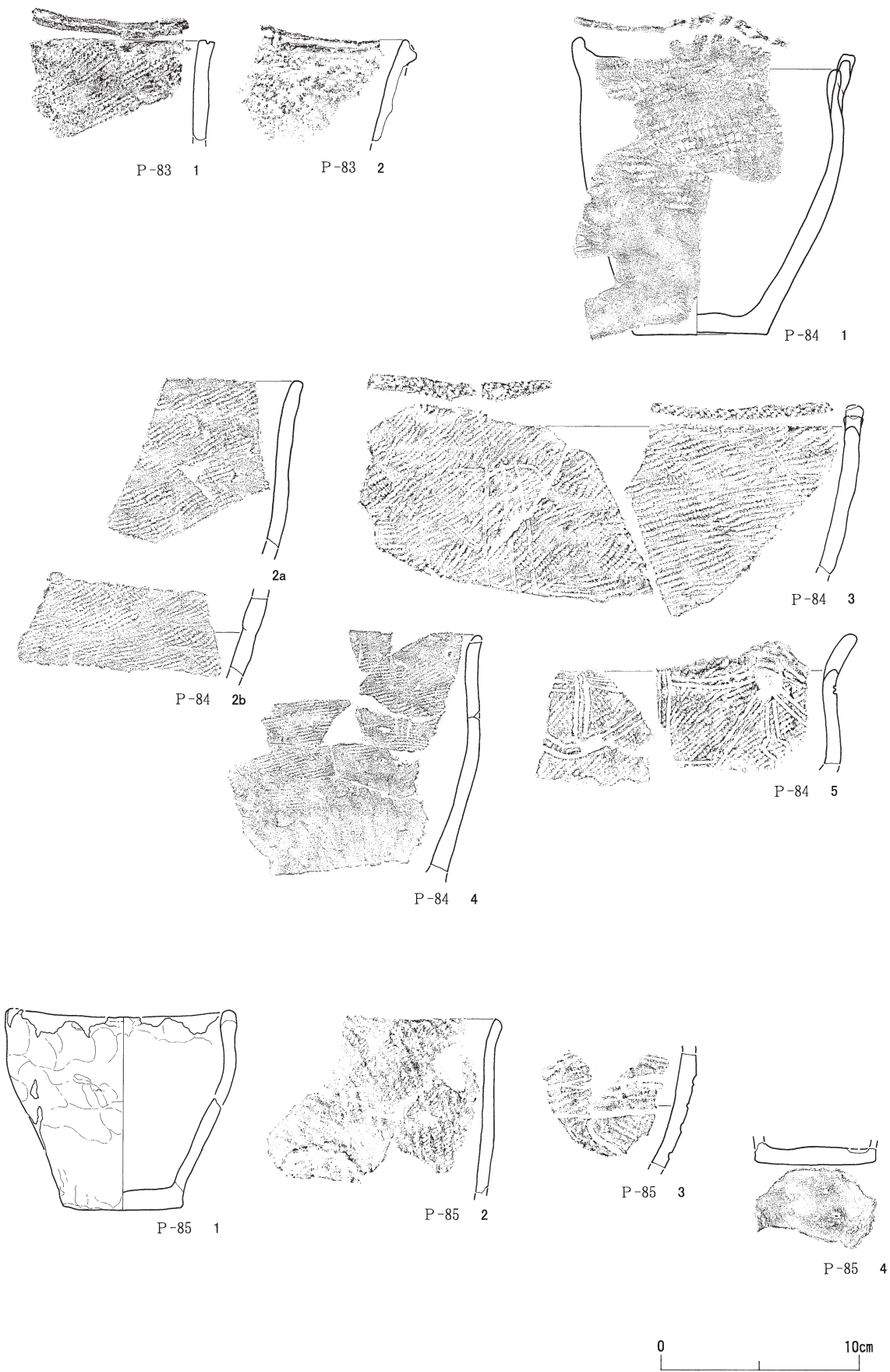
8・9はVI群土器である。8は後北C<sub>2</sub>D式。口唇部にキザミを持つ。9は後北C<sub>1</sub>式。RL縄文で、上げ底である。8はF-1の時期を示す可能性が高い。

F-1周辺の遺物取り上げ図Ⅲ-71について、土器集中a~dが示されている。複数の土器が混在するが、土器集中aの主体は5、土器集中bの主体は7、土器集中cの主体は4、土器集中dの主体は9である。9についてはむしろF-9に関連するものと調査者は判断した。

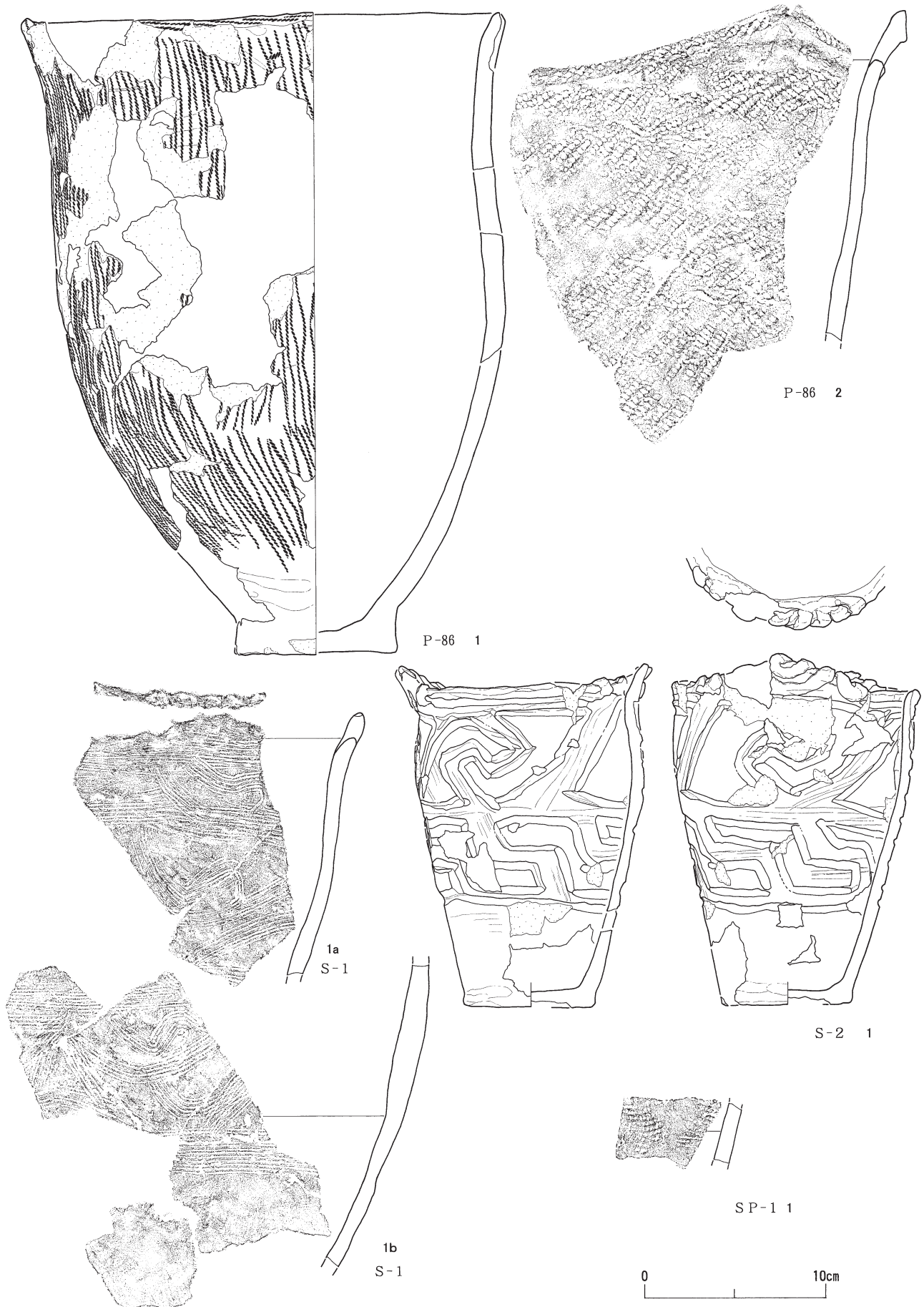
**F-3** (図Ⅲ-114、図版61)：1・2はVI群、後北C<sub>1</sub>式である。1は他の同時期のものより縄文の節が大きい。2は上げ底を持つ底部である。

**F-5** (図Ⅲ-113、図版81)：1はIV群a類である。細い半截竹管によって口縁部は無文地、胴部は縄文地文に沈線文を描く。文様構成からトリサキ式ないしは大津式の古手と考える。

**F-7** (図Ⅲ-114、図版61・81)：1・2はVI群である。いずれもF-7とF-8の間で出土した土器である。図Ⅲ-72に示した遺物出土状況は1が主体であるが、2も混在していた。1は、後北C<sub>1</sub>式である。口唇部にはキザミ波頂部の微隆起線区画内は半截竹管による刺突が充填される。F-7・8間として出土状況図に示した。2は後北C<sub>1</sub>式前後の土器の胴部破片で作った再生土製品が割れた



图Ⅲ-111 土坑出土土器類(13) / P-83・84・85



図III-112 土坑出土土器類(14)／P-86・集石・配石・柱穴状の小土坑出土土器類



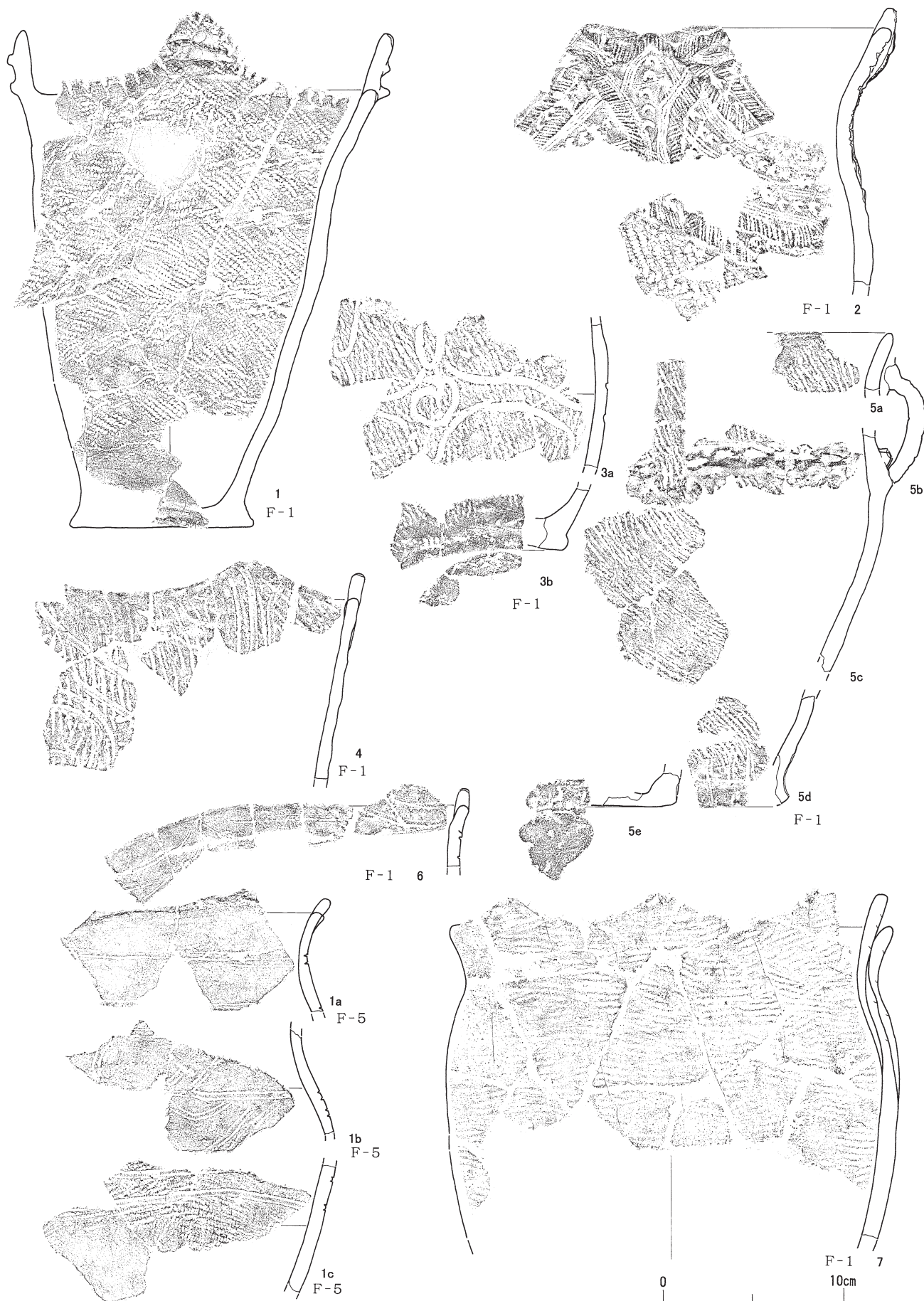
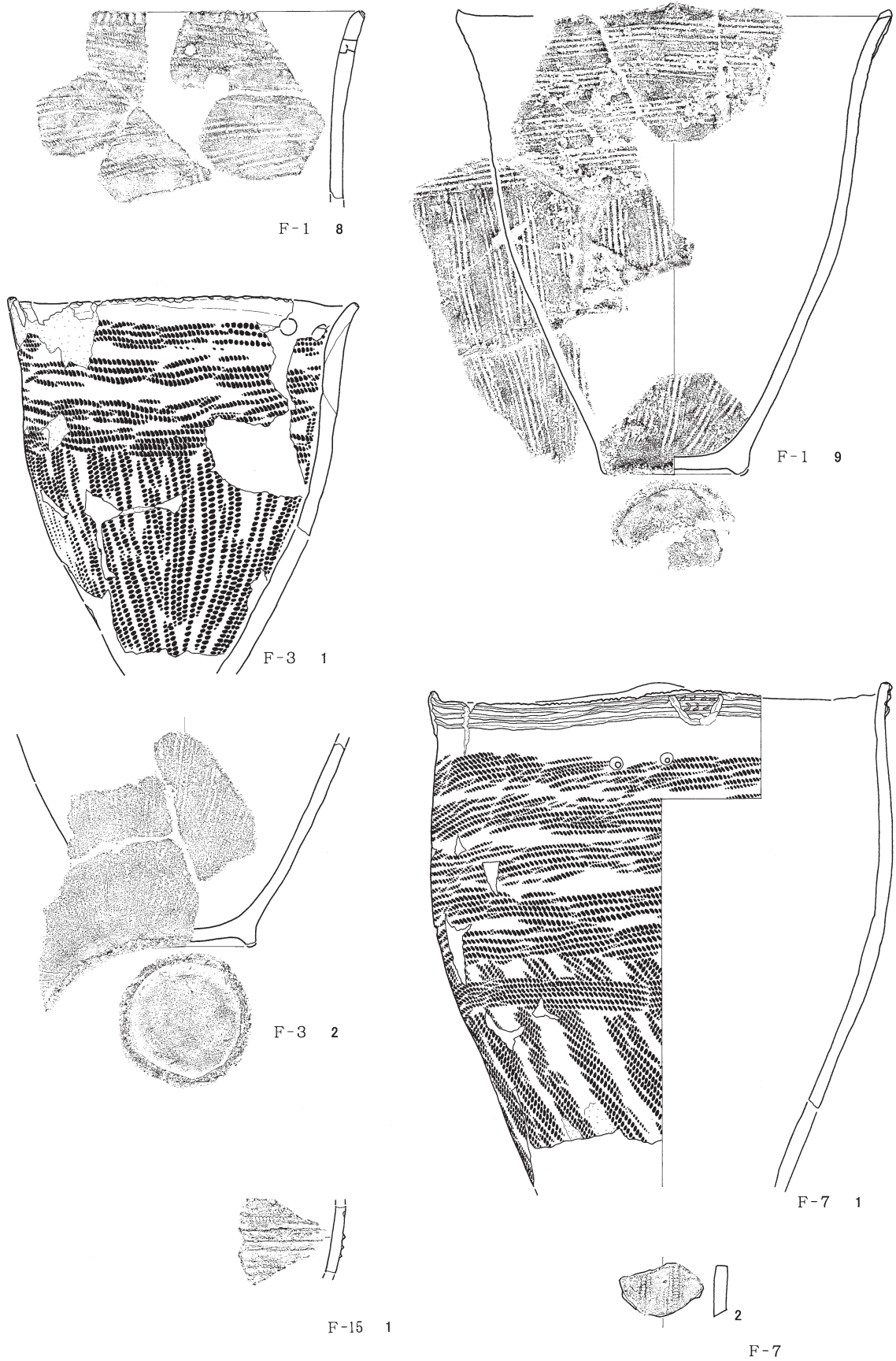


图 III - 113 烧土出土土器類(1) / F - 1 (1) • F - 5





図III-114 焼土出土土器類(2) / F-1(2)・F-3・7・15



図Ⅲ－115 遺物の集中出土のⅦ群土器

ものである。縁辺は細かい打ち欠きで成形する。

F-15 (図Ⅲ-114・81) 1はⅥ群、後北C<sub>1</sub>式またはC<sub>2</sub>D式の微隆起線を持つ胴部破片である。

\* 遺物の集中出土 (図Ⅲ-80に出土状況を示した図Ⅲ-114、表20-10、図版62) : Ⅶ群土器である。擦文時代前期のものである。有段の肩部の名残と思われる沈線が明瞭で長い頸部は丁寧な調整が施される。胴部はケズリのような調整が上部は横方向、下部は縦方向に施される。底面は砂目底である。 (大泰司)

## (2) 石器類

遺構出土の石器類をまとめて報告する。掲載の仕方等は、包含層出土の石器類と同様である。

### (1) 剥片石器群 (図Ⅲ-116~122 表21 図版82~85-3)

#### \* 住居跡出土剥片石器群 (1~43)

H-1 (1~4): 1は、先端部と基部を破損する石鏃である。2は、接合したサイドスクレイパーで、背面左側縁部に刃部を有する。3は、不整形なスクレイパーで、背面に礫表皮面を残す。4は、先行剥離面を複数残す素材を加工したスクレイパーである。

H-2 (5・6): 5は、二次調整が周縁部に限られる石槍・ナイフで、側縁は曲線的である。6は、台形を呈するエンドスクレイパーである。

H-3 (7~10): 7は石鏃で、先端部及び基部を破損する。8は、基部側へと収束する両側縁に加工が施されたスクレイパーである。9はスクレイパーで、背面の周縁部に二次加工が施される。10はピエセスキーユに分類したもので、表面下端部及び裏面上端部には剥離痕が顕著に認められる。

H-4 (11・12): 11は、不整な形態を呈するスクレイパーである。12は、背面部に丹念な二次加工が認められる。

H-5 (14・15): 14は、背面の右側縁部に礫表皮面を残し、左側縁部に二次加工が施される。15は背面右側縁部の基部よりに二次調整が施される。

H-8 (16・17): 16は、側縁部に微細な剥落痕が観察され、使用痕であると推測される。17は、スクレイパーに分類したが、先端側部分を破損する、つまみ付ナイフである可能性がある。

H-9 (18~20): 18は小型の有茎石鏃で、石材はめのうである。19は、つまみ部分を有する石錐で、先端部を破損する。20はサイドスクレイパーで、背面右側縁部に、大きく礫表皮面を残す。

H-12 (21): 21はスクレイパーで、背面の上端部よりの右側縁付近を大きく破損する。

H-14 (22~29): 22・23は有茎石鏃で、ともに背腹両面に剥離面が認められる。24も石鏃で、石材はめのうである。25は上下両端部を破損するが、棒状を呈する石錐と考えられる。26は、背面左側縁部と下端部に刃部を有するスクレイパーである。27の背面は礫表皮面で、両側縁部に、微細な剥落痕が観察される。28は、背面右側縁部に刃部を有するスクレイパーである。

H-15 (30・31): 30は菱形を呈する小型の石鏃である。31は、Uフレイクに分類したもので、側縁部と下縁部に微細な剥落痕が観察される。

H-16 (32~35): 32はつまみ付ナイフで、先端部は、背面に礫表皮面、腹面に調整によると判断される剥離痕がそれぞれ観察される。33は、両側縁に刃部を有するサイドスクレイパーである。34の背面には複数の先行剥離面と、礫表皮面が認められる。35は、刃部である背面右側縁が内湾する形状を呈する。

H-17 (36・37): 36は、剥離面が多数認められるもので、石核(残核)であると判断される。37は、背面に大きく礫表皮面が認められるUフレイクである。

H-18 (38): 38はRフレイクと判断したもので、石材は頁岩である。

H-19 (39~42): 39は、曲線的な側縁部に微細な剥落痕が観察される。40・42は、微細な剥落痕が認められ、Uフレイクと判断される。41は、背面の右側縁下端部付近に剥離痕が認められる。

H-20 (43): 43は不整形を呈するが、背面右側縁部に直線的な刃部を有する。

#### \* 土坑出土剥片石器群 (44~67)

P-3 (44): 44は頁岩製の石槍・ナイフで、不規則な槌状の剥離痕が認められる。

P-6 (45): 45は、上端部分に厚みを有し、下端部に二次調整が施される、エンドスクレイパーである。

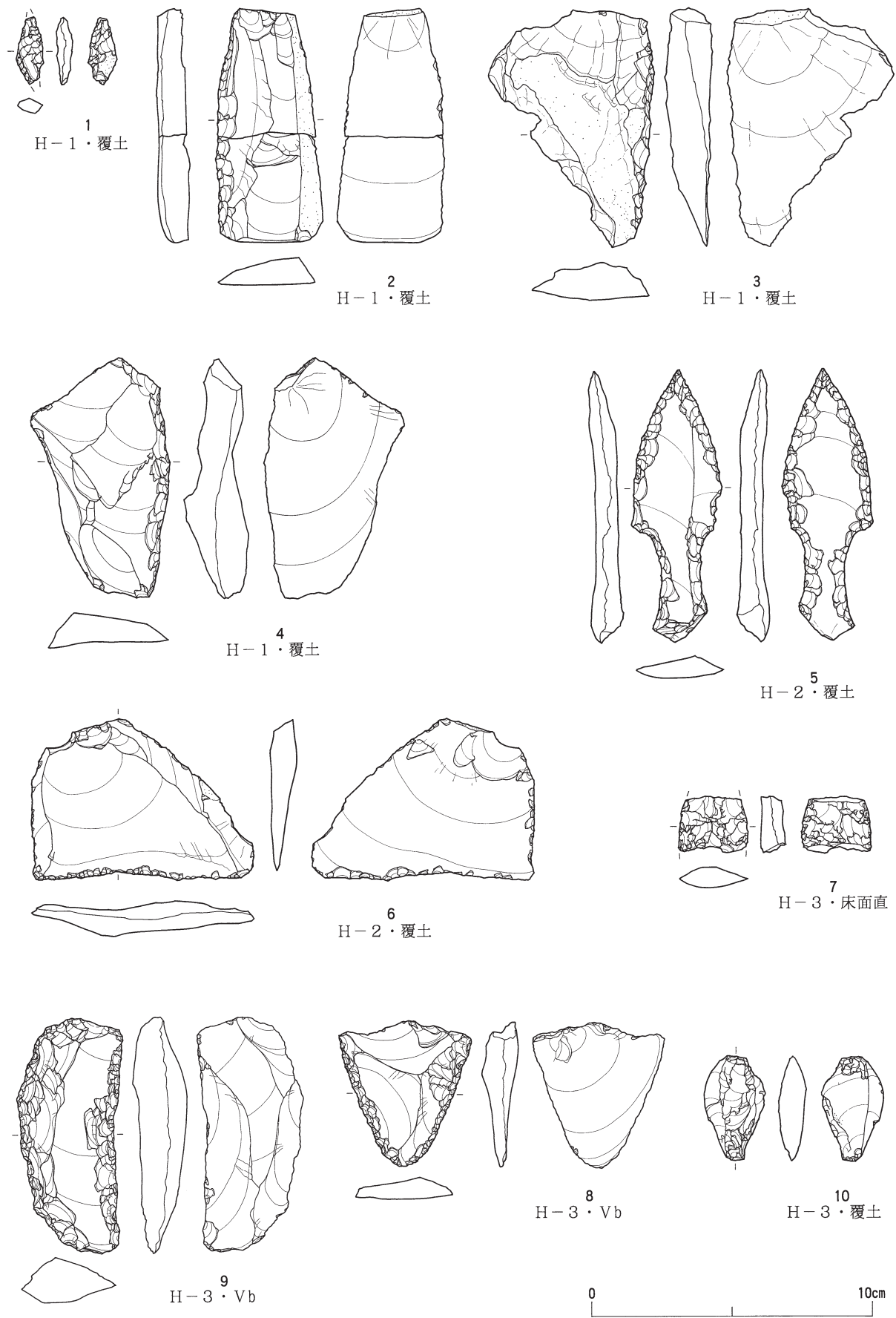
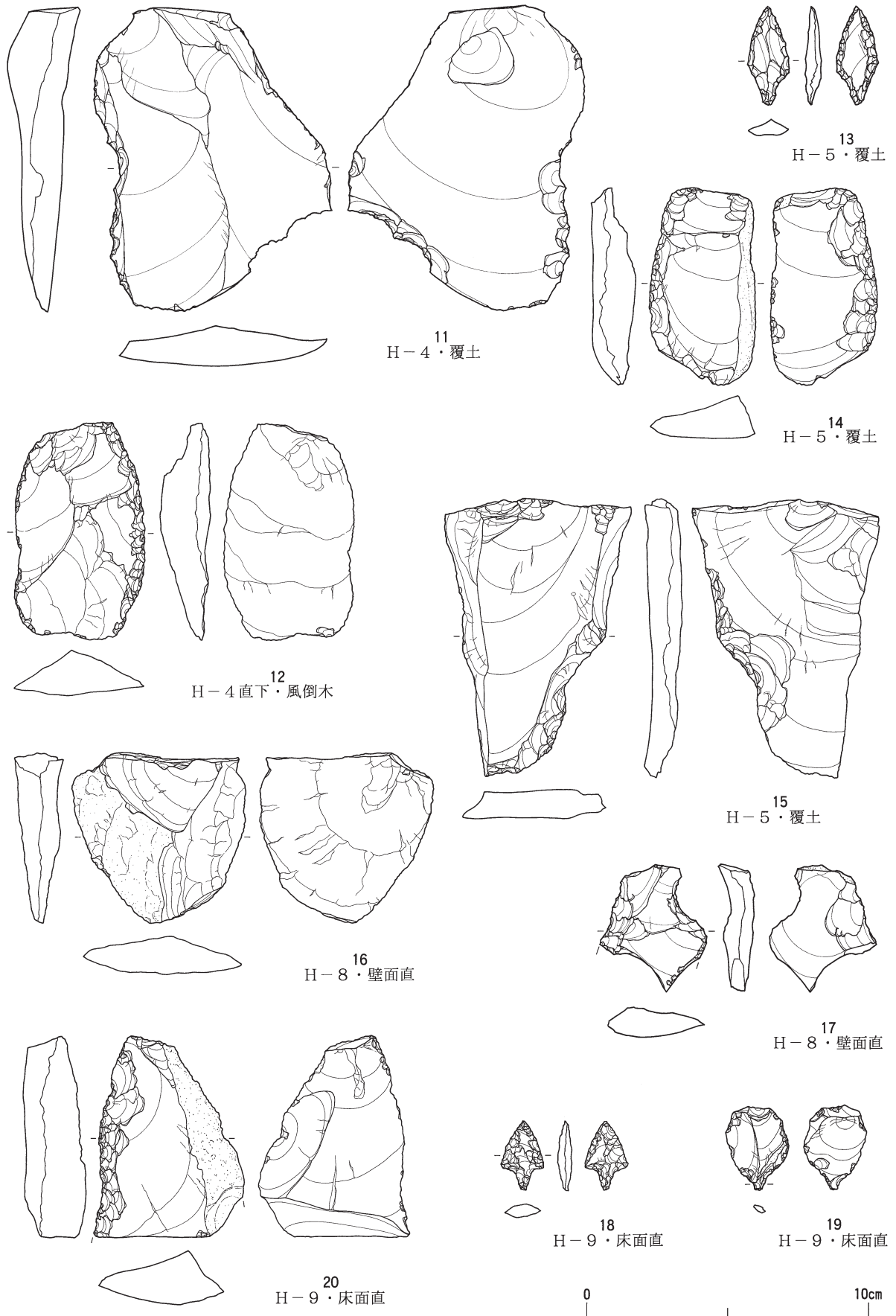
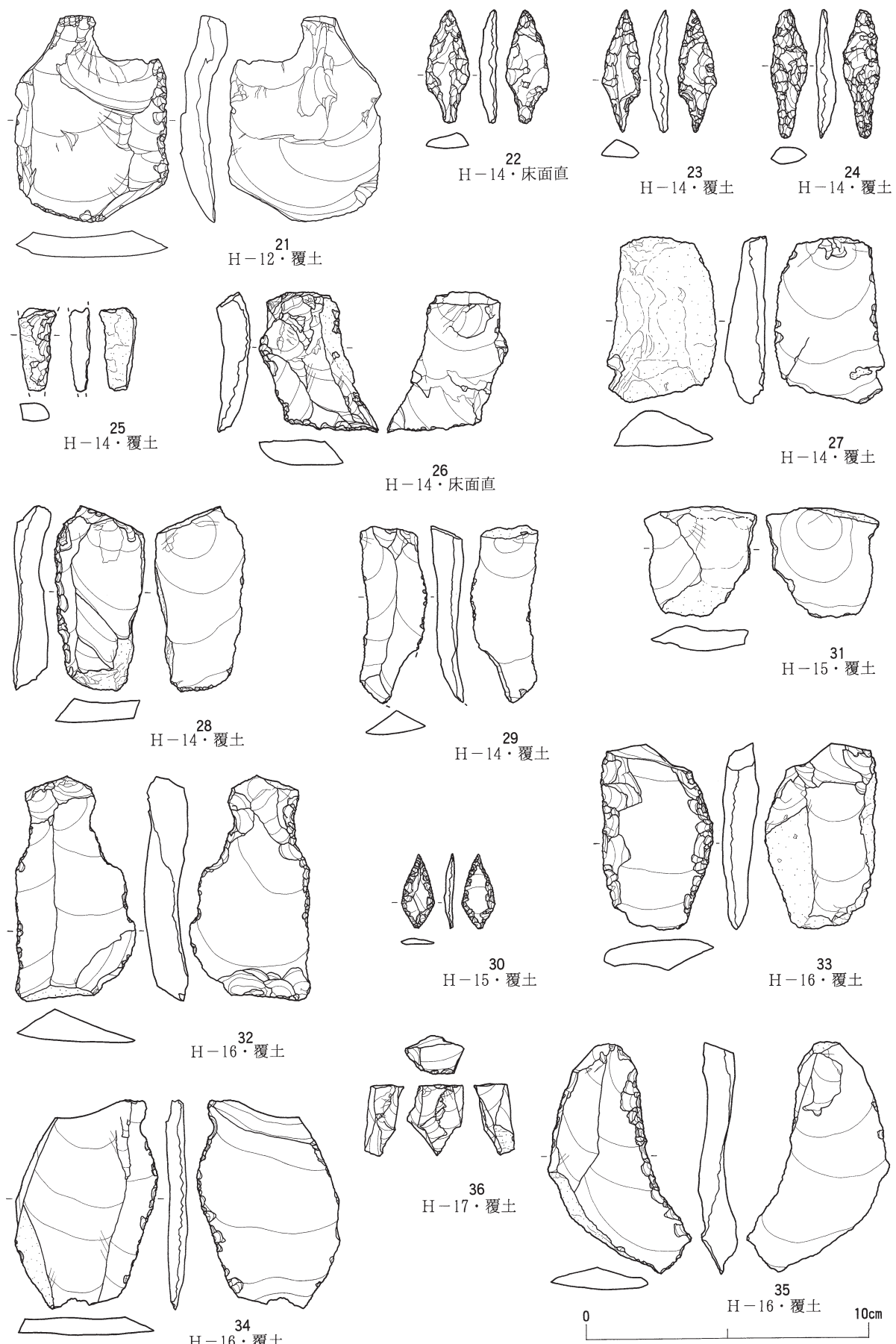


图 III - 116 住居跡出土剥片石器群(1) / H-1 · 2 · 3

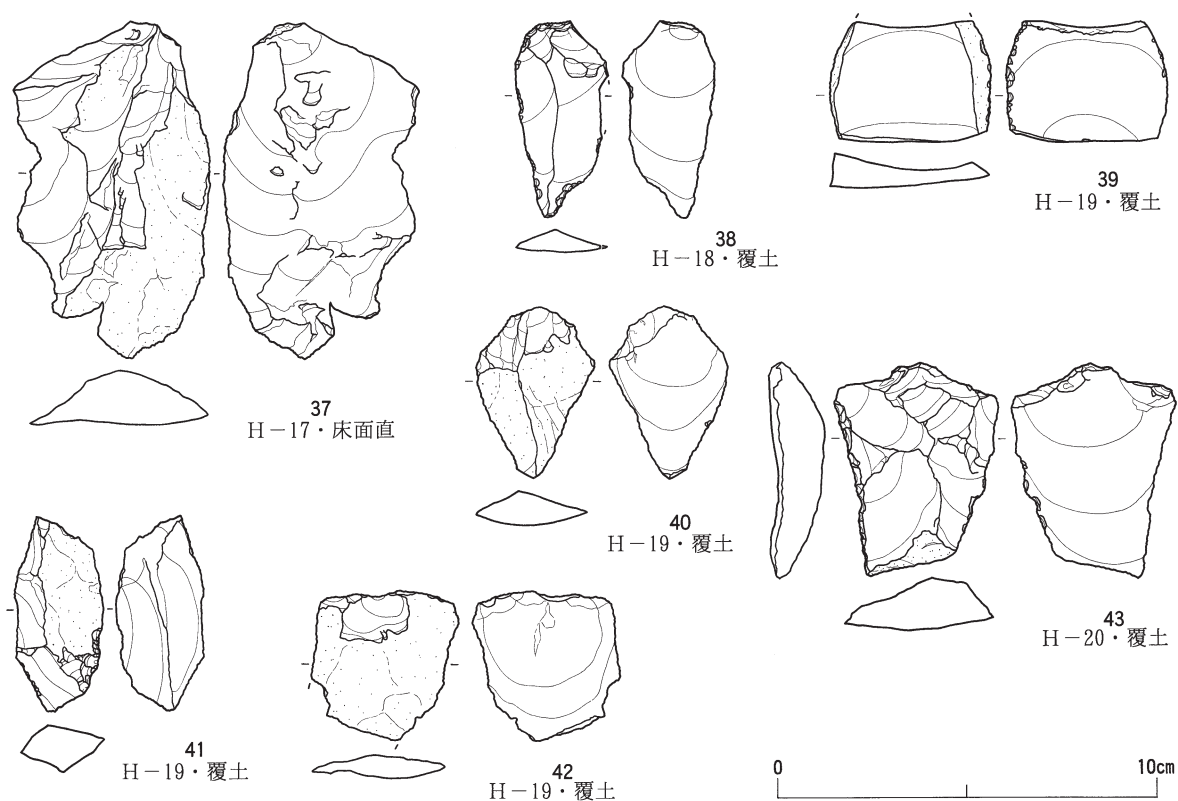




図III-117 住居跡出土剥片石器群(2)／H-4・5・8・9



图Ⅲ-118 住居跡出土剥片石器群(3) / H-12·14·15·16·17



図III-119 住居跡出土剥片石器群(4)／H-17・18・19・20

P-10 (46)：46はつまみ付ナイフで、先端部が破損する。背腹両面に二次調整が施される。

P-12 (47)：47は黒曜石製の石鏃で、基部側を破損する。

P-14 (48)：48は小型の石鏃で、石材は黒曜石である。

P-24 (49)：49は腹面の両側縁と下縁部に、二次調整が認められる。

P-26 (50～52)：50は横長型の手まり付ナイフで、下縁の刃部と手まり部分が作出される。51は、背面に礫表皮面を大きく残すサイドスクレイパーである。52は、両側縁と下縁部に刃部を有する。

P-38 (53～55)：53は、菱形を呈する小型の有茎石鏃で、石材はサヌカイトに類似する火山岩である。54は背面に礫表皮面を大きく残すもので、二次調整は腹面を主体に施される。55は、やや不整形を呈するスクレイパーで、刃部を有する両側縁が下端部で収束する。

P-39 (56)：56はやや厚みを有するラウンドスクレイパーで、石材はめのうである。

P-44 (57)：57は小型の有茎石鏃で、側縁は曲線的である。

P-48 (58)：58はスクレイパーで、背面には複数の先行を剥離面と、周縁部には二次調整による剥離が認められ、腹面は、比較的大きな調整剥離痕が観察される。

P-51 (59)：59は左右非対称であるが、先端部側を破損する石鏃であると考えられる。

P-59 (60)：60の背面には、複数の先行剥離面と礫表皮面が認められ、背面右側縁に二次調整が施される。

P-71 (61・62)：61は、背腹両面ともに器体内部まで二次調整が施されるスクレイパーである。62は、やや曲線的な素材剥片の背面周縁部に二次加工を施し、製作されたものである。

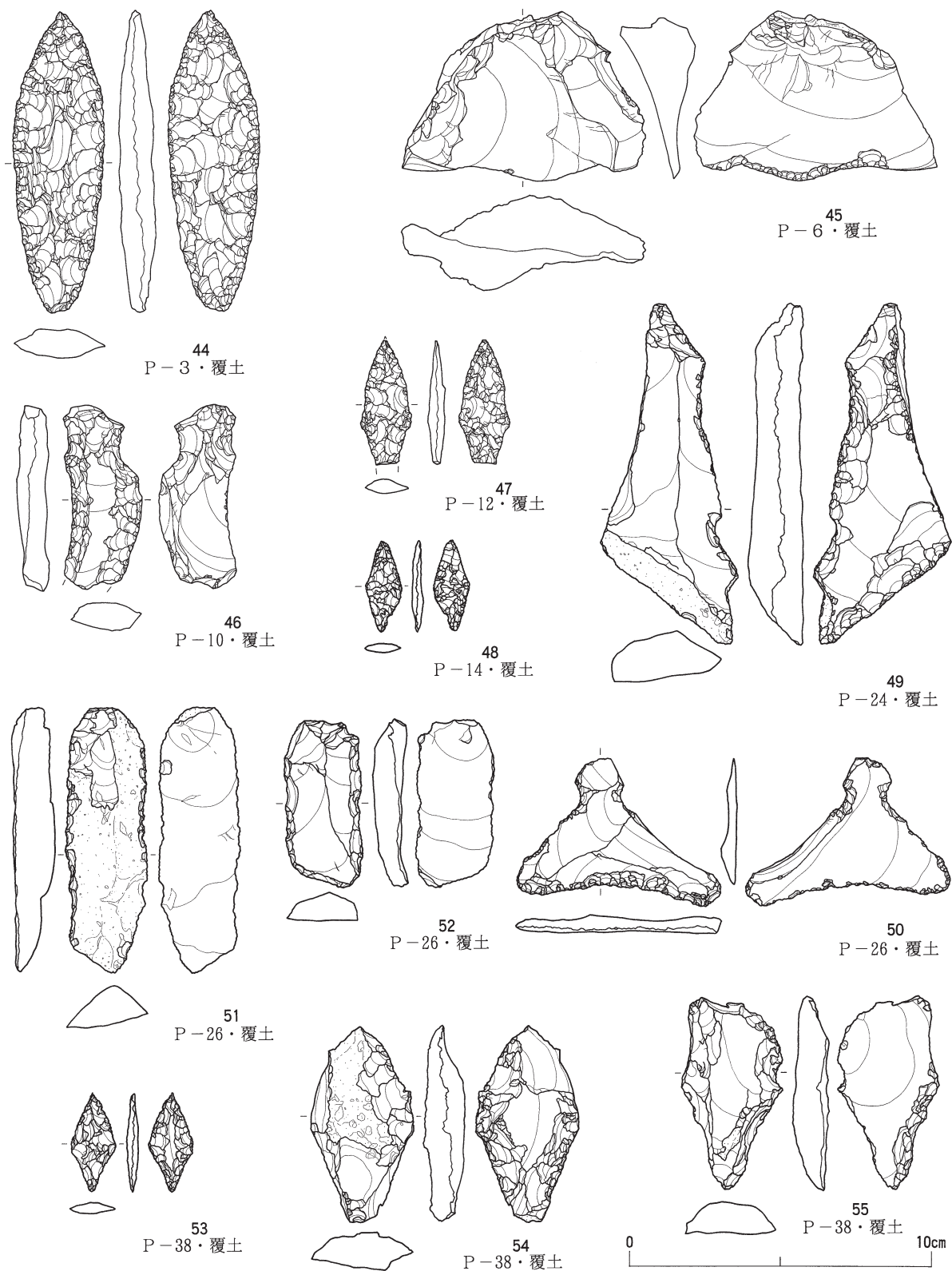


图 III-120 土坑出土剥片石器群(1) / P-3·6·12·14·26·38



P-79 (63~65) : 63は、破損した石鏃を石錐に転用したと考えられるもので、先端部には磨滅痕が認められる。64は、背面周縁に二次調整が施されるつまみ付ナイフで、下端側部分を破損する。65は、打面が礫表皮面の素材を用いて製作されたサイドスクレイパーである。

P-80 (66) : 66は背面が礫表皮面で、下端部付近の周縁に微細な剥落痕が観察される。

P-81 (67) : 67は茎部を破損する小型の石鏃で、細かな二次調整痕が観察される。

\* 焼土出土剥片石器群 (68~73)

F-1 (68) : 68の打面は礫表皮面で、腹面左側縁に剥離痕が認められる。

F-7・8 (69~73) : 69は二等辺三角形を呈し、周縁には微細な剥落痕が観察される。70の背面は、礫表皮面を大きく残し、右側縁部に二次調整痕が認められる。71は、背面の右側縁部と、背腹両面の下縁部に剥離痕が認められる。72・73はピエスエスキューに分類したもので、上下両端部には剥離痕が顕著に認められる。

\* フレイク・チップ集中出土剥片石器群 (74~76)

FC-1 (74~76) : 74は、背面に複数の先行剥離面と二次調整痕が観察される。75のスクレイパーは、当初包含層出土の遺物としていたが、接合資料(76)に接合したので、FC-1の遺物と判断した。背面は、左側縁が礫表皮面で、右側縁部には刃部作出の二次加工が施される。

76は接合資料(原石)で、75のスクレイパーが接合したものである。石材は、軟質な凝灰岩質部分と透明な石英質(SiO<sub>2</sub>)部分を有する、緑灰色を呈する頁岩である(表25 フレイク・チップ集中接合表参照)。

「表25 フレイク・チップ集中接合表」

FC-1 : 本遺構から出土した、緑灰色頁岩の剥片・碎片と同一母岩のものを対象とし接合作業を行ったところ、19個体の接合資料(2点以上接合のもの)が得られた。これらに「接合資料番号」(1~19)を付した。1~11はさらに接合し、合計破片数は191点を数える。これらのうち、接合資料番号1(図Ⅲ-122-76)は、H-42-b区・Vb層から出土したスクレイパー(図Ⅲ-122-75)が接合した。

FC-1はG-45区の北側部分(H-46杭寄り)、三次郎川へと張り出す高位の段丘の北側の縁部付近(VIII層上面の標高約44.00m付近)に位置するが、ここで接合した破片の出土グリッドから、剥片・碎片の広がりのみをみる。接合した破片が出土したグリッドは、Gライン：G-45・46・47区、Hライン：H-40・41・42・43区である。これらは、大きく二つに分けられよう。一つはH-42区を中心とする付近、もう一つはG-46・47区付近である。前者は、同じ台地の東側の縁部で、VIII層上面の標高もほぼ同じであり、一方、後者は三次郎川へと続く急な斜面から崖に相当する場所である。以上の出土状況から推測すると、H-42区付近の分布は、まず、スクレイパーが出土していることから、おそらく人為的な要因が考えられる。一方、G-46・47区付近のあり方は、FC-1から三次郎川への斜面及び崖下へと自然作用により移動していったものと考えられる。

D-42-d区フレイク・チップ集中 : 本遺構から出土した、灰黄褐色頁岩及び黒褐色頁岩の剥片・碎片と同一母岩のものを対象とし接合作業を行ったところ、前者は10個、後者は3個の接合資料(2点以上接合のもの)が得られた。D-42区以外で接合したものはなく、実測図等は作成していない。

(2)磨製石器群(図Ⅲ-123 表22 図版86)

\* 住居跡出土磨製石器群(1~9)

H-7(1・2) : 1は、ほぼ完形のもので、刃部の一部を破損する。2は、刃部にたたき痕が顕著に認められ、たたき石に転用されたものであろう。

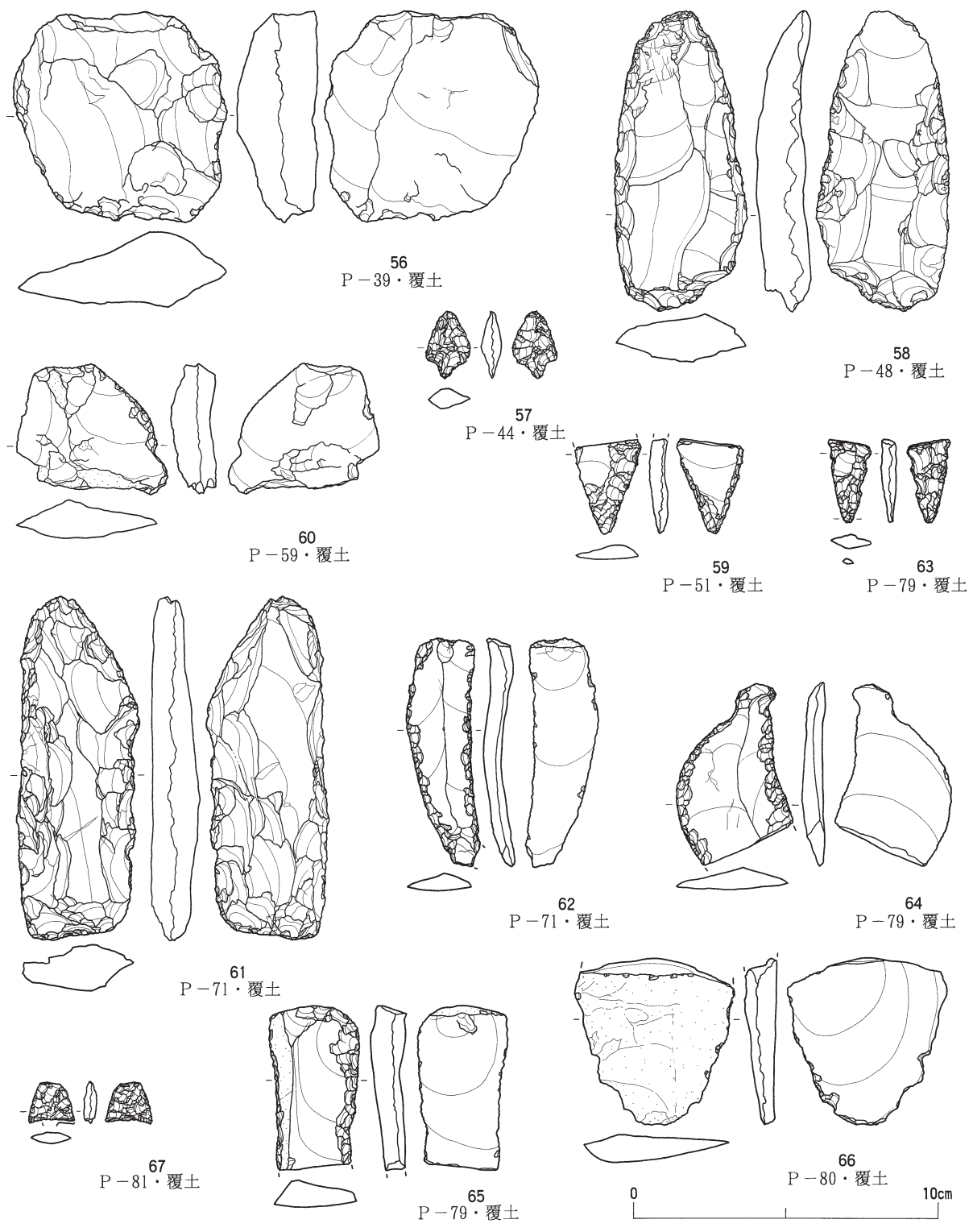
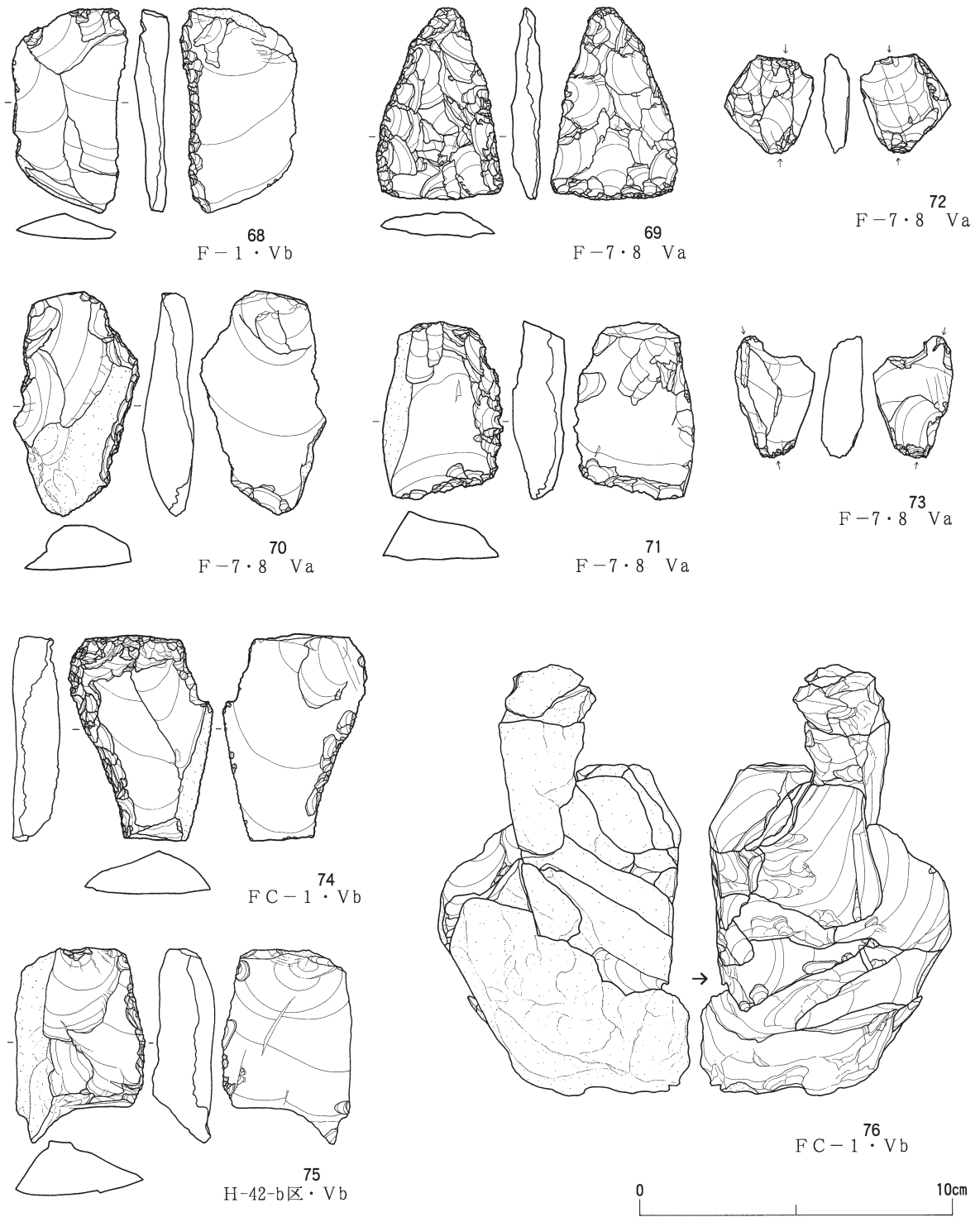


图 III - 121 土坑出土剥片石器群(2) / P-39·44·48·51·59·71·79·80·81



図III-122 焼土及びフレイク・チップ集中出土剥片石器群/F-1・7・8・FC-1

H-8 (3): 3は側面の観察から、擦切技法により製作されたと判断される。

H-10 (4): 4は「石のみ」と呼称されるもので、表裏面ともに刃部寄りの部分は、剥落痕が顕著に認められる。

H-12 (5): 5は刃部が明瞭に残存するもので、基部側は表裏両面ともに剥落痕が多数認められる。

H-14 (6・7): 6は小型で、基部付近の破片である。7は片岩製の石のみと考えられるもので、表裏面ともに剥落し、研磨痕等の調整痕が観察されないものがある。

H-17 (8): 8は粘板岩製で、刃部付近の破片である。

H-18 (9): 9は基部側の破片で、側面には敲打痕が認められる。

### (3)礫石器群 (図Ⅲ-124~135 表23 図版87~94-1)

#### \* 住居跡出土礫石器群 (1~29)

H-1 (1・2): 1は北海道式石冠で、表裏両面のすり面近くは剥落痕が著しい。2は接合資料で、石錘に分類した。すり面は認められないが、扁平打製石器の未製品である可能性がある。

H-3 (3~6): 3は安山岩製で、表面左側縁のくびれは人為的な加工であると判断される。4は、曲線的な上縁部に剥離痕が表裏面ともに認められる。5は上縁部の剥離痕が表面にのみ観察される。6はたたき石で、表面に2カ所のたたき痕が認められる。

H-4 (7~10): 7はすり面が幅細くなり、面として残存しない。8は約1/2を破損する。9は、すり面にも敲打痕が認められ、これは加工痕であると推測される。10の裏面には、持ち手部分を切る大きな剥落痕が3カ所、下縁部分に観察され、使用により生じたものと判断される。

H-5 (11・12): 11は楕円形を呈し、下縁部の直線的な辺にすり面を有する。12は北海道式石冠で、すり面に剥落痕が観察される。

H-8 (13~20): 13は接合したもので、表面の両側端部に打ち欠きが認められる。14は表面に大きな凹みを有する素材を用いたもので、すり面は観察されない。15は、裏面のすり面付近では剥落痕が観察される。16は、すり面に剥落痕が認められる。17は表面右側部分を破損する。18は棒状の自然礫の一端に、機能部を有するたたき石である。19は、表裏両面と右側面にすり面が観察される。石材はやや軟質で細粒の凝灰岩である。20は、楕円形の礫を半割したもので、中央付近にはたたき痕が密集する。北海道式石冠の未製品であると推測される。

H-10 (21): 21は砥石でほぼ全面にすり痕が観察されるが、中央からやや上端部よりに、溝状のすり痕が認められる。

H-11 (22): 22は下縁部にすり面を有する扁平打製石器で、石材は多孔質な安山岩である。

H-12 (23): 23は厚みのある泥岩を用いた、たたき石である。

H-14 (24・25): 24はたたき痕がやや不明瞭であるが、たたき石に分類した。25は、大きな棒状の礫の下端部にたたき痕と剥落痕が認められる。

H-16 (26~28): 26は、石材の風化が著しいものである。27は、表裏両面ともにすり面付近の剥落痕が顕著である。28は、表裏両面ともに上縁部が打ち欠きで加工される。

H-19 (29): 29は棒状の素材で、上下両端部にたたき痕が観察される。

#### \* 土坑出土礫石器群 (30~55)

P-11 (30): 30は、左右両端部に打ち欠き加工が施される。

P-16 (31): 31は、角のとれた長方形の自然礫を利用したものである。

P-17 (32): 32は、表裏両面に加工痕が認められるが、すり面付近は、使用による剥落痕であると考



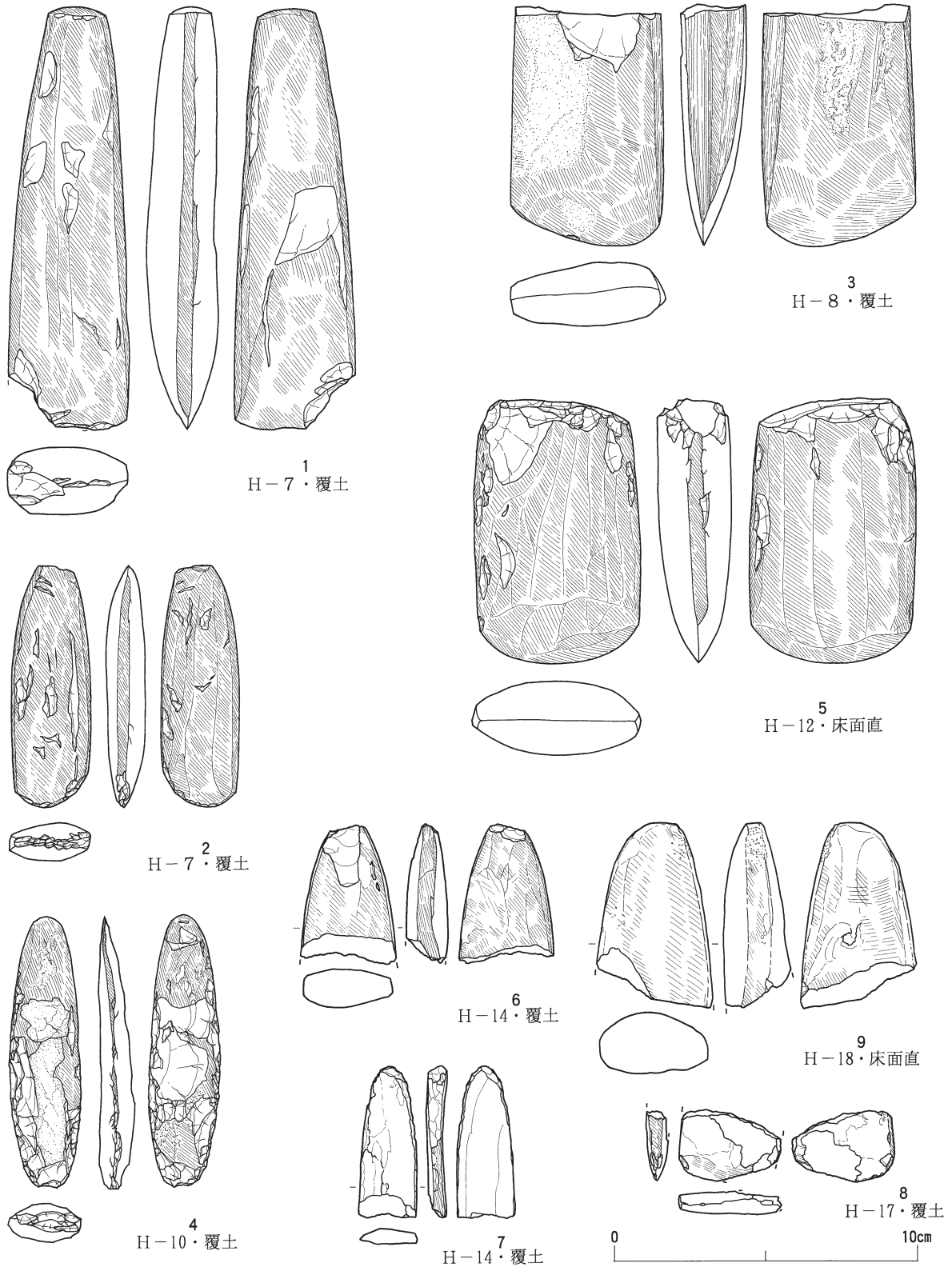
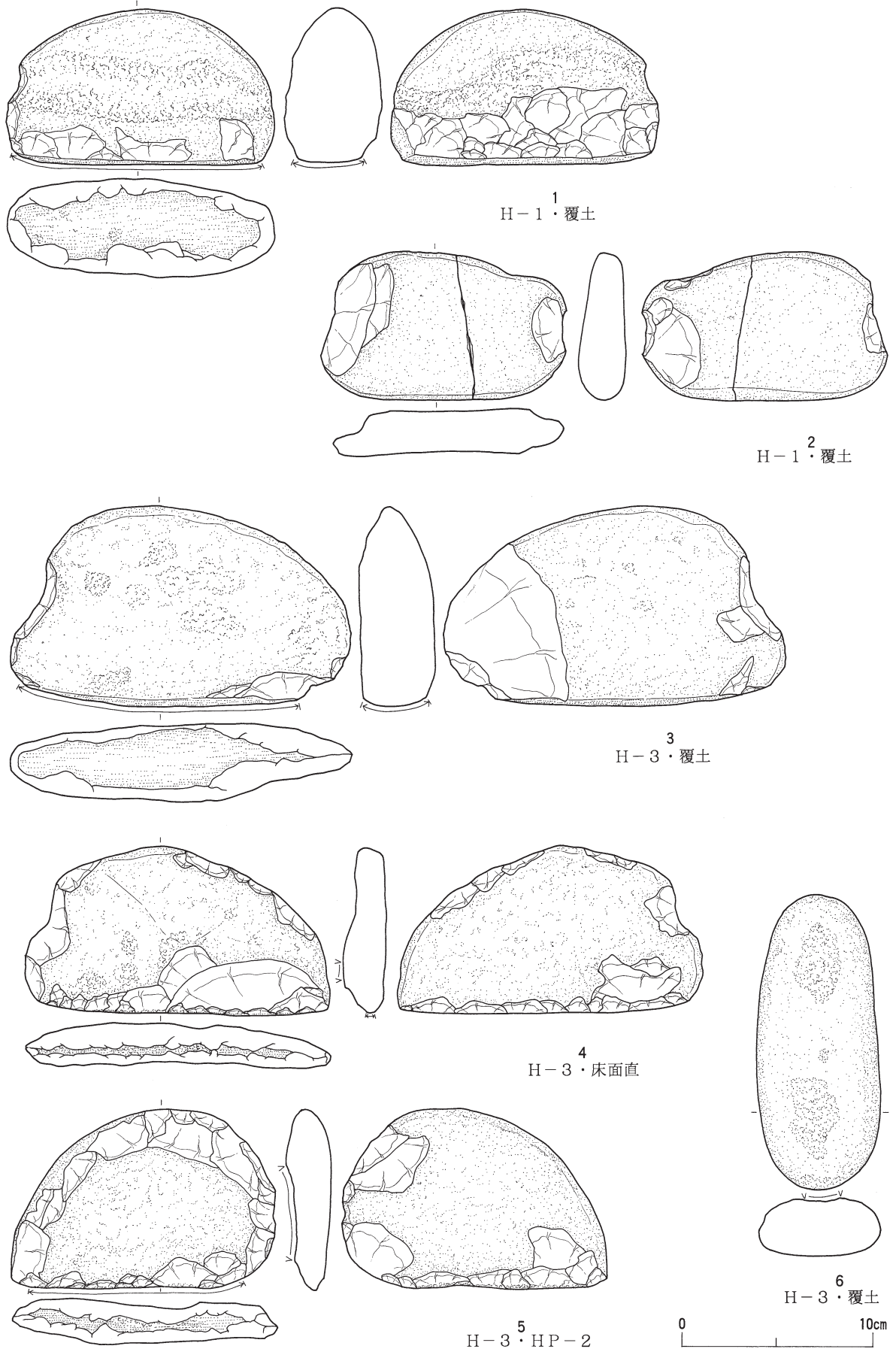
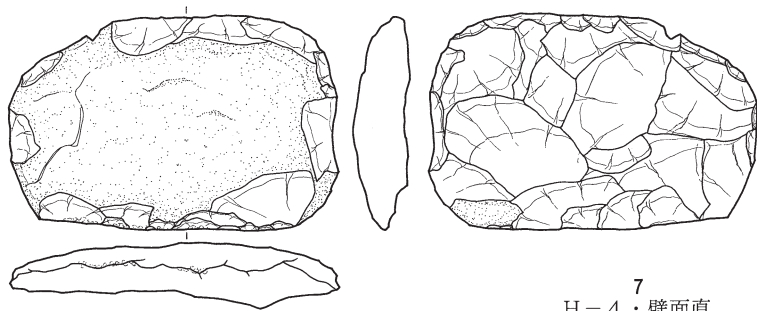


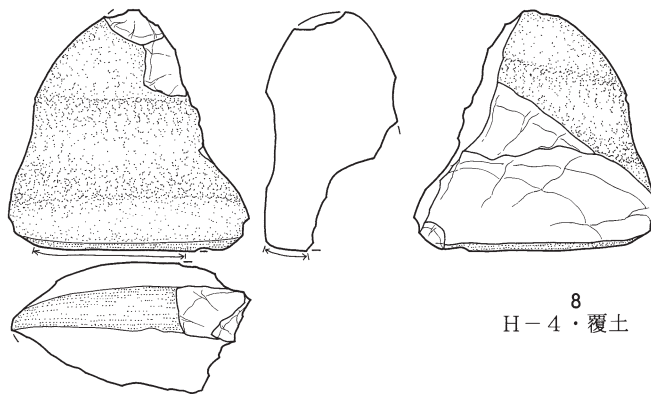
图 III - 123 住居跡出土磨製石器群 / H - 7 · 8 · 10 · 12 · 14 · 17 · 18 · 24



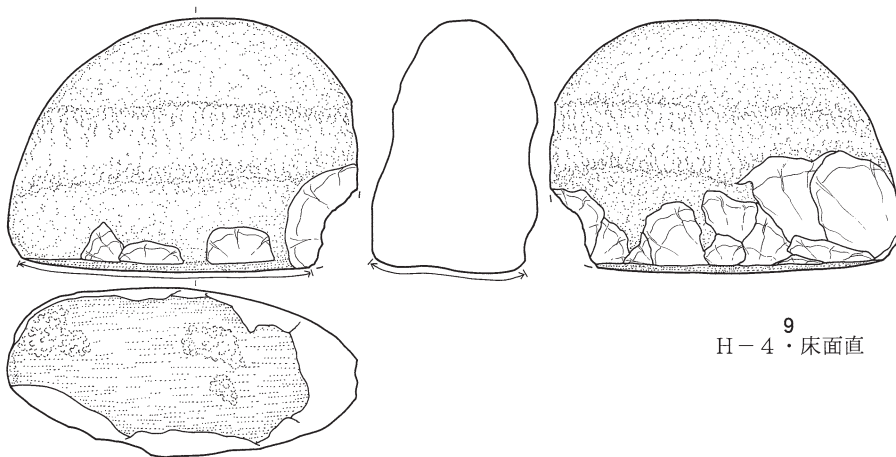
図Ⅲ-124 住居跡出土礫石器群(1) / H-1 · 3 · 4



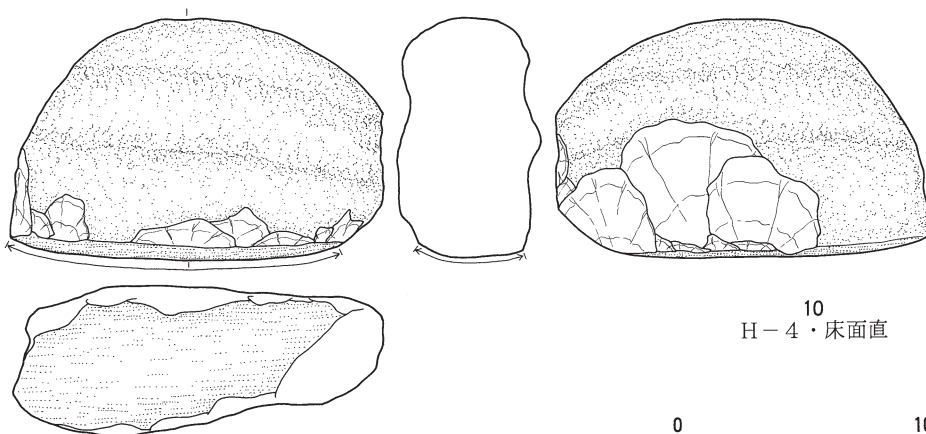
7  
H-4・壁面直



8  
H-4・覆土



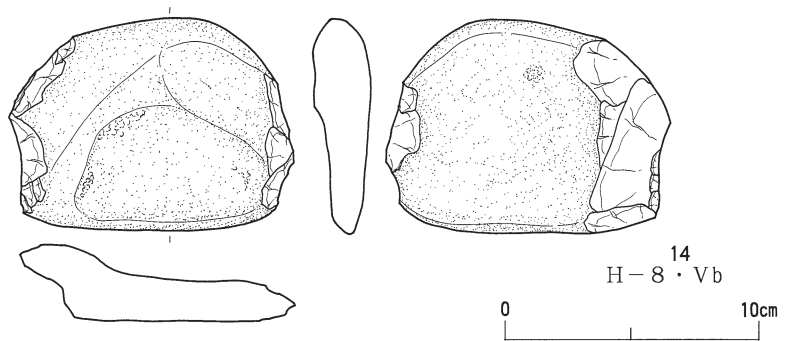
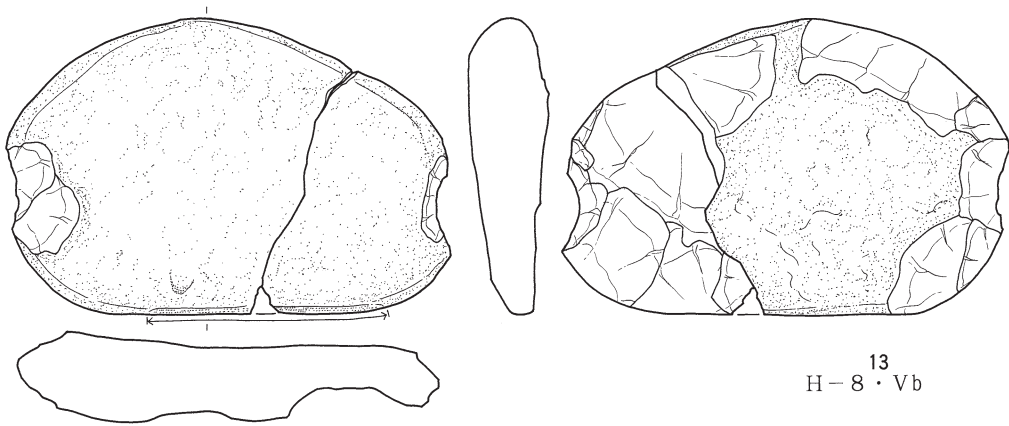
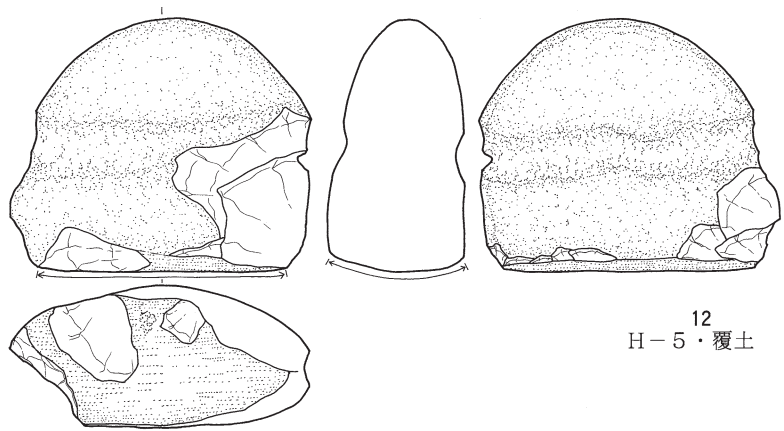
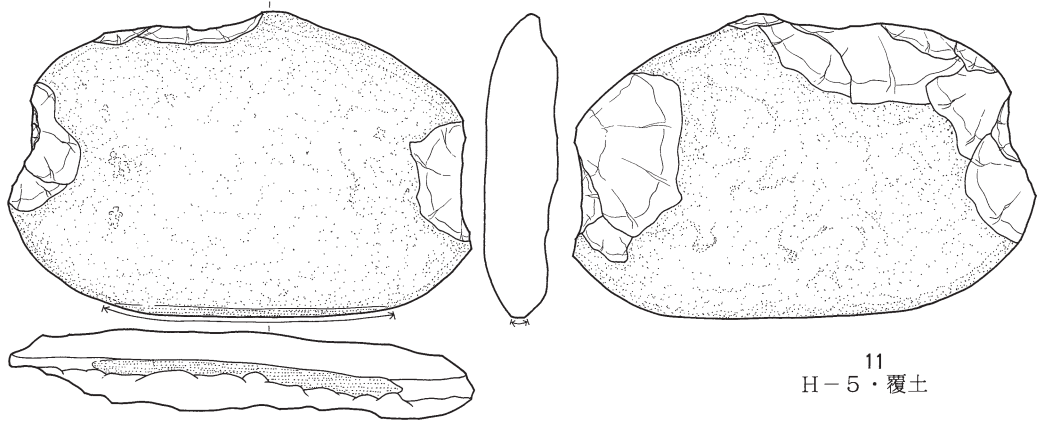
9  
H-4・床面直



10  
H-4・床面直

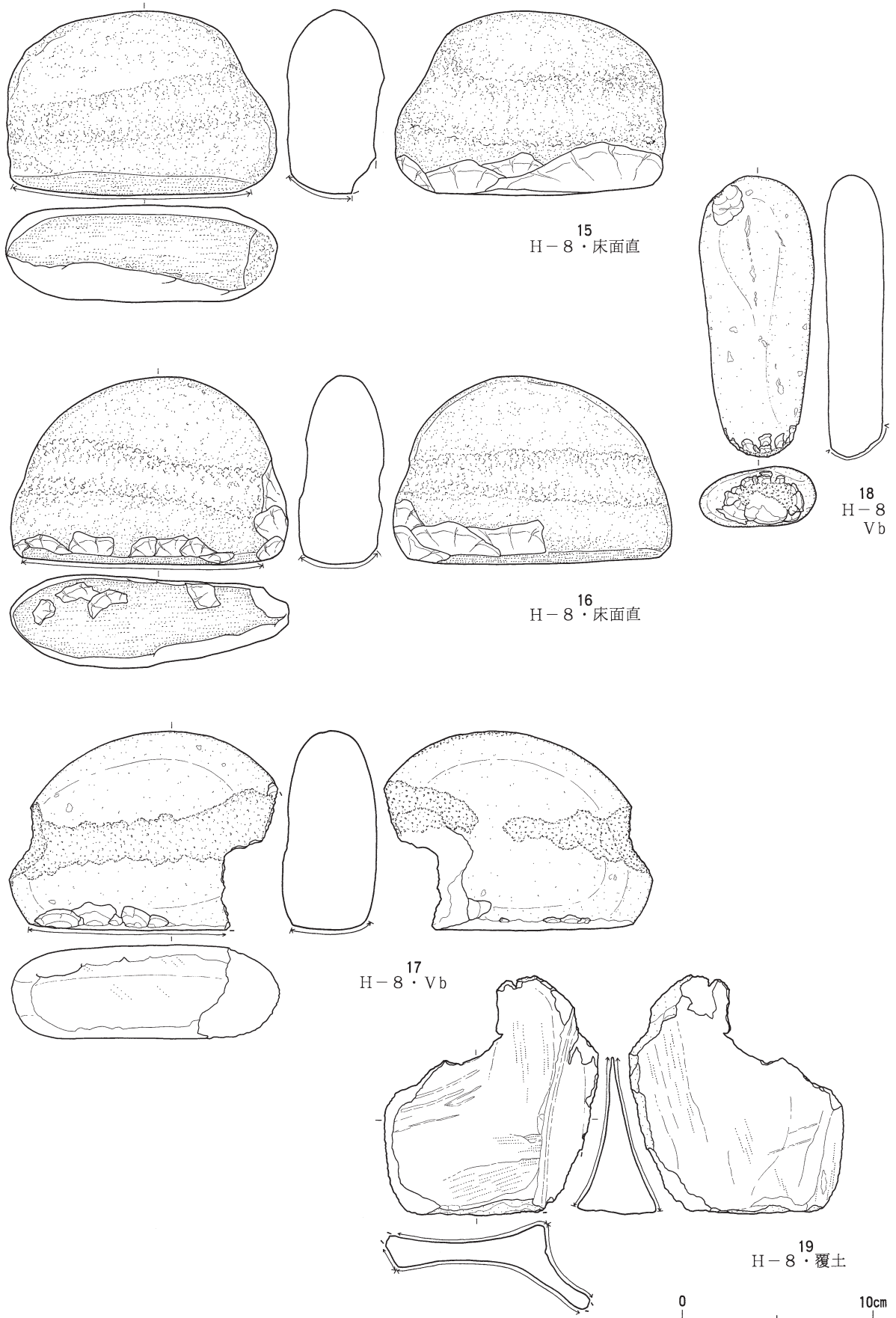


图III-125 住居跡出土礫石器群(2)/H-4

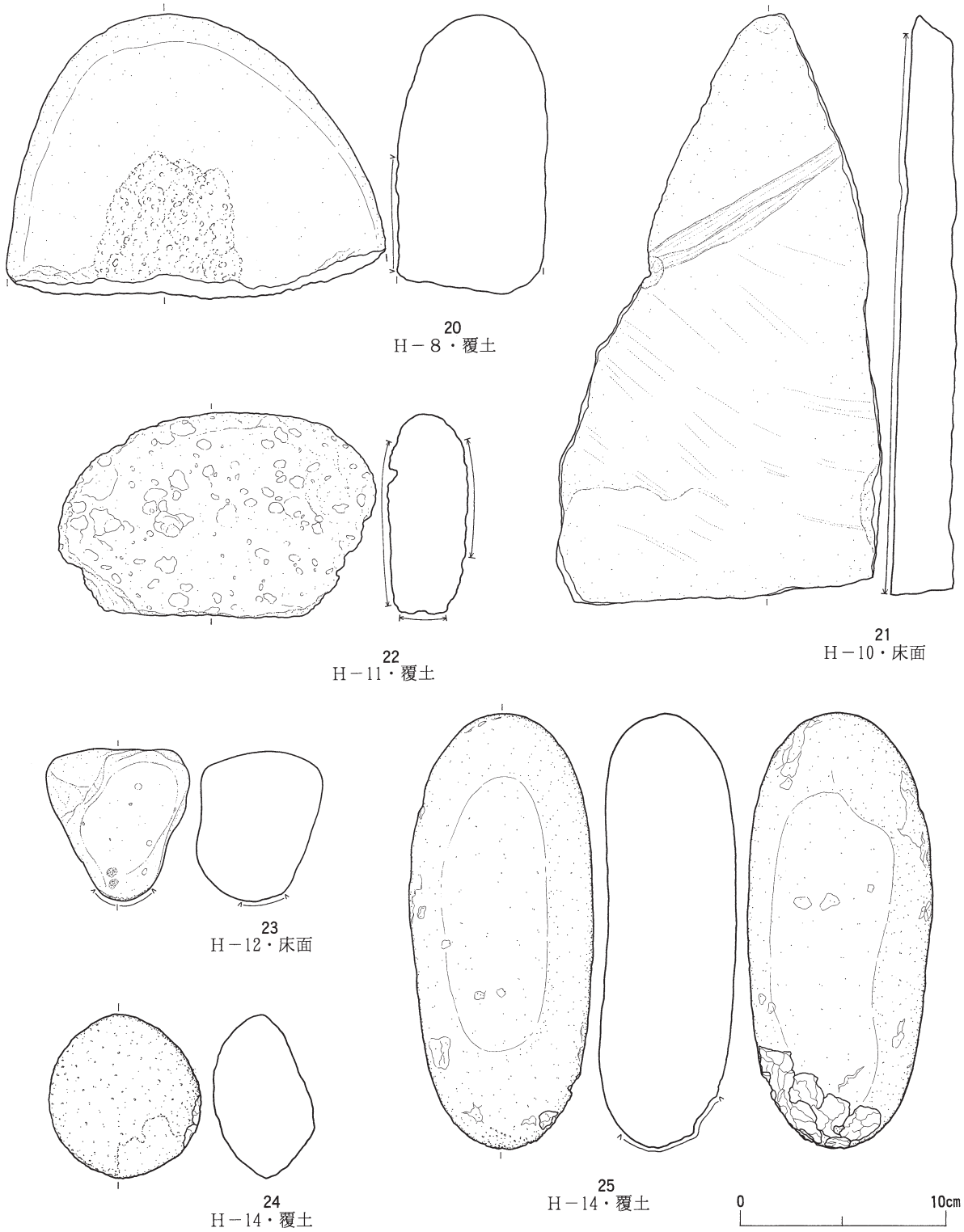


图Ⅲ-126 住居跡出土礫石器群(3)/H-5·8

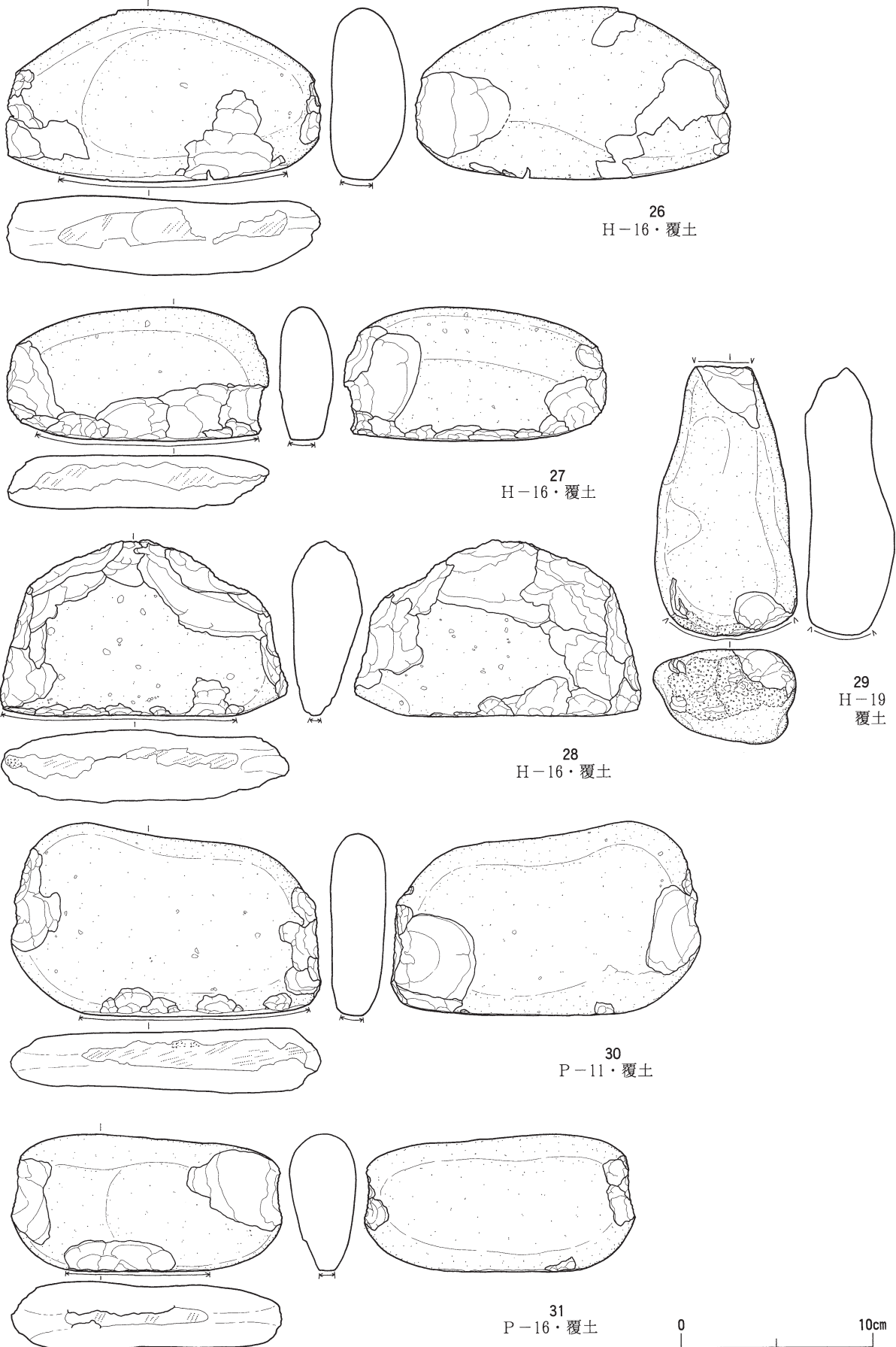




図III-127 住居跡出土礫石器群(4)／H-8



图Ⅲ-128 住居跡出土礫石器群(5)／H-8・10・11・12・14



図III-129 住居跡及び土坑出土礫石器群／H-16・19・P-11・16

えられる。

P-20 (33) : 33は、表面右側（裏面左側）に使用による剥落痕が著しい。

P-23 (34) : 34はやや小型で幅の狭いもので、下縁の面にはすり痕が認められない。未使用品であると考えられ、裏面の下縁付近に認められる痕跡は加工痕であると判断される。

P-26 (35~37) : 35は、やや高さのあるもので、裏面は打ち欠き加工がなされていると考えられる。36は接合資料で、楕円形を呈する形態からは扁平打製石器と考えられるが、敲打により作出された持ち手部分を有することから北海道式石冠に分類した。37は、上縁部に打ち欠き加工による剥離痕が表裏両面に観察される。

P-30 (38) : 38は小型であるが、敲打による持ち手部分が全周し、下縁の面にはすり痕がみられず、敲打痕により平坦化されている。未使用品か小型の非実用品（石製品）であると考えられる。

P-31 (39) : 39は、下縁の面にはすり痕がみられず、敲打痕が観察される。未使用品であると考えられ、表裏両面には持ち手部分以外にも敲打痕が認められ、整形のための調整であると考えられる。

P-32 (40・41) : 40は、表面右端部を破損する。41は、表裏両面に剥離・剥落痕が観察される。

P-33 (42~44) : 42は接合資料で、打ち欠き等による剥離痕が認められず、未加工品であると判断される。43は、両側端部を破損する。44はすり面にも、整形のためと考えられる敲打痕が観察される。

P-41 (45) : 45は、楕円形の円礫を用いたもので、左側縁に使用痕が観察される。

P-42 (46・47) : 46は、加工のためと判断される敲打痕が観察される。47は石錘に分類したものであるが、両端部の打ち欠かれた部分には、磨滅痕が観察されず、すり石の未製品または未使用品であると判断される。

P-46 (48) : 48は概して長方形を呈し、表裏両面に剥離・剥落痕が多数認められる。

P-53 (49) : 49の裏面には、両側端部からの打ち欠きにより生じた、大きな剥離痕が観察される。

P-69 (50・51) : 50は、両端部に打ち欠きが施されたものである。51は北海道式石冠で、すり面付近の破片と判断されるが、すり面にはすり痕が認められず、製作失敗品であると判断される。

P-77 (52) : 52は、上下両端部と表面左側縁部に使用痕が認められる。

P-79 (53) : 53は、楕円形の素材を用いたたたき石である。

P-83 (54) : 54は、やや厚みのある素材で、すり面が幅広く残存する。

P-85 (55) : 55は、楕円形素材の下端部にたたき痕が認められる。

#### \* フレイク・チップ集中出土礫石器群 (56~59)

FC-1 (56~59) : 56は「円」に近い形状の礫を利用したものである。57は横長のもので、表面右側端部分を破損する。58は、表面右側部分を破損するもので、持ち手部分作出のための敲打加工が施されない部分がある。59は、やや小型で、表面右側部分を破損する。

#### (4) 礫石器群 (大型) (図Ⅲ-136~140 表23 図版94-2~99-4)

##### \* 住居跡出土礫石器群 (大型) (1~11)

H-9 (1) : 1は板状の素材を用いたもので、すり痕・たたき痕が観察される。

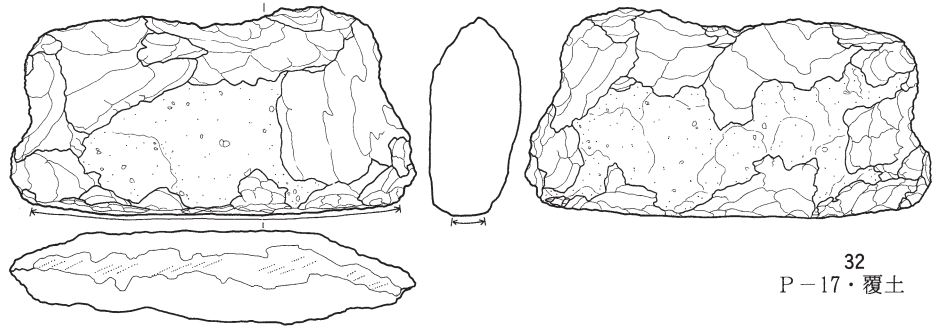
H-12 (2) : 2は上端部分を破損するもので、平滑なすり面が認められる。

H-14 (3~5) : 3は、台石に分類したが、使用痕等が不明瞭である。4は角閃石安山岩を素材とし、緩やかに凹むすり面が観察される。5は硬質な砂岩を素材とするもので、すり痕が認められる。

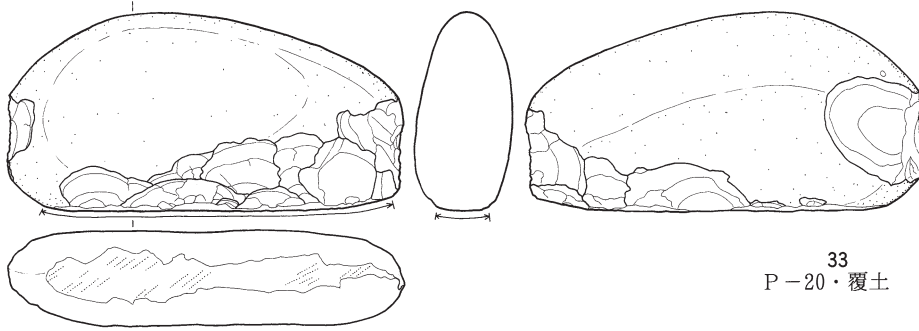
H-16 (6~8) : 6は、明瞭な使用痕が観察されない。7は、長楕円形の円礫を素材とするもので、表裏両面に使用痕が観察される。8は、使用痕が明瞭に観察されない。

H-17 (9) : 9は下端部が破損するものであるが、明瞭な使用痕が認められない。

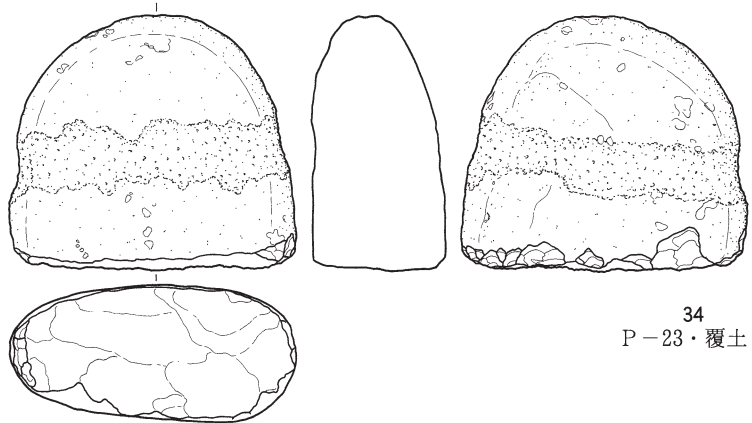




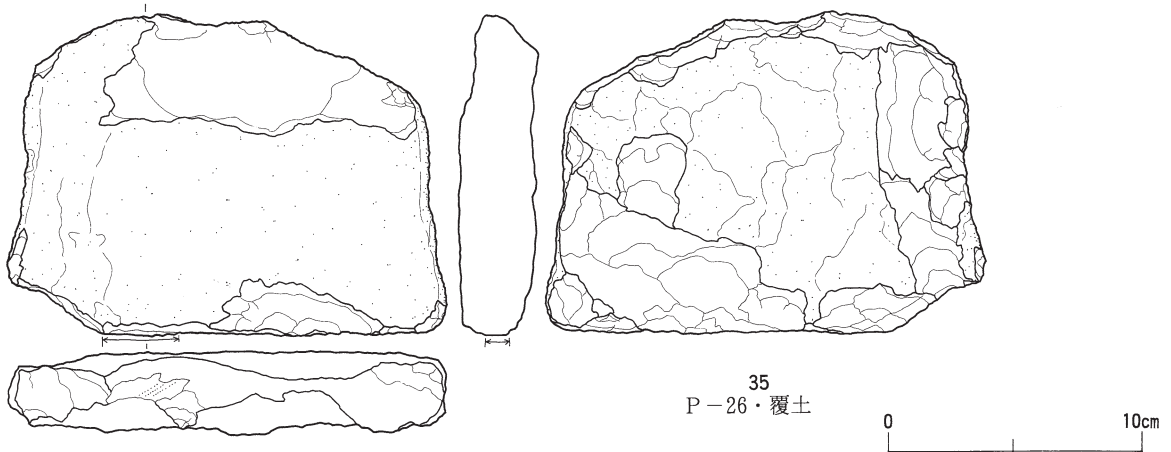
32  
P-17·覆土



33  
P-20·覆土

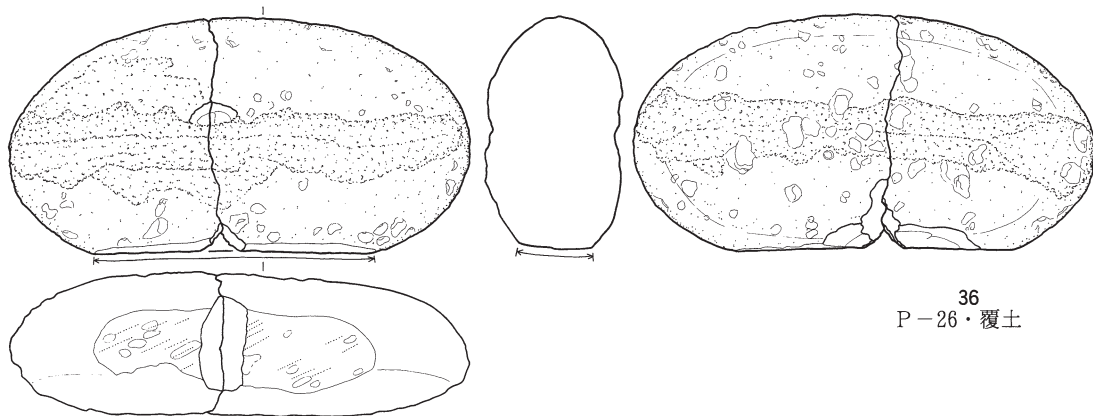


34  
P-23·覆土

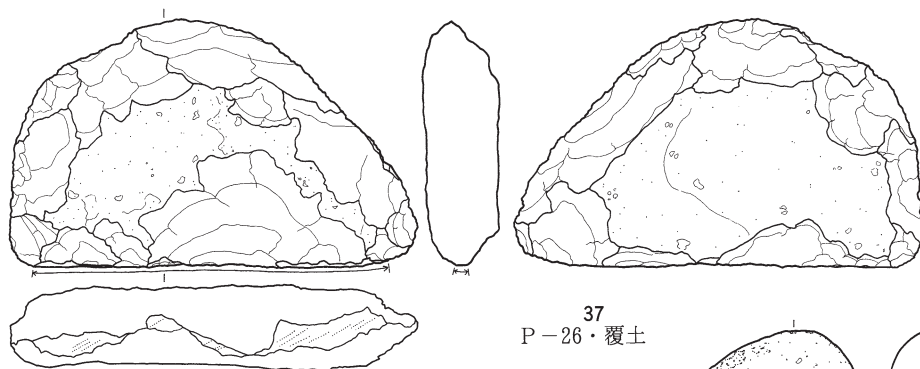


35  
P-26·覆土

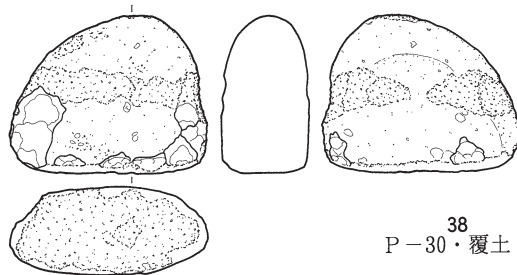
図III-130 土坑出土礫石器群(1) / P-17・20・23・26



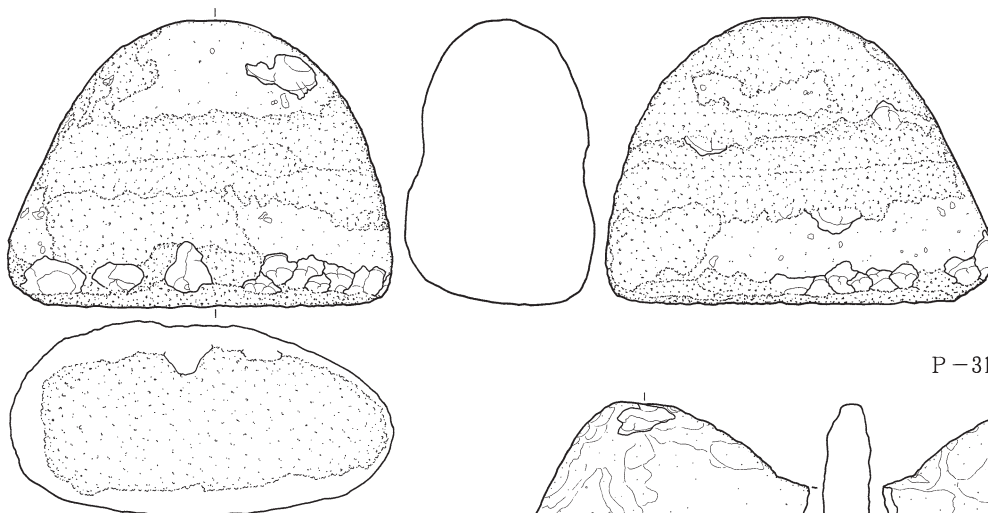
36  
P-26·覆土



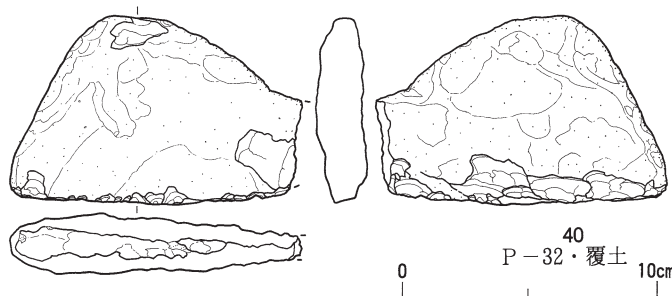
37  
P-26·覆土



38  
P-30·覆土



39  
P-31·覆土



40  
P-32·覆土

0 10cm

图 III - 131 土坑出土礫石器群(2) / P-26·30·31·32

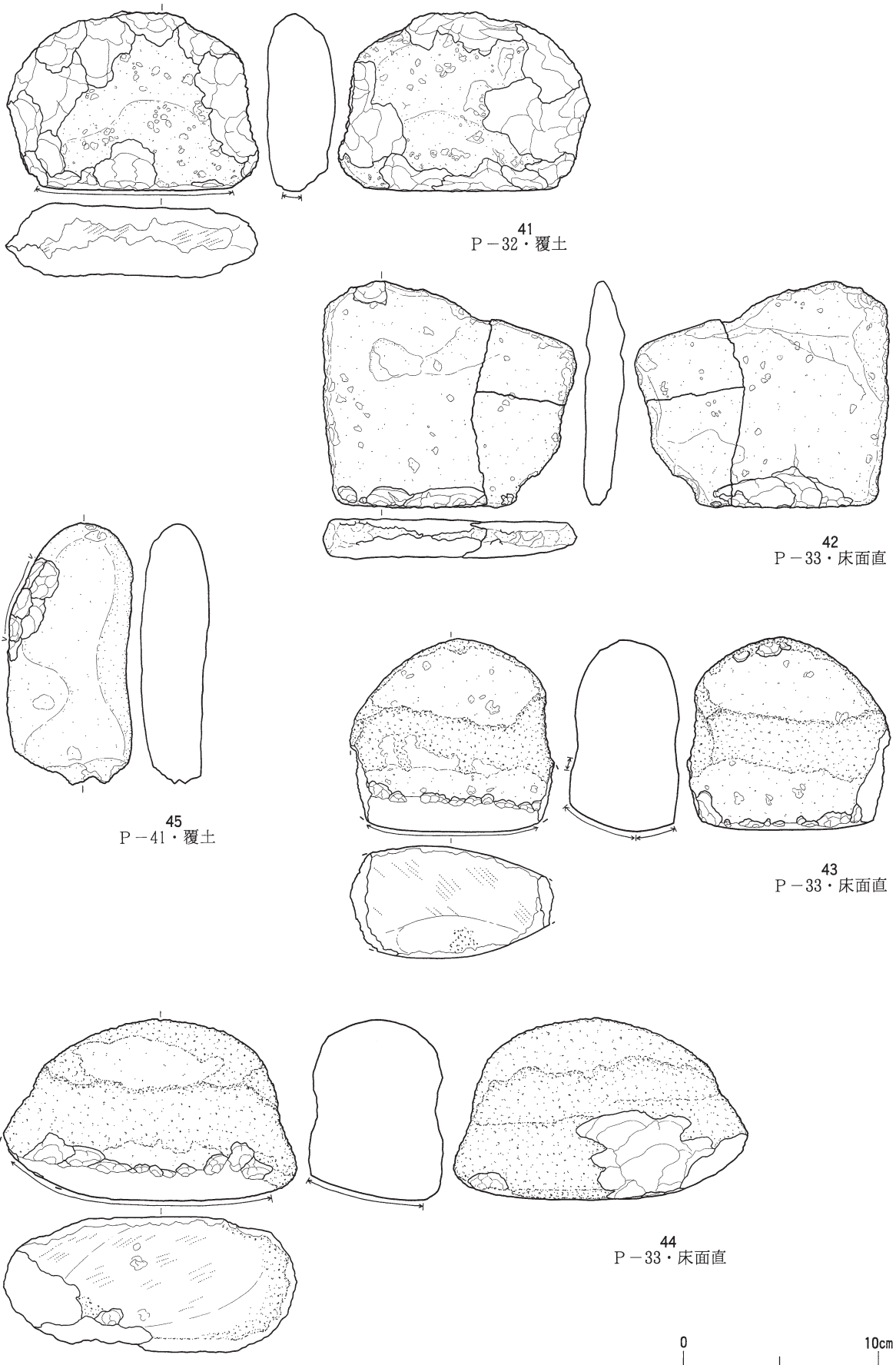
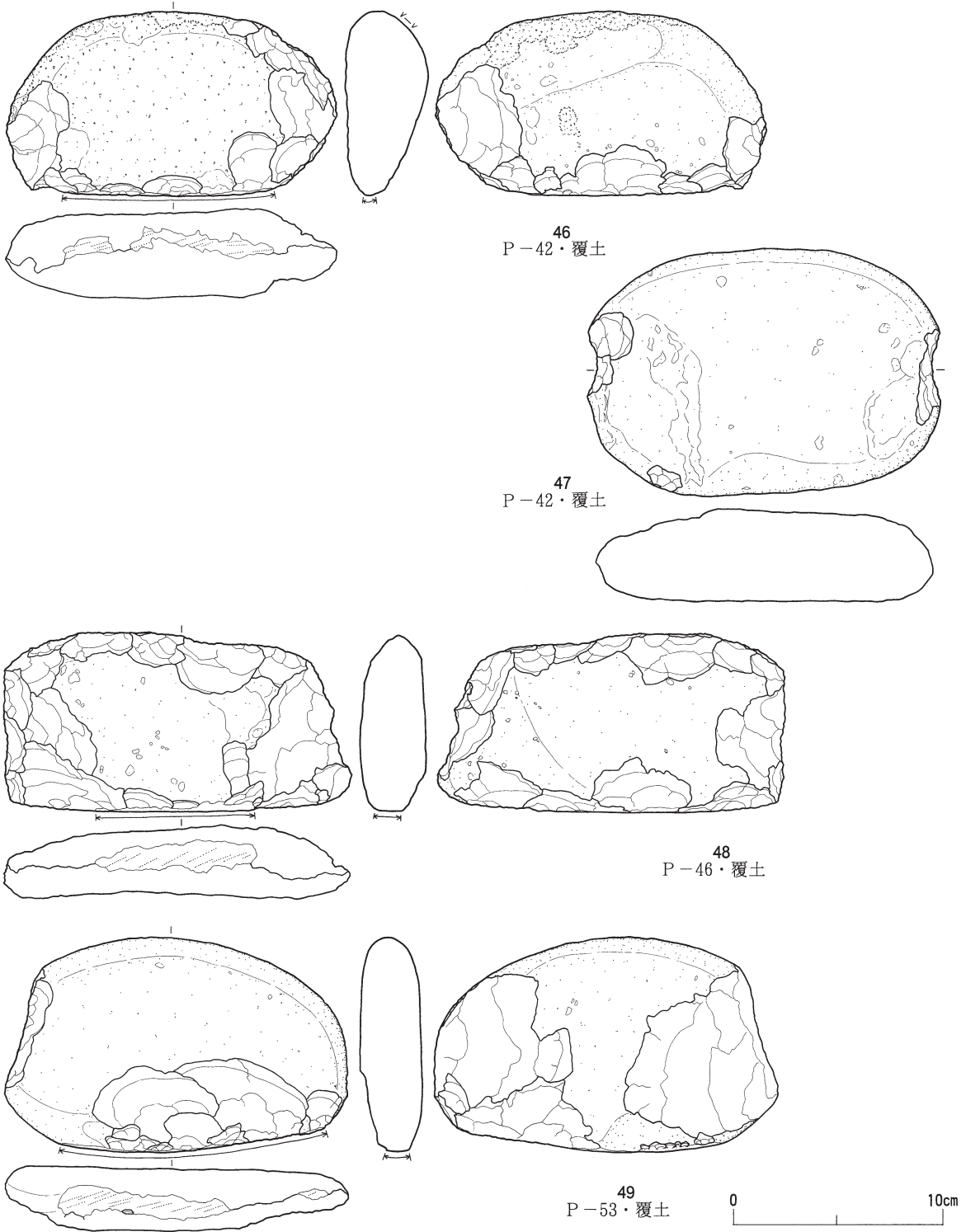


图 III-132 土坑出土礫石器群(3) / P-32·33



图Ⅲ-133 土坑出土礫石器群(4)/P-42·46·53



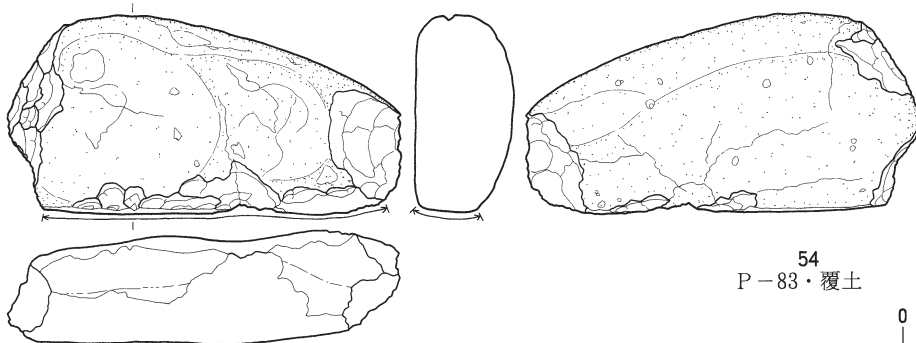
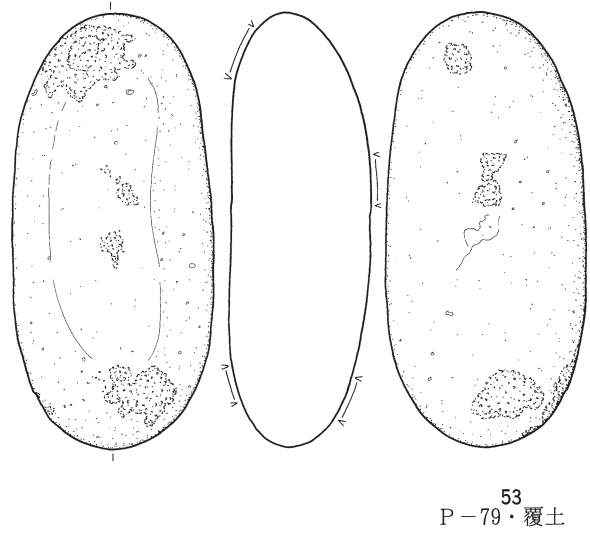
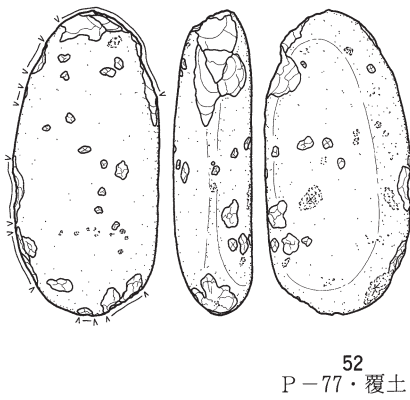
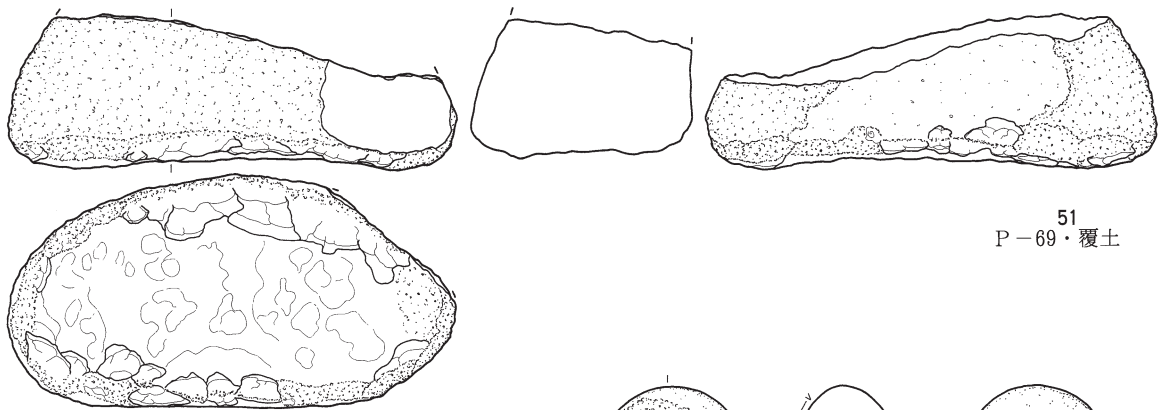
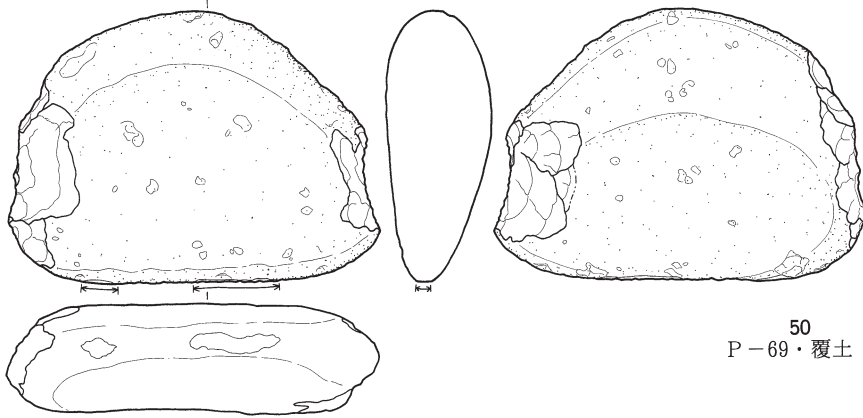
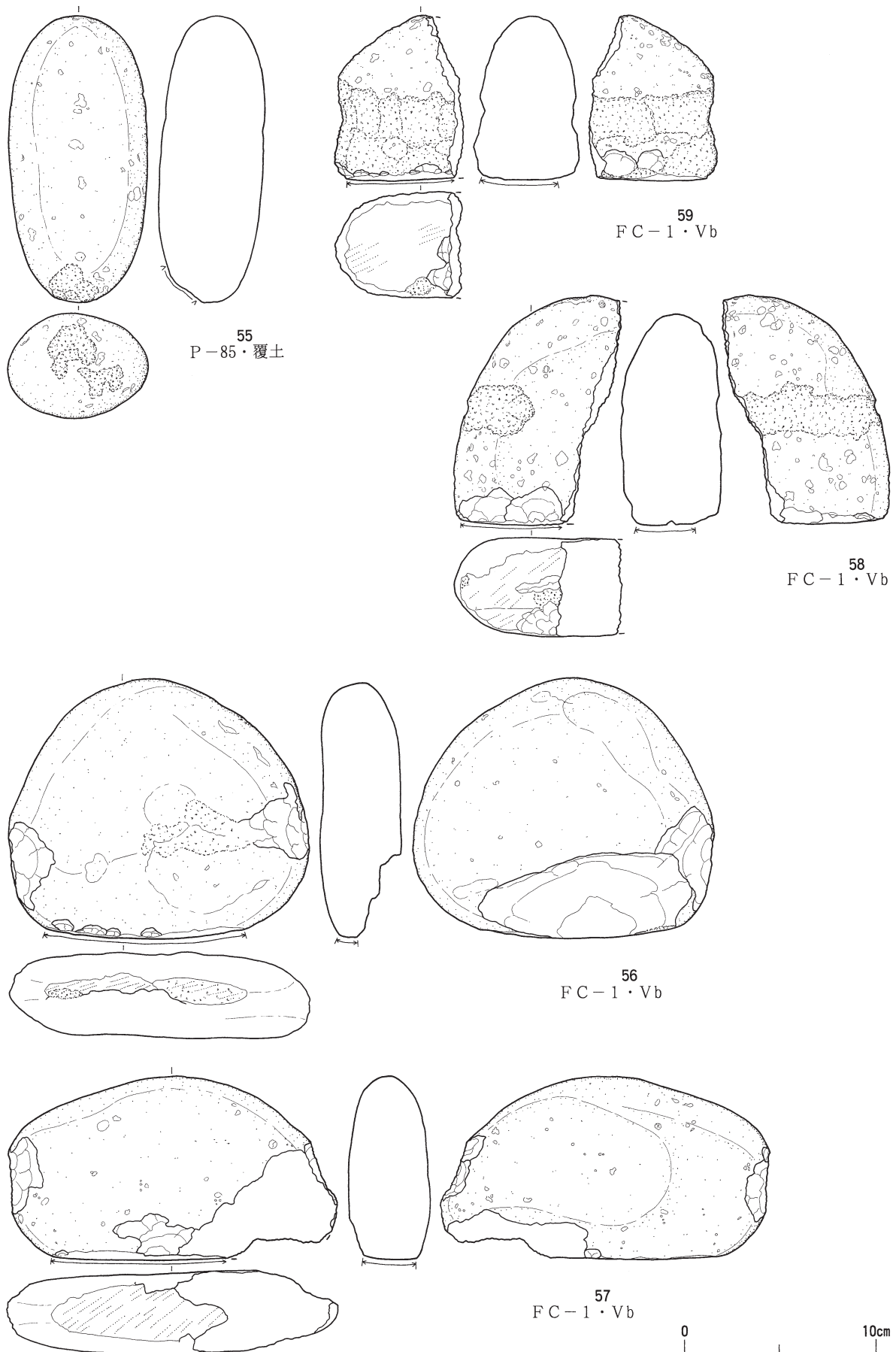
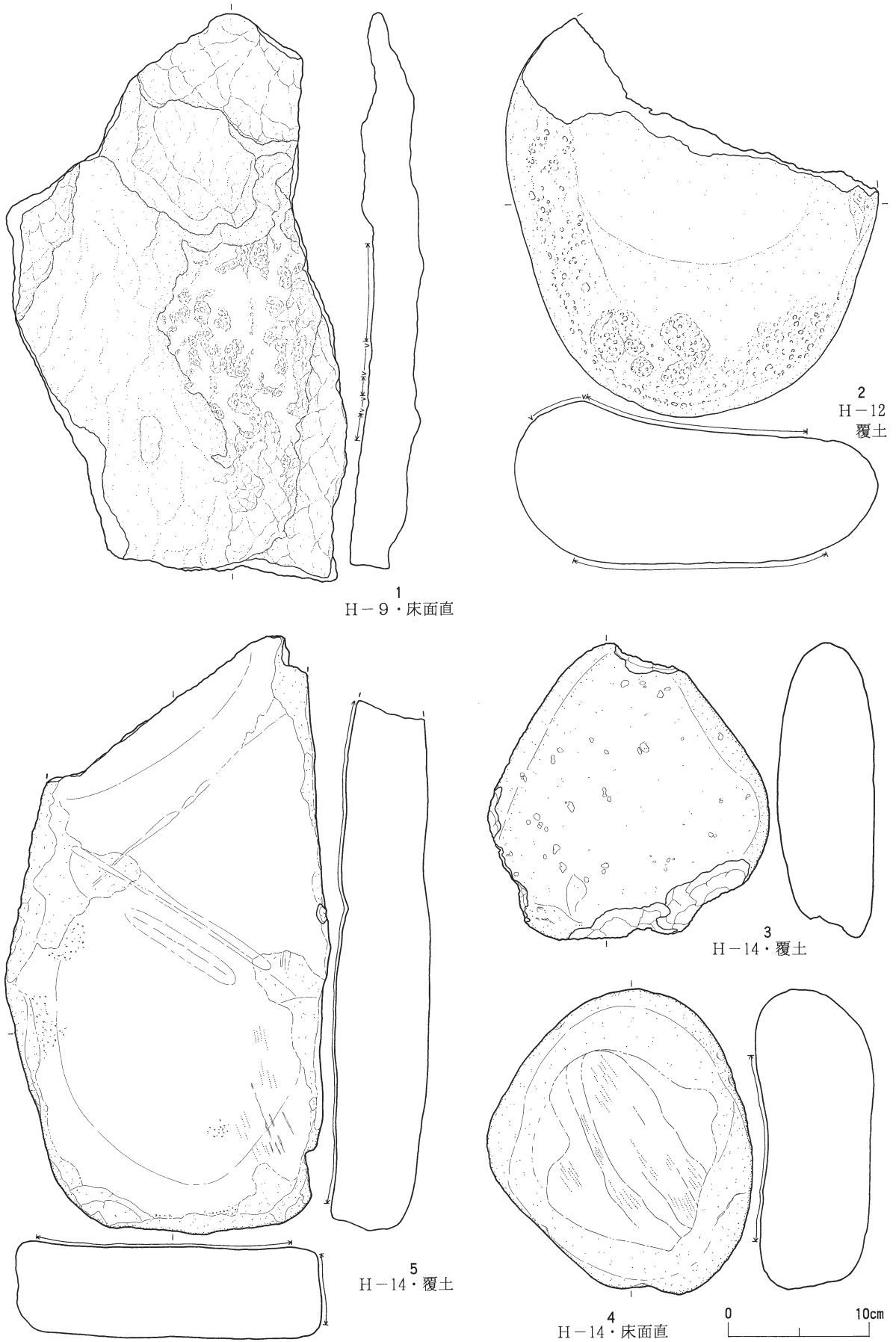


图 III - 134 土坑出土礫石器群(5) / P - 69 · 77 · 79 · 83



図Ⅲ-135 土坑及びフレイク・チップ集中出土礫石器群／P-85・FC-1



図III-136 住居跡出土礫石器群 (大型) (1) / H-9・12・14

H-18 (10・11)：10・11ともに、使用痕が不明瞭である。

\* 土坑出土礫石器群 (大型) (12～17)

P-37 (12)：12は安山岩製で、表面には明瞭な凹みを呈するすり面が認められる。

P-71 (13)：13は下端部が破損し、表裏両面に平滑なすり痕が観察される。

P-77 (14～16)：14は破片で、たたき痕が認められる。15は破片で、使用痕はやや不明瞭である。16は、細長くやや不整形を呈する礫を素材とする。

P-77 (17)：17は破片で、使用痕が不明瞭なものである。

\* 礫集中・配石遺構出土礫石器群 (18・19)

S-2 (18・19)：18は左側部分を破損するが、明瞭に凹むすり面を有する。19は、楕円形の安山岩を用いたもので、平滑なすり痕が認められる。

\* 焼土出土礫石器群 (20)

F-1 (20)：20は、中央付近やや下端部に認められる敲打痕以外、明瞭な使用痕が観察されない。

\* フレイク・チップ集中出土礫石器群 (21)

FC-1 (21)：21は安山岩製で、すり痕が認められる部分は著しく平坦である。

(5) 石製品 (図Ⅲ-141 表24 図版100-1～3)

H-7 (1)：1は三脚石器と呼称されるもので、表面には加工が施されない部分がある。

H-14 (2～5)：2～4は、軟質な凝灰岩を用いて製作された三脚石器である。2は表面に加工が施されない部分がある。3・4は破片である。5は扁平で楕円形を呈する礫に、穿孔が施されたもので、下側部分を破損する。断面には「U」字状の凹みが作出される。

P-80 (6)：6は三脚石器で、裏面にはすり痕(擦痕)が著しいが、これは軟質な石材であるために、遺物の水洗時に生じたキズである可能性がある。

(6) 自然礫 (表26・27)

「表26 遺構出土自然礫観察表」

H-17：遺物番号115～120の炉石を計測・観察した。いずれも未風化で、角のとれた安山岩が用いられ、黒色化(煤の付着)及び赤色化(被熱による変色)が認められるものもある。

H-18：遺物番号10～16の炉石を計測・観察した。いずれも未風化の安山岩であるが、H-17に比べて角があるものが多い。黒色化(煤の付着)及び赤色化(被熱による変色)が認められるものもある。

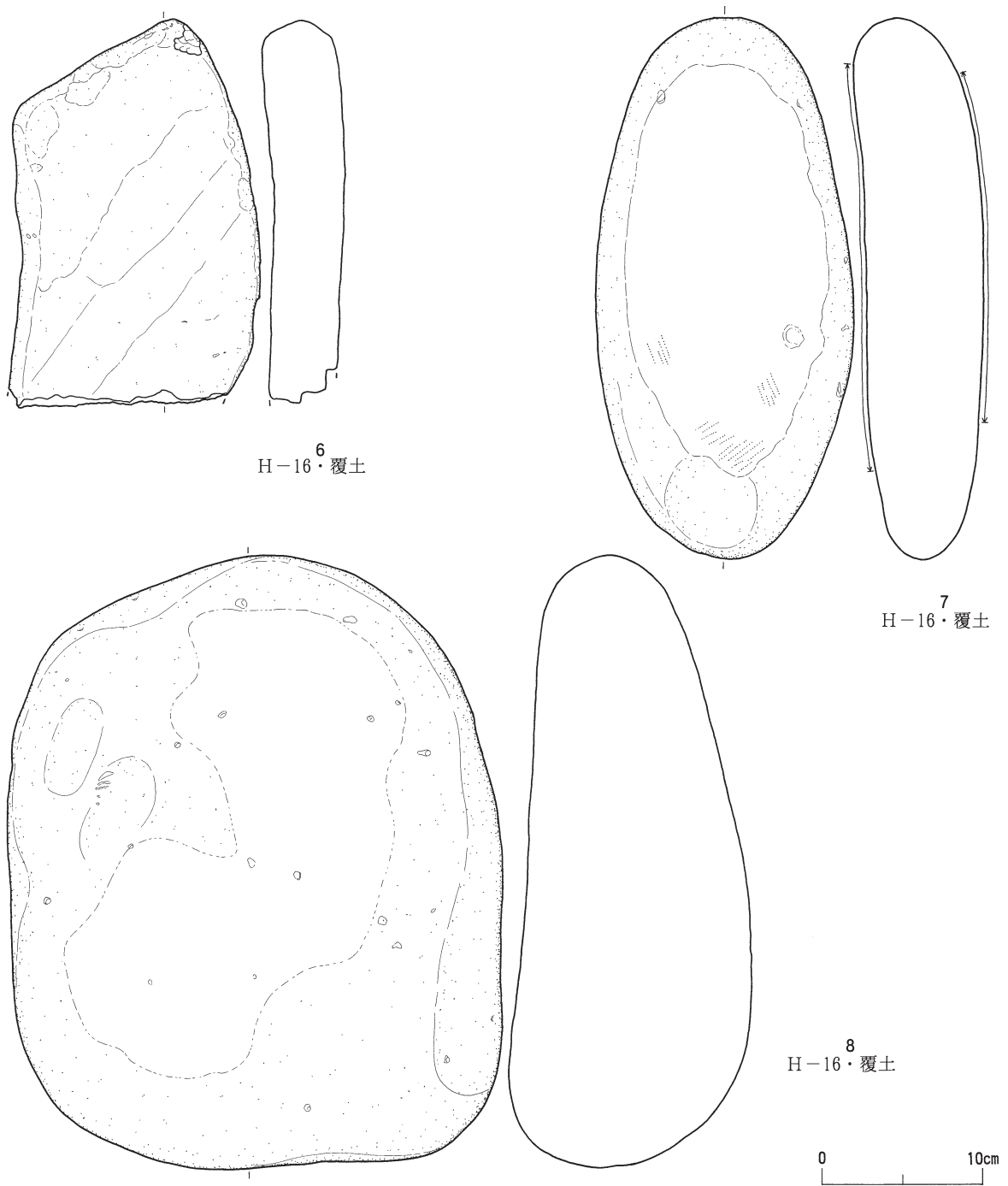
S-1：下部が深い土坑で、上部に石組を有する遺構で、石組に用いられている石を計測・観察した。いずれも未風化の安山岩で、黒色化(煤の付着)しているものは認められるが、赤色化(被熱による変色)しているものはない。

S-3：平均長軸長が1.0cm程度の小さな礫が多数確認された。角のとれた垂円～円礫であるが、石材は、比較的硬質な安山岩・浮岩(軽石)と、軟質な凝灰岩・泥岩に分けられる。

S-4：H-14内に位置する石組炉石で、炉石に用いられている礫、遺物番号1～8について計測・観察した。いずれも未風化の安山岩であるが、角礫～円礫までが認められる。黒色化(煤の付着)及び赤色化(被熱による変色)が認められるものもある。

S-5：H-14内に位置する石組炉石で、炉石に用いられている礫、遺物番号1～9について計測・観察した。石材は、安山岩と角閃石安山岩があり、ともに未風化である。黒色化(煤の付着)及び赤色化(被熱による変色)が認められるものもある。



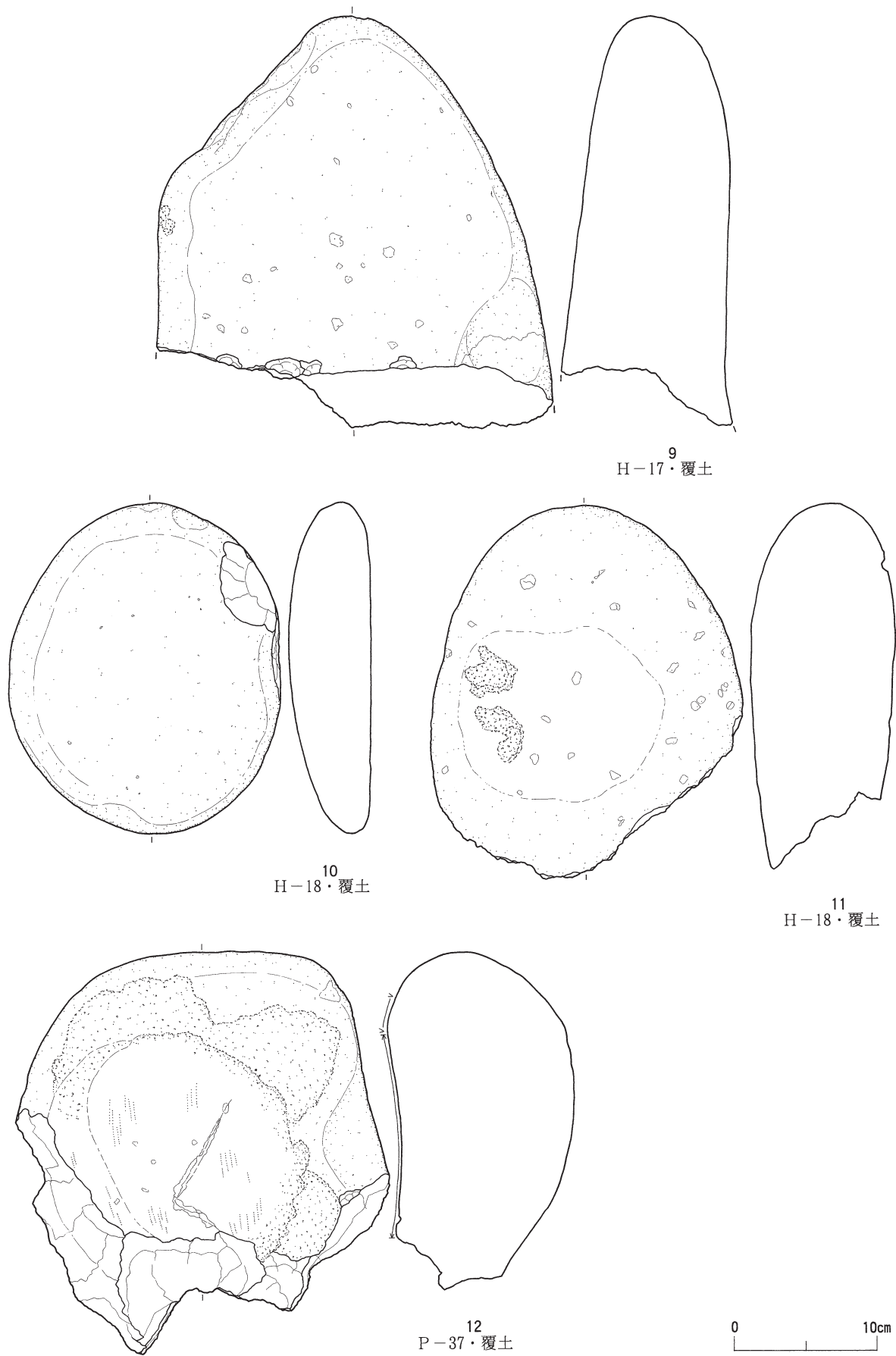


図Ⅲ-137 住居跡出土礫石器群（大型）(2)／H-16

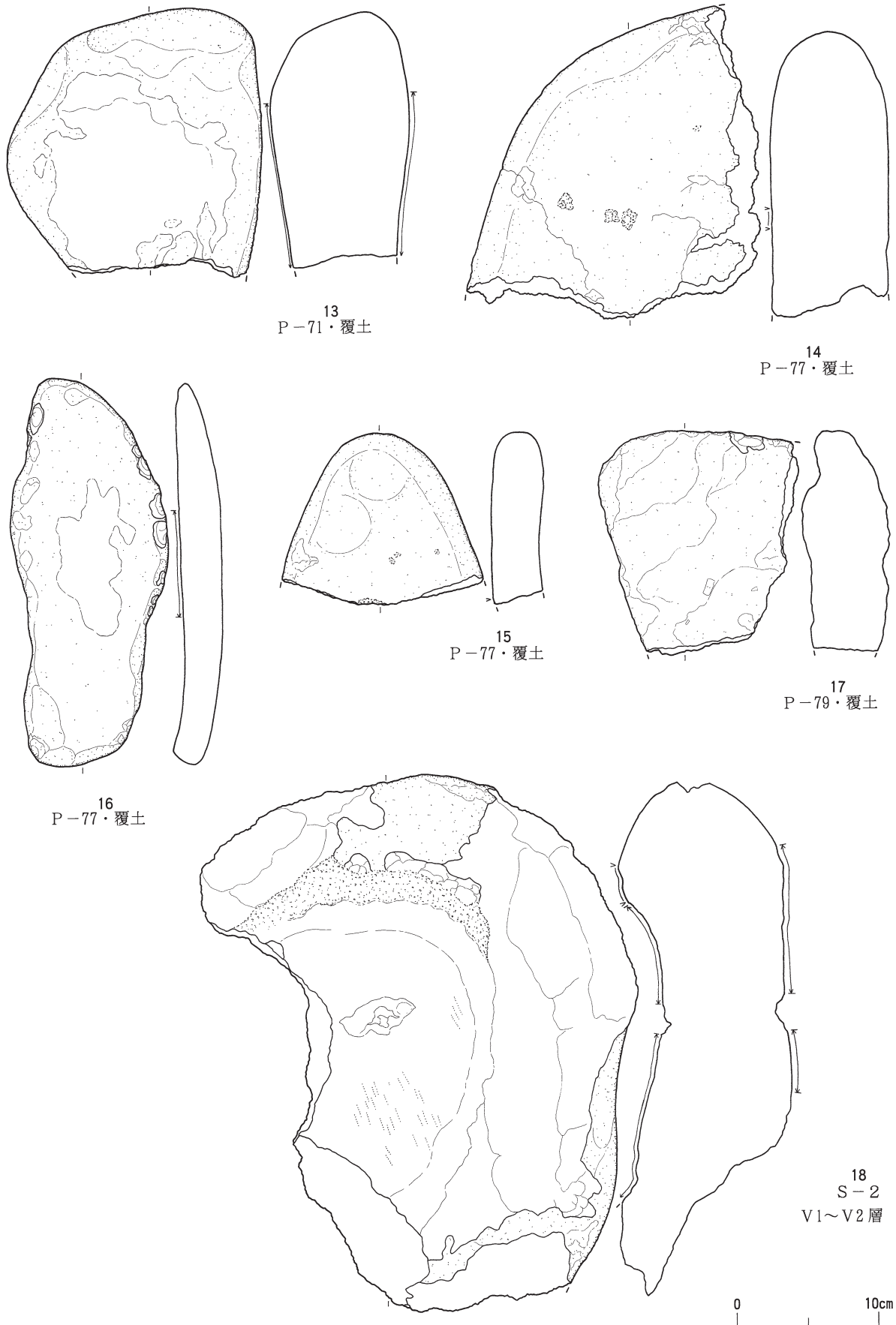
S-6：Vb層中に存在する礫の集中であり、すべての礫を計測・観察した。拳程度の大きさの円～垂円礫が主体的である。石材は、安山岩・角閃石安山岩・火山礫凝灰岩があるが、安山岩が多い。

「表27 S-2 出土自然礫観察表」

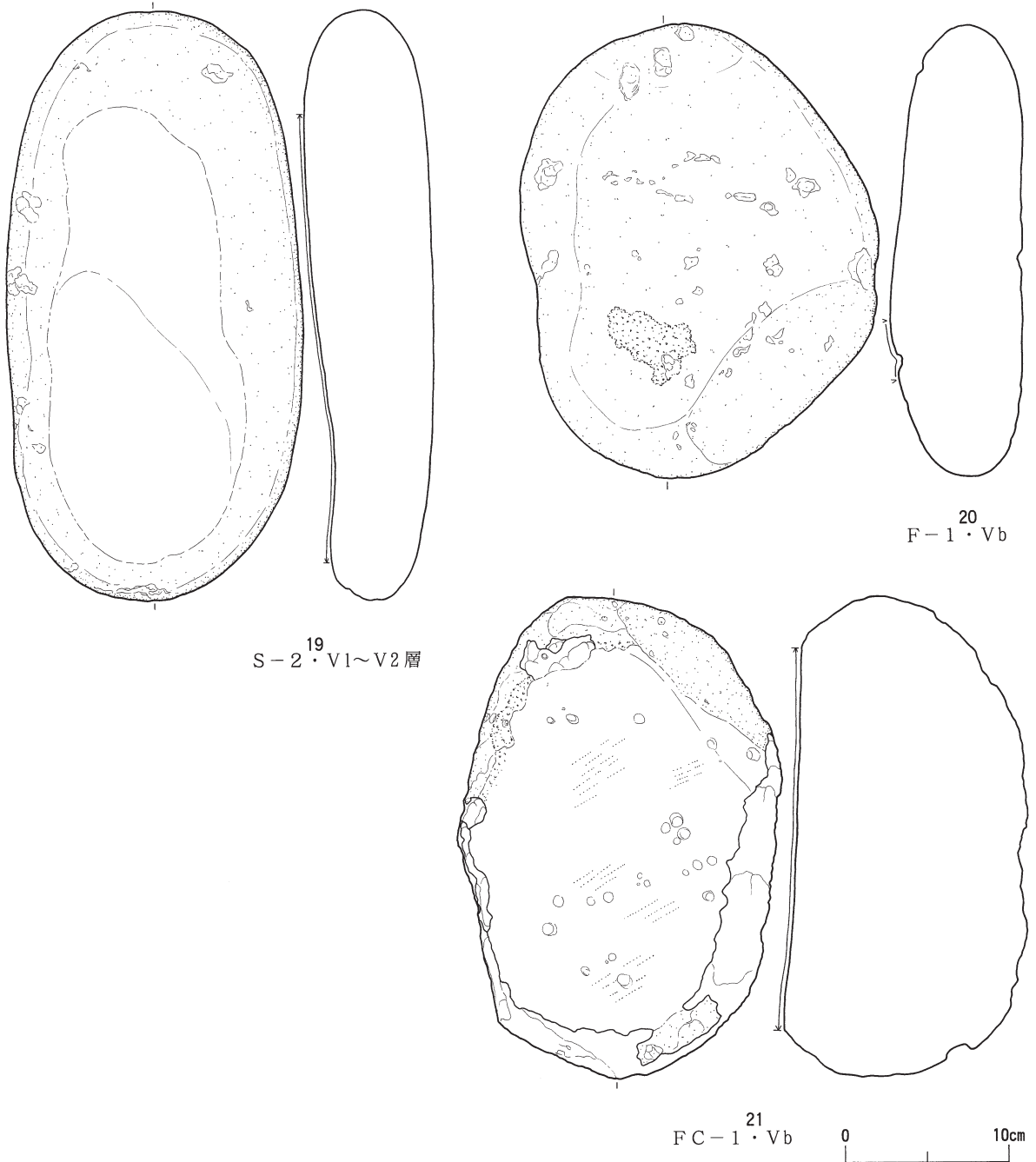
S-2：配石遺構を構成するすべての礫を計測・観察した。表の備考欄に「廃棄」と記載したものは、現場で観察後、現地で廃棄したものである。自然礫は、大きさ、石材、形状、円磨度等、様々なものが認められる。石器類としては、台石・石皿が2点（図Ⅲ-139-18・140-19）ある（末光）



図Ⅲ-138 住居跡及び土坑出土礫石器群（大型）／H-17・18・P-37

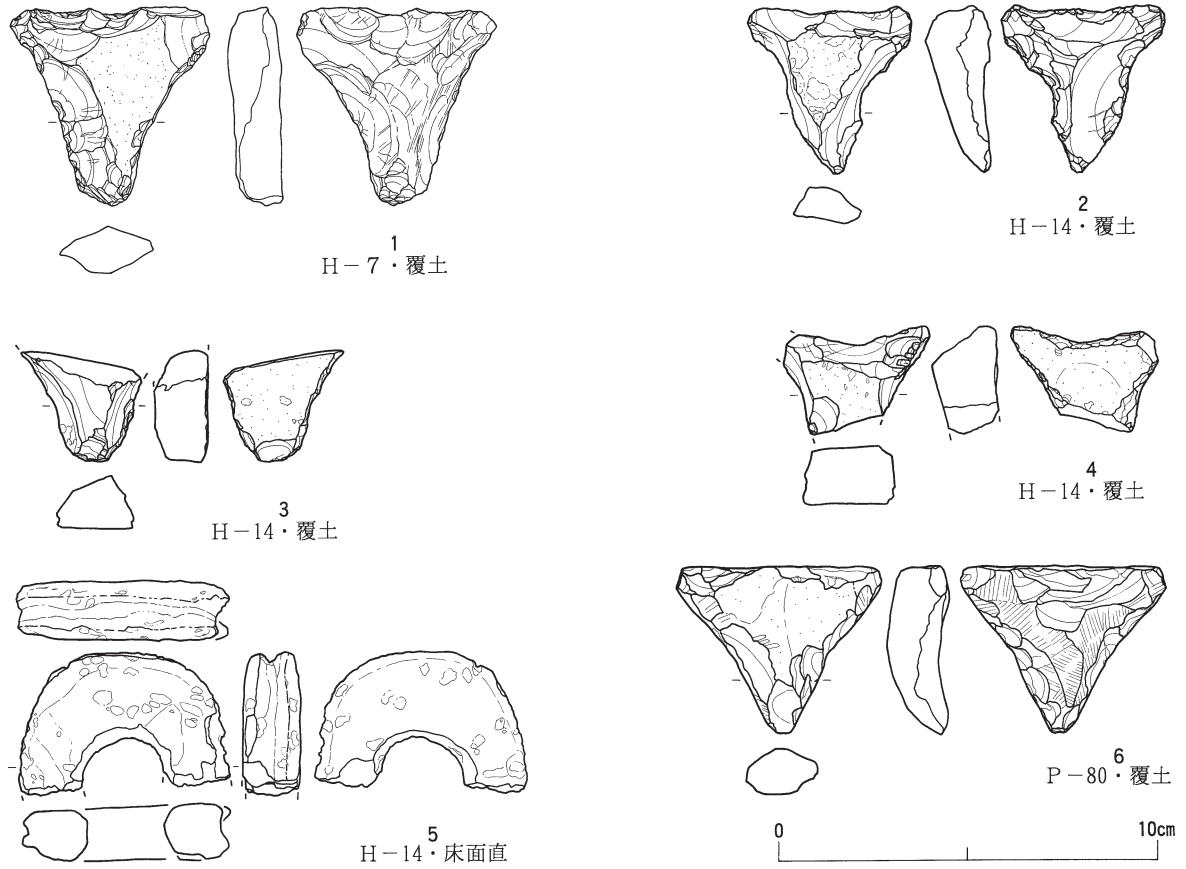


図III-139 土坑及び配石遺構出土礫石器群（大型）P-71・77・79・S-2



図III-140 配石遺構及びフレイク・チップ集中出土礫石器群(大型)/F-1・S-2・FC-1





図III-141 遺構出土石製品／H-7・14・P-80



## IV 包含層の出土遺物

### 1 土器類

#### (1) 概要 (表28・図IV-1・2)

包含層から58,151点の土器が出土した。

Ⅱ群b類が1,610点であり、一個体分の破片の大半がその場にまとまって出土した例が多い

Ⅲ群a類が13,190点出土し、2番目に量が多い。分布状態はKラインより南西側の出土が多く、特にH-42区付近の斜面からまとまって出土している。これは住居H-11の覆土から出土した円筒上層c式の出土状況とも関連する。また、調査区北端のT-48~52区にも集中した出土がある。Ⅲ群と分類した34点についてはⅢ群a類の可能性が強いが断定できなかった未接合の胴部破片が主である。

Ⅲ群b類が3,809点である。そのうち榎林式の古手でb-1類としたものが2,092点、大安在B式に相当するb-2類としたものが46点、細分しなかったものが1,734点である。これらは主にⅢ群b-2類に並行するもので、榎林式中~新段階、および大安在B式に並行するが、型式名として大安在B式に合致するかどうか検討の余地を残すものである。ノダップⅡ式から煉瓦台式に相当するb-3類相当のものは今回ないものと判断した。b-1類については旧南茅部町(現函館市)大船遺跡の報告書『大船C遺跡』(1996)の編年表における「Ⅲ群B類1」を参考としたが、口唇部平坦面の沈線渦巻き文をひとつの要素としたため一部「B類2」も取り込む結果となった。b-1類はD-43・44区、P-43区、P-48区、T-50区に比較的まとまっている。b-2類としたものはH-38~44区近辺に集中する。b類としたものは、B・C-44区、E-40区、J~L-39・40区、J-45区、Q・R-38区、P-48区に比較的集中した出土がある。

一番多く出土したⅣ群a類が36,945点である。その分布はB~E-42~45区、P~T-38~51区に比較的集中する。B~E-42~45区はトリサキ式、P~T-38~51区は大津式の破片が目立つ。

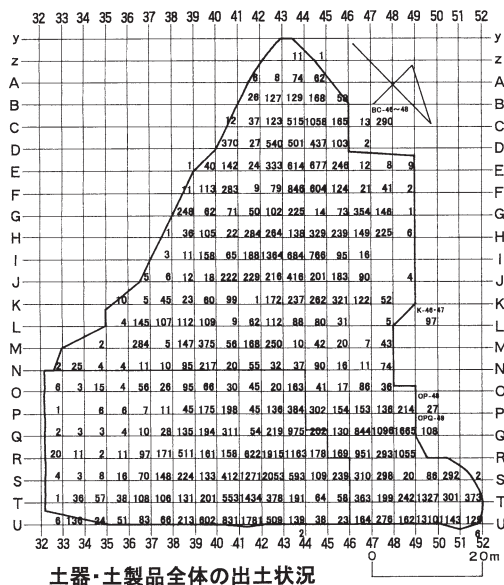
Ⅳ群b類の可能性のあるものが19点出土した。これらはすべて同一個体の破片である。D-43・44区とその周辺から出土した。

Ⅵ群は2,302点出土した。A~D-42~45区、J~L-42~44区に比較的まとまっていた。Ⅶ群はO・Q-40~42区から168点が出土した。同一個体がほぼ完形で出土した。これはⅢ章の遺構の項で遺物集中として特記した。Ⅵ・Ⅶ群はVa層およびV1~2層といった包含層上位からの出土がほとんどである。本文および表20・30の後北式土器の編年観は鈴木編年(鈴木 信 2003)による。

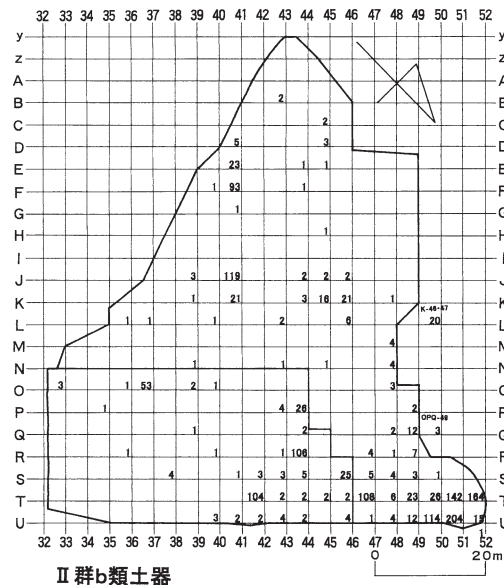
#### (2) Ⅱ群b類 (図IV-3~5-1~20、表30-1、図版101-1~2・127~130)

胎土には繊維が目立ち。内面は丁寧なミガキ調整である。ただし円筒下層b~c式よりd式の方が丁寧である。LR縄を多用する。3~6は円筒下層b~c式の範疇、森川式に相当するものである。3・5・6は微妙な上げ底を持つ。3~5は「閉端なひねり」あるいは自縄自巻と思われる原体を地文とする。6は単軸絡条体地文。

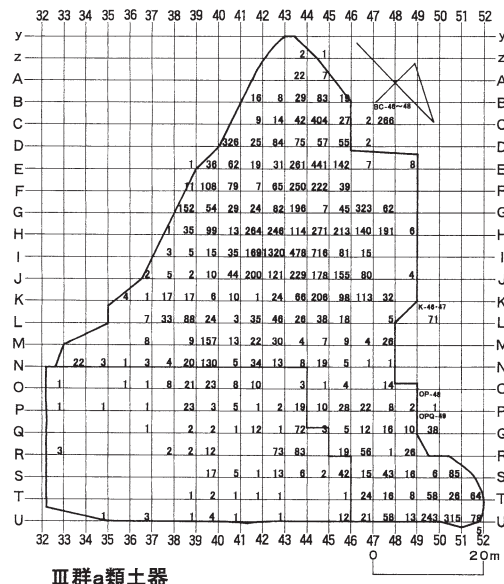
1・2・7~20は円筒下層d式である。7・8はd<sub>1</sub>式。7はL縄単軸絡条体、8は節の細かい閉端なひねりあるいは自縄自巻と思われる原体を、結束第1種羽状縄文に組み合わせる。底部は微妙な上げ底である。復元個体1(S-41区に集中)・2(S-51区に集中)13~20は円筒下層d<sub>2</sub>式である。d<sub>2</sub>式とした方が器壁に厚みがあり、口縁部文様帯を明瞭に区画する。13・14は肥厚する口縁部文様



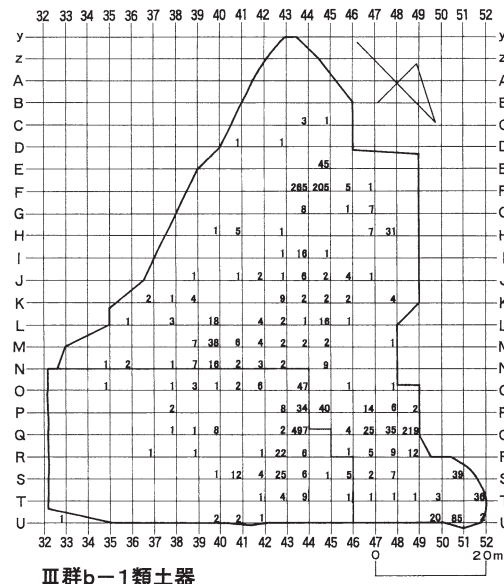
Ⅰ 群土器・土製品全体の出土状況



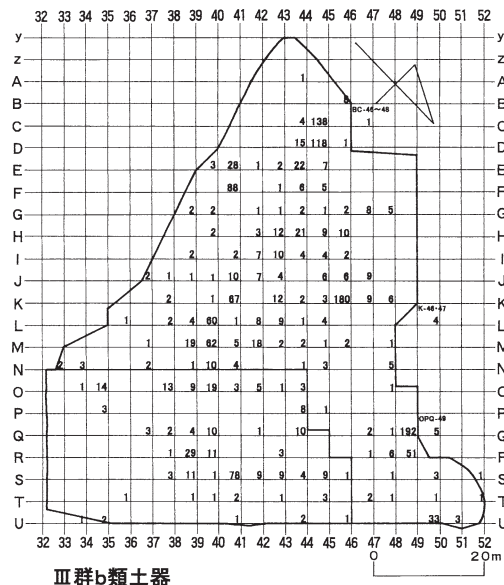
Ⅱ 群b類土器



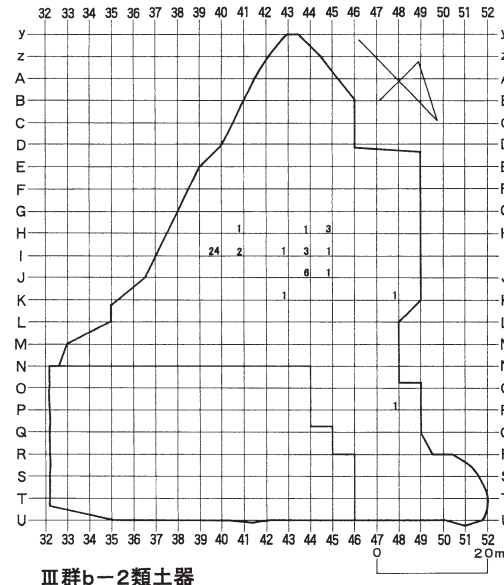
Ⅲ 群a類土器



Ⅲ 群b-1類土器



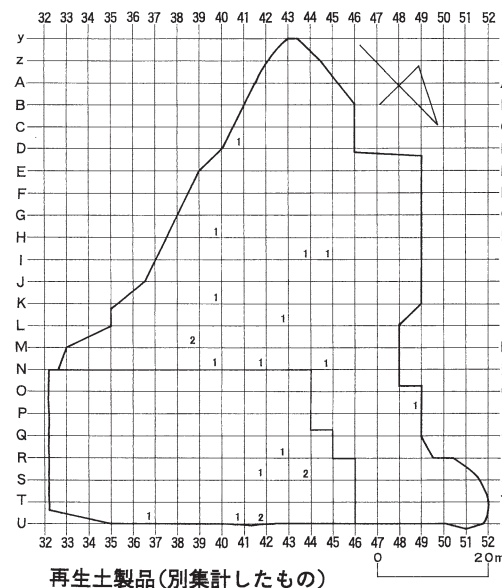
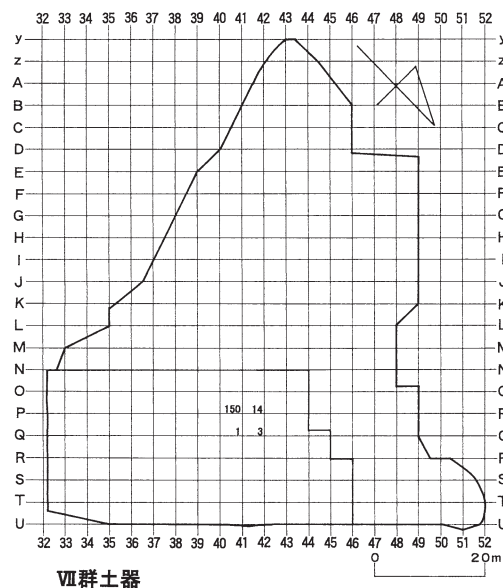
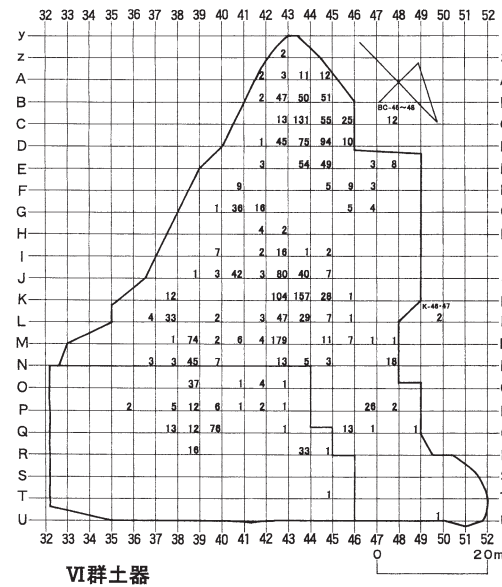
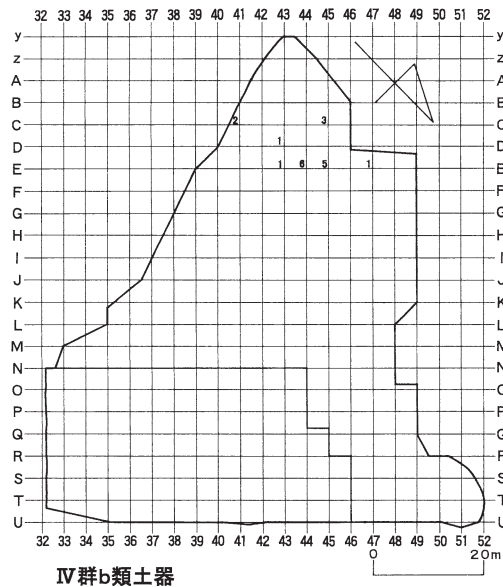
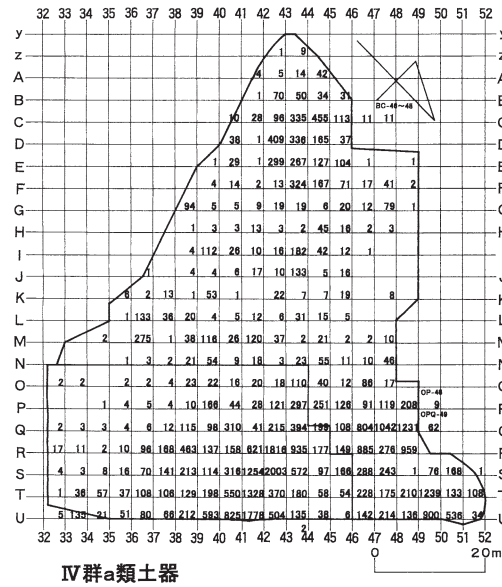
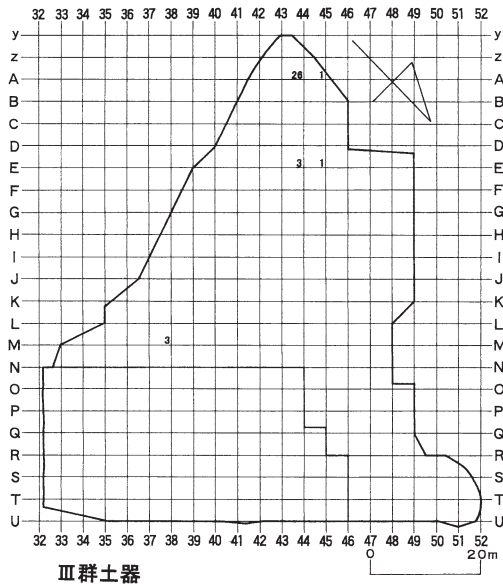
Ⅲ 群b類土器



Ⅲ 群b-2類土器

図IV-1 包含層出土土器類分布図(1)





図IV-2 包含層出土土器類分布図(2)

帯には半截竹管による、押し引き気味の刺突が並ぶ。14はボタン状の貼付があり、波頂部直下の口縁部文様帯を区画する文様となる。円筒上層 a 式への過渡期を示すものと考え。微妙な上げ底を持つ。

1・2・15～20は隆帯で口縁部文様帯を区画する。いずれも隆帯上に圧痕があり、2は縄線を水平方向に押圧、19は縄端の連続圧痕、他は区画隆帯に対して直角方向に縄線を連続押圧する。1のみ内湾する深鉢で、他は隆帯部から反り返るように開く深鉢である。地文については1・2・15・16・19・20は多軸絡条体、17は隆帯直下に結束第2種羽状縄文を施し、R縄単軸絡条体を組み合わせる。18はLRL縄文を浅く施した上から条痕を縦方向に施す地文。9～12は胎土と内面調整の類似から、d<sub>2</sub>式に並行する口縁部無文帯を持たない土器と考える。9は擦痕を地文とする。器高は低く、残存部とほぼ変わらない可能性がある。10は多軸絡条体地文。11は単軸絡条体に縄線を組み合わせた地文。軸と一本の縄を同時に転がしたのか。12は胴上部が縄文地文、下部が多軸絡条体地文である。

### (3) Ⅲ群 a 類 (図Ⅳ-6～15-1～67、表30-2、図版101-3～106-3・131～142)

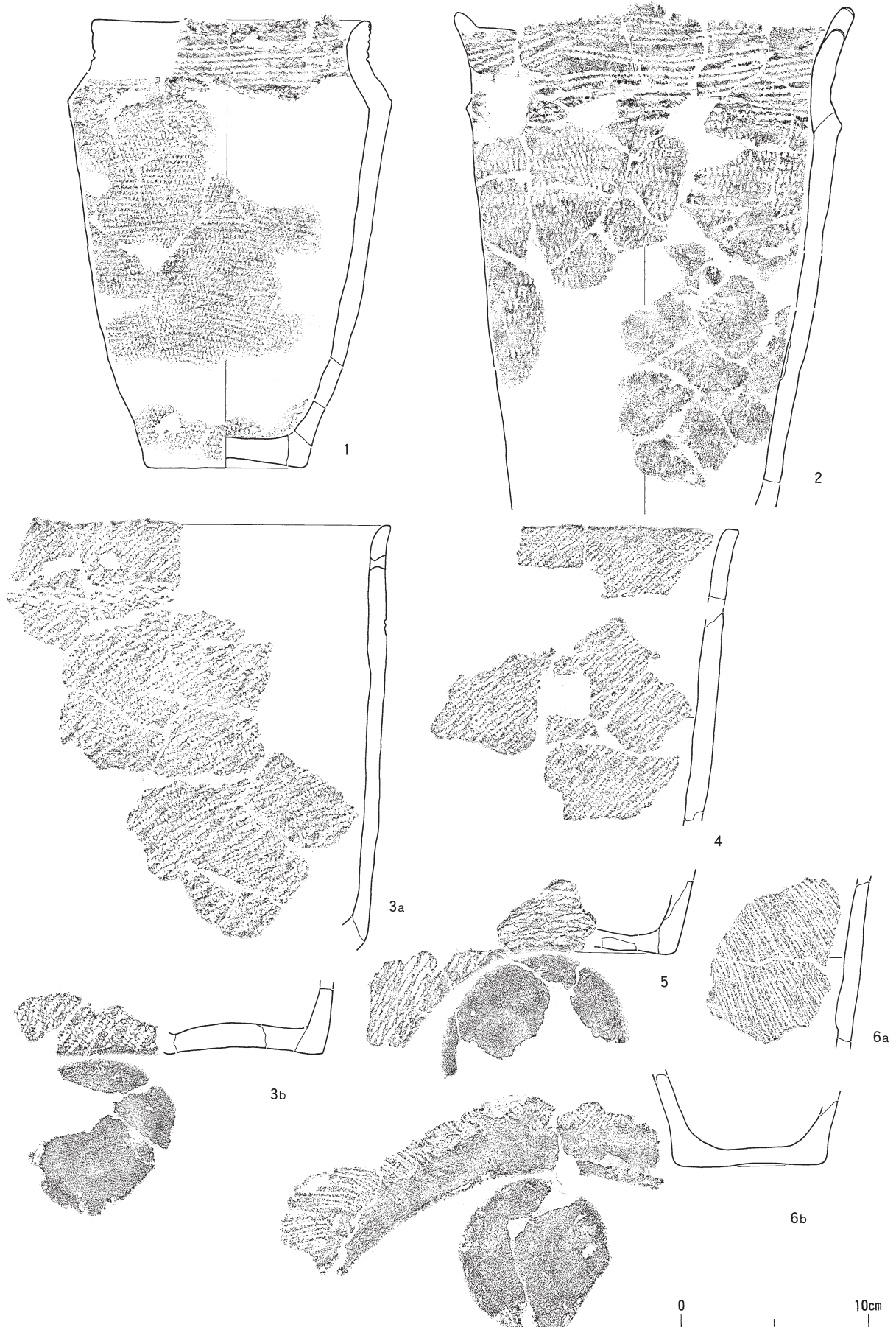
胎土には繊維を含むものが多く、底面は微妙な上げ底を持つものが多い。

1～22は復元個体である。1～6は円筒上層 c 式、あるいはその直前に相当するものである。特にH-42区付近の斜面からまとまって出土したものであり、その編年的位置付けを考慮する際H-11の遺物を考慮する必要がある。波頂部の下に展開されていた上層 b 式に対して、横方向の隆帯文様展開があり、隆帯上の縄線の間隔が上層 b 式(23を基準とした)に対して粗くなった段階のものを c 式としたため、馬蹄形圧痕を持つものも含む。1～3は微妙な上げ底である。1は口縁部文様帯が胴中央まで下がらず、馬蹄形圧痕を持つ個体である。b 式から c 式への過渡期的な様相と考える。2は底面の調整時に化粧土を塗りつけており、その剥落部分から広葉樹の木の葉圧痕がかすかに覗いていた。1～3・5は隆帯上に縄線、4はキザミが施される。1・2は隆帯による区画内に馬蹄形圧痕、3・4はヘラによる押し引きが連続する。5・6は小型の深鉢で2単位の把手を持つ。6は肥厚する口唇部直下に馬蹄形圧痕を持つ。7～9はサイベ沢Ⅶ式で、円筒上層 c・d 式起源の文様が沈線化したもの。7・9は沈線文の在地化が著しいものである。そして4単位の波頂部のうち、対向する2つが同じ文様、2種類の波頂部を持つ。いずれも1種類はボタン状貼り付け、もう1種類は把手である。

10は1～6と文様構成上、時期的に近いものと考え。しかし比較すると、小石が混在する胎土はより粗く、出土地点もE-39区を主としており、異なる。1と類似した文様構成だが施文が雑である。11・12は隆帯が口唇部の平坦部に波状に貼付される。上には縄線を施す。11は2単位で小型の深鉢である。13は突起様の波頂部を持ち、結束第2種羽状縄文地文である。14は縄文の施文のみの土器である。口唇のごく一部に縄圧痕を連続押圧する部分もある。15は波頂部中央に横方向の把手を持ち、4単位の波頂部のうち、対向する2つが同じ文様、二種類の波頂部を持つ。LR縄とR縄による結束羽状縄文の地文を持つ。16はしまりのない胎土で、結束第1種羽状縄文である。

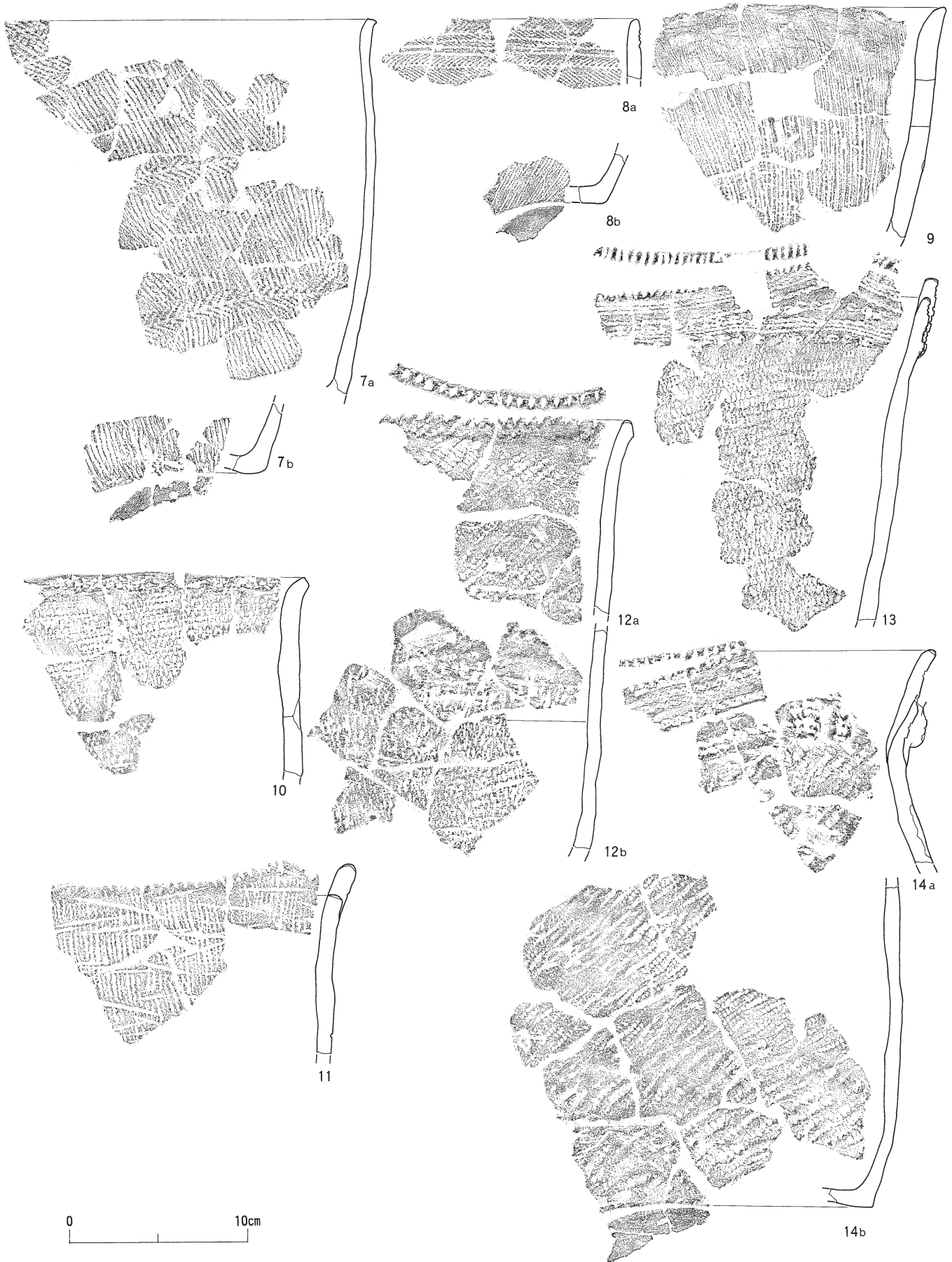
17～19は見晴町式土器である。17は比較的粗雑な土器で、結束第2種羽状縄文地文を不規則に施す。18は三角形の波頂部にボタン状の貼付を持つ。19は波頂部に細い隆帯を貼付し、縄文を縦走させる。20～22は無文の土器であり、胎土と調整からⅢ群 a 類に分類した。20は屈曲部を持つ平口縁の器形で、ミガキにより無文である。21と22はナデにより無文にしたと思われ、4単位の波頂部を持つ。

23～67は拓影化した破片である。23～30は隆帯の貼付文を持つものである。23は円筒上層 b 式の破片である。密に縄線が集約される。24～30は円筒上層 c 式あるいはその直前直後に相当するものである。24の穿孔部は焼成前のものである。25～27は口唇部の平坦部に文様が集約される。25・26は縄線が密に施される。円筒上層 b 式相当の可能性がある。27は波頂部に馬蹄形圧痕を持つ。28～30は胴の



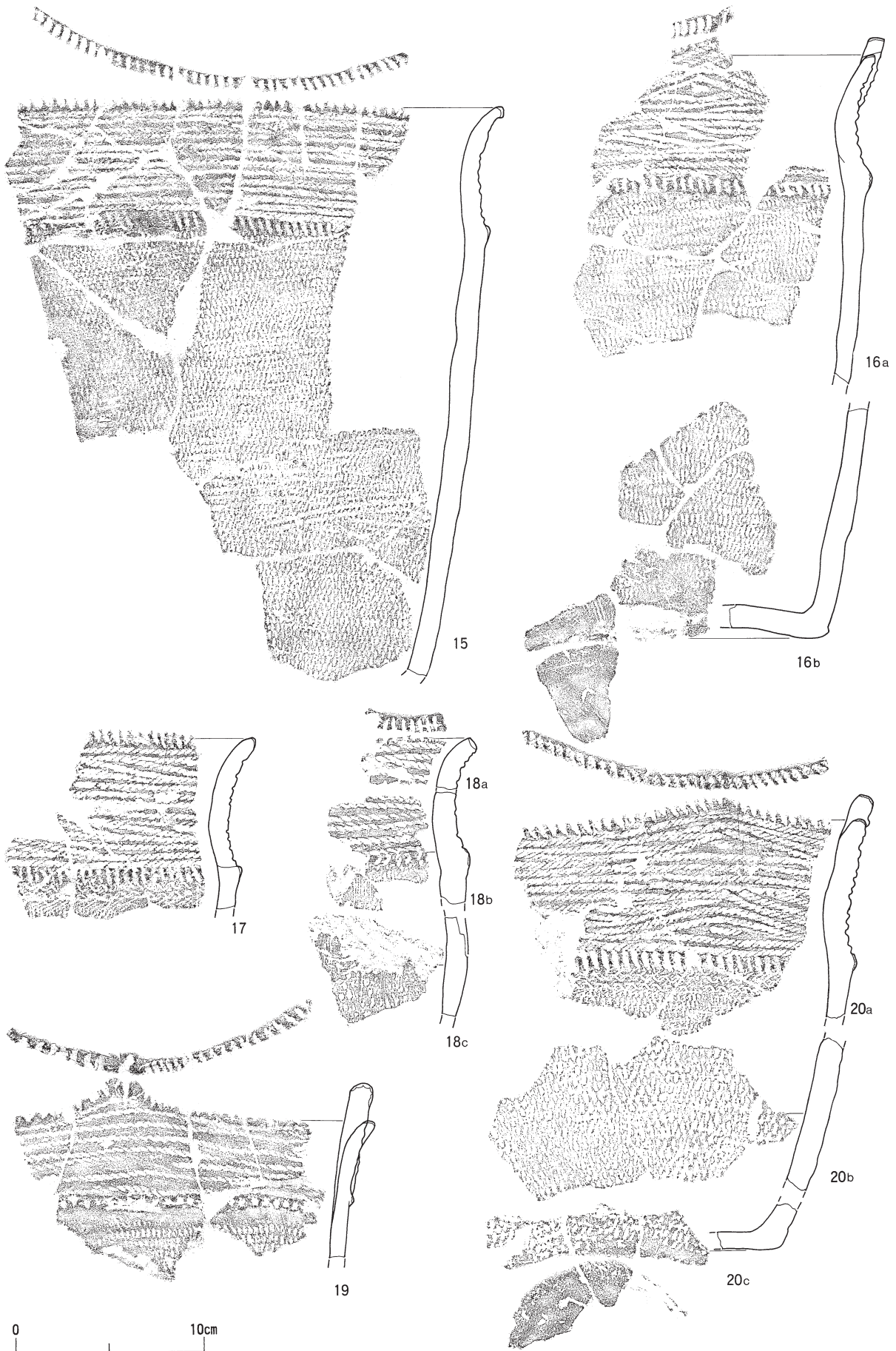
図IV-3 包含層出土土器(1)／Ⅱ群b類(1)





图IV-4 包含層出土土器(2)/II群b類(2)



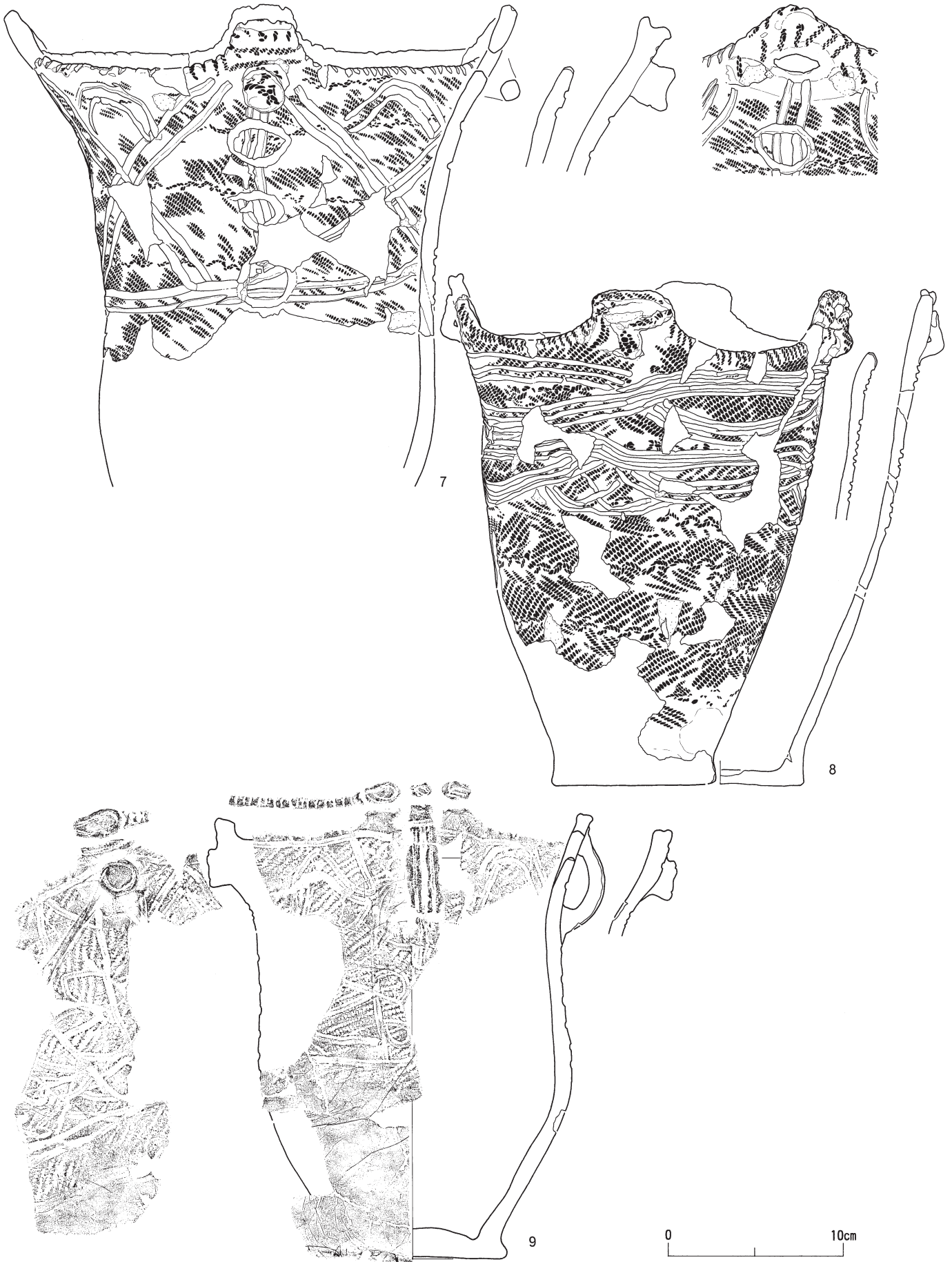


図IV-5 包含層出土土器(3) / II群b類(3)



图四—6 包含层出土土器(4)/Ⅲ群a类(1)





図IV-7 包含層出土土器(5)／Ⅲ群a類(2)



圖IV—8 包含層出土土器(6)／Ⅲ群a類(3)





図IV-9 包含層出土土器(7)/Ⅲ群a類(4)

最大径まで文様帯がある。28は馬蹄形圧痕を区画内に充填する。胴部にもボタン状貼付を持つ。29は地文が複節で、隆帯間について縄線を沿わせるように充填する。波頂部にはボタン状貼付を持つ。円筒上層c・d式起源の貼付文だが、在地化したものと考える。30は隆帯区画内に押し引き文を持つ。

31～36は口縁の肥厚部のみに地文以外の文様を持つものである。31・32・34は結束第1種羽状縄文の縄端を紐によって結んだと思われる部分の回転圧痕が残る。31は単軸絡条体を連続して押圧したものである。32・33は縄線による押圧を連続する。33の波頂部には波状にした縄の押圧と、馬蹄形圧痕の連続を持つ。底面は編み物圧痕の上からミガキ調整を施す。34～36は口縁部に隆帯を波状に貼付する。隆帯上には縄線が認められる。

37～40・43・44・46・48は比較的細い隆帯で施文するものである。円筒上層d式に起源を持つ隆帯文様を持つ。37は縄文施文後隆帯貼付。把手は剥落。4単位二種類の波頂部と考える。38は小型深鉢。隆帯文様内を縄線押圧。39は隆帯上をRL縄文施文。隆帯貼付により在地色の強い文様。口縁部には縄側面圧痕を連続する。44・48は細く、断面が円形に近い細い隆帯を貼付。隆帯上に押圧痕を持たない。44は隆帯内を沈線施文。41は口縁部の面取り部分に、42は波頂部のみ、隆帯を波状に貼付する。34～36と比較して太さが不均一な粘土紐を貼付し、凹凸が顕著である。42は縄を押圧している。43・46は粘土紐上に縄線押圧。46・47は円筒上層d式起源の文様を沈線によって施文。47は幅広い原体によって浅い沈線により在地化した文様を施文。

49～56は隆帯、沈線による面的な文様を持たない地文のみの土器である。49・51・54は整然とした結束第1種羽状縄文地文であり、50・52・53・55・56より一段階古い可能性がある。前者はサイベ沢VII式より古く、後者はより新しく見晴町にかけてのものともみなされる。49は4単位の波頂部だが、対向する波頂部の穿孔の個数が同じである。焼成前の穿孔が2つまたは1つである。50は波頂部の穿孔部分から折損している。51は大型の深鉢で、地文には縄端を縛った部分と思われる回転痕が残る。焼成が良好である。52は波頂部には凹みがある。複節縄文地文である。53は把手が剥落した土器である。54は屈曲部分が顕著な平口縁の土器である。55は縄文が縦走する。56は同じ撚りの原体を結束したものである。

57～67は見晴町式に並行ないしは直前のものである。57・60・61は円筒上層d式起源で、在地化したと思われる直線構成の沈線文を持つ。57は波頂部が環状の突起となっている。57aは縁辺が打ち欠きの可能性があり、再生土製品の可能性がある。縦方向に結束第2種羽状縄文を施文後に、沈線文。58・59は把手を波頂部中央に持つ。58は円筒上層d式起源で、在地化したと思われる曲線的な平行沈線文を口縁部のみに持つ。波頂部には細い断面円形の隆帯貼付。59は低い波頂部。60は半截竹管による沈線で施文。胴部の膨らみは顕著である。61は縄文を縦方向に施文したものである。62は筒状の胴部を持つ土器。節がそろった単節縄文地文で、黄褐色味が強い胎土は、粗いが焼成良好なものである。

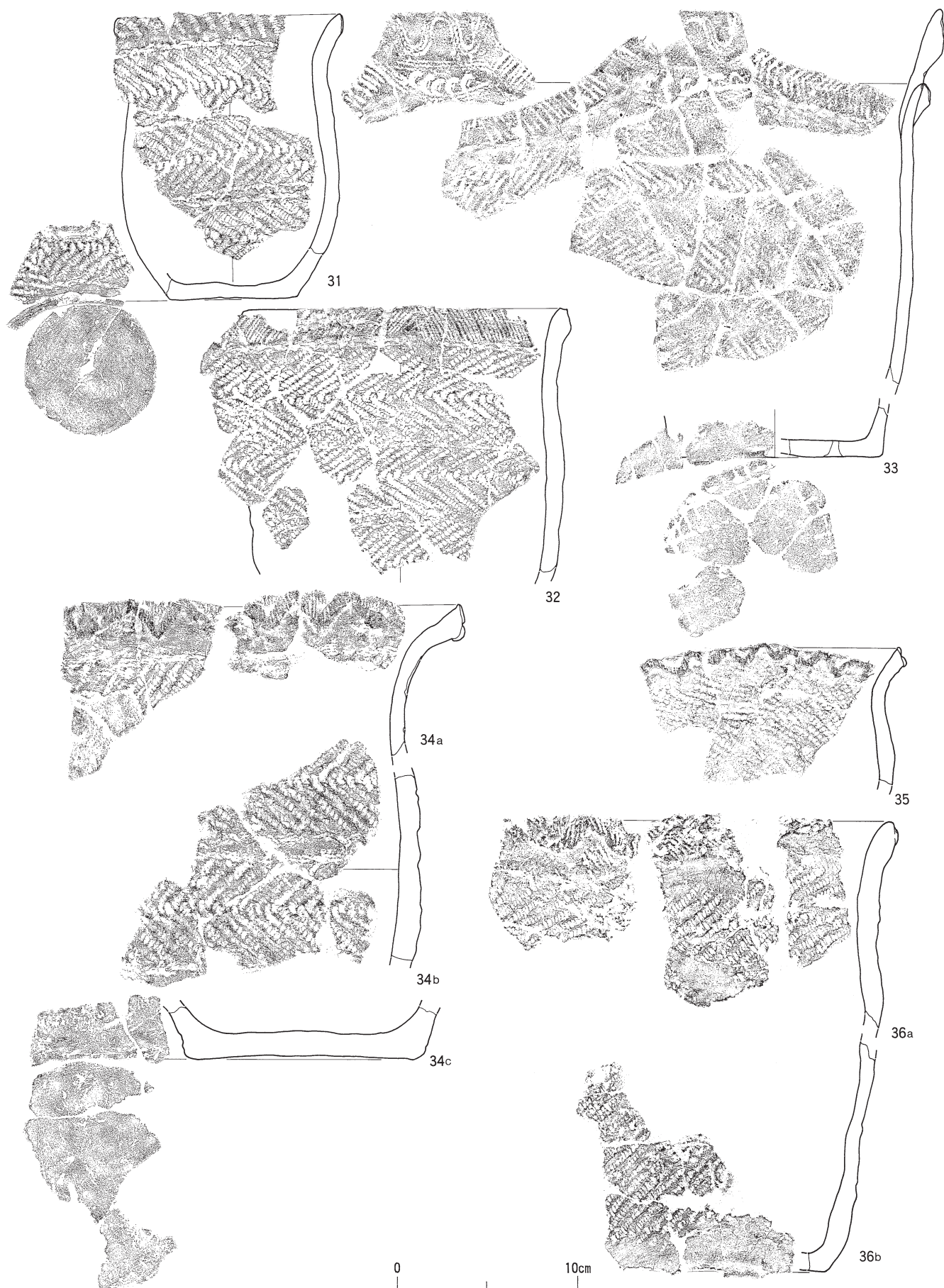
63～67は口縁部に榎林式的な要素を見出せるものである。63は口唇部に平坦面があり、沈線が巡る。平坦面は真上を向いている。微妙な上げ底は直立気味の立ち上がりから膨らむ胴部へとつながる。64は丸みをおびた低い波頂部を持ち、口唇の平坦面には沈線が巡る。65～68は口唇部に外側を向く面取りを行い、かつそれが肥厚しないものである。波頂部のみ厚みが増す。口唇部には65～67は縄線による側面圧痕、68は方形の押し引き文を持つ。65は波頂部中央にボタン状の突起を持つ。66は細い隆帯を貼付することにより波頂部に円形の凹みを有する。67は節が細かいが複節と考えられる地文。68は結束第1種羽状縄文を施文する。





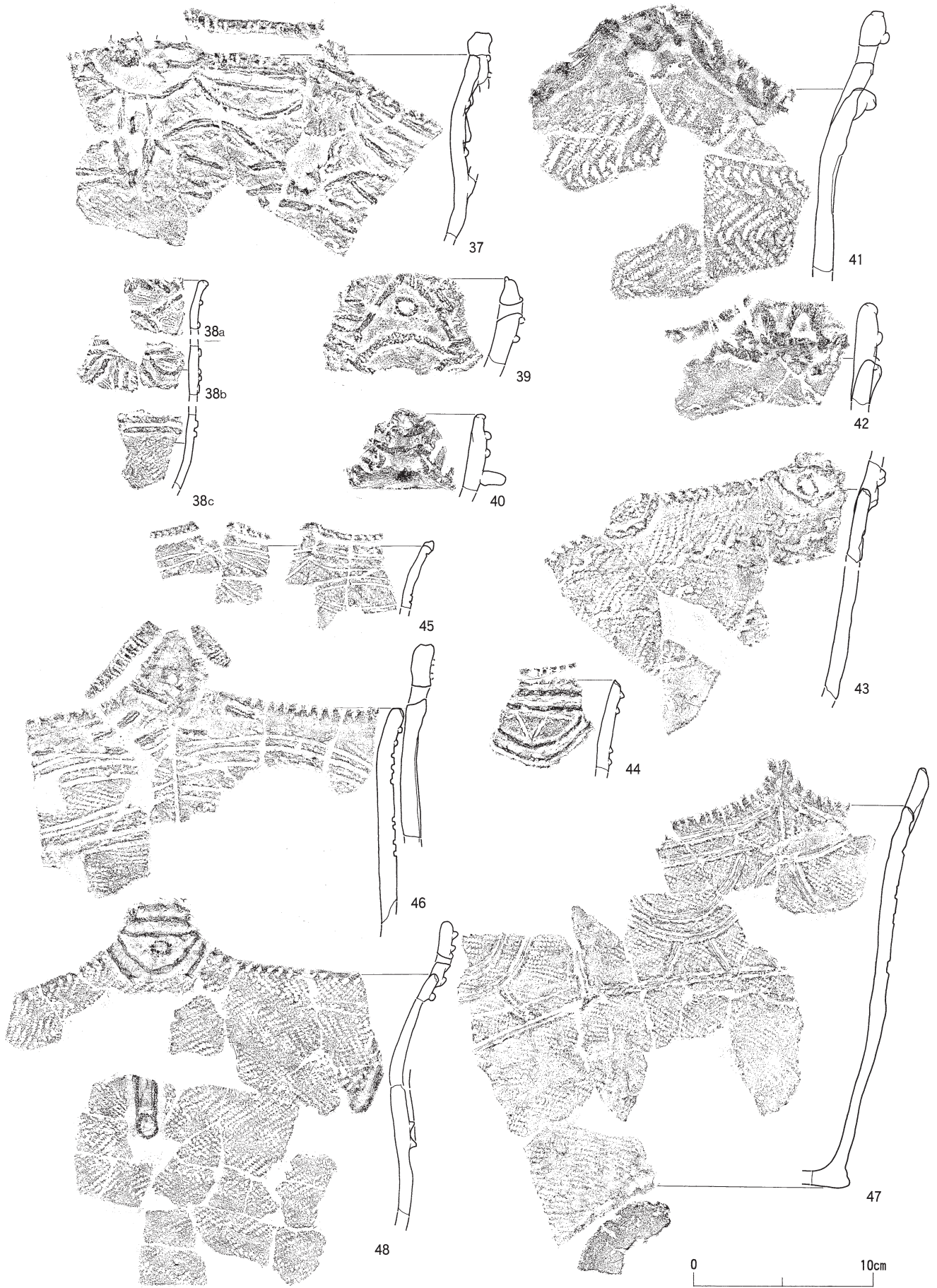
図IV-10 包含層出土土器(8)／Ⅲ群a類(5)





图IV-11 包含层出土土器(9) / Ⅲ群 a 类(6)





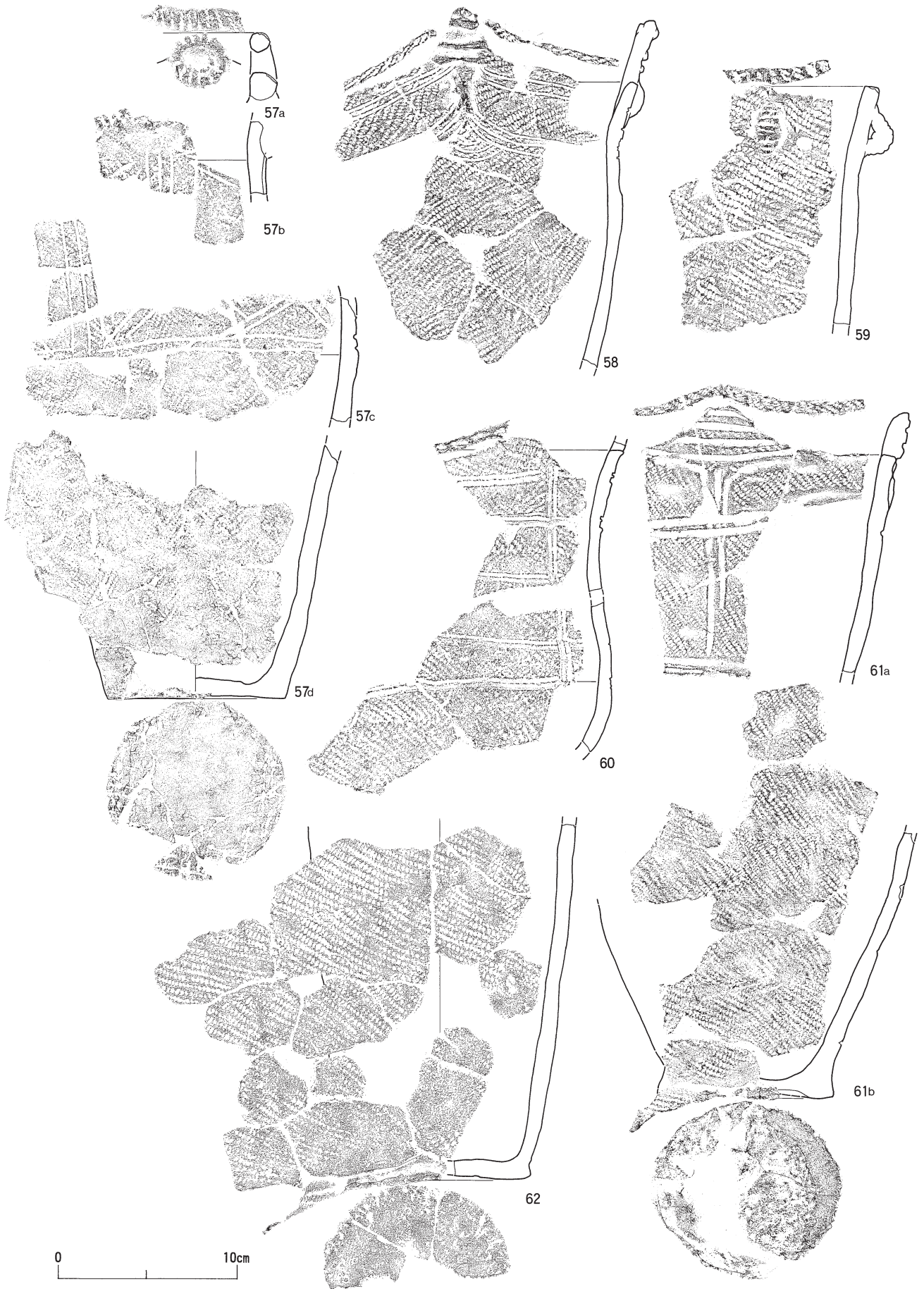
図IV-12 包含層出土土器(10)／Ⅲ群a類(7)



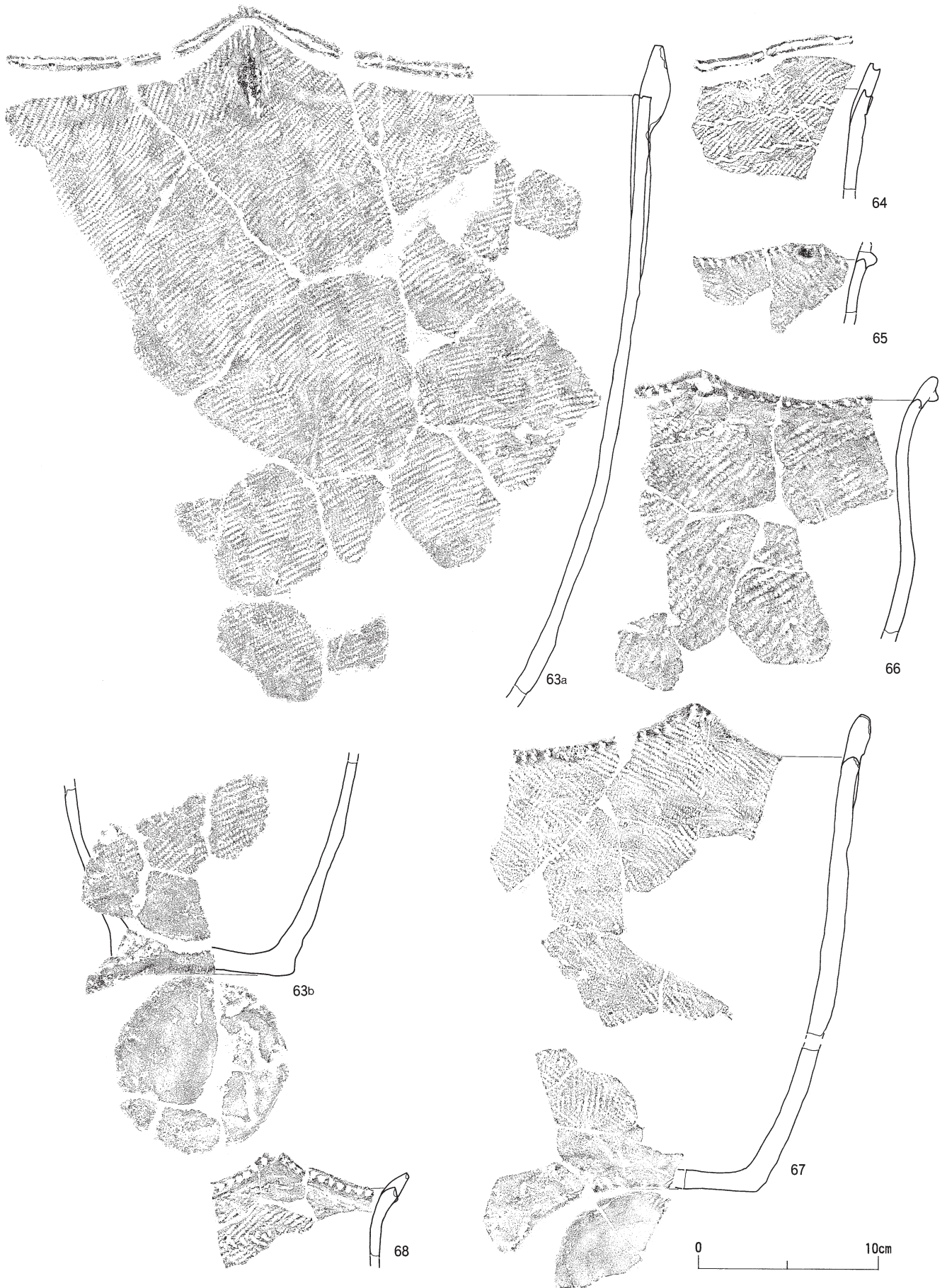


图IV-13 包含层出土土器(11)/ III群 a类(8)





図IV-14 包含層出土土器(12)／Ⅲ群a類(9)



图IV-15 包含层出土土器(13)/ III群 a类(10)



## (4) Ⅲ群b-1類 (図IV-16~18-1~20、表30-3、図版106-4~107-4・143~146)

1~5は復元個体である。いずれも口唇部に正面に向けた面取りをする。1~3は口唇部に沈線を持つ。3・4・5は2本一組の沈線によって頸部に弧線文を持つ。1・4は4単位の文様、2・3・5は3単位の波頂部である。1は横走る縄文と膨らむ胴部に特徴がある。

6~20は拓影化した破片である。6~19は口唇部に面取りする。16・17・19は上向きに面をとるが、他は面を正面に向ける。13・14は渦巻きの名残と思われる文様を持つ。13は丸い凹みを波頂部を持つ。14は口唇部にキザミが連続し、波頂部には横方向の短沈線が施される。19は器表面と口唇部の成形痕が一部沈線風に見える。6~12・15は口唇部に渦巻き文様あるいはそれにつながると考えられる沈線文を持つ。19は時期的に次段階の土器という可能性があるが、住居跡H-2 (図Ⅲ-82-H-2-1) や土坑P-23 (図Ⅲ-100-P-23-1) の例があるためこの時期に分類した。1・6・8は口唇部の波頂部間中央にも渦巻き文がある。9は1つの波頂部に大小の突起があり、それぞれに渦巻きが組み合う。縄文地文のものは節が明瞭なものが多い。6は横走る縄文地文。8・17は縄文を縦方向に施文。10は単軸絡条体地文。12は複節縄文地文。16は縄を縦横に転がし、縦方向の羽状にする。19は結束に類する圧痕を持つが、縄端の処理が回転圧痕となった可能性がある。いずれも縄文施文後、沈線文を施す。6・10・13は頸部を2本一組、12・15~17・18は3本一組の沈線で、頸部を区画する。11~13・17は頸部の沈線文から胴部への文様へと連続する。12・13・15は弧線文。17・18は垂下する沈線を伴う渦巻き文。11は頸部の区画を持たないが、同様の渦巻きと垂下文を持つ。16は胴部に頸部と類する文様を持つ。10はよく湾曲する波状文を波頂部から垂下する。17は底部際から直線的に開きながら立ち上がる器形の深鉢である。18は小型深鉢である。20は明瞭な上げ底である。底部際から強く外側へ開き、膨らむ胴部へと連続する。

## (5) Ⅲ群b類 (図IV-19・20-1~23、表30-4、図版108-1~109-1と3・147~149)

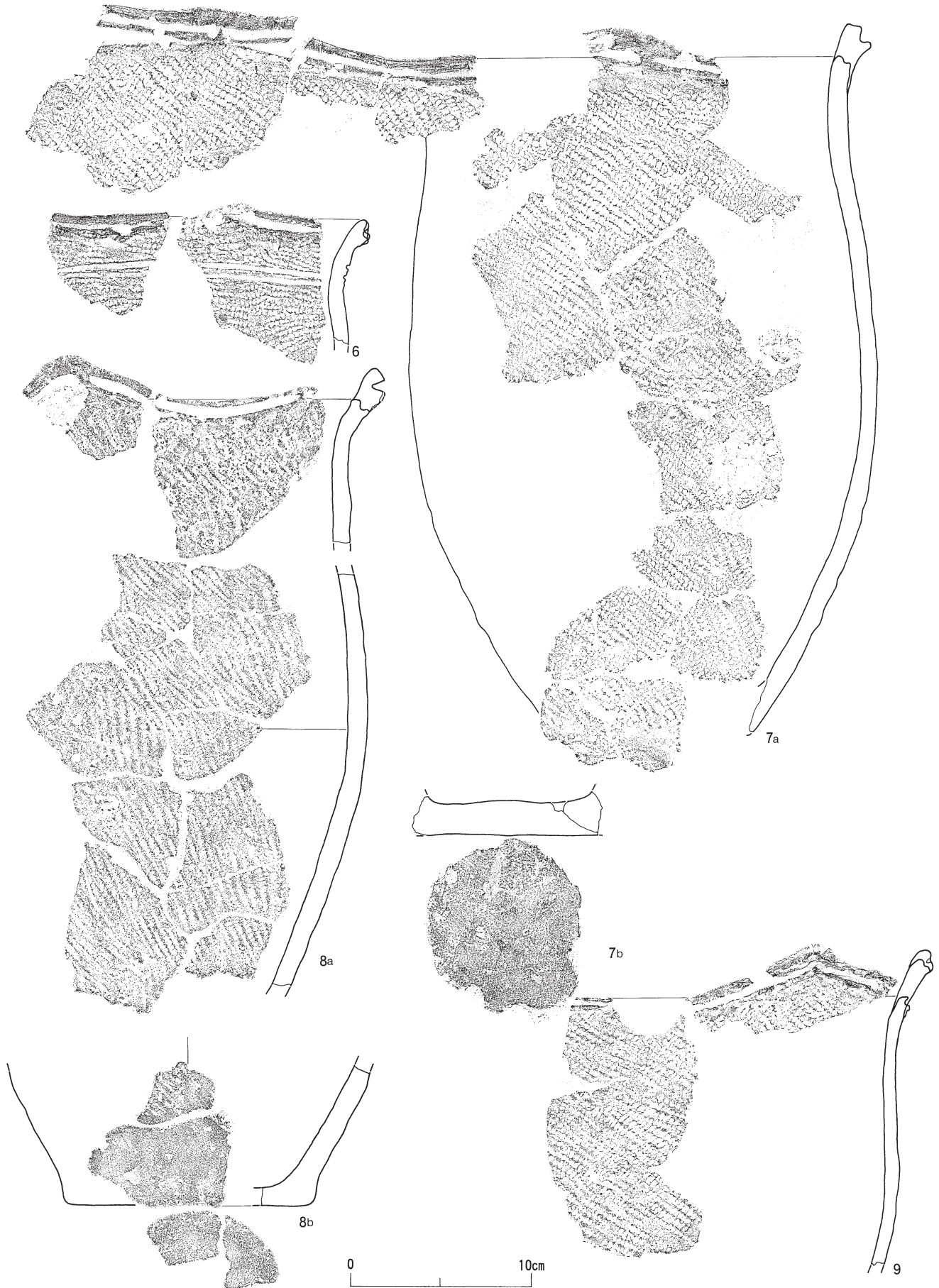
1~6は復元個体である。1は2単位の波頂部を持ち、その中央に渦巻き文を持つ。波頂部間中央の口縁部には把手がある。地文施文後に、沈線文。頸部は水平な2本の沈線間を刺突が並ぶ。2本の刺突列が、頸部を帯状に縁取る。2は頸部と胴部に、同心円状の渦巻き文があり、それぞれ横方向に連続する。4単位の波頂部には深い刺突がある。底部際には縦方向の短沈線が並ぶ。3・4は単軸絡条体地文の深鉢である。胴部が軽く膨らみ、ゆるい頸部と外反する口縁部形態である。張り出し気味の底部と微妙な上げ底を持つ。この種の土器は粒径2~4mmの白色粒が混和材として目立つ。3は節が不明瞭で、幅広い縄である。4は波頂部が3単位の可能性がある。5は底面が器の正中線に対して傾斜している。口縁部は調整時に無文となる。6は全面無文の土器で、明瞭な上げ底が高台風である。

7~23は拓影化した破片である。7・8は小型深鉢口縁部と思われ、渦巻き文に起源を持つと思われる2本一組の沈線文が口縁部文様帯に描かれる。7は口唇部に円形の連続刺突を持ち、細い半截竹管によって施文する。9・10は口縁部が無文の土器である。いずれも無文部直下に隆帯を持つ。9は沈線と円形の連続刺突を組み合わせて、胴部にも渦巻き文を組み合わせる。10は隆帯上に半截竹管による押し引きを連続させる。隆帯の押し引きから連続して方形の区画文様を連続させる。方形の上部は粘土紐上に押し引き、下部は縄文を施文した器面に押し引きを連続する。

11~20は単軸絡条体地文のものである。11は口唇部に面をとり、沈線はないが渦巻き文的な形状に成形する。口唇際の口縁肥厚部にも縄線を施す。波頂部から2本一組の沈線を垂下させる。13は口縁肥厚部にも絡条体を施文。ゆるやかな頸部直下に沈線による水平方向の区画を持ち、胴部には同心円



图IV-16 包含层出土土器(14)/Ⅲ群b-1类(1)



图IV-17 包含層出土土器(15)/Ⅲ群b-1類(2)





图IV-18 包含層出土土器(16)/III群 b-1類(3)



状の渦巻き文を持つ。12・14～18は復元土器3・4の特徴に該当するものである。ただし、12は細い半截竹管による曲線文を口縁部と胴部に分けて施文する。また17は口縁部の絡条体施文部分の角度を変える。焼成が他に比べて良好である。14は口唇部に連続刺突を持つ。節が不明瞭な縄である。19も胎土にこれら一群の土器と似た混和材を持ち、上げ底だが、色調が乳白色味を帯び、底部形態はすぼまる。そして縦方向の短沈線が底部際に巡る。

20は単軸絡条体地文だが明瞭な頸部から外反する口縁部である。胎土と地文は住居跡H-1の埋甕(図Ⅲ-82-H-1-1)に似る。21～23は口唇部に外側を向いた面取りがある。面取り部分の断面はやや丸みを帯び、無文である。胎土には繊維と海绵骨針が含まれる。23はナデによって無文である。

#### (6) IV群 a類 (図IV-21～45-1～153 (154はb類)、表30-5、図版109-2と4～122-3・150～169)

1～62は復元個体である。1～3・5～27は沈線文を持つ土器である。4・および28～30は粘土紐による貼付がある。1・4はトリサキ式相当である。7は前十腰内式並行の可能性があり。2・3・5・6・8～30は大津式に相当する。ただし2・3・6はその中で古段階と考える。

1・4はトリサキ式に特徴的な8の字形にねじった粘土紐貼付を口縁部にもつ。1は5単位で隆帯貼付後に縄文地文。4は横走する縄文の上から貼付。2・3・5は平行沈線文を胴部に持つものである。2は粗雑な平行沈線文と隆帯を表裏に貼付した3単位の波頂部を有する。3は焼成の良好な器壁を持つ5単位の深鉢に、波状の平行沈線文を施す。5は縄文地文の胴部に平行沈線文。水平方向に細長い楕円形を多段に並べる。6は無文地に2本一組の沈線で同心円状の楕円形を口縁部に並べる。

7～9は磨消縄文を持つ。7は5単位の口縁部直下に渦巻き文がある。胴部にも2段の文様構成で磨消縄文がある。文様構成の類似で比較すると、「前十腰内式」に類似する。底面には圧痕によるものか、沈線が一本ある。8は幅広の沈線により、口縁部と胴部の2段の文様帯を持つ。胴部にはいわゆる「カニ鉋状文」を施文。3単位の口縁部には隆帯文が表裏にわたる。9は大型の深鉢である。4単位の波頂部には隆帯文が表裏に施され、沈線で縁取られる。胴部は3段の文様構成である。

10は口縁部の隆帯上は縄文、胴部文様は円形刺突で充填する。底面は同心円状の文様に円形刺突を充填する。4単位の小型浅鉢である。

11～15は沈線文による文様構成である。11は3本一組、12・13・15は2本一組の沈線で文様を施文する。11は口縁部と胴部の2段の文様構成。13・15は胴部上半に施文。12は器全面に渦巻き文を施文する。14は文様的に、八雲町浜松2遺跡8号住居址出土の一群のようなトリサキ式の末期の文様構成に似る。

16～27は条痕で充填する文様である。沈線の縁取りの中を条痕で充填するが、17は条痕のみの文様構成である。16～19は条痕の幅が不揃いである。17～19は不規則な文様構成である。19はトリサキ式起源の上下に渦巻き文を重ねる文様構成に似る。20・21は半截竹管による擦痕で充填したものである。20は2段のクランク状文の連続である。

22～27はおおよそ等間隔の整った条痕によって沈線文の区画を充填する。22・23・27は焼成は良好。表面は輪積み後、化粧土を施した上にナデ調整をしたものか。22・23はカニ鉋状の文様を基調としたものである。いずれも内彎する口縁部形態で4単位の波頂部部分が反り返る。27は口縁部と胴部の2段の文様構成である。24・25は壺形の器形で屈曲部を持つ。いずれも上げ底である。24は肩部と胴部の2段に文様帯を持つ。25は内面の輪積み痕が顕著である。26は太く幅広い沈線による施文。胎土には白色粒が密である。

28・29は無文地の土器であるが、波頂部に大津式特有の表裏にまたがる粘土紐の貼付がある。28・



图四—19 包含层出土土器(17)/Ⅲ群b类(1)





図IV-20 包含層出土土器(18)/Ⅲ群b類(2)

29は3単位である。30は4単位の同様な波頂部を持つ縄文地文の土器である。

31～33は小型の器である。31は網目状絡条体を外側へ残した輪積み痕の上に施文する。32は条痕が残るような調整具で器面を調整する。口唇内面にも条痕がある。胎土は黒色味を帯びる。33は瓶形で、一単位の波頂部には焼成前の穿孔がある。化粧土を施したかのような丁寧なナデ調整である。

34～62は地文のみの土器である。34～41は波頂部に指頭による押圧あるいはキザミなど大津式の沈線文様を持つものと共通する要素を持つ土器である。34・40・41は4単位の波頂部に指頭圧痕。34・40・41は折り返し口縁で、35・37は無文地。35は2単位の波頂部で、口唇には円形の刺突が部分的に施される。埋没後に割れたためか変形している。36は3単位の波頂部に縄圧痕。37は4単位の波頂部にキザミ。38・39は無文地の土器で3単位の波頂部に圧痕。39は指頭による。38は折り返し口縁。

42～54は縄文地文の深鉢である。42は2単位の土器で波頂部に短い粘土紐を縦方向に貼付する。42・44は折り返し口縁成形後、縄文施文。43～43は明瞭な上げ底を持つ。44・45・47・48・51～54は横走する縄文地文である。胴部は主に縦方向のミガキによって無文とする。43・47・48は3単位。45は6単位。44・49・51は4単位である。53・54は大型深鉢の胴下半部であり、底面はミガキ調整で上げ底である。55～62は無文地の深鉢。55～57・60は折り返し口縁成形後、縦方向のミガキによって無文。61・62は胴部最大径部分に横方向、下は縦方向のミガキ調整により無文である。

63～153は拓影化した破片資料である。63～66はトリサ式であり、特有の8の字にねじった粘土紐を貼付するもの。63は無節の縄文施文後、縄線を隆帯に押圧する。8の字の穴には刺突による円形の押圧がある。沈線文は不規則である。64は無文地に平行沈線文。65は横走する縄文地文に平行沈線文。66は粘土紐貼付の上から横走する縄文。67は無文地に粘土紐添付、内面に折り返し口縁。68・69は文様の、八雲町浜松2遺跡8号住居址出土の一群のようなトリサキ式の末期の文様構成に似る。70は無文地に口縁部のみ平行沈線文を施したもので、上げ底の深鉢である。5単位と思われる波頂部にはキザミが加えられる。大津式の古い段階の可能性はある。

71～77は縄文地文の土器で、沈線等を施したものである。涌元式～トリサキ式に伴うものの可能性はある。71・74～76は2本一組の沈線文。71は壺の口～肩部で、口縁部には不規則な間隔で焼成前に5個の穿孔。73は壺で、肩部内面には輪積み痕が残る。胴下部には単軸絡条体を縄文の上から施文。74・75は焼成良好で、横走する縄文地文の上から、十腰内I式期の文様を模したものを施す。75は自縄自巻的な縄文地文である。76は鉢形で、無節縄文地文上を施文。沈線の間隔は狭い。72は5本一組の幅広く浅い平行沈線による波状文施文。縄文の節も粘土に浅く入る。胎土は乳色味をおび、焼成良好。77は横走する縄文地に半截竹管による渦巻き文と伴う波状文を描く。

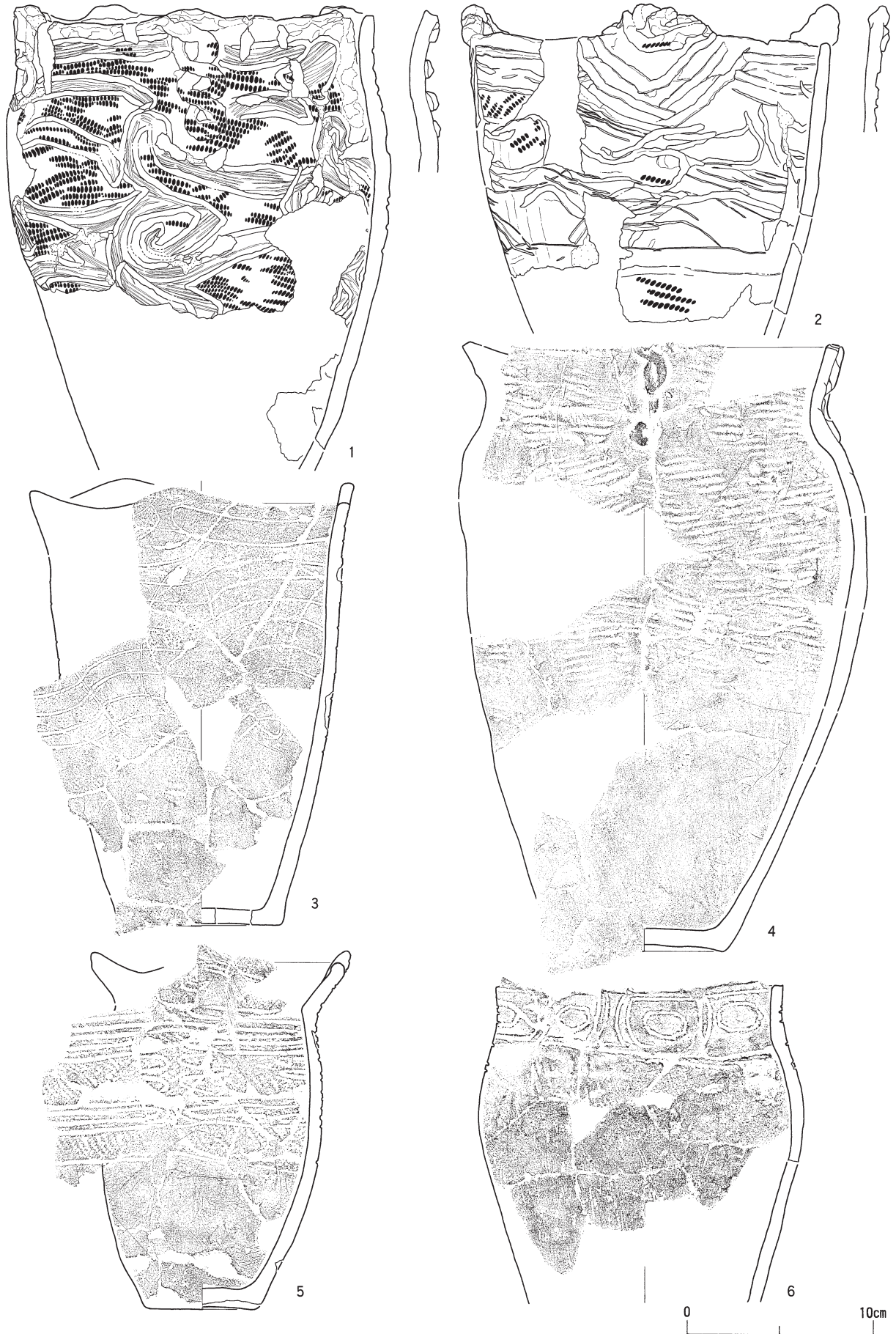
78～105は大津式に相当する。78～80は磨消縄文を持つ土器。78は内面に輪積み痕が残る。79は波頂部に細い粘土紐による貼付がある。焼成良好。器面の調整は丁寧である。80は小型の壺形土器であり、粘土紐貼付後、縄文施文。内面輪積み痕が残る。P-48区に1点類例がある。

81～84・86は円形あるいは円形に近いC字形の刺突による充填文。81は波頂部にキザミ。波頂部下には縦長の楕円形文、その両脇に平行沈線あるいは横長の楕円形文。82・84は不規則な地文。82は渦巻き文を基調とする。83は渦巻き文様の中を押し引き気味に刺突。86はR縄文の上を刺突列。85は半截竹管によるC字形の刺突を連続施文する。

87～90は沈線文があるもの。87・90は3本一組で施文。90は草本によるものか浅い沈線で、割口は焼成を受けており、意図的に輪積み部分から切り離れたものか。88・89は2本一組で施文。89は小型深鉢で条痕文地文の上から不整な連環状の文様を連続する。

91～105は条痕によって沈線文を充填したものである。91は不規則な沈線文様を半截竹管で充填す

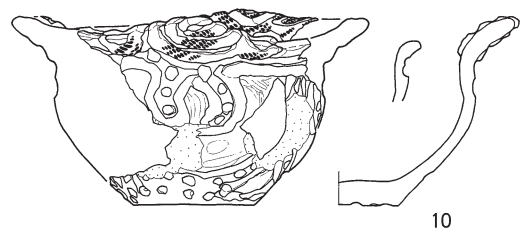




図IV-21 包含層出土土器(19)／IV群a類(1)



圖IV-22 包含層出土土器(20)/IV群a類(2)



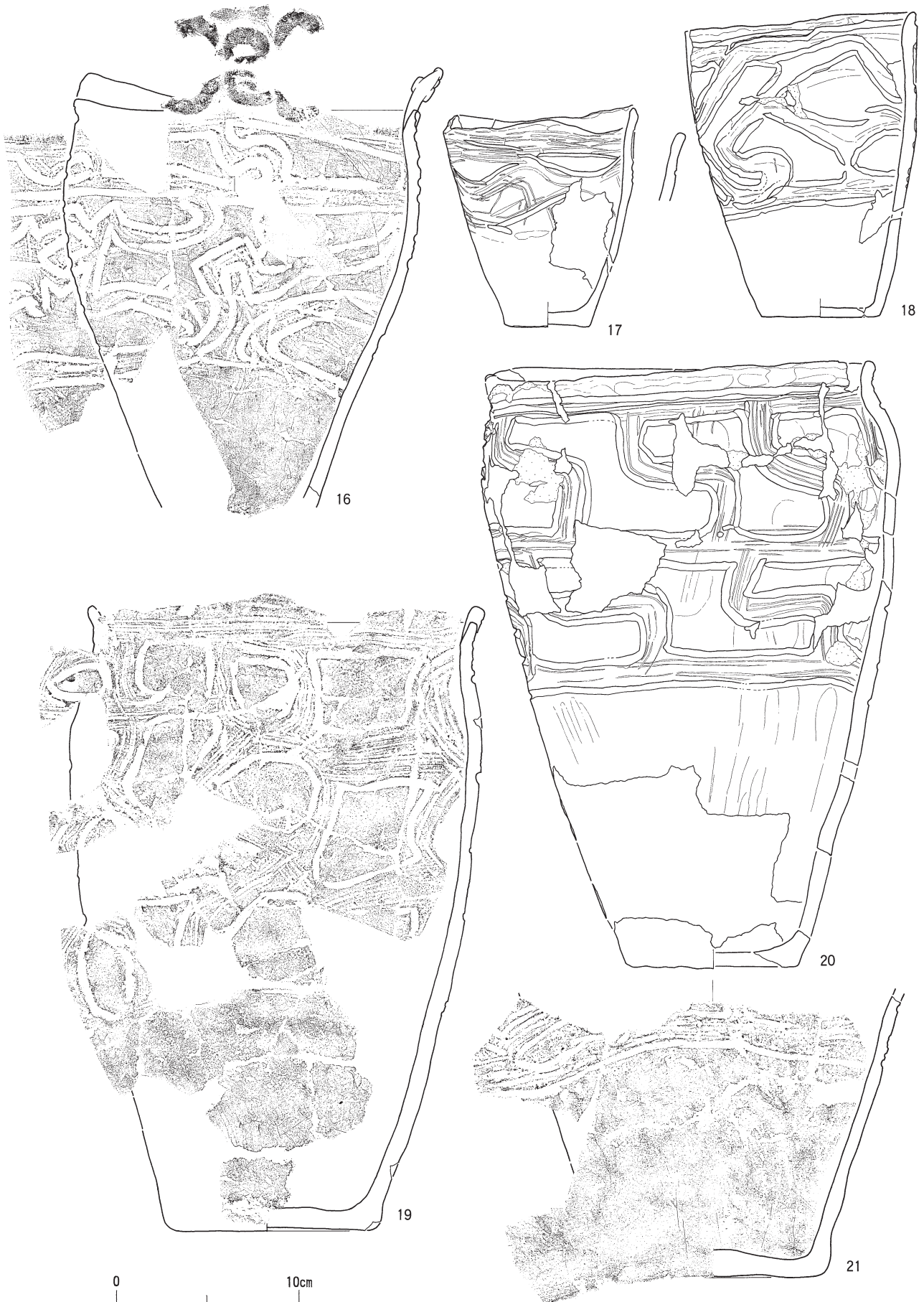
図IV-23 包含層出土土器(21)/IV群a類(3)



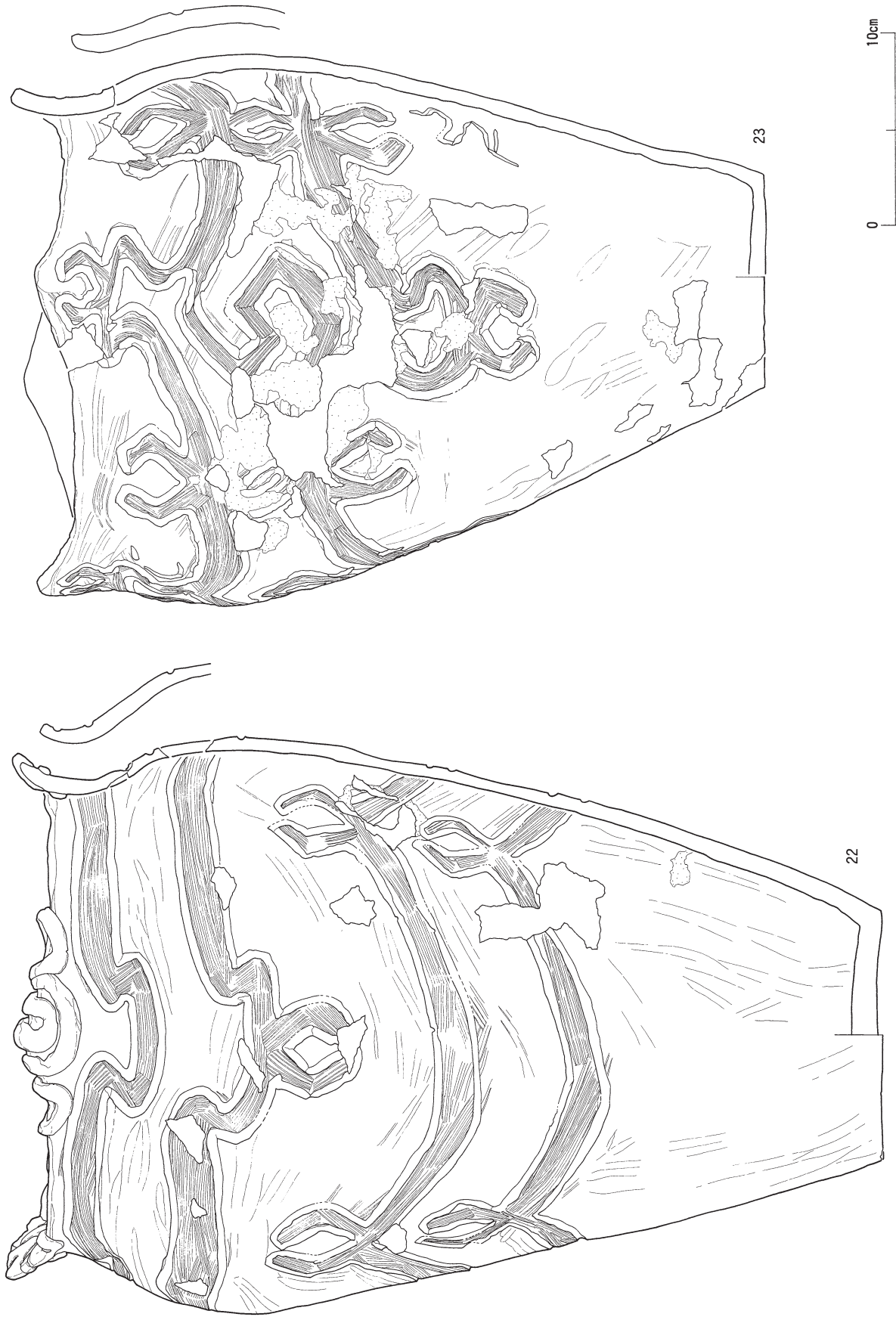


图IV-24 包含层出土土器(22)/IV群a类(4)

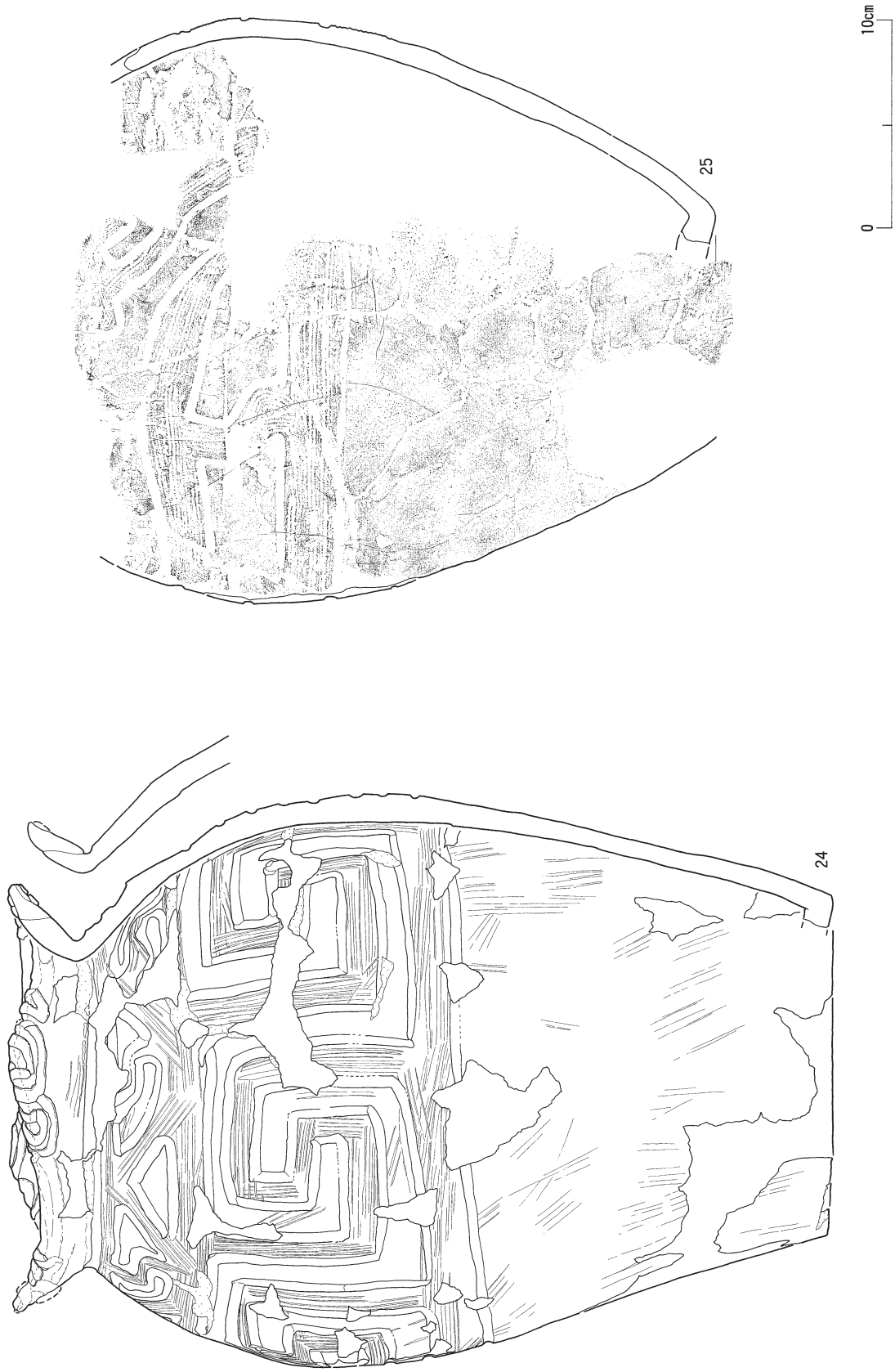




図IV-25 包含層出土土器(23)/IV群a類(5)



图IV-26 包含层出土土器(24)/IV群a类(6)



図IV-27 包含層出土土器(25)/IV群 a 類(7)



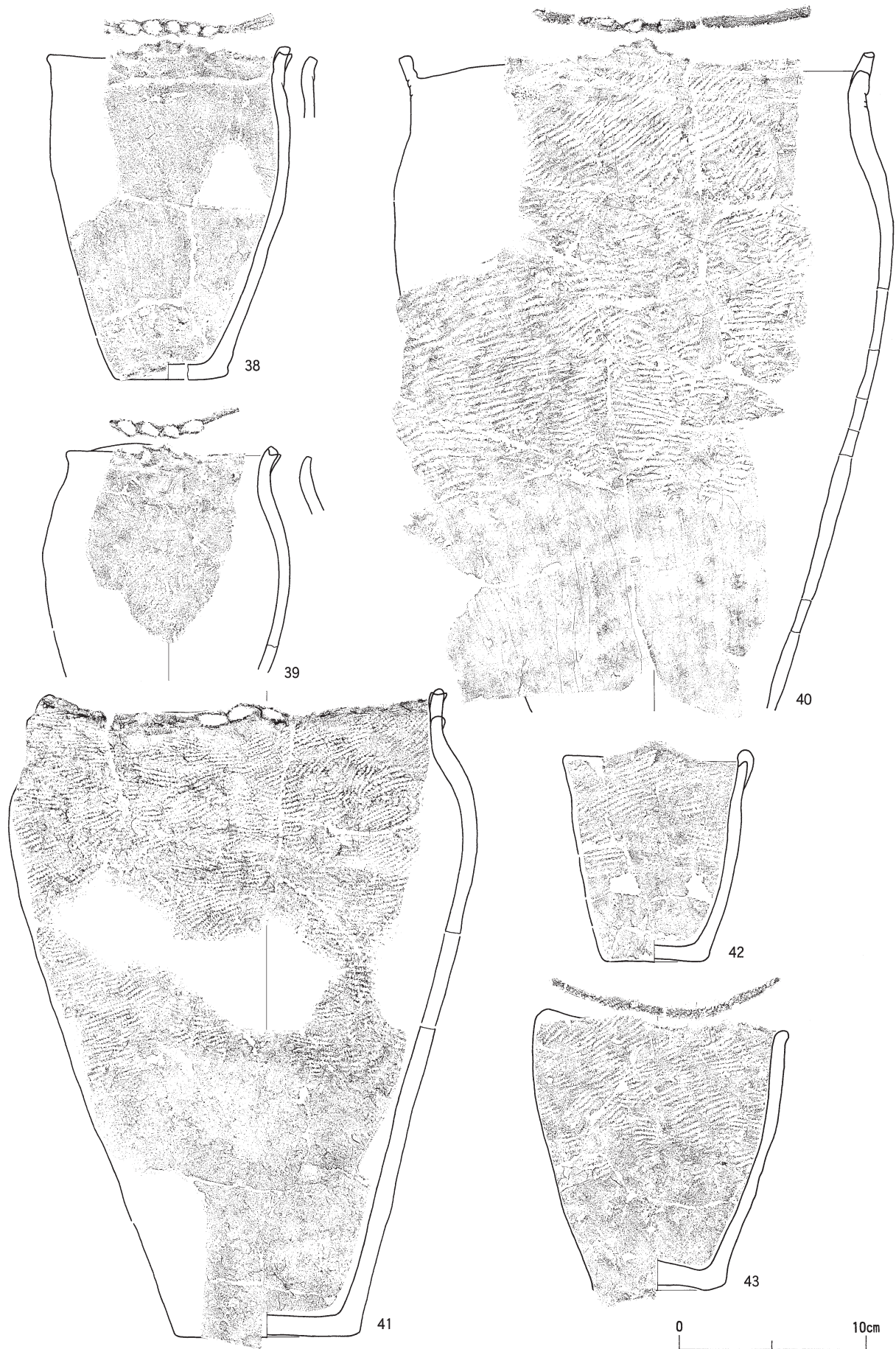


图IV-28 包含层出土土器(26)/IV群a类(8)





図IV-29 包含層出土土器(27)/IV群a類(9)



图IV-30 包含层出土土器(28)/IV群a类(10)





図IV-31 包含層出土土器(29)/IV群a類(11)



图IV-32 包含層出土土器(30)/IV群a類(12)





図IV-33 包含層出土土器(31)/IV群a類(13)

る。92は太い沈線と擦痕の組み合わせで施文。93～105は比較的等間隔の条痕で施文。93は膨らむ胴部と頸部、よく外反する口縁を持った大型の深鉢。頸部と胴部、2段以上の文様構成。波頂部には隆帯文。94は壺の頸部に条痕のみの施文。胴部は沈線間を2段の文様構成で充填文。95は口縁部から胴部にかけて連続する2段以上の文様構成を持つ浅い頸部を持つ外反する鉢。96は規則的な横方向の連続文様を上下二段持つ壺形。97は1本の沈線で、条痕文の上の輪郭をなぞったもの。98の口縁部は条痕のみの施文、口縁部文様帯の区画沈線直下は沈線間を充填した文様。99・103は頸部を含む口縁部と胴部に充填文が施される。上下で別文様が横方向に連続する。100は波頂部から垂下する充填文。器内面には隆帯による渦巻き文。101・102はクランク形の充填文。101は小型の鉢。102は壺形。104・105は膨らむ胴部を持つ大型の深鉢。104は口縁部と胴部に二段の文様構成。胴部は不規則な曲線文。105は規則的な施文がある胴下部破片である。

106～153は沈線文を持たない土器である。106は小型の深鉢で、口縁には3か所一組の押圧が2ヶ所、対向する位置にある。107～114・121は大津式の波頂部の特徴が要素として確認できた縄文地文のものである。107・110・112～114は波頂部に指頭圧痕を持つもの。109・111・121は波頂部にキザミを持つもの。107は草本によるものか浅い沈線文がかすかに窺える。108は表裏にまたがる粘土紐貼付がある。108・112・113は横走する縄文地文を持つ。

115～137は縄文地文の土器。138はその可能性がある土器。115～120・124～126・129は横走縄文地文。115は施文時の原体を動かした痕跡が残る。116は輪積み痕が微妙に折り返し口縁気味である。117は面をとらない口唇部縄文施文。119～120・122・127は折り返し口縁を持つ。119・121は多段。いずれも口縁部成形後、縄文施文。124はもろい胎土で、上げ底。127は上面観が楕円形。126・128は壺形の器形。128・129は縄文施文後、顕著なミガキ調整。130～134は貼付帯を持つもの。口唇と口縁の2本の貼付帯間は無文帯である。縄文はいずれもLR縄文である。帯の表面と地文で、縦、横と縄の施文方向を変える。131は無文地に貼付帯。132は縦方向の区画をする貼付上に縄線。133は口縁部側の帯がJ字形に湾曲する。135は網目状絡条体施文。胴部に段を設けて下部に縄文、上部に絡条体。136は口縁部に2本の縄線。137は上げ底で底部際まで縄文施文。胴部は縄文縦回転。底部際で横回転。このような地文のものは口縁部に貼付帯を持つ場合が多かった。138は内彎する口縁部を持つ。摩擦して不明瞭だが地文はLR縄文ないしはオオバコ回転文である。

139～150は無文地のものである。縦方向のミガキによって無文にするものがほとんどである。139は波頂部に押圧。145・146・148・150は折り返し口縁を持つ。151は張り出す底部形態の小型な土器。152は底面をミガキ調整。153は編み物圧痕の上からミガキ調整を施す。

#### (7) IV群b類 (図IV-45-154、表30-5g、図版168)

節の整った縄文を沈線文に充填する。焼成良好であり、文様の特徴からウサクマイC式に並行するIV群b類前半の土器の可能性ある。

#### (8) VI群 (図IV-46-50-1～37、表30-6、図版122-4～126-2・170～174)

1～17は復元土器である。いずれも縄文はRL縄文である。いずれも1～13は明瞭な上げ底である。1～3は後北B式である。1は胴下部に斜行短沈線が連続する。2は擬縄線を沈線で縁取る。3は胴下部に細かいキザミを擬縄文風に連続する。4～8はアヨロ3式あるいは南川IV群に属するものである。4は三角形の、5は爪形の列点文が巡る。6・8は口唇にキザミを持つ。6は水平な沈線間に水平方向に連続する短沈線を持つ。7は口唇にキザミを持たず、内側に面を取る。



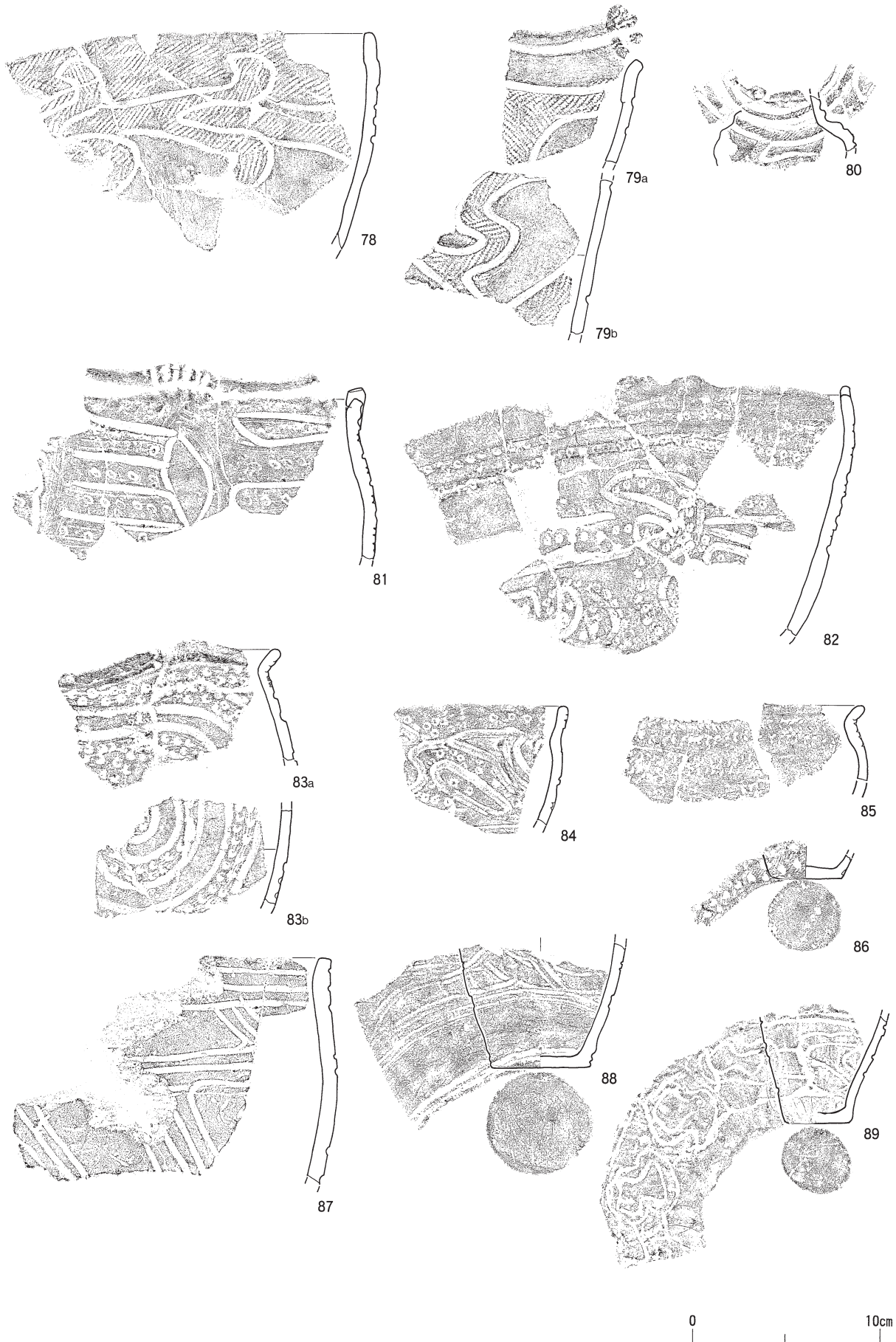


図IV-34 包含層出土土器(32)/IV群a類(14)

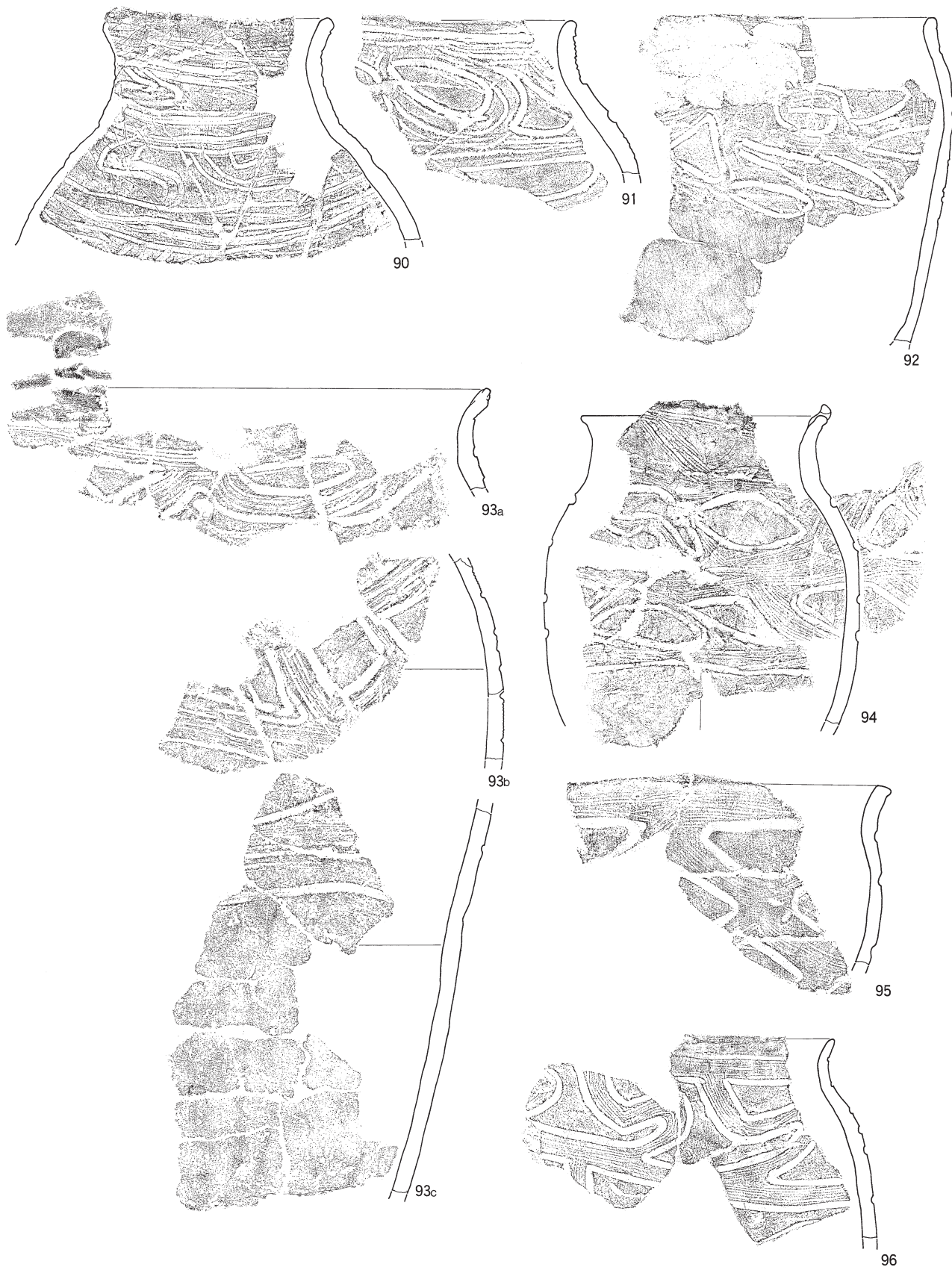


图IV-35 包含層出土土器(33)/IV群a類(15)



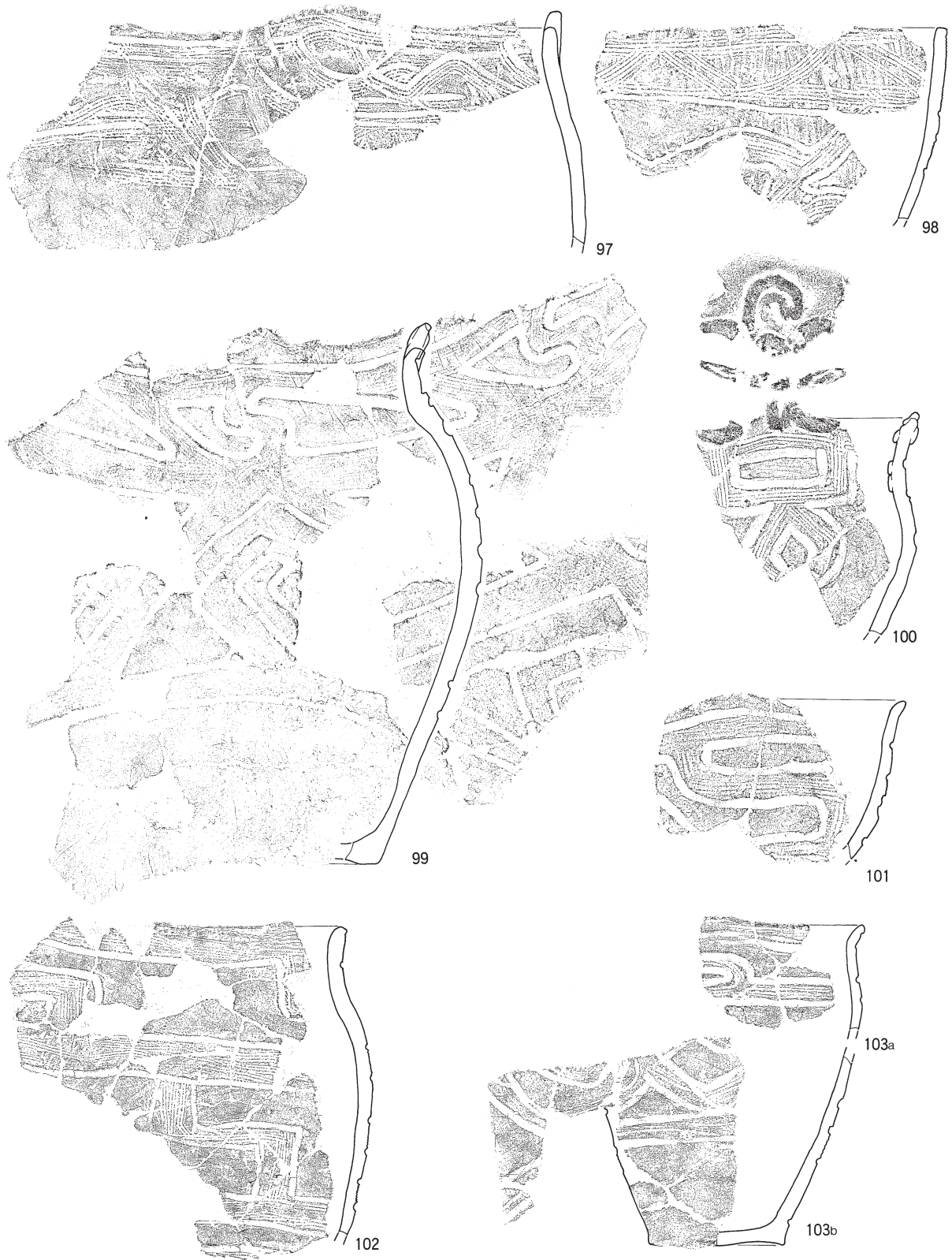


図IV-36 包含層出土土器(34)/IV群 a 類(16)

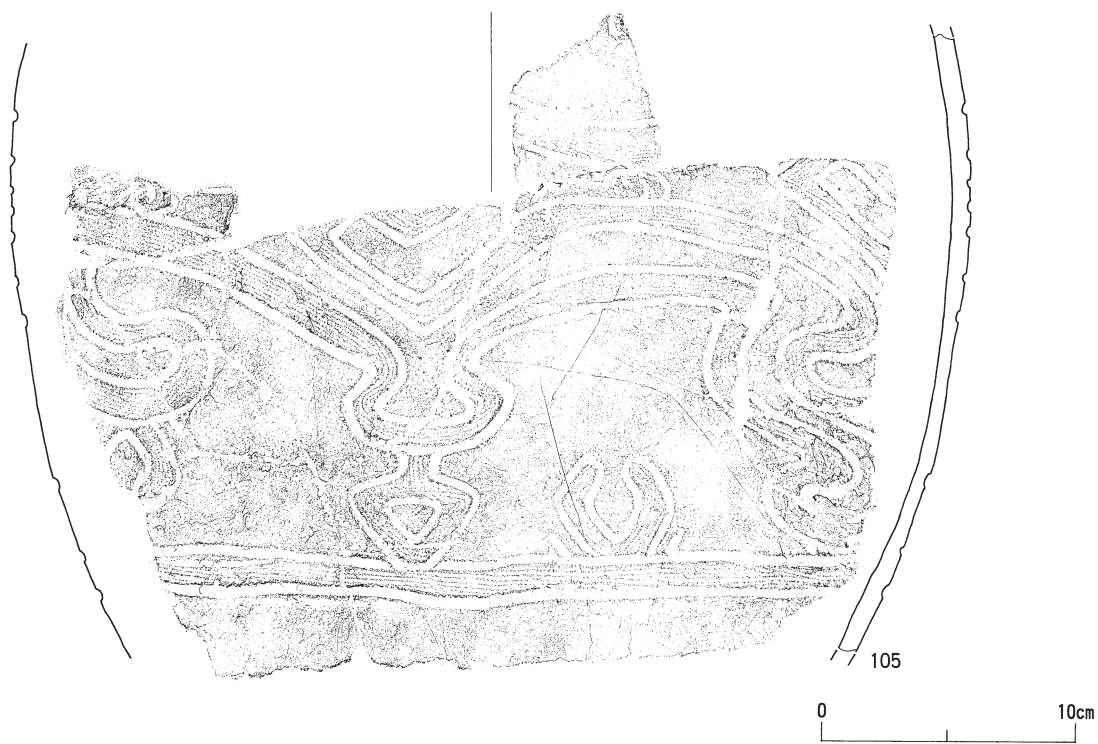


图IV-37 包含层出土土器(35)/IV群a类(17)





図IV-38 包含層出土土器(36)/IV群 a類(18)

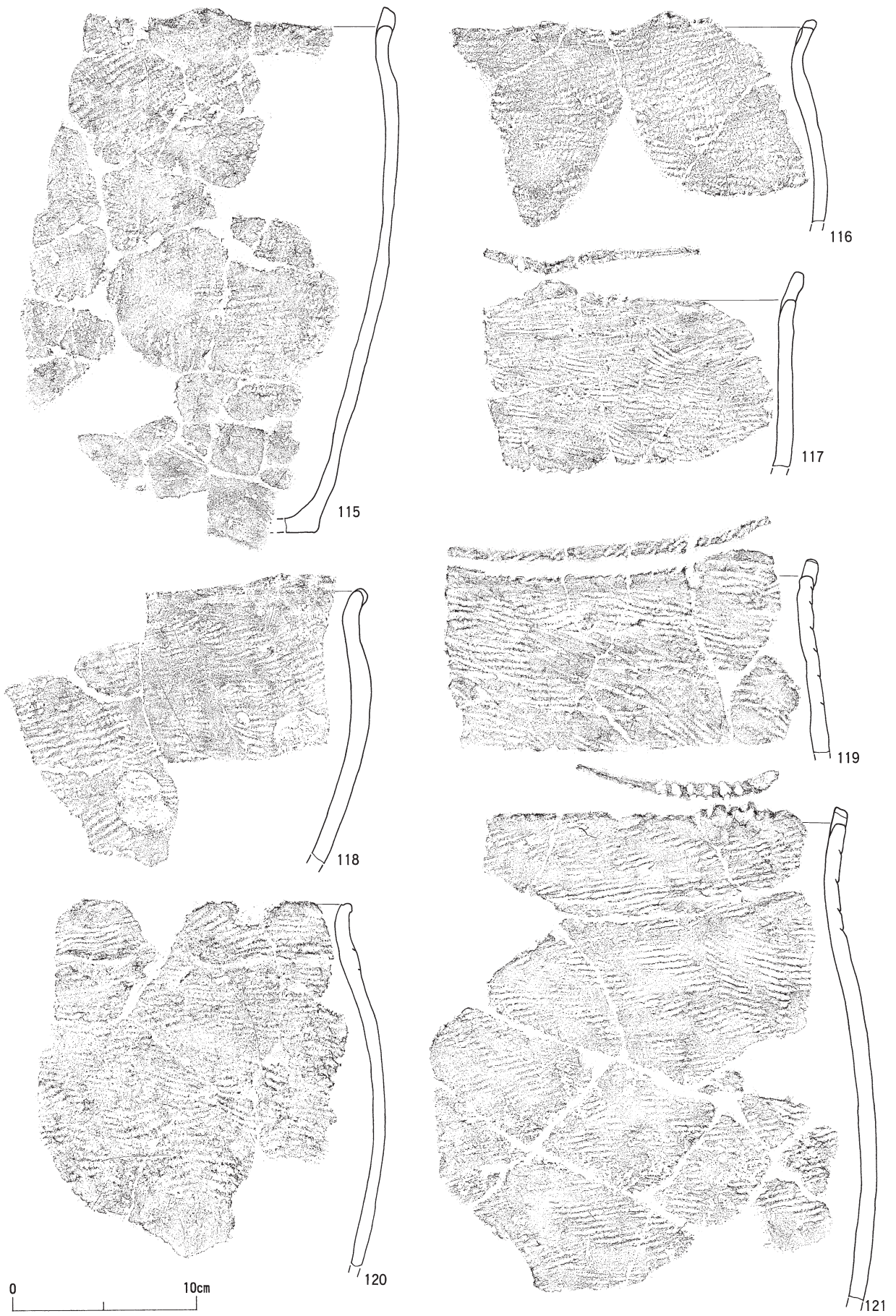


图IV-39 包含层出土土器(37)/IV群a类(19)





図IV-40 包含層出土土器(38)/IV群a類(20)

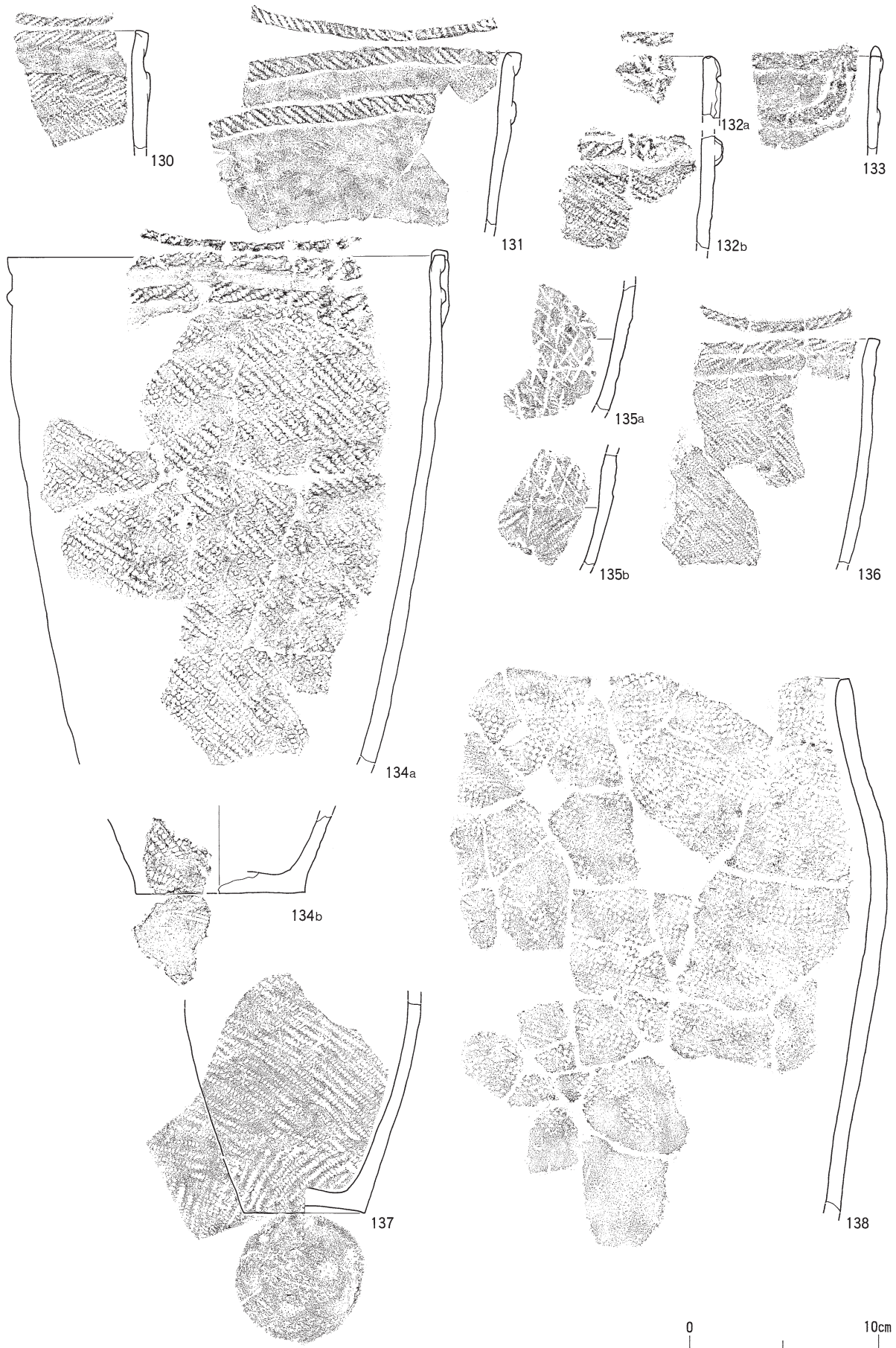


图IV-41 包含层出土土器(39)/IV群a类(21)





図IV-42 包含層出土土器(40)/IV群a類(22)

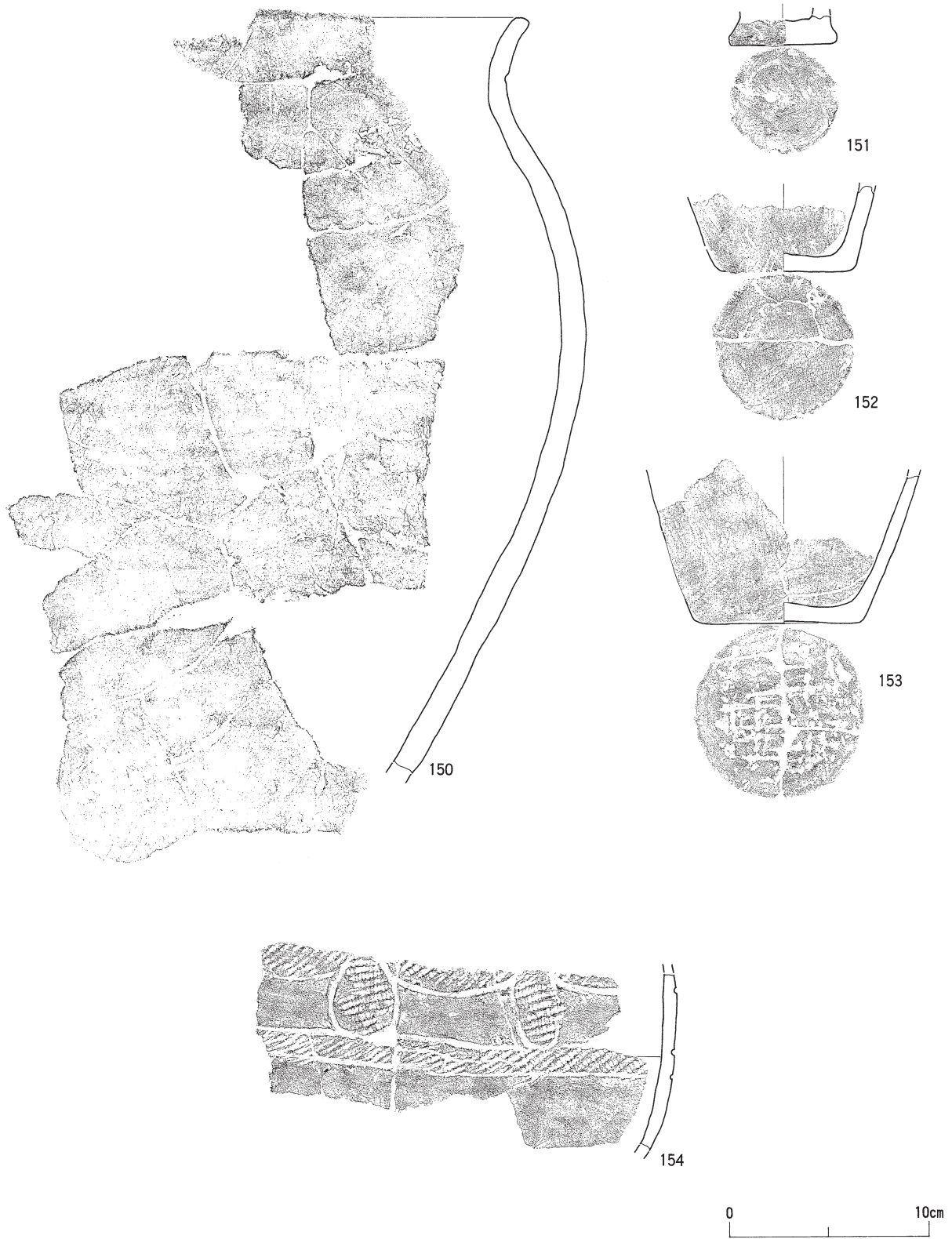


图IV-43 包含層出土土器(41)/IV群a類(23)





図IV-44 包含層出土土器(42)／IV群a類(24)



图IV-45 包含層出土土器(43)/IV群a類(25)·IV群b類

10はアヨロ3式に並行するものである。口唇部にキザミを持ち、沈線で縄文を区画する。磨消縄文を持つ。4～8と比べ器壁が薄く、胎土に黒色味がある。

9は江別太1式あるいは後北C<sub>1</sub>式古段階である。口唇部にキザミを持ち、帯縄文と連続する斜行短沈線を組み合わせる。11～15は後北C<sub>1</sub>式である。いずれも微隆起線による施文。13は区画内を人間の爪による列点文。14は二次被熱が著しい。15は微妙な上げ底の中央が凸部を持つ。16・17は後北C<sub>2</sub>D式。15・16は口唇部にキザミを持つ。16は後北C<sub>1</sub>に近い後北C<sub>2</sub>D式。17は大型の深鉢で、凸面を持つ底部。

18～37は拓影化した破片資料である。18～22はアヨロ3式あるいは南川IV群に属するものである。18は磨消縄文に沈線および短沈線を平行に施す。19は鋸歯状沈線で胴部の縄文施文方向の変換部を区画する。21は押し引き気味の列点が沈線間に並ぶ。22～24・30は明瞭な上げ底を持つ底部である。24は丸く膨らむ胴部を持つ。24は微隆起線が縦方向に垂下し、爪形の列点を持つが、摩滅が著しい。23・24・30は上げ底の程度と立ち上がりの角度から判断して、後北B～C<sub>1</sub>式の範疇のものである。

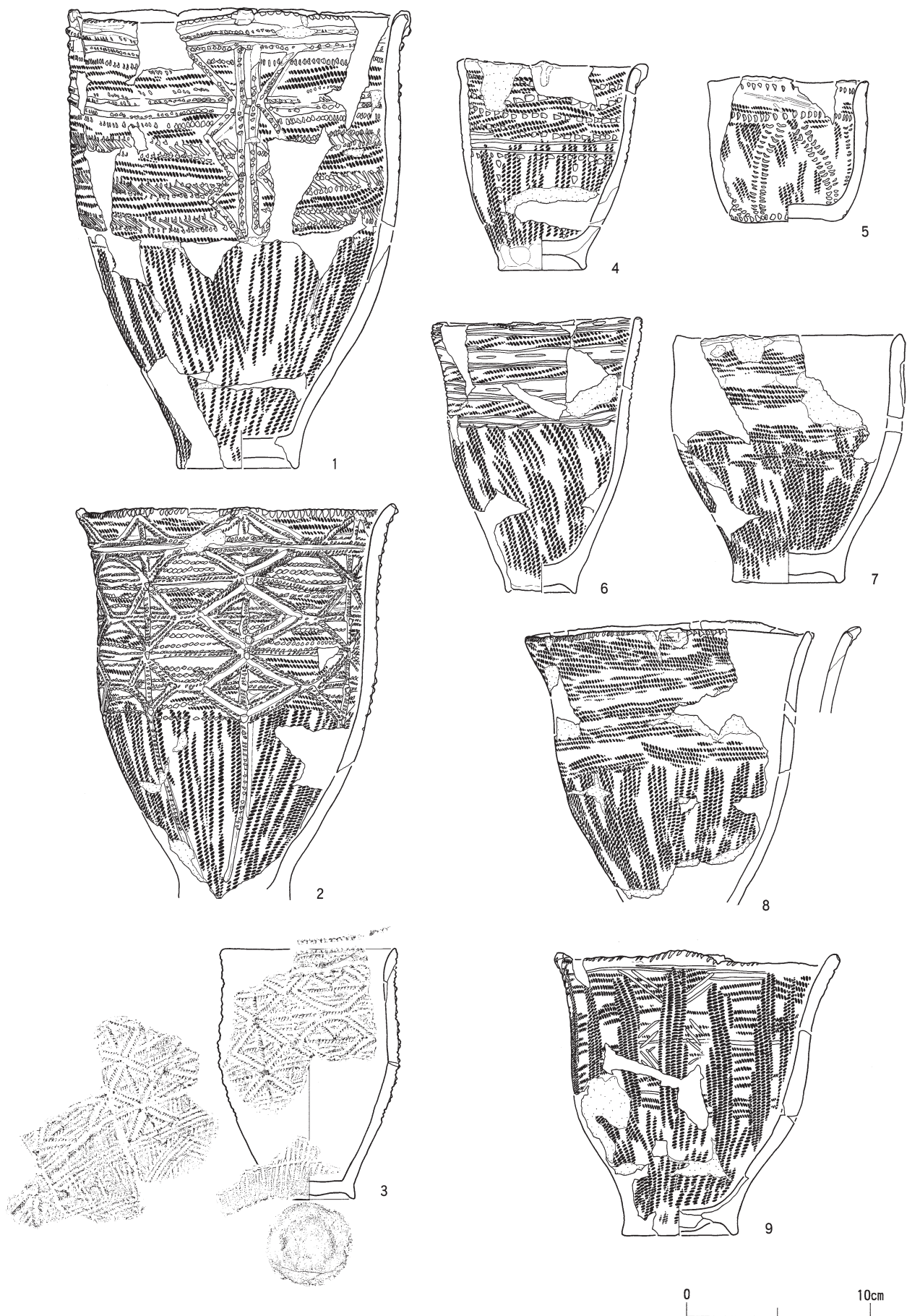
26～29は後北C<sub>1</sub>式で、口唇部にキザミがある。26・27・28は列点文を持ち、27は三角形の列点文で、同心円状の微隆起線文を持つ。28は微妙な上げ底である。

25は後北C<sub>1</sub>式並行、聖山K II群である。口唇部に双頭の突起を持ち、磨消縄文と列点文を持つ。鋸歯状沈線で胴部の縄文施文方向の変換部を区画する。31は大型底部で、微妙な上げ底である。後北C<sub>1</sub>～C<sub>2</sub>D式の範疇である。32～37は後北C<sub>2</sub>D式土器である。33・34・36・37は口唇にキザミを持つ。37は列点あるいは押圧と言うべきか。35は胴部に三角形の列点文を持つ。32・36・37は凸面を持つ底部で、36は微妙な上げ底の中央が凸部を持つ。

#### (9) 土製品・再生土製品 (図IV-51-1～23、表28・表30-7・8、図版126-3・175)

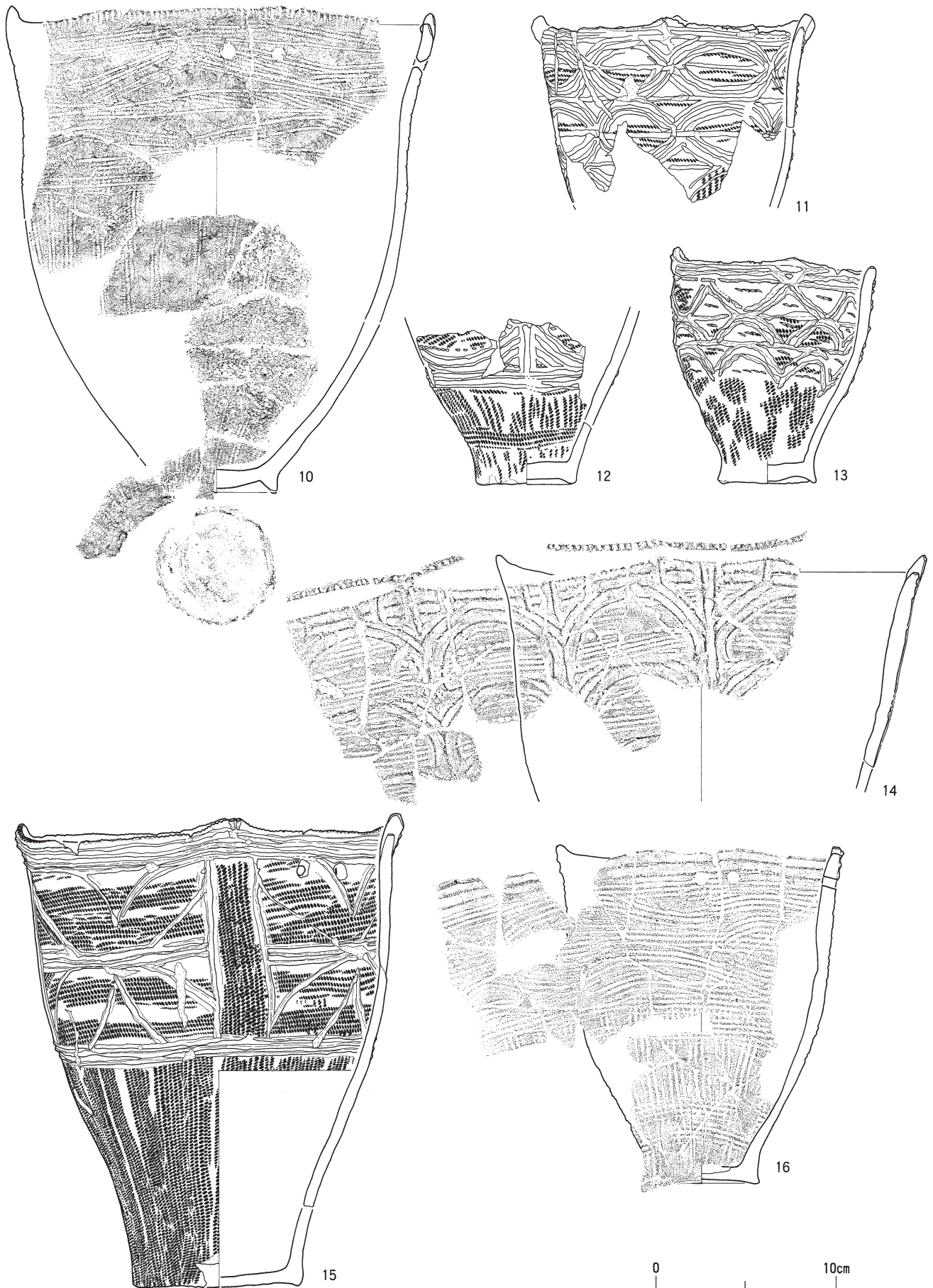
1～15はミニチュア土器、および特殊器形の一部である。一旦、土器破片として分類した後、底径2cm以下の深鉢、あるいは特殊器形と判断したものを抜き出した。23個体(35破片)確認した。うち15点を掲載した。III群に属するもの7個体、うちIII群a類が6個体、IV群a類に属するもの15個体、VI群に属するもの2個体であった。時期は当遺跡出土遺物の胎土および類例から判断した。調査区内から散点的に出土した。1・2はIII群a類のものとする。1は波頂部または高台に焼成前の穿孔を2か所持つものである。波頂部として図化した。口唇にあたる場所に単軸絡条体施文。2は支脚である。3はIII群土器の波頂部で、b類の可能性が高い。器形は判別できないが、不整な形状の口縁部である。半截竹管による連続刺突が施される。4はIV群a類の胎土に似るが、時期は限定しがたい。舟形器形の器の軸先にあたる部分と考える。人面形を呈する。同様の破片が隣の調査区で出土しており、同一個体で、船尾にあたるものとする。5・6・8・9はIV群a類のミニチュア土器である。5は橙色味をおびている。成形が粗い。ほぼ同じ形状のものが隣の調査区から出土している。6は上げ底まで丁寧に作られる。8・9はミニチュア高坏の脚部と考える。ただし8は耳栓の可能性もある。10・11はIV群a類の土製品であり、「鐸形土製品」に類するものである。10は「イカ飯形」をしていたと考える。耳が欠損している。11は鐸を半割したような形状、匙あるいは船形の土製品である。7はIV群a類土器に付く片口部分と考える。12・13は焼成粘土塊である。指頭の腹面による窪みが顕著である。胎土の類似からIV群a類としたが、Va層からの出土であり、続縄文時代の焼土をフローテーションした残渣によく焼成粘土塊が混じることも併記しておく必要を感じた。出土の13は小型の皿状を呈する。いずれもIV群a類土器に似た胎土である。13は混和材がほとんど無い。14・15はVI群土器のミニチュアである。14は上げ底を持つ底部で、後北C<sub>1</sub>式を思わせる。15は上げ底の中央に凸面を持つ底部と口縁部で、細かいキザミ列が当遺跡でアヨロ3式または南





图IV-46 包含层出土土器(44)/VI群(1)



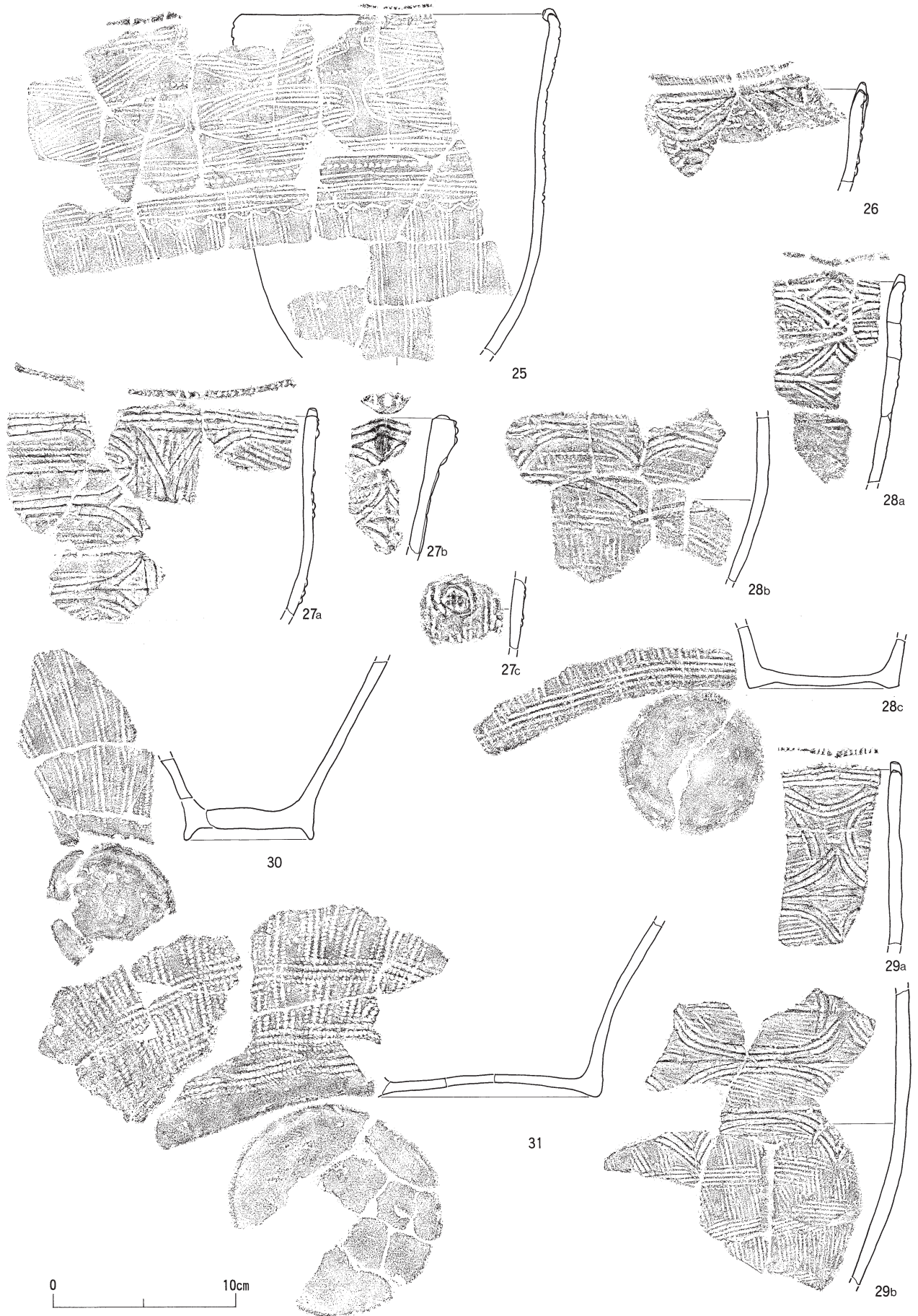


図IV-47 包含層出土土器(45)/VI群(2)



图IV-48 包含層出土土器(46)/VI群(3)



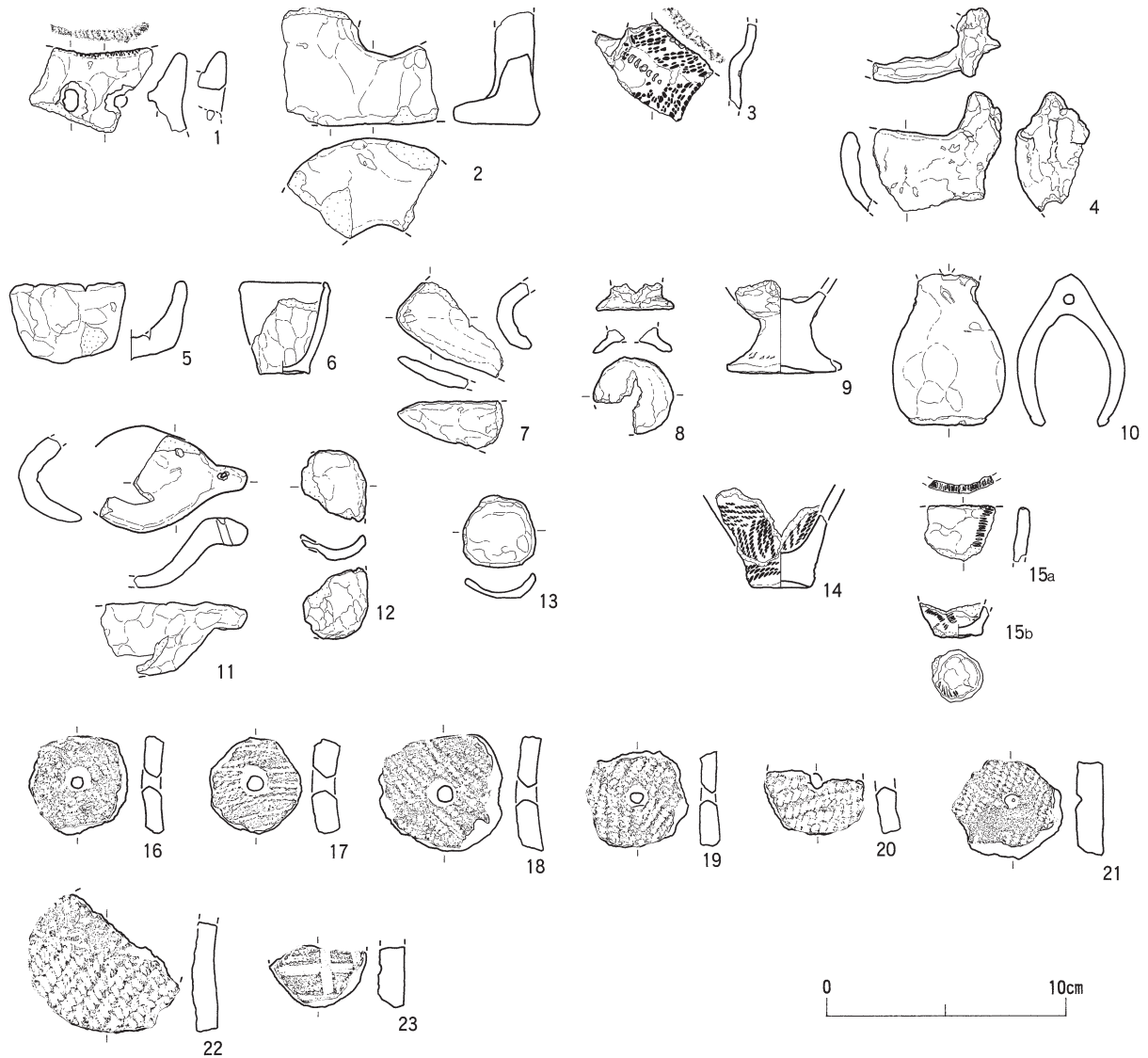


図IV-49 包含層出土土器(47)/VI群(4)



图IV-50 包含层出土土器(48)/VI群(5)





図IV-51 包含層出土土製品(49)／Ⅲ～Ⅵ群

川IV群とした図IV-46-5に似る。

16～23は再生土製品である。一旦、包含層の土器破片として分類した後、土器片を再加工したと考えられるものを抜き出した。その加工品について再生土製品の名称を用いた。可能性があるもの20点を抜き出したが、成形痕が明瞭なものは16点である。Ⅲ群a～b-1類土器を素材とするものがほとんどだが、IV群a類土器が2点ある。ただし、遺構からⅥ群土器を素材とするもの(図Ⅲ-114-F-7-2)が出土している。包含層遺物の中から8点を掲載した。いずれもⅢ群土器の胴部破片を使用している。16・19・20・23がⅢ群a類。17・18・21・22がⅢ群b類で、18・21・22はb-1類であった。16～20は中央に穿孔を持つ。器の表面および裏面から二次的に穿孔するが、19はほとんど表面からのみの穿孔である。21は器表面側から穿孔の途中である。22・23は折損している。すべて打ち欠きによって成形する。16・17・18・23が打ち欠き後に擦りによって調整している可能性があるが、明らかなものは17・23のみである。

(大泰司)

## 2 石器類

### (1) 概要

二年度の調査において、包含層から出土した石器類は、総点数11,515点を数える。年度別では、03年度出土が8,588点、04年度出土が2,927点である。

これらの出土のあり方や傾向を示すため、主に層位ごとの点数を示す「表29 包含層出土石器類点数表」及びグリッドごとの点数を示す「図IV-52~55 出土分布図」を掲載した。これらの作成には、一次整理作業の成果である、遺物台帳のデータを用いたが、分類変更した遺物や、一次整理作業時に生じる表記ミス等を修正したデータは用いていない。しかし、本遺跡における石器類の出土傾向を示す上で、大きな支障はないものと考えられる。

なお、本報告において、ある器種や石器類の出土割合等を示すにあたり、「百分率」を用いているが、算出方法上、小数第二位を四捨五入したので、合計必ずしも100にならない場合もある。

#### 「表29 包含層出土石器類点数表」

##### ・剥片石器群

剥片石器群は9,956点で、石器類出土総点数の約86.5%を占め、そのうちフレイク・チップが8,899点で約89.4%を占める。また、U・Rフレイク（約2.9%）や原石（約1.9%）が多いことも本遺跡の特徴である。主な器種の出土割合は、石鏃；約1.7%、石槍・ナイフと石錐がそれぞれ約0.1%、つまみ付ナイフ；約0.2%、スクレイパー；約2.6%で、スクレイパーが最も多い。出土層位は、Va層；約38.0%、Vb層；約39.1%、V層；約7.7%で、V層からの出土が8割以上を占める。

##### ・磨製石器群

磨製石器群は56点で、石器類出土総点数の約0.5%に過ぎない。すべて磨製石斧で、擦切残片等の製作を想定させる遺物の出土も認められない。出土層位は、Vb層出土が約44.6%でおおよそ半数を占め、ついでVa層出土が約32.1%である。

##### ・礫石器群

礫石器群は764点で、石器類出土総点数の約6.6%である。台石・石皿・凹み石が約27.9%で最も多いが、一次整理段階で使用痕が不明瞭なものもこれに分類している場合があり、実態はこれの半数程度であると推測される。ついで多いのは、扁平打製石器；約27.2%、北海道式石冠；約16.9%、たたき石；約13.2%である。すり石（その他）は04年度には出土は認められない。1点のみ出土の石鋸は、扁平打製石器に分類すべきもので、石錘には扁平打製石器の未製品・未使用品と判断するのが適当であるものも含まれる。出土層位は、Va層；約28.0%、Vb層；約54.8%、V層；約6.2%で、V層出土のものが8割以上を占める。

##### ・石製品

石製品41点で、石器類出土総点数の約0.4%である。Va層出土が約58.5%で過半数を占め、ついでVb層出土約34.1%である。

##### ・自然礫

自然礫は698点で、石器類出土総点数の約6.1%を占め、Va層出土約52.0%、Vb層出土約30.4%、V層出土約6.6%で、やはりV層出土のものが8割以上を占める。

また、自然礫は、取り上げて水洗した後に観察し、現場で廃棄したものが5,837点（04年度）あり、遺跡に存在した自然礫の本来的な点数は、さらに多いと推測される。

## \* 「図IV-52~55 出土分布図」

## ・剥片石器群

「石鏃」は、概ね調査区全体に分布が認められ、C-43・44区とL-38区に10点以上の出土が認められる。「石槍・ナイフ」と「石錐」は少量で、まばらな出土である。「つまみ付ナイフ」は、S-46区の出土が5点を数え、最も点数が多いグリッドである。「スクレイパー」は調査区の全体から出土し、D-43・44区の両グリッドは、10点以上の出土である。「両面調整石器」は、z-43区・F-39区から1点ずつ認められる。「U・Rフレイク」は、C-43・D-44区と、R-41・42区が10点以上の出土が認められるグリッドで、これらの周囲も比較的出土点数が多い。「ピエスエスキュー」は、B-43区から4点出土している。石核は分布範囲が大まかに二つに分けられる。すなわち、C・D-43・44区付近と、もう一つはQ-42・43区とその周辺のグリッドである。「フレイク・チップ」は、調査区全体に出土が認められ、分布の集中範囲は、①C・D-43・C-44区、②J・K-43区とL-42区、③Q-43区の三か所で、これらと隣接するグリッドも多数認められ、その周囲のグリッドへと減少していく。「原石」も、ほぼ全体に分布すると理解され、z・A-43区とT-40・41区にやや集中する。

「剥片石器群」とした分布図は、フレイク・チップと原石を除いたものである。C・D-43・44区と、Q-42・43及びR-41区を中心に集中が認められ、他E-40区、L-38区、R-45区、T-41・42区等のグリッドからも10点以上の出土が認められる。

## ・磨製石器群

「磨製石斧」は、まばらであるが、ほぼ調査区全体に分布するものと理解される。P-47・Q-46区の両グリッドからの出土が比較的多い。

## ・礫石器群

「扁平打製石器」は、調査区の東側部分には全く分布が認められず、F-43区やI-42区では、10点出土している。「北海道式石冠」は、調査区の北・東両側部分に少なく、H-42区では、10点以上の出土である。これら以外のその他の「すり石」は、調査区東側部分（04年度の調査区）には分布が全く認められない。「たたき石」も、まばらではあるが、調査区全体に分布が認められるが、調査区西側部分に比較的多い。「石鋸」は、N-42区から1点の出土であるが、これは扁平打製石器に相当するものである。「石錘」もまばらに少量が出土しているが、扁平打製石器の未製品である可能性も考えられる。「砥石」は、調査区の東側部分に分布が認められず、C-44、D-43・44区に比較的多く認められる。「台石・石皿・凹み石」は、調査区全体にほぼ認められ、特にP・Q-42区、R-41区から多く出土している。

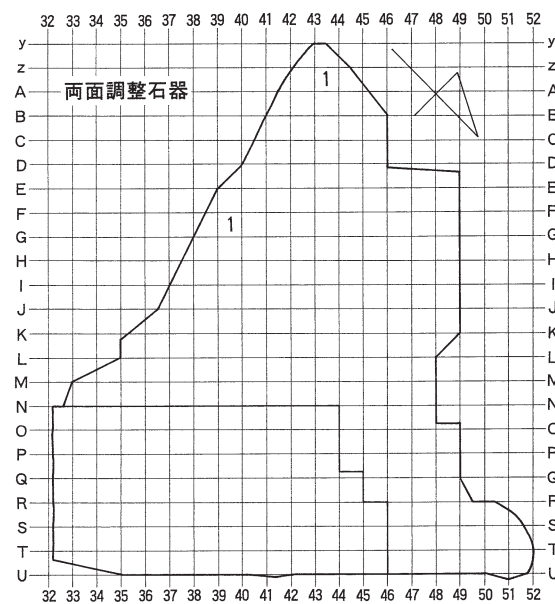
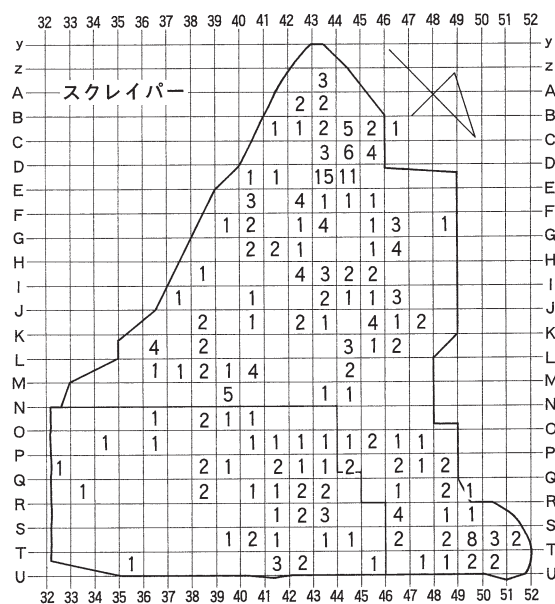
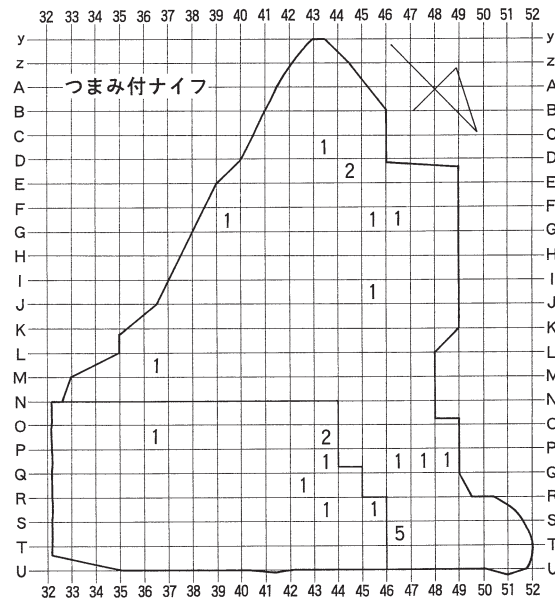
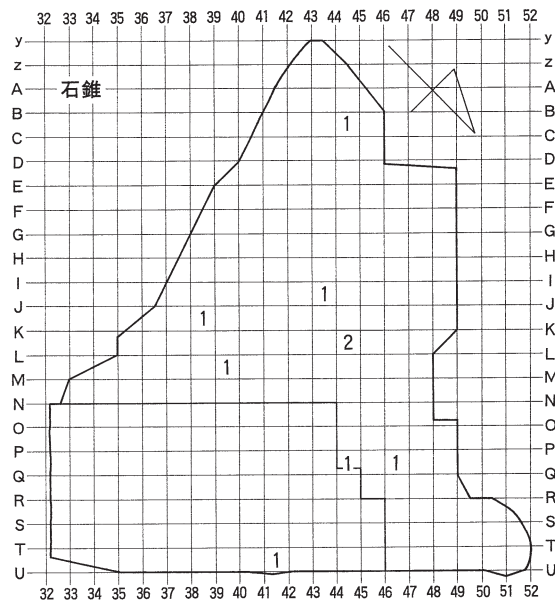
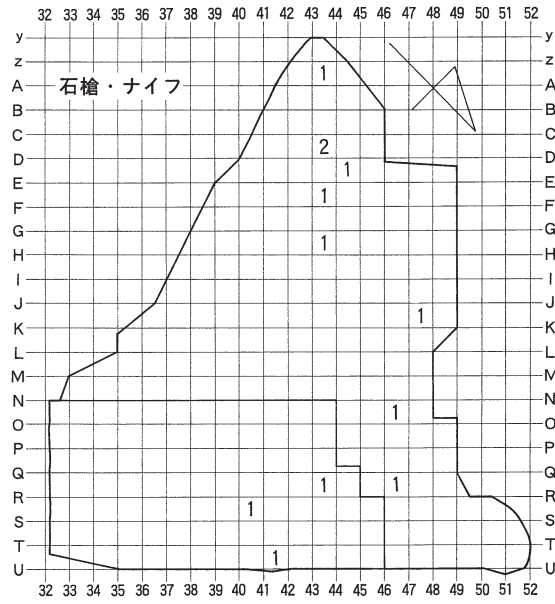
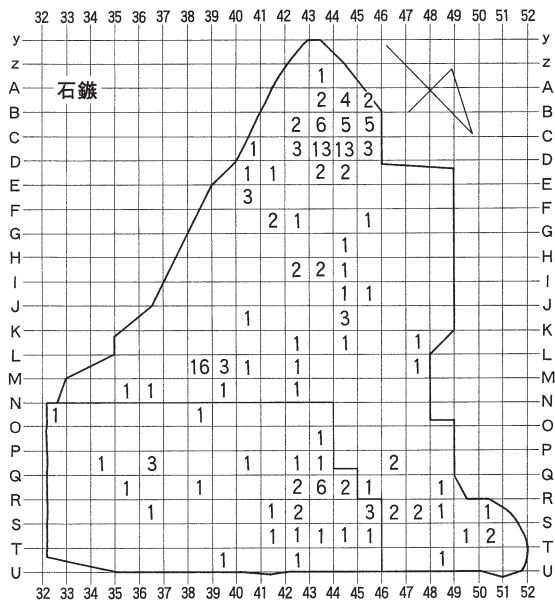
これらの器種の分布を「礫石器群」とした分布図にまとめた。調査区全体から出土しているが、調査区の東側部分は少なめである。点数が多いグリッドは、C-44区、D-43区、F-43区、H・I-42区、P-48区、Q-42区である。

## ・石製品

04年度の調査区から多く出土しているのが明確に読み取れる。P-38区に最も多く分布が認められる。

## ・自然礫

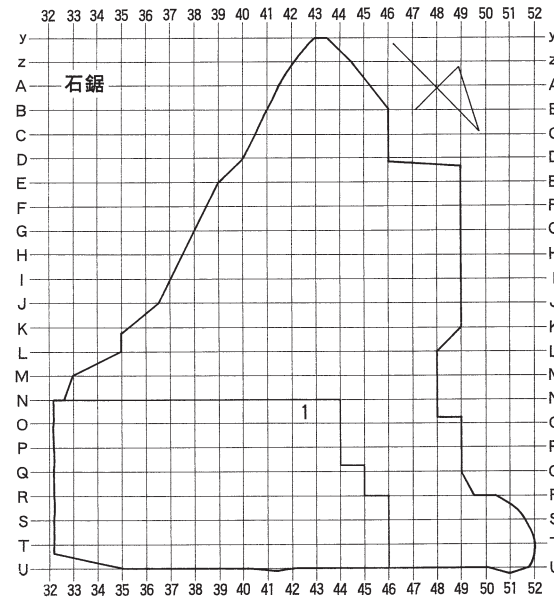
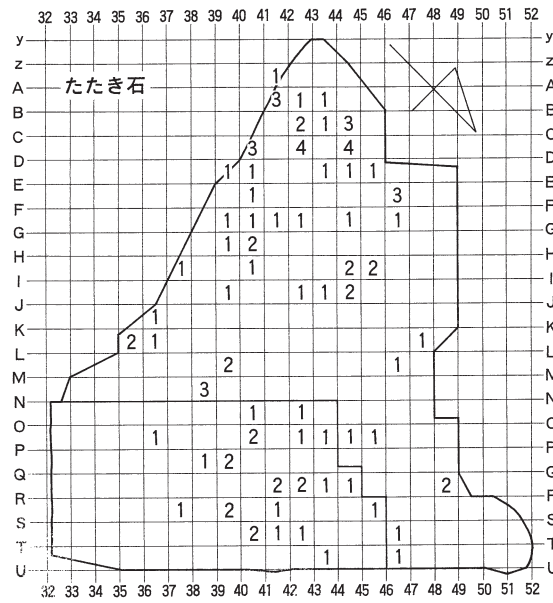
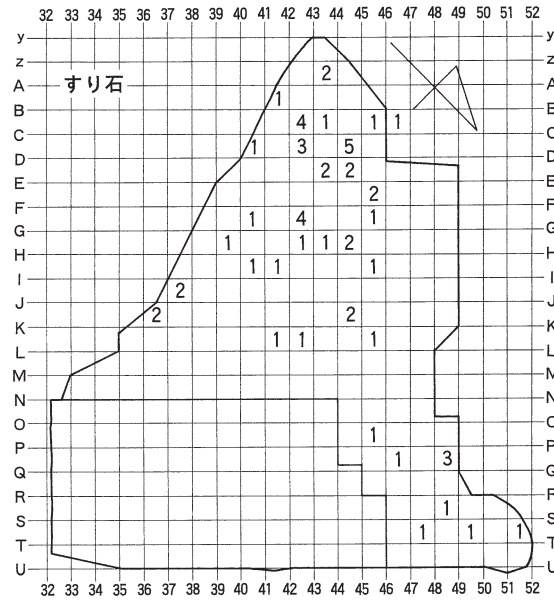
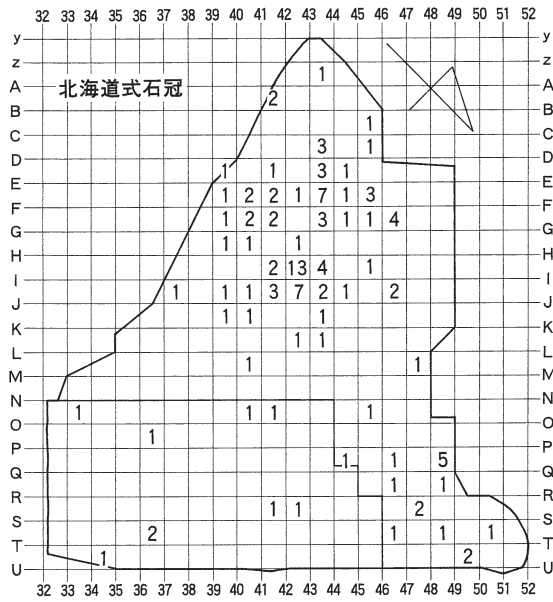
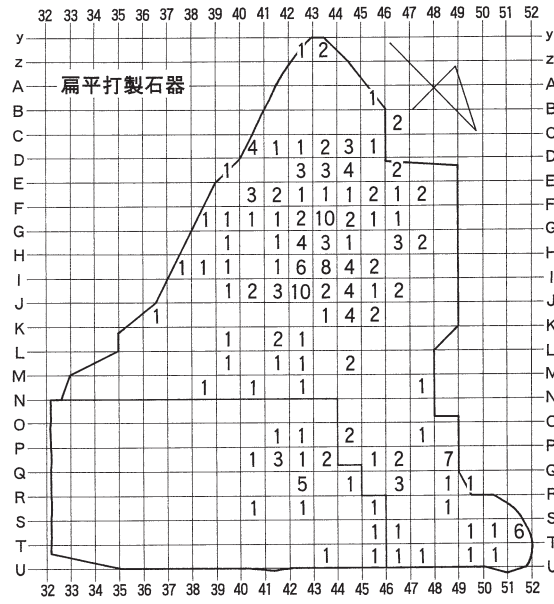
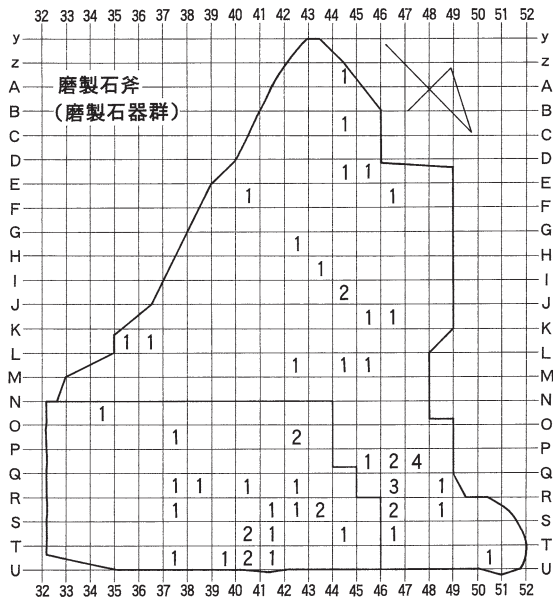
自然礫すべてを遺物として取り上げた訳ではないので、分布図は、現場における自然礫のあり方を正確には示さないが、全般的に石器類の多いC・D-43・44区と、大型の住居跡であるH-8・14が位置するグリッドに多い特徴が読み取れる。



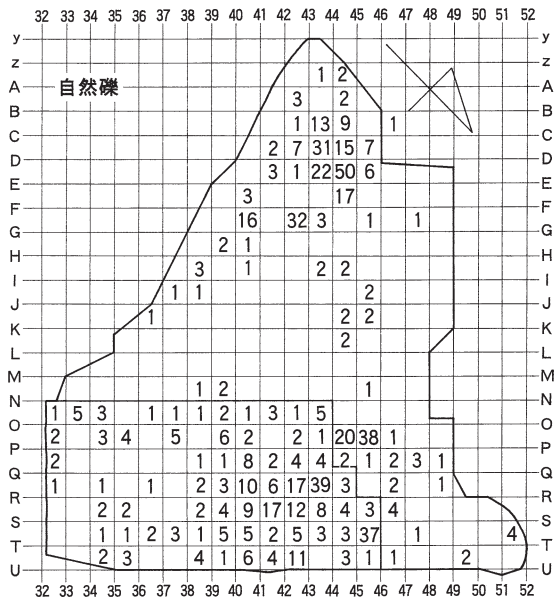
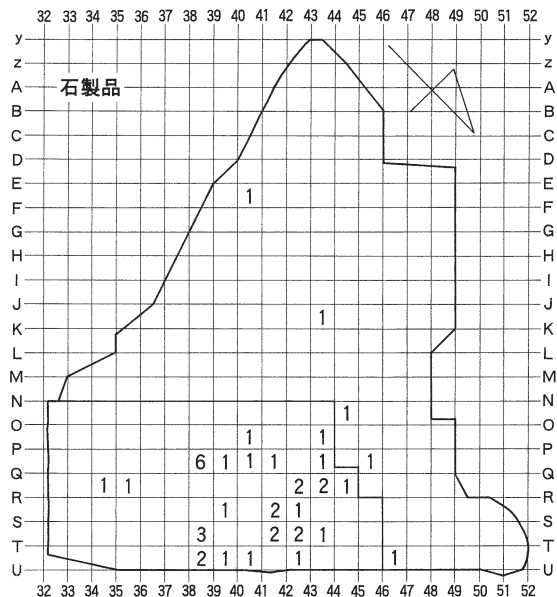
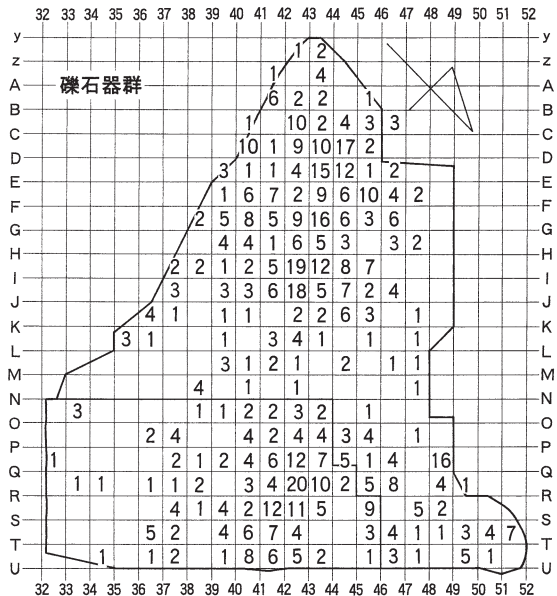
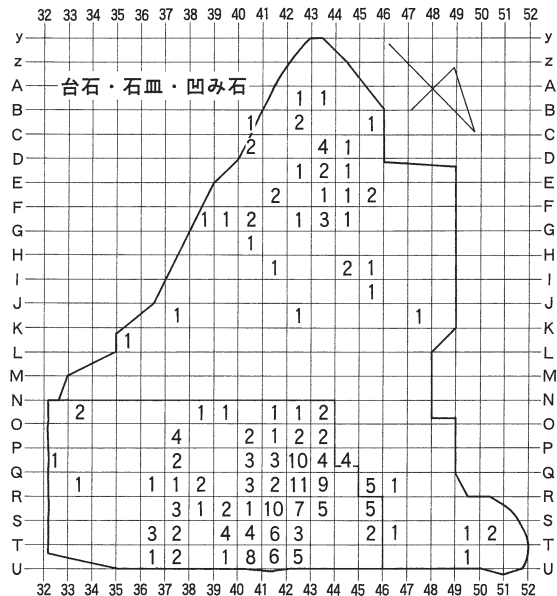
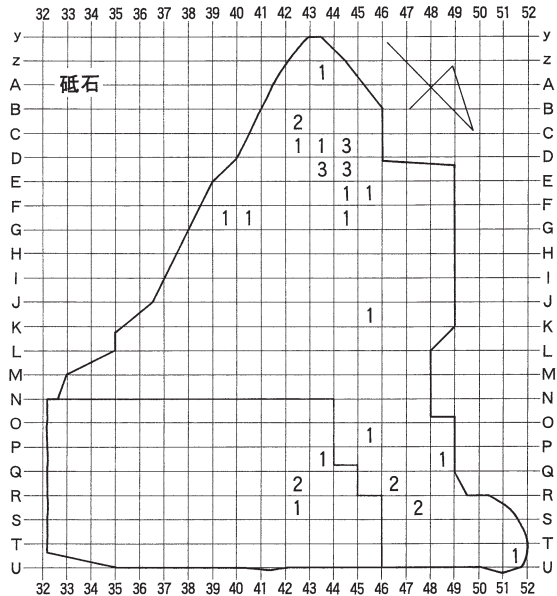
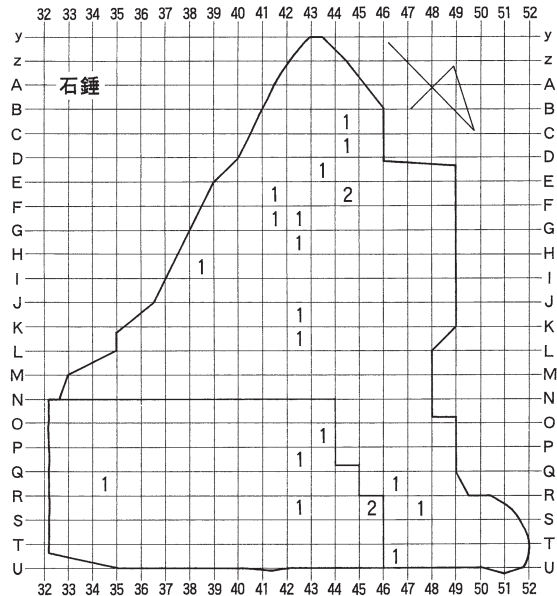
図IV-52 包含層出土石器類分布図(1)







図IV-54 包含層出土石器類分布図(3)



図IV-55 包含層出土石器類分布図(4)

## (2) 掲載の仕方

本報告書に掲載する石器類は、Ⅲ章2節(2)に掲載した遺構出土分も含め次に述べる要領に従い、図面や表を作成した。

### \* 実測図

#### ・剥片石器群

背面（表面）・腹面（裏面）・側面・横方向の断面

#### ・磨製石器群

表面（左側に図示）・裏面（右側に図示）・側面・刃部の横面観（あるいは横方向の断面）

#### ・礫石器群

表面（図示した面）・横方向の断面

（ただし、遺構出土の扁平打製石器と北海道式石冠は、表裏両面・縦方向断面・すり面の横面観の四面を図示した）

#### ・石製品

表裏両面・側面・断面等、その遺物ごとに定めた。例えば、三脚石器の場合は、表裏両面・側面・横方向の断面である。

### \* 観察表項目の解説

#### 「計測値」

対象物に外接する直方体を想定し、これの三辺をそれぞれ最大長、最大幅、最大厚とし、cm単位で表記する。

#### 「重量」

120g未満のものは、精密な電子秤（計測最小単位；0.1g）を用い、それ以上で2kg未満ものは計量秤（計測最小単位10g）、2kg以上のものは体重計（計測最小単位0.5kg）を用いて計測した。

#### 「石材」

名称すなわち、岩石名については、「表Ⅳ-1 岩石分類体系表」に示した体系に従い特定した。さらに、岩石の主な色調について『新版 標準土色帖』（1996年版）を用い、近似する色調を特定し、礫表皮面や含有物等の特徴を簡潔に表記した。

#### 「残存形態」

石器の残存状態について、次の基準に従い判断する。

「完形」：残存表面積が90%程度以上のもの

「準完形」：完形と半形の間期的なもの

「半形」：残存表面積が50%程度のもの

「片」：残存表面積が50%未満のもの

#### 「使用痕」

石器類に認められる、使用によると考えられる痕跡を記載する。

「微細剥落痕」：連続する複数の数mm程度の剥落（剥離）痕

「剥落痕」：形態上の大きな変化を伴わない、単体の剥落（剥離）痕

「線状痕」：線状の筋

「光沢」：光沢を帯びている状態

「磨滅」：稜線等がなめらかになった状態、光沢は帯びない

「たたき痕」：細かく小さい複数のくぼみにより、凸凹した状態を呈する部分



表IV-1 岩石分類体系表(1)

火成岩		優白岩 (酸性)	中性岩 (中性)	優黒岩 (塩基性岩)	超塩基性岩
火山岩	火山噴出物 多孔質	溶岩 (地表に出たマグマが冷え固まったもの)			
	ガラス質 (非結晶質) 石基のみ	浮岩 (軽石)	岩さい		*
	斑状組織 微晶 石基	黒曜岩 (石)	*		*
半深成岩	斑状組織 細晶	流紋岩	安山岩	玄武岩	*
深成岩	等粒状組織 完結晶	石英斑岩	ヒン岩	輝緑岩	*
		花崗岩	閃緑岩	斑糲岩	カンラン岩・蛇紋岩
	二酸化ケイ素 (ケイ酸SiO <sub>2</sub> )	66%以上	52~66%	52%以下	45%以下
	有色造岩鉱物 (色指数)	10%以下	10~30%	30%以上	60~70%以上
	主体的な有色造岩鉱物	黒雲母	輝石 角閃石 カンラン石		カンラン石 (蛇紋石)
	主体的な無色造岩鉱物	石英 斜長石	斜長石	*	

\* 安山岩は、輝石を多く含むもの (普通輝石安山岩) と角閃石を多く含むもの (角閃安山岩) に分けられる。本報告書では、前者を「安山岩」、後者を「角閃石安山岩」と呼称した。

## 堆積岩

火山碎屑岩	：火山噴出物から構成される	
火山角礫岩	：32mm以上の火山噴出物 (火山岩塊) 50%以上含む	
凝灰角礫岩	：32mm以上の火山噴出物 (火山岩塊) 50%未満含む	
火山礫凝灰岩	：2~32mmの火山噴出物 (火山礫) から主体的に構成される	
凝灰岩 (溶結凝灰岩)	：2mm以下の火山噴出物 (火山灰) から主体的に構成される	
碎屑岩	：丸みを帯びた鉱物片、岩片等から構成され、「層理」がみられる。	
礫岩	：粒度区分上の礫を50%以上含む	
角礫岩	：含有する礫が角ばっている (亜角~角礫状) もの	
砂岩	：粒度区分上の砂を50%以上含む ・砂の粒度により、「粗粒」、「細粒」に、硬さにより「硬質」、「軟質」に分けた	
泥岩	：粒度区分上の泥 (シルト・粘土) 50%以上から構成される ・粒度区分から「シルト岩」と「粘土岩」に分けられる	
頁岩	：泥岩のうち、固結が強いもの	
珪質頁岩	：頁岩のうち、透明な石英質 (ケイ酸SiO <sub>2</sub> ) 部分を含むもの	
粘板岩・千枚岩	：堆積岩と変成岩の中間的なもの	
有機岩		
チャート	：潜晶質石英 (SiO <sub>2</sub> )	・有機質 (生物遺体) ・無機質

## 変成岩

：変成鉱物から構成される。結晶質

接触(熱)変成岩	：熱による変成作用を受けたもの	
ホルンフェルス	：堆積岩が熱変成作用を受け、微粒状組織となったもの	
広域変成岩	：熱・圧力による変成作用を受けたもの	
片岩	：再結晶化により「片理」がみられるもの	
片麻岩	：再結晶化が進行し、「班状変晶」や「片麻状組織」がみられるもの	

表IV-1 岩石分類体系表(2)

* 石英質 (ケイ酸SiO <sub>2</sub> ) の岩石・鉱物の便宜的な分類体系		
堆積岩	チャート	; 同表(1) 参照
	フリント	; チャートのうち、明瞭な貝殻状断口を呈するもの。火打ち石
	珪質頁岩	; 同表(1) 参照
変成岩	珪岩 (珪石)	; 珪質の岩石が、熱・圧力による変成作用を受け、極微粒の石英集合体となったもの
鉱物	水晶	; 無色透明の石英 結晶質
	碧玉	; 隠微晶質の石英で酸化鉄を多量に含む 不透明 暗緑～緑暗色
	玉随	; 隠微晶質の石英で比較的均質なもの 淡褐～灰色
	めのう	; 隠微晶質 繊維状・縞状 不透明 玉随の一種
その他	石英岩脈	

\* 本報告書では、ケイ酸 (SiO<sub>2</sub>) 分を含む石材の名称については、次のように呼称し分類した。

- ケイ酸 (SiO<sub>2</sub>) 部分のみられる頁岩は「珪質頁岩」とし、一般的な頁岩と区別した。
- すべてが、ケイ酸 (SiO<sub>2</sub>) から構成されるものは、「めのう」に分類した。これには玉随やチャート (フリント) に分類するのが適当なものも含まれている可能性がある。
- 安山岩等の他の岩石に付着して認められるものは、分類はその岩石とし、「〇〇岩+石英岩脈」と表記した。

「すり痕」：表面が平滑になった状態を呈する部分

「平坦化面」：使用により、面が平坦に変化した状態を呈する部分

「破損」：本来の形態が損なわれること

「付着物」：アスファルト等の黒色物質や、赤色顔料等

「被熱」：被熱により生じるすべての変化、焼けはじけや変色等

#### 「加工痕」

石器そのものに残された、製作方法を示す痕跡

「打ち欠き痕」：剥片剥離のような打ち欠きを加えられたもの

「敲打痕」：使用痕でいう、たたき痕と同じ痕跡

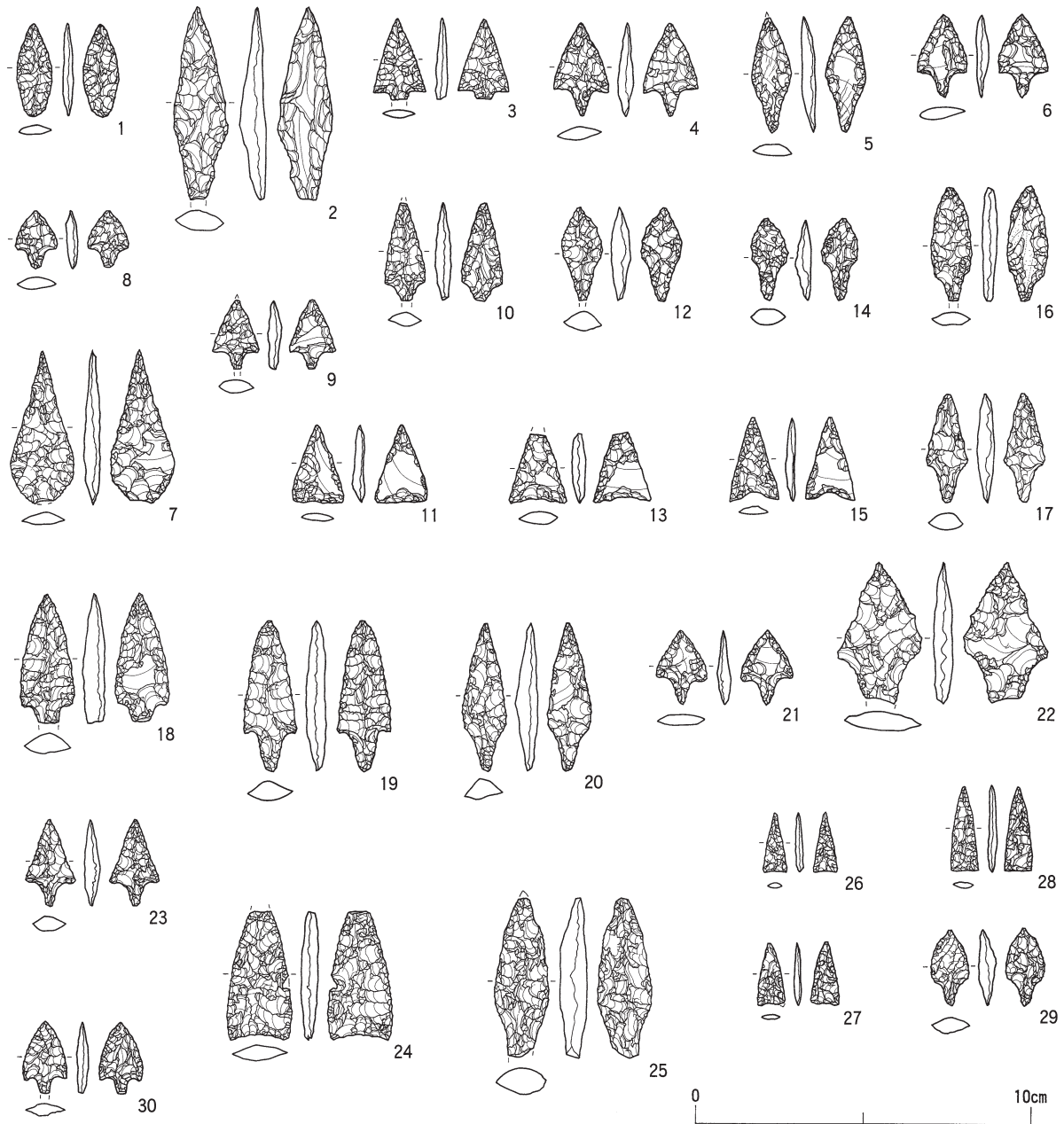
「研磨痕」：使用痕でいう、すり痕と同じ痕跡

### (3) 剥片石器群 (図IV-56~62、表31、図版176~179)

#### \* 石鏃 (1~30)

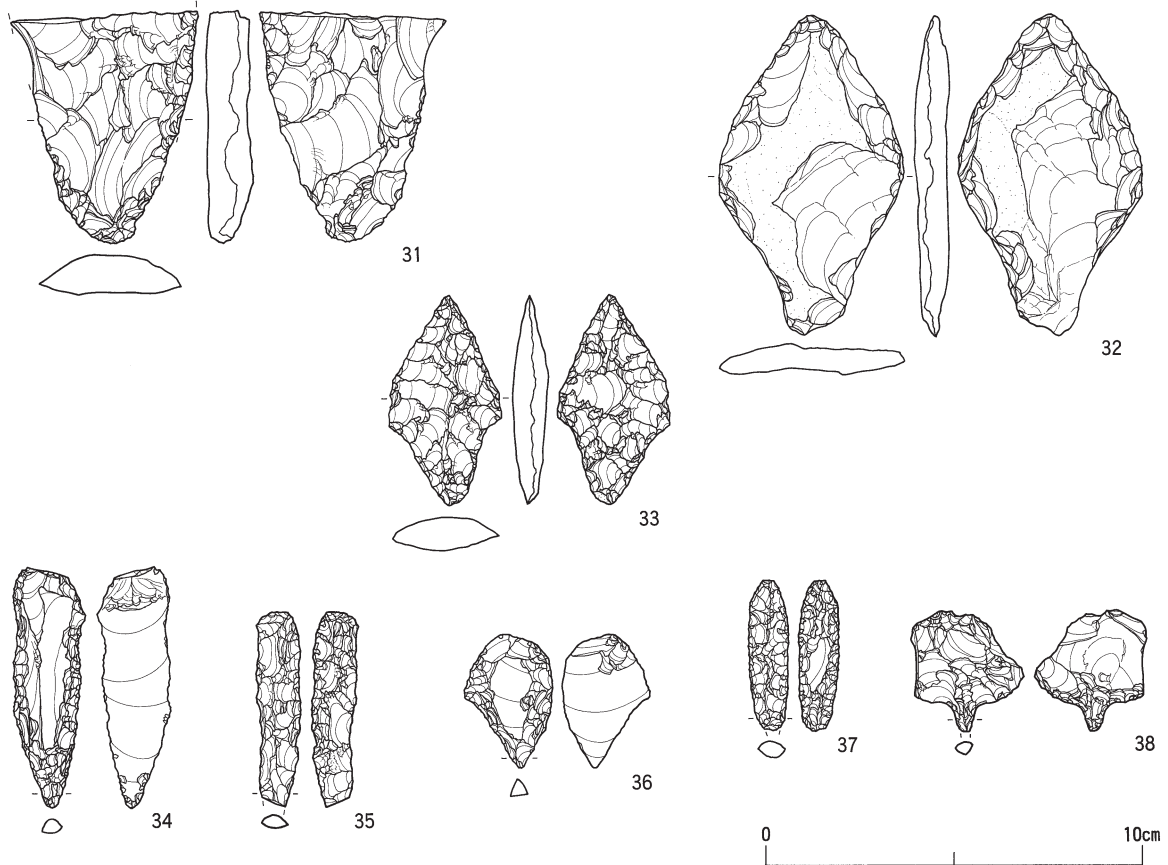
173点出土し、これらのうち30点掲載した (掲載率：約17%)。出土層位は、Ⅲ層；9点 (約5.2%)、Ⅲ~Ⅴa層；14点 (約8.1%)、Ⅴ層；4点 (約2.3%)、Ⅴa層；77点 (約44.5%)、Ⅴb層；59点 (約34.1%)、Ⅵ層；1点 (約0.6%)、その他；9点 (約5.2%) で、Ⅴ層からの出土が8割程度を占める。

1は柳葉形で、薄いものである。2は、腹面に剥離面を残す。3は有茎石鏃で、茎部を破損する。4は、頁岩製の有茎石鏃である。5・6は、背腹両面に剥離面を残す。7は、基部が円形を呈するものである。8は小型のもので、石材はめのうである。9は腹面に剥離面を残す。10は先端部と茎部を破損する有茎石鏃である。11は、基部が直線的な無茎石鏃である。12は、やや厚みのあるものである。13は、基部が曲線的に括れる無茎石鏃である。14は、茎部が全長のおよそ半分を占める形態を呈する。15は、基部がやや明瞭に括れる無茎石鏃である。16は、腹面の剥離面が礫表皮面である。



図IV-56 包含層出土剥片石器群(1)

17は、暗～黒褐色を呈する付着物が認められる。18はやや曲線的な側縁のもので、茎部を破損する。19は、先端部があまり尖らないものである。20は、背面にやや高まりを残す素材剥片を用いて製作されている。21は小型で、背腹両面に剥離面を残す。22は、比較的大型のもので、左右非対称な形態を呈する。23は黒曜石製の小型有茎石鏃である。24は若干基部が括れるもので、先端部を破損する。25は、厚みを有するやや長身のもので、先端・基部を破損する。26・27は黒曜石製ですこぶる小型のものである。28は二等辺三角形を呈する平基石鏃である。29は曲線的な側縁の有茎石鏃である。30は、若干逆刺を有するような形態を呈する。



図IV-57 包含層出土剥片石器群(2)

\* 石槍・ナイフ (31~33)

13点出土し、これらのうち3点掲載した(掲載率:約23.1%)。出土層位は、Ⅲ層;2点(約15.4%)、Ⅴ層;2点(約15.4%)、Ⅴa層;5点(約38.5%)、Ⅴb層;4点(約30.8%)で、Ⅴ層からの出土が8割程度を占める。

31は、比較的大型のもので、先端部側を大きく破損する。32は、背腹両面に大きく礫表皮面を残す。軟質の凝灰岩製で、非実用品であるかもしれない。33は、大型の石鏃であるとの印象を受けるもので、背面左側縁に、やや規則的な槓状剥離が観察される。

\* 石錐 (34~38)

11点出土し、これらのうち5点掲載した(掲載率:約45.5%)。出土層位は、Ⅲ層;1点(約9.1%)、Ⅴa層;5点(約45.5%)、Ⅴb層;3点(約27.3%)、その他;2点(約18.2%)で、Ⅴ層からの出土が7割程度を占める。

34の腹面は、基部及び先端部付近にのみ二次調整が施される。35は棒状のもので、先端部を破損する。36はつまみ部を有するもので、腹面には調整剥離痕が観察されない。37は棒状に加工されたもので、上下両端部に使用痕を有すると判断される。38は広いつまみ部を有するもので、先端部を作出するための剥離痕が背腹両面に認められる。

\* つまみ付ナイフ(石匙) (39~50)

24点出土し、これらのうち12点掲載した(掲載率:50%)。出土層位は、Ⅴ層;3点(約12.5%)、Ⅴa層;8点(約33.3%)、Ⅴb層;12点(50%)、その他;1点(約4.2%)で、Ⅴ層からの出土が9割程度を占める。

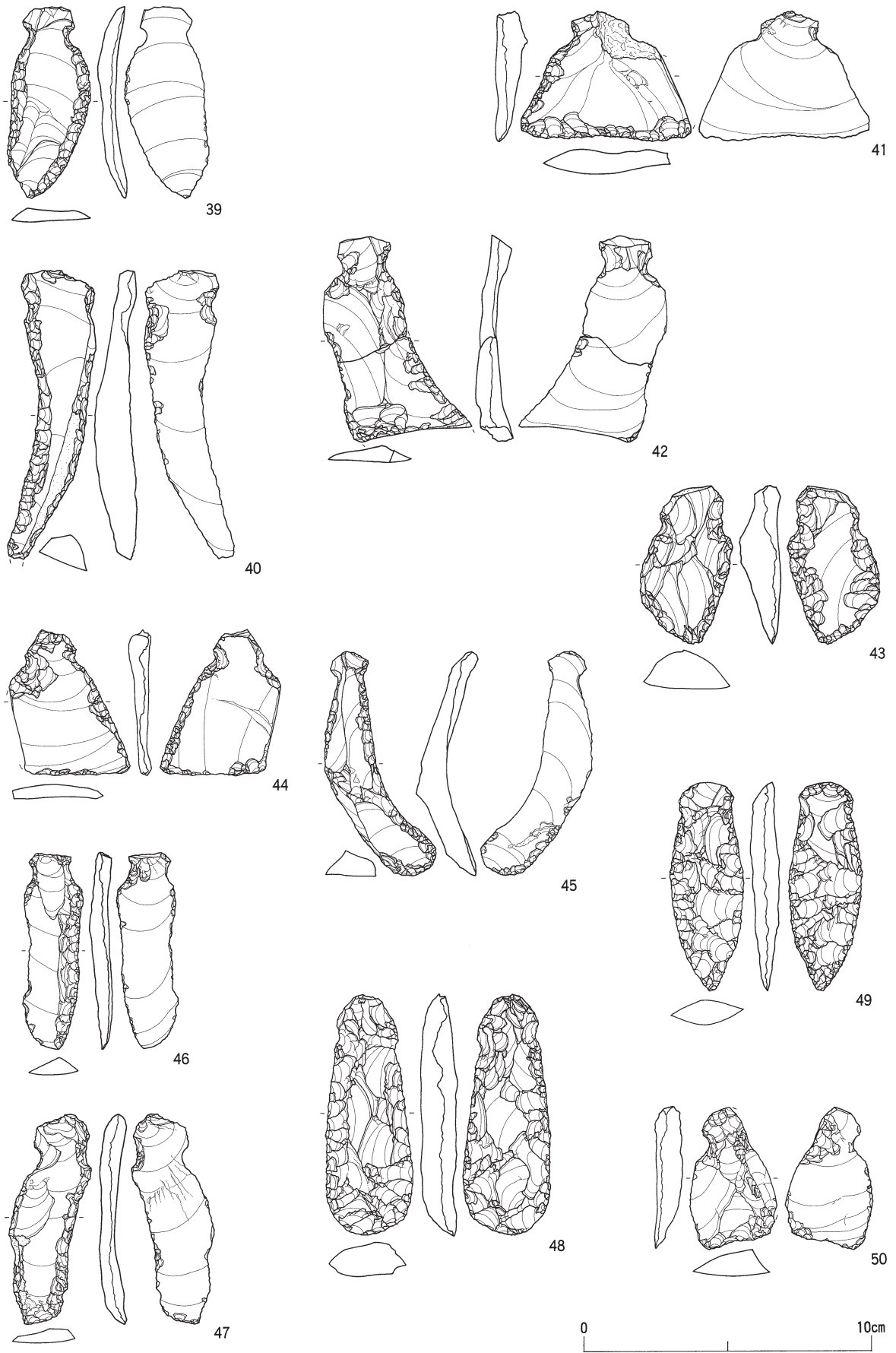


39は、背面に先行剥離面を複数残し、腹面は二次調整が施されない。40は、つまみ部付近に、礫表皮面を残し、背面右側縁と下縁部に刃部を有する。41は細長いもので、背面に礫表皮面を残す。42は接合資料で、下縁には折れ面を有するが調整剥離痕も認められ、破損部を再生しようとしたものと推測される。43は、素材剥片のバルブの高まりを残すもので、打面は礫表皮面である。44は、背面右側縁が破損するもので、背腹両面の周縁に二次加工が施される。45は素材剥片の湾曲が著しいもので、細身である。46は、背腹両面のつまみ部付近と背面右側縁に二次調整が施される。47は頁岩製で、背面の周縁に調整剥離痕が認められる。48・49はともに、背腹両面に丹念な二次調整が施される。上端部の両側縁に、若干括れる部分が認められたので、本器種に分類したが、48は石筥、49は石槍・ナイフに分類すべきかもしれない。50は頁岩製の、やや小型品である。

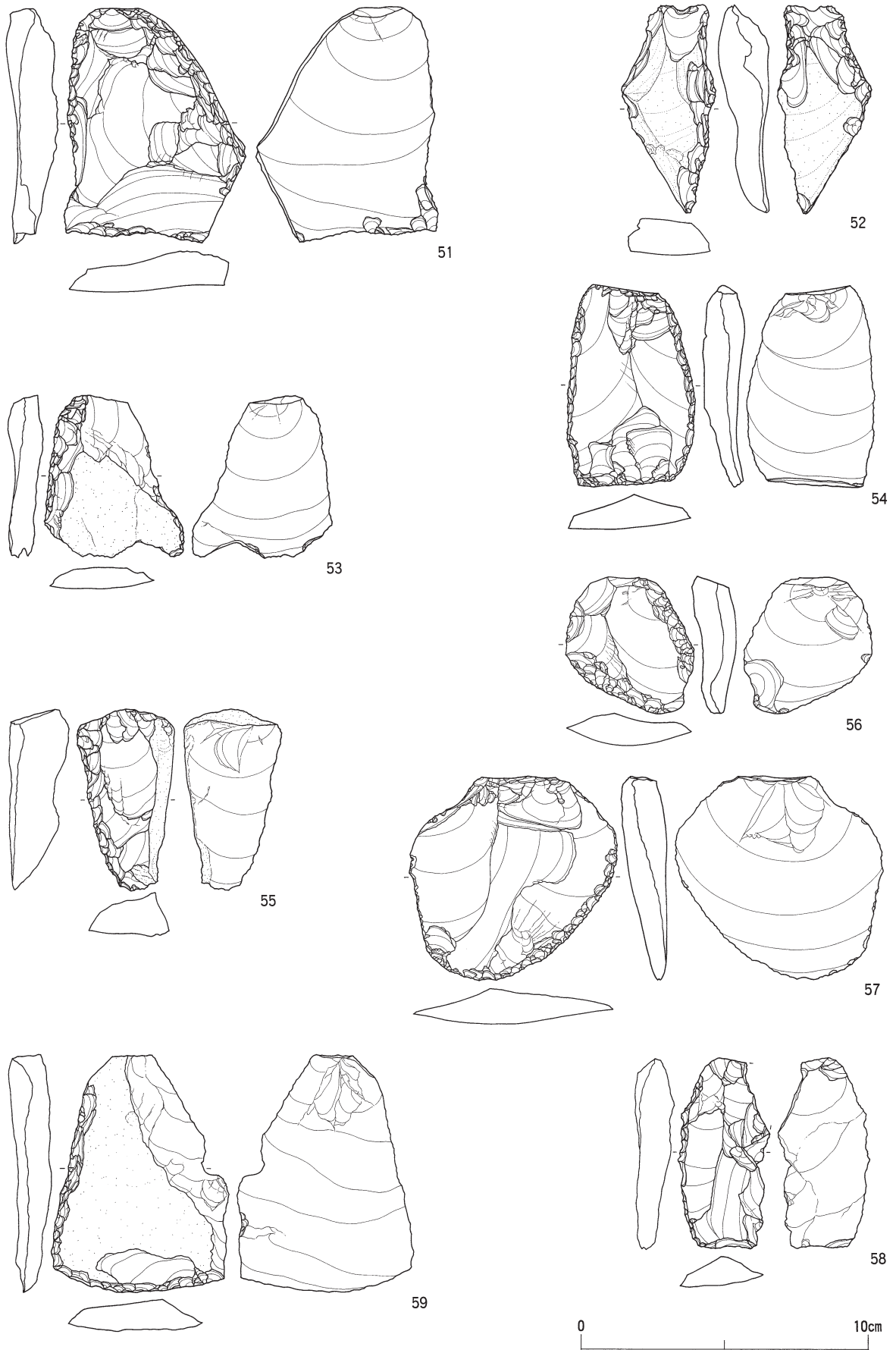
\* スクレイパー (51~93)

261点出土し、これらのうち43点掲載した(掲載率:約16.5%)。出土層位は、Ⅲ層;21点(約8.0%)、Ⅲ~Ⅴa層;1点(約0.4%)、Ⅴ層;23点(約8.8%)、Ⅴa層;83点(約31.8%)、Ⅴb層;106点(約40.6%)、Ⅴc層;1点(約0.4%)、Ⅵ層;8点(約3.1%)、Ⅶ層;5点(約1.9%)その他;13点(約5.0%)で、Ⅴ層からの出土が8割程度を占める。

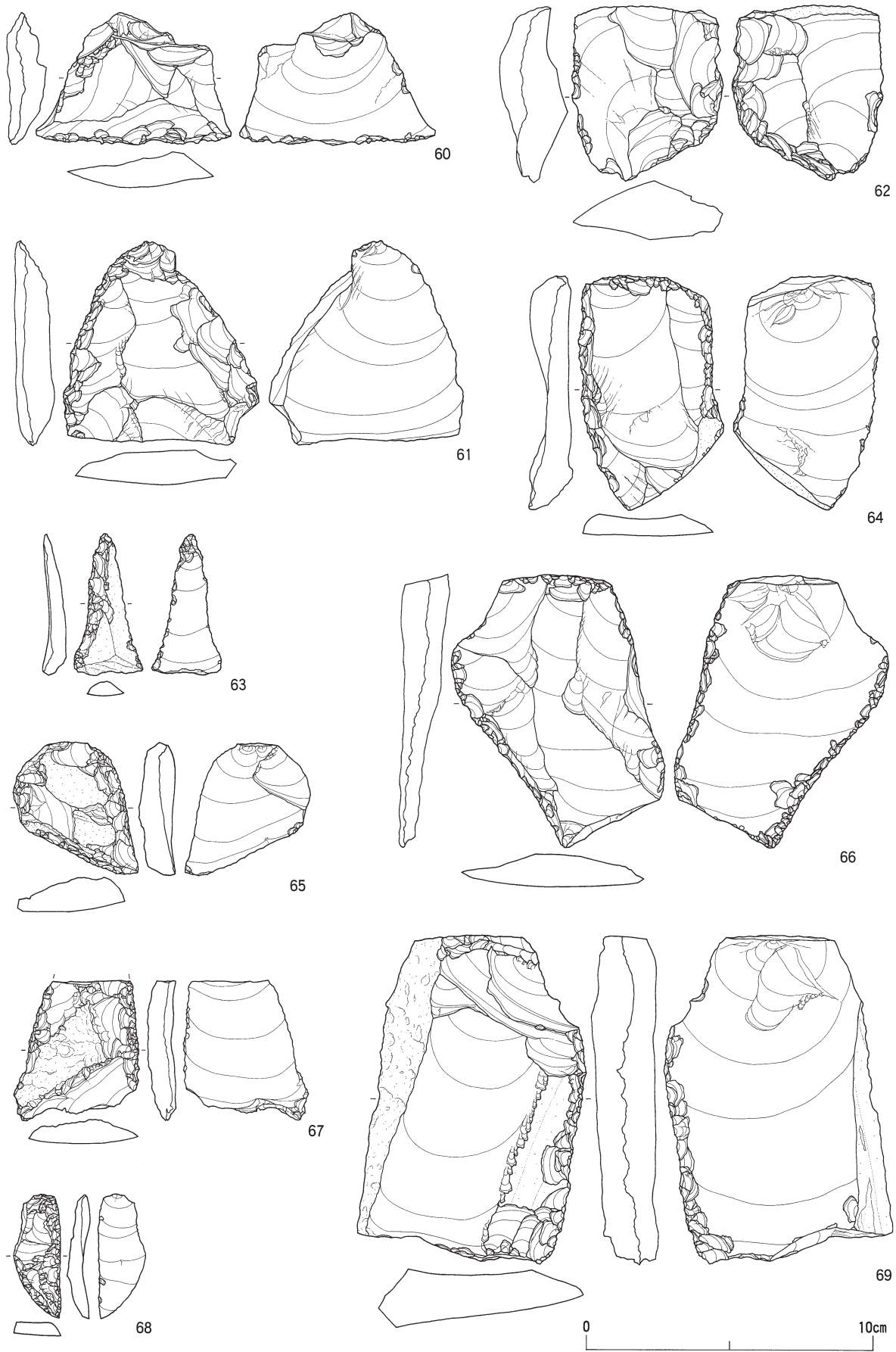
51はⅢ層出土のもので、両側端と下縁に刃部を有する。52は背腹両面に礫表皮面を残し、腹面上端部付近と背面右側縁に二次調整が施される。53は背面に大きく礫表皮面を残し、同面左側縁に刃部を有する。54は両側縁が平行のもので、背面の全周縁に調整剥離痕が認められる。55は、打面と背面の一部に礫表皮面がみられるサイドスクレイパーである。56は頁岩製のラウンドスクレイパーと判断される。57も曲線的な輪郭のもので、ラウンドスクレイパーと判断される。58の背面は、左側縁に微細な剥落痕、右側縁は粗めの剥落痕がみられ、対照的である。59は背面に大きく礫表皮面を残し、左側縁と下縁にはやや規則的な剥離(落)痕が観察される。60は台形を呈するエンドスクレイパーで、背面上端部近くは、顕著なステップ状を呈する先行剥離面が複数みられる。61の背面は、左側縁に微細な剥落痕、右側縁は粗めの剥落痕がみられ、対照的である。62は打面が礫表皮面で、腹面下縁部付近に二次調整痕が顕著である。63は左右対称を呈する小型品で、背面に礫表皮面を大きく残す。64は、曲線的な両側縁に刃部を有するサイドスクレイパーである。65は左右対称のもので、下端部へと収束する両側縁部に刃部を有する。66はやや大型のもので、直線的な両側縁に二次調整が施される。67は上端部側が破損するもので、背面の両側縁には細かな剥落痕が観察される。68は小型で、左右非対称を呈するものである。69は大型のサイドスクレイパーで、背面右側縁に刃部を有する。70は小型で、上端部から緩やかに広がる両側縁に刃部が作出される。71は、背面の左側縁下縁部付近を破損し、背面右側縁と腹面右側縁に二次調整が施される。72は長身のもので、背面には先行剥離面を複数残す。73はサイドスクレイパーで、下縁部を破損する。74は平行する両側縁に刃部が作出されるもので、下縁部側を破損する。75は、横長の素材剥片の下縁に刃部が作出された、エンドスクレイパーである。76は背面に礫表皮面を残し、下縁部側を破損する。77はラウンドスクレイパーで、丹念な調整が施される。78はラウンドスクレイパーで、背面左側縁に一部礫表皮面を残す。79は背面にのみ二次調整が施されるもので、形態から判断して石鏃に分類すべきかもしれない。80は、下端部に収束するやや曲線的な側縁に刃部が作出される。81は背面右側縁にのみ二次加工が施される。82は平行する両側縁に刃部を有するサイドスクレイパーである。83は、背面の周縁に二次調整が施される。84は、規則的な先行剥離面を残す背面の周縁部に、細かな剥離痕が認められる。85は、二次調整痕が背面にのみ認められるサイドスクレイパーで、両側縁はやや曲線的である。86は半月形の素材剥片を用いたもので、直線的な側縁に剥離痕が著しい。87は、二次調整痕が背面に多くみられ、腹面には打瘤の高まりを除



图IV-58 包含层出土剥片石器群(3)



图IV-59 包含層出土剥片石器群(4)

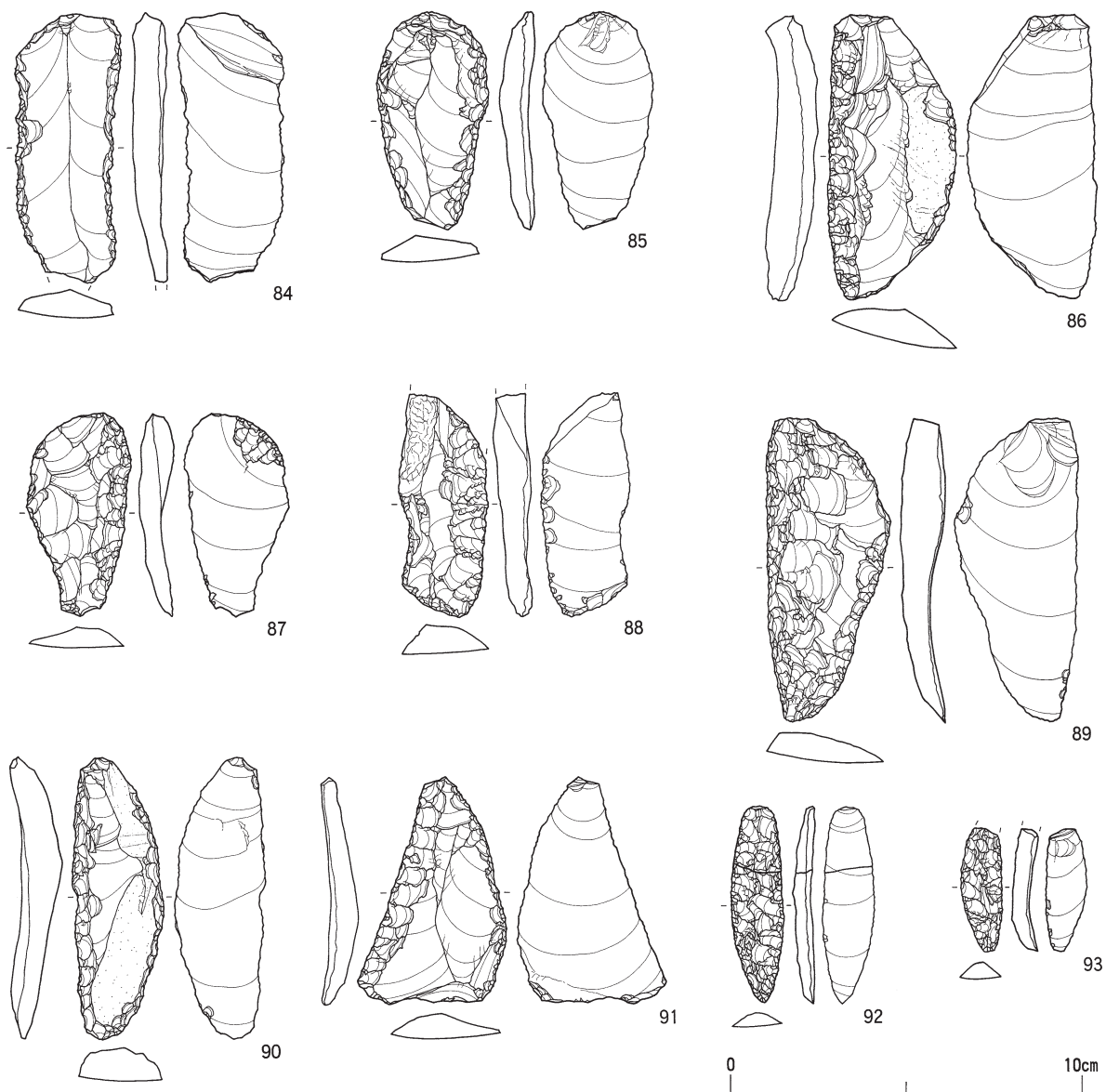


图IV-60 包含层出土剥片石器群(5)





図IV-61 包含層出土剥片石器群(6)



図IV-62 包含層出土剥片石器群(7)

去する目的と考えられる調整のみが施される。88は上端部側を破損するもので、二次調整痕は背面に多く認められる。89は左右非対称で、背面にのみ丹念な調整が施される。90は背面に礫表皮面を残し、周縁部が二次調整される。91の背面は、右側縁に微細な剥離（落）痕、左側縁にはやや大きめの剥離（落）痕が対照的に認められる。92は下端部が尖るもので、片面調整の石鏃と判断すべきものかもしれない。93は片面調整の小型品で、上端部側を破損する。

#### (4) 磨製石器群 (図IV-63・64、表32、図版180)

##### \* 磨製石斧 (1~13)

56点出土し、これらのうち13点掲載した (掲載率：約23.2%)。出土層位は、III層；2点 (約3.6%)、V層；8点 (約14.3%)、Va層；18点 (約32.1%)、Vb層；25点 (約44.6%)、VI層；2点 (約3.6%)、その他；1点 (約1.8%) で、V層からの出土が8割程度を占める。

1はやや小型の片岩製で、刃部を破損する。2は素材の形状を留めるもので、左右非対称である。

3は刃部を破損し、裏面にはたたき痕が多数認められる。たたき石に転用されたものと推測される。4は蛇紋岩製で、刃部が破損する。5は大型品の刃部付近の破片である。6は、基部から刃部へと直線的に広がる形態を呈する。7は泥岩製で未製品と判断される。図示していない左側面は縦割りにされた切れ口があり、下端部は、刃部作出のための剥離痕及び研磨痕が認められる。8は刃部が残存し、基部付近はたたき痕が著しい。たたき石に転用された可能性が考えられる。9は小型品で、刃部の一部と基部を破損する。10は層理が顕著に認められる泥岩製で、刃部を有する下縁が曲線的である。11は片岩製で、やや小型品である。12は軟質な凝灰岩製で、裏面基部側が大きく剥落する。13は片岩製で、基部側が破損するものである。12・13は石のみと呼称される小型品である。

#### (5) 礫石器群 (図IV-65~73、表33、図版181~192-2)

##### \* 扁平打製石器 (すり石) (1~37)

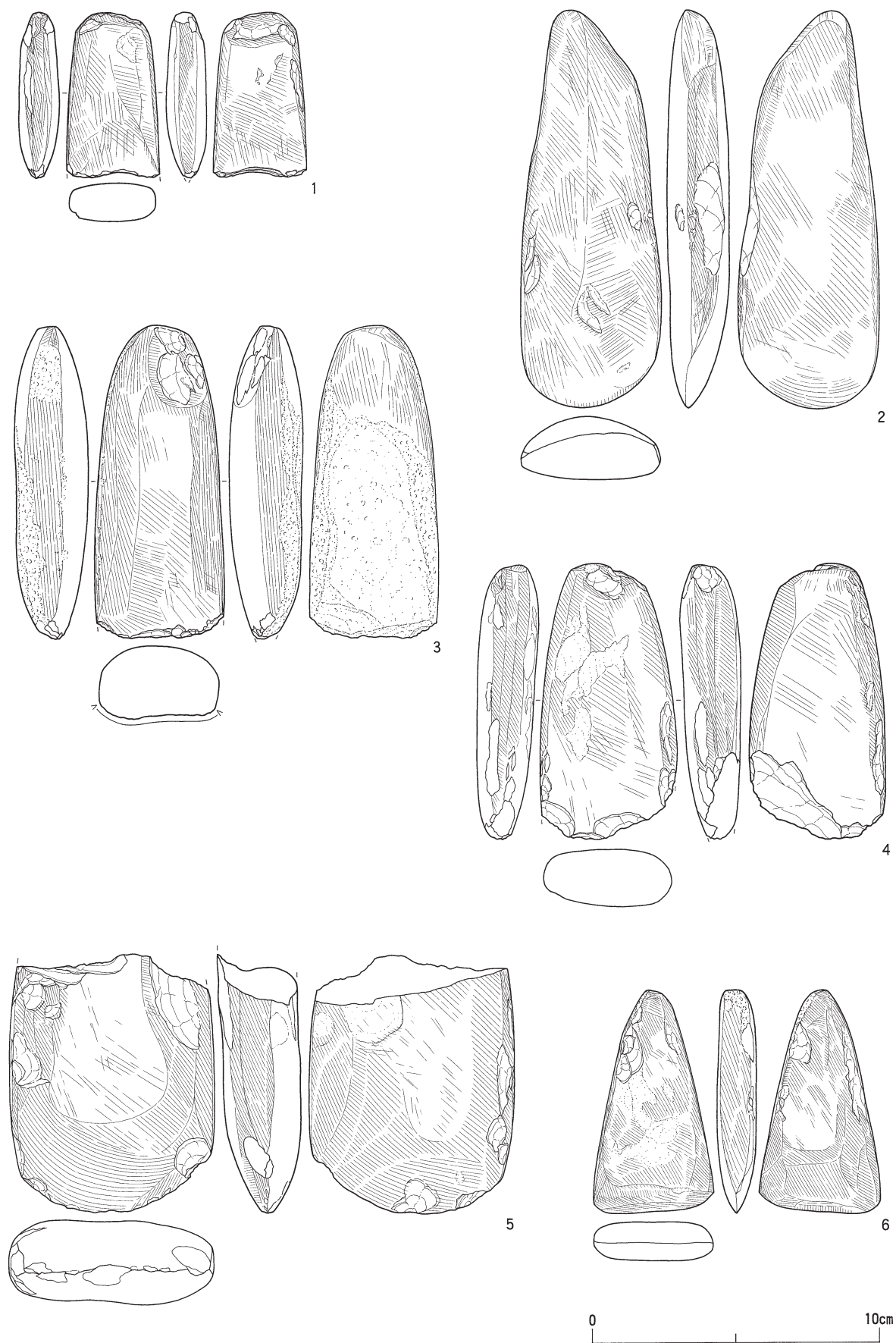
208点出土し、これらのうち37点掲載した (掲載率: 約17.8%)。出土層位は、Ⅲ層; 7点 (約3.4%)、Ⅴ層; 23点 (約11.1%)、Ⅴa層; 32点 (約15.4%)、Ⅴb層; 129点 (約62.0%)、Ⅴc・d層; 4点 (約1.9%)、Ⅵ層; 5点 (約2.4%)、掘り上げ土; 2点 (約1.0%)、その他; 6点 (約2.9%) で、Ⅴ層からの出土が9割程度を占める。

1は、左右両端部に打ち欠き加工が施される。2は曲線的な縁辺のもので、剥離・剥落痕が観察される。3は上縁部に打ち欠きによる剥離と考えられる痕跡が観察される。4は、上下両縁部がやや直線的なものである。5はすり面のある下縁付近に、使用による剥落痕が認められる。6は上縁が曲線的で、下縁が直線的な形態を呈する。7は上縁が剥離 (落) により厚みが薄くなる。8は接合資料で、すり面が残存しない。被熱による黒色化・赤色化が認められる。9は、左右両端部が打ち欠かれるもので、すり面付近には剥落痕が観察される。10は角閃石安山岩製で、すり面付近にはやや細かで規則的な剥落痕が認められる。11は、上縁付近は整形のための剥離、下縁は使用痕であると考えられる。12は下縁がやや長い形態を呈するもので、左右側縁は打ち欠かれる。13は上縁が曲線的で、下縁が直線的な形態を呈する。14は、右側端部の打ち欠き痕が大きい。15は剥離・剥落痕が著しい。16はすり面を有する下縁が直線的である。17は上縁から右側端部にかけて連続して整形加工される。18は、敲打による整形加工が施される。19は下縁が著しい曲線を呈するため、すり面が短いものである。20は、幅に比べ長さを有するもので、左右両側端部には打ち欠き痕が認められる。21は上縁と左右両側端部が打ち欠かれる。22は素材が長方形を呈するものである。23は、右側端部の打ち欠きが著しい。24は下縁付近に剥落痕が複数認められる。25は、上縁と左側端部に大きめの打ち欠き痕が観察される。26はやや厚みのある素材を利用したもので、右側部分を破損する。27~30は接合資料である。27の中央付近には大きな剥落痕があり、接合部分は両破片とも欠けている。28はやや厚みを有するもので、すり面の断面形は緩やかな「U」字状を呈する。29は角礫を素材とし、「石鋸」と呼称されるものと判断すべきものかもしれない。30は、使用により剥落したと推測される破片が接合したもので、整形加工は右側端部に著しい。31~37は小型品である。31は上縁から左側端部に打ち欠き加工が施される。32は曲線的な上縁には敲打痕が観察され、すり面を有する下縁は直線的である。33は左側部分に剥離・剥落痕が目立つ。34は、台形を呈する素材を利用したものである。35の左右両側端部には、明瞭な打ち欠き痕が観察される。36はすり面を有する下縁がやや曲線的で、剥落痕が観察される。37は下縁に敲打痕が認められるもので、未使用品あるいはたたき石と推測される。

##### \* 北海道式石冠 (すり石) (38~69)

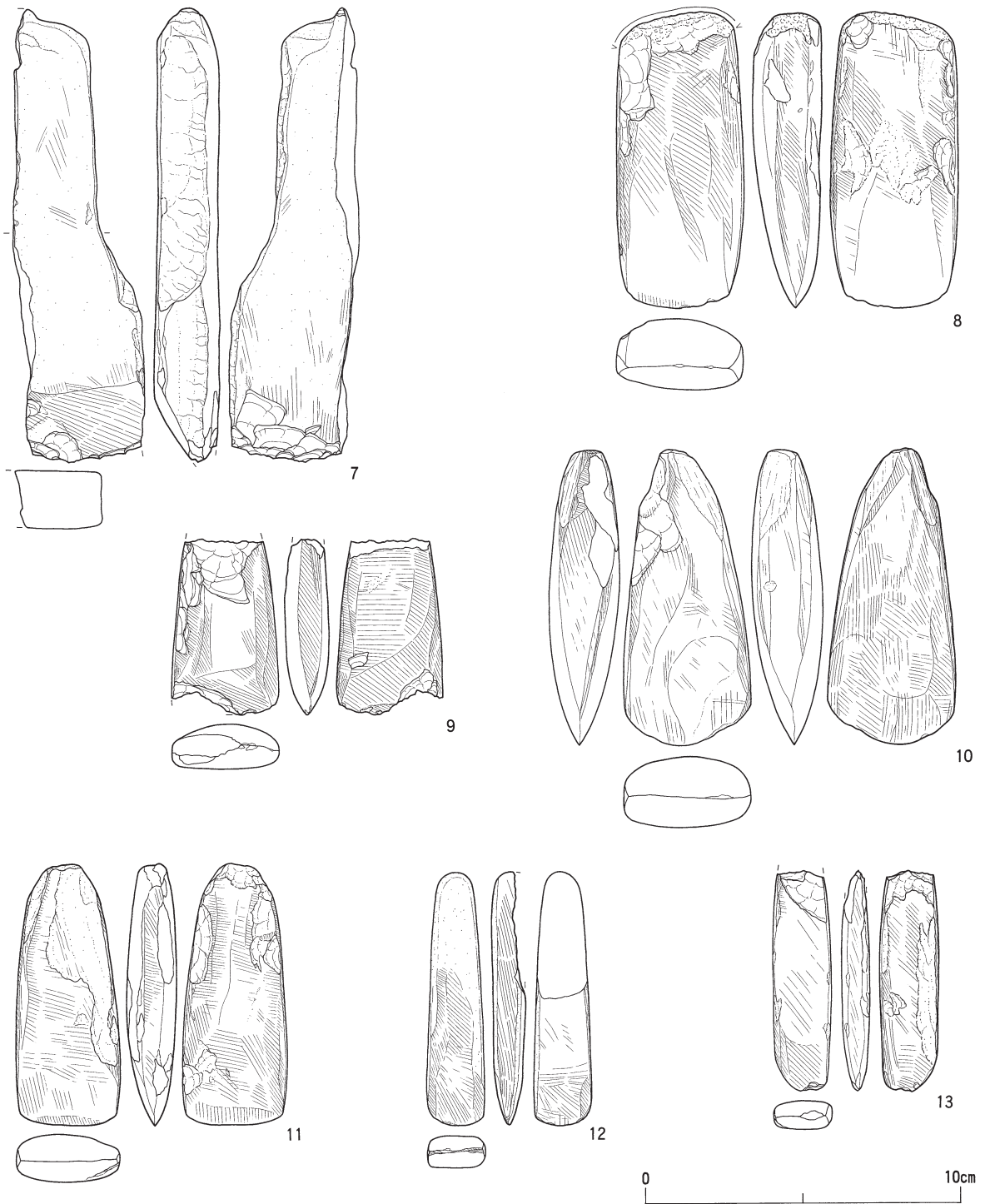
129点出土し、これらのうち32点掲載した (掲載率: 約24.8%)。出土層位は、Ⅴ層; 11点 (約8.5%)、Ⅴa層; 17点 (約13.2%)、Ⅴb層; 85点 (約65.9%)、Ⅵ層; 6点 (約4.7%)、その他; 10点 (約



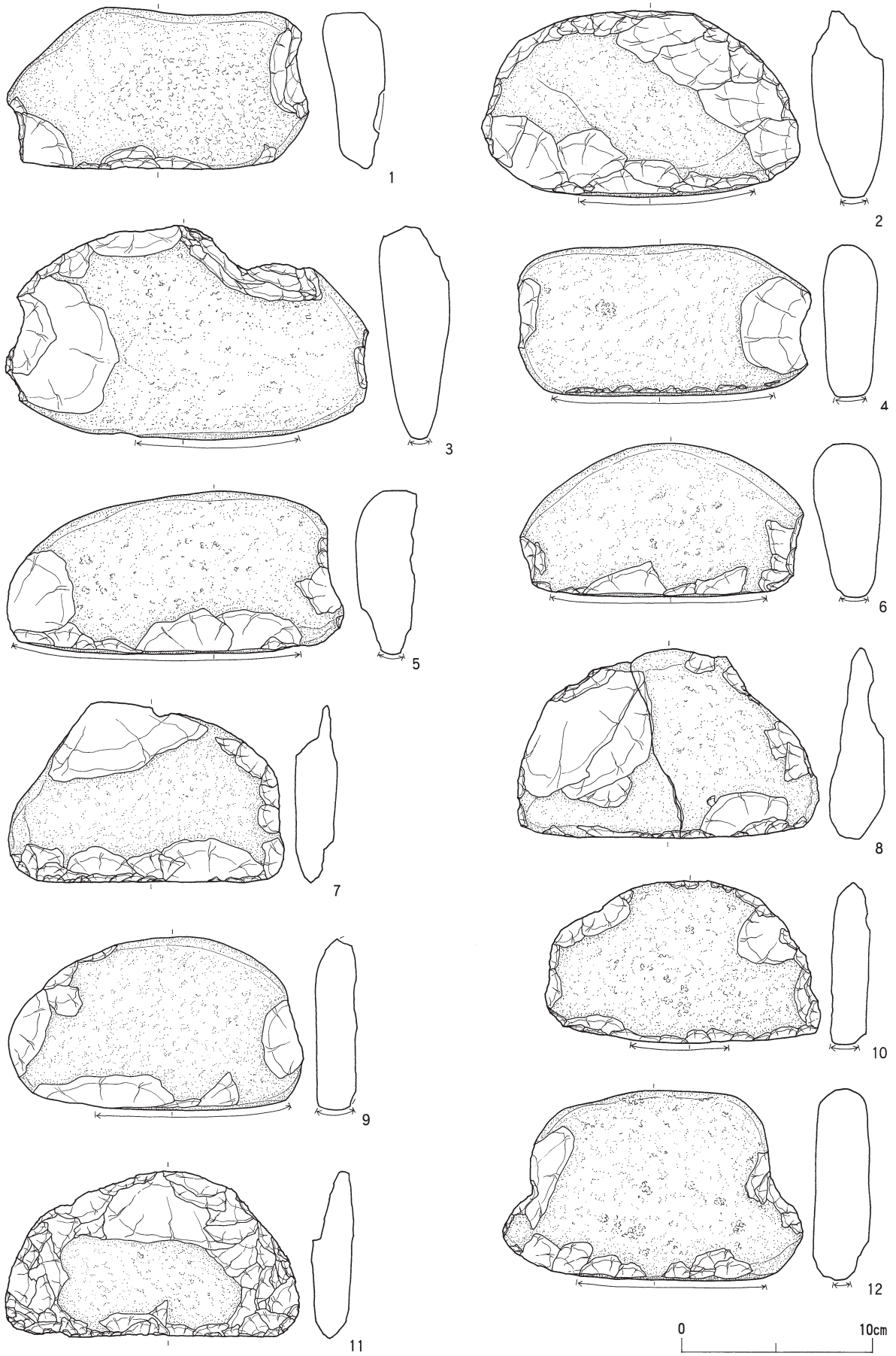


图IV-63 包含层出土磨制石器群(1)

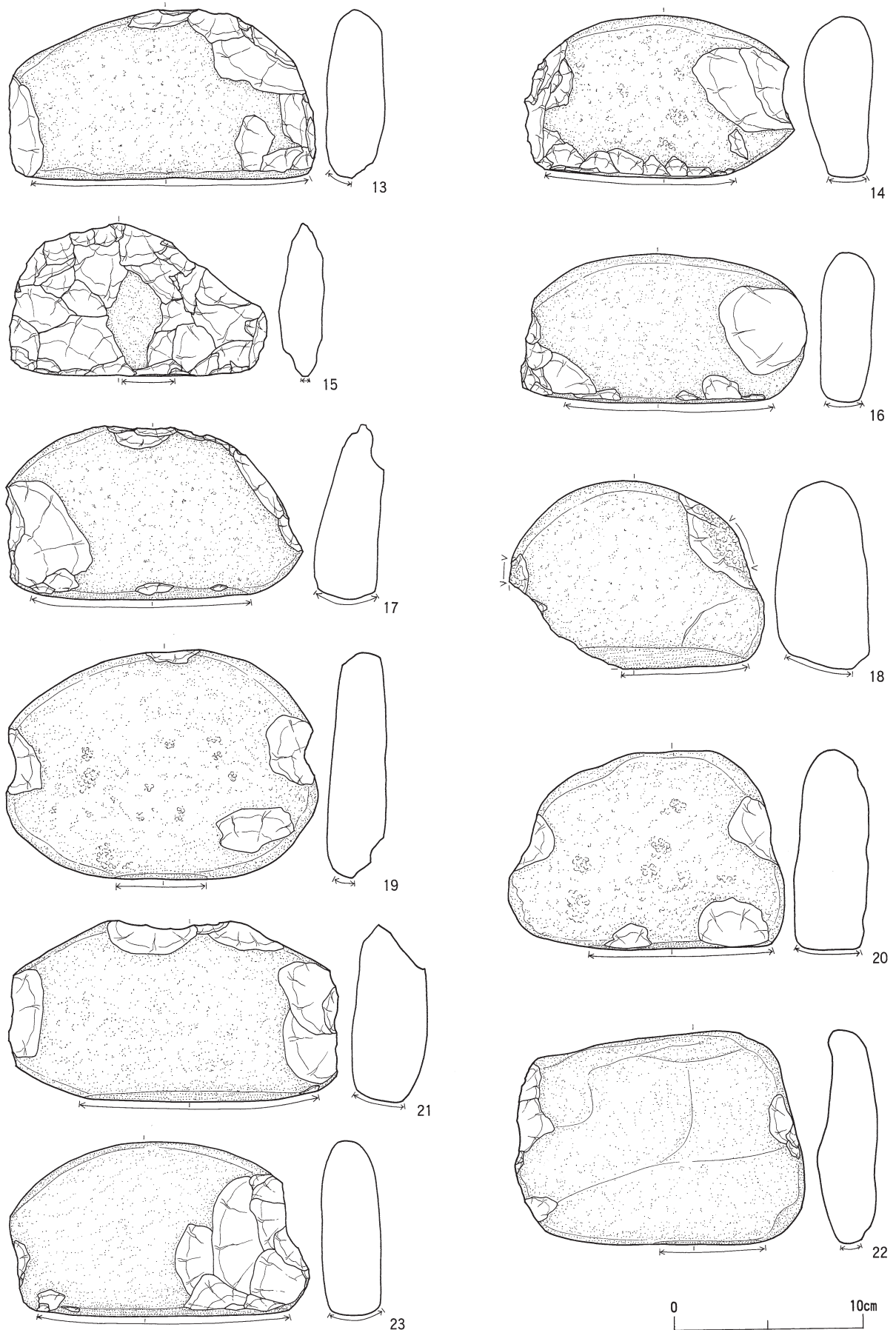




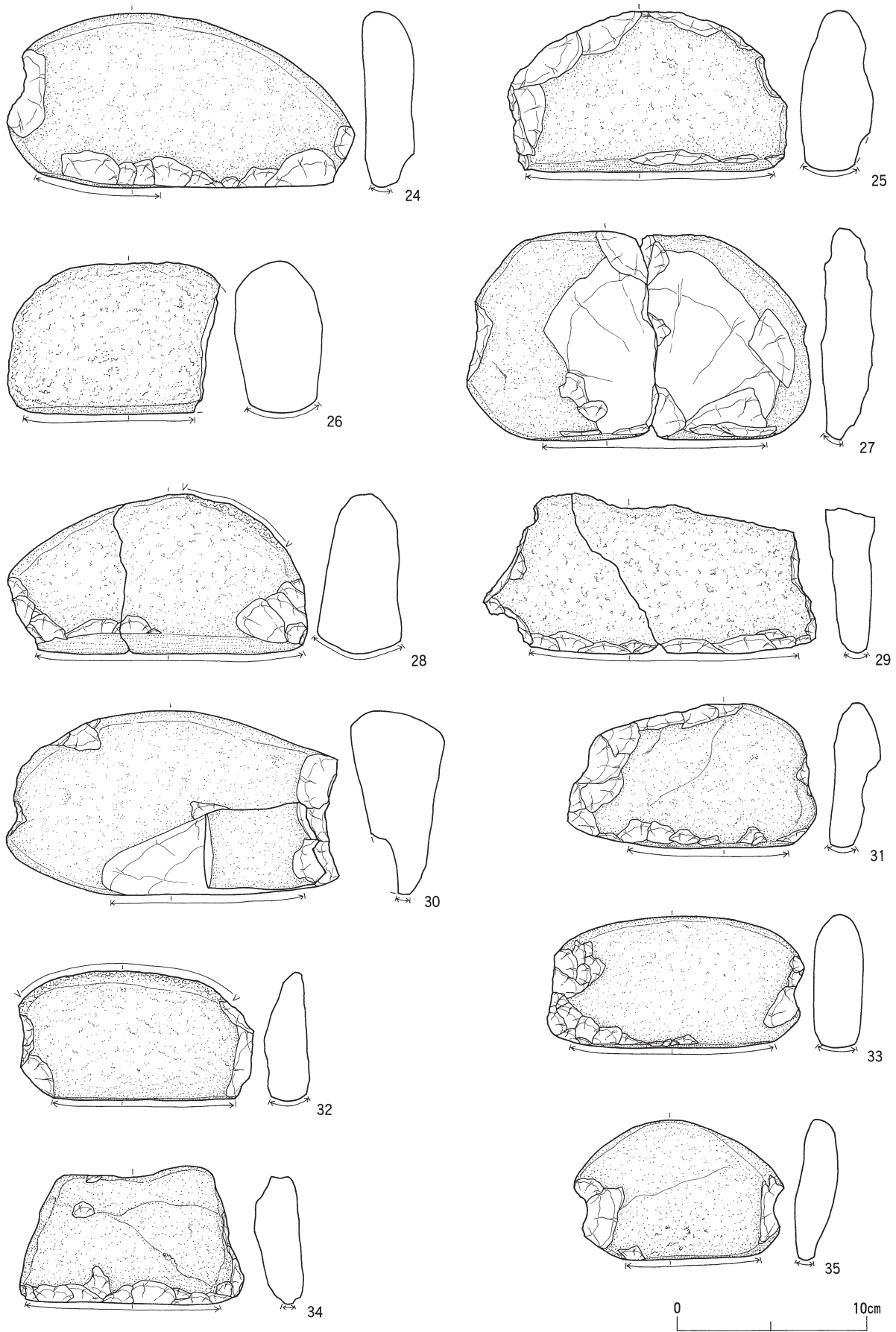
図IV-64 包含層出土磨製石器群(2)



图IV-65 包含层出土礫石器群(1)



図IV-66 包含層出土礫石器群(2)



图IV-67 包含层出土礫石器群(3)



7.8%)で、V層からの出土が9割程度を占める。

38は、すり面を有する下縁部が長い形態を呈するもので、両側端部に敲打による調整が施される。断面はやや薄く、扁平打製石器の特徴も認められる。39は左側部分を破損し、被熱による赤色化が認められる。40はやや横長の形態を呈し、持ち手部分の凹みが顕著である。41は、すり面の厚みがあるもので、剥落痕が観察される。42は下縁部付近に剥落痕が認められる。43は左側部分を破損するもので、断面形態は緩やかな「U」字状を呈する。44はやや縦長の形態を呈し、左側部分を大きく破損する。45は、上縁が半円状で下縁の直線的な形状が、扁平打製石器に類似し、やや薄いものである。46は下縁左側部分を破損し、幅広い持ち手が部分的に認められる。47は、右側下縁付近に大きな剥落痕が観察される。48は左側の下縁付近に破損及び剥落痕が認められる。49は角の取れた二等辺三角形を呈する。50は、右側下縁付近の側縁がやや張り出す形態を呈する。51は横長で厚みを有するもので、右側部分を破損する。52は、下縁付近に、連続する剥落痕が観察される。53は扁平打製石器の特徴も有するもので、厚みは薄く、下縁は曲線的であるため、すり面は狭い。54は小型で、持ち手部分の加工が一部施されない。55は左右の下縁付近が破損する。56は多孔質な安山岩製で、下縁付近には剥落痕が観察される。57は、持ち手部分の加工があまり深く施されないものである。58はやや小型品で、右側下縁付近が張り出す形態を呈する。59は持ち手部分の加工が全周しないもので、左側部分を大きく破損する。60は小型品で、使用による剥落痕が認められる。61は、右側部分を大きく破損する。62～69は接合資料である。62は、持ち手部分から下縁付近を広く剥落した破片が接合したものである。63は厚みが薄く、上下両縁部は曲線的である。64は横長で薄い形態を呈し、右側縁部には加工（打ち欠き痕）か使用（破損・剥落痕）による痕跡が認められ、扁平打製石器の特徴も有する。65は横長で厚みがあるものである。66は厚みがあり、やや幅広い持ち手部分が作出される。67は左右両側の下縁部を破損するもので、左側部分の破片が接合した。68は、持ち手部分と考えられる敲打による加工痕が、二段認められる。69は横長で厚いもので、すり面の断面形態は明瞭な「V」字状を呈する。

#### \* 石錘 (70～77)

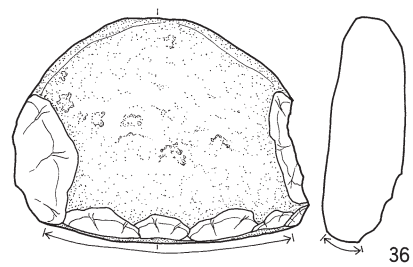
22点出土し、これらのうち8点掲載した（掲載率：約36.4%）。出土層位は、Va層；8点（約36.4%）、Vb層；12点（約54.5%）、VI層；1点（約4.5%）、その他；1点（約4.5%）で、V層からの出土が9割程度を占める。すり面の有無により扁平打製石器と区別したが、石錘一般的に生じる使用痕、すなわち、両端の打ち欠かれた部分の「磨滅」が認められないものも多く、これらは、扁平打製石器未使用品あるいは未製品と判断するのが、適当かもしれない。

70は楕円形を呈し、右側端部に大きな打ち欠き痕が観察される。71は、両側端部に明瞭な打ち欠き痕が認められる。72は楕円形を呈し、両端部が打ち欠かれる。73は右側端部がすぼまる形態を呈する。74は小型品で、右側端部は複数の打ち欠き痕が観察される。75は小型品で厚みがある。76の両側端打ち欠き部分は、磨滅が認められる。77は曲線的な下縁にすり痕が観察されるので、扁平打製石器と判断される。

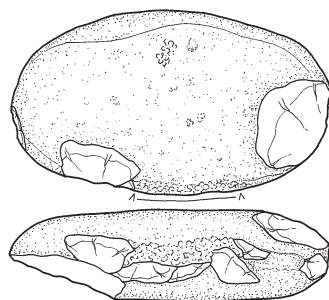
#### \* たたき石 (78～83)

101点出土し、これらのうち6点掲載した（掲載率：約5.9%）。出土層位は、III層；5点（約5.0%）V層；6点（約5.9%）、Va層；31点（約30.7%）、Vb層；47点（約46.5%）、VI層；6点（約5.9%）、その他；6点（約5.9%）で、V層からの出土が8割程度を占める。

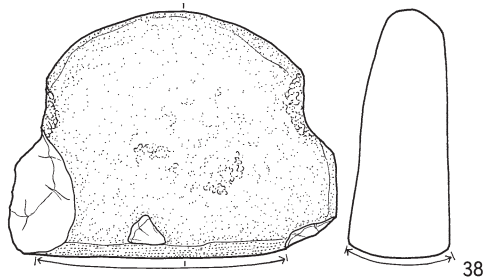
78は、円形で厚みのある礫を素材とする。79・80は、ともに棒状の素材を用い、下端部には使用によるたたき痕と剥落痕が観察される。81は、下端部にたたき痕が認められる。82は厚みのある楕円形の素材を用いたもので、使用痕が複数認められる。83はやや扁平で細長い礫を素材とし、上下両端部



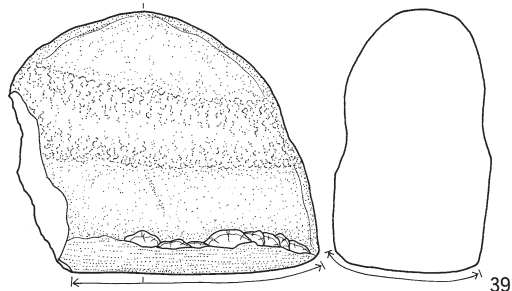
36



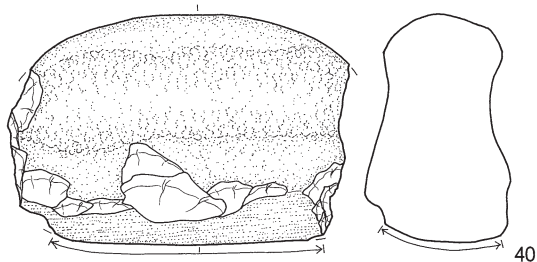
37



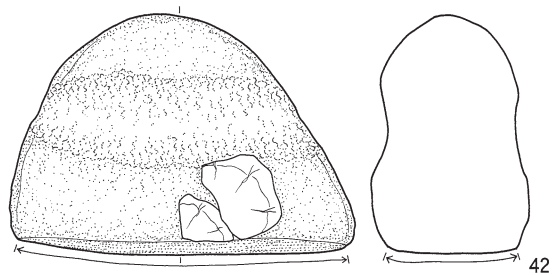
38



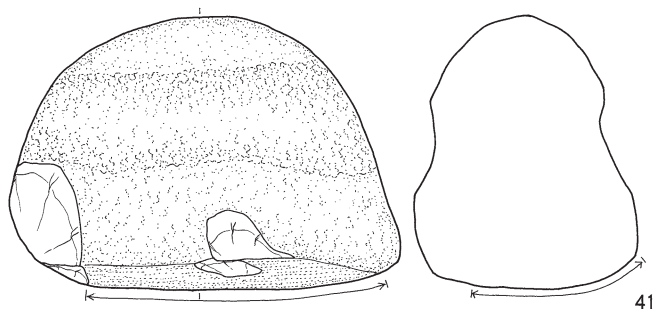
39



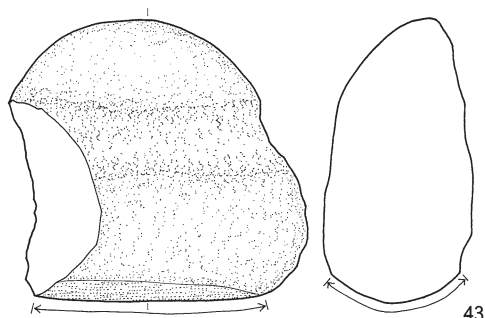
40



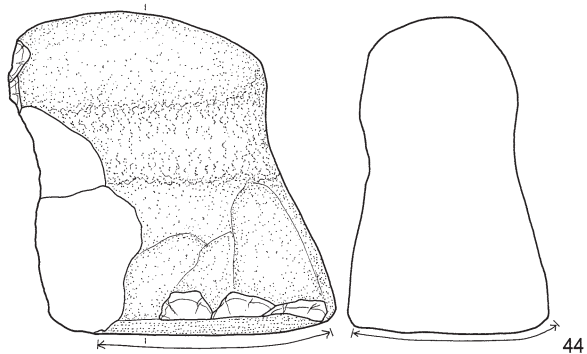
42



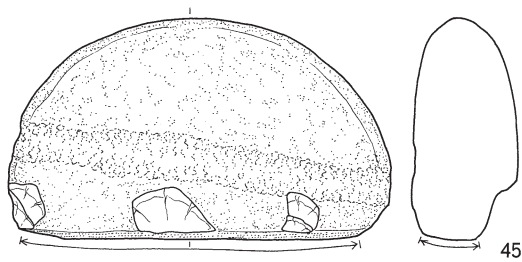
41



43



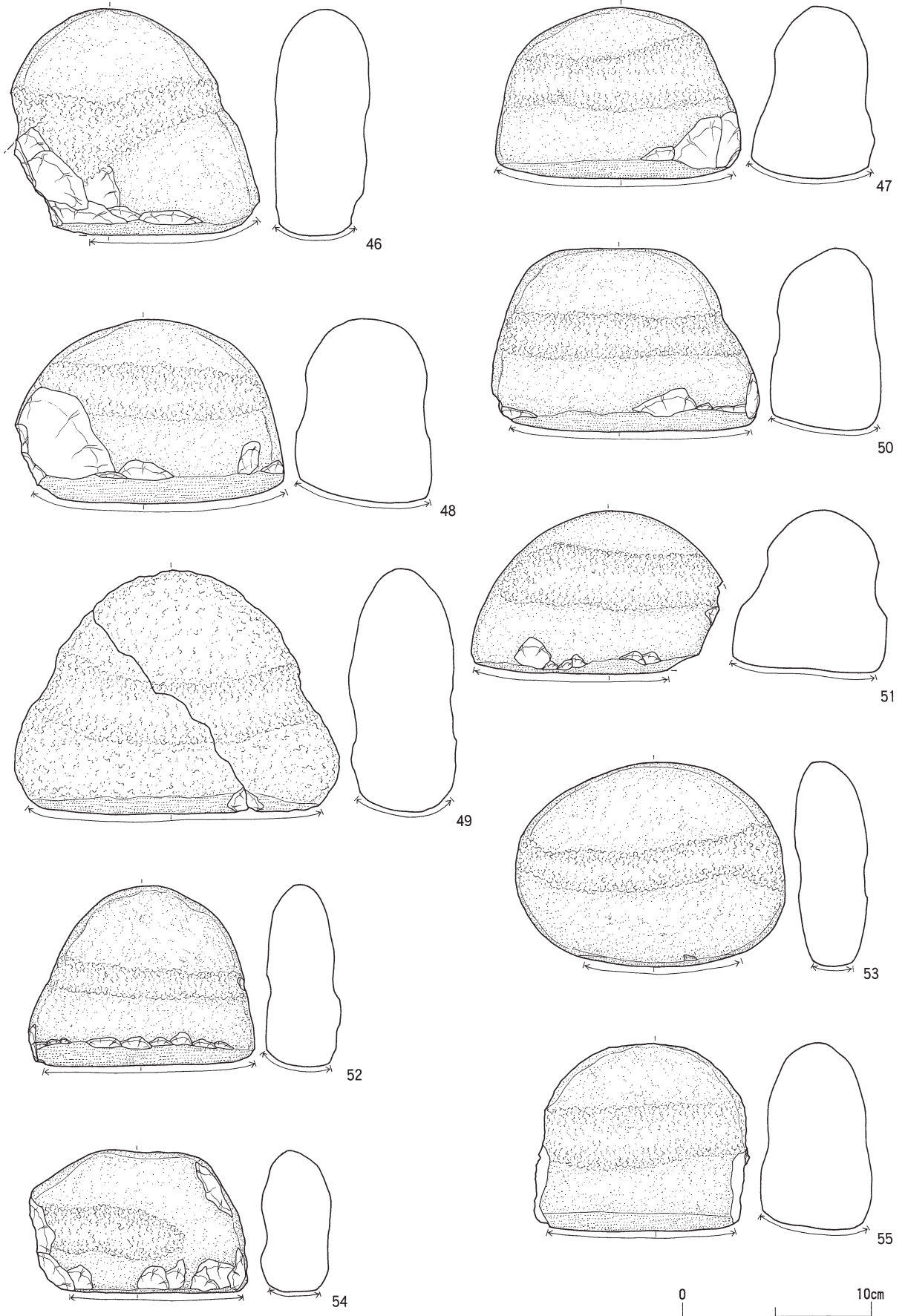
44



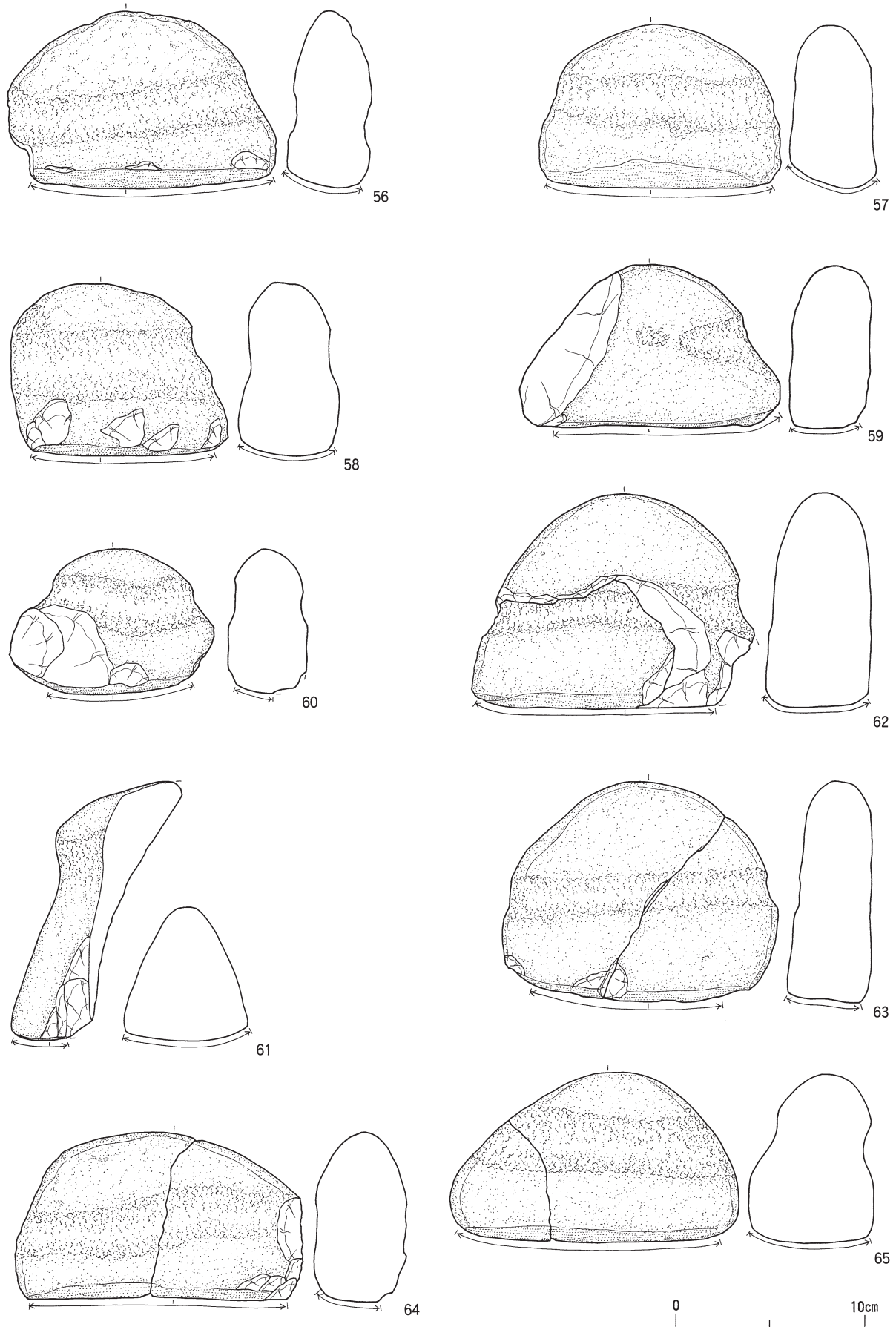
45



图IV-68 包含层出土礫石器群(4)

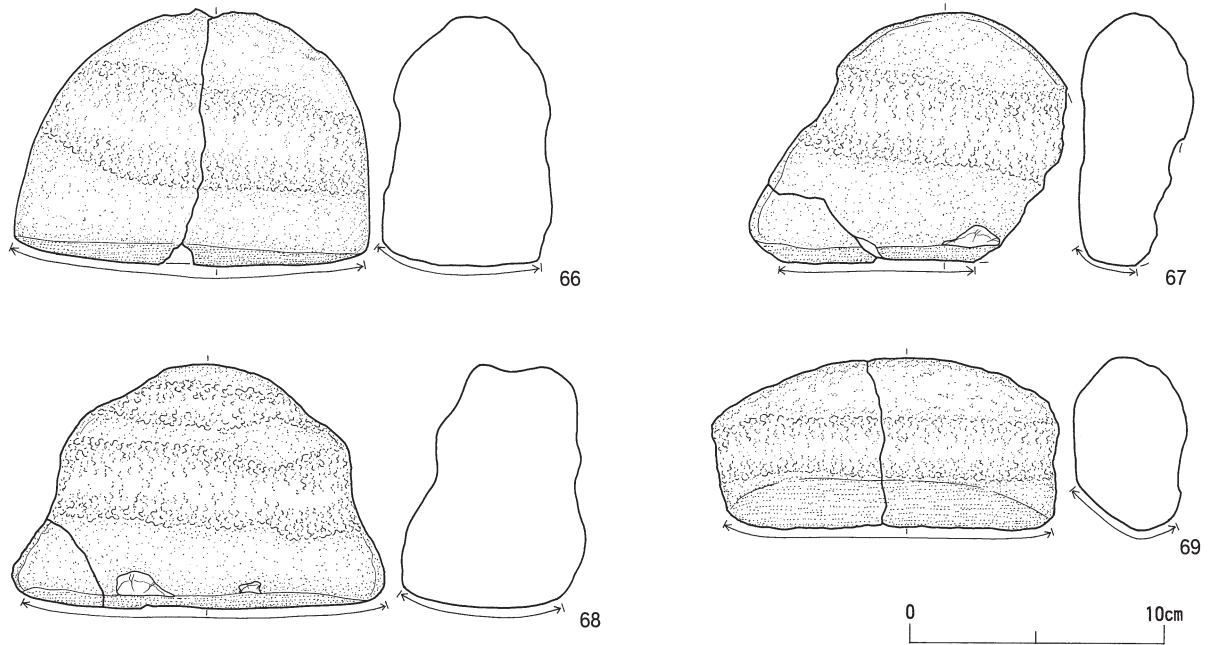


図IV-69 包含層出土礫石器群(5)



图IV-70 包含層出土礫石器群(6)





図IV-71 包含層出土礫石器群(7)

の左右両側それぞれに、たたき痕が観察される。

\* 砥石 (85・86)

31点出土し、これらのうち2点掲載した(掲載率:約6.5%)。出土層位は、Ⅲ層;2点(約6.5%)  
Ⅴ層;2点(約6.5%)、Ⅴa層;8点(約25.8%)、Ⅴb層;18点(約58.1%)、Ⅴc・d層;1点(約3.2%)  
で、Ⅴ層からの出土が9割程度を占める。

85はやや粗粒の構成物から成る砂岩製で、平滑な面が観察される。86は、右側下端部を破損し、左側面以外の三面に平滑な使用痕が認められる。表面には溝状を呈するすり痕も部分的に認められる。

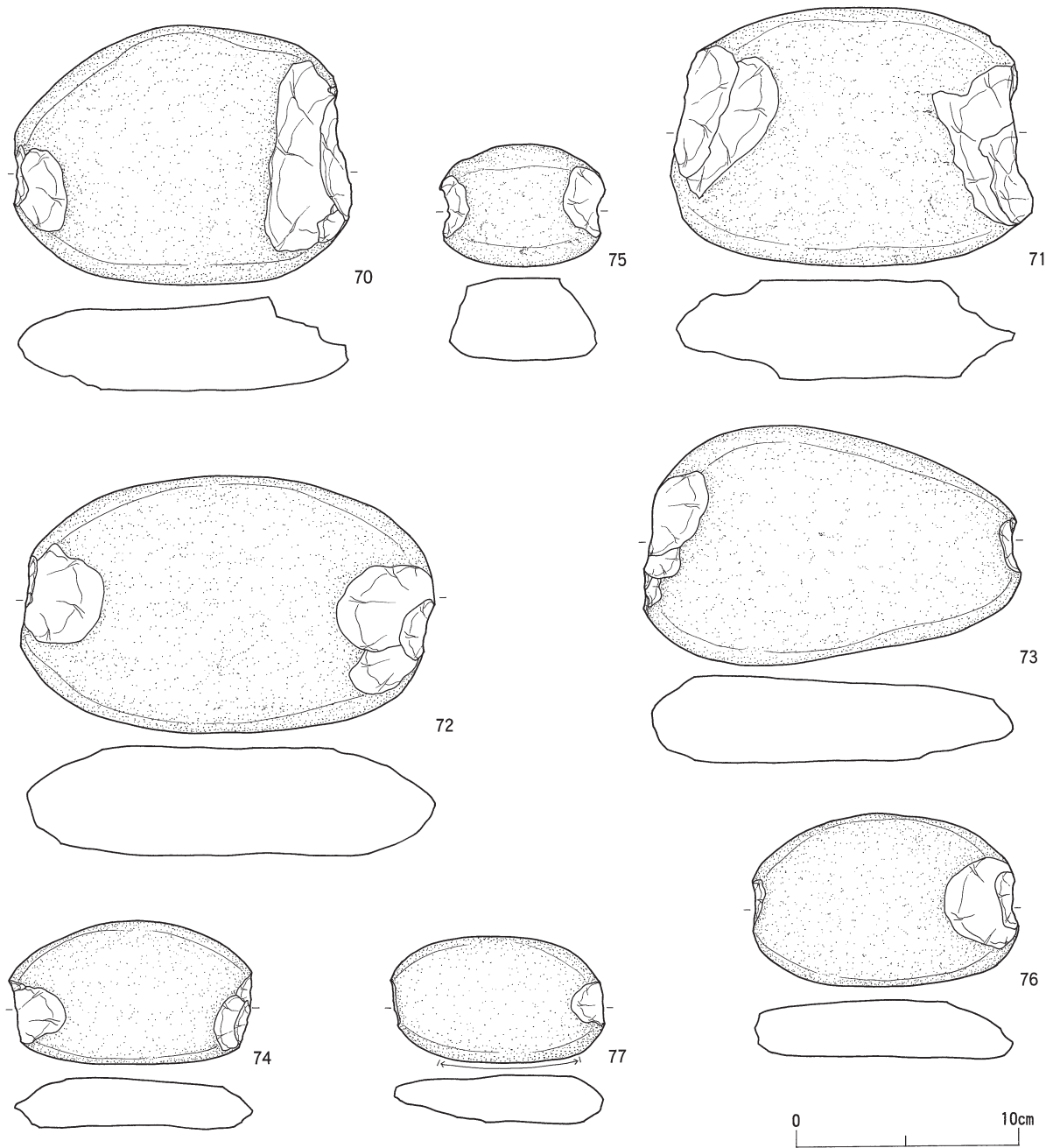
\* 凹み石 (84)

凹み石は1点のみの出土で、集計上は「台石・石皿」に含めた。84は、扁平で楕円形を呈する素材を用いたもので、両面の中央付近に明瞭な凹み状を呈するたたき痕が認められる。

(6) 礫石器群(大型)(図IV-74・75、表32、図版192-3~194-1)

\* 台石・石皿・(凹み石)(1~7)

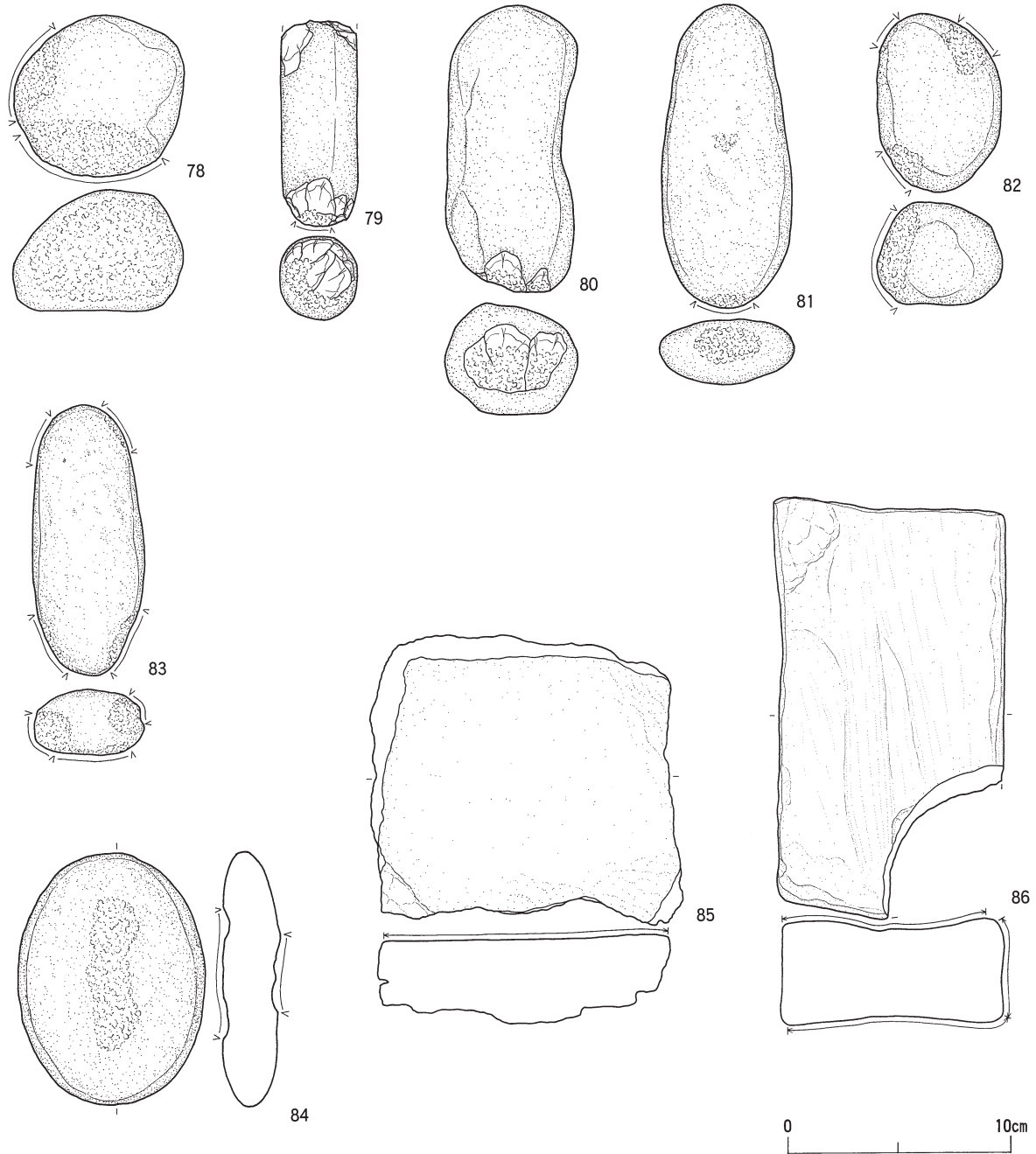
213点出土し、これらのうち7点掲載した(掲載率:約3.3%)。出土層位は、Ⅲ層;3点(約1.4%)、  
Ⅴ層;1点(約0.5%)、Ⅴa層;100点(約46.9%)、Ⅴb層;100点(約46.9%)、Ⅴc・d層;1点(約



図IV-72 包含層出土礫石器群(8)

0.5%)、掘り上げ土；6点(約2.8%)、その他；2点(約0.9%)で、V層からの出土が9割程度を占める。

1は、表面が使用による平坦化面である。2は右半分が破損し、中央付近へと緩やかに凹む使用面が観察される。3の表面には平坦化面が認められる。4は右側部分を破損し、大きさに比して使用痕の範囲が小さい。5は表裏面にやや幅のある溝状のすり痕が複数認められ、砥石のような機能を有していたと考えられる。6は角閃石安山岩製の完形品で、平坦化面が観察される。7の表面にみられる使用面は、さほど平坦化しておらず、剥落痕が複数観察される。



図IV-73 包含層出土礫石器群(9)

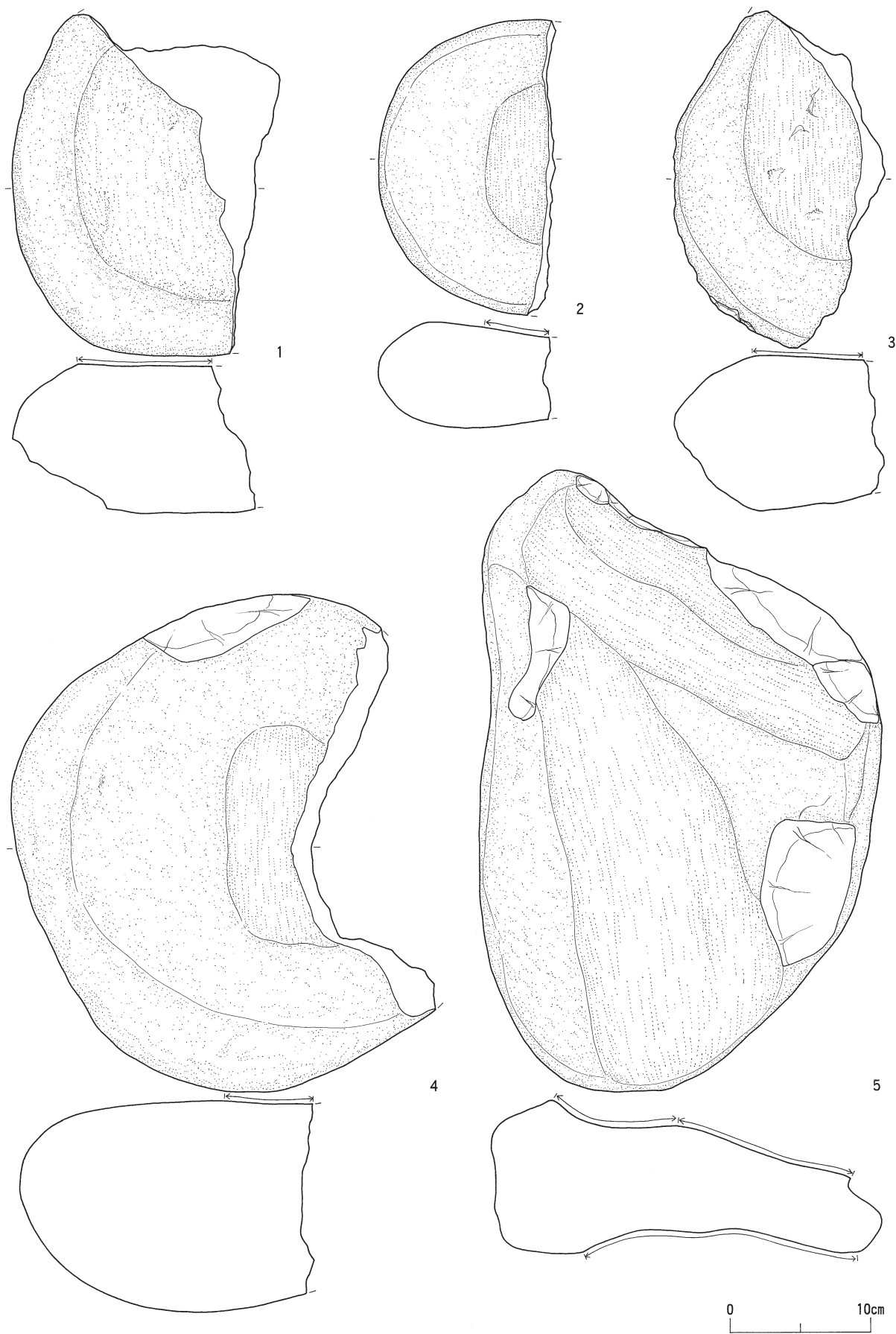
(7) 石製品 (図IV-76・77、表34、図版194-2~196)

\* 石製品 (1~19)

41点出土し、これらのうち19点掲載した (掲載率: 約46.3%)。出土層位は、Ⅲ層; 1点 (約2.4%)、Va層; 24点 (約58.5%)、Vb層; 14点 (約34.1%)、VI層; 1点 (約2.4%)、掘り上げ土; 1点 (約2.4%) で、V層からの出土が9割程度を占める。

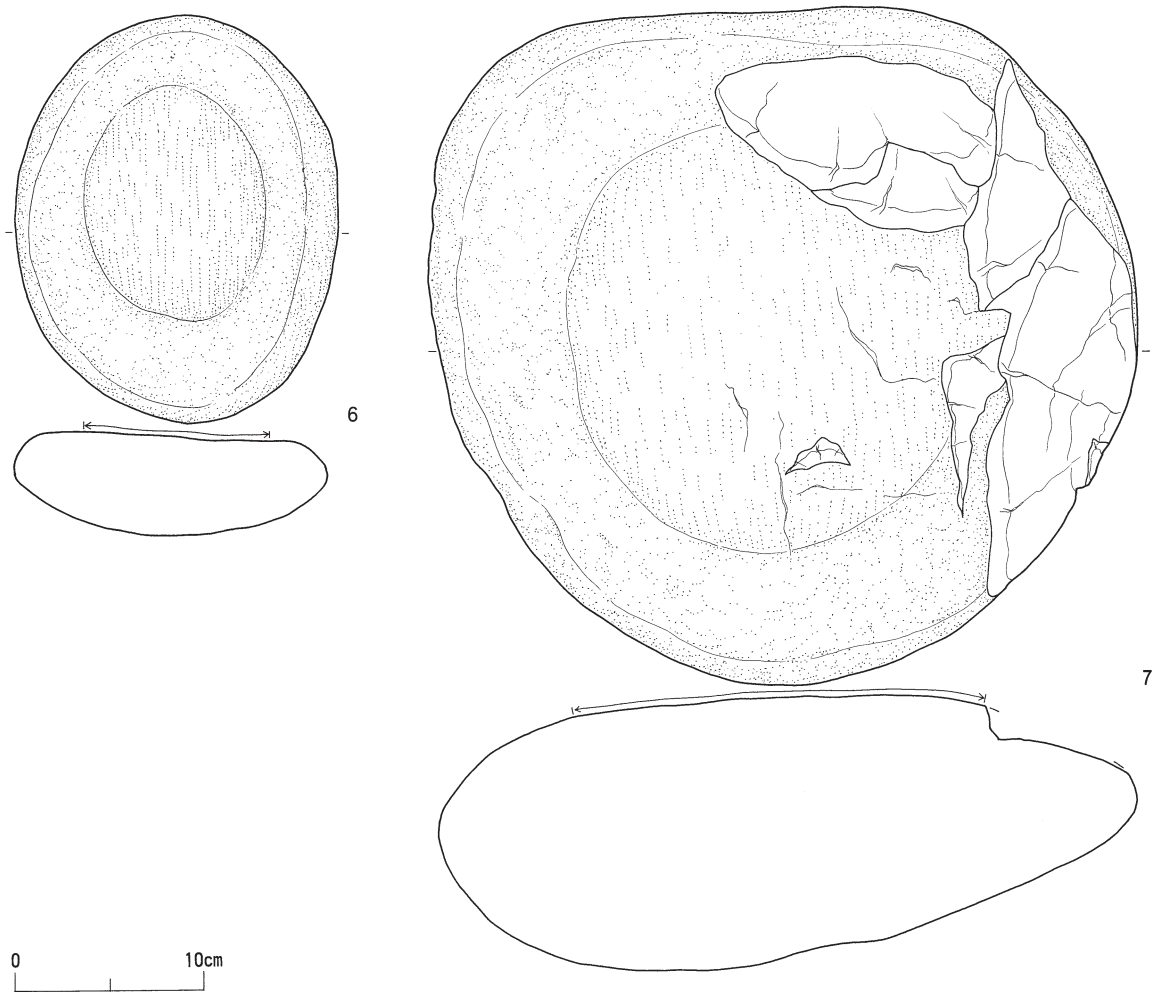
\* 打ち欠き加工により製作されたもの (1~11)

1~8は凝灰岩製の三脚石器と呼称されるものである。1は一部破損する。2は稜が磨滅する。3の表面は周縁のみが二次調整される。4は稜が磨滅する。5は一部破損し、磨滅も認められる。6は裏面の二次調整痕が不明瞭である。7・8は小型品である。9は、側縁が下端部で緩やかに収束する



图IV-74 包含层出土礫石器群（大型）(1)





図IV-75 包含層出土礫石器群（大型）（2）

形態を呈する。10は、表面の周縁に明瞭な加工による剥離痕が認められ、下端部は凹状に括れる。11は、三脚石器の形態を呈するが、明瞭な剥離・加工痕が観察されない。

**\* 研磨調整により製作されたもの（12）**

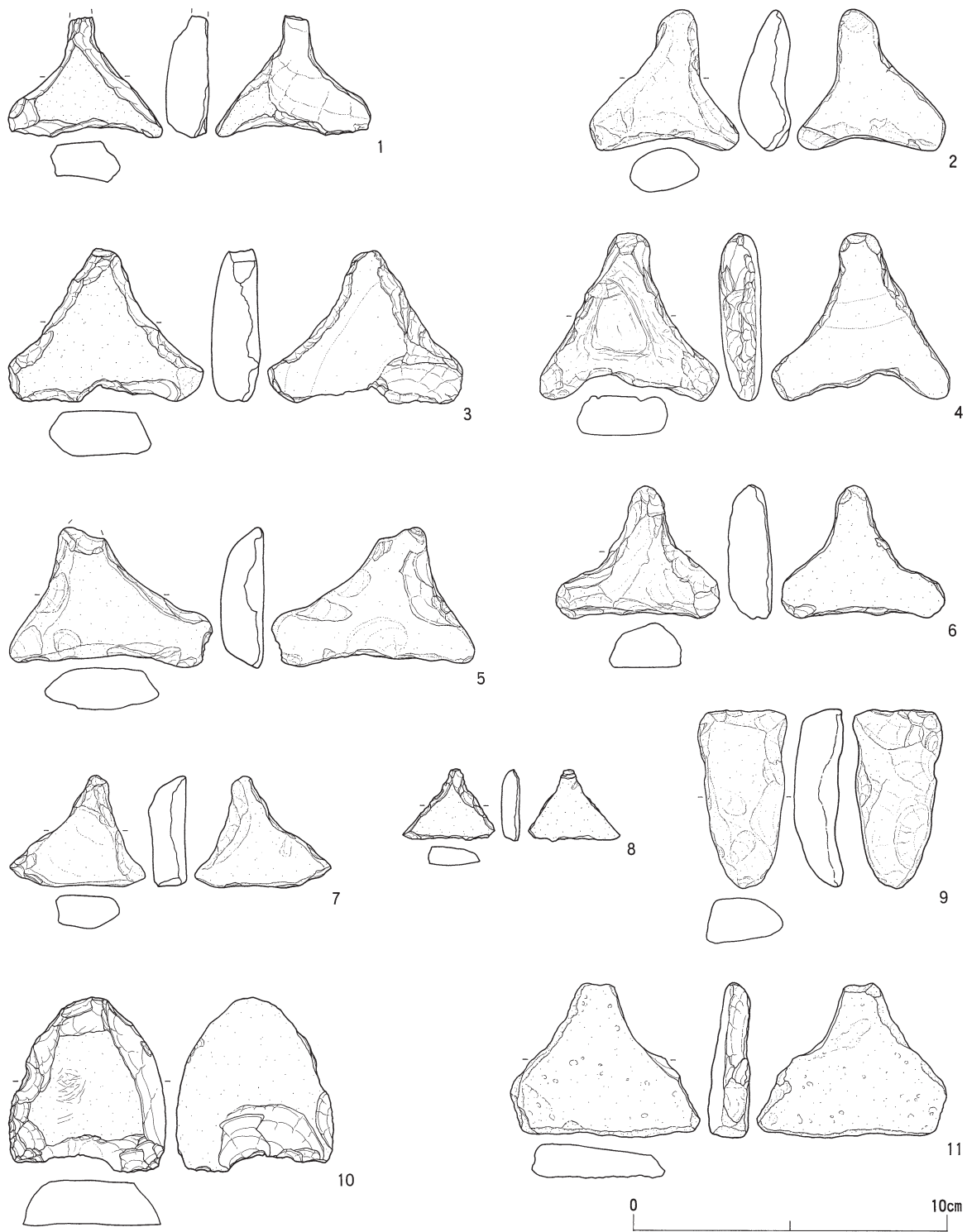
12は、緑色を呈する泥岩を用いた玉である。破損しており、孔内部にも研磨痕が観察される。製作失敗品であると判断される。

**\* 穿孔された礫（13～15）**

13は楕円形を呈しやや厚みのある浮岩を素材とする。14は側面に穿孔が施される。15は断面をみると、主に表面一方向から穿孔されたと判断される。

**\* 北海道式石冠様のもの（16・17）**

16は、縦長の楕円形を呈する厚みのある安山岩を素材とし、その中央を全周するように、敲打により凹みが作出される。17は、横長のやや厚みのある安山岩を素材とし、全周する明瞭な凹みを有する。下縁部にはすり痕が観察され、小型の実用品である可能性がある。

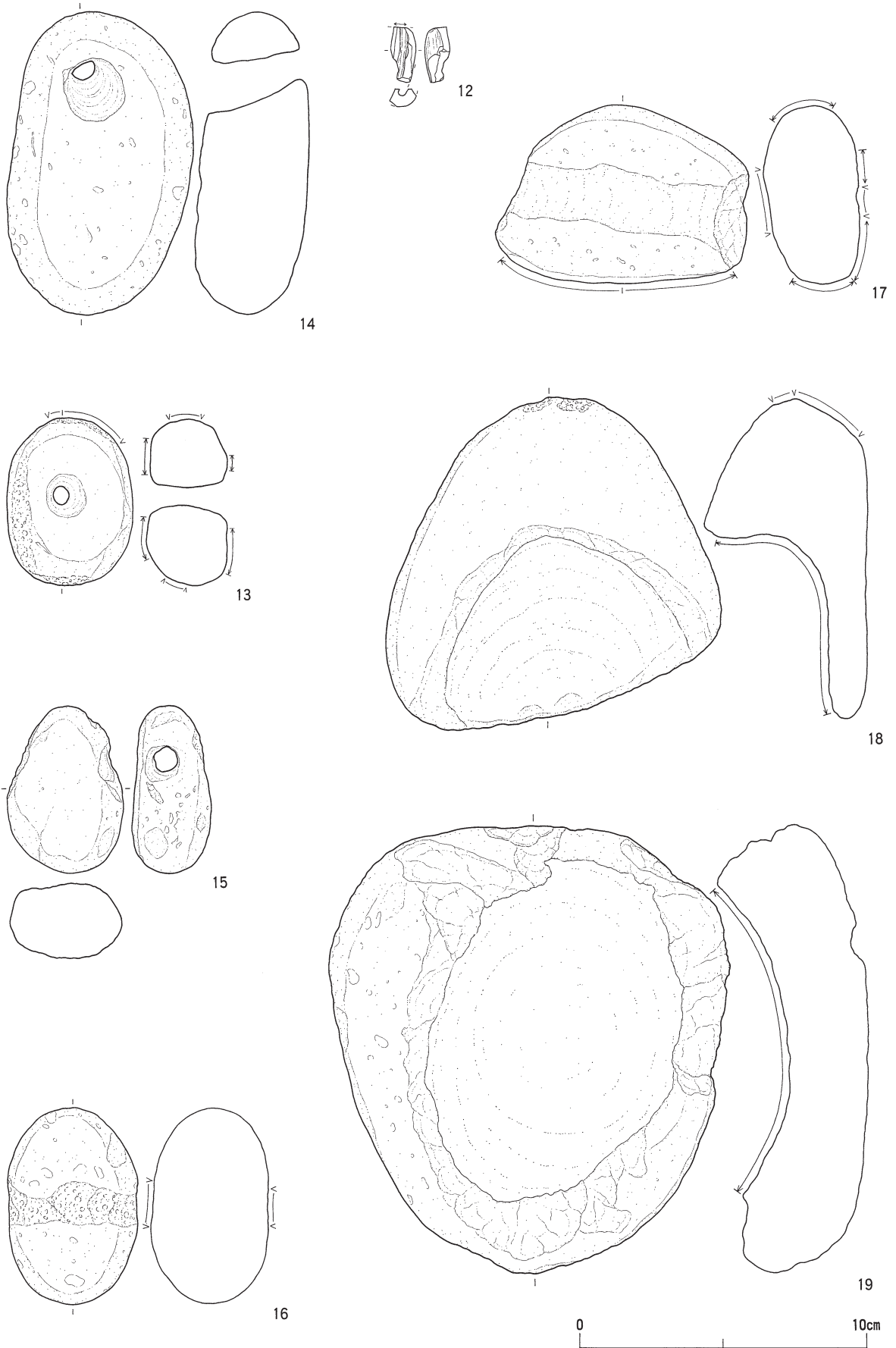


図IV-76 包含層出土石製品(1)

\* 明瞭な凹みを有する礫 (18・19)

18・19は、ともに安山岩を用い、礫の表面に明瞭な凹みが認められる。

(末光)



図IV-77 包含層出土石製品(2)

表1 住居跡一覧表

遺構名	図版	グリッド	平面形態	規模 (m)					付属遺構	主な出土遺物			備考	
				確認面		床面		最大深		床面	付属遺構	覆土		
				長径	短径	長径	短径							
H-1	Ⅲ-3・4	F・G-42区	隅丸五角形	3.38	3.18	3.00	2.78	0.64	土坑(埋没)	HP-2	Ⅲ群a・b類土器、フレイク、自然礫	Ⅲ群b-2類土器(埋没)	Ⅲ群a・b・b-1類土器 石鏃、スクレイパー、フレイク、原石	H-3・4を切る
									土坑	HP-1・3・13				
									焼土	HF-1				
									柱穴	HP-4~12				
H-2	Ⅲ-5	D・E-44・45区	楕円形	3.22	2.98	2.38	2.13	0.68	無	スクレイパー、自然礫	*	Ⅲ群a・b-1類土器、石槍・ナイフ、フレイク	掘り上げ土あり	
H-3	Ⅲ-7・8-1	F・G-42・43区	楕円形?	(2.42)	3.30	(2.08)	2.92	0.36	焼土	HF-1~5	Ⅲ群a類土器 石槍・ナイフ、フレイク、扁平打製石器、自然礫	Ⅲ群a類土器 扁平打製石器	Ⅲ群a類・IV群a類土器 スクレイパー、ビュスエスキュー、フレイク、原石、扁平打製石器、たたき石、自然礫	H-1・4・P-20に切られる
									柱穴	HP-1~4				P-38・49を切る 炭化材
H-4	Ⅲ-6~8	F-41・42、G-42区	楕円形?	3.88	(0.80)	3.44	(0.48)	0.26	柱穴	HP-1~4	北海道式石冠、フレイク、自然礫	無	Ⅲ群a類土器 スクレイパー、フレイク、扁平打製石器、北海道式石冠、自然礫	H-1に切られる H-3・P-37を切る
H-5	Ⅲ-9・10	F・G-45・46区	楕円形	(4.40)	3.48	(4.30)	3.34	0.96	土坑(埋没)	HP-2	Ⅲ群a・b-1類土器	Ⅲ群b類土器(埋没)	Ⅲ群a・b-1・b-2類・IV群a類土器 石鏃、スクレイパー、フレイク 扁平打製石器、北海道式石冠、台石、自然礫	南西側部分約1/3を風倒木痕に切られる
									土坑	HP-1				
H-6	Ⅲ-11	L-44区	楕円形	(2.20)	1.90	(1.86)	1.84	0.42	無	無	自然礫	*	IV群a類土器、フレイク、自然礫	西側部分風倒木痕に切られる
H-7	Ⅲ-12	T-47区	楕円形	3.64	(1.94)	3.16	(1.74)	0.33	無	無	無	*	Ⅱ群b類・Ⅲ群a類・IV群a類土器 スクレイパー、フレイク、磨製石斧、北海道式石冠、自然礫	北東側部分約1/2調査区外 南西側部分を風倒木痕に切られる
H-8	Ⅲ-13・14	N・O-44・45区	楕円形	6.18	5.14	5.66	4.48	0.86	表い土坑 表の落ち 込	(5カ所)	フレイク、北海道式石冠、自然礫	フレイク	Ⅱ群b類・Ⅲ群a・b-1類・IV群a類土器 スクレイパー、フレイク、磨製石斧、扁平打製石器、北海道式石冠、たたき石、砥石、石皿、自然礫	
									柱穴	HP-1~4				
									ベンチ構造					
H-9	Ⅲ-15・16	J・K-39・40区	隅丸方形	3.18	2.98	2.78	2.72	0.64	土坑(埋没)	HP-1	IV群a類土器 石鏃、石鏃、U・Rフレイク、フレイク	Ⅲ群b類土器(埋没)	Ⅲ群b・b-1類・IV群a類土器、再生土製品 スクレイパー、Rフレイク・Uフレイク、石核、フレイク、たたき石、自然礫	
									土坑	HP-2				
									柱穴	HP-3・4				
H-10	Ⅲ-17	S・T-46・47区	楕円形	5.56	(3.46)	5.14	(3.12)	0.30	焼土(砂?)	HF-1	Ⅱ群b類・Ⅲ群a・b類・IV群a類土器 フレイク、砥石、自然礫	無	Ⅱ群b類・IV群a類土器 Uフレイク、石核、フレイク、磨製石斧、自然礫	P-53に切られる 北東側部分を風倒木痕に切られる
									焼土	HF-2				
H-11	Ⅲ-18	H・I-40・41区	長方形	2.34	1.92	2.02	1.70	0.46	溝	無	無	無	Ⅲ群a類土器 土製品 フレイク、扁平打製石器、自然礫	
H-12	Ⅲ-19	T-47区	楕円形	2.24	2.06	2.14	2.02	0.56	土坑	P-1・2	フレイク、磨製石斧、たたき石	無	Ⅱ群b類・Ⅲ群a類・IV群a類土器 スクレイパー、石核、台石、自然礫	H-7下位
H-13	欠番													
H-14	Ⅲ-20~22	P-43・44区、Q-43・45区、R-43・44区	楕円形	6.04	5.20	4.68	3.64	0.82	土坑	HP-1・2	Ⅲ群a類土器 石鏃、スクレイパー、Uフレイク、フレイク	Ⅲ群a類土器	Ⅱ群b類・Ⅲ群a・b・b-1類・IV群a類・VI群土器、再生土製品 石鏃、石鏃、スクレイパー、U・Rフレイク、原石 磨製石斧、たたき石、砥石、台石、石製品、自然礫	覆土中に石鏃跡S-4・5があり、本住居跡は、これら石鏃よりも古い 炭化材あり
									柱穴	HP-3~6				
									溝?					
									ベンチ構造					
H-15	Ⅲ-23	Q・R-45・46区	長方形	2.62	2.48	2.36	2.26	0.60	柱穴	HP-1~5	Ⅲ群b-1類土器 フレイク	無	Ⅲ群a・b・b-1類・IV群a類土器 石鏃、Uフレイク、フレイク、自然礫	P-68に切られる
H-16	Ⅲ-24~26	O・P-41・42区	(隅丸長方形)	3.25	2.87	2.95	2.70	0.48	土坑	HP-1	Ⅲ群b・b-1類土器	無	Ⅲ群b類・IV群a類土器 つまみ付きナイフ、スクレイパー、U・Rフレイク、フレイク、扁平打製石器、台石、自然礫	
									切跡(焼土)	HF-1				
									柱穴	HP-2~6				
									焼土	F-1				
H-17	Ⅲ-27	S・T-42区	円形	3.94	3.70	3.74	3.50	0.15	石組炉 (土坑状の掘り込み)	IV群a類土器 Uフレイク	IV群a類土器 フレイク	Ⅲ群b-1類・IV群a類土器 U・Rフレイク、石核、フレイク、原石、磨製石斧、台石、自然礫		
									土坑	HP-1	自然礫			
H-18	Ⅲ-28	R-42、S-41・42区	楕円形	4.50	3.32	4.36	3.16	0.06	石組炉	HF-1	IV群a類土器 磨製石斧	IV群a類土器 フレイク	Ⅲ群b-1類・IV群a類土器 Rフレイク、石核、フレイク、台石、自然礫	
									(土坑状の掘り込み)		自然礫	自然礫		
H-19	Ⅲ-29~31	Q・R-41・42区	楕円形	3.17	2.59	3.06	2.48	0.48	切跡(焼土)	F-1	Ⅲ群a・b-1類土器 自然礫	無	Ⅱ群b類・Ⅲ群a・b類・IV群a類土器 スクレイパー、U・Rフレイク、石核、フレイク、原石、たたき石、自然礫	炭化物・材及び焼土 (床面~覆土第3・4層)
									柱穴	HP-1・2				
									焼土	F-2~7				
H-20	Ⅲ-33	T-40区	隅丸長方形	(2.13)	1.88	(1.99)	1.62	0.44	土坑	HP-1	無	無	IV群a類土器 スクレイパー・Uフレイク 自然礫	約1/4が調査区外
									ベンチ構造					
									炭化物層					



表2 住居跡付属遺構一覧表

遺構名	種別	付属遺構名	図	図版	平面形態	規模 (m)				最大深 最大厚	特徴	出土遺物	備考		
						確認面 長径   短径	底面 長径   短径								
H-1	土坑(埋藏)	HP-2	III-3・4	*	5-2	不整形	0.32	0.29	0.22	0.22	0.26	埋藏	Ⅲ群b-2類土器	柱穴の可能性あり	
		HP-1				凹形	0.22		0.18	0.22	*	スクレイパー、フレイク			
	土坑	HP-3			凹形	0.16		0.12	0.06	*	無	柱穴の可能性あり			
		HP-13			楕円形	0.36	0.30	0.18	0.26	0.20	*		覆土中		
	柱穴(壁柱穴)	HF-1			不整形	0.70	0.70			0.13	0.13	明赤褐色(5YR5/8)	無	覆土中	
		HP-4			楕円形	0.18	0.12			0.22	0.22	*	無		
		HP-5			楕円形	0.14	0.10			0.18	0.18	*	無		
		HP-6			楕円形	0.15	0.12			0.17	0.17	*	無		
		HP-7			楕円形	0.22	0.14			0.22	0.22	*	無		
		HP-8			楕円形	0.13	0.09			0.13	0.13	*	無		
		HP-9			楕円形	0.11	0.04			0.16	0.16	*	無		
		HP-10			楕円形	0.18	0.14			0.21	0.21	*	無		
HP-11		楕円形	0.14	0.10			0.09	0.09	*	無					
HP-12		楕円形	0.11	0.09			0.17	0.17	*	無					
H-2												付属遺構：無			
H-3	焼土	HF-1	III-6・7	*		凹形	0.78	0.67			0.09	炉跡 明橙褐色(10YR5/3)	無	一部H-1に切られる 地盤高45.03m 地盤高44.86m	
		HF-2				楕円形	0.13	0.10			?	焼土が混じる土 二次堆積	無		
		HF-3				楕円形	0.16	0.11			?	焼土が混じる土 二次堆積	無		
		HF-4				楕円形	0.44	0.22			0.05	明橙褐色(10YR5/3)	無		
		HF-5				不整形	0.55	0.38			0.07	明橙褐色(10YR5/3)	無		
	柱穴	HP-1			凹形	0.13	0.11			0.26	*	自然礫	無		
HP-2	楕円形	0.20	0.14			0.13	0.13	*	扁平打製石器	無					
HP-3	凹形	0.17				0.59	0.59	*	無	無					
HP-4	楕円形	0.17	0.13			0.20	0.20	*	Ⅲ群a類土器	無					
H-4	柱穴	HP-1			凹形	0.21	0.20			0.10	*	無	無		
		HP-2			楕円形	0.13	0.10			0.07	0.07	*		無	
		HP-3			凹形	0.12	0.11			0.13	0.13	*		無	
HP-4	凹形	0.12	0.11			0.18	0.18	*	無						
H-5	土坑(埋藏)	HP-2	III-9	9-3・4	*	楕円形	0.21	0.17		0.12	0.24	埋藏	Ⅲ群b類土器	無	
	土坑	HP-1				楕円形	0.29	0.24	0.10	0.07	0.26	埋め戻し	無		
礫集中			*	*	?	?	?	?	?	?	住居跡北側・G-25-d区 相当部分・覆土1層下位自然礫1.413点出土	Ⅲ群a類・b-1類土器、 自然礫	遺物台帳に記載有り 遺構図に記載無し		
H-6													付属遺構：無		
H-7													付属遺構：無		
H-8	浅い土坑状の落ち込み	A群のもの	III-13・14	*		凹形	0.86	0.80	0.76	0.76	0.06	覆土8層が堆積		土層断面図A・B上 * HP-1~4：ほぼ正方形の配置をとる	
		B群のもの				凹形	0.64	0.63	0.51	0.45	0.07	覆土3・8層が堆積			
	*	楕円形			0.99	0.88	0.85	0.72	0.09	覆土3・8層が堆積					
	*	凹形			0.65	0.31	0.60	0.26	0.22	覆土8層が堆積					
	*	楕円形			0.99	0.80	0.70	0.41	?	底面地盤高：43.39m					
	柱穴	HP-1			凹形	0.33	0.31	0.24	0.28	0.69	0.69	主柱穴	*		無
		HP-2			凹形	0.36		0.31	0.75	0.75	0.75	主柱穴	*		
		HP-3			凹形	0.42	0.35	0.25	0.68	0.68	0.68	主柱穴	フレイク(頁岩)		
		HP-4			凹形	0.32	0.29	0.67	0.67	0.67	0.67	主柱穴	*		
	ベンチ構造				*	最大幅：0.45/住居跡の周縁約1/2									住居跡の北東側~南西側
土坑(埋藏)	HP-1	III-15	*		不整形	0.30	0.29	0.26	0.23	0.20	埋藏	Ⅲ群b類土器	無		
	HP-2				楕円形	0.29	0.29	0.22	0.24	0.05	0.05	浅い皿状		無	
柱穴	HP-3	凹形	0.08		0.03	0.23	0.23	0.23	*	無	無				
	HP-4	凹形	0.10		0.05	0.22	0.22	0.22	*	無					
焼土	HF-1	III-17	*		楕円形	0.25	0.16			0.03	炉跡? 赤褐色(5YR4/8)	無	無		
焼土	HF-2				不整形	0.37	0.26			0.04	0.04	暗赤褐色(5YR3/4)		無	
溝(周溝)		III-18	*	*	*	幅：0.11/深さ：0.01~0.07					床面の下端付近	無	北側部分の角には認められない		
土坑	P-1	III-19	*		楕円形	0.81	0.63	0.60	0.36	0.18	*	無	無		
	P-2				凹形	0.66	0.54	0.43	0.37	0.21	0.21	*		無	
溝(周溝)		*	幅：0.10/深さ：0.02~0.04								床面の下端付近をほぼ全周する	無			
H-13												欠番			
H-14	土坑	HP-1	III-20	*		楕円形	0.77	0.66	0.70	0.53	0.10	*	Ⅲ群a類土器	無	
		HP-2				不整形	0.75	0.72	0.44	0.46	0.21	0.21	*		無
	柱穴	HP-3			凹形	0.31		0.20	0.56	0.56	0.56	*	無	無	
		HP-4			凹形	0.33		0.16	0.60	0.60	0.60	*	無		
		HP-5			凹形	0.44		0.28	0.50	0.50	0.50	*	Ⅲ群a類土器		
		HP-6			凹形	0.32		0.16	0.62	0.62	0.62	*	無		
溝?		*	幅：0.12~0.01/深さ：0.01~0.06							床面に断続的に7カ所	無				
ベンチ構造		*	最大幅：0.79/住居の全周								無				
H-15	柱穴	HP-1	III-23	*		凹形	0.20				0.08	*	無	無	
		HP-2				凹形	0.18				0.08	0.08	*		無
		HP-3				凹形	0.15				0.12	0.12	*		無
		HP-4				凹形	0.16				0.16	0.16	*		無
		HP-5				凹形	0.18				0.10	0.10	*		無
H-16	土坑	HP-1	III-24・25	*		楕円形	0.62	0.41	0.52	0.33	0.09	内部にHF-1	無	掘り込みのある地床炉	
炉跡(焼土)	HF-1	凹形				0.22	0.20			0.02	0.02	にぶい赤褐~にぶい褐色(5YR5/3~7.5YR5/4)	無		
	HP-2	凹形				0.20				0.20	0.20	*	無		
	HP-3	凹形				0.19				0.18	0.18	*	無		
	HP-4	凹形				0.12				0.17	0.17	*	無		
	HP-5	凹形				0.12				0.18	0.18	*	無		
HP-6	凹形	0.17				0.11	0.11	*	無						
焼土	F-1	方形	0.37	0.32			0.03	0.03	赤褐色(2.5YR4/6)	無	覆土第2a~2b層中・43.72m				
石組炉	石組部分 掘り込み	III-27	22-2	*	コノ状 楕円形	0.79	0.66	0.60	0.63	0.23	焼土：赤褐色(5YR4/8) 骨片混じり	Ⅳ群a類土器、フレイク、自然礫	無		
	土坑	HP-1	*	楕円形	0.71	0.45	0.60	0.39	0.24	*	Ⅳ群a類土器、フレイク、自然礫				
石組炉(HF-1)	石組部分 掘り込み	III-28	23-2	*	コノ状 楕円形	0.76	0.50	0.63	0.45	0.15	焼土無し 覆土：骨片混じり	Ⅳ群a類土器、フレイク、自然礫	無		
	HP-1	楕円形	0.71	0.55	0.63	0.45	0.17	0.17	*	無					
H-19	炉跡(焼土)	HF-1	III-29	*		楕円形	0.33	0.21			0.07	にぶい赤褐~明赤褐色(5YR4/4~2.5YR5/8)	無	地床炉	
		HP-1				凹形	0.15				0.10	0.10	*		無
	柱穴	HP-2			凹形	0.20				0.46	0.46	*	無	無	
		F-2			楕円形	0.25	0.21			0.03	0.03	明赤褐色(2.5YR5/6)	無		覆土第4a層・炭化物混じり
		F-3			長楕円形	0.16	0.07			0.03	0.03	明赤褐色(2.5YR5/6)	無		炭化物混じり
		F-4			楕円形	0.17	0.09			0.03	0.03	明赤褐色(2.5YR5/6)	無		覆土第4a層・炭化物混じり
		F-5			楕円形	0.18	0.15			0.03	0.03	明赤褐色(2.5YR5/6)	無		覆土第4a層・炭化物混じり
F-6	長楕円形	0.07	0.04			0.02	0.02	明赤褐色(2.5YR5/6)	無	覆土第4a層・炭化物混じり					
F-7	長楕円形	0.06	0.04			0.02	0.02	明赤褐色(2.5YR5/6)	無	覆土第4a層・炭化物混じり					
土坑	HP-1	III-33	*		長方形	0.34	0.19	0.29	0.17	0.08	*	無	無		
	ベンチ構造 炭化物層				*	最大幅：0.46/住居跡の全周									床面近く・HP-1を覆う

表 3-1 土坑一覧表(1)

遺構名	図	図版	グリッド	平面形態	規模 (m)					出土遺物	備考
					確認面		底面		最大深		
					長径	短径	長径	短径			
P-1		26-1	Z-44区	円形	0.80	0.73	0.64	0.50	0.20	自然礫	
P-2	Ⅲ-34	26-2	D・E-40区	楕円形	1.90	1.52	1.96	1.44	0.20	Ⅲ群a類土器、フレイク、自然礫	
P-3		26-3	A-44区	楕円形	0.50	0.45	0.33	0.26	0.11	石槍・ナイフ、自然礫	
P-4	Ⅲ-35	26-4	B-45区	楕円形	1.18	1.02	0.86	0.61	0.25	Ⅳ群a類土器、フレイク、自然礫	
P-5		26-5	D-39・40区	楕円形	1.84	1.60	1.66	1.54	0.36	台石・石皿、自然礫	
P-6	Ⅲ-36	26-6	I-37区	楕円形	1.02	0.94	0.78	0.66	0.62	Ⅲ群a類土器、スクレイパー、自然礫	
P-7		27-1	Z-43区	楕円形	0.63	0.53	0.34	0.30	0.30	フレイク、自然礫	
P-8		27-2	z・A-42区	楕円形	1.20	0.94	0.92	0.64	0.54	自然礫	
P-9	Ⅲ-37	27-3	A-42区	楕円形	1.44	(0.90)	1.32	0.90	0.18	無	掘り上げ土
P-10	Ⅲ-38	27-4	C・D-42区	楕円形	0.92	0.75	0.74	0.60	0.48	Ⅲ群a類土器、つまみ付ナイフ、フレイク	
P-11	Ⅲ-37	27-5	H-39区	楕円形	0.88	0.80	0.66	0.62	0.46	Ⅲ群a・b-1類土器、扁平打製石器、自然礫	
P-12	Ⅲ-38	27-6	G-39区	円形	0.92	0.92	0.64	0.60	0.42	Ⅲ群a類・Ⅳ群a類土器、石鏃、フレイク、自然礫	
P-13	Ⅲ-39	28-1	B・C-40区	楕円形	2.12	(1.04)	1.92	(0.78)	0.27	Ⅲ群a類土器、自然礫	約2/5調査区外
P-14		28-2	G-39・40区	円形	2.14	1.94	2.08	1.84	0.28	石鏃、フレイク、自然礫	
P-15		28-3	C-43区	円形	0.80	0.75	0.60	0.46	0.22	Ⅳ群a類土器、自然礫	
P-16	Ⅲ-40	28-4	C-44区	楕円形	1.32	1.24	1.02	0.78	0.44	Ⅲ群a・b・b-2類・Ⅳ群a類・Ⅵ群土器 フレイク、扁平打製石器、自然礫	
P-17	Ⅲ-40 ・41	28-5	C・D-43・44区	楕円形	2.10	1.69	1.78	1.41	0.67	Ⅲ群・Ⅲ群a類・b類、Ⅳ群a類、Ⅵ群土器 フレイク、原石、扁平打製石器、自然礫	上位にF-1・9
P-18	Ⅲ-42	28-6	G-39区	円形	0.47	0.43	0.18	0.15	0.16	フレイク、自然礫	
P-19	Ⅲ-38	27-4	C-42区	楕円形	0.78	(0.53)	0.70	0.46	0.30	無	
P-20	Ⅲ-42	29-1	F・G-43区	楕円形	1.50	1.36	1.35	1.20	0.22	Ⅲ群a・b類土器、フレイク、扁平打製石器、北海道式石冠、 石皿、自然礫	H-3を切る
P-21		29-2	I-37区	円形	0.80	0.60	0.57	0.47	0.19	Ⅲ群a類土器、自然礫	
P-22	Ⅲ-43	29-3	J-38・39区	楕円形	1.20	1.02	1.00	0.86	0.13	無	
P-23		29-4	F-45区	円形	0.70	0.64	0.56	0.58	0.20	Ⅲ群b-1類土器、北海道式石冠	
P-24		29-5	G・H-43区	楕円形	0.92	0.81	0.82	0.73	0.23	Ⅲ群a類土器、スクレイパー、フレイク、自然礫	
P-25		29-6	B・C-45区	円形	0.98	(0.70)	0.54	(0.57)	0.40	自然礫	約1/5調査区外
P-26	Ⅲ-44	30-1	I-44区	円形	2.56	2.39	2.30	2.00	0.28	Ⅲ群a・b・b-1・b-2類・Ⅳ群a類土器 つまみ付ナイフ、スクレイパー、フレイク、磨製石斧、扁平 打製石器、北海道式石冠、自然礫	
P-27	Ⅲ-45	30-2	G・H-42区	楕円形	1.20	0.78	1.16	0.72	0.21	Ⅲ群b・b-1類土器、自然礫	
P-28	Ⅲ-46	30-3	D・E-42区	楕円形	1.43	1.28	1.00	0.90	0.48	Ⅲ群a・b類土器、自然礫	
P-29	Ⅲ-45	30-4	G・H-42区	楕円形	0.84	0.80	0.86	0.80	0.18	Ⅲ群a・b類・Ⅵ群土器、フレイク	
P-30	Ⅲ-46	30-5	E-43区	楕円形	1.05	1.02	0.80	0.86	0.40	Ⅲ群a類土器、フレイク、北海道式石冠	P-34を切る
P-31	Ⅲ-47	30-6	E-44区	楕円形	0.98	0.92	0.83	0.73	0.27	Ⅲ群a・b-1類・Ⅳ群a類土器、北海道式石冠、自然礫	
P-32	Ⅲ-48	31-1	E-44区	楕円形	(1.81)	(1.62)	1.72	(1.54)	0.19	フレイク、扁平打製石器	上位にF-11
P-33		31-2	G-42区	楕円形	0.76	0.68	0.69	0.56	0.32	Ⅲ群a類・Ⅳ群a類土器、フレイク、扁平打製石器、北海道 式石冠、自然礫	
P-34	Ⅲ-47	31-3	E-43区	楕円形	1.50	1.12	1.15	0.72	0.72	Ⅲ群a類土器、フレイク、北海道式石冠、自然礫	P-30に切られる
P-35	Ⅲ-49	31-4	M-44区	楕円形	0.93	0.79	0.67	0.60	0.46	Ⅲ群a類土器、自然礫	
P-36		31-5	M-43・44区	楕円形	1.22	1.09	1.16	0.77	0.52	Ⅲ群a・b-1類土器、フレイク、自然礫	プラスチックビット
P-37		31-6	F-42区	楕円形?	(1.10)	(0.68)	(1.04)	(0.56)	0.24	Ⅲ群a類土器、台石	H-4に切られる
P-38	Ⅲ-50	32-1	F-43区	楕円形	1.09	0.84	0.86	0.58	0.44	Ⅲ群a類・Ⅳ群a類土器 石鏃、石槍・ナイフ、スクレイパー、フレイク、自然礫	炭化材 H-3に切られる
P-39	Ⅲ-51	32-2	P・Q-45区	円形	1.02	1.24	1.36	1.42	1.22	Ⅱ群b類・Ⅲ群a類・Ⅳ群a類土器、スクレイパー、フレイ ク、自然礫	プラスチックビット
P-40	Ⅲ-50	32-3	S・T-48区	円形	0.78	0.75	0.53	0.39	0.37	自然礫	
P-41		32-4	P・Q-46区	楕円形	0.76	0.66	0.40	0.38	0.41	Ⅲ群a類土器、たたき石、自然礫	
P-42	Ⅲ-51	32-5	P-46区	楕円形	0.64	0.56	0.50	0.44	0.44	扁平打製石器、石鏃、自然礫	
P-43		32-6	T-48区	長楕円形	1.75	0.96	1.63	0.83	0.22	無	

表 3-1 土坑一覽表(2)

遺構名	図	図版	グリッド	平面形態	規模 (m)					出土遺物	備考
					確認面		底面		最大深		
					長径	短径	長径	短径			
P-44	Ⅲ-52	33-1	R-47区	楕円形	1.68	1.62	1.40	1.13	1.03	Ⅱ群b類・Ⅲ群a類・Ⅳ群a類土器、石鏃、フレイク、自然礫	フラスコ状ビット
P-45	欠番										
P-46	Ⅲ-52	33-2	R-46区	楕円形	0.72	0.68	0.47	0.46	0.24	フレイク、扁平打製石器、自然礫	
P-47	Ⅲ-53	33-3	G-41区	楕円形	1.07	0.82	0.88	0.62	0.28	Ⅲ群a類・Ⅳ群a類土器、フレイク、自然礫	
P-48		33-4	T-46区	円形	1.64	1.62	1.43	1.40	0.45	Ⅲ群a類・Ⅳ群a類土器、スクレイパー、フレイク、自然礫	H-10・P-62を切る SP-12と重複
P-49	Ⅲ-54	33-5	F-43区	楕円形	1.26	0.82	1.24	0.76	0.86	Ⅲ群a類土器、フレイク	H-3に切られる
P-50	Ⅲ-55	33-6	J-39区	楕円形	1.04	0.95	0.98	0.80	0.12	無	
P-51	Ⅲ-54	34-1	R・S-46区	円形	1.78	1.64	1.83	1.67	1.14	Ⅱ群b類・Ⅲ群a類・b-1類・Ⅳ群a類土器、石鏃、フレイク、磨製石斧、自然礫	フラスコ状ビット 付属遺構SP-1・2
P-52	欠番										
P-53	Ⅲ-55	34-2	T-47区	楕円形	0.86	0.71	0.64	0.56	0.24	Ⅲ群a類・Ⅳ群a類土器、フレイク、扁平打製石器、自然礫	H-10を切る
P-54		34-3	K・L-39・40区	円形	1.10	1.02	0.99	0.91	0.30	Ⅲ群a類土器、フレイク、自然礫	
P-55		34-4	M-42・43区	楕円形	1.26	1.08	1.18	0.99	0.08	スクレイパー、原石、自然礫	
P-56	Ⅲ-56	34-5	L-35区	円形	1.49	(1.38)	1.18	1.13	0.40	無	B調査に切られる
P-57		34-6	M・N-40区	楕円形	1.18	1.04	0.93	0.94	0.32	Ⅳ群a類、自然礫	
P-58		35-1	M-40区	円形	1.20	1.16	0.94	0.96	0.34	フレイク、自然礫	B調査に切られる
P-59	Ⅲ-59	35-2	M・N-35区	楕円形	1.12	1.00	0.74	0.67	0.60	Ⅱ群b類・Ⅲ群a類土器、スクレイパー、自然礫	
P-60	欠番										
P-61	Ⅲ-57	35-3	P-44・45区	円形	1.52	1.44	1.58	1.56	0.96	Ⅳ群a類土器、フレイク、原石、たたき石、自然礫	フラスコ状ビット
P-62		35-4	S・T-46区	円形	0.95	(0.62)	0.56	(0.40)	0.12	Ⅳ群a類土器	H-10・P-48に切られる
P-63	Ⅲ-58	35-5	R-47・48区	楕円形	0.54	0.38	0.32	0.25	0.22	Ⅲ群a類土器	
P-64	欠番										
P-65	Ⅲ-58	35-6	N-40区	楕円形	1.08	0.98	0.82	0.74	0.10	Ⅳ群a類土器、自然礫	
P-66		36-1	N-41区	円形	1.28	1.28	1.14	0.96	0.36	Ⅳ群a類土器、自然礫	
P-67	Ⅲ-59	36-2	S・T-45・46区	円形	1.24	1.05	1.60	1.50	1.16	Ⅱ群b類・Ⅳ群a類土器、Uフレイク、フレイク、自然礫	フラスコ状ビット
P-68	Ⅲ-60	36-3	R-46区	円形	0.56	0.46	0.46	0.42	0.16	Ⅳ群a類土器、自然礫	H-15を切る
P-69		36-4	P-41区	楕円形	1.67	1.15	1.44	0.98	0.16	扁平打製石器、台石、自然礫	
P-70	Ⅲ-61	36-5	S-38・39区	楕円形	1.20	0.91	1.07	0.79	0.14	Ⅳ群a類土器、自然礫	
P-71		36-6	S-43・44区	楕円形	2.36	2.20	1.84	1.66	0.48	Ⅲ群b類・b-1類・Ⅳ群a類土器、スクレイパー、台石、自然礫	住居跡?
P-72	Ⅲ-62	カラー 6-2 37-1	R・S-40区	円形	1.82	1.71	1.60	1.56	1.36	Ⅲ群a類・b-1類・Ⅳ群a類土器、石鏃、スクレイパー、U・Rフレイク、石核、フレイク、自然礫	フラスコ状ビット
P-73	Ⅲ-63	37-2	S・T-41区	正方形?	1.54	1.56	1.24	1.14	1.06	Ⅳ群a類土器、石核、フレイク、原石、自然礫	フラスコ状ビット
P-74	Ⅲ-64	37-3	S-44区	楕円形	0.74	0.72	0.62	0.52	0.22	Ⅲ群b類・Ⅳ群a類土器、フレイク、自然礫	
P-75	Ⅲ-63	カラー 7-2	S-43区	楕円形	0.36	0.26	0.24	0.22	0.20	Ⅳ群a類土器	埋設土器
P-76	Ⅲ-64	37-4	S-44区	楕円形	0.50	0.46	0.44	0.34	0.36	Ⅳ群a類土器、自然礫	
P-77	Ⅲ-65	37-5	R・S-44・45区	円形	1.26	1.18	1.46	1.54	1.20	Ⅳ群a類土器、Uフレイク、フレイク、たたき石、台石、自然礫	フラスコ状ビット
P-78	Ⅲ-63	37-6	O・P-36区	楕円形	0.97	0.80	0.79	0.64	0.24	無	
P-79	Ⅲ-66	38-1	R-45区	正方形?	1.06	1.06	1.46	1.44	1.12	Ⅲ群a類・Ⅳ群a類土器、石鏃、つまみ付ナイフ、スクレイパー、Uフレイク、フレイク、たたき石、台石、自然礫	フラスコ状ビット
P-80	Ⅲ-67	38-2	T-41区	楕円形	2.10	1.76	1.96	1.38	0.38	Ⅱ群b類・Ⅳ群a類土器、スクレイパー、フレイク、石製品、自然礫	
P-81	Ⅲ-68	38-3	R-43・44区	楕円形	1.90	1.62	1.78	1.66	1.08	Ⅲ群a類・b類・b-1類・Ⅳ群a類土器、石鏃、フレイク、原石、自然礫	フラスコ状ビット
P-82	Ⅲ-66	38-4	R・S-44区	楕円形	1.26	1.08	0.99	0.94	0.20	Ⅲ群b類・Ⅳ群a類土器、フレイク	
P-83	Ⅲ-67	38-5	Q-41・42区	楕円形	(1.74)	(1.42)	(1.02)	(0.81)	0.27	Ⅲ群b-1類土器、U・Rフレイク、石鏃、自然礫	
P-84	Ⅲ-69	38-6	R・S-43・44区	円形	1.26	1.26	1.48	1.38	0.86	Ⅱ群b類・Ⅲ群b類・Ⅳ群a類土器、フレイク、自然礫	フラスコ状ビット P-81に切られる
P-85	Ⅲ-70	39-1	S-45区	円形	1.56	1.68	1.84	1.96	1.14	Ⅱ群b類・Ⅲ群b類・Ⅳ群a類土器、Uフレイク、フレイク、原石、たたき石、自然礫	フラスコ状ビット
P-86	Ⅲ-68	39-2	P-38区	円形	1.67	1.60	1.50	1.47	0.21	Ⅲ群b-1類土器、フレイク、自然礫	
P-87	Ⅲ-69	39-3	S-43区	長楕円形	0.68	0.58	0.34	0.25	0.13	Ⅳ群a類土器、自然礫	

表 4 焼土一覧表

遺構名	図	図版	グリッド	確認層位 (被熱層)	平面形態	規模 (m)			色調		層界	堅密度	粘着性	出土遺物	備考
						長径	短径	最大厚	色名	マンセル表色系					
F-1	III-71	カラー 図版 7-1	C-43・44、 D-43・44区	V a層	楕円形	0.99	0.77	0.15	にぶい橙色	2.5YR6/4	*	*	*	II群b類・III群a・b類・ IV群a類・VI群土器、ス クレイバー、フレイク、 台石、自然礫	骨片含む P-17上位
F-2		*	B-44区	V b層	楕円形	1.20	0.82	0.09	褐色	7.5YR4/6	漸変	堅	強	?群土器	
F-3		*	A-43区	V a層	楕円形	0.85	0.42	0.07	暗褐色	7.5YR3/4	判然	堅	強	IV群a類・VI群土器、原 石	骨片含む
F-4	III-72	*	B-43区	V b層	楕円形	0.40	0.38	0.06	明赤褐色	2.5YR5/8	*	軟	*	IV群a類土器石核・フレ イク・自然礫	骨片含む
F-5		*	A・B-43区	V b層	楕円形	0.54	0.39	0.08	暗赤褐色	5YR3/4	明瞭	堅	強	IV群a類土器	骨片含む
F-6		*	B・C-43区	V a層	楕円形	0.71	0.51	0.13	極暗赤褐色	5YR2/4	*	*	*	Uフレイク	骨片含む
F-7		*	C-43区	V a層	楕円形	0.88	0.76	0.15	極暗赤褐色	5YR2/4	*	*	*	III群b類・IV群a類土器	骨片含む
F-8		*	C-43・44区	V a層	円形	0.86	0.85	0.14	明赤褐色	2.5YR5/8	F-7・8間遺物			VI群土器、 スクレイパー、ピエス エスキュー、フレイク	
F-9	III-71	カラー 図版 7-1	C-43・44区	V a層	楕円形	0.80	0.59	0.14	赤褐色	2.5YR4/8	*	*	*	無	骨片含むP-17上位
F-10	III-73	*	T-49区	V b層	円形	0.35	0.34	0.05	褐色	7.5YR4/6	明瞭	中	弱	無	
F-11	III-48	31-1	E-44区	P-3覆土	不整形	0.49	0.45	0.09	赤褐色	2.5YR4/8	*	*	*	無	P-32上位
F-12	III-73	*	J-42区	V b層	円形	0.42	0.37	0.08	明赤褐色	5YR5/8	*	堅	中	無	
F-13		*	L-42区	V b層	円形	0.50	0.50	0.10	明赤褐色	5YR5/8	*	堅	中	無	
F-14		*	L-42区	V b層	円形	0.28	0.26	0.04	暗褐色	7.5YR3/4	*	堅	中	無	
F-15		*	L-38区	V b層	楕円形	(0.70)	0.42	0.08	橙色	5YR6/8	*	軟	*	VI群土器	
F-16		*	R-43区	V b層	楕円形	0.50	0.42	0.08	橙色	5YR7/8	*	軟	*	無	木根跡の凹みを利用

表 5 小土坑一覧表

遺構名	図	図版	グリッド	確認層位	平面形態	規模 (m)				出土遺物	備考			
						確認面		底面				最大深		
				長径	短径	長径	短径							
SP-1	III-74・75	*	S-47区	VIII層	円形	0.20	0.18	0.13	0.33	III群a類・IV群a類土器、フレイク				
SP-2			T-47区	VIII層	円形	0.19		0.19	0.23					
SP-3			S-47区	VIII層	円形	0.38	0.35	0.23	0.21	0.21				
SP-4			S-47区	VIII層	円形	0.24	0.22	0.14		0.42				
SP-5			T-47区	VIII層	円形	0.21		0.14	0.13	0.42	自然礫			
SP-6			T-47区	VIII層	円形	0.21		0.14		0.32				
SP-7			S-47区	VIII層	円形	0.18		0.12		0.20				
SP-8			T-46区	VIII層	円形	0.23	0.21	0.07		0.47	自然礫			
SP-9			S-47区	VIII層	円形	0.20	0.19	0.14		0.24				
SP-10			S-46区	VIII層	円形	0.29		0.14	0.12	0.40				
SP-11			R-47区	VIII層	円形	0.20	0.19	0.15	0.13	0.26	自然礫			
SP-12			T-46区	VIII層	円形	0.20	0.19	0.11	0.10	0.24			P-48と平面重複	
SP-15			39-4	R-47区	VIII層	円形	0.21	(0.22)	0.25	(0.22)	0.21	自然礫		

表 6 礫集中・配石遺構一覧表

遺構名	図	図版	グリッド	確認層位	規模 (m)			出土遺物	備考		
					長径	短径	厚み				
S-1	III-76	39- 5・ 6	P-45区	VI層	0.92	0.76	0.26	IV群a類土器、 フレイク、 自然礫	下位に土坑 (フラスコ状土坑)		
				付属土坑規模	確認面		底面			最大深	
					長径	短径	長径	短径	0.88		
S-2	III-77	カラー図版 5-1・2 40-1・2	S-44・45、 T-43区	V1~V2層	10.0		*	IV群a類土器、 フレイク、原石、 台石、自然礫	曲線的な配列を呈する、大規模な配石遺構		
S-3	III-79	40-3	T-35区	V a層	0.34	0.15	0.04	フレイク、自然礫	小礫 (5cm以下) のまとまり		
S-4	III- 78・79	40-5	Q-44区	H-14覆土	0.68	0.46	0.23	フレイク、 台石、自然礫	H-14覆土に構築、S-5よりも新しい石組炉		
S-5		40-5	Q-44区	H-14覆土	0.44	0.43	0.12	自然礫	H-14覆土に構築、S-4よりも古い石組炉		
S-6	III-79	40-6	N・O-35区	V b層	0.61	0.49	0.75	自然礫	拳大程度の礫のまとまり		

表 7 フレイク・チップ集中一覧表

遺構名	図	図版	グリッド	確認層位	規模 (m)			出土遺物	備考
					長径	短径	厚み		
FC-1	III-81	*	G-45区	V b層	0.80	0.44	0.06	III群a類・IV群a類土器 スクレイパー・フレイク 扁平打製石器・北海道式石冠 石皿・自然礫	



表 8 住居跡出土土器類点数表

H-1

単位・土器分類	Ⅱ群 a 類	Ⅲ群 b 類	Ⅲ群 b-1 類	順位別合計
V b 層	1			1
覆土 1	17	5		22
壁面直	2		5	7
床面直上		69		69
床目 P-2			1	1
分類別合計	20	74	6	100

H-2

単位・土器分類	Ⅱ群 a 類	Ⅲ群 b-1 類	順位別合計
覆土 1	2	6	8
分類別合計	2	6	8

H-3

単位・土器分類	Ⅱ群 b 類	Ⅲ群 a 類	Ⅳ群 a 類	順位別合計
V b 層		1	9	10
V c 層		2		2
覆土 1 上	1	10		11
覆土 1		38	4	42
覆土 1 下		52		52
床面直		3		3
HP-4		1		1
分類別合計	1	107	13	121

H-4

単位・土器分類	Ⅲ群 a 類	順位別合計
覆土 1	6	6
風倒木	1	1
分類別合計	7	7

H-5

単位・土器分類	Ⅱ群 a 類	Ⅲ群 b-1 類	Ⅲ群 b-2 類	Ⅲ群 b 類	Ⅳ群 a 類	順位別合計
覆土 1	3		1			4
覆土 10	25	20				45
覆土 下	7				1	8
覆土 中	22	105	3		3	133
床面直	7	4			1	12
分類別合計	64	129	4	1	4	202

H-8

単位・土器分類	Ⅱ群 b 類	Ⅲ群 a 類	Ⅲ群 b-1 類	Ⅳ群 a 類	順位別合計
V b 層	1	11	17	151	180
覆土 7		1			1
覆土 8			1		1
壁面直				2	2
分類別合計	1	12	18	153	184

H-10

単位・土器分類	Ⅱ群 b 類	Ⅲ群 a 類	Ⅲ群 b 類	Ⅳ群 a 類	順位別合計
V b 層				11	11
風倒木	1	18		22	41
覆土	2			96	98
覆土 1				11	11
床	1	2	1	76	80
分類別合計	4	20	1	216	241

H-15

単位・土器分類	Ⅱ群 a 類	Ⅲ群 b 類	Ⅲ群 b-1 類	Ⅳ群 a 類	順位別合計
覆土 1		1		6	7
覆土 2			3		3
覆土 3	2		1	3	6
床直			37		37
分類別合計	2	1	41	9	53

H-16

単位・土器分類	Ⅱ群 a 類	Ⅲ群 b 類	Ⅲ群 b-1 類	Ⅳ群 a 類	順位別合計
覆土 1		11		29	40
覆土 2	2	3	1	5	11
覆土 3			79		79
床直		1	271		272
分類別合計	2	15	351	34	402

H-17

単位・土器分類	Ⅲ群 b-1 類	Ⅳ群 a 類	順位別合計
覆土 1	1	227	228
覆土 1~床直		304	304
床直		15	15
HP-1覆土		13	13
HP-1覆土		13	13
HP-1埋藏部		5	5
分類別合計	1	559	578

H-18

単位・土器分類	Ⅲ群 b-1 類	Ⅳ群 a 類	順位別合計
覆土 中位	1	90	91
覆土 3		61	61
床直		2	2
HP-1覆土		18	18
分類別合計	1	171	172

H-19

単位・土器分類	Ⅱ群 b 類	Ⅲ群 a 類	Ⅲ群 b 類	Ⅲ群 b-1 類	Ⅳ群 a 類	順位別合計
覆土 1	1	2	3	76	278	360
覆土 2		3	5	21	78	107
覆土 3		1				1
覆土 4			1			1
床直				45		45
分類別合計	1	6	9	142	356	514

H-20

単位・土器分類	Ⅳ群 a 類	順位別合計
覆土 1	1	1
覆土 2	1	1
分類別合計	2	2

表 9-1 土坑出土土器類点数表(1)

P-2

単位・土器分類	Ⅲ群 a 類	順位別合計
覆土 1	13	13

P-4

単位・土器分類	Ⅳ群 a 類	順位別合計
覆土	21	21

P-6

単位・土器分類	Ⅲ群 a 類	順位別合計
覆土 1	3	3

P-10

単位・土器分類	Ⅲ群 a 類	順位別合計
覆土	1	1

P-11

単位・土器分類	Ⅲ群 a 類	Ⅲ群 b-1 類	順位別合計
覆土 4 (即覆土 1)	3	2	5

P-12

単位・土器分類	Ⅲ群 a 類	Ⅲ群 b 類	Ⅳ群 a 類	順位別合計
覆土 1	9	1	40	50
覆土 2	1			1
分類別合計	10	1	40	51

P-13

単位・土器分類	Ⅲ群 a 類	順位別合計
覆土 1	2	2

P-15

単位・土器分類	Ⅳ群 a 類	順位別合計
覆土 1	7	7

P-16

単位・土器分類	Ⅲ群 a 類	Ⅲ群 b 類	Ⅲ群 b-1 類	Ⅳ群 a 類	Ⅵ群	順位別合計
覆土 1	22	21	2	7	1	53

P-17

単位・土器分類	Ⅲ群 a 類	Ⅲ群 b 類	Ⅳ群 a 類	Ⅵ群	順位別合計
覆土	15	2	2	2	21

P-20

単位・土器分類	Ⅲ群 a 類	Ⅲ群 b 類	順位別合計
覆土 1	19	14	33

P-21

単位・土器分類	Ⅲ群 a 類	順位別合計
覆土 1	1	1

P-23

単位・土器分類	Ⅲ群 b-1 類	順位別合計
覆土 1	484	484

P-24

単位・土器分類	Ⅲ群 a 類	順位別合計
覆土 1	4	4

P-26

単位・土器分類	Ⅲ群 a 類	Ⅲ群 b 類	Ⅲ群 b-1 類	Ⅲ群 b-2 類	Ⅳ群 a 類	順位別合計
覆土 1	46	95	1	2	15	159
覆土 2	2					2
底面直	7	3				10
分類別合計	49	98	1	2	15	165

P-27

単位・土器分類	Ⅲ群 b 類	Ⅲ群 b-1 類	順位別合計
覆土 1	2	2	4

P-28

単位・土器分類	Ⅲ群 a 類	Ⅲ群 b 類	順位別合計
覆土 1	7	4	11

P-29

単位・土器分類	Ⅲ群	Ⅲ群 a 類	Ⅲ群 b 類	Ⅵ群	順位別合計
覆土 1	2	16	1	27	46

P-30

単位・土器分類	Ⅲ群 a 類	順位別合計
覆土	2	2

P-31

単位・土器分類	Ⅲ群 a 類	Ⅲ群 b-1 類	Ⅳ群 a 類	順位別合計
覆土	30	1	1	32

表9-2 土坑出土土器類点数表(2)

<b>P-33</b> <table border="1"> <tr><th>部位・土器分類</th><th>Ⅲ群 a 類</th></tr> <tr><td>覆土 1</td><td>2</td></tr> <tr><td>覆土 2</td><td>40</td></tr> <tr><td>分類別合計</td><td>42</td></tr> </table>	部位・土器分類	Ⅲ群 a 類	覆土 1	2	覆土 2	40	分類別合計	42	<b>P-34</b> <table border="1"> <tr><th>部位・土器分類</th><th>Ⅲ群 a 類</th></tr> <tr><td>覆土</td><td>4</td></tr> </table>	部位・土器分類	Ⅲ群 a 類	覆土	4	<b>P-35</b> <table border="1"> <tr><th>部位・土器分類</th><th>Ⅲ群 a 類</th></tr> <tr><td>覆土 7</td><td>1</td></tr> </table>	部位・土器分類	Ⅲ群 a 類	覆土 7	1	<b>P-36</b> <table border="1"> <tr><th>部位・土器分類</th><th>Ⅲ群 b-1 類</th></tr> <tr><td>覆土 2</td><td>5</td></tr> <tr><td>覆土 6</td><td>2</td></tr> <tr><td>分類別合計</td><td>7</td></tr> </table>	部位・土器分類	Ⅲ群 b-1 類	覆土 2	5	覆土 6	2	分類別合計	7	<b>P-37</b> <table border="1"> <tr><th>部位・土器分類</th><th>Ⅲ群 a 類</th></tr> <tr><td>覆土 1</td><td>1</td></tr> </table>	部位・土器分類	Ⅲ群 a 類	覆土 1	1																																																																															
部位・土器分類	Ⅲ群 a 類																																																																																																														
覆土 1	2																																																																																																														
覆土 2	40																																																																																																														
分類別合計	42																																																																																																														
部位・土器分類	Ⅲ群 a 類																																																																																																														
覆土	4																																																																																																														
部位・土器分類	Ⅲ群 a 類																																																																																																														
覆土 7	1																																																																																																														
部位・土器分類	Ⅲ群 b-1 類																																																																																																														
覆土 2	5																																																																																																														
覆土 6	2																																																																																																														
分類別合計	7																																																																																																														
部位・土器分類	Ⅲ群 a 類																																																																																																														
覆土 1	1																																																																																																														
<b>P-38</b> <table border="1"> <tr><th>部位・土器分類</th><th>Ⅲ群 a 類</th></tr> <tr><td>覆土 2</td><td>90</td></tr> <tr><td>底面直</td><td>1</td></tr> <tr><td>分類別合計</td><td>91</td></tr> </table>	部位・土器分類	Ⅲ群 a 類	覆土 2	90	底面直	1	分類別合計	91	<b>P-39</b> <table border="1"> <tr><th>部位・土器分類</th><th>Ⅲ群 a 類</th><th>Ⅲ群 b-1 類</th><th>Ⅳ群 a 類</th><th>部位別合計</th></tr> <tr><td>覆土 1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>3</td></tr> <tr><td>覆土 3</td><td>1</td><td></td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>分類別合計</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>4</td></tr> </table>	部位・土器分類	Ⅲ群 a 類	Ⅲ群 b-1 類	Ⅳ群 a 類	部位別合計	覆土 1	1	1	1	3	覆土 3	1			1	分類別合計	2	1	1	4	<b>P-41</b> <table border="1"> <tr><th>部位・土器分類</th><th>Ⅲ群 a 類</th></tr> <tr><td>覆土</td><td>1</td></tr> </table>	部位・土器分類	Ⅲ群 a 類	覆土	1	<b>P-44</b> <table border="1"> <tr><th>部位・土器分類</th><th>Ⅱ群 b 類</th><th>Ⅲ群 a 類</th><th>Ⅳ群 a 類</th><th>部位別合計</th></tr> <tr><td>覆土</td><td>1</td><td>1</td><td>28</td><td>30</td></tr> <tr><td>覆土 5</td><td></td><td></td><td>16</td><td>16</td></tr> <tr><td>覆土 10</td><td></td><td></td><td>5</td><td>5</td></tr> <tr><td>覆土 13</td><td></td><td></td><td>28</td><td>28</td></tr> <tr><td>覆土 15</td><td></td><td></td><td>2</td><td>2</td></tr> <tr><td>覆土 16</td><td></td><td></td><td>1</td><td>1</td></tr> <tr><td>覆土 18</td><td></td><td>1</td><td>5</td><td>6</td></tr> <tr><td>分類別合計</td><td>1</td><td>2</td><td>85</td><td>88</td></tr> </table>	部位・土器分類	Ⅱ群 b 類	Ⅲ群 a 類	Ⅳ群 a 類	部位別合計	覆土	1	1	28	30	覆土 5			16	16	覆土 10			5	5	覆土 13			28	28	覆土 15			2	2	覆土 16			1	1	覆土 18		1	5	6	分類別合計	1	2	85	88																															
部位・土器分類	Ⅲ群 a 類																																																																																																														
覆土 2	90																																																																																																														
底面直	1																																																																																																														
分類別合計	91																																																																																																														
部位・土器分類	Ⅲ群 a 類	Ⅲ群 b-1 類	Ⅳ群 a 類	部位別合計																																																																																																											
覆土 1	1	1	1	3																																																																																																											
覆土 3	1			1																																																																																																											
分類別合計	2	1	1	4																																																																																																											
部位・土器分類	Ⅲ群 a 類																																																																																																														
覆土	1																																																																																																														
部位・土器分類	Ⅱ群 b 類	Ⅲ群 a 類	Ⅳ群 a 類	部位別合計																																																																																																											
覆土	1	1	28	30																																																																																																											
覆土 5			16	16																																																																																																											
覆土 10			5	5																																																																																																											
覆土 13			28	28																																																																																																											
覆土 15			2	2																																																																																																											
覆土 16			1	1																																																																																																											
覆土 18		1	5	6																																																																																																											
分類別合計	1	2	85	88																																																																																																											
<b>P-47</b> <table border="1"> <tr><th>部位・土器分類</th><th>Ⅲ群 a 類</th><th>Ⅲ群 b 類</th><th>部位別合計</th></tr> <tr><td>覆土 1</td><td>9</td><td>57</td><td>66</td></tr> <tr><td>覆土 2</td><td>2</td><td></td><td>2</td></tr> <tr><td>分類別合計</td><td>11</td><td>57</td><td>68</td></tr> </table>	部位・土器分類	Ⅲ群 a 類	Ⅲ群 b 類	部位別合計	覆土 1	9	57	66	覆土 2	2		2	分類別合計	11	57	68	<b>P-48</b> <table border="1"> <tr><th>部位・土器分類</th><th>Ⅲ群 a 類</th><th>Ⅳ群 a 類</th><th>部位別合計</th></tr> <tr><td>覆土</td><td></td><td>15</td><td>15</td></tr> <tr><td>覆土 4</td><td>2</td><td></td><td>2</td></tr> <tr><td>分類別合計</td><td>2</td><td>15</td><td>17</td></tr> </table>	部位・土器分類	Ⅲ群 a 類	Ⅳ群 a 類	部位別合計	覆土		15	15	覆土 4	2		2	分類別合計	2	15	17	<b>P-53</b> <table border="1"> <tr><th>部位・土器分類</th><th>Ⅲ群 a 類</th><th>Ⅳ群 a 類</th><th>部位別合計</th></tr> <tr><td>覆土</td><td>2</td><td>20</td><td>22</td></tr> </table>	部位・土器分類	Ⅲ群 a 類	Ⅳ群 a 類	部位別合計	覆土	2	20	22	<b>P-54</b> <table border="1"> <tr><th>部位・土器分類</th><th>Ⅲ群 a 類</th></tr> <tr><td>覆土 1</td><td>1</td></tr> </table>	部位・土器分類	Ⅲ群 a 類	覆土 1	1																																																																
部位・土器分類	Ⅲ群 a 類	Ⅲ群 b 類	部位別合計																																																																																																												
覆土 1	9	57	66																																																																																																												
覆土 2	2		2																																																																																																												
分類別合計	11	57	68																																																																																																												
部位・土器分類	Ⅲ群 a 類	Ⅳ群 a 類	部位別合計																																																																																																												
覆土		15	15																																																																																																												
覆土 4	2		2																																																																																																												
分類別合計	2	15	17																																																																																																												
部位・土器分類	Ⅲ群 a 類	Ⅳ群 a 類	部位別合計																																																																																																												
覆土	2	20	22																																																																																																												
部位・土器分類	Ⅲ群 a 類																																																																																																														
覆土 1	1																																																																																																														
<b>P-49</b> <table border="1"> <tr><th>部位・土器分類</th><th>Ⅲ群 a 類</th></tr> <tr><td>覆土</td><td>3</td></tr> </table>	部位・土器分類	Ⅲ群 a 類	覆土	3	<b>P-51</b> <table border="1"> <tr><th>部位・土器分類</th><th>Ⅱ群 b 類</th><th>Ⅲ群 a 類</th><th>Ⅲ群 b-1 類</th><th>Ⅳ群 a 類</th><th>部位別合計</th></tr> <tr><td>覆土上</td><td></td><td></td><td></td><td>2</td><td>2</td></tr> <tr><td>覆土</td><td>4</td><td>1</td><td>4</td><td>87</td><td>96</td></tr> <tr><td>分類別合計</td><td>4</td><td>1</td><td>4</td><td>89</td><td>98</td></tr> </table>	部位・土器分類	Ⅱ群 b 類	Ⅲ群 a 類	Ⅲ群 b-1 類	Ⅳ群 a 類	部位別合計	覆土上				2	2	覆土	4	1	4	87	96	分類別合計	4	1	4	89	98	<b>P-61</b> <table border="1"> <tr><th>部位・土器分類</th><th>Ⅳ群 a 類</th></tr> <tr><td>覆土上位</td><td>27</td></tr> <tr><td>覆土 6</td><td>1</td></tr> <tr><td>分類別合計</td><td>28</td></tr> </table>	部位・土器分類	Ⅳ群 a 類	覆土上位	27	覆土 6	1	分類別合計	28	<b>P-62</b> <table border="1"> <tr><th>部位・土器分類</th><th>Ⅳ群 a 類</th></tr> <tr><td>覆土 1</td><td>7</td></tr> </table>	部位・土器分類	Ⅳ群 a 類	覆土 1	7	<b>P-63</b> <table border="1"> <tr><th>部位・土器分類</th><th>Ⅲ群 a 類</th></tr> <tr><td>覆土</td><td>5</td></tr> </table>	部位・土器分類	Ⅲ群 a 類	覆土	5																																																															
部位・土器分類	Ⅲ群 a 類																																																																																																														
覆土	3																																																																																																														
部位・土器分類	Ⅱ群 b 類	Ⅲ群 a 類	Ⅲ群 b-1 類	Ⅳ群 a 類	部位別合計																																																																																																										
覆土上				2	2																																																																																																										
覆土	4	1	4	87	96																																																																																																										
分類別合計	4	1	4	89	98																																																																																																										
部位・土器分類	Ⅳ群 a 類																																																																																																														
覆土上位	27																																																																																																														
覆土 6	1																																																																																																														
分類別合計	28																																																																																																														
部位・土器分類	Ⅳ群 a 類																																																																																																														
覆土 1	7																																																																																																														
部位・土器分類	Ⅲ群 a 類																																																																																																														
覆土	5																																																																																																														
<b>P-57</b> <table border="1"> <tr><th>部位・土器分類</th><th>Ⅳ群 a 類</th></tr> <tr><td>覆土</td><td>3</td></tr> </table>	部位・土器分類	Ⅳ群 a 類	覆土	3	<b>P-59</b> <table border="1"> <tr><th>部位・土器分類</th><th>Ⅱ群 b 類</th><th>Ⅲ群 a 類</th><th>部位別合計</th></tr> <tr><td>覆土</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td></tr> </table>	部位・土器分類	Ⅱ群 b 類	Ⅲ群 a 類	部位別合計	覆土	1	1	2	<b>P-67</b> <table border="1"> <tr><th>部位・土器分類</th><th>Ⅳ群 a 類</th></tr> <tr><td>覆土 1 (断面図番号1~5)</td><td>21</td></tr> <tr><td>覆土 3 (断面図番号8)</td><td>61</td></tr> <tr><td>覆土 3中(断面図番号8の位)</td><td>7</td></tr> <tr><td>覆土 4 上(断面図番号11)</td><td>10</td></tr> <tr><td>分類別合計</td><td>99</td></tr> </table>	部位・土器分類	Ⅳ群 a 類	覆土 1 (断面図番号1~5)	21	覆土 3 (断面図番号8)	61	覆土 3中(断面図番号8の位)	7	覆土 4 上(断面図番号11)	10	分類別合計	99	<b>P-71</b> <table border="1"> <tr><th>部位・土器分類</th><th>Ⅲ群 b 類</th><th>Ⅲ群 b-1 類</th><th>Ⅳ群 a 類</th><th>部位別合計</th></tr> <tr><td>覆土 3</td><td>1</td><td>17</td><td>1</td><td>19</td></tr> <tr><td>覆土 6</td><td>7</td><td>27</td><td></td><td>34</td></tr> <tr><td>壙底部</td><td>1</td><td>1</td><td></td><td>2</td></tr> <tr><td>分類別合計</td><td>9</td><td>45</td><td>1</td><td>55</td></tr> </table>	部位・土器分類	Ⅲ群 b 類	Ⅲ群 b-1 類	Ⅳ群 a 類	部位別合計	覆土 3	1	17	1	19	覆土 6	7	27		34	壙底部	1	1		2	分類別合計	9	45	1	55																																																											
部位・土器分類	Ⅳ群 a 類																																																																																																														
覆土	3																																																																																																														
部位・土器分類	Ⅱ群 b 類	Ⅲ群 a 類	部位別合計																																																																																																												
覆土	1	1	2																																																																																																												
部位・土器分類	Ⅳ群 a 類																																																																																																														
覆土 1 (断面図番号1~5)	21																																																																																																														
覆土 3 (断面図番号8)	61																																																																																																														
覆土 3中(断面図番号8の位)	7																																																																																																														
覆土 4 上(断面図番号11)	10																																																																																																														
分類別合計	99																																																																																																														
部位・土器分類	Ⅲ群 b 類	Ⅲ群 b-1 類	Ⅳ群 a 類	部位別合計																																																																																																											
覆土 3	1	17	1	19																																																																																																											
覆土 6	7	27		34																																																																																																											
壙底部	1	1		2																																																																																																											
分類別合計	9	45	1	55																																																																																																											
<b>P-65</b> <table border="1"> <tr><th>部位・土器分類</th><th>Ⅳ群 a 類</th></tr> <tr><td>覆土 1</td><td>1</td></tr> </table>	部位・土器分類	Ⅳ群 a 類	覆土 1	1	<b>P-66</b> <table border="1"> <tr><th>部位・土器分類</th><th>Ⅳ群 a 類</th></tr> <tr><td>覆土 1</td><td>4</td></tr> </table>	部位・土器分類	Ⅳ群 a 類	覆土 1	4	<b>P-73</b> <table border="1"> <tr><th>部位・土器分類</th><th>Ⅳ群 a 類</th></tr> <tr><td>覆土 1</td><td>3</td></tr> <tr><td>覆土下位</td><td>3</td></tr> <tr><td>覆土上位</td><td>73</td></tr> <tr><td>覆土中位</td><td>27</td></tr> <tr><td>壙底部</td><td>2</td></tr> <tr><td>分類別合計</td><td>108</td></tr> </table>	部位・土器分類	Ⅳ群 a 類	覆土 1	3	覆土下位	3	覆土上位	73	覆土中位	27	壙底部	2	分類別合計	108	<b>P-74</b> <table border="1"> <tr><th>部位・土器分類</th><th>Ⅲ群 b 類</th><th>Ⅳ群 a 類</th><th>部位別合計</th></tr> <tr><td>覆土 3</td><td>1</td><td>16</td><td>17</td></tr> </table>	部位・土器分類	Ⅲ群 b 類	Ⅳ群 a 類	部位別合計	覆土 3	1	16	17	<b>P-77</b> <table border="1"> <tr><th>部位・土器分類</th><th>Ⅳ群 a 類</th></tr> <tr><td>壙底部</td><td>1</td></tr> <tr><td>覆土 6</td><td>11</td></tr> <tr><td>覆土 7</td><td>3</td></tr> <tr><td>覆土上位</td><td>9</td></tr> <tr><td>覆土中位</td><td>1</td></tr> <tr><td>分類別合計</td><td>25</td></tr> </table>	部位・土器分類	Ⅳ群 a 類	壙底部	1	覆土 6	11	覆土 7	3	覆土上位	9	覆土中位	1	分類別合計	25																																																															
部位・土器分類	Ⅳ群 a 類																																																																																																														
覆土 1	1																																																																																																														
部位・土器分類	Ⅳ群 a 類																																																																																																														
覆土 1	4																																																																																																														
部位・土器分類	Ⅳ群 a 類																																																																																																														
覆土 1	3																																																																																																														
覆土下位	3																																																																																																														
覆土上位	73																																																																																																														
覆土中位	27																																																																																																														
壙底部	2																																																																																																														
分類別合計	108																																																																																																														
部位・土器分類	Ⅲ群 b 類	Ⅳ群 a 類	部位別合計																																																																																																												
覆土 3	1	16	17																																																																																																												
部位・土器分類	Ⅳ群 a 類																																																																																																														
壙底部	1																																																																																																														
覆土 6	11																																																																																																														
覆土 7	3																																																																																																														
覆土上位	9																																																																																																														
覆土中位	1																																																																																																														
分類別合計	25																																																																																																														
<b>P-68</b> <table border="1"> <tr><th>部位・土器分類</th><th>Ⅳ群 a 類</th></tr> <tr><td>覆土 1</td><td>26</td></tr> </table>	部位・土器分類	Ⅳ群 a 類	覆土 1	26	<b>P-70</b> <table border="1"> <tr><th>部位・土器分類</th><th>Ⅳ群 a 類</th></tr> <tr><td>覆土 1</td><td>4</td></tr> </table>	部位・土器分類	Ⅳ群 a 類	覆土 1	4	<b>P-75</b> <table border="1"> <tr><th>部位・土器分類</th><th>Ⅳ群 a 類</th></tr> <tr><td>覆土 1</td><td>28</td></tr> </table>	部位・土器分類	Ⅳ群 a 類	覆土 1	28	<b>P-76</b> <table border="1"> <tr><th>部位・土器分類</th><th>Ⅳ群 a 類</th></tr> <tr><td>覆土 1</td><td>45</td></tr> </table>	部位・土器分類	Ⅳ群 a 類	覆土 1	45																																																																																												
部位・土器分類	Ⅳ群 a 類																																																																																																														
覆土 1	26																																																																																																														
部位・土器分類	Ⅳ群 a 類																																																																																																														
覆土 1	4																																																																																																														
部位・土器分類	Ⅳ群 a 類																																																																																																														
覆土 1	28																																																																																																														
部位・土器分類	Ⅳ群 a 類																																																																																																														
覆土 1	45																																																																																																														
<b>P-72</b> <table border="1"> <tr><th>部位・土器分類</th><th>Ⅲ群 a 類</th><th>Ⅲ群 b-1 類</th><th>Ⅳ群 a 類</th><th>部位別合計</th></tr> <tr><td>覆土 1</td><td></td><td></td><td>78</td><td>78</td></tr> <tr><td>覆土 2</td><td>1</td><td>1</td><td>25</td><td>27</td></tr> <tr><td>分類別合計</td><td>1</td><td>1</td><td>103</td><td>105</td></tr> </table>	部位・土器分類	Ⅲ群 a 類	Ⅲ群 b-1 類	Ⅳ群 a 類	部位別合計	覆土 1			78	78	覆土 2	1	1	25	27	分類別合計	1	1	103	105	<b>P-79</b> <table border="1"> <tr><th>部位・土器分類</th><th>Ⅲ群 a 類</th><th>Ⅳ群 a 類</th><th>部位別合計</th></tr> <tr><td>覆土 1</td><td>1</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>覆土中位</td><td>3</td><td>36</td><td>39</td></tr> <tr><td>覆土 2</td><td></td><td>49</td><td>49</td></tr> <tr><td>覆土 3</td><td></td><td>3</td><td>3</td></tr> <tr><td>覆土上位</td><td></td><td>9</td><td>9</td></tr> <tr><td>覆土下位</td><td></td><td>10</td><td>10</td></tr> <tr><td>分類別合計</td><td>4</td><td>107</td><td>111</td></tr> </table>	部位・土器分類	Ⅲ群 a 類	Ⅳ群 a 類	部位別合計	覆土 1	1		1	覆土中位	3	36	39	覆土 2		49	49	覆土 3		3	3	覆土上位		9	9	覆土下位		10	10	分類別合計	4	107	111	<b>P-80</b> <table border="1"> <tr><th>部位・土器分類</th><th>Ⅳ群 a 類</th><th>Ⅱ群 b 類</th><th>部位別合計</th></tr> <tr><td>覆土上位</td><td>49</td><td>1</td><td>50</td></tr> <tr><td>覆土 3 下</td><td>11</td><td></td><td>11</td></tr> <tr><td>覆土 3</td><td>80</td><td></td><td>80</td></tr> <tr><td>分類別合計</td><td>140</td><td>1</td><td>141</td></tr> </table>	部位・土器分類	Ⅳ群 a 類	Ⅱ群 b 類	部位別合計	覆土上位	49	1	50	覆土 3 下	11		11	覆土 3	80		80	分類別合計	140	1	141	<b>P-81</b> <table border="1"> <tr><th>部位・土器分類</th><th>Ⅲ群 a 類</th><th>Ⅲ群 b 類</th><th>Ⅲ群 b-1 類</th><th>Ⅳ群 a 類</th><th>部位別合計</th></tr> <tr><td>覆土上位</td><td>1</td><td>10</td><td>1</td><td>34</td><td>46</td></tr> <tr><td>後土中(覆土 8 層)</td><td></td><td></td><td>1</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>覆土中位</td><td></td><td></td><td></td><td>4</td><td>4</td></tr> <tr><td>覆土下位</td><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td>3</td></tr> <tr><td>分類別合計</td><td>4</td><td>10</td><td>2</td><td>38</td><td>54</td></tr> </table>	部位・土器分類	Ⅲ群 a 類	Ⅲ群 b 類	Ⅲ群 b-1 類	Ⅳ群 a 類	部位別合計	覆土上位	1	10	1	34	46	後土中(覆土 8 層)			1		1	覆土中位				4	4	覆土下位	3				3	分類別合計	4	10	2	38	54
部位・土器分類	Ⅲ群 a 類	Ⅲ群 b-1 類	Ⅳ群 a 類	部位別合計																																																																																																											
覆土 1			78	78																																																																																																											
覆土 2	1	1	25	27																																																																																																											
分類別合計	1	1	103	105																																																																																																											
部位・土器分類	Ⅲ群 a 類	Ⅳ群 a 類	部位別合計																																																																																																												
覆土 1	1		1																																																																																																												
覆土中位	3	36	39																																																																																																												
覆土 2		49	49																																																																																																												
覆土 3		3	3																																																																																																												
覆土上位		9	9																																																																																																												
覆土下位		10	10																																																																																																												
分類別合計	4	107	111																																																																																																												
部位・土器分類	Ⅳ群 a 類	Ⅱ群 b 類	部位別合計																																																																																																												
覆土上位	49	1	50																																																																																																												
覆土 3 下	11		11																																																																																																												
覆土 3	80		80																																																																																																												
分類別合計	140	1	141																																																																																																												
部位・土器分類	Ⅲ群 a 類	Ⅲ群 b 類	Ⅲ群 b-1 類	Ⅳ群 a 類	部位別合計																																																																																																										
覆土上位	1	10	1	34	46																																																																																																										
後土中(覆土 8 層)			1		1																																																																																																										
覆土中位				4	4																																																																																																										
覆土下位	3				3																																																																																																										
分類別合計	4	10	2	38	54																																																																																																										
<b>P-82</b> <table border="1"> <tr><th>部位・土器分類</th><th>Ⅲ群 b 類</th><th>Ⅳ群 a 類</th><th>部位別合計</th></tr> <tr><td>覆土中位</td><td>1</td><td>5</td><td>6</td></tr> </table>	部位・土器分類	Ⅲ群 b 類	Ⅳ群 a 類	部位別合計	覆土中位	1	5	6	<b>P-83</b> <table border="1"> <tr><th>部位・土器分類</th><th>Ⅲ群 b-1 類</th></tr> <tr><td>覆土 1</td><td>8</td></tr> <tr><td>覆土 2</td><td>2</td></tr> <tr><td>分類別合計</td><td>10</td></tr> </table>	部位・土器分類	Ⅲ群 b-1 類	覆土 1	8	覆土 2	2	分類別合計	10	<b>P-84</b> <table border="1"> <tr><th>部位・土器分類</th><th>Ⅱ群 b 類</th><th>Ⅲ群 b 類</th><th>Ⅲ群 b-1 類</th><th>Ⅳ群 a 類</th><th>部位別合計</th></tr> <tr><td>覆土上位</td><td></td><td>1</td><td>1</td><td>31</td><td>33</td></tr> <tr><td>覆土中位</td><td>1</td><td></td><td></td><td>62</td><td>63</td></tr> <tr><td>分類別合計</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>93</td><td>96</td></tr> </table>	部位・土器分類	Ⅱ群 b 類	Ⅲ群 b 類	Ⅲ群 b-1 類	Ⅳ群 a 類	部位別合計	覆土上位		1	1	31	33	覆土中位	1			62	63	分類別合計	1	1	1	93	96																																																																					
部位・土器分類	Ⅲ群 b 類	Ⅳ群 a 類	部位別合計																																																																																																												
覆土中位	1	5	6																																																																																																												
部位・土器分類	Ⅲ群 b-1 類																																																																																																														
覆土 1	8																																																																																																														
覆土 2	2																																																																																																														
分類別合計	10																																																																																																														
部位・土器分類	Ⅱ群 b 類	Ⅲ群 b 類	Ⅲ群 b-1 類	Ⅳ群 a 類	部位別合計																																																																																																										
覆土上位		1	1	31	33																																																																																																										
覆土中位	1			62	63																																																																																																										
分類別合計	1	1	1	93	96																																																																																																										
<b>P-85</b> <table border="1"> <tr><th>部位・土器分類</th><th>Ⅱ群 b 類</th><th>Ⅲ群 b 類</th><th>Ⅳ群 a 類</th><th>部位別合計</th></tr> <tr><td>覆土上位</td><td></td><td>10</td><td>11</td><td>21</td></tr> <tr><td>覆土中位</td><td>1</td><td>1</td><td>12</td><td>14</td></tr> <tr><td>覆土下位</td><td></td><td></td><td>7</td><td>7</td></tr> <tr><td>壙底部</td><td></td><td></td><td>1</td><td>1</td></tr> <tr><td>分類別合計</td><td>1</td><td>11</td><td>31</td><td>43</td></tr> </table>	部位・土器分類	Ⅱ群 b 類	Ⅲ群 b 類	Ⅳ群 a 類	部位別合計	覆土上位		10	11	21	覆土中位	1	1	12	14	覆土下位			7	7	壙底部			1	1	分類別合計	1	11	31	43	<b>P-86</b> <table border="1"> <tr><th>部位・土器分類</th><th>Ⅲ群 b-1 類</th></tr> <tr><td>覆土 1</td><td>7</td></tr> </table>	部位・土器分類	Ⅲ群 b-1 類	覆土 1	7	<b>P-87</b> <table border="1"> <tr><th>部位・土器分類</th><th>Ⅳ群 a 類</th></tr> <tr><td>覆土 1</td><td>1</td></tr> </table>	部位・土器分類	Ⅳ群 a 類	覆土 1	1																																																																							
部位・土器分類	Ⅱ群 b 類	Ⅲ群 b 類	Ⅳ群 a 類	部位別合計																																																																																																											
覆土上位		10	11	21																																																																																																											
覆土中位	1	1	12	14																																																																																																											
覆土下位			7	7																																																																																																											
壙底部			1	1																																																																																																											
分類別合計	1	11	31	43																																																																																																											
部位・土器分類	Ⅲ群 b-1 類																																																																																																														
覆土 1	7																																																																																																														
部位・土器分類	Ⅳ群 a 類																																																																																																														
覆土 1	1																																																																																																														

表11 小土坑出土土器類点数表

<b>S P-1</b> <table border="1"> <tr><th>部位・土器分類</th><th>Ⅲ群 a 類</th><th>Ⅳ群 a 類</th><th>部位別合計</th></tr> <tr><td>覆土</td><td>2</td><td>1</td><td>3</td></tr> </table>	部位・土器分類	Ⅲ群 a 類	Ⅳ群 a 類	部位別合計	覆土	2	1	3
部位・土器分類	Ⅲ群 a 類	Ⅳ群 a 類	部位別合計					
覆土	2	1	3					

表10 焼土出土土器類点数表

<b>F-1</b> <table border="1"> <tr><th>部位・土器分類</th><th>Ⅲ群 a 類</th><th>Ⅲ群 b 類</th><th>Ⅳ群 a 類</th><th>Ⅵ群</th><th>部位別合計</th></tr> <tr><td>V a 層</td><td></td><td></td><td>1</td><td>81</td><td>82</td></tr> <tr><td>V b 層</td><td>6</td><td>418</td><td>46</td><td></td><td>470</td></tr> <tr><td>分類別合計</td><td>6</td><td>418</td><td>47</td><td>81</td><td>552</td></tr> </table>	部位・土器分類	Ⅲ群 a 類	Ⅲ群 b 類	Ⅳ群 a 類	Ⅵ群	部位別合計	V a 層			1	81	82	V b 層	6	418	46		470	分類別合計	6	418	47	81	552	<b>F-3</b> <table border="1"> <tr><th>部位・土器分類</th><th>Ⅳ群 a 類</th><th>Ⅵ群</th><th>部位別合計</th></tr> <tr><td>V a 層</td><td>1</td><td>39</td><td>40</td></tr> </table>	部位・土器分類	Ⅳ群 a 類	Ⅵ群	部位別合計	V a 層	1	39	40	<b>F-4</b> <table border="1"> <tr><th>部位・土器分類</th><th>Ⅳ群 a 類</th></tr> <tr><td>V a 層</td><td>1</td></tr> </table>	部位・土器分類	Ⅳ群 a 類	V a 層	1
部位・土器分類	Ⅲ群 a 類	Ⅲ群 b 類	Ⅳ群 a 類	Ⅵ群	部位別合計																																	
V a 層			1	81	82																																	
V b 層	6	418	46		470																																	
分類別合計	6	418	47	81	552																																	
部位・土器分類	Ⅳ群 a 類	Ⅵ群	部位別合計																																			
V a 層	1	39	40																																			
部位・土器分類	Ⅳ群 a 類																																					
V a 層	1																																					
<b>F-5</b> <table border="1"> <tr><th>部位・土器分類</th><th>Ⅳ群 a 類</th></tr> <tr><td>V b 層</td><td>1</td></tr> </table>	部位・土器分類	Ⅳ群 a 類	V b 層	1	<b>F-7</b> <table border="1"> <tr><th>部位・土器分類</th><th>Ⅲ群 b 類</th><th>Ⅳ群 a 類</th><th>部位別合計</th></tr> <tr><td>V a 層</td><td>1</td><td>12</td><td>13</td></tr> </table>	部位・土器分類	Ⅲ群 b 類	Ⅳ群 a 類	部位別合計	V a 層	1	12	13	<b>F-15</b> <table border="1"> <tr><th>部位・土器分類</th><th>Ⅵ群</th></tr> <tr><td>V b 層</td><td>2</td></tr> </table>	部位・土器分類	Ⅵ群	V b 層	2																				
部位・土器分類	Ⅳ群 a 類																																					
V b 層	1																																					
部位・土器分類	Ⅲ群 b 類	Ⅳ群 a 類	部位別合計																																			
V a 層	1	12	13																																			
部位・土器分類	Ⅵ群																																					
V b 層	2																																					
<b>F-7/8 間</b> <table border="1"> <tr><th>部位・土器分類</th><th>Ⅵ群</th></tr> <tr><td>V a 層</td><td>67</td></tr> </table>	部位・土器分類	Ⅵ群	V a 層	67																																		
部位・土器分類	Ⅵ群																																					
V a 層	67																																					

表12 礫集中・配石遺構出土土器類点数表

<b>S-1</b> <table border="1"> <tr><th>部位・土器分類</th><th>Ⅳ群 a 類</th></tr> <tr><td>上部黒色土中</td><td>2</td></tr> <tr><td>覆土 1</td><td>1</td></tr> <tr><td>覆土 2</td><td>1</td></tr> <tr><td>覆土 4</td><td>3</td></tr> <tr><td>分類別合計</td><td>7</td></tr> </table>	部位・土器分類	Ⅳ群 a 類	上部黒色土中	2	覆土 1	1	覆土 2	1	覆土 4	3	分類別合計	7	<b>S-2</b> <table border="1"> <tr><th>部位・土器分類</th><th>Ⅳ群 a 類</th></tr> <tr><td>V 2層</td><td>58</td></tr> </table>	部位・土器分類	Ⅳ群 a 類	V 2層	58
部位・土器分類	Ⅳ群 a 類																
上部黒色土中	2																
覆土 1	1																
覆土 2	1																
覆土 4	3																
分類別合計	7																
部位・土器分類	Ⅳ群 a 類																
V 2層	58																

表13 フレイクチップ集中出土土器類点数表

<b>F C-1</b> <table border="1"> <tr><th>部位・土器分類</th><th>Ⅲ群 a 類</th><th>Ⅳ群 a 類</th><th>部位別合計</th></tr> <tr><td>V b 層</td><td>4</td><td>2</td><td>6</td></tr> </table>	部位・土器分類	Ⅲ群 a 類	Ⅳ群 a 類	部位別合計	V b 層	4	2	6
部位・土器分類	Ⅲ群 a 類	Ⅳ群 a 類	部位別合計					
V b 層	4	2	6					

表14 住居跡出土石器類点数表

遺構名			H-1				H-2				H-3				H-4				H-5				合計		
群	遺物種別/層位		床面 付属遺構	覆土	その他	小計	床面 付属遺構	覆土	その他	小計	床面 付属遺構	覆土	その他	小計	床面 付属遺構	覆土	その他	小計	床面 付属遺構	覆土	その他	小計			
	器種	残存状態																							
剥片石器群	石鏃			1		1			0					0				0			1		1	2	
	石槍・ナイフ					0		1	1		1			1				0			0		0	2	
	石鏃					0			0					0				0			0		0	0	
	つまみ付きナイフ					0			0					0				0			0		0	0	
	スクレイパー					0			1					2				1	1	2		2		2	16
	U・Rフレイク					0			0					0					0		0		0	0	
	ピエスエスキュー					0			0					1					0		0		0	1	
	石核					0			0					0					0		0		0	0	
	フレイク・チップ					0			4		4	7	15	3	25	2	3	29	34		6		6	150	
原石					1			0		1			1				0			0		0	2		
剥片石器群合計					4	25	63	92	1	5	0	6	8	17	5	30	2	4	30	36	0	9	0	9	173
磨製石器群	磨製石斧					0			0					0				0		0		0	0	0	
	擦切残片					0			0					0				0		0		0	0	0	
	研磨石材					0			0					0				0		0		0	0	0	
	原石					0			0					0				0		0		0	0	0	
	磨製石器群合計					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
礫石器群	扁平打製石器(すり石)					1	1	2	0		2	2	1	5			1	1		1		1	9		
	北海道式石冠(すり石)					1		1	0		0		3	1		4		2				2	7		
	すり石(その他)					1		1	0		1		1			0						0	2		
	たたき石					0		0	0		0		0			0		0		0		0	0		
	石鏃					0		0	0		0		0			0		0		0		0	0		
	石鏃					1		1	0		0		0			0		0		0		0	1		
	砥石					0		0	0		0		0			0		0		0		0	0		
	台石・石皿					0		0	0		0		0			0		0		1		1	1		
	礫石器群(石器)合計					0	3	2	5	0	0	0	2	3	1	6	3	1	1	5	0	4	0	4	20
	石製品					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自然礫					5	23	1	29	1	0	0	1	2	25	8	35	2	6	1	9	0	2,160	0	2,160	2,234
合計							126					7			71				50			2,173		2,427	

遺構名			H-6				H-7				H-8				H-9				H-10				合計			
群	遺物種別/層位		床面 付属遺構	覆土	その他	小計	床面 付属遺構	覆土	その他	小計	床面 付属遺構	覆土	その他	小計	床面 付属遺構	覆土	その他	小計	床面 付属遺構	覆土	その他	小計				
	器種	残存状態																								
剥片石器群	石鏃					0			0					0	1			1				0	1			
	石槍・ナイフ					0			0					0				0				0	0			
	石鏃					0			0					0	1			1				0	1			
	つまみ付きナイフ					0			0					0				0				0	0			
	スクレイパー					0			1		1			3	3	1	2		3				0	7		
	U・Rフレイク					0			0		0			0	4	3		7			2		2	9		
	ピエスエスキュー					0			0		0			0				0				0	0			
	石核					0			0		0			0				1		1		1	2	3		
	フレイク・チップ					0			19		19	3	1	36	40	7	21		28	3	5	8	16	104		
原石					0			0		0			1	1			0		0		0	0	1			
剥片石器群合計					0	1	0	1	0	20	0	20	3	1	40	44	14	27	0	41	3	8	10	21	127	
磨製石器群	磨製石斧					0			2		2		1	1				0		0		0	3			
	擦切残片					0			0		0			0				0		0		0	0			
	研磨石材					0			0		0			0				0		0		0	0			
	原石					0			0		0			0				0		0		0	0			
	磨製石器群合計					0	0	0	0	0	2	0	2	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	3		
礫石器群	扁平打製石器(すり石)					0			0		0		2	2				0		1		1	3			
	北海道式石冠(すり石)					0			1		1	2	1	4				0				0	5			
	すり石(その他)					0			0		0		0					0				0	0			
	たたき石					0			0		0		1	1		2		2				0	3			
	石鏃					0			0		0		0					0		0		0	0			
	石鏃					0			0		0		0					0		0		0	0			
	砥石					0			0		0		1	2	3			0	1			1	4			
	台石・石皿					0			0		0		1	1	1			1				0	2			
	礫石器群(石器)合計					0	0	0	0	0	1	0	1	2	2	7	11	1	2	0	3	1	1	0	2	17
	石製品					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
自然礫					1	11	0	12	0	42	0	42	3	6	125	134	5	16	0	21	15	8	5	28	237	
合計							13					65			190				65			51		384		

遺構名			H-11				H-12				H-14				H-15				H-16				合計		
群	遺物種別/層位		床面 付属遺構	覆土	その他	小計	床面 付属遺構	覆土	その他	小計	床面 付属遺構	覆土	その他	小計	床面 付属遺構	覆土	その他	小計	床面 付属遺構	覆土	その他	小計			
	器種	残存状態																							
剥片石器群	石鏃					0			0		1	2		3			1		1			0	4		
	石槍・ナイフ					0			0					0				0		0		0	0		
	石鏃					0			0			1		1				0		0		0	1		
	つまみ付きナイフ					0			0					0					0		1		1		
	スクレイパー					0			1		1	6		7					0		4		4	12	
	U・Rフレイク					0			0		4	20		24				2		2		2		2	28
	ピエスエスキュー					0			0		0			0					0		0		0	0	
	石核					0			1		1		4		4				0		0		0	5	
	フレイク・チップ					0			2		1	3	139		142		5	8		13		2		2	160
原石					0			0		0		5		5				0		0		0	5		
剥片石器群合計					0	2	0	2	1	2	0	3	9	177	0	186	5	11	0	16	0	9	0	9	216
磨製石器群	磨製石斧					0	1		1		2		2					0		0		0	3		
	擦切残片					0			0		0			0				0		0		0	0		
	研磨石材					0			0		0			0				0		0		0	0		
	原石					0			0		0			0				0		0		0	0		
	磨製石器群合計	</																							

遺構名			H-17			H-18			H-19			H-20			合計	住居跡 合計	
群	遺物種別/層位 器種	残存状態	床面 付属遺構	覆土	その他	小計	床面 付属遺構	覆土	その他	小計	床面 付属遺構	覆土	その他	小計			
剥片石器群	石鏃			0		0				0				0	7		
	石槍・ナイフ			0		0				0				0	2		
	石錐			0		0				0				0	2		
	つまみ付きナイフ			0		0				0				0	1		
	スクレイパー			0		0				0			1	2	37		
	U・Rフレイク	1	2	3		1	1			6			1	11	48		
	ピエスエスキュー			0						0				0	1		
	石核			1		1				3				3	5		
フレイク・チップ	2	19	21	1	10	11			20				20	52			
原石		1	1			0			1				1	2	10		
剥片石器群合計		3	23	0	26	1	12	0	13	0	31	0	2	0	72	588	
磨製石器群	磨製石斧		1		1	1				1				0	2	8	
	擦切残片				0					0				0	0	0	
	研磨石材				0					0				0	0	0	
	原石				0					0				0	0	0	
磨製石器群合計		0	1	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	2	8	
礫石器群	扁平打製石器(すり石)				0					0				0	0	30	
	北海道式石冠(すり石)				0					0				0	0	12	
	すり石(その他)				0					0				0	0	2	
	たたき石				0					0				1	1	6	
	石鏃				0					0				0	0	0	
	石錐				0					0				0	0	1	
	石鏃				0					0				0	0	6	
	磁石				0					0				0	0	22	
台石・石皿		2		2		3		3						5	22		
礫石器群(石器)合計		0	2	0	2	0	3	0	3	0	1	0	1	0	6	79	
石製品		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	
自然礫	18	47	0	65	12	56	0	68	4	74	0	78	0	1	0	212	3,266
合計				94				85						3		292	3,948

表15 土坑出土石器類点数表

遺構名			P-1		P-2		P-3		P-4		P-5		P-6		P-7		P-8		P-10		P-11		合計	
群	遺物種別/層位 器種	残存状態	覆土	小計	覆土	小計	覆土	小計	覆土	小計	覆土	小計	覆土	小計	覆土	小計	覆土	小計	覆土	小計	覆土	小計		
剥片石器群	石鏃		0	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	0	
	石槍・ナイフ		0	0		0	1	1		0		0		0		0		0		0		0	1	
	石錐		0	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	0	
	つまみ付きナイフ		0	0		0		0		0		0		0		0		0		1	1	0	1	
	スクレイパー		0	0		0		0		0		0	1	1		0		0		0		0	1	
	U・Rフレイク		0	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	0	
	石核		0	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	0	
	ピエスエスキュー		0	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	0	
フレイク・チップ		0	6		6		0	1	1		0		0	1	1		0	1	1		1	0	9	
原石		0	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	0	0	
剥片石器群合計		0	0	6	6	1	1	1	1	0	0	1	1	1	1	0	0	2	2	0	0	0	12	
磨製石器群	磨製石斧		0	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	0	0
	擦切残片		0	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	0	0
	研磨石材		0	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	0	0
	原石		0	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	0	0
磨製石器群合計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
礫石器群	扁平打製石器(すり石)		0	0		0		0		0		0		0		0		0		0		1	1	1
	北海道式石冠(すり石)		0	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	0	0
	たたき石		0	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	0	0
	石鏃		0	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	0	0
	石錐		0	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	0	0
	石鏃		0	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	0	0
	磁石		0	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	0	0
	台石・石皿		0	0		0		0		0	1	1		0		0		0		0		0	0	1
礫石器群(石器)合計		0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	
石製品		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自然礫	121	121	2	2	1	1	1	1	1	1	7	7	4	4	10	10	0	0	3	3			150	
合計		121		8		2		2		2		8		5		10		2		4			164	

遺構名			P-12		P-13		P-14		P-15		P-16		P-17		P-18		P-20		P-21		合計		
群	遺物種別/層位 器種	残存状態	覆土	小計	覆土	小計	覆土	小計	覆土	小計	覆土	小計	覆土	小計	覆土	坑底面	小計	覆土	小計				
剥片石器群	石鏃		1	1		0	1	1		0		0		0		0		0		0		2	
	石槍・ナイフ		0	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	
	石錐		0	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	
	つまみ付きナイフ		0	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	
	スクレイパー		0	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	
	U・Rフレイク		0	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	
	石核		0	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	
	ピエスエスキュー		0	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	
フレイク・チップ		4	4		0	2	2		0	11	11	2	2	79	79	1	3	4		0		103	
原石		0	0		0		0		0		2	2		0			0		0		0	2	
剥片石器群合計		5	5	0	0	3	3	0	0	11	11	4	4	79	79	1	3	4	0	0	0	107	
磨製石器群	磨製石斧		0	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	0
	擦切残片		0	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	0
	研磨石材		0	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	0
	原石		0	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	0
磨製石器群合計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
礫石器群	扁平打製石器(すり石)		0	0		0		0		0	2	2	1	1		0		1	1		0	0	4
	北海道式石冠(すり石)		0	0		0		0		0		0		0		0		1	1		0	1	
	たたき石		0	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	0
	石鏃		0	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	0
	石錐		0	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	0
	石鏃		0	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	0
	磁石		0	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	0
	台石・石皿		0	0		0		0		0													





遺構名		P-55		P-57		P-58		P-59		P-61		P-65		P-66		P-67		P-68		P-69		合計
群	遺物種別/層位	覆土	小計	覆土	小計	覆土	小計	覆土	小計	覆土	小計	覆土	小計	覆土	小計	覆土	小計	覆土	小計	覆土	小計	
剥片石器群	器種																					
	石鏃	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	石槍・ナイフ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	石錐	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	つまみ付きナイフ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	スクレイパー	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	U・Rフレイク	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1
	石核	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ピエスエスキュー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	フレイク・チップ	0	0	0	1	1	0	0	6	6	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	8
原石	1	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
剥片石器群合計		2	2	0	0	1	1	1	1	7	7	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	13
磨製石器群	磨製石斧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	擦切残片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	研磨石材	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	原石	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	磨製石器群合計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
礫石器群	扁平打製石器(すり石)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1
	北海道式石冠(すり石)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	たたき石	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	石鋸	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	石錘	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	砥石	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	台石・石皿	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
	礫石器群(石器)合計		0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	3
石製品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自然礫	1	1	1	1	1	1	2	2	4	4	2	2	1	1	13	13	3	3	5	5	5	33
合計		3	3	1	1	2	2	3	3	12	12	2	2	1	1	15	15	3	3	7	7	49

遺構名		P-70		P-71		P-72		P-73		P-74		P-76		P-77		P-79		P-80		P-81		合計
群	遺物種別/層位	覆土	小計	覆土	小計	覆土	小計	覆土	小計	覆土	小計	覆土	小計	覆土	小計	覆土	小計	覆土	小計	覆土	小計	
剥片石器群	器種																					
	石鏃	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1	1	3
	石槍・ナイフ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	石錐	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	つまみ付きナイフ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1
	スクレイパー	0	0	2	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	0	6
	U・Rフレイク	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	0	0	0	5
	石核	0	0	0	2	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	ピエスエスキュー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	フレイク・チップ	0	0	0	23	23	7	7	2	2	0	0	1	1	7	7	5	5	10	10	10	55
原石	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	3	
剥片石器群合計		0	0	2	2	31	31	9	9	2	2	0	0	2	2	11	11	6	6	13	13	76
磨製石器群	磨製石斧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	擦切残片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	研磨石材	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	原石	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	磨製石器群合計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
礫石器群	扁平打製石器(すり石)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	北海道式石冠(すり石)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	たたき石	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	2
	石鋸	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	石錘	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	砥石	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	台石・石皿	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3	3	1	1	0	0	0	0	0	5
	礫石器群(石器)合計		0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	4	4	2	2	0	0	0	0	0	7
石製品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	
自然礫	1	1	6	6	34	34	26	26	7	7	2	2	45	45	28	28	44	44	17	17	210	
合計		1	1	9	9	65	65	35	35	9	9	2	2	51	51	41	41	51	51	30	30	294

遺構名		P-82		P-83		P-84		P-85		P-86		P-87		合計	土坑 合計
群	遺物種別/層位	覆土	小計	覆土	小計	覆土	小計	覆土	小計	覆土	小計	覆土	小計		
剥片石器群	器種														
	石鏃	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
	石槍・ナイフ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	石錐	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	つまみ付きナイフ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	スクレイパー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15
	U・Rフレイク	0	0	2	2	0	0	3	3	0	0	0	0	0	11
	石核	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	ピエスエスキュー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	フレイク・チップ	1	1	0	0	2	2	27	27	1	1	0	0	31	324
原石	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	8	
剥片石器群合計		1	1	2	2	2	2	31	31	1	1	0	0	37	374
磨製石器群	磨製石斧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	擦切残片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	研磨石材	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	原石	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	磨製石器群合計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
礫石器群	扁平打製石器(すり石)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20
	北海道式石冠(すり石)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16
	たたき石	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	5
	石鋸	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	石錘	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	2
	砥石	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	台石・石皿	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
	礫石器群(石器)合計		0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	52
石製品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
自然礫	0	0	2	2	19	19	29	29	1	1	2	2	53	642	
合計		1	1	5	5	21	21	61	61	2	2	2	2	92	1,071

表16 焼土出土石器類点数表

遺構名		F-1			F-3		F-4			F-6		F-7・8間		合計	
遺物種別/層位	器種	Va層	Vb層	小計	Va層	小計	Va層	焼土	小計	Va層	小計	Va層	小計		
剥片石器群	石鏃			0		0			0		0		0	0	
	石槍・ナイフ			0		0			0		0		0	0	
	石鏃			0		0			0		0		0	0	
	つまみ付きナイフ			0		0			0		0		0	0	
	スクレイパー		1	1		0			0		0	5	5	6	
	U・Rフレイク			0		0			0		1	1	0	1	
	石核			0		0		1	1			0		0	1
	ピエスエスキュー			0		0			0			0	3	3	3
	フレイク・チップ	11	57	68		0	255		255		0	21	21	21	344
	原石			0	1	1			0			0		0	1
剥片石器群合計		11	58	69	1	1	256	0	256	1	1	29	29	356	
磨製石器群	磨製石斧			0		0			0		0		0	0	
	擦切残片			0		0			0		0		0	0	
	研磨石材			0		0			0		0		0	0	
	原石			0		0			0		0		0	0	
	磨製石器群合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
礫石器群	扁平打製石器(すり石)			0		0			0		0		0	0	
	北海道式石冠(すり石)			0		0			0		0		0	0	
	たたき石			0		0			0		0		0	0	
	石鏃			0		0			0		0		0	0	
	石鏃			0		0			0		0		0	0	
	砥石			0		0			0		0		0	0	
	台石・石皿		1	1		0			0		0		0	0	1
	礫石器群(石器)合計	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	石製品			0		0			0					0	0
	自然礫		1	1		0			1	1		0		0	2
合計		71	71		1	1	257	1	258	1	1	29	29	359	

表17 小土坑出土石器類点数表

遺構名		SP-1			SP-8			SP-11			SP-15			合計	
遺物種別/層位	器種	坑底面	覆土	小計	坑底面	覆土	小計	坑底面	覆土	小計	坑底面	覆土	小計		
剥片石器群	石鏃			0			0			0			0	0	
	石槍・ナイフ			0		0			0				0	0	
	石鏃			0		0			0				0	0	
	つまみ付きナイフ			0		0			0				0	0	
	スクレイパー			0		0			0				0	0	
	U・Rフレイク			0		0			0				0	0	
	ピエスエスキュー			0		0			0				0	0	
	石核			0		0			0				0	0	
	フレイク・チップ		1	1		0		0		0			0	0	1
	原石			0		0		0		0			0	0	0
剥片石器群合計	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
磨製石器群	磨製石斧			0		0			0				0	0	
	擦切残片			0		0			0				0	0	
	研磨石材			0		0			0				0	0	
	原石			0		0			0				0	0	
	磨製石器群合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
礫石器群	扁平打製石器(すり石)			0		0			0				0	0	
	北海道式石冠(すり石)			0		0			0				0	0	
	たたき石			0		0			0				0	0	
	石鏃			0		0			0				0	0	
	石鏃			0		0			0				0	0	
	砥石			0		0			0				0	0	
	台石・石皿			0		0			0				0	0	
	礫石器群(石器)合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	石製品			0		0			0					0	0
	自然礫			0		0			1	1				1	1
合計		1	1		1	1		1	1			1	1	3	

表18 礫集中・配石遺構出土石器類点数表

遺構名		S-1		S-2		S-3		S-4		S-5		S-6		合計
遺物種別/層位	器種	覆土	小計	V層	小計	Va層	小計	H-14覆土	小計	H-14覆土	小計	V層	小計	
剥片石器群	石鏃	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	石槍・ナイフ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	石鏃	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	つまみ付きナイフ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	スクレイパー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	U・Rフレイク	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	石核	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ピエスエスキュー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	フレイク・チップ	4	4	1	1	1	1	1	1	0	0	0	7	7
	原石	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
剥片石器群合計	4	4	2	2	1	1	1	1	0	0	0	7	8	
磨製石器群	磨製石斧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	擦切残片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	研磨石材	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	原石	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	磨製石器群合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
礫石器群	扁平打製石器(すり石)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	北海道式石冠(すり石)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	たたき石	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	石鏃	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	石鏃	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	砥石	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	台石・石皿	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2
	礫石器群(石器)合計	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	2
	石製品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自然礫	21	21	197	197	106	106	10	10	13	13	44	44	391
合計	25	25	200	200	107	107	12	12	13	13	44	44	401	

表19 フレイク・チップ集中出土石器類点数表

遺構名		FC-1		合計
遺物種別/層位	器種	Vb層	小計	
剥片石器群	石鏃	0	0	0
	石槍・ナイフ	0	0	0
	石鏃	0	0	0
	つまみ付きナイフ	0	0	0
	スクレイパー	1	1	1
	U・Rフレイク	0	0	0
	石核	0	0	0
	ピエスエスキュー	0	0	0
	フレイク・チップ	723	723	723
	原石	0	0	0
剥片石器群合計	724	724	724	
磨製石器群	磨製石斧	0	0	0
	擦切残片	0	0	0
	研磨石材	0	0	0
	原石	0	0	0
	磨製石器群合計	0	0	0
礫石器群	扁平打製石器(すり石)	2	2	2
	北海道式石冠(すり石)	4	4	4
	たたき石	0	0	0
	石鏃	0	0	0
	石鏃	0	0	0
	砥石	0	0	0
	台石・石皿	1	1	1
礫石器群(石器)合計	7	7	7	
石製品	0	0	0	
自然礫	1,379	1,379	1,379	
合計	2,110	2,110	2,110	









表20-4 遺構出土土器類観察表 (住居H-19)

図番号	遺構名 - 掘削番号	図取番号	遺構名 - 掘削番号	図化した点数		残		総点数	施文等	胎土への混入物	寸法(単位:cm)																
				遺構内・基段(層別)×2層	遺構番号	遺構内・基段(層別)×2層	遺構番号				口径	底径	高さ	最大径													
図Ⅲ-95	H-19-1	50-4	IV a 大津式	H-19(覆土1)×12	45・48・54・102・147	H-19(覆土1)×1	45	48	173	正中鏡がゆがんだ土器 焼成良好 丁寧なナデ調整 幅広い沈線間を連続で充填 粘土感強付で折り返し口縁	白色粒と角閃石粒密	23.9	13.1	40.0	27.1												
				H-19(覆土2)×21	17・19・23・24・25・49・51・52・53・100・105	H-19(覆土2)×3	51・105																				
				H-19(覆土)×2	50	Q41(V3)×44	22																				
				Q41(Va)×1	8																						
				Q41(V1)×3	9																						
				Q41(V2)×10	12																						
				Q41(V3)×50	22と25(掘り上げ上下)																						
				Q42(V1)×1	13																						
				Q42(V2)×1	36																						
				Q45(Vb)×1	ε 5																						
				R41(V2)×2	68																						
				R42(V2)×1	32																						
				R43(V1)×2	6																						
				R43(V2)×4	17																						
				R45(Va)×2	2																						
R45(V2)×1	6																										
R45(V3)×1	19																										
S34(V1)×7	11																										
S41(Va)×3	1																										
S41(V1)×2	11・13																										
S41(掘り上げ)×1	14																										
S41(V2)×1	32																										
S41(Va)×1	1																										
図Ⅲ-95	H-19-2	51-1	IV a 大津式	H-14(覆土1)×1	78	3	3	3	折り返し口縁および4単位の波頭部には表裏にまたがる粘土粒密付 天の線LR縄文施文、ナデ調整	砂粒	11.6	5.5	9.5	-													
				H-19(覆土1)×2	120																						
図Ⅲ-96	H-19-3	51-2	IV a 大津式	H-19(覆土1)×11	28・31	49	26	75	無文地に不規則な浅い沈線文を施文	砂粒密	18.2	8.1	23.3	-													
				Q41(V2)×6	17																						
				Q41(V3)×31	23と39(掘り上げ上下)																						
図Ⅲ-96	H-19-4	51-5	II a 大津式	H-19(覆土1)×64	119	64	6	70	LR縄文施文をさきず調整 3単位の波頭部をまたがる沈線密付	砂粒 白色粒	21.2	9.2	28.7	-													
				H-19(覆土1)×6	117																						
図Ⅲ-96	H-19-5	51-3	IV a 大津式	H-19(覆土2)×1	100	14	14	14	脚部上半は横方向の条痕 下半は縦方向のミガキ調整 3単位の波頭部をまたがる沈線密付	砂粒	13.0	6.8	17.1	-													
				H-19(覆土)×6	57																						
図Ⅲ-96	H-19-6	51-4	IV a	H-14(覆土中)×1	70	14	14	14	2単位の波頭部を成形後、横方向のミガキを施す 偶然か不規則な沈線文	粒径1~3mmの白色粒密	12.5	5.2	13.0	-													
				H-19(覆土1)×4	118・147																						
図Ⅲ-96	H-19-7	52-1	IV a	H-19(覆土1)×2	14	22	22	22	輪積み後縦方向ミガキ無文	砂粒密 海綿骨針まばら	16.7	8.0	(18.8)	-													
				Q42(V3)×11	65(掘り上げ上下)																						
図Ⅲ-96	H-19-8	52-2	IV a	H-19(覆土1)×4	96・97	65	14	79	折り返し口縁成形後LR縄文横走、口唇部も同一原形で施文 原形転写時の痕跡残る	海綿骨針 砂粒	21.5	-	(29.8)	23.2													
				H-19(覆土2)×5	22・24・101・156																						
				Q41(V3)×1	25																						
				Q42(Va)×1	2																						
				Q42(V1)×12	13																						
				Q42(V2)×15	36・66																						
				R42(V1)×26	10・11																						
				R42(V2)×1	32																						
				H-19(覆土1)×1	42																						
				P43(Va)×8	1																						
P48(V1)×1	16																										
Q48(V1)×2	19																										
R42(V1)×4	13・14																										
R42(V2)×7	32																										
R42(V3)×10	54(掘り上げ中から下)																										
R43(V1)×2	6																										
S42(V1)×3	8																										
S42(V2)×1	39																										
S43(V2)×1	24																										
S43(V3)×3	28																										
S43(V4)×1	2																										
S43(V5)×1	50																										
S40(V3)×1	22																										
S44(V1)×1	8																										
S44(V3)×2	22																										
H-19(覆土1)×2	77																										
P42(V2)×1	25																										
Q42(V2)×4	36・37・66																										
R42(V4)×3	72																										
R42(V5)×1	98																										
図Ⅲ-97	H-19-9	52-3	IV a	H-19(覆土1)×3	99・147	47	31	78	L縄文 口唇部5単位の指節圧痕後同一原形で施文、表面口縁部も同一原形で施文 肩下縦線方向のケズリ様のミガキで無文	砂粒 海綿骨針まばら	38.0	-	(30.3)	-													
				H-19(覆土)×1	42																						
				P43(Va)×8	1																						
				P48(V1)×1	16																						
				Q48(V1)×2	19																						
				R42(V1)×4	13・14																						
				R42(V2)×7	32																						
				R42(V3)×10	54(掘り上げ中から下)																						
				R43(V1)×2	6																						
				S42(V1)×3	8																						
				S42(V2)×1	39																						
				S43(V2)×1	24																						
				S43(V3)×3	28																						
				S43(V4)×1	2																						
				S43(V5)×1	50																						
S40(V3)×1	22																										
S44(V1)×1	8																										
S44(V3)×2	22																										
H-19(覆土1)×2	147																										
H-19(覆土2)×1	93																										
Q42(V2)×2	36																										
R41(V3)×3	49																										
R41(V4)×1	70																										
図Ⅲ-97	H-19-10	70	IV a 大津式	H-19(覆土1)×1	42	9	12	21	内面に輪積み痕 草本の茎によると思われる條痕による文様構成	長石 輝石 角閃石と海綿骨針と小石まばら	-	-	-	-													
				H-19(覆土1)×1	42																						
				P43(Va)×8	1																						
				P48(V1)×1	16																						
				Q48(V1)×2	19																						
				R42(V1)×4	13・14																						
				R42(V2)×7	32																						
				R42(V3)×10	54(掘り上げ中から下)																						
				R43(V1)×2	6																						
				S42(V1)×3	8																						
				S42(V2)×1	39																						
				S43(V2)×1	24																						
				S43(V3)×3	28																						
				S43(V4)×1	2																						
				S43(V5)×1	50																						
S40(V3)×1	22																										
S44(V1)×1	8																										
S44(V3)×2	22																										
H-19(覆土1)×2	147																										
H-19(覆土2)×1	93																										
Q42(V2)×2	36																										
R41(V3)×3	49																										
R41(V4)×1	70																										
図Ⅲ-97	H-19-11	70	IV a 大津式	H-19(覆土1)×3	99・147	9	5	14	条痕による文様構成	長石 輝石 海綿骨針	-	-	-	-													
				H-19(覆土)×1	42																						
				P43(Va)×8	1																						
				P48(V1)×1	16																						
				Q48(V1)×2	19																						
				R42(V1)×4	13・14																						
				R42(V2)×7	32																						
				R42(V3)×10	54(掘り上げ中から下)																						
				R43(V1)×2	6																						
				S42(V1)×3	8																						
				S42(V2)×1	39																						
				S43(V2)×1	24																						
				S43(V3)×3	28																						
				S43(V4)×1	2																						
				S43(V5)×1	50																						
S40(V3)×1	22																										
S44(V1)×1	8																										
S44(V3)×2	22																										
H-19(覆土1)×2	147																										
H-19(覆土2)×1	93																										
Q42(V2)×2	36																										
R41(V3)×3	49																										
R41(V4)×1	70																										
図Ⅲ-97	H-19-12	70	II a 大津式	H-19(覆土1)×2	147	2	2	2	沈線による文様構成	長石 海綿骨針 小石	-	-	-	-													
				H-19(覆土3)×2	100																						
				H-16(株)×9	112																						
				H-19(株)×40	125・130・132・140																						
				S42(V5)×1	46																						
				図Ⅲ-98	H-19-13										52-4	III b-1	H-19(株)×5	125・130・140	52	5	57	LR縄文縦走後、2ないし3本一組の沈線文 上粒 繊維	粒径2~5mmの白色粒 繊維	22.5	8.1	31.9	-
																	H-19(覆土1)×36	148									
																	H-19(覆土2)×5	155									
																	M39(Vb)×2	c 5・c 6									
																	M40(Va)×1	b 2									
																	Q48(V)×5	15・23									
																	R41(V1)×1	14									
																	R42(V1)×1	10									
																	R44(V1)×1	6									
																	図Ⅲ-98	H-19-14									
H-19(覆土2)×11	155																										
H-19(覆土1)×3	67・68・81																										
H-19(覆土2)×3	69・81・92																										
P-71(覆土3)×1	2																										
P-71(覆土6)×1	28																										
P-80(覆土3)×1	12																										
P-81(覆土)×6	8・18・19・27																										
P-81(覆土中)×1	2																										
P-82(覆土)×1	2																										
P-84(覆土)×1	37																										
L41(Vb)×1	a 3																										
M39(Vb)×1	c 6																										
M40(Va)×2	b 2																										
N38(V2)×1	10																										
P43(Va)×1	1																										
P47(V)×1	42																										
P48(V)×2	2・10																										
Q42(V1)×1	13																										
Q42(V4)×1	89																										
Q48(V)×26	15																										
R42(V2)×1	32																										
R43(V2)×1	17																										
R43(V5)×1	50																										
R44(V1)×1	6																										
R44(V2)×3	11																										
R44(V3)×2	16・30																										
R44(V4)×2	27																										
S40(V3)×1	22																										
S44(V1)×1	8																										
S44(V3)×2	22																										
H-19(覆土1)×2	77																										
P42(V2)×1	25																										
Q42(V2)×4	36・37・66																										
R42(V4)×3	72																										
R42(V5)×1	98																										
図Ⅲ-98	H-19-15	53-2	III b	H-19(覆土1)×3	67・68・81	70	11	81	R縄の単軸絡糸縦線方向に施文 口唇部にはLR縄文施文	粒径2~5mm前後の白色粒 砂粒	21.1	8.9	28.7	22.4 大突起部分													
				H-19(覆土2)×3	69・81・92																						
				P-71(覆土3)×1	2																						
				P-71(覆土6)×1	28																						
				P-80(覆土3)×1	12																						
				P-81(覆土)×6	8・18・19・27																						
				P-81(覆土中)×1	2																						
				P-82(覆土)×1	2																						
				P-84(覆土)×1	37																						
				L41(Vb)×1	a 3																						
				M39(Vb)×1	c 6																						
				M40(Va)×2	b 2																						
				N38(V2)×1	10																						
				P43(Va)×1	1																						
				P47(V)×1	42																						
P48(V)×2	2・10																										
Q42(V1)×1	13																										
Q42(V4)×1	89																										
Q48(V)×26	15																										
R42(V2)×1	32																										
R43(V2)×1	17																										
R43(V5)×1	50																										
R44(V1)×1	6																										
R44(V2)×3	11																										
R44(V3)×2	16・30																										
R44(V4)×2	27																										
S40(V3)×1	22																										
S44(V1)×1	8																										
S44(V3)×2	22																										
H-19(覆土1)×2	77																										
P42(V2)×1	25																										
Q42(V2)×4	36・37・66																										
R42(V4)×3	72																										
R42(V5)×1	98																										
図Ⅲ-98	H-19-16	70	III b-1	H-19(覆土1)×6	148	11	11	168	LR縄文 内面ミガキ調整で條痕が付く 半截竹管による連続細引き 粉っぽい胎土	繊維 海綿骨針密	-	-	-	-													
				H-19(覆土2)×1	25																						
				P-84(覆土)×1	32																						
				B44(Vb)×2	a 15・b 19																						
				J44(Vb)×1	d 9																						
				P43(Va)×2	2																						
				P43(V1)×1	8																						
				P43(V3)×113	44・45																						
				P43(V4)×1	53																						
				P45(Vb)×1	e 4																						
				Q42(V1)×3	13																						
				Q42(V2)×6	66																						
				Q42(V3)×1	88																						
				Q42(V4)×3	78																						
				Q43(V2)×1	72																						
Q43(V3)×2	107																										
Q44(Vb)×1	30																										
Q45(Va)×1	d 1																										
R41(V1)×1	102																										
R42(V3)×1	78																										
R42(V4)×5	72																										
S43(V2)×8	32																										
P-83(覆土1)×1	7																										
Q42(V2)×3	37																										
Q46(Vb)×1	d 24																										
Q48(V)×1	17																										
図Ⅲ-98	H-19-17	70	III b-1	H-19(覆土1)×6	148	6	6	12	結束を持つLR縄文 口唇部にLR縄押庄 頂部に内影の凹み 補修孔1つ貫通	海綿骨針 繊維 長石	-	-	-	-													
				H-19(覆土4)×1	128																						
図Ⅲ-98	H-19-18	70	III b	H-19(覆土1)×1	131	1	1	1	LR縄文	長石 輝石 小石まばら	-	-	-	-													
				H-19(覆土)×1	131																						
図Ⅲ-98	H-19-19	70	III b-1	H-19(覆土)×1	131	1	1	1	LR縄文 内面ミガキ調整で條痕が付く	繊維 長石 粒径3mmの白色粒	-	-	-	-													
				H-19(覆土)×1	131																						

表20-5 遺構出土土器類観察表 (土坑P-2~36)

図番号	遺構名・掘削番号	図取番号	土器分類	図化した点数		検		検点数	施文等	胎土への混入物	寸法(単位cm)			
				種類・形状(部)×個数	遺物番号	種類・形状(部)×個数	遺物番号				口径	底径	高さ	最大径
図面-99	P-2-1	71	サイバ式 Ⅲ a	P-2(覆土1)×6	4	C42(V)×1 G39(Vb)×1	a6 a12	2	8	R.L.縄文 隆帯上R.L.縄文	砂粒 繊維	—	—	—
図面-99	P-2-2	71	サイバ式 Ⅲ a	P-2(覆土1)×5	2			6	6	結束第1種羽状縄文	繊維 砂粒 海綿骨 針まばら	—	—	—
図面-99	P-4-1	53-3	Ⅲ a	P-4(覆土)×18	1			18	1	P-4(覆土)×1	1	1	19	砂粒が動くような縦方向のミガキ調整
図面-99	P-11-1	71	Ⅲ b-1	P-11(覆土7)×2	8			2	2	R.L.縄文	海綿骨針 雲石 母まばら	—	—	—
図面-99	P-12-1	71	Ⅲ a サイバ式	P-12(覆土1)×4	5・13・14・16			9	9	結束第1種羽状縄文 口縁部に付いた突起のある羽状	長石 海綿骨針 雲石	—	—	—
図面-99	P-16-1	53-4	Ⅲ b	P-16(覆土1)×10	33・40・53			28	28	R.縄文単軸輪条体を斜方向に焼成前に穿した単位張り出す底面調整	小石 繊維	11.4	5.4	15.6
図面-99	P-16-2	71	Ⅲ b	P-16(覆土1)×7	5・30・35・37・41			14	14	R.縄文の単軸輪条体を縦方向に微妙な上げ底	繊維 雲母と小石まばら	—	—	—
図面-99	P-16-3	71	Ⅲ b	P-16(覆土1)×2	13			2	4	再生土製品を製作しようとしたものか 縁辺打ち直し	長石 粒径2mmの白色粒	—	—	—
図面-99	P-16-4	71	Ⅲ b	P-16(覆土1)×2	20			4	14	R.L.縄文単軸輪条体施文後、沈降間を草木の茎による連続刺突	繊維 白色粒 小石まばら	—	—	—
図面-99	P-16-5	71	Ⅲ a 円筒上層式	P-16(覆土1)×2	2			13	60	結束第1種羽状縄文を施した上に粘土粒貼付、その上からR.縄文の単軸輪条体を回転	輝石 繊維 微細な白色粒まばら	—	—	—
図面-100	P-17-1	54-1	Ⅲ a 円筒上層式	P-17(覆土1)×8	18・19・21・22・28・28			18	46	結束第1種羽状縄文 隆帯上はL.縄文 区画内は3本のL.縄文と半裁竹管による押し引き	繊維 海綿骨針 砂粒	34.0	—	(21.6)
図面-100	P-17-2	71	Ⅲ b	P-17(覆土1)×1	9			2	2	条線 草木の茎が円形刺突	繊維 長石	—	—	—
図面-100	P-20-1	72	Ⅲ b	P-20(覆土1)×4	17・18			4	11	R.L.縄文	繊維 海綿骨針	—	—	—
図面-100	P-23-1	54-2	Ⅲ b-1	P-23(覆土1)×127	1			127	484	R.L.縄文施文後、2本一組の沈降により大木3式風な沈降文、最大径より内径が狭	繊維 粒径2~5mmの白色粒	24.9	9.5	30.1
図面-101	P-26-1	72	Ⅲ a (Ⅲ b-1)的見附町式	P-26(覆土1)×6	10・26・27・31・61			15	70	R.L.縄文、底面際をミガキ調整、微妙な上げ底、底面ミガキ調整 粉っぽい胎土	繊維 長石 海綿骨針	—	—	—
図面-101	P-26-2	72	Ⅲ a (Ⅲ b-1)的	P-26(覆土2)×2	47			6	12	R.L.縄文 口縁の面にはL.縄文単軸輪条体貼付	繊維 長石小粒まばら	—	—	—
図面-101	P-26-3	72	Ⅲ b (Ⅲ b-2)	P-26(覆土1)×2	16・97			3	14	R.L.縄文隆帯 隆帯の側縁を夜縁ができるほどに押圧 口縁より隆帯上に草木の茎による押し引き	繊維 輝石 繊維	—	—	—
図面-101	P-26-4	72	Ⅲ b	P-26(覆土1)×2	42			2	6	R.L.縄文縦方向 口縁の半円面に隆帯で縁取る半裁竹管の押し引きが並ぶ	長石 繊維 角閃石	—	—	—
図面-101	P-26-5	72	Ⅲ b	P-26(覆土1)×3	35・84			3	8	R.L.縄文	繊維 長石 雲石まばら	—	—	—
図面-101	P-26-6	72	Ⅲ b	P-26(筋線)×1	17			1	1	R.L.縄文	繊維 長石 海綿骨針	—	—	—
図面-101	P-26-7	72	Ⅲ b	P-26(覆土1)×5	42・54・56・81			5	5	上げ底 底面ミガキ調整	繊維 長石	—	—	—
図面-101	P-26-8	72	Ⅲ b	P-26(覆土1)×2	37・87			5	10	R.L.縄文 底面は剥落する	繊維 雲母と粒径2~3mmの白色粒まばら	—	—	—
図面-101	P-26-9	72	Ⅲ a	P-26(覆土1)×2	7			2	7	R.L.縄文を縦方向に幅4mmの貼付がある	白色小粒雲石 雲石まばら	—	—	—
図面-100	P-28-1	73	Ⅲ a又はⅢ b-1	P-28(覆土1)×1	53			15	15	丸みを帯びた胴部 R.L.縄文 底面はミガキ調整だが隅の圧縮が緩みがある	繊維 長石 輝石か	—	—	—
図面-102	P-29-1	54-4	Ⅲ a 後北B式	P-29(覆土1)×12	1・2・5・8・14			74	89	R.L.縄文 胴部上半のみL.縄文 口縁の施文が案上げ底 口縁にもミガキ	角閃石主体が細砂粒密	22.0	7.0	29.8
図面-102	P-29-2	73	Ⅲ a 後北C1式	P-29(覆土1)×1	4			14	47	口縁部に2本の微隆起線 波頂部にはギザギザ状の突起 R.L.の帯縄文	石英か	—	—	—
図面-102	P-29-3	55-1	Ⅲ a 円筒上層式	P-29(覆土1)×4	1・2			99	114	結束第1種羽状縄文 粘土粒貼付後、L.縄文 区画内を半裁竹管状の押し引き	繊維 海綿骨針	32.7	—	(39.7)
図面-101	P-30-1	73	Ⅲ a	P-30(覆土1)×1	4			7	8	R.L.縄文 底面際、底面ミガキ調整	繊維 海綿骨針 粒径2~3mm白色粒	—	—	—
図面-101	P-31-1	73	Ⅲ a サイバ式	P-31(覆土)×3	5・6・7			5	3	厚縁のいい R.L.縄文 竹管による彫削施文 2マタ状貼付	長石小粒	—	—	—
図面-101	P-31-2	73	Ⅲ a サイバ式	P-31(覆土)×5	13			5	15	R.L.縄文施文 隆帯上R.L.縄文隆帯	繊維 長石 輝石 繊維	—	—	—
図面-101	P-31-3、P-31の時期未定	54-3	Ⅲ a トリキ式	P-31(覆土)×1	4			39	39	R.L.縄文隆帯後、半行の微隆起し、4単位の波頂部から8の字状の粘土粒を貼付、剥落した微隆起線 波頂部にはギザギザ状の突起 下半部は横方向のミガキ 焼成不良	細砂粒	14.2	—	(16.0)
図面-101	P-33-1	73	Ⅲ a	P-33(覆土1)×2	1・2			2	2	ミニチュア Ⅲ aの可能性あり	角閃石 パミス片まばらに海綿骨針	—	—	—
図面-101	P-34-1	73	Ⅲ a	P-34(覆土)×2	4			1	3	R.L.縄文施文	繊維 長石	—	—	—
図面-102	P-36-1	73	Ⅲ b-1	P-36(覆土2)×1	3			5	6	R.L.縄文による単軸輪条体施文後沈降 区画内にも同一原体による調整後ミガキ調整	繊維 長石	—	—	—







表20-8 遺構出土土器類観察表 (土坑P-81~86)

図番号	遺構名・掘削番号	図版番号	遺構名・掘削番号	図化した点数		残		総点数	施文等	胎土への混入物	寸法(単位mm)					
				遺物番号	点数	遺物番号	点数				口径	底径	高さ	最大径		
図Ⅲ-109	P-81-1	77	IV a	P-81(覆土上)×1 P-43(V1)×1 P-42(Va)×1	27 6 1	3	H-17(覆土上)×1 R41(V4)×1	70	2	5	R L 縄による網目状条帯 体圧痕	長石 輝石 粒径2mmの 小石まばら	—	—	—	—
図Ⅲ-109	P-81-2	77	IV a	P-81(覆土上)×3	31	2	O43(V1)×1	2	2	2	L R 縄文 裾線より上は無文	長石 角閃石 海綿骨針	—	—	—	—
図Ⅲ-109	P-81-3	59-2	IV a	H-8(Vb)×1 P-81(覆土上)×1 P-81(覆土上)×1 N42(V2)×1 O42(V2)×2 O43(V1)×1 O43(V2)×1 O44(Va)×1 O44(Vb)×1	61 1 1 5 2 2 24 a 4 d 1	14	O43(V1)×1	2	1	15	3単位の口縁部成形後、 L R 縄文横走。波頂部に ほところころキザミ 補修孔	白色粒 砂粒密	17.6	—	(13.7)	18.6
図Ⅲ-109	P-82-1	77	IV a	P-82(覆土中)×3	2	3			3	3	L R 縄文 口唇部はミガキ器 R L 縄による単輪条帯 口唇 部にはミガキ器の跡	長石 輝石 粒径3mmの小石	—	—	—	—
図Ⅲ-111	P-83-1	78	Ⅲ b-1	P-83(覆土上)×1	8	1	P-83(覆土上)×2	8	2	3		長石 海綿骨針	—	—	—	—
図Ⅲ-111	P-83-2	78	Ⅲ b-1	P-83(覆土上)×1	8	1			1	1	器表面の剥落が著しい	角閃石 海綿骨針	—	—	—	—
図Ⅲ-111	P-84-1	60-3	IV a 大津式	P-79(覆土上)×1 P-84(覆土中)×19 H-17(覆土上)×2 H-17(覆土上)×1	2 11・18・30・35 7 110	20	T46(Vb)×1	c 18	1	21	表面にわたる粘土結貼付 後 L R 縄文施文。および 内面ミガキ 胴下部横方 向ミガキ無文	砂粒 海綿骨針	14.2	6.7	15.0	—
図Ⅲ-111	P-84-2	79	IV a	P-84(覆土中)×3 H-17(覆土上)×2 H-17(覆土上)×1	30 7 110	6	H-8(Vb)×1 H-17(覆土上)×1 H-19(覆土上)×1 P-72(覆土上)×1 P-73(覆土上)×1 P-84(覆土中)×1 N41(V3)×1 O39(V2)×2 P40(Va)×1 P40(V1)×2 P48(V1)×1 Q39(V2)×1 Q40(V1)×1 Q42(V2)×1 Q46(Vb)×2 Q48(V1)×1 R37(V2)×1 R41(施の上)×1 S38(V3)×1 S39(V1)×1 S40(V2)×1 T39(V2)×1 T41(V2)×1 T41(V3)×1	89 3 157 1 3 11 11 27 1 4 16 12 15 3 4 18 12 16 5 15 4 18 25 45	27	33	L R 縄文施文を施した後、 その表面を指でなぞる 内面に輪郭が痕跡する場所 あり	角閃石 長石 海綿 骨針	—	—	—	—
図Ⅲ-111	P-84-3	79	IV a	P-84(覆土中)×2 Q47(V)×3	5・30 4	5	Q47(V)×8	1・4	8	13	L R 縄文施文に日本の素による 不明な文様。波頂部には指 による複数の押圧痕がありその中央 に施文と同一線跡をもちに押圧 口縁の剥落部分も被熱	角閃石 長石 海 綿骨針	—	—	—	—
図Ⅲ-111	P-84-4	79	IV a	P-87(覆土上)×1 P-84(覆土中)×5	21 11	6	P-84(覆土中)×11	11	11	17		長石	—	—	—	—
図Ⅲ-111	P-84-5	79	IV a 大津式 大津式	P-84(覆土上)×1 T46(Vb)×1	32 c 16	3	T45(V5)×1	7	3	4	幅の狭い半横竹管による 沈線で二本一組の文様構 成	長石	—	—	—	—
図Ⅲ-111	P-85-1	60-4	IV a	P-85(覆土中)×1 P-85(覆土上)×2	12 41・46	8			8	8	多量の折り返し口縁部に、輪郭 を押し、器表面のミガキを L R 縄文横走。内面横方 向に丁寧なミガキ	砂粒 小石まばら	11.7	6.1	10.0	—
図Ⅲ-111	P-85-2	79	Ⅲ b	P-85(覆土中)×1	49	3	P-85(覆土上)×2	46	2	5		繊維 長石まばら	—	—	—	—
図Ⅲ-111	P-85-3	79	IV a 大津式	P-85(覆土中)×3	8・10	3			3	3	L R 縄文施文。3本の沈 線。口唇部には斜方向 に施文。表面剥離が著しい	微細な白色粒密 ま ばらに海綿骨針	—	—	—	—
図Ⅲ-111	P-85-4	79	IV a	P-85(坑底)×1	16	1			1	1	よく磨かれた底面	角閃石 長石 まば らに海綿骨針	—	—	—	—
図Ⅲ-112	P-86-1	60-2	Ⅲ b 椀林式	P-86(覆土上)×2 L36(Vb)×2 L36(Vb)×1 M53(V)×1 N33(V3)×1 N34(V3)×1 P37(V3)×2 P38(V2)×1 P38(V3)×2 P38(V5)×1 P39(V2)×1 P39(V3)×2 Q38(V1)×3 Q38(V3)×16 Q38(V5)×1 Q39(V2)×1 Q39(V3)×5 Q39(Va)×1 R37(V2)×1 R37(V3)×1 R38(V1)×1 R38(V3)×8 R40(Va)×2 R40(V2)×2 R40(V3)×8 R40(V4)×38 R40(V5)×3 R41(V2)×1 P-86(覆土上)×5	2 c 2 b 2 d 2 4 2 6・7 12 16・19 22 17 22 3・4・30 9・10 25 11 16 19 5 11 6 12 2 17 30 36・45 51 30 3	110	H-16(覆土上)×1 H-16(体)×1 L41(Vb)×1 M39(Vb)×1 N39(V2)×2 P39(V2)×2 Q37(V1)×1 Q39(V3)×9 Q39(V2)×1 Q39(V3)×2 R37(V3)×1 R39(V2)×1 R40(V3)×1 R40(V4)×2 R40(V5)×7	57 94 6 5 12 17 7 9・10 11 16 11 13 30 36・45 51	52	162	R 縄文輪条帯を縦方向 に施文。口唇部には斜方向 に施文。表面剥離が著しい 微妙な上げ底	海綿骨針 粒径2~5mmの白色 粒	26.9	9.0	35.6	—
図Ⅲ-112	P-86-2	79	Ⅲ b-1	E43(V)×33 E43(覆土)×11 E44(Vb)×1 F43(Va)×1 F43(Vb)×5 F43(V)×1 F39(V)×1 Q38(Vb)×1 R42(V3)×1 T40(V3)×2	c 12・c 13 d 21・d 23 a 2 a 2 a 4・a 11・c 9 a 22 c 1 28 56 22・24	5	E43(V)×33 c 12・c 13 d 21・d 23 a 2 a 2 a 4・a 11・c 9 a 22 c 1 28 56 22・24	57	62	L R 縄文施文、口唇部の 面にはミガキ器の跡 縄文部の回転も器面に痕	海綿骨針多い 長石	—	—	—	—	

表20-9 遺構出土土器類観察表 (配石・小土坑・焼土F-1)

図番号	遺構名・掘削番号	図版番号	遺構名・掘削番号	図化した点数		残		総点数	施文等	胎土への混入物	寸法(単位mm)					
				遺物番号	点数	遺物番号	点数				口径	底径	高さ	最大径		
図Ⅲ-112	S-1-1	80	IV a 大津式	S-1(覆土上)×1 H-8(Vb)×1 P-81(覆土上)×2 P46(Va)×1 S46(Vb)×3	21 113 38・40 b 5 c 2	8	H-8(Vb)×3 P-41(覆土上)×1 P-81(覆土上)×1 J37(Vb)×1 O44(Ⅲ)×1 O44(Va)×1 O44(Vb)×1 O45(V)×2 O45(Vb)×2 O46(V)×1 P46(Ⅲ)×2 P46(Vb)×5 Q46(Vb)×1 R46(Vb)×1 S49(Vb)×1 T42(V4)×1 T49(Vb)×1	103・113・119 26 38 9 d 2 d 3 c 1 a 10 a 11・b 3 7 a 4・b 1 b 20・b 21・c 22 a 12 a 12 d 20 26 a 11	26	34	無文地に櫛歯状工具で施 文。波頂部は指頭による 複数の押圧	輝石と長石と海綿骨 針がそれぞれまばら	—	—	—	—
図Ⅲ-112	S-2-1	60-5	IV a 大津式	S-2(V2)×54	67	54	S-2(V2)×2	67	2	56	細い沈線間を基本の家か 条帯で充填。2単位の波頂部 は数個にわたる粘土層を溝 に敷きわたる紋付	砂粒 海綿骨針	19.1×13.8	7.2	19.5	—
図Ⅲ-112	SP-1-1	80	IV a	SP-1(覆土上)×1	3	1			1	1	L R 縄文横走	長石 砂粒 海綿骨針	—	—	—	—
図Ⅲ-113	F-1-1	61-1	Ⅲ a 見崎町式	D44(Va)×1 D44(Vb)×48 D44(V)×5 F-1(Vb)×1	c 47 b 22・c 20・d 4・d 15・ d 18・d 19 a 48・d 42 15	54	D44(Vb)×1 D44(V)×2	d 15 d 42	3	57	粘土結貼付後、両端に結 束を持つ L R 縄文 口唇 部には R 縄文痕	繊維 海綿骨針	21.1	10.2	27.5	—
図Ⅲ-113	F-1-2	80	Ⅲ a 円筒上層 b 式	C42(V)×1 C45(Vb)×2 D44(Vb)×3 D44(V)×1	c 23 b 11 a 3・b 17・b 23 b 25	8	B C 46-48(V)×2 C43(Vb)×1 D44(Vb)×22 D44(覆土)×1 D44(V)×2 I46(Vb)×1	6・12 b 26 a 9・a 32・b 17・ b 23・d 16・d 17 b 27 d 42・d 43 2	27	37	馬蹄形形痕 L R 縄文 結束部 1種羽状縄文 器集中 b	繊維 長石まばら	—	—	—	—
図Ⅲ-113	F-1-3	80	Ⅲ b 椀林式 中段階	B44(Va)×1 B44(Vb)×3 C43(Vb)×1 C44(Va)×2	a 26 a 19 b 5 b 3	10	F-1(Vb)×2 B43(覆土)×1 B43(V)×2 B44(Vb)×4 C43(Vb)×2 C44(Vb)×2 C44(覆土)×1	c 32 d 4 a 15・b 19 d 20・d 25 a 21 a 35	14	24	R L 単輪条帯 沈線に より大木 6式風の文様	繊維 長石まばら	—	—	—	—

表20-10 遺構出土土器類観察表 (焼土F-1~15・遺物の集中出土)

図番号	遺構名・遺物番号	図版番号	遺物名・規格番号	図化した点数		検		総点数	施文等	胎土への混入物	寸法(単位:cm)																		
				遺物番号	点数	遺物番号	点数				口径	底径	高さ	最大径															
図Ⅲ-113	F-1-4	80	Ⅲb 榎林式新段階	F-1(Vb)×2	16	F-1(Vb)×92	15・16	9	161	170	R単軸絡条体 半裁竹管による沈線文 F-9と同様する F-1 土器集	繊維 粒径2mm前後の白色粒	-	-	-														
				P-16(覆土)×1	5	P-17(覆土)×1	17																						
				D43(Va)×1	c 5	B44(Vb)×1	c 16																						
				D43(Vb)×2	b 11	C43(Ⅲ)×1	b 2																						
				D43(覆土)×1	a 41	C43(Va)×1	c 44																						
				不明×2	不明	C43(Vb)×1	b 59																						
						C44(Va)×7	a 2・b 3・d 2																						
						C44(Vb)×44	a 21・b 27・b 41・b 49																						
						C44(覆土)×1	a 35																						
						D43(Va)×2	b 15・c 22																						
						D43(Vb)×2	c 13																						
						D43(Vc)×2	b 24																						
						D44(Va)×1	a 31																						
		E43(Vb)×1	d 2																										
		I40(Vb)×1	a 1																										
		M32(Vb)×1	d 1																										
		不明×4	不明																										
図Ⅲ-113	F-1-5	81	Ⅲb 大塚在B式古段階	F-1(Vb)×15	14・15	F-1(Vb)×98	14・15	17	190	207	R・L単軸絡条体 頸部に隆帯 隆帯上に半裁竹管による押し引き 把手 底部には半裁竹管による縦方向の沈線が連続する F-9と同様 一面出歯 土器集aを主体土器集中bにも混入	繊維 粒径2mm前後の白色粒	-	-	-														
				不明×2	不明	F-1(Va)×1	2																						
						C44(Vb)×4	a 21																						
						C44(Va)×1	a 35																						
						D43(Vb)×3	a 24・a 25																						
						H44(Ⅲ)×1	d 2																						
						不明×82	不明																						
						F-1(Vb)×1	13・15																						
						C44(Va)×2	b 4																						
						C44(Vb)×16	a 15・b 27・b 41・b 42																						
						C45(Va)×2	a 21																						
						F-1(Vb)×13	15																						
						F-1(Va)×1	1																						
		B43(Va)×4	c 13																										
		B43(Vb)×13	a 10・a 25・c 12・d 4																										
		C43(Va)×5	c 5・c 45																										
		C44(Va)×4	a 2																										
		C44(Vb)×4	a 21																										
図Ⅲ-113	F-1-7	62-1	Ⅳa トリサキ式新~大津式古段階	F-1(Vb)×9	15	F-1(Vb)×13	15	46	44	90	折り返し口縁に沈線文 波頂部は幅広いキザミ F-9と同様 一面出歯 土器集中a	砂粒 白色粒 角閃石	24.6	-	(20.0)	25.3													
				F-7(Va)×8	1	F-7(Va)×1	2																						
				B43(Vb)×5	a 10・d 4・d 21	B43(Va)×4	c 13																						
				B43(風割木)×2	d 31	B43(Vb)×13	a 10・a 25・c 12・d 4																						
				C43(Va)×8	c 5・c 45	C43(Va)×5	c 5・c 45																						
				C43(Vb)×3	c 41・d 18・d 21	C44(Va)×4	a 2																						
				C43(風割木)×1	d 34	C44(Vb)×4	a 21																						
				C44(Va)×4	a 2																								
				C44(Vb)×5	a 21																								
				C44(風割木)×1	a 36																								
				F-1(Vb)×2	19	C45(Ⅲ)×1	a 1・d 18																						
				B43(Va)×1	d 6																								
				B44(Va)×1	a 13																								
D43(Va)×1	a 57																												
B43(Ⅲ)×1	d 1																												
C43(Va)×1	c 6																												
C44(Va)×4	a 2																												
C44(Vb)×1	b 51																												
D44(Vb)×2	a 8																												
F-1(Vb)×30	17・18																												
F-3(Va)×10	2・3																												
A42(Ⅲ)×1	b 3																												
A41(Va)×1	c 4																												
A42(Va)×14	d 3・d 5・d 6																												
A42(Vb)×13	d 10・d 11																												
B42(Va)×1	d 3																												
F-3(Va)×8	3・4																												
図Ⅲ-114	F-1-8	81	Ⅵ 後北C <sub>1</sub> 式	F-1(Vb)×2	19	C45(Ⅲ)×1	a 1・d 18	5	2	7	補修孔貫通と表面からの未貫通の口唇部にキザミ	砂粒(輝石まじり) 密・海綿骨針まぼら	-	-	-	-													
				B43(Va)×1	d 6																								
				B44(Va)×1	a 13																								
				D43(Va)×1	a 57																								
				B43(Ⅲ)×1	d 1																								
				C43(Va)×1	c 6																								
				C44(Va)×4	a 2																								
				C44(Vb)×1	b 51																								
				D44(Vb)×2	a 8																								
				F-1(Vb)×30	17・18																								
				F-3(Va)×10	2・3																								
				A42(Ⅲ)×1	b 3																								
				A41(Va)×1	c 4																								
A42(Va)×14	d 3・d 5・d 6																												
A42(Vb)×13	d 10・d 11																												
B42(Va)×1	d 3																												
F-3(Va)×8	3・4																												
図Ⅲ-113	F-5-1	81	Ⅳa トリサキ式新~大津式古段階	H-5(覆土下)×1	6	F-3(Va)×21	2・3・4	8	24	32	後北C <sub>1</sub> の前後と思われる上げ底の底部 L・R縄	砂粒 白色粒	-	7.1	(10.0)	-													
				F-5(Vb)×1	1	B44(Va)×1	d 16																						
				A45(Va)×1	b 7	z 42(Vb)×1	c 1																						
				A45(Vb)×1	b 9	A42(Vb)×2	b 5・d 11																						
				B43(Vb)×1	a 5	A44(Ⅲ)×1	a 2																						
				D42(Vb)×1	d 11	A44(Vb)×1	d 6																						
				E46(VI)×1	a 5	B43(Va)×1	c 13																						
				F45(Vb)×1	c 7	B43(Vb)×2	c 12																						
						B45(Vb)×1	c 9																						
						B C 36~48(V)×2	14																						
						D42(Vb)×3	b 1・c 2・d 11																						
						E44(Vb)×1	d 10																						
						E44(VI)×1	c 13																						
		E45(Ⅲ)×1	b 2																										
		E45(Vb)×1	b 3																										
図Ⅲ-114	F-7-1	61-4	Ⅵ 後北C <sub>1</sub> 式	F-7・8(Va)×48	13	F-4・8(Va)×14	13	60	14	74	L・R縄文 口唇部キザミ 口縁部3本の微隆起線 4単位の波頂部隆起の方形区画 その中を半裁竹管で充填	白色粒 海綿骨針 角閃石	23.3	-	(25.0)	-													
				B45(Ⅲ)×3	4																								
				C43(Ⅲ)×1	d 1																								
				C43(Vb)×1	d 17																								
				C44(Va)×3	b 51																								
				D44(Va)×2	a 2																								
				D44(Vb)×2	a 8																								
				図Ⅲ-114	F-7-2	81	Ⅶ 後北C <sub>1</sub> 式新~大津式古段階										F-7・8間(Va)×1	13			1	1	1	円形の再生土製品が半割	長石が密	-	-	-	-
																	F-15(Vb)×1	1											
																	O40(Va)×123	1・2											
																	O41(Va)×14	1・2											
図Ⅲ-115	遺物の集中出土1-1	62-2	Ⅶ・推定時代前期9世紀か					O40(Va)×123	1・2	F-15(Vb)×1	2	137	31	168	縦方向の磨痕 肩部の段はゆるいが浅い沈線がある。内部は縦方向のキザリ調整、下部は字調整 減しているが砂目越かよ 寄り出す状態	白色小粒 角閃石	21.3	9.8	31.5	-									
				O41(Va)×14	1・2	O40(Va)×27	1・2																						
						P40(Va)×1	1																						
						P41(V2)×3	12																						

表20の注) 白色粒は長石がバミス片かあるいは別のものかわからなかったもの。土器断面について、混和材が10~25%含まれているものを「密」。7%前後は表記せず。1~2%をまぼら。角閃石については結晶が明瞭なものを記載。黒色粒は角閃石か輝石かあるいは別のものかわからなかったもの。遺物番号の項について、発掘区包含層の場合、小発掘区を示すa~dについては遺物番号の前に付してある。覆土の上位・中位・下位は上・中・下と略している。また出土した土器のうち、掘り上げ土(図Ⅲ-2)との層位的上下関係について確認できたものがある。それらについては、確実に接合・復元できたものについてのみ、その結果を遺物番号の後ろに括弧付で示した。以上の「注」は表30についても同様とする。



表21 遺構出土剥片石器群観察表

図	掲載番号	図版	出土遺構	遺物番号	層位	器種	計測値 (cm)			重量 (g)	石材	名称・特徴	形状形態	使用痕	備考
							最大長	最大幅	最大厚						
III-116	1		H-1	54	覆土1	石鏃	(2.4)	1.0	0.5	1.0	めのう	灰白色	完形	微細剥落痕・破損	
	2		H-1	66-89	覆土1 覆土10P-1	スクレイパー	8.4	3.8	1.3	41.4	頁岩? 流紋岩?	青灰色	完形	微細剥落痕・破損 破損→剥落痕	2点接合 サイドスクレイパー
	3		H-1	50	覆土1	スクレイパー	8.5	6.0	1.7	59.5	頁岩? 流紋岩?	灰～ 灰白色	完形	微細剥落痕	サイドスクレイパー
	4		H-1	57	覆土1	スクレイパー	8.6	5.0	2.4	49.9	頁岩	灰青褐色	完形	微細剥落痕	サイドスクレイパー
	5		H-2	6	覆土	石槍・ナイフ	9.7	3.3	1.2	25.0	頁岩	(黒色)	完形	微細剥落痕・破損?	
	6		H-2	2	覆土	スクレイパー	5.8	8.0	1.5	40.8	頁岩	灰白色	完形	微細剥落痕	エンドスクレイパー
	7		H-3	5	床面直	石槍・ナイフ	(2.1)	(2.5)	(0.9)	4.6	黒曜石	少球果	片	微細剥落痕・破損	サイドスクレイパー
	8		H-3	94	Vb	スクレイパー	5.2	4.7	1.3	19.0	頁岩	黄灰色	完形	微細剥落痕	サイドスクレイパー
	9		H-3	104	Vb	スクレイパー	8.4	3.6	1.9	51.0	頁岩	灰色	完形	微細剥落痕	サイドスクレイパー
	10		H-3	14	覆土1上	ピエスエスキュー	3.8	2.2	1.0	7.8	黒曜石	少球果	*	微細剥落痕(ステップ状)	サイドスクレイパー
III-117	11		H-4	13	覆土1	スクレイパー	10.8	8.5	2.6	130.7	頁岩	灰褐色	完形	微細剥落痕	サイドスクレイパー
	12		H-4直下	29	風倒木	スクレイパー	7.7	4.6	1.8	53.2	めのう	にぶい褐～ にぶい黄褐色	完形	微細剥落痕	サイドスクレイパー
	13		H-5	58-2	覆土下	石鏃	3.5	1.5	0.6	2.2	玄武岩	(黒色)	完形	微細剥落痕・破損・磨滅?	
	14		H-5	1	覆土下	スクレイパー	7.0	3.8	1.5	40.2	頁岩	(緑灰～ 青灰色)	完形	微細剥落痕・剥落痕?	サイドスクレイパー
	15		H-5	5	覆土下	スクレイパー	9.8	6.6	1.3	71.2	玄武岩? サスカイト様	灰～暗灰色	完形	微細剥落痕・剥落痕?	サイドスクレイパー
	16		H-8	1	壁面直	スクレイパー	6.1	6.2	1.7	52.5	頁岩	灰～ にぶい黄色	完形	微細剥落痕・破損	サイドスクレイパー
	17		H-8	5	壁面直	スクレイパー	4.5	3.8	1.3	13.4	頁岩	褐灰色	半形?	微細剥落痕・破損	
	18		H-9	15	床面直	石鏃	2.4	1.5	0.5	1.1	めのう	灰白～ 灰黄色	完形	微細剥落痕・剥落痕 破損	
	19		H-9	4	床面直	石鏃	3.0	2.2	0.8	4.1	頁岩	褐灰～ 黄灰色	準完形	破損	
	20		H-9	85	床面直	スクレイパー	7.1	5.4	2.2	71.3	火山岩?	灰色	半形?	微細剥落痕・破損	
III-118	21		H-12	12	覆土	スクレイパー	7.3	5.5	1.7	41.1	頁岩	黄灰～ 灰白色	準完形	微細剥落痕・破損	サイドスクレイパー
	22		H-14	197	床直	石鏃	4.0	2.0	0.6	3.6	流紋～ 安山岩	灰色	完形	微細剥落痕?	
	23		H-14	116	覆土3	石鏃	4.3	1.4	0.7	2.7	流紋～ 安山岩	灰～ 緑褐色	完形	微細剥落痕?	
	24		H-14	215	覆土中位	石鏃	4.5	1.3	0.7	2.3	めのう	灰白～ 淡黄色	完形	微細剥落痕	
	25		H-14	216	覆土中位	石鏃	(2.9)	0.8	0.7	3.1	めのう	灰白色	片	破損	
	26		H-14	198	床直	スクレイパー	5.0	4.3	1.2	18.5	頁岩	灰黄褐色	完形	微細剥落痕	サイド・エンドスクレイパー
	27		H-14	6	覆土上位	スクレイパー	5.9	3.9	1.9	31.4	めのう	灰白～ 明黄褐色	完形	微細剥落痕	Uフレイク?
	28		H-14	79	覆土上位	スクレイパー	6.6	3.2	1.3	26.5	頁岩	灰黄褐色	完形	剥落痕?	サイドスクレイパー
	29		H-14	139	覆土6	スクレイパー	6.3	2.3	1.2	12.0	頁岩	黒～黒褐色	準完形	微細剥落痕・破損	サイドスクレイパー
	30		H-15	1	覆土2	石鏃	2.7	1.2	0.3	0.8	頁岩	灰黄褐色	完形	微細剥落痕・破損	
III-119	31		H-15	20	覆土3	Uフレイク	3.9	4.0	0.9	14.2	めのう	灰白～ にぶい赤褐色	完形	微細剥落痕	サイド～エンドに使用痕
	32		H-16	69	覆土1	つまみ付きナイフ	8.0	4.3	1.5	36.7	頁岩	にぶい黄色	完形	微細剥落痕・剥落痕	
	33		H-16	70	覆土2	スクレイパー	6.6	4.0	1.3	32.9	頁岩	暗灰色	完形	微細剥落痕・剥落痕	
	34		H-16	80	覆土1	スクレイパー	7.4	5.0	0.7	26.4	玄武岩? 頁岩?	(黒褐色)	完形	微細剥落痕	
	35		H-16	47	覆土1	スクレイパー	8.2	5.1	1.4	25.5	玄武岩? 頁岩?	(褐灰色)	完形?	微細剥落痕・破損?	
	36		H-17	29	覆土1	石鏃	2.5	1.4	1.4	4.7	黒曜石	少球果	*	複数の剥落痕	
	37		H-17	108	床直	Uフレイク	8.9	5.6	1.4	59.0	めのう	にぶい褐～ 褐色	完形?	微細剥落痕	
	38		H-18	24	覆土中位	Rフレイク	5.2	2.5	0.6	4.7	頁岩	にぶい黄褐～ 灰黄色	準完形	微細剥落痕・破損?	
	39		H-19	129	覆土4	Uフレイク	(3.2)	4.3	0.9	11.9	頁岩? 玄武岩?	灰白～ 褐灰色	半形?	微細剥落痕・破損・付着物	
	40		H-19	158	覆土1	Uフレイク	4.6	3.1	0.9	7.5	頁岩	灰白色	完形	微細剥落痕	
III-120	41		H-19	150	覆土2	Rフレイク	5.2	2.3	1.3	11.0	頁岩	褐色	完形	微細剥落痕	
	42		H-19	82-1	覆土1	Uフレイク	4.0	4.0	0.6	9.1	めのう	灰白色	準完形?	微細剥落痕・破損?	
	43		H-20	4	覆土1	スクレイパー	5.7	4.9	1.5	26.8	めのう	にぶい褐色	完形	微細剥落痕	
	44		P-3	1	覆土1	石槍・ナイフ	9.9	3.0	1.2	33.6	頁岩	黒褐色	完形	微細剥落痕・破損	
	45		P-6	1	覆土1	スクレイパー	5.6	8.1	3.1	59.1	珪質頁岩	にぶい黄褐色	完形	微細剥落痕?	エンドスクレイパー
	46		P-10	2-1	覆土	つまみ付きナイフ	6.1	2.6	1.1	17.6	凝灰岩 ・頁岩	灰白～ にぶい黄褐色	準完形～半 形	微細剥落痕・破損	
	47		P-12	4	覆土1	石鏃	4.1	1.7	0.6	2.8	黒曜石		準完形	微細剥落痕・破損	
	48		P-14	3	覆土1	石鏃	3.0	1.2	0.4	0.9	黒曜石		完形	微細剥落痕・破損	
	49		P-24	2	覆土1	スクレイパー	11.3	4.5	1.8	56.6	頁岩	緑灰色	完形	微細剥落痕・破損	サイドスクレイパー
	50		P-26	38	覆土1	つまみ付きナイフ	4.9	6.8	0.6	10.1	頁岩	灰褐色	完形	微細剥落痕	
III-121	51		P-26	43	覆土1	スクレイパー	8.8	2.7	1.4	31.5	玄武岩 安山岩	灰色	完形	微細剥落痕	サイドスクレイパー
	52		P-26	62	覆土1	スクレイパー	5.6	2.6	1.1	17.1	めのう	(灰白色)	完形	微細剥落痕	サイド・エンドスクレイパー
	53		P-38	23	覆土2	石鏃	3.3	1.5	0.5	1.4	玄武岩? サスカイト様	暗灰色	完形	微細剥落痕	
	54		P-38	19	覆土2	石槍・ナイフ	6.5	3.4	1.3	17.3	めのう	灰白色	完形	微細剥落痕・剥落痕	スクレイパー?
	55		P-38	25	覆土2	スクレイパー	6.4	3.4	1.2	15.8	めのう	灰白色	準完形?	微細剥落痕・破損	サイドスクレイパー
	56		P-39	4	覆土1	スクレイパー	6.9	7.0	2.5	115.3	めのう	灰白色他	完形	剥落痕・破損	ラウンドスクレイパー
	57		P-44	23	覆土	石鏃	2.2	1.4	0.7	1.4	頁岩	褐灰色	完形	微細剥落痕・破損	
	58		P-48	10	覆土	スクレイパー	9.9	4.3	1.7	65.6	頁岩	褐灰色	完形	微細剥落痕・剥落痕	サイドスクレイパー
	59		P-51	30	覆土	石鏃	(3.1)	2.1	0.6	3.0	頁岩	黒褐色	半形	微細剥落痕・破損	
	60		P-59	4	覆土	スクレイパー	4.3	5.0	1.5	25.2	めのう	灰褐色	完形	微細剥落痕・剥落痕	サイドスクレイパー
III-122	61		P-71	20	覆土6	スクレイパー	11.3	3.9	1.7	74.8	玄武岩	灰色	完形	微細剥落痕・剥落痕	サイド・エンドスクレイパー
	62		P-71	15	覆土6	スクレイパー	7.5	2.4	1.0	11.2	頁岩	灰色	完形	微細剥落痕・破損	サイドスクレイパー
	63		P-79	49	覆土中位	(石鏃)	2.7	1.9	1.9	1.6	黒曜石		石鏃: 微細剥落痕・破損 石鏃: 磨滅	石鏃転用品	
	64		P-79	5	覆土中位	つまみ付きナイフ	6.0	3.9	0.8	12.6	頁岩	灰褐色	準完形	微細剥落痕・破損	
	65		P-79	45	覆土上位	スクレイパー	5.4	3.0	1.2	18.5	頁岩	灰白色	準完形	微細剥落痕・破損	サイドスクレイパー
	66		P-80	43	覆土3層下	スクレイパー	5.5	5.3	1.0	27.0	頁岩	(灰白～ 黒褐色)	完形?	微細剥落痕・破損	Uフレイク?
	67		P-81	17	覆土上位	石鏃	(1.4)	1.5	0.4	0.7	黒曜石		半形	微細剥落痕・破損	
	68		F-1	4	Vb	スクレイパー	6.5	3.3	1.1	21.7	頁岩	にぶい褐色	完形	微細剥落痕・剥落痕	サイドスクレイパー 土器集中
	69		F-7・8	1	Va	スクレイパー	6.1	4.1	0.9	20.4	頁岩	灰黄褐色	完形	微細剥落痕	石鏃?
	70		F-7・8	2	Va	スクレイパー	7.2	4.0	1.7	37.7	泥～頁岩	灰白色～ 灰色	完形	微細剥落痕・剥落痕	サイドスクレイパー
III-122	71	85-1	F-7・8	6	Va	スクレイパー	5.7	3.8	1.7	35.5	頁岩	灰～ 灰黄色	完形	微細剥落痕・剥落痕?	遺物集中
	72		F-7・8	10	Va	ピエスエスキュー	3.2	2.9	0.8	5.3	頁岩	褐灰～ 明褐色	*	微細剥落痕(ステップ状)	遺物集中
	73		F-7・8	10	Va	ピエスエスキュー	3.9	2.6	1.3	8.3	頁岩	灰黄褐色	*	微細剥落痕(ステップ状)	遺物集中
	74		F C-1	8	Vb	スクレイパー	6.6	4.5	1.5	42.9	頁岩	灰褐色	完形	微細剥落痕	サイドスクレイパー
	75	85-2	H-42-b区	11	Vb	スクレイパー	6.2	4.1	2.0	43.5	頁岩	緑灰色 凝灰岩質部分	完形	微細剥落痕	サイドスクレイパー 接合資料 表25参照
	76	85-3	F C-1	1	Vb	接合資料原石	13.7	8.0	10.5	420	頁岩	緑灰色 凝灰岩質部分	*	*	

表22 遺構出土磨製石器群観察表

掲載 図	番号	図版	出土遺構	遺物 番号	層位	器種	計測値 (cm)			重量 (g)	石材		残存形態	使用痕	加工痕	備考
							最大長	最大幅	最大厚		名称	色調・特徴				
III-123	1	86	H-7	49	覆土	磨製石斧	14.0	4.0	2.3	210	片岩	青灰色	完形	剥落痕・破損	研磨痕	
	2		H-7	60	覆土	磨製石斧	8.0	2.7	2.6	50	片岩	青灰色	完形	たたき痕	研磨痕	転用品
	3		H-8	12	覆土7	磨製石斧	8.0	5.1	2.2	146	泥岩	暗オリーブ灰色	半形	剥落痕・破損	研磨痕・敲打痕	擦切技法
	4		H-10	5	覆土	磨製石斧	9.0	2.4	1.3	30	泥岩	オリーブ灰色	準完形	剥落痕	研磨痕・敲打痕	石のみ
	5		H-12	5	床面	磨製石斧	8.8	5.6	2.5	204	泥岩	緑灰色	半形	破損・剥落痕・付着物	研磨痕	転用品?
	6		H-14	252	覆土上位	磨製石斧	(4.6)	3.2	1.4	25	泥岩	緑灰色	半形	剥落痕・破損	研磨痕	
	7		H-14	251	覆土上位	磨製石斧	(5.0)	1.9	0.7	10	片岩	暗青灰色	片	剥落痕・破損	研磨痕?	石のみ?
	8		H-17	19	覆土1	磨製石斧	(2.4)	3.4	0.8	7	粘板岩	暗青灰色	片	剥落痕・破損	研磨痕	
	9		H-18	8	床面直	磨製石斧	(6.1)	3.6	2.2	67	泥岩	暗緑灰色	半形	破損	研磨痕・敲打痕	

表23 遺構出土礫石器群観察表(1)

掲載番号 図	番号	図版	出土遺構	遺物 番号	層位	破片 小計	破片 合計	器種	計測値 (cm)			重量 (g)	石材		残存形態	使用痕	加工痕	備考
									最大長	最大幅	最大厚		名称	色調・特徴				
III-124	1	87	H-1	46	覆土1	1	1	北海道式石冠	14.0	8.1	5.6	790	安山岩	褐灰色	完形	すり痕・剥落痕	敲打痕	
	2		H-1	31	覆土1	1	2	石錘	12.9	7.8	2.3	350	安山岩	ぶい黄褐色	完形	*	打ち欠き痕	接合資料 扁平打製石製品
	3		H-3	73	覆土1	1	1	扁平打製石器	18.0	10.5	4.0	820	安山岩	褐灰色	完形	すり痕・剥落痕・破損?	敲打痕	
	4		H-3	11	床面直	1	1	扁平打製石器	16.1	8.8	2.1	360	安山岩	明黄褐色	完形	剥落痕	敲打痕・打ち欠き痕	
	5		H-3	90	H P-2	1	1	扁平打製石器	13.9	2.4	9.4	430	安山岩	ぶい黄褐色	完形	剥落痕	敲打痕・打ち欠き痕	
	6		H-3	46	覆土1	1	1	たたき石	15.4	6.4	3.0	456	安山岩	灰黄色	完形	たたき痕	*	
III-125	7	88	H-4	2	壁面直	1	1	扁平打製石器	12.9	8.5	2.2	310	安山岩	灰褐色	完形	剥落痕	打ち欠き痕	
	8		H-4	16	覆土1	1	1	北海道式石冠	9.5	(9.5)	5.0	372	安山岩	黄灰色	半形	すり痕・破損	敲打痕	
	9		H-4	23	床面直	1	1	北海道式石冠	13.8	10.0	6.5	1,250	安山岩	灰白色	完形	すり痕・剥落痕・破損	敲打痕	
III-126	10	89	H-4	21	床面直	1	1	北海道式石冠	4.8	9.5	5.7	1,200	安山岩	灰白色	完形	すり痕・剥落痕・破損	敲打痕	
	11		H-5	13	覆土中	1	1	扁平打製石器	18.3	12.0	2.9	930	安山岩	ぶい黄褐色	完形	すり痕・剥落痕	敲打痕・打ち欠き痕	
	12		H-5	17	覆土下	1	1	北海道式石冠	11.8	10.0	5.4	820	安山岩	灰白色	完形	すり痕・剥落痕・破損	敲打痕	
	13		H-8	45	V b	2	2	扁平打製石器	11.6	17.5	3.3	758	安山岩	ぶい黄褐色	完形	すり痕・剥落痕(破損)	打ち欠き(敲打痕)	接合資料
III-127	14	90	H-8	91	V b	1	1	扁平打製石器	8.4	11.3	3.0	318	安山岩	ぶい黄褐色	完形	*	敲打痕・打ち欠き痕	未製(使用)品?
	15		H-8	11	床面直	1	1	北海道式石冠	9.8	14.3	5.2	1,085	安山岩	(灰白色)	完形	すり痕・剥落痕	敲打痕	
	16		H-8	9	床面直	1	1	北海道式石冠	10.0	14.7	4.8	982	安山岩	黄灰色	完形	すり痕・剥落痕	敲打痕	
	17		H-8	98	V b	1	1	北海道式石冠	10.4	(14.1)	5.0	1,100	安山岩	灰色	準完形	すり痕・剥落痕・破損	敲打痕	
	18		H-8	33	V b	1	1	たたき石	14.8	6.1	3.1	420	安山岩	灰色	完形	たたき痕	*	
III-128	19	91	H-8	14	覆土8	1	1	砥石	(12.6)	11.2	4.4	370	凝灰岩	灰色	準完形	すり痕・破損付着物?	*	
	20		H-8	19	覆土8	1	1	北海道式石冠?	13.9	18.4	7.3	2,500	安山岩	灰黄色	*	*	敲打痕	未製品
	21		H-10	1	床面	1	1	砥石	28.2	15.8	3.2	1,670	安山岩	ぶい黄褐色	(完形)	すり痕	*	
	22		H-11	3	覆土	1	1	扁平打製石器	10.0	15.4	3.9	670	知石(磨)	灰白~ 褐灰色 多孔質	準完形	すり痕・破損	敲打痕?	
	23		H-12	4	床面	1	1	たたき石	7.4	7.0	6.2	440	泥岩	灰色	完形	たたき痕	*	
	24		H-14	23	覆土中位	1	1	たたき石	8.0	7.4	4.9	310	安山岩	ぶい黄褐色	完形	たたき痕	*	
	25		H-14	319	覆土8	1	1	たたき石	21.2	9.0	6.7	1,740	安山岩	ぶい黄褐色	完形	たたき痕付着物?	*	
	26		H-16	60-2	覆土2	2	2	扁平打製石器	9.0	16.5	4.2	750	砂岩・知石	灰黄色(風化)	完形	すり痕剥落痕	打ち欠き痕敲打痕?	一次分類; すり石
	27		H-16	68	覆土1	1	1	扁平打製石器	7.0	13.8	2.9	400	安山岩	灰白色	準完形	すり痕・剥落痕・破損	打ち欠き痕	一次分類; すり石
	28		H-16	67	覆土1	1	1	扁平打製石器	9.1	15.1	3.7	620	安山岩	灰黄色	完形	すり痕・剥落痕	打ち欠き痕	一次分類; すり石
III-129	29	92	H-19	75	覆土2	1	1	たたき石	14.1	7.4	4.6	640	砂岩?	ぶい黄褐色 硬質	完形	たたき痕	打ち欠き痕?	
	30		P-11	3	覆土2	1	1	扁平打製石器	10.2	16.2	2.9	830	安山岩	ぶい黄褐色	完形	すり痕・剥落痕	打ち欠き痕	
	31		P-16	14	覆土1	1	1	扁平打製石器	7.2	14.2	3.5	520	安山岩	ぶい黄褐色	完形	すり痕・剥落痕	打ち欠き痕	
	32		P-17	15	覆土	1	1	扁平打製石器	8.2	16.0	3.6	520	安山岩	灰色	完形	すり痕・剥落痕	打ち欠き痕	
	33		P-20	8	覆土1	1	1	扁平打製石器	7.8	15.2	3.9	740	安山岩	灰色	完形	すり痕・剥落痕	打ち欠き痕	
	34		P-23	2	覆土1	1	1	北海道式石冠	10.1	11.3	5.3	860	安山岩	灰白色	完形	*	打ち欠き痕・敲打痕	未使用品?
	35		P-26	57	覆土1	1	1	扁平打製石器	12.7	17.3	3.2	1,080	安山岩	灰黄褐色	完形	すり痕・剥落痕	打ち欠き痕敲打痕?	
	36		P-26	69- 45	覆土1	1	2	北海道式石冠	9.3	18.2	5.5	1,140	安山岩 (溶岩)	多孔質 (灰白色)	完形	すり痕・破損	敲打痕	接合資料
	37		P-26	1	覆土1	1	1	扁平打製石器	9.7	16.1	3.0	620	安山岩	灰黄褐色	完形	すり痕・剥落痕	打ち欠き痕	
	38		P-30	6	覆土	1	1	北海道式石冠	6.2	7.8	3.5	210	安山岩	灰白色	完形	(剥落痕)	敲打痕打ち欠き痕?	石製品?
	39		P-31	14	覆土	1	1	北海道式石冠	11.3	15.2	7.5	1,740	安山岩	ぶい黄褐色	完形	(剥落痕)	敲打痕・打ち欠き痕?	未使用品
III-130	40	93	P-32	3	覆土	1	1	扁平打製石器	7.5	(11.5)	2.1	200	安山岩	ぶい黄褐色	準完形?	すり痕・剥落痕破損?	敲打痕?打ち欠き痕?	
	41		P-32	2	覆土	1	1	扁平打製石器	9.2	13.0	3.5	610	安山岩	褐灰色	完形	すり痕・剥落痕	打ち欠き痕	
	42		P-33	11- 12- 13	床面直	1	3	扁平打製石器	11.6	13.0	2.1	430	安山岩	灰色	完形	すり痕・剥落痕?	*	接合資料 未加工品
	43		P-33	10	床面直	1	1	北海道式石冠	9.9	(10.5)	5.6	870	安山岩	灰白色	準完形	すり痕・破損	敲打痕	
	44		P-33	8	床面直	1	1	北海道式石冠	9.3	(15.1)	6.9	1,290	安山岩	灰白色	準完形	すり痕・剥落痕・破損	敲打痕	
	45		P-41	3	覆土	1	1	たたき石	23.3	6.4	3.5	410	安山岩	灰黄褐色	完形	たたき痕	*	
	46		P-42	2	覆土2	1	1	扁平打製石器	8.8	15.8	4.0	730	安山岩	灰白色	完形	すり痕・剥落痕	敲打痕・打ち欠き痕	
	47		P-42	3	覆土2	1	1	石錘	11.9	16.9	4.4	1,380	安山岩	灰白色	完形	*	打ち欠き痕	扁平打製石器製品
	48		P-46	1	覆土1	1	1	扁平打製石器	8.5	16.6	3.2	640	安山岩	灰白色	完形	すり痕・剥落痕	打ち欠き痕敲打痕?	
	49		P-53	1	覆土	1	1	扁平打製石器	10.3	16.4	3.0	690	安山岩	ぶい黄褐色	完形	すり痕・剥落痕	打ち欠き痕敲打痕?	
	50		P-69	1	覆土1	1	1	扁平打製石器	10.7	14.6	4.2	820	安山岩	ぶい黄褐色	完形	すり痕	打ち欠き痕	一次分類; すり石
	III-134		51	94-1	P-69	2	覆土1	1	1	北海道式石冠	(6.1)	17.7	9.2	1,270	安山岩	ぶい黄褐色	片	*
52		P-77	17		覆土6	1	1	たたき石	12.0	5.8	3.1	300	安山岩	閉緑岩	完形	たたき痕	*	
53		P-79	23		覆土3	1	1	たたき石	17.2	7.9	5.6	1,290	安山岩	灰黄色	完形	たたき痕	*	
54		P-83	4		覆土1	1	1	扁平打製石器	7.8	15.5	3.9	690	安山岩	灰色	完形	すり痕・剥落痕	打ち欠き痕	一次分類; すり石
III-135	55	94-1	P-85	25	覆土下位	1	1	たたき石	15.0	7.3	5.5	840	安山岩	ぶい黄褐色	完形	たたき痕	*	
	56		F C-1	3	V b	1	1	扁平打製石器	13.6	15.8	4.3	1,390	安山岩	褐灰色	完形	すり痕・剥落痕	敲打痕	
	57		F C-1	5	V b	1	1	扁平打製石器	9.6	(17.3)	4.3	1,000	安山岩	灰白色	準完形	すり痕・剥落痕・破損	打ち欠き痕	
	58		F C-1	14	V b	1	1	北海道式石冠	12.1	(8.7)	5.3	660	安山岩	灰白色	半形	すり痕・剥落痕・破損	敲打痕	
	59		F C-1	6	V b	1	1	北海道式石冠	(8.7)	(6.7)	(5.5)	400	安山岩	灰白色	半形	すり痕・剥落痕	敲打痕	

表23 遺構出土礫石器群観察表(2)

掲載番号 図版	出土遺構 遺物番号	層位	破片数 小計 合計	器種	計測値(Cm)			重量 (g)	石材 名称 色調・特徴	残存形態	使用痕	加工痕	備考	
					最大長	最大幅	最大厚							
III-136	94-2	H-9 81	床面直	1	1	40.2	24.1	5.2	6,000	安山岩 (灰白色)	(完形)	すり痕・たたき痕	*	
	95-1	H-12 11	覆土	1	1	28.1	26.3	10.9	8,500	安山岩 灰白色	準完形	すり痕	たたき痕?	
	95-2	H-14 312	覆土 8	1	1	21.0	19.9	6.8	3,500	安山岩 褐灰色	準完形	すり痕? 破損	*	
	95-3	H-14 325	床直	1	1	21.5	18.7	8.4	3,500	角閃石 安山岩 灰白色	完形	すり痕	*	
	95-4	H-14 111	覆土 3	1	1	42.7	23.0	7.0	9,000	砂岩 緑褐色・黄褐色	完形	すり痕	打ち欠き痕? 敲打痕?	
III-137	96-1	H-16 43	覆土 1	1	1	24.0	15.6	5.1	3,000	安山岩 灰白色	(完形)	すり痕?	*	
	96-2	H-16 49	覆土 2	1	1	33.4	16.0	8.0	6,000	安山岩 灰白色	完形	すり痕	*	
	96-3	H-16 54	覆土 2	1	1	37.9	30.5	15.0	27,500	安山岩 にぶい黄褐色	完形	すり痕?	*	自然露?
	96-4	H-17 58	覆土 1	1	1	(28.6)	27.6	11.9	12,500	安山岩 褐灰色	準完形	すり痕? 破損	*	自然露?
III-138	97-1	H-18 86	覆土中位	1	1	23.0	18.9	5.7	3,500	安山岩 にぶい黄褐色	完形	すり痕? たたき痕?	*	自然露?
	97-2	H-18 65	覆土中位	1	1	(26.1)	21.7	10.0	7,000	安山岩 褐灰色	準完形	すり痕? たたき痕? 破損?	*	
	97-3	P-37 2	覆土 1	1	1	28.1	25.9	12.9	12,500	安山岩 にぶい黄褐色	準完形	すり痕	敲打痕	
	97-4	P-71 14	覆土 3	1	1	(18.9)	17.9	9.7	5,000	安山岩 にぶい黄褐色	半形	すり痕	*	
III-139	98-1	P-77 34	覆土 6	1	1	(22.0)	(20.7)	8.3	5,500	安山岩 灰白色	片	すり痕? たたき痕? 破損?	*	
	98-2	P-77 27	覆土 6	1	1	(12.1)	14.1	3.7	840	安山岩 浅黄色	半形	すり痕? たたき痕?	*	
	98-3	P-77 40	覆土 7	1	1	27.4	11.1	3.1	1,430	安山岩 灰白色	完形	すり痕・剥落痕	*	
	98-4	P-79 15	覆土中位	1	1	(15.8)	(14.1)	6.1	1,430	角閃石 安山岩 褐灰色	片	たたき痕?	*	
	99-1	S-2 36	V1-V2	1	1	(37.9)	(30.8)	11.6	16,000	安山岩 灰黄色	準完形	すり痕・たたき痕	*	
	99-2	S-2 47	V1-V3	1	1	35.7	18.1	7.7	8,000	安山岩 灰黄色	完形	すり痕	*	
III-140	99-3	F-1 11	Vb	1	1	27.6	21.7	8.0	5,000	角閃石 安山岩 灰白色	完形	たたき痕 すり痕?	*	
	99-4	F C-1 15	Vb	1	1	29.4	19.7	14.9	11,500	安山岩 灰白～ にぶい黄褐色	(完形)	すり痕	敲打痕?	

表24 遺構出土石製品観察表

掲載番号 図版	出土遺構 遺物番号	層位	器種	計測値(Cm)			重量 (g)	石材 名称 色調・特徴	残存形態	使用痕	加工痕	備考	
				最大長	最大幅	最大厚							
III-141	1	H-7 5	覆土	石製品	5.2	5.2	1.4	14.1	凝灰岩 灰白色	完形	磨滅	打ち欠き痕	三脚石器
	2	H-14 435	覆土上位	石製品	4.4	4.3	1.7	9.6	凝灰岩 にぶい黄褐色	完形	磨滅	打ち欠き痕	三脚石器
	3	H-14 439	覆土中位	石製品	(2.9)	(3.2)	1.4	5.1	凝灰岩 浅黄色	片	破損・磨滅	打ち欠き痕	三脚石器
	4	H-14 229	覆土中位	石製品	2.8	3.8	1.7	8.8	凝灰岩 灰白色	片	破損・磨滅	打ち欠き痕	三脚石器
	5	H-14 320	床面直	石製品	(3.8)	5.5	1.6	14.3	浮岩(軽石) 褐灰色	半形	破損	研磨痕?	
	6	P-80 14	覆土 3	石製品	4.4	5.4	1.6	9.4	凝灰岩 (灰白色)	完形	磨滅	打ち欠き痕	三脚石器

表25 フレイク・チップ集中接合表

出土地点	遺物番号	層位	岩石名	母岩		未接合破片 点数	別個体 破片数		
				色調	硬さ				
FC-1	*	Vb層	頁岩	緑灰色 細粒～中粒 色調は灰白色で、軟質(赤土混?)	7.5GY6/1～ 2.5GY7/1	硬質	585	418.89	2
接合資料番号									
出土地点	遺物番号	層位	破片数	総破片数	計測値	特徴	備考		
				cm		g			
1	FC-1	H-42-b区	11	19	6.2×4.1×2.0	43.5	スクレイパー	III-136-25, 27	
				cm		g			
2	FC-1	H-42-a区	35	35	9.7×8.8×7.5	210	礫表皮面	122 76	
				cm		g			
3	FC-1	H-42-a区	9	9	12.1×7.9×1.5	150	礫表皮面	接合資料番号	
				cm		g			
4	FC-1	H-42-a区	42	42	13.8×11.0×6.8	555	礫表皮面	接合資料番号	
				cm		g			
5	FC-1	H-42-a区	13	13	8.7×6.1×3.5	205	礫表皮面	接合資料番号	
				cm		g			
6	FC-1	H-42-a区	18	18	10.1×7.6×1.8	110	礫表皮面	接合資料番号	
				cm		g			
7	FC-1	H-42-a区	9	9	9.8×7.1×2.1	140	礫表皮面	接合資料番号	
				cm		g			
8	FC-1	H-42-a区	26	26	8.7×8.7×4.6	240	礫表皮面	接合資料番号	
				cm		g			

出土地点	遺物番号	層位	破片数	総破片数	計測値		特徴	備考				
					cm	g						
9	FC-1	21	2	4	3.7×3.2×1.0	11.5	礫表皮面	破片数				
									22	Vb層	1	
									23	Vb層	1	
10	FC-1	21	1	10	7.1×4.1×2.6	51.9	礫表皮面	191				
									22	Vb層	1	
									23	Vb層	1	
11	FC-1	21	2	6	4.4×2.6×1.5	15.6	礫表皮面					
									22	Vb層	1	
									23	Vb層	1	
12	FC-1	21	1	7	5.0×3.3×1.5	20.8	礫表皮面					
									22	Vb層	1	
									23	Vb層	1	
13	FC-1	21	1	2	4.1×2.6×1.1	8.6	礫表皮面					
									22	Vb層	1	
									23	Vb層	1	
14	FC-1	21	2	4	4.6×3.6×1.9	15.5	礫表皮面					
									22	Vb層	1	
									23	Vb層	1	
15	FC-1	21	4	7	6.0×4.9×1.4	28.3	礫表皮面					
									22	Vb層	1	
									23	Vb層	1	
16	FC-1	21	2	3	4.4×2.5×1.6	10.1	礫表皮面					
									22	Vb層	1	
									23	Vb層	1	
17	FC-1	21	1	3	5.8×3.9×1.6	20.2	礫表皮面	石英質部分あり				
									22	Vb層	1	
									23	Vb層	1	
18	FC-1	21	1	2	2.7×1.6×0.6	2.17	礫表皮面					
									22	Vb層	1	
									23	Vb層	1	
19	FC-1	21	1	2	5.2×3.8×0.6	10.8	礫表皮面	石英質部分あり				
									22	Vb層	1	
									23	Vb層	1	
未接合破片	FC-1	21	212	212	112.7	11.2	礫表皮面	未注記含む				
									2	Vb層	24	24.2
									16	Vb層	224	61.5
									21	Vb層	66	34.1
									22	Vb層	55	79.9
									1	Vb層	1	6.08
									11	Va層	1	4.71
									12	Va層	1	12.7
									15	Vb層	1	1.4
									18	Vb層	3	9.0
									14	Vb層	3	12.6
25	風倒木	1	12.1									
27	風倒木	1	0.8									
29	風倒木	4	43.8									
4	Vb層	1	2.1									
8	Vb層	1	1.2									

出土地点	遺物番号	層位	岩石名	母岩		未接合破片 点数	別個体 破片数		
				色調	硬さ				
D-42-d区フレイク群	*	?	頁岩	灰黄褐色	10Y R 4/2	硬質	185	161.3	無
備考									
色調は灰白色～にぶい黄褐色で、一部軟質									
フロアテーション									
接合資料番号	出土地点	遺物番号	層位	破片数	総破片数	計測値	特徴	備考	
				cm		g			
2	D-42-d区	*	?	8	8	5.3×8.1×2.3	20.8	礫表皮面	
3	D-42-d区	*	?	6	6	5.3×4.1×1.0	11.8	礫表皮面	
4	D-42-d区	*	?	4	4	6.1×5.5×2.5	62.2	礫表皮面	
5	D-42-d区	*	?	2	2	5.7×3.9×2.1	25.3	*	
6	D-42-d区	*	?	2	2	6.8×4.5×1.3	41.4	礫表皮面	
7	D-42-d区	*	?	2	2	6.1×4.0×2.5	36.7	礫表皮面	
8	D-42-d区	*	?	2	2	3.3×2.4×1.1	8.3	礫表皮面	
9	D-42-d区	*	?	2	2	3.8×2.0×1.3	13.6	*	
10	D-42-d区	*	?	2	2	4.5×2.9×2.0	21.8	*	
11	D-42-d区	*	?	2	2	3.3×1.4×1.5	4.5	*	
備考									
フロアテーション									
接合資料番号	出土地点	遺物番号	層位	破片数	総破片数	計測値	特徴	備考	
				cm		g			
2	D-42-d区	*	?	2	2	9.7×5.1×2.1	82.1	礫表皮面	
3	D-42-d区	*	?	3	3	7.2×5.4×2.2	37.6	*	
4	D-42-d区	*	?	2	2	8.5×4.8×3.6	125	*	

表26 遺構出土自然礫観察表

遺構の掲載		出土遺構	遺物番号	層位	計測値(cm)			重量(kg)	石材		残存形態	風化の程度	粒度区分	b/a	c/b	形状	円磨度	備考(使用の痕跡)		
図	図版				長軸: a	中軸: b	短軸: c		名称	色調・特徴									最大	
																			最大長	最大幅
Ⅲ-27	22-1~3	H-17	115	床面直上	33	28	13	10.0	安山岩	片	未風化	巨礫	0.85	0.46	円盤状	角~亜角礫	炉石15			
			116	床面直上	41	12	5.0	3.72	安山岩	片	未風化	巨礫	0.29	0.42	小判状	角~亜角礫	炉石16			
			117	床面直上	15	10.5	9.5	1.58	安山岩	完形	未風化	大礫	0.70	0.90	球状	亜円礫	炉石17			
			118	床面直上	25	9.8	8.0	2.02	安山岩	完形	未風化	大礫	0.39	0.82	棒状	亜角礫	炉石18・黒色化			
			119	床面直上	13	10	9.0	1.48	安山岩	完形	未風化	大礫	0.77	0.90	球状	円~亜円礫	炉石19・赤色化 黒色化			
Ⅲ-28	23-1・2	H-18	120	床面直上	31	22	11	8.18	安山岩	完形	未風化	巨礫	0.71	0.50	亜円礫	亜円礫	炉石20・黒色化			
			10	床面直上	24	12	7.0	2.78	安山岩	完形	未風化	大礫	0.50	0.58	小判状	亜円礫	炉石20・接合資料			
			11	床面直上	15	12	4.0	0.89	安山岩	片	未風化	大礫	0.80	0.33	円盤状	亜角礫	炉石11・赤色化			
			12	床面直上	21	15	7.0	2.67	安山岩	片	未風化	大礫	0.71	0.47	円盤状	亜角礫	炉石2・赤色化 黒色化 加工痕?			
			13	床面直上	26	12	9.0	2.04	安山岩	片	未風化	巨礫	0.46	0.75	棒状	角礫	炉石13			
			14	床面直上	23	20	10	4.90	安山岩	片	未風化	大礫	0.87	0.50	円盤状	亜角礫	炉石14			
Ⅲ-76	39-5・6	S-1	15	床面直上	9.0	8.5	6	0.60	安山岩	完形	未風化	大礫	0.94	0.71	球状	円礫	炉石15			
			16	床面直上	13	10	4.5	0.64	安山岩	片	未風化	大礫	0.77	0.45	円盤状	角礫	炉石16・赤色化			
			1	覆土第1層	33	21	12.5	16.5	安山岩	片	未風化	巨礫	0.64	0.60	小判状	亜円礫				
			2	覆土第1層	27	19	10.5	11.5	安山岩	片	未風化	巨礫	0.70	0.55	円盤状	亜円~亜角礫				
			3	覆土第1層	36.5	21.5	9.0	12.0	安山岩	完形	未風化	巨礫	0.59	0.42	小判状	円~亜円礫				
			4	覆土第1層	26.5	24	7.0	7.52	安山岩	片	未風化	巨礫	0.91	0.29	円盤状	亜角~亜円礫				
			5	覆土第1層	29	21	11	13.0	安山岩	片	未風化	巨礫	0.72	0.52	円盤状	亜角礫				
			6	覆土第1層	21	14	13.5	5.4	安山岩	片	未風化	大礫	0.67	0.96	棒状	亜円礫				
			7	覆土第1層	34	25	12	18.0	安山岩	完形	未風化	大礫	0.74	0.48	円盤状	亜円礫	黒色化			
Ⅲ-79	40-3	S-3	2・4	V a層	最大			合計	安山岩・浮岩	完形	未風化	中礫 ~ 細礫	0.83	0.60	円盤状	円~亜円礫	37点			
					3.0	2.5	1.5													
					平均長軸長			1.0												
					最小長軸長			0.5												
Ⅲ-79	40-3	S-3	2・4	V a層	最大			合計	凝灰岩・泥岩	完形	未風化 ~ 半風化	中礫 ~ 細礫	0.44	0.25	小判状	円~亜円礫	69点			
					4.5	2.0	0.5													
					平均長軸長			1.0												
					最小長軸長			0.3												
Ⅲ-78・79	40-5	S-4	1	*	24	17	6.0	3.96	安山岩	完形	未風化	大礫	0.71	0.35	円盤状	円礫	炉石			
			2	*	37	20	11	9.12	安山岩	完形	未風化	巨礫	0.54	0.55	小判状	亜角~亜円礫	炉石			
			4	*	41	24	9.0	6.92	安山岩	片	未風化	巨礫	0.59	0.38	小判状	角礫	炉石			
			5	*	27	17	3.0	3.22	安山岩	完形	未風化	巨礫	0.63	0.18	小判状	円礫	炉石・台石?			
			6-1	*	34	16	8.0	6.60	安山岩	完形	未風化	巨礫	0.47	0.50	小判状	亜円礫	炉石			
			6-2	*	非計測			安山岩	*	*	*	*	*	*	*	*	炉石・破片 4点			
		7	*	20	6.5	5.5	0.80	安山岩	片	未風化	大礫	0.33	0.85	棒状	亜円礫	炉石・黒色化				
		8	*	40	29	7.5	12.0	安山岩	完形	未風化	巨礫	0.73	0.26	円盤状	亜角礫	炉石・赤色化 黒色化				
		S-5	1	*	18.5	13	5.5	1.48	角閃石安山岩	片	未風化	大礫	0.70	0.42	円盤状	亜角礫	炉石・黒色化			
			2	*	17	9.5	4.0	1.16	流紋岩	片	未風化	大礫	0.56	0.42	小判状	亜角~亜円礫	炉石・接合資料 黒色化			
			3	*	24.5	16	4.5	1.72	安山岩	完形	未風化	大礫	0.65	0.28	小判状	亜角~亜円礫	炉石・赤色化?			
			7	*	20	14	6.0	2.14	安山岩	完形	未風化	大礫	0.70	0.43	円盤状	亜円礫	炉石・接合資料			
			8	*	26	14	7.5	3.56	角閃石安山岩	完形	未風化	巨礫	0.54	0.54	小判状	亜円礫	炉石・黒色化			
			9	*	22	16	6.5	3.06	安山岩	片	未風化	大礫	0.73	0.41	円盤状	亜角~亜円礫	炉石・黒色化			
Ⅲ-79	40-4		S-6	1	V層	8.5	6.0	4.1	0.266	火山礫凝灰岩	完形	未風化	大礫	0.71	0.68	球状	亜円礫			
				2	V層	6.0	3.5	1.5	0.056	安山岩	完形	未風化	中礫	0.58	0.43	小判状	円礫			
		3		V層	10.9	7.7	3.9	0.378	安山岩	完形	未風化	大礫	0.71	0.51	円盤状	亜角~亜円礫				
		4		V層	5.7	4.3	2.4	0.078	安山岩	完形	未風化	中礫	0.75	0.56	円盤状	亜角礫				
		5		V層	7.1	5.2	4.0	0.270	安山岩	完形	未風化	大礫	0.73	0.77	球状	亜円礫				
		6		V層	6.4	5.0	3.2	0.152	火山礫凝灰岩	完形	半風化	大礫	0.78	0.64	円盤状	亜円礫				
		7		V層	9.5	6.1	4.1	0.314	安山岩	完形	未風化	大礫	0.64	0.67	棒状	亜円礫				
		8		V層	8.5	5.5	3.6	0.262	安山岩	完形	半~未風化	大礫	0.65	0.65	小判状	亜円礫				
		9-1		V層	8.2	4.7	3.2	0.204	安山岩	片	半風化	大礫	0.57	0.68	棒状	円礫				
		9-2		V層	3.6	2.0	1.9	0.014	流紋岩	片	未風化	中礫	0.56	0.95	棒状	角礫				
		10		V層	5.2	4.7	2.9	0.082	安山岩	完形	未風化	中礫	0.90	0.62	円盤状	亜円礫				
		11		V層	5.3	5.2	3.3	0.146	安山岩	完形	半風化	中礫	0.98	0.63	円盤状	亜円礫				
		12		V層	8.5	5.0	3.2	0.226	安山岩	完形	未風化	大礫	0.59	0.64	小判状	亜円礫				
		13		V層	7.4	6.1	2.2	0.172	安山岩	完形	未風化	大礫	0.82	0.36	円盤状	円礫				
		14		V層	5.8	5.1	3.0	0.158	安山岩	完形	未風化	中礫	0.88	0.59	円盤状	円礫				
		15		V層	7.6	7.3	2.9	0.166	安山岩	完形	未風化	大礫	0.96	0.40	円盤状	亜円礫				
		16		V層	6.1	4.9	3.9	0.204	安山岩	完形	未風化	中礫	0.80	0.80	球状	円礫				
		17		V層	6.9	6.4	4.3	0.300	流紋岩	完形	未風化	大礫	0.93	0.67	円盤状	円~亜円礫				
		18		V層	8.8	6.6	2.6	0.230	安山岩	完形	半風化	大礫	0.75	0.59	円盤状	亜円礫				
		19		V層	6.9	5.2	2.4	0.110	安山岩	完形	未風化	大礫	0.75	0.46	円盤状	亜円~亜角礫				
		20		V層	7.4	5.1	2.9	0.196	安山岩	完形	未風化	大礫	0.69	0.57	円盤状	亜円礫				
		21		V層	7.8	5.0	2.8	0.208	安山岩	完形	未風化	大礫	0.64	0.56	小判状	円礫	敲打痕?			
		22		V層	8.3	5.9	3.9	0.310	安山岩	完形	未風化	大礫	0.71	0.66	円盤状	円礫				
		23		V層	5.1	5.0	4.0	0.158	安山岩	完形	未風化	中礫	0.98	0.80	球状	亜円~亜角礫				
		24		V層	6.8	5.2	4.1	0.214	安山岩	完形	未風化	大礫	0.76	0.79	球状	亜円~亜角礫				
		25		V層	8.9	5.2	3.6	0.290	安山岩	完形	未風化	大礫	0.58	0.69	棒状	亜円礫				
		26		V層	6.9	4.8	4.2	0.244	角閃石安山岩	完形	未風化	大礫	0.70	0.88	球状	円~亜円礫				
		27		V層	5.8	3.7	2.9	0.102	安山岩	完形	未風化	中礫	0.64	0.78	棒状	円礫				
		28		V層	7.2	5.8	2.3	0.154	安山岩	完形	未風化	大礫	0.81	0.40	円盤状	円~亜円礫				
		29		V層	7.1	5.5	4.5	0.288	安山岩	完形	半風化	大礫	0.77	0.82	球状	円礫				
		30		V層	*	*	*	0.111	安山岩	完形?	風化	*	*	*	*	*	亜円礫?			
		31		V層	8.4	5.5	3.5	0.244	安山岩	完形	未風化	大礫	0.65	0.64	小判状	亜円礫				
					7.6	5.5	3.1	0.170	安山岩	完形	未風化	大礫	0.72	0.56	円盤状	亜円~亜角礫				
7.6	4.8		1.7		0.122	安山岩	完形	未風化	大礫	0.63	0.35	小判状	円~亜円礫							
5.2	4.5		3.1		0.124	安山岩	完形	未風化	中礫	0.87	0.69	球状	亜円礫							
7.1	5.0		3.5		0.244	角閃石安山岩	完形	未風化	大礫	0.70	0.70	球状	亜円礫							
32	V層	6.4	4.7	3.8	0.166	角閃石安山岩	完形	半風化	大礫	0.73	0.81	球状	亜円礫							
		6.1	5.2	2.8	0.152	安山岩	完形	未風化	中礫	0.85	0.54	円盤状	円礫							
33	V層	6.7	4.1	3.9	0.139	安山岩	完形	未風化	大礫	0.61	0.95	棒状	亜円礫							



表27 S-2 出土自然礫観察表

遺構の掲載	出土遺構	遺物番号	層位	計測値(cm)			重量(kg)	石材		残存形態	風化の程度	粒度区分	b/a	c/b	形状	円磨度	備考(使用の痕跡)					
				長軸: a	中軸: b	短軸: c		名称	色調・特徴													
				最大長	最大幅	最大厚																
Ⅲ-77	S-2	1	V1~V2層	22	18	16	10.2	安山岩	軟質	完形	未風化	巨礫	0.82	0.89	球状	円-非円礫	廃棄					
		2	V1~V2層	13	8.5	1.0	0.16	安山岩		片	未風化	大礫	0.65	0.12	小判状	角礫						
表	S-2	3	V1~V2層	72	62	13	83.4	安山岩		完形	未風化	巨礫	0.86	0.21	円盤状	角礫	廃棄・他破片35個					
		4	V1~V2層	17	13	5.5	1.8	安山岩		片	未風化	大礫	0.76	0.42	円盤状	亜角礫						
カラー図版	S-2	5	V1~V2層	59	30	5.5	16.9	安山岩		片	未風化	巨礫	0.51	0.18	小判状	亜角礫	廃棄・3点接合					
		6	V1~V2層	20	12	5	1.2	安山岩		片	未風化	巨礫	0.60	0.42	小判状	亜円礫	廃棄					
図版	40-1・2	7-1	V1~V2層	52	38	18	45.2	安山岩		片	未風化	巨礫	0.73	0.47	円盤状	亜角礫	廃棄					
		7-2	V1~V2層	11	11	2.5	0.4	安山岩		片	未風化	大礫	1.00	0.23	円盤状	亜円礫	廃棄					
40-1・2	S-2	8	V1~V2層	40	35	4	12.6	安山岩		片	未風化	巨礫	0.88	0.11	円盤状	角礫	廃棄					
		9	V1~V2層	26	23	16	17.2	安山岩		片	未風化	巨礫	0.88	0.70	球状	角礫	廃棄					
		10	V1~V2層	41	33	23	33.6	安山岩		片	未風化	巨礫	0.80	0.70	球状	亜円礫	廃棄					
		11	V1~V2層	9.0	5.0	2.5	0.16	角閃石安山岩		片	未風化	大礫	0.56	0.50	小判状	角礫						
		12	V1~V2層	48	33	21	49.6	安山岩		完形	未風化	巨礫	0.69	0.64	円盤状	円-非円礫	廃棄					
		13	V1~V2層	33	21.5	20	23.6	安山岩		完形	未風化	巨礫	0.65	0.93	棒状	亜円礫	廃棄					
		S-2	14	V1~V2層	17	15	1.5	0.6	安山岩		片	未風化	大礫	0.88	0.10	円盤状	円-非円礫	廃棄				
			15	V1~V2層	7	5.5	1	0.1	安山岩		片	未風化	大礫	0.79	0.18	円盤状	円-非円礫	廃棄				
		S-2	16	V1~V2層	32	25	14	23.0	安山岩		完形	未風化	巨礫	0.78	0.56	円盤状	円礫	廃棄				
		S-2	15	V1~V2層	25	20	15	8.8	安山岩		片	未風化	大礫	0.80	0.75	球状	角礫	廃棄				
		S-2	17	V1~V2層	10.5	9.5	2.5	0.2	安山岩		片	未風化	大礫	0.90	0.26	円盤状	亜角礫	廃棄・2点接合				
		S-2	18	V1~V2層	14	13	3.0	0.74	安山岩		片	未風化	大礫	0.93	0.23	円盤状	角礫	加工痕?				
		S-2	19	V1~V2層	68	30	20	74.2	安山岩		完形	未風化	巨礫	0.44	0.67	棒状	円礫	廃棄				
		S-2	20	V1~V2層	38	24	21	24.4	安山岩		完形	未風化	巨礫	0.63	0.88	棒状	亜角礫	廃棄				
		S-2	21	V1~V2層	23	18	4.5	2.2	安山岩		片	未風化	大礫	0.78	0.25	円盤状	円-非円礫	廃棄・他破片8点				
		S-2	22	V1~V2層	37	23	16	25.0	安山岩		完形	未風化	巨礫	0.62	0.70	棒状	亜角礫	廃棄				
		S-2	23-1	V1~V2層	19	6	2.5	0.2	安山岩		片	未風化	大礫	0.32	0.42	小判状	角礫	廃棄				
		S-2	23-2	V1~V2層	49	30	28	58.0	安山岩		片	未風化	巨礫	0.61	0.93	棒状	亜角礫	廃棄				
		S-2	24	V1~V2層	47	27	11.5	28.2	安山岩		完形	未風化	巨礫	0.57	0.43	小判状	円礫	廃棄				
		S-2	25	V1~V2層	27	20	8	6.6	安山岩? 凝灰岩?		片	未風化	巨礫	0.74	0.40	円盤状	亜角礫	廃棄				
		S-2	26	V1~V2層	43	31.5	28	46.0	安山岩+石英岩脈		完形	未風化	巨礫	0.73	0.89	球状	円礫	廃棄				
		S-2	27	V1~V2層	34	33	23	33.8	安山岩+石英岩脈		片	未風化	巨礫	0.97	0.70	球状	亜角礫	廃棄				
		S-2	28	V1~V2層	57	40	14	43.4	角閃石安山岩		完形	未風化	巨礫	0.70	0.35	円盤状	亜角礫	廃棄				
		S-2	29	V1~V2層	54	26	25	50.2	安山岩		完形	未風化	巨礫	0.48	0.96	棒状	亜円礫	廃棄				
		S-2	30	V1~V2層	46	32	16	42.4	安山岩		片	未風化	巨礫	0.70	0.50	円盤状	亜円礫	敲打痕?				
		S-2	31-1	V1~V2層	62	46	5.5	18.6	安山岩		片	未風化	巨礫	0.74	0.12	円盤状	角礫					
		S-2	31-2	V1~V2層	46	23.5	4	6.2	安山岩		片	未風化	巨礫	0.51	0.17	小判状	亜角礫	廃棄・他破片4点				
		S-2	32	V1~V2層	23	16	4.5	2.8	安山岩		片	未風化	大礫	0.70	0.28	円盤状	円-非円礫	廃棄				
		S-2	33	V1~V2層	42	33	8	14.2	安山岩		片	未風化	巨礫	0.79	0.24	円盤状	亜角礫	廃棄・他破片1点				
		S-2	34	V1~V2層	32	27	5	6.4	安山岩		片	未風化	巨礫	0.84	0.19	円盤状	亜角礫	廃棄				
		S-2	35	V1~V2層	93	74	18	89.6	安山岩		完形	未風化	巨礫	0.80	0.24	円盤状	亜角礫	廃棄				
		掲載遺物	Ⅲ-139	18	99-1	S-2	36	V1~V2層	37.9	30.8	11.6	16.0	安山岩		片	未風化	巨礫	0.81	0.38	円盤状	亜円礫	台石
		40-1・2	S-2	37	V1~V2層	21	14	8	3.3	安山岩		片	未風化	大礫	0.67	0.27	円盤状	角礫	廃棄・他破片3点			
				38-1	V1~V2層	19	11	3	1.4	安山岩		片	未風化	大礫	0.58	0.57	小判状	角礫	廃棄・他破片7点			
38-2	V1~V2層			非計測				礫岩		片	半風化	*	*	*	*	角礫	廃棄・長軸長2cm程度の小破片					
39-1	V1~V2層			42	33	24	48.8	安山岩		片	未風化	巨礫	0.79	0.73	球状	亜円礫	廃棄					
39-2	V1~V2層			非計測			0.1	安山岩		片	未風化	*	*	*	*	角礫	廃棄・2点					
S-2	40			V1~V2層	14.5	8	8	1.6	閃緑岩		完形	未風化	大礫	0.55	1.00	棒状	角礫	廃棄				
	41			V1~V2層	9.5	8.5	3.5	1.4	安山岩		片	未風化	大礫	0.89	0.41	円盤状	亜角礫	廃棄				
S-2	42			V1~V2層	21	15	8	3.0	安山岩		完形	未風化	大礫	0.71	0.53	円盤状	亜円礫	廃棄				
S-2	43			V1~V2層	68	30	12	65.0	安山岩		完形	未風化	巨礫	0.44	0.40	小判状	円礫	廃棄				
S-2	44			V1~V2層	23	19	5	2.2	安山岩		片	未風化	大礫	0.83	0.26	円盤状	角礫	廃棄				
S-2	45			V1~V2層	30	23	17	39.0	安山岩		完形	未風化	大礫	0.77	0.74	球状	円-非円礫	廃棄				
S-2	46			V1~V2層	非計測			1.2	安山岩		片	未風化	*	*	*	*	角礫	廃棄・4点				
S-2	45			V1~V2層	34	28	20	33.4	安山岩		片	未風化	巨礫	0.82	0.71	球状	亜角礫	廃棄				
掲載遺物	Ⅲ-140			19	99-2	S-2	47	V1~V2層	35.7	18.1	7.7	8.0	安山岩		完形	未風化	巨礫	0.51	0.43	小判状	円礫	台石
40-1・2	S-2	48	V1~V2層	35	29	7	13.3	安山岩		片	未風化	巨礫	0.83	0.24	円盤状	亜角礫	廃棄					
		49	V1~V2層	18	12	6	1.6	安山岩		片	未風化	大礫	0.67	0.50	円盤状	角礫	廃棄					
		50	V1~V2層	29	21	12	13.0	安山岩		完形	未風化	巨礫	0.72	0.57	円盤状	亜角礫	廃棄					
		51	V1~V2層	80	32	25	79.6	安山岩		完形	未風化	巨礫	0.40	0.78	棒状	角礫	廃棄					
		52	V1~V2層	19	16	4.5	1.0	安山岩		片	未風化	大礫	0.84	0.28	円盤状	角礫	廃棄・2点接合					
		53	V1~V2層	34	22	19	13.2	安山岩		完形	未風化	巨礫	0.65	0.86	棒状	亜角礫	廃棄					
		54-1	V1~V2層	41	27	11	25.2	安山岩		片	未風化	巨礫	0.66	0.41	小判状	円-非円礫	廃棄					
		54-2	V1~V2層	非計測			0.4	砂岩		片	未風化	*	*	*	*	円礫	廃棄・4点					
		S-2	55	V1~V2層	14.5	9	8.5	1.4	安山岩		完形	未風化	大礫	0.62	0.94	棒状	円礫	廃棄				
		S-2	57	V1~V2層	51	42	14	24.8	安山岩		片	未風化	巨礫	0.82	0.33	円盤状	角礫	廃棄				
		S-2	58-1	V1~V2層	10	7.5	6	0.6	凝灰岩		完形	未風化	大礫	0.75	0.80	球状	円礫	廃棄				
		S-2	58-2	V1~V2層	22	11	5	1.4	安山岩		完形	未風化	大礫	0.50	0.45	小判状	亜角礫	廃棄				
		S-2	60	V1~V2層	20	14	5	2.8	角閃石安山岩		片	未風化	大礫	0.70	0.36	円盤状	角礫	廃棄・8点				
		S-2	61	V1~V2層	9	8.5	8	0.8	安山岩		完形	未風化	大礫	0.94	0.94	球状	円礫	廃棄				
			62	V1~V2層	29	11	9.0	5.22	安山岩		完形	未風化	巨礫	0.38	0.82	棒状	円礫					
		S-2	62	V1~V2層	14	12	5.5	1.34	安山岩+石英岩脈		片	未風化	大礫	0.86	0.46	円盤状	円礫	敲打痕?				
		S-2	63	V1~V2層	6.5	6.0	3.0	0.14	砂岩		完形	未風化	大礫	0.92	0.50	円盤状	円礫	自然作用による孔?				
		S-2	64	V1~V2層	29	20	18	10.4	安山岩		完形	半風化	巨礫	0.69	0.90	球状	円-非円礫	廃棄				
S-2	65	V1~V2層	53	18	16	18.8	安山岩		完形	未風化	巨礫	0.34	0.89	棒状	円礫	廃棄						
S-2	66	V1~V2層	49	45	15	51.2	凝灰岩		完形	未風化	巨礫	0.92	0.33	円盤状	亜角礫	廃棄						

表28 土器類点数表

土器総点数 65,482点

包含層層位	Ⅱ群b類	Ⅲ群	Ⅲ群a類	Ⅲ群a類(Ⅲ群b-1類)	Ⅲ群b類	Ⅲ群b-1類	Ⅲ群b-2類	Ⅲ群b類~Ⅳ群a類	Ⅳ群a類	Ⅳ群b類	Ⅵ群	Ⅶ群	層位別合計
Ⅲ層	20		332		8	63			1,307		302		2,032
V層	73		1,407		302	349	2		4,485	1	66		6,685
Va層	2003Va層	177	1,656	1	287	68			2,957	17	1,067		6,230
	2004Va層	2	4		10	14	9		2,699		333	165	3,236
	V1層	11	31	1	22	52			5,746		40		5,903
	V2層	55	136	4	67	93			5,192		11	3	5,561
Vb層	V3層	44	164	2	81	515			4,134		2		4,942
	V4層	170	68		66	23			921		1		1,249
	V5層	42	30		29	7			148				256
	V6層	1	3		5	2			45				56
	V7層					8							8
	Vb層	937	34	8,002	1	807	549	33	2	8,361		468	
Vc層			180		2	18			7				207
Vb層下位(Vd層)			219		1				1				221
掘り上げ土			1						359				360
Ⅵ層	37		514		16	308	2		190	1	5		1,073
Ⅶ層			34		2	1			8				45
Ⅷ層			1										1
風倒木	20		304		16	21			129		3		493
風倒木(V)									2				2
排土			3		5				10		1		19
B調跡									2		2		4
攪乱	17		55		7	1			122				202
不明	1		23						120				144
木根攪乱	3		22								1		26
表採			1		1								2
分類別合計	1,610	34	13,190	9	1,734	2,092	46	2	36,945	19	2,302	168	58,151

年別遺構出土遺物集計表	Ⅱ群b類	Ⅲ群	Ⅲ群a類	Ⅲ群a類(Ⅲ群b-1類)	Ⅲ群b類	Ⅲ群b-1類	Ⅲ群b-2類	Ⅲ群b類~Ⅳ群a類	Ⅳ群a類	Ⅳ群b類	Ⅵ群	Ⅶ群	層位別合計
2003遺構	21	2	906	1	722	670	9		1,095		219		3,645
2004遺構	7		120	5	44	622			2,884		4		3,686
遺構合計	28	2	1,026	6	766	1,292	9		3,979		223		7,331

・2004年のVa層の相当+V1層+V2層=2003年のVa層

・Ⅶ群は本文中では遺構の遺物として記載した。

・上記の表は土製品抽出前のデータから作成よって土製品点数を含む

遺構種類別出土土器類点数表

遺構種類	Ⅱ群b類	Ⅲ群	Ⅲ群a類	Ⅲ群a類(Ⅲ群b-1類)	Ⅲ群b類	Ⅲ群b-1類	Ⅲ群b-2類	Ⅳ群a類	Ⅵ群	土製品	再生土製品	層位別合計
住居	13		634	5	114	724	5	2,605	4	1	2	4,107
土坑	15	2	378	1	233	567	4	1,244	30			2,474
焼土			6		419			62	188		1	676
柱穴状の小土坑			2					1				3
礫集中・配石遺構								65				65
FC-1			4					2				6
合計	28	2	1,024	6	766	1,291	9	3,979	222	1	3	7,331

・土製品の抽出後の集計表

包含層出土再生土製品点数表

包含層層位	Ⅲ群a類	Ⅲ群a類(Ⅲ群b-1類)	Ⅲ群b類	Ⅲ群b-1類	Ⅲ群b-2類	Ⅲ群b類~Ⅳ群a類	Ⅳ群a類	層位別合計
V層				1				1
Va層	2003Va層	1						1
	2004Va層							
	V1層						1	1
	V2層	3	1				1	5
Vb層	V3層	1						1
	V4層							
	V5層							
	V6層							
	V7層							
Vb層	1	2	1	5	1	1	11	
分類別合計	6	3	1	6	1	1	2	20

・包含層出土土器から再生土製品として抽出したもの

包含層出土土製品・特殊器形の土器点数表

包含層層位	Ⅲ群a類	Ⅳ群a類	Ⅵ群	層位別合計
V層		2		2
Va層	2003Va層	3	11	14
	2004Va層	2		2
	V1層	1		1
	V2層	1		1
	Vb層	4	11	
分類別合計	4	20	11	35

・包含層出土土器から土製品・特殊器形の土器として抽出したもの



表30-1 a 包含層出土土器類観察表 (II群 b 類復元土器)

図番号	掲載番号	図版番号	土器分類	図化した点数			残			総点数	施文等	胎土への混入物	寸法 (単位cm)			
				遺構(層位)・調査区(層位)×点数	遺物番号	点数	遺構(層位)・調査区(層位)×点数	遺物番号	点数				口径	底径	器高	最大径
図IV-3	1	101-1	II b 円筒下層d-式	R41(V3)×2 S41(V3)×2 S41(V4)×38 S41(V5)×19 S41(V6)×1 S41(V7)×24 S42(V2)×1	101 36 43・59・61 62・64 66 67 28	87	S41(V3)×2 S41(V4)×2 S41(V5)×1	36 59 67	5	92	口縁部L縄線 胴部多軸絡条体 口唇部L縄圧痕	繊維密 海綿骨針 白色粒まばら	15.0	8.5	23.9	17.3
図IV-3	2	101-2	II b 円筒下層d-式	S51(Vb)×1 S51(Vb)×67	a1 a5・a15・a16	68	S51(Vb)×6	a15	6	74	口縁部L縄線 胴部多軸絡条体 口唇部L縄圧痕 上げ底	繊維密 粒径5mm前後の白色粒まばら	21.3	—	(25.4)	—

表30-1 b 包含層出土土器類観察表 (II群 b 類拓影図化破片)

図番号	掲載番号	図版番号	分類	図化した点数			残			総点数	施文等	胎土への混入物	
				遺構(層位)×点数	遺物番号	点数	遺構(層位)×点数	遺物番号	点数				
図IV-3	3	127	II b 円筒下層b-c式	N43(V3)×1 O42(V2)×2 O42(V4)×2 O43(V1)×5 O43(V)×5	28 12 38 29 30 25	17	O42(V2)×1 O43(V)×6 O43(V)×4 O43(V)×2 O43(V)×3 O43(V4)×1 P43(V2)×1	12 25 30 29 31 37 17	17	34	白濁白巻あるいは閉端なひねりのL R縄文 口縁部に結束の回転 補修孔 微妙な上げ底	長石 繊維	
図IV-3	4	127	II b 円筒下層b-c式	J44(Vb)×3 J44(V)×4 J45(Vb)×1	d9 d11 a3	8	J44(V)×1 J44(Vb)×8 J44(V)×40 J45(Vb)×1 M44(Vb)×1	d1 d9 d11 a3 b9	8	51	59	白濁白巻あるいは閉端なひねりのL R縄文	繊維 海綿骨針
図IV-3	5	127	II b 円筒下層b-c式	J45(Va)×4	a12・a14	4	J44(Vb)×1 J44(V)×10 J45(Va)×13 J45(Vb)×3	d9 d11 a12・a14 a3	4	27	31	白濁白巻あるいは閉端なひねりのL R縄文 底面微妙な上げ底 4の底部の可	繊維 海綿骨針
図IV-3	6	127	II b 円筒下層b-c式	S41(V3)×1 S41(V4)×1 T51(冊)×4 I40(Vb)×25 J40(Vb)×14	36 43 d2・d3 b9・b13・c12 d4	6	D40(Va)×1 I40(Vb)×83 I40(V)×1 I43(Vb)×1 I45(冊)×1 J40(Vb)×7 J43(Va)×1 K42(Va)×1 R48(V)×1 不明×3	c1 b9・c12・c14 b10 d11 d1 d4 b15 b1 1 不明	6	6	6	地文はL縄単軸絡条体を斜方向に底面磨き方キ	長石 繊維 海綿骨針
図IV-4	7	127	II b 円筒下層d1式	J40(Vb)×14	d4	39	D40(Va)×1 I40(Vb)×83 I40(V)×1 I43(Vb)×1 I45(冊)×1 J40(Vb)×7 J43(Va)×1 K42(Va)×1 R48(V)×1 不明×3	c1 b9・c12・c14 b10 d11 d1 d4 b15 b1 1 不明	39	139	100	口唇部と胴の一部に結束第1種羽状縄文 地文はL縄の単軸絡条体を縦方向に底面は微妙な上げ底	繊維 白色粒
図IV-4	8	128	II b 円筒下層c式	N36(V1)×1 N36(V3)×2 N36(V2)×1 N36(V6)×1	1 5 6 9	5	N36(V2)×12 N36(V3)×15 N36(V)×1 N36(V5)×3 不明×9	2 5 6 7 不明	5	42	47	口縁部は結束第1種羽状縄文にL R縄線 胴下部は白濁白巻あるいは閉端なひねりのL R縄文縦方向に 底面微妙な上げ底か	繊維 海綿骨針
図IV-4	9	128	II b 円筒下層d式	T49(Vb)×8	b17・b27・b28	8	P47(V)×1 T48(Va)×1 T48(Vb)×1 T49(Vb)×7 P-51(冊)×2 R45(V)×1 R48(V)×1 S46(Va)×51 S46(Vb)×2 S47(Vb)×1 T41(V3)×1 M47(V)×3 Q46(Vb)×1 S51(Vb)×1 S51(V)×1 T42(V4)×1 T49(Vb)×1 T50(Va)×1 T50(Vb)×2 T50(複製)×4 U51(複製)×1	14 d18 a8 a30・b17 32 c2 1 c10 45 5 d24 b6 c8 26 b39 a4 a13 c17 1	8	10	18	縦方向の条線地文	長石 繊維 海綿骨針
図IV-4	10	128	II b 円筒下層d式	S46(Vb)×4 S47(Vb)×2	e8 a4・a7	6	S46(Va)×51 S46(Vb)×2 S47(Vb)×1 T41(V3)×1 M47(V)×3 Q46(Vb)×1 S51(Vb)×1 S51(V)×1 T42(V4)×1 T49(Vb)×1 T50(Va)×1 T50(Vb)×2 T50(複製)×4 U51(複製)×1	d7・d15 b14・d2 c10 45 5 d24 b6 c8 26 b39 a4 a13 c17 1	6	59	65	地文と口唇部に多軸絡条体	長石 繊維 海綿骨針
図IV-4	11	128	II b 円筒下層d式	T51(冊)×4 T51(Va)×1 T51(Vb)×1	d2 d7 a9	6	M47(V)×3 Q46(Vb)×1 S51(Vb)×1 S51(V)×1 T42(V4)×1 T49(Vb)×1 T50(Va)×1 T50(Vb)×2 T50(複製)×4 U51(複製)×1	5 d24 b6 c8 26 b39 a4 a13 c17 1	6	16	22	R縄単軸絡条体を縦方向に施文 口唇部と胴にはL縄の押圧 胴部のL縄は軸に添って軸と一緒に回転させている可能性	黒色粒 白色小粒 繊維 密
図IV-4	12	128	II b 円筒下層d式	S50(Vb)×14	b6・c5・c9	14	S50(Va)×1 S50(Vb)×22 S51(冊)×1 T50(Vb)×3 T51(冊)×1 T51(Va)×1 T51(Vb)×3	b1 b6・b16 b2 a28 d1 d7 b23	14	31	45	口唇部にはL R縄の押圧 胴上半部にはL R縄文、下半部には多軸絡条体	繊維 海綿骨針 長石
図IV-4	13	128	II b 円筒下層d式	S51(Vb)×11 S51(V)×1 S50(Vb)×20	b17・b23・c4・c7 b21 b6	12	L47(V)×1 S50(Va)×4 S50(Vb)×60 S51(Vb)×1 T50(Vb)×2 Q48(V)×1 Q48(V)×1 S44(V3)×2 S45(V5)×2 S48(Vb)×1 S50(Vb)×1 S51(Vb)×30 T48(Vb)×3 T49(Vb)×1 O P Q49(V)×1 R37(V2)×1 Q48(V)×2 P48(V)×1 Q46(Vb)×1 R37(V4)×1 R43(V4)×1 S51(Vb)×3 T42(V2)×1 T42(V4)×1 T49(Vb)×1 T50(Vb)×94 T50(複製)×2 不明(複製)×1	b23 b21 b6 13 b2 b6・b11・b16 a15・b24 a28・a33・a34 20 29 29 b11 b6 a5・a15・b23 1 b29 5 4 1・a3 12 d24 12 14 13 13 d19 a13・a31・a35・a38・a 不明・b13・b22・b25 a22 10	12	3	15	口縁部文様帯はL R縄線 平直帯による連続的 多軸絡条体 胴部にはL R縄を口縁部文様帯 ボタン状突起部を草本による押し引き 節の異なる2種類のL R縄文文 上げ底口唇部L R縄圧痕	海綿骨針 繊維
図IV-4	14	129	II b 円筒下層d-式	S51(Va)×1 S51(Vb)×19	b9 a6・a15・a17	21	L47(V)×1 S50(Va)×4 S50(Vb)×60 S51(Vb)×1 T50(Vb)×2 Q48(V)×1 Q48(V)×1 S44(V3)×2 S45(V5)×2 S48(Vb)×1 S50(Vb)×1 S51(Vb)×30 T48(Vb)×3 T49(Vb)×1 O P Q49(V)×1 R37(V2)×1 Q48(V)×2 P48(V)×1 Q46(Vb)×1 R37(V4)×1 R43(V4)×1 S51(Vb)×3 T42(V2)×1 T42(V4)×1 T49(Vb)×1 T50(Vb)×94 T50(複製)×2 不明(複製)×1	b9 a6・a15・a17 13 b2 b6・b11・b16 a15・b24 a28・a33・a34 20 29 29 b11 b6 a5・a15・b23 1 b29 5 4 1・a3 12 d24 12 14 13 13 d19 a13・a31・a35・a38・a 不明・b13・b22・b25 a22 10	21	72	93	口縁部文様帯にはL RとR L縄線の組合せ 口唇部と隆部にはL R縄文 結束第2種羽状縄文とR縄単軸絡条体	繊維 長石
図IV-5	15	129	II b 円筒下層d-式	S51(Va)×1 S51(Vb)×19	b9 a6・a15・a17	20	L47(V)×1 S50(Va)×4 S50(Vb)×60 S51(Vb)×1 T50(Vb)×2 Q48(V)×1 Q48(V)×1 S44(V3)×2 S45(V5)×2 S48(Vb)×1 S50(Vb)×1 S51(Vb)×30 T48(Vb)×3 T49(Vb)×1 O P Q49(V)×1 R37(V2)×1 Q48(V)×2 P48(V)×1 Q46(Vb)×1 R37(V4)×1 R43(V4)×1 S51(Vb)×3 T42(V2)×1 T42(V4)×1 T49(Vb)×1 T50(Vb)×94 T50(複製)×2 不明(複製)×1	b9 a6・a15・a17 13 b2 b6・b11・b16 a15・b24 a28・a33・a34 20 29 29 b11 b6 a5・a15・b23 1 b29 5 4 1・a3 12 d24 12 14 13 13 d19 a13・a31・a35・a38・a 不明・b13・b22・b25 a22 10	20	44	64	口縁部文様帯にはL RとR L縄線の組合せ 口唇部と隆部にはL R縄文 結束第2種羽状縄文とR縄単軸絡条体	繊維 長石 海綿骨針
図IV-5	16	129	II b 円筒下層d2式	S46(Vb)×1 T50(Vb)×15	b17 a13・a35・a38・b13・b31	16	L47(V)×1 S50(Va)×4 S50(Vb)×60 S51(Vb)×1 T50(Vb)×2 Q48(V)×1 Q48(V)×1 S44(V3)×2 S45(V5)×2 S48(Vb)×1 S50(Vb)×1 S51(Vb)×30 T48(Vb)×3 T49(Vb)×1 O P Q49(V)×1 R37(V2)×1 Q48(V)×2 P48(V)×1 Q46(Vb)×1 R37(V4)×1 R43(V4)×1 S51(Vb)×3 T42(V2)×1 T42(V4)×1 T49(Vb)×1 T50(Vb)×94 T50(複製)×2 不明(複製)×1	b17 a13・a35・a38・b13・b31 13 b2 b6・b11・b16 a15・b24 a28・a33・a34 20 29 29 b11 b6 a5・a15・b23 1 b29 5 4 1・a3 12 d24 12 14 13 13 d19 a13・a31・a35・a38・a 不明・b13・b22・b25 a22 10	16	110	126	多軸絡条体 上げ底 口縁部文様帯にL R縄線 口唇部と隆部部分にL R縄圧痕 多軸絡条体地文	繊維 長石 海綿骨針
図IV-5	17	130	II b 円筒下層d-式	T49(Vb)×5	d23	5	L47(V)×1 S50(Va)×1 P48(V)×1 Q48(V)×2 S48(Vb)×1 T41(V)×1 T49(Vb)×2 T50(Vb)×1 T51(Va)×1 T51(Vb)×1 不明(複製)×1	2 a9 2 b9 13 a27・b30 a25 a3 10	5	13	18	口唇部と隆部にはL R縄の押圧 口縁部文様帯にはL R縄線 結束第2種羽状縄文とR縄単軸絡条体	繊維 海綿骨針 長石
図IV-5	18	130	II b 円筒下層d-式	P-67(覆)×1 S46(Vb)×1 T47(Vb)×1 T48(Vb)×1	14 b4 a17 d17	4	R48(V)×1 Q48(V)×2 P48(V)×1 Q46(Vb)×1 R37(V4)×1 R43(V4)×1 S51(Vb)×3 T42(V2)×1 T42(V4)×1 T49(Vb)×1 T50(Vb)×94 T50(複製)×2 不明(複製)×1	29 4 6 12 d24 12 14 13 13 d19 a13・a31・a35・a38・a 不明・b13・b22・b25 a22 10	4	7	11	口縁部L R縄線 口唇部キザミ 隆部L R縄圧痕 L R L縄文を施した上から押痕	繊維 長石 海綿骨針
図IV-5	19	130	II b 円筒下層d-式	S51(Vb)×5	a15・a16	5	S51(Vb)×4 T49(Vb)×1	a9・a15・a16 a29	5	5	10	口縁部文様帯にL R縄線 隆部上に繊維による連続的 多軸絡条体	繊維 海綿骨針 白色小粒
図IV-5	20	130	II b 円筒下層d-式	T49(Va)×1 T49(Vb)×2 T50(Vb)×2	b5 b21・c25 b13	11	H-7(覆)×1 I43(不明)×1 N32(Va)×1 Q43(Va)×1 Q46(Vb)×1 R45(V5)×1 S41(V1)×1 S41(V5)×1 S43(V1)×1 T40(V5)×1 T46(Vb)×1 T48(Vb)×1 T49(Vb)×28 T50(Vb)×3	29 b3 1 1 d11 69 7 64 7 51 c14 d16 a39・b7・b31・b39 a13・b13	11	44	55	口縁部文様帯にL R縄文 口唇部と隆部上にL R縄を押し 多軸絡条体を縦方向に施文	繊維 海綿骨針 白色小粒



表30-2a 包含層出土土器類観察表 (Ⅲ群 a 類復元土器)

図番号	掲載番号	図版番号	土器分類	図化した点数			残			総点数	施文等	胎土への混入物	寸法 (単位cm)			
				通標(部位)・調査区(部位)×点数	遺物番号	点数	通標(部位)・調査区(部位)×点数	遺物番号	点数				口径	底径	器高	最大径
図Ⅳ-6	1	101-3	Ⅲ a 円筒上層 b 式	H42(Vb)×90	a 2・a12・a18・a32・a33・a37・b 9・c 18・c19・d 4・d12・d13	94	H41(Vb)×1	d13	28	122	結束第1種羽状縄文 上半は無文地に隆帯文縁 馬蹄形圧痕で充填 隆帯上はL縄縁 底面は微妙な上げ底	砂粒 繊維 海綿骨針	28.3	12.0	43.2	—
				H42(風筒木)×3	a 44		H42(Vb)×22	a 2・a 2・a11・a12・a32・a39・b 9・c15・d 4・d12・d13								
				I44(Vb)×1	b 3		H42(風筒木)×4	a 44								
図Ⅳ-6	2	102-2	Ⅲ a 円筒上層 c 式	I41(Vb)×18	c 3・c 5・c 10	22	I41(Vb)×1	c 5	2	24	結束第1種羽状縄文 上半は無文地に隆帯文縁 馬蹄形圧痕で充填 隆帯上はL縄縁 底面は木の炭圧痕上に化粧土	白色粒 砂粒 繊維	11.8	7.3	12.0	—
				I42(Va)×4	b 1		I41(風筒木)×1	c 6								
図Ⅳ-6	3	101-4	Ⅲ a 円筒上層 c 式	H42(Vb)×88	d 26・d 27	88				88	結束第1種羽状縄文 上半は無文地に隆帯文縁 へらによる押し引き 隆帯上はL縄縁 底面は微妙な上げ底	白色粒密 砂粒 繊維	26.1	11.0	31.7	—
図Ⅳ-6	4	102-1	Ⅲ a 円筒上層 c 式	H44(Vb)×68	b 6・d 5・d 9	68	F43(Vb)×1	b 4	11	79	結束第1種羽状縄文 上半は無文地に隆帯文縁 馬蹄形圧痕で充填 隆帯上はL縄縁 へらによる押し引き 隆帯上はL縄縁	砂粒 白色小粒 繊維	23.8	10.8	26.2	—
				D45(Va)×14	a 7		H44(Vb)×9	d 9								
図Ⅳ-6	5	102-3	Ⅲ a 円筒上層 c 式	G41(Vb)×1	c 8	10	N39(V 3)×1	18	7	10	結束第1種羽状縄文 2 単位の把手と口唇部にL縄縁	海綿骨針 繊維	7.2	5.0	8.2	—
				H41(Vb)×8	a10・d1・d3・d10・d11		C42(VI)×1	a 7								
図Ⅳ-6	6	102-5	Ⅲ a 円筒上層 c 式	I42(風筒木)×7	a 6	7			7	7	RL縄文地に2単位の把手と口唇部直下に馬蹄形圧痕	海綿骨針 繊維	6.6	4.4	5.5	—
				C40(Va)×78	c 1・d 2・d 3		C40(Va)×11	d 3								
図Ⅳ-7	7	102-4	Ⅲ a サイベ沢Ⅵ式	C40(Vb)×2	d16	81	C40(Vb)×10	a 2・a 5・c 8・d 4	22	103	結束を持つRL縄文 口唇部サミ波頭部RL縄縁 把手欠損か	白色粒 海綿骨針 繊維	(28.7)	—	(27.6)	—
				B・C46-8(VI)×1	12		C42(VI)×1	a 7								
図Ⅳ-7	8	103-1	Ⅲ a サイベ沢Ⅵ式 Vd 層時期決定の根拠となった	C45(III)×2	b13	65	D44(Vb)×1	d17	15	80	結束第2種羽状縄文 口唇部L R縄縁 4本一組の沈線文	繊維 海綿骨針まばら 白色小粒	21.0	9.4	28.1	—
				D44(Vc)×1	c 43		D45(Va)×1	a 7								
				D45(Va)×1	a 4		D45(Vb)×2	a 5								
				D45(Va)×14	a 7		D45(Vd)×11	a12・a 13								
				D45(Vb)×1	a 8											
				D45(Vd)×46	a12・a 13											
図Ⅳ-7	9	103-2	Ⅲ a サイベ沢Ⅵ式	E44(風筒木)×1	d16	119	G44(Vb)×66	d 4・d 8・d 12	76	195	LR縄文 草本によるものか残い沈線 口唇部サミL縄縁	繊維 白色粒 海綿骨針まばら	19.2	10.8	25.3	21.6
				F44(IV)×1	c 6		G44(VI)×10	d 9								
				G44(Vb)×109	c 4・d 4・d 8・d 12											
				G44(VI)×8	d 9											
図Ⅳ-8	10	103-3	Ⅲ a サイベ沢Ⅵ式	D39(Vb)×1	b 3	31	E39(風筒木)×1	a 4	5	36	結束第1種羽状縄文 隆帯上はL縄縁 馬蹄形圧痕 補修痕 微妙な上げ底	繊維 角四石 まばら 小石まばら	17.7	9.8	23.6	19.6 大突起部分
				E38(VI)×4	d 1		E43(Vb)×1	c 5								
				E38(Vb)×1	c 1		E43(VI)×1	c 12								
				E39(Vb)×2	a 2・a 3		H43(Vb)×1	a 8								
				E39(VI)×1	5		J 47(V)×1	1								
				E39(風筒木)×1	a 1											
				F38(Vb)×16	c11・d 3											
				F38(VI)×1	c12											
				F39(Vb)×3	b 3											
G39(Vb)×1	a 4															
図Ⅳ-8	11	103-4	Ⅲ a サイベ沢Ⅵ式	D44(Vb)×18	1・b17・b23	19	D43(Va)×1	c 21	1	20	RL縄文を結束第1種2単位 口唇部の粘土粒上にはL縄縁 端部凹状圧痕	繊維 白色粒 海綿骨針	13.5	7.0	16.0	—
				I46(Vb)×1	2											
図Ⅳ-8	12	104-1	Ⅲ a サイベ沢Ⅵ式	H42(Va)×2	a 1	31	P-29(甕土)×1	11	19	50	結束第1種羽状縄文 口唇部の隆帯上はL縄縁	繊維 白色小粒 海綿骨針まばら	22.3	—	(18.9)	24.6
				H42(Vb)×28	a 2・a 12・a 32・a 37・a 39・b 5		G42(Vb)×2	b 21								
				H42(風筒木)×1	a 44		H41(Vb)×1	d 7								
							H42(Vb)×14	a 2・a 12・a 32・a 37・a 39								
図Ⅳ-8	13	104-2	Ⅲ a	F46(V)×4	24	39	G46(V)×2	6	7	46	結束第2種羽状縄文 口唇部RL縄文 底面微妙な上げ底	海綿骨針 砂粒	20.3	10.8	32.6	21.2 大突起部分
				G46(V)×27	6		G47(V)×4	1・10								
				G47(V)×2	10		Q45(Vb)×1	d 9								
				Q46(Vb)×6	d33											
図Ⅳ-8	14	104-3	Ⅲ a 円筒上層 b~c 式	H41(Vb)×45	d13・d14	50	H41(Vb)×5	d14	16	66	結束第1種羽状縄文地文のみ	密まではないか海綿骨針多い 繊維 白色小粒	20.5	11.2	28.5	25.7
				H42(Vb)×4	a12・a 32・a 37		H42(Vb)×11	a12・a18・a 32・a 33・a 37								
				H42(風筒木)×1	a 44											
図Ⅳ-9	15	104-4	Ⅲ a サイベ沢Ⅵ式	C40(Vb)×88	1・b1・b1・b1・c1・c1	98	B44(Vb)×2	a 28	5	103	LR縄文とR縄の羽状縄文地文 RL縄によって口唇部と把手を押し 微妙な上げ底	海綿骨針 繊維 白色小粒微量	25.6	10.1	23.2	—
				D40(Vb)×10	a 2・b 9		C40(Vb)×3	b 5・c 2								
図Ⅳ-9	16	105-1	Ⅲ a	H41(風筒木)×22	a 43・a 44	26			26	26	結束第1種羽状縄文 胎土粉っぽい	繊維 粒径5mm以上のバミスマばら 海綿骨針	10.5	7.0	11.2	—
				H41(Vb)×2	d 7・d 14											
図Ⅳ-9	17	105-2	Ⅲ a サイベ沢Ⅵ式	H42(Vb)×2	a 39	40	H43(Vb)×5	a 8	5	45	結束第2種羽状縄文 口唇部L R縄縁	繊維 海綿骨針 砂粒	15.5	8.0	22.4	16.9 大突起部分
				H44(Vb)×1	a 4											
図Ⅳ-9	18	105-3	Ⅲ a	J 44(Va)×1	d 1	41			41	41	結束第1種羽状縄文 三角形の底頂部中央に突起物	繊維 白色砂粒 小石まばら	15.6	—	(14.1)	—
				J 44(Vb)×39	d 9											
				H43(Vb)×28	b 2		H43(Va)×1	d 1								
図Ⅳ-9	19	105-4	Ⅲ a 見晴町式	J 45(Va)×1	b12	29	H43(Vb)×5	b 2	6	35	口唇部成形後にLR縄文縦方向 粘土粒上RL縄 口唇部にも同一原形	海綿骨針 繊維	20.0	8.0	27.7	22.7 大突起部分
図Ⅳ-9	20	106-1	Ⅲ a 無文	I 40(Vb)×3	c 15	24	I 44(Vb)×1	d 3	1	25	ミガキにより無文	繊維 砂粒 海綿骨針 微量	14.0	—	(12.5)	—
				I 41(Vb)×21	b 3・b 9											
図Ⅳ-9	21	106-2	Ⅲ a 無文	Z43(Vb)×25	d13	25			25	25	4単位の底頂部が想定される ナデにより無文	繊維 砂粒 小石まばら	11.8	6.8	(14.0)	—
図Ⅳ-9	22	106-3	Ⅲ a 無文	E39(Vb)×57	1	57	E39(Vb)×11	1	11	68	4単位の底頂部が想定される ナデにより無文 上げ底	砂粒 繊維 粒径2~4mmの白色粒 角四石まばら	18.0	11.1	(24.5)	—

表30-2b 包含層出土土器類観察表 (Ⅲ群 a 類拓影図化破片)

図番号	掲載番号	図版番号	土器分類	図化した点数			残			総点数	施文等	胎土への混入物
				遺構名(部位)×点数	遺物番号	点数	遺構名(部位)×点数	遺物番号	点数			
図IV-10	23	131	Ⅲ a 円筒上層 b 式	BC46~48(V)×1	11	1				1	隆帯およびその区画内1縄線	砂粒 白色小粒
図IV-10	24	131	Ⅲ a 円筒上層 c 式	A43(Vb)×3	d10・d12	5	z44(Vb)×1	d3	19	24	地文部にRL縄文部が残存する。隆帯上1縄線。区画内をへつによる連続刺突。穴は焼成前に成形	長石 海綿骨針 繊維
				A44(Vb)×2	b8		A44(Va)×2	a3				
							A44(風割木)×1	a6				
							A44(Vb)×12	a4・b8・c15・d4・d5				
							A45(Vb)×2	b8				
			B43(Vb)×1	d3								
図IV-10	25	131	Ⅲ a 円筒上層 c 式	H42(Vb)×15	a2・a12・a37・a39	15	H42(Vb)×22	a2・a12・a32・a39・b2	27	42	結束第1種羽状縄文 隆帯上L縄線	砂粒 白色小粒 海綿骨針まばら
図IV-10	26	131	Ⅲ a 円筒上層 b~c 式	J43(Vb)×1	a1	1				1	LR縄文地文 隆帯上L縄線	繊維 海綿骨針
図IV-10	27	131	Ⅲ a 円筒上層 c 式	H40(Vb)×3	c2	3	H43(Vb)×22	c2	26	29	結束第1種羽状縄文縄線部に結束 隆帯上1縄線 馬蹄形圧痕	白色粒 海綿骨針まばら
			H44(Ⅲ)×3	d3								
			H43(Va)×1	d7								
図IV-10	28	132	Ⅲ a 円筒上層 b~c 式	G42(Vb)×3	c1・d2	26	F40(Ⅲ)×1	b1	48	74	結束第1種羽状縄文 隆帯上R縄線 文様帯区画内RL縄による馬蹄形圧痕	海綿骨針 長石 繊維
			H42(Vb)×23	d12・d13	H42(Vb)×47		a37・c19・d4・d12・d13					
図IV-10	29	131	Ⅲ a 円筒上層 c 式	G42(Vb)×19	c1・e7	20	G42(Vb)×31	c1・e7	69	89	胴上半部隆帯上L縄線 文様帯内L縄線圧痕 口唇部キザミ 胴下部RLR縄文底面ミガキ調整	長石 海綿骨針 繊維
				G43(Vb)×1	b1		G43(Vb)×28	a1・b1・b2				
							H40(Va)×1	a3				
							H42(Vb)×3	a12・c4・d13				
							H43(Va)×2	a2・a7				
							H42(風割木)×1	a44				
							H43(Vb)×2	a8				
			J47(V)×1	16								
図IV-10	30	132	Ⅲ a 円筒上層 c 式	H42(Vb)×14	a11・a32・a33・a37	20	H40(VI)×1	c10	37	57	結束第1種羽状縄文地文 隆帯上1縄線またはR縄線 隆帯の区画内は押し引き気味の刺突列	粒径2mmの白色粒 繊維 海綿骨針少量
				H42(風割木)×6	a44		H41(Vb)×3	c11・d13・d14				
							H42(Vb)×25	a2・a12・a32・a33・a37・b5				
							H42(風割木)×7	a44				
							H43(Vb)×1	b2				
図IV-11	31	132	Ⅲ a 円筒上層 c 式	D43(Va)×3	d4・d20	10	C45(Vb)×1	c5	26	36	束帯1種羽状縄文と縄線部を閉じた紐の回転圧痕を地文 口唇部の肥厚帯にはL縄の単軸絡条体側面圧痕 底面ミガキ調整	繊維 海綿骨針
				D43(攪乱)×3	d35		D44(Vb)×9	a3・a32				
				D44(VI)×4	a48		D44(VI)×16	a48				
図IV-11	32	133	Ⅲ a 円筒上層 b~c 式 Vd 層の時期の根拠としたもの	D42(Vc)×2	e10	15	P-16(覆土)×1	2	43	58	結束第1種羽状縄文と縄線部を閉じた紐の回転圧痕を地文 口唇部の肥厚帯にはL縄の単軸絡条体施文	繊維 長石 海綿骨針
				D43(風割木)×1	b30		B44(Vb)×1	c15				
				D43(Vc)×2	b23		C43(Vb)×1	c40				
				D44(Vd)×10	e48		D42(Vd)×12	c12				
							D43(Vb)×1	b8				
							D43(Vb)×1	b10				
							D43(Vc)×13	b23				
							D43(VI)×1	c43				
							D44(Vb)×1	b17				
							D44(Vd)×11	b23・c27・c47・c49・c50・c51				
							D44(VI)×1	d27				
図IV-11	33	132	Ⅲ a 円筒上層 b~c 式	B44(Vb)×34	a28	34	B44(Vb)×219	a28	219	253	結束第1種羽状縄文 口縁L縄線 縄線間R縄による馬蹄形圧痕 不整な底面には腐み物圧痕	繊維 粒径2mmの白色粒
図IV-11	34	132	Ⅲ a サイベ穴Ⅵ式 円筒上層 d 式	T50(Vb)×14	a23・a26・a31・b14・b23・b27	14	Q45(Vb)×1	a7	52	66	結束第1種羽状縄文 隆帯上R縄線 口縁肥厚部点下には縄線部を閉じた縄の回転圧痕が残る	繊維 海綿骨針
							R39(VI)×1	6				
							T49(攪乱)×1	c17				
							T49(Vb)×16	a26・c26・c29・d15・d24・d27				
							T50(Vb)×33	a23・a26・a30・b14・b23・b26・b27・b32・c20				
図IV-11	35	134	Ⅲ a サイベ穴Ⅵ式	L36(Vb)×1	b3	4	E44(Vd)×1	a17	1	5	RL縄文地文 口唇部隆帯上にL縄線	繊維 白色小粒
図IV-11	36	134	Ⅲ a サイベ穴Ⅵ式 円筒上層 d 式	C42(VI)×12	c23・d18	14	B43(Vb)×3	b21	59	73	LR縄文 口縁肥厚部にLR単軸絡条体	繊維 海綿骨針
				C45(Va)×2	d14		B44(Va)×6	c13				
							B44(Vb)×10	c15				
							B44(風割木)×1	c29				
							C42(VI)×7	a7・d18				
							C42(VI)×2	a9				
							C43(Vb)×2	b26・b37				
							C45(Ⅲ)×1	c8				
							C45(Va)×5	d14				
							C45(Vb)×7	d11				
							D43(風割木)×3	b30				
							D43(Vc)×5	c39				
							D44(Vb)×1	a3				
							D44(VI)×2	a48				
							E43(Vc)×1	d18				
		K45(Vb)×3	d11									
図IV-12	37	134	Ⅲ a 円筒上層 d 式	F46(Vb)×1	c2	6	G47(V)×2	1・10	2	8	結束RL縄文地文後、隆帯貼付、L縄線押圧、把手剥落 口唇部にキザミ	角閃石 輝石
		G46(V)×2	6									
		G47(V)×3	1・10									

表30-2c 包含層出土土器類観察表 (Ⅲ群 a 類拓影図化破片)

図番号	掲載番号	図版番号	土器分類	図化した点数		残		総点数	施文等	胎土への混入物			
				遺物番号	点数	遺物番号	点数						
図IV-12	38	134	Ⅲ a 円筒上層 d 式	F39(Vb)×1	b 3	4			4	L R 縄文施文後、隆帯貼付上から L 縄線、隆帯間も L 縄線で施文	繊維 角四石 海綿骨針		
				B45(Va)×1	c 12								
				B45(Vb)×1	e 8								
図IV-12	39	134	Ⅲ a 円筒上層 c 式	B46(Vb)×1	e 3	1			1	隆帯上 R L 縄文	長石 繊維 海綿骨針		
				D44(Vc)×1	e 38								
図IV-12	40	134	Ⅲ a 円筒上層 d 式	F47(V)×1	3	1	G46(V)×1	6	1	2	隆帯貼付 R L 縄線面片痕	長石 角四石 繊維	
図IV-12	41	134	Ⅲ a サイベ沢Ⅵ式 円筒上層 d 式	H42(Vb)×8	a 37・d 12・d 21	8		H42(Vb)×115	a 2・a 37・c 4・d 4・d 12・d 13	119	127	口縁部には粘土結貼付 結束第 1 種羽状縄文	長石 角四石 繊維
				J41(Vb)×2	e 5・d 4								
				L42(Va)×1	b 1								
図IV-12	42	134	Ⅲ a 円筒上層 c 式	B42(Va)×3	b 1・c 3	3				3	R L 縄文 隆帯上 L 縄線	海綿骨針 繊維 角四石	
				F46(V)×3	8・9								
				F46(V)×2	c 2・c 4								
図IV-12	43	135	Ⅲ a サイベ沢Ⅵ式 円筒上層 d 式	F46(V)×3	a 2	5		F46(V)×3	9・24	8	13	結束のある L R 縄文 を隆帯貼付後に施文、口唇部に L R 縄線	角四石 長石
				F47(V)×1	b 2								
図IV-12	44	135	Ⅲ a 円筒上層 d 式	F45(風筒木)×2	a 2	2				2	口唇部に R 縄線 2 本一組の貼付文様の中に鋸歯状の沈線	長石 繊維	
				D44(V)×5	d 16								
図IV-12	45	135	Ⅲ a サイベ沢Ⅵ式 円筒上層 e 式	D44(V)×3	d 42・42	8		D44(V)×3	d 16	3	11	R L 縄文、口唇部に R L 縄文	長石 角四石 海綿骨針
				G47(V)×8	1								
図IV-12	46	135	Ⅲ a サイベ沢Ⅵ式 円筒上層 e 式	G47(V)×8	1	8		G46(V)×2	6	6	14	口唇部に 2 本一組の L 縄線 断面文様上部は貼付、下部は沈線による構成	繊維 海綿骨針 長石
				G47(V)×4	1・10								
図IV-12	47	135	Ⅲ a サイベ沢Ⅵ式 円筒上層 e 式	E41(Vb)×1	c 1	17		E40(Vb)×1	a 17	25	42	R L 縄文、口唇部に L 縄線の連続押圧	粒径 8mm のパミス粒 長石 繊維 海綿骨針
				E42(Vb)×3	b 2								
				E44(Va)×1	d 2								
				E44(Vb)×1	d 6								
				E44(Vc)×1	a 18								
				F46(V)×1	6								
				F46(V)×1	1								
				F46(V)×1	1								
				F46(V)×1	1								
				F46(V)×1	1								
図IV-12	48	136	Ⅲ a サイベ沢Ⅵ式 円筒上層 d 式	G41(Va)×2	a 2	27		G41(V)×95	a 7・a 8・b 4	98	125	結束第 1 種羽状縄文 波頂部に穴、隆帯貼り付け、口唇部 L R 縄線圧痕	海綿骨針 白色小粒
				G41(Vb)×25	a 4・a 7								
図IV-13	49	136	Ⅲ a サイベ沢Ⅵ式 円筒上層 d 式	H42(Vb)×5	d 30	13		H42(Vb)×37	a 12・a 32・d 25・d 26・d 27	47	60	結束第 1 種羽状縄文 波頂部はひとつ穴とふたつ穴が対になってある。補修孔	繊維 海綿骨針 角四石
				H44(Vb)×8	d 9								
				H44(Vb)×7	b 6・c 7・d 9								
図IV-13	50	137	Ⅲ a サイベ沢Ⅵ式	C40(Vb)×13	1・c 2	13		C40(Va)×2	b 1・c 1	66	79	結束 L R 縄文、口唇部に R 縄線を押し、結束部分を押し、波頂部は中心部に孔あり	海綿骨針 輝石 角四石
				C40(Vb)×47	11・b 1・b 3・c 2・c 3								
				D39(風筒木)×17	c 5								
				D40(Va)×12	a 1・d 1								
				D40(Vb)×1	a 2								
				D40(V)×1	b 10								
図IV-13	51	137	Ⅲ a 円筒上層 c 式	F46(V)×12	1・8	12		F39(Vb)×2	c 4	147	159	L R 縄文口唇部に施す 結束第 1 種羽状縄文	海綿骨針 輝石
				R41(Vd)×1	69								
図IV-13	52	137	Ⅲ a 円筒上層 d 式	S40(V4)×1	32	2		P-8(覆土)×1	4	3	5	R L R 縄文地文、口唇部にも同一原体による施文	繊維 海綿骨針
				S40(V4)×1	32								
図IV-13	53	137	Ⅲ a サイベ沢Ⅵ式	H42(風筒木)×6	a 44	6		H42(Vb)×1	a 37	11	17	把手欠損、把手成形後に結束第 1 種羽状縄文、口唇部 L R 縄線	繊維 海綿骨針まばら
				H42(風筒木)×10	a 44								
図IV-13	54	138	Ⅲ a 円筒上層 c 式	F38(Vb)×6	c 11	11		F38(Vb)×36	c 11	40	51	結束第 1 種羽状縄文 隆帯上 R L 縄文	海綿骨針 角四石か 繊維
				F38(V)×5	c 12								
図IV-13	55	138	Ⅲ a サイベ沢Ⅵ式 円筒上層 d 式	I44(Vb)×7	a 3・a 11	7			7	7	結束第 1 種羽状縄文を斜方向に施文	繊維 角四石か 海綿骨針まばら	
図IV-13	56	138	Ⅲ a サイベ沢Ⅵ式 円筒上層 d 式	B46-8(V)×10	11・12	10		B46-8(V)×6	11・12	16	26	結束第 1 種羽状縄文、底面ミカキ調整で微妙な上げ底	繊維 角四石
				I46(Vb)×13	2								
図IV-14	57	139	Ⅲ a サイベ沢Ⅵ式 円筒上層 e 式	I46(V)×5	3	29		I46(Vb)×13	2	53	82	口縁部に鋸歯状の突起を持つ、口唇部には R L 縄線、縦方向に結束第 2 種羽状縄文を施した上から 2 本一組の高部による文様施文、底面磨き物片痕の上からミカキ調整	長石 繊維
				J46(V)×11	2								
				J46(V)×39	2								
図IV-14	58	138	Ⅲ a サイベ沢Ⅵ式 円筒上層 e 式	D45(Vb)×8	a 5	8		D45(Vb)×13	a 4・a 5	13	21	粘土結貼付後、L R 縄文、2 本一組の沈線による施文	海綿骨針 長石 繊維
				A41(Va)×4	a 1								
図IV-14	59	139	Ⅲ a 円筒上層 e 式	A41(Vb)×1	a 4	5		A41(V)×1	c 1	11	16	R L 縄文後、把手貼付、把手上に 1 縄線、口唇部に R L 縄線、補修孔	海綿骨針まばら 繊維
				A41(Vb)×1	a 4								
図IV-14	60	139	Ⅲ a サイベ沢Ⅵ式 円筒上層 e 式	F46(V)×1	24	5		F46(V)×3	8・9	11	16	結束第 1 種羽状縄文後、2 本一組の草本系による沈線文、口唇部は指痕による連続沈線	海綿骨針 繊維 粒径 5mm のパミス粒まばら
				G46(V)×2	b 5								
				G47(V)×1	10								
				H44(Vb)×4	c 7・d 9								
				J37(Vb)×5	b 2								
図IV-14	61	141	Ⅲ a サイベ沢Ⅵ式 円筒上層 d 式	K37(V)×1	c 5	38		J37(Vb)×4	b 2	58	96	L R 縄線方向施文、2 本一組の高部による突起を持つ、底面は剥落しやすい	繊維 白色小粒
				K38(Vb)×24	b 1・b 4								
				L36(Vb)×1	c 1								
				L37(Vb)×3	c 1								
				L38(Vb)×1	b 22								
				M36(V)×1	b 1								
				M38(Vb)×1	a 8								
				N36(V1)×1	3								
				M34(Vb)×1	c 1								
				M35(Vb)×2	c 1								
M36(V)×1	c 3												
M38(Vb)×1	a 8・b 6												
M39(Vb)×1	c 8												
図IV-14	62	139	Ⅲ a 円筒上層 e 式	E43(風筒木)×18	d 24・d 25	18		C40(Va)×1	d 3	48	66	R L 縄文地文、底面微妙な上げ底	繊維 砂粒 白色小粒
				D43(Vb)×1	c 36								
				E43(Vc)×6	d 16								
				E43(Vd)×1	d 19								
				E43(風筒木)×37	d 21・d 25								
				E44(Vb)×1	a 3								
				E44(V)×1	a 11								
				H42(Vb)×1	c 15								
H43(Vb)×25	b 2												
図IV-15	63	140	Ⅲ a サイベ沢Ⅵ式 見晴町	H43(Vb)×28	b 2	35		I42(Va)×4	a 2	51	86	L R 縄文 三角形の波頂部中央には短い隆帯を貼付し、L R 縄線で押圧する、口唇部には花崗文、底面は微妙な上げ底、底面磨きナデによって無文	砂粒 粒径 5mm のパミス粒まばら
				I42(Vb)×2	d 1								
				I42(Vb)×2	d 1								
				I43(Va)×3	a 5								
				I43(Va)×10	a 5								
図IV-15	64	142	Ⅲ a 円筒上層 e 式	S51(Va)×1	b 10	2		T49(Vb)×1	b 16	1	3	結束を持つ R L 縄文、口唇部に沈線文	海綿骨針 繊維
				T47(Vb)×1	c 10								
図IV-15	65	142	Ⅲ a 円筒上層 e 式	H44(Vb)×2	a 4	2				2	2	結束を持つ R L 縄文、口唇部に R L 縄線、三角形の突起、波頂部は磨き、その中央部には突起	繊維 石炭 角四石 粒径 2mm の白色粒
				J38(Vb)×2	a 1								
図IV-15	66	142	Ⅲ a 円筒上層 e 式	K37(Vb)×1	d 11	8		I40(Vb)×1	c 1	30	38	L R 縄文 同一原体により口唇部を押し、波頂部は渦巻き風に細い隆帯で成形する	繊維
				K38(Vb)×5	a 2・a 3								
				K38(Vb)×17	a 2・a 3・a 11								
図IV-15	67	142	Ⅲ a サイベ沢Ⅵ式	H39(Vb)×1	c 7	12		H-3(覆土中)×1	21	11	23	節の細かい R L 縄文、口唇部には同一原体の側面片痕、微妙な上げ底、底面磨きはナデ調整により無文	角四石と海綿骨針および粒径 4mm の白色粒まばら
				I39(Vb)×1	d 1								
				I41(Vb)×1	c 3								
				I42(Vb)×1	b 2								
				J35(V)×1	d 3								
				J45(Vb)×2	b 2								
				K42(Vb)×1	a 4								
				K47(V)×4	1								
図IV-15	68	142	Ⅲ a 円筒上層 e 式	z43(Vb)×4	c 19	4		z43(Vb)×1	c 19	1	5	結束第 1 種羽状縄文縄端部の凹状圧痕、口唇部には方形の列点文	繊維 海綿骨針 白色小粒

表30-3a 包含層出土土器類観察表 (Ⅲ群 b-1類復元土器)

図番号	掲載番号	図版番号	土器分類	図化した点数			残			総点数	施文等	胎土への混入物	寸法 (単位:cm)			
				遺物名(部位)・調査区(部位)×点数	遺物番号	点数	遺物名(部位)・調査区(部位)×点数	遺物番号	点数				口径	底径	器高	最大径
図IV-16	1	106・4	Ⅲ b-1	R50(Ⅲ)×16 R50(V a)×14 R50(V b)×3	b1 b6 a10・b12	33	R50(Ⅲ)×2	b1	2	35	口唇部には沈線渦巻き文 R L縄文横走 4単位	海綿骨針 砂粒	14.8	7.6	24.0	—
図IV-16	2	107・1	Ⅲ b-1	P48(V)×117	b2	117	P48(V)×103	b2	103	220	口唇部には沈線渦巻き文 L R縄文 3単位 表面割落 3 単位の大突起間に小突起	繊維 砂粒 小石まばら	21.7	—	(33.5)	22.7 大突起部分
図IV-16	3	107・2	Ⅲ b-1	H42(V b)×1 I40(V b)×1 J38(V b)×1 L43(Ⅲ)×1 O47(V)×1 P43(V a)×5 P43(V b)×1 P43(V1)×3 P43(V2)×2 Q43(V2)×1 R42(V3)×10	c26 c11 d2 a2 18 2 35 8 18・29 53 78	27	S42(V3)×1	29	1	28	口唇部には沈線渦巻き文 L R縄文後2本一組の沈線 文 3単位	白色粒 砂粒 繊維 海綿骨針	15.0	—	(24.0)	16.4
図IV-16	4	107・3	Ⅲ b-1 覆林式	M39(V b)×8 N38(V3)×1 P43(V a)×1	b9 2 13	10	I45(V a)×1 H43(V a)×1	c3 a7	2	12	R L縄文施文後、2本一組 の沈線文 微妙な上げ底	粒径1~4mmの白色粒	10.5	5.0	13.0	—
図IV-16	5	107・4	Ⅲ b-1 覆林式	F46(V b)×17 F46(V)×11 F47(V b)×23 F47(V)×3 G47(V)×2	c1・c2・c3・c4 8・9 b1・b3 3 1・10	56				56	L R縄文後2本一組の沈線 文 3単位	白色粒 繊維 粒径5 mm前後のバミス片み	18.7	8.5	26.0	—

表30-3b 包含層出土土器類観察表 (Ⅲ群 b-1類拓影図化破片)

図番号	掲載番号	図版番号	土器分類	図化した点数			残			総点数	施文等	胎土への混入物
				遺物名(部位)×点数	遺物番号	点数	遺物名(部位)×点数	遺物番号	点数			
図IV-17	6	143	Ⅲ b-1	O43(V2)×1 O43(V3)×1	23 31	2	T39(V2)×1 O46(V)×1 P43(V1)×28 P43(V2)×3 P43(V3)×384 不明×1	6 1 1 1 1 不明	418	420	L R縄文横走後、2本一組 の沈線、口唇部にも沈線	繊維 粒径6mmの白色 粒
図IV-17	7	143	Ⅲ b-1	E44(V b)×11 E44(VI)×11 G46(V)×5 G47(V)×1 不明×1	a26・a27・b24・c30 a11a12a27b23b25 c1 1 不明	29	E43(V)×1 E43(VI)×1 E44(VI)×38 E44(V b)×46 E45(V a)×1 G46(V)×8 不明×5	a13 c13 a11 d23・b24・b25・ a26・a27 d1 1 不明	100	129	R L縄文 微妙な上げ底 口唇部には沈線による渦 巻き文	粒径6mmの白色粒 繊維 角閃石まばら
図IV-17	8	144	Ⅲ b-1	Q46(V b)×1 T50(Ⅲ)×1 T50(V b)×1 T50(V10)×12	d25 d18 d10 d10	15	Q46(V b)×2 T50(Ⅲ)×9 T50(V a)×3 T50(V b)×33 不明×44	d24 b3・d18 d6 d10・d13・d15 不明	91	106	L R縄文縦方向 微妙な上 げ底 口唇部には沈線によ る渦巻き文 胴部上半に顕 著なス	粒径2~4mmの白色粒
図IV-17	9	144	Ⅲ b-1	H43(V b)×10	a15	10	H42(V b)×1 H43(V b)×2	d28 a15・c2	3	13	R L縄文施文後、口唇部の 渦巻き文様を成形、一皮頂 部に大小ふたつの突起	海綿骨針 繊維
図IV-18	10	143	Ⅲ b-1	O48(V)×1	2	1			1	1	L R縄文による単軸器体縦方 向、後、沈線文、口唇部 には沈線による渦巻き文	繊維 海綿骨針 白色 小粒 石英
図IV-18	11	144	Ⅲ b-1	D44(V b)×1 E44(V a)×3 E44(V b)×7 E44(VI)×1	d17 a27 a23・a27・b24・b26 a11	12	D44(V b)×47 E42(V b)×1 E44(VI)×1	a27・b17・b18・b22 b2 a11	49	61	L R縄文施文後、沈線によ り垂下する渦巻き文、口唇 部には沈線による渦巻き文	砂粒
図IV-18	12	145	Ⅲ b-1	P47(V)×6	8・11・c17	6	O47(V)×2 P46(V b)×6 P47(V)×28 Q46(V b)×1 Q47(V)×6 Q48(V)×1	17・18 c17 8・9・10・11・12・ 14・16・17・42・43 3 4 22	44	50	R L縄文施文後、2本一 組の沈線、口唇部には沈線 による渦巻き文	砂粒 海綿骨針まばら
図IV-18	13	145	Ⅲ b-1	P46(V b)×9 P47(V)×1	d15 2	10	P46(V b)×2	15	2	12	L R縄文施文後2本一組の沈線文 口唇部にはL R縄文面圧痕を連続 的に、底縁による渦巻き文	繊維 白色小粒
図IV-18	14	144	Ⅲ b-1	R45(V4)×1	65	1			1	1	L R縄文施文後、口唇部 に渦巻き文を思わせる凹形のみ	海綿骨針 角閃石まばら
図IV-18	15	145	Ⅲ b-1	G47(V)×3	1・4	3			3	3	よく彫らる胴部、口唇に渦巻き文 L R縄文後2本一組の沈線文	繊維 砂粒
図IV-18	16	145	Ⅲ b-1	S51(Ⅲ)×10 T51(V a)×2 S51(V b)×3	b1・c1 a4 b17・b20	15	S48(Ⅲ)×1 S49(V b)×2 S51(Ⅲ)×11 S51(V a)×7 S51(V b)×4	c5 b41・c12 b1・c1 b10 b17・b20・b26・c9	25	40	L R縄文縦横に転がし縦方 向の羽状に施文する。口唇 と胴部に大木8式風の沈線 文	繊維 粒径1~2mm の白色粒
図IV-18	17	146	Ⅲ b-1	P43(V3)×17	47	17			17	17	L R縄文縦方向 粒径2~4mm の白色粒、口唇部に沈線文	粒径2~4mmの白色粒
図IV-18	18	146	Ⅲ b-1	F46(V)×5	11	5			5	5	R L縄文縦又は横方向に施文 大木8式風の沈線文、口唇部 にL R縄文面圧痕、口縁10cm 底径4.3cm高さ推定11cm	白色小粒 繊維
図IV-18	19	146	Ⅲ b-1	F43(V b)×5	b12・c9・d4	5	F43(V b)×9 H43(V b)×1	a4・a11・b12・ c10・d4・d8 d5	10	15	結束を持つR L縄文 覆林 式風の口縁部形態	海綿骨針 繊維
図IV-18	20	146	Ⅲ b-1	E43(VI)×5	c16	5	E43(V b)×6 E43(VI)×209	c1・c7・d2・ d3・d12 c12・c13・c16・d20	215	220	L R縄文縦方向 顕著な上 げ底、すぼまる底部形態	海綿骨針 繊維



表30-4a 包含層出土土器類観察表 (Ⅲ群 b 類復元土器)

図番号	掲載番号	図版番号	土器分類	図化した点数			残			総点数	施文等	胎土への混入物	寸法 (単位cm)			
				遺物(部位)・調査区(部位)×点数	遺物番号	点数	遺物(部位)・調査区(部位)×点数	遺物番号	点数				口径	底径	器高	最大径
図IV-19	1	108-1	Ⅲ b 椀鉢式新子	G47(V)×17	1・2・3	17	G47(V)×1	1	1	18	L R 縄文縦文方向 2本一組の沈線文 同一部位による列点文で充填	砂粒 繊維 粒径2~5mmの白色粒	13.4	—	(16.5)	—
図IV-19	2	108-2	Ⅲ b	J44(Vb)×1 J42(Vb)×3 J45(Va)×17 J45(Vb)×8 K42(Vb)×3 K42(Vb)×2 L44(Vb)×1 J45(Vb)×29 J46(V)×2	b10 c12 a2・a12・d1 d2 a1・c1 a19 b3 c5・d2	35	J44(Vb)×1 J45(Vb)×1 J44(V)×1 J45(Va)×1 J45(Vb)×5 J46(V)×1	b3 b4 c1 d10 d1 d2	16	51	L R 縄文縦文に2本一組の沈線文 底部際短沈線並ぶ波頂部に刺突	粒径2~5mmの白色粒 繊維 海綿骨針	20.4	9.0	29.1	22.0
図IV-19	3	108-3	Ⅲ b	D40(Va)×20 D40(Vb)×7 E40(Vb)×5	b1 b2・c2 a6・d3	32	C44(Vb)×1 D40(Va)×5 D40(Vb)×1	b40 b1 c2	8	40	R 縄甲軸絡条体斜方向 微妙な上げ底 3単位か	粒径2~5mmの白色粒 繊維 海綿骨針まばら	11.0	6.8	15.5	15.5
図IV-19	5	109-1	Ⅲ b	Q48(V)×19	16	19	Q48(V)×3	16	3	22	L R 縄文 底部傾く	繊維 白色粒 砂粒 海綿骨針まばら 補修孔	11.0	4.3	11.9	—
図IV-19	6	109-2	Ⅲ b	R41(V)×1 R42(V)×1 R42(V)×1 R42(V)×2 R42(V)×3 S40(V)×1	70 1 84 87 93 18	9				9	ナデにより無文 上げ底	海綿骨針 砂粒	9.3	6.2	11.9	10.4

表30-4b 包含層出土土器類観察表 (Ⅲ群 b 類拓影図化破片)

図番号	掲載番号	図版番号	土器分類	図化した点数			残			総点数	施文等	胎土への混入物
				遺物(部位)×点数	遺物番号	点数	遺物(部位)×点数	遺物番号	点数			
図IV-20	7	147	Ⅲ b	K42(Vb)×2	a2・c3	2			2	L R と R L 縄文 半截竹管による沈線文 口唇部には凹形刺突並ぶ	白色粒 砂粒まばら	
図IV-20	8	147	Ⅲ b	N39(V2)×1	4	1			1	L R と R L 縄文 2本一組の半截竹管による沈線文	砂粒まばら	
図IV-20	9	147	Ⅲ b	P38(Va)×1 P38(V)×1 R40(V)×1 R40(V)×1 R40(V)×1 R40(V)×1 R41(V)×1 R41(V)×1	1 8 8 17 50 30 101	7	R39(V3)×1 R39(V4)×1 R40(Va)×1 R40(V)×1 R40(V)×1 R40(V)×2 R40(V)×1	19 2 3 8 17 30 36	8	15	頸部には隆帯付し、凹形刺突並ぶ L R 縄文施文後、大木8式風の沈線文 底部には無文帯	長石粒 小石 石英
図IV-20	10	147	Ⅲ b	H39(Va)×2 H39(Vb)×4 H40(Va)×1	c2・d2 c5・d3 a3	7	H39(Va)×1 H39(Vb)×4 H40(Va)×1 H43(Vb)×1 O47(V)×1	d2 c5・d3 a3 a8 12	21	28	L R 縄文後、半截竹管による押し引きで方形の文様 文様上部は隆帯付後に押し引き	石英を含む砂粒
図IV-20	11	147	Ⅲ b	N41(Vb)×1	18	1			1	R 縄甲軸絡条体縦方向施文後、沈線文 厚みがあり、椀鉢的な口縁部	粒径2~4mmの白色粒 繊維	
図IV-20	12	147	Ⅲ b	B44(Va)×10 不明×2	c12 不明	12	B44(Va)×10 D43(Vb)×2 D44(V)×1 E40(Vb)×2 不明×27	c12 b2 d5 d8 d14 不明	136	148	R 縄甲軸絡条体縦方向施文後、半截竹管による沈線文	粒径2~4mmの白色粒 繊維 海綿骨針まばら
図IV-20	13	147	Ⅲ b	P-39(腰上)×1 H41(V)×2	11 b14	4	H-1(腰上)×1 P-39(腰上)×1 F-1(Vb)×1 A45(Vb)×3 C43(Vb)×1 D41(Va)×1 E42(Vb)×1 E44(V)×1 F38(Vb)×2 F42(Vb)×1 F43(Vb)×1 F45(Vb)×1 G41(V)×1 G42(Vb)×1 G43(Vb)×13 G44(Ⅲ)×1 G44(Vb)×4 G45(Va)×1 H41(Vb)×3 H41(V)×1 H42(Vb)×7 H43(Vb)×3 H45(V)×1 I38(Vb)×1 I40(Vb)×2 I41(Vb)×5 I41(腰脚木)×1 I42(Va)×1 I42(Vb)×1 I43(Vb)×1 I43(Vb)×2 I43(Vb)×5 I43(腰脚木)×1 J43(Vb)×1 J45(Va)×1 J46(V)×1 J47(V)×1 K40(Vb)×1 K41(Vb)×4 K44(Vb)×1 L39(Vb)×1 L41(Vb)×7 L42(Vb)×3 L43(Ⅲ)×1 L47(Vb)×1 O34(V)×1 O44(Vb)×1 P48(V)×1 S42(Va)×1	39 19 16 b19 b38 b2 b2 b11 c1・c10 c6 c11 c3 b5 b6 b2・c1・c2・c4・c6・d1・d2 b1 a3・b4・c6 a b10・c2・c3 b14 a17・a38・a38・d17・d11 a5・b3・c8 d8 b1 d1 b・b9・c3 c6 c3 c5・d1 b5 c6・c14 d4 b12 d1 2 12 d1 b3・c5 b3 c5 d8 a7・a9・d8 a6・d10 d3 b5・b11 a3・a5・d1 a5・a12・b3・d3 a6	100	104	単軸絡条体縦方向施文後、2本一組の沈線文 大木8式風の文様 口縁部厚部には斜方向に施文	粒径2~4mmの白色粒
図IV-20	14	148	Ⅲ b	T49(Vb)×15	a25・b15・b16・b27	15	I44(Vb)×1 T49(Va)×1 T49(Vb)×1 J45(Va)×6 J45(Vb)×7 I44(Vb)×1 J45(Va)×3 I46(Vb)×4 J45(Va)×1 J45(Va)×3 J45(Vb)×4 J46(Vb)×2 M43(Vb)×1 F33(V3)×3	d3 b6 b15・b16 c2 c5・d2 c3 c7 d1 c2 a2 3	7	22	口唇部に刺突列 R 縄甲軸絡条体縦方向 微妙な上げ底	赤母 粒径2~3mmの白色粒まばら 繊維 海綿骨針
図IV-20	15	147	Ⅲ b	J45(Vb)×4	c5	4	J45(Va)×6 J45(Vb)×7 I44(Vb)×1 J45(Va)×3 I46(Vb)×4 J45(Va)×1 J45(Va)×3 J45(Vb)×4 J46(Vb)×2 M43(Vb)×1 F33(V3)×3	c2 c5・d2 c3 c7 d1 c2 a2 3	13	17	R 縄甲軸絡条体を縦方向に施文 三角影をした表起縁の波頂部	繊維 海綿骨針
図IV-20	16	148	Ⅲ b	J40(Va)×1 J45(Va)×3 J45(Vb)×17	d1 d1 a1・a1・c5・d1・d1	21	I44(Vb)×1 J45(Va)×1 J45(Va)×3 J45(Vb)×4 J46(Vb)×2 M43(Vb)×1 F33(V3)×3	c3 d1 c3・d3・d10 c2 a2 3	51	72	R 縄甲軸絡条体を斜方向に施文 微妙な上げ底	繊維 粒径2~3mmの白色粒
図IV-20	17	149	Ⅲ b	I40(Vb)×3 J40(Vb)×12 L40(Vb)×1	b12 b5・d3・d5 a6	16	J40(Vb)×3 J40(Vb)×49 K39(Vb)×2 L39(Vb)×4 L40(Vb)×3 L41(Vb)×3 M44(Vb)×3 E40(Va)×4 E40(Vb)×19 E49(Vb)×1	b12 d3 c8 c5 a7・a9・d8 a6・d10 d3 b5・b11 a3・a5・d1 a5・a12・b3・d3 a6	16	84	R 縄甲軸絡条体を縦方向に施文	繊維 長石小粒
図IV-20	18	148	Ⅲ b	E40(Va)×3 E40(Vb)×3	a5 a6・d3	6	E40(Va)×4 E40(Vb)×19 E49(Vb)×1	a3・a5・d1 a5・a12・b3・d3 a6	24	30	R 縄甲軸絡条体を縦方向に施文 微妙な上げ底	繊維 白色粒
図IV-20	19	149	Ⅲ b (上げ底)	B46(80V)×1 D40(Vb)×1	11 11	2			2	2	微妙な上げ底 底部際斜方向の短沈線	繊維 粒径2~3mmの白色粒
図IV-20	20	149	Ⅲ b	G42(Vb)×2	b6	2	G42(Vb)×5	b6・d3・d13	5	7	R 縄甲軸絡条体を施文	長石粒 海綿骨針まばら
図IV-20	21	149	Ⅲ b	F46(V)×6	9	6	F46(V)×1	1	2	8	L R 縄文	繊維 海綿骨針
図IV-20	22	149	Ⅲ b	M47(V)×1	6	1	F46(Vb)×1	c2	1	1	L R 縄文 素長つばによる内面調整	繊維 海綿骨針
図IV-20	23	149	Ⅲ b	J45(Va)×1 J45(Vb)×2	c6 c7	3				3	ナデ調整によって無文	繊維 海綿骨針 粒径2mmの白色粒

表30-5a 包含層出土土器類観察表 (IV群a類復元土器)

図番号	掲載番号	図版番号	土器分類	図化した点数			残			総点数	施文等	胎土への混入物	寸法(単位cm)			
				遺構(層位)・調査区(層位)×点数	遺物番号	点数	遺構(層位)・調査区(層位)×点数	遺物番号	点数				口径	底径	器高	最大径
図IV-21	1	109-2	IVa トリサキ式	H43(Vb)×5	c11	52	I43(Va)×7	e2・e5・e6・d2	8	60	無文地に平行沈線文 5単位	砂粒 粒径2~5mmの白色粒	19.8	8.3	24.8	—
				I43(Va)×37	e2・e6・d2・d8		I43(Vb)×1	d13								
				I43(Vb)×5	e16・d13											
				I44(Va)×1	b1											
				I44(Vb)×4	a4											
図IV-21	2	109-5	IVa 大津式	S46(Vb)×7	b2・b5・b31	25	S46(風倒木)×1	2	1	26	無文地に3本一組の浅い沈線 波頂部表裏には粘土紐貼付 補修孔 3単位	砂粒 粒径2~5mmの白色粒	20.4	—	(17.0)	
				S46(風倒木)×18	2											
図IV-21	3	110-1	IVa 大津式(トリサキ式に近い)	P38(Va)×6	1・2	79	P38(V1)×1	8	1	80	口唇部から8の字形にねじった粘土紐を口唇部から垂下して貼付 上からRL縄文地文 幅広い沈線の縁取り内を彫削 6単位 波頂部に指頭圧痕	白色粒 角閃石 砂粒	17.5	8.7	23.8	—
				P38(V1)×7	8											
				P38(V2)×8	12											
				P38(V3)×57	15・16											
				O38(Va)×1	1											
図IV-21	4	110-2	IVa トリサキ式	C42(Va)×1	e21	79	C42(Vb)×9	e6	24	103	RL縄文横走 原体を回転させた痕跡残る 5単位の波頂部からは8の字にねじった粘土紐貼付するが1か所のみ残る 胴下部縦方向にガキ無文	砂粒 小石まばら	21.4	8.5	32.7	21.6
				C42(Vb)×13	e6		C42(VI)×1	e23								
				D42(Vb)×65	d1・d11		D42(Vb)×13	d11								
図IV-21	5	110-3	IVa 大津式(トリサキ式に近い)	F47(Vb)×49	b4	49	F47(Vb)×10	b4	10	59	RL縄文施文後、平行沈線文 輪轆み痕から割られる底面一部剥離	砂粒 小石まばら	13.8	6.0	19.4	—
図IV-21	6	110-4	IVa 大津式(トリサキ式に近い)	A44(Vb)×1	b14	34	B43(Vb)×2	d4	15	49	多段の折り返し風に輪轆みを残し、ナメ調整後、2本一組の沈線で施文	白色小粒と角閃石密	15.5	—	(17.0)	17.5
				B43(Vb)×2	d4		B44(Va)×3	a2・a11								
				B44(Va)×9	a11・d16		B44(Vb)×5	a16・a17・a29								
				B44(Vb)×13	a16・a17・a29・d19		B44(VI)×2	a30・e27								
				B44(VI)×5	a30・a34		B45(Va)×1	e10								
				B44(風倒木)×2	a39		C42(VI)×1	d18								
				B44(III)×1	d1											
				F43(Vb)×1	a4											
図IV-22	7	111-1	IVa(前十層内式並行の可能性あり)	E43(III)×6	e4	140	D43(Vb)×1	a24	104	244	口唇部から5単位の波頂部沈線施文後LR縄文充填剥離著しい 前十層内の可能性あり 胴下部縦方向にガキ無文	輝石を含む砂粒密	30.0	14.8	42.5	30.5
				E43(Va)×33	e2・d6		E43(III)×4	e4								
				E43(Vb)×78	e3・c5・c9・d5		E43(Va)×24	e2・d6								
				E43(VI)×3	e12・c14		E43(Vb)×67	e3・c5・c9・d5								
				E44(Va)×1	a1		E44(Va)×1	b1								
				E44(Va)×18	a7・b4・b5・b6		E44(Vb)×7	a6・b4・b5・b6								
E44(VI)×1	b13															
図IV-22	8	109-4	IVa 大津式	O47(V)×1	14	13			13	13	LR縄文施文後、幅広く深い沈線 波頂部は表裏にまたがるように粘土紐貼付 粘土紐は溝に埋め込む	砂粒 白色小粒	14.2	6.5	15.8	16.1 大突起部分
				P47(V)×1	43											
				Q48(V)×11	17・19・21・22											
図IV-23	9	111-4	IVa 大津式	P47(V)×10	14・15・43	94	P48(V)×12	3・10・11・15	20	114	幅広い沈線間LR縄文充填後5単位の波頂部の表裏にまたがる粘土紐貼付 その上にもLR縄文 粘土紐間沈線	砂粒	39.0	—	(51.5)	—
				P48(V)×27	3・10・11・12・15・16		Q47(V)×6	4								
				Q46(Va)×1	d3		Q48(V)×2	21・22								
				Q47(V)×49	1・4											
図IV-23	10	111-2	IVa 大津式	R41(V1)×1	14	9	R43(V2)×1	17	1	10	幅広い沈線文の中を円形剥突で充填 口縁部は粘土紐を表裏にはりつけLR縄文施文後、沈線で縁取る 底面にも同心円文様	砂粒	14.1	4.3	7.8	—
				R42(Va)×1	1											
				R42(V2)×1	32											
				R43(V1)×2	6											
				R43(V2)×1	17											
				Q42(V1)×1	13											
Q43(Va)×2	4															
図IV-24	11	112-1	IVa 大津式	Q42(V1)×60	13・14	88	Q42(Va)×2	14・93	6	94	3本一組の沈線で施文 5単位	粒径1~4mmの白色粒 砂粒	12.9	10.8	28.2	—
				Q42(V2)×18	36		R41(Va)×2	2								
				R41(V2)×4	30		R42(V3)×1	57								
				R42(V1)×2	14		R42(VI)×1	14								
				R42(V3)×1	57											
				S41(V2)×2	32											
				S42(V3)×1	30											

表30-5b 包含層出土土器類観察表 (IV群 a 類復元土器)

図番号	掲載番号	図版番号	土器分類	図化した点数		残		総点数	施文等	胎土への混入物	寸法(単位:cm)							
				遺物(個位)・調査区(個位)×点数	遺物番号	遺物(個位)・調査区(個位)×点数	遺物番号				口径	底径	器高	最大径				
図IV-24	12	111-3	IV a 大津式	Q46(V)×1 P46(V)×1 P47(V)×1 R39(V)×1 R38(V)×2 T38(V a)×2 T38(V)×2 T38(V)×2 T38(V)×2 T38(V)×2 T38(V)×2	2 b22 16 7 14 4 4 4 4 4 4	5		5	2本一組の浅い沈線で施文 3単位の波頂部は表裏にま たがるように粘土結貼付	白色小粒 海綿骨針	13.8	6.0	14.1	—				
図IV-24	13	112-4	IV a 大津式	T38(V a)×2 T38(V)×2 T38(V)×2 T38(V)×2 T38(V)×2 T38(V)×2	4 4 4 4 4 4	68		17	85	2本一組の浅い沈線で施文 表面跡落着しい	白色小粒 砂粒	21.8	11.4	35.0	24.0			
図IV-24	14	111-5	IV a 大津式 (トリサキ式に近い)	P48(V)×15	3	15		15		15	浅い沈線で平行線文 4単位	砂粒 白色粒	14.6	5.8	14.8	—		
図IV-24	15	112-2	IV a 大津式	P48(V)×11	b 4	11		11		11	幅広く深い沈線文2本一組 で施文 2単位か	砂粒 雲母まばら	10.2	5.8	11.2	—		
図IV-25	16	113-1	IV a 大津式	P46(V)×12 P46(V)×12 P46(V)×12 P46(V)×12	d 3 d 3 d 3 d 3	61		10	11	10	幅広く深い沈線文を条線で 充填 3単位の波頂部は表 裏にまたがる粘土結貼付	白色小粒 砂粒	18.9	—	23.5	20.1		
図IV-25	17	112-3	IV a 大津式	P48(V)×11	16・b 7	11		11		11	条線のみで施文 3単位 砂粒 白色小粒	砂粒 白色小粒	10.3	4.7	12.1	—		
図IV-25	18	113-2	IV a 大津式	T41(V a)×20	12	20		20		20	幅広い沈線の縁取り内を擦 殺で充填	粒径1~2mmの白色粒 小石まばら	12.7	6.5	16.7	—		
図IV-25	19	113-3	IV a 大津式	S49(V b)×72 P42(V a)×10 P42(V)×8 P42(V)×2 P43(V a)×1 P43(V)×4 P43(V)×3 Q41(V)×3 Q41(V)×2 Q42(V)×2 Q43(V)×3 Q43(V)×2 Q44(V)×2 Q44(V)×6 Q44(V)×1 Q44(V)×1 R42(V)×2 R42(V)×2 R42(V)×2 S43(V)×1 不明×1	b3・b3・b35・b4・b45 1 12 28 58 8 18 18 19 22(掘り上げ上下) 1 13 13・26 15 16 2 30 32 35(掘り上げ中からト) 24 不明	72		2	74		2	74	幅広い沈線の縁取り内を半 縁付首により擦殺で充填	砂粒 粒径1~2mmの 白色粒密	22.5	11.7	34.2	24.6
図IV-25	20	113-4	IV a 大津式	P42(V a)×10 P42(V)×8 P42(V)×2 P43(V a)×1 P43(V)×4 P43(V)×3 Q41(V)×3 Q41(V)×2 Q42(V)×2 Q43(V)×3 Q43(V)×2 Q44(V)×2 Q44(V)×6 Q44(V)×1 Q44(V)×1 R42(V)×2 R42(V)×2 R42(V)×2 S43(V)×1 不明×1	1・49 12 28 58 8 18 18 19 22(掘り上げ上下) 1 13 13・26 15 16 2 30 32 35(掘り上げ中からト) 24 不明	76		2	78		2	78	太い沈線間を半縁付首によ る条線で充填 胴下部縦 方向のみガサ調整 砂粒が 多いためやや粗い粒が残 微砂な上げ底	砂粒密	23.2	9.8	33.0	—
図IV-25	21	112-5	IV a 大津式	H-10(横上)×8 H-7(横上)×11 R42(V)×2 R42(V)×2 S43(V)×1 不明×1	8・57 11 3 3 24 不明	9		22	31	22	太い沈線間を半縁付首によ る条線で充填 胴下部縦 方向のみガサ調整	砂粒 粒径1~3mmの 白色粒	—	12.8	(15.2)	—		
図IV-26	22	114-1	IV a 大津式	O42(V 2)×127	40・41・42	127		127		127	焼成良好 ナテ調整は丁寧 化粧土か 幅広い沈線間 は条線で充填 胴下部無文	砂粒密 粒径4mm程の 白色粒まばら	27.0	13.0	45.0	30.0		
図IV-26	23	114-2	IV a 大津式	O43(V a)×14 O43(V 1)×50 R45(V 3)×1 R46(V)×2 R47(横)×34 R47(V)×14 R47(V)×28 R47(横)×1 S45(V)×1 S45(V)×1 S45(V)×1 S46(V)×1 S40(V a)×22 S40(V)×10 S40(V)×7 S40(V)×9 S40(V)×3 T40(V)×4 T40(V)×2 T40(V)×6 R42(V 3)×9	1 2・22 42 c 9・d 11 a 1・b 1 b 4・b 6 b 3・b 16 b 20 4 4 4 b 10 10 16・18・37 22・28 33・40 4 4 24・37 36	64		2	66		2	66	焼成良好 ナテ調整は丁寧 化粧土か 幅広い沈線間 は条線で充填 胴下部無文	砂粒密 粒径2~4mm 程の白色粒まばら	26.5	11.2	38.9	28.7
図IV-27	24	114-3	IV a 大津式	R45(V 3)×1 R46(V)×2 R47(横)×34 R47(V)×14 R47(V)×28 R47(横)×1 S45(V)×1 S45(V)×1 S45(V)×1 S46(V)×1 S40(V a)×22 S40(V)×10 S40(V)×7 S40(V)×9 S40(V)×3 T40(V)×4 T40(V)×2 T40(V)×6 R42(V 3)×9	42 c 9・d 11 a 1・b 1 b 4・b 6 b 3・b 16 b 20 4 4 4 b 10 10 16・18・37 22・28 33・40 4 4 24・37 36	148		33	181		33	181	菱形の器形 4単位の波頂 部は表裏にわたり粘土結 貼付 幅広い沈線間を条 線で充填 胴下部無文	砂粒密	20.6	16.5	39.8	27.5
図IV-27	25	114-4	IV a 大津式	S40(V a)×22 S40(V)×10 S40(V)×7 S40(V)×9 S40(V)×3 T40(V)×4 T40(V)×2 T40(V)×6 R42(V 3)×9	b 10 10 16・18・37 22・28 33・40 4 4 24・37 36	77		8	85		8	太い沈線間を条線で充填 胴下部ガサ調整にて無 文 内面輪積み痕跡でミ ガサ調整の痕跡は粗粒を 残す 微砂な上げ底	粒径1~4mmの白色粒 砂粒	—	10.7	(28.5)	28.0	
図IV-28	26	115-1	IV a 大津式	P48(V)×14 P48(不明)×1	3・12・15 不明	15		15		15	太い沈線間を条線で充填 3単位の波頂部は表裏に わたる粘土結貼付	粒径1~2mmの白色粒 密	18.5	—	(13.6)	20.0 大突起 部分		
図IV-28	27	115-2	IV a 大津式	P47(V)×101 P48(V)×5 Q48(V)×1	42・44 16 16	107		3	110	3	幅広い沈線間を条線で充填 胎土密 5単位 表面 無文 化粧土	砂粒 白色化粧土 化粧土	23.1	12.0	32.6	24.0		
図IV-28	28	115-3	IV a 大津式	R41(V 3)×13	44(掘り上げ上下)	13		13		13	縦方向のみガサ調整 3単位の波頂 部は表裏にわたる粘土結 貼付 幅広い沈線間を条 線で充填 胴下部無文	白色小粒 砂粒	12.5	6.1	16.0	—		
図IV-28	29	115-5	IV a 大津式	Q42(V)×3 Q43(V a)×7 Q43(V)×12 Q43(V)×22 R42(V a)×6 R42(V)×2 R42(V)×2 R42(V)×2 P39(V)×2 P38(V)×3 T40(V)×1 T41(V)×2	13・15 3・5 26 85・85 1 11・12・14 11 11 11 4 4 57 45	40		14	54		14	54	最大より上縁方向へ下は 縦方向のみガサ調整により 無文 3単位の波頂部は表 裏にわたる粘土結貼付	白色粒密 砂粒	17.5	8.7	24.8	18.8
図IV-29	30	116-1	IV a 大津式	R42(V)×2 R42(V)×2 R42(V)×2 P39(V)×2 P38(V)×3 T40(V)×1 T41(V)×2	11・12・14 11 11 4 4 57 45	31		15	46	15	折り返し口縁成形後 L R 縄文 4単位の波頂部には 表裏にわたるように粘土 結貼付	白色粒密 砂粒	21.3	—	(23.8)	—		
図IV-29	31	115-4	IV a (大津式並行)小 型・副担持落体	P47(V)×1 T41(V)×2	b 3 45	8		8		8	網目状絡糸体の小型器形	砂粒 白色小粒	6.7	4.0	6.6	—		
図IV-29	32	116-2	IV a 大津式	P48(V)×1	b 3	1		1		1	条線が明確に残る 無文	砂粒 白色粒	9.7	4.3	7.6	—		
図IV-29	33	116-3	IV a 大津式	Q41(横)×2	1	2		2		2	小型の器 1単位の波頂部穿孔 に口縁より上縁側がわずかに 折れ 縦方向のみガサ調整 方向のみガサ調整 4単位の 波頂部は3つの指頭状	砂粒	3.3	3.7	9.1	7.3		
図IV-29	34	116-4	IV a 大津式並行	P47(V)×49 P48(V)×5	14・15・16・43・45・46 11・12・16	54		7	61	7	2単位の波頂部とその間の 面取り部分に円形刺突 積 層状の器形 幅広い沈線間 は表裏にわたる粘土結貼 付 幅広い沈線間を条 線で充填 胴下部は縦方向 のみガサ調整	砂粒 白色粒	29.7	19.3	38.0	—		
図IV-29	35	116-5	IV a 大津式並行	S48(V b)×3 S49(V a)×3 S49(V b)×9	c 12 b 37 a 33・b 43	15		15		15	L R縄文構成 3単位の波 頂部は表裏にわたるよう に輪積み痕跡を残す 粗 粒の器形 幅広い沈線間 は表裏にわたる粘土結 貼付	砂粒 白色粒	12.7	6.2	13.7	—		
図IV-29	36	117-1	IV a 大津式並行	Q48(V)×12	11・17・21・22	12		12		12	L R縄文構成 3単位の波 頂部は表裏にわたるよう に輪積み痕跡を残す 粗 粒の器形 幅広い沈線間 は表裏にわたる粘土結 貼付	輝石 角閃石まばら 白色粒まばら	11.2	5.8	12.0	11.3		
図IV-29	37	117-3	IV a 大津式並行	S48(横)×11 T39(V a)×3 T39(V)×3 Q48(V)×9 S49(V)×3 T40(V)×1 T41(V)×2	b 1 c 6 b 37 11・16・21・22 3 4 45	15		15		15	口縁部成形後 縦方向のみ ガサ調整 4単位の波頂 部は表裏にわたる粘土結 貼付	砂粒密	16.1	4.8	15.2	—		
図IV-30	38	117-2	IV a 大津式並行	Q48(V)×9 T39(V)×3 T40(V)×1 T41(V)×2	11・16・21・22 3 4 45	14		2	16	2	折り返し口縁成形後 縦方 向のみガサ調整 3単位の波 頂部には表裏にわたるよ うに粘土結貼付	砂粒 白色粒密	13.1	6.1	17.9	—		
図IV-30	39	117-4	IV a 大津式並行	P47(V)×3 P48(V)×5 R42(V a)×2 R42(V)×2 R42(V)×2 P39(V)×2 P38(V)×3 T40(V)×1 T41(V)×2	11・12・16 11 11 4 4 57 45	8		8		8	幅広い沈線間を条線で充 填 3単位の波頂部は表 裏にわたる粘土結貼付	砂粒 白色粒密 粒径 3mmの白色粒まばら	11.5	—	(12.6)	13.3		
図IV-30	40	117-5	IV a 大津式並行	R42(V)×2 R42(V)×2 R42(V)×2 P39(V)×2 P38(V)×3 T40(V)×1 T41(V)×2	11・12・14 11 11 4 4 57 45	99		27	126	27	折り返し口縁成形後、L R 縄文 5単位の波頂部は 表裏にわたるように輪 積み痕跡を残す 粗粒の 器形 幅広い沈線間を条 線で充填 胴下部は縦方 向のみガサ調整	砂粒密	25.4	—	(36.0)	26.7		
図IV-30	41	118-1	IV a 大津式	T49(V a)×6 T49(V b)×40 T50(V)×1	a 1・d 1 a 23・a 30・b 22・b 32・ c 12・c 18・c 24・d 22 28 a	50		50		50	L R縄文構成 5単位の波 頂部は表裏にわたるよう に輪積み痕跡を残す 粗 粒の器形 幅広い沈線間 は表裏にわたる粘土結 貼付	砂粒 白色粒密	22.4	9.8	34.7	25.1		
図IV-30	42	118-2	IV a	S41(V 3)×21	50	21		3	24	3	折り返し口縁を成形後、L R縄文構成 3単位の波頂 部には表裏にわたるよ うに粘土結貼付 微砂 な上げ底	粒径2~5mmの白色粒 砂粒	10.2	5.4	11.4	—		
図IV-30	43	118-3	IV a	S48(V)×8 S48(V)×8 T40(V)×9 T40(V)×7	a 2 a 15 37 54	14		1	15	1	L R縄文構成 3単位の波 頂部は表裏にわたるよう に輪積み痕跡を残す 粗 粒の器形 幅広い沈線間 は表裏にわたる粘土結 貼付	砂粒 白色小粒	13.5	7.2	15.1	—		
図IV-31	44	118-4	IV a	T41(V)×2 T41(V)×2 T41(V)×7	26・32 26 54	39		9	48	9	折り返し口縁成形後、L R縄文構成 4単位の波 頂部は表裏にわたるよ うに輪積み痕跡を残す 粗粒の器形 幅広い沈線 間を条線で充填 胴下部 は縦方向のみガサ調整	粒径1~4mmの白色粒 砂粒	20.5	—	(18.8)	—		
図IV-31	45	119-1	IV a	P48(V)×1 Q48(V)×8 S44(V)×1 S49(V)×7 S49(V)×5 N41(V)×1	16 16・17・21・22 26 b 4・c 3 a 15・b 35 3	29		29		29	L R縄文構成 原形をほぼ 残した粗粒の器形 6単位	砂粒 輝石	22.2	9.5	29.7	23.0		
図IV-31	46	118-5	IV a	S44(V)×1 S49(V)×3 S49(V)×7 S49(V)×5 N41(V)×1	26 b 4・c 3 a 15・b 35 3	16		16		16	L R縄文構成後 口縁部ナ テ 粗粒の器形 幅広い沈 線間を条線で充填 胴下 部は縦方向のみガサ調 整	砂粒 角閃石	12.6	—	(12.7)	13.1		
図IV-31	47	119-2	IV a	P48(V)×2 R42(V)×2 T40(V)×3 T40(V)×2	3・10・16 56 5 32	23		23		23	L R縄文構成後 ガサ 胴 下部無文	砂粒 海綿骨針 白色 粒	11.3	6.0	19.1	13.8		
図IV-31	48	119-3	IV a	T40(V)×3 T40(V)×2	5 32	37		37		37	L R縄文構成後 ガサ 胴 下部無文	砂粒密	17.3	7.6	19.3	—		
図IV-31	49	119-4	IV a	T40(V)×3 T40(V)×2	5 32	11		11		11	L R縄文構成後 ガサ 胴 下部無文	砂粒 白色粒密	15.1	—	(18.1)	16.2		
図IV-31	50	120-1	IV a	R42(V)×57	52(掘り上げ中からト)	57		7	64	7	L R縄文構成 縦方向のみガ サ調整 幅広い沈線間を 条線で充填 表面無文	砂粒密 白色粒密 細かい砂粒密 細骨針 まばら	13.6	6.5	15.0	—		
図IV-31	51	120-3	IV a	P48(V)×16	b 6・b 16	16		16		16	L R縄文構成 縦方向のみガ サ調整 幅広い沈線間を 条線で充填 表面無文	砂粒密 白色粒密 細かい砂粒密 細骨針 まばら	14.7	7.5	16.6	—		





表30-5e 包含層出土土器類観察表 (IV群 a 類拓影図化破片)

図番号	掲載番号	図版番号	土器分類	図化した点数		残		総点数	施文等	胎土への混入物			
				遺物(破片)の点数	遺物番号	遺物(破片)の点数	遺物番号						
図IV-36	80	153	IV a 大津式の壺型土器か	Q43(V a)×1 Q43(V 2)×2 R44(V b)×1	4 53 22	4	R44(V b)×1	22	1	5	粘土層貼付、LR文、沈線施文 少量の葉 内面輪轆み痕残る	白色粒 輝石	
図IV-36	81	153	IV a 大津式	Q48(V)×1 R42(V 3)×1 T41(V 3)×1	17 73 35	3	R43(V a)×1 N43(V 1)×5 O45(V b)×1 Q42(V 1)×1 S35(V 2)×3 S36(V 2)×1 S38(V 1)×1 S38(V 2)×1 S39(V 2)×1 S41(V 1)×1 T38(V 1)×1 T41(V 3)×1	d 1 3 b 3 13 3 3 7 10 14 13 8 35	18	21	沈線施文、草木の茎による 楕円形刺突 波頂部に棒の 側面による複数の押圧 内 面調整時砂粒動く 波頂部 成形時の貼付痕残る	砂粒 白色粒 角閃石	
図IV-36	82	154	IV a 大津式	R42(V a)×1 R42(V 1)×17	1 11・14	18	R41(葉)×1 R41(V 2)×3 R41(V 3)×3 R41(V 4)×2 R42(V a)×3 R42(V 1)×12 R42(V 2)×6 R42(V 3)×4	15 30 49 70 1 11・14 32 37	37	55	幅広い沈線を施文後、沈線 上、沈線間を草木の茎によ る凹形刺突	粒径2~5mmの白色粒 海綿骨針と小石まばら	
図IV-36	83	154	IV a 大津式	Q37(V 1)×1 R37(V 2)×1 R38(V 3)×2 S38(V 1)×1 S49(V b)×1 T49(V b)×2	4 6 12 7 b43 a11・d15	8	P34(V a)×1 Q35(V a)×1 Q37(V 2)×1 Q40(V 1)×2 R37(V 2)×1 R38(V 1)×1 R40(V 3)×1 S36(V 4)×1 S37(V 1)×1 S40(V 2)×1 T36(V 1)×1 T38(V 1)×1 T40(V 3)×1 T47(V b)×1 T49(V b)×1 T40(V a)×1	1 1 2 4 6 2 30 11 3 18 1 8 37 b5 b15 a6	17	25	折り返し口縁成形後、沈線 を2本一組で施文し、筒を 半截竹管による凹形なし はC字形の押し引きで充填	白色粒	
図IV-36	84	154	IV a 大津式	T49(V b)×1	b22	1				1	2本一組の沈線で施文後、 凹形刺突を不明	白色小粒 小石まばら	
図IV-36	85	154	IV a 大津式	R42(V 3)×1 T39(V 1)×1 T39(V 2)×1 T40(V 2)×1	56 2 7 2	4	R42(V 3)×1 T39(V 1)×4 T39(V 2)×1 T40(V 2)×1	56 2 7 5	7	11	半截竹管の先端でC字形の 刺突を連続 内面輪轆み痕 残る	白色粒 黒色粒	
図IV-36	86	154	IV a 大津式	Q42(V a)×1	2	1				1	R織文施文後、その上半截竹 管によるC字形刺突を充填	白色粒	
図IV-36	87	154	IV a 大津式	S40(V)×3 T40(V 3)×1	22 24	4	S40(V 3)×5 T36(V 2)×1 T41(V 2)×3 T41(V 3)×4 T41(V 4)×2 R42(V 3)×1	22 3 25・26 35・45 54 56	16	20	3本一組の沈線で施文	角閃石小粒 海綿骨針	
図IV-36	88	154	IV a 大津式	S41(V 2)×2	49	2				2	草木によるものか2本一組 の沈線で施文	白色小粒密 角閃石	
図IV-36	89	154	IV a 大津式	S46(V b)×4 S40(V 3)×2	d1 22	4				4	条線縦方向施文後、沈線文	白色小粒 海綿骨針まばら	
図IV-37	90	154	IV a 大津式	S40(V 4)×6 T40(V 1)×1 T40(V 3)×2	33・40 5 24	11	Q43(V 2)×1 S40(V 4)×5 S41(V 2)×1 S41(V 3)×1	72 40 32 36	9	20	壺形の器形 内面輪轆み痕 残る 割れ口被熱 3本一 組の草木による沈線文	おお粒径5mm以上のパ ミス粒と海綿骨針まばら	
図IV-37	91		IV a 大津式	S44(V 2)×3	21	3	S49(V a)×1	a24		1	4	半截竹管を用いて半條起線 二回と沈線一回をおよそ の組み合わせとして施文	小石まばら
図IV-37	92	155	IV a 大津式	P48(V)×6 H-8(V b)×3 R40(V a)×1 R40(V 1)×1 R41(V a)×1 R41(V 2)×4 R41(V 2)×5 R41(V 4)×1 P47(V)×7	3 35 3 8 7 14 30・49 70 14・16	6	M38(V a)×1 M39(V b)×2 O42(V 2)×2 O42(V 3)×1 P48(V)×1 Q45(Ⅲ)×1 Q45(V a)×4 Q45(V b)×20 Q46(V a)×1 Q46(V b)×1 R40(V a)×1 R40(V 2)×1 R40(V 3)×1 R41(V 1)×1 R41(V 2)×3 R41(V 3)×1 R41(V 4)×1 R41(V 5)×2	d19 d5 21 31 12 a1 a2・a3・c3 a6・c5・d10 a3 b5 3 17 30 14 30 50 99	6	75	2本の太い沈線間に条線を 施す 口縁波頂部には表裏 にわたって粘土層を貼付	白色粒 砂粒まばら	
図IV-37	93	155	IV a 大津式	Q42(V a)×1 Q42(V 1)×1 Q42(V 2)×12	1 13 36・38・66	14	H-10(葉)×1 Q41(V 3)×1 Q42(V a)×10 Q42(V 2)×4 R41(V a)×1 R41(V 3)×2 R42(V 2)×1	147 23 2 36・66 3 49 32	21	35	太沈線と擦線の組み合わせ で施文 内面に輪轆み痕残 る 調整によって砂粒動く 口縁部には小さい波頂部 に3つの指頭痕	白色粒密 角閃石まばら	
図IV-37	95	156	IV a 大津式	Q41(V 3)×1 Q42(V a)×1 Q42(V 1)×1 Q43(V 2)×1 T38(V 2)×1 T41(V a)×1 T41(V 2)×1	22 1 36 53 2 1 25	4	Q42(V 1)×5 Q42(V 2)×1 P46(V b)×3 P47(V)×1 P48(V)×1 T41(V 4)×1 T42(V 1)×1 T42(V 2)×2 T42(V b)×1	13 30 c22・d18 43 16 61 4 14 56	6	10	太沈線と擦線の組み合わせ で施文	白色小粒 角閃石小粒	
図IV-37	96	156	IV a 大津式	T41(V 1)×1 T41(V 2)×3 T41(V 3)×3	13 25・26 35・52	7	P46(V b)×3 P47(V)×1 P48(V)×1 T41(V 4)×1 T42(V 1)×1 T42(V 2)×2 T42(V b)×1 R42(V 3)×1 T40(V 3)×1 T40(V 4)×1 T41(V 2)×1 T41(V 3)×4	c22・d18 43 16 61 4 14 56 24 48 26 35・52	3	13	2本の太い沈線間に条線を 施す	角閃石小粒	
図IV-38	97	156	IV a 大津式	T41(V 1)×1 T41(V 2)×3 T41(V 3)×3	13 25・26 35・52	7	T47(V b)×1 S49(V a)×1 S49(V b)×1 T41(V 2)×2 T49(V a)×1 T49(V b)×2 T50(Ⅲ)×1 T50(V a)×3 T50(V b)×5	b4 c3 b28 25 d5 c24・d15 d1 a6・d7 a15	6	22	1本の太い原体に細い縦線 の原形を添えて施文 内面 は調整によって擦線が付く	砂粒 海綿骨針 角閃石	
図IV-38	98	156	IV a 大津式	T49(V a)×3 T49(V b)×3	d6 d15	6	T49(V a)×1 T49(V b)×1 T49(V 2)×2 T49(V 3)×1 T49(V 4)×1 T49(V 5)×2 T49(V 6)×6	b4 c3 25 d5 c24・d15 d1 a6・d7 a15	6	22	太い沈線と複数の浅い沈線 を組み合わせて施文	粒径3mm前後の白色粒 まばら 白色粒 角閃 石 繊維か	
図IV-38	99	157	IV a 大津式	O43(V a)×10 O43(V 1)×2 O43(V 4)×1 O44(V b)×8 P47(V)×4	1 2・3 38 a3・a7 14・16	25	O43(V a)×1 O43(V 1)×2 O44(V a)×3 O44(V b)×3 P48(V)×2 Q46(V a)×1 Q46(V b)×1 R46(V b)×6	1 2 a4 a3・a7 12・15 b4 b3 a9	18	43	2本の太い沈線間に条線を 施す 口縁波頂部には表裏 にわたって粘土層を貼付す る。微妙な上げ底 明瞭な 頸部	白色粒 海綿骨針まばら	
図IV-38	100	157	IV a 大津式	P46(V b)×3	c21	3	P46(V b)×2 P47(V)×1	c21 14	3	6	幅広い沈線間を条線で充填す る 口縁部には粘土層の貼付 が表から裏にかけて逆る	砂粒 角閃石小粒 小石	
図IV-38	101	157	IV a 大津式	S40(V 1)×2 S40(V 2)×1	10 18	3				3	幅広い沈線間を条線で充填 する	砂粒 海綿骨針まばら	
図IV-38	102	157	IV a 大津式	R42(V 3)×17	54	17	H-10(葉)×1 R42(V 2)×5 R43(V a)×1 R43(V 1)×6 R43(V 2)×8 R43(V 4)×1 R43(V 5)×2	147 32 63 6 17・28 15 55	25	42	幅広い沈線間を条線で充填 する	粒径2~6mm前後の白 色粒まばら 角閃石	
図IV-38	103	157	IV a 大津式	S41(V 1)×11 S42(V 3)×18	15 30・33	29	S41(V 1)×1	13		3	32	幅広い沈線間を条線で充填 する 微妙な上げ底	白色粒密 角閃石まばら

表30-5f 包含層出土土器類観察表 (IV群 a 類拓影図化破片)

図番号	掲載番号	図版番号	土器分類	図化した品数		破片		総点数	施文等	胎土への混入物			
				複製(原形)×点数	遺物番号	複製(原形)×点数	遺物番号						
図IV-39	104	158	IV a 大津式	S41(V a)×4	1	H-19(覆)11×1	12	17	30	2本の沈脚間を条痕で充填する。口径30mm前後で胴の最大径は口径より大きい	粒径2mm前後の白色粒密		
				S41(V 1)×1	12	R41(V 2)×3	30						
				S41(V 2)×1	32	R41(覆)11×1	15						
				S42(V a)×5	1	R42(V 1)×3	14						
				S42(V 1)×2	8	R42(V 2)×2	32						
図IV-39	105	159	IV a 大津式	P48(V)×13	3・11・15	S41(V 1)×1	13	13	26	39	2本の沈脚間を条痕で充填する。胴の最大径は口径より大きい器形と思われる。カーブ文および矢羽文線が規則的に並ぶと考えられる	粒径2mm前後の白色粒と小石まばら 白色小粒	
				Q17(V)×1	18	S41(V 2)×1	32						
				M41(V b)×1	a・6	S42(V a)×2	1・2						
				O42(V 2)×4	21	H-1(V b)×4	48						
				O43(V a)×1	1	M41(V b)×1	a・6						
				O44(V b)×4	d・5	O42(V 2)×4	21						
				O45(皿)×1	b・4	O43(V a)×1	1						
				O47(V)×1	3	O44(V b)×4	d・5						
				P42(V a)×1	1	O45(皿)×1	b・4						
				P48(V)×7	15	O47(V)×1	3						
				R38(V 1)×2	2	P42(V a)×1	1						
				R41(V 1)×1	14	P48(V)×7	15						
				S36(V 1)×1	2	R38(V 1)×2	2						
				S37(V 1)×1	3	R41(V 1)×1	14						
				O47(V)×1	18	S36(V 1)×1	2						
図IV-40	106	158	IV a 大津式並行	N41(V 2)×1	7	O47(V)×1	18	2	1	3	L R 縄文 手口縁だが3か所の深い凹みがある。2面か	白色小粒 角閃石小粒	
				Q17(V)×1	18								
図IV-40	107	158	IV a 大津式並行	P46(V b)×1	c・21			6	6		無筋L縄文施文、器底によるものか深い凹線文、一単位と考えられる、3か所の指痕(痕)を持つ波頂部がある	白色小粒 海綿骨針	
				Q46(V b)×1	d・16								
図IV-40	108	158	IV a 大津式並行	T41(V 1)×1	54	S49(V b)×1	b・43	7	17	24	L R 縄文横走。波頂部には粘土粒によって表裏にまたがる貼付文	粒径1~2mmの白色粒 海綿骨針まばら	
				T42(V a)×1	1	T37(V 1)×1	1						
				T42(V 1)×3	6	T41(V a)×3	13						
				T42(V 2)×2	14	T41(V 3)×1	35						
						T42(V a)×2	1						
						T42(V 1)×4	6						
						T42(V 2)×1	14						
		T42(V 4)×2	26										
		不明×1	不明										
図IV-40	109	159	IV a 大津式並行	T46(V b)×10	d・10	S44(V 2)×1	17	10	4	14	L R 縄文横走。波頂部にはL R 縄文口唇から表面にかけて明確な複数押圧。粉っぽい胎土	白色粒	
						S45(V 1)×3	5						
図IV-40	110	159	IV a 大津式並行	S49(皿)×1	d・1	S49(皿)×4	c・d・1	6	6	12	L R 縄文。波頂部には指痕による明瞭な凹痕。横成帯	粒径1~2mmの白色粒 海綿骨針	
				S51(皿)×5	a・2	S49(V a)×1	a・2						
図IV-40	111	160	IV a 大津式並行	S49(皿)×6	c・1	S49(V b)×1	b・33	6	6	21	27	折返し口縁成形、L R 縄文、そのほか、2面。波頂部のみ	白色小粒密
				S49(V a)×4	a・24	S49(皿)×20	1						
図IV-40	112	160	IV a 大津式並行	S49(V a)×4	a・24	S48(皿)×2	d・4	4	17	21	折返し口縁成形後、L R 縄文横走。波頂部に指痕残	砂粒 白色粒 角閃石 海綿骨針まばら	
						S49(皿)×2	d・1						
						S48(V b)×1	d・5						
						S48(覆)×3	d・2						
						S49(皿)×1	d・1						
						S49(V a)×2	a・24						
						S49(V b)×1	a・13・b・26・b・43						
						S49(覆)×2	b・21						
						T49(V b)×2	b・22						
						H-19(覆)11×1	12						
図IV-40	113	160	IV a 大津式並行	Q38(V 1)×1	4	R42(V 1)×2	14	6	9	15	L R 縄文横走する。器表面上部にスレスレ波頂部による押圧	白色小粒 海綿骨針まばら	
				R42(V 2)×4	32	R42(V 2)×3	32						
				R42(V 3)×1	57	R42(V 3)×3	57						
						N39(V 2)×1	4						
						R37(V 5)×1	14						
図IV-40	114	160	IV a 大津式並行	R42(V 3)×9	56	R38(V 3)×1	12	15	15	30	折返し口縁成形後、L R 縄文を密に施す。三角形の波頂部には指痕による押圧が8か所連続する	角閃石密 粒径2mmの小石	
				T40(V 3)×4	24	R42(V 3)×3	57						
				T41(V 2)×2	25・26	T36(V 1)×1	1						
						T38(V 1)×1	8						
						T40(V 1)×1	5						
図IV-41	115	161	IV a	R42(V 1)×30	13	R42(V 1)×119	13	30	119	149	L R 縄文胴部以下は横走し、胴体を転がした痕跡が残る	粒径2~4mmの白色粒 小石まばら	
				P48(V)×4	10・12	P47(V)×3	43・45						
図IV-41	116	161	IV a			P48(V)×2	4	4	5	9	L R 縄文横走。口縁は折返し状を呈する	白色粒密 角閃石まばら	
				T40(V 3)×4	24・37	Q38(V 1)×1	4						
図IV-41	117	161	IV a 大津式並行	T40(V 4)×1	48	R36(V a)×1	8	6	11	17	無筋L縄文横走。口唇部断面形状は丸みを帯びるが縄文を転がした痕	粒径2mm前後の白色粒密	
				T40(V 5)×1	52	R36(V 2)×1	7						
						R39(V 2)×1	14						
						S38(V 1)×1	8						
						S38(V 2)×1	10						
						T39(V 3)×1	18						
図IV-41	118	161	IV a 大津式並行	R42(V 1)×4	14	T40(V 1)×1	5	4	6	10	L R 縄文横走	白色粒密 砂粒	
						T40(V 3)×1	24						
図IV-41	119	162	IV a 大津式並行	K36(V a)×6	b 1・b 2	K36(V a)×1	b 2	10	7	17	折返し口縁と輪積み痕を残すようにして、L R 縄文横走する。口唇部にも同一原形を施す。突起状の波頂部は4単位か	角閃石 海綿骨針まばら	
				K36(V b)×3	b 6	K36(V b)×1	b 6						
図IV-41	120	162	IV a	L36(V b)×1	b 2	L36(V b)×5	b 2	7	4	11	2ないし3段の折返し口縁成形後、L R 縄文横走	粒径1mm前後のおおの白色粒密。石英と角閃石粒まばら	
				B33(風筒)×1	7	C42(V b)×1	a・1						
				B33(風筒)×2	c・12	C43(風筒)×4	d・34						
				C43(V a)×1	b・14	F44(V b)×1	d・2						
				C43(風筒)×3	d・34	B43(皿)×1	c・2						
				B43(風筒)×2	c・12・d・4	B43(V b)×2	d・4・c・12						
				B44(皿)×2	b・1	B43(風筒)×1	c・1						
				B44(V a)×10	a・11・a・13・b・3	B44(V a)×29	a・11・a・27・b・3・d・8						
				B44(V b)×1	b・17	B44(V b)×4	a・16・b・28						
						B44(風筒)×1	a・37						
		C43(V a)×7	a・5・b・14・c・5・c・38										
		C43(V b)×7	a・29・c・6・d・18										
		C43(風筒)×2	c・9・d・34										
		D43(V a)×4	a・5										
		D43(V b)×1	b・11										
		F44(皿)×1	d・1										
		S34(V 5)×1	9										
図IV-42	122	162	IV a	S40(V 4)×3	40	S40(V 4)×1	40	5	10	15	壺形器形。折返し口縁成形後、L R 縄文施文	砂粒 小石まばら	
				T40(V 3)×1	37	S44(V 2)×2	19						
				T40(V 4)×1	48	S44(V 3)×5	22						
図IV-42	123	162	IV a	P48(V)×4	b 8	P48(V)×30	3・b 7・b 8・b 9	12	109	121	無筋L縄文。輪積み痕所々残る内面端は砂粒が動く。深らしいものである	砂粒 角閃石粒	
				Q48(V)×8	16・21・22・51	Q48(V)×15	16・21・22・25						
図IV-42	124	163	IV a	H-19(覆)11×1	156	H-19(覆)11×1	156	13	15	28	R L 縄文横走する。顕著な上げ底。粉っぽい胎土	長石粒 繊維	
				F40(脚)11×1	4	R39(V 1)×1	7						
				Q39(V 1)×1	5	R39(V 2)×1	14						
				Q40(V 3)×1	13	R40(V a)×1	3						
				R39(V 1)×2	6・7	R40(V 2)×4	17						
				R39(V 2)×2	19	R40(V 3)×6	30						
				R40(V 1)×1	8	R41(V 3)×1	36						
				R40(V 2)×2	17								
図IV-42	125	162	IV a	S41(V a)×4	1	S41(V 1)×99	16・32	12	3	99	111	R L 縄文横走する	粒径2~4mmの白色粒
				O38(V 1)×1	20								
図IV-42	126	162	IV a	R42(V 2)×2	32	R42(V 2)×1	32	3	4	7	壺形の器形。L R 縄文横走。内面輪積み痕残る	砂粒	
				R42(V 3)×1	54	R42(V 3)×3	54						
図IV-42	127	163	IV a	S49(V a)×2	a・2・c・2			7	7	折返し口縁を成形後、L R 縄文横走する。器底および波頂部は7+調整。上面は指形か	礫石 角閃石		
				S49(V b)×1	a・15								
図IV-42	128	164	IV a	S50(V b)×4	b・15	H-19(覆)11×1	34	19	26	45	壺形の器形。L R 縄文施文後、3か所調整	砂粒 粒径2mmの白色粒	
				M38(V a)×2	d・19	M39(V 1)×1	a・4						
				O38(V 1)×1	23	N40(V 2)×1	5						
				O40(V 1)×1	8	O38(V 1)×4	4						
				P39(V a)×5	1	O39(V 1)×1	20						
				P39(V 1)×2	11	O39(V 3)×2	6						
				P40(V 1)×1	4	O40(V a)×1	6						
				P40(V 2)×1	10	O40(V 1)×1	8						
				P40(V 3)×1	17	P38(V 2)×1	12						
				P41(V 1)×1	2	P39(V a)×1	1						
				R38(V 1)×1	6	P39(V a)×1	1						
				R41(V 2)×1	30	P39(V a)×1	11						
				R41(V 4)×1	70	P40(V 1)×1	4						
						P40(V 1)×1	4						
						Q39(V 2)×1	13						
						Q40(V a)×1	3						
						Q40(V 1)×1	4						
						Q41(V a)×2	8						
						R38(V 1)×1	6						
		R41(V a)×3	3										
		R42(V a)×1	81										

表30-5g 包含層出土土器類観察表 (IV群a類拓影図化破片・154のみIV群b類)

図番号	掲載番号	図版番号	土器分類	図化した点数		残		総点数	施文等	胎土への混入物		
				通検(単位)×点数	遺物番号	通検(単位)×点数	遺物番号					
図IV-42	129	165	IV a	S42(V3)×12	32・39	R41(Va)×1	?	21	33	LR縄文横走する。その際の除体を転がした痕跡表面に見る。その後ミガキ調整。内面縦方向のミガキ調整だが、一部に輪積み痕跡がある	粒径1~2mmの白色粒	
				S41(Va)×3	11	S41(V1)×2	11・13					
				S42(Va)×1	1	S42(V3)×8	31・32					
				T41(V1)×1	13							
図IV-43	130	164	IV a 貼付帯	T39(V2)×1	7	R41(V3)×6	49・101	1	1	単一貼付帯LR縄文横方向。地文は縦方向に黒く、口縁にも黒い帯で施文	砂粒 角四石粒	
図IV-43	131	164	IV a 貼付帯	R41(V3)×5	49・101	R41(V3)×6	49・101	5	9	無文貼付帯。帯にLR縄文を縦方向に黒く、口縁にも黒い帯で施文。内部面による残影痕跡	白色砂粒	
図IV-43	132	164	IV a	O39(V1)×1	11	H-3(黒)×1	58	4	107	111	貼付帯LR縄文横方向。地文は縦方向に施文。地文は底面際まで、口縁部にも同一帯体で施文	砂粒 角四石粒 粒径2mmの長石粒
				O39(V3)×1	27	H-1(黒)×1	8					
				Q40(V3)×1	26	N39(Vb)×3	5・9					
				P40(Va)×1	1	O39(V1)×47	11・20					
						O39(V2)×30	12・23					
						O39(V3)×4	9・13					
						O39(黒)×1	26					
						O40(V1)×2	8					
						O40(V3)×3	16					
						O40(Va)×1	9					
						O47(V3)×1	16					
						P39(Va)×3	1					
図IV-43	133	164	IV a	P43(V1)×1	8	P40(Va)×2	1	1	1	1	摩滅著しい。貼付帯に「ノ」の字状の隆起面	砂粒 角四石粒
				Q36(Va)×1	1	Q36(Va)×4	1・3					
				Q36(V2)×8	5・9	Q36(V1)×27	5・9					
				Q36(V2)×4	6・11	Q36(V2)×10	6・11					
				Q36(V3)×2	7・12	Q36(V3)×8	7・12					
				Q36(V4)×1	8	Q36(Va)×1	8					
				Q37(V1)×2	4	Q37(Va)×2	1					
				Q39(V1)×2	4	Q37(V1)×33	4					
						Q37(V2)×16	2					
						Q37(V3)×2	2					
						Q38(V1)×1	3					
						Q39(V1)×1	5					
図IV-43	135	164	IV a	C44(Vb)×1	b52	D45(Vb)×2	b4	3	6	網目状横糸文。胴部途中で段をうけLR縄文	砂粒 粒径3mm前後の白色粒	
				D45(Vb)×1	b4	T42(V4)×1	26					
図IV-43	136	164	IV a	R44(V4)×1	27	T40(V1)×1	5	7	12	19	口縁部縦方向、胴部は縦方向のLR縄文。口縁部には2本のLR縄文。口縁部にも同一帯体で施文	粒径5mm前後の白色粒まばら。小粒後の白色粒。海綿骨針まばら
				T40(V2)×4	24・37	T40(V3)×9	24・37					
図IV-43	137	164	IV a	F47(Vb)×1	b5	T40(V4)×1	56	1	1	1	LR縄文縦方向。底面際縦方向。上げ底	白色小粒 砂粒 角四石と海綿骨針まばら
						T40(V5)×1	32					
図IV-43	138	167	IV a	R42(V1)×21	11	R42(V1)×21	15	33	76	109	オオボコ回転文(あるいは粗線なLR縄文)底径11cm。底面ミガキにより無文	砂粒密 小石まばら
				R42(V2)×7	32	R42(Va)×1	1					
				R42(V3)×5	54	R42(V1)×11	11・12・14					
						R42(V2)×30	33・54・57					
図IV-44	139	165	IV a 大津式並行か	R41(黒)×1	15	S38(V1)×2	7・8	2	3	5	縦方向のケズリのようなナデ	白色小粒密
						R41(Va)×1	2					
図IV-44	140	165	IV a	R42(V3)×2	57・84	R42(V3)×2	84	3	2	5	折り返し口縁成形後、縦方向のミガキ調整	砂粒密 小石と角四石まばら
				R42(V4)×1	89							
図IV-44	141	165	IV a	T41(Va)×1	1	T41(Va)×3	1	2	3	5	口縁部縦方向のミガキ。胴部縦方向のミガキ	砂粒密
図IV-44	142	166	IV a	M39(Vb)×1	c8			1	1	ナデ調整によって無文	砂粒密 海綿骨針まばら	
図IV-44	143	166	IV a	S40(V2)×3	18	S40(V1)×1	10	4	23	27	口縁部縦方向のミガキ。胴部縦方向のミガキ。内面輪積み痕跡。砂粒が動くようなナデ調整	砂粒密
				S40(V3)×1	33	S40(V2)×1	18					
図IV-44	144	166	IV a	H44(Va)×8	a2	S40(V4)×14	33	12	23	35	ナデ調整によって無文。M群土器と類似	砂粒密
				H44(Vb)×4	a5	H44(Va)×8	a2					
図IV-44	145	166	IV a	P47(V)×2	42・44	H44(Vb)×15	a5	2	2	4	多段の折り返し口縁	砂粒と白色砂粒 小石まばら
図IV-44	146	166	IV a	B44(Vb)×1	a17	P48(V)×2	3	2	3	3	多段の折り返し口縁	砂粒と白色砂粒
図IV-44	147	166	IV a	S47(Vb)×14	c5	B44(Va)×1	a11	14	31	45	ミガキによって無文	角四石。粒径1~5mmの白色粒まばら
						B46-80(V1)×1	13					
						S47(黒)×2	11・25					
						S47(Vb)×4	c1					
図IV-44	148	168	IV a	S41(Va)×1	1	S48(Vb)×24	b6・b8・b12・b13・b15	22	40	62	ミガキ調整によって無文。横方向に沈線様の痕跡	粒径2~5mmの白色粒。小石。海綿骨針まばら
				S41(V2)×21	17	S49(Vb)×1	b36					
						S41(Va)×3	1					
						S41(V2)×28	17					
図IV-44	149	167	IV a	T41(V1)×6	13	S42(V1)×2	8	7	19	26	口縁部縦方向、胴部は縦方向のミガキ調整	白色粒密
						S42(V3)×1	9					
						T37(V1)×1	1					
						T41(V1)×1	1					
図IV-45	150	169	IV a	R41(黒)×1	15	N44(Vb)×1	c2	25	23	48	壺形。輪積み痕跡の上ナデ調整。無文	粒径5cm以上の小石まばら。角四石
				R42(V2)×2	32	R42(V3)×3	56					
				S42(V1)×1	8	S40(V2)×1	18					
				S42(V3)×7	30・37・39・42	S42(V1)×1	3					
				T40(V1)×1	5	R42(V3)×3	56					
				T40(V2)×7	24・37	S40(V2)×1	18					
				T41(V1)×1	13	S42(V1)×1	3					
				T41(V2)×5	25	T41(V1)×3	13					
						T41(V2)×1	25					
						T41(V3)×4	35					
						T41(V3)×4	35					
図IV-44	151	167	IV a	K41(Vb)×1	d3			1	1	張り出す底部形態	小石まばら 白色粒	
図IV-44	152	167	IV a	T49(V4)×4	48			4	4	ミガキ調整によって底面が無文	海綿骨針 白色粒	
図IV-44	153	167	IV a	T49(Vb)×2	a1	T49(Va)×4	d4・d5・d6	7	10	17	底面は編み物の厚版の上からミガキ調整	海綿骨針 白色粒 礫石が密
				T49(Vb)×5	a11・a23・d15	T49(Vb)×6	a11・c18・c28・d15・d22					
図IV-44	154	168	IV b (ウツクマイC式並行の可能性)	B40(Va)×1	c1	C42(V1)×1	c24	7	15	22	沈線後、LR縄文施文。内面ミガキ調整時、砂粒動く	白色粒密 海綿骨針まばら
				B40(Vb)×1	c2	C43(Va)×3	b5・b14					
				D44(Vb)×3	b18・c5・d9	C43(Vb)×1	b29					
				D46(V)×1	a	D42(Va)×1	c9					
		M42(Vb)×1	a3	D43(Va)×5	a3・a58							
		E43(Va)×1	a2	D43(Vb)×1	b22							
				D44(Vb)×2	c6							
				F43(V1)×1	c15							

表30-6a 包含層出土土器類観察表 (VI群復元土器)

図番号	掲載番号	図版番号	土器分類	図化した点数		残		総点数	施文等	胎土への混入物	寸法(単位:cm)					
				通検(単位)・調査区(単位)×点数	遺物番号	通検(単位)・調査区(単位)×点数	遺物番号				口径	底径	器高	最大径		
図IV-46	1	122-4	VI・後北B式古段階	H-1(黒)×1	78・203	P45(Va)×1	a2	80	1	81	RL縄文。胴部上半はRL縄文の上をキザミ。縦線。胴部下半には斜行短沈線。口縁部キザミ4単位	織種か、角四石らしき黒小粒 白色粒	18.7	6.7	25.0	-
				P45(Va)×1	a1											
				P45(Va)×35	a2											
				P45(Vb)×8	b5											
				Q33(Va)×13	a・4・6											
				Q33(V1)×9	26・27											
図IV-46	2	123-1	VI・後北B式中段階	O46(V)×8	53・54	O46(V)×3	3	22	5	27	RL縄文。縦線と沈線である。爪形列点文。口縁部キザミ4単位	白色小粒と海綿骨針まばら	17.5	5.8	(21.3)	-
				O46(V)×13	11・12	O46(V)×2	11									
図IV-46	3	123-4	VI・後北B式新段階	L42(Va)×5	b5・d7			18	18	RL縄文。縦線と沈線とでもうへキザミ列。口縁部キザミ4単位。上げ底。胎土黒色味をおびる	砂粒密	9.7	4.9	13.2	9.9	
				M42(Vb)×9	d5											
図IV-46	4	123-2	VI・アヨロ3・南川IV群	F40(V)×1	d1			10	10	RL縄文。三角列点文を帯縄文にそって横方向の波状に施す。上げ底	角四石らしき黒小粒	10.0	4.8	11.6	-	
				F41(Va)×5	a2・b1											
				G41(Va)×1	a3											
				L42(Va)×1	c23											
図IV-46	5	123-3	VI・アヨロ3・南川IV群	E40(Va)×8	c3			14	14	RL縄文。爪形列点文は口縁と底部にのみ施す。上げ底。口縁内面に爪の痕が連続	角四石 砂粒 海綿骨針	8.8	6.2	7.7	-	
				J43(Vb)×2	d4											
				J44(Va)×1	c4											
図IV-46	6	124-1	VI・アヨロ3・南川IV群	M47(V)×16	3			16	16	RL縄文。上げ底。口縁はキザミ。胴上半は水平な沈線と水平方向に連なる短沈線。縦方向の縄文と斜行短沈線は縦線と類似	角四石らしき黒小粒	11.5	推定3.92	15.0	-	

表30-6b 包含層出土土器類観察表 (VI群復元土器)

図番号	掲載番号	図版番号	土器分類	図化した点数			破			総点数	施文等	胎土への混入物	寸法(単位cm)			
				遺物(部位)・調査区(部位)×点数	遺物番号	点数	遺物(部位)・調査区(部位)×点数	遺物番号	点数				口径	底径	器高	最大径
図IV-46	7	123-5	VI・アヨロ3式・南川IV群	F40(Va)×16 N41(Va)×1 V41(Va)×3 O40(Va)×1 O41(Va)×1 B44(Va)×3 B・C46-8(Va)×11 C42(Vb)×7 C43(Va)×2 C43(Va)×8 A43(Va)×3 B・C46-8(Va)×3 C44(Va)×5 D43(Va)×4 D44(Va)×1 D46(V)×3 D47(V)×8	e 4 2 5 7 15 11・15 c 7・d 5 a 10・c 5・d 1 d 1 d 4 d 2 d 2 c 3・c 48 a 2 3 4	22	F40(Va)×1	c 4	1	23	R.L.縄文 上げ底 口唇は内側に面をとる	角四石	12.0	6.2	13.6	—
図IV-46	8	124-4	VI・南川IV群	B44(Vb)×1 B・C46-8(Va)×11 C42(Vb)×7 C43(Va)×2 C43(Va)×8	a 8 a 10・d 7	23	B44(Vb)×1	a 8	3	26	R.L.縄文 上げ底 口唇はキザミ	角四石らしき黒小粒	15.8	—	(15.2)	—
図IV-46	9	125-1	VI・注別式1式あるいは後北C式・古段階	A43(Va)×3 B・C46-8(Va)×3 C44(Va)×5 D43(Va)×4 D44(Va)×1 D46(V)×3 D47(V)×8	d 1 d 4 d 2 c 3・c 48 a 2 3 4	36	A43(Va)×1	d 1	1	37	R.L.縄文 口唇キザミ 首縁と頸部筋線のみを4箇所上げ底	砂粒まばら 凝結材目立たない	15.6	6.4	15.5	—
図IV-47	10	125-2	VI・アヨロ3・南川IV群	C45(Va)×2 D43(Va)×3 D46(V)×3 D47(V)×8	d 2 c 14 3 4	29	C45(Va)×2	d 14	5	34	R.L.縄文 上げ底 口唇はキザミ 上げ底 5つ以上の三角形突起 磨消縄文	白色小粒	23.8	6.8	27.0	—
図IV-47	11	124-2	VI・後北C式・古段階	K36(Va)×1 L38(Va)×5 L38(Va)×12 P38(Va)×4 Q38(Va)×8	d 8 a 7・b 31 a 3・b 8・b 29 2 2	18	L38(Va)×2	a 7・b 31	7	25	摩滅著しい 微隆起線とR.L.縄文の組み合わせか 4単位	砂粒	14.6	—	(9.8)	—
図IV-47	12	124-3	VI・後北C式・中段階	P38(Va)×4 Q38(Va)×8	2 2	11	C42(Va)×3	b 5・b 15	3	12	微隆起線とR.L.縄文、爪形列点文の組み合わせか 上げ底	砂粒	—	5.6	(9.3)	—
図IV-47	13	125-3	VI・後北C式・中段階	C42(Va)×11	b 5・b 15	12	C42(Va)×3	b 5・b 15	3	14	微隆起線による文様内は爪による押圧 R.縄 上げ底	砂粒 海面骨針	11.0	5.7	12.7	—
図IV-47	14	124-5	VI 後北C式・中段階	H41(Vb)×2 J42(Va)×7 J44(Va)×2 J44(Vb)×2 J42(Va)×4 J42(Vb)×2 J43(Vb)×5 J43(Va)×1 J43(Vb)×1 K42(Vb)×1 K43(Va)×2 K43(Va)×1 K43(Vb)×2 S42(Va)×1 M36(Va)×3 O37(Va)×4 O38(Va)×3 O38(Va)×2 P38(Va)×1 P39(Va)×2 P39(Va)×1 P39(Vb)×1 I42(Va)×9 I43(Va)×1 I44(Va)×1 J42(Va)×2 J42(Vb)×2 J43(Vb)×2 J44(Va)×1 J44(Vb)×1 K41(Va)×1 K43(Va)×1 L41(Vb)×3 L42(Va)×2 L42(Vb)×3 L42(Va)×4 L42(Vb)×4 L42(Va)×17 L42(Vb)×1 L45(Va)×1	c 12 b 5・c 1 b 2 b 5 d 7 a 2・d 17 a 2 a 4 b 13 d 2 a 1 a 3 a 4 b 5 a 1 d 1 2 2 10 9 10 19 c 1・d 3 a 4 b 2 d 7 b 5・c 9・d 17 a 2・d 4 a 2 b 3 c 4 a 1 c 1 c 1 d 1 b 2 d 1 b 2 5 a 3・d 3 a 4・b 6・d 6 a 6 d 1	41	P39(Va)×1	2	41	被膜により摩滅著しい 微隆起線とR.L.縄文、押し引き列点文の組み合わせか 4単位 対向する波頂部が同一文様で2種類の波頂部	砂粒 石英	23.9	—	(13.0)	—	
図IV-47	15	125-4	VI・後北C式・新段階	M36(Va)×3 O37(Va)×4 O38(Va)×3 O38(Va)×2 P38(Va)×1 P39(Va)×2 P39(Va)×1 P39(Vb)×1 I42(Va)×9 I43(Va)×1 I44(Va)×1 J42(Va)×2 J42(Vb)×2 J43(Vb)×2 J44(Va)×1 J44(Vb)×1 K41(Va)×1 K43(Va)×1 L41(Vb)×3 L42(Va)×2 L42(Vb)×3 L42(Va)×4 L42(Vb)×4 L42(Va)×17 L42(Vb)×1 L45(Va)×1	a 1 d 1 2 2 10 9 10 19 c 1・d 3 a 4 b 2 d 7 b 5・c 9・d 17 a 2・d 4 a 2 b 3 c 4 a 1 c 1 c 1 d 1 b 2 d 1 b 2 5 a 3・d 3 a 4・b 6・d 6 a 6 d 1	38	P39(Va)×1	2	39	R.L.縄文 微隆起線 微妙な上げ底 口唇はキザミ 4単位の波頂部に押圧	砂粒	21.4	9.4	25.9	—	
図IV-47	16	126-1	VI 後北C式・D古段階	I42(Va)×9 I43(Va)×1 I44(Va)×1 J42(Va)×2 J42(Vb)×2 J43(Vb)×2 J44(Va)×1 J44(Vb)×1 K41(Va)×1 K43(Va)×1 L41(Vb)×3 L42(Va)×2 L42(Vb)×3 L42(Va)×4 L42(Vb)×4 L42(Va)×17 L42(Vb)×1 L45(Va)×1	c 1・d 3 a 4 b 2 d 7 b 5・c 9・d 17 a 2・d 4 a 2 b 3 c 4 a 1 c 1 c 1 d 1 b 2 d 1 b 2 5 a 3・d 3 a 4・b 6・d 6 a 6 d 1	82	F46(V)×1	12	82	口縁部に微隆起線 口唇はキザミ R.L.縄文 4単位 対向する波頂部が同一文様で2種類の波頂部 微妙な上げ底	角四石らしき黒小粒	16.0	6.9	18.8	—	
図IV-48	17	126-2	VI 後北C式・D古段階	J44(Va)×1 J44(Vb)×1 K41(Va)×1 K43(Va)×1 L41(Vb)×3 L42(Va)×2 L42(Vb)×3 L42(Va)×4 L42(Vb)×4 L42(Va)×17 L42(Vb)×1 L45(Va)×1	b 3 c 4 a 1 c 1 d 1 b 2 d 1 b 2 5 a 3・d 3 a 4・b 6・d 6 a 6 d 1	102	L42(Va)×2	a 3・d 3	20	122	口縁部に微隆起線 R.L.縄文 4単位の波頂部に押圧 凸面気味の平底	砂粒	28.7	10.9	38.6	—

表30-6c 包含層出土土器類観察表 (VI群拓影図化破片)

図番号	掲載番号	図版番号	土器分類	図化した点数			破			総点数	施文等	胎土への混入物
				遺物(部位)×点数	遺物番号	点数	遺物(部位)×点数	遺物番号	点数			
図IV-48	18	170	VI アヨロ3式 南川IV群	C44(Va)×1	d 2	1	C42(Va)×1 C43(Va)×1 D41(Va)×1 J43(Vb)×1 A44(Va)×1 B43(Va)×1 B43(Va)×9 B43(Va)×1 C42(Va)×1 C43(Va)×1 C43(Vb)×1 不明×2	d 4 c 6 a 2 d 4 c 4 b 1 a 9・b 8 d 9 d 5 d 1 d 7 d 17 不明	4	5	R.L.縄文 口唇部キザミ	黒色粒
図IV-48	19	170	VI アヨロ3式 南川IV群	B43(Va)×5 C42(Vb)×2	a 9 d 5	7	B43(Va)×1 B43(Va)×9 B43(Va)×1 C42(Va)×1 C43(Va)×1 C43(Vb)×1 不明×2	b 1 a 9・b 8 d 9 d 5 d 1 d 7 d 17 不明	24	31	R.L.縄文 摩滅著しい 胎土黒色味を帯びる	角四石 白色粒
図IV-48	20	170	VI アヨロ3式 南川IV群	S44(Va)×1	2	1	P42(Va)×1	1	1	2	R.L.縄文 草本を半載したもので沈積 胎土黒色味を帯びる	角四石 白色粒
図IV-48	21	170	VI アヨロ3式 南川IV群	I42(Va)×1 J43(Vb)×1 J44(Va)×1 J44(Vb)×1 C44(Va)×3 C44(Vb)×3	d 3 a 2 c 1 c 1 c 4(図59)	6	B43(Va)×2 B43(Va)×14 B43(Vb)×1 B44(Va)×1 C42(Va)×2 C44(Va)×1 C44(Vb)×1 D44(Va)×12 不明×6	b 1 a 9・c 13・d 6 c 13 c 5 c 8 c 23 d 35	6	6	R.L.縄文 左へ押し列点文	角四石
図IV-48	22	170	VI アヨロ3式 南川IV群	B43(Va)×19	b 8・c 13	19	B43(Va)×2 B43(Va)×14 B43(Vb)×1 B44(Va)×1 C42(Va)×2 C44(Va)×1 C44(Vb)×1 D44(Va)×12 不明×6	b 1 a 9・c 13・d 6 c 13 c 5 c 8 c 23 d 35	20	39	R.L.縄文 上げ底	角四石 長石
図IV-48	23	170	VI 後北B-C式	D44(Va)×5	d 35	5	C44(Va)×1 C44(Vb)×1 D44(Va)×12 不明×6	d 1 c 16 d 35	20	25	R.L.縄文 上げ底 剥落部分の内面に粘土を成形した痕跡	輝石
図IV-48	24	170	VI 後北B-C式	C43(Va)×6	a 10	6	C43(Va)×1	a 10	1	7	縦方向の微隆起線が底部まで伸びる 爪形の列点 爪の痕跡 上げ底 二次被膜によるものか 角口縁状の割れ口	輝石 角四石 海綿骨針まばら
図IV-49	25	171	VI 聖山K II群土器 後北C式・南川IV以降	A44(Va)×1 B42(Va)×12 B43(Va)×3 z43(Vb)×3 z43(Va)×1 z44(Va)×1 z44(Vb)×1 不明(水筒破片)×1	c 1 c 2 b 8 c 4 c 5 a 2 b 6 9	22	z43(Vb)×3 z44(Va)×6 z44(Va)×1 A44(Va)×1 B42(Va)×12 A44(Va)×1 B42(Va)×12 B43(Va)×1 B43(Va)×1 B45(Va)×1 B46(Vb)×1	b 3・b 9 a 2・a 6・b 1・b 2 b 6 b 2 c 4 d 5・d 6 c 13 d 1 a 2	38	60	口径17cm、残存器高18.3cm 口唇部に突起部キザミ R.L.縄文 沈積 擦り消し縄文 半蔵竹筒による押し引き 胴部の縦方向の縄文との境界に波状沈線	海綿骨針 長石
図IV-49	26	171	VI 後北C式	C43(Va)×1 C43(Va)×2 L38(Va)×3	d 1 d 7 c 8・d 7 c 9・d 8	3	A44(Va)×1 B43(Va)×3 C44(Va)×1 I39(Va)×2 I40(Va)×1 I42(Va)×1 B43(Vb)×1 L38(Va)×12 L38(Va)×34 L39(Vb)×2 L42(Va)×1 M38(Va)×9 O39(Va)×1 F41(Vb)×1	c 3 c 13 a 2 b 1 b 2 c 1 c 4 c 8・d 7 c 1・c 9・d 8 b 2 d 7 a 11・c 3・d 19 2 17	5	8	微隆起線 列点文 口唇にキザミ	白色小粒
図IV-49	27	171	VI 後北C式・中段階	L38(Va)×6 L38(Va)×3	c 8・d 7 c 9・d 8	9	C44(Va)×1 I39(Va)×2 I40(Va)×1 I42(Va)×1 B43(Vb)×1 L38(Va)×12 L38(Va)×34 L39(Vb)×2 L42(Va)×1 M38(Va)×9 O39(Va)×1 F41(Vb)×1	a 2 b 1 b 2 c 1 c 4 c 8・d 7 c 1・c 9・d 8 b 2 d 7 a 11・c 3・d 19 2 17	60	69	微隆起線 三角列点文 口唇にキザミ 胴下部に2本の微隆起線による円形の文様	輝石
図IV-49	28	171	VI 後北C式・古一中段階	B43(Va)×2 B43(Va)×1 z43(Vb)×3 z44(Va)×1 I44(Vb)×1 排土×1 不明(水筒破片)×1	d 1 d 6 b 3・c 11 c 5 c 5 8 9	13	C44(Va)×1 C44(Va)×8 C43(Va)×3 C43(Vb)×1 C44(Va)×1 J43(Va)×3 K43(Va)×2 L42(Va)×1 L46(Va)×1 L47(Va)×1	b 1 a 2・b 4・b 51・d 2 b 3 c 23 a 2 b 1 a 1 a 3 3 5	10	23	R.L.縄文 3本一組の微隆起線 列点文 微妙な上げ底	長石
図IV-49	29	172	VI 後北C式・古一中段階	C43(Va)×3 D43(Va)×1 J43(Va)×3 K43(Va)×2	b 47・c 39 d 2 b 1 d 1	9	C43(Va)×3 C43(Vb)×1 C44(Va)×1 H42(Va)×2 J43(Va)×3 K43(Va)×2 L42(Va)×1 L46(Va)×1 L47(Va)×1	b 47・c 39 c 23 a 2 a 3 b 1 a 1 a 3 3 5	16	25	R.L.縄文 口唇部キザミ 3本一組の微隆起線で文様施文	砂粒
図IV-50	30	173	VI 後北B-C式	B44(Va)×1 C44(Va)×7	a 13 d 2	8	N42(Va)×1 B43(Va)×1 B43(Vb)×1 B44(Va)×2 C44(Va)×1 C45(Va)×1	d 1 d 1 d 7 a 2 d 2 c 7	7	15	R.L.縄文 上げ底	角四石 海綿骨針 長石



表30-6d 包含層出土土器類観察表 (VI群拓影図化破片)

図番号	掲載番号	図版番号	土器分類	図化した点数		残		総点数	施文等	胎土への混入物		
				通標(部位)×調査区(部位)×点数	遺物番号	通標(部位)×調査区(部位)×点数	遺物番号					
図IV-50	31	172	VI 後北C <sub>1</sub> -C <sub>2</sub> D式	A44(Va)×4 B44(III)×1 B44(Va)×1 B45(III)×5 C43(Va)×1 H44(Vb)×1 K41(Vb)×1	c 4 c 2 d 9 b 18 c 39 b 8 c 4	14	A42(Vb)×1 A43(Va)×1 A44(Va)×1 B45(III)×3 H44(Va)×1	d 11 d 4 c 4 b 18 b 3	7	21	R L 縄文 補修孔 微妙な上げ底	繊維 角四石と海綿骨針まばら
図IV-50	32	172	VI 後北C <sub>2</sub> D式古段階	K37(Vb)×4 L37(Vb)×1 M37(Va)×2 M38(Va)×3 N38(Va)×3 N38(V1)×1 不明×1	c 4 d 3 c 1 b 1・b 5・c 3 c 39 b 6 不明	15	J42(Vb)×1 K37(III)×1 K37(Va)×2 K37(Vb)×5 L40(Va)×1 L40(Vb)×2 M37(Va)×1 M38(Va)×8 N38(Va)×10 N38(Vb)×1 N38(V1)×1	c 9 d 9 d 8 c 4・c 5 b 7 b 6・d 7 c 3 b 3・c 3・d 19 1 22 8	34	49	2本一組の微隆起線で文様補修孔 微妙な上げ底 R L 縄文 胴部最大径30cm前後 底径11cm前後	長石
図IV-50	33	174	VI 後北C <sub>2</sub> D式	K37(Va)×1 L38(III)×3	c 2 d 7	4	A44(Va)×3 K37(III)×1 K37(Va)×5	c 4 b 3 b 1・b 2・c 2	9	13	口縁部には3本の微隆起線 口唇部にはキザミ R L 縄文	白色粒 輝石 角四石
図IV-50	34	173	VI 後北C <sub>2</sub> D式古段階	C44(Va)×8	a 2・c 1・c 23・d 38	8	F-1(Vb)×1 C35(Va)×2 C44(III)×3 C44(Va)×6	17 c 46 b 1・c 2 b 5・c 4・c 23・d 2	12	20	口縁部から胴部にかけて一定間隔で3本の微隆起線 間をR L 縄文を縦線状に施す 口唇部にはキザミ	白色粒 黒色粒
図IV-50	35	174	VI 後北C <sub>2</sub> D式古段階	M38(Va)×1 N38(Va)×4 N38(V1)×6 M38(Va)×3 M39(Va)×2 P39(Va)×20	d 19 1 6 c 3 b 7 2・3	11	142(Va)×4 J37(Vb)×1 J42(Vb)×36 J42(Vb)×2 J43(Va)×2 J43(Vb)×30 J44(Va)×11 K37(Va)×7 K42(Va)×13 K43(III)×1 K43(IV)×1 K43(Vb)×1 L38(III)×1 L38(Va)×1 M38(Va)×11 M39(III)×1 M39(Va)×3 L40(Vb)×1 P39(Va)×16 不明×2	c 1・d 3 a 3 a 2・c 9・d 17 a 3・d 7 b 13 a 2・d 4 a 2 d 5 a 1 a 3 a 4 c 3 c 3 b 8・c 3・d 19 b 6 b 3・b 7 b 6 2 不明	11	11	R L 縄文 三角形列点文	長石 輝石
図IV-50	36	173	VI 後北C <sub>2</sub> D式古段階	J44(Va)×1 K43(Va)×7 K43(Vb)×1 L42(Va)×2 L45(III)×5	b 3 b 4・c 1 b 8 c 23 a 5	16	D43(Va)×1 K41(Vb)×1 K42(Va)×13 K42(Vb)×4 K43(Va)×5 L40(Vb)×1 L42(III)×1 L42(Va)×13 L44(Vb)×2 L45(III)×1 M42(Vb)×1 N44(Va)×1	d 2 d 5 c 9・d 5 a 3・c 1 b 4・c 1 d 5 b 7 b 12・c 23・d 7 a 3・c 2 a 5 c 2 2	44	60	R L 縄文 口縁部には一列の微隆起線で文様 口唇部にはキザミ 微妙で不整な上げ底	小石 砂粒
図IV-50	37	174	VI 後北C <sub>2</sub> D式古段階	J44(Va)×1 K43(Va)×7 K43(Vb)×1 L42(Va)×2 L45(III)×5	b 3 b 4・c 1 b 8 c 23 a 5	16	D43(Va)×1 K41(Vb)×1 K42(Va)×13 K42(Vb)×4 K43(Va)×5 L40(Vb)×1 L42(III)×1 L42(Va)×13 L44(Vb)×2 L45(III)×1 M42(Vb)×1 N44(Va)×1	d 2 d 5 c 9・d 5 a 3・c 1 b 4・c 1 d 5 b 7 b 12・c 23・d 7 a 3・c 2 a 5 c 2 2	44	60	R L 縄文 口縁部には一列の微隆起線で文様 口唇部にはキザミ 平底が微妙に凸面を呈する	角四石 輝石

表30-7 包含層出土土器類観察表 (土製品・特殊器形)

図番号	掲載番号	図版番号	土器分類	図化した点数		残		総点数	施文等	胎土への混入物	寸法(単位:cm)			
				通標(部位)×調査区(部位)×点数	遺物番号	通標(部位)×調査区(部位)×点数	遺物番号				口径	底径	器高	最大径
図IV-51	1	175	III a 土製品	F40(Va)×1	d 4	1		1	2か所の貫通孔を持つ底部または高台 L 縄甲輪絡条体か	角四石を含む砂粒	—	—	—	
図IV-51	2	175	III a 支脚	H42(Vb)×1	d 12	1	H42(Vb)×3 I43(Va)×1	3	4	底面中央に貫通孔 脚部の破片	砂粒 海綿骨針 繊維	—	底径推定10.0(底穴推定5)	4.4
図IV-51	3	175	III 群 特殊器形	I42(Vb)×1	d 1	1	I40(Vb)×1 J42(Vb)×4	5	6	特殊器形の口縁部 L R 縄文施文後半截片管による連続刺突	海綿骨針密	—	—	—
図IV-51	4	175	IV a 焼成粘土	T37(V2)×1	2	1	T38(V1)×2	2	3	船形器形の軸先に相当する部分に顔面に似た造形	砂粒まばら	顔長さ(4.5)	顔幅(2.7)	唇残長さ(4.8)
図IV-51	5	175	IV a ミニチュア	C42(Va)×2	d 2	2		2	2	ナデ調整 D43 d 20(Vb)から短例(破片2点が適合し寸法は5×3×3.5cm)	砂粒 海綿骨針	4.7	3.2	3.1
図IV-51	6	175	IV a ミニチュア	E43(Vb)×1	d 5	1		1	2	ナデ調整 上げ底	角四石らしき黒色小粒	2.3	2.1	3.5
図IV-51	7	175	IV a 片口	B43(Vb)×2	a 6	2		2	2	器の片口部分	角四石らしき黒色小粒	—	—	—
図IV-51	8	175	IV a 土製品 ミニチュア土器	B43(Va)×1 B43(Vb)×1	a 9 a 27	2		2	2	耳栓なしはミニチュアの高台 削後一片脱落	白色粒	—	—	3.2
図IV-51	9	175	IV a 器形土製品	S49(Vb)×1	c 11	1		1	1	ミニチュアの器形	砂粒 小石	—	—	4.6
図IV-51	10	175	IV a 器形土製品	T48(Vb)×1	c 10	1		1	1	耳が欠損しているがイカ彫形	砂粒	3	—	(4.5)
図IV-51	11	175	IV a 土製品	F46(Va)×2	1・2	2		2	2	踵を半削したような彫形 H43 c 6 (Vb)に柄に相当する部分の類例	角四石らしき黒色小粒 海綿骨針	長さ(8.0)	幅(3.0)	深さ(2.7)
図IV-51	12	175	IV a 焼成粘土	D44(Va)×1	b 16	1		1	1	指頭腹面の圧痕	角四石らしき黒色小粒まばら	長さ(2.6)	幅(2.6)	深さ(0.8)
図IV-51	13	175	IV a 焼成粘土	T50(Va)×1	a 6	1		1	1	指頭腹面の圧痕がある皿状を呈する	砂粒密	3.1	1.1	0.9
図IV-51	14	175	VI 後北C <sub>2</sub> 式	Q38(Va)×2	2	2	Q38(Va)×2	2	4	R 縄 上げ底	砂粒	—	2.6	(4.2)
図IV-51	15	175	VI Aヨロ3か	F40(Va)×2 J44(Va)×1	c 4 a 2	3	J44(Va)×4	4	7	凸面味の手底 細い原体による濃縮するキザミ	角四石らしき黒色小粒	—	1.8	—

表30-8 包含層出土土器類観察表 (再生土製品)

図番号	掲載番号	図版番号	土器分類	図化した点数		残		総点数	施文等	胎土への混入物	備考
				通標(部位)×調査区(部位)×点数	遺物番号	通標(部位)×調査区(部位)×点数	遺物番号				
図IV-51	16	126-3	III a を利用した再生土製品	J39(Vb)×1	b 6	1		1	L R 縄文 表裏からの貫通孔 縁辺打ち欠き 後の摩擦は人為かどうか不明	繊維 海綿骨針	円形中央穿孔
図IV-51	17	126-3	III b を利用した再生土製品	R41(Vb)×1	78	1		1	R 縄甲輪絡条体 表裏からの貫通孔 縁辺打ち欠き後擦り	長石 角四石まばら	円形中央穿孔
図IV-51	18	126-3	III b-1 を利用した再生土製品	R43(V2)×1	25	1		1	L R 縄文 表裏からの貫通孔 縁辺打ち欠き 後の摩擦は人為かどうか不明	繊維 海綿骨針	隅丸方形中央穿孔
図IV-51	19	126-3	III a を利用した再生土製品	R43(V2)×1	25	1		1	L R 縄文 主に表からの貫通孔 縁辺打ち欠き	繊維 海綿骨針	不正円形中央穿孔
図IV-51	20	126-3	III a を利用した再生土製品	T40(V3)×1	23	1		1	L R 縄文 表裏からの貫通孔 縁辺打ち欠き 半割	石英微量 繊維	円形中央穿孔
図IV-51	21	126-3	III b-1 を利用した再生土製品	G39(Vb)×1	b 1	1		1	L R 縄文 表のみ未貫通 縁辺打ち欠き	海綿骨針 繊維	円形中央穿孔途中
図IV-51	22	126-3	III b-1 を利用した再生土製品	M41(Vb)×1	a 4	1		1	L R 縄文 縁辺打ち欠き 半割	粒径3mm前後の白色粒まばら 繊維	円形 1/2 残存
図IV-51	23	126-3	III a を利用した再生土製品	C40(Va)×1	c 6	1		1	L R 縄文後沈積 縁辺打ち欠き後擦り	白色小粒 繊維	円形 1/2 残存

表31 包含層出土剥片石器群観察表

掲載 図	掲載 番号	図版	出土グリッド	遺物 番号	層位	器種	計測値 (cm)			重量 (g)	石材		残存形態	使用痕	備考
							最大長	最大幅	最大厚		名称	色調・特徴			
IV-56	176		P-36区	3	V1層	石鏃	2.8	1.1	0.3	0.8	頁岩	灰褐色	完形	微細剥落痕・破損?	
			P-40区	5	V1層	石鏃	5.8	1.6	0.6	5.3	玄武岩	黒褐色・軟	完形	微細剥落痕・破損	
			P-42区	32	V2層	石鏃	(2.4)	1.6	0.3	0.8	頁岩	褐色	完形	微細剥落痕・破損	
			Q-43区	7	Va層	石鏃	2.8	1.7	0.4	1.3	頁岩	黒褐色	完形	微細剥落痕	
			R-36区	4	V3層	石鏃	3.5	1.2	0.4	1.2	頁岩	灰褐色~灰 白色	完形	微細剥落痕・剥落 痕・破損	
			S-44区	23	V3層	石鏃	2.5	1.4	0.4	1.0	めのう	灰白色	(完形)	微細剥落痕・破損? 付着物(黒~黒褐 色)	
			T-39区	8	V2層	石鏃	(4.6)	1.9	0.4	3.1	頁岩	黒色	完形	微細剥落痕・破損	
			B-42-d区	4	Va層	石鏃	1.7	1.3	0.4	0.5	めのう	灰白色	完形	微細剥落痕?	
			B-42-d区	5	Va層	石鏃	2.1	1.4	0.4	0.6	めのう	(灰白色)	完形	微細剥落痕・破損	
			B-45-a区	7	Vb層	石鏃	(2.9)	1.2	0.4	1.2	頁岩	灰赤色	完形	微細剥落痕・破損 付着物(黒色)	
			C-43-b区	17	不明	石鏃	2.3	1.6	0.4	0.9	頁岩	にぶ灰黄	完形	微細剥落痕・破損?	
			C-43-b区	51	Vb層	石鏃	2.3	1.3	0.6	1.4	頁岩	灰黄褐色	完形	微細剥落痕・破損	
			C-44-a区	3	Va層	石鏃	2.1	1.7	0.4	1.1	頁岩	(黒褐色)	完形	微細剥落痕・破損	
			D-40-c区	11	Vb層	石鏃	2.5	1.1	0.5	0.9	黒曜石	細粒の少 球果筋状	完形	微細剥落痕・破損?	
			D-44-a区	9	Va層	石鏃	2.5	1.5	0.3	0.6	頁岩	(黒褐色)	完形	微細剥落痕・破損?	
			F-41-c区	8	Vb層	石鏃	3.4	1.2	0.4	1.7	頁岩	礫表皮面 (灰白色)	完形	微細剥落痕・破損	
			F-42-a区	7	Vb層	石鏃	3.3	1.2	0.5	1.5	頁岩	暗灰黄色	完形	破損・付着物 (暗~黒褐色)	
			G-44-c区	9	VI層	石鏃	3.9	1.6	0.6	3.3	頁岩	黒褐~ 灰黄褐色	完形	微細剥落痕・破損	
			H-42-b区	10	Vb層	石鏃	4.5	1.4	0.6	3.4	頁岩	黒褐色	完形	微細剥落痕・破損?	
			H-43-a区	18	Vb層	石鏃	4.4	1.2	0.6	2.3	頁岩	灰褐~にぶ い黄褐色	完形	微細剥落痕	
			H-44-c区	3	Va層	石鏃	2.2	1.5	0.4	0.8	めのう	(灰黄~ 浅黄色)	完形	微細剥落痕	
			K-47区	2	V層	石鏃	(4.2)	2.3	0.6	4.4	黒曜石	細粒の少 球果筋状	完形	微細剥落痕・破損	左右非対称
			R-47-d区	3	Vb層	石鏃	2.6	1.5	0.5	0.9	黒曜石	細粒の少 球果筋状	完形	微細剥落痕・破損	
			S-49-a区	7	Va層	石鏃	3.9	1.9	0.5	3.2	黒曜石	細粒の少 球果筋状	完形	微細剥落痕・破損	
			K-42-d区	13	Vb層	石鏃	(4.8)	1.5	0.8	4.7	めのう	(浅黄色)	完形	微細剥落痕・破損	
			L-38-c区	2	Va層	石鏃	1.8	0.7	0.2	0.2	黒曜石	細粒の少 球果筋状	完形	微細剥落痕	
			L-38-c区	7	Va層	石鏃	1.9	0.8	0.2	0.2	黒曜石	透明	完形	破損	
			M-38-d区	6	不明	石鏃	2.6	0.8	0.3	0.3	頁岩	灰黄色	完形	微細剥落痕	
			R-46-b区	2	Vb層	石鏃	2.3	1.2	0.5	0.9	頁岩	暗赤色	完形	微細剥落痕	
			T-48-c区	13	Vb層	石鏃	2.1	1.3	0.4	0.6	頁岩	灰白~ 暗灰黄色	完形	微細剥落痕・破損	
IV-57			C-43-a区	2	III層	石槍・ナイフ	(6.2)	5.0	1.2	36.0	頁岩	灰色	半形	微細剥落痕・破損・ 剥落痕	
			G-43-d区	3	Vb層	石槍・ナイフ	8.5	4.9	0.9	19.3	凝灰岩	(灰白)軟	完形	剥落痕?	石製品?
			J-47区	13	V層	石槍・ナイフ	5.5	3.0	0.9	10.6	黒曜石	細粒の少 球果筋状	完形	微細剥落痕・破損	
			B-44-b区	7	Va層	石鏃	6.4	1.9	0.6	8.9	頁岩	黒褐色	完形	破損?磨滅?	スクレイパー?
			J-38-b区	3	Vb層	石鏃	(5.2)	1.2	0.8	4.2	頁岩	(灰白~ 黒褐色)	完形	破損	
			K-44-a区	7	III層	石鏃	3.6	2.4	0.7	6.2	頁岩	灰白色	完形	微細剥落痕	スクレイパー?
			P-46-d区	20	Vb層	石鏃	(4.0)	1.1	0.7	2.9	頁岩	黒褐色	完形	破損・破損	機能部:上下両部分
			T-41区	27	V2層	石鏃	(3.2)	3.0	1.3	9.1	頁岩	黒褐~にぶ い灰黄色	完形	破損・磨滅	
IV-58			F-39-a区	5	Vb層	つまみ付ナイフ	6.7	2.8	1.0	10.5	頁岩	灰白~にぶ い黄褐色	完形	微細剥落痕	
			L-36-a区	1	Vb層	つまみ付ナイフ	(10.1)	3.1	1.5	23.7	頁岩	(褐色) 礫表皮面 褐色	完形	微細剥落痕	
			O-36区	*	V1層	つまみ付ナイフ	4.6	(5.9)	1.2	19.7	頁岩	褐~黒褐色 礫表皮面	完形	微細剥落痕・破損?	
			O-43区	28	V2層	つまみ付ナイフ	(7.2)	5.2	1.3	14.9	頁岩	灰黄色	準完形	微細剥落痕・破損	接合
			P-46-c区	7	Vb層	つまみ付ナイフ	5.5	3.2	1.4	20.8	頁岩	褐灰~にぶ い黄褐色	完形	微細剥落痕	
			R-43区	8	V1層	つまみ付ナイフ	5.1	(4.2)	0.8	11.2	頁岩	黒褐~灰 黄褐色	完形	微細剥落痕・破損?	
			R-45区	20	V3層	つまみ付ナイフ	7.8	3.8	2.2	15.4	頁岩	(黒褐色) 礫表皮面	完形	微細剥落痕	
			S-46-b区	25	Vb層	つまみ付ナイフ	6.8	2.1	0.8	8.0	頁岩	褐色	完形	微細剥落痕	
			S-46-b区	24	Vb層	つまみ付ナイフ	7.3	2.8	1.0	11.1	頁岩	(黒褐色) 礫表皮面	完形	微細剥落痕	
			S-46-b区	29	Vb層	つまみ付ナイフ	8.4	3.0	1.3	35.3	頁岩	(褐色) 礫表皮面	完形	微細剥落痕	石槍?
IV-59			S-46-b区	30	Vb層	つまみ付ナイフ	7.2	2.6	1.1	16.9	頁岩	暗灰黄~に ぶい褐色	完形	微細剥落痕	石槍・ナイフ?
			P-47区	18	V層	つまみ付ナイフ	4.9	(3.0)	1.0	11.8	頁岩	灰黄褐色	準完形	微細剥落痕・破損	
			A-43-c区	3	III層	スクレイパー	8.2	6.4	1.8	73.9	頁岩	黄灰色	完形	微細剥落痕	エンド・サイドスクレイパー
			C-44-d区	7	Va層	スクレイパー	7.3	3.3	1.8	31.3	頁岩	明褐~灰 黄褐色	完形	微細剥落痕	サイドスクレイパー
			C-44-c区	8	Vb層	スクレイパー	5.7	4.8	1.2	22.2	頁岩	(灰色) 礫表皮面 灰褐色	完形	微細剥落痕	サイドスクレイパー
			D-43-d区	22	Vb層	スクレイパー	7.0	4.5	1.5	43.7	頁岩	黒色	完形	微細剥落痕	エンド・サイドスクレイパー
			D-43-d区	23	Vb層	スクレイパー	6.3	3.4	2.1	34.7	頁岩	にぶ黄褐色 礫表皮面 淡黄色	完形	微細剥落痕	サイドスクレイパー
			E-44-a区	19	攪乱	スクレイパー	4.8	4.5	1.6	25.8	頁岩	黒褐色	完形	微細剥落痕	サイドスクレイパー
			E-44-c区	14	VI層	スクレイパー	7.1	7.3	1.6	63.1	頁岩	黒色	完形	微細剥落痕	サイドスクレイパー
			F-43-c区	3	Va層	スクレイパー	6.7	3.2	1.4	23.4	めのう	暗赤褐色	完形	微細剥落痕・破損	サイドスクレイパー
G-45-a区	4	Vb層	スクレイパー	8.3	6.2	1.5	63.5	めのう	暗赤褐色 礫表皮面 (灰白色)	完形	微細剥落痕	エンド・サイドス クレイパー			

掲載 図版	図号	出土グリッド	遺物 番号	層位	器種	計測値 (cm)			重量 (g)	石材 名称	色調・特徴	残存形態	使用痕	備考	
						最大長	最大幅	最大厚							
IV-60	60	178	H-42-d区	24	V b層	スクレイパー	4.6	6.8	1.4	30.4	めのう にぶい赤褐色 暗赤褐色	完形?	微細剥落痕・破損?	エンドスクレイパー	
	61		I-43-b区	3	V a層	スクレイパー	7.2	6.8	1.4	59.8	頁岩	褐灰色	完形	微細剥落痕・破損?	サイドスクレイパー
	62		J-38-b区	5	V a層	スクレイパー	6.1	5.3	2.4	59.4	頁岩	黒色 礫表皮面 にぶい黄褐色	完形	微細剥落痕	エンド・サイド スクレイパー
	63		J-42-d区	16	V a層	スクレイパー	4.9	2.4	0.9	5.1	黒曜石	細粒の少球 果礫表皮面	完形	微細剥落痕	サイドスクレイパー 石鏃? 石錐?
	64		K-38-d区	4	V b層	スクレイパー	8.2	5.1	1.5	54.8	頁岩	褐灰色 礫表皮面 黒色	完形	微細剥落痕	サイドスクレイパー
	65		L-40-d区	1	V b層	スクレイパー	4.6	4.4	1.3	22.0	黒曜石	少球果わず か礫表皮面	完形	微細剥落痕	サイドスクレイパー
	66		N-36区	8	V 5層	スクレイパー	9.5	7.5	1.8	77.4	頁岩	(褐灰色)	完形	微細剥落痕	サイドスクレイパー
	67		N-40区	3	V 1層	スクレイパー	(4.9)	4.4	1.0	18.2	黒曜石	細粒の少 球果筋状 礫表皮面	準完形	微細剥落痕・破損	サイドスクレイパー
	68		N-39区	19	V a層	スクレイパー	4.3	1.6	0.8	3.9	黒曜石	細粒の少球 果 透明	完形	微細剥落痕	サイドスクレイパー
69	P-42区	2	V a層	スクレイパー	11.5	8.0	2.8	210	黒曜石	黒褐色 礫表皮面 にぶい黄褐色	完形	微細剥落痕	サイドスクレイパー		
IV-61	70	179	P-39区	6	V a層	スクレイパー	5.9	2.4	1.2	10.4	頁岩+石 英岩脈	褐灰~黒褐色 層理	完形	微細剥落痕・剥 落痕?	サイドスクレイパー
	71		Q-42区	43	V 2層	スクレイパー	6.2	4.3	1.6	36.4	頁岩	灰褐色 礫表皮面 オリーブ褐色	完形?	微細剥落痕・破損?	エンド・サイド スクレイパー
	72		R-42区	16	V 1層	スクレイパー	11.4	3.8	1.6	49.5	頁岩	黒色	完形	微細剥落痕	サイドスクレイパー
	73		R-46-c区	5	V b層	スクレイパー	(5.2)	3.4	1.4	18.5	頁岩	褐灰色 礫表皮面 灰黄褐色	完形?	微細剥落痕・破損	サイドスクレイパー
	74		R-48区	2	V層	スクレイパー	(5.0)	3.5	1.6	19.7	頁岩+石 英岩脈	褐灰~黒褐色 礫表皮面 砂岩質部分	準完形?	微細剥落痕・破損	サイドスクレイパー
	75		S-40区	2	V a層	スクレイパー	4.0	(6.1)	2.2	45.7	頁岩	褐灰色 礫表皮面 オリーブ灰色	完形?	微細剥落痕・破損?	エンドスクレイパー
	76		S-50-b区	8	V b層	スクレイパー	7.2	5.2	1.3	43.6	頁岩	にぶい赤褐色 礫表皮面 黄灰~灰色	準完形	微細剥落痕・破損	サイドスクレイパー
	77		S-43区	11	V 1層	スクレイパー	3.7	3.0	1.0	8.7	頁岩	にぶい赤色	完形	微細剥落痕	ラウンドスクレイパー
	78		T-42区	29	V 4層	スクレイパー	4.6	4.4	1.5	29.5	めのう	灰白色 結 晶化部分	完形	微細剥落痕	ラウンドスクレイ パー
	79		C-43-c区	11	V a層	スクレイパー	8.4	2.9	1.2	21.4	頁岩	灰黄~灰 黄褐色	完形	微細剥落痕	サイドスクレイパー
	80		D-43-d区	6	V a層	スクレイパー	9.4	3.9	1.3	31.5	頁岩	褐灰色 礫表皮面	完形	微細剥落痕	サイドスクレイパー
	81		D-43-d区	21	V b層	スクレイパー	7.1	(3.8)	1.6	34.4	頁岩	灰黄褐色	準完形	微細剥落痕・破損	サイドスクレイパー
	82		D-44-c区	7	V b層	スクレイパー	7.9	3.3	1.2	30.1	頁岩	黄灰色	完形	微細剥落痕	サイドスクレイパー
	83		E-42-c区	4	V a層	スクレイパー	6.6	4.0	1.1	17.8	頁岩	黄灰色 礫表皮面	完形	微細剥落痕	サイドスクレイパー
	IV-61		84	179	H-44-a区	6	V b層	スクレイパー	7.7	3.1	1.0	22.2	頁岩	灰黄~黒褐色	準完形
85		K-36-d区	6		V a層	スクレイパー	6.2	3.2	1.1	16.0	頁岩	暗灰黄色	完形	微細剥落痕	サイドスクレイパー
86		L-36-b区	1		V b層	スクレイパー	8.1	3.7	1.6	33.4	頁岩 凝灰岩 質部分	灰黄~灰黄 褐色 層理 礫表皮面	完形	微細剥落痕	サイドスクレイパー
87		O-34区	9		V 7層	スクレイパー	5.8	3.0	1.0	11.0	頁岩	灰白~灰 黄褐色	完形	微細剥落痕	サイドスクレイパー
88		P-44-a区	3		V b層	スクレイパー	(6.3)	2.6	1.1	15.2	頁岩	黒褐色	準完形	微細剥落痕・破損 焼けはじけ?	サイドスクレイパー
89		Q-38区	13		V 3層	スクレイパー	8.7	3.6	1.3	31.1	頁岩	灰褐~明 褐灰色	完形	微細剥落痕	サイドスクレイパー
90		Q-38区	12		V 3層	スクレイパー	8.0	2.6	1.5	21.5	頁岩	褐灰色 礫表皮面 明黄褐色	完形	微細剥落痕	サイドスクレイパー
91		S-46-b区	11		V b層	スクレイパー	6.5	4.3	1.1	16.5	頁岩	暗灰黄色	完形	微細剥落痕	サイドスクレイパー
92		K-36-d区	5		V a層	スクレイパー	5.6	1.5	0.7	4.2	頁岩	黒褐~灰 黄褐色	完形	微細剥落痕・破損	石鏃? 接合
93		M-38-a区	4		不明	スクレイパー									
			P-38区	4	V a層	スクレイパー	(3.5)	1.2	0.8	2.4	頁岩	黒褐~褐 灰色	準完形	微細剥落痕・破損	石鏃?

表32 包含層出土磨製石器群観察表

図	掲載番号	図版	出土グリッド	遺物番号	層位	器種	計測値 (cm)			重量 (g)	石材		残存形態	使用痕	加工痕	備考
							最大長	最大幅	最大厚		名称	色調・特徴				
IV-63	1	180	B-44-d区	22	V a層	磨製石斧	(5.8)	3.3	1.4	46.7	片岩	青灰色	準完形	破損	研磨痕	
	2		E-46区	5	V層	磨製石斧	13.9	4.9	2.2	220	泥岩	オリーブ灰色	完形	破損?	研磨痕	
	3		I-44-a区	8	V b層	磨製石斧	10.9	4.5	2.6	225	泥岩	緑灰色 灰白色片理	準完形	破損?(転用): たたき痕	敲打痕	
	4		J-45-b区	7	V b層	磨製石斧	(9.6)	4.8	2.2	160	蛇紋岩	灰色	準完形	破損 剥落痕	研磨痕	
	5		K-35-c区	2	V b層	磨製石斧	(9.0)	7.2	3.0	280	泥岩	灰色	半形	破損 剥落痕	研磨痕	
	6		L-46区	4	VI層	磨製石斧	7.8	4.2	1.4	65.0	泥岩	緑灰色・層理	完形	*	敲打痕研磨痕	
IV-64	7		P-45-b区	2	V a層	磨製石斧 未製品	14.4	4.2	2.2	180	泥岩	オリーブ 灰色	*	*	敲打痕(打ち欠 き痕) 研磨痕	
	8		P-47区	34	V層	磨製石斧	9.4	4.0	2.3	150	泥岩	緑灰色・ 層理	完形	剥落痕?(転用): たたき痕打ち欠き痕?	研磨痕	
	9		P-46-c区	33	V b層	磨製石斧	(5.6)	3.4	1.5	46.8	泥岩	緑灰色	半形	破損 剥落痕(転 用):打ち欠き痕?	研磨痕	
	10		O-42区	32	V 3層	磨製石斧	9.4	4.1	2.3	120	泥岩	オリーブ灰 色・層理	完形	剥落痕	敲打痕 研磨痕	
	11		S-40区	35	V 4層	磨製石斧	8.3	3.3	1.5	72.0	片岩	青藍色・片理	完形	剥落痕?	敲打痕 研磨痕	
	12		Q-42区	27	V 1層	磨製石斧	8.0	1.9	1.0	13.4	凝灰岩	灰黄褐色	完形	剥落痕	研磨痕	石のみ
	13		T-37区	4	V 1層	磨製石斧	(7.0)	1.8	0.9	20.7	片岩	オリーブ 灰色 片理	準完形	破損 剥落痕	研磨痕	石のみ

表33 包含層出土礫石器群観察表

図	掲載番号	図版	出土グリッド	遺物番号	層位	破片数		器種	計測値 (cm)			重量 (g)	石材		残存形態	使用痕	加工痕	備考
						小計	合計		最大長	最大幅	最大厚		名称	色調・特徴				
IV-65	1	181	R-48区	8	V層	1	1	扁平打製石器	8.2	15.9	3.4	540	安山岩	灰黄色 やや軟質	完形	剥落痕	打ち欠き痕	すり面非残存
	2		T-49-a区	31	V b層	1	1	扁平打製石器	9.7	16.7	3.8	850	安山岩	灰黄色	完形	すり痕・剥落痕	打ち欠き痕	
	3		I-42-c区	11	V a層	1	1	扁平打製石器	11.2	19.0	3.8	880	安山岩	灰黄色	準完形	すり痕・ 剥落痕・破損	打ち欠き痕	
	4		I-42-a区	10	V b層	1	1	扁平打製石器	7.9	15.4	2.9	610	安山岩	灰黄色	完形	すり痕・剥落痕	打ち欠き痕	
	5		I-42-a区	12	V b層	1	1	扁平打製石器	8.5	17.6	3.2	690	安山岩	灰白色	完形	すり痕・剥落痕	打ち欠き痕	
	6		O-44-b区	15	V b層	1	1	扁平打製石器	8.0	14.9	3.5	590	安山岩	(灰白色)	完形	すり痕・剥落痕	打ち欠き痕	
	7		Q-46-c区	19	V b層	1	1	扁平打製石器	9.3	14.9	2.2	430	安山岩	褐灰色	完形	剥落痕	打ち欠き痕	すり面非残存
	8		G-43-d区	4	V b層	1	1	扁平打製石器	10.0	15.7	2.9	430	安山岩	にぶい 黄褐色	完形	剥落痕・被熱 黒色化・赤色化 橙色(2.5 Y R 6/6)	打ち欠き痕	接合 すり面非残存
	9		G-47区	8	V層	1	1	扁平打製石器	8.9	15.4	2.3	510	安山岩	灰黄褐色	完形	すり痕・剥落痕	打ち欠き痕 敲打痕?	
	10		D-44-c区	59	V c層	1	1	扁平打製石器	8.5	14.4	2.1	330	角閃石 安山岩	灰白色	完形	すり痕・剥落痕	打ち欠き痕	
	11		L-39-a区	12	V b層	1	1	扁平打製石器	8.6	15.4	2.3	350	安山岩	(褐灰色)	完形	すり痕・剥落痕	打ち欠き痕	
	IV-66		12	G-41-a区	11	V b層	1	1	扁平打製石器	10.0	15.9	3.1	700	安山岩+ 石英岩脈	(褐灰~ 黒褐色)	完形	すり痕・剥落痕	打ち欠き痕
13		D-43-a区	29	V b層	1	1	扁平打製石器	9.0	16.2	3.2	800	安山岩	(灰色)	完形	すり痕・剥落痕	打ち欠き痕		
14		H-43-d区	14	V b層	1	1	扁平打製石器	8.6	14.4	3.7	670	安山岩	灰~褐灰色	完形	すり痕・ 剥落痕・破損	打ち欠き痕		
15		H-41-c区	7	V a層	1	1	扁平打製石器	8.1	13.7	2.5	330	安山岩	灰~褐灰色	完形	すり痕・剥落痕	打ち欠き痕		
16		R-40区	6	V a層	1	1	扁平打製石器	8.0	15.2	2.9	630	安山岩	褐灰~暗 褐色	完形	すり痕・剥落痕	打ち欠き痕		
17		O-42区	27	V 1層	1	1	扁平打製石器	9.3	15.8	3.7	700	安山岩	褐灰色	完形	すり痕・剥落痕	打ち欠き痕		
18		I-44-a区	10	V a層	1	1	扁平打製石器	9.9	(13.6)	5.0	800	安山岩	褐灰色	準完形	すり痕・ 剥落痕・破損	打ち欠き痕? 敲打痕?		
19		S-50-b区	13	V b層	1	1	扁平打製石器	12.0	16.6	3.2	1,050	安山岩	灰白~褐 灰色	完形	すり痕・剥落痕	打ち欠き痕		
20		H-42-c区	13	V b層	1	1	扁平打製石器	10.6	14.7	4.0	820	安山岩	褐灰色 多孔質	完形	すり痕・剥落痕	打ち欠き痕? 敲打痕?		
21		H-44-b区	11	V b層	1	1	扁平打製石器	9.4	17.5	4.0	1,030	安山岩	灰黄褐色	完形	すり痕	打ち欠き痕		
22		F-43-a区	18	V b層	1	1	扁平打製石器	11.3	15.4	3.2	800	安山岩	灰黄色	完形	すり痕・剥落痕	打ち欠き痕 敲打痕?		
IV-67		23	F-43-a区	15	V b層	1	1	扁平打製石器	9.3	16.4	3.2	830	安山岩	灰黄色	完形	すり痕・剥落痕	打ち欠き痕	
	24	F-42-c区	5	V a層	1	1	扁平打製石器	9.3	18.3	2.3	720	安山岩	灰黄色	完形	すり痕・剥落痕	打ち欠き痕 敲打痕?		
	25	G-43-d区	5	V b層	1	1	扁平打製石器	8.5	14.8	3.9	590	安山岩	灰黄色	完形	すり痕・剥落痕	打ち欠き痕 敲打痕?		
	26	z-43-d区	16	V b層	1	1	扁平打製石器	8.0	(11.2)	4.7	540	安山岩	灰白色 多孔質	完形	すり痕・破損	打ち欠き痕 敲打痕?		
	27	K-41-c区	8	V b層	1	2	扁平打製石器	11.1	18.2	2.8	800	安山岩	褐灰色	完形	すり痕 剥落痕・破損?	打ち欠き痕 敲打痕?	接合	
		L-45-c区	4	III層	1	2	扁平打製石器											
	28	F-42-a区	3	V a層	1	2	扁平打製石器	8.5	15.8	4.4	690	安山岩	にぶい 黄褐色 風化	完形	すり痕 剥落痕・破損	打ち欠き痕? 敲打痕?	接合	
		H-43-c区	18	V b層	1	2	扁平打製石器											
	29	I-40-c区	4	V b層	1	2	扁平打製石器	7.7	17.6	2.6	520	安山岩	灰黄色 扁平な板石	準完形?	すり痕・剥落痕・ 破損・被熱赤色化 にぶい赤褐色 (5 Y R 5/3)	?	接合 石鋸?	
		I-41-c区	10	V b層	1	2	扁平打製石器											
	30	C-40-d区	10 14	V a層	1 1	2	扁平打製石器	9.7	17.6	4.9	850	安山岩	黄灰色	完形?	すり痕・剥落痕	打ち欠き痕 敲打痕?	接合	
	31	F-39-b区	13	V a層	1	1	扁平打製石器	7.6	13.2	2.7	290	安山岩?	にぶい 黄褐色 風化	完形	すり痕・剥落痕	打ち欠き痕 敲打痕?	小型品	



掲載番号			出土グリッド	遺物番号	層位	破片数		器種	計測値 (cm)			重量 (g)	石材		残存形態	使用痕	加工痕	備考
図	番号	図版				小計	合計		最大長	最大幅	最大厚		名称	色調・特徴				
IV-67	32		F-43-b区	11	V b層	1	1	扁平打製石器	6.8	(12.4)	2.4	280	安山岩	浅黄褐色	完形	すり痕 剥落痕・破損	打ち欠き痕 敲打痕	小型品
	33		P-41区	8	彫り上仕	1	1	扁平打製石器	7.0	13.6	2.6	440	安山岩	灰黄褐色 風化	完形	すり痕・剥落痕	打ち欠き痕 敲打痕	小型品?
	34		N-42区	6	V 2層	1	1	扁平打製石器	6.7	11.9	2.7	310	安山岩	褐灰色	完形	すり痕・剥落痕	*	小型品 石鏝?
	35		L-41-d区	9	V b層	1	1	扁平打製石器	7.4	11.1	2.3	260	安山岩	灰黄褐色	完形	すり痕	打ち欠き痕	小型品
IV-68	36		T-49-d区	28	V b層	1	1	扁平打製石器	8.8	(11.7)	3.3	370	角閃石 安山岩	灰白色	完形	すり痕・剥落痕	打ち欠き痕	
	37		H-45-b区	8	V層	1	1	扁平打製石器	7.3	12.6	3.6	400	安山岩	にぶい黄褐色 多孔質	完形	すり痕・剥落痕	敲打痕 打ち欠き痕	未使用品
	38	186	P-45区	81	風倒木痕	1	1	北海道式石冠	9.8	12.9	4.0	630	安山岩	灰黄色 やや多孔質	完形	すり痕 剥落痕・破損	敲打痕・ 打ち欠き?	
	39		R-41区	23	V 1層	1	1	北海道式石冠	10.4	(12.2)	6.3	1,230	安山岩	褐灰色	準完形	すり痕 剥落痕・破損 被熱赤色化 赤褐色(10YR 3/4)	敲打痕	
	40		D-43-a区	46	V b層	1	1	北海道式石冠	9.0	(13.5)	5.8	1,030	閃緑岩	灰白～ 浅黄褐色	準完形	すり痕 剥落痕・破損	敲打痕・研磨痕?	
	41		C-43-c区	48	V a層	1	1	北海道式石冠	10.8	(15.5)	8.8	1,810	安山岩	灰白色	準完形	すり痕 剥落痕・破損	敲打痕	
	42		D-41-c区	8	V b層	1	1	北海道式石冠	9.4	13.6	6.3	1,110	安山岩	褐灰色	完形	すり痕・剥落痕	敲打痕	
	43		I-41-a区	11	V b層	1	1	北海道式石冠	11.1	(11.8)	5.9	980	安山岩	褐灰色 石英	準完形	すり痕・破損	敲打痕	
	44		Q-46-b区	23	V b層	1	1	北海道式石冠	12.5	(12.9)	7.9	1,590	安山岩	にぶい黄褐色 風化	準完形	すり痕 剥落痕・破損	敲打痕	
	45		P-46-c区	34	V b層	1	1	北海道式石冠	8.7	(15.1)	4.2	840	安山岩	浅黄褐色	完形	すり痕・剥落痕	敲打痕	
	IV-69	46		K-42-b区	3	V b層	1	1	北海道式石冠	12.0	(13.1)	5.1	1,180	安山岩	灰黄色	準完形	すり痕 剥落痕・破損	敲打痕
47			D-42-c区	18	風倒木 痕糺乱	1	1	北海道式石冠	9.1	(13.1)	6.5	1,040	安山岩	にぶい黄褐色 風化	完形	すり痕 剥落痕・破損	敲打痕	
48			E-43-c区	19	VI層	1	1	北海道式石冠	9.7	(14.9)	7.3	1,520	安山岩	灰白色	準完形	すり痕 剥落痕・破損	敲打痕	
49		187	E-43-a区	11	V b層	2	2	北海道式石冠	12.9	17.3	5.7	1,510	安山岩	黄灰色 多孔質	完形	すり痕・剥落痕	敲打痕	(接合)
50			E-39-c区	9	VI層	1	1	北海道式石冠	9.7	(14.2)	5.9	1,230	安山岩	灰白色	完形	すり痕・剥落痕	敲打痕	
51			H-42-c区	3	V b層	1	1	北海道式石冠	8.6	(13.4)	8.2	1,120	安山岩	黄灰色	準完形	すり痕 剥落痕・破損	敲打痕	
52			S-48-c区	10	V b層	1	1	北海道式石冠	9.6	(12.0)	4.0	550	安山岩	灰黄色	完形	すり痕・剥落痕	敲打痕	小型品
53			F-46区	21	V層	1	1	北海道式石冠	10.8	14.2	3.9	830	安山岩	灰白色	完形	すり痕・剥落痕?	敲打痕	
54			H-41-b区	8	VI層	1	1	北海道式石冠	7.5	11.6	3.8	440	安山岩	にぶい黄褐色	完形	すり痕・剥落痕	敲打痕	
55			E-45-c区	10	V b層	1	1	北海道式石冠	9.9	(11.5)	5.9	1,030	安山岩	褐灰色	準完形	すり痕 剥落痕・破損	敲打痕	
IV-70	56		F-43-d区	14	V b層	1	1	北海道式石冠	9.4	(14.2)	4.6	700	安山岩	灰白色 多孔質	準完形	すり痕 剥落痕・破損	敲打痕	
	57	188	E-45-c区	9	VI層	1	1	北海道式石冠	8.7	12.8	4.6	610	安山岩	褐灰色 多孔質	完形	すり痕・剥落痕	敲打痕	
	58		H-42-a区	47	V b層	1	1	北海道式石冠	9.2	11.5	5.4	710	安山岩	にぶい黄褐色	完形	すり痕・剥落痕	敲打痕	
	59		H-45-d区	9	V層	1	1	北海道式石冠	8.7	(13.9)	4.4	630	安山岩	灰白色	準完形	すり痕 剥落痕・破損	敲打痕	
	60		G-40-c区	4	V b層	1	1	北海道式石冠	7.7	(10.9)	4.3	390	安山岩	にぶい黄褐色	準完形	すり痕 剥落痕・破損	敲打痕	
	61		L-47区	12	V層	1	1	北海道式石冠	13.7	(9.1)	(6.5)	520	安山岩	にぶい黄褐色	片	すり痕 剥落痕・破損	敲打痕	
	62		J-39-a区	3	V b層	1	2	北海道式石冠	11.4	(15.1)	5.7	1,400	安山岩	褐灰色	準完形	すり痕 剥落痕・破損	敲打痕	接合
			J-40-b区	3	V a層	1	1											
	63		E-43-d区	14	V b層	1	2	北海道式石冠	11.8	14.7	4.5	1,170	角閃石 安山岩	灰黄色 風化	完形	すり痕 剥落痕・破損	敲打痕	接合
	64		F-43-c区	13	V b層	1	2	北海道式石冠	9.0	15.3	4.9	940	安山岩	灰白色 多孔質	完形	すり痕 剥落痕・破損	敲打痕 打ち欠き痕?	接合
65		D-39-a区	1	V b層	1	2	北海道式石冠	9.0	15.9	6.7	1,220	安山岩	黄灰色	完形	すり痕 剥落痕・破損	敲打痕	接合	
		G-39-d区	7	V b層	1	1												
IV-71	66	189	E-44-c区	9	V b層	1	2	北海道式石冠	9.8	13.9	6.7	1,390	安山岩	灰黄色	完形	すり痕 剥落痕・破損	敲打痕	接合
			F-44-b区	1	V b層	1	1											
	67		I-42-d区	12	V b層	1	2	北海道式石冠	10.0	(12.5)	4.6	650	安山岩	浅黄褐色	準完形	すり痕 剥落痕・破損	敲打痕	接合
			K-43-d区	9	V b層	1	1											
	68		D-44-d区	26	V b層	1	2	北海道式石冠	9.6	14.7	7.3	1,240	安山岩	灰白色	完形	すり痕 剥落痕・破損	敲打痕 複数箇所	接合
			E-40-a区	21	V b層	1	1											
69		H-41-b区	9	VI層	1	2	北海道式石冠	6.8	13.7	4.5	440	安山岩	褐灰色 多孔質	完形	すり痕・破損	敲打痕	接合	
		I-39-b区	4	V a層	1	1												
IV-72	70	190	Q-34区	5	V 5層	1	1	石鏝	11.6	15.2	4.2	1,050	安山岩	灰黄色	完形	*	打ち欠き痕	
	71		F-41-c区	6	V b層	1	1	石鏝	11.6	16.3	4.9	1,200	安山岩	灰白色	完形	*	打ち欠き痕	
	72		R-45区	26	V 3層	1	1	石鏝	11.5	18.6	5.0	1,560	安山岩	灰白色	完形	*	打ち欠き痕 敲打痕?	

掲載番号			出土グリッド	遺物番号	層位	破片数		器種	計測値 (cm)			重量 (g)	石材		残存形態	使用痕	加工痕	備考
図	番号	図版				小計	合計		最大長	最大幅	最大厚		名称	色調・特徴				
IV-72	73		R-45区	27	V3層	1	1	石錘	10.7	16.9	3.9	1,090	安山岩	にぶい黄褐色風化	完形	磨滅?	打ち欠き痕 敲打痕	
	74		D-43-c区	25	Va層	1	1	石錘	6.4	10.9	2.4	240	安山岩	にぶい黄色風化	完形	*	打ち欠き痕 敲打痕	
	75	190	T-46-c区	17	Vb層	1	1	石錘	5.5	7.4	3.7	210	安山岩	灰黄色	完形	*	打ち欠き痕	
	76		O-43区	21	V2層	1	1	石錘	7.8	11.9	2.7	350	安山岩	にぶい黄色	完形	磨滅	打ち欠き痕	
	77		P-42区	19	V1層	1	1	石錘	5.7	9.6	2.2	190	安山岩	にぶい黄褐色風化	完形	すり痕・磨滅	打ち欠き痕	小型品
IV-73	78		K-35-d区	4	Vb層	1	1	たたき石	7.3	7.7	5.5	300	安山岩	にぶい黄褐色	完形	たたき痕	*	
	79		Q-48区	28	V層	1	1	たたき石	(9.2)	3.5	3.8	210	安山岩	灰色	準完形?	たたき痕	*	
	80		C-42-d区	25	VI層	1	1	たたき石	12.9	5.8	5.0	520	安山岩	灰色	完形	たたき痕	*	
	81		I-42-d区	15	Vb層	1	1	たたき石	13.7	5.9	2.9	320	安山岩	灰黄色	完形	たたき痕	*	
	82		O-40区	18	V3層	1	1	たたき石	8.1	5.6	4.6	260	安山岩	にぶい褐色風化	完形	たたき痕	*	
	83		R-45区	78	V4層	1	1	たたき石	12.2	5.1	3.0	240	安山岩	褐灰色	完形	たたき痕	*	
	85	192-1	B-42-d区	11	Vb層	1	1	砥石	13.2	13.1	4.0	890	砂岩	褐色粗粒	準完形?	すり痕・破損?	*	
	86	192-2	R-47-a区	18	Va層	1	1	砥石	19.0	10.5	4.7	1,240	凝灰岩	褐色細粒軟質	準完形	すり痕・破損	*	
84	191	B-42-b区	6	V層	1	1	凹み石	11.5	8.5	2.7	320	安山岩	灰黄色風化	完形	たたき痕 (明瞭な凹み)	*		
IV-74	1	192-3	S-46-a区	1	Vb層	1	1	台石・石皿	(24.2)	(19.0)	10.6	6,500	安山岩	灰黄色	片	すり痕・平坦化面 破損・剥落痕?	*	
	2	192-4	F-45-a区	12	風倒木痕	1	1	台石・石皿	20.8	(12.5)	7.5	2,500	安山岩	黄灰色	半形	平坦化面 破損	*	
	3	193-1	Q-42区	97	V4層	1	1	台石・石皿	(23.9)	(15.0)	11.1	4,500	安山岩	浅黄色	片	平坦化面	敲打痕?	
	4	193-2	Q-43区	113	V3層	1	1	台石・石皿	21.5	17.0	5.5	2,500	安山岩	黄灰色	完形	平坦化面	*	
	5	193-3	C-44-c区	30	Vb層	1	1	台石・石皿	35.2	(29.8)	14.9	22,000	安山岩	褐灰色	半形	すり痕・平坦化面・ 破損	*	
IV-75	6	193-4	F-40-d区	7	Vb層	1	1	台石・石皿	44.0	28.5	10.8	15,000	角閃石 安山岩	灰黄色	完形	すり痕・剥落痕	打ち欠き痕?	
	7	194-1	H-45-a区	8	Vb層	1	1	台石・石皿	35.7	37.5	14.3	26,000	安山岩	浅黄色	完形	平坦化面・剥落痕	*	

表34 包含層出土石製品観察表

掲載			出土グリッド	層位	遺物番号	器種	計測値 (cm)			重量 (g)	石材		残存形態	使用痕	加工痕	備考
図	番号	図版					最大長	最大幅	最大厚		名称	色調・特徴				
IV-76	1		S-43区	Va層	6	石製品	(3.9)	4.9	1.3	10.7	凝灰岩	灰白色	完形	破損	打ち欠き痕	三脚石器
	2		S-41区	V2層	35	石製品	4.5	4.7	1.7	10.7	凝灰岩	灰白色	完形	磨滅	打ち欠き痕	三脚石器
	3		P-43区	V1層	16	石製品	4.9	6.2	1.5	19.7	凝灰岩	灰白色	完形	*	打ち欠き痕	三脚石器
	4		S-42区	V3層	27	石製品	5.4	5.7	1.3	12.7	凝灰岩	灰白色	完形	磨滅	打ち欠き痕	三脚石器
	5		O-43区	V1層	17	石製品	4.5	6.5	1.4	12.8	凝灰岩	灰白色	完形	破損・磨滅	打ち欠き痕	三脚石器
	6		Q-42区	Va層	12	石製品	4.3	5.2	1.4	9.6	凝灰岩	灰白色	完形	*	打ち欠き痕	三脚石器
	7		Q-42区	V2層	64	石製品	3.5	4.3	1.2	6.5	凝灰岩	灰白色	完形	磨滅	打ち欠き痕	三脚石器
	8		S-42区	Va層	7	石製品	2.3	3.0	0.6	1.8	凝灰岩	灰白色	完形	*	打ち欠き痕	三脚石器 (小型品)
	9		P-40区	V2層	16	石製品	5.7	2.9	1.6	12.5	凝灰岩	灰白色	完形	磨滅	打ち欠き痕	
	10		M-44-b区	Va層	2	石製品	5.6	5.0	1.5	26.9	凝灰岩	灰白色	完形	*	打ち欠き痕	
	11		S-38区	V1層	5	石製品	4.9	6.0	1.3	36.8	安山岩+ 石英岩脈	灰白色	完形	*	打ち欠き痕	
IV-77	12	194-2	P-39区	Va層	9	石製品	(1.9)	(0.9)	(0.7)	0.8	泥岩	緑灰色硬質	半形?	破損	研磨痕	玉 製作灰製品?
	13		N-44-b区	Vb層	1	石製品	5.8	4.4	2.8	30.3	浮岩	にぶい黄褐色 多孔質	完形	*	(穿孔) 研磨痕?	穿孔された た礎
	14		T-46-a区	Vb層	4	石製品	10.6	6.6	4.0	140	浮岩	褐灰色 多孔質	完形	*	(穿孔) 研磨痕?	穿孔された た礎
	15		T-38区	V1層	12	石製品	5.8	4.1	2.8	26.4	浮岩	灰黄褐色 多孔質	完形	*	(穿孔)	穿孔された た礎
	16		P-45-a区	III層	5	石製品	6.8	4.5	4.1	170	安山岩	灰白色	完形	*	敲打痕	北海道式 石冠
	17		N-45-b区	Vb層	8	石製品	6.2	8.8	3.4	240	安山岩	にぶい褐色 多孔質	完形	すり痕	敲打痕 打ち欠き痕?	北海道式石冠 (小型品)
	18	194-3	R-41区	V3層	67	石製品	11.1	11.7	5.7	670	安山岩	灰黄色風化	完形?	破損?	敲打痕 研磨痕	明瞭な凹み を有する礎
19		P-41区	V3層	27	石製品	15.6	14.0	5.3	1,470	安山岩	灰黄色	完形?	破損?	敲打痕? 研磨痕	明瞭な凹み を有する礎	

# V 自然科学的分析

## 1 森町三次郎川右岸遺跡の動物遺体

金子浩昌

検出された動物遺体（表V-1）はすべて被熱骨で、強い加熱のために破損し、細片化した状態の骨が多かった。しかし、魚骨などは部分的に原形を止める骨格もあり、種の特徴を観察できることがあった。これらを同定、集計し、重量による比較から動物種間の埋存量の差異をみることにした（図V-2）。その結果、縄文時代中期中葉期、縄文時代後期前葉期、続縄文時代期のそれぞれの時期に特徴のあることが認識できた。

### I 検出された動物遺体の種名表

脊椎動物門 Phylum VERTEBRATA

軟骨魚綱 Class Chondrichthyes

メジロザメ目 Order Carcharhiniformes

メジロザメ科 Family Carcharhinidae

科目不明 fam. Et gen. indet.

硬骨魚綱 Class Osteichthyes

ニシン目 Order Clupeiformes

ニシン科 Family Clupeidae

ニシン *Clupea pallasii*

サケ目 Order Salmoniformes

サケ科 Family Salmonidae

サケ類 *Oncorhynchus* sp.

カサゴ目 Order Scorpaeniformes

アイナメ科 Family Hexagrammidae

属種不明 gen. et sp. indet.

カレイ目 Order Pleuronectiformes

カレイ科 Family Pleuronectidae

属種不明 gen. et sp. Indet.

鳥 綱 Class Aes

種不明 sp. Indet.

哺乳綱 Class Mammalia

ウシ目 Order Artiodactyla

イノシシ科 Family Suidae

イノシシ *Sus scrofa*

シカ科 Family Cervidae

ニホンジカ *Cervus nippon*

## II 時期別にみた動物遺体の検出状況

### 縄文中期中葉期（表V-2-1）

資料の総数は最も少なかった。

魚骨；サケ類椎骨片、棘片

鳥もしくは中形獣類片；わずかにあった。

大形獣類；

シカ、歯片と四肢骨片総重量195（g）

魚獣類をわずかに埋存していた。

### 縄文時代後期前葉（表V-2-2）

資料の総数はもっとも多かった。

魚骨；ネズミザメ類、ニシン、アイナメ類、カレイ類など種類も多かった。

鳥もしくは獣類；大形の水鳥類を含む。四肢骨片が多かった。

大形獣類；

イノシシ、右側下顎骨が1点

シカ、四肢骨破片。重量比によると鳥骨などよりも少なかった。

獣骨よりも魚鳥骨の多いことが特徴のようである。

### 続縄文時代期（表V-2-3）

資料の総数は縄文後期前葉期と比べ、やや少ない程度であった。

魚骨；標本は縄文中期所属と比べてやや多い程度で、少なかった。鰭棘などの破片のみで魚種を認定する標本は検出できなかった。

鳥もしくは小～中形獣類；相当すると考えられる標本はわずかだった。

大形獣類；

イノシシ、橈側手根骨のほぼ完存する標本1点があった。これについては下顎骨を検出した後期層に由来する疑念もある。

シカ、シカの四肢骨片が多く確認された。近・遠位の骨端の確認された標本もある。

シカ主体の獣骨が主な動物遺体であったことが推測される。

## III 森町三次郎川右岸遺跡の動物遺体

上述したように縄文時代中期中葉期、縄文時代後期前葉期、続縄文時代期の三時期の焼骨を主とする標本があったが、それぞれの内容は同じでなく、時期的な特徴のうかがえたのは注目される。すなわち縄文中期は標本全体が少なかったが、サケ類があり、シカの遺骸を主としていた。後期ではサメ類、ニシン、アイナメ、カレイ類などの海産魚の遺骸があったことは特徴的であり、獣骨にはイノシシとシカがあった。こうした動物遺体差がそれぞれの時期の生業の差違を示すことは考え得ることである。しかし、いっぽうで骨を焼くよう行為が変わりなく続いていることもよみとれ、改めてその目的とするところの意義を考えさせるのである。



## —特記事項— 三次郎右岸遺跡（北海道茅部郡森町）P-81覆土中位出土のイノシシ

調査したのは破損した2片のイノシシの臼歯片であるが、1点については別にブロックがあるということである。

### 1, 右側下顎第2後臼歯

完存標本ではなく臼歯の舌側の第1、2咬頭の部分であって、現状はかなり破損の著しい状態である。別に同じ臼歯の破片とみられる小片が8点あり、もとは完存した臼歯があったものと思われる。

臼歯は大きく、咬耗は進行していない状態である。おそらくエナメル質が咬面で、平滑面をつくる程度で、穿孔するような段階には至っていないと思われる。とすれば、第2大臼歯が萌出した直後位で、生後1歳前後と推定される。

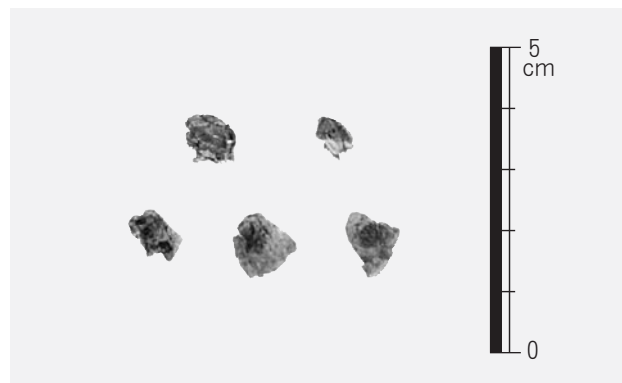
2, 本標本についてはなお別に未補修ブロックがあるので、それとの接合の結果による検討があるが、現状では第3大臼歯の未萌出歯の一部であろう。この歯は歯槽内に完全に埋没した状態であったと思われる。

上記2標本は同一個体と考えられており、1歳前後の個体である。第2大臼歯のサイズは大形で、縄文イノシシに一致するであろう。この段階であると第4乳臼歯が残植していると思われる。

北海道縄文遺跡からのイノシシ遺骸の検出は道南～道央地域の貝塚から知られ（道東にも及ぶ）、最近では内陸部の遺跡からも知られてきた。縄文後、晩期遺跡での検出例が多いことから、本遺跡のイノシシの所属年代が目される（縄文時代後期前葉）。筆者の調査した遺跡で苫小牧市柏原5遺跡（後期）ではM2の未萌出段階からエナメル質咬耗段階という1歳前後の個体と、M3萌出開始期の1.5歳個体があった。乙部町三ツ谷貝塚（晩期）の例ではそれよりも若い第4乳臼歯と第1大臼歯の萌出段階0.5歳の顎骨が目立っていた。全体的に若い個体の目立つのが特徴である。こうしたことからイノシシの飼育を考える見方もあり、それを否定することはできないが、イノシシ遺骸の検出が後晩期の一時期のみのことであることも事実のようである。また本州でもこの頃イノシシ飼育を支持する考古学的な証拠はない。ただイノシシを対象とした祭祀的な行為はいろいろなかたちであった。それらが北海道にまで拡がったという見方はできると思う。

注) 図版V-1は同定前に撮影したものである。出土時点で保存状態が極めて悪く、撮影後にさらに碎片化した。

図版V-1



P-81出土イノシシ臼歯片

表V-1-1 森町三次郎川右岸 動物遺存体同定結果(1)

同定 金子 浩昌

試料番号	サンプル番号	遺構名	試料名称	層位	時期	焼骨動物遺存体総重量(g)	分類群	部位(「/」は「又は…」の意味)	部分(破片は具体的な部分がわからないもの)	数量	重量(g)	備考	
SU1	1・2		C-44-b区	焼土	統縄文時代	37.050	魚類	鱈棘/肋骨片	破片	3	0.012		
							シカ	中手骨	破片	1	0.187		
								中足骨	近位端破片	1	0.692		
									破片	1	0.518		
								末節骨	II/V	1	0.196		
								大腿骨	骨体粗面部	1	0.329		
シカを主とする獣	シカを主体とする獣骨の破片	破片	1130	35.066	微細片多し								
獣	不明	破片	7	0.05									
蛙	不明	破片	3	0.001									
SU2	3~6	F-1	D-44-a区	焼土	統縄文時代	231.024	魚類	棘突起片	破片	2	0.509		
							シカ	不明	破片	2	0.004		
								鳥類/中型獣	不明	破片	25	0.299	
								基節骨	遠位端	1	0.267		
								頭骨の一部	破片	1	0.775		
								中手骨	破片	3	1.128		
								中足骨	破片	1	0.459		
								中手/中足骨	破片	3	1.393		
								角	破片	2	0.811		
								肋骨	破片	7	0.353		
								種子骨		1	0.226		
										4	1.025	同形のもの	
								臼歯	歯根破片	5	0.102	同一のものの破片	
								シカを主とする獣	シカを主体とする獣骨の破片	破片	643	223.672	他に破片多数含む
SU3	7・8		特定なし	焼土	統縄文時代	111.879	魚類	鱈棘/肋骨片	破片	1	0.001		
							鳥類/中型獣	不明	破片	39	0.364		
							シカ	イノシシ	手根骨	桡骨側	1	0.649	
								中手骨	破片	2	0.53		
								手根骨	左尺骨側	1	1.261		
								中足骨	破片	1	0.536		
								肋骨	破片	17	0.147		
								椎体	破片	25	4.118		
								臼歯	破片	1	0.006		
								四肢骨	海綿体部分破片	53	0.619		
								シカを主とする獣	シカを主体とする獣骨の破片	破片	1520	103.648	他に破片多数含む
								魚類	鱈棘/肋骨片	破片	16	0.026	
								シカを主とする獣	シカを主体とする獣骨の破片	破片	3	0.03	
SU4	9	F-2	B-44-b区 他	焼土	統縄文時代	0.056	魚類	鱈棘/肋骨片	破片	3	0.061		
SU5	11	F-3	A-43-a区	焼土	統縄文時代	1.297	魚類	鱈棘/肋骨片	破片	1	0.061		
SU6	12	F-4	B-43-b区 西半分	焼土	統縄文時代	1.781	シカを主とする獣	シカを主体とする獣骨の破片	破片	70	1.236		
SU7	13	F-5	B-43-a区	焼土	統縄文時代	3.873	シカ	種子骨	破片	1	0.357		
							シカを主とする獣	シカを主体とする獣骨の破片	破片	113	1.424		
SU8a	14・15	F-6	C-43-a区	焼土	統縄文時代	4.852	シカ	中節骨	破片	1	0.411		
							シカを主とする獣	シカを主体とする獣骨の破片	破片	133	3.062		
SU8b	16・32	F-6	C-43-b区	焼土	統縄文時代	14.340	シカ	岩骨	破片	1	0.031		
							シカを主とする獣	シカを主体とする獣骨の破片	破片	201	4.821		
SU9	17~22	F-7	C-43-c区	焼土	統縄文時代	64.645	シカ	後面	破片	1	0.382		
							シカを主とする獣	シカを主体とする獣骨の破片	破片	461	13.724	他に破片多数含む	
							シカ	基節骨	近位端の凹み部分	1	0.838		
SU10	23	F-8	C-44-a区	焼土	統縄文時代	8.491	シカを主とする獣	中手/中足骨	破片	1	0.084		
							シカを主とする獣	シカを主体とする獣骨の破片	破片	392	63.723	他に破片多数含む	
SU11	24~29	F-8	C-43-d区	焼土	統縄文時代	302.812	シカ	遠位端破片	破片	1	0.589		
							シカを主とする獣	中手/中足骨	破片	4	2.693		
								種子骨	破片	3	1.183		
								末節骨	破片	1	0.429		
								関節末端破片	破片	5	0.741		
シカを主とする獣	シカを主体とする獣骨の破片	破片	852	297.177	他に破片多数含む								
SU12	30~35	F-9	C-44-b区 および北側 灰層サンプル	焼土	統縄文時代	132.049	蛙	不明	破片	4	0.011		
							魚類	不明	破片	6	0.161		
							シカ	獣	不明	破片	80	0.868	
								橈骨	遠位端右側破片	1	2.018		
								中手骨	破片	3	0.996		
								臼歯	破片	78	0.618		
								シカを主とする獣	シカを主体とする獣骨の破片	破片	772	127.377	
シカを主とする獣	シカを主体とする獣骨の破片	破片	293	12.591									
SU13	36・37		特定なし	焼土	統縄文時代	13.767	シカ	角	破片	2	1.067		
SU14	74	F-10	焼土 T-49-b区	焼土	統縄文時代後期前半	0.080	鳥類/中型獣	不明	破片	10	0.109		
							鳥類/小型獣	不明	破片	1	0.0001		
SU15	75・85・86・88	F-11	特定なし	焼土	縄文時代中期の可能性あり	1.615	鳥類/中型獣	不明	破片	1	0.112		
SU16	85・86	F-12	焼土の北半分	焼土	統縄文時代	0.160	シカを主とする獣	シカを主体とする獣骨の破片	破片	108	1.503		
SU17	94	F-13	焼土の南半分	焼土	統縄文時代	0.055	シカを主とする獣	シカを主体とする獣骨の破片	破片	50	0.16		
SU19	100	F-15	特定なし	焼土	統縄文時代	0.198	魚類	鱈棘/肋骨片	破片	2	0.055		
SU22	48・49	H-1	H-1 HF-1	住居埋没後の焼土	縄文時代中期中葉	193.406	中型獣	不明	破片	3	0.075		
							魚類	不明	破片	1	0.042		
							蛙	椎体	破片	4	0.021		
							シカ	鳥類	不明	破片	8	0.046	
								歯	破片	15	0.273		
								中足骨	破片	3	1.011		
								中手骨	破片	2	0.425		
								種子骨	破片	3	0.348		
								基節骨	破片	1	0.499		
								尺骨/橈骨	破片	1	0.813		
								四肢骨	破片	147	32.776		
								シカを主とする獣	シカを主体とする獣骨の破片	破片	1601	157.077	他に破片多数含む

表V-1-2 森町三次郎川右岸 動物遺存体同定結果(2) 同定 金子 浩昌

試料番号	サンプル番号	遺構名	試料名称	層位	時期	焼骨動物遺存体総重量(g)	分類群	部位(「/」は「又は…」の意味)	部分(破片は具体的な部分からわからないもの)	数量	重量(g)	備考		
S U 23	98	H-1	埋藏中の土	炉として機能か	縄文時代中期中葉	0.004	魚類	鱗棘/肋骨片	破片	2	0.001			
S U 32	97	H-5	埋藏中の土	炉として機能か	縄文時代中期中葉	1.416	鳥類/中型獣	不明	破片	4	0.003			
S U 33	102	H-9	埋藏中の土	炉として機能か	縄文時代中期中葉	0.002	シカを主とする獣	シカを主体とする獣骨の破片	破片	94	1.416			
S U 36	75~81	S-1	炉内の覆土 東側	炉内の覆土	縄文時代後期前葉	0.035	魚類	鱗棘/肋骨片	破片	1	0.0001			
S U 40	99	フレイク群 M-37-d区	III-Va層にて検出	縄文時代後期前葉	0.002	魚類	鱗棘/肋骨片	破片	3	0.002				
S U 43	103	フレイク群 L-38-c区	III-Va層にて検出	縄文時代前~後期 縄文時代	0.006	魚類	鱗棘/肋骨片	破片	5	0.005				
S U 47	109~112	H-17	H-17 HF-1	炉内の覆土	縄文時代後期前葉	2.085	ニシン	上顎骨 左側	破片	1	0.003			
								主上顎骨	破片	1	0.004			
								椎骨	破片	27	0.038	判別できるもので椎骨長1.7mm		
								耳骨	破片	5	0.04			
								アイナメ	顎骨と歯	破片	2	0.014	判別できるもので歯の径0.8mm	
								鯛科	歯	破片	7	0.015	歯の径が0.8mm前後のもの	
								サメ	椎体	破片	3	0.02	歯の径が2.0mm前後のもの	
								魚類	鱗棘/肋骨片	破片	40	0.085		
								不明	不明	破片	88	0.231		
								鳥類	不明	破片	2	1.146	破片多量	
S U 48	113~115	H-18	H-18 HF-1	炉内の覆土	縄文時代後期前葉	3.183	カレイ	椎体	破片	9	0.102			
								不明	破片	30	0.387			
								魚類	鱗棘/肋骨片	破片	3	0.005		
								不明	破片	2	0.004			
S U 51	124~135	P-73	P-73	覆土	縄文時代後期前葉	2.449	ニシン	椎骨	破片	278	1.375			
								不明	破片	44	1.799			
								鳥類	不明	破片	20	0.178		
								シカを主とする獣	シカを主体とする獣骨の破片	破片	24	0.146		
								不明	破片	2	0.039	椎体長2.8mm		
								アイナメ	椎体	破片	1	0.033		
								歯骨	右側破片	破片	1	0.001		
								腹椎	破片	2	0.01	椎体長1.0mm		
								第二腹椎	破片	1	0.003	椎体長1.3mm		
								椎骨	破片	184	0.204	椎体長(mm×個数): 0.9×3・1.0×2・1.2×1・1.3×22・1.4×5・1.5×6・1.6×5・1.7×1・1.8×3・1.9×8・2.0×6・2.1×3・2.2×5・2.3×2・2.4×3・2.5×5・2.7×2・2.8×1		
耳骨	破片	7	0.049											
S U 52	151	P-80	P-80	焼土	縄文時代後期前葉	0.021	ニシン	右側破片	破片	3	0.004			
								左側破片	破片	4	0.009			
								不明	破片	3	0.01			
								鱗棘/肋骨片	破片	178	0.308			
S U 53	137~150	P-81	P-81	覆土中位	縄文時代後期前葉	12.473	ニシン	椎骨	破片	10	0.014			
								不明	破片	429	1.187	他に破片多数含む		
								魚類	不明	破片	13	0.021		
								耳骨	破片	15	0.096			
								上顎骨	破片	1	0.001			
								尾部棒状骨	破片	1	0.005			
								椎骨	破片	62	0.087	椎体長(mm×個数): 0.7×1・1.0×2・1.1×8・1.2×1・1.3×1・4×6・1.5×1・1.7×1・1.8×4・1.9×3・2.0×4・2.1×2・2.4×3・2.5×1・2.6×1・2.5×5・2.7×2・2.8×1		
								カレイ	顎骨片	破片	1	0.001		
								アイナメ	前上顎骨	破片	1	0.023		
								椎骨	破片	3	0.043	椎体長(mm×個数): 2.4×2・2.6×1		
魚類	鱗棘/肋骨片	破片	229	0.578										
S U 54	116・117	F-16	F-16	焼土	縄文時代	0.032	魚類	不明	破片	911	1.071			
								不明	破片	12	0.072			
								シカ	不明	破片	5	0.314		
								イノシシ	未明出臼歯M3	破片	31	0.46		
								下顎と推定	永久歯の臼歯M2	破片	1389	6.847		
								臼歯片(永久歯M2を主とする)	溶解破片	破片	1283	2.757		
								不明	破片	13	0.023			
								中手骨	近位端片 右側	破片	1	0.002		
S U 55	120~123	S-4	S-4	炉内	縄文時代後期前葉	3.253	ネズミ	中手/中足骨	破片	1	0.003			
								シカ	不明	破片	1	0.004		
								サメ	椎体	破片	4	0.003		
								ネズミザメ	椎体	破片	1	0.018		
								ニシン	椎体	破片	5	0.001		
								耳骨	破片	3	0.014			
								カレイ	椎体	破片	6	0.011		
								鮭	椎体	破片	1	0.004		
								魚類	尾部棒状骨	破片	1	0.017		
								不明	破片	破片多量	0.4511			
S U 56	118・119	S-5	S-5	炉内	縄文時代後期前葉	2.449	魚類	鱗棘/肋骨片	破片	30	0.047			
								不明	破片	13	0.131			
								鳥類	中足骨	遠位端片 右側	破片	25	1.126	
								不明	破片	1	0.043			
								基節骨	遠位端片	破片	1	0.047		
								不明	破片	183	0.925	他に破片多数含む		
S U 56	118・119	S-5	S-5	炉内	縄文時代後期前葉	2.449	魚類	不明	破片	10	0.415			
								不明	破片	20	0.021			
								鱗棘/肋骨片	破片	20	0.021			
								不明	破片	破片多量	0.376			
鳥類	肋骨	破片	3	0.013										
獣	不明	破片	2	0.023										

表V-2-1 三次郎川右岸遺跡時期別動物遺存体種類別出土状況 縄文時代中期中葉  
縄文時代中期中葉関連サンプル一覧

試料番号	サンプル番号	遺構名	試料名称	層位	焼骨動物遺存体 総重量 (g)
S U 22	48・49	H-1	H-1 H F-1	住居埋没後の焼土	193.406
S U 23	98	H-1	埋藏中の土	炉として機能か	0.004
S U 32	97	H-5	埋藏中の土	炉として機能か	1.416
S U 33	102	H-9	埋藏中の土	炉として機能か	0.0021
		合計			194.8281

縄文時代中期中葉関連動物遺存体同定結果

分類群	数量	重量 (g)	重量比	合計重量194.8281 (g)
シカ	172	36.145	0.185	
シカを主とする獣	1698	158.495	0.8135	
中型獣	3	0.075	0.000384	
鳥類/中型獣	4	0.003	0.00001539	
鳥類	8	0.046	0.0002361	
鮭	4	0.021	0.0001077	
魚類	4	0.0431	0.0002212	

表V-2-2 三次郎川右岸遺跡時期別 動物遺存体種類別出土状況 縄文時代後期前葉  
縄文時代後期前葉関連サンプル一覧

試料番号	サンプル番号	遺構名	試料名称	層位	焼骨動物遺存体 総重量 (g)
S U 47	109~112	H-17	H-17 H F-1	炉内の覆土	2.085
S U 48	113~115	H-18	H-18 H F-1	炉内の覆土	3.183
S U 51	124~135	P-73	P-73	覆土	2.449
S U 52	151	P-80	P-80	焼土	0.021
S U 53	137~150	P-81	P-81	覆土中位	12.473
S U 36	75~81	S-1	炉内の覆土 東側	炉内の覆土	0.035
S U 55	120~123	S-4	S-4 炉内	炉内の覆土	3.2531
S U 56	118・119	S-5	S-4 炉内	炉内の覆土	2.449
		合計			25.9481

縄文時代後期前葉動物遺存体同定結果

分類群	数量	重量 (g)	重量比	合計重量25.9481 (g)
イノシシ	2708	10.378	0.39995	
シカ	12	0.072	0.00277	
シカを主とする獣	58	1.832	0.0706	
獣	42	0.825	0.03179	
大型の水鳥	13	0.131	0.00504	
鳥類	520	3.809	0.14679	
ニシン	468	0.972	0.03745	
アイナメ	33	0.298	0.01148	
カレイ	10	0.017	0.00065515	
ネズミザメ	1	0.018	0.00069	
サメ	44	0.088	0.003391	
鮭	1	0.004	0.000154	
鯛科	10	0.035	0.00134	
魚類	1901 (+ 砕片多量)	5.4531	0.21015	

表V-2-3 三次郎川右岸遺跡時期別動物遺存体種類別出土状況 続縄文時代  
続縄文時代関連サンプル一覧

試料番号	サンプル番号	遺構名	試料名称	層位	焼骨動物遺存体 総重量 (g)
S U 1	1・2	F-1	C-44-b区	焼土	37.050
S U 2	3~6	F-1	D-44-a区	焼土	231.024
S U 3	7・8	F-1	特定なし	焼土	111.879
S U 4	9	F-2	B-44-b区 他	焼土	0.056
S U 5	11	F-3	A-43-a区	焼土	1.297
S U 6	12	F-4	B-43-b区 西半分	焼土	1.781
S U 7	13	F-5	B-43-a区	焼土	3.873
S U 8 a	14・15	F-6	C-43-a区	焼土	4.852
S U 8 b	16・52	F-6	C-43-b区	焼土	14.340
S U 9	17~22	F-7	C-43-c区	焼土	64.645
S U 10	23	F-8	C-44-a区	焼土	8.491
S U 11	24~29	F-8	C-43-d区	焼土	302.812
S U 12	30~35	F-9	C-44-b区および北側 灰層サンプル	焼土	132.049
S U 13	36・37	F-9	特定なし	焼土	13.767
S U 16	95・96	F-12	焼土の北半分	焼土	0.160
S U 17	94	F-13	焼土の南半分	焼土	0.055
S U 19	100	F-15	特定なし	焼土	0.198
		合計			928.329

続縄文時代関連動物遺存体同定結果

分類群	数量	重量 (g)	重量比	合計重量928.329 (g)
イノシシ	1	0.649	0.0007	
シカ	234	28.008	0.03	
シカを主とする獣	6933	897.141	0.9664	関節末端破片あり
獣	87	0.918	0.000988	
鳥類/中型獣	74	0.772	0.00083	
鳥類/小型獣	1	0.0001	0.0000001	
鮭	7	0.012	0.0000129	
魚類	33	0.829	0.000893	



## 2 森町三次郎川右岸遺跡から出土した炭化植物

\* 椿 坂 恭 代

### (1) 遺跡と調査の概要

遺跡の名称：三次郎川右岸遺跡（B-15-37）

遺跡の所在：北海道茅部茅部郡森町字石倉町516ほか

調査の機関：財団法人北海道埋蔵文化財センター

調査期間：平成15年7月14日～10月28日 平成16年5月6日～7月28日

調査面積：4,450㎡

遺跡の立地：遺跡は三次郎川左岸遺跡の対岸に位置し、調査範囲は標高38～43mほどの段丘斜面と43～45mほどの平坦面で構成される。

遺構の年代：縄文時代中期から後期を主体とする集落跡。続縄文時代後半の焼土跡他。

その他の詳細についてはI～IV章を参照していただきたい。

### (2) 扱った資料

分析資料として扱った炭化植物は、続縄文時代後半の焼土（Va層）、縄文時代後期前葉の竪穴住居跡炉内の焼土、配石遺構、土坑、縄文時代中期前葉～後期前葉の遺構から土壌を採取し（表V-6）、フローテーション法で処理後、種子の第一次選別を経て送付されてきた。これらの資料について実体顕微鏡で観察並びに撮影を行った。検出された植物種子の出土表は表V-3に示しておいた。

### (3) 検出された種子

**アカザ属** *Chenopodium* L. (図版V-2-1：H-1の埋没直後の焼土から出土)

縄文時代後期前葉のフレイク集中（M-38-a, b区）からと縄文時代中期中葉の住居埋没直後の焼土（H-1 HF-1）からすべて酸化した状態で5粒検出された。種子は扁平球形。側面には嚙状に突出したヘソがある（写真資料の左上）。北海道ではアカザ *Chenopodium album* var. *centrorubrum* Makino とシロザ *Chenopodium album* L. が分布しているが種子の形態からは種までの分類は困難である。計測値は長さ1.10mm、幅1.20mm、厚さ0.55mm。

**カヤツリグサ科** CYPERACEAE (図版V-2-2：L-38-b区から出土)

縄文時代後期前葉（Ⅲ-Va層）のフレイク集中（L-38-b区）から酸化した状態で1粒検出された。種子は狭楕円状三稜形、カヤツリグサ科の種子は種類が多いうえ、類似する形態が多いため詳細な分類は困難である。計測値は長さ1.65mm、幅0.80mm。

**ウコギ科** ARALIACEAE (図版V-1-3a：S-1の配石の焼土から出土)

縄文時代後期前葉の配石遺構の焼土（S-1）から1粒出土。種子の腹面は卵形で平。側面から見ると半広楕円形。ハリギリ *Kalopanax pictus* Nakai の形態を示す。計測値は長さ2.10mm、幅1.60mm、厚さ1.35mm。

**マタタビ属** *Actinidia* Lindl. (図版V-2-4：H-2床面直上から出土)

続縄文時代後半の焼土（F-1, 9）、縄文時代後期前葉（Ⅲ～Va層）のフレイク集中（M-38-b）と土坑（P-73）、縄文時代中期中葉の住居埋没直後の焼土（H-1 HF-1）、縄文時代中期中葉以前の炭化物層（H-20）から合計7粒検出された。酸化した状態の種子と被熱された種子が混在

する。種子は長楕円形。種皮には凹点による網目模様がある。この仲間にはマタタビ *Actinidia polygama* Planch. et Maxim. とサルナシ *Actinidia arguta* Planch. があるが、両者の種子は形態と表面組織がきわめて良く似ている。しかし粒形の特徴からはサルナシ *Actinidia arguta* Planch. であろう。計測値は長さ2.60mm、幅1.10mm、厚さ0.90mm。

**ニワトコ属** *Sambucus* L. (図版V-2-5 a, b : H-1 の住居埋没直後の焼土から出土)

縄文時代後期前葉の竪穴住居跡炉内の焼土 (H-17, 18)、配石遺構炉内の焼土 (S-4, 5)、土坑の覆土 (P-73, 81) からと縄文中期中葉の住居埋没直後の焼土 (H-1 HF-1)、土坑の焼土 (P-71)、縄文時代中期前葉～後期前葉の焼土 (F-16) などから合わせて49粒検出された。種子は狭楕円形。背面は円みがあり、腹面は鈍稜をなす。種皮は皺状に隆起した模様があり粗面である。これらの特徴からニワトコ *Sambucus racemosa* L. と判断される。ただし、日本では本州北部から北海道の林中にエゾニワトコ *S. buergeriana* var. *miquelii* (Nakai) Hara が分布するという。計測値は長さ2.20mm、幅1.10mm、厚さ0.50mm。

**タラノキ属** *Aralia* L. (図版V-2-6 : L-38-b区から出土)

続縄文時代後半の焼土 (F-6) からと縄文時代前期から続縄文時代までの可能性がある (Ⅲ～Va層) フレイク集中 (M-38-b区, M-38-a区)、縄文時代前期～後期 (Vb層) のフレイク集中 (K-40-b区) などから合わせて4粒検出された。酸化した状態の種子も混在する。種子は半円形。種子の上方には二本の横溝があり、種皮は凹凸で粗面である。粒形と大きさからタラノキ *Aralia elata* (Miq.) Seemann と判断される。計測値は長さ2.40mm、幅1.65mm、厚さ0.60mm。

**ウルシ属** *Rhus* L. (図版V-2-7 : S-1 配石中の焼土から出土)

続縄文時代後半の焼土 (F-6) からと縄文時代後期前葉の配石遺構の焼土 (S-1)、竪穴住居跡の焼土 (H-17)、土坑の覆土 (P-81)、縄文時代中期前葉～後期前葉の焼土 (F-16)、縄文時代前期～後期 (Ⅲ～Va層) のフレイク集中 (H-45-b区) などから合計10粒検出された。種子は歪んだ扁円形でやや扁平、北海道ではこれらと類似した形態を持つ種子としてヤマウルシ *Rhus trichocarpa* Miq. ツタウルシ *Rhus ambigua* Lavalley ex Dippel、ヌルデ *Rhus javanica* L. がある。形態の特徴からヤマウルシ *Rhus trichocarpa* Miq. と判断される。計測値は長さ2.30mm、幅2.00mm、厚さ1.70mm。

**ミズキ属** *Cornus* L. (図版V-2-8 : P-73の 覆土から出土)

縄文時代後期前葉の配石遺構炉内の焼土 (S-5)、土坑の覆土 (P-73, 81)、縄文時代中期と考えられる焼土 (F-11) から合わせて3粒と破片3片が検出された。核は偏球形で浅い縦溝があり、先に穴がある (写真では上部にあたる)。この特徴からミズキ *Cornus controversa* Hemsley と判断される。計測値は長さ3.50mm、幅4.10mm

**キハダ属** *Phellodendron* Rupr. (図版V-2-9・10 : S-4 の炉の焼土から出土)

続縄文時代後半の焼土 (F-6, 7, 8) からと縄文時代後期前葉の配石遺構の炉内焼土 (S-1, 4, 5)、Ⅲ～Va層のフレイク集中 (L-38-b区, M-38-a区)、竪穴住居跡の炉内焼土 (H-17)、土坑の覆土 (P-73, 81)、縄文時代中期と考えられる焼土 (F-11)、縄文時代中期中葉以前の竪穴住居跡の床面直上の炭化物層 (H-20)、縄文時代前期～後期 (Vb層) のフレイク集中 (H-45-b区) などから果実と種子が検出された。果実は球形で中に5の小核があり、各1個の種子を含む。種子は半横広卵形で表皮に浅い凹みによる網目模様がある。これらの特徴からキハダ *Phellodendron amurense* Rupr. と判断される。計測値は9で長さ8.30mm、幅6.50mm。10で長さ3.50mm、幅2.10mm、厚さ1.10mm。

**ブドウ科 VITIDACEAE (図版V-2-11a : F-1 から出土)**

続縄文時代後半、縄文時代後期前葉、縄文時代中期中葉の各遺構から20粒と破片が53片検出された。酸化状態の種子が少量混じる。堅果は広倒卵形、背面は円みがあり、倒へら形の凹みがある。腹面の中央に稜をなす。稜の両側に針形の凹みがある。ブドウ属種子で形態の類似した種子にヤマブドウ *Vitis coignetiae* Pulliat. サンカクズル *Vitis flexuosa* Thunb. エビヅル *Vitis ficifolia* Bunge var. *lobata* があるが、サンカクズルとエビヅルの分布域は北海道の南部に限られているという。形態の特徴からはヤマブドウ *Vitis coignetiae* Pulliatに似る。計測値は長さ3.90mm、幅3.10mm、厚さ2.40mm

**クリ属 *Castanea* Mill. (図版V-3-15a : H-1 の住居埋没直後の焼土から出土)**

続縄文時代後半の焼土 (F-7)、縄文時代中期前半の配石遺構炉内の焼土 (S-1, 4)、縄文時代中期中葉の住居埋没直後の焼土 (H-1 HF-1) から子葉の破片が合計10片検出された。堅果は三角状楕円形。一側面は円みがあり、反対面は平らな形が多い。子葉部分は両面に縦に深い溝状の模様がある。計測値は長さ9.20mm、幅10.00mm

**コナラ属 *QUERCUS* L. (図版V-3-16a : F-1 から出土)**

続縄文時代後半の焼土 (F-1) からと縄文時代中期と考えられる遺構 (F-11) から子葉の破片が2片出土。子葉は長楕円形で表面には縦条がある。このような形態を持つ種類にはミズナラ *Quercus crispula* Blume、コナラ *Quercus serrata* Thunb. カシワ *Quercus dentata* Thunb. などがあるが子葉の形態から詳細な分類をするのは困難である (吉崎・椿坂 2000)。

**クルミ属 *Juglans* L. (図版V-3-17a : H-3 の焼失家屋の炭化物から出土)**

続縄文時代後半、縄文時代後期前葉、縄文時代中期前葉～後葉の各遺構から合計78片検出された。すべて内果皮の破片である。核表面には縦に浅い溝状の模様がある。これらの特徴からオニグルミ *Juglans sieboldiana* Maxim と判断される。いずれも破片のため計測はできなかった。

**冬芽 (図版V-2-12 : H-1 埋甕中の土から出土)**

縄文時代中期中葉の竪穴住居跡 (H-1) から1片検出された。現生の比較資料がないので詳細な分類が出来なかった。長さ1.7mm

**不明種子 1 (図版V-2-13a : F-1 から出土. 14 : S-1 の配石中の焼土から出土)**

13a の資料 : 続縄文時代後半の焼土 (F-1) からと縄文時代後期前葉の配石遺構の焼土 (S-1) から合わせて2粒検出された。種子は球形で表面に網目状の組織構造は持つが、その一部分に穴が空いている。計測値は長さ1.70mm、幅1.40mm

14の資料 : 続縄文時代後半の焼土 (F-8) からと縄文時代後期前葉の配石遺構の焼土

(S-1)、土坑の覆土 (P-81)、縄文時代中期前葉～後期前葉の焼土 (F-16) から合わせて4粒検出された。種子は長楕円形で針形で種子の表面はやや粗面である。アサダ *Ostrya japonica* Sarg. 種子の形態に似るが種皮の表面組織が異なるなどから分類することが出来なかった。計測値は長さ3.70mm、幅1.60mm、厚さ1.40mm。

以上述べたもの以外に資料の保存状態がきわめて悪いいため分類出来なかったものを不明2として扱った。

**(4) 若干のコメント**

検出された植物種子は続縄文時代後半の屋外遺構の焼土からと、縄文時代中期から後期を主体とする集落跡からのもので、すべて野生植物で栽培植物は検出されなかった。草本種子では縄文時代後期前葉の遺構からアカザ属、カヤツリグサ科、縄文時代中期中葉の遺構からアカザ属で、いずれの資料

も未炭化の状態で見つめられて少量の検出であった。木本類は各時期の遺構からウコギ科、マタタビ属、ニワトコ属、タラノキ属、キハダ属、ブドウ科、ウルシ属、ミズキ属、クリ属、コナラ属、クルミ属などが少量ずつであるが検出された。

今回、抽出できた炭化植物のほとんどが果実・堅果類であり、その組成は縄文時代から近世アイヌ期の遺跡によく見られる可食性あるいは利用可能なものばかりである。

これまでフローテーション法で得られた各時期の野生植物の出土例を見ると、堅果類ではクルミ属、コナラ属、クリ属、果実類ではブドウ属、キハダ属、ニワトコ属、マタタビ属、キイチゴ属などの組成で縄文時代早期～近世アイヌ期まで連続と検出されており、当時の食料として普遍的に利用していたことを示す出土状況である。しかしながらその出土例を検討してみると決して堅果類への依存度が高い出土様相ではないように思う。

かつて山田は北海道の堅果類の出土状況などを検討して縄文時代の重要な食料源になり得たかどうかについて疑問を呈し、堅果類の消費量があまり多くなかったのでは。むしろ堅果類よりも食糧資源として塊茎類の期待度が高いと推定している（山田1993）。確かに、山田が指摘したように北海道においては堅果類の出土量は多くない。その理由についてはいくつか考えられている（吉崎・椿坂2000）。今後の検討課題としてこれまでフローテーションで得られたデータを詳細に分析して出土量の多寡の問題、遺跡の状況、サンプリング箇所などを検討していくことが必要と考える。

\* 札幌国際大学博物館/客員研究員

#### [引用文献]

山田悟郎（1993）「北海道の遺跡から出土した植物遺体について－ 堅果類を中心として－」『古代文化』第45巻 第4号 pp.185－194.

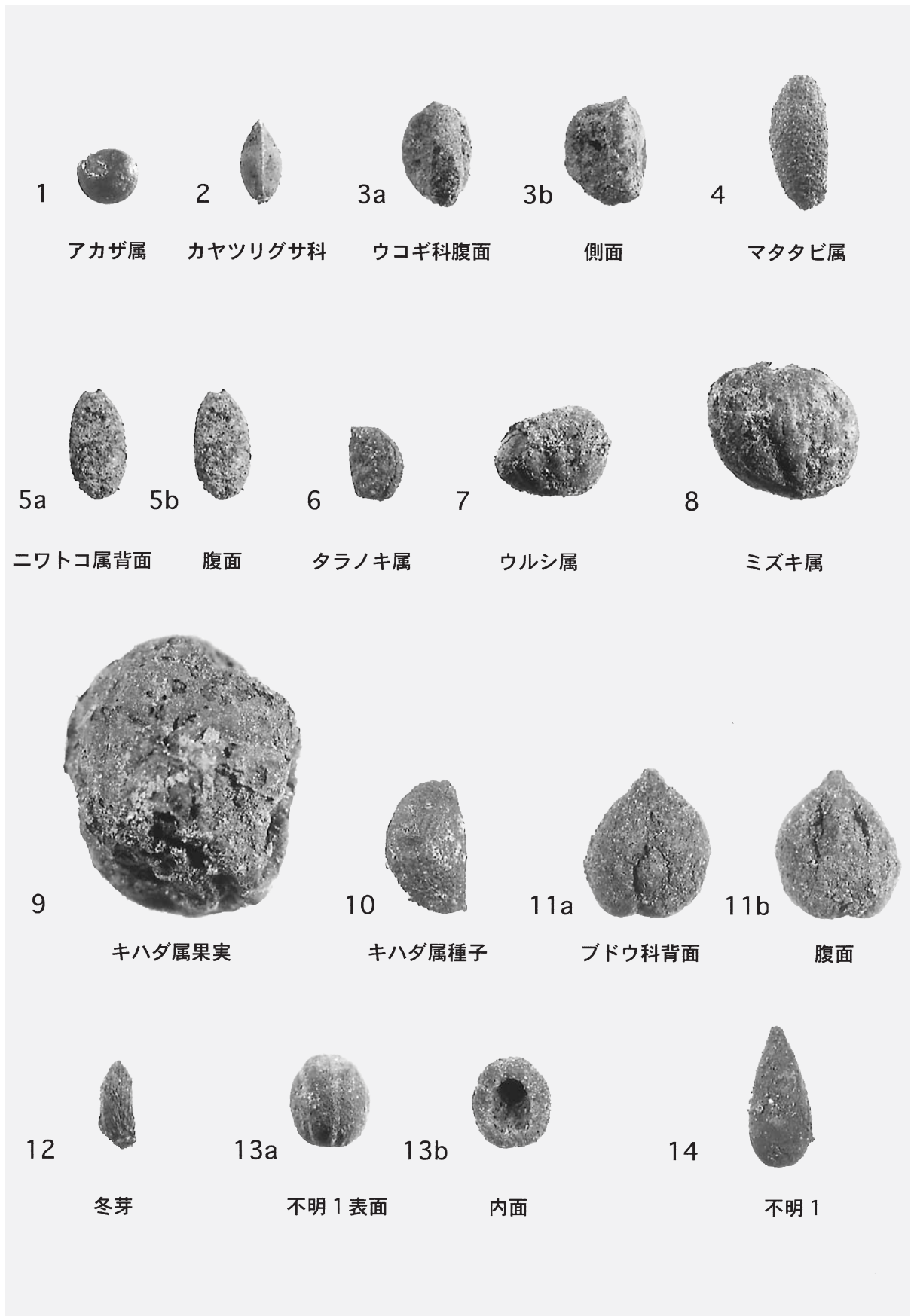
吉崎昌一・椿坂恭代（2000）「北海道キウス4遺跡Q地区から出土した縄文時代の植物種子」『千歳市キウス4遺跡（7）』pp.347－352.（財）北海道埋蔵文化財センター 北埋調報第152集



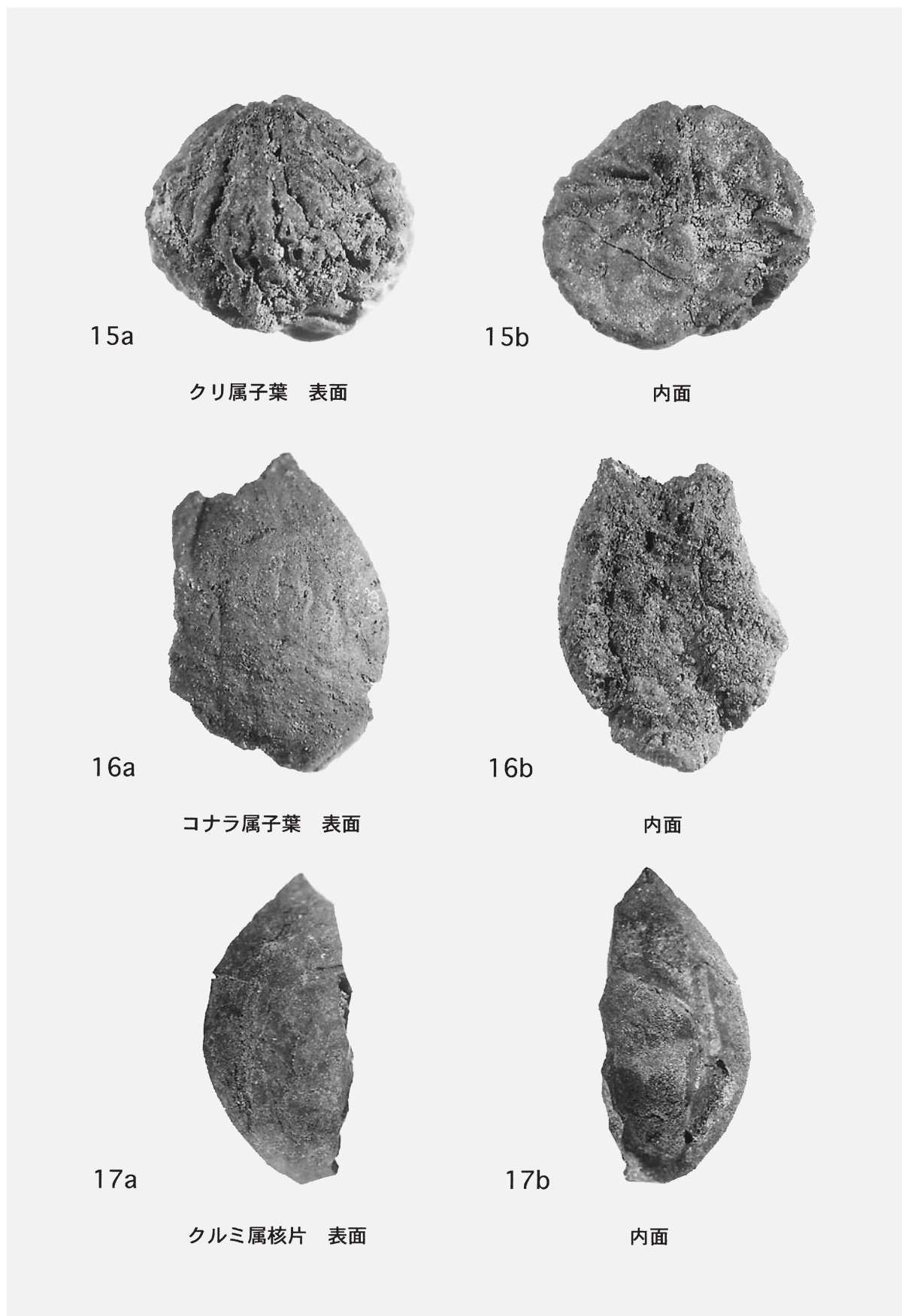
表V-3 三次郎川右岸遺跡炭化種子出土表

試料番号	遺構名	試料採取位置の名称	層位	時期	アカ	カワ	ウ	コ	マ	ニ	ク	キハダ属			ブドウ科		ウル	ミズキ属		クリ	コナ	クル	冬芽	不明	不明	
					ザ	リ	ギ	ギ	ト	キ	果実	果実	種子	種子	粒	片	粒	粒	片	片	片	片	片	片	粒	粒
S U 1	F-1	C-44-b区 (1は南側 灰層サンプル)	V a層が焼けたもの	縄文時代後半											1											
S U 2	F-1	D-44-a区	V a層が焼けたもの	縄文時代後半											1	5						6		1		
S U 3	F-1	土壌サンプル	V a層が焼けたもの	縄文時代後半				1							5	11					1	1				
S U 4	F-2	B-44-b区	V b層が焼けたもの	縄文時代後半																					1	
S U 5	F-3	A-43-a区	V a層が焼けたもの	縄文時代後半																					1	
S U 6	F-4	B-43-b区西半分	V b層が焼けたもの	縄文時代後半											2	1										
S U 7	F-5	B-43-a区	V b層が焼けたもの	縄文時代後半																					1	
S U 8	F-6	C-43-a区(14・15)- b区(16・52)	V a層が焼けたもの	縄文時代後半							1		2		1										1	
S U 9	F-7	C-43-c区	V a層が焼けたもの	縄文時代後半								1	2	7	9					2		1			2	
S U 10	F-8	C-44-a区	V a層が焼けたもの	縄文時代後半									1													
S U 11	F-8	C-43-d区	V a層が焼けたもの	縄文時代後半											2										2	
S U 12	F-9	C-44-b区 ・30は灰層	V a層が焼けたもの	縄文時代後半				2						2	4							8			2	
S U 13	F-9	土壌サンプル	V a層が焼けたもの	縄文時代後半																					6	
S U 16	F-12	(90南側)(95・96北側)	V a層が焼けたもの	縄文時代後半																					4	
S U 18	F-14	(92南側)(91北側)	V a層が焼けたもの	縄文時代後半																					2	
S U 19	F-15	土壌サンプル	V a層が焼けたもの	縄文時代後半																					1	
S U 40	フレイク集中 仮称a	M-37-d区	Ⅲ-V aにて検出	縄文時代後半											3							31			3	
S U 36	S-1	東側	配石中の焼土	縄文時代後期前葉			1										3					2		1	23	
S U 37	S-1	西側 ②層のみ	配石中の焼土	縄文時代後期前葉									2						1					1	1	
S U 41	フレイク集中	L-38-b区	Ⅲ-V aにて検出	縄文時代前～後期 縄文時代		1			1				4	2											3	
S U 42	フレイク集中 仮称b	M-38-a区	Ⅲ-V aにて検出	縄文時代前～後期 縄文時代	3			1	1				1	2												
S U 47	H-17	H-17 HF-1	炉内焼土	縄文時代後期前葉						5			11		3	1									9	
S U 48	H-18	H-18 HF-1	炉内焼土	縄文時代後期前葉											1										5	
S U 56	S-5	S-5 炉内	炉内焼土	縄文時代後期前葉				2						1				1							2	
S U 55	S-4	S-4 炉内	炉内焼土	縄文時代後期前葉				8	2	13	28	35	1					1							9	
S U 51	P-73	P-73	覆土2・3層	縄文時代後期前葉			1	12					27	58	4		1					2			10	
S U 53	P-81	P-81	覆土中位	縄文時代後期前葉				4	2	12	7	24	3	3	1	2								1	15	
S U 15	F-11	土壌サンプル	P-32上面	縄文時代中期の可能性あり				1					1				1				1	1				
S U 20	H-1 HF-1	北側	住居埋没後の焼土か	縄文時代中期中葉				7																	7	
S U 21	H-1 HF-1	南側	住居埋没後の焼土か	縄文時代中期中葉				3							1					2					2	
S U 22	H-1 HF-1	47はベルト	住居埋没後の焼土か	縄文時代中期中葉	3		1							1	2					4		4				
S U 50	P-71	P-71 焼土層	4層(焼土層)	縄文時代中期中葉				6																		
S U 49	H-20	炭化物層	床面直上	縄文時代中期以前			1							1											1	
S U 54	F-16	F-16	焼土	縄文時代中期～後期				1									1								1	
S U 35	P-32	坑底焼土サンプル	覆土中の焼土	縄文時代中期の可能性あり																					2	
S U 23	H-1	埋藏中の土	埋藏中の土	縄文時代中期中葉大安在 B式土器の内容物																			1		3	
S U 34	P-23	①(土器)中の土	土器中の土	縄文時代中期中葉榎林式 土器の内容物																					1	
S U 24	H-3	HF-1(57・西側)(58・55南側) (62・66トレンチ)(68・69北側)	縄文時代中期前半の 地焼炉	縄文時代中期前半円筒上 層式土器期																					1	
S U 27	H-3	HF-4 トレンチ	焼失家屋の焼土	縄文時代中期前半円筒上 層式土器期																					2	
S U 28	H-3	HF-5(60トレンチ) (64南側)(67北側)	焼失家屋の焼土	縄文時代中期前半円筒上 層式土器期																					2	
S U 30	H-3	C a 1	焼失家屋の炭化物	縄文時代中期前半円筒上 層式土器期																					19	
S U 14	F-10	焼土 T-49-b区	V b層が焼けたもの	縄文時代後期前葉																					1	
S U 38	フレイク集中	H-45-b区	V b層にて検出	縄文時代前期～後期										1			1								2	
S U 39	フレイク集中	K-40-b区	V b層にて検出	縄文時代前期～後期							1															9

酸化した状態



炭化種子1 (1~14)



炭化種子 2 (15~17)

### 3 森町三次郎川右岸遺跡続縄文時代の焼土 F-3 の放射性年代測定

パレオ・ラボAMS年代測定グループ  
小林紘一・丹生越子・伊藤茂・山形秀樹・  
Zaur Lomtadze・Ineza Jorjoliani

#### (1) はじめに

北海道茅部郡森町・三次郎川右岸遺跡より検出された試料（続縄文時代の焼土と考えられる焼土、F-3の炭化物、フローテーションの残渣より採取）について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。

#### (2) 試料と方法

測定試料の情報、調整データは表V-4のとおりである。試料は調整後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた<sup>14</sup>C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、<sup>14</sup>C年代、暦年代を算出した。

#### (3) 結果

表V-5に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（ $\delta^{13}\text{C}$ ）、同位体分別効果の補正を行った<sup>14</sup>C年代、<sup>14</sup>C年代を暦年代に校正した年代範囲、暦年校正に用いた年代値を、図V-1に暦年校正結果をそれぞれ示す。

<sup>14</sup>C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。<sup>14</sup>C年代（yrBP）の算出には、<sup>14</sup>Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した<sup>14</sup>C年代誤差（ $\pm 1\sigma$ ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の<sup>14</sup>C年代がその<sup>14</sup>C年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示すものである。

なお、暦年校正の詳細は以下の通りである。

#### 暦年校正

暦年校正とは、大気中の<sup>14</sup>C濃度が一定で半減期が5568年として算出された<sup>14</sup>C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の<sup>14</sup>C濃度の変動、及び半減期の違い（<sup>14</sup>Cの半減期5730 $\pm$ 40年）を校正することである。

<sup>14</sup>C年代の暦年校正にはOxCal3.10（校正曲線データ：INTCAL04）を使用した。なお、 $1\sigma$ 暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された<sup>14</sup>C年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に $2\sigma$ 暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は<sup>14</sup>C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年校正曲線を示す。それぞれの暦年代範囲のうち、その確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示してある。

#### (4) 考察

試料について、同位体分別効果の補正及び暦年校正を行った。得られた暦年代範囲のうち、その確率の最も高い年代範囲に着目すると、それぞれより確かな年代値の範囲が示された。



## [参考文献]

Bronk Ramsey C. (1995) Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy: The OxCal Program, Radiocarbon, 37 (2), pp.425-430.

Bronk Ramsey C. (2001) Development of the Radiocarbon Program OxCal, Radiocarbon, 43 (2A), pp. 355-363.

中村俊夫 (2000) 「放射性炭素年代測定法の基礎」『日本先史時代の14C年代』 pp.3-20.

Reimer PJ, MGL Baillie, E Bard, A Bayliss, JW Beck, C Bertrand, PG Blackwell, CE Buck, G Burr, KB Cutler, PE Damon, RL Edwards, RG Fairbanks, M Friedrich, TP Guilderson, KA Hughen, B Kromer, FG McCormac, S Manning, C Bronk Ramsey, RW Reimer, S Remmele, JR Southon, M Stuiver, S Talamo, FW Taylor, J van der Plicht, and CE Weyhenmeyer. (2004) Radiocarbon 46, pp.1029-1058.

表 V-4 測定試料及び処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理	測定
PLD-4121	遺構：F(焼土)-3	試料の種類：炭化物・材 試料の性状：最外以外年輪 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸1.2N)	PaleoLabo: NEC製コンパクト AMS・1.5SDH

表 V-5 放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	$^{14}\text{C}$ 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	$^{14}\text{C}$ 年代を暦年代に較正した年代範囲		暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )
			1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲	
PLD-4121	-27.17 $\pm$ 0.14	1905 $\pm$ 20	70AD (68.2%) 125AD	50AD (95.4%) 135AD	1906 $\pm$ 20

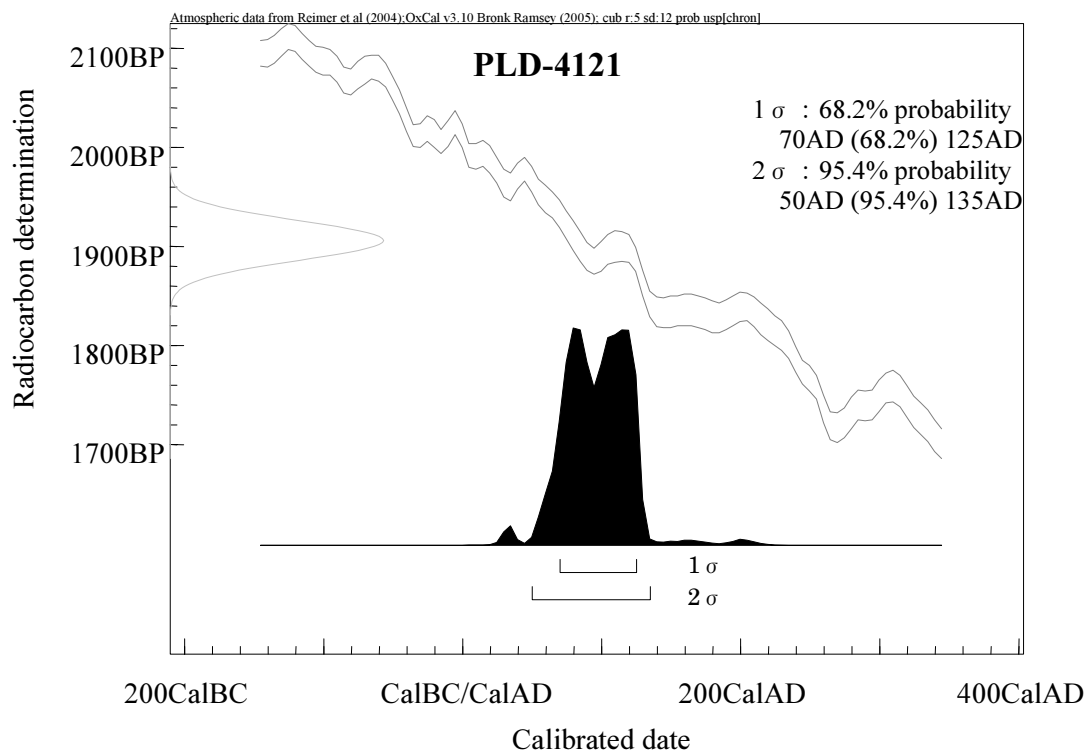


図 V-1 暦年較正結果









## VI 成果と課題

### 1 フラスコ状土坑の層位についての考察（図Ⅲ-62、表Ⅳ-1）

本遺跡の二年度の発掘調査では、フラスコ状土坑が12基確認された。フラスコ状土坑とは、概して、平面はほぼ円形を呈し、深さが約1.5m程度で、坑底面付近の壁がその上位に比べて広がるもので、その断面形態が理科実験器具の「フラスコ」に類似することから、その名称で呼称されていると理解される遺構で、その機能は「貯蔵穴」であると考えられている。一般的にフラスコ状土坑は、竪穴式住居跡や通常みられる土坑等の遺構に比べて深さがあり、このためか土層の堆積状況が複雑な様相を呈する。複雑な状況を示す土層断面の観察にあたっては、やみくもな細分層や、感覚的な認識に依存することは、混乱や矛盾を生じさせる原因となる。それを避けるため、観察基準を設けてこれに従い体系的に分層することを心がけることが適当であると考えている。

ここでは、フラスコ状土坑P-72（Ⅲ章1節（3）参照）を取り上げ、現場で実際に行った土層断面を観察・記録するための体系的な考え方を示し、さらに整理作業段階で検証した内容と土層断面から推測される遺構の構築から埋没に至る過程について述べる。

#### A. 覆土の分類

土層断面の観察では、覆土を以下に示す段階的な流れに従い分類（分層）した。

##### ①色調による大別（二つに大別・アラビア数字）

「覆土第1層」；黒色土主体の層、主体的な遺物包含層であるⅤ層主体。

「覆土第2層」；黄～灰色土主体の層、いわゆる地山であるⅧ層主体。

##### ②遺構における垂直位置等による分層（アルファベット大文字）

###### \* 覆土第1層（A～Dの四つに分層）

「覆土第1A層」；遺構の上位の凹みに位置する層で、いわゆる包含層と理解できうる層

「覆土第1B層」；遺構の中位付近に位置する層

「覆土第1C層」；覆土最下層に位置する層（「覆土最下層」=坑底面に接している層のこと）

「覆土第1D層」；坑底にある土坑状の浅い落ち込みに位置する層

###### \* 覆土第2層（A～Cの三つに分層）

「覆土第2A層」；遺構の中位付近に位置する層

「覆土第2B層」；南東側部分下位に位置し、壁の崩落土と考えられる層

「覆土第2C層」；覆土最下層付近に位置する層

##### ③構成物等の違いにより②の各層について細分（アルファベット小文字）

層位名の後ろに丸括弧付きで示した数字は、土層断面図（図Ⅲ-62）における番号である。

（覆土第1層）

###### \* 覆土第1A層；Ⅷ2層（Ng）軽石の混在量の相違により、a・bの二つに細分した。

「覆土第1Aa層」；（1）

「覆土第1Ab層」；（2）

###### \* 覆土第1B層；色調やⅧ2層の混在の有無等の相違により、a～eの五つに細分した。

「覆土第1Ba層」；（3）

「覆土第1Bb層」；（4）

「覆土第 1 Bc層」；(5)

「覆土第 1 Bd層」；(6)

「覆土第 1 Be層」；(7)

\* 覆土第 1 C層；色調と野外土性の相違により、a・bの二つに細分した。

「覆土第 1 Ca層」；(8)

「覆土第 1 Cb層」；(9)

\* 覆土第 1 D層；色調や混在物等に相違が認められず、細分できない。

「覆土第 1 D層」；(10)

(覆土第 2層)

\* 覆土第 2 A層；野外土性、色調、Ⅷ 2層 (Ng) 軽石の混在量の相違により、a～fの六つに細分層した。

「覆土第 2 Aa層」；(11)

「覆土第 2 Ab層」；(12)

「覆土第 2 Ac層」；(13)

「覆土第 2 Ad層」；(14)

「覆土第 2 Ae層」；(15)

「覆土第 2 Af層」；(16)

\* 覆土第 2 B層；野外土性、色調、Ⅷ 2層 (Ng) 軽石の混在量の相違により、a～dの四つに細分層した。

「覆土第 2 Ba層」；(17)

「覆土第 2 Bb層」；(18)

「覆土第 2 Bc層」；(19)

「覆土第 2 Bd層」；(20)

\* 覆土第 2 C層；野外土性、色調、Ⅷ 2層 (Ng) 軽石の混在量の相違により、a・bの二つに細分層した。

「覆土第 2 Ca層」；(21)

「覆土第 2 Cb層」；(22)

発掘調査においては、上位に堆積した層から、順に番号を付すことが一般的であるが、実際には、出土遺物を随時取り上げ、掘り進めなければならないので、詳細な土層断面の観察を行う前段階で、遺物の出土層位を判断する必要がある。このような場合、先に述べた上位層から便宜的に番号を付す方法では、土層断面の記録後に、遺物の出土層位について再整理する必要がある。これを避けるため、P-72の調査においては、半截時には色調により分けた「大別層位」に従い出土遺物を取り上げながら掘り進め、半截完了後に、土層断面の詳細な観察を行い、覆土層について細分層した。残り半分の覆土について掘り下げる時には、出土遺物を細分層で取り上げる予定としていたが、実際には、掘り下げながら、詳細に細分層した各覆土層位について、それぞれの平面的な広がり等を明確に把握することが、意外に困難であることが認識され、恣意的な層位判断に陥る可能性を避けるため、最も明確に識別できる大別層単位で取り上げた。

## B. 基本層序各層ごとの土量計算

### 1. 体積

作成した土層断面実測図(素図；1/20 掲載；図Ⅲ-62で1/40)から、このフラスコ状土坑の

構築に伴い、移動された土量を基本層序各層ごとに大まかに算出する。土層断面図において、遺構の左右にみられる層界で同じものを結び、それぞれを円柱に見立てる、円柱の底面積に相当する部分は、実測図から正確な算出ができないので、確認面と坑底面の平均値とし、高さは各層位の層厚とする。

\* 底面積：2.05㎡（確認面；2.13㎡ 坑底面；1.96㎡より）

各自然層位の土量は次のように（底面積×高さ）求められる。

$$\text{VIII 2 層} : 2.05 \text{ m}^2 \times 0.60 \text{ m} = \text{約} 1.23 \text{ m}^3$$

$$\text{VIII 1 層} : 2.05 \text{ m}^2 \times 0.50 \text{ m} = \text{約} 1.02 \text{ m}^3$$

$$\text{VI} \cdot \text{VII 層} : 2.05 \text{ m}^2 \times 0.19 \text{ m} = \text{約} 0.39 \text{ m}^3$$

$$\text{V a} \cdot \text{b 層} : 2.05 \text{ m}^2 \times 0.21 \text{ m} = \text{約} 0.43 \text{ m}^3$$

$$\text{合 計} : \text{約} 3.07 \text{ m}^3$$

上の式から、遺構土量の合計に対する各層の割合は、次のようになる。

Ⅷ 2 層；約40%、Ⅷ 1 層；約33%、Ⅵ・Ⅶ層；約13%、Ⅴ a・b 層；約14%

本遺跡の P-72 の覆土は、構築に伴い移動された基本層序（自然層位）の各層位により、構成されていると考えられる。

自然層位の各層が様々な割合で混在することで、野外土性や色調、混在物の相違が認められ、これらを手がかりとして分層を行い、遺構の覆土について考古学的な観察・記録がなされている。ある遺構の構築に伴いどの自然層位が、どの程度の量移動されたのかを把握することは、遺構の覆土を観察し理解する上で「前提」となりうる「思考の枠組み」として有効かつ必要であると考えている。

また、実際の遺構調査では、中央付近にベルトを設ける、または、半截する 경우가多く、これは平面的な広がりをもつ遺構に対し、ある一部分をその遺構の土層断面として代表させているということに注意を払う必要があり、さらに、遺構調査に着手する前に、その遺跡の自然層位について、体系的な観察を行うことも不可欠である。

## 2. 面積・面積割合

土層断面実測図（素図；1/20 掲載；図Ⅲ-62で1/40）において、細分層した各覆土の表面積を計測し、遺構断面に占める割合を算出（A）し、同様にして、遺構構築に伴い移動したと判断される自然層位の部分についても、層位ごとに表面積を計測、割合を算出（B）し、表Ⅳ-1にまとめた。

プランメーターを用い三回の計測の平均値を計測結果とした。両者の差は、測定に伴う誤差と考えておく。

$$\text{A} ; 2.520 \text{ m}^2 \quad \text{B} ; 2.462 \text{ m}^2$$

Bから考えられる、遺構構築に伴い移動した土量全体における自然層位各層の割合は、Ⅷ層が約70%、Ⅴ層及び、Ⅵ・Ⅶ層が約14%をそれぞれ占めると判断され、先に行った精密機器を用いない概算による、体積計算で求めた結果とほぼ同じと考えて差し支えない。

一方、Aから求められる、遺構に埋没した土量全体における自然層位各層の大まかな割合は、Ⅴ層が約58%、ついでⅧ層が約27%、Ⅵ・Ⅶ層は約15%となる。

1)；遺構構築により移動された土量全体における各自然層位が占める割合は、体積計算と表面積のどちらで算出しても、ほぼ同じであった。

2)；Ⅴ層の割合は、構築時は約14%で、埋没時は約58%となり、埋没時には約4倍に増加している。

3)；Ⅵ・Ⅶ層の割合は、構築時と埋没時でほぼ等しい。

4)；Ⅷ層の割合は、構築時は約70%で、埋没時は約27%となり、埋没時には約4割に減少している。

ここで、2)及び4)となった原因について、少し考えてみる。

・土層断面図を作成した面は遺構においては部分的であり、遺構全体でみた場合、構築時と埋没時の

割合が一致している可能性もある。

・土層断面の観察において、V層黒色土はその色調の強さから、多く存在すると誤認させやすい傾向があり、VIII層はその逆であることが考えられる。

・V層黒色土は、遺構構築当時の地表面の層であると考えられ、地表にあるため、遺構の内部に流れ込み堆積しやすい層であったと推測される。

### C. 遺構の埋没過程

土層断面図から理解される、本遺構の構築から埋没過程までの流れを述べる。

#### 1. 構築

土層断面では「掘り込み面（＝構築面）」の下限は、本遺構構築に伴う掘り上げ土が流入した層と考えられる覆土第1 Ba層（3）の下位の層界に位置するVI～VII層と判断されるが、V層主体の覆土第1 A層（1・2）と垂直位置をほぼ同じとするV層中であった可能性も考えられる。当時の地表面から、V、VI・VII層、VIII 1層、VIII 2層が掘られて本土坑は構築された。また、ほぼ平坦な坑底面にみられる土坑状の浅いくぼみは、人為的に設けられたものと推測される。

#### 2. 埋没過程

はじめに黒色土（VI層と判断）主体の覆土第1 D層（10）や覆土第1 Ca・b層（8・9）が堆積した。他最下層に位置する層は、覆土第2 Ca・b層（17・18）がある。前者は部分な層でVIII 2層主体であり、後者はVII層主体である。両者の上位には、覆土第1 Bc・2 Aa・2 Ca層（5・11・17）の部分的な層が認められる。次に堆積したと考えられる層は、図面の左側部分に認められる黄～灰色土の主体の覆土第2 Bb・c・d層（20・21・22）である。これらは、遺構の壁となっているVIII 1・2層が崩落し堆積したものと考えられる。黒色土の混在が全く認められないことが傍証であろう。その右側部分には覆土第1 Be、2 Ae・f層（7・15・16）が堆積し、それぞれ黒色土主体、VIII層主体、VII層主体の層である。次に覆土第2 Ad・c、1 Bd層（14・13・6）と部分的な覆土である覆土第2 Aa、1 Bc層（11・5）が堆積する。この時点で遺構の中位付近までが埋没し、覆土第2 Ab・c層の上面で明瞭なくぼみ状を呈していたと推測される。また、覆土第2層と大別した黄～灰色土主体の層は、これより上位部分には堆積が認められない。これの上位には、覆土第1 Ba・b層（3・4）が堆積しており、ともに黒色土主体の層である。覆土第1 Ba層（3）の上位におけるくぼみの形状はやや緩やかである。その上位にはV層主体でVIII 2層（Ng）軽石を含む覆土第1 Aa・b層（1・2）がみられ、さらに上位には、くぼみの形状を留めた状態でIV層（B-Tm）が堆積する。

#### 3. 補足事項

上記の内容をふまえ、若干の補足をしておく

##### ・覆土最下層～中位付近について

覆土最下層付近の覆土（覆土第1 C・D、2 B、2 C）のあり方から認識される事項を述べる。覆土最下層に位置する黒色土主体の層は、遺構廃棄時における当時の地表面の土に由来する可能性があり、覆土第1 D層（10）や、1 Ca・b層（8・9）がそれである。また、覆土第2 B・C層のうち、VIII層主体の覆土第2 Bb・c・d（20・21・22）、2 Ca（17）層は、これらが本来的な基本層位の序列上で位置する部分から判断すると、壁の崩落土であると考えられる。従って土坑の断面形態は構築時本来の形状を留めていないといえる。また、覆土第2 Ba、Cb層（19・18）の両者は、VII層主体であることから、壁も含む構築面付近からの崩落土であると解釈される。

##### ・中位付近～上位部分について

中位付近よりも上位は、黒色土主体の覆土で占められており、穴の深さが浅くなれば、壁の崩落は



起こりにくくなる可能性が考えられ、Ⅷ層等を主体とする層が認められない。また、遺構内の堆積が進行するにつれて、その上面で形成されるくぼみは浅くゆるやかになる（水平に近づく）と考えられる。上位部分はⅤ層主体土で構成されるが、Ⅷ2層（Ng）軽石が混在する等、基本層序のⅤ層そのものに相当する層は認められない。しかし、この時点での地表面はⅤ層中であると考えられ、これらがⅧ2層等を主体とする掘り上げ土と混在し、くぼみに堆積した可能性も考えられる。また、遺構の上端付近、すなわち構築面と壁の最上位部分は、遺構の埋没の初期段階で、土の崩落が生じやすい部分であると考えられ、この付近も遺構構築時本来の形状を留めていない可能性が高い。

#### D：検証作業の意義

以上述べたように、遺構の覆土について細かく考えてみた。本来この種の思考体系は、一般的には常識的な約束事として認識されている「前提事項」として、改めて主張する性格のものではないであろう。しかし、このような検証・整理は、個々の調査事例に対して、漠然と捉えていた事実が体系的に理解されたり、導かれた調査結果に矛盾事項が含まれていることが判明したりする。

緊急発掘調査という条件のもとであっても、可能な限り埋蔵文化財を考古学的に適切な方法で調査し記録することが重要であることは言うまでもない。また、最終的に「発掘調査報告書」という形で残される調査記録の質や量、遺構・遺物の解釈といった「考古学的な情報」は、調査担当者の能力や資質に大きく左右される性格のものであり、個人的な主観により導かれた調査結果に対して、第三者的な視点から体系的に再検証・再整理してから報告することは、発掘調査に公務として携わる埋蔵文化財行政担当者にとって必要不可欠な手続きであろう。（末光正卓）

表VI-1 P-72覆土・包含層対比表

断面図 番号	主体層	層位名称	主体層	混在層	礫（長径2mm以上）		A		B			
					種類	混在割合 %	遺構覆土土層断面図		自然層位	包含層土層断面図		
							表面積 ㎡	面積割合 %		表面積 ㎡	面積割合 %	
1	黒色土	覆土 第1A層	1Aa層	V	主体	Ⅷ2(Ng)軽石	20%	0.216	8.57	Ⅴ層	0.334	13.57
2			1Ab層	V	主体	Ⅷ2(Ng)軽石	7%	0.280	11.11			
3		覆土 第1B層	1Ba層	V	主体	Ⅷ2(Ng)軽石	5%	0.328	13.02			
4			1Bb層	V	Ⅷ1 + Ⅷ2	Ⅷ2(Ng)軽石	5%	0.292	11.59			
5			1Bc層	V	主体	無		0.212	8.41			
6			1Bd層	V	Ⅷa	無		0.098	6.74			
7			1Be層	V +	Ⅵ 主体	無		0.028	1.11			
小計								1.454	57.70			
8	黒色土	覆土 第1C層	1Ca層	Ⅵ +	Ⅶ	無		0.034	1.35	Ⅵ・Ⅶ層	0.338	13.73
9			1Cb層	Ⅵ	Ⅴ + Ⅶ	無		0.032	1.27			
10		覆土第1D層	1D層	Ⅵ	Ⅴ + Ⅶ	無		0.012	0.48			
11	黄～ 灰色土	覆土 第2A層	2Aa層	Ⅶ	主体	無		0.020	0.79			
16			2Af層	Ⅶ +	Ⅴ > Ⅷ1	無		0.130	5.16			
18		覆土第2C層	2Cb層	Ⅶ	Ⅴ	無		0.108	4.29			
19		覆土第2B層	2Ba層	Ⅶ +	Ⅷa	無		0.048	1.90			
小計								0.384	15.23			
12	黄～ 灰色土	覆土 第2A層	2Ab層	Ⅷ +	Ⅴ	Ⅷ2(Ng)軽石	10%	0.176	6.98	Ⅷ1・2 層	1.790	72.71
13			2Ac層	Ⅷ +	Ⅴ	Ⅷ2(Ng)軽石	10～15%	0.166	6.59			
14			2Ad層	Ⅷ1	Ⅶ + Ⅴ	無		0.080	3.17			
15			2Ae層	Ⅷ1	主体	無		0.064	2.54			
17		覆土第2C層	2Ca層	Ⅷ2軽石	主体	Ⅷ2(Ng)軽石他		0.014	0.56			
20		覆土 第2B層	2Bb層	Ⅷ2	主体	Ⅷ2(Ng)軽石他		0.128	5.08			
21			2Bc層	Ⅷ2	主体	無		0.024	0.95			
22			2Bd層	Ⅷ1 +	Ⅷ2 主体	Ⅷ2(Ng)軽石他		0.030	1.19			
小計								0.682	27.06			
合計								2.520	100	合計	2.462	100

## 2. 三次郎川右岸遺跡出土の土器

三次郎川右岸遺跡で出土した土器についてその時期と特性について述べる。

**Ⅱ群 b 類土器：**図Ⅳ-4-14に示したものは円筒下層 d<sub>2</sub> 式のうちでも上層式に近い時期のものであり、八雲町栄浜 1 遺跡 166 号住居址覆土出土のものに近いものである。

**Ⅲ群 a 類土器：**H-3・4・H-4-1 (図Ⅲ-83) は円筒上層 d 式期に北海道の在地色が強い土器が出現する時期を示す。H-11の覆土上部からは円筒上層 c 式のまとまった資料 H-11-1~3 (図Ⅲ-89) が得られた。P-29-3 (図Ⅲ-102) ・図Ⅳ-6-1~6 も同じ斜面からの近い位置での出土であり、関連するものである。

**Ⅲ群 b-1 類：**H-2-1 (図Ⅲ-82) は直線構成の文様が胴部にあり、口縁部の渦巻き文が消滅したタイプのもの。頸部で口縁部と胴部を区画する文様の発生と、口唇部の渦巻き文の消滅は同時に進行するものであり、H-8-1 (図Ⅲ-86) のように口縁部に渦巻き文を持ち、胴部には渦巻き文がなく頸部に文様を持つものもある。H-9-2 (図Ⅲ-86) は頸部に明瞭な区画帯を持ち、口縁を無文とするが口唇部と胴部に渦巻き文が残る。H-15の床面遺物 1・2 (図Ⅲ-92) については口縁部に渦巻き文様を持つものと沈線文を持たない 2 単位の波頂部の土器の共伴例があり次段階Ⅲ群 b-2 類の土器組成につながるものである。H-19-13 (図Ⅲ-98) は床面遺物であり、H-16床面遺物と接合した。H-16-1 (図Ⅲ-92) と H-19-13 は同時期の可能性が高い。頸部に口縁部を区切る文様を持つものと、口唇部に渦巻き文の痕跡を残すものが共伴している。Ⅲ群 b-1 類の時期には縄文を縦回転して施文する例が増える。H-19-15 (図Ⅲ-98) のようにⅢ群 b-1 類の深鉢の特徴をよく残し、絡条体を縦回転させる地文のもの出現が、今回、三次郎川右岸遺跡のⅢ群 b 類とした、絡条体地文の土器群 (図Ⅳ-20-14~18)、および F-1-3~5 (図Ⅲ-113) のような絡条体地文に沈線文を伴うものへと連続していくと考える。森町石倉 2 遺跡竪穴住居出土土器群の前段階ともいうべき様相である。P-71-1~3 (図Ⅲ-105) は覆土 6 層における共伴遺物である。

**Ⅲ群 b 類土器：**H-1-1~3 (図Ⅲ-82) は 1 の文様が示す縄文時代中期後半大安在 B 式期の土器の器種組成を示す良好な資料である。沈線文を持たない土器が併用されており、埋甕 H-5-1 (図Ⅲ-84) と埋甕 H-9-1 の (図Ⅲ-87) がこれらと近い時期の可能性がある。H-9-2 (図Ⅲ-87) についても同様であり、この土器は 3 単位の波頂部に渦巻き文様の痕跡を示す。尚、H-5-7 (図Ⅲ-84) は、大きさに違いはあるが、埋甕 H-1-1 と器形・文様が類似する。

**Ⅳ群 a 類土器：**H-6-1 (図Ⅲ-85) の土器は網目状絡条体を持つ土器である。貼付帯はないが、帯状に縄文が底部際を巡る。図Ⅳ-43-134 や八雲町コタン温泉遺跡の例など、主として口縁部に貼付帯を持つものは縄文地文を底部際まで密に施し、大津式およびそれに伴う地文のみの土器のように底部をミガキ調整によって無文とするものと異なる。要因として時期差のほかに、同時期の地域差を反映している可能性が考えられる。現段階において (平成の合併以前の) 八雲町内で、明らかな涌元式の出土例が極めて少なく、余市式に類似した貼付帯を持つ土器の出土が多い。徐々に十腰内起源の沈線文が北上していく過程の反映として捉えうる。図Ⅳ-34-63 はトリサキ式から大津式への過渡期的様相、図Ⅳ-35-74・75・77 は十腰内 I 式期の文様が地文のみの土器へ表出した在地的様相を示している。

H-7-1~3 (図Ⅲ-85) は覆土の遺物であり、口縁部に頸部を持つ深鉢である。1 は条痕による充填文を持つ。深鉢の器形としては頸部を持つ個体で、胴部の最大径が口径より大きいあるいは近いものが多い。その中には H-8-3 (図Ⅲ-86) のように無文のものもある。H-8・14 はベンチ構造を持つ縄文時代中期前半の住居の窪みにまとまったⅣ群 a 類土器の出土があったものである。H-

14についてはS-4・5といった生活痕跡も存在する。

包含層のIV群a類について述べたように、調査区の南西側に、トリサキ式、北東側には大津式の分布が濃い。大津式については、磨消縄文を持つ個体より、条痕による充填文、あるいは刺突による充填文(図Ⅲ-86-H-8-2、図Ⅲ-93-H-16-4)のものが目立つ。充填文以外に、3本一組の沈線文を持つものが多い。これらは、文様構成と器形の特色から、新道4遺跡のまとめによるところの盛土1類・2類に近い。トリサキ式のうち新しい段階である浜松2遺跡8号住居址に近い文様構成のもの(図Ⅲ-103-P-44-2・図Ⅲ-106-P-73-2・図Ⅳ-24-14)、および3本一組の沈線文のもの(図Ⅲ-104-P-51-2・図Ⅲ-110-P-80-1・3・図Ⅳ-24-11・13・15)は「盛土1類」の範疇であり、充填文を持つ土器については文様構成および胴部の張り出した括れ口縁を持つ「壺形」の器形(先述のH-7・8出土遺物・図Ⅳ-26・27-22~25等)から「盛土2類」に近いものである。ただし「く」や「乙」の字文の連続は見られない。今回出土した大津式は古い段階の一群と判断した。H-16・19の覆土上部出土IV群a類も土器を当期のものであり、H-17・18は当期の住居と考える。S-2についてもS-2-1(図Ⅲ-112)から、この時期の配石という可能性がある。大津式の口縁部形態を持つ地文のみの土器(図Ⅲ-96-H-19-4・5、図Ⅳ-28・29・30-28~30・34~41)もその段階の土器群に含まれると考える。これらの沈線文を持たない土器には、地文の縄文が横走するものや、多段の折り返し口縁を持つものがあり、それらは大津式特有の口縁部形態を持たない地文のみの土器と出土状況に差はない。P-76-1~3(図Ⅲ-107)は大津式の特徴を持つ土器と持たない土器であり、同じ土坑に埋納されていた。森町濁川左岸遺跡の出土状況から涌元式のところには、沈線文を持たない土器のうちで地文の縄文が横走するものや、多段の折り返し口縁を持つものが、沈線文を持つ土器と並存している。今回の出土状況から、地文の縄文が横走するもの、多段の折り返し口縁を持つものが大津式の古段階まで残る可能性がある。地文のみの土器の中にはオオバコ回転文地文の可能性のあるもの(図Ⅲ-106-P-73-7・図Ⅲ-107-P-76-1)がある。

試みとして掘り上げ土(図Ⅲ-2)の上下で時期差について新道4遺跡の盛土1類、2類を目安に確認作業を行ったが、文様による明確な時期差は確認できなかった。盛土1類に近いH-19-3(図Ⅲ-96)と、盛土2類相当で整った条痕のH-19-1(図Ⅲ-95)、盛土2類相当で不整な条痕文の図Ⅳ-25-20・21、縄文地文のみの土器では縄文が縦走するH-19-9(図Ⅲ-97)および縄文が横走するP-80-4(図Ⅲ-110)、斜行縄文の図Ⅳ-31-50、無文地の土器では図Ⅳ-33-56、大津式の特徴を持つ口縁部形態の図Ⅳ-28-28と折り返し口縁を持つH-19-7(図Ⅲ-96)図Ⅳ-33-55といった多様な土器が掘り上げ土の下から出土した。そのうち掘り上げ土中の土器と接合したものは、盛土2類相当で整った条痕のH-19-1、盛土2類相当で粗い条痕の図Ⅳ-25-21、縄文地文のみの土器では縄文が縦走するH-19-9および縄文が横走するP-80-4、斜行縄文の図Ⅳ-31-50、無文地の土器では図Ⅳ-25-56である。ただし盛土1類に近いH-19-3は盛土2類に近いものである。接合関係を調べた中では明らかに掘り上げ土上のもので下のもので接合したものはなかった。ただしこれらに包含層調査の結果を踏まえても今回の調査成果だけでは、大津式の時期差(盛土1類、2類の追認を含めて)を明確に細分することはできなかった。

**VI群土器：**後北式の出土が目立った。後北B式、後北C<sub>1</sub>式、後北C<sub>2</sub>D式が出土し、主体はC<sub>1</sub>式である。他にアヨロ3式又は瀬棚南川IV群に並行すると思われる縄文地に沈線文を持つ土器(図Ⅳ-46・47-4~8・10・図Ⅳ-48-18~22)、および後北C<sub>1</sub>式に並行すると石本省三(1979、1984)が指摘した聖山KⅡ群に相当する土器(図Ⅳ-49-25)の出土がある。

**VII群土器：**(一個体のみ出土した図Ⅲ-115-1)については土師器に近い形状であり、肩部に段の名残と思われる沈線が巡る。(大泰司)

## 引用参考文献

### 〔論文・書籍等〕

- 大久保雅弘・藤田至則 1984 『地学ハンドブック・新訂版』 築地書館  
小山正忠・竹原秀雄 1967 『新版標準土色帖』 日本色研事業株式会社  
瀬川秀良 1974 『日本地形誌 北海道地方』 朝倉書店  
石岡憲雄 1994 「撚糸文」『縄文文化の研究』5 雄山閣  
石本省三 1979 「聖山遺跡の続縄文土器について」『聖山』  
石本省三 1984 「北海道南部の続縄文文化」『北海道の研究』第2巻  
大沼忠春 1981 「北海道中央部における縄文時代中期から後期初頭の編年について」『考古学雑誌』66-4  
大沼忠春 1982 「続縄文時代型式の編年」『縄文土器大成』5 講談社  
大沼忠春 1986 「道南の縄文前期土器群の編年について(2)」『北海道考古学』第22輯  
大沼忠春 1989 「続縄文土器様式」『縄文土器大観』4 小学館  
小笠原忠久 1984 「北海道南西部における縄文時代前・中期の集落」『北海道の研究』第1巻  
葛西 勳 1979 「十腰内I式土器の編年的細分」『北奥羽古代文化』第11号  
葛西 勳 2002 『再葬土器棺墓の研究』—縄文時代の洗骨葬—  
児玉大成 1999 「小牧野遺跡における環状列石の構築時期」『青森県考古学』第11号  
坂本真弓 2002 「沢部型石組炉の現在」『海と考古学とロマン』  
佐原 真 1981 「縄文土器文様の復元」『縄文土器大成3』 講談社  
鈴木克彦 1999 「北海道渡島・松山地域の中期末葉から後期初頭の編年」『北海道考古学』第35輯  
鈴木克彦 2001 『北日本の縄文後期土器編年の研究』 雄山閣  
鈴木 信 2003 「3 道央部における続縄文どきの編年(助)北海道埋蔵文化財センター『ユカンボシC15遺跡(6)』北埋調報192  
高橋正勝 1974 「知内町涌元遺跡出土の土器と北海道南西部の縄文時代後期前半について」『北海道の文化・31』  
高橋正勝 1984 「北海道中央部の続縄文文化」『北海道の研究』第2巻  
高橋正勝 1994 「北海道南部の土器」『縄文文化の研究』4 雄山閣  
千代 肇 1984 考古学ライブラリー25『続縄文文化』 ニュー・サイエンス社  
千代 肇 1994 「道南地方の土器」『縄文文化の研究』6 雄山閣  
成田滋彦 1994 「青森県の土器」『縄文文化の研究4』 雄山閣  
成田滋彦 1989 「入江・十腰内式土器様式」『縄文土器大観4』 小学館  
成田滋彦 2000 「縄文時代住居跡の出入り口」『青森県埋蔵文化財センター紀要』  
成田滋彦編 2003 『東北・北海道の十腰内I式再検討』 海峽土器編年研究会  
成田滋彦編 2004 『東北・北海道の縄文時代中期後葉の諸問題』 海峽土器編年研究会  
成田滋彦編 2005 『東北・北海道の縄文時代前期末葉～中期初頭の諸問題』 海峽土器編年研究会  
三宅徹也 1989 「円筒下層式土器様式」『縄文土器大観』第1巻  
三宅徹也 1989 「円筒上層式土器様式」『縄文土器大観』第1巻  
村越 潔 1984 『増補 円筒土器文化』 雄山閣考古学選書10  
三浦孝一 1984 「第二編 先史時代」『改訂八雲町史 上巻』 八雲町  
吉崎昌一 1965 「1 北海道」『日本の考古学II 縄文時代』 河出書房

### 〔団体・組織刊行物〕

- 江別市役所 1970 『江別市史』  
日本第四紀学会第四紀露頭集編集委員会 1996 『第四紀露頭集—日本のテフラ』 日本第四紀学会  
日本の地質『北海道地方』編集委員会編 1990 『日本の地質1 北海道地方』 共立出版株式会社  
ペドロジスト懇談会 1984 『土壌調査ハンドブック』 博友社  
森町編 1980 『森町史』 森町

### 〔埋蔵文化財発掘調査報告書〕

- 今井富士夫・磯崎正彦 1968 「十腰内遺跡」 岩木山  
大島直行ほか 1979 『知内川中流域の縄文時代遺跡』 知内町教育委員会  
青森市教育委員会 1995 『小牧野遺跡』  
乙部町教育委員会 1976 『元和』  
乙部町教育委員会 1989 『緑町2遺跡』



- 木古内町教育委員会 2003 『泉沢2遺跡 A地点』  
 白老町教育委員会 1992 『アヨロ遺跡』  
 高橋正勝 1980 『アヨロー恵山文化の墓一』  
 松前町教育委員会 1974 『松前町大津遺跡発掘調査報告書』  
 松前町教育委員会 1976 『松前町原口遺跡発掘調査報告書』  
 松前町教育委員会 1978 『鬼沢B遺跡・棚石遺跡調査報告』  
 松前町教育委員会 1983 『白坂』  
 南茅部教育委員会 1996 『大船C遺跡』  
 森町教育委員会 1975 『鳥崎遺跡』  
 森町教育委員会 1994 『御幸町』  
 森町教育委員会 「鷲ノ木4遺跡・栗ヶ丘1遺跡」 2002  
 森町教育委員会 「鷲ノ木4遺跡」 2004  
 函館市教育委員会 1999 『函館市石倉貝塚』  
 函館市教育委員会 1988 『寺町貝塚』  
 八雲町教育委員会 1980 『山崎遺跡発掘調査報告書』  
 八雲町教育委員会 1982 『栄浜1遺跡発掘調査概報』  
 八雲町教育委員会 1983 『栄浜』  
 八雲町教育委員会 1986 『栄浜1遺跡』  
 八雲町教育委員会 1987 『栄浜1遺跡』  
 八雲町教育委員会 1988 『山越5・6遺跡発掘調査報告書』  
 八雲町教育委員会 1989 『浜松2遺跡』  
 八雲町教育委員会 1991 『浜松2遺跡』  
 八雲町教育委員会 1992 『コタン温泉遺跡』  
 八雲町教育委員会 1995a 『浜松5遺跡』  
 八雲町教育委員会 1995b 『栄浜1遺跡』  
 八雲町教育委員会 1998c 『栄浜1遺跡IV』  
 北海道第四期研究会 1974 『西股』  
 [ 助北海道埋蔵文化財センター調査報告書 (北埋調報) ]  
 助北海道埋蔵文化財センター 1985 『上ノ国町小岱遺跡』北埋調報 30  
 助北海道埋蔵文化財センター 1986 『知内町湯の里3遺跡』北埋調報 32  
 助北海道埋蔵文化財センター 1986 『上磯町矢不來2遺跡』北埋調報 37  
 助北海道埋蔵文化財センター 1987 『木古内町建川2・新道4遺跡』北埋調報 43  
 助北海道埋蔵文化財センター 1988 『木古内町新道4遺跡』北埋調報 52  
 助北海道埋蔵文化財センター 1997 『千歳市キウス5遺跡(3)』北埋調報 115  
 助北海道埋蔵文化財センター 2000 『八雲町シラリカ2遺跡』北埋調報 142  
 助北海道埋蔵文化財センター 2001 『八雲町ボンシラリカ1遺跡・黒岩3遺跡』北埋調報 155  
 助北海道埋蔵文化財センター 2001 『八雲町山崎4遺跡』北埋調報 162  
 助北海道埋蔵文化財センター 2002 『八雲町山崎5遺跡』北埋調報 165  
 助北海道埋蔵文化財センター 2002 『八雲町山越3遺跡・山越4遺跡』北埋調報 166  
 助北海道埋蔵文化財センター 2002 『八雲町野田生2遺跡』北埋調報 167  
 助北海道埋蔵文化財センター 2002 『八雲町野田生4遺跡』北埋調報 171  
 助北海道埋蔵文化財センター 2002 『八雲町栄浜1遺跡』北埋調報 175  
 助北海道埋蔵文化財センター 2003 『森町本内川右岸遺跡』北埋調報 182  
 助北海道埋蔵文化財センター 2003 『森町濁川左岸-B地区-』北埋調報 190  
 助北海道埋蔵文化財センター 2003 『森町本茅部1遺跡』北埋調報 191  
 助北海道埋蔵文化財センター 2004 『森町倉知川右岸遺跡』北埋調報 196  
 助北海道埋蔵文化財センター 2004 『森町石倉2遺跡』北埋調報 197  
 助北海道埋蔵文化財センター 2004 『森町濁川左岸-A地区-』北埋調報 208  
 助北海道埋蔵文化財センター 2004 『森町石倉3・5遺跡』北埋調報 205  
 助北海道埋蔵文化財センター 2005 『森町三次郎川左岸遺跡・石倉5遺跡(2)・石倉4遺跡』北埋調報 219



## 報告書抄録

ふりがな	もりまち さんじろうがわうがんいせき							
書名	森町 三次郎川右岸遺跡							
副書名	北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第233集							
編著者名	末光正卓・大泰司統・田中哲郎・新家水奈・熊谷仁志・鎌田 望							
編集機関	(財)北海道埋蔵文化財センター							
所在地	〒069-0832 北海道江別市西野幌685-1 TEL 011-386-3231							
発行年月日	平成18（西暦2006）年9月29日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″			
さんじろうがわ 三次郎川 うがんいせき 右岸遺跡	ほっかいどうかやべぐん 北海道茅部郡 もりまちいしくがょう 森町石倉町 516ほか	01345	B-15-37	42° 9′ 42″	140° 27′ 55″	20030714 ～20031028  20040506 ～20040728	2,600  1,850	高速道路北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）建設工事に伴う事前調査
所収遺跡名	種類	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
三次郎川 右岸遺跡	集落跡	縄文時代前期	住居跡	19軒	縄文土器		縄文時代中期前半～後期前葉の集落・墓域	
		縄文時代中期	土抗	83基	円筒土器下層式・円筒土器上層式・サイベ沢Ⅶ式・見晴町式・			
		縄文時代後期	焼土	16ヶ所	大安在B式・榎林式・			
		続縄文時代	柱穴状の土抗	13基	鳥崎式・大津式（大津Ⅶ群）・ウサクマイC式		続縄文時代の焼土群	
		擦文時代	集石	6ヶ所	続縄文土器 アヨロ3式（南川Ⅳ群）・聖山Ⅱ群・後北式 擦文土器 土製品 石器等		擦文土器の出土	
			図化をしたフレイクチップの集中	1ヶ所				
					石鎌・石槍・石錐・つまみ付きナイフ・スクレイパー・扁平打製石器・石核・フレイク・石斧・たたき石・すり石・砥石・石皿・台石・加工痕のある礫・焼成礫・礫など			
			石製品					

(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第233集

**森 町 三次郎川右岸遺跡**

—北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）埋蔵文化財発掘調査報告書—

発行年月日 平成18年 9 月29日発行

**編集・発行** 財団法人 北海道埋蔵文化財センター  
〒069-0832 江別市西野幌685番地－1  
TEL (011) 386-3231 FAX (011) 386-3238  
[E-mail]mail@domaibun.or.jp  
[URL]http://www.domaibun.or.jp

**印 刷** (株)データワークス  
〒060-0006 札幌市中央区北 6 条西14丁目1－1  
TEL (011) 207-7007